

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1)日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2)データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3)他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本文学研究の基礎

授業の到達目標

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

授業の概要

前半は講義を主としてワークショップを取り入れる。後半は受講生による研究発表と質疑応答によって進める。

準備学習(予習・復習)

日本文学の作品を積極的に多読すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 1

第3回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 2

第4回 研究入門講義 テーマの設定、作品分析の方法、参考文献の集め方

第5回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 1

第6回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 2

第7回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 3

第8回 学生発表 森鷗外「高瀬舟」

第9回 学生発表 夏目漱石「それから」

第10回 学生発表 芥川龍之介「舞踏会」

第11回 学生発表 志賀直哉「小僧の神様」

第12回 学生発表 谷崎潤一郎「春琴抄」

第13回 学生発表 太宰治「人間失格」

第14回 学生発表 横光利一「機械」

第15回 学生発表 三島由紀夫「金閣寺」

履修上の注意点

三分の二以上の出席を単位認定の条件とする。なお、担当者が発表当日に無断欠席した場合、発表の評価は0点とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)

期末試験はレポート形式。発表のレジュメを論文形式に書き改めて提出すること。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*C>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

授業の到達目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとっても、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の概要

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
 第2回 源氏物語という作品について
 第3回 源氏物語が描く人生
 第4回 源氏物語を読む方法
 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)
 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)
 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)
 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス
 第9回 源氏物語の読みの演習 その1(桐壺の巻)
 第10回 源氏物語の読みの演習 その2(若紫の巻)
 第11回 源氏物語の読みの演習 その3(葵の巻)
 第12回 源氏物語の読みの演習 その4(賢木の巻)
 第13回 源氏物語の読みの演習 その5(須磨の巻)
 第14回 源氏物語の読みの演習 その6(明石の巻)
 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他各種源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*D>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識、技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。

準備学習(予習・復習)

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりとすること、書の参考書を多く読むこと。

内 容

第1回 ミーティングと基本的知識調査。

第2回 基本的知識調査内容の解説。書学習のための心構え。

第3回 書とは何か。書の性格と特徴。

第4回 書とは何か。書の性格と特徴。

第5回 書の今日的意味。これからの書

第6回 書の線、造形、墨色について

第7回 書の線、造形、墨色について

第8回 姿勢、執筆の研究。

第9回 用筆、運筆の研究。

第10回 用筆、運筆の研究。

第11回 臨書と鑑賞。

第12回 臨書と鑑賞。

第13回 臨書と創作。

第14回 書の創作。

第15回 まとめ。※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

書の古典と理論

著者： 全国大学書道学会

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

参考書

授業で紹介

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本文学研究の基礎

授業の到達目標

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

授業の概要

前半は講義を主としてワークショップを取り入れる。後半は受講生による研究発表と質疑応答によって進める。

準備学習(予習・復習)

日本文学の作品を積極的に多読すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 1

第3回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 2

第4回 研究入門講義 テーマの設定、作品分析の方法、参考文献の集め方

第5回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 1

第6回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 2

第7回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 3

第8回 学生発表 森鷗外「高瀬舟」

第9回 学生発表 夏目漱石「それから」

第10回 学生発表 芥川龍之介「舞踏会」

第11回 学生発表 志賀直哉「小僧の神様」

第12回 学生発表 谷崎潤一郎「春琴抄」

第13回 学生発表 太宰治「人間失格」

第14回 学生発表 横光利一「機械」

第15回 学生発表 三島由紀夫「金閣寺」

履修上の注意点

三分の二以上の出席を単位認定の条件とする。なお、担当者が発表当日に無断欠席した場合、発表の評価は0点とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)

期末試験はレポート形式。発表のレジュメを論文形式に書き改めて提出すること。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

授業の到達目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとっても、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の概要

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
 第2回 源氏物語という作品について
 第3回 源氏物語が描く人生
 第4回 源氏物語を読む方法
 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)
 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)
 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)
 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス
 第9回 源氏物語の読みの演習 その1(桐壺の巻)
 第10回 源氏物語の読みの演習 その2(若紫の巻)
 第11回 源氏物語の読みの演習 その3(葵の巻)
 第12回 源氏物語の読みの演習 その4(賢木の巻)
 第13回 源氏物語の読みの演習 その5(須磨の巻)
 第14回 源氏物語の読みの演習 その6(明石の巻)
 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他各種源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1)日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2)データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3)他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*D〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。特に王羲之を中心に据えて、これから学ぶための基礎的な用法を習得する

準備学習(予習・復習)

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

内 容

- 第1回 書体と書風
 第2回 篆書の鑑賞と表現。
 第3回 隸書の鑑賞と表現。
 第4回 王羲之の書 楷書を中心に(1)
 第5回 王羲之の書 楷書を中心に(2)
 第6回 王羲之の書 行書を中心に(1)
 第7回 王羲之の書 行書を中心に(2)
 第8回 王羲之の書 行書を中心に(3)
 第9回 王羲之の書 尺牘を中心に(1)
 第10回 王羲之の書 尺牘を中心に(2)
 第11回 王羲之の書 草書を中心に(1)
 第12回 王羲之の書 草書を中心に(2)
 第13回 王羲之を学んだ歴代の書人(1)
 第14回 王羲之を学んだ歴代の書人(2)
 第15回 まとめ。

履修上の注意点

教科書

書聖 王羲之の書

著者: 吉川蕉仙

出版社: 二玄社

出版年: 2013

ISBN:

参考書

授業で紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 書法 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 尾西 正成	
テーマ 楷書の書法を理解し、表現力を身につける	
授業の到達目標 初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。	
授業の概要 準備学習(予習・復習) 条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり	
内 容 第1回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕 第2回 楷書の成立と変遷 第3回 孔子廟堂碑の基本点画 第4回 孔子廟堂碑の基本点画① 第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書② 第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書③ 第7回 孔子廟堂碑 半切臨書① 第8回 孔子廟堂碑 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う 第9回 関中本千字文 基本点画 第10回 関中本千字文 半紙臨書① 第11回 関中本千字文 半紙臨書② 第12回 関中本千字文 半紙臨書③ 第13回 関中本千字文 半切臨書① 第14回 関中本千字文 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う 第15回 倣書作品の制作*条幅臨書作品の互評会を行う	
履修上の注意点	
教科書 中国法書選32孔子廟堂碑 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 中国法書選28関中本千字文 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい	

2015 Syllabus

科目名 書法 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 尾西 正成	
テーマ 楷書の書法を理解し、表現力を身につける	
授業の到達目標 初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。	
授業の概要 準備学習(予習・復習) 条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり	
内 容 第1回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕 第2回 楷書の成立と変遷 第3回 孔子廟堂碑の基本点画 第4回 孔子廟堂碑の基本点画① 第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書② 第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書③ 第7回 孔子廟堂碑 半切臨書① 第8回 孔子廟堂碑 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う 第9回 関中本千字文 基本点画 第10回 関中本千字文 半紙臨書① 第11回 関中本千字文 半紙臨書② 第12回 関中本千字文 半紙臨書③ 第13回 関中本千字文 半切臨書① 第14回 関中本千字文 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う 第15回 倣書作品の制作*条幅臨書作品の互評会を行う	
履修上の注意点	
教科書 中国法書選32孔子廟堂碑 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 中国法書選28関中本千字文 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅱ〈b〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅲ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。	
授業の到達目標 基本的なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。	
内 容 第1回 高野切について 第2回 高野切第三種の書について 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等> 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等> 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等> 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等> 第9回 高野切第三種の背臨 第10回 高野切第三種の集字 第11回 高野切第三種の倣書 第12回 高野切第一種の書について 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選「高野切第三種」 著者: 出版社: 二玄社 出版年: ISBN: 日本名筆選「高野切第一種」 著者: 出版社: 二玄社 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業中課題には提出物とレポートを含む授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅲ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。	
授業の到達目標 基本的なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。	
内 容 第1回 高野切について 第2回 高野切第三種の書について 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等> 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等> 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等> 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等> 第9回 高野切第三種の背臨 第10回 高野切第三種の集字 第11回 高野切第三種の倣書 第12回 高野切第一種の書について 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等> 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等> 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選「高野切第三種」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN： 日本名筆選「高野切第一種」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN：	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅳ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 橋本 二三		
テーマ		
臨書を中心とした基本的な書法の研究。		
授業の到達目標		
基本的なかな書法の修得。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。		
内 容		
第1回	高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>	
第2回	高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>	
第3回	高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>	
第4回	高野切第一種の背臨	
第5回	高野切第一種の集字	
第6回	高野切第一種の倣書	
第7回	寸松庵色紙について	
第8回	寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第9回	寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第10回	寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第11回	寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第12回	寸松庵色紙の集字	
第13回	寸松庵色紙の倣書	
第14回	寸松庵色紙の倣書	
第15回	寸松庵色紙の倣書	
履修上の注意点		
教科書		
日本名筆選「高野切第一種」		
著者:		
出版社: 二玄社		
出版年:	ISBN:	
日本名筆選「寸松庵色紙」		
著者:		
出版社: 二玄社		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (80)	授業中発表等 (0)	
参加度 (20)		
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。		

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅳ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 橋本 二三		
テーマ		
臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。		
授業の到達目標		
基本的なかな書法の修得。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。		
内 容		
第1回	高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>	
第2回	高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>	
第3回	高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>	
第4回	高野切第一種の背臨	
第5回	高野切第一種の集字	
第6回	高野切第一種の倣書	
第7回	寸松庵色紙について	
第8回	寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第9回	寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第10回	寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第11回	寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>	
第12回	寸松庵色紙の集字	
第13回	寸松庵色紙の倣書	
第14回	寸松庵色紙の倣書	
第15回	寸松庵色紙の倣書	
履修上の注意点		
教科書		
日本名筆選「高野切第一種」		
著者:		
出版社: 二玄社		
出版年:	ISBN:	
日本名筆選「寸松庵色紙」		
著者:		
出版社: 二玄社		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (80)	授業中発表等 (0)	
参加度 (20)		
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。		

2015 Syllabus

科目名 日本語学概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する。

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である「音声・音韻」「文字・表記」について講義をおこなう。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 日本語と日本語学言語研究とその分野1
- 第2回 言語研究とその分野2日本語の系統
- 第3回 音声・音韻1
- 第4回 音声・音韻2
- 第5回 音声・音韻3
- 第6回 音声・音韻4
- 第7回 音声・音韻5
- 第8回 音声・音韻6
- 第9回 音声・音韻7 まとめと小テスト
- 第10回 文字・表記1
- 第11回 文字・表記2
- 第12回 文字・表記3
- 第13回 文字・表記4
- 第14回 文字・表記5
- 第15回 文字・表記6 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語

著者: 沖森卓也他著

出版社: 三省堂

出版年: 2006

ISBN: 9784385362427

参考書

日本語概説

著者: 沖森卓也編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 9784254515237

日本語学のしくみ

著者: 町田健編

出版社: 研究社

出版年: 2001

ISBN: 432738304X

改訂版日本語要説

著者: 工藤浩他著

出版社: ひつじ書房

出版年: 2009

ISBN: 9784894764682

日本語概説

著者： 渡辺実著

出版社： 岩波書店

出版年： 1996

ISBN: 4000260022

ベーシック現代の日本語学

著者： 日野資成

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN: 9784894764385

朝倉日本語講座全10巻

著者： 北原保雄監修

出版社： 朝倉書店

出版年： 2002-5

ISBN: 9784254515114

概説日本語学 改訂版

著者： 飯田晴巳他編

出版社： 明治書院

出版年： 2007

ISBN: 9784625704017

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語学概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語(待遇表現、位相語、文章と文体、他)」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語(待遇表現、位相語、文章と文体、他)」について講義を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 語彙1
- 第2回 語彙2
- 第3回 語彙3
- 第4回 語彙4
- 第5回 文法1
- 第6回 文法2
- 第7回 文法3
- 第8回 文法4
- 第9回 文法5
- 第10回 文法6 まとめと小テスト
- 第11回 現代生活と日本語1(待遇表現)
- 第12回 現代生活と日本語2(位相語)
- 第13回 現代生活と日本語3(文章と文体)
- 第14回 現代生活と日本語4(言語研究の諸相)
- 第15回 現代生活と日本語5 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語

著者: 沖森卓也他著

出版社: 三省堂

出版年: 2006

ISBN: 9784385362427

参考書

日本語概説

著者: 沖森卓也編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 9784254515237

日本語学のしくみ

著者: 町田健編

出版社: 研究社

出版年: 2001

ISBN: 432738304X

改訂版日本語要説

著者： 工藤浩他著

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN： 978489476468-2

日本語概説

著者： 渡辺実著

出版社： 岩波書店

出版年： 1996

ISBN： 4000260022

ベーシック現代の日本語学

著者： 日野資成

出版社： ひつじ書房

出版年： 2009

ISBN： 9784894764385

朝倉日本語講座全10巻

著者： 北原保雄監修

出版社： 朝倉書店

出版年： 2002-5

ISBN： 9784254515114

概説日本語学 改訂版

著者： 飯田晴巳他編

出版社： 明治書院

出版年： 2007

ISBN： 9784625704017

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本文学史 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

授業の到達目標

日本語による文化の豊かさを享受できるように、古典文学に対する幅広い教養を身につける。

授業の概要

記紀から読本まで、日本文学の歴史と特質をおおむね時間軸に沿って学ぶ。(具体的な内容は、変更の可能性がある)

準備学習(予習・復習)

事前に解説に目を通し、授業後は用意された課題に取り組む。

内 容

- 第1回 上代文学1『古事記』
- 第2回 上代文学2『万葉集』
- 第3回 中古文学1『竹取物語』
- 第4回 中古文学2『源氏物語』とその影響
- 第5回 中世文学1『新古今和歌集』
- 第6回 中世文学2『平家物語』
- 第7回 中世文学3『方丈記』と『徒然草』
- 第8回 近世文学1 松尾芭蕉と井原西鶴
- 第9回 近世文学2 近松門左衛門
- 第10回 近世文学3 上田秋成
- 第11回 古典と女性作家
- 第12回 写本と版本
- 第13回 地域文学 琉球と東北
- 第14回 芸能
- 第15回 観光と文学

履修上の注意点

課題は必ず提出すること。

教科書

新編これからの日本文学

著者: 丸山顕徳、西端幸雄ほか

出版社: 金壽堂出版

出版年: 2007

ISBN: 978-4-903762

参考書

岩波講座日本文学史

著者: 久保田淳、藤井貞和ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 1995~1997

ISBN:

日本文芸史

著者: 古橋信孝、藤井貞和ほか

出版社: 河出書房新社

出版年: 1986~2005

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

「授業中課題」とは、各回に出された設問に対する解答や提出物です。

2015 Syllabus

科目名 日本文学史Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

明治の日本文学史

授業の到達目標

明治時代の文学について理解と知識を深める。文学史を学んでいく過程で、重要な作品については鑑賞する。それらの作品鑑賞を通して、明治時代の文学作品の特徴や意味合いについて考察することを目的とする。

授業の概要

明治時代の有名な小説を取り上げ、作者と作品内容、文学史的背景について講義を行う。受講者各人が作品への知識を得るにとどまらず、鑑賞し、批評的に読む機会を設けたい。

準備学習(予習・復習)

講義で扱う作品は全文通読を必須とする。他にも言及する作品を積極的に通読すること。

内 容

第1回 ガイダンス —— 講義概要等の説明 ——

第2回 明治の文学史① —— 写実主義・擬古典主義・浪漫主義・自然主義 ——

第3回 明治の文学史② —— 高踏派／余裕派・新浪漫主義／耽美派・新理想主義／白樺派

第4回 浪漫主義の文学 森鷗外『舞姫』①

第5回 浪漫主義の文学 森鷗外『舞姫』②

第6回 幻想文学 泉鏡花『高野聖』①

第7回 幻想文学 泉鏡花『高野聖』②

第8回 幻想文学 泉鏡花『高野聖』③

第9回 自然主義の文学 田山花袋『蒲団』①

第10回 自然主義の文学 田山花袋『蒲団』②

第11回 自然主義の文学 田山花袋『蒲団』③

第12回 耽美派の文学 谷崎潤一郎『刺青』①

第13回 耽美派の文学 谷崎潤一郎『刺青』②

第14回 大正文学への流れ —— 新現実主義／新思潮派(芥川龍之介を中心に)

第15回 まとめ

履修上の注意点

板書と口頭での説明が中心となるので、説明中は私語を慎むように。また、欠席5回以上の単位取得は認められないので注意するように。

教科書

明治文藝名作散歩

著者：みぎわ書房編

出版社：白地社

出版年：2005

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80%)

参加度 (20%)

最終授業日にレポートを提出してもらう。

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 中学書写 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 日文コース生のみ

担当者 尾西 正成

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

授業の到達目標

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。

授業の概要

中学書写で必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。

準備学習(予習・復習)

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい

内 容

- 第1回 書写と書道について
- 第2回 小中学校教育における現状を知る
- 第3回 平仮名の学習
- 第4回 片仮名の学習
- 第5回 仮名と漢字との調和について
- 第6回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)①
- 第7回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)②
- 第8回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)③
- 第9回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)①
- 第10回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)②
- 第11回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)③
- 第12回 中学教育における古典の位置と意義
- 第13回 用具用材の工夫による学習①
- 第14回 用具用材の工夫による学習②
- 第15回 書写と書道の関わりと問題点について

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年

著者: 井上輝夫他

出版社: 光村図書

出版年:

ISBN:

中学書写二三年

著者: 井上輝夫他

出版社: 光村図書

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2015 Syllabus

科目名 中学書写Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 日文コース生のみ

担当者 吉見 靖子

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

授業の到達目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の概要

授業は実習を伴い、実際に書ける力を養う。

準備学習(予習・復習)

書の実技に関しては、それまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい。

内 容

- 第1回 漢字と仮名の調和とは
- 第2回 半紙による楷書と仮名の調和(1)
- 第3回 半紙による行書と仮名の調和(2)
- 第4回 仮名の美について(1)
- 第5回 仮名の美について(2)
- 第6回 細字による仮名の学習～平安古筆をヒントとして～(1)
- 第7回 細字による楷書の学習～平安古筆をヒントとして～(2)
- 第8回 細字による行書の学習～平安古筆をヒントとして～(3)
- 第9回 半紙による漢字仮名交じりの書(1)
- 第10回 条幅による漢字仮名交じりの書(2)
- 第11回 実用に即した書(1)
- 第12回 実用に即した書(2)
- 第13回 実用に即した書(3)
- 第14回 生活の中に生きる芸術書
- 第15回 現代における書の必要性和これから

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年

著者: 井上輝夫他

出版社: 光村図書

出版年:

ISBN:

中学書写二三年

著者: 井上輝夫他

出版社: 光村図書

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2015 Syllabus

科目名 漢文学 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学 I と II で古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/> を見ること。

内 容

- 第1回 授業の内容紹介
- 第2回 神話と画像解読
- 第3回 中国最古の詩集
- 第4回 宗教と歌謡
- 第5回 歴史書の成立
- 第6回 日本の神話、詩集、歴史書
- 第7回 漢字とその意味
- 第8回 儒教と経学
- 第9回 ベトナムの漢文学
- 第10回 五言詩の発生
- 第11回 詩の発達と詩人
- 第12回 隠逸思想の系譜
- 第13回 日本の古典文学と中国 I
- 第14回 日本の古典文学と中国 II
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 漢文学Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/>を見ること。

内 容

- 第1回 後期授業の内容紹介
- 第2回 朝鮮半島の漢文学
- 第3回 小説の発生
- 第4回 日本の小説
- 第5回 長安と詩人Ⅰ
- 第6回 長安と詩人Ⅱ
- 第7回 日本の古典小説と中国
- 第8回 中国の音楽と詞
- 第9回 印刷術の発展
- 第10回 中国のオペラ
- 第11回 都市の繁栄と通俗小説
- 第12回 読書の歴史
- 第13回 水滸伝と民衆反乱
- 第14回 文学革命
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 篆刻Ⅰ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小早川 修治

テーマ

篆刻の歴史と印式・印例の理解

授業の到達目標

篆刻理論の修得

授業の概要

篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

準備学習(予習・復習)

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

内 容

- 第1回 篆刻の歴史の解説
- 第2回 篆刻の種類と解説
- 第3回 篆刻の種類と解説
- 第4回 印式の解説
- 第5回 篆刻の手順の解説、印材の調整
- 第6回 白文＝字印の布字
- 第7回 " 刻と鈐印
- 第8回 朱文＝字印の布字
- 第9回 " 刻と鈐印
- 第10回 白文＝字印の布字
- 第11回 " 刻と鈐印
- 第12回 朱文＝字印の布字
- 第13回 " 刻と鈐印
- 第14回 白文＝字印の布字
- 第15回 " 刻と鈐印

履修上の注意点

教科書

書道テキスト 第10巻 篆刻

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 篆刻Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 小早川 修治		
テーマ		
刻印の技術の習得		
授業の到達目標		
篆刻技術の習得		
授業の概要		
<p>「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。</p>		
準備学習(予習・復習)		
<p>篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。</p>		
内 容		
第1回	側款の文章表現(漢文)、誰が、いつ刻したか	
第2回	" どこで、誰の為に刻したか	
第3回	側款の刻し方	
第4回	白文四字印の布字	
第5回	" 刻と鈐印	
第6回	朱文四字印の布字	
第7回	" 刻と鈐印	
第8回	白文四字印の布字	
第9回	" 刻と鈐印	
第10回	朱文四字印の布字	
第11回	" 刻と鈐印	
第12回	白文四字印の布字	
第13回	" 刻と鈐印	
第14回	朱文四字印の布字	
第15回	" 刻と鈐印	
履修上の注意点		
教科書		
書道テキスト 第10巻 篆刻		
著者:		
出版社: 二玄社		
出版年:	ISBN: 7984544141108	
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (80)	授業中発表等 (10)	
参加度 (10)		

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学にみる京都

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 京都のイメージがどのように形作られているかを考える。3, 京都の文化や伝統について関心を深める。

授業の概要

古典から現代までの京都を舞台にした文学作品を読み、京都らしい風物や事柄を取り出して、京都を語る際の切り口を考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

第1回 授業の進め方について説明し、取り上げる作品とグループを決める。

第2回 受講生の抱いている京都のイメージを語り合う。

第3回 学外見学(京都文化博物館などを予定)

第4回 学外見学(同)

第5回 グループによる作品についての発表①

第6回 発表に対する質疑応答と意見交換

第7回 発表②

第8回 意見交換

第9回 発表③

第10回 意見交換

第11回 発表④

第12回 意見交換

第13回 発表⑤

第14回 意見交換

第15回 まとめ

履修上の注意点

見学の日時と場所は授業が始まってから連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には、出席点のほかに平常点を含みます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 ガイダンスとグループ分け
- 第3回 講演CDを聞く
- 第4回 講演CDを聞く グループワーク
- 第5回 講演CDを聞く 発表
- 第6回 講演CDを聞く まとめ
- 第7回 小説の朗読を聞く
- 第8回 小説の朗読を聞く グループワーク
- 第9回 小説の朗読 黙読との比較 発表
- 第10回 小説の朗読 まとめ
- 第11回 総合演習 その1 解説/個人で小レポート
- 第12回 総合演習 その1 グループワーク
- 第13回 総合演習 その1 発表
- 第14回 総合演習 まとめ
- 第15回 名文鑑賞 リズムや行間に耳を澄ます

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ(1)

授業の到達目標

日本語と英語、中国語を比較しながらそれぞれの言葉の特徴を理解する。

授業の概要

たんに知識を習得するだけでなく、グループで議論しながらひとつの考え方を作り上げていくプロセスを大切にしていきたい。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 名詞の数え方
- 第3回 動詞の使い方
- 第4回 「です」とbeと是
- 第5回 SVO文型
- 第6回 SVOO文型
- 第7回 SVOC文型
- 第8回 疑問文
- 第9回 時制
- 第10回 指示代名詞
- 第11回 疑問詞(1)
- 第12回 疑問詞(2)
- 第13回 形容詞
- 第14回 様態補語
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通すだけでは出席とは認めない。積極的に議論に参加すること。病欠・忌引きを含めて3分の1以上欠席した場合は単位を不認定とする。和英・日漢辞典が必要になるのでタブレットをかならず持参すること

教科書

とくに使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
 第2回 タスク1 ビブリオバトル(1)ビブリオバトルへの導入
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(2)予備戦
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(3)予備戦
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦と振り返り
 第7回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(1)導入
 第8回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(2)吟行
 第9回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(3)短歌会形式による相互批評
 第10回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(4)短歌会形式による相互批評
 第11回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(5)歌合とは
 第12回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(6)歌合
 第13回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(7)歌合形式による相互批評
 第14回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(8)歌合形式による相互批評
 第15回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(9)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013

ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学作品にみる大阪、滋賀

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 郷土の文学や作家を知り、そこに描かれるものについて考える。3, 郷土の文化や伝統について関心を深める。4, 意見をまとめ、説明する能力を身に付ける。

授業の概要

古典から現代までの大阪と滋賀を舞台にした文学作品を読み、地名や言葉、表現内容から、土地柄と文学の関係について考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

- 第1回 受講生の抱く大阪、滋賀のイメージについて語り合う
- 第2回 グループで担当作品を決める
- 第3回 学外研修
- 第4回 同上
- 第5回 作品についての発表①
- 第6回 発表に対する意見交換
- 第7回 発表②
- 第8回 意見交換
- 第9回 発表③
- 第10回 意見交換
- 第11回 発表④
- 第12回 意見交換
- 第13回 発表⑤
- 第14回 意見交換
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外研修の場所と時期については、授業で連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には出席点のほかに平常点も含まれます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 名文鑑賞 グループワーク
- 第2回 名文鑑賞 発表
- 第3回 名文鑑賞 まとめ
- 第4回 講演CDを聞く
- 第5回 講演CDを聞く グループワーク
- 第6回 講演CDを聞く 発表
- 第7回 講演CDを聞く まとめ
- 第8回 短歌鑑賞 解説
- 第9回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第10回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第11回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第12回 短歌鑑賞 発表
- 第13回 総合演習 その2
- 第14回 総合演習 その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ(2)

授業の到達目標

日本近代文学のグループ研究

授業の概要

単に作品を教員が読解するだけでなく、グループで議論しながらみんなで作品のイメージを作り上げていくことをめざす

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 人物像の分析
- 第3回 ストーリーの分析
- 第4回 結末の分析
- 第5回 参考文献の利用法
- 第6回 分析文の作り方(1)
- 第7回 分析文の作り方(2)
- 第8回 分析文の作り方(3)
- 第9回 受講生によるグループ発表と討論(1)
- 第10回 受講生によるグループ発表と討論(2)
- 第11回 受講生によるグループ発表と討論(3)
- 第12回 受講生によるグループ発表と討論(4)
- 第13回 受講生によるグループ発表と討論(5)
- 第14回 受講生によるグループ発表と討論(6)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとは認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位をみとめない。

教科書

作品で読む20世紀の日本文

著者: みぎわ書房編

出版社: 白地社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)群読への導入
- 第2回 タスク3 群読(2)和歌・短歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)和歌・短歌の群読
- 第4回 タスク3 群読(4)詩の群読
- 第5回 タスク3 群読(5)詩の群読
- 第6回 タスク3 群読(6)山科閑居の段の群読
- 第7回 タスク3 群読(7)山科閑居の段の群読
- 第8回 タスク3 群読(8)山科閑居の段の群読
- 第9回 タスク3 群読(9)群読の振り返り
- 第10回 タスク4 取材とプレゼンテーション(1)導入
- 第11回 タスク4 取材とプレゼンテーション(2)準備
- 第12回 タスク4 取材とプレゼンテーション(3)学外授業
- 第13回 タスク4 取材とプレゼンテーション(4)学外授業
- 第14回 タスク4 取材とプレゼンテーション(5)プレゼンテーション
- 第15回 タスク4 取材とプレゼンテーション(6)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 ガイダンスとグループ分け
- 第3回 講演CDを聞く
- 第4回 講演CDを聞く グループワーク
- 第5回 講演CDを聞く 発表
- 第6回 講演CDを聞く まとめ
- 第7回 小説の朗読を聞く
- 第8回 小説の朗読を聞く グループワーク
- 第9回 小説の朗読 黙読との比較 発表
- 第10回 小説の朗読 まとめ
- 第11回 総合演習 その1 解説/個人で小レポート
- 第12回 総合演習 その1 グループワーク
- 第13回 総合演習 その1 発表
- 第14回 総合演習 まとめ
- 第15回 名文鑑賞 リズムや行間に耳を澄ます

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ

授業の到達目標

日本語の特徴を英語、中国語の比較から理解する。

授業の概要

単に知識を習得するだけでなく、グループで議論しながら理解を深めていく。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 名詞の教え方
- 第3回 動詞の使い方
- 第4回 です・be動詞・是
- 第5回 SVO文型
- 第6回 SVOC文型
- 第7回 否定文
- 第8回 疑問文
- 第9回 あります・be動詞・在
- 第10回 あります・There構文・有
- 第11回 時制
- 第12回 形容詞叙述
- 第13回 疑問詞
- 第14回 助動詞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通すだけでは出席したとは見なさない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。和英辞典・日中辞典のかわりに使用するのだからタブレットを持参すること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
 第2回 タスク1 ビブリオバトル(1)ビブリオバトルへの導入
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(2)予備戦
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(3)予備戦
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦と振り返り
 第7回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(1)導入
 第8回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(2)吟行
 第9回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(3)短歌会形式による相互批評
 第10回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(4)短歌会形式による相互批評
 第11回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(5)歌合とは
 第12回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(6)歌合
 第13回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(7)歌合形式による相互批評
 第14回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(8)歌合形式による相互批評
 第15回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(9)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013

ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学にみる京都

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 京都のイメージがどのように形作られているかを考える。3, 京都の文化や伝統について関心を深める。

授業の概要

古典から現代までの京都を舞台にした文学作品を読み、京都らしい風物や事柄を取り出して、京都を語る際の切り口を考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

第1回 授業の進め方について説明し、取り上げる作品とグループを決める。

第2回 受講生の抱いている京都のイメージを語り合う。

第3回 学外見学(京都文化博物館などを予定)

第4回 学外見学(同)

第5回 グループによる作品についての発表①

第6回 発表に対する質疑応答と意見交換

第7回 発表②

第8回 意見交換

第9回 発表③

第10回 意見交換

第11回 発表④

第12回 意見交換

第13回 発表⑤

第14回 意見交換

第15回 まとめ

履修上の注意点

見学の日時と場所は授業が始まってから連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には、出席点のほかに平常点を含みます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ <e>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅳと合同。

準備学習(予習・復習)

予習: 授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。復習: 授業で研究した内容の要点を整理する。

内 容

- 第5回 テキストを読む②
- 第6回 グループによる発表(1)
- 第7回 テキストを読む③
- 第8回 グループによる発表(2)
- 第9回 テキストを読む④
- 第10回 グループによる発表(3)
- 第11回 テキストを読む⑤
- 第12回 グループによる発表(4)
- 第13回 学外授業
- 第14回 学外授業
- 第15回 テキストを読む⑥
- 第16回 受講者による発表と質疑応答(1)
- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 テキストを読むにあたっての方法と実践
- 第3回 テキストを読む①
- 第4回 作品の選択と梗概の作成

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

お伽草子事典

著者: 徳田和夫

出版社: 東京堂出版

出版年: 2002

ISBN:

御伽草子集

著者: 大島建彦校注・訳

出版社: 小学館

出版年: 1974

ISBN:

御伽草子

著者： 市古貞次校注

出版社： 岩波書店

出版年： 1958

ISBN:

室町物語草子集

著者： 大島建彦・渡浩一校注・訳

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN:

室町物語集 上・下

著者： 市古貞次他校注

出版社： 岩波書店

出版年： 1989

ISBN:

室町時代物語大成

著者： 横山重・松本隆信編

出版社： 角川書店

出版年： 1973-1988

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（10）

授業中課題（30）

授業中発表等（40）

参加度（20）

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 名文鑑賞 グループワーク
- 第2回 名文鑑賞 発表
- 第3回 名文鑑賞 まとめ
- 第4回 講演CDを聞く
- 第5回 講演CDを聞く グループワーク
- 第6回 講演CDを聞く 発表
- 第7回 講演CDを聞く まとめ
- 第8回 短歌鑑賞 解説
- 第9回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第10回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第11回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第12回 短歌鑑賞 発表
- 第13回 総合演習 その2
- 第14回 総合演習 その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 野村 幸一郎	
テーマ グループで議論しながら学ぶ(2)	
授業の到達目標 日本近代文学をグループで学ぶ	
授業の概要 教員による作品読解とグループワークが授業の中心になる	
準備学習(予習・復習) 授業内で指示する	
内 容 第1回 概要説明 第2回 人物像の分析 第3回 ストーリーの分析 第4回 結末の分析 第5回 先行論文の利用法 第6回 分析文の作り方(1) 第7回 分析文の作り方(2) 第8回 分析文の作り方(3) 第9回 受講生によるグループ発表(1) 第10回 受講生によるグループ発表(2) 第11回 受講生によるグループ発表(3) 第12回 受講生によるグループ発表(4) 第13回 受講生によるグループ発表(5) 第14回 受講生によるグループ発表(6) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 出席カードを通しただけでは出席したとは見なさない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を不認定とする	
教科書 作品で読む20世紀の日本文学 著者: みぎわ書房編 出版社: 白地社 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)群読への導入
- 第2回 タスク3 群読(2)和歌・短歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)和歌・短歌の群読
- 第4回 タスク3 群読(4)詩の群読
- 第5回 タスク3 群読(5)詩の群読
- 第6回 タスク3 群読(6)山科閑居の段の群読
- 第7回 タスク3 群読(7)山科閑居の段の群読
- 第8回 タスク3 群読(8)山科閑居の段の群読
- 第9回 タスク3 群読(9)群読の振り返り
- 第10回 タスク4 取材とプレゼンテーション(1)導入
- 第11回 タスク4 取材とプレゼンテーション(2)準備
- 第12回 タスク4 取材とプレゼンテーション(3)学外授業
- 第13回 タスク4 取材とプレゼンテーション(4)学外授業
- 第14回 タスク4 取材とプレゼンテーション(5)プレゼンテーション
- 第15回 タスク4 取材とプレゼンテーション(6)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学作品にみる大阪、滋賀

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 郷土の文学や作家を知り、そこに描かれるものについて考える。3, 郷土の文化や伝統について関心を深める。4, 意見をまとめ、説明する能力を身に付ける。

授業の概要

古典から現代までの大阪と滋賀を舞台にした文学作品を読み、地名や言葉、表現内容から、土地柄と文学の関係について考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

- 第1回 受講生の抱く大阪、滋賀のイメージについて語り合う
- 第2回 グループで担当作品を決める
- 第3回 学外研修
- 第4回 同上
- 第5回 作品についての発表①
- 第6回 発表に対する意見交換
- 第7回 発表②
- 第8回 意見交換
- 第9回 発表③
- 第10回 意見交換
- 第11回 発表④
- 第12回 意見交換
- 第13回 発表⑤
- 第14回 意見交換
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外研修の場所と時期については、授業で連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には出席点のほかに平常点も含まれます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅲと合同。

準備学習(予習・復習)

予習:授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。復習:授業で研究した内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 テキストを読む⑦
- 第2回 受講者による発表と質疑応答(2)
- 第3回 テキストを読む⑧
- 第4回 受講者による発表と質疑応答(3)
- 第5回 テキストを読む⑨
- 第6回 受講者による発表と質疑応答(4)
- 第7回 テキストを読む⑩
- 第8回 受講者による発表と質疑応答(5)
- 第9回 テキストを読む⑪
- 第10回 受講者による発表と質疑応答(6)
- 第11回 テキストを読む⑫
- 第12回 受講者による発表と質疑応答(7)
- 第13回 問題点の整理
- 第14回 まとめ

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

お伽草子事典

著者: 徳田和夫

出版社: 東京堂出版

出版年: 2002

ISBN:

御伽草子集

著者: 大島建彦校注・訳

出版社: 小学館

出版年: 1974

ISBN:

御伽草子

著者: 市古貞次校注

出版社: 岩波書店

出版年: 1958

ISBN:

室町物語草子集

著者： 大島建彦・渡浩一校注・訳

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN:

室町物語集 上・下

著者： 市古貞次他校注

出版社： 岩波書店

出版年： 1989

ISBN:

室町時代物語大成

著者： 横山重・松本隆信編

出版社： 角川書店

出版年： 1973-1988

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学(中・近世)へのアプローチ

授業の到達目標

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

受講者は、前半に様々なジャンルの古典作品の中からひとつを取り上げてその魅力を解説し、後半は課題に沿って、読みを深めて発表します。なお、みなさんに取り上げていただく作品は、以下の限りではありません。

準備学習(予習・復習)

本文をきちんと読み、時間をかけてレジュメを作成する。

内 容

- 第1回 授業のねらいと進め方についての説明
- 第2回 中・近世の昔話; 御伽草子
- 第3回 軍記の白眉; 『平家物語』
- 第4回 晴明伝説の決定版; 『安倍晴明物語』
- 第5回 初めての経済小説; 『世間胸算用』
- 第6回 家庭問題を劇化した; 『女殺油地獄』
- 第7回 怪談劇の代表; 『東海道四谷怪談』
- 第8回 後半の進め方についての説明
- 第9回 御伽草子の読み方をさぐる
- 第10回 『平家物語』〃
- 第11回 『安倍晴明物語』〃
- 第12回 『世間胸算用』〃
- 第13回 『女殺油地獄』〃
- 第14回 『東海道四谷怪談』〃
- 第15回 古典文学の魅力と影響力について

履修上の注意点

まずは、作品をよく読むこと。わからない言葉は、こまめに辞書を引くこと。レジュメ作成には時間をかけること。

教科書

参考書

角川ソフィア文庫(各作品)

著者:

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

(新)日本古典文学大系(各作品)

著者:

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

(新編)日本古典文学全集(各作品)

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*B>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1)日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2)データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3)他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習(予習・復習)

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも、さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*C>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本文学研究の基礎

授業の到達目標

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

授業の概要

前半は講義を主としてワークショップを取り入れる。後半は受講生による研究発表と質疑応答によって進める。

準備学習(予習・復習)

日本文学の作品を積極的に多読すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 1

第3回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に 2

第4回 研究入門講義 テーマの設定、作品分析の方法、参考文献の集め方

第5回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 1

第6回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 2

第7回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 3

第8回 学生発表 森鷗外「高瀬舟」

第9回 学生発表 夏目漱石「それから」

第10回 学生発表 芥川龍之介「舞踏会」

第11回 学生発表 志賀直哉「小僧の神様」

第12回 学生発表 谷崎潤一郎「春琴抄」

第13回 学生発表 太宰治「人間失格」

第14回 学生発表 横光利一「機械」

第15回 学生発表 三島由紀夫「金閣寺」

履修上の注意点

三分の二以上の出席を単位認定の条件とする。なお、担当者が発表当日に無断欠席した場合、発表の評価は0点とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)

期末試験はレポート形式。発表のレジュメを論文形式に書き改めて提出すること。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*A〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	安達 太郎	
テーマ	〈表現〉を分析する	
授業の到達目標	1) 表現を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) テキスト分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。	
授業の概要	日常生活から文学や芸術の分野まで、私たちはさまざまなレベルで〈表現〉に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として、あるテキストがどのように〈解釈〉され、どのように別のテキストとして〈表現〉されていくのかを考える。	
準備学習(予習・復習)	参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。	
内 容	第1回 導入：〈表現〉を分析する 第2回 表現の分析(1) 第3回 表現の分析(2) 第4回 発表の準備 第5回 チーム内検討(1) 第6回 チーム内検討(2) 第7回 チーム内検討(3) 第8回 受講生による報告(1) 第9回 受講生による報告(2) 第10回 受講生による報告(3) 第11回 受講生による報告(4) 第12回 受講生による報告(5) 第13回 受講生による報告(6) 第14回 受講生による報告(7) 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	翻訳夜話 著者： 村上春樹・柴田元幸 出版社： 文芸春秋 出版年： 2000年 ISBN: 978-4166601295 翻訳夜話2 サリンジャー戦記 著者： 村上春樹・柴田元幸 出版社： 文芸春秋 出版年： 2003年 ISBN: 978-4166603305 翻訳教室 著者： 柴田元幸 出版社： 新書館 出版年： 2006年 ISBN: 978-4403210884	
成績評価	試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (40)	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

現代文学 小説鑑賞

授業の到達目標

研究入門で学んだ発表の仕方、レジュメの作り方の復習を兼ねて、演習形式の授業を行う。3回生ゼミへの橋渡し、及び研究対象として読む作家・作品の幅を広げることを目標とする。

授業の概要

主として演習形式。テキストで論評の対象となっている作品を課題とし、作品論と論文批評の発表を割り当てる。

準備学習(予習・復習)

自分の担当でなくとも、事前に作品を通読すること。授業で扱う作家の他の作品も積極的に読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 小島信夫『抱擁家族』模擬発表と講義 1
- 第3回 グループでのワーク・ショップ
- 第4回 グループでのワーク・ショップ
- 第5回 前半 グループ発表(全作品)
- 第6回 前半 グループ発表 まとめ
- 第7回 小島信夫『抱擁家族』模擬発表と講義 2
- 第8回 グループでのワーク・ショップ(後半発表にむけて)
- 第9回 グループでのワーク・ショップ
- 第10回 太宰治『斜陽』、三島由紀夫『仮面の告白』
- 第11回 安岡章太郎『海辺の光景』、安部公房『砂の女』
- 第12回 古井由吉『杏子』
- 第13回 グループ発表 質疑応答
- 第14回 三田誠広『僕って何』
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

教養として読む現代文学

著者: 石原千秋

出版社: 朝日新聞出版

出版年: 2013年

ISBN: 9784022630094

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

試験はレポート形式とする。発表内容を適宜修正して、論文の体裁にすること。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

授業の概要

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

準備学習(予習・復習)

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用して調べる。

内 容

第1回 授業のねらいと進め方についての説明

第2回 中・近世の作品、あるいはそれに関わりのある近現代の文学から自分に合ったものを選ぶ

第3回 各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る

第4回 作品について語る(プレゼンテーション)①

第5回 同上②

第6回 同上③

第7回 同上④

第8回 同上⑤

第9回 論文を検索し、収集する

第10回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ

第11回 前半の発表に関連する論文を紹介し、どこが良く、どこに疑問が残ったかを述べる①

第12回 同上②

第13回 同上③

第14回 同上④

第15回 特別講義(時期は未定)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

2015 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 中村 史朗

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習(予習・復習)

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内 容

- 第1回 ガイダンス中国書津史概観(1)
- 第2回 王羲之前夜 李柏尺牘文書を中心に
- 第3回 蘭亭序(1)
- 第4回 蘭亭序(2)
- 第5回 集王碑 集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
- 第6回 王羲之の尺牘(1) 墨跡本を中心に
- 第7回 王羲之の尺牘(2) 刻帖を中心に
- 第8回 唐 太宗 温泉銘
- 第9回 孫過庭 書譜
- 第10回 顔真卿 争座位文稿
- 第11回 懷素 自叙帖
- 第12回 北宋の書(1) 蘇軾 黄州寒食詩卷
- 第13回 北宋の書(2) 黄庭堅 李太白憶旧遊詩卷
- 第14回 北宋の書(3) 米芾 蜀素帖
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト第5巻 篆書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第6巻 隸書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第7巻 楷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

書の文化史 上、中、下

著者： 西林昭一

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

書道全集

著者：

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

書道芸術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年：

ISBN：

中国法書ガイド 1～60

著者：

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

中国書道史年表

著者： 玉村霽山

出版社： 二玄社

出版年： 1998

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2015 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 池田 利広	
テーマ	中国の殷から晋代までの漢字を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。
授業の到達目標	漢字の成り立ちと書体・書風の変遷、または各時代の書体・書風の書技法の習得をめざす。
授業の概要	理論と実践を通して書の美に迫る。
準備学習(予習・復習)	講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 漢字の成り立ち(1) 『説文解字』より
 第3回 漢字の成り立ち(2) 『説文解字』より
 第4回 殷代の書 甲骨文字 骨に刻まれた文字の表現を考える
 第5回 周代の書(1) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える
 第6回 周代の書(2) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える
 第7回 周代の書(3) 竹簡 当時の篆書書写体を考える
 第8回 秦代の書(1) 小篆 泰山刻石から小篆の書法について考える
 第9回 秦代の書(2) 秦隸 初期隸書の書法について
 第10回 漢代の書(1) 金文 度量衡・漢印をもとに
 第11回 漢代の書(2) 帛書 馬王堆帛書をもとに
 第12回 漢代の書(3) 隸書 漢碑をもとに
 第13回 漢代の書(4) 行・草書 木簡をもとに
 第14回 三国時代の書 楷書 木簡や鍾繇の書をもとに
 第15回 晋代の書 木簡・残紙 王羲之への流れについて

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第6巻 隸書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第7巻 楷書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

特になし

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30%)

期末提出課題 70%

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 池田 利広	
テーマ	中国の殷から晋代までの漢字を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。
授業の到達目標	漢字の成り立ちと書体・書風の変遷、または各時代の書体・書風の書技法の習得をめざす。
授業の概要	理論と実践を通して書の美に迫る。
準備学習(予習・復習)	講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 漢字の成り立ち(1) 『説文解字』より
 第3回 漢字の成り立ち(2) 『説文解字』より
 第4回 殷代の書 甲骨文字 骨に刻まれた文字の表現を考える
 第5回 周代の書(1) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える
 第6回 周代の書(2) 金文 金属に鑄刻された文字の表現を考える
 第7回 周代の書(3) 竹簡 当時の篆書書写体を考える
 第8回 秦代の書(1) 小篆 泰山刻石から小篆の書法について考える
 第9回 秦代の書(2) 秦隸 初期隸書の書法について
 第10回 漢代の書(1) 金文 度量衡・漢印をもとに
 第11回 漢代の書(2) 帛書 馬王堆帛書をもとに
 第12回 漢代の書(3) 隸書 漢碑をもとに
 第13回 漢代の書(4) 行・草書 木簡をもとに
 第14回 三国時代の書 楷書 木簡や鍾繇の書をもとに
 第15回 晋代の書 木簡・残紙 王羲之への流れについて

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻 篆書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第6巻 隸書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第7巻 楷書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

書道テキスト第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

特になし

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30%)

期末提出課題 70%

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 20
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 中村 史朗

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習(予習・復習)

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内 容

- 第1回 ガイダンス中国書津史概観(1)
- 第2回 王羲之前夜 李柏尺牘文書を中心に
- 第3回 蘭亭序(1)
- 第4回 蘭亭序(2)
- 第5回 集王碑 集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
- 第6回 王羲之の尺牘(1) 墨跡本を中心に
- 第7回 王羲之の尺牘(2) 刻帖を中心に
- 第8回 唐 太宗 温泉銘
- 第9回 孫過庭 書譜
- 第10回 顔真卿 争座位文稿
- 第11回 懷素 自叙帖
- 第12回 北宋の書(1) 蘇軾 黄州寒食詩卷
- 第13回 北宋の書(2) 黄庭堅 李太白憶旧遊詩卷
- 第14回 北宋の書(3) 米芾 蜀素帖
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト第5巻 篆書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第6巻 隸書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第7巻 楷書

著者: 大東文化大学書道研究所編

出版社:

出版年:

ISBN:

書道テキスト第8巻 行草書

著者： 大東文化大学書道研究所編

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

書の文化史 上、中、下

著者： 西林昭一

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

書道全集

著者：

出版社： 平凡社

出版年：

ISBN：

書道芸術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年：

ISBN：

中国法書ガイド 1～60

著者：

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

中国書道史年表

著者： 玉村霽山

出版社： 二玄社

出版年： 1998

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2015 Syllabus

科目名 かな古典研究 I <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
- 第2回 万葉仮名の作品について②
- 第3回 万葉仮名の作品について③
- 第4回 万葉仮名の作品について④
- 第5回 草仮名の作品について
- 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
- 第7回 草仮名の作品について
- 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
- 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
- 第10回 高野切系統の作品について①
- 第11回 高野切系統の作品について②
- 第12回 高野切系統の作品について③
- 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
- 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
- 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2015 Syllabus

科目名 かな古典研究 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
- 第2回 万葉仮名の作品について②
- 第3回 万葉仮名の作品について③
- 第4回 万葉仮名の作品について④
- 第5回 草仮名の作品について
- 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
- 第7回 草仮名の作品について
- 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
- 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
- 第10回 高野切系統の作品について①
- 第11回 高野切系統の作品について②
- 第12回 高野切系統の作品について③
- 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
- 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
- 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2015 Syllabus

科目名 かな古典研究Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)
- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2015 Syllabus

科目名 **かな古典研究Ⅱ **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切齋宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読a(日本語文法研究Ⅰ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

日本語の法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考える。授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習(予習・復習)

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりとして下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内 容

- 第1回 品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
 第2回 活用:「来られる」と「来れる」
 第3回 文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
 第4回 格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
 第5回 副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」?
 第6回 接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
 第7回 連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
 第8回 受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
 第9回 文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
 第10回 認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
 第11回 文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
 第12回 補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
 第13回 敬語:「お読みになる」と「お読みする」
 第14回 文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国語教師が知っておきたい日本語文法

著者: 山田敏弘

出版社: くろしお出版

出版年: 2004

ISBN: 978-4874243107

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読b(日本語文法研究Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し、日本語の使用実態を調査する方法を身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行う。

準備学習(予習・復習)

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内 容

- 第1回 ガイダンス、Googleの賢い使い方
- 第2回 コーパスとは何か、「少納言」の体験
- 第3回 コロケーションとは何か、「NINJAL-LWP」の体験
- 第4回 カイ自乗検定
- 第5回 参加者による発表
- 第6回 参加者による発表
- 第7回 参加者による発表
- 第8回 参加者による発表
- 第9回 参加者による発表
- 第10回 参加者による発表
- 第11回 参加者による発表
- 第12回 参加者による発表
- 第13回 参加者による発表
- 第14回 参加者による発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究

著者： 荻野綱雄

出版社： 朝倉書店

出版年： 2014

ISBN: 978-4254510447

成績評価

試験 ()

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読c(社会言語学 I) <Z>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

ことばの変化と社会の相関(日本の諸方言を中心に)

授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、これまでの研究の潮流を確認し、今後の展開や可能性について検討したい。

授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法及び音声・音韻の変化について詳細に確認する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深め小テスト・レポートを作成すること。

内 容

- 第1回 社会言語学とは
- 第2回 日本の社会言語学とその研究分野
- 第3回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)1(現象の分析)
- 第4回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)2(通時的側面)
- 第5回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)3(共時的側面)
- 第6回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)4(方言からみる変化の実態)
- 第7回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)5(属性からみる変化の実態)
- 第8回 ら抜き言葉のまとめ(小テスト:レポート)
- 第9回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)1(音声学概説)
- 第10回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)2(音声学概説)
- 第11回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)3(現象の分析)
- 第12回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)4(共時的側面・通時的側面)
- 第13回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)5(変化の実態)
- 第14回 音声音韻の変化のまとめ(小テスト:レポート)
- 第15回 社会言語学のまとめ

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語ウォッチング

著者: 井上史雄

出版社: 岩波新書

出版年: 1998

ISBN: 4-00-430540-3

参考書

社会言語学の展望

著者: 真田信治編

出版社: くろしお出版

出版年: 2006

ISBN: 4874243452

改訂版社会言語学図集

著者: 真田信治他編

出版社: 秋山出版

出版年: 2010

ISBN: 9784870236165

方言学

著者: 真田信治編著

出版社: 朝倉書店

出版年: 2011

ISBN: 9784254515244

都市と周縁のことば

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2013

ISBN： 9784757606661

社会言語学

著者： 真田信治・渋谷勝己他

出版社： 桜楓社

出版年： 1992

ISBN： 4273026023

関西方言の社会言語学

著者： 徳川宗賢・真田信治編

出版社： 世界思想社

出版年： 1995

ISBN： 4790705501

応用社会言語学を学ぶ人のために

著者： ダニエル・ロング他

出版社： 世界思想社

出版年： 2001

ISBN： 4790708993

関西・ことばの動態

著者： 真田信治

出版社： 大阪大学出版会

出版年： 2001

ISBN： 4872591097

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読d(社会言語学Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語諸方言の社会言語学的研究

授業の到達目標

日本各地の方言について概観したうえで、現在の「京ことば」及び「大阪弁」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。

授業の概要

まず、「標準語と共通語」・「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。次に、日本各地の諸方言について概観したうえで、その成立事情を「方言圏論」から確認してみたい。最後に、現在の「京ことば」及び「大阪弁」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考文献及び独自に探し出した文献を読み、小テスト:レポートにあたること。

内 容

- 第1回 社会言語学と方言学
- 第2回 方言と言語の違いについて
- 第3回 共通語と標準語
- 第4回 方言の分布について1(周圏分布1)
- 第5回 方言の分布について2(周圏分布2)
- 第6回 方言の分布について3(周圏分布3)
- 第7回 方言の分布について4(東西分布・日本海分布)
- 第8回 方言の分布について5(アクセントの分布について1)
- 第9回 方言の分布について6(アクセントの分布について2)
- 第10回 方言分布のまとめ(小テスト:レポート)
- 第11回 日本語諸方言の実態1(方言区画論)
- 第12回 日本語諸方言の実態2(具体的音声から)
- 第13回 京ことばと大阪弁1
- 第14回 京ことばと大阪弁2
- 第15回 京ことばと大阪弁のまとめ(小テスト:レポート)

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

適宜プリントを配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本言語地図 全6集

著者: 国立国語研究所編

出版社: 大蔵省印刷局

出版年: 1966-74

ISBN:

日本の方言地図

著者: 徳川宗賢編

出版社: 中公新書

出版年: 1979

ISBN: 4121005333

方言分法全国地図 全6集

著者： 国立国語研究所編

出版社： 財務省印刷局

出版年： 1989-06

ISBN：

方言の地図帳

著者： 佐藤亮一編

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN： 4095041528

ガイドブック方言研究

著者： 小林隆他編

出版社： ひつじ書房

出版年： 2003

ISBN： 4894761831

ガイドブック方言調査

著者： 小林隆他編

出版社： ひつじ書房

出版年： 2007

ISBN： 9784894762800

シリーズ方言学 全4巻

著者： 小林隆他

出版社： 岩波書店

出版年： 2006-08

ISBN： 9784000271172

大阪のことば地図

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2009

ISBN： 9784757605268

日本語アクセント入門

著者： 松森晶子他編著

出版社： 三省堂

出版年： 2012

ISBN： 9784385365312

方言学入門

著者： 木部暢子他編著

出版社： 三省堂

出版年： 2013

ISBN： 9784385363936

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読e(平安文学研究I)<Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の栄華ー

授業の到達目標

平安時代文学の代表作品であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
 第2回 光源氏の恋ー桐壺の巻ー
 第3回 雨夜の品定めー帚木・空蟬の巻ー
 第4回 夕顔物語ー夕顔の巻ー
 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通ー若紫の巻ー
 第6回 青海波の舞ー紅葉賀の巻ー
 第7回 朧月夜の恋ー花宴の巻ー
 第8回 車の所争いー葵の巻ー(現地学習を別に設定する)
 第9回 六条御息所との別れー賢木の巻ー(現地学習を別に設定する)
 第10回 橘の花散る里ー花散里の巻ー
 第11回 須磨の秋ー須磨の巻ー
 第12回 明石の君との出会いー明石の巻ー
 第13回 復活する光源氏ー濤標の巻ー
 第14回 明石の君の嵯峨野ー松風の巻ー
 第15回 光源氏の青春の終焉ー薄雲の巻ー ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読f(平安文学研究Ⅱ)〈Z〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まりー

授業の到達目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 夕霧の元服と六条院の造成ー少女ー
- 第2回 玉鬘物語ー玉鬘十帖の巻々ー
- 第3回 光源氏の人生の頂点ー藤裏葉ー(現地学習を別に設定する)
- 第4回 女三の宮の降嫁ー若菜上①ー
- 第5回 明石の入道の思いー若菜上②ー
- 第6回 六条院の蹴鞠ー若菜上③ー
- 第7回 二度目の住吉詣でー若菜下①ー
- 第8回 紫の上の孤独ー若菜下②ー
- 第9回 柏木と女三の宮の密通ー若菜下③ー
- 第10回 柏木の死と薫の誕生ー柏木ー
- 第11回 形見の笛ー横笛ー
- 第12回 出家した女三の宮ー鈴虫ー
- 第13回 夕霧の恋ー夕霧ー
- 第14回 紫の上との別れー御法ー
- 第15回 哀悼の一年ー幻ー

履修上の注意点

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語各種注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読g(古典文学研究I) <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

浄瑠璃の神と宇宙

授業の到達目標

作品を通して江戸時代の信仰と文芸の関わりについて学び、現代人の心のあり方についても考える機会を増やす。

授業の概要

江戸時代の人々は、神仏と宇宙と人の関係をどのようにとらえていたのか。手がかりとなる古浄瑠璃を読解し、元になった御伽草子や伝承について調べ、なぜそのような作品が生まれたかを考える。

準備学習(予習・復習)

予習／事前に配布するプリント(本文)を読み、言葉の意味を調べておくこと。復習／授業を踏まえて問題意識を育むこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方、参考文献等について
- 第2回 『酒吞童子』を読む
- 第3回 『酒吞童子』の神・仏・人
- 第4回 金平浄瑠璃を読む
- 第5回 金平浄瑠璃の神と王法
- 第6回 『日本王代記』を読む
- 第7回 『日本王代記』と記紀神話
- 第8回 『暦』を読む
- 第9回 暦と神道
- 第10回 『信太妻』を読む
- 第11回 安倍晴明伝説と暦
- 第12回 『天狗の内裏』を読む
- 第13回 鞍馬山の義経伝説
- 第14回 『祇園の御本地』を読む
- 第15回 祇園の縁起と祭礼

履修上の注意点

あらすじではなく、作品を自分で読むことが大切です。／授業の1回分を、授業と関連する見学に代えることがあります。

教科書

異界と日本人

著者： 小松和彦

出版社： 角川選書

出版年： 2003

ISBN:

御伽草子集

著者： 大島建彦

出版社： 小学館

出版年： 1974

ISBN:

酒吞童子の誕生

著者： 高橋昌明

出版社： 中公新書

出版年： 1991

ISBN:

説経節

著者： 荒木繁、山本吉左右

出版社： 東洋文庫

出版年： 1973

ISBN:

金平浄瑠璃正本集1～3

著者： 室木弥太郎

出版社： 角川書店

出版年： 1966

ISBN:

古浄瑠璃正本集加賀掾編2

著者： 古浄瑠璃正本集刊行会

出版社： 大学堂書店

出版年： 1995

ISBN:

和の国？武の国？神の国！？—江戸から見る日本人の自意識の変容—

著者： 法政大学国際日本学研究所

出版社： 笠間書院

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

授業中課題は発表に代える場合があります。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読h(古典文学研究Ⅱ) <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

授業の到達目標

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

授業の概要

少しずつ読み進めながら、受講者に「私の読み方＝発見(八犬)伝」を披露していただきます。

準備学習(予習・復習)

教科書は全巻が収録されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

内 容

- 第1回 八犬伝の享受について
- 第2回 八房と伏姫
- 第3回 信乃と額蔵
- 第4回 芳流閣
- 第5回 犬士見八と小文吾
- 第6回 玉の由来
- 第7回 五犬士集結
- 第8回 一角と妖怪
- 第9回 莊介、小文吾
- 第10回 毛野の仇討ち
- 第11回 犬江親兵衛の活躍
- 第12回 八犬士集結
- 第13回 連合軍結成
- 第14回 国府台、洲崎の戦い
- 第15回 大団円

履修上の注意点

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝

著者： 石川博編

出版社： 角川学芸出版

出版年： 2007

ISBN： 978404357422

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者： 小池藤五郎校訂

出版社： 岩波書店

出版年： 1990

ISBN：

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者： 濱田啓介校訂

出版社： 新潮社

出版年： 2003-2004

ISBN：

ちくま学芸文庫『完本 八犬伝の世界

著者： 高田 衛

出版社： 筑摩書房

出版年： 2005

ISBN： 448008940

復興する八犬伝

著者： 諏訪春雄、高田 衛

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

受講者数によっては、発表に代わってレポートの提出を求める場合があります。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読ⅰ(近代文学研究Ⅰ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者

テーマ

戦後の日本近代短篇小説を読みとく

授業の到達目標

昭和戦後期に発表された短篇小説に焦点を当て、各エピソードの持つ意味合いに留意し、作品世界のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の概要

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス —— 講義概要等の説明 ——
 第2回 近代文学を読み進めるポイント
 第3回 レジュメの作成、発表の方法についての指導。発表順の決定。
 第4回 石川淳「焼跡のイエス」
 第5回 原民喜「夏の花」
 第6回 野間宏「顔の中の赤い月」
 第7回 梅崎春夫「蜆」
 第8回 尾崎一雄「虫のいろいろ」
 第9回 武田泰淳「もの喰う女」
 第10回 永井龍男「胡桃割り」
 第11回 林芙美子「水仙」
 第12回 大岡昇平「出征」
 第13回 長谷川四郎「小さな礼拝堂」
 第14回 安部公房「プルートのわな」
 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習形式を取り入れるので、受講者の積極的な参加を求める。発表者に対しては積極的に質問を行うように。また、欠席5回以上の単位取得は認められないので注意するように。

教科書

日本近代短篇小説選 昭和篇2

著者： 紅野敏郎他編

出版社： 岩波書店(文庫)

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

「授業中課題」は討論で導き出したレポートの提出。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読Ⅱ(近代文学研究Ⅱ)〈Z〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

日本近代文学の名作を読む

授業の到達目標

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解する。近代小説の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の概要

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス —— 講義概要等の説明 ——
 第2回 近代文学を読み進めるポイント
 第3回 レジュメの作成、発表の方法についての指導。発表順の決定。
 第4回 夏目漱石「坊っちゃん」①
 第5回 夏目漱石「坊っちゃん」②
 第6回 森鷗外「雁」①
 第7回 森鷗外「雁」②
 第8回 芥川龍之介「地獄変」
 第9回 中島敦「山月記」①
 第10回 中島敦「山月記」②
 第11回 坂口安吾「桜の森の満開の下」①
 第12回 坂口安吾「桜の森の満開の下」②
 第13回 三島由紀夫「潮騒」①
 第14回 三島由紀夫「潮騒」②
 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習形式を取り入れるので、受講者の積極的な参加を求める。発表者に対しては積極的に質問を行うように。また、欠席5回以上の単位取得は認められないので注意するように。

教科書

作品で読む20世紀の日本文学

著者: みぎわ書房編

出版社: 白地社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

「授業中課題」は討論で導き出したレポートの提出。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読k(現代文学研究 I) <Z>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

戦後の短篇小説を精読する。

授業の到達目標

①「戦後」(占領終了から1960年代)の短篇小説を精読し、戦後文学の諸問題を考える。②「戦後」の社会と文化を理解する。③小説の読みについて、しっかりとした議論ができるようにする。

授業の概要

第1回から第3回、第14回、第15回を除き、基本的には受講生による口頭でのグループ発表(全体の人数によっては個人発表になる場合がある)とグループディスカッション、質疑応答によって授業を展開する。発表者以外の受講生には、毎回の授業終了時にコメント用紙の提出を求める。

準備学習(予習・復習)

授業までに発表で扱われる作品を十分に読み込み、自分なりに問題点を発見し、疑問点を整理しておく(予習)。自分の発表が終わったら質疑応答やコメント用紙を参考にしつつ、発表の反省を行い、さらに作品の読みを深め、レポートに備える(復習)。

内 容

- 第1回 ガイダンス(グループと発表スケジュールの決定)
- 第2回 発表方法の説明
- 第3回 発表準備のためのツール紹介
- 第4回 発表①小島信夫「小銃」
- 第5回 発表②吉行淳之介「驟雨」
- 第6回 発表③幸田文「黒い裾」
- 第7回 発表④庄野潤三「結婚」
- 第8回 発表⑤中野重治「萩のもんかきや」
- 第9回 発表⑥円地文子「二世の縁 拾遺」
- 第10回 発表⑦富士正晴「帝国軍隊に於ける学習・序」
- 第11回 発表⑧山川方夫「夏の葬列」
- 第12回 発表⑨島尾敏雄「出発は遂に訪れず」
- 第13回 発表⑩深沢七郎「無妙記」
- 第14回 まとめとレポート指導(発表予備日)
- 第15回 レポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。グループディスカッションや質疑応答には積極的に参加し、受講生自身の手で授業を活性化できるようにしてほしい。口頭発表を行うこと(グループの場合は自分の担当した作業を明確に説明できること)を単位認定の条件とする。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

日本近代短篇小説選 昭和篇3

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (15%)

自分の発表に関する期末レポートを試験とする(内容と形式については授業中に説明する)。口頭発表もレポートも、形式(の順守)、説得力、オリジナリティを重視する。グループディスカッションと質疑応答の成果を踏まえたコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、説得力のある批判、妥当で新鮮な指摘を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読I(現代文学研究Ⅱ)〈Z〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

江國香織の短篇小説を精読する。

授業の到達目標

①江國香織の短篇集『号泣する準備はできていた』収録の作品群を精読し、江國作品の諸問題を考える。②小説の読みについて、しっかりと議論ができるようにする。

授業の概要

第1回から第3回、第14回、第15回を除き、基本的には受講生による口頭でのグループ発表(全体の人数によっては個人になる場合がある)とグループディスカッション、質疑応答によって授業を展開する。発表者以外の受講生には、毎回の授業終了時にコメント用紙の提出を求める。

準備学習(予習・復習)

授業までに発表で扱われる作品を十分に読み込み、自分なりに問題点を発見し、疑問点を整理しておく(予習)。自分の発表が終わったら質疑応答やコメント用紙を参考にしつつ、発表の反省を行い、さらに作品の読みを深め、レポートに備える(復習)。

内 容

- 第1回 ガイダンス(グループと発表スケジュールの決定)
- 第2回 発表方法の説明
- 第3回 発表のための諸ツールの紹介
- 第4回 発表①「前進、もしくは前進のように思われるもの」
- 第5回 発表②「じゃこじゃこのビスケット」
- 第6回 発表③「熱帯夜」
- 第7回 発表④「煙草配りガール」
- 第8回 発表⑤「溝」
- 第9回 発表⑥「こまつま」
- 第10回 発表⑦「洋一も来られればよかったのにね」
- 第11回 発表⑧「住宅地」
- 第12回 発表⑨「どこでもない場所」
- 第13回 発表⑩「手」
- 第14回 まとめとレポート指導(発表予備日)
- 第15回 レポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。グループディスカッションや質疑応答には積極的に参加し、受講生自身の手で授業を活性化できるようにしてほしい。口頭発表を行うこと(グループの場合は自分の担当した作業を明確に説明できること)を単位認定の条件とする。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限りて公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

号泣する準備はできていた(新潮文庫版)

著者: 江國香織

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (15%)

自分の発表に関する期末レポートを試験とする(内容と形式については授業中に説明する)。口頭発表もレポートも、形式(の順守)、説得力、オリジナリティを重視する。グループディスカッションと質疑応答の成果を踏まえたコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、説得力のある批判、妥当で新鮮な指摘を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ アニメーションの読解	
授業の到達目標 アニメーションの技法や語法を理解するための知識、アニメーション・リテラシーの修得をめざす。オタク的知識の蓄積を目指す授業ではないので、注意してほしい。	
授業の概要 様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等で変更することがある。	
準備学習(予習・復習) 普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。	
内 容 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か 第2回 アニメーションの種類 第3回 アニメーションの制作過程(1) プリプロダクション 第4回 アニメーションの制作過程(2) ポストプロダクション 第5回 絵コンテの読み方 第6回 アニメーターのおかれた現状 第7回 キャラクター(1) 記号論 第8回 キャラクター(2) データベース消費 第9回 (進度調整) 第10回 動き(1) フルアニメーションとリミテッド・アニメ 第11回 動き(2) 映像の原則 第12回 音響 第13回 ストーリーと脚本(1) 原作と映像 第14回 ストーリーと脚本(2) 文学とアニメーション 第15回 まとめ	
履修上の注意点 講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。毎回、授業中課題を課すので、欠席する毎に課題点が0点となる。授業にはきちんと参加し、課題に取り組むこと。※日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)も受講することが望ましい。	

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アニメーション学入門(平凡社新書)

著者: 津堅信之

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN: 978-4582852912

映像の原則 改訂版

著者: 富野由悠季

出版社: キネマ旬報社

出版年: 2011

ISBN: 978-4873767369

アニメーションの事典

著者： 横田正夫、池田宏、小出正志

出版社： 朝倉書店

出版年： 2012

ISBN: 978-4254680218

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

戦争とアニメーション

授業の到達目標

アニメーションは、「戦争」「戦闘」「暴力」を描き続けてきたメディアである。本講義では、様々なアニメーション作品の分析を通して、我々を取り巻く「戦争」について考察することを目的とする。

授業の概要

「戦争とアニメーション」をテーマに、具体的な作品を取り上げながら、アニメーション批評の方法を講義する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

準備学習(予習・復習)

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 戦前のアニメーション〈1〉日本のアニメーション、三人の創始者

第3回 戦前のアニメーション〈2〉『煙突屋ペロー』

第4回 戦中のアニメーション〈1〉『海の神兵』の鑑賞

第5回 戦中のアニメーション〈2〉『海の神兵』の解説

第6回 戦後のアニメーション

第7回 富野由悠季〈1〉70-80年代のアニメーション—『機動戦士ガンダム』

第8回 富野由悠季〈2〉富野由悠季の描いた「戦争」

第9回 (進度調整)

第10回 押井守〈1〉90年代前半のアニメーション—『機動警察パトレイバー2 the movie』

第11回 押井守〈2〉押井守の描いた「戦争」

第12回 庵野秀明〈1〉90年代後半のアニメーション—『新世紀エヴァンゲリオン』

第13回 庵野秀明〈2〉庵野秀明の描いた「戦争」

第14回 ゼロ年代のアニメーション

第15回 まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。毎回、授業中課題を課すので、欠席する毎に課題点が0点となる。授業にはきちんと参加し、課題に取り組むこと。※日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)を受講し、基本的なアニメーション・リテラシーを身につけていることが望ましい。

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

紅のメタルスーツ—アニメという戦場

著者: 上野俊哉

出版社: 紀伊國屋書店

出版年: 1998

ISBN: 978-4314008341

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読o(映像表現研究) <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク(プレゼンテーション・ディスカッション)を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等に変更することがある。

準備学習(予習・復習)

指定されたテキスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、グループ決め
 第2回 映像リテラシーの基礎<1>
 第3回 映像リテラシーの基礎<2>
 第4回 杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
 第5回 杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
 第6回 近藤喜文『耳をすませば』
 第7回 近藤喜文『耳をすませば』
 第8回 原恵一『カラフル』
 第9回 原恵一『カラフル』
 第10回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』
 第11回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』
 第12回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』
 第13回 高畑勲『かぐや姫の物語』
 第14回 高畑勲『かぐや姫の物語』
 第15回 まとめ

履修上の注意点

第1回目の講義時にグループ決めを行うので、欠席しないこと。講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

耳をすませば

著者: 柊あおい

出版社: 集英社

出版年: 2005

ISBN: 978-4086183383

カラフル

著者: 森絵都

出版社: 文藝春秋

出版年: 2007

ISBN: 978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ

著者: 一之瀬六樹

出版社: 京都アニメーション

出版年: 2014

ISBN: 978-4907064228

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

各作品ごとに、課題シート(あるいは小レポート)の提出を求める(80%)。担当作品に関する意見発表を求める(20%)。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読p(文芸創作実習) <Z>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 重松 恵美・野村 幸一郎

テーマ

言葉あそびから小説作成まで

授業の到達目標

文芸作品を作り出す「技術」について考えながら習得する。

授業の概要

絵本、童話、ライトノベル、現代小説、俳句など、様々なスタイルの文芸作品の特徴について考察し、議論しながら受講生各自が毎週の創作課題に取り組む。制作後は作品回覧と意見交換を行い、作品集を作る。

準備学習(予習・復習)

授業時間のみで「創作」活動を行うのは難しいため、常に課題を先取りして、翌週以降の課題についても日々構想を練っておくこと。

内 容

- 第1回 語感を磨く:「あいうえおちゃん」作成と、作品回覧
- 第2回 構成を考える:ミニミニ絵本作成と、作品回覧
- 第3回 俳句:秋の句会
- 第4回 童話を書く:「おぼけ」「魔女」「どろぼう」
- 第5回 ライトノベルを書く:キャラクター作成
- 第6回 ライトノベルを書く:「〇〇が禁止されている町(国)」
- 第7回 ライトノベルを書く:「〇〇から来た少女(少年)」
- 第8回 作品集を作る(作品回覧と意見交換)
- 第9回 俳句:冬の句会
- 第10回 現代小説を書く:連作、共作
- 第11回 現代小説を書く:「店員と客」「プレゼント」
- 第12回 現代小説を書く:「出会ってはいけない二人」「小さなトラブル」
- 第13回 作品集を作る(作品回覧と意見交換)
- 第14回 特別講義
- 第15回 特別講義

履修上の注意点

童話、ライトノベル、現代小説の回はパソコン教室を使用予定であり、その他にも課題に応じて教室移動の可能性があるので、教室変更の連絡には十分に注意すること。

教科書

俳句ハンドブック

著者: 『俳句』編集部編

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 書論・鑑賞Ⅰ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論を読みながら鑑賞を一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国書道の様式と文章内容の関係を理解する。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関して論じられている書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習(予習・復習)

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 龍門造像記「一佛造像記」等を読む。

第3回 龍門造像記「牛ケツ(木偏に厥)造像記」等を読む。

第4回 龍門造像記に関する書論を読む。

第5回 龍門造像記の様々な拓本を鑑賞する。

第6回 蘭亭序「永和九年～信可樂也」を読む。

第7回 蘭亭序「夫人之相與～有感於斯文」を読む。

第8回 蘭亭序に関する書論を読む。

第9回 蘭亭序の様々な法帖を鑑賞する。

第10回 祭姪文稿「維乾元元年～亦在平原」を読む。

第11回 祭姪文稿「仁兄愛我～尚饗」を読む。

第12回 祭伯文稿「祭伯父～身陷賊庭」を読む。

第13回 祭伯文稿「聖朝哀栄～尚饗」を読む。

第14回 祭姪・祭伯文稿に関する書論を読む。

第15回 祭姪・祭伯文稿の様々な法帖を鑑賞する。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 書論・鑑賞Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論も読み、鑑賞をより一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国・日本書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国・日本書道の様式と文章内容の関係を理解する。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関する書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習(予習・復習)

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 十七帖「逸民帖」等を読む。

第3回 十七帖「遊目帖」等を読む。

第4回 十七帖に関する書論を読む。

第5回 十七帖の様々な法帖を鑑賞する。

第6回 蘭亭十三跋「一跋～六跋」を読む。

第7回 蘭亭十三跋「七跋～十三跋」を読む。

第8回 蘭亭十三跋等の趙孟頫(兆頁)の書を鑑賞する。

第9回 風信帖「風信帖」を読む。

第10回 風信帖「忽披帖・忽恵帖」を読む。

第11回 風信帖に関する書論を読む。

第12回 風信帖等の空海の書を鑑賞する。

第13回 離洛帖を読む。

第14回 離洛帖に関する書論を読む。

第15回 離洛帖等の藤原佐理の書を鑑賞する。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 中国書道史

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 池田 利広

テーマ

中国書道史:漢字の生成から民国までの文字や書法の歴史について通観する。

授業の到達目標

中国における書体の生成を視覚的に確認し、その動的なありようを理解する。また各時代の代表的名品や能書に関する基本的知識を身につけるとともに、それらの表現上の特色を知る。さらに唐代から民国にいたる王羲之書法受容や書風編成の実態を考察する。

授業の概要

中国における漢字各書体の生成を概観した後、王羲之とその時代、書法の特徴、後代への影響について検討する。続いて隋唐における楷書の典型の確立や代表的能書から、民国期までの能書や作品について考察する。講義を中心に進めるが、個人発表、グループ討議、鑑賞メモなどを通じて主体的な参加をうながす。

準備学習(予習・復習)

中国書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や作品に関する知識を積極的に身につけてほしい。また図版資料によって古典の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション漢字の成り立ちについて(『説文解字』から)
- 第2回 殷・周・春秋戦国の文字について
- 第3回 秦・漢の文字について(肉筆資料を中心に)
- 第4回 秦・漢の文字について(金石資料を中心に)
- 第5回 三国・晋・東晋の書について
- 第6回 王羲之の書について
- 第7回 南北朝の書について
- 第8回 隋・唐・五代の書について(楷書を中心に)
- 第9回 隋・唐・五代の書について(行草書を中心に)
- 第10回 宋・金・元の書について(宋の三大家を中心に)
- 第11回 宋・金・元の書について(趙孟フを中心に)
- 第12回 明の書について
- 第13回 明末清初の書について
- 第14回 清の書について
- 第15回 中華民国の書について(まとめ)

履修上の注意点

教科書

中国書道史

著者: 角井 博

出版社: 芸術新聞社

出版年:

ISBN: 9784875861652

参考書

書の文化史 上・中・下

著者: 西林昭一

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

中国書法ガイド 1-60

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

レポート試験、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断し評価する。

2015 Syllabus

科目名 日本書道史

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定

担当者 中村 史朗

テーマ

日本書道史-仮名・上代様の成立を中心に-

授業の到達目標

漢字渡来から仮名の成立までのながれを視覚的に確認する。特に女手の成立までの過程を正確に把握する。また上代様の基本的な知識を修得し、技法上の特色を相互に比較しながら理解する。さらに本阿弥光悦ら寛永期の代表的能書が上代様をどのように吸収し、新表現につなげたかを理解する。

授業の概要

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)の成立について考察する。さらに寛永の三筆や唐様の書を例に取り、近世の京都における独自の書展開にも言及する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 古代日本の文字資料
- 第2回 飛鳥・白鳳時代の書
- 第3回 奈良時代の書①
- 第4回 奈良時代の書②
- 第5回 平安時代の漢字書① 弘仁・貞観期の文化、三筆の書(1)
- 第6回 平安時代の漢字書② 三筆の書(2)
- 第7回 平安時代の漢字書③ 国風文化の発達、三跡の書(1)
- 第8回 平安時代の漢字書④ 三跡の書(2)
- 第9回 仮名の生成と発展①
- 第10回 仮名の生成と発展②
- 第11回 上代様の名品とその書法①
- 第12回 上代様の名品とその書法②
- 第13回 寛永の三筆① 王朝美の再現
- 第14回 寛永の三筆② 本阿弥光悦の人と書
- 第15回 寛永の三筆③ 近衛信尹と松花堂昭乗の人と書、まとめ

履修上の注意点

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古筆の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

教科書

日本書道史年表

著者: 名兎耶明

出版社: 二玄社

出版年: 1999

ISBN:

参考書

展望日本書道史

著者: 小松茂美

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

古筆

著者: 小松茂美

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (25)

小テスト (25)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 V <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学にみる京都

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 京都のイメージがどのように形作られているかを考える。3, 京都の文化や伝統について関心を深める。

授業の概要

古典から現代までの京都を舞台にした文学作品を読み、京都らしい風物や事柄を取り出して、京都を語る際の切り口を考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

第1回 授業の進め方について説明し、取り上げる作品とグループを決める。

第2回 受講生の抱いている京都のイメージを語り合う。

第3回 学外見学(京都文化博物館などを予定)

第4回 学外見学(同)

第5回 グループによる作品についての発表①

第6回 発表に対する質疑応答と意見交換

第7回 発表②

第8回 意見交換

第9回 発表③

第10回 意見交換

第11回 発表④

第12回 意見交換

第13回 発表⑤

第14回 意見交換

第15回 まとめ

履修上の注意点

見学の日時と場所は授業が始まってから連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には、出席点のほかに平常点を含みます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅴ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 辻本 千鶴	
テーマ 聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。	
授業の到達目標 「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。	
授業の概要 受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ガイダンスとグループ分け 第2回 ガイダンスとグループ分け 第3回 講演CDを聞く 第4回 講演CDを聞く グループワーク 第5回 講演CDを聞く 発表 第6回 講演CDを聞く まとめ 第7回 小説の朗読を聞く 第8回 小説の朗読を聞く グループワーク 第9回 小説の朗読 黙読との比較 発表 第10回 小説の朗読 まとめ 第11回 総合演習 その1 解説/個人で小レポート 第12回 総合演習 その1 グループワーク 第13回 総合演習 その1 発表 第14回 総合演習 まとめ 第15回 名文鑑賞 リズムや行間に耳を澄ます	
履修上の注意点	
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (40%) 参加度 (20%)	

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 V <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ(1)

授業の到達目標

日本語・英語・中国語の特徴を比較しながらが学んでいく

授業の概要

単に知識を習得するだけでなくグループで議論しながら理解を深めていく方法を学んでいく

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 名詞の教え方
- 第3回 動詞の使い方
- 第4回 「です」とbe動詞とは
- 第5回 SVO構文
- 第6回 SVOO構文
- 第7回 SVOC構文
- 第8回 否定文
- 第9回 疑問文
- 第10回 様態補語
- 第11回 時制
- 第12回 形容詞
- 第13回 疑問詞(1)
- 第14回 疑問詞(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは授業に参加したと認めない。積極的に議論に参加すること。病欠・忌引きを含めて3分の1以上、欠席した場合は単位を不認定とする。和英・日漢辞典を使うのでかならずタブレットを持参すること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 V <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
 第2回 タスク1 ビブリオバトル(1)ビブリオバトルへの導入
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(2)予備戦
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(3)予備戦
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦と振り返り
 第7回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(1)導入
 第8回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(2)吟行
 第9回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(3)短歌会形式による相互批評
 第10回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(4)短歌会形式による相互批評
 第11回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(5)歌合とは
 第12回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(6)歌合
 第13回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(7)歌合形式による相互批評
 第14回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(8)歌合形式による相互批評
 第15回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(9)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013

ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学作品にみる大阪、滋賀

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 郷土の文学や作家を知り、そこに描かれるものについて考える。3, 郷土の文化や伝統について関心を深める。4, 意見をまとめ、説明する能力を身に付ける。

授業の概要

古典から現代までの大阪と滋賀を舞台にした文学作品を読み、地名や言葉、表現内容から、土地柄と文学の関係について考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

- 第1回 受講生の抱く大阪、滋賀のイメージについて語り合う
- 第2回 グループで担当作品を決める
- 第3回 学外研修
- 第4回 同上
- 第5回 作品についての発表①
- 第6回 発表に対する意見交換
- 第7回 発表②
- 第8回 意見交換
- 第9回 発表③
- 第10回 意見交換
- 第11回 発表④
- 第12回 意見交換
- 第13回 発表⑤
- 第14回 意見交換
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外研修の場所と時期については、授業で連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には出席点のほかに平常点も含まれます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 名文鑑賞 グループワーク
- 第2回 名文鑑賞 発表
- 第3回 名文鑑賞 まとめ
- 第4回 講演CDを聞く
- 第5回 講演CDを聞く グループワーク
- 第6回 講演CDを聞く 発表
- 第7回 講演CDを聞く まとめ
- 第8回 短歌鑑賞 解説
- 第9回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第10回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第11回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第12回 短歌鑑賞 発表
- 第13回 総合演習 その2
- 第14回 総合演習 その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ(2)

授業の到達目標

グループで学ぶ日本近代文学

授業の概要

単に作品を読解するだけでなくグループのメンバーで議論しながらひとつの作品イメージを作り上げていくことをめざす

準備学習(予習・復習)

授業内で指示

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 人物像の分析
- 第3回 ストーリーの分析
- 第4回 結末の分析
- 第5回 分析文の作り方(1)
- 第6回 分析文の作り方(2)
- 第7回 分析文の作り方(3)
- 第8回 受講生によるグループ発表(1)
- 第9回 受講生によるグループ発表(2)
- 第10回 受講生によるグループ発表(3)
- 第11回 受講生によるグループ発表(4)
- 第12回 受講生によるグループ発表(5)
- 第13回 受講生によるグループ発表(6)
- 第14回 先行論文の活用法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは授業に参加したことにならない。積極的に事業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席したときは単位を不認定とする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅵ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)群読への導入
- 第2回 タスク3 群読(2)和歌・短歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)和歌・短歌の群読
- 第4回 タスク3 群読(4)詩の群読
- 第5回 タスク3 群読(5)詩の群読
- 第6回 タスク3 群読(6)山科閑居の段の群読
- 第7回 タスク3 群読(7)山科閑居の段の群読
- 第8回 タスク3 群読(8)山科閑居の段の群読
- 第9回 タスク3 群読(9)群読の振り返り
- 第10回 タスク4 取材とプレゼンテーション(1)導入
- 第11回 タスク4 取材とプレゼンテーション(2)準備
- 第12回 タスク4 取材とプレゼンテーション(3)学外授業
- 第13回 タスク4 取材とプレゼンテーション(4)学外授業
- 第14回 タスク4 取材とプレゼンテーション(5)プレゼンテーション
- 第15回 タスク4 取材とプレゼンテーション(6)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ <a>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 ガイダンスとグループ分け
- 第3回 講演CDを聞く
- 第4回 講演CDを聞く グループワーク
- 第5回 講演CDを聞く 発表
- 第6回 講演CDを聞く まとめ
- 第7回 小説の朗読を聞く
- 第8回 小説の朗読を聞く グループワーク
- 第9回 小説の朗読 黙読との比較 発表
- 第10回 小説の朗読 まとめ
- 第11回 総合演習 その1 解説/個人で小レポート
- 第12回 総合演習 その1 グループワーク
- 第13回 総合演習 その1 発表
- 第14回 総合演習 まとめ
- 第15回 名文鑑賞 リズムや行間に耳を澄ます

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論して学ぶ(1)

授業の到達目標

英語・中国語の比較から日本語の特徴を多角的に理解することを目標とするが、単に知識を習得するだけでなくみんなで議論しながら理解を深めていくことをめざす

授業の概要

1回の授業で1つのテーマを取り扱う。毎回、教員の解説30分→練習問題30分→復習20分→小テスト10分、の流れで授業を行う

準備学習(予習・復習)

授業内で指示

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 名詞の教え方
- 第3回 動詞の使い方
- 第4回 です・be動詞・是
- 第5回 SVO構文
- 第6回 SVOO構文
- 第7回 SVOC構文
- 第8回 疑問文
- 第9回 否定文
- 第10回 ある・be動詞・在
- 第11回 ある・there構文・有
- 第12回 時制
- 第13回 形容詞叙述
- 第14回 疑問詞・助動詞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとは認めない。授業に積極的に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。和英辞典・日中辞典のかわりに使用するのではなくタブレットを持参すること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
 第2回 タスク1 ビブリオバトル(1)ビブリオバトルへの導入
 第3回 タスク1 ビブリオバトル(2)予備戦
 第4回 タスク1 ビブリオバトル(3)予備戦
 第5回 タスク1 ビブリオバトル(4)本戦
 第6回 タスク1 ビブリオバトル(5)本戦と振り返り
 第7回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(1)導入
 第8回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(2)吟行
 第9回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(3)短歌会形式による相互批評
 第10回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(4)短歌会形式による相互批評
 第11回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(5)歌合とは
 第12回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(6)歌合
 第13回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(7)歌合形式による相互批評
 第14回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(8)歌合形式による相互批評
 第15回 タスク2 短歌によるコミュニケーション(9)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

短歌パラダイス

著者: 小林恭二

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4-00-430498-9

ビブリオバトル

著者: 谷口忠大

出版社: 文藝春秋

出版年: 2013

ISBN: 4-16-660901-7

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅶ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学にみる京都

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 京都のイメージがどのように形作られているかを考える。3, 京都の文化や伝統について関心を深める。

授業の概要

古典から現代までの京都を舞台にした文学作品を読み、京都らしい風物や事柄を取り出して、京都を語る際の切り口を考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

第1回 授業の進め方について説明し、取り上げる作品とグループを決める。

第2回 受講生の抱いている京都のイメージを語り合う。

第3回 学外見学(京都文化博物館などを予定)

第4回 学外見学(同)

第5回 グループによる作品についての発表①

第6回 発表に対する質疑応答と意見交換

第7回 発表②

第8回 意見交換

第9回 発表③

第10回 意見交換

第11回 発表④

第12回 意見交換

第13回 発表⑤

第14回 意見交換

第15回 まとめ

履修上の注意点

見学の日時と場所は授業が始まってから連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には、出席点のほかに平常点を含みます。

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

聴覚を働かせて言語表現を捉え、味わう。

授業の到達目標

「耳を澄ます」ことを中心に学習を展開する。聴覚を働かせて言語表現を捉え、総合的言語能力の向上を目標とする。

授業の概要

受講生によるワークショップや発表を中心に授業を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 名文鑑賞 グループワーク
- 第2回 名文鑑賞 発表
- 第3回 名文鑑賞 まとめ
- 第4回 講演CDを聞く
- 第5回 講演CDを聞く グループワーク
- 第6回 講演CDを聞く 発表
- 第7回 講演CDを聞く まとめ
- 第8回 短歌鑑賞 解説
- 第9回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第10回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第11回 短歌鑑賞 グループワーク
- 第12回 短歌鑑賞 発表
- 第13回 総合演習 その2
- 第14回 総合演習 その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

グループで議論しながら学ぶ(2)

授業の到達目標

グループで学ぶ日本近代文学

授業の概要

教員による作品読解とグループワークが授業の中心になる

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 人物像の分析
- 第3回 ストーリーの分析
- 第4回 結末の分析
- 第5回 参考文献の活用法
- 第6回 分析文の作り方(1)
- 第7回 分析文の作り方(2)
- 第8回 分析文の作り方(3)
- 第9回 受講生による発表(1)
- 第10回 受講生による発表(2)
- 第11回 受講生による発表(3)
- 第12回 受講生による発表(4)
- 第13回 受講生による発表(5)
- 第14回 受講生による発表(6)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとは認めない。積極的に議論に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1)相互批評性を身につける。2)テキストのフレージングを意識化することができる。3)グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であると同時に、文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業中の指示に従って、タスクの準備をすること。

内 容

- 第1回 タスク3 群読(1)群読への導入
- 第2回 タスク3 群読(2)和歌・短歌の群読
- 第3回 タスク3 群読(3)和歌・短歌の群読
- 第4回 タスク3 群読(4)詩の群読
- 第5回 タスク3 群読(5)詩の群読
- 第6回 タスク3 群読(6)山科閑居の段の群読
- 第7回 タスク3 群読(7)山科閑居の段の群読
- 第8回 タスク3 群読(8)山科閑居の段の群読
- 第9回 タスク3 群読(9)群読の振り返り
- 第10回 タスク4 取材とプレゼンテーション(1)導入
- 第11回 タスク4 取材とプレゼンテーション(2)準備
- 第12回 タスク4 取材とプレゼンテーション(3)学外授業
- 第13回 タスク4 取材とプレゼンテーション(4)学外授業
- 第14回 タスク4 取材とプレゼンテーション(5)プレゼンテーション
- 第15回 タスク4 取材とプレゼンテーション(6)振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅷ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学作品にみる大阪、滋賀

授業の到達目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 郷土の文学や作家を知り、そこに描かれるものについて考える。3, 郷土の文化や伝統について関心を深める。4, 意見をまとめ、説明する能力を身に付ける。

授業の概要

古典から現代までの大阪と滋賀を舞台にした文学作品を読み、地名や言葉、表現内容から、土地柄と文学の関係について考える。

準備学習(予習・復習)

課題に選んだ本を、早めに入手して読んでおく。グループで十分な打ち合わせをする。

内 容

- 第1回 受講生の抱く大阪、滋賀のイメージについて語り合う
- 第2回 グループで担当作品を決める
- 第3回 学外研修
- 第4回 同上
- 第5回 作品についての発表①
- 第6回 発表に対する意見交換
- 第7回 発表②
- 第8回 意見交換
- 第9回 発表③
- 第10回 意見交換
- 第11回 発表④
- 第12回 意見交換
- 第13回 発表⑤
- 第14回 意見交換
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

学外研修の場所と時期については、授業で連絡します

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参加度には出席点のほかに平常点も含まれます。

2015 Syllabus

科目名 日本語学講義 I (日本語文法)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

日本語の法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考える。授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習(予習・復習)

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりとして下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内 容

- 第1回 品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
- 第2回 活用:「来られる」と「来れる」
- 第3回 文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
- 第4回 格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
- 第5回 副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」?
- 第6回 接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
- 第7回 連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
- 第8回 受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
- 第9回 文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
- 第10回 認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
- 第11回 文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
- 第12回 補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
- 第13回 敬語:「お読みになる」と「お読みする」
- 第14回 文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国語教師が知っておきたい日本語文法

著者: 山田敏弘

出版社: くろしお出版

出版年: 2004

ISBN: 978-4874243107

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語学講義Ⅱ(日本語文法)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中俣 尚己

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し、日本語の使用実態を調査する方法を身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行う。

準備学習(予習・復習)

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内 容

- 第1回 ガイダンス、Googleの賢い使い方
- 第2回 コーパスとは何か、「少納言」の体験
- 第3回 コロケーションとは何か、「NINJAL-LWP」の体験
- 第4回 カイ自乗検定
- 第5回 参加者による発表
- 第6回 参加者による発表
- 第7回 参加者による発表
- 第8回 参加者による発表
- 第9回 参加者による発表
- 第10回 参加者による発表
- 第11回 参加者による発表
- 第12回 参加者による発表
- 第13回 参加者による発表
- 第14回 参加者による発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究

著者： 荻野綱雄

出版社： 朝倉書店

出版年： 2014

ISBN: 978-4254510447

成績評価

試験 ()

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

2015 Syllabus

科目名 日本語学講義Ⅲ(社会言語学)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

ことばの変化と社会の相関(日本の諸方言を中心に)

授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、これまでの研究の潮流を確認し、今後の展開や可能性について検討したい。

授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法及び音声・音韻の変化について詳細に確認する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深め小テスト・レポートを作成すること。

内 容

第14回 音声音韻の変化のまとめ(小テスト:レポート)

第15回 社会言語学のまとめ

第1回 社会言語学とは

第2回 日本の社会言語学とその研究分野

第3回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)1(現象の分析)

第4回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)2(通時的側面)

第5回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)3(共時的側面)

第6回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)4(方言からみる変化の実態)

第7回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)5(属性からみる変化の実態)

第8回 ら抜き言葉のまとめ(小テスト:レポート)

第9回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)1(音声学概説)

第10回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)2(音声学概説)

第11回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)3(現象の分析)

第12回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)4(共時的側面・通時的側面)

第13回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)5(変化の実態)

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語ウォッチング

著者: 井上史雄

出版社: 岩波新書

出版年: 1998

ISBN: 4-00-430540-3

参考書

社会言語学

著者: 真田信治・渋谷勝己他

出版社: 桜楓社

出版年: 1992

ISBN: 4273026023

関西方言の社会言語学

著者: 徳川宗賢・真田信治編

出版社: 世界思想社

出版年: 1995

ISBN: 4790705501

応用社会言語学を学ぶ人のために

著者: ダニエル・ロング他

出版社: 世界思想社

出版年: 2001

ISBN: 4790708993

関西・ことばの動態

著者： 真田信治

出版社： 大阪大学出版会

出版年： 2001

ISBN: 4872591097

社会言語学の展望

著者： 真田信治編

出版社： くろしお出版

出版年： 2006

ISBN: 4874243452

改訂版社会言語学図集

著者： 真田信治他編

出版社： 秋山出版

出版年： 2010

ISBN: 9784870236165

方言学

著者： 真田信治編著

出版社： 朝倉書店

出版年： 2011

ISBN: 9784254515244

都市と周縁のことば

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2013

ISBN: 9784757606661

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (40)

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語学講義Ⅳ(日本語史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し、授業で述べた内容をより深く考察すること。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス)総説1(日本語の範囲・記述対象)
- 第2回 総説2(時代区分・資料・言語変化のメカニズム)
- 第3回 音韻史1(上代を中心に1)
- 第4回 音韻史2(上代を中心に2)
- 第5回 音韻史3(上代以降の状況)
- 第6回 音韻史4(上代以降の状況)
- 第7回 文字史1(漢字の伝来)
- 第8回 文字史2(万葉仮名)
- 第9回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
- 第10回 文字史4(片仮名の成立とその使用)まとめと小テスト
- 第11回 語彙史1(和語を中心に)
- 第12回 語彙史2(漢語と外来語)
- 第13回 文法史1(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
- 第14回 文法史2(中世から現代の変化 活用形の変化を中心に)
- 第15回 文法史3 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 425451522-0

参考書

日本語史要説

著者: 渡辺実

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4000260111

日本語の歴史

著者: 山口明穂他

出版社: 東京大学出版会

出版年: 1997

ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN: 4582765955

概説日本語の歴史

著者： 佐藤武義

出版社： 朝倉書店

出版年： 1995

ISBN: 4254510195

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (40)

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 古典文学講義 I (平安)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の栄華ー

授業の到達目標

平安時代文学の代表作品であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
 第2回 光源氏の恋ー桐壺の巻ー
 第3回 雨夜の品定めー帚木・空蟬の巻ー
 第4回 夕顔物語ー夕顔の巻ー
 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通ー若紫の巻ー
 第6回 青海波の舞ー紅葉賀の巻ー
 第7回 朧月夜の恋ー花宴の巻ー
 第8回 車の所争いー葵の巻ー(現地学習を別に設定する)
 第9回 六条御息所との別れー賢木の巻ー(現地学習を別に設定する)
 第10回 橘の花散る里ー花散里の巻ー
 第11回 須磨の秋ー須磨の巻ー
 第12回 明石の君との出会いー明石の巻ー
 第13回 復活する光源氏ー瀧標の巻ー
 第14回 明石の君の嵯峨野ー松風の巻ー
 第15回 光源氏の青春の終焉ー薄雲の巻ー ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 古典文学講義Ⅱ(平安)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まりー

授業の到達目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 夕霧の元服と六条院の造成ー少女ー
- 第2回 玉鬘物語ー玉鬘十帖の巻々ー
- 第3回 光源氏の人生の頂点ー藤裏葉ー(現地学習を別に設定する)
- 第4回 女三の宮の降嫁ー若菜上①ー
- 第5回 明石の入道の思いー若菜上②ー
- 第6回 六条院の蹴鞠ー若菜上③ー
- 第7回 二度目の住吉詣でー若菜下①ー
- 第8回 紫の上の孤独ー若菜下②ー
- 第9回 柏木と女三の宮の密通ー若菜下③ー
- 第10回 柏木の死と薫の誕生ー柏木ー
- 第11回 形見の笛ー横笛ー
- 第12回 出家した女三の宮ー鈴虫ー
- 第13回 夕霧の恋ー夕霧ー
- 第14回 紫の上との別れー御法ー
- 第15回 哀悼の一年ー幻ー

履修上の注意点

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語各種注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 古典文学講義Ⅲ(中近世)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

浄瑠璃の神と宇宙

授業の到達目標

作品を通して江戸時代の信仰と文芸の関わりについて学び、現代人の心のあり方についても考える機会を増やす。

授業の概要

江戸時代の人々は、神仏と宇宙と人の関係をどのようにとらえていたのか。手がかりとなる古浄瑠璃を読解し、元になった御伽草子や伝承について調べ、なぜそのような作品が生まれたかを考える。

準備学習(予習・復習)

予習／事前に配布するプリント(本文)を読み、言葉の意味を調べておくこと。復習／授業を踏まえて問題意識を育むこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方、参考文献等について
- 第2回 『酒吞童子』を読む
- 第3回 『酒吞童子』の神・仏・人
- 第4回 金平浄瑠璃を読む
- 第5回 金平浄瑠璃の神と王法
- 第6回 『日本王代記』を読む
- 第7回 『日本王代記』と記紀神話
- 第8回 『暦』を読む
- 第9回 暦と神道
- 第10回 『信太妻』を読む
- 第11回 安倍晴明伝説と暦
- 第12回 『天狗の内裏』を読む
- 第13回 鞍馬山の義経伝説
- 第14回 『祇園の御本地』を読む
- 第15回 祇園の縁起と祭礼

履修上の注意点

あらすじではなく、作品を自分で読むことが大切です。／授業の1回分を、授業と関連する見学に代えることがあります。

教科書

異界と日本人

著者： 小松和彦

出版社： 角川選書

出版年： 2003

ISBN:

御伽草子集

著者： 大島建彦

出版社： 小学館

出版年： 1974

ISBN:

酒吞童子の誕生

著者： 高橋昌明

出版社： 中公新書

出版年： 1991

ISBN:

説経節

著者： 荒木繁、山本吉左右

出版社： 東洋文庫

出版年： 1973

ISBN:

金平浄瑠璃正本集1～3

著者： 室木弥太郎

出版社： 角川書店

出版年： 1966

ISBN:

古浄瑠璃正本集加賀掾編2

著者： 古浄瑠璃正本集刊行会

出版社： 大学堂書店

出版年： 1995

ISBN:

和の国？武の国？神の国！？—江戸から見る日本人の自意識の変容—

著者： 法政大学国際日本学研究所

出版社： 笠間書院

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

授業中課題は発表に代える場合があります。

2015 Syllabus

科目名 古典文学講義Ⅳ(中近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

授業の到達目標

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

授業の概要

少しずつ読み進めながら、受講者に「私の読み方＝発見(八犬)伝」を披露していただきます。

準備学習(予習・復習)

教科書は全巻が収載されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

内 容

- 第1回 八犬伝の享受について
- 第2回 八房と伏姫
- 第3回 信乃と額蔵
- 第4回 芳流閣
- 第5回 犬士見八と小文吾
- 第6回 玉の由来
- 第7回 五犬士集結
- 第8回 一角と妖怪
- 第9回 莊介、小文吾
- 第10回 毛野の仇討ち
- 第11回 犬江親兵衛の活躍
- 第12回 八犬士集結
- 第13回 連合軍結成
- 第14回 国府台、洲崎の戦い
- 第15回 大団円

履修上の注意点

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝』

著者： 石川博編

出版社： 角川学芸出版

出版年： 2007

ISBN： 978404357422

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者： 小池藤五郎校訂

出版社： 岩波書店

出版年： 1990

ISBN：

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者： 濱田啓介校訂

出版社： 新潮社

出版年： 2003-2004

ISBN：

ちくま学芸文庫『完本 八犬伝の世界』

著者： 高田 衛

出版社： 筑摩書房

出版年： 2005

ISBN： 448008940

復興する八犬伝

著者： 諏訪春雄、高田 衛

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

受講者数によっては、発表に代わってレポートの提出を求める場合があります。

2015 Syllabus

科目名 近現代文学講義 I

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者

テーマ

戦後の日本近代短篇小説を読みとく

授業の到達目標

昭和戦後期に発表された短篇小説に焦点を当て、各エピソードの持つ意味合いに留意し、作品世界のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の概要

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス —— 講義概要等の説明 ——
 第2回 近代文学を読み進めるポイント
 第3回 レジュメの作成、発表の方法についての指導。発表順の決定。
 第4回 石川淳「焼跡のイエス」
 第5回 原民喜「夏の花」
 第6回 野間宏「顔の中の赤い月」
 第7回 梅崎春夫「蜆」
 第8回 尾崎一雄「虫のいろいろ」
 第9回 武田泰淳「もの喰う女」
 第10回 永井龍男「胡桃割り」
 第11回 林芙美子「水仙」
 第12回 大岡昇平「出征」
 第13回 長谷川四郎「小さな礼拝堂」
 第14回 安部公房「プルートのわな」
 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習形式を取り入れるので、受講者の積極的な参加を求める。発表者に対しては積極的に質問を行うように。また、欠席5回以上の単位取得は認められないので注意するように。

教科書

日本近代短篇小説選 昭和篇2

著者： 紅野敏郎他編

出版社： 岩波書店(文庫)

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

「授業中課題」は討論で導き出したレポートの提出。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

2015 Syllabus

科目名 近現代文学講義Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

日本近代文学の名作を読む

授業の到達目標

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解する。近代小説の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の概要

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス —— 講義概要等の説明 ——
 第2回 近代文学を読み進めるポイント
 第3回 レジュメの作成、発表の方法についての指導。発表順の決定。
 第4回 夏目漱石「坊っちゃん」①
 第5回 夏目漱石「坊っちゃん」②
 第6回 森鷗外「雁」①
 第7回 森鷗外「雁」②
 第8回 芥川龍之介「地獄変」
 第9回 中島敦「山月記」①
 第10回 中島敦「山月記」②
 第11回 坂口安吾「桜の森の満開の下」①
 第12回 坂口安吾「桜の森の満開の下」②
 第13回 三島由紀夫「潮騒」①
 第14回 三島由紀夫「潮騒」②
 第15回 まとめ

履修上の注意点

演習形式を取り入れるので、受講者の積極的な参加を求める。発表者に対しては積極的に質問を行うように。また、欠席5回以上の単位取得は認められないので注意するように。

教科書

作品で読む20世紀の日本文学

著者：みぎわ書房編

出版社：白地社

出版年：2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

「授業中課題」は討論で導き出したレポートの提出。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

2015 Syllabus

科目名 近現代文学講義Ⅲ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

戦後の短篇小説を精読する。

授業の到達目標

①「戦後」(占領終了から1960年代)の短篇小説を精読し、戦後文学の諸問題を考える。②「戦後」の社会と文化を理解する。③小説の読みについて、しっかりとした議論ができるようにする。

授業の概要

第1回から第3回、第14回、第15回を除き、基本的には受講生による口頭でのグループ発表(全体の人数によっては個人発表になる場合がある)とグループディスカッション、質疑応答によって授業を展開する。発表者以外の受講生には、毎回の授業終了時にコメント用紙の提出を求める。

準備学習(予習・復習)

授業までに発表で扱われる作品を十分に読み込み、自分なりに問題点を発見し、疑問点を整理しておく(予習)。自分の発表が終わったら質疑応答やコメント用紙を参考にしつつ、発表の反省を行い、さらに作品の読みを深め、レポートに備える(復習)。

内 容

- 第5回 発表②吉行淳之介「驟雨」
 第6回 発表③幸田文「黒い裾」
 第7回 発表④庄野潤三「結婚」
 第8回 発表⑤中野重治「萩のもんかきや」
 第9回 発表⑥円地文子「二世の縁 拾遺」
 第10回 発表⑦富士正晴「帝国軍隊に於ける学習・序」
 第11回 発表⑧山川方夫「夏の葬列」
 第12回 発表⑨島尾敏雄「出発は遂に訪れず」
 第13回 発表⑩深沢七郎「無妙記」
 第14回 まとめとレポート指導(発表予備日)
 第15回 レポート指導
- 第1回 ガイダンス(グループと発表スケジュールの決定)
 第2回 発表方法の説明
 第3回 発表準備のためのツール紹介
 第4回 発表①小島信夫「小銃」

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。グループディスカッションや質疑応答には積極的に参加し、受講生自身の手で授業を活性化できるようにしてほしい。口頭発表を行うこと(グループの場合は自分の担当した作業を明確に説明できること)を単位認定の条件とする。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

日本近代短篇小説選 昭和篇3

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (15%)

自分の発表に関する期末レポートを試験とする(内容と形式については授業中に説明する)。口頭発表もレポートも、形式(の順守)、説得力、オリジナリティを重視する。グループディスカッションと質疑応答の成果を踏まえたコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、説得力のある批判、妥当で新鮮な指摘を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 近現代文学講義Ⅳ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

江國香織の短篇小説を精読する。

授業の到達目標

①江國香織の短篇集『号泣する準備はできていた』収録の作品群を精読し、江國作品の諸問題を考える。②小説の読みについて、しっかりとした議論ができるようにする。

授業の概要

第1回から第3回、第14回、第15回を除き、基本的には受講生による口頭でのグループ発表(全体の人数によっては個人になる場合がある)とグループディスカッション、質疑応答によって授業を展開する。発表者以外の受講生には、毎回の授業終了時にコメント用紙の提出を求める。

準備学習(予習・復習)

授業までに発表で扱われる作品を十分に読み込み、自分なりに問題点を発見し、疑問点を整理しておく(予習)。自分の発表が終わったら質疑応答やコメント用紙を参考にしつつ、発表の反省を行い、さらに作品の読みを深め、レポートに備える(復習)。

内 容

- 第1回 ガイダンス(グループと発表スケジュールの決定)
- 第2回 発表方法の説明
- 第3回 発表のための諸ツールの紹介
- 第4回 発表①「前進、もしくは前進のように思われるもの」
- 第5回 発表②「じゃこじゃこのビスケット」
- 第6回 発表③「熱帯夜」
- 第7回 発表④「煙草配りガール」
- 第8回 発表⑤「溝」
- 第9回 発表⑥「こまつま」
- 第10回 発表⑦「洋一も来られればよかったのにね」
- 第11回 発表⑧「住宅地」
- 第12回 発表⑨「どこでもない場所」
- 第13回 発表⑩「手」
- 第14回 まとめとレポート指導(発表予備日)
- 第15回 レポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。グループディスカッションや質疑応答には積極的に参加し、受講生自身の手で授業を活性化できるようにしてほしい。口頭発表を行うこと(グループの場合は自分の担当した作業を明確に説明できること)を単位認定の条件とする。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限りて公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

号泣する準備はできていた(新潮文庫版)

著者: 江國香織

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (15%)

自分の発表に関する期末レポートを試験とする(内容と形式については授業中に説明する)。口頭発表もレポートも、形式(の順守)、説得力、オリジナリティを重視する。グループディスカッションと質疑応答の成果を踏まえたコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、説得力のある批判、妥当で新鮮な指摘を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 映像文化演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ アニメーションの読解	
授業の到達目標 基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。	
授業の概要 アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク(プレゼンテーション・ディスカッション)を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等に変更することがある。	
準備学習(予習・復習) 指定されたテキスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。	
内 容 第1回 ガイダンス、グループ決め 第2回 映像リテラシーの基礎<1> 第3回 映像リテラシーの基礎<2> 第4回 杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』 第5回 杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』 第6回 近藤喜文『耳をすませば』 第7回 近藤喜文『耳をすませば』 第8回 原恵一『カラフル』 第9回 原恵一『カラフル』 第10回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』 第11回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』 第12回 山田尚子『映画けいおん!』『たまこラブストーリー』 第13回 高畑勲『かぐや姫の物語』 第14回 高畑勲『かぐや姫の物語』 第15回 まとめ	
履修上の注意点 第1回目の講義時にグループ決めを行うので、欠席しないこと。講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。	
教科書 耳をすませば 著者: 柊あおい 出版社: 集英社 出版年: 2005 ISBN: 978-4086183383 カラフル 著者: 森絵都 出版社: 文藝春秋 出版年: 2007 ISBN: 978-4167741013	
参考書 たまこラブストーリー ノベライズ 著者: 一之瀬六樹 出版社: 京都アニメーション 出版年: 2014 ISBN: 978-4907064228	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (80) 授業中発表等 (20) 参加度 ()	

各作品ごとに、課題シート(あるいは小レポート)の提出を求める(80%)。担当作品に関する意見発表を求める(20%)。

2015 Syllabus

科目名 文芸創作演習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 重松 恵美・野村 幸一郎

テーマ

言葉あそびから小説作成まで

授業の到達目標

文芸作品を作り出す「技術」について考えながら習得する。

授業の概要

絵本、童話、ライトノベル、現代小説、俳句など、様々なスタイルの文芸作品の特徴について考察し、議論しながら受講生各自が毎週の創作課題に取り組む。制作後は作品回覧と意見交換を行い、作品集を作る。

準備学習(予習・復習)

授業時間のみで「創作」活動を行うのは難しいため、常に課題を先取りして、翌週以降の課題についても日々構想を練っておくこと。

内 容

- 第1回 語感を磨く:「あいうえおちゃん」作成と、作品回覧
- 第2回 構成を考える:ミニミニ絵本作成と、作品回覧
- 第3回 俳句:秋の句会
- 第4回 童話を書く:「おぼけ」「魔女」「どろぼう」
- 第5回 ライトノベルを書く:キャラクター作成
- 第6回 ライトノベルを書く:「〇〇が禁止されている町(国)」
- 第7回 ライトノベルを書く:「〇〇から来た少女(少年)」
- 第8回 作品集を作る(作品回覧と意見交換)
- 第9回 俳句:冬の句会
- 第10回 現代小説を書く:連作、共作
- 第11回 現代小説を書く:「店員と客」「プレゼント」
- 第12回 現代小説を書く:「出会ってはいけない二人」「小さなトラブル」
- 第13回 作品集を作る(作品回覧と意見交換)
- 第14回 特別講義
- 第15回 特別講義

履修上の注意点

童話、ライトノベル、現代小説の回はパソコン教室を使用予定であり、その他にも課題に応じて教室移動の可能性があるので、教室変更の連絡には十分に注意すること。

教科書

俳句ハンドブック

著者: 『俳句』編集部編

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 アナウンス技術演習 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	荒尾 千春	
テーマ	聴き手の心を掴む表現を学ぶ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～	
授業の到達目標	社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術((プレゼン力)の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。	
授業の概要	アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聴く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。	
準備学習(予習・復習)	ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方</p> <p>第2回 表現力を向上させるために必要な事とは ～アナウンススキル+振る舞い、姿勢、戦略的な演出～</p> <p>第3回 発声・発音のトレーニング～①声の力を生かす ②発声のメカニズム ③メリハリの効いた発音～</p> <p>第4回 表現豊かな声のトレーニング ～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現 ②相手に伝わる話し方「物語を読む」～</p> <p>第5回 聴くスキル～会話(コミュニケーション)上手は聞き上手～</p> <p>第6回 話の組み立て方～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～</p> <p>第7回 わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは～3+1の要素～</p> <p>第8回 言葉の表現力を向上させるトレーニング～マンガラートに書き出し、事例集に～</p> <p>第9回 聴き手を惹きつける話の導入とクロージング</p> <p>第10回 効果的な自己紹介～ライフラインチャートで表現～</p> <p>第11回 自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける～端的に思いを伝える～</p> <p>第12回 緊張緩和の方法パワーポイントの効果的な使い方</p> <p>第13回 プレゼン大会①</p> <p>第14回 プレゼン大会②</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>	
履修上の注意点	毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートを提出すること	
教科書	未定	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト ()	
授業中課題 (50)	授業中発表等 (25)	
参加度 (25)		
授業後の「学びの小レポート」の提出も評価の対象にする		

2015 Syllabus

科目名 アナウンス技術演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 荒尾 千春	
テーマ	言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～
授業の到達目標	伝えるではなく、伝える話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力(プレゼン力)を総合的に向上させる事を目的とする。
授業の概要	アナウンス演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。
準備学習(予習・復習)	ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方</p> <p>第2回 表現力を向上させるために必要な事(アナウンス演習Ⅰの復習)～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聞き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～</p> <p>第3回 言葉の表現力を向上するトレーニング～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～</p> <p>第4回 語彙を広げ、共感が得られる表現とは～共通点を表現するトレーニング～</p> <p>第5回 テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く～観察力を高める必要性を知る～</p> <p>第6回 自分の意見を伝える～常に問題意識をもつ～</p> <p>第7回 ニュースを評論する～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～</p> <p>第8回 自分史をつくって、表現する～自分年表を作成し、振り返る～</p> <p>第9回 自分の価値観を表現する～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～</p> <p>第10回 プレゼンに必要な要素～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～</p> <p>第11回 思いを伝える効果的な道具</p> <p>第12回 プレゼン大会①+フィードバック</p> <p>第13回 プレゼン大会②+フィードバック</p> <p>第14回 プレゼン大会③+フィードバック</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>
履修上の注意点	アナウンス演習Ⅰも受講した方が望ましい。アナウンス演習Ⅰと合わせて受講すると効果的にコミュニケーション力とプレゼン力を学ぶことができる。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートを提出すること。
教科書	未定
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (50)	授業中発表等 (25)
参加度 (25)	
授業後の「学びの小レポート」の提出も評価の対象にする	

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <* a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定	希望制
担当者 福嶋 昭治		
テーマ 卒業論文のテーマの探求と確立		
授業の到達目標 平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。		
授業の概要 3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第1回 授業の進め方についてのガイダンス 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表 第3回 同上 第4回 同上 第5回 同上 第6回 同上 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際 第8回 同上 第9回 同上 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認		
履修上の注意点		
教科書 プリントを用意する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：		
参考書 授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：		
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (70) 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

4回生との合同授業のため、調整しながら進める。

準備学習(予習・復習)

作品を熟読する。図書館に足しげく通う。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 卒論で取り上げたい作品についての発表
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 文献を収集し、論文を読む
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には、授業への積極性やゼミの活性化に貢献する姿勢を含む

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <*c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定	希望制
担当者 辻本 千鶴		
テーマ 近現代文学研究(演習)		
授業の到達目標 作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。		
授業の概要 演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表二巡後は、近現代文学を素材に、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。		
準備学習(予習・復習) 自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。		
内 容 第1回 講義 作家論と作品論／卒業論文への取り組み方 第2回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「千代女」1 第3回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「千代女」2 第4回 学生発表 1 第5回 学生発表 2 第6回 学生発表 3 第7回 学生発表 4 第8回 学生発表 5 第9回 学生発表 6 第10回 学生発表 7 第11回 学生発表 8 第12回 学生発表 9 第13回 学生発表 10 第14回 ワーク・ショップ 第15回 まとめ		
履修上の注意点 研究発表の取り組みを重視します。自分で積極的にテーマを探し、見つけて下さい。		
教科書 (使用しない。) 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (40%) 授業中課題 () 参加度 (20%) 期末試験はレポート形式とする。発表の内容を論文にして、最終講義日に提出。	小テスト () 授業中発表等 (40%)	

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近代現代文学の研究

授業の到達目標

4回生から本格的に始まる卒業研究の前段階として、日本近代文学、現代文学の代表的な作品を読解し、自らの力で作品を解釈する力を身につける

授業の概要

受講生による発表が中心になる。

準備学習(予習・復習)

(1)発表準備(2)授業でとりあつかう作品についてはあらかじめ読んでおくこと。

内 容

- 第1回 概要説明
 第2回 日本近代文学の研究方法(1)登場人物の分析
 第3回 日本近代文学の研究方法(2)ストーリーの分析
 第4回 日本近代文学の研究方法(3)主題の確定
 第5回 日本近代文学の研究方法(4)先行論文の利用法
 第6回 受講生による発表 中島敦「山月記」
 第7回 受講生による発表 川端康成「雪国」
 第8回 受講生による発表 江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」
 第9回 受講生による発表 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
 第10回 受講生による発表 太宰治「人間失格」
 第11回 受講生による発表 坂口安吾「桜の森の満開の下」
 第12回 受講生による発表 村上春樹「羊をめぐる冒険」
 第13回 受講生による発表 よしもとばなな「キッチン」
 第14回 受講生による発表 伊坂幸太郎「魔王」
 第15回 受講生による発表 梨木香歩「西の魔女が死んだ」

履修上の注意点

出席カードを通すだけでは授業に参加したと見なさない。積極的に質疑応答に参加すること。病欠・忌引きを含め3分の1以上欠席した場合は、単位を不認定にする

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <*e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

授業の到達目標

1) 興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。2) 先行研究を読みこむことによって、論文を書くという作業の持つ意味を理解する。3) 自分の思いや考えを他の人に伝えるために必要な事項を修得する。

授業の概要

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかかり」を、卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

- 第1回 導入:卒論に向けての第一歩
- 第2回 論文とは何か?
- 第3回 テーマの候補についての報告(1)
- 第4回 テーマの候補についての報告(2)
- 第5回 テーマの候補についての報告(3)
- 第6回 テーマの候補についての報告(4)
- 第7回 仮テーマの決定と参考文献探索(1)
- 第8回 仮テーマの決定と参考文献探索(2)
- 第9回 仮テーマの決定と参考文献探索(3)
- 第10回 仮テーマの決定と参考文献探索(4)
- 第11回 先行研究紹介(1)
- 第12回 先行研究紹介(2)
- 第13回 先行研究紹介(3)
- 第14回 先行研究紹介(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <* a>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと クラス指定 希望制

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

卒業論文作成の準備

授業の概要

後期は4回生の発表を優先するので、3回生は先輩の報告に学びつつ、準備を進める。なお、授業の1回分を特別授業や学外研修に振り替えることがある。

準備学習(予習・復習)

作品の読みを深め、資料を収集する

内 容

- 第1回 夏休み中の作業について報告する
- 第2回 文献、資料検索、論文収集を進めつつ、読解を深める
- 第3回 同上
- 第4回 4回生の中間発表要旨を点検する
- 第5回 中間発表会に参加する(時期は未確定)
- 第6回 中間発表に対する講評を行う
- 第7回 作品分析を深め、テーマを固めてゆく
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 一年間の取り組みへの総括と今後の進め方についての確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には、授業への積極性や貢献度も含まれる

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <*c>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近現代文学研究(演習)

授業の到達目標

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

授業の概要

演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表二巡後は、近現代文学作品を取り上げ、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。

準備学習(予習・復習)

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス・参考文献の紹介・日程表作成
- 第2回 学生発表 1
- 第3回 学生発表 2
- 第4回 卒業論文中間発表会(日程は変更の可能性あり)
- 第5回 学生発表 3
- 第6回 学生発表 4
- 第7回 学生発表 5
- 第8回 学生発表 6
- 第9回 学生発表 7
- 第10回 学生発表 8
- 第11回 学生発表 9
- 第12回 学生発表 10
- 第13回 ワーク・ショップ
- 第14回 ワーク・ショップ
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

研究発表の取り組みを重視します。自分で積極的にテーマを探し、見つけて下さい。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

期末試験はレポート形式とする。発表内容を論文にまとめて、最終講義日に提出。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

テーマ

卒業研究の指導

授業の到達目標

4回生から本格的に始まる卒業研究にそなえて、テーマおよび研究のラフ・スケッチを確定させる。最終的には4000字程度のレポートを作成することを目標とする

授業の概要

受講生の発表が中心になる

準備学習(予習・復習)

発表の準備および課題の提出が中心になる。

内 容

第1回 概要の説明

第2回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第3回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第4回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第5回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第6回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第7回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第8回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第9回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第10回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第11回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第12回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第13回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第14回 卒業テーマ、および研究概要の発表

第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは授業に参加したとは認めない。議論に積極的に参加すること。病欠・忌引きを含め3分の1以上欠席した場合は単位を不認定とする

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ〈*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

授業の到達目標

1)卒業論文のテーマを確定する。2)みずからの設定したテーマにふさわしい方法論を探求する。

授業の概要

テーマが具体的にイメージできるようになったら、そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし、新しい工夫を盛り込む余地を探る。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

第1回 導入

第2回 テーマの確認と目標の設定(1)

第3回 テーマの確認と目標の設定(2)

第4回 テーマの確認と目標の設定(3)

第5回 テーマの確認と目標の設定(4)

第6回 第1次経過報告(1)

第7回 第1次経過報告(2)

第8回 第1次経過報告(3)

第9回 第1次経過報告(4)

第10回 日本語分析の方法

第11回 第2次経過報告(1)

第12回 第2次経過報告(2)

第13回 第2次経過報告(3)

第14回 第2次経過報告(4)

第15回 まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅴ〈a〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	尾西 正成	
テーマ	行・草書の書法の研究	
授業の到達目標	<p>行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。</p>	
授業の概要	<p>実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。</p>	
内 容	<p>第1回 行草書の表現 第2回 王羲之とその書法 第3回 集字聖教序の書法 第4回 集字聖教序の臨書(半紙) 第5回 集字聖教序の臨書(半紙) 第6回 集字聖教序の臨書(半切) 第7回 集字聖教序の臨書(半切) 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ 第9回 米?の書法 第10回 蜀素帖の書法 第11回 蜀素帖の臨書(半紙) 第12回 蜀素帖の臨書(半切) 第13回 ?溪詩卷他の臨書(半紙) 第14回 ?溪詩卷他の臨書(半切) 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>中国法書選16集字聖教序 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 中国法書選48米?集 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30)</p>	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅴ〈b〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	尾西 正成	
テーマ	行・草書の書法の研究	
授業の到達目標	<p>行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。</p>	
授業の概要	<p>実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。</p>	
内 容	<p>第1回 行草書の表現 第2回 王羲之とその書法 第3回 集字聖教序の書法 第4回 集字聖教序の臨書(半紙) 第5回 集字聖教序の臨書(半紙) 第6回 集字聖教序の臨書(半切) 第7回 集字聖教序の臨書(半切) 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ 第9回 米?の書法 第10回 蜀素帖の書法 第11回 蜀素帖の臨書(半紙) 第12回 蜀素帖の臨書(半切) 第13回 ?溪詩卷他の臨書(半紙) 第14回 ?溪詩卷他の臨書(半切) 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>中国法書選16集字聖教序 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 中国法書選48米?集 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30)</p>	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅵ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 尾西 正成		
テーマ 行草書の書法の研究		
授業の到達目標 自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。		
授業の概要 実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。		
準備学習(予習・復習) 家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。		
内 容 第1回 王羲之・十七帖の書法 第2回 十七帖の臨書(半紙) 第3回 十七帖の臨書(半紙) 第4回 十七帖の臨書(半切) 第5回 十七帖の臨書(半切)互評会 第6回 十七帖の倣書(半切) 第7回 十七帖の倣書(半切)互評会 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半紙) 第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半切) 第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半紙) 第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半切) 第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書3(様々な形式) 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切) 第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(様々な形式) 第15回 倣書作品の互評会・まとめ		
履修上の注意点		
教科書 中国法書選14十七帖 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (0) 小テスト () 授業中課題 (70) 授業中発表等 () 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅵ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 尾西 正成		
テーマ 行草書の書法の研究		
授業の到達目標 自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。		
授業の概要 実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。		
準備学習(予習・復習) 家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。		
内 容 第1回 王羲之・十七帖の書法 第2回 十七帖の臨書(半紙) 第3回 十七帖の臨書(半紙) 第4回 十七帖の臨書(半切) 第5回 十七帖の臨書(半切)互評会 第6回 十七帖の倣書(半切) 第7回 十七帖の倣書(半切)互評会 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半紙) 第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半切) 第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半紙) 第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半切) 第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書3(様々な形式) 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切) 第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(様々な形式) 第15回 倣書作品の互評会・まとめ		
履修上の注意点		
教科書 中国法書選14十七帖 著者: 出版社: 二玄社 出版年: 1990 ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (0) 小テスト () 授業中課題 (70) 授業中発表等 () 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅶ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした日本のかな書法の研究。	
授業の到達目標 多様なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。	
内 容 第1回 関戸本古今和歌集について 第2回 関戸本古今和歌集の技法について 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等) 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等) 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等) 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等) 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法) 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法) 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法) 第10回 関戸本古今和歌集の倣書① 第11回 関戸本古今和歌集の倣書② 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③ 第13回 創作への展開① 第14回 創作への展開② 第15回 創作への展開③	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選19「関戸本古今和歌集」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN： 日本名筆選13「継色紙」 著者： 出版社：二玄社 出版年： ISBN：	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業中課題には提出物とレポートを含む。	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅶ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 橋本 二三	
テーマ 臨書を中心とした日本のかな書法の研究。	
授業の到達目標 多様なかな書法の修得。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。	
内 容 第1回 関戸本古今和歌集について 第2回 関戸本古今和歌集の技法について 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等) 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等) 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等) 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等) 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法) 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法) 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法) 第10回 関戸本古今和歌集の倣書① 第11回 関戸本古今和歌集の倣書② 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③ 第13回 創作への展開① 第14回 創作への展開② 第15回 創作への展開③	
履修上の注意点	
教科書 日本名筆選13「継色紙」 著者: 出版社: 二玄社 出版年: ISBN: 日本名筆選19「関戸本古今和歌集」 著者: 出版社: 二玄社 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (80) 授業中発表等 (0) 参加度 (20) 授業中課題には提出物とレポートを含む。	

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅷ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)

第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)

第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)

第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)

第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)

第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)

第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

第14回 創作に向けて(帖・卷子について)

第15回 創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2015 Syllabus

科目名 書法Ⅷ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内 容

第1回 継色紙について

第2回 継色紙の技法について

第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)

第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)

第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)

第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)

第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)

第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)

第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)

第10回 継色紙の倣書①

第11回 継色紙の倣書②

第12回 継色紙の倣書③

第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

第14回 創作に向けて(帖・卷子について)

第15回 創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講a(日本語史Ⅰ)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習:参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し、授業で述べた内容をより深く考察すること。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス)総説1(日本語の範囲・記述対象)
- 第2回 総説2(時代区分・資料・言語変化のメカニズム)
- 第3回 音韻史1(上代を中心に1)
- 第4回 音韻史2(上代を中心に2)
- 第5回 音韻史3(上代以降の状況)
- 第6回 音韻史4(上代以降の状況)
- 第7回 文字史1(漢字の伝来)
- 第8回 文字史2(万葉仮名)
- 第9回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
- 第10回 文字史4(片仮名の成立とその使用)まとめと小テスト
- 第11回 語彙史1(和語を中心に)
- 第12回 語彙史2(漢語と外来語)
- 第13回 文法史1(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
- 第14回 文法史2(中世から現代の変化 活用形の変化を中心に)
- 第15回 文法史3 まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 425451522-0

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: 4254510195

日本語史要説

著者: 渡辺実

出版社: 岩波書店

出版年: 1997

ISBN: 4000260111

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN: 4582765955

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (40)

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講b(日本語史Ⅱ)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、基礎的内容をふまえて通時的に考察を深めたい。ここでは、「音図」の歴史や「いろは歌」成立までの状況をとりあげ、音韻史や文字史の実態にせまりたい。最後に、方言の歴史について確認し、日本語の歴史や古代日本語の実態について考えたい。

授業の概要

「五十音図」や「いろは歌」成立の動機や意義について、音韻史や文字史の視点から確認する。また、方言について歴史的にわかっている事実から古代日本語と現在の方言分布についての相関について考察する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習(予習・復習)

予習:受講前に配付プリントを翻刻し、授業に臨むこと。復習:参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し、授業で述べた内容をより深く考察すること。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス)
- 第2回 音図について(五十音図の成立)①
- 第3回 音図について(五十音図の成立)②
- 第4回 いろは歌について①
- 第5回 いろは歌について②
- 第6回 いろは歌について③
- 第7回 たみにの歌について①
- 第8回 たみにの歌について②
- 第9回 あめつちの詞について①
- 第10回 あめつちの詞について②
- 第11回 あめつちの詞について③
- 第12回 手習いと歌の父母・全体のまとめと小テスト
- 第13回 方言史(上代)
- 第14回 方言史(中古から中世)
- 第15回 方言史(近世)のまとめと小テスト(レポート)

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

適宜プリントを配付するが、前期のテキスト「参考書1」を持参することが望ましい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 4254515220

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: 4254510195

日本語史要説

著者： 渡辺実

出版社： 岩波書店

出版年： 1997

ISBN： 4000260111

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN： 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN： 4860642556

日本語の歴史 全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN： 4582765955

いろはうた

著者： 小松英雄

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2009

ISBN： 9784062919418

五十音図の話

著者： 馬淵和夫

出版社： 大修館書店

出版年： 1993

ISBN： 9784469220933

国語音韻論

著者： 馬淵和夫

出版社： 笠間書院

出版年： 1971

ISBN： 4305000180

国語学史

著者： 馬淵和夫・出雲朝子

出版社： 笠間書院

出版年： 2010

ISBN： 9784305603029

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講c(現代日本語研究 I)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 福田 雅子

テーマ

編集入門・・・DTP(机上出版)への第一歩

授業の到達目標

編集は出版界をはじめ多くのマルチメディアで必要とされる技術です。編集のプロを目指す人はもちろんですが、ビジネスの世界でも企画書・プレゼンテーション・社内報・PR誌・その他多くの社内文書と編集はさまざまな分野で必要とされています。ビジネスDTPの現場においても役立つ、検定試験「ビジネスDTP検定Ⅲ種」の合格レベルの知識とスキルの習得を目指します。

授業の概要

本講義は「ワード」による編集入門です。Windowsの世界で最も良く使用されるワープロソフト「Word」は、単に文章入力だけのソフトではありません。レイアウトとデザインによって商業印刷並の印刷物を作ることができます。年賀状からチラシ・パンフレット・企画書とその用途は幅広く、実践を通して基本的な編集感覚を、一步一步身に付けていきます。

準備学習(予習・復習)

受講前に、Wordの基本的な操作については復習しておきましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レイアウト作成の基本①
- 第3回 レイアウト作成の基本②
- 第4回 より正確なレイアウト作成①
- 第5回 より正確なレイアウト作成②
- 第6回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得①
- 第7回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得②
- 第8回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得③
- 第9回 より読みやすいレイアウトの作成
- 第10回 レイアウト作成のまとめ①
- 第11回 レイアウト作成のまとめ②
- 第12回 レイアウト作成の実践①
- 第13回 レイアウト作成の実践②
- 第14回 レイアウト作成の実践③
- 第15回 レイアウト作成の実践④

履修上の注意点

毎年定員を上回る登録がありますので、「積極的に授業に参加する意気込みのある方」の登録をお待ちしております。

教科書

Wordではじめるレイアウトデザイン Microsoft Word2010対応

著者:

出版社: ワークスコーポレーション

出版年: 2013年

ISBN: 9784862671462

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

積極的な授業への参加と、決められた課題の期限内提出が高評価に繋がります。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講d(現代日本語研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 福田 雅子

テーマ

プレゼンテーションの基礎 自己発言力と説得力の習得

授業の到達目標

プレゼンテーションとは「自分の思いを相手に伝え、理解・賛同してもらい、自分の欲する行動をとってもらふこと」であり、「相手が動いてくれて初めて、プレゼンテーションの成功」と言えます。そのためには、自分が発見した事実や自分の意見を、論理的に分かりやすく相手に伝え、聞き手の理解・納得をどう得るかというコミュニケーション技術が必要です。これは、社会人としてますます必要とされるスキルなのです。本講義では、コミュニケーション技法、プレゼンテーション技法の基礎を学び、実践を重ねる事で、そのスキルを身に付けます。プレゼンテーションツールであるパワーポイントの効果的なビジュアル表現についても習得します。

授業の概要

本講義では、プレゼンテーションの前提となる、コミュニケーション技術の習得に力点を置き、ディスカッションや発表を通して、「理解・賛同してもらえる表現力」を一步一步、身に付けていきます。最後の「プレゼンテーション実践」は、プレゼンテーションツールを効果的に使用して、身に付けたスキルを存分に活かした発表となります。

準備学習(予習・復習)

授業はグループワークでのディスカッションと発表を中心に進みます。普段から気持ちの良い挨拶を心がけ、学んだスキルを日常生活で意識して実践することで、着実にスキルを身に付けましょう。また、授業後半ではパワーポイントを利用しますので、基本的な操作について復習しておきましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーションコミュニケーション技法1(アプローチ①)
- 第2回 コミュニケーション技法2(アプローチ②)
- 第3回 コミュニケーション技法3(傾聴)
- 第4回 コミュニケーション技法4(伝達)
- 第5回 コミュニケーション技法5(傾聴&伝達)
- 第6回 プレゼンテーション演習1(箇条書き・ラベリング)
- 第7回 プレゼンテーション演習2(話の組み立て方①)
- 第8回 プレゼンテーション演習3(話の組み立て方②)
- 第9回 プレゼンテーション演習4(スピーチ発表と評価)
- 第10回 パワーポイントの基礎・復習(効果的なビジュアル表現)
- 第11回 パワーポイントの実践1(パワーポイント課題作成と評価)
- 第12回 パワーポイントの実践2(パワーポイント課題作成と評価)
- 第13回 プレゼンテーション実践1(プレゼンテーション発表の準備)
- 第14回 プレゼンテーション実践2(プレゼンテーション発表と評価①)
- 第15回 プレゼンテーション実践3(プレゼンテーション発表と評価②)

履修上の注意点

グループワーク中心の授業ですので、積極的な出席を心がけましょう。

教科書

授業内での配布資料有り

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

身近なテーマで作って学ぶ!学生のためのOffice2010&情報モラル

著者:

出版社: noa出版

出版年: noa出版

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

積極的な授業への取り組みと発表、決められた課題の期限内提出が高評価に繋がります。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講e(京都と文学)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都

授業の到達目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の概要

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。現地研修も授業時間以外に自由参加の形で行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 平安京という都
- 第2回 大内裏と内裏
- 第3回 源氏物語と内裏
- 第4回 光源氏の邸宅～二条の院と六条院
- 第5回 嵯峨野(現地学習を別に設定する)
- 第6回 比叡山
- 第7回 宇治(現地学習を別に設定する)
- 第8回 大原野
- 第9回 西山
- 第10回 小野
- 第11回 北山
- 第12回 逢坂の関と伊勢路
- 第13回 須磨・明石
- 第14回 紫式部の越前行
- 第15回 紫式部ゆかりの地

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて

著者: 加納重文

出版社: 宮帯出版

出版年: 2011

ISBN:

源氏物語の平安京

著者: 加納重文

出版社: 青簡舎

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講f(女性文学研究)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

女性と文学

授業の到達目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の概要

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第6回 源氏物語の文学論～螢の巻～
- 第7回 源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
- 第8回 源氏物語の空蟬の思い～帚木・空蟬の巻～
- 第9回 源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
- 第10回 和泉式部という人
- 第11回 和泉式部日記
- 第12回 更級日記の作者
- 第13回 更級日記
- 第14回 摂州合邦辻～武士の妻～
- 第15回 与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～
- 第1回 「文学について考える」ということ
- 第2回 蜻蛉日記の作者
- 第3回 蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
- 第4回 枕草子が生まれた歴史的背景
- 第5回 枕草子の文章

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講g(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅰ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

授業の到達目標

京都を代表する文化のひとつであり、世界遺産でもある歌舞伎の特色を知る。

授業の概要

以下を予定していますが、取り上げる作品を変更する場合があります。また、都合が合えば、授業の1回を南座ミュージアムまたは歌舞伎鑑賞教室の見学に振り替える予定です。

準備学習(予習・復習)

下記URLなどを活用して下さい。また、メディアセンター所蔵のビデオやテレビ、シネマ歌舞伎などで作品を鑑賞してください。参考書の他、活字になっている脚本も図書館に多数ありますので、読んでみて下さい。

内 容

- 第1回 歌舞伎とは
- 第2回 出雲の阿国と南座のこと
- 第3回 女形の魅力
- 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
- 第5回 歌舞伎十八番
- 第6回 坂田藤十郎と近松門左衛門
- 第7回 三大名作①
- 第8回 三大名作②
- 第9回 三大名作③
- 第10回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
- 第11回 鶴屋南北の怪談劇
- 第12回 現代の歌舞伎
- 第13回 受講生による作品紹介①
- 第14回 受講生による作品紹介②
- 第15回 まとめ ※なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歌舞伎の中の日本

著者： 松井今朝子

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2008

ISBN: 978414011532

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講h(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

授業の到達目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について学び、日本の文化についての理解を深める。

授業の概要

テキストにある演目の中から、近松物や三大名作など、代表的なものを選んで映像を鑑賞し、解説します。時間の調整がつけば、授業の1回分を劇場での観劇に振り替えます。

準備学習(予習・復習)

できれば文楽公演を鑑賞し、授業で取り上げる作品を読んだり、興味を持った事柄について、下記URLなどを手がかりに調べて下さい。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
- 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
- 第3回 近松門左衛門の作品①
- 第4回 近松門左衛門の作品②
- 第5回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
- 第6回 三大名作②「義経千本桜」
- 第7回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
- 第8回 世話物①
- 第9回 世話物②
- 第10回 時代物①
- 第11回 時代物②
- 第12回 現代作家の文楽批評
- 第13回 受講者による発表①
- 第14回 受講者による発表②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

文楽手帳

著者: 高木秀樹

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2014

ISBN: 4044080089

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者: 三浦しをん

出版社: 双葉社

出版年: 2011

ISBN: 978-4575713831

仏果を得ず

著者: 三浦しをん

出版社: 双葉社

出版年: 2011

ISBN: 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集』

著者: 鳥越文蔵ほか

出版社: 小学館

出版年: 2002

ISBN: 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

文楽に関連するテーマでレポートを作成する。もしくは、授業中に作品紹介のプレゼンテーションをする。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講i(近代文学研究Ⅲ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

谷崎潤一郎と関西

授業の到達目標

日本文学の専門的研究に向けて、作品への読解力と鑑賞力を養う。

授業の概要

講義形式を主として、受講生による中間発表や質疑応答を取り入れる。なお、黛まどか先生の特別講義(日程未定)も行われる。

準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品については、通読することが望ましい。

内 容

- 第1回 谷崎潤一郎 概説
- 第2回 谷崎文学の江戸趣味
- 第3回 谷崎文学の西洋崇拝 『痴人の愛』
- 第4回 谷崎文学の西洋崇拝 『友田と松永の話』
- 第5回 谷崎潤一郎の関西体験
- 第6回 『陰翳礼賛』とその周辺
- 第7回 『蓼喰う虫』1
- 第8回 『蓼喰う虫』2
- 第9回 『卍』 1
- 第10回 『卍』 2
- 第11回 『蘆刈』 1
- 第12回 『蘆刈』 2
- 第13回 『春琴抄』 1
- 第14回 『春琴抄』 2
- 第15回 黛まどか先生による特別講義(日程未定)

履修上の注意点

中間発表や質疑応答の担当となった作品は文庫本を入手して必ず通読すること。期末レポートでは中間発表(質疑)以外の作品を選ぶこと。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

試験はレポート形式(2000字程度)とする。締め切りは最終講義日。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講J(近代文学研究Ⅳ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

幻想文学 異界へのまなざし

授業の到達目標

文学作品に対する読解力・分析力を養うことを目標とする。非現実的な作品世界の創出を目論んで、作者がどのような工夫を設けて読者を誘っているか、設定・構成・表現などの面から考察する。文学研究に向かう姿勢を養成すること、ひいては芸術の力に対するより深い理解を促すことを目標とする。

授業の概要

近代文学のなかから、幻想的な小説作品を取り上げて鑑賞する。主として講義形式で進めるが、受講生のグループ活動の機会も随時設けて進めていく。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品を通読すること。

内 容

- 第1回 概説
- 第2回 泉鏡花「春屋」・「春屋後刻」
- 第3回 泉鏡花「春屋」・「春屋後刻」
- 第4回 森鷗外「鼠坂」
- 第5回 森鷗外「鼠坂」
- 第6回 芥川龍之介「奇怪な再会」
- 第7回 芥川龍之介「奇怪な再会」
- 第8回 芥川龍之介「影」
- 第9回 芥川龍之介「影」
- 第10回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
- 第11回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
- 第12回 村上春樹「レキシントンの幽霊」
- 第13回 村上春樹「レキシントンの幽霊」
- 第14回 現代の幻想文学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

(使用しない。プリント配布。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

試験は期末レポートの形式とする。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講k(現代文学研究Ⅲ)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 三重野 由加

テーマ

昭和に発表された児童文学作品の解釈と鑑賞を行う。

授業の到達目標

教科書等に掲載されるような有名作品だけでなく、普段手にすることの少ない作品を含めて、児童文学を俯瞰する。そのことにより、文学研究あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の概要

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのために、受講生は事前に作品を読んできておく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表をしてもらう。なお、授業進度により、内容を変更する場合がある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品を、必ず、事前に読んでおくこと。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」①
- 第3回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」②
- 第4回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」③
- 第5回 川端康成「級長の探偵」①
- 第6回 川端康成「級長の探偵」②
- 第7回 太宰治「走れメロス」①
- 第8回 太宰治「走れメロス」②
- 第9回 椋鳩十「大造爺さんと雁」①
- 第10回 椋鳩十「大造爺さんと雁」②
- 第11回 椋鳩十「大造爺さんと雁」③
- 第12回 岡本民雄「ラクダイ横町」①
- 第13回 岡本民雄「ラクダイ横町」②
- 第14回 岡本民雄「ラクダイ横町」③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

遅刻しないこと。ノートをきちんと取ること。取り上げる作品を、可能な限り読みこんで、自分なりの疑問点・問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。20分以上の遅刻は欠席とみなす。20分以内の遅刻3回を欠席1回に換算する。

教科書

日本児童文学名作集(下)

著者: 桑原三郎・千葉俊二編

出版社: 岩波書店

出版年: ISBN: 4-00-311432-9

上記書籍に掲載されていない2作品は印刷したものを配布して対応。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講I(現代文学研究IV)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎・三重野 由加

テーマ

宮沢賢治の児童文学作品を解釈・鑑賞する。

授業の到達目標

児童文学の代表的な作品を数多く残している宮沢賢治の作品を解釈・鑑賞することで、文学研究、あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の概要

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのため、受講生は事前に作品を読んできておく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表してもらう。授業進度により内容を変更する場合がある。また、外部講師による講演1回が予定されている。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品を、必ず事前に読んでおくこと。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 「風の又三郎」①
- 第3回 「風の又三郎」②
- 第4回 「風の又三郎」③
- 第5回 「オツベルと象」①
- 第6回 「オツベルと象」②
- 第7回 「オツベルと象」③
- 第8回 外部講師による講演(講師の都合により日程変更の可能性有)
- 第9回 「よだかの星」①
- 第10回 「よだかの星」②
- 第11回 「よだかの星」③
- 第12回 「グスコブトリの伝記」①
- 第13回 「グスコブトリの伝記」②
- 第14回 「グスコブトリの伝記」③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

遅刻をしない。ノートをきとんと取ること。取り上げる作品を、可能な限り読みこんで、自分なりの問題意識をもって授業に参加することが望ましい。20分以上の遅刻は欠席とみなす。20分以内の遅刻3回を欠席1回に換算する。

教科書

作品で読む宮沢賢治
 著者: みぎわ書房編
 出版社: 白地社
 出版年:
 参考書

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講m(メディア・表現研究Ⅲ)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。また、活字化されて作者の手を離れた作品は、文庫化されたり漫画化されたりすることで、どのような変化を見せるのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、挿絵やカバー絵の効果を考察するほか、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。

準備学習(予習・復習)

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。テキスト指定されていない8作品の中から1作品を選び、図書館や書店で入手の上、学期末までに読了すること。

内 容

- 第1回 あさのあつこ「NO. 6」
- 第2回 香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
- 第3回 荻原規子「RDG(レッドデータガール)」
- 第4回 桜庭一樹「GOSICK」
- 第5回 榎田ユウリ「カブキブ！」
- 第6回 ディスカッション
- 第7回 坂木司「和菓子のアン」
- 第8回 坂木司「和菓子のアン」
- 第9回 猪狩そよ子「和菓子のアン」(原作:坂木司)
- 第10回 大崎梢「配達あかずきん」
- 第11回 大崎梢「配達あかずきん」
- 第12回 久世番子「配達あかずきん」(原作:大崎梢)
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 梨木香歩「家守綺譚」
- 第15回 橋本紡「九つの、物語」

履修上の注意点

教科書

和菓子のアン

著者: 坂木司

出版社: 光文社文庫

出版年:

ISBN:

和菓子のアン

著者: 猪狩そよ子

出版社: 白泉社

出版年: 2014年

ISBN:

参考書

NO. 6

著者: あさのあつこ

出版社: 講談社文庫

出版年:

ISBN:

妖怪アパートの幽雅な日常

著者： 香月日輪

出版社： 講談社文庫

出版年：

ISBN：

萩原規子

著者： RDG

出版社： 角川文庫

出版年：

ISBN：

桜庭一樹

著者： GOSICK

出版社： 角川文庫

出版年：

ISBN：

榎田ユウリ

著者： カブキブ！

出版社： 角川文庫

出版年：

ISBN：

大崎梢

著者： 配達あかずきん

出版社： 創元推理文庫

出版年：

ISBN：

家守綺譚

著者： 梨木香歩

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

九つの、物語

著者： 橋本紡

出版社： 集英社文庫

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（80%）

参加度（ ）

小テスト（ ）

授業中発表等（20%）

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講n(メディア・表現研究Ⅳ)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

北杜夫:高度経済成長期の文学と映画

授業の到達目標

1. 読解力 作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力 作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力 作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力 作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

1960年代のベストセラー、「どくとるマンボウ」シリーズを読む。作家・北杜夫の交友関係や読書体験が作品に与えた影響について考察する。さらに、北杜夫原作の映画「クレージーの怪盗ジバコ」を鑑賞し、原作との比較を行い、1960年代における「クレージー映画」の流行について考察する。ユーモアあふれるエッセイや、喜劇映画をていねいに読み、観ることで、「笑い」の背景にあるものを読み解きたい。

準備学習(予習・復習)

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分(週に2時間程度)とする。学期末までにテキストを読了すること。

内 容

- 第1回 北杜夫:ユーモアの文学、対話の精神遠藤周作・北杜夫『狐狸庵VSマンボウ』(1974年)
 第2回 北杜夫『どくとるマンボウ航海記』(1960年)
 第3回 『どくとるマンボウ航海記』
 第4回 『どくとるマンボウ航海記』
 第5回 『どくとるマンボウ航海記』
 第6回 ディスカッション
 第7回 北杜夫『どくとるマンボウ青春記』(1968年)
 第8回 『どくとるマンボウ青春記』
 第9回 『どくとるマンボウ青春記』
 第10回 『どくとるマンボウ青春記』
 第11回 ディスカッション
 第12回 北杜夫『怪盗ジバコ』(1967年)
 第13回 クレージーキャッツと「クレージー映画」
 第14回 映画『クレージーの怪盗ジバコ』(1967年)
 第15回 映画『クレージーの怪盗ジバコ』(1967年)

履修上の注意点

教科書

どくとるマンボウ航海記

著者: 北杜夫

出版社: 新潮文庫

出版年:

ISBN:

どくとるマンボウ青春記

著者: 北杜夫

出版社: 新潮文庫

出版年:

ISBN:

参考書

クレージーの怪盗ジバコ(DVD)

著者: 坪島孝(監督)

出版社: 東宝

出版年: 2007年、2014年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講o(アナウンス技術研究 I)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 荒尾 千春

テーマ

聴き手の心を掴む表現を学ぶ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～

授業の到達目標

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術((プレゼン力)の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。

授業の概要

アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聴く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。

準備学習(予習・復習)

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方
- 第2回 表現力を向上させるために必要な事とは ～アナウンススキル+振る舞い、姿勢、戦略的な演出～
- 第3回 発声・発音のトレーニング～①声の力を生かす ②発声のメカニズム ③メリハリの効いた発音～
- 第4回 表現豊かな声のトレーニング ～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現 ②相手に伝わる話し方「物語を読む」～
- 第5回 聴くスキル～会話(コミュニケーション)上手は聞き上手～
- 第6回 話の組み立て方～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～
- 第7回 わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは～3+1の要素～
- 第8回 言葉の表現力を向上させるトレーニング～マンガラートに書き出し、事例集に～
- 第9回 聴き手を惹きつける話の導入とクローズング
- 第10回 効果的な自己紹介～ライフラインチャートで表現～
- 第11回 自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける～端的に思いを伝える～
- 第12回 緊張緩和の方法パワーポイントの効果的な使い方
- 第13回 プレゼン大会①
- 第14回 プレゼン大会②
- 第15回 講義のまとめ

履修上の注意点

毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートを提出すること

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

授業後の「学びの小レポート」の提出も評価の対象にする

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講p(アナウンス技術研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 荒尾 千春

テーマ

言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～

授業の到達目標

伝えるではなく、伝える話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力(プレゼン力)を総合的に向上させる事を目的とする。

授業の概要

アナウンス演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。

準備学習(予習・復習)

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の目的、講義の進め方
- 第2回 表現力を向上させるために必要な事(アナウンス演習Ⅰの復習)～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聞き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～
- 第3回 言葉の表現力を向上するトレーニング～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～
- 第4回 語彙を広げ、共感が得られる表現とは～共通点を表現するトレーニング～
- 第5回 テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く～観察力を高める必要性を知る～
- 第6回 自分の意見を伝える～常に問題意識をもつ～
- 第7回 ニュースを評論する～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～
- 第8回 自分史をつくって、表現する～自分年表を作成し、振り返る～
- 第9回 自分の価値観を表現する～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～
- 第10回 プレゼンに必要な要素～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～
- 第11回 思いを伝える効果的な道具
- 第12回 プレゼン大会①+フィードバック
- 第13回 プレゼン大会②+フィードバック
- 第14回 プレゼン大会③+フィードバック
- 第15回 講義のまとめ

履修上の注意点

アナウンス演習Ⅰも受講した方が望ましい。アナウンス演習Ⅰと合わせて受講すると効果的にコミュニケーション力とプレゼン力を学ぶことができる。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートを提出すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

授業後の「学びの小レポート」の提出も評価の対象にする

2015 Syllabus

科目名 書論特講a

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

日本の近代における重要な書論の内容を理解する。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習(予習・復習)

授業内容を復習する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 西川寧の書論を読む①

第3回 西川寧の書論を読む②

第4回 吉田苞竹の書論を読む①

第5回 吉田苞竹の書論を読む②

第6回 吉川幸次郎の書論を読む①

第7回 吉川幸次郎の書論を読む②

第8回 内藤湖南の書論を読む①

第9回 内藤湖南の書論を読む②

第10回 山本發次郎の書論を読む①

第11回 山本發次郎の書論を読む②

第12回 會津八一の書論を読む①

第13回 會津八一の書論を読む②

第14回 中林梧竹の書論を読む①

第15回 中林梧竹の書論を読む②

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 書論特講b

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

中国・日本の代表的な書論の読解を通して、書道に対する分析を深め、鑑賞能力を高める。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習(予習・復習)

授業内容を復習する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 書譜を読む①

第3回 書譜を読む②

第4回 書譜を読む③

第5回 才葉抄を読む①

第6回 才葉抄を読む②

第7回 蘇軾「東坡題跋」を読む①

第8回 蘇軾「東坡題跋」を読む②

第9回 黄庭堅「山谷題跋」を読む①

第10回 黄庭堅「山谷題跋」を読む②

第11回 本阿弥光悦の書作品を読む

第12回 池大雅の書作品を読む

第13回 良寛の書作品を読む

第14回 貫名菘翁の書作品を読む

第15回 江戸時代の漢字書作品を読む

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 現代書研究 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定

担当者 中村 史朗

テーマ

今日における書のあり方を総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書は、どのような方向を求めているのか、また書が仮に社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞の両面から検討したい。

授業の到達目標

近百年の日本において、「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来にない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちをとって大きな広がりを見せたのはどのような背景があったのかを知り、合わせて各々の基礎的な表現技法を実作によって習得する。また作品を制作する上で重要な、「主題の設定」とはどのようなことなのか、各回の授業を通じて履修者個々が自身の制作において明確にできるようにする。

授業の概要

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠を探る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。実習に講義、発表、討論をまじえ、履修者の積極的な授業参加をうながす。

準備学習(予習・復習)

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方を検討する場を設ける。授業意外に積極的に習作にはげみ、自他の作品の批評・評価に取り組むこと。

内 容

- 第1回 現代書の諸相(1) 近百年の日本の書。書が会場で鑑賞されるということについて。
- 第2回 現代書の諸相(2) 戦後の新傾向の書を中心に。
- 第3回 現代の書と古典 古典の技法はどのようにして現代の書に生かされるのか。
- 第4回 現代書の制作 意図と技法、用具・用材。
- 第5回 漢字仮名交じりの書(1) 概観。漢字仮名交じりの書の成果と課題。
- 第6回 漢字仮名交じりの書(2) 言文一致表記の日本語をどのように書くのか。
- 第7回 漢字仮名交じりの書(3) 古典の技法を生かして①。
- 第8回 漢字仮名交じりの書(4) 古典の技法を生かして②。
- 第9回 漢字仮名交じりの書(5) 素材と技法の関係を考える①。
- 第10回 漢字仮名交じりの書(6) 素材と技法の関係を考える②。
- 第11回 少字数の書(1) 少字数の書が重視される背景。
- 第12回 少字数の書(2) 大字表現のねらい。
- 第13回 少字数の書(3) 特有の技法を学ぶ。用具・用材を工夫する。
- 第14回 現代の書—多様な表現— ささまざまな素材を用いて。
- 第15回 現代の書—多様な表現— 新しい発表のかたち。

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

参考書

詩文の象

著者： 小倉釣雲 他

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN: 4-544-01380-1

詩人の書

著者： 疋田寛吉

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN: 4-544-01156-6

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

「授業中課題」には、授業中のテーマに沿って指示する宿題の制作物も含んでいる。

2015 Syllabus

科目名 現代書研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 池田 利広

テーマ

書作品の鑑賞・分析を通して、それをいかに創作につなげるか考慮・実践する。

授業の到達目標

書技法の習得と創作への手順を知り、独自の作品作りをめざす。

授業の概要

調和体と漢字の書を取りあげ、鑑賞・分析・実技を通して作品制作を行う。

準備学習(予習・復習)

復習は毎時間十分に行い、特に新しい内容に関しては習熟度を高める。各作品の制作についてレポートするため、各授業で研究した内容を整理する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(レポートの内容などについての説明)
- 第2回 漢字作品の鑑賞と分析①
- 第3回 漢字作品の鑑賞と分析②
- 第4回 技法の習得・臨書①
- 第5回 技法の習得・臨書②
- 第6回 草稿作り
- 第7回 作品制作①
- 第8回 作品制作②
- 第9回 批評会
- 第10回 調和体作品の鑑賞と分析
- 第11回 技法の習得・臨書
- 第12回 草稿作り
- 第13回 作品制作
- 第14回 作品制作
- 第15回 批評会

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と中途退出をしないように。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

課題提出 40%、レポート 30%

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <* a>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文のテーマの探求と確立

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

卒論作成に向けて進める。演習Ⅰと合同。

準備学習(予習・復習)

1, 作品を熟読する。2, 問題意識を持つ。3, 図書館に足しげく通う。4, 表現力を磨く。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 文献を収集し、論文を読む
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度については、授業の到達目標に貢献する姿勢も含む

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <*c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

授業の概要

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心に進める。

準備学習(予習・復習)

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

内 容

第1回 講義 卒業論文作成に向けて

第2回 受講生による発表(1)

第3回 受講生による発表(2)

第4回 受講生による発表(3)

第5回 受講生による発表(4)

第6回 受講生による発表(5)

第7回 受講生による発表(6)

第8回 受講生による発表(7)

第9回 受講生による発表(8)

第10回 受講生による発表(9)

第11回 受講生による発表(10)

第12回 発表予備日

第13回 ワーク・ショップ

第14回 ワーク・ショップ

第15回 まとめ

履修上の注意点

研究発表の取り組みを重視します。積極的に自分のテーマを探し、見つけて下さい。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

試験はレポート形式。発表の内容を論文にして、最終授業日に提出して下さい。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

テーマ

卒業研究の指導

授業の到達目標

卒業研究のテーマを確定し研究対象となった作品に関して12000字以上の論文を執筆する

授業の概要

受講生による発表、および質疑応答が授業の中心になる

準備学習(予習・復習)

そのつど課題を提示する

内 容

- 第1回 全体の概要を説明
- 第2回 卒業論文の書き方(1)
- 第3回 卒業論文の書き方(2)
- 第4回 卒業論文の書き方(3)
- 第5回 受講生による発表
- 第6回 受講生による発表
- 第7回 受講生による発表
- 第8回 受講生による発表
- 第9回 受講生による発表
- 第10回 受講生による発表
- 第11回 受講生による発表
- 第12回 受講生による発表
- 第13回 受講生による発表
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通すだけでは授業に参加したとは見なさない。積極的に議論に参加すること。病欠・就職活動を含め3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <*e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

1)議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。2)自分のテーマだけでなく、他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の概要

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して、着実に成果を上げていく。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による第1回報告(1)

第3回 受講生による第1回報告(2)

第4回 受講生による第1回報告(3)

第5回 受講生による第1回報告(4)

第6回 受講生による第2回報告(1)

第7回 受講生による第2回報告(2)

第8回 受講生による第2回報告(3)

第9回 受講生による第2回報告(4)

第10回 受講生による第3回報告(1)

第11回 受講生による第3回報告(2)

第12回 受講生による第3回報告(3)

第13回 受講生による第3回報告(4)

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成のために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **日本語日本文学演習Ⅳ <*b>**

クラス	配当回生 学部4回生
-----	------------

講義期間 後期	定員 15
---------	-------

履修条件	クラス指定 希望制
------	-----------

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

授業の到達目標

卒業論文作成

授業の概要

卒論を完成させる。演習Ⅱと同時開講なので、間に3回生の発表も行う。なお、1回分を特別授業や学外研修に振り返る場合がある。

準備学習(予習・復習)

1, 作品の読みを深め、問題意識を育てる 2, 説得力を高めるために資料を収集する 3, 十分な考察を行う 4, 執筆に時間と労力を注ぐ

内 容

- 第1回 進捗状況の報告
- 第2回 中間発表の骨格を考える
- 第3回 中間発表の要旨作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表(時期は未確定)
- 第6回 中間発表を受けて、今後の進め方を相談する
- 第7回 執筆を進め、互に批評を行う
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 『国文橋』の要旨を作成・修正する
- 第14回 同上
- 第15回 一年間の取り組みの総括

履修上の注意点

就活は

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には、ゼミの活性化や3回生の指導など、授業への貢献を含みます

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈*c〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の概要

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心とする。

準備学習(予習・復習)

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第2回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第3回 卒業論文中間発表会(日程未定)
- 第4回 受講生による発表(1)
- 第5回 受講生による発表(2)
- 第6回 受講生による発表(3)
- 第7回 受講生による発表(4)
- 第8回 受講生による発表(5)
- 第9回 受講生による発表(6)
- 第10回 受講生による発表(7)
- 第11回 受講生による発表(8)
- 第12回 受講生による発表(9)
- 第13回 講義 論文執筆についての注意事項
- 第14回 講義 卒業生の卒論を教材に
- 第15回 『国文橋』掲載用原稿執筆

履修上の注意点

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (70%)

参加度 (30%)

ゼミでの発表や参加度は演習Ⅳの評価とする。卒業論文の成果は単独の別枠で評価する。

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 野村 幸一郎

テーマ

卒業研究の指導

授業の到達目標

前期に引き続き卒業論文執筆の準備を行う

授業の概要

受講生による発表および質疑応答が中心になる

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

第1回 概要説明

第2回 受講生による発表

第3回 受講生による発表

第4回 受講生による発表

第5回 受講生による発表

第6回 受講生による発表

第7回 受講生による発表

第8回 受講生による発表

第9回 受講生による発表

第10回 受講生による発表

第11回 受講生による発表

第12回 受講生による発表

第13回 受講生による発表

第14回 受講生による発表

第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通すだけでは授業に参加したとはみなさない。積極的に授業に参加すること。病欠・就職活動をふくめ3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1) 卒業論文の作成をとおして、自らの力でテーマを発見し、そのテーマにふさわしい方法論を確定し、成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。2) 他の受講生のテーマについても、自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち、能動的に関わっていく。

3) 資料を的確に用いて、自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の概要

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させる。

準備学習(予習・復習)

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内 容

第1回 導入

第2回 受講生による第1回報告(1)

第3回 受講生による第1回報告(2)

第4回 受講生による第1回報告(3)

第5回 受講生による第1回報告(4)

第6回 受講生による第2回報告(1)

第7回 受講生による第2回報告(2)

第8回 受講生による第2回報告(3)

第9回 受講生による第2回報告(4)

第10回 受講生による第3回報告(1)

第11回 受講生による第3回報告(2)

第12回 受講生による第3回報告(3)

第13回 受講生による第3回報告(4)

第14回 まとめ1

第15回 まとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って、積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 作品研究 I <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 倣書作品の制作
- 第12回 倣書作品の制作
- 第13回 倣書作品の制作
- 第14回 倣書作品の制作(卒業制作の準備)
- 第15回 倣書作品の制作(卒業制作の準備)

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 作品研究 I

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員 20
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 尾西 正成	
テーマ 漢字作品の創作研究	
授業の到達目標 さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。	
授業の概要 臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。	
準備学習(予習・復習) 作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。	
内 容 第1回 古典臨書作品の制作(半切) 第2回 古典臨書作品の制作(半切) 第3回 古典臨書作品の制作(連落) 第4回 古典臨書作品の制作(連落) 第5回 古典臨書作品の制作(2×8) 第6回 古典臨書作品の制作(2×8) 第7回 古典臨書作品の制作(2×8) 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定) 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫) 第10回 倣書作品制作の準備(集字など) 第11回 倣書作品の制作 第12回 倣書作品の制作 第13回 倣書作品の制作 第14回 倣書作品の制作(卒業制作の準備) 第15回 倣書作品の制作(卒業制作の準備)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 各自の取り組む古典の法帖、字書など。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。	

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ
- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習(予習・復習)

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

第1回 倣書の方法について

第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検

第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首

第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首

第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首

第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首

第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)

第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)

第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)

第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)

第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)

第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)

第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)

第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)

第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 前期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 橋本 二三		
テーマ 古典に基づく創作		
授業の到達目標 基礎からの展開。自らの創作力の養成。		
授業の概要 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。		
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。		
内 容 第1回 倣書の方法について 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1) 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2) 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3) 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4) 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1) 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2) 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1) 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2) 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)		
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価 試験 (0) 授業中課題 (70) 参加度 (10)	小テスト (0) 授業中発表等 (20)	

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習(予習・復習)

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 橋本 二三		
テーマ 古典に基づく創作		
授業の到達目標 基礎からの展開。自らの創作力の養成。		
授業の概要 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。		
準備学習(予習・復習) 豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。		
内 容		
第1回 主体的作品制作と鑑賞	(1) 配字と構成	
第2回 主体的作品制作と鑑賞	(2) 配字と構成	
第3回 主体的作品制作と鑑賞	(3) 配字と構成	
第4回 主体的作品制作と鑑賞	(4) 運筆のリズムと線質	
第5回 主体的作品制作と鑑賞	(5) 運筆のリズムと線質	
第6回 主体的作品制作と鑑賞	(6) 運筆のリズムと線質	
第7回 主体的作品の習熟	(1) 古筆の再確認	
第8回 主体的作品の習熟	(2) 変化と統一	
第9回 主体的作品の習熟	(3) 墨法効果	
第10回 制作作品の相互研究	《中間発表》	
第11回 作品の完成に向けて	(1) 全体構成の研究	
第12回 作品の完成に向けて	(2) 線質の確認と墨法効果	
第13回 作品の完成に向けて	(3) 作品の選別	
第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして)	(1)	
第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして)	(2)	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (70)	授業中発表等 (20)	
参加度 (10)		

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
- 第2回 図書館の実際的な利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
- 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
- 第4回 現地観察の方法(学外授業)
- 第5回 個別発表と質疑(1)
- 第6回 個別発表と質疑(2)
- 第7回 個別発表と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 個別発表と質疑(9)
- 第14回 個別発表と質疑(10)
- 第15回 完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者: 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

自分が関心のある日本史上の事項(事件)、人物、あるいは自分が生まれた地域の歴史を調べ、それを報告する。

授業の到達目標

このテーマを調べるにあたっては、まず文献をどのようにして集めるかがポイントとなる。辞典、関係文献、自治体史などできるだけ多くの文献を調べる方法を身につけるとともに、それをレジュメ化することによって、レジュメの作り方を学ぶ。さらにレジュメにもとづいて報告することによって、報告方法も学ぶ。

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、自分でテーマを見つけ、自分で必要な文献を集めることが第一歩である。集めた文献を読み、それをレジュメにし(A4で3枚以上)、他のゼミ生の前で報告し、さらに質疑応答を行う。教員はそのつどゼミ生の報告について、文献の調べ方、内容についてコメントをする。

準備学習(予習・復習)

京都や滋賀についてみるべきところなどを授業中に紹介するので、できる限り歩いてみてほしい。また、できる限り必要な文献を読むこと。

内 容

- 第1回 歴史学科全体で入門ゼミについての説明会。
- 第2回 ゼミの進め方についてガイダンス。
- 第3回 文献の調べ方について図書館等でガイダンス
- 第4回 京都および山科の歴史について教員の講義。
- 第5回 NHK「ブラタモリ 京都編」の鑑賞(琵琶湖疏水、御土居など)
- 第6回 ゼミ生の報告と討論。
- 第7回 ゼミ生の報告と討論。
- 第8回 ゼミ生の報告と討論。
- 第9回 ゼミ生の報告と討論。
- 第10回 ゼミ生の報告と討論。
- 第11回 ゼミ生の報告と討論。
- 第12回 ゼミ生の報告と討論。
- 第13回 ゼミ生の報告と討論。
- 第14回 日本史を研究するうえで必要な史料について学ぶ。
- 第15回 前期のまとめ。再度文献検索の方法などを学ぶ。

履修上の注意点

報告をインターネットで作ってはいけない。インターネットのウキペディアを参考にするのは構わない。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

発表した内容は修正のうえ、期末に文章化してレポートとして提出。前期の成績は、レポートおよび出席点で点数をつける。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

文献史料入門

授業の到達目標

歴史研究を行うさい、その基礎となる文献史料について調べてもらい、そのことによって、歴史学研究についての理解を深めてもらう。

授業の概要

歴史研究に用いられる文献史料、とくに日本史研究を行う際に用いられる日記について調べ報告してもらう。具体的には日記やその記主、記述の時代背景などについて調べ、それを要約したものをレジュメに記し報告してもらうことにする。なお、この授業では学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス等
- 第2回 ガイダンス等
- 第3回 文献史料についてグループで調べる、その1
- 第4回 文献史料についてグループで調べる、その2
- 第5回 文献史料についてグループで調べる、その3
- 第6回 文献史料についてグループで調べる、その4
- 第7回 日本史上の日記について個々人で調べる、その1
- 第8回 日本史上の日記について個々人で調べる、その2
- 第9回 日本史上の日記について個々人で調べる、その3
- 第10回 日本史上の日記について個々人で調べる、その4
- 第11回 日本史上の日記について個々人で調べる、その5
- 第12回 日本史上の日記について個々人で調べる、その6
- 第13回 日本史上の日記について個々人で調べる、その7
- 第14回 日本史上の日記について個々人で調べる、その8
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本史リブレット 中世の日記の世界

著者: 尾上陽介

出版社: 山川出版社

出版年: 2003年

ISBN:

日記で読む日本中世史

著者: 松蘭齊・元木泰雄編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

日本史の森をゆく

著者: 東京大学史料編纂所編

出版社: 中央公論新社

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*D>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことになる。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2~3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味
 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明
 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介
 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1
 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2
 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3
 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4
 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5
 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6
 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7
 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8
 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9
 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10
 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11
 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*E>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

2回目の授業までの複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理: 第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
- 第5回 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とすると発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第8回 学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第9回 学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第10回 学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第11回 学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第12回 学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第13回 学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第14回 学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第15回 学生発表報告⑩、質疑応答と教員からのコメント 並びに 本演習のまとめ

履修上の注意点

演習は出席することに大きな意義があると考えている。全員が完全出席を目指すように。しかし、やむなく欠席せざるをえないときには、前もって担当教員の大学アドレスに連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*F>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることが到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。

準備学習(予習・復習)

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内 容

- 第1回 総解説—中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
 第2回 図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。
 第3回 藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
 第4回 研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題(中国歴史研究における文献、遺物、遺跡)を決める。
 第5回 中国史文献の調べ方と読み方。
 第6回 研究課題(1) 研究発表
 第7回 研究課題(2) 研究発表
 第8回 研究課題(3) 研究発表
 第9回 研究課題(4) 研究発表
 第10回 学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
 第11回 研究課題(5) 研究発表
 第12回 研究課題(6) 研究発表
 第13回 研究課題(7) 研究発表
 第14回 研究課題(8) 研究発表
 第15回 受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 砺波護

出版社: 名古屋大学出版社

出版年: 2006

ISBN:

アジアの歴史と文化(1~4)

著者: 笠沙雅章監修

出版社: 同朋社出版

出版年: 1994

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことになる。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味

第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明

第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介

第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1

第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2

第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3

第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4

第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5

第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6

第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7

第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8

第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9

第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10

第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11

第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

2回目の授業までの複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
- 第5回 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とすると発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第8回 学生の発表報告③、質疑応答と教員からのコメント
- 第9回 学生の発表報告④、質疑応答と教員からのコメント
- 第10回 学生の発表報告⑤、質疑応答と教員からのコメント
- 第11回 学生の発表報告⑥、質疑応答と教員からのコメント
- 第12回 学生の発表報告⑦、質疑応答と教員からのコメント
- 第13回 学生の発表報告⑧、質疑応答と教員からのコメント
- 第14回 学生の発表報告⑨、質疑応答と教員からのコメント
- 第15回 学生の発表報告⑩、質疑応答と教員からのコメント 並びに 本演習のまとめ

履修上の注意点

演習は出席することに大きな意義があると考えている。全員が完全出席を目指すように。しかし、やむなく欠席せざるをえないときには、前もって担当教員の大学アドレスに連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることが到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。

準備学習(予習・復習)

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内 容

- 第1回 総解説—中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
 第2回 図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。
 第3回 藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
 第4回 研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題(中国歴史研究における文献、遺物、遺跡)を決める。
 第5回 中国史文献の調べ方と読み方。
 第6回 研究課題(1) 研究発表
 第7回 研究課題(2) 研究発表
 第8回 研究課題(3) 研究発表
 第9回 研究課題(4) 研究発表
 第10回 学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
 第11回 研究課題(5) 研究発表
 第12回 研究課題(6) 研究発表
 第13回 研究課題(7) 研究発表
 第14回 研究課題(8) 研究発表
 第15回 受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 砺波護

出版社: 名古屋大学出版社

出版年: 2006

ISBN:

アジアの歴史と文化(1~4)

著者: 笠沙雅章監修

出版社: 同朋社出版

出版年: 1994

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*D>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
- 第2回 図書館の実際的な利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
- 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
- 第4回 現地観察の方法(学外授業)
- 第5回 個別発表と質疑(1)
- 第6回 個別発表と質疑(2)
- 第7回 個別発表と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 個別発表と質疑(9)
- 第14回 個別発表と質疑(10)
- 第15回 完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者: 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*E〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

自分が関心のある日本史上の事項(事件)、人物、あるいは自分が生まれた地域の歴史を調べ、それを報告する。

授業の到達目標

このテーマを調べるにあたっては、まず文献をどのようにして集めるかがポイントとなる。辞典、関係文献、自治体史などできるだけ多くの文献を調べる方法を身につけるとともに、それをレジュメ化することによって、レジュメの作り方を学ぶ。さらにレジュメにもとづいて報告することによって、報告方法も学ぶ。

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、自分でテーマを見つけ、自分で必要な文献を集めることが第一歩である。集めた文献を読み、それをレジュメにし(A4で3枚以上)、他のゼミ生の前で報告し、さらに質疑応答を行う。教員はそのつどゼミ生の報告について、文献の調べ方、内容についてコメントをする。

準備学習(予習・復習)

京都や滋賀についてみるべきところなどを授業中に紹介するので、できる限り歩いてみてほしい。また、できる限り必要な文献を読むこと。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方についてガイダンス。
- 第2回 京都および山科の歴史について教員の講義(1)。
- 第3回 京都および山科の歴史について教員の講義(2)。
- 第4回 日本史の史料の扱い方について講義。
- 第5回 近代の地域の変遷についてビデオ鑑賞。
- 第6回 ゼミ生の報告と討論。
- 第7回 ゼミ生の報告と討論。
- 第8回 ゼミ生の報告と討論。
- 第9回 ゼミ生の報告と討論。
- 第10回 ゼミ生の報告と討論。
- 第11回 ゼミ生の報告と討論。
- 第12回 ゼミ生の報告と討論。
- 第13回 ゼミ生の報告と討論。
- 第14回 日本近代史の重要事項について講義もしくはビデオ鑑賞。
- 第15回 後期のまとめ。再度文献検索の方法などを学ぶ。

履修上の注意点

報告をインターネットで作ってはいけない。インターネットのウキペディアを参考にするのは構わない。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

発表した内容は修正のうえ、期末に文章化してレポートとして提出。後期の成績は、レポートおよび出席点で点数をつける。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*F>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 尾下 成敏	
テーマ 文献史料入門	
授業の到達目標 歴史研究を行うさい、その基礎となる文献史料について調べてもらい、そのことによって、歴史学研究についての理解を深めてもらう。	
授業の概要 歴史研究に用いられる文献史料、とくに日本史研究を行う際に用いられる日記について調べ報告してもらう。具体的には日記やその記主、記述の時代背景などについて調べ、それを要約したものをレジュメに記し報告してもらうことにする。なお、この授業では学外の資料館・博物館を見学することがある。	
準備学習(予習・復習) 概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。	
内 容 第1回 ガイダンス等 第2回 ガイダンス等 第3回 文献史料についてグループで調べる、その1 第4回 文献史料についてグループで調べる、その2 第5回 文献史料についてグループで調べる、その3 第6回 文献史料についてグループで調べる、その4 第7回 日本史上の日記について個々人で調べる、その1 第8回 日本史上の日記について個々人で調べる、その2 第9回 日本史上の日記について個々人で調べる、その3 第10回 日本史上の日記について個々人で調べる、その4 第11回 日本史上の日記について個々人で調べる、その5 第12回 日本史上の日記について個々人で調べる、その6 第13回 日本史上の日記について個々人で調べる、その7 第14回 日本史上の日記について個々人で調べる、その8 第15回 まとめ	
履修上の注意点 欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。	

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本史リブレット 中世の日記の世界

著者: 尾上陽介

出版社: 山川出版社

出版年: 2003年

ISBN:

日記で読む日本中世史

著者: 松蘭斉・元木泰雄編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

日本史の森をゆく

著者: 東京大学史料編纂所編

出版社: 中央公論新社

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

2015 Syllabus

科目名 日本史概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 淵原 智幸

テーマ

日本の古代・中世史

授業の到達目標

高校レベルの日本史知識を復習しつつ、さらに掘り下げた内容を学んでいくことで、中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。

授業の概要

原始時代から戦国時代まで、日本史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化など様々な分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、高校レベルの(ないしは通俗的な)歴史イメージを相対化する視点を提供していく。

準備学習(予習・復習)

高校で日本史を選択しなかった者は、各自で高校日本史の教科書・参考書などを入手し、読んでおくことが望ましい。

内 容

- 第1回 日本史のはじまり
- 第2回 邪馬台国から倭王権へ
- 第3回 古墳時代の政治・外交・文化
- 第4回 聖徳太子、大化の改新、壬申の乱
- 第5回 律令体制の成立と平城遷都
- 第6回 奈良時代の政変と平安遷都
- 第7回 摂関政治と承平・天慶の乱
- 第8回 平安中後期の地方支配と武士
- 第9回 院政と平氏政権
- 第10回 鎌倉幕府の成立と承久の乱
- 第11回 執権政治と蒙古襲来
- 第12回 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政
- 第13回 南北朝動乱と足利義満の政治
- 第14回 室町中期の政治と応仁の乱
- 第15回 戦国時代

履修上の注意点

講義内容の復習(定着度の確認)は小テストのみで行い、期末試験では主体的な学習能力(調査能力・論理的思考力)をみる。そのため各自、興味のある時代や歴史的イベントなどについて、早くから調べておくことが望ましい。

教科書

毎回プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

より深く学びたい者には、下記の概説書を薦めておく。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

『日本の時代史』シリーズ

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『日本の歴史』シリーズ

著者:

出版社: 講談社(学術文庫)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

ただし、受講態度の極めて悪い者については、試験・小テストの結果に関係なく不合格とする場合がある。

2015 Syllabus

科目名 日本史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本の近世・近現代史概論

授業の到達目標

日本近世・近現代史の整理。歴史学は決して単なる暗記科目ではありません。しかし、一方で歴史的思考には、基礎事項を知っておく必要があります。この授業では、近世から現在までの日本史を概観します。

授業の概要

政治・経済・文化など、通史的内容を講義します。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、関係する部分を読んでおいてください。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 江戸時代は「理想郷」?
- 第2回 江戸時代の世界観
- 第3回 開国と幕府滅亡
- 第4回 明治維新と初期外交
- 第5回 大日本帝国憲法制定
- 第6回 日清日露戦争
- 第7回 産業革命と明治文化
- 第8回 政党政治の展開と第一次世界大戦
- 第9回 大正デモクラシー期の社会
- 第10回 昭和の恐慌と政党内閣期の政策
- 第11回 満州事変から日中戦争へ
- 第12回 アジア太平洋戦争
- 第13回 占領から独立へ
- 第14回 55年体制と高度経済成長
- 第15回 現代日本の諸課題

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるので、この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

試験の成績を重視する。

2015 Syllabus

科目名 東洋史概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 米田 健志

テーマ

中国を中心としたアジアの歴史

授業の到達目標

殷周時代から明清時代までの中国の歴史における、政治・社会・法制・人物、および周辺地域との関係について、基礎的知識の習得をめざす。

授業の概要

毎回、プリントを配布したうえで講義を行う。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。

準備学習(予習・復習)

中国史・アジア史に関する様々な文献を図書館で探して読むことをおすすめする。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 先秦～後漢(1)統一帝国への道
- 第3回 先秦～後漢(2)秦漢時代の政治と制度
- 第4回 先秦～後漢(3)前漢・後漢の社会と文化
- 第5回 三国～隋(1)分裂の時代:魏晋南北朝時代の政治と制度
- 第6回 三国～隋(2)魏晋南北朝時代の社会と文化
- 第7回 唐～北宋(1)唐代の政治と制度
- 第8回 唐～北宋(2)唐宋変革:唐宋時代の社会と文化
- 第9回 唐～北宋(3)北宋時代の政治と制度
- 第10回 南宋～遼・金・元(1)南宋と征服王朝
- 第11回 南宋～遼・金・元(2)宋代の社会と文化
- 第12回 南宋～遼・金・元(3)モンゴル帝国とユーラシア
- 第13回 明～清(1)明清時代の政治
- 第14回 明～清(2)明清時代の社会と制度
- 第15回 明～清(3)西欧との衝突:アヘン戦争
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

配布したプリント等は過去分も含めて全て授業に持参すること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (55)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 東洋史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 塩野崎 信也

テーマ

中央・西アジア史概説

授業の到達目標

中央アジアと西アジアの現在の状況を把握した上で、そこに到るおおまかな歴史の流れの理解を目指す

授業の概要

現代から徐々に時代を遡りつつ、中央・西アジアの歴史を概説する。最終的には古代オリエント文明までを通観することで、この地域の底流をなす社会のあり様・ものの見方を考える。「イスラーム教」「アラブ人、ペルシア人、トルコ人」「遊牧民と定住民」などが本講義のキーワードとなる。講義に際しては、毎回プリントを配布する。学期末に試験を実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 現代の中央・西アジア
- 第3回 中央・西アジア史の見方——アラブ、ペルシア、トルコ
- 第4回 帝国主義の時代
- 第5回 オスマン帝国
- 第6回 サファヴィー朝
- 第7回 モンゴル帝国とイル・ハーン朝
- 第8回 中央アジアにおける「チンギス・ハーンの血統」
- 第9回 トルコ人の活躍
- 第10回 アッバース朝と『アラビアン・ナイト』
- 第11回 預言者ムハンマドの登場
- 第12回 イスラーム教とは
- 第13回 シーア派の誕生
- 第14回 古代オリエントと諸宗教の系譜
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 西洋史概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

授業の到達目標

現在、EUの発展が大きな話題になっている。そのような統一したヨーロッパ世界がどのように形成されたかを理解する。

授業の概要

古代ローマ時代から14、15世紀のヨーロッパ中世までについて、主要なテーマをあげて概観する。

準備学習(予習・復習)

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。下記の教科書を読むのが望ましい。

内 容

- 第1回 ヨーロッパの地理・言語・宗教
- 第2回 地中海世界とローマ
- 第3回 ローマ帝国の崩壊とキリスト教の発展
- 第4回 ゲルマン人の民族移動と部族王国
- 第5回 東ローマ帝国の変容と東方正教世界
- 第6回 フランク王国の成立とメロヴィング朝
- 第7回 カール大帝とカロリング朝
- 第8回 ノルマン人とイングランド王国の成立
- 第9回 農村社会の変動と人口の増大
- 第10回 修道院改革と民衆の宗教的覚醒
- 第11回 グレゴリウス改革と叙任権闘争
- 第12回 十字軍とヨーロッパの膨張
- 第13回 中世都市の発達
- 第14回 黒死病と「危機」の時代
- 第15回 イタリア戦争と主権国家の形成

履修上の注意点

教科書

教養のための西洋史入門

著者： 中井義明/他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN： 978462304909-7

参考書

成績評価

試験 (90)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 西洋史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

近現代の西洋の歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介した本や近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
- 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
- 第5回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
- 第6回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第7回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第8回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第9回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
- 第10回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第11回 19世紀ヨーロッパ文化
- 第12回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(3)
- 第15回 現代世界 全体のまとめ

履修上の注意点

静粛に授業を受けること

教科書

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者: 福井憲彦

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2005

ISBN:

20世紀の歴史

著者： 木畑洋一

出版社： 岩波新書

出版年： 2014

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 考古学概説 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学研究が明らかにした時代観・技術史

授業の到達目標

あな(遺構)・もの(遺物)で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

授業の概要

時代順に、考古学的な成果によって推定される時代変遷を解説するとともに、研究の進んでいる土器・金属・瓦の研究成果を説明する。

準備学習(予習・復習)

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内 容

- 第1回 考古学研究の方法とその特徴——発掘調査の方法
- 第2回 狩猟採集の社会——縄文時代
- 第3回 狩猟採集から農耕へ——弥生時代
- 第4回 金属生産の開始——銅鐸の変遷と祭祀
- 第5回 大墓の時代——古墳時代
- 第6回 学外授業 向日市物集女車塚古墳見学
- 第7回 歴史時代の考古学
- 第8回 土器の語る世界①——古代・中世の土器概説
- 第9回 土器の語る世界②——輸入陶磁器
- 第10回 学外授業 考古学関連博物館展観の参観
- 第11回 金属生産の歴史①——青銅鑄物
- 第12回 金属生産の歴史②——鑄鉄鑄物
- 第13回 古代瓦の美——飛鳥・白鳳・天平の甕
- 第14回 古代の平瓦作り——失われた伝統技術
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 考古学概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

授業の到達目標

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

授業の概要

日本列島の西から東へと地域をめぐり、先史から歴史へと時代をたどりながら、重要な遺跡を説明する。

準備学習(予習・復習)

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内 容

- 第1回 日本文化の地域性
- 第2回 弥生時代の北九州
- 第3回 瀬戸内の土器製塩
- 第4回 中国山地のたたら製鉄
- 第5回 陶邑の須恵器生産
- 第6回 土師器「かわらけ」の世界
- 第7回 学外授業 正倉院展(奈良国博)見学
- 第8回 正倉院展見学の復習
- 第9回 東海地方の焼物——猿投・瀬戸・常滑
- 第10回 平安京・中世京都の墓の考古学
- 第11回 学外授業 博物館見学
- 第12回 鎌倉の考古学
- 第13回 戦国城下町一乗谷遺跡
- 第14回 江戸の考古学
- 第15回 日本領の異国琉球の歴史考古と文化

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 古文書学A I (中世) <Za>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

古代中世の古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。

授業の概要

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、続いて各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。機会があれば、古文書の実物に触れることを目的とした博物館見学などの課外学習を実施する予定である。なお、この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

準備学習(予習・復習)

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

内 容

第1回	概説①	古文書とは？ 古文書学とは？
第2回	概説②	古文書の伝来
第3回	概説③	古文書学用語の基礎知識
第4回	概説④	古文書の分類
第5回	古文書の様式 I	公式様文書(1)
第6回	古文書の様式 I	公式様文書(2)
第7回	古文書の様式 II	公家様文書(1)
第8回	古文書の様式 II	公家様文書(2)
第9回	古文書の様式 II	公家様文書(3)
第10回	古文書の様式 II	公家様文書(4)
第11回	古文書の様式 II	公家様文書(5)
第12回	古文書の様式 II	公家様文書(6)
第13回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第14回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

古文書の解読については、予習・復習を前提とする。なお、本科目では、史料読解に不可欠な漢文の基礎学力の向上も目指しているため、各回とも出席が望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

a103023310

試験 ()

小テスト (70)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

单元ごとに確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

2015 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(中世)〈Za〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の概要

最初は前期の復習を兼ねた概説の講義を行い、その後、各時代および各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。

準備学習(予習・復習)

前期の復習、特に公家様文書の特徴を確認した上で、後期の授業に臨んでほしい。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の文書	寺家文書(1)
第14回	その他の文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

前期同様、授業以外でも、各自古文書に触れる機会を作る。機会があれば、実物の古文書に触れることを目的とした博物館学習などの課外授業も行う予定である。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅠ〈*A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <*B>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	希望制

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

授業の到達目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の概要

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

準備学習(予習・復習)

史料について、予習と復習をおこなうこと。この時代に関しては多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

内 容

第1回 授業解説

第2回 百練抄の講読(1)

第3回 百練抄の講読(2)

第4回 百練抄の講読(3)

第5回 百練抄の講読(4)

第6回 百練抄の講読(5)

第7回 百練抄の講読(6)

第8回 百練抄の講読(7)

第9回 百練抄の講読(8)

第10回 百練抄の講読(9)

第11回 百練抄の講読(10)

第12回 百練抄の講読(11)

第13回 百練抄の講読(12)

第14回 百練抄の講読(13)

第15回 百練抄の講読(14)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

鎌倉幕府

著者: 石井進

出版社: 中央公論社

出版年: 2004(初出1966)

ISBN:

源平の盛衰

著者: 上横手雅敬

出版社: 講談社

出版年: 1997(初出1969)

ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ

著者: 川合康

出版社: 講談社

出版年: 1996

ISBN:

後白河法皇

著者： 棚橋光男

出版社： 講談社

出版年： 1995

ISBN:

源義経

著者： 元木泰雄

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2007

ISBN:

日本の時代史7 院政の展開と内乱

著者：

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <*C>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 尾下 成敏	
テーマ 徳川政権期の文献史料を読む	
授業の到達目標 近世の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。	
授業の概要 徳川政権期の幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記・町触など)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。	
準備学習(予習・復習) 配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料等に慣れ親しんで欲しい。	
内 容 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説 第2回 テキストに関する概説 第3回 松平忠利の日記の講読、その1(時間があまれば町触を読む) 第4回 松平忠利の日記の講読、その2(時間があまれば町触を読む) 第5回 松平忠利の日記の講読、その3(時間があまれば町触を読む) 第6回 松平忠利の日記の講読、その4(時間があまれば町触を読む) 第7回 松平忠利の日記の講読、その5(時間があまれば町触を読む) 第8回 松平忠利の日記の講読、その6(時間があまれば町触を読む) 第9回 松平忠利の日記の講読、その7(時間があまれば町触を読む) 第10回 松平忠利の日記の講読、その8(時間があまれば町触を読む) 第11回 松平忠利の日記の講読、その9(時間があまれば町触を読む) 第12回 松平忠利の日記の講読、その10(時間があまれば町触を読む) 第13回 松平忠利の日記の講読、その11(時間があまれば町触を読む) 第14回 松平忠利の日記の講読、その12(時間があまれば町触を読む) 第15回 まとめ	

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の歴史 鎖国

著者: 朝尾直弘

出版社: 小学館

出版年: 1975年

ISBN:

日本の歴史 江戸開幕

著者: 藤井譲治

出版社: 集英社

出版年: 1992年

ISBN:

日本の歴史 天下泰平

著者: 横田冬彦

出版社: 講談社

出版年: 2002年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (15)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <*D>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の史料を読む

授業の到達目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う・

授業の概要

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

内 容

- 第1回 史料購読の方法
- 第2回 幕末という時代についての説明
- 第3回 京都の幕末・維新についての説明
- 第4回 (史料)「池田屋事件」
- 第5回 (史料)「禁門の変」
- 第6回 (史料)「安政の大獄」
- 第7回 (史料)「薩長盟約」
- 第8回 (史料)「大政奉還」
- 第9回 (史料)「王政復古の大号令」
- 第10回 (史料)「鳥羽・伏見の戦い」
- 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
- 第12回 (史料)「大坂遷都の建白」
- 第13回 (史料)「琵琶湖疏水」(1)
- 第14回 (史料)「琵琶湖疏水」(2)
- 第15回 明治の京都についてのまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ〈*B〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

授業の到達目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の概要

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

準備学習(予習・復習)

史料について、予習と復習をおこなうこと。この時代に関しては多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

内 容

第1回 授業解説

第2回 百練抄の講読(1)

第3回 百練抄の講読(2)

第4回 百練抄の講読(3)

第5回 百練抄の講読(4)

第6回 百練抄の講読(5)

第7回 百練抄の講読(6)

第8回 百練抄の講読(7)

第9回 百練抄の講読(8)

第10回 百練抄の講読(9)

第11回 百練抄の講読(10)

第12回 百練抄の講読(11)

第13回 百練抄の講読(12)

第14回 百練抄の講読(13)

第15回 百練抄の講読(14)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

鎌倉幕府

著者: 石井進

出版社: 中央公論社

出版年: 2004(初出1966)

ISBN:

源平の盛衰

著者: 上横手雅敬

出版社: 講談社

出版年: 1997(初出1969)

ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ

著者: 川合康

出版社: 講談社

出版年: 1996

ISBN:

後白河法皇

著者： 棚橋光男

出版社： 講談社

出版年： 1995

ISBN:

源義経

著者： 元木泰雄

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2007

ISBN:

日本の時代史7 院政の展開と内乱

著者：

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <*C>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の概要

徳川政権期の幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記・町触など)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料等に慣れ親しんで欲しい。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
- 第2回 テキストに関する概説
- 第3回 松平忠利の日記の講読、その1(時間があまれば町触を読む)
- 第4回 松平忠利の日記の講読、その2(時間があまれば町触を読む)
- 第5回 松平忠利の日記の講読、その3(時間があまれば町触を読む)
- 第6回 松平忠利の日記の講読、その4(時間があまれば町触を読む)
- 第7回 松平忠利の日記の講読、その5(時間があまれば町触を読む)
- 第8回 松平忠利の日記の講読、その6(時間があまれば町触を読む)
- 第9回 松平忠利の日記の講読、その7(時間があまれば町触を読む)
- 第10回 松平忠利の日記の講読、その8(時間があまれば町触を読む)
- 第11回 松平忠利の日記の講読、その9(時間があまれば町触を読む)
- 第12回 松平忠利の日記の講読、その10(時間があまれば町触を読む)
- 第13回 松平忠利の日記の講読、その11(時間があまれば町触を読む)
- 第14回 松平忠利の日記の講読、その12(時間があまれば町触を読む)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の歴史 鎖国

著者: 朝尾直弘

出版社: 小学館

出版年: 1975年

ISBN:

日本の歴史 江戸開幕

著者: 藤井譲治

出版社: 集英社

出版年: 1992年

ISBN:

日本の歴史 天下泰平

著者: 横田冬彦

出版社: 講談社

出版年: 2002年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (15)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <*D>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の史料を読む

授業の到達目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う・

授業の概要

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

内 容

- 第1回 史料購読の方法
- 第2回 幕末という時代についての説明
- 第3回 京都の幕末・維新についての説明
- 第4回 (史料)「池田屋事件」
- 第5回 (史料)「禁門の変」
- 第6回 (史料)「安政の大獄」
- 第7回 (史料)「薩長盟約」
- 第8回 (史料)「大政奉還」
- 第9回 (史料)「王政復古の大号令」
- 第10回 (史料)「鳥羽・伏見の戦い」
- 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
- 第12回 (史料)「大坂遷都の建白」
- 第13回 (史料)「琵琶湖疏水」(1)
- 第14回 (史料)「琵琶湖疏水」(2)
- 第15回 明治の京都についてのまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

英文史料ならびに重要論文の精読1

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料(英文)を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料は、Weidenfeld and Nicolson 社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料から選択し、各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。最近の重要論文に関しては受講生の関心領域に即して選ぶが、全ての論文について全員がしっかり精読し、感想とコメントを用意し、それに基づいてディベートを行う。感想とコメントについては授業時にレポートとして提出する。

準備学習(予習・復習)

テキストの精読、翻訳、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内 容

- 第1回 授業の進め方について(テキストの紹介、受講生各自の関心領域の確認)
- 第2回 英文史料に関して、教員からの講義①
- 第3回 英文史料に関して、教員からの講義②
- 第4回 最近の重要論文に関して講義(研究の視点・手法とは)
- 第5回 ゼミ生報告1回目① 質疑応答
- 第6回 ゼミ生報告1回目② 質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告1回目③ 質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告1回目④ 質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告1回目⑤ 質疑応答
- 第10回 論文についての感想、コメント① 全員ディベート
- 第11回 論文についての感想、コメント② 全員ディベート
- 第12回 論文についての感想、コメント③ 全員ディベート
- 第13回 論文についての感想、コメント④ 全員ディベート
- 第14回 論文についての感想、コメント⑤ 全員ディベート
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

こちらで用意する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

各自が検索

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅠ〈*B〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 小野 浩	
テーマ 中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表	
授業の到達目標 中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。	
授業の概要 扱う地域・時代ともにきわめて広範に亘り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照)、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。 第3回 報告②と質疑 第4回 報告③と質疑 第5回 報告④と質疑 第6回 報告⑤と質疑 第7回 報告⑥と質疑 第8回 報告⑦と質疑 第9回 報告⑧と質疑 第10回 報告⑨と質疑 第11回 報告⑩と質疑 第12回 報告⑪と質疑 第13回 報告⑫と質疑 第14回 報告⑬と質疑 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	
履修上の注意点	

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

メソポタミア文明入門

著者: 中田一郎

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者: 間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977

ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者: 本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅠ〈*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

Ⅰ 中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ 古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲ それぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習(予習・復習)

授業中に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅰ
 第2回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅱ
 第3回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅲ
 第4回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅠ—資料から何を讀みとるかを考える
 第5回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅡ—資料から何を讀みとるかを考える
 第6回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅢ—資料から何を讀みとるかを考える
 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。授業中に中国関係の遺物または博物館所蔵品を三回見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

英文史料ならびに重要論文の精読

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料(英文)を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料は、Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料から選択し、各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。最近の重要論文に関しては受講生の関心領域に即して選ぶが、全ての論文について全員がしっかり精読し、感想とコメントを用意し、それに基づいてディベートを行う。感想とコメントについては授業時にレポートとして提出する。

準備学習(予習・復習)

テキストの精読、翻訳、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内 容

第1回 英文史料に関して、教員からの講義①

第2回 英文史料に関して、教員からの講義②

第3回 最新研究論文についての紹介①

第4回 最新研究論文についての紹介②

第5回 ゼミ生報告1回目-① 質疑応答

第6回 ゼミ生報告1回目-② 質疑応答

第7回 ゼミ生報告1回目-③ 質疑応答

第8回 ゼミ生報告1回目-④ 質疑応答

第9回 ゼミ生報告1回目-⑤ 質疑応答

第10回 論文についての感想、コメント① 全員ディベート

第11回 論文についての感想、コメント② 全員ディベート

第12回 論文についての感想、コメント③ 全員ディベート

第13回 論文についての感想、コメント④ 全員ディベート

第14回 論文についての感想、コメント⑤ 全員ディベート

第15回 まとめ

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

前期と同じ

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

各自が検索

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ <*B>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照)、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。
 第3回 報告②と質疑
 第4回 報告③と質疑
 第5回 報告④と質疑
 第6回 報告⑤と質疑
 第7回 報告⑥と質疑
 第8回 報告⑦と質疑
 第9回 報告⑧と質疑
 第10回 報告⑨と質疑
 第11回 報告⑩と質疑
 第12回 報告⑪と質疑
 第13回 報告⑫と質疑
 第14回 報告⑬と質疑
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

メソポタミア文明入門

著者: 中田一郎

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者: 間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977

ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者: 本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ <*C>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

I 中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。II 古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。III それぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
 第2回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
 第3回 中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
 第4回 中国歴史に関する発表の形式について説明する。
 第5回 これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
 第6回 これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者： 砺波護ほか編

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミ I <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)の専門研究への入門

授業の到達目標

専門的な現代史(ヨーロッパ・アメリカ)研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の概要

西洋史学(近現代)の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書以外の現代史関係の書物をできるだけ読むこと

内 容

- 第1回 歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
- 第2回 現代史(西洋史)研究へのイントロダクション
- 第3回 現代の世界(1)
- 第4回 現代の世界(2)
- 第5回 現代の世界(3)
- 第6回 西洋近代史概説(1)
- 第7回 西洋近代史概説(2)
- 第8回 西洋近代史概説(3)
- 第9回 西洋近代史概説(4)
- 第10回 西洋現代史概説(1)
- 第11回 西洋現代史概説(1)
- 第12回 西洋現代史概説(2)
- 第13回 西洋現代史概説(3)
- 第14回 西洋現代史概説(4)
- 第15回 まとめ・発表

履修上の注意点

積極的な質問・発言が重要

教科書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001年

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者: 福井憲彦

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2005年

ISBN:

20世紀の歴史

著者: 木畑洋一

出版社: 岩波新書

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミⅡ <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 久保田 裕次

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)の専門研究への入門

授業の到達目標

専門的な現代史(ヨーロッパ・アメリカ)研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の概要

西洋史学(近現代)の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書以外の現代史関係の書物をできるだけ読むこと

内 容

- 第1回 歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
- 第2回 現代史(西洋史)研究へのイントロダクション
- 第3回 現代の世界(1)
- 第4回 現代の世界(2)
- 第5回 現代の世界(3)
- 第6回 西洋近代史概説(1)
- 第7回 西洋近代史概説(2)
- 第8回 西洋近代史概説(3)
- 第9回 西洋近代史概説(4)
- 第10回 西洋現代史概説(1)
- 第11回 西洋現代史概説(1)
- 第12回 西洋現代史概説(2)
- 第13回 西洋現代史概説(3)
- 第14回 西洋現代史概説(4)
- 第15回 まとめ・発表

履修上の注意点

積極的な質問・発言が重要

教科書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001年

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者: 福井憲彦

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2005年

ISBN:

20世紀の歴史

著者: 木畑洋一

出版社: 岩波新書

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世) <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

古代中世の古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。

授業の概要

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、続いて各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。機会があれば、古文書の実物に触れることを目的とした博物館見学などの課外学習を実施する予定である。なお、この講義はくずし字の解説が主ではないので注意。

準備学習(予習・復習)

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

内 容

第1回	概説①	古文書とは？ 古文書学とは？
第2回	概説②	古文書の伝来
第3回	概説③	古文書学用語の基礎知識
第4回	概説④	古文書の分類
第5回	古文書の様式 I	公式様文書(1)
第6回	古文書の様式 I	公式様文書(2)
第7回	古文書の様式 II	公家様文書(1)
第8回	古文書の様式 II	公家様文書(2)
第9回	古文書の様式 II	公家様文書(3)
第10回	古文書の様式 II	公家様文書(4)
第11回	古文書の様式 II	公家様文書(5)
第12回	古文書の様式 II	公家様文書(6)
第13回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第14回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

古文書の解説については、予習・復習を前提とする。なお、本科目では、史料読解に不可欠な漢文の基礎学力の向上も目指しているため、各回とも出席が望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（70）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（10）

单元ごとに確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

2015 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

古代中世の古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。

授業の概要

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、続いて各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。機会があれば、古文書の実物に触れることを目的とした博物館見学などの課外学習を実施する予定である。なお、この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

準備学習(予習・復習)

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

内 容

第1回	概説①	古文書とは？ 古文書学とは？
第2回	概説②	古文書の伝来
第3回	概説③	古文書学用語の基礎知識
第4回	概説④	古文書の分類
第5回	古文書の様式 I	公式様文書(1)
第6回	古文書の様式 I	公式様文書(2)
第7回	古文書の様式 II	公家様文書(1)
第8回	古文書の様式 II	公家様文書(2)
第9回	古文書の様式 II	公家様文書(3)
第10回	古文書の様式 II	公家様文書(4)
第11回	古文書の様式 II	公家様文書(5)
第12回	古文書の様式 II	公家様文書(6)
第13回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第14回	古文書の様式 III	その他の文書・荘園編
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

古文書の解読については、予習・復習を前提とする。なお、本科目では、史料読解に不可欠な漢文の基礎学力の向上も目指しているため、各回とも出席が望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（70）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（10）

单元ごとに確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

2015 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世) <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の概要

最初は前期の復習を兼ねた概説の講義を行い、その後、各時代および各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。

準備学習(予習・復習)

前期の復習、特に公家様文書の特徴を確認した上で、後期の授業に臨んでほしい。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の文書	寺家文書(1)
第14回	その他の文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

前期同様、授業以外でも、各自古文書に触れる機会を作る。機会があれば、実物の古文書に触れることを目的とした博物館学習などの課外授業も行う予定である。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版

出版年: 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

2015 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の概要

最初は前期の復習を兼ねた概説の講義を行い、その後、各時代および各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。

準備学習(予習・復習)

前期の復習、特に公家様文書の特徴を確認した上で、後期の授業に臨んでほしい。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の文書	寺家文書(1)
第14回	その他の文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

履修上の注意点

前期同様、授業以外でも、各自古文書に触れる機会を作る。機会があれば、実物の古文書に触れることを目的とした博物館学習などの課外授業も行う予定である。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版

出版年: 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者: 日本歴史学会

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

2015 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世) <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 牧 知宏

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世の古文書に記されたくずし字を読み解くための基礎的能力を身につけることを目的とします。

授業の概要

授業では、事前に配布した古文書のコピーを読み進めていきます。主に近世の京都に関する古文書を取りあげ、古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、その字体や文章について学習します。なお、必要に応じて学外授業を実施することがあります。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。とくに読めなかった字をなぞって何度も書いてみるのが大切です。できるだけ博物館や美術館などへ足を運び、古文書の実物に接するようにして下さい。

内 容

- 第1回 ガイダンス 日本近世の古文書とは
- 第2回 古文書・くずし字の基礎知識
- 第3回 初級のくずし字(ひらがな)を読む1
- 第4回 初級のくずし字(ひらがな)を読む2
- 第5回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む1
- 第6回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む2
- 第7回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む3
- 第8回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む4
- 第9回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む5
- 第10回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む1
- 第11回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む2
- 第12回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む3
- 第13回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む4
- 第14回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む5
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

逐次紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (15%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20%)

参加度 (25%)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいてください。

2015 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 蔭山 兼治		
テーマ 日本近世の古文書		
授業の到達目標 日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。		
授業の概要 日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文章について学習する。また、古文書の内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。授業は、事前に配付したテキスト(古文書のコピー)を読んでいく。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。		
準備学習(予習・復習) 古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切である。予習では、配布されたテキスト(古文書のコピー)をノートに翻刻し、書き下しと現代語訳を作成すること。復習では、授業で学んだ箇所を確認し、声に出して何度も読み上げること。また、博物館や資(史)料館などを訪れて、日頃から古文書の原物や写真を見ることで古文書に親しむようにしてもらいたい。		
内 容 第1回 古文書とくずし字(1) 第2回 古文書とくずし字(2) 第3回 古文書とくずし字(3) 第4回 数字・単位を読む(1) 第5回 数字・単位を読む(2) 第6回 仮名の解読(1) 第7回 仮名の解読(2) 第8回 仮名の解読(3) 第9回 地名の解読(1) 第10回 地名の解読(2) 第11回 人名などの解読(1) 第12回 人名などの解読(1) 第13回 古文書の解読(1) 第14回 古文書の解読(2) 第15回 総括		
履修上の注意点		
教科書		
参考書 くずし字用例辞典 著者： 児玉幸多編 出版社： 東京堂出版 出版年： 1993 ISBN:		
くずし字解読辞典 著者： 児玉幸多編 出版社： 東京堂出版 出版年： 1993 ISBN:		
成績評価 試験 (40) 小テスト (40) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 牧 知宏

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

くずし字で書かれた日本近世の古文書を読み解き、文章の内容を把握するための能力を身につけることを目的とします。

授業の概要

授業では、事前に配布した古文書のコピーを読み進めていきます。日本近世のさまざまなタイプの古文書を取りあげ、古文書特有の文章表現に関する基本的な知識を得るとともに、くずし字や文章内容を読み解く方法について学習します。なお、必要に応じて学外授業を実施することがあります。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。とくに声を出しながら何度も読むことが大切です。できるだけ博物館や美術館などへ足を運び、古文書の実物にも慣れ親しんで下さい。

内 容

- 第1回 日本近世の古文書の文章に関する基礎知識
- 第2回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む1
- 第3回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む2
- 第4回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む3
- 第5回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む1
- 第6回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む2
- 第7回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む1
- 第8回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む2
- 第9回 近世の古文書(村に関する文書)を読む1
- 第10回 近世の古文書(村に関する文書)を読む2
- 第11回 近世の古文書(村に関する文書)を読む3
- 第12回 近世の古文書(町に関する文書)を読む1
- 第13回 近世の古文書(町に関する文書)を読む2
- 第14回 近世の古文書(町に関する文書)を読む3
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

逐次紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (45%)

小テスト (10%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20%)

参加度 (25%)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいて下さい。

2015 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)〈b〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 蔭山 兼治

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世の古文書を解読し、その内容を把握することを目的とする。

授業の概要

日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文章について学習する。また、古文書の内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。授業は、事前に配付したテキスト(古文書のコピー)を読んでいく。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切である。予習では、配布されたテキスト(古文書のコピー)をノートに翻刻し、書き下しと現代語訳を作成すること。復習では、授業で学んだ箇所を確認し、声に出して何度も読み上げること。また、博物館や資(史)料館などを訪れて、日頃から古文書の原物や写真を見ることで古文書に親しむようにしてもらいたい。

内 容

- 第1回 古文書で使用する熟語・表現(1)
- 第2回 古文書で使用する熟語・表現(2)
- 第3回 古文書で使用する熟語・表現(3)
- 第4回 古文書で使用する熟語・表現(4)
- 第5回 古文書の解読(1)村方・町方文書
- 第6回 古文書の解読(2)村方・町方文書
- 第7回 古文書の解読(3)村方・町方文書
- 第8回 古文書の解読(4)村方・町方文書
- 第9回 古文書の解読(5)村方・町方文書
- 第10回 古文書の解読(6)村方・町方文書
- 第11回 古文書の解読(7)武家文書
- 第12回 古文書の解読(8)武家文書
- 第13回 古文書の解読(9)武家文書
- 第14回 古文書の解読(10)その他
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

くずし字解読辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 出土文字資料論 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 増淵 徹		
テーマ	出土文字資料から考える遺跡と歴史像	
授業の到達目標	木簡・墨書土器・刻書瓦・金石文など、文書・典籍のような通常とは異なる文字資料(多くは出土文字資料)の研究上の位置づけを理解するとともに、それらの適切な解釈を加えた歴史学研究についての基本的な方法論を理解することを目的とする。	
授業の概要	出土文字資料の性格と特性についての概括的知識を前提に、都城・官衙・寺院・荘園などの具体的遺跡をとりあげ、そこからの出土文字資料の解説及びそこから考察を中心に授業を進める。なお、機会があれば、1回程度、資料館または遺跡の見学を行いたい。	
準備学習(予習・復習)	遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。	
内 容	第1回 歴史研究の素材としての出土文字資料の位置づけ 第2回 出土文字資料の素材と特性 第3回 都宮跡の出土文字資料(1) 第4回 都宮跡の出土文字資料(2) 第5回 地方官衙遺跡の出土文字資料(1) 第6回 地方官衙遺跡の出土文字資料(2) 第7回 地方官衙遺跡の出土文字資料(3) 第8回 地方官衙遺跡の出土文字資料(4) 第9回 国分寺の出土文字資料(1) 第10回 国分寺と出土文字資料(2) 第11回 初期荘園遺跡の出土文字資料(1) 第12回 初期荘園遺跡の出土文字資料(2) 第13回 生産・流通の拡大と出土文字資料 第14回 碑文が語るもの 第15回 出土文字資料と歴史の実像	
履修上の注意点		
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 出土文字資料論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 要開講(2014年度休講)	クラス指定
担当者 渡辺 晃宏	
テーマ	
木簡を中心とする出土文字資料の特質や遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像	
授業の到達目標	
歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。	
授業の概要	
具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。	
準備学習(予習・復習)	
木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。	
内 容	
第1回	木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第2回	木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第3回	代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第4回	代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第5回	代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第6回	長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第7回	長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第8回	長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第9回	735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第10回	735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第11回	735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第12回	西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
第13回	国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第14回	国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第15回	中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

適宜プリントなどを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

- 出版年： 2010 ISBN: 978-4004312567
木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者： 東野治之
出版社： 岩波書店
出版年： 1983 ISBN: 978-4004202318
平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者： 渡辺晃宏
出版社： 講談社
出版年： 2009 ISBN: 978-4062919043
平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く
著者： 渡辺晃宏
出版社： 柏書房
出版年： 2010 ISBN: 978-4760137404
日本古代木簡選
著者： 木簡学会
出版社： 岩波書店
出版年： 1990 ISBN: 978-4000016803
日本古代木簡集成
著者： 木簡学会
出版社： 東京大学出版会
出版年： 2003 ISBN: 978-4130201360
〈歴史の証人〉木簡を究める
著者： 奈良文化財研究所
出版社： クバプロ
出版年： 2014 ISBN: 978-4878051340

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

試験はレポートによる場合もある。

2015 Syllabus

科目名 古文書学C I (近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 古文書学B I (近世)またはB II (近世)を修得済みであること、または同等以上の者

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

上級・中級の古文書(1)

授業の到達目標

くずし字を読み解く能力を高める。

授業の概要

この科目は、学部2回生・3回生・4回生のうち、大学院進学を考えている学生やくずし字を学ぶことが好きな学生のために、開講されている科目であり、古文書学A I・A II・B I・B IIのうち2科目を履修しないと、履修することができない科目である。テキストに用いているのは、くずし字で書かれた中近世の古文書・編纂物の写真などである。なお、夏季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。また、できれば『くずし字用例辞典』(東京堂出版)を購入して欲しい。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習・復習を行うことが大切である。とくに古文書は声を出しながら何度も読むこと、読めない字を何度も書くことは大事であろう。また活字化された多くの文献史料にできるだけ目を通すことも大事と考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書の解読、その1
- 第3回 古文書の解読、その2
- 第4回 古文書の解読、その3
- 第5回 編纂物の解読、その1
- 第6回 編纂物の解読、その2
- 第7回 編纂物の解読、その3
- 第8回 編纂物の解読、その4
- 第9回 編纂物の解読、その5
- 第10回 編纂物の解読、その6
- 第11回 編纂物の解読、その7
- 第12回 編纂物の解読、その8
- 第13回 編纂物の解読、その9
- 第14回 本学所蔵文書の熟覧
- 第15回 まとめ(学外の資料館・博物館見学を行う場合がある)

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

江戸時代の古文書を読む(全10冊)

著者: 徳川林政史研究所監修

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 2002年~2012年

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 古文書学CⅡ(近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 古文書学CⅠ(近世)を修得済み、または同等以上の者

クラス指定

担当者 谷 徹也

テーマ

上級・中級の古文書(2)

授業の到達目標

日本近世・近代の古文書に記されたくずし字の読解能力を高めることを目的とします。

授業の概要

日本近世・近代の古文書を読み進め、時代や書き手ごとの特徴の違いを抑えます。その文書が書かれた時代背景を知ること、くずし字に慣れ親しむことができるでしょう。

準備学習(予習・復習)

授業で扱った文書で読めなかった文字は必ず復習してください。また、授業で扱わなかった文書についても、任意課題として各自学習することを推奨します。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦国時代の古文書①
- 第3回 戦国時代の古文書②
- 第4回 織豊期の古文書①
- 第5回 織豊期の古文書②
- 第6回 江戸時代の古文書①
- 第7回 江戸時代の古文書②
- 第8回 江戸時代の古文書③
- 第9回 江戸時代の古文書④
- 第10回 江戸時代の古文書⑤
- 第11回 幕末維新期の古文書①
- 第12回 幕末維新期の古文書②
- 第13回 明治時代の古文書①
- 第14回 明治時代の古文書②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多編

出版社: 東京堂出版

出版年: 1993

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト (15)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (25)

2015 Syllabus

科目名 日本史特講a(古代史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北 啓太

テーマ

正倉院と奈良時代の政治社会

授業の到達目標

古代史研究の水準を知り、史料に立脚して歴史過程を理解する。また奈良時代史の知識を深め、あわせて現代に伝存する文物を歴史との関連で理解する。

授業の概要

正倉院とその宝物は日本の文化史上有名であるが、古代の歴史を理解するうえで重要な存在といえることができる。まず正倉院宝物の由来について歴史的背景のもとに基本を学び、ついで関係の深い奈良時代を中心とした歴史を既往の研究や主要な史料を検討しながら考察する。

準備学習(予習・復習)

資料を配布することがあるので、自身のノートとともに授業後によく復習すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 正倉の構造
- 第3回 宝物の由来①
- 第4回 宝物の由来②
- 第5回 宝物の由来③
- 第6回 宝物の由来④
- 第7回 大宝律令の成立と聖武天皇の誕生
- 第8回 皇位継承の問題
- 第9回 遣唐使と対外使節
- 第10回 聖武朝初期の動向①
- 第11回 聖武朝初期の動向②
- 第12回 藤原広嗣の乱①
- 第13回 藤原広嗣の乱②
- 第14回 国家仏教と大仏開眼
- 第15回 おわりに 皇統の行方

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正倉院

著者: 杉本一樹

出版社: 中公新書

出版年: 2008年

ISBN:

日本の歴史04 平城京と木簡の世紀

著者: 渡辺晃宏

出版社: 講談社学術文庫

出版年: 2009年

ISBN:

正倉院美術館

著者:

出版社: 講談社

出版年: 2009年

ISBN:

岩波講座日本歴史3 古代3

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 2014年

ISBN:

新日本古典文学大系 続日本紀1~5

著者:

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

その他、随時授業中に提示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

小テストは2回程度実施予定。

2015 Syllabus

科目名 **日本史特講b(古代史)**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北 啓太

テーマ

正倉院からみた奈良平安時代の政治と文化

授業の到達目標

歴史学研究の水準を知り、史料に立脚して歴史を理解するとともに、古代史における政治と文化の関わりについて知識を深める。

授業の概要

正倉院宝物は古代に東大寺へ献納されたものを中核とし、その成立・伝来において政治の動向と関わりを持っている。正倉院とその多彩な宝物を足がかりにして、史料に基づきながら奈良時代中期以降平安時代末期までの政治と文化の問題を考察する。

準備学習(予習・復習)

資料を配布することがあるので、自身のノートとともに授業後によく復習すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 献物帳と奈良時代中期の政治権力①
- 第3回 献物帳と奈良時代中期の政治権力②
- 第4回 献物帳の諸問題①
- 第5回 献物帳の諸問題②
- 第6回 宝物献納の意義①
- 第7回 宝物献納の意義②
- 第8回 奈良時代後期の政治と正倉院①
- 第9回 奈良時代後期の政治と正倉院②
- 第10回 平安遷都
- 第11回 平安時代の正倉院①
- 第12回 平安時代の正倉院②
- 第13回 平安時代の寺院宝蔵と政治権力①
- 第14回 平安時代の寺院宝蔵と政治権力②
- 第15回 おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正倉院の歴史

著者: 橋本義彦

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1997年

ISBN:

正倉院と日本文化

著者: 米田雄介

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1998年

ISBN:

正倉院

著者: 杉本一樹

出版社: 中公新書

出版年: 2008年

ISBN:

その他、随時授業中に提示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 70 ）

参加度（ 30 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

2015 Syllabus

科目名 日本史特講c(中世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐伯 智広

テーマ

日本史上における古代から中世への移行

授業の到達目標

1 日本の中世の特質と、その始まりについて理解し、説明することができるようになる。2 歴史学の方法論について理解し、応用することができるようになる。3 歴史についての思索を深め、価値判断を下すことができるようになる。

授業の概要

本講義では、日本の中世の歴史について、講義形式で考えます。……そもそも、中世とはなんでしょう？その歴史について考えることは、現代に生きる我々にとってどのような意味があるのでしょうか？そのことについては、講義の中でおいおい考えていきます。今この時点ではっきり言えるのは、「過去は現代の我々と切り離されたものであると同時に、連続するものでもあり、それゆえに知る価値がある。」ということです。それがいったいどういうことなのか、気になるみなさんの受講を歓迎します。

準備学習(予習・復習)

平常の課題として、予習シートを課し、各回のキーワードについて、あらかじめ辞書類で調べてきてもらいます(15分程度)。また、講義の前には、前回の講義の内容を復習しておくことが望ましいです(15分程度)。

内 容

- 第1回 イントロダクション 時代を分けるということ
- 第2回 「皇位継承と政治形態」1 摂関政治
- 第3回 「皇位継承と政治形態」2 院政
- 第4回 「皇位継承と政治形態」3 公武統一政権の成立
- 第5回 「武士の成立」1 職業軍人の時代
- 第6回 「武士の成立」2 「兵」の登場
- 第7回 「武士の成立」3 「武者」の世と地方の時代
- 第8回 「武士の成立」4 武士政権成立の道
- 第9回 「荘園と土地所有」1 土地「私有」の歴史
- 第10回 「荘園と土地所有」2 「荘園」の時代
- 第11回 「荘園と土地所有」3 「荘園制」の時代
- 第12回 「仏教と中世社会」1 八宗体制の成立
- 第13回 「仏教と中世社会」2 末法思想と浄土教
- 第14回 「仏教と中世社会」3 「鎌倉新仏教」とは何か
- 第15回 まとめ 中世社会と現代

履修上の注意点

講義は板書形式で進みます。板書を書き写すためのノート類を持参してください。私語など、講義の進行を妨げる行為を行い、教員の指導に従わない場合、成績上の減点を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義内で適宜示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験はレポート形式です。

2015 Syllabus

科目名 日本史特講d(中世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐伯 智広

テーマ

日本史上における中世から近世への移行

授業の到達目標

1 日本の中世の特質と、その終わりについて理解し、説明することができるようになる。2 歴史学の方法論について理解し、応用することができるようになる。3 歴史についての思索を深め、価値判断を下すことができるようになる。

授業の概要

本講義では、日本の中世の歴史について、講義形式で考えます。……そもそも、中世とはなんでしょう？その歴史について考えることは、現代に生きる我々にとってどのような意味があるのでしょうか？そのことについては、講義の中でおいおい考えていきます。今この時点ではっきり言えるのは、「過去は現代の我々と切り離されたものであると同時に、連続するものでもあり、それゆえに知る価値がある。」ということです。それがいったいどういうことなのか、気になるみなさんの受講を歓迎します。

準備学習(予習・復習)

平常の課題として、予習シートを課し、各回のキーワードについて、あらかじめ辞書類で調べてきてもらいます(15分程度)。また、講義の前には、前回の講義の内容を復習しておくことが望ましいです(15分程度)。

内 容

- 第1回 日本中世の特質
- 第2回 室町幕府の政治体制
- 第3回 室町幕府の崩壊
- 第4回 自治の時代
- 第5回 織田信長と「天下」 その1
- 第6回 織田信長と「天下」 その2
- 第7回 豊臣秀吉と「惣無事」 その1
- 第8回 豊臣秀吉と「惣無事」 その2
- 第9回 室町幕府の宗教政策
- 第10回 室町時代の浄土真宗・日蓮宗
- 第11回 織豊政権の宗教政策 その1
- 第12回 織豊政権の宗教政策 その2
- 第13回 中世の商工業
- 第14回 織豊政権の商工業政策
- 第15回 日本中世の終焉

履修上の注意点

講義は板書形式で進みます。板書を書き写すためのノート類を持参してください。私語など、講義の進行を妨げる行為を行い、教員の指導に従わない場合、成績上の減点を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義内で適宜示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験はレポート形式です。

2015 Syllabus

科目名 日本史特講e(近世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

16世紀～19世紀の京都史

授業の到達目標

16世紀～19世紀の日本列島史、とくに京都史に関する基礎的知識を身につける。

授業の概要

京都の城館(室町将軍の御所・聚楽第・伏見城・二条城など)や禁裏(天皇の御所、今の京都御所周辺に存在)を軸に据えて、戦国期以降の日本列島、とくに京都周辺の変遷を説明する。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・城館概論
- 第2回 戦国期・織田政権期の京都の城館
- 第3回 豊臣政権期の京都の城館
- 第4回 御土居と淀川治水
- 第5回 徳川政権期の京都の城館
- 第6回 幕末維新期の京都の城館
- 第7回 大坂城概論
- 第8回 江戸城概論
- 第9回 戦国期・織豊政権期の禁裏
- 第10回 徳川政権期の禁裏、その1
- 第11回 徳川政権期の禁裏、その2
- 第12回 徳川政権期の禁裏、その3
- 第13回 幕末維新期の禁裏
- 第14回 近代の京都御所
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の時代史(全30冊)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002年～2004年

ISBN:

日本の歴史(全25冊)

著者:

出版社: 講談社学術文庫

出版年: 2008年～2010年

ISBN:

日本の歴史全集(全17冊)

著者:

出版社: 小学館

出版年: 2007年～2009年

ISBN:

日本中世の歴史(全7冊)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2009年

ISBN:

日本近世の歴史(全6冊)

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011年~2013年

ISBN:

京都府の歴史

著者: 朝尾直弘ほか

出版社: 山川出版社

出版年: 2010年

ISBN:

シリーズ日本近世史(全5冊)

著者: 藤井譲治ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史特講f(近世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

16・17世紀研究入門

授業の到達目標

16・17世紀(織豊政権期・徳川政権期)に関する基礎的な知識や、文献史料に基づいて歴史研究を行うための初歩的な能力を身につける。

授業の概要

16・17世紀の文献史料のうち、活字化された史料などをもとに講義を進める。なお、1、漢文史料が読めないといけない講義であること、2、以下に示す講義計画があくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じる場合があること、3、授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポート作成を課題として課すこと、を予め付記しておく。

準備学習(予習・復習)

1、配布する文献史料の復習を怠らないこと。2、博物館・美術館などへ足を運び、くずし字で書かれた史料や絵画資料などに慣れ親しむこと。3、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦国期・織田政権期の武家文書
- 第3回 豊臣政権期の武家文書
- 第4回 徳川政権期の武家文書、その1
- 第5回 徳川政権期の武家文書、その2
- 第6回 近江甲賀郡中惣概論
- 第7回 近世前期の甲賀の城館
- 第8回 近世前期の甲賀の所領構成
- 第9回 織田政権期の政治過程
- 第10回 秀吉の江北領支配
- 第11回 秀吉の山陰出兵と軍律掟書
- 第12回 清須会議前後の政治過程
- 第13回 小牧・長久手の合戦
- 第14回 天正十年代初頭の秀吉検地
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

太閤の手紙

著者: 桑田忠親

出版社: 講談社学術文庫

出版年:

ISBN: 2006年

武田信玄と勝頼

著者: 鴨川達夫

出版社: 岩波新書

出版年:

ISBN: 2007年

戦国のコミュニケーション

著者: 山田邦明

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN: 2011年

織豊期主要人物居所集成

著者： 藤井讓治編

出版社： 思文閣出版

出版年：

ISBN: 2011年

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 日本女性史特講 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
- 第2回 都城の変遷と女性の生活
- 第3回 律令制下の女性の地位
- 第4回 平安京の成立
- 第5回 女房としての紫式部
- 第6回 平安女性の財産相続権
- 第7回 平氏政権下の女性
- 第8回 院政期の女院と女房
- 第9回 武士の登場・武士の女性
- 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
- 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
- 第12回 北条政子の生涯とその役割
- 第13回 南北朝期の女性の地位変化
- 第14回 日野重子と日野富子
- 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって

履修上の注意点

教科書

参考書

日本女性史

著者: 脇田・林・永原編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1987

ISBN:

乳母の力

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者: 田端泰子著

出版社: 塙書房

出版年: 1994

ISBN:

北政所おね

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本女性史特講Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①淀殿
- 第2回 戦国～織豊期の女性②利家正室まつ
- 第3回 おあんが語る戦国時代
- 第4回 大阪城の女房おきくの落城体験
- 第5回 江戸幕府の成立と女性
- 第6回 春日局の一生とその役割
- 第7回 江戸時代の農村女性の生活
- 第8回 江戸時代の商家の女性
- 第9回 明治維新とは
- 第10回 大正デモクラシーと女性
- 第11回 戦時中の生活変化と女性の役割
- 第12回 戦後改革と女性
- 第13回 現代社会の女性の地位変化
- 第14回 日本女性史の課題
- 第15回 まとめと記述式試験

履修上の注意点

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN:

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN:

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

最終日に試験を行います。

2015 Syllabus

科目名 近現代史特講a(日本)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 長 志珠絵

テーマ

ジェンダー射程で読み替える日本の近現代史

授業の到達目標

歴史学において文化的社会的性差としてのジェンダー概念による事例研究は蓄積を持つ。ジェンダー射程を用いることでどのような新たな歴史像が描けるか、日本の近代国家～帝国形成をジェンダー射程で読み解くことで多様なものの見方を獲得するとともに、講義内容に対し、コメントを書く力をつけることもあわせて目指す。

授業の概要

ジェンダー射程とトピックを用いながら19-20世紀日本の近代国民国家を考える。

準備学習(予習・復習)

参考文献に目を通す。配布レジュメを確認する。

内 容

- 第1回 講義の狙い、全体構想、成績評価等ガイダンス
- 第2回 文明開化を考える(日本人論1)
- 第3回 立身出世とジェンダー(近代国民国家と学ぶこと1)
- 第4回 政治革命と女性性/男性性(近代国民国家と政治1)
- 第5回 モデルとしての近代家族(近代国民国家と政治2)
- 第6回 身体の管理-兵士になる(社会の軍事化1)
- 第7回 国民化とジェンダー(近代国民国家と学ぶこと2)
- 第8回 労働者調査-職事情を読む(近代国民国家と働くこと1)
- 第9回 植民地と生業(近代国民国家と働くこと2)
- 第10回 帝国意識とジェンダー;日本の花嫁と武士の娘(日本人論2)
- 第11回 装うことの近代/帝国(近代国民国家と政治3)
- 第12回 戦争と軍隊/地域/管理(社会の軍事化2)
- 第13回 戦争がもたらす線引きのゆらぎ(社会の軍事化3)
- 第14回 戦争がもたらす線引きのゆらぎ(社会の軍事化4)
- 第15回 予備

履修上の注意点

教科書は用いず毎回レジュメ等を配布する。また適宜コメントペーパーを配布、これに適切なコメントを書いて提出することで平常点とする。単純な出席点は原則として存在しない。講義の妨げとなる私語は禁止する。

教科書

参考書

歴史を読み替える-ジェンダーから見た日本史

著者: 久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編

出版社: 大月書店

出版年: 2015

ISBN: 9784272501823

新体系日本史9 ジェンダー史

著者: 大口勇次郎,成田龍一,服藤早苗編

出版社: 山川出版

出版年: 2014

ISBN: 9784634530904

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

上記「成績評価の方法」欄における「小テスト」とは講義期間中に提出を求めるレポートをさす。レポート課題および締め切り概要等は講義中に指示する。授業中課題とは適宜提出を求めるコメントペーパーをさす。コメントペーパー提出率が50パーセントを下回るものについては原則として試験の受験を認めない。

2015 Syllabus

科目名 近現代史特講b(日本)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 文広

テーマ

近世～近代にかけての地域社会を考える

授業の到達目標

近世から近代にかけての地域社会の変容は、現代の私たちの生活を考える上でも基本となる事柄である。そこで、それに関する最新の研究成果を提示することで、歴史学的な物の見方・考え方を養うことに努める。

授業の概要

京都を主たるフィールドとして、具体的な史料を提示しながら、その意味を考える。

準備学習(予習・復習)

配付資料について、授業で十分に理解できなかったところを読み返しておく。

内 容

- 第1回 授業全体の流れと考え方を説明する。また受講生のアンケートを行い、関心の所在を確認する。
 第2回 日本社会と都市の歴史について考える。
 第3回 享保の飢饉をめぐる史料を取り上げ、その意味を考える。
 第4回 天保の飢饉をめぐる史料を取り上げ、その意味を考える。
 第5回 幕末の政治と社会との関係を考える。
 第6回 具体的な作業を通じて、史料解読と地域理解を学ぶ。
 第7回 幕末維新期の都市社会の変容について考える。
 第8回 幕末維新期の史料をめぐって、その解読を試みる。
 第9回 地域社会の担い手となる主要な人物を取り上げ、その人物像を検討する。
 第10回 近代化と地域社会との関係を考える。
 第11回 京都の近代について政治・経済・文化など複合的な物の見方を試みる。
 第12回 通説と史料批判のあり方について、歴史学の方法論を学ぶ。
 第13回 近代京都について政治の流れと社会の変容について考える。
 第14回 授業のまとめと小テスト
 第15回 小テストの講評と授業内容の補足

履修上の注意点

出席状況は重視するので、欠席・遅刻はしないこと。

教科書

参考書

明治維新と京都

著者： 小林文広

出版社： 臨川書店

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席状況は重視する。

2015 Syllabus

科目名 近現代史特講c(世界)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく。近現代史に焦点を当てるが、その前段階として前近代を概観しその上で近現代のヨーロッパの食の歴史を検討していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質(1)
- 第3回 ヨーロッパの食文化の特質(2)
- 第4回 西洋古代の食の歴史
- 第5回 西洋中世の食の歴史
- 第6回 西洋近世の食の歴史(1)
- 第7回 西洋近世の食の歴史(2)
- 第8回 西洋近代の食の歴史(1)
- 第9回 西洋近代の食の歴史(2)
- 第10回 西洋近代の食の歴史(3)
- 第11回 西洋近代の食の歴史(4)
- 第12回 西洋現代の食の歴史(1)
- 第13回 西洋現代の食の歴史(2)
- 第14回 西洋現代の食の歴史(3)
- 第15回 まとめ・総括

履修上の注意点

教科書

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史

著者: 南直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015年

ISBN:

世界の食文化⑩ドイツ

著者: 南直人

出版社: 農文協

出版年: 2003年

ISBN: 978-4540032202

ヨーロッパの食文化

著者: マッシモ・モンターナリ

出版社: 平凡社

出版年: 1999年

ISBN: 978-4582476354

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 近現代史特講d(世界)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

ヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 食の産業化(1)
- 第3回 食の産業化(2)
- 第4回 食の産業化(3)
- 第5回 食に関する知の近代化(1)
- 第6回 食に関する知の近代化(2)
- 第7回 食に関する知の近代化(3)
- 第8回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第9回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第10回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第11回 外食の発達(1)
- 第12回 外食の発達(2)
- 第13回 ベルリンの歴史を歩く(1)
- 第14回 ベルリンの歴史を歩く(2)
- 第15回 ベルリンの歴史を歩く(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史

著者: 南直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015年

ISBN:

世界の食文化⑩ドイツ

著者: 南直人

出版社: 農文協

出版年: 2003年

ISBN: 978-4540032202

ヨーロッパの食文化

著者: マッシモ・モンターナリ

出版社: 平凡社

出版年: 1999年

ISBN: 978-4582476354

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講a(東アジア史 I)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 米田 健志

テーマ

中国史史料論

授業の到達目標

中国史の研究者は、どのような史料(歴史資料)に基づいて研究を進めているのか。四回生になって卒業論文を執筆する際には、諸君は多数の参考論文を読む必要があるが、おそらくそこには聞いたことも無いような様々な史料が引用されているであろう。それに備えて、この授業では中国史の史料に関する基本的な知識の習得をめざす。

授業の概要

プリント等を用いて授業を進める。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された史料については、ぜひ図書館で現物を探して、手にとって見て欲しい。

内 容

- 第1回 史料(歴史資料)とは
- 第2回 史料の分類
- 第3回 中国史史料の柱: 正史(その1)
- 第4回 中国史史料の柱: 正史(その2)
- 第5回 もう一つの柱: 編年体史料(その1)
- 第6回 もう一つの柱: 編年体史料(その2)
- 第7回 骨と甲羅と金属器: 殷周時代
- 第8回 竹と木と: 秦漢時代(その1)
- 第9回 竹と木と: 秦漢時代(その2)
- 第10回 史料案内書
- 第11回 石を建てる埋める: 石刻史料
- 第12回 地域の歴史
- 第13回 社会・政治・経済の諸相
- 第14回 官僚が書いたもの
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

配布したプリント等は過去分も含めて全て授業に持参すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講c(東アジア史Ⅲ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

授業の到達目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱い、中国文明の原像を把握する。

授業の概要

中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年進出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

準備学習(予習・復習)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

内 容

- 第1回 中国文明を理解するためのキーワード総解説
- 第2回 夏文明の問題—考古と文献実証の間
- 第3回 夏文明と殷商文明—青銅器の発展の諸問題
- 第4回 春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
- 第5回 秦代中国統一の諸問題Ⅰ—万里長城の建設の意義
- 第6回 秦代中国統一の諸問題Ⅱ—皇帝陵墓の出現と陪葬俑
- 第7回 漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
- 第8回 漢代の文物制度Ⅱ—蔵書と目録学の出現
- 第9回 漢代の思想と文化Ⅲ—考古資料からみる漢代の信仰
- 第10回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ—仏教の伝来と発展
- 第11回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ—漢訳仏教経典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
- 第12回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ—漢字発展の諸問題
- 第13回 隋唐時代の文化Ⅰ—初唐・盛唐期の仏教文化
- 第14回 隋唐時代の文化Ⅱ—考古学資料からみる唐代の国際関係
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないこと。場合によって、中国関係の遺物、博物館の所蔵品を見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講d(東アジア史Ⅳ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
- 第12回 敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
- 第13回 河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
- 第14回 雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講e(中央・西アジア史 I)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク・モンゴルの歴史

授業の到達目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の概要

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガスナ朝・カラハン朝・セルジューク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

準備学習(予習・復習)

関連図書は授業中に適宜指示する。

内 容

- 第1回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その1
- 第2回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その2
- 第3回 テュルク・モンゴル諸族の分布
- 第4回 匈奴の国家組織
- 第5回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その1
- 第6回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その2
- 第7回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その4
- 第8回 ウイグルと唐
- 第9回 ウイグルとソグド人
- 第10回 西ウイグル王国と仏教
- 第11回 モンゴルの興起――チンギス・カンの征服活動
- 第12回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その1
- 第13回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その2
- 第14回 ティムールとティムール朝の文化
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

中央ユーラシアの諸宗教

授業の到達目標

中央ユーラシアの歴史に多大な影響を与えた宗教をとり上げて、各宗教の成立と伝播およびその教義について考える。

授業の概要

以下にあげる各回の内容はあくまで目安・予定であり、毎回このとおりに進むとは限らない。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 インド・イランの宗教とゾロアスター教—その1
- 第2回 インド・イランの宗教とゾロアスター教—その2
- 第3回 ゾロアスター教とユダヤ教
- 第4回 インドを出た仏教—ガンダーラとクシャーナ朝
- 第5回 インドを出た仏教—中央アジア(その1)
- 第6回 インドを出た仏教—中央アジア(その2)
- 第7回 キリスト教東方教会(ネストリウス派)—イランとソグド
- 第8回 キリスト教東方教会(ネストリウス派)—テュルクと中国
- 第9回 マニ教の成立と伝播
- 第10回 マニ教とテュルク人
- 第11回 テュルク人のイスラム化—その1
- 第12回 テュルク人のイスラム化—その2
- 第13回 モンゴル人の宗教—シャマニズム
- 第14回 モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その1
- 第15回 モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 世界史特講g(中央・西アジア史Ⅲ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 I

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、理解を深める

授業の概要

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す前提となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る(それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限りビデオ等の映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

準備学習(予習・復習)

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけでなくとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡(全17巻)』:早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ(本学AVセンター収蔵)など。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 自然環境と地理的背景:ナイルの恵み
- 第3回 先王朝時代:農耕の始まり
- 第4回 先王朝時代:農耕社会の成長
- 第5回 国家統一へ:ナルメル王のパレットを読む
- 第6回 初期王朝時代:国家基盤の形成
- 第7回 古王国時代:ピラミッドの出現/王権の確立
- 第8回 古王国時代:ピラミッドの変遷
- 第9回 古王国時代:ギザの三大ピラミッド
- 第10回 古王国時代:ピラミッド建造の背景
- 第11回 古王国時代:繁栄の終焉
- 第12回 第一中間期:統一の崩壊/社会の変革
- 第13回 中王国時代:文化の熟成/古典の形成
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む)

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の歴史1・人類の起源と古代オリエント

著者: 尾形禎亮他

出版社: 中央公論社

出版年: 1998

ISBN:

エジプト王国三千年

著者: 吉成薫

出版社: 講談社選書メチエ

出版年: 2000

ISBN:

ファラオ歴代誌

著者： ピーター・クレイトン

出版社： 創元社

出版年： 1999

ISBN:

古代オリエント辞典

著者： 日本オリエント学会編

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (85)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 世界史特講h(中央・西アジア史Ⅳ)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、理解を深める

授業の概要

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ(7世)に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王(2世)が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる(授業の進め方は世界史特講gに同じ)。

準備学習(予習・復習)

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
- 第3回 第二中間期:異民族ヒクソスの支配
- 第4回 第二中間期:エジプト解放戦争
- 第5回 第二中間期:再統一と武力外交
- 第6回 新王国時代:ハトシェプスウト女王1
- 第7回 新王国時代:ハトシェプスウト女王2
- 第8回 新王国時代:トメス3世の侵略戦争
- 第9回 新王国時代:アメンヘテプ3世と帝国の栄華
- 第10回 新王国時代:アマルナ宗教改革の断行
- 第11回 新王国時代:ツタンカーメン王の生涯
- 第12回 新王国時代:ラメセス2世の奮闘・栄光の終焉
- 第13回 末期王朝～ギリシア・ローマ時代:新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞・レポート提出を含む)

履修上の注意点

教科書

教科書 随時、コピーで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

岩波講座・世界歴史2・オリエント世界

著者: 尾形禎亮他

出版社: 岩波書店

出版年: 1998

ISBN:

古代オリエント辞典

著者: 日本オリエント学会編

出版社: 岩波書店

出版年: 2004

ISBN:

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者： イアン・ショー他

出版社： 原書房

出版年： 1997

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (85)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I)

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化1

授業の到達目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解することをめざす。

授業の概要

中世には強力な王権の下に軍事封建制社会を生み出し、近世以降は、王権主導の宗教改革を経ていち早く中央集権国家となる一方で、17世紀には革命を経験したイギリスの歩みをたどる。

準備学習(予習・復習)

中世・近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること

内 容

- 第1回 イギリスという国 - 諸民族の到来
- 第2回 中世イングランド国家の誕生
- 第3回 軍事封建制と騎士と荘園制 - 土地保有の諸相
- 第4回 封建制社会のなかの人々 - 聖職者、農民、都市民、
- 第5回 封建体制の変容 - 王権と身分制議会
- 第6回 封建社会の変動 - 農奴解放
- 第7回 封建体制の解体 - 百年戦争とバラ戦争
- 第8回 インターミッション - 中間まとめ
- 第9回 近世国家の成立 - テューダー行政改革
- 第10回 近世王権① - イングランド宗教改革
- 第11回 近世王権② - エリザベス1世治世
- 第12回 王権と議会① - スチュアート朝と内乱
- 第13回 王権と議会② - 王政復古と名誉革命
- 第14回 18世紀の政治体制 - 君臨すれども統治せず
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退出をしないよう心がけること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 世界史特講J(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化2

授業の到達目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解することをめざす。

授業の概要

近世以降、いち早く中央集権国家となり新大陸へ進出して重商主義帝国を形成し、18世紀には商業革命、農業革命、産業革命を経験して、19世紀の覇権国家への途を進んだイギリスの変容をたどる。

準備学習(予習・復習)

近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること。

内 容

- 第1回 近世の社会構造① 一支配するジェントルマン
- 第2回 近世の社会構造② 一オープン・エリート制
- 第3回 商業革命① 一重商主義帝国の形成
- 第4回 商業革命② 一生活革命
- 第5回 帝国の社会史① 一植民地へ行く人々(ジェントルマン、自由移民)
- 第6回 帝国の社会史② 一植民地へ行く人々(兵士、流刑者)
- 第7回 帝国の社会史② 一植民地へ行く人々(年奉公人)
- 第8回 インターミッション 一中間まとめ
- 第9回 ライフ・サイクル・サーヴァント制① 一若年者移民の背景
- 第10回 ライフ・サイクル・サーヴァント制② 一伝統的家族の実態
- 第11回 農業革命① 一資本主義的農場経営と農村からの労働力解放
- 第12回 農業革命② 一伝統的家族の変容
- 第13回 産業革命① 一生産様式の変容
- 第14回 産業革命② 一労働形態の変容、家族の変容

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退出をしないよう心がけること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

文化交流史の諸問題 総論編

授業の到達目標

グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。この授業では、現代文化の形成を、世界の一体化という視点から、様々な側面から考察します。理解促進のため、映画もみませ。

授業の概要

国際交流や文化史を学ぶために必要な基礎的概念を学習します。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

内 容

- 第1回 日本文化はあるのか
- 第2回 文明と野蛮(1) 明治日本の挑戦
- 第3回 文明と野蛮(2) 黄禍論と白禍論
- 第4回 文明と野蛮(3) 「王様と私」
- 第5回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第6回 人種問題(1) なぜ人種差別が生まれたのか
- 第7回 人種問題(2) アメリカの人種問題
- 第8回 人種問題(3) 「フライド・グリーン・トマト」
- 第9回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第10回 多文化主義(1) オーストラリアの多文化主義
- 第11回 多文化主義(2) 日本で多文化主義は可能か
- 第12回 移動する人びと(1) 大量移民の時代
- 第13回 移動する人びと(2) 文化摩擦
- 第14回 移動する人びと(3) グローバル世界
- 第15回 全体の考察とまとめ

履修上の注意点

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

白人とは何か

著者: 藤川隆男編

出版社: 刀水書房

出版年: 2005年

ISBN: 978-4887083462

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 鷲田 睦朗

テーマ

ワインを通じて見るヨーロッパ文化

授業の到達目標

ワインを通じて、それが深く結びついている文化、特にヨーロッパ文化についての知見を深めることを目標とする。具体的なモノから見ることで、異文化社会を理解するためのハードルが下がることを期待している。また、考古学、社会学からの知見の取り入れなどについても理解を深めることが期待される

授業の概要

毎回、プリントを配布して、それに即して講義を実施します

準備学習(予習・復習)

配布プリントの確認

内 容

- 第1回 オリエンテーションワインの持つ歴史的重要性について
- 第2回 ワインの起源とは
- 第3回 ギリシアにおけるワイン
- 第4回 ローマの平和とワイン(1)
- 第5回 ローマの平和とワイン(2)
- 第6回 ローマの平和とワイン(3)
- 第7回 キリスト教世界におけるワインの展開(1)
- 第8回 キリスト教世界におけるワインの展開(2)
- 第9回 近代化するワイン(1)
- 第10回 近代化するワイン(2)
- 第11回 現代におけるワイン(1)
- 第12回 現代におけるワイン(2)
- 第13回 ワインから見た文化とは
- 第14回 総括、理解度の確認
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

最新世界史図説タペストリー十三訂版

著者： 川北稔・桃木至朗編

出版社： 帝国書院

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **自然地理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上野 裕

テーマ

自然環境と人間の関わり

授業の到達目標

中学高校で自然地理学分野を教えることを念頭に置きながら、自然地理の基礎的概念の理解と、自然と人間の関わりそしてその課題を発見できるようになること。

授業の概要

前半で自然地理の基礎、後半で人間活動との関わりについて、多くの事例をあげ検討していく。

準備学習(予習・復習)

高校で地理を履修していなかった学生は、地理分野に関してある程度自習しておくことが望ましい。

内 容

- 第1回 講義の目標、計画、留意事項の説明
- 第2回 地形の形成:大地形と小地形
- 第3回 山地の形成と分類
- 第4回 平野の形成:侵食平野
- 第5回 平野の形成:沖積平野(1)
- 第6回 平野の形成:沖積平野(2)
- 第7回 海岸地形の形成
- 第8回 地形の形成:大阪平野の形成を事例に
- 第9回 気候環境の形成
- 第10回 気候環境と人間活動
- 第11回 地形図と読図:基礎事項
- 第12回 地形図と読図:模式図を用いて
- 第13回 地形図と読図:地形図を用いて
- 第14回 地形と人間:水害・地震災害との関係
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 地誌

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 和子

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の地域について知ろう。“地誌”って実は二度オイシイ！！

授業の到達目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は、さまざまな“地域”に注目した地誌を中心に取り上げ、あわせて身近な地域の文化・社会を読み取る力をつけることを目標とする。

授業の概要

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

内 容

- 第1回 イントロダクション:“地誌書”が世界を変える?“ジパング”良いトコ、一度はおいで!?『東方見聞録』と“ワークワーグ”
- 第2回 本国地誌と外国地誌—『魏志倭人伝』と『風土記』、さて、どっちが正しい日本の姿?
- 第3回 外国人からみた日本:イザベラ・バードの見た日本
- 第4回 日本人のみた外国1:河口慧海とチベット社会と日本の社会
- 第5回 地誌が書かれるのはどんな時?—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
- 第6回 地誌が読まれるのはどんな時?—明治人がハマった『輿地誌略』
- 第7回 日本人のみた外国2:小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
- 第8回 ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌?
- 第9回 あなたの一番読みたい「地誌」は?
- 第10回 『おくのほそ道』:日本の“奥”ってどこ?
- 第11回 都市の機能と地誌書にみる地域のイメージ
- 第12回 農林漁業集落・都市近郊・中山間地域の地誌
- 第13回 過疎地の地誌:過疎地=イナカと思いませんか?
- 第14回 京都の地誌:京都ってどんなところ?
- 第15回 山科の地誌:山科ってどんなところ?

履修上の注意点

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2015 Syllabus

科目名 人文地理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心を持ち、どのような方法でアプローチするのか。

授業の到達目標

地域、環境、空間といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の概要

教科書を中心として授業を進めるが、適宜資料等を配布する。

準備学習(予習・復習)

復習を中心に教科書、配布プリントなどを参考に積極的に取り組んでください。

内 容

- 第1回 生活と社会の地理①
- 第2回 生活と社会の地理②
- 第3回 生活と社会の地理③
- 第4回 生活と社会の地理④
- 第5回 生産と流通の地理①
- 第6回 生産と流通の地理②
- 第7回 生産と流通の地理③
- 第8回 生産と流通の地理④
- 第9回 想像と表象の地理①
- 第10回 想像と表象の地理②
- 第11回 想像と表象の地理③
- 第12回 想像と表象の地理④
- 第13回 過去に問いかける地理①
- 第14回 過去に問いかける地理②
- 第15回 過去に問いかける地理③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

人文地理学

著者： 竹中克行他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

2015 Syllabus

科目名 外書研究a

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 井上 徳子

テーマ

中国語の文献の講読

授業の到達目標

中国語テキストの読解力を養成することである。それとともに、中国史についての知識・認識を深めることを目標とする。

授業の概要

中国の歴史(古代から中世)を扱った中国語テキストを講読する。初回は井上が講義を行うが、第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う、というかたちで授業を進める。原則として毎回全員が訳読を分担する。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、当該時期における中国の政治・制度、周辺地域の動向などを含めた関連資料を随時配布する。正確な中国文の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識、認識を深めるためである。

準備学習(予習・復習)

受講者は、テキストについて必ず予習してくる。また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、知識の習得に心がけてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス講義
- 第2回 中国語テキストを講読第1回
- 第3回 中国語テキストを講読第2回
- 第4回 中国語テキストを講読第3回
- 第5回 中国語テキストを講読第4回
- 第6回 中国語テキストを講読第5回
- 第7回 中国語テキストを講読第6回
- 第8回 中国語テキストを講読第7回
- 第9回 中国語テキストを講読第8回
- 第10回 中国語テキストを講読第9回
- 第11回 中国語テキストを講読第10回
- 第12回 中国語テキストを講読第11回
- 第13回 中国語テキストを講読第12回
- 第14回 中国語テキストを講読第13回
- 第15回 中国語テキストを講読第14回、総まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。そして出席の際には予習が必須。

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業にて随時紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 外書研究c

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小野 浩

テーマ

基礎的文法の解説および英語文献選読

授業の到達目標

まず英語そのものに慣れてもらうためにいくつかの英語文を文法に則して正確に直訳し、その後意味をとって自然な日本語にする練習を行なう。次いでアジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。したがってスピードにはこだわらず、まずはやさしい英文をゆっくりと読み進めることから始める。読む分量は少しずつであっても、毎週読み進めて行けば少なくとも《英語アレルギー》の度合いはいくぶんなりとも減少して行くはずである。

授業の概要

テキストは、適宜コピーして配布する。最初はゆっくり読んでいき、なぜこう訳せるのか確認しつつ授業を進める。歴史文献ではテキストごとに書誌的知識と歴史背景を解説する。出席者全員で輪読していくので、毎回充分な予習が必須となる。なお、テキストとして下記テキスト欄に挙げたものはあくまで一例である。

準備学習(予習・復習)

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

内 容

- 第1回 この授業の方針説明
- 第2回 テキストの解説
- 第3回 全員による輪読および内容の解説 その1
- 第4回 全員による輪読および内容の解説 その2
- 第5回 全員による輪読および内容の解説 その3
- 第6回 全員による輪読および内容の解説 その4
- 第7回 全員による輪読および内容の解説 その5
- 第8回 全員による輪読および内容の解説 その6
- 第9回 全員による輪読および内容の解説 その7
- 第10回 全員による輪読および内容の解説 その8
- 第11回 全員による輪読および内容の解説 その9
- 第12回 全員による輪読および内容の解説 その10
- 第13回 全員による輪読および内容の解説 その11
- 第14回 全員による輪読および内容の解説 その12
- 第15回 全員による輪読および内容の解説 その13

履修上の注意点

教科書

参考書

Islamic Central Asia—An Anthology of Historical Sources

著者: Scott C. Levy & Ron Cella (eds.)

出版社: Indiana University Press

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 外書研究d

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

英文テキストを読む

授業の到達目標

英文テキストを読み、その内容を知識情報として理解し吸収することをめざす

授業の概要

イギリスの歴史教科書にあたるPenguin BooksのA History of BritainシリーズのBritain and the world 1789-1901を読む。英文は平易であるが、専門用語はしっかりと辞書で調べなければならないレベルである。これを、受講生で輪読し、担当教員が内容(フランス革命とイギリスの関係、ナポレオン船倉後のヨーロッパ世界とイギリス、第一次選挙法改正、奴隷制廃止論議など)について解説していく。受講生は、授業までに必ず、予め読解を進めておかなければならない。テキストについては、授業初回に印刷物を配布する。

準備学習(予習・復習)

テキスト全文をわかりやすい日本語の文章として書き出すこと

内 容

第1回 テキスト内容の紹介

第2回 テキストの輪読①

第3回 テキストの輪読②

第4回 テキストの輪読③

第5回 テキストの輪読④

第6回 テキストの輪読⑤

第7回 テキストの輪読⑥

第8回 これまでの内容について説明、確認

第9回 テキストの輪読⑦

第10回 テキストの輪読⑧

第11回 テキストの輪読⑨

第12回 テキストの輪読⑩

第13回 テキストの輪読⑪

第14回 テキストの輪読⑫

第15回 これまでの内容について説明、確認

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしないこと。

教科書

授業初回に、印刷物を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イギリス近代史

著者: 村岡健次、川北稔

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 外書研究e

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 藤井 翔太

テーマ

英語で書かれた歴史学の専門文献の読解力を身につける

授業の到達目標

英語で書かれた歴史学(西洋史)関連の入門的な文献を読解し、その内容を正確に理解するための力を身につける事を目指す。同時に、文献の読解を通じて近代ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける事も目的とする。

授業の概要

主に史学史に関して英語で書かれた文献を読み進めていく。講義では逐語訳を基本として、英語で書かれた研究書の構造を把握出来る様になることを目指す。

準備学習(予習・復習)

予習として次回の授業で進む分のテキストの日本語訳を作成してください。また、復習としては授業の内容を振り返り、理解できなかったがあればまとめて授業時に質問できるようにしておいてください。

内 容

- 第1回 イントロダクション:授業の進め方、文献について解説
 第2回 19世紀史学史に関する入門書を読む(1)
 第3回 19世紀史学史に関する入門書を読む(2)
 第4回 19世紀史学史に関する入門書を読む(3)
 第5回 19世紀史学史に関する入門書を読む(4)
 第6回 19世紀史学史に関する入門書を読む(5)
 第7回 19世紀史学史に関する入門書を読む(6)
 第8回 19世紀史学史に関する入門書を読む(7) 小テスト予定
 第9回 19世紀史学史に関する入門書を読む(8)
 第10回 19世紀史学史に関する入門書を読む(9)
 第11回 19世紀史学史に関する入門書を読む(10)
 第12回 19世紀史学史に関する入門書を読む(11)
 第13回 19世紀史学史に関する入門書を読む(12)
 第14回 19世紀史学史に関する入門書を読む(13)小テスト予定
 第15回 講義まとめ

履修上の注意点

逐語訳を基本とした文献読解が授業の中心となるの必ず日本語訳を作ってきてください。テキストは初回の授業時に配布します。また、講義中では日本語の参考文献を適宜紹介していきます。

教科書

授業中に指示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

人文学への接近法—西洋史を学ぶ—

著者: 服部良久他

出版社: 京都大学出版会

出版年: 2010

ISBN: 9784876989485

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

基本的には授業への出席と発表(逐次訳)40%、2回行う理解度に関する小テスト40%、学期末のレポート(20%)によって成績評価を行います。

2015 Syllabus

科目名 外書研究f

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ中世史に関する英語文献の講読

授業の到達目標

西洋中世史に関する英語文献を講読して、西洋史の英文を正確に理解して的確に翻訳し、かつ西洋中世史について理解を深める

授業の概要

ヨーロッパ中世に関する英語文献を講読する。本年は、第1回十字軍の英訳史料集であるEdward Peters(ed.), The first Crusade(1998)をテキストに使用する。十字軍の背景を平易に説明した本書のIntroductionを読み、ついで十字軍に関する英訳史料へと進む予定でいる。

準備学習(予習・復習)

毎回、全員にあてて訳させるので、確実な予習が必要である。

内 容

- 第1回 授業の進め方と十字軍の概略
- 第2回 英文講読
- 第3回 英文講読
- 第4回 英文講読
- 第5回 英文講読
- 第6回 英文講読
- 第7回 英文講読
- 第8回 英文講読
- 第9回 英文講読
- 第10回 英文講読
- 第11回 英文講読
- 第12回 英文講読
- 第13回 英文講読
- 第14回 英文講読
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

上に書いたが、毎回予習は必須である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本史演習 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究 I

授業の到達目標

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読(古代史)とは異なる史料(主に『日本紀略』)を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。

授業の概要

参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献は其中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学(1回)、歴史学に関する講演会等(1回)を行う。夏休みには遺跡見学旅行を実施する。

準備学習(予習・復習)

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。

内 容

第1回 授業の進め方の解説。テキストの解説

第2回 図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。

第3回 史料の読解演習

第4回 文化遺産見学(学外授業)

第5回 個別発表(1)

第6回 個別発表(2)

第7回 個別発表(3)

第8回 個別発表(4)

第9回 個別発表(5)

第10回 個別発表(6)

第11回 個別発表(7)

第12回 個別発表(8)

第13回 個別発表(9)

第14回 個別発表(10)

第15回 後期演習への取り組みに関する指導※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

史料は漢文体であるので、自主的な学習会によって読解練習をしなければ追いつけない。

教科書

国史大系『日本紀略』(該当部分)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013

ISBN:

『摂関政治』(岩波新書)

著者: 古瀬奈津子

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史)

著者: 加藤友康(編)

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習 I <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 田端 泰子

テーマ

中世(鎌倉期・南北朝期・室町期・戦国期)と近世への移行期(織豊政権期)の諸問題

授業の到達目標

上の時期の歴史の流れを、政治・経済・文化・芸能等の面から理解する。

授業の概要

中世史概説として評価の高い論文を読み、論文の構成を理解し、史料の扱い方を体得する。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

学術論文を読んでみる。また史料を自力で解読してみることを試みること。

内 容

第1回 前期の授業計画を示し、論文の読み方、調べ方などについて全員に知らせる

第2回 論文の解読 その1

第3回 //

第4回 論文の解読 その2

第5回 //

第6回 論文の解読 その3

第7回 //

第8回 中世史料の扱い方 その1

第9回 //

第10回 中世史料の扱い方 その2

第11回 //

第12回 中世史料の扱い方 その3

第13回 //

第14回 論文の構成と、そのための参考文献の集め方のまとめ

第15回 論文執筆のための史料操作法

履修上の注意点

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習 I <*c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 尾下 成敏	
テーマ 日本近世史研究の諸問題	
授業の到達目標 研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深める。	
授業の概要 まずは近世前期の武家の書状を読み、漢文史料の読み方・調べ方を習得してもらうことにする。そのさい、受講生には担当した史料に訓点を付し逐語訳を作成し報告してもらう。また夏休みには、卒論作成と関わりそうな研究書・論文を熟読し、400字詰原稿用紙で18枚程度のレポートを作成してもらうことにする。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。	
準備学習(予習・復習) 概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。	

内 容

- 第1回 ガイダンス
 第2回 ガイダンス
 第3回 近世前期の武家書状を読む
 第4回 近世前期の武家書状を読む
 第5回 近世前期の武家書状を読む
 第6回 近世前期の武家書状を読む
 第7回 近世前期の武家書状を読む
 第8回 近世前期の武家書状を読む
 第9回 近世前期の武家書状を読む
 第10回 近世前期の武家書状を読む
 第11回 近世前期の武家書状を読む
 第12回 近世前期の武家書状を読む
 第13回 近世前期の武家書状を読む
 第14回 近世前期の武家書状を読む
 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本の歴史 鎖国

著者: 朝尾直弘

出版社: 小学館

出版年: 1975年

ISBN:

日本の歴史 江戸開幕

著者: 藤井讓治

出版社: 集英社

出版年: 1992年

ISBN:

江戸城の宮廷政治

著者： 山本博文

出版社： 読売新聞

出版年： 1993年

ISBN:

日本の歴史 天下泰平

著者： 横田冬彦

出版社： 講談社

出版年： 2002年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (35)

授業中発表等 (30)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

授業の到達目標

研究論文を読みこなし課題を発見するなど日本近代史を学ぶための必要な知識の習得。

授業の概要

各自が各自のテーマにもとづく著書・研究論文の内容を批判を交えながら報告し、全員で討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

事前に配布された文献を読んでくること。

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法と卒論テーマを決めていく際の心得
- 第2回 日本近代史に関する文献・史料の検索の仕方
- 第3回 日本近代史に関する著書・研究論文の選択方法と読み方
- 第4回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(1)
- 第5回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(2)
- 第6回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(3)
- 第7回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(4)
- 第8回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(5)
- 第9回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(6)
- 第10回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(7)
- 第11回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(8)
- 第12回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(9)
- 第13回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(10)
- 第14回 全体のまとめと今後の方向性指導(1)
- 第15回 全体のまとめと今後の方向性指導(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

授業の到達目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。

授業の概要

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演(1回)、文化遺産あるいは研究施設の見学(1回)を予定している。

準備学習(予習・復習)

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

内 容

- 第1回 テキストの配布と授業進行方法の説明
- 第2回 後期における史料とレポート作成
- 第3回 文化遺産見学(学外授業)
- 第4回 個別発表(1)
- 第5回 個別発表(2)
- 第6回 個別発表(3)
- 第7回 個別発表(4)
- 第8回 個別発表(5)
- 第9回 個別発表(6)
- 第10回 個別発表(7)
- 第11回 個別発表(8)
- 第12回 個別発表(9)
- 第13回 個別発表(10)
- 第14回 個別発表(11)
- 第15回 卒業研究に向けての指導(まとめ)

履修上の注意点

テキストは基本的に漢文体であるので、自主的に学習会などを開いて読解練習をすることを勧める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 田端 泰子

テーマ

中世と近世への移行期の諸問題

授業の到達目標

上の時期の歴史の流れを、政治・経済・文化・芸能などの面から理解する。

授業の概要

中世の歴史の流れをおおよそ理解した上で、卒業論文のテーマや史料の絞り込みを行なう。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

広く卒業論文テーマに関する論文や本を読んでおくことが重要。

内 容

- 第1回 卒業論文のテーマを決めるにあたっての準備作業について解説する。
- 第2回 1時間半に2～3人が卒論テーマ決定の指標や先行研究について報告する。ゼミは14名の予定なので、5回で終了できると思う。
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 卒論テーマに関する先行研究一覧表をつくり、重要な論文から読んでまとめ、報告する。
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 先行研究について学ぶなかで、卒論の構成や使用する史料について気づいたことを発表する。
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (80)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <*c>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深めるとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

まずは各自が各自の卒論構想を発表し、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う(その際、1000字程度のレポートを作成すること)。つぎに論文を輪読し、論文の読み方や批判の仕方、史料の分析の仕方を会得して欲しいと思う。後期の最後には卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらう。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。多くの史料(資料)を丁寧に読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンスなど
- 第2回 卒論構想の報告、その1
- 第3回 4回生の卒業論文中間発表会への参加
- 第4回 卒論構想の報告、その2
- 第5回 卒論構想の報告、その3
- 第6回 卒論構想の報告、その4
- 第7回 論文の輪読、その1
- 第8回 論文の輪読、その2
- 第9回 論文の輪読、その3
- 第10回 論文の輪読、その4
- 第11回 論文の輪読、その5
- 第12回 論文の輪読、その6
- 第13回 史料の分析の仕方、その1
- 第14回 史料の分析の仕方、その2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (55)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

授業の到達目標

基礎的作業を継続するとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

各自が各自のテーマにもとずく報告を行い、討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第3回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第4回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第5回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第6回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第7回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第8回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第9回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第10回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第11回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第12回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第13回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 第14回 3回生後期のまとめ(1)
 第15回 3回生後期のまとめ(2)
 第1回 3回生後期のゼミ運営方法討議
 第2回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本史講読 I <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 淵原 智幸

テーマ

『続日本紀』を読む

授業の到達目標

奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の概要

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

準備学習(予習・復習)

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を考えるのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定、報告例の提示と解説(1)
- 第2回 報告例の提示と解説(2)、関連史料・関連論文の調べ方
- 第3回 個別報告
- 第4回 個別報告
- 第5回 個別報告
- 第6回 個別報告
- 第7回 個別報告
- 第8回 個別報告
- 第9回 個別報告
- 第10回 個別報告
- 第11回 個別報告
- 第12回 個別報告
- 第13回 個別報告
- 第14回 個別報告
- 第15回 学外授業(前倒しして行う場合あり)

履修上の注意点

・レジメ作成にあたっては、必ず下記の参考書(新日本古典文学大系)を参照すること。ただし、単なる丸写しはせず、他の文献により内容の修正・追加を行った上で、できるだけ独自の考察を加えること。・15回中1回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。

教科書

第1回の授業でコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者: 青木和夫ほか編

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

2015 Syllabus

科目名 日本史講読 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 山田 徹	
テーマ 鎌倉・室町幕府法令を読む	
授業の到達目標 中世法制史料の読解力と、関連事項を調べる力をつける。	
授業の概要 法制史料は、文書・記録と並んで、中世史研究の基本的な史料です。本講では、鎌倉・室町幕府の法令を読み、上記の能力の養成を目指します。また、こうした法令を読み解いていくことで、中世社会で何が問題とされ、それに対して幕府がどのような対策をとろうとしていたのかも、わかってくるはずです。	
準備学習(予習・復習) 授業で取り上げることのできる法令は限られています。それ以外にも、中世法令の読解にチャレンジしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。	
内 容 第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定) 第2回 史料講読の基礎確認 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出 第4回 史料の講読 第5回 史料の講読 第6回 史料の講読 第7回 史料の講読 第8回 史料の講読 第9回 史料の講読 第10回 史料の講読 第11回 史料の講読 第12回 史料の講読 第13回 史料の講読 第14回 史料の講読 第15回 史料の講読 第二課題提出※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 中世法制史料集 第一巻 鎌倉幕府法 著者: 出版社: 岩波書店 出版年: 1955 ISBN: 中世法制史料集 第二巻 室町幕府法 著者: 出版社: 岩波書店 出版年: 1957 ISBN: 中世政治社会思想 上 著者: 出版社: 岩波書店 出版年: 1972 ISBN:	

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第3回までに提出してもらい（第一課題）、第4回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題（第15回までに提出）によっておこないます。

2015 Syllabus

科目名 日本史講読 I <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 鍛治 宏介

テーマ

江戸時代の町触を読む

授業の到達目標

・江戸時代の史料(刊本史料)の読解能力を獲得すること・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること

授業の概要

歴史学は史料を読み解くことから始まる学問ですが、史料を読み解くには、当時の独特の言い回しや言葉に慣れて、当時の社会の仕組みなどの基礎知識もある程度有することが必要となります。史料を読み解くことができるようになるということは、史料の中に広がる豊かな世界へ、自らの足でアプローチできるようになることです。発表担当者は、興味をもった事項について、どこまでも貪欲に調べてみてください。もしかしたら卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。なお、必要に応じて学外授業を実施することがあります。

準備学習(予習・復習)

講義では、毎回、受講者全員による輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は特に入念な準備が必要になります。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 町触に関する概説
- 第3回 史料の輪読と発表
- 第4回 史料の輪読と発表
- 第5回 史料の輪読と発表
- 第6回 史料の輪読と発表
- 第7回 史料の輪読と発表
- 第8回 史料の輪読と発表
- 第9回 史料の輪読と発表
- 第10回 史料の輪読と発表
- 第11回 史料の輪読と発表
- 第12回 史料の輪読と発表
- 第13回 史料の輪読と発表
- 第14回 史料の輪読と発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

発表があたっている人の無断欠席は、単位不合格に直結します。なおテキストは、初回にコピーを配布します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都町触の研究

著者: 京都町触研究会編

出版社: 岩波書店

出版年: 1996

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史講読 I <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末から明治期にかけての史料を読む

授業の到達目標

幕末から明治期にかけてのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の概要

幕末の庶民の日記、政治家の手紙、明治期の政治家の日記(京都府知事北垣国道の日記等)などを読んでいく。授業は受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、音読ができるようにした上、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景を調べ、論点をレジュメ化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
- 第2回 史料についてのガイダンス
- 第3回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 淵原 智幸

テーマ

『日本書紀』を読む

授業の到達目標

7世紀以前の日本を考える上で最も基本的な文献史料『日本書紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の概要

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史(資)料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

準備学習(予習・復習)

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を確認するのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定
- 第2回 『日本書紀』解題
- 第3回 個別報告
- 第4回 個別報告
- 第5回 個別報告
- 第6回 個別報告
- 第7回 個別報告
- 第8回 個別報告
- 第9回 個別報告
- 第10回 個別報告
- 第11回 個別報告
- 第12回 個別報告
- 第13回 個別報告
- 第14回 個別報告
- 第15回 学外授業(前倒して行う場合あり)

履修上の注意点

・『日本書紀』〈5〉(下記テキスト欄を参照)の注や補注にある内容は、改めてレジメに書かなくともよい。ただし『日本書紀』〈1～4〉(下記の参考書欄を参照)の注や補注をみる必要がある場合は、必ずレジメに写しておくこと。・もちろん、その上で他の文献も参照し、内容の修正や追加を行うこと。さらに、できるだけ独自の考察も付け加えること。・15回中1回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。

教科書

『日本書紀』〈5〉

著者: 坂本太郎他校注

出版社: 岩波文庫

出版年:

ISBN:

参考書

『日本書紀』〈1～4〉

著者: 坂本太郎他校注

出版社: 岩波文庫

出版年:

ISBN:

新編日本古典文学全集『日本書紀』

著者: 小島憲之他校注

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

2015 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定 希望制

担当者 山田 徹

テーマ

中世の事件簿

授業の到達目標

中世史料の総合的読解力と、関連事項を調べる力をつける。

授業の概要

歴史を読み解いていくには、文書・記録・法制史料など、さまざまな史料からの情報を、総合的に生かさなければなりません。本講では、上記テーマにかんするさまざまな史料を読み進めていくことにより、卒業論文へもつながる、中世史料の総合的読解力を養成します。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げることのできる史料は限られています。それ以外にも、興味を持ったら、それを史料で確認するよう心がけ、さまざまな史料に触れてみるようにしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。そうした努力が、卒業論文へとつながります。

内 容

第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定)

第2回 史料講読の基礎確認

第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出

第4回 史料の講読

第5回 史料の講読

第6回 史料の講読

第7回 史料の講読

第8回 史料の講読

第9回 史料の講読

第10回 史料の講読

第11回 史料の講読

第12回 史料の講読

第13回 史料の講読

第14回 史料の講読

第15回 史料の講読 第二課題提出※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

喧嘩両成敗の誕生

著者: 清水克行

出版社: 講談社

出版年: 2006

ISBN:

戦国の作法

著者: 藤木久志

出版社: 平凡社

出版年: 1998

ISBN:

中世神判史

著者: 清水克行

出版社: 中央公論社

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジメを第3回までに提出してもらい（第一課題）、第4回以降の進行は、そのレジメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題（第15回までに提出）によっておこないます。

2015 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 鍛治 宏介

テーマ

江戸時代の日記(『若山要助日記』)を読む

授業の到達目標

・江戸時代の史料(刊本史料)の読解能力を獲得すること・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること

授業の概要

歴史学は史料を読み解くことから始まる学問ですが、史料を読み解くには、当時の独特の言い回しや言葉に慣れて、当時の社会の仕組みなどの基礎知識もある程度有することが必要となります。史料を読み解くことができるようになるということは、史料の中に広がる豊かな世界へ、自らの足でアプローチできるようになることです。発表担当者は、興味をもった事項について、どこまでも貪欲に調べてみてください。もしかしたら卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。なお、必要に応じて学外授業を実施することがあります。

準備学習(予習・復習)

講義では、毎回、受講者全員による輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は特に入念な準備が必要になります。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 幕末の京都に関する概説
- 第3回 史料の輪読と発表
- 第4回 史料の輪読と発表
- 第5回 史料の輪読と発表
- 第6回 史料の輪読と発表
- 第7回 史料の輪読と発表
- 第8回 史料の輪読と発表
- 第9回 史料の輪読と発表
- 第10回 史料の輪読と発表
- 第11回 史料の輪読と発表
- 第12回 史料の輪読と発表
- 第13回 史料の輪読と発表
- 第14回 史料の輪読と発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

発表があたっている人の無断欠席は、単位不合格に直結します。なおテキストは、初回にコピーを配布します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

若山要助日記

著者: 京都市歴史資料館編

出版社: 京都市歴史資料館

出版年: 1997

ISBN:

成績評価

試験 (30(レポート))

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学期終わりにレポートをだしてもらいます。

2015 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

明治期から昭和期までの史料を読む。

授業の到達目標

明治期から昭和期までのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の概要

明治期の政治家の書簡や日記、「朝日新聞」などの新聞記事、地域(京都、滋賀)などの史料を読んでいく。授業は受講生が用意したレジюмеをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、音読ができるようにした上で、語句の意味、人名や事件名。歴史的背景、論点を明示したレジюмеを作成し、発表することが求められる。史料は配布する。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
- 第2回 史料についてのガイダンス
- 第3回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 後期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

授業の到達目標

東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解する。

授業の概要

この授業では、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個人が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 発表の主旨を説明する
- 第2回 研究の時代・地域を設定する
- 第3回 各自の研究テーマを設定する
- 第4回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
- 第5回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
- 第6回 学外授業(中国関連の寺社見学)
- 第7回 発表及び講評・議論
- 第8回 発表及び講評・議論
- 第9回 発表及び講評・議論
- 第10回 発表及び講評・議論
- 第11回 学外授業(中国関連の常設展、或いは特別展見学)
- 第12回 発表及び講評・議論
- 第13回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
- 第14回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
- 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習 I <*b>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	希望制
担当者	小野 浩	
テーマ	中央アジア・西アジア史の諸問題	
授業の到達目標	専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。	
授業の概要	<p>前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともあり、また学外授業を行うこともある。</p>	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 基本的工具類の紹介説明――目録・入門書・地図等 第2回 文献を探す――具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する 第3回 選定した学術論文の内容解説 第4回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その1 第5回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その2 第6回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その3 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50) 参加度 (50)</p>	

2015 Syllabus

科目名 世界史演習 I <*c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 松浦 京子	
テーマ 西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告	
授業の到達目標 卒業論文作成に向けて、各自が問題(テーマ)を発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。	
授業の概要 卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。以降は、各自が関心を持っている地域、時代(大まかな区分でかまわない)に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ(関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が)絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、期間中に歴史学に関する講演会を1回行う。なお、歴史学に関する講演会等(1回)を行う場合がある。	
準備学習(予習・復習) 参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容に関心にそって分析・整理する。	
内 容 第1回 歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的についての講義 第2回 図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明 第3回 学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読(批判的精読)、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。 第4回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う① 第5回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う② 第6回 ゼミ生報告1-①と質疑応答 第7回 ゼミ生報告1-②と質疑応答 第8回 ゼミ生報告1-③と質疑応答 第9回 ゼミ生報告1-④と質疑応答 第10回 ゼミ生報告1-⑤と質疑応答 第11回 ゼミ生報告1-⑥と質疑応答 第12回 ゼミ生報告1-⑦と質疑応答、ゼミ生報告2-①とリストのチェック 第13回 ゼミ生報告2-②とリストのチェック 第14回 ゼミ生報告2-③とリストのチェック 第15回 夏休み中の研究の進め方、課題設定について	
履修上の注意点 ゼミ授業は出席することに意義があると考えている。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <*a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

東アジア史の研究と発表

授業の到達目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①テーマの設定と関心の深め方。②関連文献の収集と整理。③根本史料の収集と読解。④研究結果の発表。

授業の概要

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、発表順の決定
- 第2回 東アジア研究に関する文献紹介:史料
- 第3回 東アジア研究に関する文献紹介:工具書
- 第4回 発表と講評
- 第5回 発表と講評
- 第6回 発表と講評
- 第7回 発表と講評
- 第8回 発表と講評
- 第9回 発表と講評
- 第10回 発表と講評
- 第11回 発表と講評
- 第12回 発表と講評
- 第13回 発表と講評
- 第14回 発表と講評
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者: 礪波護ほか編

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2006年

ISBN: 481580527X

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の概要

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外授業を行うこともある。また学外者を招いての講演会1回を予定している。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。
 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1
 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2
 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3
 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4
 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5
 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6
 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7
 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8
 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9
 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10
 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11
 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12
 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13
 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する文献にもとづく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて確定したテーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の概要

講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期・領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしばっていかなければならない。なお、12月には、他のゼミと合同で卒論セミナーを開く予定である。

準備学習(予習・復習)

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容に関心にそって分析・整理する。

内 容

- 第1回 (講義)研究テーマから問題提起へ — 研究動向整理と問題点の発見
 第2回 ゼミ生報告と質疑応答1-①(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第3回 4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
 第4回 ゼミ生報告と質疑応答1-②(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第5回 ゼミ生報告と質疑応答1-③(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第6回 ゼミ生報告と質疑応答1-④(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第7回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑤(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第8回 ゼミ生報告と質疑応答2-①(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第9回 ゼミ生報告と質疑応答2-②(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第10回 ゼミ生報告と質疑応答2-③(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第11回 ゼミ生報告と質疑応答2-④(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第12回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑤(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第13回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑥(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第14回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑦(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第15回 卒論セミナー

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考え。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の研究論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史講読 I <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 小野 浩	
テーマ 中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表	
授業の到達目標 中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。	
授業の概要 扱う地域・時代ともにきわめて広範に亘り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照)、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。 第3回 報告②と質疑 第4回 報告③と質疑 第5回 報告④と質疑 第6回 報告⑤と質疑 第7回 報告⑥と質疑 第8回 報告⑦と質疑 第9回 報告⑧と質疑 第10回 報告⑨と質疑 第11回 報告⑩と質疑 第12回 報告⑪と質疑 第13回 報告⑫と質疑 第14回 報告⑬と質疑 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

教科書

参考書

メソポタミア文明入門

著者: 中田一郎

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者: 間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史講読 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	松浦 京子	
テーマ	英語文献の精読と内容理解	
授業の到達目標	英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることをめざす	
授業の概要	<p>西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観したElizabeth Longmate, <i>Children at Work 1830-1885</i>, (Then and There Series), U.K., 1981である。平易な叙述で本文全体83頁と短いながら、同時代史料と図版が多用されているので、初めて本格的英語研究文献に触れる者にも、取組みやすいテキストと言えよう。ゼミ生で各章ごとに分担して全文和訳を行う。担当者は、報告に際して、全訳文を載せたレジュメを用意し、なおかつ、邦語文献にあたることで史料内容の背景や関連事象の理解に努め、その成果を報告すること。また、報告後に講読箇所の内容について質疑応答を行う。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>担当部分の報告のために文献を収集し精読し、史料内容の背景や関連事象の理解に努めること。各報告後の質疑応答のために、担当者以外のゼミ生もテキストの熟読に努めること。なお、全訳担当者は、報告より前に翻訳文を担当教員に提出し、チェックを受けること。</p>	
内 容	<p>第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定 第2回 背景としての奴隷制貿易反対運動と博愛主義運動の説明 第3回 冒頭数頁の全訳と特記事項の解説 第4回 学生報告①と質疑応答 第5回 学生報告②と質疑応答 第6回 学生報告③と質疑応答 第7回 学生報告④と質疑応答 第8回 学生報告⑤と質疑応答 第9回 これまでの内容に関しての特記事項の解説 第10回 学生報告⑥と質疑応答 第11回 学生報告⑦と質疑応答 第12回 学生報告⑧と質疑応答 第13回 学生報告⑨と質疑応答 第14回 学生報告⑩と質疑応答 第15回 全体総括、特記事項についての解説</p>	
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退場をしないこと。	
教科書	特になし	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	子どもたちと産業革命	
著者:	クラーク・ナーディネリ	
出版社:	平凡社	
出版年:	1998	ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト (34)	
	授業中課題 () 授業中発表等 (33)	
	参加度 (33)	

2015 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史 史料読解

授業の到達目標

中国では各種の学問の中で、史学がもっとも発達し、2千年にわたって歴代王朝の歴史が書き続けられた。これらの文献を読み、歴史叙述の持続及び用語、構文を理解する。

授業の概要

古代人物・仏教・儒教思想、文物典章制度に関する基礎文献をプリントにして配布し、毎回全員で輪読し、内容から問題展を読み取る。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 授業の目的と進め方の説明
- 第2回 テキストの著者および内容概略の紹介
- 第3回 輪読とコメント・質問 その1
- 第4回 輪読とコメント・質問 その2
- 第5回 輪読とコメント・質問 その3
- 第6回 輪読とコメント・質問 その4
- 第7回 輪読とコメント・質問 その5
- 第8回 輪読とコメント・質問 その6
- 第9回 輪読とコメント・質問 その7
- 第10回 輪読とコメント・質問 その8
- 第11回 輪読とコメント・質問 その9
- 第12回 輪読とコメント・質問 その10
- 第13回 輪読とコメント・質問 その11
- 第14回 輪読とコメント・質問 その12
- 第15回 総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

角川新字源

著者： 小川環樹他

出版社： 角川書店

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 鷲田 睦朗

テーマ

世界史文献の批判的講読及び書評の作成

授業の到達目標

卒業論文を作成するために必要となる世界史文献を批判的に読む方法を実践的に身につけることを目標とする

授業の概要

前半:世界史文献を読んだ上でのプレゼンテーションの実践後半:書評の読解・執筆方法論の指導と実践

準備学習(予習・復習)

(山川出版社の「世界史リブレット」シリーズ等の)本を読んだのプレゼン資料作成、書評作成。詳しくは講義で説明する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 講師によるプレゼンテーション実演
- 第3回 学生によるプレゼンテーション(1)
- 第4回 学生によるプレゼンテーション(2)
- 第5回 学生によるプレゼンテーション(3)
- 第6回 学生によるプレゼンテーション(4)
- 第7回 学生によるプレゼンテーション(5)
- 第8回 学生によるプレゼンテーション(6)
- 第9回 学生によるプレゼンテーション(7)
- 第10回 学生によるプレゼンテーション(8)
- 第11回 学生によるプレゼンテーション(9)
- 第12回 学生によるプレゼンテーション(10)
- 第13回 書評とは何か、書評の使い方
- 第14回 書評を書いてみよう
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

①プレゼンテーション、②他の人のプレゼンテーション時の質問等、③書評を総合的に判断して成績を評価する

2015 Syllabus

科目名 現代史演習 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 久保田 裕次

テーマ

日本近現代史に関する論文講読と史料読解

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野に、以下の点を重視した授業を行う。①歴史資料の読解に慣れる、②史料批判の仕方を習得する、③人物を通じて、日本近現代史を捉える見方を学ぶ。以上の作業から、近現代という時代や歴史上の「人」に対する理解を深める。

授業の概要

課題論文・史料に関する報告を行い(一時間に二人報告)、その後、引き続きテキストや報告内容について質疑応答を行う。

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読んでおく。議論に積極的に参加できるよう心がける。報告者はテキストに登場する用語を事前に調べ、レジュメを準備する。また、日頃から概説書や研究書などを読み、歴史に対する見方を養うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方の説明、テキスト・報告順の決定など)
- 第2回 日本近現代史に関する講義
- 第3回 報告①
- 第4回 報告②
- 第5回 報告③
- 第6回 報告④
- 第7回 報告⑤
- 第8回 報告⑥
- 第9回 報告⑦
- 第10回 報告⑧
- 第11回 報告⑨
- 第12回 報告⑩
- 第13回 報告⑪
- 第14回 報告⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

テキストは事前に読んでおくこと。

教科書

参考書

東アジア近現代通史 上・下

著者: 和田春樹ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (65)

参加度 (35)

課題論文と史料に関する報告内容と質疑応答への参加度をもとに評価します。活発な議論を期待します。

2015 Syllabus

科目名 現代史演習 I <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
- 第2回 専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
- 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
- 第4回 個別発表1回目(1)
- 第5回 個別発表1回目(2)
- 第6回 個別発表1回目(3)
- 第7回 個別発表1回目(4)
- 第8回 個別発表1回目(5)
- 第9回 個別発表1回目(6)
- 第10回 個別発表2回目(1)
- 第11回 個別発表2回目(2)
- 第12回 個別発表2回目(3)
- 第13回 個別発表2回目(4)
- 第14回 個別発表2回目(5)
- 第15回 個別発表2回目(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ <*a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 久保田 裕次

テーマ

日本近現代史に関する基礎的史料の読解

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野に、以下の点を重視した授業を行う。①歴史資料の読解に慣れる、②史料批判の仕方を習得する、③人物を通じた日本近現代史を捉える見方を学ぶ。以上の作業から、近現代という時代や歴史上の「人」に対する理解を深める。

授業の概要

一時間に一人課題史料に関する報告を行う。その後、史料や報告内容に関する質疑応答を行う。

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読んで、議論に積極的に参加できるよう心がける。報告者はテキストに登場する用語を事前に調べ、レジュメを準備する。また、日頃から概説書や研究書などを読み、歴史に対する見方を養うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方の概要、卒業論文の執筆に関する説明)
- 第2回 講義(史料報告の仕方や取り上げる史料の概要説明)
- 第3回 報告①
- 第4回 報告②
- 第5回 報告③
- 第6回 報告④
- 第7回 報告⑤
- 第8回 報告⑥
- 第9回 報告⑦
- 第10回 報告⑧
- 第11回 報告⑨
- 第12回 報告⑩
- 第13回 報告⑪
- 第14回 報告⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

テキストは事前に読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (65)

参加度 (35)

課題史料に関する報告内容と質疑応答への参加度をもとに評価します。活発な議論を期待します。

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 南直人

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内 容

- 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて)
- 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習
- 第3回 個別発表1回目(1)
- 第4回 個別発表1回目(2)
- 第5回 個別発表1回目(3)
- 第6回 個別発表1回目(4)
- 第7回 個別発表1回目(5)
- 第8回 個別発表1回目(6)
- 第9回 個別発表2回目(1)
- 第10回 個別発表2回目(2)
- 第11回 個別発表2回目(3)
- 第12回 個別発表2回目(4)
- 第13回 個別発表2回目(5)
- 第14回 個別発表2回目(6)
- 第15回 まとめ、卒論への展望

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 現代史講読 I

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 久野 譲太郎

テーマ

近現代日本の思想・社会・政治等に関する史料の読解

授業の到達目標

歴史研究において必須となる史料の基礎的読解力と知識の習得を目指します。

授業の概要

課題史料の輪読とその時代背景等に関する報告が中心となります。主として大正から第二次世界大戦後までの思想や社会、政治等についての史料を扱う予定です。なお、場合によっては、校外学習等をおこなうことがあります。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、近現代史料についての概説など)
 第2回 史料の読解と報告①
 第3回 史料の読解と報告②
 第4回 史料の読解と報告③
 第5回 史料の読解と報告④
 第6回 史料の読解と報告⑤
 第7回 史料の読解と報告⑥
 第8回 史料の読解と報告⑦
 第9回 史料の読解と報告⑧
 第10回 史料の読解と報告⑨
 第11回 史料の読解と報告⑩
 第12回 史料の読解と報告⑪
 第13回 史料の読解と報告⑫
 第14回 史料の読解と報告⑬
 第15回 史料の読解と報告⑭および復習

履修上の注意点

史料の輪読および報告を自分が担当する回での欠席は控えて下さい。

教科書

参考書

授業中、適宜指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 ()

主体性を尊重します。

2015 Syllabus

科目名 現代史講読Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 森本 慶太	
テーマ 現代史(ヨーロッパ・アメリカ)文献の講読	
授業の到達目標 この授業では、おもに欧米の現代史に関する文献を講読し、「ナショナリズム」「二つの世界大戦」「社会主義」「大衆化」「冷戦」といった、現代史の主要トピックへの理解を深めていきます。その際に、将来の卒業論文作成を念頭に置いて、文献を批判的に読む能力の修得をめざします。	
授業の概要 この授業では、各回の担当者が事前に指定した文献の内容を要約して発表し、受講生全体で議論をおこないます。課題文献は、『世界史リブレット』シリーズ(山川出版社)から取り上げる予定です。授業の進行や発表の手順については、受講生の人数を考慮して決定します。授業の終盤には、受講生各自が関心のある現代史分野の図書1冊を選んで、書評レポートを作成してもらいます。	
準備学習(予習・復習) 課題文献は事前に提示するので、発表者以外の受講生も文献を読んだうえで授業に臨むこと。常日頃から、新聞やドキュメンタリー番組などを通じて、現代史への問題意識を深めるよう努力してください。	
内 容 第1回 オリエンテーション(授業の手順について説明するので必ず出席すること) 第2回 口頭発表の方法について(講義) 第3回 現代史研究で扱う史料について(講義) 第4回 受講生による発表① 第5回 受講生による発表② 第6回 受講生による発表③ 第7回 受講生による発表④ 第8回 受講生による発表⑤ 第9回 書評の作成手順について(講義) 第10回 受講生による発表⑥ 第11回 受講生による発表⑦ 第12回 受講生による発表⑧ 第13回 受講生による発表⑨ 第14回 受講生による発表⑩ 第15回 授業全体のまとめ	
履修上の注意点 授業時の私語や携帯電話の使用など、受講態度に問題がある場合は厳しく対処します。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 現代史を学ぶ 著者: 溪内謙 出版社: 岩波書店(岩波新書) 出版年: 1995 ISBN: 9784004303947 二〇世紀の歴史 著者: 木畑洋一 出版社: 岩波書店(岩波新書) 出版年: 2014 ISBN: 9784004314998	
成績評価	

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

各回の発表者には、課題文献の適切な要約(レジюме)の作成と聴衆に配慮したプレゼンテーション、発表者以外の受講生には、発表の内容の理解と積極的な発言を求めます。

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の展開に向けて

授業の到達目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。

授業の概要

まずは研究論文を追跡し、研究の思考方法、論文の作成方法を学ぶ。その後、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、自身の関心の方向性を凝縮させていく。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。また、夏休みには遺跡の見学旅行を実施する。

準備学習(予習・復習)

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博搜に努めること

内 容

- 第1回 個人研究の進め方に関する概括的指導
- 第2回 研究論文演習(1)
- 第3回 研究論文演習(2)
- 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
- 第5回 研究論文演習(3)
- 第6回 研究論文演習(4)
- 第7回 研究論文演習(5)
- 第8回 個別発表(1)
- 第9回 個別発表(2)
- 第10回 個別発表(3)
- 第11回 個別発表(4)
- 第12回 個別発表(5)
- 第13回 個別発表(6)
- 第14回 個別発表(7)
- 第15回 後期に向けての卒業研究に関する概括的指導(まとめ)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文の作成に向けて発表を行うと同時に、ゼミ内での双方向事業として討議のやり取りを行う。

授業の概要

発表・討議・個別指導を重ねることによって、前期のうちに各自の最終的なテーマの絞り込みを行いたい。なお、歴史学等に関する講演会を1回行うことがある。また、必要に応じて学外授業等を行う。

準備学習(予習・復習)

卒業論文に関係する著書・論文をどん欲に読むと同時に、史料の蒐集にも努めるようにしたい。

内 容

第1回 全体的指導

第2回 個別発表と討議(1)

第3回 個別発表と討議(2)

第4回 個別発表と討議(3)

第5回 個別発表と討議(4)

第6回 個別発表と討議(5)

第7回 個別発表と討議(6)

第8回 個別発表と討議(7)

第9回 個別発表と討議(8)

第10回 個別発表と討議(9)

第11回 個別発表と討議(10)

第12回 個別発表と討議(11)

第13回 個別発表と討議(12)

第14回 個別発表と討議(13)

第15回 個別発表と討議(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <*c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づく研究を深める。

授業の概要

各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。前期の最後には原稿用紙換算で20枚以上のレポートと、卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらおう。また9月には合宿を行い、そこで卒論の構想を発表してもらおう。

準備学習(予習・復習)

多くの史料(資料)をなるべく丁寧に読むこと。

内 容

第1回 ガイダンスなど

第2回 歴史研究とは何か?

第3回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第4回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第5回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第6回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第7回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第8回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第9回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第10回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第11回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第12回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第13回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第14回 個別報告(時間があまれば、史料を読む)

第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマにもとづく研究を深化させる。

授業の概要

各自のテーマにもとづく個別報告を行い、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 4回生前期のゼミ運営方法討議
- 第2回 昨年度卒業論文の紹介
- 第3回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(1)
- 第4回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(2)
- 第5回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(3)
- 第6回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(4)
- 第7回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(5)
- 第8回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(6)
- 第9回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(7)
- 第10回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(8)
- 第11回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(9)
- 第12回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(10)
- 第13回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(11)
- 第14回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(12)
- 第15回 4回生前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈*a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の概要

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。なお、古代史関係の遺産の見学(1回)や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

資料・論文の蒐集に努めること。

内 容

- 第1回 研究の進行状況のチェックと指導
- 第2回 中間報告に向けて一報告レポートの作成一
- 第3回 中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
- 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
- 第5回 個別報告と質疑(1)
- 第6回 個別報告と質疑(2)
- 第7回 個別報告と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 卒業研究の整理と評価(1)
- 第14回 卒業研究の整理と評価(2)
- 第15回 卒業研究の整理と評価(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **日本史演習Ⅳ <*b>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文の完成に向けて

授業の到達目標

卒業論文の完成に向けて、発表・討論を行う。後期は下書きの執筆・推敲を経て卒業論文の完成を目指すので、ゼミの時間外での個別指導も行う。

授業の概要

発表・討論・授業時間外も含めた個別指導等によって卒業論文を完成させる。なお、歴史学等に関する講演会を1回入れることがある。また、必要に応じて学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

卒業論文の下書きの執筆は計画的に行うこと。

内 容

- 第9回 個別発表と討論(9)
- 第10回 個別発表と討論(10)
- 第11回 個別発表と討論(11)
- 第12回 個別発表と討論(12)
- 第13回 個別発表と討論(13)
- 第14回 個別発表と討論(14)
- 第15回 個別発表と討論(15)
- 第1回 個別発表と討論(1)
- 第2回 個別発表と討論(2)
- 第3回 個別発表と討論(3)
- 第4回 個別発表と討論(4)
- 第5回 個別発表と討論(5)
- 第6回 個別発表と討論(6)
- 第7回 個別発表と討論(7)
- 第8回 個別発表と討論(8)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

卒業研究の完成に向けて

授業の到達目標

各自の研究テーマを深め、卒業論文を執筆し完成させる。

授業の概要

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。報告終了後は卒業論文の下書きを書き進める。

準備学習(予習・復習)

多くの史料をなるべく丁寧に読み、文章をわかりやすく書くこと。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第2回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第3回 卒業論文中間発表会
- 第4回 卒業論文の形式と書き方
- 第5回 下書きの検討
- 第6回 下書きの検討
- 第7回 下書きの検討
- 第8回 下書きの検討
- 第9回 下書きの検討
- 第10回 下書きの検討
- 第11回 下書きの検討
- 第12回 卒業論文の最終調整
- 第13回 卒業論文の最終調整
- 第14回 反省会
- 第15回 歴史学とは何か？

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文の作成

授業の概要

各自のテーマにもとづく個別報告を行い、さらに深めた討議を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒業論文作成のための指導(1)
- 第2回 卒業論文作成のための指導(2)
- 第3回 卒業論文中間報告
- 第4回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(1)
- 第5回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(2)
- 第6回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(3)
- 第7回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(4)
- 第8回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(5)
- 第9回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(6)
- 第10回 卒業論文の内容にかかわる個別報告(7)
- 第11回 卒業論文作成の注意事項指導(1)
- 第12回 卒業論文作成の注意事項指導(2)
- 第13回 卒業論文作成後の反省会(1)
- 第14回 卒業論文作成後の反省会(2)
- 第15回 卒業論文作成後の反省会(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <*a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成に向けて、確実な研究能力を向上させる。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
 ○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成させる

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお、学外授業を行うこともある。また学外講演者を招いて講演会を行なう予定である。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <*c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察の進展をめざす。

授業の概要

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

参考文献の収集と精読、情報整理

内 容

- 第1回 歴史研究を進めるにあたっての留意点(史料、文献の扱い方)、問題設定にあたっての注意点(研究動向整理)、研究成果の公表としての卒業論文の構成について
- 第2回 全体指導と個別面談①
- 第3回 全体指導と個別面談②
- 第4回 全体指導と個別面談③
- 第5回 全体指導と個別面談④
- 第6回 全体指導と個別面談⑤
- 第7回 全体指導(卒業論文執筆上の注意)
- 第8回 学生報告①と討論・講評
- 第9回 学生報告②と討論・講評
- 第10回 学生報告③と討論・講評
- 第11回 学生報告④と討論・講評
- 第12回 学生報告⑤と討論・講評
- 第13回 学生報告⑥と討論・講評
- 第14回 学生報告⑦と討論・講評
- 第15回 夏休みに向けての心構え

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考えます。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導(なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある)なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **世界史演習Ⅳ <*b>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある。また期間中、学外授業を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ <*c>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究に真摯に取り組み、卒業論文の完成をめざす

授業の概要

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお、中間発表に備えて、9月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習(予習・復習)

自らの卒業研究における課題に真摯に取り組み、文献の収集、精読、情報整理、分析し、それらの成果をゼミおよび面談において披露できるようにする。

内 容

第1回 中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成

第2回 レジュメのチェック

第3回 卒論中間発表会

第4回 卒業論文の執筆要領についての解説

第5回 卒業論文執筆に向けて個別指導①

第6回 卒業論文執筆に向けて個別指導②

第7回 卒業論文執筆に向けて個別指導③

第8回 卒業論文執筆に向けて個別指導④

第9回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑤

第10回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑥

第11回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑦

第12回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑧

第13回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑨

第14回 卒論総括

第15回 卒論諮問に向けて諸注意、卒業後について懇談

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考えられる。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

自分の発表のための準備は十分におかねばならない。発表に対する指導やコメントを後でよく考えより良い論文作成に向けて努力しなければならない。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14) ※なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ〈*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化遺産

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都市の歴史遺産を学ぶ

授業の到達目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、現代における遺産の調査・保護・活用について問題意識をもつ。

授業の概要

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々に講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に2～3回の現地見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、以下の予定は2014年度実施の内容に準拠したもので、実際の講義内容や見学対象は講師の関係で変更する場合がある(その際にはあらためて通知する)。

準備学習(予習・復習)

日常的にたくさんの文化遺産を見学し、自身で問題意識をもってほしい。なお、2講時分程度を1単位としてミニレポートを課す。

内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産の特徴(総説)
- 第2回 京都市の文化遺産
- 第3回 京都市の史跡と世界遺産
- 第4回 地域社会と庭園 ー以上、第1日ー
- 第5回 京都市の文化的景観
- 第6回 京都市内にある恩賜の建物
- 第7回 京都市の民俗文化財・剣鉾のまつり
- 第8回 京都と大津の遺跡 ー以上、第2日ー
- 第9回 二条城の構造と建物
- 第10回 二条城の障壁画
- 第11回 文化遺産見学(1-二条城)
- 第12回 文化遺産見学(1-二条城) ー以上、第3日ー
- 第13回 京都市の民俗文化財・祇園祭
- 第14回 祇園祭・大船鉾を描く絵画・文化遺産見学(2-市無形文化遺産展示室)
- 第15回 まとめー文化遺産の保護とその課題ー ー以上、第4日ー

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。

2015 Syllabus

科目名 美術工芸史概説〈Za〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する。

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をととして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 演習事前指導

第3回 歴史遺産学演習①

第4回 歴史遺産学演習②

第5回 歴史遺産学演習③

第6回 歴史遺産学演習④

第7回 演習事後学習

第8回 総括

第9回 歴史遺産学演習①

第10回 歴史遺産学演習②

第11回 歴史遺産学演習③

第12回 歴史遺産学演習④

第13回 歴史遺産学演習⑤

第14回 歴史遺産学演習⑥

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 文化財特講 I (古代文化史) <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあるあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習(予習・復習)

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN: 9784787709356

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅱ(中近世文化史)〈Z〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

西洋の都市・建築史を、社会的・文化的背景との関連から、人間の諸活動の痕跡として捉え直す

授業の到達目標

西洋の事例を中心に、各時代で人々がどのような問題に直面し、いかなる都市的・建築的解決を模索してきたのか、その思考と試行のプロセスに着目して論じる。そうすることで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する、(2)西洋建築の設計手法と空間の特質を理解する、(3)西洋における建築と都市の関わりと成り立ちを理解する、(4)各種演習や卒業研究に取り組む際に、多くの示唆を与えてくれる参照必須事例についての基礎知識を身につける。

授業の概要

最新の都市・建築事情も紹介しつつ、履修者の身近な現代から過去へと時代をさかのぼる。独自に作成した画像・図版・レジュメ等の資料を用いて、西洋の都市・建築史の基本事項を理解できるよう講義を行う。

準備学習(予習・復習)

西洋の都市・建築について学ぶことで、日本の都市・建築をより相対的に把握できるようになります。逆もまた然りです。まずは身近な日本の事例、特に関西の古建築・歴史的町並みを積極的に探訪してください。講義で紹介する重要事例について、夏休みなどに、実際に現地で現物に接しフィールドワークを行う努力をしてください。映画や文学などイメージとしてどのように西洋の都市・建築が扱われているか注意を払ってください。

内 容

- 第1回 【序、現代-都市・建築概観1】 講義の進め方、評価(確認レポート、試験)について。「都市組織」という考え方について。現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第2回 【現代-都市・建築概観2】 近代都市建築の残した課題、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第3回 【近代建築と都市計画の展開】 様式から空間への変遷を理解する：均質空間と近代建築、国際化の過程。
- 第4回 【近代建築・都市計画の萌芽】 新しい素材と近代建築の生成、各地のオールヌーヴォオ等の思潮と特徴を把握する。
- 第5回 【産業革命・工業化と都市・建築】 高層建築の歴史について。
- 第6回 【都市大改造と理想都市計画】 理想都市計画(田園都市、工業都市、輝ける都市etc)とオスマンのパリ大改造の思潮と特徴を把握する。→ この回は、前編「理想都市計画」を詳細に講義する
- 第7回 【様式リヴァイヴァル・革命期の建築と都市】 古典建築以降幻視建築を含む各様式の概要と基本類型・差異を把握する。→ この回の内容は、一通りの流れを理解した後、第14回【西洋都市・建築史総括1】にて扱う→ よって、実際の講義では第6回目の内容の後編「オスマンのパリ大改造」を詳細に扱う
- 第8回 【古典主義・バロック建築と都市】 ヨーロッパ各地のバロック建築・ロココ建築の特徴、ルネサンス建築ならびにマニエリスム建築との差異を把握する。→ 第8回目と第9回目は一体的に扱う
- 第9回 【ルネサンス・マニエリスム期の建築と都市】 神から人間のための建築・都市へと移行するルネサンス期の社会的文化的文脈と空間構成の特徴。マニエリスム期の特徴、ならびにそれらとバロック期建築との差異を把握する。→ 第8回目と第9回目は一体的に扱う
- 第10回 【ゴシック建築と中世都市】 光の建築・ゴシック大聖堂の構造的特徴を中世都市の成り立ちと合わせて理解する。また、ゴシック建築の展開と地域的差異を把握する。
- 第11回 【初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク建築と中世都市、イスラム都市建築】 中世都市、初期キリスト教、ビザンチン建築、ロマネスク建築の成立過程と事例を把握する。また、イスラム都市建築を概観しその差異を把握する。
- 第12回 【古代ローマの建築と都市】 ローマ都市の形成、ローマ古典建築の特徴を理解する。
- 第13回 【古代ギリシャの建築と都市】 ギリシャ建築思潮とその実践(地中海都市含む)の関係性を理解
- 第14回 【西洋都市・建築史総括1】 原始的空間、古代から現代までの大きな流れをダイジェストとして通覧し(過去から現存へ)、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みの意義を再確認する。〈前編〉先史時代～様式リヴァイヴァル期。
- 第15回 【西洋都市・建築史総括2】 同上 〈後編〉 産業革命期、近代化～現代

履修上の注意点

教科書

テキスト建築意匠

著者： 平尾和洋+末包伸吾編集、松本裕、他著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2006

ISBN:

参考書

近代建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社：彰国社

出版年：1981

ISBN:

西洋建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社：彰国社

出版年：1976

ISBN:

図説世界建築史』(全16巻)

著者:

出版社：本の友社

出版年:

ISBN:

卒業設計コンセプトメイキング

著者： 松本 裕

出版社：学芸出版社

出版年：2008

ISBN:

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（40）

筆記試験(60点):「講義中に配布したプリントへ直接手書きでノートしたもの」と『テキスト建築意匠』のみ「持ち込み可」にて筆記試験を実施する。参加度(40点):出席を重視します。毎回、出席確認を兼ねた簡単な小レポート(講義内容に関する履修者各自の見解+講義への感想・要望+質問など)を提出していただきます。

2015 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅲ(建築) <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築史を読み解く

授業の到達目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の概要

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

準備学習(予習・復習)

日本建築史に関する概説書・新書・選書を積極的に読むこと。歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

内 容

- 第1回 日本の建築技術と大工道具
- 第2回 日本建築入門
- 第3回 飛鳥時代の寺院建築
- 第4回 奈良時代の寺院建築
- 第5回 真言・天台宗の建築
- 第6回 顕密仏教の展開と寺院建築(学外授業)
- 第7回 神社本殿の成立
- 第8回 古代における貴族住宅の成立
- 第9回 中世における新様式の移入 大仏様・禅宗様
- 第10回 中世における寺院造営と新技術の導入
- 第11回 豊臣政権による寺社造営とその技術
- 第12回 近世城郭の成立
- 第13回 近世民家の類型と地域的特色
- 第14回 日本の近代化と建築
- 第15回 歴史的建造物の保存をめぐる

履修上の注意点

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者: 日本建築学会編

出版社: 彰国社

出版年: 2011年

ISBN: 9784395008889

参考書

日本建築史

著者: 後藤治

出版社: 共立出版

出版年: 2003年

ISBN: 4-320-07663-X

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅳ(染織) <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

授業の到達目標

私たちの日常生活に深く浸透している染織文化は長い歴史の過程でどのように変遷してきたか、その大きな流れを歴史的な背景と共に理解する。

授業の概要

毎回レジュメを配布する。パワーポイントやビデオ鑑賞に加え、染織裂提示ナドさまざまな角度から染織の理解を深める。天然繊維素材・天然染料・織物組織など染織を理解するために必要な基本的知識も解説する。

準備学習(予習・復習)

博物館・美術館・社寺などに出向き工芸美術の本物を見て眼識を養ってほしい。伝統芸能や伝統文化などにも目を向ける。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
- 第2回 古代の染織
- 第3回 古墳時代の染織
- 第4回 上代の染織
- 第5回 正倉院の染織Ⅰ
- 第6回 正倉院の染織Ⅱ
- 第7回 正倉院の染織Ⅲ
- 第8回 平安時代の染織
- 第9回 束帯と女房装束
- 第10回 名物裂
- 第11回 能装束
- 第12回 小袖とは
- 第13回 小袖
- 第14回 小袖
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

受講のマナー 節度と良識をわきまえてほしい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

織りと染めの歴史

著者: 河上繁樹・藤井健三

出版社: 昭和堂

出版年:

ISBN:

染と織を訪ねる

著者: 長崎巖

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

正倉院染織品の研究

著者: 尾形允彦

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

正倉院紀要

著者:

出版社: 宮内庁正倉院事務所

出版年:

ISBN:

日本の色辞典

著者: 吉岡幸雄

出版社: 紫紅社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ〈ZA〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

テーマに沿った研究を深める。

授業の到達目標

先行研究論文の内容をまとめ、文章化する能力を身に付ける。

授業の概要

司会が発表内容をまとめた後、質疑に入る。

準備学習(予習・復習)

質問されて答えられなかった所は、その日のうちに調べ、次回の発表時の回答する。

内 容

- 第1回 ゼミ運営の策定。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 研究発表。
- 第4回 研究発表。
- 第5回 研究発表。
- 第6回 研究発表。
- 第7回 研究発表。
- 第8回 研究発表。
- 第9回 研究発表。
- 第10回 研究発表。
- 第11回 研究発表。
- 第12回 研究発表。
- 第13回 研究発表。
- 第14回 学外授業。
- 第15回 総括。冬季きゅか中の研究計画策定。

履修上の注意点

欠席は4回読みとめます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

発表方法、発表レジュメの内容、司会の出来栄え、質疑参加の頻度等総合的に判断してひょうかする。

2015 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ〈ZA〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 その他

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

独創的な卒業論文を作成する。

授業の到達目標

先行研究を踏まえ、資料に基づく客観的な論文を作成する。

授業の概要

学生が司会役を務め、発表内容をまとめたあと質疑応答にはいる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論中間発表資料の検討。
- 第2回 卒論中間発表資料の検討。
- 第3回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第4回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第5回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第6回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第7回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第8回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第9回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第10回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第11回 ゼミ討議。
- 第12回 ゼミ討議。
- 第13回 ゼミ討議。
- 第14回 学外授業。
- 第15回 卒業論文の口頭試問。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

発表方法、発表レジュメの内容、司会役様子、質疑に加わった頻度等を総合的に判断し評価する。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 『歴史学入門』を読む1
- 第10回 『歴史学入門』を読む2
- 第11回 『歴史学入門』を読む3
- 第12回 『歴史学入門』を読む4
- 第13回 『歴史学入門』を読む5
- 第14回 『歴史学入門』を読む6
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者： E.H.カー

出版社： 岩波書店

出版年： 1962

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 ゼミ 発表事前指導

第3回 発表①

第4回 発表②

第5回 発表③

第6回 発表④

第7回 発表⑤

第8回 総括

第9回 ゼミ 発表事前指導

第10回 発表①

第11回 発表②

第12回 発表③

第13回 発表④

第14回 発表⑤

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者： E.H.カー

出版社： 岩波書店

出版年： 1962

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゼミ 発表事前指導
- 第3回 発表①
- 第4回 発表②
- 第5回 発表③
- 第6回 発表④
- 第7回 発表⑤
- 第8回 総括
- 第9回 ゼミ 発表事前指導
- 第10回 発表①
- 第11回 発表②
- 第12回 発表③
- 第13回 発表④
- 第14回 発表⑤
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN:

歴史とは何か

著者： E.H.カー

出版社： 岩波書店

出版年： 1962

ISBN: 4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゼミ 発表事前指導
- 第3回 発表①
- 第4回 発表②
- 第5回 発表③
- 第6回 発表④
- 第7回 発表⑤
- 第8回 総括
- 第9回 ゼミ 発表事前指導
- 第10回 発表①
- 第11回 発表②
- 第12回 発表③
- 第13回 発表④
- 第14回 発表⑤
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をととして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゼミ 発表事前指導
- 第3回 発表①
- 第4回 発表②
- 第5回 発表③
- 第6回 発表④
- 第7回 発表⑤
- 第8回 総括
- 第9回 ゼミ 発表事前指導
- 第10回 発表①
- 第11回 発表②
- 第12回 発表③
- 第13回 発表④
- 第14回 発表⑤
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学概説 I <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をととして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 演習事前指導

第3回 歴史遺産学演習①

第4回 歴史遺産学演習②

第5回 歴史遺産学演習③

第6回 歴史遺産学演習④

第7回 演習事後学習

第8回 総括

第9回 歴史遺産学演習①

第10回 歴史遺産学演習②

第11回 歴史遺産学演習③

第12回 歴史遺産学演習④

第13回 歴史遺産学演習⑤

第14回 歴史遺産学演習⑥

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

山科分布調査概報復刻版

著者： 京都橘大学考古学研究同好会

出版社：

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学概説Ⅱ〈Z〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をととして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 歴史遺産学演習①
- 第10回 歴史遺産学演習②
- 第11回 歴史遺産学演習③
- 第12回 歴史遺産学演習④
- 第13回 歴史遺産学演習⑤
- 第14回 歴史遺産学演習⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

山科分布調査概報復刻版

著者： 京都橘大学考古学研究同好会

出版社：

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 日本美術史 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

古代から中世にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

本講義は、縄文時代から鎌倉時代までの絵画・彫刻・工芸・建築の作例から、古来日本人が中国や朝鮮半島から受容した技術や表現技法をいかに吸収し、自国の文化として昇華させていったのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらおうべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史 I と後期開講の日本美術史 II を合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方だけの履修でも差し支えない。

準備学習(予習・復習)

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンスー美術史学における年代観
- 第2回 縄文・弥生時代の美術ー土と金属の美
- 第3回 古墳時代の美術ー壁画古墳と副葬品
- 第4回 飛鳥時代の美術1ー仏教伝来と飛鳥寺
- 第5回 飛鳥時代の美術2ー法隆寺の金石文
- 第6回 白鳳時代の美術ー写実の萌芽と山田寺仏頭
- 第7回 奈良時代の美術1ー平城遷都と大仏創建
- 第8回 奈良時代の美術2ー鑑真渡日と木彫
- 第9回 平安時代前期の美術ー密教美術とは
- 第10回 平安時代後期の美術1ー院政期の絵画
- 第11回 平安時代後期の美術1ー浄土教の世界
- 第12回 平安時代後期の美術2ー治承の兵火
- 第13回 鎌倉時代の美術1ー南都復興と慶派仏師
- 第14回 鎌倉時代の美術2ー武士の時代における造形
- 第15回 学外見学

履修上の注意点

教科書

使用しない(資料配付)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 日本美術史Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 村田 隆志

テーマ

中世から近現代にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

室町時代から現代までの美術に関する諸分野の作例から、日本人がどのような文化を形成してきたのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方だけの履修でも差し支えない。

準備学習(予習・復習)

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 室町時代の美術1—唐物の尊重
- 第3回 室町時代の美術2—禅余画と初期狩野派
- 第4回 戦国・安土桃山時代の美術1—狩野派と長谷川派
- 第5回 戦国・安土桃山時代の美術2—侘び茶と工芸
- 第6回 江戸時代の美術1—狩野探幽と周辺の作家たち
- 第7回 江戸時代の美術2—琳派と円山四条派
- 第8回 江戸時代の美術3—南画の受容と発展
- 第9回 江戸時代の美術4—浮世絵
- 第10回 学外見学会
- 第11回 明治時代の美術1—洋画・写真・輸出工芸
- 第12回 明治時代の美術2—日本画の摸索
- 第13回 大正・昭和戦前の美術—モダニズムと美術
- 第14回 昭和戦後の美術—新たな時代に
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 東洋美術史 I <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリент(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習(予習・復習)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里头遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 西洋美術史 I <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河上 真理

テーマ

西洋美術史の軸(古代から19世紀まで)

授業の到達目標

西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解する。また西洋美術史の軸となってきた代表的な作品に親しむとともに、こうした作品の現代における意味も考察する。欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。

授業の概要

毎回プリント(授業のレジュメ)を配布し、1回毎に完結するように進めていく。

準備学習(予習・復習)

予習:教科書の指定箇所の通読復習:授業内容の整理ノートの作成

内 容

- 第1回 ギリシア美術
- 第2回 ローマ美術
- 第3回 初期キリスト教美術
- 第4回 ビザンティン美術
- 第5回 ロマネスク美術
- 第6回 ゴシック美術
- 第7回 ルネサンス美術 I
- 第8回 ルネサンス美術 II
- 第9回 北方ルネサンス美術
- 第10回 バロック美術
- 第11回 ロココ美術
- 第12回 新古典主義と美術アカデミー
- 第13回 ロマン主義
- 第14回 写実主義
- 第15回 印象主義

履修上の注意点

通史の授業なので全回出席することが望ましい。

教科書

増補新装 カラー版西洋美術史

著者: 高階秀爾

出版社: 美術出版社

出版年: 2002年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (70%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 民俗学 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

授業の到達目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の概要

以下の予定にしたがって講義を展開する。

準備学習(予習・復習)

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

内 容

- 第1回 柳田国男の人と学問—導入的観点から
- 第2回 民俗と民俗学そして宗教民俗学について(目的、方法、対象など)
- 第3回 「傘」の宗教民俗学—なぜ人は相合い傘を画くのか—
- 第4回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(1)—
- 第5回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(2)—
- 第6回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(3)—
- 第7回 怪獣民俗論—『ゴジラ』(1954)の鑑賞
- 第8回 怪獣民俗論—ゴジラの出現を民俗的世界観から考える—
- 第9回 怪獣民俗論—怪獣についての現代的イメージの源をさぐる—
- 第10回 怪獣民俗論—アメリカゴジラと日本ゴジラの比較民俗—
- 第11回 戦争と民俗—戦時下にはどのような民俗が生まれたか—
- 第12回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(1)—
- 第13回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(2)
- 第14回 民俗的境界論—境界は如何なる方法で造られたか—
- 第15回 まとめにかえて—フィールドワーク方法論

履修上の注意点

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民俗学概論

著者: 福田アジオ・宮田登編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

現代民俗学入門

著者: 佐野賢治編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

・参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

2015 Syllabus

科目名 民俗学Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	
テーマ 宗教民俗学入門	
授業の到達目標 現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。	
授業の概要 以下の予定にしたがって講義を展開する。	
準備学習(予習・復習) 民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。	
内 容 第1回 江戸・民衆のあの世観—熊野観心十界図— 第2回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(1)— 第3回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(2)— 第4回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(3)— 第5回 京都市域の民俗(1)—町屋の暮らし— 第6回 京都市域の民俗(2)—一年中行事と食べ物— 第7回 京都市域の民俗(3)—社寺へバーチャル参詣・「参詣曼荼羅」の世界へ— 第8回 祓いの構造と現代文化—「鬼で鬼を払う」(1)— 第9回 祓いの構造と現代文化—「鬼で鬼を払う」(2)— 第10回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(1)— 第11回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(2)— 第12回 裸祭りの諸相—人はなぜ裸になるのか— 第13回 『大魔神』にまなぶ日本の民俗(1) 第14回 『大魔神』にまなぶ日本の民俗(2) 第15回 まとめにかえて—再び民俗とは何かについて考える	
履修上の注意点	
教科書 プリント配布 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 民俗学概論 著者: 福田アジオ・宮田登編 出版社: 吉川弘文館 出版年: ISBN: 現代民俗学入門 著者: 佐野賢治編 出版社: 吉川弘文館 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (50) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (50) 参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。	

2015 Syllabus

科目名 世界遺産論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小泉 龍人	
テーマ オリエント周辺の古代都市	
授業の到達目標 古代オリエントはつねに世界の最先端を走っていて、現代文明のルーツとなっている。人類史の宝庫であるゆえに、オリエントは考古学の研究テーマとして世界中の研究者から注目されてきている。本授業は、オリエント周辺で、欧米において良く知られている都市遺跡を取り上げて、国際的な教養を身に付けることをねらいとしている。とくに、オリエント周辺において世界遺産に指定されている代表的な古代都市(モヘンジョダロ、ハットウシヤ、トロイア、ペルセポリス、パルミラなど)について、基本的な内容を説明できることを目標とする。同時に『旧約聖書』に登場する著名な古代都市(ウル、ニネヴェ、バビロンなど)について、おおまかに概説できる程度の知識を身に付ける。	
授業の概要 本授業は講義形式で行い、オリエント周辺の古代都市について解説していく。毎回プリントを配布し、おもにパワーポイントを活用する。順番・内容の変更もあり得る。講師の出張(発掘調査、学会)等により休講になる場合は、補講もしくは代替措置として博物館見学レポートを作成してもらう予定。	
準備学習(予習・復習) 授業計画に記されている各回の内容を確認して、遺跡がどこにあるのか、およそいつの時代なのかを把握しておく。	
内 容 第1回 受講ガイダンス、オリエント横断の旅(1)ーモヘンジョダロからガンダーラまでー 第2回 オリエント横断の旅(2)ーペルセポリスからローマの道までー 第3回 謎のインダス文明ーモヘンジョダロ(パキスタン)ー 第4回 アブラハムの故郷ーウル(イラク)ー 第5回 グルメな王とワインセラーーマリ(シリア)のジムリ・リム宮殿ー 第6回 陶器・ガラス・鉄の開発ーハットウシヤ(トルコ)ー 第7回 ギリシア神話の英雄と傾国ートロイア(トルコ)ー 第8回 「ノアの箱船」のルーツーニネヴェ(イラク)出土の「洪水の書板」ー 第9回 『旧約聖書』のバベルーバビロン(イラク)ー 第10回 オリエント最後の王都ーペルセポリス(イラン)ー 第11回 エーゲ海のヘレニズム都市ーペルガモン、エフェソス(トルコ)ー 第12回 沙漠のシルクロードを行くーパルミラ(シリア)ー 第13回 イスラームの都市ーダマスカスとアレppo(シリア)ー 第14回 オリエントの遺跡発掘(2)ートルコの発掘調査ー 第15回 まとめ・予備、レポート作成にあたっての解説	
履修上の注意点 本授業は専門的な内容のため、世界史や外国の考古学を意欲的に学ぶ姿勢がないと、授業内容を理解するのが難しいであろう。質問等は授業後、もしくはメール(初回授業時に伝える)。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 適宜プリントにて知らせる 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 ()	

a10411d910

レポート(60%) : 授業内容を理解した上で論述しているかどうかを評価。リアクションペーパー(20%) : 適宜実施して授業の理解度を評価。授業参加度(20%) : 遅刻2回で欠席扱い。私語・飲食等の授業進行の妨げとなるマナー違反には厳正に対処。

2015 Syllabus

科目名 文化財行政論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ 文化財保護行政と社会 行政用語からきた文化財という言葉を考えてみる	
授業の到達目標 永く国家行政主導でつづいてきた文化財行政は平成11年の保護法改正をうけて文化庁長官から都道府県・指定都市教育委員会に一部の権限が委譲されている。社会情勢に敏感な文化財行政の変化を基礎におき、文化財学の枠組みを理解する。	
授業の概要 各回とも配布したプリントにしたがい講義を進める。なお、各回の内容を変更することもある。また、授業の一環として、講師を招いて講演会を実施する。	
準備学習(予習・復習) 身の回りの指定・登録・選定文化財にふれて、その価値を考えてみる。	
内 容 第1回 文化財とは 第2回 文化財保護と文化遺産 第3回 日本における文化財保護制度の萌芽 第4回 美術工芸品・建造物の保護と公開・活用 第5回 記念物・史跡の保護と整備・活用 第6回 文化財保護法の制定 第7回 指定主義と台帳主義、原因者負担 第8回 歴史的風土の保存 古都保存法と明日香村特別措置法 第9回 重要文化的景観の選定 第10回 重要文化的景観と近代化遺産の保存活用の実際(学外授業) 第11回 無形文化財・民俗文化財及び文化財の保存技術の保護と活用 第12回 国立劇場、博物館および文化財研究所 第13回 文化財の展示とその評価 第14回 近代化遺産の現状とその未来 第15回 文化財について価値判断の歴史を考える	
履修上の注意点 私語は厳禁とし、私語をした受講生は即退席してもらおう。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 文化財保護関係法令集 第3次改訂版 著者: 文化財保護法研究会 出版社: ぎょうせい 出版年: 2009年 ISBN: 9784324087732	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する。

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をととして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 演習事前指導

第3回 歴史遺産学演習①

第4回 歴史遺産学演習②

第5回 歴史遺産学演習③

第6回 歴史遺産学演習④

第7回 演習事後学習

第8回 総括

第9回 歴史遺産学演習①

第10回 歴史遺産学演習②

第11回 歴史遺産学演習③

第12回 歴史遺産学演習④

第13回 歴史遺産学演習⑤

第14回 歴史遺産学演習⑥

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習 I **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 歴史遺産学演習①
- 第10回 歴史遺産学演習②
- 第11回 歴史遺産学演習③
- 第12回 歴史遺産学演習④
- 第13回 歴史遺産学演習⑤
- 第14回 歴史遺産学演習⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

山科分布調査概報復刻版

著者： 京都橘大学考古学研究同好会

出版社：

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をととして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 演習事前指導

第3回 歴史遺産学演習①

第4回 歴史遺産学演習②

第5回 歴史遺産学演習③

第6回 歴史遺産学演習④

第7回 演習事後学習

第8回 総括

第9回 歴史遺産学演習①

第10回 歴史遺産学演習②

第11回 歴史遺産学演習③

第12回 歴史遺産学演習④

第13回 歴史遺産学演習⑤

第14回 歴史遺産学演習⑥

第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

山科分布調査概報復刻版

著者： 京都橘大学考古学研究同好会

出版社：

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習Ⅱ <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 歴史遺産学演習①
- 第10回 歴史遺産学演習②
- 第11回 歴史遺産学演習③
- 第12回 歴史遺産学演習④
- 第13回 歴史遺産学演習⑤
- 第14回 歴史遺産学演習⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

山科分布調査概報復刻版

著者： 京都橘大学考古学研究同好会

出版社：

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習Ⅱ **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する。

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに関成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 歴史遺産学演習①
- 第10回 歴史遺産学演習②
- 第11回 歴史遺産学演習③
- 第12回 歴史遺産学演習④
- 第13回 歴史遺産学演習⑤
- 第14回 歴史遺産学演習⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産総合演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する。

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習(予習・復習)

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 歴史遺産学演習①
- 第10回 歴史遺産学演習②
- 第11回 歴史遺産学演習③
- 第12回 歴史遺産学演習④
- 第13回 歴史遺産学演習⑤
- 第14回 歴史遺産学演習⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 東洋美術史

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリент(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習(予習・復習)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **西洋美術史**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河上 真理

テーマ

西洋美術史の軸(古代から19世紀まで)

授業の到達目標

西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解する。また西洋美術史の軸となってきた代表的な作品に親しむとともに、こうした作品の現代における意味も考察する。欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。

授業の概要

毎回プリント(授業のレジュメ)を配布し、1回毎に完結するように進めていく。

準備学習(予習・復習)

予習:教科書の指定箇所の通読復習:授業内容の整理ノートの作成

内 容

- 第1回 ギリシア美術
- 第2回 ローマ美術
- 第3回 初期キリスト教美術
- 第4回 ビザンティン美術
- 第5回 ロマネスク美術
- 第6回 ゴシック美術
- 第7回 ルネサンス美術 I
- 第8回 ルネサンス美術 II
- 第9回 北方ルネサンス美術
- 第10回 バロック美術
- 第11回 ロココ美術
- 第12回 新古典主義と美術アカデミー
- 第13回 ロマン主義
- 第14回 写実主義
- 第15回 印象主義

履修上の注意点

通史の授業なので全回出席することが望ましい。

教科書

増補新装 カラー版西洋美術史

著者: 高階秀爾

出版社: 美術出版社

出版年: 2002年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (70%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈*A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学事象や史跡の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

授業の到達目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の概要

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

準備学習(予習・復習)

気に入ったものをつねに探す。史跡・博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

内 容

- 第1回 『選択する』考古学、パラダイムの転換、データと理論
 第2回 史跡の見学発表の検討
 第3回 史跡での見学発表(学外授業)
 第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
 第5回 オブジェクト・ワークショップ(はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用)
 第6回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)①
 第7回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)②
 第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
 第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
 第10回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論①
 第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②
 第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③
 第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④
 第14回 考古学的コンテキストを検討する
 第15回 さらなるレポートの課題の報告と研究の見通し

履修上の注意点

教科書

参考書

古墳の研究 調べ学習日本の歴史2

著者: 一瀬和夫監修

出版社: ポプラ社

出版年: 2000

ISBN: 9784591063774

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館や美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料を読む(1)
- 第3回 文献史料を読む(2)
- 第4回 文献史料を読む(3)
- 第5回 文献史料を読む(4)
- 第6回 文献史料を読む(5)
- 第7回 文献史料を読む(6)
- 第8回 文献史料を読む(7)
- 第9回 学外授業
- 第10回 くずし字を読む(1)
- 第11回 くずし字を読む(2)
- 第12回 くずし字を読む(3)
- 第13回 くずし字を読む(4)
- 第14回 くずし字を読む(5)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

美術史研究の入門編として、その方法論を知り、体験する。

授業の到達目標

本講義では観察と研究史の検討により、関連作例や時代背景を織り込みつつ対象を客観的に分析する視点を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

京都、奈良の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ディスクリプションとは何か
- 第3回 絵画のディスクリプション実習
- 第4回 彫刻のディスクリプション実習①
- 第5回 彫刻のディスクリプション実習②
- 第6回 テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析①
- 第7回 テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析②
- 第8回 学外見学
- 第9回 テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析①
- 第10回 テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析②
- 第11回 図書館レファレンス
- 第12回 研究史を調べる・読む・執筆する①
- 第13回 研究史を調べる・読む・執筆する②
- 第14回 研究史を調べる・読む・執筆する③
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究論文を読む能力を身に付ける。

授業の到達目標

批判的精神で論文を読む力を付ける。

授業の概要

論文を購読し、各自論文に出てくる考古遺物・遺構を調べ発表する。

準備学習(予習・復習)

購読の材料は予め配布していますので読んでください。わからない用語は調べるようにしてください。

内 容

- 第1回 ゼミ運営の策定。授業方法の概要説明。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 論文購読。
- 第4回 論文購読
- 第5回 論文購読
- 第6回 論文購読
- 第7回 論文購読
- 第8回 セミ発表。
- 第9回 セミ発表。
- 第10回 セミ発表。
- 第11回 セミ発表。
- 第12回 セミ発表。
- 第13回 セミ発表。
- 第14回 セミ発表。
- 第15回 総括。

履修上の注意点

発表予定の当日は欠席しないでください。やむおえず欠席する場合には、連絡を入れるようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

発表内容、レジュメ、司会の出来栄え、参加度を勘案して成績ひょうかする。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料を読む(1)
- 第3回 文献史料を読む(2)
- 第4回 文献史料を読む(3)
- 第5回 文献史料を読む(4)
- 第6回 文献史料を読む(5)
- 第7回 文献史料を読む(6)
- 第8回 文献史料を読む(7)
- 第9回 学外授業
- 第10回 くずし字を読む(1)
- 第11回 くずし字を読む(2)
- 第12回 くずし字を読む(3)
- 第13回 くずし字を読む(4)
- 第14回 くずし字を読む(5)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ <*C>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 25

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

『義演准后日記』を読む

授業の到達目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。さらに、論文を執筆する上で必要となる史料批判の方法についてもその基礎を学ぶ。

授業の概要

『義演准后日記』のうち、醍醐寺復興に関する記事を解読するとともに、それに関連する論文を講読する。なお、記事の内容に対する理解を深めるため、醍醐寺、伏見城下町、方広寺の見学を行う。

準備学習(予習・復習)

各回とも発表者は発表の準備をしていくこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス 『義演准后日記』とは
- 第2回 文献史料を読むための準備1 論文講読
- 第3回 文献史料を読むための準備2 文献史料に触れる
- 第4回 文献史料を読むための準備3 簡単な文献史料を読む
- 第5回 文献史料を読むための準備4 簡単な文献史料を読む
- 第6回 『義演准后日記』を読む1
- 第7回 『義演准后日記』を読む2
- 第8回 『義演准后日記』を読む3
- 第9回 『義演准后日記』を読む4
- 第10回 『義演准后日記』を読む5
- 第11回 学外授業
- 第12回 『義演准后日記』を読む6
- 第13回 『義演准后日記』を読む7
- 第14回 『義演准后日記』を読む8
- 第15回 『義演准后日記』を読む9

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

おさらい古文書の基礎

著者: 林英夫監修

出版社: 柏書房

出版年: 2002年

ISBN: 4-7601-2200-1

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 考古学研究 I (古代 I) <Z>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習(予習・復習)

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査(現地説明会等)・史跡整備地の見学

内 容

- 第1回 考古学の枠組み-過去に何がおこったか
- 第2回 考古学の枠組み-考古学の目的と方法
- 第3回 状況-発掘とは
- 第4回 状況-分布と予備調査
- 第5回 状況-発掘の手続き
- 第6回 状況-発掘(野外調査)
- 第7回 状況-保存措置と調査報告書作成
- 第8回 型式と層位、共存-層位と文化面
- 第9回 型式と層位、共存-異教時代の考古学
- 第10回 型式と層位、共存-型式学と編年研究
- 第11回 型式と層位、共存-相対年代と絶対年代の間
- 第12回 型式と層位、共存-共存資料と年代
- 第13回 層位学的研究と型式学的研究法のトレーニング
- 第14回 発掘現場の見学
- 第15回 遺跡発掘調査の現状と保存

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9784311300868

参考書

考古学研究入門

著者: H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1981

ISBN:

考古学への招待

著者: ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳

出版社: 雄山閣出版

出版年: 1988

ISBN: 4639007124

過去を読む

著者: イアン・ホッダー著、深澤百合子訳

出版社: フジインターナショナルプレス

出版年: 1997

ISBN:

考古学—理論・方法・実践—

著者： コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社： 東洋書林

出版年： 2007

ISBN: 9784887217157

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (45)

授業中発表等 (10)

参加度 (35)

2015 Syllabus

科目名 文献史料学 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

歴史考古学の研究法と研究成果を学ぶ。

授業の到達目標

文献史料と考古資料(遺物・遺構)の両面から歴史を考察する歴史考古学の方法を理解する。

授業の概要

毎回、講義録を配布し、それに基づいて講義を行い、OHPを使用して物を表示する。

準備学習(予習・復習)

配布したプリントを読み直し、復習してください。

内 容

- 第1回 富本銭の話。
- 第2回 古代の呪い 1
- 第3回 古代の呪い 2
- 第4回 古代の呪い 3
- 第5回 古代の呪い 4
- 第6回 百万塔とは。
- 第7回 古代の焼物の器名考証。
- 第8回 墨書土器・刻書土器。
- 第9回 大嘗祭の研究。
- 第10回 古代における焼物の調頁。
- 第11回 日本における喫茶の始まり。
- 第12回 国家仏教への道程(仏教伝来から持統朝まで)
- 第13回 官衙官人関連遺物 1 帯金具。
- 第14回 官衙官人関連遺物 2
- 第15回 『西大寺資材帳』から寺地・伽藍配置を検討。
- 第16回 試験。

履修上の注意点

欠席は5回未満まで。それ以上休みますと試験の結果次第ではD評価となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

試験の結果、課題の提出、参加度を勘案して成績評価する。

2015 Syllabus

科目名 文献史料学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

文献史料を読む

授業の到達目標

史料を読み解く力を身につける

授業の概要

古文書の翻刻史料を用いて、古文書に関する基礎的な知識を身につけ、古文書の読み方・解釈の仕方を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 江戸時代の文献史料
- 第2回 史料を読むために
- 第3回 古文書の基礎知識(1)
- 第4回 古文書の基礎知識(2)
- 第5回 文献史料の読み方・調べ方(1)
- 第6回 文献史料の読み方・調べ方(2)
- 第7回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(1)
- 第8回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(2)
- 第9回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(3)
- 第10回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(4)
- 第11回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(5)
- 第12回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(6)
- 第13回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(7)
- 第14回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(8)
- 第15回 まとめと総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産調査実習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 通年集中

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学の基本となる測量調査、発掘調査の一連の手続きにふれる

授業の到達目標

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。

授業の概要

本学などで8月を中心にして実施する測量調査、発掘調査の中で6日以上を選択して参加する。さらに事前に測量学習と調査の打ち合わせを行うとともに調査参加後に報告会を行う。京都府、大阪府、滋賀県内などの遺跡で調査する予定である。

準備学習(予習・復習)

発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。

内 容

- 第1回 平板測量などの学習
- 第2回 平板測量などの学習
- 第3回 遺跡発掘の見学
- 第4回 遺跡発掘の見学
- 第5回 ガイダンス
- 第6回 打合せ
- 第7回 打合せ
- 第8回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第9回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第10回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第11回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第12回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第13回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第14回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第15回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第16回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第17回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第18回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第19回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第20回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第21回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第22回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第23回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第24回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第25回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第26回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第27回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第28回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
- 第29回 調査報告会
- 第30回 調査報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

よくわかる測量実習(増補)

著者: 細川吉晴他

出版社: コロナ社

出版年: 2009

ISBN: 9784339052237

埋蔵文化財発掘調査の手引き

著者： 文化庁文化財保護部

出版社： 国土地理協会

出版年： 1966

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 考古学研究 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ 考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。	
授業の到達目標 社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。	
授業の概要 考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに向き今後の考古学のあり方を考える。	
準備学習(予習・復習) 発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査(現地説明会等)・史跡整備地の見学	

内 容

- 第1回 考古学の枠組み-過去に何がおこったか
 第2回 考古学の枠組み-考古学の目的と方法
 第3回 状況-発掘とは
 第4回 状況-分布と予備調査
 第5回 状況-発掘の手続き
 第6回 状況-発掘(野外調査)
 第7回 状況-保存措置と調査報告書作成
 第8回 型式と層位、共存-層位と文化面
 第9回 型式と層位、共存-異教時代の考古学
 第10回 型式と層位、共存-型式学と編年研究
 第11回 型式と層位、共存-相対年代と絶対年代の間
 第12回 型式と層位、共存-共存資料と年代
 第13回 層位学的研究と型式学的研究法のトレーニング
 第14回 発掘現場の見学
 第15回 遺跡発掘調査の現状と保存

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9784311300868

参考書

考古学研究入門

著者: H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1981

ISBN:

考古学への招待

著者: ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳

出版社: 雄山閣出版

出版年: 1988

ISBN: 4639007124

過去を読む

著者: イアン・ホッダー著、深澤百合子訳

出版社: フジインターナショナルプレス

出版年: 1997

ISBN:

考古学—理論・方法・実践—

著者： コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社： 東洋書林

出版年： 2007

ISBN: 9784887217157

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (45)

授業中発表等 (10)

参加度 (35)

2015 Syllabus

科目名 遺産情報演習 I <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	一瀬 和夫	
テーマ	文化遺産に関わる情報の課題設定、情報収集、観察・調査、分析・考察をへて、活用提案に至る。	
授業の到達目標	情報が大量に蓄積し、氾濫する文化遺産情報について、収集、図化表現する基礎を身につけるとともに、データ集積、分類、解釈の方法を合わせ体得する。さらに活用のための思考をめぐらせ、多様な表現でプレゼンテーションを試みる。	
授業の概要	課題を見つけ、個々、もしくはグループで、情報を集め、図などで表現し、互いに向けて発表し、議論を行い、自己評価する。	
準備学習(予習・復習)	つねに課題に対して構想を練る。	
内 容	<p>第1回 経験や知識を活用して自己の問題解決力を知る(1)</p> <p>第2回 経験や知識を活用して自己の問題解決力を知る(1)</p> <p>第3回 経験と知識、情報とは?</p> <p>第4回 情報は誰のためのものか?</p> <p>第5回 情報収集して調査する(1)</p> <p>第6回 情報収集して調査する(2)フィールド調査</p> <p>第7回 客観的・多角的な情報分析を試みる(1)</p> <p>第8回 客観的・多角的な情報分析を試みる(2)</p> <p>第9回 表現の構想を練る</p> <p>第10回 図表で表現する(1)</p> <p>第11回 図表で表現する(2)自己評価</p> <p>第12回 図解作成する・GISデータベースを作成する(1)</p> <p>第13回 図解作成する・GISデータベースを作成する(2)自己評価</p> <p>第14回 文化遺産の活用のための提案を行う(1)</p> <p>第15回 文化遺産の活用のための提案を行う(2)</p>	
履修上の注意点	互いの情報の共有に心がける。	
教科書	<p>伝わる! 図表のつくり方が身につく本</p> <p>著者: 永山嘉昭</p> <p>出版社: 高橋書店</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9784471191184</p>	
参考書	<p>博物館情報学入門</p> <p>著者: E.Orna & Ch.Pettitt</p> <p>出版社: 勉誠出版</p> <p>出版年: 2003 ISBN: 4585001727</p> <p>GISと地理空間情報</p> <p>著者: 橋本雄一</p> <p>出版社: 古今書院</p> <p>出版年: 2014 ISBN: 9784772241670</p>	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (30) 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (40)</p>	

2015 Syllabus

科目名 遺産情報演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
醍醐寺のパブリックな取り組みを観察・調査し、さらに広いパブリック化を模索する。	
授業の到達目標	
醍醐寺には京都最古、952年の建立の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂宇が存在する。特に三寶院には桃山時代の襖絵葵の間や表書院もある。下醍醐、上醍醐含め100余りの堂塔がある広大な境内では、2月に「五大力尊仁王会」4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは著名である。これら行事だけでなく、醍醐寺のもつ歴史文化を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多彩な活動プログラムがある。この演習ではそうした醍醐寺の活動を知り、その全容を観察・把握、まとめ、理解する。さらに分析することで広く周知活用されるためのパブリック化を試みる。プログラム内容の充実や広報面などの提案を行う能力を身につけようとするものである。	
授業の概要	
本科目では、「文化遺産」に関わろうとする人たちに、醍醐寺への支援や子ども・地元の人たちへの深い理解の促進、それを行うための経験者への働きかけをうながす方策を考えだすことを目指します。実際には、醍醐寺の文化遺産の「パブリック化」活動の中味をより広く周知することを最初の試みとする実地学修となります。具体的には、現在行われている「醍醐寺てらこやプロジェクト」などの取り組みの観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産をパブリック化する活動課題について醍醐寺関係者と発見し、より深く関わりたい人々を誘発する新たな活動のアイデアなどを探っていきます。	
準備学習(予習・復習)	
随時、授業展開に合わせて醍醐寺の情報を得るとともに現地観察及び調査を行う。	
内 容	
第1回 全体オリエンテーション(5月30日)	
第2回 コミュニケーショントレーニング(5月30日)	
第3回 インタビュートレーニング(6月20日)	
第4回 世界遺産醍醐寺プロジェクトについてインタビュー	
第5回 醍醐寺インタビューのまとめと課題発見、調査計画の立案	
第6回 醍醐寺プロジェクト活動プログラムの観察調査と参加者に対するインタビュー調査	
第7回 プロジェクト活動の集約と分析	
第8回 世界遺産醍醐寺プロジェクトのパブリック化に向けての調査項目の集約	
第9回 世界遺産パブリック化のモックアップを作成し、境内などでのインタビュー調査	
第10回 モックアップなどの評価を分析して提言案をまとめる	
第11回 プレゼンテーションの準備・プレゼンテーショントレーニング(レクチャー編)(9月26日)	
第12回 中間発表会(10月24日)	
第13回 世界遺産パブリックに対する提言発表(成果発表会)	
第14回 世界遺産パブリックに対する提言発表(成果発表会)(12月5日)	
第15回 報告書の提出と互いの報告書に対する討議	
履修上の注意点	
教科書	
PCによる教材提示	
著者:	
出版社:	
出版年:	
ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験 (0%)	小テスト (0%)
授業中課題 (60%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	小林 裕子・登谷 伸宏	
テーマ	歴史的建造物を知る(登谷)美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)	
授業の到達目標	歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。計測・デッサン・ディスクリプションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。	
授業の概要	歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。	
準備学習(予習・復習)	歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。	
内 容	第1回 ガイダンス(登谷) 第2回 実測調査1(学外授業)(登谷) 第3回 実測調査2(学外授業)(登谷) 第4回 実測調査3(学外授業)(登谷) 第5回 実測調査4(学外授業)(登谷) 第6回 図面の清書1<登谷> 第7回 図面の清書2<登谷> 第8回 図面の清書3、まとめ<登谷> 第9回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林) 第10回 デッサン(小林) 第11回 法量計測・撮影(小林) 第12回 画像処理(小林) 第13回 スキャニング(小林) 第14回 簡単なディスクリプション(小林) 第15回 調書作成・統括(小林)	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	新建築学大系50 歴史的建造物の保存 著者： 新建築学大系編集委員会編 出版社： 彰国社 出版年： 1999年 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・登谷 伸宏	
テーマ 歴史的建造物を知る(登谷)古文書に親しむ(有坂)	
授業の到達目標 歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)	
授業の概要 歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)	
準備学習(予習・復習) 歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)	
内 容 第1回 古文書を扱う①(有坂) 第2回 古文書を扱う②(有坂) 第3回 古文書を扱う③(有坂) 第4回 くずし字を読む①(有坂) 第5回 くずし字を読む②(有坂) 第6回 くずし字を読む③(有坂) 第7回 くずし字を読む④(有坂) 第8回 くずし字を読む⑤(有坂) 第9回 ガイダンス(登谷) 第10回 実測調査1(学外授業)(登谷) 第11回 実測調査2(学外授業)(登谷) 第12回 実測調査3(学外授業)(登谷) 第13回 実測調査4(学外授業)(登谷) 第14回 図面の清書1(登谷) 第15回 図面の清書2、まとめ(登谷)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 新建築学大系50 歴史的建造物の保存 著者: 新建築学大系編集委員会編 出版社: 彰国社 出版年: 1999年	ISBN:
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 (60)	小テスト () 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・巽 淳一郎

テーマ

考古資料の実測・拓本。古文書に親しむ(有坂)

授業の到達目標

考古学研究の最も基本となる実測法を理解し、土器3点を実測、軒丸瓦2点の拓本をとる。(巽)さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の概要

単に実測法を教授するだけでなく、資料の観察法も学ばせる。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

準備学習(予習・復習)

文化庁文化財部記念物課編集の『発掘調査の手引き』に実測・拓本の解説がありますので、一度紐解いてください。本は研究室にあります。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

内 容

- 第1回 考古資料の実測に関するガイダンス。土器実測の開始。
- 第2回 土器実測。
- 第3回 土器実測。
- 第4回 土器実測。
- 第5回 土器実測。
- 第6回 土器実測。
- 第7回 土器実測。
- 第8回 軒丸瓦の拓本をとる。
- 第9回 古文書を扱う①(有坂)
- 第10回 古文書を扱う②(有坂)
- 第11回 くずし字を読む①(有坂)
- 第12回 くずし字を読む②(有坂)
- 第13回 くずし字を読む③(有坂)
- 第14回 くずし字を読む④(有坂)
- 第15回 くずし字を読む⑤(有坂)

履修上の注意点

資料の扱いは丁寧してください。

教科書

参考書

発掘調査の手引き—集落遺跡発掘編・整理・報告書編—

著者：文化庁文化財部記念物課編集

出版社：

出版年：2010

ISBN：

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

実測図面できばえと参加度を勘案して評価する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・巽 淳一郎

テーマ

考古資料の実測・拓本古文書に親しむ(有坂)

授業の到達目標

考古学研究の最も基本となる実測法を理解し、土器3点を実測、軒丸瓦2点の拓本を取る。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の概要

単に実測法を教授するだけでなく、資料の観察法を学ばせる。テレビカメラで実測法実演し、理解に供する。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

準備学習(予習・復習)

文化庁文化財部記念物課編集の『発掘調査の手引き』読めば実測・拓本の仕方が分かりますので一度紐解いてください。本は研究室にあります。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

内 容

- 第1回 考古資料の実測に関するガイダンス 実測開始
- 第2回 土器実測
- 第3回 土器実測
- 第4回 土器実測
- 第5回 土器実測
- 第6回 土器実測
- 第7回 土器実測
- 第8回 軒丸瓦の拓本を取る
- 第9回 古文書を扱う①(有坂)
- 第10回 古文書を扱う②(有坂)
- 第11回 くずし字を読む①(有坂)
- 第12回 くずし字を読む②(有坂)
- 第13回 くずし字を読む③(有坂)
- 第14回 くずし字を読む④(有坂)
- 第15回 くずし字を読む⑤(有坂)

履修上の注意点

短い期間に実測法を学び実践するため、やむおえない場合を除き欠席はしないでください。資料の扱いは丁寧に行ってください。

教科書

参考書

発掘調査のてびき ー整理・報告書編ー

著者: 文化庁文化財部記念物課

出版社: 文化庁文化財部記念物課

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

実測図のできばえ・参加度を総合し評価する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定
担当者 小林 裕子・巽 淳一郎	
テーマ 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)考古学の最も基本となる遺物観察と遺物の図化方法を学ぶ(巽)	
授業の到達目標 計測・デッサン・ディスクリプションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。資料化するための図化方法を理解させ、修得させる(巽)。	
授業の概要 実測の方法を教え、TAの援助をえて各自実測を体験する(巽)。	
準備学習(予習・復習) 寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。	
内 容 第1回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林) 第2回 デッサン①(小林) 第3回 デッサン②(小林) 第4回 法量計測・撮影(小林) 第5回 画像処理(小林) 第6回 スキャニング(小林) 第7回 簡単なディスクリプション(小林) 第8回 調書作成・総括(小林) 第9回 考古遺物の研究法・資料化・公開法に関する知識を学ぶ。 第10回 焼物の実測実習(轆轤成形の現代製品)。 第11回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。 第12回 焼物の実測実習(非轆轤製品―土師器)。 第13回 焼物の実測実習(非轆轤製品―土師器)。 第14回 焼物の実測実習(轆轤成形品―須恵器)。 第15回 拓本実習。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子・登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷)美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)

授業の到達目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。計測・デッサン・ディスクリプションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。

授業の概要

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。

準備学習(予習・復習)

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
- 第2回 実測調査1(学外授業)(登谷)
- 第3回 実測調査2(学外授業)(登谷)
- 第4回 実測調査3(学外授業)(登谷)
- 第5回 実測調査4(学外授業)(登谷)
- 第6回 図面の清書1(登谷)
- 第7回 図面の清書2(登谷)
- 第8回 図面の清書3、まとめ(登谷)
- 第9回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第10回 デッサン(小林)
- 第11回 法量計測・撮影(小林)
- 第12回 画像処理(小林)
- 第13回 スキャニング(小林)
- 第14回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第15回 調書作成・総括(小林)

履修上の注意点

参加度と各自作成した実測図の出来ばえ見て評価する。

教科書

参考書

新建築学大系50 歴史的建造物の保存

著者: 新建築学大系編集委員会編

出版社: 彰国社

出版年: 1999年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマを設定し、研究を推し進める。

授業の到達目標

研究テーマに関する先行研究を把握し、課題を見つける。研究テーマに関連する資料を収集し資料化する。

授業の概要

学生が司会を務め、発表内容をまとめた後質疑応答に入る。

準備学習(予習・復習)

質問されて答えられなかった所はその日のうちに調べ、次の発表時に回答すること。

内 容

第1回 ゼミ運営の策定。各自研究テーマの設定。

第2回 学外授業。

第3回 ゼミ発表。

第4回 ゼミ発表。

第5回 ゼミ発表。

第6回 ゼミ発表。

第7回 ゼミ発表。

第8回 ゼミ発表。

第9回 ゼミ発表。

第10回 ゼミ発表。

第11回 ゼミ発表。

第12回 ゼミ発表。

第13回 ゼミ発表。

第14回 ゼミ発表。

第15回 総括。夏季休暇中の研究計画の策定。 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

欠席は4回迄認めます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

発表方法、発表レジュメの内容、司会の出来栄え、質疑応答に参加した頻度などを総合的に判断して評価する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <* b>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定 希望制
担当者 登谷 伸宏	
テーマ 歴史遺産学研究の方法を学ぶ	
授業の到達目標 歴史遺産学に関して各自が興味を持つ研究テーマを設定し、それについて研究成果と課題を確認する。	
授業の概要 各自の設定した研究テーマについて、先行研究の成果と課題について発表する。さらに、テーマに関連する代表的な研究論文を参加者全員で講読し、討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。	
準備学習(予習・復習) 興味のある分野に関する文献(概説書・新書・選書など)を積極的に読んでおくこと。	
内 容 第1回 ガイダンス1 歴史遺産学研究の進め方について 第2回 ガイダンス2 研究論文の検索と読み方について 第3回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読1 第4回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読2 第5回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読3 第6回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読4 第7回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読5 第8回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読6 第9回 学外授業 第10回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読7 第11回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読8 第12回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読9 第13回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読10 第14回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読11 第15回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読12	
履修上の注意点 この授業では、発表の内容はもちろん、討論への参加度を重視する。そのためには、授業での配布物にあらかじめ目を通しておくことが必要となる。この点をしっかりと理解した上で授業に出席して欲しい。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (35) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (35) 参加度 (30) 学期末には、研究テーマに関わる先行研究の成果と課題をまとめたレポートを提出してもらう。	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス及び『七大寺日記』解題
- 第2回 東大寺条(デモンストレーション)
- 第3回 東大寺条①
- 第4回 東大寺条②
- 第5回 東大寺条③
- 第6回 東大寺条④
- 第7回 東大寺条⑤
- 第8回 東大寺条⑥
- 第9回 学外見学
- 第10回 外部講師による特別講義
- 第11回 法隆寺条①
- 第12回 法隆寺条②
- 第13回 法隆寺条③
- 第14回 法隆寺条④
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者: 藤田経世

出版社: 中央公論美術出版

出版年: 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者: 奈良六大寺大観刊行会

出版社: 岩波書店

出版年: 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社: 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学演習(1)
- 第3回 歴史遺産学演習(2)
- 第4回 歴史遺産学演習(3)
- 第5回 歴史遺産学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 歴史遺産学演習(5)
- 第8回 歴史遺産学演習(6)
- 第9回 歴史遺産学演習(7)
- 第10回 歴史遺産学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 歴史遺産学演習(9)
- 第13回 歴史遺産学演習(10)
- 第14回 歴史遺産学演習(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (60)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

テーマに沿った研究を深める。

授業の到達目標

先行研究論文の内容をまとめ、文章化する能力を身に付ける。

授業の概要

司会が発表内容をまとめた後、質疑に入る。

準備学習(予習・復習)

質問されて答えられなかった所は、その日のうちに調べ、次回の発表時の回答する。

内 容

- 第1回 ゼミ運営の策定。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 研究発表。
- 第4回 研究発表。
- 第5回 研究発表。
- 第6回 研究発表。
- 第7回 研究発表。
- 第8回 研究発表。
- 第9回 研究発表。
- 第10回 研究発表。
- 第11回 研究発表。
- 第12回 研究発表。
- 第13回 研究発表。
- 第14回 学外授業。
- 第15回 総括。冬季きゅか中の研究計画策定。

履修上の注意点

欠席は4回読みとめます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

発表方法、発表レジュメの内容、司会の出来栄え、質疑参加の頻度等総合的に判断してひょうかする。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ〈*b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

歴史遺産学に関する論文を執筆するための準備を行う。

授業の概要

各自が設定した研究テーマに関して論文を執筆するための作業、すなわち(1)論文執筆に必要な材料(歴史資料)を見つけ、読解すること、(2)それを用いて議論を組み立てること、を実際に行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。学期末には原稿用紙換算で15枚以上の小論を作成してもらう。

準備学習(予習・復習)

研究テーマに関わる学術書・論文を積極的に読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表1
- 第2回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表2
- 第3回 個別発表1
- 第4回 個別発表2
- 第5回 個別発表3
- 第6回 個別発表4
- 第7回 個別発表5
- 第8回 学外授業
- 第9回 個別発表6
- 第10回 個別発表7
- 第11回 個別発表8
- 第12回 個別発表9
- 第13回 個別発表10
- 第14回 個別発表11
- 第15回 まとめ 小論執筆の進捗状況の報告

履修上の注意点

この授業では、発表の内容はもちろん、討論への参加度を重視する。そのためには、授業での配布物にあらかじめ目を通しておくことが必要となる。この点をしっかりと理解した上で授業に出席して欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (35)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・外部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 元興寺条①
- 第3回 元興寺条②
- 第4回 元興寺条③
- 第5回 元興寺条④
- 第6回 元興寺条⑤
- 第7回 大安寺条①
- 第8回 大安寺条②
- 第9回 大安寺条③
- 第10回 大安寺条④
- 第11回 大安寺条⑤
- 第12回 西大寺条①
- 第13回 西大寺条②
- 第14回 卒論構想発表会
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者: 藤田経世

出版社: 中央公論美術出版

出版年: 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者: 奈良六大寺大観刊行会

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社: 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学演習(1)
- 第3回 歴史遺産学演習(2)
- 第4回 歴史遺産学演習(3)
- 第5回 歴史遺産学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 歴史遺産学演習(5)
- 第8回 歴史遺産学演習(6)
- 第9回 歴史遺産学演習(7)
- 第10回 歴史遺産学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 歴史遺産学演習(9)
- 第13回 歴史遺産学演習(10)
- 第14回 歴史遺産学演習(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (60)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	一瀬 和夫	
テーマ	組織、群としての発掘調査成果を記録する考古学研究の基礎となる実践方法を知る	
授業の到達目標	今日、発掘されたものはどのような手続きで処置されているのかを知り、フィジカルなチームプレーで行うことの多い調査の流れというものを理解して、研究へとつなげていくことを目的とする。また、その研究成果の活用も考える。	
授業の概要	作業室、野外、PC教室での作業。資料活用法の見学	
準備学習(予習・復習)	Photoshop、Illustratorのコンピュータ・ソフトに触れてみる。	
内 容	<p>第1回 考古遺物のスケッチと観察</p> <p>第2回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ①</p> <p>第3回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ②</p> <p>第4回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図①</p> <p>第5回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図②</p> <p>第6回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図③</p> <p>第7回 野外での測量①</p> <p>第8回 野外での測量②</p> <p>第9回 野外での測量③</p> <p>第10回 Photoshop・Illustratorによる遺跡分布図の作成</p> <p>第11回 Photoshop・Illustratorによる調査区設定図の作成</p> <p>第12回 Photoshop・Illustratorによる土層断面図の作成</p> <p>第13回 Photoshop・Illustratorによる遺構平面図の作成</p> <p>第14回 Photoshop・Illustratorによる出土状況図の作成</p> <p>第15回 考古資料の展示の見学(学外授業)</p>	
履修上の注意点		
教科書	PCによる教材提示	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	埋蔵文化財発掘調査の手びき	
著者:	文化庁文化財保護部	
出版社:	国土地理協会	
出版年:	1966	ISBN:
測量入門	著者: 大杉和由・福島博行	
出版社:	実教出版	
出版年:	2014	ISBN: 9784407335477
成績評価	試験 (0) 小テスト (0)	
	授業中課題 (80) 授業中発表等 (0)	
	参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ	
歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価方法を学ぶ	
授業の到達目標	
歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価、および取り扱いに関する専門的な知識を習得する。	
授業の概要	
歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書を取りあげる。その上で、歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。一方、古文書については、①くずし字の解読・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をとまなう実習旅行を実施する予定である。	
準備学習(予習・復習)	
歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。	
内 容	
第1回 ガイダンス 歴史資料の評価、および取り扱いについて	
第2回 歴史的建造物の評価に関する実習1	
第3回 歴史的建造物の評価に関する実習2	
第4回 歴史的建造物の評価に関する実習3	
第5回 歴史的建造物の評価に関する実習4	
第6回 歴史的建造物の評価に関する実習5	
第7回 歴史的建造物の図面作成に関する実習1	
第8回 歴史的建造物の図面作成に関する実習2	
第9回 歴史的建造物の図面作成に関する実習3	
第10回 古文書の評価・取り扱いに関する実習1	
第11回 古文書の評価・取り扱いに関する実習2	
第12回 古文書の評価・取り扱いに関する実習3	
第13回 古文書の評価・取り扱いに関する実習4	
第14回 古文書の評価・取り扱いに関する実習5	
第15回 古文書の評価・取り扱いに関する実習6 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	
ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)
参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品(絵画・工芸品等)の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 美術工芸作品の種類と取扱説明
- 第3回 取扱実習(箱物①)
- 第4回 取扱実習(箱物②)
- 第5回 取扱実習(絵画①)
- 第6回 取扱実習(絵画②)
- 第7回 取扱実習(絵画③)
- 第8回 取扱実習(絵画④)
- 第9回 取扱実習(染織①)
- 第10回 取扱実習(染織②)
- 第11回 取扱実習(金工①)
- 第12回 取扱実習(金工②)
- 第13回 宿泊調査実習のための事前学習
- 第14回 宿泊調査実習のための事前学習
- 第15回 まとめ ※なお、必要に応じて学外授業をおこなうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 第2回 実習(1)古文書の扱い方
 第3回 実習(2)実習で扱う古文書について
 第4回 実習(3)内海家文書の整理①
 第5回 実習(4)内海家文書の整理②
 第6回 学外授業
 第7回 実習(5)内海家文書の解読・初級①
 第8回 実習(6)内海家文書の解読・初級②
 第9回 実習(7)内海家文書の解読・初級③
 第10回 実習(8)内海家文書の解読・初級④
 第11回 学外授業
 第12回 実習(9)内海家文書の解読・初級⑤
 第13回 実習(10)内海家文書の解読・初級⑥
 第14回 実習(11)内海家文書の解読・初級⑦
 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	一瀬 和夫	
テーマ	発掘調査成果を記録、報告するという考古学研究の基礎の中で自己研究をまとめる操作方法をつかむ	
授業の到達目標	I do and I understand, I work and I utilize をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などを備える発掘調査報告書の作成技術の修得をめざす。	
授業の概要	主にPC教室で、報告書作成作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。	
準備学習(予習・復習)	デジタルカメラ、Photoshop(画像)、Illustrator(製図)、InDesign(印刷編集)のコンピュータ・ソフトに触れる。	
内 容	<p>第1回 報告書作成の概要</p> <p>第2回 遺物のデジタル写真撮影</p> <p>第3回 遺物のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正</p> <p>第4回 Illustratorによる遺構のレイアウト</p> <p>第5回 Illustratorによる遺構のレイアウトとスケール・方位等の作成</p> <p>第6回 Illustratorによる遺物のレイアウト</p> <p>第7回 Illustratorによる遺物のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成</p> <p>第8回 InDesignによる編集①</p> <p>第9回 InDesignによる編集②</p> <p>第10回 コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)</p> <p>第11回 原稿作成①</p> <p>第12回 原稿作成②</p> <p>第13回 考古学の活用に伴ったプログラムへの参加</p> <p>第14回 展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学(学外授業)</p> <p>第15回 報告書とそれに伴うプレゼンテーションの総評</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>PCによる教材提示</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>埋蔵文化財発掘調査の手びき</p> <p>著者: 文化庁文化財保護部</p> <p>出版社: 国土地理協会</p> <p>出版年: 1966 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (80) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	
テーマ	
歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価方法を学ぶ	
授業の到達目標	
歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価、および取り扱いに関する専門的な知識を習得する。	
授業の概要	
歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書をとりあげる。その上で、歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。一方、古文書については、①くずし字の解説・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をとまなう実習旅行を実施する予定である。	
準備学習(予習・復習)	
歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。	
内 容	
第1回 ガイダンス 歴史資料の評価、および取り扱いについて	
第2回 歴史的建造物の評価に関する実習1	
第3回 歴史的建造物の評価に関する実習2	
第4回 歴史的建造物の評価に関する実習3	
第5回 古文書の評価・取り扱いに関する実習1	
第6回 古文書の評価・取り扱いに関する実習2	
第7回 古文書の評価・取り扱いに関する実習3	
第8回 古文書の評価・取り扱いに関する実習4	
第9回 古文書の評価・取り扱いに関する実習5	
第10回 古文書の評価・取り扱いに関する実習6	
第11回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習1	
第12回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習2	
第13回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習3	
第14回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習4	
第15回 まとめ 成果物に関する発表	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	
ISBN:	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)
参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。

授業の概要

前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。

準備学習(予習・復習)

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 仏像の種類と取扱説明
- 第3回 取扱実習(仏像①)
- 第4回 取扱実習(仏像②)
- 第5回 取扱実習(仏像③)
- 第6回 取扱実習(仏像④)
- 第7回 取扱実習(仏像⑤)
- 第8回 拓本
- 第9回 拓本
- 第10回 拓本
- 第11回 裏打ち
- 第12回 裏打ち
- 第13回 和綴じ
- 第14回 和綴じ
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)
参加度 (60)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①

第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②

第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③

第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④

第6回 学外授業

第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤

第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥

第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦

第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧

第11回 学外授業

第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①

第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②

第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③

第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 建築遺産研究 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 松本 裕

テーマ

西洋の都市・建築史を、社会的・文化的背景との関連から、人間の諸活動の痕跡として捉え直す

授業の到達目標

西洋の事例を中心に、各時代で人々がどのような問題に直面し、いかなる都市的・建築的解決を模索してきたのか、その思考と試行のプロセスに着目して論じる。そうすることで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する、(2)西洋建築の設計手法と空間の特質を理解する、(3)西洋における建築と都市の関わりと成り立ちを理解する、(4)各種演習や卒業研究に取り組む際に、多くの示唆を与えてくれる参照必須事例についての基礎知識を身につける。

授業の概要

最新の都市・建築事情も紹介しつつ、履修者の身近な現代から過去へと時代をさかのぼる。独自に作成した画像・図版・レジュメ等の資料を用いて、西洋の都市・建築史の基本事項を理解できるよう講義を行う。

準備学習(予習・復習)

西洋の都市・建築について学ぶことで、日本の都市・建築をより相対的に把握できるようになります。逆もまた然りです。まずは身近な日本の事例、特に関西の古建築・歴史的町並みを積極的に探訪してください。講義で紹介する重要事例について、夏休みなどに、実際に現地で現物に接しフィールドワークを行う努力をしてください。映画や文学などイメージとしてどのように西洋の都市・建築が扱われているか注意を払ってください。

内 容

- 第1回 【序、現代-都市・建築概観1】 講義の進め方、評価(確認レポート、試験)について。「都市組織」という考え方について。現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第2回 【現代-都市・建築概観2】 近代都市建築の残した課題、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第3回 【近代建築と都市計画の展開】 様式から空間への変遷を理解する：均質空間と近代建築、国際化の過程。
- 第4回 【近代建築・都市計画の萌芽】 新しい素材と近代建築の生成、各地のオールヌーヴォ等の思潮と特徴を把握する。
- 第5回 【産業革命・工業化と都市・建築】 高層建築の歴史について。
- 第6回 【都市大改造と理想都市計画】 理想都市計画(田園都市、工業都市、輝ける都市etc)とオスマンのパリ大改造の思潮と特徴を把握する。→ この回は、前編「理想都市計画」を詳細に講義する
- 第7回 【様式リヴィヴァル・革命期の建築と都市】 古典建築以降幻視建築を含む各様式の概要と基本類型・差異を把握する。→ この回の内容は、一通りの流れを理解した後、第14回【西洋都市・建築史総括1】にて扱う→ よって、実際の講義では第6回目の内容の後編「オスマンのパリ大改造」を詳細に扱う
- 第8回 【古典主義・バロック建築と都市】 ヨーロッパ各地のバロック建築・ロココ建築の特徴、ルネサンス建築ならびにマニエリスム建築との差異を把握する。→ 第8回目と第9回目は一体的に扱う
- 第9回 【ルネサンス・マニエリスム期の建築と都市】 神から人間のための建築・都市へと移行するルネサンス期の社会的文化的文脈と空間構成の特徴。マニエリスム期の特徴、ならびにそれらとバロック期建築との差異を把握する。→ 第8回目と第9回目は一体的に扱う
- 第10回 【ゴシック建築と中世都市】 光の建築・ゴシック大聖堂の構造的特徴を中世都市の成り立ちと合わせて理解する。また、ゴシック建築の展開と地域的差異を把握する。
- 第11回 【初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク建築と中世都市、イスラム都市建築】 中世都市、初期キリスト教、ビザンチン建築、ロマネスク建築の成立過程と事例を把握する。また、イスラム都市建築を概観しその差異を把握する。
- 第12回 【古代ローマの建築と都市】 ローマ都市の形成、ローマ古典建築の特徴を理解する。
- 第13回 【古代ギリシャの建築と都市】 ギリシャ建築思潮とその実践(地中海都市含む)の関係性を理解
- 第14回 【西洋都市・建築史総括1】 原始的空間、古代から現代までの大きな流れをダイジェストとして通覧し(過去から現存へ)、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みの意義を再確認する。<前編> 先史時代～様式リヴィヴァル期。
- 第15回 【西洋都市・建築史総括2】 同上 <後編> 産業革命期、近代化～現代

履修上の注意点

教科書

テキスト建築意匠

著者： 平尾和洋+末包伸吾編集、松本裕、他著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2006

ISBN:

参考書

近代建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社：彰国社

出版年：1981

ISBN:

西洋建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社：彰国社

出版年：1976

ISBN:

図説世界建築史』(全16巻)

著者:

出版社：本の友社

出版年:

ISBN:

卒業設計コンセプトメイキング

著者： 松本 裕

出版社：学芸出版社

出版年：2008

ISBN:

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（40）

筆記試験(60点):「講義中に配布したプリントへ直接手書きでノートしたもの」と『テキスト建築意匠』のみ「持ち込み可」にて筆記試験を実施する。参加度(40点):出席を重視します。毎回、出席確認を兼ねた簡単な小レポート(講義内容に関する履修者各自の見解+講義への感想・要望+質問など)を提出していただきます。

2015 Syllabus

科目名 **建築遺産研究Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築史を読み解く

授業の到達目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の概要

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

準備学習(予習・復習)

日本建築史に関する概説書・新書・選書を積極的に読むこと。歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

内 容

- 第1回 日本の建築技術と大工道具
- 第2回 日本建築入門
- 第3回 飛鳥時代の寺院建築
- 第4回 奈良時代の寺院建築
- 第5回 真言・天台宗の建築
- 第6回 顕密仏教の展開と寺院建築(学外授業)
- 第7回 神社本殿の成立
- 第8回 古代における貴族住宅の成立
- 第9回 中世における新様式の移入 大仏様・禅宗様
- 第10回 中世における寺院造営と新技術の導入
- 第11回 豊臣政権による寺社造営とその技術
- 第12回 近世城郭の成立
- 第13回 近世民家の類型と地域的特色
- 第14回 日本の近代化と建築
- 第15回 歴史的建造物の保存をめぐる

履修上の注意点

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者: 日本建築学会編

出版社: 彰国社

出版年: 2011年

ISBN: 9784395008889

参考書

日本建築史

著者: 後藤治

出版社: 共立出版

出版年: 2003年

ISBN: 4-320-07663-X

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産研究 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあるあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習(予習・復習)

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN: 9784787709356

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

授業の到達目標

私たちの日常生活に深く浸透している染織文化は長い歴史の過程でどのように変遷してきたか、その大きな流れを歴史的な背景と共に理解する。

授業の概要

毎回レジュメを配布する。パワーポイントやビデオ鑑賞に加え、染織裂提示ナドさまざまな角度から染織の理解を深める。天然繊維素材・天然染料・織物組織など染織を理解するために必要な基本的知識も解説する。

準備学習(予習・復習)

博物館・美術館・社寺などに出向き工芸美術の本物を見て眼識を養ってほしい。伝統芸能や伝統文化などにも目を向ける。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
- 第2回 古代の染織
- 第3回 古墳時代の染織
- 第4回 上代の染織
- 第5回 正倉院の染織Ⅰ
- 第6回 正倉院の染織Ⅱ
- 第7回 正倉院の染織Ⅲ
- 第8回 平安時代の染織
- 第9回 束帯と女房装束
- 第10回 名物裂
- 第11回 能装束
- 第12回 小袖とは
- 第13回 小袖
- 第14回 小袖
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

受講のマナー 節度と良識をわきまえてほしい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

織りと染めの歴史

著者: 河上繁樹・藤井健三

出版社: 昭和堂

出版年:

ISBN:

染と織を訪ねる

著者: 長崎巖

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

正倉院染織品の研究

著者: 尾形允彦

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

正倉院紀要

著者:

出版社: 宮内庁正倉院事務所

出版年:

ISBN:

日本の色辞典

著者: 吉岡幸雄

出版社: 紫紅社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 古都学 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 巽 淳一郎	
テーマ	
日本古代都城の変遷と各都城の特質を考える。	
授業の到達目標	
都城の変遷を理解し、東アジアの都城との違いを捉えること。	
授業の概要	
毎回、プリントを配布し、それに基づき講義する。	
準備学習(予習・復習)	
高校の日本史・世界史の教科書をおさらいしてください。	

内 容

- 第1回 都城成立以前の豪族居館。歴代遷宮。
 第2回 飛鳥の諸宮1(豊浦宮・小墾田宮)。
 第3回 飛鳥の諸宮2(岡本宮・百済宮・板蓋宮)。
 第4回 孝徳朝前期難波宮の構造。
 第5回 飛鳥の諸宮3(後岡本宮・飛鳥浄御原宮)。
 第6回 朝鮮三国の都城1 高句麗の都城の構造。
 第7回 朝鮮三国の都城2 百済の都城の構造。
 第8回 朝鮮三国の都城3 新羅の都城の構造。
 第9回 本格的な都城 藤原宮・成立。
 第10回 藤原宮の構造。
 第11回 平城宮・京の成立と構造。
 第12回 唐長安城の構造。
 第13回 藤原宮・平城宮・長安城の比較検討。
 第14回 恭仁宮・紫香楽宮・後期難波宮・長岡宮。
 第15回 都市住民の生活。
 第16回 試験。

履修上の注意点

欠席は4回迄認めます。それ以上欠席しますと試験の結果次第ではD評価になります。

教科書

参考書

飛鳥の宮と寺

著者: 黒崎直

出版社: 山川出版社

出版年: 2007

ISBN:

藤原京の形成

著者: 寺崎保広

出版社: 山川出版社

出版年: 2002

ISBN:

古代都市平城京の世界

著者: 舘野和己

出版社: 山川出版社

出版年: 2001

ISBN:

日本古代宮都構造の研究

著者： 小澤毅

出版社： 青木書店

出版年： 2003

ISBN:

飛鳥の宮と藤原京

著者： 林部均

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

試験の点数と参加度を勘案して評価する。

2015 Syllabus

科目名 古都学Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 前田 義明

テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る。

授業の到達目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

授業の概要

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から考古学的方法により遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

準備学習(予習・復習)

予習:京都市内の博物館・資料館における展示物の実見や寺社仏閣・伝統的街並みの見学を心掛ける。復習:配布資料や参考図書から授業内容の確認と整理。

内 容

- 第1回 平安京遷都 長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
 第2回 平安京の条坊制と条里制 平安京の条坊制・条里制と京都の町並みの関連を学ぶ
 第3回 平安宮の構造 平安宮の構造について実態と変遷を探る
 第4回 平安京の邸宅 京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
 第5回 平安京の寺院 平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
 第6回 平安京の出土遺物(1) 平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
 第7回 平安京の出土遺物(2) 土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具などについてその特質や変遷を学ぶ
 第8回 山科の遺跡(1) 山科盆地にある縄文時代から中世の遺跡を学ぶ
 第9回 山科の遺跡(2) 実地見学(大宅廃寺～山科本願寺)
 第10回 院政期(1) 白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
 第11回 院政期(2) 六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
 第12回 中世の遺跡 市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
 第13回 織豊期(1) 聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
 第14回 織豊期(2) 江戸時代に破壊・移築された伏見城の実態を探る
 第15回 近世の遺跡 二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

履修上の注意点

出席参加度および課題提出の重視

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

平安京提要

著者:

出版社: 角川書店

出版年: 1994

ISBN: 4-04-821044-0

つちの中の京都1

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2009

ISBN: 89704-267-1

つちの中の京都2

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2001

ISBN: 89704-163-5

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006

ISBN: 89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010

ISBN: 89704-278-7

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 地域文化論 <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 柴田 陽一	
テーマ	
最近の研究論文や先人の著作をとおして、「地域文化」(特に祭礼や伝説)に関する多面的・総合的な視点を学ぶと共に、特定の地域の文化現象についての調査・発表を行う。	
授業の到達目標	
いったい「地域文化」とは何だろうか。地域性があり、一定の地域にしか存在しない文化のことなのか。なぜそこにあり、なぜ地域によって異なるのか。こうした問いは学際的に解明される性格のものである。そのため本講義では、一分野に限らない文献(民俗学・文化人類学・人文地理学など)の読解と実際の調査を通して、「地域文化」に対する多面的・総合的な視点を獲得することを目標とする。	
授業の概要	
前半では<地域と祭礼>、後半では<地域と伝説>をテーマとして「地域文化」を考える視点について学ぶ。こうした視点を生かして、グループないしは個人で、ある「地域文化」に焦点を当てた調査・発表を行う。その他、2回分の学外授業(フィールドワーク、博物館の見学等)を予定している。	
準備学習(予習・復習)	
授業内容の復習、グループないしは個人発表の準備	
内 容	
第1回	イントロダクション
第2回	地域と祭礼①
第3回	地域と祭礼②
第4回	地域と祭礼③
第5回	地域と祭礼④
第6回	地域と祭礼⑤
第7回	学外授業①(京都を予定)
第8回	地域と伝説①
第9回	地域と伝説②
第10回	地域と伝説③
第11回	地域と伝説④
第12回	地域と伝説⑤
第13回	学外授業②(大津を予定)
第14回	グループ/個人発表①
第15回	グループ/個人発表②、レポート作成の注意点
履修上の注意点	
グループ/個人発表を設定しているため、授業時間外にそれに向けた準備をしていただく必要があります。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
授業中に指示する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (50)	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 (30)
参加度 (20)	
グループ/個人発表のプレゼン、およびそれをまとめたレポートの内容によって評価する。加えて、出席回数や授業への参加態度も考慮する。	

2015 Syllabus

科目名 木簡・金石文学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質や遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

授業の到達目標

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

準備学習(予習・復習)

木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第3回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第4回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第5回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
- 第6回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第8回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第9回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第11回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第12回 西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

適宜プリントなどを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

- 出版年： 2010 ISBN: 978-4004312567
木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者： 東野治之
出版社： 岩波書店
出版年： 1983 ISBN: 978-4004202318
平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者： 渡辺晃宏
出版社： 講談社
出版年： 2009 ISBN: 978-4062919043
平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く
著者： 渡辺晃宏
出版社： 柏書房
出版年： 2010 ISBN: 978-4760137404
日本古代木簡選
著者： 木簡学会
出版社： 岩波書店
出版年： 1990 ISBN: 978-4000016803
日本古代木簡集成
著者： 木簡学会
出版社： 東京大学出版会
出版年： 2003 ISBN: 978-4130201360
〈歴史の証人〉木簡を究める
著者： 奈良文化財研究所
出版社： クバプロ
出版年： 2014 ISBN: 978-4878051340

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

試験はレポートによる場合もある。

2015 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅲ(中世Ⅰ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤本 史子

テーマ

中世都市の考古学研究

授業の到達目標

遺跡・遺物から中世都市を考える場合の視点とその方法を学び、中世都市を分析する能力を得ることを目的とする。

授業の概要

中世都市を理解するために、都市の概念および中世都市の考古学研究を概観する。そのうえで、城下町や港湾都市遺跡など個別中世都市研究について解説し、都市としての要素について議論する。

準備学習(予習・復習)

予習:各授業で取り上げるテーマについて事前に簡単に下調べをしておく復習:理解できなかった点、疑問を持った点についてはその都度質問し、解決しておくこと

内 容

- 第1回 都市の概念について
 第2回 中世都市遺跡の研究史と現状
 第3回 中世都市遺跡① 遺構(1)―道・建物―
 第4回 中世都市遺跡② 遺構(2)―総構―
 第5回 中世都市遺跡③ 遺物(1)―土器―
 第6回 中世都市遺跡④ 遺物(2)―陶磁器―
 第7回 中世都市遺跡⑤ 遺物(3)―貿易陶磁器―
 第8回 個別都市遺跡事例研究①―境内都市 八幡の空間復原―
 第9回 個別都市遺跡事例研究②―境内都市 流通拠点としての八幡―
 第10回 個別都市遺跡事例研究③―港湾都市 兵庫津の空間復原―
 第11回 個別都市遺跡事例研究④―港湾都市 流通拠点としての大物―
 第12回 個別都市遺跡事例研究⑤―城下町 伊丹(有岡城)の空間復原―
 第13回 個別都市遺跡事例研究⑥―寺内町 山科本願寺の空間復原―
 第14回 中世都市京都の研究① ―主な発掘調査事例―
 第15回 中世都市京都の研究② ―中世における京都と他都市との比較―(ディスカッション)

履修上の注意点

遅刻と途中退社はしないように。授業中質問した際には、わからなくても積極的に答えること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

都市考古学の研究

著者: 前川要

出版社: 柏書房

出版年: 1991年

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅳ(中世Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

焼物を通じて日本の歴史をさぐる。

授業の到達目標

焼物の持つ国際性を理解する。焼物の様式変化を把握し、その社会的背景を考察する。

授業の概要

板書では費やす時間が勿体ないので、毎回、プリントを配布し、それに基づいて講義する。

準備学習(予習・復習)

予め日本陶磁史に関する概説書を読んでもらえば、授業内容が良く理解できると思います。

内 容

- 第10回 陶器部門3 緑釉陶器の日常什器化。
 第11回 陶器部門4 平安初期に継起する緑釉倒位食器の様式転換。
 第12回 漆器の歴史。縄文時代から中世まで。
 第13回 中世窯業の特質。
 第14回 戦国期の施釉陶器の生産(瀬戸・美濃焼)。
 第15回 磁器生産の開始と陶器の日常什器化。
 第16回 試験。
 第1回 陶磁器概説。日本における土器の発生。縄文土器の特徴。
 第2回 農耕文化の焼物、弥生土器。
 第3回 土器部門2 古墳時代の土師器の特徴。
 第4回 炆器部門1 須恵器の登場。
 第5回 焼物における型式と様式。7世紀における焼物様式の変化。
 第6回 瓦生産の開始。
 第7回 陶器部門1 7世紀施釉陶器の特質。
 第8回 陶器部門2 奈良三彩。
 第9回 律令国家の焼物様式の特質。

履修上の注意点

5明紀以上欠席しますと、試験の結果次第ではD評価になります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

試験結果と参加度を勘案して成績評価を行います。

2015 Syllabus

科目名 保存科学 I

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 植田 直見・川本 耕三・山田 卓司

テーマ

文化財資料の調査と保管環境

授業の到達目標

文化財資料を対象とした保存科学の歴史を学び、文化財資料の保存を考える上で必要な様々な調査の目的と方法を学ぶ。さらに、文化財資料のおかれている現状を把握し、長く後世に残し、活用するための保管環境についての知識も習得する。

授業の概要

文化財資料を後世に長く残すことを研究する学問である保存科学についてまずその歴史を学びこれまでの歩みを述べる。文化財資料を保存する上で理解しておかなければならない劣化について、材質毎に要因や状態、劣化機構を説明する。さらに資料を長く残すために必要な保管環境に影響をおよぼす要因と条件をまとめる。

準備学習(予習・復習)

授業が始まるまでに最低1館以上の博物館などを見学しておくこと。初回の授業でその感想をレポートにまとめる。

内 容

- 第1回 保存科学 I の概要(ガイダンス)
- 第2回 保存科学の歴史①
- 第3回 保存科学の歴史②
- 第4回 文化財資料の劣化について①
- 第5回 文化財資料の劣化について②
- 第6回 文化財資料の劣化について③
- 第7回 文化財資料の調査・分析①
- 第8回 文化財資料の調査・分析②
- 第9回 文化財資料の調査・分析③
- 第10回 資料の保管環境①(概要)
- 第11回 資料の保管環境②(温湿度)
- 第12回 資料の保管環境③(空気汚染と光)
- 第13回 資料の保管環境④(生物劣化)
- 第14回 資料の保管環境⑤(IPM)
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 保存科学Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 植田 直見・川本 耕三・山田 卓司

テーマ

文化財資料の保存処理と修復

授業の到達目標

保存処理の現場の見学も含め、様々な文化財資料を材質ごとに分けて具体的な例も交えながらどのように保存処理・修復するかその理念や方法を学ぶ。

授業の概要

様々な材質で構成された埋蔵文化財資料および伝世文化財資料について、保存処理と修復の理念を学び具体的な保存処理方法と修復方法を述べる。その上で実際の保存処理現場を見学することで保存処理・修復においてより具体的な知識および現状が把握出来るように説明する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 保存科学Ⅱの概要(ガイダンス)
- 第2回 文化財資料の保存処理・修復の理念①
- 第3回 文化財資料の保存処理・修復の理念②
- 第4回 出土木製品の保存処理①
- 第5回 出土木製品の保存処理②
- 第6回 出土木製品の保存処理③
- 第7回 出土金属製品の保存処理①
- 第8回 出土金属製品の保存処理②
- 第9回 出土金属製品の保存処理③
- 第10回 文化財資料の保存処理の実際①(元興寺文化財研究所の見学)
- 第11回 文化財資料の保存処理の実際②(元興寺文化財研究所の見学)
- 第12回 文化財資料の保存処理の実際③(元興寺文化財研究所の見学)
- 第13回 伝世資料の保存修復①
- 第14回 伝世資料の保存修復②
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマを設定し独創的な卒業論文に仕上げる。

授業の到達目標

関連する先行研究論文を読み、自分の研究テーマを探る。研究に関する資料を収集し、整理する。

授業の概要

研究課題に関する先行研究を読み解き、内容と課題を文章化し皆の前で発表し、意見を聞き客観性ある文章に仕上げる。司会役を分担させ、発表内容をまとめさせ、討議を始めさせる。

準備学習(予習・復習)

質問、指摘されたところは、その日のうちに検討確認する。

内 容

- 第1回 ガイダンス。ゼミ運営の策定。各自研究計画の策定と研究テーマを発表。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 ゼミ発表。
- 第4回 ゼミ発表。
- 第5回 ゼミ発表。
- 第6回 ゼミ発表。
- 第7回 ゼミ発表。
- 第8回 ゼミ発表。
- 第9回 ゼミ発表。
- 第10回 ゼミ発表。
- 第11回 ゼミ発表。
- 第12回 ゼミ発表。
- 第13回 ゼミ発表。
- 第14回 ゼミ発表。
- 第15回 総括。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

発表方法、発表レジュメの内容、質疑にどれだけ参加したか、司会でのまとめ方等を総合して評価する。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ <* b>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を執筆するため、以下の作業を行う。①研究テーマの設定②使用する史料の収集と読解③研究内容の発表

授業の概要

各自が、それぞれの設定した研究テーマに関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方について)
- 第2回 個別研究報告1
- 第3回 個別研究報告2
- 第4回 個別研究報告3
- 第5回 個別研究報告4
- 第6回 個別研究報告5
- 第7回 個別研究報告6
- 第8回 個別研究報告7
- 第9回 個別研究報告8
- 第10回 個別研究報告9
- 第11回 個別研究報告10
- 第12回 個別研究報告11
- 第13回 個別研究報告12
- 第14回 個別研究報告13
- 第15回 まとめ(研究の進捗状況の確認)

履修上の注意点

各自の設定したテーマに関する学術書・論文を積極的に読むこと。授業開講までに研究に必要な材料(歴史資料)を集めておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

研究テーマを設定し、論文執筆に必要な材料(歴史資料)をどれだけ読解できるかどうか、成績評価に大きく関わる。そのことをしっかりと理解して欲しい。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定し、執筆を進める。

授業の概要

まず受講者各々が研究テーマに関する先行研究をまとめ、口頭発表を実施する。つぎに論文構成を練ったうえで、再度発表して執筆方針を確定する。なお、必要に応じて外部講師による研究発表及び学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 図書館レファレンス
- 第3回 先行研究まとめ発表①
- 第4回 先行研究まとめ発表②
- 第5回 先行研究まとめ発表③
- 第6回 先行研究まとめ発表④
- 第7回 先行研究まとめ発表⑤
- 第8回 外部講師による研究発表
- 第9回 論文執筆方針及び構成の発表①
- 第10回 論文執筆方針及び構成の発表②
- 第11回 論文執筆方針及び構成の発表③
- 第12回 論文執筆方針及び構成の発表④
- 第13回 論文執筆方針及び構成の発表⑤
- 第14回 論文執筆方針及び構成の発表⑥
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第3回 歴史遺産学演習(2)
- 第4回 歴史遺産学演習(3)
- 第5回 歴史遺産学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 歴史遺産学演習(5)
- 第8回 歴史遺産学演習(6)
- 第9回 歴史遺産学演習(7)
- 第10回 歴史遺産学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 歴史遺産学演習(9)
- 第13回 歴史遺産学演習(10)
- 第14回 歴史遺産学演習(11)
- 第15回 総括
- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学演習(1)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

独創的な卒業論文を作成する。

授業の到達目標

先行研究を踏まえ、資料に基づく客観的な論文を作成する。

授業の概要

学生が司会役を務め、発表内容をまとめたあと質疑応答にはいる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論中間発表資料の検討。
- 第2回 卒論中間発表資料の検討。
- 第3回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第4回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第5回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第6回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第7回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第8回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第9回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第10回 卒業論文の作成。個別指導。
- 第11回 ゼミ討議。
- 第12回 ゼミ討議。
- 第13回 ゼミ討議。
- 第14回 学外授業。
- 第15回 卒業論文の口頭試問。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

発表方法、発表レジュメの内容、司会役様子、質疑に加わった頻度等を総合的に判断し評価する。

2015 Syllabus

科目名 **歴史遺産学演習Ⅳ <* b>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を作成するため、以下の作業を行う。①論文の執筆②史料の収集と読解

授業の概要

各自が、それぞれの卒業論文に関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表に向けた準備①
- 第2回 卒業論文中間発表に向けた準備②
- 第3回 卒業論文に関する研究報告①
- 第4回 卒業論文に関する研究報告②
- 第5回 卒業論文に関する研究報告③
- 第6回 卒業論文に関する研究報告④
- 第7回 卒業論文に関する研究報告⑤
- 第8回 卒業論文に関する研究報告⑥
- 第9回 卒業論文に関する研究報告⑦
- 第10回 卒業論文に関する編集作業①
- 第11回 卒業論文に関する編集作業②
- 第12回 卒業論文に関する編集作業③
- 第13回 卒業論文に関する編集作業④
- 第14回 卒業論文の講評①
- 第15回 卒業論文の講評②

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

卒業論文の執筆を積極的に進めて欲しい。

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の概要

すでに作成した論文構成に沿った中間発表リハーサルによりプレゼン能力を養う。また、個別指導とグループ指導を組み合わせ、緻密な論文に仕上げていく。なお、必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表リハーサル①
- 第2回 中間発表リハーサル②
- 第3回 中間発表リハーサル③
- 第4回 学外授業
- 第5回 グループ指導①
- 第6回 グループ指導②
- 第7回 個別論文指導①
- 第8回 個別論文指導②
- 第9回 個別論文指導③
- 第10回 個別論文指導④
- 第11回 個別論文指導⑤
- 第12回 レイアウトの基本〈図版画像処理〉
- 第13回 レイアウトの基本〈版面作成〉
- 第14回 卒論提出
- 第15回 講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅳ〈*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学演習(1)
- 第3回 歴史遺産学演習(2)
- 第4回 歴史遺産学演習(3)
- 第5回 歴史遺産学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 歴史遺産学演習(5)
- 第8回 歴史遺産学演習(6)
- 第9回 歴史遺産学演習(7)
- 第10回 歴史遺産学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 歴史遺産学演習(9)
- 第13回 歴史遺産学演習(10)
- 第14回 歴史遺産学演習(11)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*A>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小寺 隆幸	

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*B>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 池田 修

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*C>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 神谷 栄司	

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*D>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*E>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I < * F >

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 美智子	

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*G>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

授業の到達目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の概要

学生自身が調べたり考えたりしたことを話し合い、その中で学ぶことの意味を深め、主体的に学ぶ姿勢やそのためのスキルを身につけていく。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事についても考えていく。さらに秋のちびっこランドに向けて、子どもとの関わり方について考える。

準備学習(予習・復習)

毎回のテーマに沿って、事前に調べ、自分の考えをまとめる。またゼミの後で、学んだことをまとめ、掲示板などを活用して発信交流していく。学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

内 容

- 第1回 研究入門ゼミの導入 クラス自治組織を考える
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/私のふるさと
- 第3回 図書館の利用方法・文献の探し方
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるちびっこランド紹介
- 第5回 本の読み方: 図書館で調べた文献の要約
- 第6回 文の書き方: 私の主張
- 第7回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
- 第8回 教育・保育の素朴な疑問を出し合う
- 第9回 教育・保育について調べたことの発表
- 第10回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
- 第11回 メディアリテラシー 批判的に読む
- 第12回 討論する
- 第13回 活動を企画する
- 第14回 活動を通して考える
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位でもあり、様々な連絡も行うので、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*A〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小寺 隆幸	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりまなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める
 第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①
 第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②
 第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
 第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ
 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
 第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥
 第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦
 第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧
 第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)
 第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)
 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*B〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 三上 周治	
テーマ	大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー
授業の到達目標	大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。
授業の概要	ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。
準備学習(予習・復習)	文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。
内 容	<p>第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める</p> <p>第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①</p> <p>第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②</p> <p>第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①</p> <p>第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②</p> <p>第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ</p> <p>第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③</p> <p>第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④</p> <p>第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤</p> <p>第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥</p> <p>第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦</p> <p>第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧</p> <p>第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)</p> <p>第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)</p> <p>第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>
履修上の注意点	ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。
教科書	ゼミごとに選定
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (50)	授業中発表等 (50)
参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*C〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 神谷 栄司	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める
 第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①
 第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②
 第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
 第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ
 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
 第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥
 第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦
 第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧
 第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)
 第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)
 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*D〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める
 第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①
 第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②
 第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
 第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ
 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
 第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥
 第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦
 第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧
 第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)
 第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)
 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*E〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める
 第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①
 第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②
 第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
 第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ
 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
 第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥
 第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦
 第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧
 第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)
 第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)
 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ < * F >

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 青木 美智子	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める
 第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①
 第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②
 第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①
 第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②
 第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ
 第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③
 第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④
 第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
 第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥
 第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦
 第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧
 第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)
 第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)
 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*G〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

授業の到達目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ精読する。ゼミの後で、考えたことをまとめ掲示板などを活用して発信する。授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

内 容

第1回 クラス自治組織を考える／夏の体験交流と後期の課題／輪読文献を決める

第2回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画①

第3回 文化活動を通した子どもとのふれあいの企画②

第4回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ①

第5回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ②

第6回 文化活動を通した子どもとのふれあいのまとめ

第7回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ③

第8回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ④

第9回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑤

第10回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑥

第11回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑦

第12回 文献内容を要約し、論評する:教育・保育に関する論点をめぐって ⑧

第13回 子ども文化について考える(絵本・人形劇・ごっこ遊び)

第14回 子ども文化について考える(人形劇鑑賞とワークショップ)

第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

ゼミは大学生生活の基礎単位であり、よほどのことがない限り出席すること。

教科書

ゼミごとに選定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育原論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 八木 英二	
テーマ 教育の基本問題と教育改革	
授業の到達目標 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。	
授業の概要 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。	
準備学習(予習・復習) 様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたつぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。	
内 容 第1回 教育の素朴概念 第2回 発達と教育 第3回 教育課程の基本問題 第4回 学習指導要領について 第5回 様々な教育方法 第6回 教科指導の意義 第7回 生活指導実践の意義 第8回 教育の公共性 第9回 進路指導 第10回 高等学校の進路指導 第11回 教育専門職論 第12回 日本の教育制度 第13回 教育改革動向 第14回 教育基本法と学校教育 第15回 教育の国際的合意形成	
履修上の注意点	
教科書 新教育学[第2版] 著者： 南新ほか 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： ISBN: 参考書 講義のなかで紹介 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 授業中最終試験(40%) 授業中課題<提出物・レポート>(30%) 出席率(30%)	

2015 Syllabus

科目名 現代と教育

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

授業の到達目標

私たちはどのような時代を生きているかを同時代的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。

授業の概要

現代認識を身につけるためのテーマとして平和の問題とジェンダーの問題を取り上げる。その上で、現代社会が取り組むべき教育の課題を調べ、発表する。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く人をゲストティーチャーとして招き講演を組織する。

準備学習(予習・復習)

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

内 容

- 第1回 修学旅行と平和教育:ヒロシマ・ナガサキを考えることの意味は何か
- 第2回 ヒロシマ・ナガサキから70年、あなたは核の歴史を知っていますか?
- 第3回 原爆は被爆したヒロシマの人々に何をもたらしたかー佐々木禎子と大江賀美子
- 第4回 「はだしのゲン」閲覧制限問題を考える:中沢啓治が訴えたかったことは何か?
- 第5回 原爆は被爆したヒロシマの人々に何をもたらしたかー佐々木禎子と大江賀美子
- 第6回 「唯一の被爆国」日本がなぜ原発政策を進めたのか?
- 第7回 学校現場から教育を考える①:小学校
- 第8回 学校現場から教育を考える②:幼稚園
- 第9回 保育士の仕事を考える
- 第10回 福祉施設で働くということ
- 第11回 ジェンダーと教育を考える(1)
- 第12回 ジェンダーと教育を考える(2)
- 第13回 課題発表(1)
- 第14回 課題発表(2)
- 第15回 課題発表(3)

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 教職入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小寺 隆幸	

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習(予習・復習)

教育や保育、子どもの現状についての新聞報道やテレビのドキュメンタリーなどを積極的に見て考えるようにする。授業の後で、その日の授業で自分が考えたことなどを振り返り、疑問点などがあれば調べて深めていく努力をする。

内 容

- 第1回 教育をとりまく状況と今日の教育課題
- 第2回 教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
- 第3回 学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
- 第4回 小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
- 第5回 少人数指導・習熟度別指導を巡って
- 第6回 子どもたちの現状と生活指導の課題
- 第7回 いじめや不登校にどう取り組むか
- 第8回 学級作りの取り組み
- 第9回 総合的な学習の時間の意義と実際
- 第10回 特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
- 第11回 評価についての様々な考え方と実際
- 第12回 保護者・地域との連携をどうつくるか
- 第13回 教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
- 第14回 試験
- 第15回 試験の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

大学での教師を目指す上での最初の授業であり、欠席しないようにしてほしい。A4版のノートを指定する。それを購入し様々なことを書きこむこと。

教科書

新しい時代の教職入門

著者： 秋田喜代美・佐藤学

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

ノートを時々集め、評価する。

2015 Syllabus

科目名 **教育心理学**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

子どもの発達と教育

授業の到達目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を獲得することができるようにすること。

授業の概要

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
- 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
- 第3回 発達の原理と発達段階
- 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
- 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
- 第6回 忘却の原理と忘却理論
- 第7回 学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
- 第8回 人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
- 第9回 欲求の階層構造と人格発達
- 第10回 子どもの行動と防衛機制
- 第11回 教育評価とは、指導と評価
- 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
- 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
- 第14回 試験
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

教育心理学では、基礎的な概念や基本的な知識が数多く出てきます。これらの基礎的な概念をよく理解するとともに、基本的な知識を整理して覚えて下さい。

教科書

たのしく学べる 最新教育心理学

著者: 桜井茂男(編)

出版社: 図書文化

出版年: 2004年

ISBN: 978481003419-6

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 自然科学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 宮下 ゆたか	
テーマ	21世紀を生きる市民に求められる「科学的自然観」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。
授業の到達目標	①「自然の階層性・歴史性」について具体的事例を通して学び、「科学的自然観とは」について考察する。②天動説から地動説への変遷の歴史をとおり、「自然科学とは」「科学的なもの見方とは」について考察する。③いまだに収束していない2011.3.11福島第一原発事故問題をとおして、「原発・エネルギー問題」、「自然科学と社会との正しい関わり方」について自分の意見が持てることをめざす。
授業の概要	「科学的な自然観とは」、「科学的なもの見方とは」、「自然科学と社会との正しい関わり方とは」などについてグループ討論、ミニプレゼンも取り入れて学習を深める。
準備学習(予習・復習)	講義を受けて興味を持った項目・内容が出てきた場合は、図書館やインターネットのサイトから各自学習するとよい。
内 容	<p>第1回 自然科学概論オリエンテーション(講義内容・進め方、班編成、アンケートなど)</p> <p>第2回 「自然の階層性(1)」:原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界まで、各階層を貫く法則性について学習する。</p> <p>第3回 「自然の階層性(2)」:光と電子の振る舞いを中心に、量子の世界について学習する。</p> <p>第4回 「自然の歴史性(1)」:宇宙の進化と星の一生について学習する。</p> <p>第5回 「自然の歴史性(2)」:太陽、地球はどのようにして生まれ、進化してきたのかについて学習する。</p> <p>第6回 「自然の歴史性(3)」:最初の生命体は地球上でどのようにして誕生し、進化してきたのかについて学習する。</p> <p>第7回 「自然科学の起源」:自然科学誕生の歴史について学習する。</p> <p>第8回 「自然科学とは、科学的なもの見方とは(1)」:天動説から地動説への変遷の歴史について学習する。</p> <p>第9回 「自然科学とは、科学的なもの見方とは(2)」:「近代科学の父 ガリレオ」の科学的業績と生き方について学習する。</p> <p>第10回 ミニプレゼンのガイダンスと準備</p> <p>第11回 「原発・放射能問題(1)」:ミニ・プレゼン1</p> <p>第12回 「原発・放射能問題(2)」:ミニ・プレゼン2</p> <p>第13回 「原発・エネルギー問題 どう考えるか」代表者のプレゼン</p> <p>第14回 「原発・エネルギー問題 どう考えるか」補足とまとめ</p> <p>第15回 自然科学概論 ふりかえり学習とまとめ</p>
履修上の注意点	①15回の講義のうち、10回以上出席すること。6回以上欠席した場合は単位は認められない。②出席カードによる確認と、その日の講義の「課題作文」提出とで出席となる。③「介護等体験」「保育実習」などカリキュラム上の講義の欠席のみ「公欠」とみなす。就職活動を理由にする欠席は「公欠」としないので回数に注意して就職活動をすること。
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (45)	授業中発表等 (25)
参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **音楽概論**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 仁美

テーマ

社会的背景や他の芸術との関わりから音楽の歴史を辿る。

授業の到達目標

1)西洋音楽や日本音楽についての基礎的な知識を習得し、音楽表現への理解を深める。2)音楽の特徴を自らの言葉で語れるようになることを目指す。

授業の概要

社会的背景や他の芸術との関わりという視点から西洋音楽や日本音楽の歴史を概説し、様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞する。

準備学習(予習・復習)

予習:教科書をはじめ、音楽に関連する本や雑誌を読んでおく。復習:授業で取り上げた時代の音楽の特徴をまとめ、授業で触れた作品を聴く。

内 容

第1回 人間と音楽:音楽を考える視点、ワールドミュージック

第2回 西洋音楽:古代ギリシャ、中世の音楽

第3回 西洋音楽:ルネサンス音楽

第4回 西洋音楽:バロック音楽

第5回 西洋音楽:古典派の音楽

第6回 西洋音楽:ロマン派の音楽

第7回 西洋音楽:国民楽派の音楽

第8回 西洋音楽:近代・現代の音楽

第9回 ポピュラー音楽

第10回 日本の音楽:古代から中世へ

第11回 日本の音楽:能と狂言

第12回 日本の音楽:近世の音楽

第13回 総合芸術:音楽と舞踊

第14回 総合芸術:劇の音楽

第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。音楽鑑賞を中心とする科目なので、私語は禁止する。

教科書

西洋音楽史

著者: 岡田暁生

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

各回に小レポートを課す。

2015 Syllabus

科目名 美術概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術と人間、芸術と社会・文化との関連について理解する。

授業の到達目標

1) 芸術作品の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。2) 芸術作品を構成する造型言語に親しみ理解する。3) 芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。4) 作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習(予習・復習)

1) 展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2) 受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 聖書の中の男性表象①
- 第3回 聖書の中の男性表象②
- 第4回 聖書の中の男性表象③
- 第5回 聖書の中の男性表象④
- 第6回 聖書の中の男性表象⑤
- 第7回 聖書の中の女性表象①
- 第8回 聖書の中の女性表象②
- 第9回 聖書の中の女性表象③
- 第10回 聖書の中の女性表象④
- 第11回 聖書の中の女性表象⑤
- 第12回 映画の中の男性像と女性像①
- 第13回 映画の中の男性像と女性像②
- 第14回 映画の中の男性像と女性像③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。座席指定。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **数学概論**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

授業の到達目標

幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法(算数)の前段として位置づける。

授業の概要

グループごとに話し合いなどを交えて進める。自分で考えることを重視する。

準備学習(予習・復習)

* 宿題を出すのでしっかり取り組むこと。* 授業中に小テストを随時行う。

内 容

- 第1回 数とは何か 十進位取り記数法の考え方
- 第2回 加法減法
- 第3回 乗法除法
- 第4回 九九表の分析
- 第5回 連続量(小数)
- 第6回 連続量(分数)
- 第7回 外延量(長さ、重さ、面積など)
- 第8回 内包量(密度、濃度、速度など)
- 第9回 正負の数 数の拡張
- 第10回 角 対称性
- 第11回 求積
- 第12回 関数とは何か
- 第13回 座標と変換
- 第14回 確率の考え方
- 第15回 統計

履修上の注意点

教科書

入門算数学 第2版

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 体育概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 口野 隆史

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える

授業の到達目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

授業の概要

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起(クイズ)、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

準備学習(予習・復習)

1. 体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた(あるいは受けている)体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2. 新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的な背景等々、多くの視点で見てください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「投げる」遊び・動作の習得と運動発達
- 第2回 人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
- 第3回 筋肉の構造と筋力の発達や特性
- 第4回 人間の汗と体温調節のしくみ
- 第5回 人間の運動学習(わかる・できるようになる)
- 第6回 眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割(スポーツビジョン)
- 第7回 相撲の歴史と文化(日本のスポーツ・運動文化)
- 第8回 陸上競技の歴史と文化(世界のスポーツの歴史)
- 第9回 スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
- 第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか。「スポーツ基本法」には何が書いてあるのか
- 第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
- 第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
- 第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
- 第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回配布する資料にある質問(クイズ)をよく考えてみる。その資料を保管しておくこと。教員の話、他の学生の発表をよく聞くこと(私語を慎むこと)。体育・スポーツを様々な視点から考えてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (25)

参加度 (25)

しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

2015 Syllabus

科目名 音楽演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4~5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93 第6回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.93、94 第7回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.96、97 第10回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.97、98 第11回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (70) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 阿部 真子・佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93 第6回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.93、94 第7回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.96、97 第10回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.97、98 第11回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (70) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習 I <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 阿部 真子・佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標 1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93 第6回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.93、94 第7回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.95、96 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.96、97 第10回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.97、98 第11回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.99、100 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.100 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (70) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習 I <d>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	阿部 真子・佐野 仁美	
テーマ	ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い	
授業の到達目標	1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。	
授業の概要	受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4~5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習)	予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容	<p>第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82</p> <p>第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85</p> <p>第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89</p> <p>第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91</p> <p>第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93</p> <p>第6回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.93、94</p> <p>第7回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95</p> <p>第8回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.95、96</p> <p>第9回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.96、97</p> <p>第10回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.97、98</p> <p>第11回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99</p> <p>第12回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.99、100</p> <p>第13回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.100</p> <p>第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲</p> <p>第15回 ピアノ実技発表</p>	
履修上の注意点	3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。	
教科書	<p>楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN:</p> <p>コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:</p>	
参考書	<p>プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (70) 参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大久保 恭子・須増 啓之

テーマ

幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。

授業の到達目標

身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。

授業の概要

表現行為の充実を促す力をつけるために、色彩、形態、素材の3つの視点から実践を行う。

準備学習(予習・復習)

A4サイズのノートを各自購入して準備すること。毎回持参し、予習や復習として配布資料や各活動の記録、感想などをまとめる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)色彩に関する実践的理論解説
 第2回 紙で作る①(切り紙絵制作)
 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
 第4回 色を塗る①(絵具を使用)
 第5回 色を塗る②(鑑賞)
 第6回 色を塗る③(パスなどいろいろな描画材を使用)
 第7回 彩色素材に関する実践的理論解説
 第8回 粘土での造形①(感触を楽しむ)
 第9回 粘土での造形②(かたちを楽しむ)形態に関する実践的理論解説
 第10回 いろいろな材料での工作①
 第11回 いろいろな材料での工作②
 第12回 写す①(いろいろな写し方を探す)
 第13回 写す②(貼って凸凹を作る)
 第14回 写す③(凸凹を写す)
 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。制作活動中の無用な私語は禁ずる。

教科書

小学校学習指導要領解説 図画工作編』

著者: 文部科学省

出版社: 日本文教出版

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大久保 恭子・須増 啓之

テーマ

幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。

授業の到達目標

身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。

授業の概要

表現行為の充実を促す力をつけるために、色彩、形態、素材の3つの視点から実践を行う。

準備学習(予習・復習)

A4サイズのノートを各自購入して準備すること。毎回持参し、予習や復習として配布資料や各活動の記録、感想などをまとめる。

内 容

第2回 紙で作る①(切り紙絵制作)

第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)

第4回 色を塗る①(絵具を使用)

第5回 色を塗る②(鑑賞)

第6回 色を塗る③(パスなどいろいろな描画材を使用)

第7回 彩色素材に関しての実践的理論解説

第8回 粘土での造形①(感触を楽しむ)

第9回 粘土での造形②(かたちを楽しむ)形態に関しての実践的理論解説

第10回 いろいろな材料での工作①

第11回 いろいろな材料での工作②

第12回 写す①(いろいろな写し方を探す)

第13回 写す②(貼って凸凹を作る)

第14回 写す③(凸凹を写す)

第15回 まとめ

第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)色彩に関しての実践的理論解説

履修上の注意点

全回出席を前提とする。制作活動中の無用な私語は禁ずる。

教科書

小学校学習指導要領解説 図画工作編』

著者: 文部科学省

出版社: 日本文教出版

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼C〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大久保 恭子・須増 啓之

テーマ

幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。

授業の到達目標

身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。

授業の概要

表現行為の充実を促す力をつけるために、色彩、形態、素材の3つの視点から実践を行う。

準備学習(予習・復習)

A4サイズのノートを各自購入して準備すること。毎回持参し、予習や復習として配布資料や各活動の記録、感想などをまとめる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)色彩に関する実践的理論解説
- 第2回 紙で作る①(切り紙絵制作)
- 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
- 第4回 色を塗る①(絵具を使用)
- 第5回 色を塗る②(鑑賞)
- 第6回 色を塗る③(パスなどいろいろな描画材を使用)
- 第7回 彩色素材に関する実践的理論解説
- 第8回 粘土での造形①(感触を楽しむ)
- 第9回 粘土での造形②(かたちを楽しむ)形態に関する実践的理論解説
- 第10回 いろいろな材料での工作①
- 第11回 いろいろな材料での工作②
- 第12回 写す①(いろいろな写し方を探す)
- 第13回 写す②(貼って凸凹を作る)
- 第14回 写す③(凸凹を写す)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。制作活動中の無用な私語は禁ずる。

教科書

小学校学習指導要領解説 図画工作編』

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大久保 恭子・須増 啓之

テーマ

幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。

授業の到達目標

身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。

授業の概要

表現行為の充実を促す力をつけるために、色彩、形態、素材の3つの視点から実践を行う。

準備学習(予習・復習)

A4サイズのノートを各自購入して準備すること。毎回持参し、予習や復習として配布資料や各活動の記録、感想などをまとめる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)色彩に関する実践的理論解説
 第2回 紙で作る①(切り紙絵制作)
 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
 第4回 色を塗る①(絵具を使用)
 第5回 色を塗る②(鑑賞)
 第6回 色を塗る③(パスなどいろいろな描画材を使用)
 第7回 彩色素材に関する実践的理論解説
 第8回 粘土での造形①(感触を楽しむ)
 第9回 粘土での造形②(かたちを楽しむ)形態に関する実践的理論解説
 第10回 いろいろな材料での工作①
 第11回 いろいろな材料での工作②
 第12回 写す①(いろいろな写し方を探す)
 第13回 写す②(貼って凸凹を作る)
 第14回 写す③(凸凹を写す)
 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。制作活動中の無用な私語は禁ずる。

教科書

小学校学習指導要領解説 図画工作編』

著者: 文部科学省

出版社: 日本文教出版

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児b〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大久保 恭子・須増 啓之

テーマ

幼児・児童期の図画工作における表現行為の充実を導くための指導法を学ぶ。

授業の到達目標

身近な素材や道具を生かして造形の楽しさを実感させるための指導法を、実践を通して学習する。

授業の概要

表現行為の充実を促す力をつけるために、色彩、形態、素材の3つの視点から実践を行う。

準備学習(予習・復習)

A4サイズのノートを各自購入して準備すること。毎回持参し、予習や復習として配布資料や各活動の記録、感想などをまとめる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)色彩に関する実践的理論解説
- 第2回 紙で作る①(切り紙絵制作)
- 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
- 第4回 色を塗る①(絵具を使用)
- 第5回 色を塗る②(鑑賞)
- 第6回 色を塗る③(パスなどいろいろな描画材を使用)
- 第7回 彩色素材に関する実践的理論解説
- 第8回 粘土での造形①(感触を楽しむ)
- 第9回 粘土での造形②(かたちを楽しむ)形態に関する実践的理論解説
- 第10回 いろいろな材料での工作①
- 第11回 いろいろな材料での工作②
- 第12回 写す①(いろいろな写し方を探す)
- 第13回 写す②(貼って凸凹を作る)
- 第14回 写す③(凸凹を写す)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。制作活動中の無用な私語は禁ずる。

教科書

小学校学習指導要領解説 図画工作編』

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 こども理解 I (幼児)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 八木 英二

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

授業の概要

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討していく。

準備学習(予習・復習)

幼児にふさわしいと思われる童話を選び学生どうして読み聞かせをし合うなど、各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

内 容

- 第1回 園づくりと子ども
- 第2回 現場の諸問題と保育士
- 第3回 入園当初の事例検討
- 第4回 遊べない事実
- 第5回 2歳と3歳の姿(理解の理論及び事例検討)
- 第6回 4歳と5歳の姿(理解の理論及び事例検討)
- 第7回 6歳の就学(理解の理論及び事例検討)
- 第8回 様々な保育形態
- 第9回 イメージ遊び
- 第10回 お話あそびの成立
- 第11回 クラスレベルの遊びの発展
- 第12回 春の保育事例から
- 第13回 秋の保育事例から
- 第14回 劇遊びと生活発表会
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 **こども理解Ⅱ(児童)**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河内 晴彦	
テーマ	こども理解を深めよう ―こどもが表現した詩や作文を通して、こどもの生活や思いをつかむことから始める―
授業の到達目標	こども理解を深めるために、1, こどもの詩や作文を読み合う。2, 自分の「こども時代」を振りかえる。3, 現場における問題を通して、こどもの現状をまるごと理解する。
授業の概要	こどもの詩や作文を読み合い、意見や感想を交流しあう。小学校2年生の国語の教科書に載っている教材を読み、気持ちを考える。具体的な現場における問題を考えることで、今のこどもを理解する。
準備学習(予習・復習)	テキストをよく読む。こどもと教育に関する新聞記事を日頃から読む。自分なりの意見を持つ。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方・「自己紹介カード」回収)</p> <p>第2回 テキストを読み合う(1)1, こころのつぶやきと叫び</p> <p>第3回 テキストを読み合う(2)2, 家族のぬくもり 3, 自然とひびきあう</p> <p>第4回 テキストを読み合う(3)4, 学ぶ喜び、つながる安心 5, 明日へ</p> <p>第5回 「おてがみ」をみんなで読み合う。</p> <p>第6回 「おてがみ」を演じてみる。</p> <p>第7回 自分のことを書いてみよう。(1)うれしかったこと、悲しかったこと。</p> <p>第8回 自分のことを書いてみよう。(2)なぜ先生になろうと思ったの。</p> <p>第9回 こどもの現状をまるごと理解する(1)いじめの問題を通して</p> <p>第10回 こどもの現状をまるごと理解する(2)学級崩壊をどう考える</p> <p>第11回 こどもの現状をまるごと理解する(3)不登校・引きこもりの問題を通して</p> <p>第12回 こどもとともに歩む教師になろう(1)生活綴り方や教育実践を通して</p> <p>第13回 こどもとともに歩む教師になろう(2)保護者・地域とともに</p> <p>第14回 こどもとともに歩む教師になろう(3)若い仲間とともに</p> <p>第15回 まとめ(どんな先生になりたい?)とこれからの課題について</p>
履修上の注意点	適時、4人を上限とする小グループを編成する。小グループでの討論・作業をもとに、全体での発表や討論を行う。自分の意見を持ち、積極的に参加して欲しい。

教科書

聞いてよ こころのつぶやきと叫び

著者: 村山士郎

出版社: 本の泉社

出版年: 2009年

ISBN: 9784780704488

参考書

子ども格差

著者: 尾木直樹

出版社: 角川書店

出版年: 2010年

ISBN: 9784047102293

子ども理解のカンファレンス

著者: 福井雅英

出版社: かもがわ出版

出版年: 2009年

ISBN: 9784780303063

ふたりはともだち

著者: アーノルド・ローベル

出版社: 文化出版局

出版年: 1972年

ISBN: 9784579402472

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語コミュニケーション技術(ディベート)

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

第三者を説得するコミュニケーションの形態であるディベートを初歩から学び、コミュニケーションの質を深める。

授業の到達目標

ディベートを初歩から学び、そのスキルと指導方法の習得をめざす。論文執筆に必須の、論証の方法を学ぶ。小学校でディベートの指導ができるようになる。

授業の概要

ディベートを学ぶとディベートで学ぶの二つを行う。まとめとして、小論文を書く。製本して提出する。演習が中心になるので授業には積極的に参加のこと。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。チームを作ってディベートをすることがあるので、欠席は基本的に認めない。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

準備学習(予習・復習)

自らの疑問に対して、仮説を立て、調査を行い、自説を構築し、第三者が納得する形で話言葉と文字で伝えるというトレーニングは、諸君の得手不得手の分野を明らかにするだろう。これを理解した上で、世の中にある事象に対して「なぜだろう」「どうなっているのだろう」と考え、調べる癖を付けることが大事である。四回生で書くことになる卒業論文のための基礎トレーニングの一つとなることを期待する。

内 容

- 第1回 ディベートとは？ シナリオ方式のディベート1
 第2回 シナリオ方式のディベート2、シナリオ方式のディベート3
 第3回 シナリオの改良 立論の構造／プランの役割
 第4回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
 第5回 第二反駁のある改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
 第6回 試合の準備の仕方、リンクマップ、反駁カード、団体戦準備
 第7回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
 第8回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
 第9回 ディベートビデオ視聴 フローシートのとり方のテスト
 第10回 自由席論題ディベート1、自由席論題ディベート2、自由席論題ディベート3(個人戦)
 第11回 立論の作り方
 第12回 団体戦ディベート 予選1
 第13回 団体戦ディベート 予選2
 第14回 団体戦ディベート 予選3
 第15回 団体戦ディベート決勝 まとめ

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

中等教育におけるディベートの研究

著者： 池田修

出版社： 大学図書出版

出版年： ISBN:

武器としての決断思考

著者： 瀧本哲史

出版社： 星海社新書

出版年： ISBN:

社会調査のウソ

著者： 谷岡一郎

出版社： 文春新書

出版年： ISBN:

参考書

日本の論点2015

著者:

出版社: 文藝春秋

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

出欠席は出席君と掲示板の両方で確認する。参加度は、出席回数ではないことを理解すること。

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児内面を豊かにする音楽教育を考える。

授業の到達目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しみながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。

授業の概要

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境などを考慮しながら相応しいものを探っていく。

準備学習(予習・復習)

自然の移り変わりを心に留める。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
- 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
- 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
- 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
- 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
- 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
- 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
- 第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。
- 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
- 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
- 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
- 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
- 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
- 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
- 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。

履修上の注意点

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。

授業の到達目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しみながら、内面を豊かにするには、どうすればよいかを考える。

授業の概要

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。

準備学習(予習・復習)

自然の移り変わりを心に留める。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
- 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
- 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
- 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
- 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
- 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
- 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
- 第8回 身近にある物を使って、簡単な打楽器を作る。
- 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
- 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
- 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
- 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
- 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
- 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
- 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。

履修上の注意点

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼C〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	田中 淑子	
テーマ	幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。	
授業の到達目標	音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しみながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。	
授業の概要	幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。	
準備学習(予習・復習)	自然の移り変わりを心に留める。	
内 容	<p>第1回 音楽教育の意義について考える。</p> <p>第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1</p> <p>第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2</p> <p>第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。</p> <p>第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。</p> <p>第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。</p> <p>第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。</p> <p>第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。</p> <p>第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。</p> <p>第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1</p> <p>第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2</p> <p>第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。</p> <p>第13回 作詞作曲したものを発表し合う。</p> <p>第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。</p> <p>第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。</p>	
履修上の注意点		
教科書	必要に応じてコピーを配布する。	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト (40)	
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈児a〉

クラス

担当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 阿部 真子・佐野 仁美

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習(予習・復習)

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持つておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
 第2回 基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
 第3回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
 第4回 小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
 第5回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
 第6回 小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
 第7回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
 第8回 小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
 第9回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
 第10回 小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
 第11回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
 第12回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
 第13回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習(グループ)。音感トレーニング、楽典
 第14回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表(グループ)。音感トレーニング、楽典
 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

ピアノは使用しません。音楽が得意ではない人、特に歌うのが苦手な人、音痴は直せますので、積極的に履修してください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者: 初等科音楽教育研究会

出版社: 音楽之友社

出版年: 2011

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈児b〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 阿部 真子・佐野 仁美

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習(予習・復習)

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持つておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
- 第2回 基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
- 第3回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
- 第4回 小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第5回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
- 第6回 小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第7回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
- 第8回 小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第9回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第10回 小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
- 第11回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
- 第12回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
- 第13回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第14回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表(グループ)。音感トレーニング、楽典
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

ピアノは使用しません。音楽が得意ではない人、特に歌うのが苦手な人、音痴は直せますので、積極的に履修してください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者: 初等科音楽教育研究会

出版社: 音楽之友社

出版年: 2011

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **社会福祉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 80

履修条件

クラス指定

担当者 幸重 忠孝

テーマ

現代の身近な社会課題を切り口に社会福祉の理念と制度を理解する

授業の到達目標

子どもを取り巻く家族や社会の様々な課題に社会福祉がどう関わっているのか、社会福祉の理念をベースにしながらい現在の社会福祉の制度や仕組みを理解する。社会福祉の理念とは何かを講義を通して常に考えることを目的とする。

授業の概要

各回に関連した身近な福祉テーマをあつかった視聴覚教材(映画・ドラマ・アニメ・ドキュメンタリーなど)や地域の福祉活動を題材にし、社会福祉の現状と課題を講義する。ミニレポートを通して社会福祉の理念を考察する。

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された参考文献(福祉コミック)を読み学びを深める課題レポートによるフィールドワーク

内 容

- 第1回 オリエンテーション「現代社会における社会福祉の意義」
- 第2回 現代社会における社会福祉の意義「社会福祉とは何か？」
- 第3回 社会福祉と児童家庭福祉①「在宅福祉の推進」
- 第4回 社会福祉と児童家庭福祉②「少子高齢化社会と社会福祉」
- 第5回 社会福祉と子どもの人権「生活困窮と子どもの貧困」
- 第6回 社会福祉の制度と実施体系①「社会福祉の法律と制度」
- 第7回 社会福祉の制度と実施体系②「社会福祉の行政機関と社会福祉施設」
- 第8回 社会福祉の専門職「ソーシャルワーカーとケアワーカー」
- 第9回 社会福祉の歴史の変遷「社会福祉の先駆者たち」
- 第10回 ソーシャルワーク①「ケースワーク・相談援助」
- 第11回 ソーシャルワーク②「グループワーク・コミュニティーワーク」
- 第12回 社会福祉の動向と課題①「多様な家族形態と福祉支援」
- 第13回 社会福祉の動向と課題②「市民による福祉・NPO活動」
- 第14回 利用者の保護「守秘義務と第三者評価」
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち

著者： 山科醍醐こどものひろば

出版社： かもがわ出版

出版年： 2013

ISBN： 9784780305760

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業外課題(30%)

2015 Syllabus

科目名 **保育原理**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	80
履修条件	クラス指定	
担当者	神谷 栄司	
テーマ	幼児保育の年間の流れ—保育実践の事実のなかから理論をとりだす。	
授業の到達目標	(1) 幼児保育実践の年間の流れについてイメージをもつ。(2) 保育の主題と構造について理解する。(3) 保育の諸段階(積み上げ)について理解する。(4) 保育実践の事実のなかに含まれる理論問題に関心をもつ。	
授業の概要	テキストとレジュメにもとづいて講義する。受講生は各講義内容についてコメントを書く。	
準備学習(予習・復習)	事前にテキストを読んでおくこと。講義の折に示す参考文献についてできる限り眼を通すこと。各講義内容についてコメントを記しておくこと。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(幼児とその保育について先入観なく事実を捉えることについて)</p> <p>第2回 4～6月の幼児保育(1) 園庭の自然(小さな自然の世界)と保育</p> <p>第3回 4～6月の幼児保育(2) 園庭の自然(小さな自然の世界)と保育の主題</p> <p>第4回 4～6月の幼児保育(3) 中くらいの自然の世界と保育の構造</p> <p>第5回 4～6月の幼児保育(4) この時期の絵本の位置づけ</p> <p>第6回 自然に対する幼児の見方・感じ方の特質</p> <p>第7回 物語に対する幼児の理解・感動の特質</p> <p>第8回 9～12月の幼児保育(1) 運動会とそれ以降の秋の保育のあり方</p> <p>第9回 9～12月の幼児保育(2) ドングリを主題にした保育(中くらいの自然の世界)</p> <p>第10回 9～12月の幼児保育(3) ドングリを主題にした保育(絵本の役割)</p> <p>第11回 9～12月の幼児保育(4) ドングリを主題にした保育(大きな自然の世界)</p> <p>第12回 9～12月の幼児保育(5) 木の葉を主題にした保育</p> <p>第13回 9～12月の幼児保育(6) 長編の物語とこの時期の保育</p> <p>第14回 1～2月の幼児保育(1) 劇遊びについて</p> <p>第15回 1～2月の幼児保育(2) 年間の保育と劇づくり</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>幼児の考え方・感じ方と遊び</p> <p>著者: 神谷栄司</p> <p>出版社: 三学出版</p> <p>出版年: 2011</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (50) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (50)</p>	

2015 Syllabus

科目名 発達心理学(保)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 80

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

①乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴②主要な発達理論③主な発達障害と障害に応じた支援の方法

授業の到達目標

乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴、ならびに主要な発達理論について理解し、子どもの健全な成長・発達を支援するために必要とされる基礎的な知識や理論を習得する。また、主な発達障害と障害に応じた支援の方法についても理解する。

授業の概要

毎回の授業は教科書を参照しつつ、配布資料に基づいて進める。適宜、視覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はないが、講義の内容を配布資料と教科書を基に自分で整理すること。

内 容

- 第1回 胎生期の発達(卵胎期・胎芽期・胎児期の特徴)
- 第2回 新生児の発達の特徴
- 第3回 乳児期の発達と発達の諸相
- 第4回 幼児期前半の発達と発達の諸相(表象の成立)
- 第5回 幼児期前半から幼児期後半への移行(4歳頃の発達の变化)
- 第6回 幼児期後半の発達と発達の諸相:①直観的思考段階の特徴
- 第7回 幼児期後半の発達と発達の諸相:②心の理論
- 第8回 児童期前半の発達と発達の諸相(論理的思考の始まり)
- 第9回 児童期後半の発達と発達の諸相(9~10歳の壁)
- 第10回 青年期の発達と発達の諸相:①青年期の発達課題(自我同一性の獲得)
- 第11回 青年期の発達と発達の諸相:②青年期に好発する障害
- 第12回 ボウルビィの愛着理論
- 第13回 発達障害:①自閉症スペクトラム障害の特徴と支援のポイント
- 第14回 発達障害:②ADHD・LDの特徴と支援のポイント
- 第15回 まとめの課題

履修上の注意点

教科書

よくわかる認知発達とその支援

著者: 子安増生(編)

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005年

ISBN: 9784623043958

参考書

保育の心理学

著者: 新 保育士養成講座編纂委員会(編)

出版社: 全国社会福祉協議会

出版年: 2011年

ISBN: 9784793510311

0歳-6歳 子どもの発達と保育の本

著者: 港区保育を学ぶ会

出版社: 学研

出版年: 2011年

ISBN: 9784054048911

成績評価

試験 (70%)

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅰ－Ⅰ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 80

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳幼児の成長発達の特徴を理解する。2. 乳幼児の疾病の特徴や異常を理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
- 第2回 地域における保健活動と児童虐待
- 第3回 母子保健対策と保育
- 第4回 子どもの健康状態の把握
- 第5回 子どもの発育・発達と保健Ⅰ
- 第6回 子どもの発育・発達と保健Ⅱ
- 第7回 子どもの発育・発達と保健Ⅲ
- 第8回 子どもの発育・発達と保健Ⅳ
- 第9回 先天異常
- 第10回 感染症Ⅰ
- 第11回 感染症Ⅱ
- 第12回 免疫とアレルギー疾患
- 第13回 慢性疾患
- 第14回 小児期からの生活習慣病予防の重要性
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる小児保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

子どもの思いにこころをよせて

著者： 西川由紀子

出版社： かもがわ出版

出版年：

ISBN：

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教育課程研究 <Z>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ 教育課程の構造と教育実践	
授業の到達目標 教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。	
授業の概要 1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。	
準備学習(予習・復習) よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。	
内 容 第1回 教育課程の構造と意味 第2回 内申書、通知票について 第3回 目標と評価のあり方 第4回 観点別評価の意味 第5回 教育実践評価と授業公開(初等) 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等) 第7回 教科書の採択システム 第8回 教科書づくり 第9回 教科と教科外の教育方法(初等) 第10回 総合学習について(初等) 第11回 身体と教育課程(初等) 第12回 教育課程と授業づくり(初等) 第13回 思春期の教育階梯 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 教師の役割変化を問う 著者: 八木英二 出版社: 三学出版 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 教育方法の研究〈Z〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ 〈授業をつくる〉ことへのイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 学習指導要領を手元に置き、必要なときにすぐに参照できるようにしておくこと。	
内 容 第8回 「声を育てる音楽の授業」〈雰囲気の良い授業〉の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」〈分析ツールを教える〉国語の授業 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造〈教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価〉 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？ 第2回 「見たこと作文」子どもが〈動く〉授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての〈指示・発問・説明・応答・制御〉 第6回 「お化け屋敷で算数を」こどもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が単位付与の前提である。実習などで授業を欠席する場合には「欠席届」を事前に提出するように。	
教科書 使用しない。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 道徳教育の研究〈Z〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の概要

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらおう予定である。

準備学習(予習・復習)

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
- 第2回 道徳教育の歴史(明治以降)
- 第3回 道徳教育の歴史(戦後)
- 第4回 日本の学校教育の現実
- 第5回 小学校における道徳教育の捉え方
- 第6回 小学生の道徳的発達の特徴
- 第7回 全面主義と特設主義
- 第8回 全面主義を前提とした特設主義
- 第9回 道徳の時間と各教科の関係
- 第10回 道徳教育と特別活動、総合学習との関係
- 第11回 道徳教育の要としての道徳の時間
- 第12回 道徳の時間の展開の仕方
- 第13回 家庭、地域と道徳教育
- 第14回 現場における道徳教育の実践例
- 第15回 評価の問題とまとめ

履修上の注意点

教科書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

その他授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

中学校指導書 道徳編

著者: 文部科学省

出版社: 大蔵省印刷局

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 養護原理 <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の概要

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

内 容

- 第1回 社会的養護の理念と方向性
- 第2回 社会的養護の原理
- 第3回 子どもの権利
- 第4回 社会的養護の体系
- 第5回 社会的養護の制度
- 第6回 日本における社会的養護のあゆみ
- 第7回 欧米における社会的養護の歩み
- 第8回 現代家族問題と社会的養護
- 第9回 ひとり親家庭の現状と課題
- 第10回 養育環境上の問題に対応する児童の施設養護
- 第11回 情緒・行動面上の問題に対応する児童の施設養護
- 第12回 障害のある児童の施設養護
- 第13回 社会的養護の実践方法
- 第14回 社会的養護を支える専門職と新しい仕組み
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

社会的養護

著者： 吉田明弘編著

出版社： 八千代出版

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I <Za>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員 80

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一柳 敦子

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 <*A>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者 倉持 祐二		
テーマ	児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。	
授業の到達目標	子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)	教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)</p> <p>第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて</p> <p>第3回 『心ってこんなに動くんだ』① グループ討議と発表</p> <p>第4回 『心ってこんなに動くんだ』② グループ討議と発表</p> <p>第5回 『心ってこんなに動くんだ』③ グループ討議と発表</p> <p>第6回 フィールドワークの中間まとめ</p> <p>第7回 『心ってこんなに動くんだ』④ グループ討議と発表</p> <p>第8回 『心ってこんなに動くんだ』⑤ グループ討議と発表</p> <p>第9回 『心ってこんなに動くんだ』⑥ グループ討議と発表</p> <p>第10回 西條先生の講演(予定)</p> <p>第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①</p> <p>第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②</p> <p>第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成</p> <p>第14回 フィールドワークのまとめ</p> <p>第15回 基礎演習の総括</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>心ってこんなに動くんだ</p> <p>著者: 西條昭男</p> <p>出版社: 新日本出版社</p> <p>出版年: 2006年 ISBN:</p>	
参考書	<p>授業で指示</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (50) 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習〈*B〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者 池田 修		
テーマ	児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。	
授業の到達目標	子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)	教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)</p> <p>第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて</p> <p>第3回 『心ってこんなに動くんだ』① グループ討議と発表</p> <p>第4回 『心ってこんなに動くんだ』② グループ討議と発表</p> <p>第5回 『心ってこんなに動くんだ』③ グループ討議と発表</p> <p>第6回 フィールドワークの中間まとめ</p> <p>第7回 『心ってこんなに動くんだ』④ グループ討議と発表</p> <p>第8回 『心ってこんなに動くんだ』⑤ グループ討議と発表</p> <p>第9回 『心ってこんなに動くんだ』⑥ グループ討議と発表</p> <p>第10回 西條先生の講演(予定)</p> <p>第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①</p> <p>第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②</p> <p>第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成</p> <p>第14回 フィールドワークのまとめ</p> <p>第15回 基礎演習の総括</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>心ってこんなに動くんだ</p> <p>著者: 西條昭男</p> <p>出版社: 新日本出版社</p> <p>出版年: 2006年 ISBN:</p>	
参考書	<p>授業で指示</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (50) 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 <*C>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者 芦名 猛夫		
テーマ	児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。	
授業の到達目標	子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)	教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)</p> <p>第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて</p> <p>第3回 『心ってこんなに動くんだ』① グループ討議と発表</p> <p>第4回 『心ってこんなに動くんだ』② グループ討議と発表</p> <p>第5回 『心ってこんなに動くんだ』③ グループ討議と発表</p> <p>第6回 フィールドワークの中間まとめ</p> <p>第7回 『心ってこんなに動くんだ』④ グループ討議と発表</p> <p>第8回 『心ってこんなに動くんだ』⑤ グループ討議と発表</p> <p>第9回 『心ってこんなに動くんだ』⑥ グループ討議と発表</p> <p>第10回 西條先生の講演(予定)</p> <p>第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①</p> <p>第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②</p> <p>第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成</p> <p>第14回 フィールドワークのまとめ</p> <p>第15回 基礎演習の総括</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>心ってこんなに動くんだ</p> <p>著者: 西條昭男</p> <p>出版社: 新日本出版社</p> <p>出版年: 2006年 ISBN:</p>	
参考書	<p>授業で指示</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (50) 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習〈*D〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を考える。

授業の概要

①新聞記事や雑誌原稿(短いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 前期授業の進め方(オリエンテーション)
- 第2回 資料検索とスクラップの方法等について
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論①
- 第5回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論②
- 第6回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論③
- 第7回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論④
- 第8回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
- 第9回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論⑤
- 第10回 パワーポイント等によるプレゼンの仕方を学ぶ
- 第11回 私の課題・私たちの課題プレゼン①
- 第12回 私の課題・私たちの課題プレゼン②
- 第13回 私の課題・私たちの課題プレゼン③
- 第14回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
- 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習〈*E〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を考える。

授業の概要

①新聞記事や雑誌原稿(短いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 前期授業の進め方(オリエンテーション)
- 第2回 資料検索とスクラップの方法等について
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論①
- 第5回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論②
- 第6回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論③
- 第7回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論④
- 第8回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
- 第9回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論⑤
- 第10回 パワーポイント等によるプレゼンの仕方を学ぶ
- 第11回 私の課題・私たちの課題プレゼン①
- 第12回 私の課題・私たちの課題プレゼン②
- 第13回 私の課題・私たちの課題プレゼン③
- 第14回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
- 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 <*F>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を考える。

授業の概要

①新聞記事や雑誌原稿(短いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 前期授業の進め方(オリエンテーション)
- 第2回 資料検索とスクラップの方法等について
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論①
- 第5回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論②
- 第6回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論③
- 第7回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論④
- 第8回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
- 第9回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論⑤
- 第10回 パワーポイント等によるプレゼンの仕方を学ぶ
- 第11回 私の課題・私たちの課題プレゼン①
- 第12回 私の課題・私たちの課題プレゼン②
- 第13回 私の課題・私たちの課題プレゼン③
- 第14回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
- 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習〈*G〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を考える。

授業の概要

①新聞記事や雑誌原稿(短いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 前期授業の進め方(オリエンテーション)
- 第2回 資料検索とスクラップの方法等について
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論①
- 第5回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論②
- 第6回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論③
- 第7回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論④
- 第8回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
- 第9回 新聞記事や雑誌原稿等の読み合わせと討論⑤
- 第10回 パワーポイント等によるプレゼンの仕方を学ぶ
- 第11回 私の課題・私たちの課題プレゼン①
- 第12回 私の課題・私たちの課題プレゼン②
- 第13回 私の課題・私たちの課題プレゼン③
- 第14回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
- 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

授業の到達目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはということなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

「学ぶ」ということの意味

著者： 佐伯 胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

授業で指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

授業の到達目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはということなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

「学ぶ」ということの意味

著者： 佐伯 胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 芦名 猛夫

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を理解する。

授業の概要

①文献、原稿(長いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方(オリエンテーション)
 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備①
 第3回 文献・資料の読み合わせと討論に向けて
 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備②
 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備③
 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
 第7回 文献・資料の読み合わせと討論①
 第8回 文献・資料の読み合わせと討論②
 第9回 文献・資料の読み合わせと討論③
 第10回 文献・資料の読み合わせと討論④
 第11回 文献・資料の読み合わせと討論⑤
 第12回 文献・資料の読み合わせと討論⑥
 第13回 文献・資料の読み合わせと討論⑦
 第14回 文献・資料の読み合わせと討論⑧
 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*D〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を理解する。

授業の概要

①文献、原稿(長いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方(オリエンテーション)
 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備①
 第3回 文献・資料の読み合わせと討論に向けて
 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備②
 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備③
 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
 第7回 文献・資料の読み合わせと討論①
 第8回 文献・資料の読み合わせと討論②
 第9回 文献・資料の読み合わせと討論③
 第10回 文献・資料の読み合わせと討論④
 第11回 文献・資料の読み合わせと討論⑤
 第12回 文献・資料の読み合わせと討論⑥
 第13回 文献・資料の読み合わせと討論⑦
 第14回 文献・資料の読み合わせと討論⑧
 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*E〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を理解する。

授業の概要

①文献、原稿(長いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方(オリエンテーション)
 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備①
 第3回 文献・資料の読み合わせと討論に向けて
 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備②
 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備③
 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
 第7回 文献・資料の読み合わせと討論①
 第8回 文献・資料の読み合わせと討論②
 第9回 文献・資料の読み合わせと討論③
 第10回 文献・資料の読み合わせと討論④
 第11回 文献・資料の読み合わせと討論⑤
 第12回 文献・資料の読み合わせと討論⑥
 第13回 文献・資料の読み合わせと討論⑦
 第14回 文献・資料の読み合わせと討論⑧
 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*F〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を理解する。

授業の概要

①文献、原稿(長いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方(オリエンテーション)
 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備①
 第3回 文献・資料の読み合わせと討論に向けて
 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備②
 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備③
 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
 第7回 文献・資料の読み合わせと討論①
 第8回 文献・資料の読み合わせと討論②
 第9回 文献・資料の読み合わせと討論③
 第10回 文献・資料の読み合わせと討論④
 第11回 文献・資料の読み合わせと討論⑤
 第12回 文献・資料の読み合わせと討論⑥
 第13回 文献・資料の読み合わせと討論⑦
 第14回 文献・資料の読み合わせと討論⑧
 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈*G〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

教育、保育、子どもそして自分について、自分で考え、みんなで考える

授業の到達目標

現代の子どもたち、また自分自身のおかれている状況を理解する。意見の交流を通じ、自分や友人の新たな側面を理解する。

授業の概要

①文献、原稿(長いもの)を読み合わせし討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習(予習・復習)

保育園や幼稚園そして様々な施設等へボランティア等で出掛け、実際に見てきた子どもたちの様子を授業で交流する。新聞を読み、ニュースを視聴し社会や子どもの状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方(オリエンテーション)
 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備①
 第3回 文献・資料の読み合わせと討論に向けて
 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備②
 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」の内容の検討と準備③
 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
 第7回 文献・資料の読み合わせと討論①
 第8回 文献・資料の読み合わせと討論②
 第9回 文献・資料の読み合わせと討論③
 第10回 文献・資料の読み合わせと討論④
 第11回 文献・資料の読み合わせと討論⑤
 第12回 文献・資料の読み合わせと討論⑥
 第13回 文献・資料の読み合わせと討論⑦
 第14回 文献・資料の読み合わせと討論⑧
 第15回 まとめと今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 教育制度論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田 義隆	
テーマ 教育課程と教育制度のあり方を考える	
授業の到達目標 教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して、今日的課題や問題点に対する認識を深め、今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。	
授業の概要 教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。	
準備学習(予習・復習) ・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。・「教師にとっての教育の意義と実際」に対する関心を高めるため、教育に関する新聞記事にも目を配って学ぶことが望ましい。	
内 容 第1回 授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダクション) 第2回 教育課程に関する法制①(教育課程とその基準) 第3回 教育課程に関する法制②(教育課程に関する法令) 第4回 学習指導要領の法的性格 第5回 学習指導要領の変遷 第6回 学習指導要領の内容と特徴(平成10年版) 第7回 新学習指導要領の内容と特徴(平成20年版) 第8回 わが国の教育の目的と方針 第9回 学校教育の目的と目標 第10回 教育法規の体系と適用 第11回 学校組織について 第12回 教師に求められる資質・能力 第13回 教師の研修 第14回 教育職員について 第15回 まとめ	
履修上の注意点 現代の子どもたちをめぐる教育・生活環境の変化に関心を持ち、4年生卒業後すぐにも教師として働ける知識・技術を身に付けることめざして、集中して講義に臨むこと。欠席により学習する内容が欠落した教師にならぬよう出席には気を配って評価します。	
教科書 現代教育制度論 著者： 土屋基規 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2011 ISBN： 9784762015236	
参考書	
成績評価 試験 (60) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 教育制度論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田 義隆	
テーマ 教育課程と教育制度のあり方を考える	
授業の到達目標 教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して、今日的課題や問題点に対する認識を深め、今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。	
授業の概要 教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。	
準備学習(予習・復習) ・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。・「教師にとっての教育の意義と実際」に対する関心を高めるため、教育に関する新聞記事にも目を配って学ぶことが望ましい。	
内 容 第1回 授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダクション) 第2回 教育課程に関する法制①(教育課程とその基準) 第3回 教育課程に関する法制②(教育課程に関する法令) 第4回 学習指導要領の法的性格 第5回 学習指導要領の変遷 第6回 学習指導要領の内容と特徴(平成10年版) 第7回 新学習指導要領の内容と特徴(平成20年版) 第8回 わが国の教育の目的と方針 第9回 学校教育の目的と目標 第10回 教育法規の体系と適用 第11回 学校組織について 第12回 教師に求められる資質・能力 第13回 教師の研修 第14回 教育職員について 第15回 まとめ	
履修上の注意点 現代の子どもたちをめぐる教育・生活環境の変化に関心を持ち、4年生卒業後すぐにも教師として働ける知識・技術を身に付けることめざして、集中して講義に臨むこと。欠席により学習する内容が欠落した教師にならぬよう出席には気を配って評価します。	
教科書 現代教育制度論 著者： 土屋基規 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2011 ISBN： 9784762015236	
参考書	
成績評価 試験 (60) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 **教育課程論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 八木 英二	
テーマ 教育課程の構造と教育実践	
授業の到達目標 教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。	
授業の概要 1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。	
準備学習(予習・復習) よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。	
内 容 第1回 教育課程の構造と意味 第2回 内申書、通知票について 第3回 目標と評価のあり方 第4回 観点別評価の意味 第5回 教育実践評価と授業公開(初等) 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等) 第7回 教科書の採択システム 第8回 教科書づくり 第9回 教科と教科外の教育方法(初等) 第10回 総合学習について(初等) 第11回 身体と教育課程(初等) 第12回 教育課程と授業づくり(初等) 第13回 思春期の教育階梯 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 教師の役割変化を問う 著者: 八木英二 出版社: 三学出版 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 碓井 敏正	
テーマ 学校教育における道徳教育の可能性	
授業の到達目標 道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。	
授業の概要 前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらう予定である。	
準備学習(予習・復習) ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。	
内 容 第1回 道徳とは何か 第2回 道徳教育の歴史(明治以降) 第3回 道徳教育の歴史(戦後) 第4回 日本の学校教育の現実 第5回 小学校における道徳教育の捉え方 第6回 小学生の道徳的発達の特徴 第7回 全面主義と特設主義 第8回 全面主義を前提とした特設主義 第9回 道徳の時間と各教科の関係 第10回 道徳教育と特別活動、総合学習との関係 第11回 道徳教育の要としての道徳の時間 第12回 道徳の時間の展開の仕方 第13回 家庭、地域と道徳教育 第14回 現場における道徳教育の実践例 第15回 評価の問題とまとめ	
履修上の注意点	
教科書 学習指導要領 著者: 出版社: 出版年: ISBN: その他授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 中学校指導書 道徳編 著者: 文部科学省 出版社: 大蔵省印刷局 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (30) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 特別活動論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土作 彰

テーマ

集団で学び合う意義

授業の到達目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の概要

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

準備学習(予習・復習)

授業づくり演習ではグループで模擬授業の練習を行っておくこと。

内 容

- 第1回 授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
- 第2回 集団教育の意義
- 第3回 学級づくりと授業づくり(国語編)
- 第4回 学級づくりと授業づくり(算数・理科編)
- 第5回 学級崩壊を考える
- 第6回 授業づくり演習と検討(1～3班)
- 第7回 児童会活動・クラブ活動・学校行事(異学級、異学年の指導)
- 第8回 学級づくりと授業づくり(理科・社会編)
- 第9回 授業づくり演習と検討(4～6班)
- 第10回 学級づくりと授業づくり(道徳・学活編)
- 第11回 学級づくりと授業づくり(体育・図工編)
- 第12回 授業づくり演習と検討(7～9班)
- 第13回 ワークショップ型ステーション授業と日々の授業
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

履修上の注意点

教科書

子どもを伸ばす学級づくり

著者: 土作 彰

出版社: 日本標準

出版年: 2010

ISBN: 978-4820804093

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 教育方法論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ ＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 学習指導要領を手元に置き、必要なときにすぐに参照できるようにしておくこと。	
内 容 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？ 第2回 「見たこと作文」子どもが＜動く＞授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・制御＞ 第6回 「お化け屋敷で算数を」子どもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理 第8回 「声を育てる音楽の授業」＜雰囲気の良い授業＞の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」＜分析ツールを教える＞国語の授業 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞ 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が単位付与の前提である。実習などで授業を欠席する場合には「欠席届」を事前に提出するように。	
教科書 使用しない。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 (0) 小テスト (60) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(算数) <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習)

授業の前に、1回生数学概論で学んだことを復習しておくこと。その際のテキスト「入門算数学」を繰り返し読むこと。授業後は、授業で配布したプリントをしっかりと読み、内容を自分のものにする。

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
- 第2回 1位数の加法・減法
- 第3回 2位数の加法・減法
- 第4回 整数の乗法
- 第5回 整数の除法
- 第6回 小数とその加減
- 第7回 小数の乗除
- 第8回 分数とその加減
- 第9回 分数の乗除
- 第10回 外延量と測定
- 第11回 内包量
- 第12回 小学校の先生の講義
- 第13回 比例
- 第14回 図形
- 第15回 統計

履修上の注意点

よほどのことがない限り欠席しないこと。

教科書

入門算数学

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

小学校学習指導要領解説算数編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

いきいき算数授業1年～6年

著者:

出版社: ひまわり社

出版年:

ISBN:

こまった時の算数の教え方1年～6年

著者:

出版社: 大月書店

出版年:

ISBN:

たし算とひき算

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

かけ算とわり算

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

小数と分数

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

いろいろな量

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

割合・図形

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

教えてみよう算数

著者: 小笠毅

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

こどもといっしょに楽しく算数1-3年

著者: 渡辺恵津子

出版社: 一声社

出版年:

ISBN:

こどもといっしょに楽しく算数4-6年

著者: 渡辺恵津子

出版社: 一声社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (10)

授業の後半にグループごとに模擬授業を行う。それに参加することが必須条件。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(算数)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小寺 隆幸	
テーマ	小学校算数の指導法を理解する	
授業の到達目標	算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける	
授業の概要	それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習)	授業の前に、1回生数学概論で学んだことを復習しておくこと。その際のテキスト「入門算数学」を繰り返し読むこと。授業後は、授業で配布したプリントをしっかりと読み、内容を自分のものにする。	
内 容	<p>第1回 小学校1年生の数概念指導</p> <p>第2回 1位数の加法・減法</p> <p>第3回 2位数の加法・減法</p> <p>第4回 整数の乗法</p> <p>第5回 整数の除法</p> <p>第6回 小数とその加減</p> <p>第7回 小数の乗除</p> <p>第8回 分数とその加減</p> <p>第9回 分数の乗除</p> <p>第10回 外延量と測定</p> <p>第11回 内包量</p> <p>第12回 小学校の先生の講義</p> <p>第13回 比例</p> <p>第14回 図形</p> <p>第15回 統計</p>	
履修上の注意点	よほどのことがない限り欠席しないこと。	
教科書	<p>入門算数学</p> <p>著者： 黒木哲徳</p> <p>出版社： 日本評論社</p> <p>出版年： ISBN:</p> <p>小学校学習指導要領解説算数編</p> <p>著者： 文部科学省</p> <p>出版社： 東洋館出版社</p> <p>出版年： ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>いきいき算数授業1年～6年</p> <p>著者：</p> <p>出版社： ひまわり社</p> <p>出版年： ISBN:</p> <p>こまった時の算数の教え方1年～6年</p> <p>著者：</p> <p>出版社： 大月書店</p> <p>出版年： ISBN:</p>	

たし算とひき算

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

かけ算とわり算

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

小数と分数

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

いろいろな量

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

割合・図形

著者:

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

教えてみよう算数

著者: 小笠毅

出版社: 日本評論社

出版年:

ISBN:

こどもといっしょに楽しく算数1-3年

著者: 渡辺恵津子

出版社: 一声社

出版年:

ISBN:

こどもといっしょに楽しく算数4-6年

著者: 渡辺恵津子

出版社: 一声社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (10)

授業の後半にグループごとに模擬授業を行う。それに参加することが必須条件。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(理科) <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 三上 周治

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習(予習・復習)

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(I):膨張
- 第5回 熱によるものの変化(II):三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書』小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(理科)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 三上 周治

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習(予習・復習)

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(I):膨張
- 第5回 熱によるものの変化(II):三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書』小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽) <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 佐野 仁美

テーマ

音楽授業をつくる

授業の到達目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習)

予習:音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習:小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)

著者: 初等科音楽教育研究会編

出版社: 音楽之友社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ 音楽授業をつくる	
授業の到達目標 (1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習) 予習:音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習:小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。	
内 容 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的 第2回 表現・歌唱ー共通教材 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ 第7回 表現・器楽ー合奏 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業 第11回 授業行為と音楽授業 第12回 実践事例から学ぶ 第13回 指導案の作成と準備 第14回 模擬授業ー器楽・創作 第15回 模擬授業ー歌唱	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。	
教科書 初等科音楽教育法(改訂版) 著者: 初等科音楽教育研究会編 出版社: 音楽之友社 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(家庭) <a>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 大塚 真理子

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習)

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

内 容

第1回 学習指導要領改訂のいきさつ

第2回 家庭科の内容構成

第3回 家庭科の目標・内容

第4回 指導計画作成上の留意点

第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)

第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)

第7回 年間指導計画、題材計画について

第8回 指導形態及び指導方法

第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて

第10回 授業をする技術

第11回 評価の目的・評価の観点について

第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)

第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)

第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)

第15回 まとめ

履修上の注意点

出席および受講態度を重視する。実習なども含め1/3以上欠席の場合は評価の対象とならない。各課題に意欲的に取り組むことを望む。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN: 487-10390-4

初等家庭科教育法

著者: 加地芳子・大塚真理子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN: 623-05986-7

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (65)

授業中発表等 (10)

参加度 (25)

a30102d950

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などで、授業中発表は模擬授業である。参加度は班活動や授業の感想、受講態度などから評価する。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(家庭)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 大塚 真理子

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習)

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席および受講態度を重視する。実習なども含め1/3以上欠席の場合は評価の対象とならない。各課題に意欲的に取り組むことを望む。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN: 487-10390-4

初等家庭科教育法

著者: 加地芳子・大塚真理子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN: 623-05986-7

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (65)

授業中発表等 (10)

参加度 (25)

a30102d952

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などで、授業中発表は模擬授業である。参加度は班活動や授業の感想、受講態度などから評価する。

2015 Syllabus

科目名 国語概論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成・佐野 裕子

テーマ

国語(日本語)を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

無意識に習得し、何の問題もなく運用することができる国語(日本語)について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向け、物事を客観的に見る能力を養うことを目標とする。

授業の概要

授業は講義形式で行う。毎回授業で学んだ内容に関する確認プリントを配布するので、必ず提出してもらおう。また、小テストを第6回目と第10回目に、まとめのテストを12回目に実施する。

準備学習(予習・復習)

ハンドアウトや確認プリントで復習を行うこと。特に「音声」「系統と類型」の部分は、復習が求められる。日本語に関する関心を持つようにすること。特に「当たり前」と普段感じていることを「なぜなんだろう?」と思える感性を持つこと。

内 容

- 第1回 授業説明・評価説明
- 第2回 日本語の音1
- 第3回 日本語の音2
- 第4回 日本語の表記1
- 第5回 日本語の表記2
- 第6回 日本語の待遇表現1・小テスト1
- 第7回 日本語の待遇表現2
- 第8回 日本語の方言1
- 第9回 日本語の方言2
- 第10回 日本語の系統と類型・小テスト2
- 第11回 国語と日本語
- 第12回 まとめ
- 第13回 書写1
- 第14回 書写2
- 第15回 書写3

履修上の注意点

書写を行う13～15回に関しては、集中講義として1日で3回分の授業を実施する。授業実施日や持ち物など諸連絡には十分注意し、欠席することのないように。出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分までとし、15分を超えた者は欠席として処理する。出席確認は、カードによる確認と確認プリントの提出による確認のダブルチェックを行う。出席に際しては、必ずカードのチェックと確認プリントの提出を忘れないように(どちらか欠けている場合も欠席と見なす)。また、小テストやまとめテストを未受験の場合も、評価の対象としない。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **社会科概論**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

授業の到達目標

各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版の学習指導要領をふまえた実践的課題について考える視点を獲得する。

授業の概要

2008年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に1時間の授業案づくりを試みる。

準備学習(予習・復習)

予習:各回のテーマについて、事前に学習指導要領解説や教科書の内容を調べておく。復習:授業で扱った社会科授業の理論と実践の要点を振り返り、授業案づくりのポイントを整理する。

内 容

- 第1回 社会科で学ぶこと(社会科の誕生)
- 第2回 2008年度版学習指導要領の特徴をつかむ
- 第3回 社会科の目標と評価
- 第4回 小学校3・4年の学習内容 地域の生産労働をどう教えるか
- 第5回 小学校3・4年の学習内容 地図をどう教えるか
- 第6回 小学校5年の学習内容 日本の農業をどう教えるか
- 第7回 小学校5年の学習内容 日本の工業をどう教えるか
- 第8回 小学校6年の学習内容 時代の特徴をどうつかませるか
- 第9回 小学校6年の学習内容 戦争をどう教えるか
- 第10回 子どもの「学び」を引き出す「教材」と「教育内容」
- 第11回 「コンビニ」を素材に教材をつくる
- 第12回 授業をつくる(かじ屋のじょうきちさんの食事)
- 第13回 授業をつくる(漂流民とペリー来航)
- 第14回 インターネット時代の教材づくりと授業
- 第15回 1時間の授業案づくりの視点と方法

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

小学校学習指導要領解説 社会編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008年

ISBN:

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり

著者: 井ノ口貴史・倉持祐二

出版社: 三学出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (30%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

2015 Syllabus

科目名 家庭科概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大塚 真理子	
テーマ 小学校家庭科を指導するための基礎力を高める	
授業の到達目標 小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識や技能を習得するとともに、子どもの生活課題を踏まえた指導の深め方を考察する。	
授業の概要 学習指導要領で示されている各内容について、講義と学生のグループ発表により、理解を深める。	
準備学習(予習・復習) 小学校家庭科の学習内容は生活の基礎基本である。自分自身の生活に関心を深め、学習したことを日常生活に活かそうとする実践的態度をもつ。	
内 容 第1回 小学校家庭科の役割(オリエンテーション) 第2回 小学校家庭科の内容(学習指導要領と教科書を見る) 第3回 家庭生活と家族 1 第4回 家庭生活と家族 2 第5回 日常の食事と調理の基礎 1 第6回 日常の食事と調理の基礎 2 第7回 日常の食事と調理の基礎 3 第8回 快適な衣服 1 第9回 快適な衣服 2 第10回 布を使った製作 1 第11回 布を使った製作 2 第12回 快適な住まい 1 第13回 快適な住まい 2 第14回 身近な消費生活と環境 1 第15回 身近な消費生活と環境 2 (まとめ) 第16回 試験	
履修上の注意点	
教科書 初等家庭科教育法 著者: 加地芳子・大塚真理子編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN: 623-05986-7 小学校家庭科教科書 著者: 出版社: 東京書籍 出版年: ISBN:	
参考書 小学校学習指導要領解説家庭編 著者: 文部科学省 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 **保育内容総論**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 八木 英二	
テーマ 保育内容の総合性と指導の基本をつかむ	
授業の到達目標 保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。	
授業の概要 実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。	
準備学習(予習・復習) できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。	
内 容 第1回 幼稚園教育要領と保育所保育指針 第2回 自然(環境)と社会(人間関係)の関係 第3回 小学校への接続 第4回 入園当初の計画 第5回 ごっこ遊びの意義 第6回 遊びの素材論 第7回 遊びの発展 第8回 身振り表現の意義 第9回 お話を聞くこと 第10回 童話の扱い 第11回 保育計画とは何か 第12回 前期の保育 第13回 後期の保育 第14回 劇遊びと生活発表 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 幼稚園教育要領 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 保育所保育指針 著者: 出版社: 出版年: ISBN: その他授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業中に指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	

a30102e410

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

履修した授業内容を振りかえり、それをきっかけにして考えたことを記しておくこと(復習)。また、次回の授業内容を示す講義メモなどについて、あらかじめ眼を通しておくこと(予習)。

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

実習時を含め、子どものことばの事実を大切にして理解に務めること。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 美和子

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

履修した授業内容を振りかえり、それをきっかけにして考えたことを記しておくこと(復習)。また、次回の授業内容を示す講義メモなどについて、あらかじめ眼を通しておくこと(予習)。

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

実習時を含め、子どものことばの事実を大切にして理解に務めること。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **保育の言語表現〈児〉**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期後半

定 員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇づくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習(予習・復習)

履修した授業内容を振りかえり、それをきっかけにして考えたことを記しておくこと(復習)。また、次回の授業内容を示す講義メモなどについて、あらかじめ眼を通しておくこと(予習)。

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

実習時を含め、子どものことばの事実を大切にして理解に務めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅲ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 佐野 仁美		
テーマ		
弾き歌い曲のレパートリーを広げる。		
授業の到達目標		
即興的コード伴奏法についての理解を深め、子どもの前で実際に使えるように演奏技術を高める。		
授業の概要		
受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と子どもの歌のコード弾き歌いおよび音楽物語創作を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。		
準備学習(予習・復習)		
予習: 授業中に指示される課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習: 指導により得られた助言をもとに課題を再度練習して身につける。		
内 容		
第1回	コード進行の復習、バイエルNo.104	
第2回	変ロ長調のコード進行(B♭、E♭、F、F7)、アラベスク、牧歌	
第3回	変ロ長調のコード伴奏付け、アラベスク、牧歌	
第4回	子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)、狩、ひそかな嘆き	
第5回	イ短調のコード進行(Am、Dm、E、E7)、狩、ひそかな嘆き	
第6回	子どもの歌の弾き歌い(短調)、タランテラ、ツェルニー—30番No.1	
第7回	子どもの歌の弾き歌い発表、タランテラ、ツェルニー—30番No.1	
第8回	様々な種類の伴奏型、ツェルニー—30番No.1、ベートーヴェンソナチネ	
第9回	旋律の変奏、ベートーヴェンソナチネ、リズム曲	
第10回	効果音、即興的伴奏、ソナチネアルバム第1巻No.1	
第11回	物語に音楽をつける、ソナチネアルバム第1巻No.1	
第12回	音楽物語発表①、ソナチネアルバム第1巻No.1	
第13回	音楽物語発表②、ソナチネアルバム第1巻No.1	
第14回	音楽物語発表③、ピアノ実技発表曲	
第15回	ピアノ実技発表	
履修上の注意点		
3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。		
教科書		
楽譜をどう表現するか—旋律表現のためのやさしいピアノ曲集		
著者: 小畑郁男・佐野仁美編著		
出版社: サーベル社		
出版年: 2014年	ISBN:	
コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー		
著者: 坂井康子他編著		
出版社: ヤマハ・ミュージックメディア		
出版年: 2008年	ISBN:	
参考書		
プリントを配布する。		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (10)	授業中発表等 (70)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 学級担任論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 池田 修	

テーマ

学級担任とは何かを考える。

授業の到達目標

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模擬的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

準備学習(予習・復習)

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。

内 容

- 第1回 学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
- 第2回 学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任事務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
- 第3回 学級レクリエーション。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
- 第4回 学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り(生活班と学習班)、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
- 第5回 学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
- 第6回 体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。
- 第7回 担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第8回 担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第9回 場面別指導1。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
- 第10回 場面別指導2。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
- 第11回 場面別指導3。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
- 第12回 保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
- 第13回 学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。
- 第14回 通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
- 第15回 まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

学級経営力を高める3・7・30の法則

著者： 野中信行

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

こんな時どう言い返す

著者： 池田修

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

子どもと歩む 教師の12ヶ月

著者： 家本芳郎

出版社： 高文研

出版年：

ISBN：

教師のための叱る作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

＜教育力＞をみがく

著者： 家本芳郎

出版社： 寺子屋新書

出版年：

ISBN：

参考書

「かかれたカリキュラム」発見・改善ガイド

著者： 横藤雅人・武藤久慶

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

先生！ 親ってそんなに怖いんですか？

著者： 星 幸宏

出版社： 立花書房

出版年：

ISBN：

ヒドゥンカリキュラム入門

著者： 多賀一郎

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN：

＜学級＞の歴史学

著者： 柳 治男

出版社： 講談社選書メチエ

出版年：

ISBN：

学級経営10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

教師におくる「指導」のいろいろ

著者： 家本芳郎

出版社： 高文研

出版年：

ISBN：

学級担任に絶対必要な「フォロー」の技術

著者： 中村健一

出版社： 黎明書房

出版年：

ISBN：

いじめで子どもが壊れる前に

著者： 藤川大祐

出版社： 角川ONEテーマ新書

出版年：

ISBN：

クラスづくりの極意

著者： 岩瀬直樹

出版社： 農文協

出版年：

ISBN：

手軽に発行 学級通信のアイデア40

著者： 佐藤正寿

出版社： ひまわり社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（25）

参加度（35）

出欠席は、出席くんと授業後に指示する課題を掲示板に書くことの両方をセットにして確認する。片方だけでは出席とはならないことを理解すること。また、参加度は出席率のことではないことを理解すること。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(国語) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 池田 修多賀 一郎		

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習)

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も薦める。

内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信
- 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
- 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
- 第4回 漢字指導1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論
- 第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導
- 第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり
- 第7回 作文指導1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
- 第8回 作文指導2 デジタルストーリーテリングの可能性
- 第9回 作文指導3 「書き込み回覧作文」による評価
- 第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
- 第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
- 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
- 第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う
- 第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

小学校学習指導要領 第4版 平成20年3月告示

著者:

出版社: 東京書籍

出版年: 2009/8

ISBN:

小学校学習指導要領解説編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008/8

ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者: 中原國明・大熊徹編

出版社: 教育出版

出版年: 2006/7

ISBN:

国語科資料総覧

著者： 吉野教育図書編集部

出版社： 吉野教育図書

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： 2012/1

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は怖い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： 2012/1

ISBN：

白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版

出版年： 2012/1

ISBN：

参考書

まともな日本語を教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年： 2012/10

ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年： 2012/4

ISBN：

教師のための「教える技術」

著者： 向後千春

出版社： 明治図書

出版年： 2014/9

ISBN：

授業づくりエンターテイメント

著者： 藤川大祐

出版社： 学事出版

出版年： 2014/12

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 45 ）

授業中課題（ 25 ）

授業中発表等（ ）

参加度（ 30 ）

出欠席については、出席君と掲示板の書き込みのセットで確認する。なお、参加度は出席率ではないことを理解すること。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(国語)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定 大学指定
担当者 池田 修多賀 一郎	
テーマ 国語科授業の基本的な指導法に触れる	
授業の到達目標 学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。	
準備学習(予習・復習) 「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も薦める。	
内 容 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法 第4回 漢字指導1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論 第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導 第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり 第7回 作文指導1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価 第8回 作文指導2 デジタルストーリーテリングの可能性 第9回 作文指導3 「書き込み回覧作文」による評価 第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。 第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト 第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う 第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ	
履修上の注意点 遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。	
教科書 小学校学習指導要領 第4版 平成20年3月告示 著者： 出版社：東京書籍 出版年：2009/8 ISBN： 小学校学習指導要領解説編 著者： 出版社：東洋館出版社 出版年：2008/8 ISBN： 実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版 著者：中原國明・大熊徹編 出版社：教育出版 出版年：2006/7 ISBN：	

国語科資料総覧

著者： 吉野教育図書編集部

出版社： 吉野教育図書

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： 2012/1

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は怖い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： 2012/1

ISBN：

白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版

出版年： 2012/1

ISBN：

参考書

まともな日本語を教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年： 2012/10

ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年： 2012/4

ISBN：

教師のための「教える技術」

著者： 向後千春

出版社： 明治図書

出版年： 2014/9

ISBN：

授業づくりエンターテイメント

著者： 藤川大祐

出版社： 学事出版

出版年： 2014/12

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（45）

授業中課題（25）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

出欠席については、出席君と掲示板の書き込みのセットで確認する。なお、参加度は出席率ではないことを理解すること。

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(社会) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 倉持 祐二		
テーマ 小学校社会科の授業づくりの基礎・基本		
授業の到達目標 小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。		
授業の概要 小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。		
準備学習(予習・復習) (1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。		
内 容 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと 第2回 社会科教材研究入門 第3回 社会科授業の発問づくり 第4回 小学校社会科の授業方法 第5回 学習指導案をつくる 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと		
履修上の注意点		
教科書 小学校学習指導要領解説 社会編 著者： 文部科学省 出版社： 東洋館出版社 出版年： 2008年 ISBN:		
参考書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN:		
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ()		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(社会)

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 倉持 祐二		
テーマ 小学校社会科の授業づくりの基礎・基本		
授業の到達目標 小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。		
授業の概要 小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。		
準備学習(予習・復習) (1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。		
内 容 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと 第2回 社会科教材研究入門 第3回 社会科授業の発問づくり 第4回 小学校社会科の授業方法 第5回 学習指導案をつくる 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと		
履修上の注意点		
教科書 小学校学習指導要領解説 社会編 著者： 文部科学省 出版社： 東洋館出版社 出版年： 2008年 ISBN:		
参考書 授業中に指示する 著者： 出版社： 出版年： ISBN:		
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ()		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(生活) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 三上 周治		
テーマ 小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む		
授業の到達目標 小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。		
授業の概要 身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。		
準備学習(予習・復習) (1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。		
内 容 第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。 第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。 第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。 第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策) 第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの 第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ/鋭角やじろべえ/鈍角やじろべえ」 第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。 第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。 第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策) 第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの 第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策) 第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ① 第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。 第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ		
履修上の注意点		
教科書 担当者からハンドアウト 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 小学校学習指導要領 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト () 授業中発表等 (30)	

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(生活)

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 三上 周治		
テーマ		
小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む		
授業の到達目標		
小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。		
授業の概要		
身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。		
準備学習(予習・復習)		
(1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。		
内 容		
第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。		
第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。		
第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。		
第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策)		
第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの		
第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」		
第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。		
第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。		
第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策)		
第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの		
第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策)		
第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①		
第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。		
第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。		
第15回 試験問題の解説と授業のまとめ		
履修上の注意点		
教科書		
担当者からハンドアウト		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
小学校学習指導要領		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
成績評価		
試験 ()		
小テスト ()		
授業中課題 (40)		
授業中発表等 (30)		
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 大久保 恭子		
テーマ		
小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ		
授業の到達目標		
学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。		
授業の概要		
図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。		
準備学習(予習・復習)		
美術全般に親むため、美術館に出かける、画集を読むなど、各自の関心を掘り起こしておくこと。		
内 容		
第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」		
第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」		
第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」		
第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)		
第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)		
第9回 実践に向けて「学習指導案」作成		
第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」		
第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」		
第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」		
第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)		
第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)		
第15回 まとめ		
履修上の注意点		
全回出席を前提とし、講義中の私語は厳禁。		
教科書		
小学校学習指導要領		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (60)	授業中発表等 (20)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作)

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 大久保 恭子		
テーマ		
小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ		
授業の到達目標		
学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。		
授業の概要		
図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。		
準備学習(予習・復習)		
美術全般に親しむため、美術館に出かける、画集を読むなど、各自の関心を掘り起こしておくこと。		
内 容		
第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」		
第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」		
第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)		
第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」		
第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)		
第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)		
第9回 実践に向けて「学習指導案」作成		
第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」		
第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」		
第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」		
第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)		
第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)		
第15回 まとめ		
履修上の注意点		
全回出席を前提とし、講義中の私語は厳禁。		
教科書		
小学校指導要領		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (60)	授業中発表等 (20)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(体育) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 口野 隆史		
テーマ		
自分の体育授業で、どんな子どもに育てほしいのかを考える		
授業の到達目標		
まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。		
授業の概要		
各自、指導案を作成、模擬授業を行う。		
準備学習(予習・復習)		
優れた体育実践と言われるものを文献等で日頃から読んでおく。小学校での体育の授業は、多くの場合運動場や体育館で行われる。他の学生とスポーツや運動を行う時には、広い場所で相手に自分の声がどれくらい伝わるのか、自分の言いたいことが伝わるのかなども意識しておく。		
内 容		
第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る体育授業の目的・目標		
第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容		
第3回 体育授業の指導方法と評価		
第4回 優れた体育授業について学ぶ		
第5回 陸上競技①陸上競技の授業実践を学ぶ		
第6回 陸上競技②模擬授業「短距離走」を題材に		
第7回 陸上競技③模擬授業「リレー」を題材に		
第8回 器械運動①マット・跳び箱の授業実践を学ぶ		
第9回 器械運動②模擬授業「側転」を題材に		
第10回 器械運動③模擬授業「お話マット」を題材に		
第11回 球技①球技の授業実践を学ぶ		
第12回 球技②模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に		
第13回 球技③模擬授業「フラッグフットボール」を題材に		
第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する		
第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教室の授業では、優れた授業実践について理解を深め、自分の授業を構想する。グループで指導案を作成し、先生役となり模擬授業も行うが、指導案作成の際にはグループでしっかり意見を交流すること。模擬授業では子ども役も重要であり、模擬授業に子どもの役として参加し、子どもの立場から授業を考えてみること。		
教科書		
小学校学習指導要領解説 体育編		
著者: 文部科学省		
出版社: 東洋館出版社		
出版年: 2008年	ISBN:	
参考書		
授業で紹介する		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)	
参加度 (20)		
教室の授業では示された課題を他の学生と一緒に考える。模擬授業においては、指導案を作成し教師役となり体育の授業を実施してみる。模擬授業では、子ども役としても参加し、子どもの立場からも体育授業を理解する。最後に、自分で教材を選択し単元計画と指導案を作成する。これらを通して評価をしていく。		

2015 Syllabus

科目名 教科教育法(体育)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定 大学指定
担当者 口野 隆史	
テーマ 自分の体育授業で、どんな子どもに育てほしいのかを考える	
授業の到達目標 まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。	
授業の概要 各自、指導案を作成、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習) 優れた体育実践と言われるものを文献等で日頃から読んでおく。小学校での体育の授業は、多くの場合運動場や体育館で行われる。他の学生とスポーツや運動を行う時には、広い場所で相手に自分の声がどれくらい伝わるのか、自分の言いたいことが伝わるのかなども意識しておく。	
内 容 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る体育授業の目的・目標 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容 第3回 体育授業の指導方法と評価 第4回 優れた体育授業について学ぶ 第5回 陸上競技①陸上競技の授業実践を学ぶ 第6回 陸上競技②模擬授業「短距離走」を題材に 第7回 陸上競技③模擬授業「リレー」を題材に 第8回 器械運動①マット・跳び箱の授業実践を学ぶ 第9回 器械運動②模擬授業「側転」を題材に 第10回 器械運動③模擬授業「お話マット」を題材に 第11回 球技①球技の授業実践を学ぶ 第12回 球技②模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に 第13回 球技③模擬授業「フラッグフットボール」を題材に 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する 第15回 まとめ	
履修上の注意点 教室の授業では、優れた授業実践について理解を深め、自分の授業を構想する。グループで指導案を作成し、先生役となり模擬授業も行うが、指導案作成の際にはグループでしっかり意見を交流すること。模擬授業では子ども役も重要であり、模擬授業に子どもの役として参加し、子どもの立場から授業を考えてみること。	
教科書 小学校学習指導要領解説 体育編 著者： 文部科学省 出版社： 東洋館出版社 出版年： 2008年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (40) 参加度 (20) 教室の授業では示された課題を他の学生と一緒に考える。模擬授業においては、指導案を作成し教師役となり体育の授業を実施してみる。模擬授業では、子ども役としても参加し、子どもの立場からも体育授業を理解する。最後に、自分で教材を選択し単元計画と指導案を作成する。これらを通して評価をしていく。	

2015 Syllabus

科目名 教育・心理統計学

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 春期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 石田 正浩

テーマ

教育学・心理学の論文で用いられる統計数値の意味を学ぶことを通じて、統計的に考えることの理解を深める。

授業の到達目標

教育学・心理学領域では調査や実験を行い、理論・仮説の検証を行います。得られたデータには統計的な処理を行い、その結果をもとに論理を展開します。そのため論文を理解したり、自分で調査・実験研究を行う場合には、そうした統計数値の意味を理解することが欠かせません。本講義では実際に統計量を計算することを通じて、統計数値を読み取る能力を養い、統計的な考え方の基本を修得することを目指します。

授業の概要

統計数値を用いたさまざまな事例の理解を通じて、統計的な数値の読みとり方を学びます。また、代表的な統計処理の手順を実際に計算することで、元になるデータと統計量の関係、そこから何が言えるのかを学びます。

準備学習(予習・復習)

マスコミ等で用いられる統計的な表現が何を意味するのか、おかしな点は無いかを考える習慣を身につけましょう。

内 容

- 第1回 導入、統計的な考え方とは
- 第2回 心理測定の基本
- 第3回 記述統計の基本1 代表値
- 第4回 記述統計の基本2 散布度、変数の変換
- 第5回 2つの変数の関係の分析1 質的変数
- 第6回 2つの変数の関係の分析2 量的変数
- 第7回 統計的仮説検定とは
- 第8回 カイ2乗検定
- 第9回 平均値の差の検定1
- 第10回 平均値の差の検定2
- 第11回 分散分析
- 第12回 実際の調査データを分析する
- 第13回 多変量解析 因子分析
- 第14回 多変量解析 重回帰分析
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方

著者: 浦上昌則・脇田貴文

出版社: 東京図書

出版年: 2008

ISBN: 9784489020384

ファーストブック 統計学がわかる

著者: 向後千春・富永敦子

出版社: 技術評論社

出版年: 2007

ISBN: 9784774131900

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童文学研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三重野 由加

テーマ

昭和に発表された児童文学作品の解釈と鑑賞を行う。

授業の到達目標

教科書等に掲載されるような有名作品だけでなく、普段手にすることの少ない作品を含めて、児童文学を俯瞰する。そのことにより、文学研究あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の概要

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのために、受講生は事前に作品を読んできることが必要である。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表をしてもらう。なお、授業進度により、内容を変更する場合がある。

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げる作品を、必ず、事前に読んでくること。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」①
- 第3回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」②
- 第4回 江口渙「ある日の鬼ヶ島」③
- 第5回 川端康成「級長の探偵」①
- 第6回 川端康成「級長の探偵」②
- 第7回 太宰治「走れメロス」①
- 第8回 太宰治「走れメロス」②
- 第9回 椋鳩十「大造爺さんと雁」①
- 第10回 椋鳩十「大造爺さんと雁」②
- 第11回 椋鳩十「大造爺さんと雁」③
- 第12回 岡本民雄「ラクダイ横町」①
- 第13回 岡本民雄「ラクダイ横町」②
- 第14回 岡本民雄「ラクダイ横町」③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

遅刻しないこと。ノートをきちんと取ること。取り上げる作品を、可能な限り読みこんで、自分なりの疑問点・問題意識をもって授業に臨むことが望ましい。20分以上の遅刻は欠席とみなす。20分以内の遅刻3回を欠席1回に換算する。

教科書

日本児童文学名作集(下)

著者: 桑原三郎・千葉俊二編

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN: 4-00-311432-9

上記書籍に掲載されていない2作品は印刷したものを配布して対応。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 児童文化論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 幸一郎・三重野 由加	
テーマ 宮沢賢治の児童文学作品を解釈・鑑賞する。	
授業の到達目標 児童文学の代表的な作品を数多く残している宮沢賢治の作品を解釈・鑑賞することで、文学研究、あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。	
授業の概要 作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのため、受講生は事前に作品を読んできておく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表してもらう。授業進度により内容を変更する場合がある。また、外部講師による講演1回が予定されている。	
準備学習(予習・復習) 授業で取り上げる作品を、必ず事前に読んでおくこと。	
内 容 第1回 導入 第2回 「風の又三郎」① 第3回 「風の又三郎」② 第4回 「風の又三郎」③ 第5回 「オツベルと象」① 第6回 「オツベルと象」② 第7回 「オツベルと象」③ 第8回 外部講師による講演(講師の都合により日程変更の可能性有) 第9回 「よだかの星」① 第10回 「よだかの星」② 第11回 「よだかの星」③ 第12回 「グスコブトリの伝記」① 第13回 「グスコブトリの伝記」② 第14回 「グスコブトリの伝記」③ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点 遅刻をしない。ノートをきとんと取ること。取り上げる作品を、可能な限り読みこんで、自分なりの問題意識をもって授業に参加することが望ましい。20分以上の遅刻は欠席とみなす。20分以内の遅刻3回を欠席1回に換算する。	
教科書 作品で読む宮沢賢治 著者: みぎわ書房編 出版社: 白地社 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (50) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 教育相談

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 芦名 猛夫	
テーマ カウンセリングマインドと人間関係づくり	
授業の到達目標 心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。	
授業の概要 講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。	
準備学習(予習・復習) 予習:個々の課題について、自己の体験などを通して振り返っておく復習:授業で配布された資料などを整理する。	
内 容 第1回 授業ガイダンス、教育相談の意義:“今なぜ教育相談?” 第2回 教育相談の機能と限界 第3回 教育相談の歩み 第4回 教育相談の事例検討(1)不登校、いじめ等 第5回 教育相談の事例検討(2)対人恐怖、神経症等 第6回 ストレスマネジメント 第7回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイト) 第8回 " (2)自己理論(ロジャーズ) 第9回 " (3)行動理論、論理療法 第10回 " (4)交流分析、ゲシュタルト理論他 第11回 人間理解とカウンセリングマインド 第12回 人間関係づくりのエクササイズ 第13回 望ましいコミュニケーションのために 第14回 まとめと復習 第15回 試験	
履修上の注意点 遅刻、途中退席、欠席は極力避ける。やむを得ない場合、事前に必ず連絡すること。各授業で指示されたミニレポートは必ず提出すること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 試験50% ミニレポート40% 発表など参加度10%	

2015 Syllabus

科目名 相談援助〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 相談援助〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 相談援助〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援のあり方をグループで話し合い、発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

第1回 保育相談支援の意義と基本的視点

第2回 保育相談支援の基本

第3回 保育相談支援の展開

第4回 環境を通じた保育相談支援

第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援

第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援

第7回 児童福祉施設における保育相談支援

第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援のあり方をグループで話し合い、発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

〈増補版〉保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社：フレーベル館

出版年： ISBN:

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社：萌文書林

出版年： ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援のあり方をグループで話し合い、発表する。

準備学習(予習・復習)

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 児童家庭福祉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

「子どもの最善の利益」保障の観点から児童家庭福祉を理解する。

授業の到達目標

児童家庭福祉の現代的意義、歴史的変遷を学び、子どもの権利及び保育との関係性を理解する。また、児童福祉法等を体系的に学び、子どもを取り巻く環境の諸課題の理解を深める。

授業の概要

児童家庭福祉の法体系、里親制度、施設及び機関の機能等を学び、「子どもの最善の利益」を保障する児童家庭福祉を理解する。

準備学習(予習・復習)

児童福祉の動向及び子ども・家庭に関わるニュース等に関心を持ち、メモを心がける。

内 容

- 第1回 児童福祉の制定
- 第2回 児童福祉法の改正
- 第3回 児童福祉の歴史－イギリス
- 第4回 児童福祉の歴史－日本
- 第5回 児童の権利
- 第6回 児童福祉の法体系
- 第7回 児童福祉施設と里親制度
- 第8回 児童福祉の財政
- 第9回 現代家族の特徴と児童養護問題
- 第10回 ひとり親家庭の現状と課題
- 第11回 現代家族と保育問題－子育ての社会化
- 第12回 現代家族と保育問題－保育サービス
- 第13回 障害児福祉の理念と課題
- 第14回 児童福祉とソーシャルワーク
- 第15回 まとめ、質疑応答

履修上の注意点

教科書

児童福祉論

著者： 吉田明弘

出版社： 八千代出版

出版年： 2013

ISBN： 4-8429-1481-7

参考書

児童の世紀

著者： エレン・ケイ

出版社： 富山房百科文庫

出版年： 1979

ISBN： 4-572-00124

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **社会的養護**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の概要

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

内 容

- 第1回 社会的養護の理念と方向性
- 第2回 社会的養護の原理
- 第3回 子どもの権利
- 第4回 社会的養護の体系
- 第5回 社会的養護の制度
- 第6回 日本における社会的養護のあゆみ
- 第7回 欧米における社会的養護の歩み
- 第8回 現代家族問題と社会的養護
- 第9回 ひとり親家庭の現状と課題
- 第10回 養育環境上の問題に対応する児童の施設養護
- 第11回 情緒・行動面上の問題に対応する児童の施設養護
- 第12回 障害のある児童の施設養護
- 第13回 社会的養護の実践方法
- 第14回 社会的養護を支える専門職と新しい仕組み
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

社会的養護

著者： 吉田明弘編著

出版社： 八千代出版

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅰ－2

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 80

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠・齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病とその予防及び適切な対応、子どもの生活環境と精神保健、保育環境と衛生・安全管理について学ぶ。

授業の到達目標

1.子どもの疾病の特徴と予防、適切な対応を理解する。2.子どもの心の健康と課題について理解する。3.子どもの安全な生活のための配慮と関係機関との連携について理解する。

授業の概要

子どもの病気の特徴と対応、心の健康、事故防止と安全等について、教科書とプリントの併用で進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 子どもの病気の特徴
- 第2回 子どもに多い症状への対応Ⅰ
- 第3回 子どもに多い症状への対応Ⅱ
- 第4回 子どもに多い症状への対応Ⅲ
- 第5回 予防接種
- 第6回 子どもの生活と環境
- 第7回 子どもの心身症と精神疾患
- 第8回 子ども心の健康と課題Ⅰ
- 第9回 子ども心の健康と課題Ⅱ
- 第10回 子ども心の健康と課題Ⅲ
- 第11回 保育環境整備
- 第12回 事故と安全Ⅰ
- 第13回 事故と安全Ⅱ
- 第14回 健康安全の実施体制
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

図表で学ぶこどもの保健Ⅰ

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる子どもの保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 齋藤 洋子	
テーマ	子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。
授業の到達目標	1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。
授業の概要	乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。
準備学習(予習・復習)	事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーションこどもの保健と保育</p> <p>第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換等)</p> <p>第3回 乳幼児の身体計測</p> <p>第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)</p> <p>第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価</p> <p>第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価</p> <p>第7回 乳幼児の歯の健康</p> <p>第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)</p> <p>第9回 乳幼児の異常症状と手当</p> <p>第10回 乳幼児の事故と応急手当</p> <p>第11回 心肺蘇生法</p> <p>第12回 健康(安全)教育(グループワーク)</p> <p>第13回 保健だより(グループワーク)</p> <p>第14回 保育における環境衛生保育者の健康管理</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
子どもの保健演習ガイド	
著者: 高内正子 編著	
出版社: 建帛社	
出版年:	ISBN:
新装版 産婦人科の窓口から	
著者: 河野美代子	
出版社: こども未来社	
出版年:	ISBN:
参考書	
保育保健の基礎知識	
著者: 巷野悟郎 監修	
出版社: 日本小児医事出版社	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (50)	小テスト ()
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)
参加度 (10)	
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%)授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)	

2015 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 森岡 順子		
テーマ		
子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。		
授業の到達目標		
1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。		
授業の概要		
乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。		
準備学習(予習・復習)		
子どもの保健Ⅰで学んだことを復習しておいて下さい。		
内 容		
第1回	子どもの養護に必要な保育演習の意義と基本集団保育と保健、子どもの健康観察	
第2回	子どもの保健と母子保健の意義 母子保健の現状	
第3回	保育者の自己管理とその必要性保育者の手洗い	
第4回	乳幼児の抱き方・背負い方乳幼児の衣服の着脱・排泄の世話	
第5回	乳幼児の身体の清潔乳児の沐浴	
第6回	乳幼児の身体計測	
第7回	乳幼児の生理機能の測定	
第8回	乳幼児の歯の健康歯のケアの実際	
第9回	乳幼児の異常症状と手当て保育における環境衛生	
第10回	乳幼児の異常症状と手当て下痢・嘔吐の処理の仕方	
第11回	乳幼児の事故と応急手当て罨法について	
第12回	心肺蘇生法	
第13回	乳幼児の精神・運動機能の発達評価	
第14回	保健だより作成	
第15回	保健だより発表・評価まとめ	
履修上の注意点		
グループワークは、積極的に意見交換しお互いに高めあって下さい。		
教科書		
子どもの保健演習ガイド		
著者:	高内正子	
出版社:	ケンパク社	
出版年:	ISBN:	
産婦人科の窓口から		
著者:	河野美代子	
出版社:	十月舎	
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 (50%)	小テスト ()	
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (15%)	
参加度 (15%)		

2015 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森岡 順子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

授業の到達目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

準備学習(予習・復習)

子どもの保健Ⅰで学んだことを復習しておいて下さい。

内 容

- 第1回 子どもの養護に必要な保育演習の意義と基本集団保育と保健、子どもの健康観察
- 第2回 子どもの保健と母子保健の意義母子保健の現状
- 第3回 保育者の自己管理とその必要性保育者の手洗い
- 第4回 乳幼児の抱き方・背負い方乳幼児の衣服の着脱・排泄の世話
- 第5回 乳幼児の身体の清潔 乳児の沐浴
- 第6回 乳幼児の身体計測
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定
- 第8回 乳幼児の歯の健康歯のケアの実際
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て下痢・嘔吐の処理
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当て霍乱について
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当て
- 第12回 心肺蘇生法
- 第13回 乳幼児の精神・運動機能の発達評価
- 第14回 保健だより作成
- 第15回 保健だより発表・評価まとめ

履修上の注意点

グループワークは、積極的に意見交換しお互いに高めあって下さい。

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子

出版社： ケンパク社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 こどもの食と栄養 <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

授業の到達目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の概要

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
- 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
- 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
- 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
- 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
- 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
- 第7回 妊娠・授乳期の食生活
- 第8回 乳児期・離乳期の食生活
- 第9回 学童期の食生活
- 第10回 食育の基本
- 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
- 第13回 幼児期の食生活と疾病
- 第14回 小児期の食生活と疾病

履修上の注意点

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学建書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

2015 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養 **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

授業の到達目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の概要

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
- 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
- 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
- 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
- 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
- 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
- 第7回 妊娠・授乳期の食生活
- 第8回 乳児期・離乳期の食生活
- 第9回 学童期の食生活
- 第10回 食育の基本
- 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
- 第13回 幼児期の食生活と疾病
- 第14回 小児期の食生活と疾病

履修上の注意点

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学建書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

2015 Syllabus

科目名 保育の心理学 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	平沼 博将	
テーマ	保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する	
授業の到達目標	子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、実践記録等を教材とすることで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的形成をめざす。	
授業の概要	胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達の特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。	
準備学習(予習・復習)	予習:各回のテーマに関連する質問があれば整理しておくこと。復習:授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。	
内 容	第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障 第3回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－ 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－ 第5回 1歳児の発達と保育実践の課題 第6回 2歳児の発達と保育実践の課題 第7回 3歳児の発達と保育実践の課題 第8回 4歳児の発達と保育実践の課題 第9回 5歳児の発達と保育実践の課題 第10回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－ 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－ 第12回 乳幼児の遊びと保育心理学(1) 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(2) 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(3) 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－ 第16回 期末試験	
履修上の注意点	主体的に学習に取り組むこと。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 (40)	小テスト ()	
授業中課題 (40)	授業中発表等 ()	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 保育の心理学

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	平沼 博将	
テーマ	保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する	
授業の到達目標	子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、実践記録等を教材とすることで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的形成をめざす。	
授業の概要	胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達の特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。	
準備学習(予習・復習)	予習:各回のテーマに関連する質問があれば整理しておくこと。復習:授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。	
内 容	第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障 第3回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－ 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－ 第5回 1歳児の発達と保育実践の課題 第6回 2歳児の発達と保育実践の課題 第7回 3歳児の発達と保育実践の課題 第8回 4歳児の発達と保育実践の課題 第9回 5歳児の発達と保育実践の課題 第10回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－ 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－ 第12回 乳幼児の遊びと保育心理学(1) 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(2) 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(3) 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－ 第16回 期末試験	
履修上の注意点	主体的に学習に取り組むこと。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 (40)	小テスト ()	
授業中課題 (40)	授業中発表等 ()	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 乳児保育 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 美智子	
テーマ	乳児保育について学ぶ。	
授業の到達目標	乳児保育について学ぶことを通して、この時期の子どもの発達について、発達段階にふさわしい働きかけについて、そして乳児保育関連法令について理解することを目指す。	
授業の概要	授業は教科書に沿って進む(一部の内容については順番が前後することがある)。受講生は授業第1回より、教科書の他に本授業専用のノートまたはそれに類する物を用意する必要がある。「乳児保育」では、乳幼児期の子どもの発達に関する基礎知識の習得と、これを確認するための実技とが必要である。このことから、授業は講義と演習とを効果的に組み合わせた演習の形式で行う。	
準備学習(予習・復習)	予習 各回の授業理解のために、子どもの「食」「排泄」「衣服」「遊び」「子育て支援」など、興味あるトピックスを取り上げこれを調べておくこと。復習 授業後、予習で調べておいたことと授業内容とを整理し、自らの問題関心との関係について考える。	
内 容	<p>第1回 乳児保育とは</p> <p>第2回 乳児保育の歴史と現状</p> <p>第3回 乳幼児にかかわる法令等について①</p> <p>第4回 乳幼児にかかわる法令等について②</p> <p>第5回 乳児の発達過程について①</p> <p>第6回 乳児の発達過程について②</p> <p>第7回 乳児の発達過程について③</p> <p>第8回 乳児保育の方法と内容①</p> <p>第9回 乳児保育の方法と内容②</p> <p>第10回 乳児保育の記録と計画①</p> <p>第11回 乳児保育の記録と計画②</p> <p>第12回 保護者との連携について</p> <p>第13回 乳児保育における安全管理①</p> <p>第14回 乳児保育における安全管理②</p> <p>第15回 まとめ 筆記試験</p>	
履修上の注意点	学生証の携行。	
教科書	<p>はじめて学ぶ 乳児保育</p> <p>著者: 志村 聡子</p> <p>出版社: 同文書院</p> <p>出版年: 2013 ISBN:</p>	
参考書	<p>乳児保育の基本</p> <p>著者: 汐見稔幸編</p> <p>出版社: フレーベル館</p> <p>出版年: 2007 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (25%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%)</p> <p>参加度 (25%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 乳児保育

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 青木 美智子	
テーマ 乳児保育について学ぶ。	
授業の到達目標 乳児保育について学ぶことを通して、この時期の子どもの発達について、発達段階にふさわしい働きかけについて、そして乳児保育関連法令について理解することを目指す。	
授業の概要 授業は教科書に沿って進む(一部の内容については順番が前後することがある)。受講生は授業第1回より、教科書の他に本授業専用のノートまたはそれに類する物を用意する必要がある。「乳児保育」では、乳幼児期の子どもの発達に関する基礎知識の習得と、これを確認するための実技とが必要である。このことから、授業は講義と演習とを効果的に組み合わせた演習の形式で行う。	
準備学習(予習・復習) 予習 各回の授業理解のために、子どもの「食」「排泄」「衣服」「遊び」「子育て支援」など、興味あるトピックスを取り上げこれを調べておくこと。復習 授業後、予習で調べておいたことと授業内容とを整理し、自らの問題関心との関係について考える。	
内 容 第1回 乳児保育とは 第2回 乳児保育の歴史と現状 第3回 乳幼児にかかわる法令等について① 第4回 乳幼児にかかわる法令等について② 第5回 乳児の発達過程について① 第6回 乳児の発達過程について② 第7回 乳児の発達過程について③ 第8回 乳児保育の方法と内容① 第9回 乳児保育の方法と内容② 第10回 乳児保育の記録と計画① 第11回 乳児保育の記録と計画② 第12回 保護者との連携について 第13回 乳児保育における安全管理① 第14回 乳児保育における安全管理② 第15回 まとめ 筆記試験	
履修上の注意点 学生証の携行。	
教科書 はじめて学ぶ 乳児保育 著者: 志村 聡子 出版社: 同文書院 出版年: 2013 ISBN:	
参考書 乳児保育の基本 著者: 汐見稔幸編 出版社: フレーベル館 出版年: 2007 ISBN:	
成績評価 試験 (25%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (25%)	

2015 Syllabus

科目名 障害児保育 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 三山 岳	
テーマ	
障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ	
授業の到達目標	
障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。	
授業の概要	
前半は発達障害を中心に代表的な障害についての一般的知識に加え、障害の捉え方や概念の変遷、障害児保育の歴史を紹介する。後半は障害児保育の実践記録を読み取りながら、障害児保育の実際と配慮のあり方についてグループ討議方式で話し合うことが中心的活動となる。	
準備学習(予習・復習)	
障害児保育の実践記録が書いてある本を積極的に探し、読んでみるようにしてください。また、ボランティア活動をしている人は、子どもの発達に関心を持ってかかわり、観察するようにしてください。	
内 容	
第1回 ガイダンス(“障がい”とは何か?)	
第2回 障害児保育のあゆみと発達の権利	
第3回 知的障害とダウン症の基礎知識	
第4回 てんかん・脳性まひ・重度重複障害の基礎知識	
第5回 ADHD・LDの基礎知識	
第6回 自閉スペクトラム障害の基礎知識	
第7回 自閉スペクトラム障害の基礎知識	
第8回 グループ発表の学習とグループ交流	
第9回 事例検討(グループ学習と発表)①	
第10回 事例検討(グループ学習と発表)②	
第11回 事例検討(グループ学習と発表)③	
第12回 事例検討(グループ学習と発表)④	
第13回 事例検討(グループ学習と発表)⑤	
第14回 事例検討(グループ学習と発表)⑥	
第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書	
未定	
著者:	
出版社:	
出版年: ISBN:	
参考書	
発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ	
著者: 浜谷直人	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: ISBN: 9784623055258	
成績評価	
試験 (50)	小テスト ()
授業中課題 (10)	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	
グループでの発表に積極的に参加しなかった人には追加課題が出されます	

2015 Syllabus

科目名 障害児保育

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 岸本 栄嗣

テーマ

この授業のテーマは、「障害のある子どもやその家族への共感的理解」である。このテーマのもとに、障害児保育の初歩的な理解に取り組む。

授業の到達目標

障害のある子ども、さらには障害のある子どもの家族の立場、視点に立って考えるようになること。

授業の概要

この授業では、障害の理解、障害のある子どもの理解、障害のある子どもの家族の理解、障害のある子どもへの保育や援助についての理解などを取り上げる。受講者自身がしっかり考えることを重視して授業を展開する。講義形式のほか、映像資料、事例、障害の疑似体験などを用いてのディスカッションも行なう。

準備学習(予習・復習)

「障害」あるいは「障害のある子ども」についての自分なりの考え・理解を、常に問い返しておくこと。また、実習やボランティア活動などで障害のある子どもとかかわる機会があれば、その子どもとの関係をしっかりと深めてほしい。

内 容

- 第1回 障害とは何か(1)自分自身の「障害観」について振り返る。
- 第2回 障害とは何か(2)障害概念の変遷から障害について考える。
- 第3回 障害の理解(1)「見えない／見えにくいということ」について理解する。
- 第4回 障害の理解(2)「見通しがもてないということ」について理解する。
- 第5回 障害の理解(3)「車いすを利用するということ」について理解する。
- 第6回 障害の理解(4)「指先が不器用であるということ」について理解する。
- 第7回 障害種別の理解(1)自閉症スペクトラム障害を中心に
- 第8回 障害種別の理解(2)ADHDを中心に
- 第9回 障害種別の理解(3)視覚障害を中心に
- 第10回 障害のある子どもの家族の理解
- 第11回 障害児保育の意義と目的
- 第12回 障害児保育の実際(1)事例の検討
- 第13回 障害児保育の実際(2)事例の検討
- 第14回 障害児保育の現状と課題
- 第15回 まとめ 改めて「障害とは何か」

履修上の注意点

・とくにディスカッションでは積極的な参加を望む。・授業で取り上げられることは限りがあるため、歴史的背景や制度の詳細などについては、各自文献等で学習を進めてほしい。

教科書

障害児保育

著者： 近藤直子・白石正久・中村尚子

出版社： 全障研出版部

出版年： 2013

ISBN： 9784881341254

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業出席と態度、数回実施する小レポート、筆記テストの総合評価。

2015 Syllabus

科目名 社会的養護内容 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 春田 真樹	
テーマ	様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。
授業の到達目標	児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
授業の概要	基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。
準備学習(予習・復習)	社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。
内 容	<p>第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション</p> <p>第2回 子どもの養護と保育士②</p> <p>第3回 施設養護のプロセスの理解</p> <p>第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)</p> <p>第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援</p> <p>第6回 こころの援助①</p> <p>第7回 こころの援助②</p> <p>第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)</p> <p>第9回 親子関係の援助</p> <p>第10回 地域・学校との関係づくり</p> <p>第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方</p> <p>第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助</p> <p>第13回 児童福祉施設の運営管理</p> <p>第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	<受講のマナー>遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。<欠席について>やむを得ず欠席する場合(部活動や実習等)については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。<学習上の助言>実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していきます、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
教科書	<p>保育士をめざす人の社会的養護内容</p> <p>著者： 辰巳隆・岡本真幸 編</p> <p>出版社： 株式会社 みらい</p> <p>出版年： 2011 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (40)</p> <p>この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。</p>

2015 Syllabus

科目名 社会的養護内容

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 春田 真樹	
テーマ	様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。
授業の到達目標	児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
授業の概要	基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。
準備学習(予習・復習)	社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。
内 容	<p>第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション</p> <p>第2回 子どもの養護と保育士②</p> <p>第3回 施設養護のプロセスの理解</p> <p>第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)</p> <p>第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援</p> <p>第6回 こころの援助①</p> <p>第7回 こころの援助②</p> <p>第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)</p> <p>第9回 親子関係の援助</p> <p>第10回 地域・学校との関係づくり</p> <p>第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方</p> <p>第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助</p> <p>第13回 児童福祉施設の運営管理</p> <p>第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	<受講のマナー>遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。<欠席について>やむを得ず欠席する場合(部活動や実習等)については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。<学習上の助言>実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
教科書	<p>保育士をめざす人の社会的養護内容</p> <p>著者： 辰巳隆・岡本真幸 編</p> <p>出版社： 株式会社 みらい</p> <p>出版年： 2011 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (40)</p> <p>この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。</p>

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 一柳 敦子		
テーマ		
初めての保育実習の充実のために。		
授業の到達目標		
・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。		
授業の概要		
・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。		
準備学習(予習・復習)		
・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。		
内 容		
第1回	保育実習 I -1の意義と目的	
第2回	保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について①	
第3回	保育所の一日の流れと保育士の仕事について	
第4回	年齢別指導方法や保育技術を学ぶ①	
第5回	年齢別指導方法や保育技術を学ぶ②	
第6回	保育課程と指導計画指導案作成の実際	
第7回	帳票類と保菌検査について説明	
第8回	実習簿の記入と記録の書き方の実際	
履修上の注意点		
・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。		
教科書		
保育所保育指針解説書		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
授業内で適宜紹介する。		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (60%)	
参加度 ()		

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 初めての保育実習の充実のために。	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。	
内 容 第1回 保育実習 I -1の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について① 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ① 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ② 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際 第7回 帳票類と保菌検査について説明 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1 <c>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 大山 弘美	
テーマ 初めての保育実習の充実のために。	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。	
内 容 第1回 保育実習 I -1の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について① 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ① 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ② 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際 第7回 帳票類と保菌検査について説明 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1 <d>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ 初めての保育実習の充実のために。	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。	
授業の概要 ・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。	
内 容 第1回 保育実習 I -1の意義と目的 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について① 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ① 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ② 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際 第7回 帳票類と保菌検査について説明 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際	
履修上の注意点 ・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅰ－1〈e〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

初めての保育実習の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ－1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。

内 容

- 第1回 保育実習Ⅰ－1の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ②
- 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際
- 第7回 帳票類と保菌検査について説明
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅰ－1〈f〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

初めての保育実習の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ－1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。

内 容

- 第1回 保育実習Ⅰ－1の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ②
- 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際
- 第7回 帳票類と保菌検査について説明
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1 <g>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定 員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 山口 陽子

テーマ

初めての保育実習の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験をしておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I -1の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ②
- 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際
- 第7回 帳票類と保菌検査について説明
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -1 <h>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定 員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

初めての保育実習の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法を(スキルについて)理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育指針解説書等により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習 I -1の段階の内容を知る。また実技や演習を通して、記録や指導案の書き方の基礎、教材の扱い等、保育に必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的、また定期的に、保育所等のボランティア活動や子どもと触れ合う体験ができるように努め、子どもへの探究心や子どもを肯定的に理解しようとする姿勢を培っておく。・絵本や手遊び歌などにも普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前でする体験しておく。

内 容

- 第1回 保育実習 I -1の意義と目的
- 第2回 保育所の役割や機能の理解保育所保育指針について①
- 第3回 保育所の一日の流れと保育士の仕事について
- 第4回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ①
- 第5回 年齢別指導方法や保育技術を学ぶ②
- 第6回 保育課程と指導計画指導案作成の実際
- 第7回 帳票類と保菌検査について説明
- 第8回 実習簿の記入と記録の書き方の実際

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 80
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 80
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <c>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 80
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 大山 弘美	

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どものかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <d>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 80
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <e>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員 80

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <付>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員 80

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どものかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <g>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 80
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 山口 陽子	

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どものかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1 <h>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員 80

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 美智子・吉田 裕子

テーマ

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の到達目標

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習およびその指導計画の立案を試みる。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どものかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

授業の概要

実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

準備学習(予習・復習)

事前事後指導は全回出席し、今までの授業で学んだことの確認を自主的に行う。

内 容

- 第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。
 第2回 保育所の1日の流れを知る。
 第3回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第4回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第5回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第6回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第7回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第8回 観察実習として クラスの活動を観察することから子どもの様子を知り、保育者の動きから具体的な援助の方法を学ぶ。
 第9回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第10回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第11回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第12回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第13回 参加実習として 保育に参加することから、子どもの発達段階にふさわしい援助の方法や遊びの内容について学ぶ。
 第14回 部分実習として 保育の流れを理解した上で、指導計画を立て保育する。
 第15回 振り返りとして 実習後の園での反省会から学ぶ。

履修上の注意点

実習園との連絡・確認事項は必ず期日までに言い、提出物は遅滞なく提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一柳 敦子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よを通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 太田 みつ枝		
テーマ		
保育所実習の一層の充実のために。		
授業の到達目標		
・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。		
授業の概要		
・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。		
準備学習(予習・復習)		
・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。		
内 容		
第1回 保育所保育指針について②		
第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について		
第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について		
第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について		
第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して		
第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よ通して		
第7回 先輩の体験報告から学ぶ		
第8回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書		
保育諸保育指針解説書		
著者： 厚生労働省		
出版社： フレーベル館		
出版年： 平成20年		
ISBN:		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (60%)	
参加度 ()		

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 大山 弘美

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よを通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者：厚生労働省

出版社：フレーベル館

出版年：平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よ通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈e〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よを通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈f〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よを通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈g〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 山口 陽子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よを通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ <h>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期後半

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために。

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力を育成する。・物事を論理的に解決する能力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・保育実習Ⅱの段階を知り、必要な技術を身につける。また演習や実技、先輩の話などを通じて保育実習Ⅱにふさわしい探究心をもって課題意識を高める。

準備学習(予習・復習)

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集や研究を心がけるとともに、実習関係の本等からも情報収集し、現場の実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書については必要な箇所について予習復習を心がける。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について②
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法① 0歳児について
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法② 1～2歳児について
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 3～5歳児について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 指導案作成を通して
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案作成よ通して
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

教科書

保育諸保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 体育実技 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 新野 守	
テーマ	
いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得	
授業の到達目標	
①スポーツのルールを理解し、基礎技術を習得する。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。	
授業の概要	
基本の運動、器械運動、陸上運動、球技運動の練習とゲーム内容を授業記録に整理し、次の実践の課題を明らかにする。また、各種目の技術・戦術についての自習により指導のポイントを整理する。	
準備学習(予習・復習)	
毎回の準備運動では、腕立て伏せ、腹筋、背筋、ジャンプ、倒立などの運動を行い基礎的な体力と基本的な動作能力を培う。最終的に、上記の運動が男子は50回、女子は30回連続してできること、また器械運動の連続技の構成を目指す。自宅で毎日筋力トレーニングを実施すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション	
第2回 体ほぐし①	
第3回 体ほぐし②体力測定	
第4回 鉄棒運動:腕支持、逆さ感覚、回転感覚	
第5回 跳び箱運動:踏切、切り返し	
第6回 マット運動:位置エネルギー、手と足の位置・構え	
第7回 バレーボール①基本的技術の確認、試しのゲーム	
第8回 バレーボール②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、スパイク、ブロック、サーブ)、ディフェンスの基本	
第9回 バレーボール③フォーメーション(セッターとセンター)	
第10回 バスケットボール①基本的技術の確認、試しのゲーム	
第11回 バスケットボール②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、ドリブル、シュート)、ディフェンスの基本	
第12回 バスケットボール③フォーメーション(センターとポイントガード、スクリーン)	
第13回 サッカー①基本的技術の確認、試しのゲーム	
第14回 サッカー②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、ドリブル、シュート)、オフサイド、ディフェンスの基本	
第15回 サッカー③フォーメーション(FW,MF,DF)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (30)	授業中発表等 (20)
参加度 (50)	
基礎的な体力・技術は実技テストで、技術指導のポイントの整理はレポートで、積極性はマナーで評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **体育実技 **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 新野 守		
テーマ		
いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得		
授業の到達目標		
①スポーツのルールを理解し、基礎技術を習得する。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。		
授業の概要		
基本の運動、器械運動、陸上運動、球技運動の練習とゲーム内容を授業記録に整理し、次の実践の課題を明らかにする。また、各種目の技術・戦術についての自習により指導のポイントを整理する。		
準備学習(予習・復習)		
毎回の準備運動では、腕立て伏せ、腹筋、背筋、ジャンプ、倒立などの運動を行い基礎的な体力と基本的な動作能力を培う。最終的に、上記の運動が男子は50回、女子は30回連続してできること、また器械運動の連続技の構成を目指す。自宅で毎日筋力トレーニングを実施すること。		
内 容		
第1回 オリエンテーション		
第2回 体ほぐし①		
第3回 体ほぐし②体力測定		
第4回 鉄棒運動:腕支持、逆さ感覚、回転感覚		
第5回 跳び箱運動:踏切、切り返し		
第6回 マット運動:位置エネルギー、手と足の位置・構え		
第7回 バレーボール①基本的技術の確認、試しのゲーム		
第8回 バレーボール②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、スパイク、ブロック、サーブ)、ディフェンスの基本		
第9回 バレーボール③フォーメーション(セッターとセンター)		
第10回 バスケットボール①基本的技術の確認、試しのゲーム		
第11回 バスケットボール②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、ドリブル、シュート)、ディフェンスの基本		
第12回 バスケットボール③フォーメーション(センターとポイントガード、スクリーン)		
第13回 サッカー①基本的技術の確認、試しのゲーム		
第14回 サッカー②時間空間認識、周辺視野の拡大、技術構造(パス、ドリブル、シュート)、オフサイド、ディフェンスの基本		
第15回 サッカー③フォーメーション(FW,MF,DF)		
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (30)	授業中発表等 (20)	
参加度 (50)		
基礎的な体力・技術は実技テストで、技術指導のポイントの整理はレポートで、積極性はマナーで評価する。		

2015 Syllabus

科目名 音楽演習入門 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習: 授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習: 指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習: 授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習: 指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習入門 <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることで、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習: 授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習: 指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50)	

2015 Syllabus

科目名 音楽演習入門 <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 佐野 仁美	
テーマ ピアノ演奏の基本と音楽理論	
授業の到達目標 1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。	
授業の概要 受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。	
準備学習(予習・復習) 予習: 授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習: 指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。	
内 容 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61 第7回 短音階、バイエルNo.65、67 第8回 移調、バイエルNo.72、73 第9回 和音、バイエルNo.73、75 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲 第15回 ピアノ実技発表	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。	
教科書 楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集 著者: 小畑郁男・佐野仁美編著 出版社: サーベル社 出版年: 2014年 ISBN: コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー 著者: 坂井康子他編著 出版社: ヤマハ・ミュージックメディア 出版年: 2008年 ISBN:	
参考書 プリントを配布する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (30) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (50)	

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <* a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制

担当者 倉持 祐二

テーマ

“子どものくらしと学び”を考える基本文献を読む

授業の到達目標

自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、研究課題についての理解を深める。

授業の概要

子どものくらしと学びを考えるための基本文献を読み進め、わかったことをまとめて発表する。

準備学習(予習・復習)

予習:子どものくらしと学びを考える基本文献を読み、疑問等があれば挙げておく。復習:ゼミの討議の中で課題になったことについて調べ、自分の考えを深めていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 問題意識を交流する
 第2回 子どものくらしと学びを考える基本文献を選ぶ①
 第3回 子どものくらしと学びを考える基本文献を選ぶ②
 第4回 フィールドワーク・山科なすの農家を訪ねる
 第5回 教育・保育で使える教材・教具づくり①
 第6回 教育・保育で使える教材・教具づくり②
 第7回 教育・保育で使える教材・教具づくり③
 第8回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む①
 第9回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む②
 第10回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む③
 第11回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む④
 第12回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑤
 第13回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑥
 第14回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑦
 第15回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑧
 第16回 (学外授業を適宜行うことがある)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

歴史地理教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

社会科教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

生活教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

授業づくりネットワーク

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

どの子も伸びる

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

作文と教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (0%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小寺 隆幸

テーマ

幅広く教育のあり方について考える。

授業の到達目標

教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の概要

基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話し合う。

準備学習(予習・復習)

文献をあらかじめ熟読する。ゼミ後のまとめを掲示板で発信する。学外授業等を行うことがある自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

内 容

- 第1回 問題意識の交流
- 第2回 文献を読む①
- 第3回 文献を読む②
- 第4回 文献を読む③
- 第5回 文献を読む④
- 第6回 文献を読む⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各自の関心事に関する文献を読み進めておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:表現と教育に関する学の研究領域、研究の方法論について
- 第2回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む①
- 第3回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む②
- 第4回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む③
- 第5回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む④
- 第6回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む⑤
- 第7回 学外活動:実践取材&調査と分析①
- 第8回 学内活動:実践取材&調査と分析②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議①②
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議③④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

履修上の注意点

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…を適宜、行うことがある○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

全回出席を前提とする。

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
- 第2回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
- 第3回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
- 第4回 基本文献の輪読と発表①
- 第5回 基本文献の輪読と発表②
- 第6回 基本文献の輪読と発表③
- 第7回 基本文献の輪読と発表④
- 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
- 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
- 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
- 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
- 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
- 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
- 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
- 第15回 まとめ:夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <* e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 佐野 仁美

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考える。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

音楽に関する文献を輪読し、問題点を取り上げて討論する。そのかたわら自らの研究テーマを見出し、研究方法について学んでいく。

準備学習(予習・復習)

予習:関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。復習:討論で得られた意見を参考にして、最終レポートに向けて文献をまとめる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
 第2回 保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①
 第3回 保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②
 第4回 基本文献の輪読と発表①
 第5回 基本文献の輪読と発表②
 第6回 基本文献の輪読と発表③
 第7回 基本文献の輪読と発表④
 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
 第15回 まとめ:夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。

教科書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I < * f >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ。国語科の学習材開発に取り組む。

授業の到達目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。また、国語科の学習材開発を行い、オリジナルの学習材開発に挑む。

授業の概要

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

準備学習(予習・復習)

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内 容

- 第1回 国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第2回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
- 第3回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
- 第4回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
- 第5回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
- 第6回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 国語学習材の開発検討①
- 第13回 国語学習材の開発検討②
- 第14回 国語学習材の開発検討③
- 第15回 国語学習材の開発検討④

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

論理が伝わる 世界標準の「書く技術」

著者： 倉島保美

出版社： 講談社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 南 憲治

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②興味のあるテーマをみつけ、そのテーマに関連した資料や文献をさがすことができる。③資料や文献を読み、その内容について発表する力を養う。

授業の概要

子どもの発達や発達障害に関する資料・文献をみつけ、その内容を発表し、集団で討議する。

準備学習(予習・復習)

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方)
- 第2回 関心のある資料や文献をさがす①
- 第3回 関心のある資料や文献をさがす②
- 第4回 資料や文献を読む①
- 第5回 資料や文献を読む②
- 第6回 発表の準備をする①
- 第7回 発表の準備をする②
- 第8回 発表と討論
- 第9回 発表と討論
- 第10回 発表と討論
- 第11回 発表と討論
- 第12回 発表と討論
- 第13回 発表と討論
- 第14回 発表と討論
- 第15回 全体のまとめと課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 青木 美智子

テーマ

これまでの学びを振り返り、各自の課題を深める。

授業の到達目標

1. これまでの学習を振り返り、今後深めて行きたいテーマを考える。2. 問題意識について発表することで、他の学生のテーマについて考え、自らの関心を広げる。3. 卒業論文に向けて必要な文献検索の方法等について学び、自ら行ってみる。

授業の概要

前半はこれまでの学びを振り返り、自身の問題意識について発表し全体で話合う。後半はそれぞれの問題意識に即して調べたことや考えたことをまとめ、発表する。適宜必要の都度個人指導を行う。

準備学習(予習・復習)

図書館へ定期的に足を運び、教育学その他の領域でどのようなテーマがあり、どのような著者がいるのかを調べておくこと。授業時間に配布された資料を整理する習慣をつけ、学習に役立てること。

内 容

第1回 導入

第2回 これまでの学びと今後の課題設定について①

第3回 これまでの学びと今後の課題設定について②

第4回 これまでの学びと今後の課題設定について③

第5回 これまでの学びと今後の課題設定について④

第6回 これまでの学びと今後の課題設定について⑤

第7回 これまでの学びと今後の課題設定について⑥

第8回 これまでの学びと今後の課題設定について⑦

第9回 文献・資料を読む①

第10回 文献・資料を読む②

第11回 文献・資料を読む③

第12回 文献・資料を読む④

第13回 文献・資料を読む⑤

第14回 文献・資料を読む⑥

第15回 文献・資料を読む⑦

履修上の注意点

今後卒業論文の執筆にあたり必要となるため、配付資料を散逸しないこと。発表の順番があるため、無断欠席をしないこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (25%)

参加度 (25%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の各自の問題意識の確立

授業の到達目標

1)子どもの現実にかかわる発表を多面的に行い、現実認識を深める。2)卒論の最初の問題意識を発表し、夏季休暇中の各人の課題を明らかにする。3)ゼミ内の意思疎通を図るために親睦の活動を位置づける。

授業の概要

1)乳幼児・学齡児をはじめとした子どもの現実にかかわる発表を行う(1回当たり2名発表)2)卒論の最初の問題意識を発表・相談する(1回当たり2名発表)

準備学習(予習・復習)

卒業論文に関する各自の問題意識を深めるために、関連する単行本や論文を学習する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの現実を深める(1)
- 第3回 子どもの現実を深める(2)
- 第4回 子どもの現実を深める(3)
- 第5回 子どもの現実を深める(4)
- 第6回 子どもの現実を深める(5)
- 第7回 子どもの現実を深める(6)
- 第8回 子どもの現実を深める(7)
- 第9回 卒業論文の問題意識を深める(1)
- 第10回 卒業論文の問題意識を深める(2)
- 第11回 卒業論文の問題意識を深める(3)
- 第12回 卒業論文の問題意識を深める(4)
- 第13回 卒業論文の問題意識を深める(5)
- 第14回 卒業論文の問題意識を深める(6)
- 第15回 卒業論文の問題意識を深める(7)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習 I <*j>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 八木 英二

テーマ

ゼミでの発表と討論

授業の到達目標

「教育演習 I」は3～4回生の2年間のゼミ活動の出発点として、各自が自身のテーマを見つけ、ゼミのなかで発表を行い、討論でできる力を身につける。レジュメの初歩的な書き方についても学ぶ。

授業の概要

各自が自身のみつけたテーマにそって、発表準備のための文献を収集し、集めた資料の要点と自身の感想を整理し発表を行う。ゼミに積極的に参加し、他人の発表に耳を傾け、意見の交流を活発に行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 レジュメの書き方について
- 第2回 各自の発表と全体討論1
- 第3回 各自の発表と全体討論2
- 第4回 各自の発表と全体討論3
- 第5回 各自の発表と全体討論4
- 第6回 各自の発表と全体討論5
- 第7回 各自の発表と全体討論6
- 第8回 各自の発表と全体討論7
- 第9回 各自の発表と全体討論8
- 第10回 各自の発表と全体討論9
- 第11回 各自の発表と全体討論10
- 第12回 各自の発表と全体討論11
- 第13回 各自の発表と全体討論12
- 第14回 各自の発表と全体討論13
- 第15回 各自の発表と全体討論14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 倉持 祐二

テーマ

“子どものくらしと学び”をテーマにした研究と実践に学ぶ

授業の到達目標

“子どものくらしと学び”をテーマにした文献を幅広く収集し、各自の研究テーマの到達点と課題を明らかにする。

授業の概要

現代の子どものくらしと学びを考える文献を読み、その中から関心のあるテーマにそって内容を理解し、まとめて発表を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:子どものくらしと学びを考える実践記録を読み、疑問等があれば挙げておく。復習:ゼミの討議の中で課題になったことについて調べ、自分の考えを深めていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 文献検索の方法について
 第2回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む①
 第3回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む②
 第4回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む③
 第5回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む④
 第6回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑤
 第7回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑥
 第8回 奈良教育大学付属幼稚園のとりくみに学ぶ
 第9回 奈良教育大学付属小学校のとりくみに学ぶ
 第10回 教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する①
 第11回 教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する②
 第12回 教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する③
 第13回 教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する④
 第14回 教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する⑤
 第15回 卒業論文のテーマを考える
 第16回 (学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

歴史地理教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

生活教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

授業づくりネットワーク

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

どの子ども伸びる

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

作文と教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

社会科教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (0%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小寺 隆幸

テーマ

幅広く教育のあり方について考える。

授業の到達目標

教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の概要

基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話しあう。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 文献を読む①
- 第2回 文献を読む②
- 第3回 文献を読む③
- 第4回 文献を読む④
- 第5回 文献を読む⑤
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第11回 国際平和ミュージアム見学
- 第12回 国際平和ミュージアムを見学しての意見交流
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識による研究活動第二段階に入る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

前期を通して明確になった問題意識に沿って積極的に文献を読破すること。同時に実践経験を通して思考することを学ぶこと。

内 容

- 第1回 前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表
- 第2回 学外活動:実践調査
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…を適宜、行うことがある○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①
 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②
 第5回 実習における学びの報告①
 第6回 実習における学びの報告②
 第7回 実習における学びの報告③
 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈*e〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 佐野 仁美	
テーマ 子どもと音楽の関わりについて考察を深める。	
授業の到達目標 1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。	
授業の概要 1)実習やボランティアにおける事例について報告し、そこから得られた知見をもとに話し合う。2)各自の研究テーマに関連する文献について発表し、問題点を討論する。	
準備学習(予習・復習) 予習:各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。復習:討論で得られた意見をもとに自らの考察を加え、最終レポート作成へ向けて、文献をまとめ直す。	
内 容 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言 第3回 論文を読み解き、まとめる作業① 第4回 論文を読み解き、まとめる作業② 第5回 実習における学びの報告① 第6回 実習における学びの報告② 第7回 実習における学びの報告③ 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論① 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論② 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③ 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④ 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤ 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥ 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦ 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負	
履修上の注意点	
教科書 授業時に指示する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 必要に応じて紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (50%) 参加度 (20%)	

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。卒業論文のテーマ決定。

授業の到達目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の概要

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

準備学習(予習・復習)

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内 容

第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。

第2回 個別発表と質疑・応答・討議①

第3回 個別発表と質疑・応答・討議②

第4回 個別発表と質疑・応答・討議③

第5回 個別発表と質疑・応答・討議④

第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤

第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥

第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦

第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨

第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩

第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪

第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫

第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬

第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈*g〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 南 憲治

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②資料や文献を読み、その内容を発表する力を養う。③発表を聞き、討論する力を養う。

授業の概要

教育演習Ⅰの成果の上に、関心のあるテーマをさらに絞り込み、絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがし、その内容について発表する。

準備学習(予習・復習)

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方)
- 第2回 テーマを絞る
- 第3回 絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす①
- 第4回 絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす②
- 第5回 資料や文献を読み、発表に備える①
- 第6回 資料や文献を読み、発表に備える②
- 第7回 資料や文献を読み、発表に備える③
- 第8回 発表と討論
- 第9回 発表と討論
- 第10回 発表と討論
- 第11回 発表と討論
- 第12回 発表と討論
- 第13回 発表と討論
- 第14回 発表と討論
- 第15回 全体のまとめと課題

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文へ向けて問題意識を深める。

授業の到達目標

1. 論文執筆の具体的な方法を学ぶ。2. 論文執筆の日程調整について計画する。3. ゼミのなかで自分や他の受講生の課題やアイデアについて考え、話合う力を育てる。

授業の概要

それぞれに関心のある文献や資料を読み、調べたり考えたことを発表し、話合うことから学びを深める。

準備学習(予習・復習)

大学図書館やインターネットの情報だけでなく、地域の図書館や研究テーマに関係のある施設等へ積極的に足を運び、調べたり考えたりしたことを発表報告できるように準備する。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 資料の探し方①
- 第3回 資料の探し方②
- 第4回 先行研究と私の課題①
- 第5回 先行研究と私の課題②
- 第6回 先行研究と私の課題③
- 第7回 先行研究と私の課題④
- 第8回 先行研究と私の課題⑤
- 第9回 先行研究と私の課題⑥
- 第10回 先行研究と私の課題⑦
- 第11回 先行研究と私の課題⑧
- 第12回 論文の執筆に向けて①
- 第13回 論文の執筆に向けて②
- 第14回 論文の執筆に向けて③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

配付資料を紛失しないこと。発表者は提出期日を守り、無断欠席をしないこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (25%)

参加度 (25%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <*i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の課題意識をより詳細に発表し、自分にとっての意味を深める。

授業の到達目標

1)卒業論文の課題意識をより詳細に発表し、相互交流を図りつつ、各自にとっての意味を深めていく。2)ゼミ内の意思疎通を図るために親睦の活動を位置づける。

授業の概要

卒業論文の課題意識をより詳細に発表する(1コマ当たり1人発表)

準備学習(予習・復習)

各自の課題意識に関連する単行本・論文を学習しつつ、論文の構想を試行錯誤を含めて組み立てていく。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 卒業論文の課題意識の発表(1)

第3回 卒業論文の課題意識の発表(2)

第4回 卒業論文の課題意識の発表(3)

第5回 卒業論文の課題意識の発表(4)

第6回 卒業論文の課題意識の発表(5)

第7回 卒業論文の課題意識の発表(6)

第8回 卒業論文の課題意識の発表(7)

第9回 卒業論文の課題意識の発表(8)

第10回 卒業論文の課題意識の発表(9)

第11回 卒業論文の課題意識の発表(10)

第12回 卒業論文の課題意識の発表(11)

第13回 卒業論文の課題意識の発表(12)

第14回 卒業論文の課題意識の発表(13)

第15回 卒業論文の課題意識の発表(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **人間発達学入門**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子・浅井 雅志・アンガス ノーマン・池田 修・大久保 恭子・金山 敬・神谷 栄司・北林 利治・佐野 仁
美・西村 友美・南 憲治・八木 英二

テーマ

「言語と人間」の視点から、人間の発達を多面的に考察する。

授業の到達目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の概要

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

準備学習(予習・復習)

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。また、講義内容についてコメントを記しておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(神谷)
- 第2回 日本語の魅力(池田)
- 第3回 言語の翻訳可能性(西村)
- 第4回 脳と言語(南)
- 第5回 幼児とことば(青木)
- 第6回 外言と内言(神谷)
- 第7回 対話について(神谷)
- 第8回 音楽とことば(佐野)
- 第9回 美術とことば(大久保)
- 第10回 死滅する言語(アンガス)
- 第11回 多言語主義(北林)
- 第12回 英語公用化論争(浅井)
- 第13回 第二言語習得(金山)
- 第14回 コミュニケーションと教育改革(八木)
- 第15回 まとめ(神谷)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポートによる。

2015 Syllabus

科目名 生徒・進路指導

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 杉中 康平

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

授業の到達目標

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の概要

講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的事例からは「課題・問題」についてグループ討論、発表交流・まとめをする。(授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介)

準備学習(予習・復習)

諸君が教職に就いたときには、様々な生徒指導上の「課題」に対して、自らの指導の在り方(教師としての生き方と言い換えてもよい)が、常に問われることとなります。この授業を通して、生徒指導の基礎となる部分をしっかりと学んでほしいと思います。授業では、生徒指導にかかわる事項について、各自の意見を求めたり、調べたりするような小レポートを課したり、基礎的な知識を問うような小テストを行うことがあります。日頃から、授業内容の復習をして、しっかりと知識の定着を図るとともに、新聞等の報道や書籍などにも目を通し、問題意識を高めたうえで、受講してください。

内 容

第1回 こどもの現状・課題と進路・生徒指導 授業計画と授業の進め方

第2回 進路指導の理論とその歴史・課題

第3回 生徒指導の理論とその歴史・課題

第4回 集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか

第5回 不登校の子どもへの理解とその指導

第6回 幼い子どもの「いじめ」その理解と対応

第7回 「いじめ」問題子どもの心・本音と指導

第8回 子どもの「けんか」「暴力」とその指導

第9回 子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応

第10回 「問題行動」「非行」問題とその指導

第11回 子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応

第12回 学級の規律・問題と集団作り

第13回 課題を持つ子どもと学級行事・取り組み

第14回 子どもの問題と進路指導の課題

第15回 「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

履修上の注意点

本授業は、毎時間、生徒指導における課題について、ディスカッションや場面指導等を行うことによって、実践力の育成を目指している。また、適宜、小テストや小レポートも課すものとする。授業に際しては、常に問題意識を持って積極的に参加し、共に教職を目指す仲間と学び合うことを心掛けてください。

教科書

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年： 2011年

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習) ・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。	
内 容 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等) 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する) 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する) 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う) 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける) 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点 ・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者: 文部科学省 出版社: フレーベル館 出版年: 平成20年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 ()	小テスト () 授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。	
授業の到達目標 担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。	
授業の概要 「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。	
準備学習(予習・復習) ・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。	
内 容 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等) 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する) 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する) 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う) 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける) 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答	
履修上の注意点 ・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者: 文部科学省 出版社: フレーベル館 出版年: 平成20年 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 ()	小テスト () 授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習指導(小学校)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習(予習・復習)

・幼稚園教育要領解説の必要箇所についての予習と復習をする。・最終の実習に臨むにあたりこれまでの実習の反省を踏まえて、目標と課題を明確にしておく。・期日が指定される提出物について計画的かつ迅速に取り組むこと。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導②◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

履修上の注意点

・幼稚園教育実習まで限られた回数の授業となるため欠席のないようにすること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 平成20年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (60)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <a>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 一柳 敦子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 太田 みつ枝

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <c>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <d>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <e>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <f>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <g>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(幼稚園) <h>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習(予習・復習)

以前の保育実習および幼稚園実習にむけた事前指導について振りかえり自分の課題を整理しておくこと(予習)。幼稚園実習そのものを振りかえり、自分の眼が拓かれた保育の事実の整理、それに対する考察を記しておくこと(復習)。

内 容

- 第1回 (教育実習 I においては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに 保育を見てもらい指導・助言を受ける)

履修上の注意点

実習をにらんで日常生活のリズムを整えておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

事前事後指導の状況、実習先による評価、実習簿の記載などにより総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 教育実習(小学校)

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習)

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内 容

- 第1回 ○第1週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第2回 ○第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。
- 第3回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第4回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 特別支援教育論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 森下 勇	
テーマ	障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識・理解とその教育のあり方

授業の到達目標

1. 子ども理解の基本的視点がわかる。 2. 障害児のライフサイクルとそれぞれの時期の課題がわかる。 3. 日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。 4. 障害児、発達に課題のある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察を深める。

授業の概要

今日、障害のある子どもや発達的に課題を有する子どもは特別支援学校、特別支援学級、さらには通常学級に多く在籍している。その教育は特別支援教育としてとられており、主に指導内容、方法などが議論にされることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提として、子ども理解のあり方や、その形成の歴史的経過など、基本的な課題を理解すること、加えて、周辺領域とも関連しながら「障害児・者問題」についての入門的理解を図ることなどを通して、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。必要な資料を用いながら、主として講義形式でおこなう。

準備学習(予習・復習)

講義を通して関心をもった事項について、参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を自主的に深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは ②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
- 第2回 特別支援教育の現状と課題①:実践現場の状況
- 第3回 特別支援教育の現状と課題②:子ども理解と指導
- 第4回 特別支援教育の現状と課題③:考えるべき課題
- 第5回 特別支援教育の制度:特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
- 第6回 障害児教育の歴史①:戦後～1960年代(特殊教育論)
- 第7回 障害児教育の歴史②:1960年代～養護学校義務制実施前
- 第8回 障害児教育の歴史③:養護学校義務制移行～特別支援教育
- 第9回 ライフステージと障害児教育①:乳幼児期(障害の発見と受容)
- 第10回 ライフステージと障害児教育②:学童期(就学、地域生活)
- 第11回 ライフステージと障害児教育③:思春期・青年期(「第2の誕生」から社会へ)
- 第12回 子ども理解の基本的視点①(障害)
- 第13回 子ども理解の基本的視点②(発達)
- 第14回 子ども理解の基本的視点③(生活)
- 第15回 ①発達障害(主に自閉症)の理解と教育 ②講義全体のまとめ

履修上の注意点

「授業計画」について、実習との関連などで一部内容および前後変更をする場合があります。了解ください。他科目受講と同様のマナー(私語をしない、離席、外出、携帯電話は切るなど)を守ることは当然です。受講者が例年多くおられ、質問などがあっても条件的に難しい状況です。個別にあるいはなんらかのペーパーなどで積極的にしてください。学務係に届けてある「実習」に関しては『欠席』扱いにはしません。座席指定をします。守ってください。小レポート(『指定参考書』の書評なども含む)、小テストなどを数回課します。講義内容を補足する形で、興味・関心を有した関連事項を自主的かつ積極的に学習することを求めます。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

障害児と教育

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 1990

ISBN: 400431319

障害児教育を考える

著者： 茂木俊彦

出版社： 岩波新書

出版年： 2007

ISBN： 9784004311102

キーワードブック障害児教育[改訂増補版]

著者： 清水貞夫・藤本文朗編

出版社： クリエイツかもがわ

出版年： 2005

ISBN： 9784863420205

障害児教育学の現状・課題・未来[改訂版]

著者： 藤本文朗・小川克正編

出版社： 培風館

出版年： 2006

ISBN： 4563057711

障害児教育の歴史

著者： 中村満紀男・荒川智

出版社： 明石書店

出版年： 2003

ISBN： 4750318019

発達保障ってなに？

著者： 丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社： 全障研出版部

出版年： 2012

ISBN： 9784881340851

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（50）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

「授業中課題」：期末レポート(提出必須)の内容ー講義全般についての理解度、講義をふまえた自己の特別支援教育論、論理展開などー、さらに数回の小レポートの提出状況と内容。「小テスト」：最低1回は実施予定。参加度：出席回数(2/3以上の出席必須)および受講態度全般(質問なども含む)。

2015 Syllabus

科目名 表現教育論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術作品を分析して社会とのかかわりを理解し、芸術を人がいかに認知してきたかを考える。

授業の到達目標

1) 芸術作品の分析を通して作品の意味内容を理解する。2) 芸術作品が社会にいかに入力されたかを社会からの要請という視点で理解する。3) 芸術作品をめぐる認知のメカニズムを考える。4) 作品の理解に際しては受け身で話を聞くのではなく、自ら思考してその理解を確かなものにする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習(予習・復習)

1) 展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2) 受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 トリック・アート: だまし絵①
- 第3回 トリック・アート: だまし絵②
- 第4回 トリック・アート: だまし絵③
- 第5回 トリック・アート: ダブルミーニング①
- 第6回 トリック・アート: ダブルミーニング②
- 第7回 トリック・アート: マニエリスム美術①
- 第8回 トリック・アート: マニエリスム美術②
- 第9回 トリック・アート: マニエリスム美術③
- 第10回 トリック・アート: マニエリスム美術④
- 第11回 概念的トリック①
- 第12回 概念的トリック②
- 第13回 概念的トリック③
- 第14回 概念的トリック④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **総合学習論**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校における総合的な学習の意義を理解し、優れた実践から学ぶ。

授業の到達目標

環境や平和の問題を考えるための基本的な知識を身につけ、総合的な学習を構想し教材をつくる力を育てる。

授業の概要

毎回テーマを決め、それについての優れた実践を紹介し、それをもとに総合学習の授業をどう創るかを考える。

準備学習(予習・復習)

* 社会の様々な問題に関心を持ち、新聞や本を読む。そして将来教師となったときにその問題をどのように子どもたちに伝え考えさせていけばよいのかという問題意識を持つ。

内 容

- 第1回 総合学習の意義と系譜
- 第2回 地域の川を考える総合学習
- 第3回 地域の自然を考える総合学習
- 第4回 生き物を通して考える総合学習
- 第5回 食を考える総合学習
- 第6回 福祉を考える総合学習
- 第7回 異文化国際理解の総合学習
- 第8回 平和を考える総合学習
- 第9回 沖縄を考える総合学習
- 第10回 東日本大震災と防災教育を考える総合
- 第11回 福島原発事故を考える総合学習
- 第12回 小学校の先生のお話を伺う
- 第13回 グループ発表1
- 第14回 グループ発表2
- 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 学校調査 I (国内)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

就学前の子どもの対象にした種々の実践の考察

授業の到達目標

(1)これまでにを行った主として就学前の子どもの対象にしたフィールドワークなどの各自の実践を深くふりかえる。(2)各自が保育についてそれまでの「理解」を変更されたモメントについて、その記録をまとめ、考察する。(3)討論を通して、各自の認識の肯定面と不十分な面を理解する。

授業の概要

受講生の調査と発表を中心に授業を展開する。その発表には必ず自分の保育認識に変更を加えた自分の実践に関する記録(要旨)と考察を含むものとする。実践と交流を円環的に実施する。

準備学習(予習・復習)

就学前の子どもの対象にしたフィールドワークなどを振り返りつつ、自分の認識がもっとも改められた実践の事実を特定する。そのときの事実を記録化し、要旨にまとめる。あわせて、その考察とを書いておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 就学前の子どもの調査と記録、考察(1)
- 第3回 就学前の子どもの調査と記録、考察(2)
- 第4回 就学前の子どもの調査と記録、考察(3)
- 第5回 受講生の発表にもとづく討議
- 第6回 就学前の子どもの調査と記録、考察(4)
- 第7回 就学前の子どもの調査と記録、考察(5)
- 第8回 就学前の子どもの調査と記録、考察(6)
- 第9回 就学前の子どもの調査と記録、考察(7)
- 第10回 受講生の発表にもとづく討議
- 第11回 いっそう深く実践の分析・研究するために
- 第12回 考察の方法の発表(1)
- 第13回 考察の方法の発表(2)
- 第14回 考察の方法の発表(3)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

就学前の子どもの対象にした種々のフィールドワークをしていること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 学校調査Ⅱ(国内)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

特色ある学校を調査し、教育の在り方を考える。

授業の到達目標

特色ある学校を定期的に訪問し、授業観察などを通してその学校の教育について考察し、自分の教育観と実践をより豊かなものにする。

授業の概要

定期的に学校訪問を行う。そのレポートを基に話し合う。

準備学習(予習・復習)

毎回見学報告を作成する。

内 容

- 第1回 特色ある学校について考える
- 第2回 訪問する学校を選ぶ。
- 第3回 学校を訪問し授業を見学する①
- 第4回 学校を訪問し授業を見学する②
- 第5回 報告をもとに話し合う①
- 第6回 学校を訪問し授業を見学する③
- 第7回 学校を訪問し授業を見学する④
- 第8回 学校を訪問し授業を見学する⑤
- 第9回 報告をもとに話し合う②
- 第10回 学校を訪問し授業を見学する⑥
- 第11回 学校を訪問し授業を見学する⑦
- 第12回 学校を訪問し授業を見学する⑧
- 第13回 報告をもとに話し合う③
- 第14回 学校を訪問し授業を見学する⑨
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 家庭支援論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 古橋 紗人子

テーマ

保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。

授業の到達目標

1. 家庭の意義とその機能について理解する。2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3. 子育て家庭の支援体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の概要

保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書(絵本・小説・保育月刊誌)や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。

準備学習(予習・復習)

①参考書を読む。 ②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 「援助」と「支援」という言葉について
 第2回 1. 家庭支援の意義と役割 (1)家庭の意義と機能 子どもの成長・発達と家庭
 第3回 1. 家庭支援の意義と役割 (2)家庭支援の必要性 子どもの成長と親の成長 個別指導計画—保護者支援
 第4回 1. 家庭支援の意義と役割 (3)保育士等が行う家庭支援の原理 小テスト
 第5回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (1)現代の家庭における人間関係 連絡帳の書き方
 第6回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (2)地域社会の変容と家庭支援
 第7回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (3)男女共同参画社会とワークライフバランス 小テスト
 第8回 3. 子育て家庭の支援体制 (1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 第9回 3. 子育て家庭の支援体制 (2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 小テスト
 第10回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1)子育て支援サービスの概要
 第11回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2)保育所入所児童の家庭への支援 リーフレット作成
 第12回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3)地域の子育て家庭への支援
 第13回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4)養護児童及びその家庭に対する支援
 第14回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5)子育て支援における関係機関との連携
 第15回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (6)子育て支援サービスの課題 小テスト

履修上の注意点

教科書

家族援助論

著者: 野澤正子・森本美絵

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN:

参考書

愛着崩壊—子どもを愛せない大人たち

著者: 岡田尊司

出版社: 角川選書

出版年: 2012

ISBN:

こどもへのまなざし 完

著者: 佐々木正美

出版社: 福音館書店

出版年: 2010

ISBN:

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」—保育所・家庭で役立つ

著者: 川原佐公・古橋紗人子

出版社: 保育出版社

出版年: 2010

ISBN:

子どもの脳を守る—小児脳神経外科医の報告

著者： 山崎麻美

出版社： 集英社新書

出版年： 2007

ISBN:

わたし

著者： 谷川俊太郎・文 長新太・絵

出版社： 福音館書店

出版年： 1981

ISBN:

まいごになったぞう

著者： 寺村輝夫・文 上村勉・絵

出版社： 偕成社

出版年： 1989

ISBN:

ねんねん ねこねこ

著者： ながのひでこ

出版社： アリス館

出版年： 1996

ISBN:

水神

著者： 篝木蓬生

出版社： 新潮文庫

出版年： 2006

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者：

出版社： ひかりのくに株式会社

出版年： 2015

ISBN:

成績評価

試験（なし）

小テスト（60）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（10）

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 施設実習の充実のために	
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。	
授業の概要 ・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。	
準備学習(予習・復習) ・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。	
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的理解 第2回 帳票類と保菌検査の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流	
履修上の注意点 ・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 太田 みつ枝		
テーマ 施設実習の充実のために		
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。		
授業の概要 ・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。		
準備学習(予習・復習) ・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。		
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的理解 第2回 帳票類と保菌検査の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流		
履修上の注意点 ・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 () 授業中課題 (40%) 参加度 ()	小テスト () 授業中発表等 (60%)	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 大山 弘美		
テーマ 施設実習の充実のために		
授業の到達目標 ・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。		
授業の概要 ・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。		
準備学習(予習・復習) ・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。		
内 容 第1回 施設における実習の意義と目的理解 第2回 帳票類と保菌検査の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流		
履修上の注意点 ・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 () 授業中課題 (40%) 参加度 ()	小テスト () 授業中発表等 (60%)	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <d>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 杉江 由紀子		
テーマ 施設実習の充実のために		
授業の到達目標	<p>・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。</p>	
授業の概要	<p>・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。</p>	
内 容	<p>第1回 施設における実習の意義と目的理解 第2回 帳票類と保菌検査の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流</p>	
履修上の注意点	<p>・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。</p>	
教科書	<p>使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。

内 容

- 第1回 施設における実習の意義と目的理解
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等
- 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等
- 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導
- 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流

履修上の注意点

・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。

内 容

- 第1回 施設における実習の意義と目的理解
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等
- 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等
- 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導
- 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流

履修上の注意点

・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <g>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 山口 陽子		
テーマ 施設実習の充実のために		
授業の到達目標	<p>・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。</p>	
授業の概要	<p>・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。</p>	
内 容	<p>第1回 施設における実習の意義と目的理解 第2回 帳票類と保菌検査の説明 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流</p>	
履修上の注意点	<p>・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。</p>	
教科書	<p>使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>授業内に適宜紹介する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (60%) 参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期前半

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 裕子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的関心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学修したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

・初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学び、様々な福祉施設への関心や将来の保育士としての職務に対する認識と期待を高める。

準備学習(予習・復習)

・養護原理や児童福祉法等に関する科目の復習と実習前からの施設等での積極的なボランティア活動を心がけること。

内 容

- 第1回 施設における実習の意義と目的理解
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解①・養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解②・自分が実習する施設の特徴や役割の調査・オリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策について…演習等
- 第6回 実習課題の設定について…ディスカッション等
- 第7回 実習簿や記録の書き方と直前指導
- 第8回 実習の振り返りとまとめ…実習報告や自己評価と意見交流

履修上の注意点

・授業期間中に実習が開始される学生については補講を行うので注意をすること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **保育実習 I - 2 <a>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	
現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ	
授業の到達目標	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。	
授業の概要	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。	
準備学習(予習・復習)	
実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。	
内 容	
第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ	
授業の到達目標 居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。	
授業の概要 居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。	
準備学習(予習・復習) 実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。	
内 容 第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実践について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 **保育実習 I - 2 <e>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 敦子	
テーマ	
現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ	
授業の到達目標	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。	
授業の概要	
居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。	
準備学習(予習・復習)	
実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。	
内 容	
第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習 I - 2 <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵・吉田 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実践について理解する。

準備学習(予習・復習)

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー
授業の到達目標	子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。
授業の概要	この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。
準備学習(予習・復習)	1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書か、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
内 容	<p>第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)</p> <p>第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)</p> <p>第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)</p> <p>第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)</p> <p>第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)</p> <p>第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)</p> <p>第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)</p> <p>第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)</p> <p>第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)</p> <p>第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)</p> <p>第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)</p> <p>第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)</p> <p>第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)</p>
履修上の注意点	健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。
教科書	平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本> 著者： 文部科学省、厚生労働省 出版社： チルド社 出版年： 2008年 ISBN:
参考書	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30)
	学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ	
これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ―実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に―	
授業の到達目標	
子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。	
授業の概要	
この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。	
準備学習(予習・復習)	
1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。	
内 容	
第1回	(学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
第2回	参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第3回	参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
第4回	参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
第5回	部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
第6回	部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第7回	部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
第8回	部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
第9回	部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
第10回	責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
第11回	責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
第12回	責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
第13回	責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
第14回	責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
第15回	責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
履修上の注意点	
健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。	
教科書	
平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>	
著者： 文部科学省、厚生労働省	
出版社： チルド社	
出版年： 2008年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)
参加度 (30)	
学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書か、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書か、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 —実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に—

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ―実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に―

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書か、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ〈h〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 口野 隆史・吉田 裕子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習(予習・復習)

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書か、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる)参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う)
- 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける)
- 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける)
- 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う)
- 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う)
- 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらおう)
- 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者： 文部科学省、厚生労働省

出版社： チルド社

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

2015 Syllabus

科目名 **保育実習指導Ⅲ**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 塩見 哲史

テーマ

授業の意義・目的・内容を理解する。実習前後の学びを通し、専門機関や施設職員としての素養を学ぶ。さらに進路を決定していくための自己確知をめざす。

授業の到達目標

1. 保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解ができる。2. 保育士・児童指導員の業務内容や職業倫理について理解を深める。3. 入所児童のおかれている家庭環境や地域の生活実態に触れ児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を実践から養う。4. 保育士・児童指導員を目指す者として自己の課題を明確にすることができる。5. 児童自立支援計画票の作成・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

授業の概要

将来の児童福祉施設職員を志す者たちが集い、既に保育実習Ⅰ・Ⅱで学んだ経験を語り合う。児童福祉施設の保育士・児童指導員に求められる資質・能力・技術の獲得を目指し、討論形式で進める。

準備学習(予習・復習)

実習目標を明確にしておく

内 容

- 第1回 受講の意思確認と保育実習Ⅰ・Ⅱを終えての内容と自己課題を振り返り、実習目標を設定する。
- 第2回 「児童福祉施設の職員とは？」をテーマに討論形式で展開する(debate/インタビューゲーム)
- 第3回 施設の実体験をもとに社会的養護及び児童家庭福祉のあり方について学ぶ
- 第4回 支援計画をたてるポイントを学ぶ
- 第5回 実習直前における諸注意と実習目標設定の最終確認を行う
- 第6回 実習の報告を基に振り返る①
- 第7回 実習の報告を基に振り返る②
- 第8回 実習評価表を基に自己評価及び自己課題の整理と保育実習Ⅲのまとめ

履修上の注意点

保育実習Ⅲを履修しようとする自己の姿勢について整理を行っておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (30%)

授業中の課題(レポート含む)及び実習施設からの「評価表」・「実習日誌」なども含め総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ	
保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標	
施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要	
保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 大山 弘美	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 敦子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。	
授業の到達目標 施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。	
授業の概要 保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (0) 施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

2015 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 森本 美絵・吉田 裕子

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <* a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文執筆への準備

授業の到達目標

1. 論文執筆の具体的な方法を学ぶ。2. 論文執筆の日程調整について計画する。3. ゼミのなかで自分や他の受講生の課題やアイデアについて考え、話合う力を育てる。

授業の概要

それぞれに関心のある文献や資料を読み、調べたり考えたことを発表し、話合う。卒業論文の執筆と完成を目指す。

準備学習(予習・復習)

大学図書館やインターネットの情報だけでなく、地域の図書館や研究テーマに関係のある施設等へ積極的に足を運び、調べたり考えたりしたことを発表報告できるように準備する。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 論文執筆について①
- 第3回 論文執筆について②
- 第4回 論文執筆について③
- 第5回 発表と話し合い①
- 第6回 発表と話し合い②
- 第7回 発表と話し合い③
- 第8回 発表と話し合い④
- 第9回 発表と話し合い⑤
- 第10回 発表と話し合い⑥
- 第11回 発表と話し合い⑦
- 第12回 発表と話し合い⑧
- 第13回 発表と話し合い⑨
- 第14回 発表と話し合い⑩
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

執筆過程でわからない点は事前にアポイントメントを取った上で個人指導をうけること。配付資料を散逸しないこと。発表者は十分に準備をし、無断欠席をしないこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (25%)

参加度 (25%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 口野 隆史

テーマ

卒業論文のテーマや研究方法を明確にし、卒業論文作成の態勢を整える

授業の到達目標

これまで学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ね明らかにする。また、どのような方法で調査・研究を進めれば良いか同様に明らかにしていく。さらに、調査や文献研究によって得られた知見、資料、データをどのように分析・総合すればよいか検討する。これらを通じ、自らの研究テーマ及び研究の方法等に関する内容の理解を深める。

授業の概要

これまで学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ねながら明らかにしていく。具体的にどのような調査・研究を行えば良いのか検討を重ねる。

準備学習(予習・復習)

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、またできれば他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション。授業の計画(学生各自の卒業論文作成に向けての前期及びこの1年の計画)についての理解
- 第2回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討①
- 第3回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討②
- 第4回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討③
- 第5回 各自の研究方法の検討①
- 第6回 各自の研究方法の検討②
- 第7回 各自の研究方法の検討③
- 第8回 中間まとめ(研究のテーマ、方法などに関する確認)
- 第9回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集①
- 第10回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集②
- 第11回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集③
- 第12回 調査のデータ及び文献資料等の分析①
- 第13回 調査のデータ及び文献資料等の分析②
- 第14回 調査のデータ及び文献資料等の分析③
- 第15回 まとめ 各自ゼミ内発表及び中間発表に向けての課題整理

履修上の注意点

自分の研究について、ゼミ内で積極的に発表すること。同時に他のゼミのメンバーの発表にしっかり耳を傾けること。そして、他のメンバーの研究についてもお互いに生産的な意見を交流すること。採用試験等もあるがしっかり出席すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 大久保 恭子

テーマ

ゼミ発表と討論を踏まえて卒業論文のテーマを明確にし、卒論執筆の基盤を形成する。

授業の到達目標

各自の卒業論文テーマと章立てを確定する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

論文テーマに関する文献を読み、情報を整理しておくこと。

内 容

- 第1回 卒業論文に関するガイダンス
- 第2回 学外活動:実践調査
- 第3回 卒業論文テーマにそった発表と討論①
- 第4回 卒業論文テーマにそった発表と討論②
- 第5回 卒業論文テーマにそった発表と討論③
- 第6回 卒業論文テーマにそった発表と討論④
- 第7回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑤
- 第8回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑥
- 第9回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑦
- 第10回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑧
- 第11回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑨
- 第12回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑩
- 第13回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑪
- 第14回 卒業論文テーマにそった発表と討論⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三上 周治

テーマ

卒業論文の検討と準備

授業の到達目標

関心のある研究テーマを見つけ、そのテーマにそった研究内容とその方法を学び、今後の研究方針を決定して準備を進める

授業の概要

卒業論文のテーマを決定し、テーマに関連した発表を行ない、質疑応答のなかで専門的な知識と考察を深めていきます。

準備学習(予習・復習)

関係論文をできるだけ多く読む。

内 容

- 第1回 ガイダンス(今後の進め方について)
- 第2回 各自が春休みに集めた資料の紹介①
- 第3回 各自が春休みに集めた資料の紹介②
- 第4回 研究テーマの発表と検討①
- 第5回 研究テーマの発表と検討②
- 第6回 研究テーマの発表と検討③
- 第7回 研究テーマの発表と検討④
- 第8回 研究テーマの発表と検討⑤
- 第9回 ゼミ合宿の内容検討
- 第10回 研究進行状況の報告と討論①
- 第11回 研究進行状況の報告と討論②
- 第12回 研究進行状況の報告と討論③
- 第13回 研究進行状況の報告と討論④
- 第14回 研究進行状況の報告と討論⑤
- 第15回 前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ < * f >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることができる。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。特に、目次案の検討が中心になる。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。パラグラフライティングの書き方に関する本『論理が伝わる「書く技術」』(倉島保美)は必読。論文の書き方の本は、『論文の教室』(戸田山和久)、『論文・レポートの基本』(石黒圭)、『はじめての論文作成術』(宅間紘一)等の中から一冊は三回生の春休み中に読んでおくこと。レポートとして纏めて提出する指示が出る。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。

第3回 卒論進捗報告(序論)

第4回 卒論進捗報告(序論)

第5回 卒論進捗報告(序論)

第6回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第9回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第10回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第12回 卒論中間発表会 1

第13回 卒論中間発表会 2

第14回 卒論中間発表会 3

第15回 総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 美絵

テーマ

卒論の作成に向けて

授業の到達目標

テーマに関連する文献・資料等を収集し読み深め、論文の章立てと各章の概要を書き上げる。

授業の概要

発表と質疑応答等から課題を見つけ、次回までに調べて提出することを繰り返す。

準備学習(予習・復習)

大学図書館等を利用して、できるだけ多くの本を読み要約する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(進め方について)
- 第2回 春休みに集めた文献・資料等の報告①
- 第3回 春休みに集めた文献・資料等の報告②
- 第4回 春休みに集めた文献・資料等の報告③
- 第5回 章立てと各章の概要について報告と討論①
- 第6回 章立てと各章の概要について報告と討論②
- 第7回 章立てと各章の概要について報告と討論③
- 第8回 章立てと各章の概要について報告と討論④
- 第9回 章立てと各章の概要について報告と討論⑤
- 第10回 章立てと各章の概要について報告と討論⑥
- 第11回 章立てと各章の概要について報告と討論⑦
- 第12回 章立てと各章の概要について報告と討論⑧
- 第13回 章立てと各章の概要について報告と討論⑨
- 第14回 章立てと各章の概要について報告と討論⑩
- 第15回 前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ〈*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成力および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習:討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
 第2回 論文作成方法の説明
 第3回 研究目的と方法の明確化①
 第4回 研究目的と方法の明確化②
 第5回 研究目的と方法の明確化③
 第6回 途中経過発表および討論①
 第7回 途中経過発表および討論②
 第8回 途中経過発表および討論③
 第9回 途中経過発表および討論④
 第10回 途中経過発表および討論⑤
 第11回 途中経過発表および討論⑥
 第12回 途中経過発表および討論⑦
 第13回 途中経過発表および討論⑧
 第14回 途中経過発表および討論⑨
 第15回 まとめ:夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*i>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 倉持 祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習(予習・復習)

予習: 卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習: 集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。

内 容

- 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ①
- 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ②
- 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ③
- 第4回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
- 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
- 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
- 第7回 順次、各自の研究テーマについて発表させる①
- 第8回 順次、各自の研究テーマについて発表させる②
- 第9回 順次、各自の研究テーマについて発表させる③
- 第10回 順次、各自の研究テーマについて発表させる④
- 第11回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑤
- 第12回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑥
- 第13回 執筆要領、留意事項など細部について指導する①
- 第14回 執筆要領、留意事項など細部について指導する②
- 第15回 執筆要領、留意事項など細部について指導する③

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <*j>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての確定

授業の到達目標

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを確定する。2)ゼミ内の人間関係を良好にする。

授業の概要

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを報告する(1コマ当たり1人発表)。2)ゼミ内の交流のために親睦の活動を位置づける。

準備学習(予習・復習)

卒業論文に関連する単行本・論文等を研究し、タイトル、課題設定、章節立てについて考察する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(1)

第3回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(2)

第4回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(3)

第5回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(4)

第6回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(5)

第7回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(6)

第8回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(7)

第9回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(8)

第10回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(9)

第11回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(10)

第12回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(11)

第13回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(12)

第14回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(13)

第15回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 青木 美智子

テーマ

卒業論文の執筆と完成。

授業の到達目標

これまで学習し、調査し、深めてきた課題を一本の論文にまとめる。

授業の概要

各自卒業論文の執筆作業を行い、ある程度まとめ、授業時間に発表し互いに話合う。

準備学習(予習・復習)

論文執筆過程を計画し、期日に間に合うよう仕上げること。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 進捗状況とこれからの執筆計画について
- 第3回 発表①
- 第4回 発表②
- 第5回 発表③
- 第6回 発表④
- 第7回 発表⑤
- 第8回 発表⑥
- 第9回 発表⑦
- 第10回 発表⑧
- 第11回 発表⑨
- 第12回 発表⑩
- 第13回 発表⑪
- 第14回 発表⑫
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 口野 隆史

テーマ

自らの研究をまとめ卒業論文を作成し、自らの研究成果を発表する

授業の到達目標

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切に伝えることができるようにする。

授業の概要

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切にゼミのメンバーにまた、ゼミ外の人に伝えられるようにする。

準備学習(予習・復習)

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、また他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。自らの研究を上手く伝える工夫を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 授業計画(卒業論文作成及び発表を含めた後期の計画)の理解
- 第2回 研究結果の検討(結果の考察)①
- 第3回 研究結果の検討(結果の考察)②
- 第4回 研究結果の検討(結果の考察)③
- 第5回 研究結果の検討(考察から結論へ)①
- 第6回 研究結果の検討(考察から結論へ)②
- 第7回 研究結果の検討(考察から結論へ)③
- 第8回 中間発表(章立て、研究概要)
- 第9回 卒業論文執筆①
- 第10回 卒業論文執筆②
- 第11回 卒業論文執筆③
- 第12回 卒業論文執筆④
- 第13回 卒業論文執筆⑤(卒業論文提出)
- 第14回 卒業論文講評
- 第15回 まとめ 4年間の学びを振り返る

履修上の注意点

自分の研究について、ゼミ内外で積極的に発表し、学生や教員の意見を聞く。ゼミ内ばかりでなく、他のゼミの学生の発表にも耳を傾け、自分の意見も述べる。採用試験が続くこともあるが、しっかり出席する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 大久保 恭子

テーマ

卒業論文の執筆と完成

授業の到達目標

前期に確定した章立てに従って論文を執筆し完成させる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

テーマに関する情報を整理し、考察することを執筆中も続けること。

内 容

第1回 卒業論文執筆についてのオリエンテーション

第2回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言①

第3回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言②

第4回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言③

第5回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言④

第6回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑤

第7回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑥

第8回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑦

第9回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑧

第10回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑨

第11回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑩

第12回 各自の卒業論文の進捗状況報告(中間発表)とそれに対する助言⑪

第13回 まとめ①

第14回 まとめ②

第15回 まとめ③

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三上 周治

テーマ

卒業研究を進め、論文完成をめざす

授業の到達目標

各自のテーマにそって調査・研究したことをまとめ、質疑・応答・討議を重ねながら論文に仕上げる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 論文中間発表会
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 ゼミ内論文発表会
- 第15回 まとめと今後の課題の確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 八木 英二

テーマ

卒論を仕上げること

授業の到達目標

各自が確定したテーマについて自身の考えを展開して、資料に基づいた論文を仕上げることを目標にする。

授業の概要

各自が発表し、また他の発表にふれるなど、交流を深めるなかで、自分の考えが展開できるようにゼミ運営を行う。

準備学習(予習・復習)

各自の作業が重要となる。

内 容

- 第1回 論文構想を各自が発表し討論
- 第2回 論文構想を各自が発表し討論
- 第3回 論文構想を各自が発表し討論
- 第4回 論文構想を各自が発表し討論
- 第5回 論文構想を各自が発表し討論
- 第6回 論文構想を各自が発表し討論
- 第7回 論文構想を各自が発表し討論
- 第8回 論文構想を各自が発表し討論
- 第9回 論文構想を各自が発表し討論
- 第10回 論文構想を各自が発表し討論
- 第11回 仕上げた論文をゼミのなかで発表
- 第12回 仕上げた論文をゼミのなかで発表
- 第13回 仕上げた論文をゼミのなかで発表
- 第14回 仕上げた論文をゼミのなかで発表
- 第15回 仕上げた論文をゼミのなかで発表

履修上の注意点

交流活動への参加を重視する

教科書

参考書

成績評価

試験 (論文提出で評価)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマについての調査研究。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論中間報告会
- 第7回 卒論ドラフト相互チェック
- 第8回 卒論ドラフト相互チェック
- 第9回 卒論ドラフト相互チェック
- 第10回 卒論最終報告(全体)
- 第11回 卒論最終報告(全体)
- 第12回 卒論最終報告(全体)
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備 和綴じ本づくり
- 第15回 総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*g〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 美絵

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

①卒業論文の執筆をすすめ、完成する。②卒論発表のポスターを作成する。

授業の概要

①各自の論文を書き進める。②論文作成にむけての個別指導をする。

準備学習(予習・復習)

発表の準備として、レジュメを作成する。

内 容

- 第1回 卒論進捗状況の報告と助言①
- 第2回 卒論進捗状況の報告と助言②
- 第3回 卒論進捗状況の報告と助言③
- 第4回 卒論進捗状況の報告と助言④
- 第5回 卒論進捗状況の報告と助言⑤
- 第6回 卒論進捗状況の報告と助言⑥
- 第7回 卒論進捗状況の報告と助言⑦
- 第8回 卒論進捗状況の報告と助言⑧
- 第9回 卒論進捗状況の報告と助言⑨
- 第10回 ゼミで卒論発表①
- 第11回 ゼミで卒論発表②
- 第12回 卒論原稿相互チェック
- 第13回 ポスター発表の準備①
- 第14回 ポスター発表の準備①
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

予習:論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習:論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内 容

第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明

第2回 卒論進捗報告①

第3回 卒論進捗報告②

第4回 卒論進捗報告③

第5回 中間発表会①

第6回 中間発表会②

第7回 論文作成に向けての個別指導①

第8回 論文作成に向けての個別指導②

第9回 論文作成に向けての個別指導③

第10回 論文作成に向けての個別指導④

第11回 論文作成に向けての個別指導⑤

第12回 論文作成に向けての個別指導⑥

第13回 卒論発表の準備①

第14回 卒論発表の準備②

第15回 まとめ:1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*ⅰ〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 倉持 祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習(予習・復習)

予習:卒論の研究テーマにそって文献や資料等を読み深める。復習:集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を作成する。

内 容

- 第1回 各自の研究テーマについて発表させる①
- 第2回 各自の研究テーマについて発表させる②
- 第3回 各自の研究テーマについて発表させる③
- 第4回 論文作成に向けての個別指導①
- 第5回 論文作成に向けての個別指導②
- 第6回 論文作成に向けての個別指導③
- 第7回 論文作成に向けての個別指導④
- 第8回 論文作成に向けての個別指導⑤
- 第9回 論文作成に向けての個別指導⑥
- 第10回 論文作成に向けての個別指導⑦
- 第11回 論文作成に向けての個別指導⑧
- 第12回 論文作成に向けての個別指導⑨
- 第13回 論文作成に向けての個別指導⑩
- 第14回 論文発表会に向けての指導①
- 第15回 論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈*j〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の作成・完成

授業の到達目標

1)各自の卒業論文について助言を行い、論文を完成させる。2)ゼミ内の人間関係を良好にするために親睦の活動を位置づける。

授業の概要

1)各自の卒業論文執筆について助言する。2)卒業論文発表会に向けてポスターの作成について助言する。

準備学習(予習・復習)

卒業論文およびポスターを作成する。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 各自の卒業論文についての助言

第3回 各自の卒業論文についての助言

第4回 各自の卒業論文についての助言

第5回 各自の卒業論文についての助言

第6回 各自の卒業論文についての助言

第7回 各自の卒業論文についての助言

第8回 各自の卒業論文についての助言

第9回 各自の卒業論文についての助言

第10回 各自の卒業論文についての助言

第11回 各自の卒業論文についての助言

第12回 ポスター作成の助言

第13回 ポスター作成の助言

第14回 ポスター作成の助言

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教育実習(小学校)Ⅱ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習)

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内 容

- 第1回 第1回 ○第1週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第2回 第2回 ○第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。
- 第3回 第3回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第4回 第4回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅠ〈*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

授業の到達目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の概要

大学での学習スタイルは高校までのそれとはかなり異なる。そのスタイルの最大の特徴は、与えられた知識を理解し、覚えるのではなく、自ら問題を発見し、それについて調べ、そして議論することである。それを実現するために、まず前期では、外国語を習得するとはどういうことかというテーマを扱ったテキストから「問題」を提供してもらい、それについて議論してみよう。具体的には、テキストの担当箇所について、レジュメを作成し口頭発表する。それについて全員で議論する。最終回に、授業で興味をもったテーマを取り上げたペーパーを提出する。

準備学習(予習・復習)

配布する文献一覧から興味をもった3冊を選び、感想文を書いてそれぞれの締め切りまでに提出する。それらの本以外にも、英語や英米文化関連の本をなるべくたくさん読む。また関連するテレビの特集番組などを見る。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 第1章についての発表と議論(1)。
- 第3回 第1章についての発表と議論(2)。
- 第4回 第2章についての発表と議論(1)。
- 第5回 第2章についての発表と議論(2)。
- 第6回 第3章についての発表と議論(1)。
- 第7回 第3章についての発表と議論(2)。
- 第8回 第4章についての発表と議論(1)。
- 第9回 第4章についての発表と議論(2)。
- 第10回 第5章についての発表と議論(1)。
- 第11回 第5章についての発表と議論(2)。
- 第12回 第6章についての発表と議論(1)。
- 第13回 第6章についての発表と議論(2)。
- 第14回 DVD「英語が会社にやってくる」を見て、それについて議論。
- 第15回 総括。ペーパー提出。

履修上の注意点

6回以上休むと単位が認められない。

教科書

外国語学習の科学

著者： 白井恭弘

出版社： 岩波新書

出版年： 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ((ペーパー)50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

感想や質問など、口頭での発表を重視します。

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <*B>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スキルの習得

授業の到達目標

高校とは違う大学での学びとはなにかを知り、少しずつ自分の学びをつくりあげられるようにすること。(1) 大学で学ぶために必要なアカデミック・スキルを身につける。(2) 英語を学ぶ意味を考え、その強化を図る。(3) 英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の基礎的文献を読む。(4) 平常の授業を通して、自ら考え、自ら行動する習慣を身につける。

授業の概要

基本的には、課題の reading articles や図書を読んで授業で発表・討論すること、レポートの書き方を訓練することが中心になる。それら一連の活動から、自ら考え、自ら行動する力を養う。

準備学習(予習・復習)

発表のための reading や発表練習をする。英語力強化のために graded readers を読む。自主勉強会に参加する。

内 容

- 第1回 大学で英語を学ぶということを考える
- 第2回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第3回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第4回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第5回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第6回 中間のまとめ、レポート第1ドラフトの提出
- 第7回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第1ドラフトの返却
- 第8回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第2ドラフトの提出
- 第9回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第2ドラフトの返却
- 第10回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第11回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第1ドラフトの提出
- 第12回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第1ドラフトの返却
- 第13回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトの提出
- 第14回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトの返却
- 第15回 ファイナル・レポートの提出とまとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

授業の到達目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の概要

前期に習得した「問題」の発見の仕方、資料の調べ方、論の展開の仕方、発表の仕方、等々の力を生かして、今度は自分で「問題」を見つけ、それについて調べ、レジュメにまとめて発表してもらおう。発表は一人ないし二人で行い、その後、前期と同じ要領でディスカッションを行いたい。ペーパーの書き方、参考文献の使い方や引用の方法についても指導する。

準備学習(予習・復習)

基本的に前期と同じ。また前記と同様、3回感想文を提出するが、後期は英語・英米文化に関する好きな本を選んでよい。

内 容

第1回 前期ペーパー返却、講評、後期へのイントロダクション

第2回 発表①

第3回 発表②

第4回 発表③

第5回 発表④

第6回 発表⑤

第7回 発表⑥

第8回 発表⑦

第9回 発表⑧

第10回 発表⑨

第11回 発表⑩

第12回 発表⑪

第13回 発表⑫

第14回 発表⑬

第15回 発表⑭、総括。ペーパー提出

履修上の注意点

6回以上欠席すると、単位が認められない。

教科書

参考書

成績評価

試験 ((ペーパー)50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈*B〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スキルの深化

授業の到達目標

「研究入門ゼミⅠ」で習得したアカデミック・スキルをより発展させ、自ら問題を発見し、表現する力を深化させる。

授業の概要

課題図書は「研究入門ゼミⅠ」で読んだものより専門性が高くなる。また、Critical な読みができるよう、自ら参考文献に当たって、読みを深めていく。発表では、異文化コミュニケーションに関する問題をグループで討議して、その成果をクラスでプレゼンする。レポート執筆では、ピア・リーディングを導入し、よりよい書き方を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の文献を読む。その他日頃からコミュニケーションに関する本や新聞を読み、TV などを見て、発表のテーマを自ら探す。graded readers を読む。自主勉強会に参加する。

内 容

- 第1回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート提出
- 第2回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第3回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート返却とコメント
- 第4回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第5回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第6回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第7回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第8回 中間のまとめとレポート第1ドラフト提出
- 第9回 レポート第1ドラフト返却とコメント
- 第10回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトのピア・リーディング
- 第11回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト提出
- 第12回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト返却
- 第13回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフトのピア・リーディング
- 第14回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフト提出
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building I <a>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course on Contemporary Topics

授業の到達目標

(1) To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary(2) To ensure complete confidence with a basic 1,000 word vocabulary(3) To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge

授業の概要

In the first semester we will look at a number of short texts with very different content. This is to equip students with the English vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and to reinforce grammatical structures learned in high school.

準備学習(予習・復習)

Students will be given regular reading homework from the textbook using question sheets every second week. These should take the students around 40 minutes to complete, and the grades will go towards their final evaluation. There will be regular vocabulary tests every second week, and preparation for this should take about the same amount of time, 40 minutes. All this work will be checked in class, and students should revise everything shortly afterwards. Students will be encouraged to keep up their self-study reading programme using the graded readers in the English Department Common Room and General Education Centre. It is hoped students will read these for 20 minutes every day.

内 容

- 第1回 Textbook: texts 1 and 2
- 第2回 Textbook: text 3Vocabulary: 1-200
- 第3回 Textbook: texts 4 and 5
- 第4回 Textbook: text 6Vocabulary: 201-400
- 第5回 Textbook: texts 7 and 8
- 第6回 Textbook: text 9Vocabulary: 401-600
- 第7回 Textbook: texts 10 and 11
- 第8回 Textbook: text 12Vocabulary: 601-800
- 第9回 Textbook: texts 13 and 14
- 第10回 Textbook: text 15Vocabulary: 800-1000
- 第11回 Textbook: texts 16 and 17
- 第12回 Textbook: text 18Vocabulary: 1-1000
- 第13回 Textbook: texts 19 and 20
- 第14回 Test on idioms for Units 1-20
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

教科書

Reading Pass 3

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2014

ISBN: 978-4-523-17776

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

Students will have weekly reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 1,000 word list. This final vocabulary test will make up 20% of the final grade for all RVB I classes.

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building I **

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 前期	定 員
---------	-----

履修条件	クラス指定 大学指定
------	------------

担当者 山崎 清水	
-----------	--

テーマ

リーディング演習

授業の到達目標

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す。

授業の概要

様々な国民に関するエッセイを読んで読解力と語彙力を向上する。

準備学習(予習・復習)

予習すること。詳細は授業で説明する。

内 容

- 第1回 The Americans
- 第2回 The English
- 第3回 The Italians
- 第4回 復習
- 第5回 The French
- 第6回 The Germans
- 第7回 The Chinese
- 第8回 復習
- 第9回 The Greeks
- 第10回 The Russians
- 第11回 The Aussies
- 第12回 復習
- 第13回 The Spanish
- 第14回 The Kiwis
- 第15回 The Koreans

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

People Are Funny

著者: Basil Lechatt

出版社: マクミラン ランゲージハウス

出版年: 2001

ISBN: 9784895854061

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building I <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop reading and vocabulary skills.

授業の到達目標

This course aims to build your reading and vocabulary-building skills, and to systematically prepare you for the semester-end vocabulary test.

授業の概要

Class work will involve reading, discussion, and vocabulary training. The class will be conducted in English.

準備学習(予習・復習)

You will need to study regularly (ideally for a short time every day) for the weekly vocabulary quizzes, and to review the readings for the review tests.

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 newspaper article (A restaurant for change); predicting; antonyms
- 第3回 recipe (Let's make blueberry muffins!); scanning; irregular past-tense verbs
- 第4回 newspaper article (Computer beats champs); reading for details; com- and con-
- 第5回 web forum (The most useful inventions); scanning; -ful and -less
- 第6回 advertisement (Want to study abroad?); predicting from subheadings; compound words
- 第7回 diary extract (My travel journal); reading for details; -ed adjectives
- 第8回 Review 1
- 第9回 magazine article (A student budget); skimming for main ideas; im- and ex-
- 第10回 web interview (My money); supporting details; money words
- 第11回 newspaper letter (Cellphone etiquette); transition words
- 第12回 magazine article (Smartphone apps for travelers); making inferences; word webs
- 第13回 reference article (The Olympic flame); skimming for the main idea; -ment
- 第14回 webpage (Unusual Olympic sports); reading for details; sports words
- 第15回 Review 2

履修上の注意点

You must attend 11 or more classes to pass the course.

教科書

ACTIVE Skills for Reading 1

著者: Neil J. Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133307990

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II <a>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course on Contemporary Topics

授業の到達目標

(1) To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary(2) To ensure complete confidence with a basic 2,000 word vocabulary(3) To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge

授業の概要

In the second semester we will look at a number of short texts with very different content. This is to equip students with the English vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and to reinforce grammatical structures learned in high school.

準備学習(予習・復習)

Students will be given regular reading homework from the textbook using question sheets every second week. These should take the students around 40 minutes to complete, and the grades will go towards their final evaluation. There will be regular vocabulary tests every second week, and preparation for this should take about the same amount of time, 40 minutes. All this work will be checked in class, and students should revise everything shortly afterwards. Students will be encouraged to keep up their self-study reading programme using the graded readers in the English Department Common Room and General Education Centre. It is hoped students will read these for 20 minutes every day.

内 容

- 第1回 Textbook: text 1
- 第2回 Textbook: texts 2Vocabulary: 1001-1200
- 第3回 Textbook: text 3
- 第4回 Textbook: text 4Vocabulary: 1201-1400
- 第5回 Textbook: text 5
- 第6回 Textbook: text 6Vocabulary: 1401-1600
- 第7回 Textbook: text 7
- 第8回 Textbook: text 8Vocabulary: 1601-1800
- 第9回 Textbook: text 9
- 第10回 Textbook: text 10Vocabulary: 1801-2000
- 第11回 Textbook: text 11
- 第12回 Textbook: text 12Idioms 1-7
- 第13回 Textbook: text 13
- 第14回 Textbook: text 14Idioms 8-15
- 第15回 Textbook: text 15Final discussion and evaluation

履修上の注意点

教科書

Reading Fusion 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2010

ISBN: 978-4-523-17665

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 2,000 word list. This final vocabulary test will make up 20% of the final grade for all RVB II classes.

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 山崎 清水

テーマ

リーディング演習

授業の到達目標

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す。

授業の概要

様々なトピックに関する英文を読んで読解力と語彙力を向上する。

準備学習(予習・復習)

予習すること。詳細は授業で説明する。

内 容

- 第1回 American Campus Portraits
- 第2回 "Charge It, Please!": In College and in Debt
- 第3回 Top Athletes on Tiptoe
- 第4回 復習
- 第5回 Don't Mess with Stress
- 第6回 "Batter Up!": Baseball American and Japanese Style
- 第7回 The History of English: Many Cultures, Many Contributions
- 第8回 復習
- 第9回 Sound Sculpture: Ancient Voices and Modern Music
- 第10回 Reading a Masterpiece
- 第11回 Hairy Heroes and Furry Friends
- 第12回 復習
- 第13回 Extinct Is Forever
- 第14回 Ecotourism: From Mild to Wild
- 第15回 Animal Play: It's Not Just Fun and Games

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

The Powerful Reader: Second Edition

著者: Beth M. Pacheco / Joan Young Gregg

出版社: マクミラン ランゲージハウス

出版年: 2003

ISBN: 9784895854542

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop reading and vocabulary skills.

授業の到達目標

This course aims to build your reading and vocabulary-building skills, and to systematically prepare you for the semester-end vocabulary test.

授業の概要

Class work will involve reading, discussion, and vocabulary training. The class will be conducted in English.

準備学習(予習・復習)

You will need to study regularly (ideally for a short time every day) for the weekly vocabulary quizzes, and to review the readings for the review tests.

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 reference article (The world's oldest universities); supporting details; vocabulary for expressing certainty
- 第3回 webpage (Modern engineering wonders); scanning; superlatives
- 第4回 reference article (Which English will we speak?); main ideas; loan words
- 第5回 reference article (Sign language); distinguishing main idea and supporting details; word families
- 第6回 reference article (How do you celebrate?); scanning; prepositions of time
- 第7回 diary extract (Edinburgh Festival journal); details; sensory verbs
- 第8回 Review 1
- 第9回 reference article (The age of adulthood); predicting; trans-
- 第10回 web interview (Firsts in life); inferences; sub-
- 第11回 reference article (Are you an Ophiuchus?); summarizing; phrasal verbs
- 第12回 newspaper letter (Predicting earthquakes); transition words; -ness
- 第13回 story (A Japanese folktale); sequence of events; adverbs
- 第14回 magazine article (Internet hoaxes); cause and effect; nouns that are also verbs
- 第15回 Review 2

履修上の注意点

教科書

ACTIVE Skills for Reading 1

著者: Neil J. Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133307990

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **Listening I <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力を体得

授業の到達目標

リスニング力向上と英語特有のリズムとイントネーションに慣れることを目指す。

授業の概要

DVDやディクテーションなどのクラスアクティビティーを取り入れながら、テキストを中心にリスニングの基礎づくりをする。中間・学期末試験の他、小テストは随時実施する。

準備学習(予習・復習)

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

内 容

- 第1回 Summer Baseball
- 第2回 Native American Culture
- 第3回 American Food
- 第4回 American English -- Slang & Idioms
- 第5回 Christmas Spirit
- 第6回 Cowboys
- 第7回 Disney Family Museum
- 第8回 Google Innovation
- 第9回 The Blues
- 第10回 Halloween Screamworld
- 第11回 American Superheroes
- 第12回 Volunteers -- Age in Place
- 第13回 American Storyteller: Norman Rockwell
- 第14回 Hollywood Love Stories
- 第15回 Elvis: King of Rock and Roll

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

American Vision

著者: John S. Lander

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9784255155678

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **Listening I **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 友美

テーマ

英語のリズムとイントネーションの体得

授業の到達目標

特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることをめざす。

授業の概要

テキストを中心に、身近なトピックスとバラエティーにとんだアクティビティーでリスニングの基礎づくりをする。また、特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることを目指す。中間・終了テスト以外に、小テストをする。

準備学習(予習・復習)

アウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

内 容

- 第1回 授業の説明、リズムの基本
- 第2回 自己紹介、英語のリズム
- 第3回 要望の仕方
- 第4回 旅行の計画、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(1)
- 第5回 公共交通機関の使い方、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(2)
- 第6回 レストランでの注文、ビデオのまとめ—レポート提出
- 第7回 中間テストとまとめ
- 第8回 強く発音される音(1)
- 第9回 道を尋ねる、強く発音される音(2)
- 第10回 ショッピング、弱く撥音される音(1)
- 第11回 紛失物、弱く撥音される音(2)
- 第12回 病院で
- 第13回 経験を伝える
- 第14回 旅慣れる
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

Adventures Abroad

著者: Dale Fuller Kevin Cleary

出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **Listening II <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 野口 博代

テーマ

自然な英語を聴きながらリスニングスキルの基礎を学習する。

授業の到達目標

DVDを通して、語彙の強化及び様々な表現を学習しながら、リスニングの力を養うことを目標とします。

授業の概要

テレビ番組のトークショー形式で構成されたDVD映像を教材に、様々なリスニングタスクを行います。

準備学習(予習・復習)

教科書付属のDVDを自宅でも試聴したり、興味ある英文を毎日聴くようにする事。

内 容

第1回 Introduction / Unit1 New Friends, New Faces

第2回 Unit 1 / Unit 2 Express Yourself!

第3回 Unit 2 / Unit 3 What Do We Need?

第4回 Unit 3 / Unit 4 Vacation!

第5回 Unit 4 / Unit 5 Heroes

第6回 Unit 5 / Unit 6 The Mind

第7回 Unit 6 The Mind

第8回 Review for Unit 1 - Unit 6

第9回 Unit 7 In the City

第10回 Unit 8 All About You

第11回 Unit 9 Change

第12回 Unit10 Your Health

第13回 Unit11 That's Amazing!

第14回 Unit 12 At the Movies

第15回 Review for Unit 7 - Unit 12

履修上の注意点

教科書付属のDVDを自宅学習で活用し、授業にも毎回持参すること。

教科書

Good Morning World 2

著者: Susan Stempleski / James R. Morgan / Nancy Douglas

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (0%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **Listening II **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 日高 周平

テーマ

TOEICのリスニングセクション対策。

授業の到達目標

TOEICのリスニングセクションで、300点以上を狙う。

授業の概要

毎回授業で教科書の1ユニットを学習する。また、補助教材(プリント)を使い、基礎的な文法の確認も行う。

準備学習(予習・復習)

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事。

内 容

- 第1回 授業概要、TOEICについての説明。
- 第2回 Unit 1 Fashion and Shopping(ファッションとショッピング)
- 第3回 Unit 2 Eating Out(外食)
- 第4回 Unit 3 Entertainment(娯楽)
- 第5回 Unit 4 Housing and Family Life(住まいと家庭生活)
- 第6回 Unit 5 Media(メディア)
- 第7回 Unit 6 Mini Test 1
- 第8回 Unit 7 Travel and Airports(旅行と空港)
- 第9回 Unit 8 Hotels(ホテル)
- 第10回 Unit 9 The Weather(天気)
- 第11回 Unit 10 Education(教育)
- 第12回 Unit 11 Fitness(フィットネス)
- 第13回 Unit 12 Mini Test 2
- 第14回 Unit 13 Business Trips(ビジネス旅行)
- 第15回 総合復習

履修上の注意点

初回配布の単語プリント、各講義で配る文法プリントを暗記すること。

教科書

TOEICテストのリスニング攻略 - Listening Breakthrough for the TOEIC Test

著者: Terry O'Brien

出版社: 南雲堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **Listening III <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力を体得

授業の到達目標

リスニング力向上と英語特有のリズムとイントネーションに慣れることを目指す。

授業の概要

DVDやディクテーションなどのクラスアクティビティーを取り入れながら、テキストを中心にリスニングの基礎づくりをする。中間・学期末試験の他、小テストは随時実施する。

準備学習(予習・復習)

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

内 容

- 第1回 Wonders of the Nile River
- 第2回 Bali Craftsmen
- 第3回 Cowboys
- 第4回 復習
- 第5回 Gypsy Life
- 第6回 London Buskers
- 第7回 The Danube
- 第8回 復習
- 第9回 Folk Music
- 第10回 Desert Berbers
- 第11回 Turkey's Whirling Dervishes
- 第12回 復習
- 第13回 Tibetan Mandala
- 第14回 Tequila, Mexico
- 第15回 Native American Arts

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Discovery: World Cultures

著者: John S. Lander

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010

ISBN: 9784255154800

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **Listening III **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 西村 友美

テーマ

直聴直解技術の体得

授業の到達目標

(1) 英語を直聴直解できるようになること。(2) 英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか、自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問題に自ら答えを出せるようになること。

授業の概要

シチュエーションに応じた語彙や表現をさらに増やし、聞いたものを直解するトレーニングをおこなう。授業も英語でおこなう。教科書はホームステイを題材にしたものなので、留学時に役立つ知識も吸収できるであろう。中間・終了テスト以外に、小テストをする。最後に、授業で提供される材料や情報を通じて、英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問いに自ら答えを出せるようにする。

準備学習(予習・復習)

教科書を使ったアウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入った材料(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

内 容

第1回 英語のリスニング・ストラテジー

第2回 unit 1

第3回 unit 2

第4回 unit 3

第5回 unit 4

第6回 unit 5

第7回 unit 6

第8回 中間まとめ

第9回 unit 7

第10回 unit 8

第11回 unit 9

第12回 unit 10

第13回 unit 11

第14回 unit 12

第15回 総合まとめ

履修上の注意点

教科書

Campus Encounters

著者: H. Ohyagi

出版社: Macmillan

出版年: 2006

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **Listening IV <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 野口 博代

テーマ

Improving Practical Listening Skills

授業の到達目標

様々な素材の英語を扱った教材を用いて、実践的なリスニングの力を鍛えることを目標とする。

授業の概要

様々な素材の英語をたくさん聞き、豊富な練習問題に取り組みます。さらに英語特有の音や音の変化、イントネーション、リズムについても学習します。

準備学習(予習・復習)

教科書付属のCDや、興味のある英文を継続して聴くこと。

内 容

- 第1回 Introduction: The sounds of English
- 第2回 Unit 1 Work, relax, and play!
- 第3回 Unit 1 / Unit 2 My schedule for Friday
- 第4回 Unit 2 / Unit 3 How's the weather there?
- 第5回 Unit 3 / Unit 4 Looking for an apartment?
- 第6回 Unit 4 / Unit 5 How do I use this camera?
- 第7回 Unit 5 & Review
- 第8回 Challenge & Review 1
- 第9回 Unit 6 A great price, today only!
- 第10回 Unit 7 Could you hold the line?
- 第11回 Unit 8 We should have a party!
- 第12回 Unit 9 Your attention, please!
- 第13回 Unit10 Can you fill out this form?
- 第14回 Review
- 第15回 Challenge & Review 2

履修上の注意点

テキスト付属のCDを自宅学習で活用し授業にも毎回持参すること。

教科書

Real-World Listening

著者: Richard Blight / Eri Tanaka / Tanya McCarthy

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **Listening IV **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 日高 周平	
テーマ TOEICのリスニングセクション対策。	
授業の到達目標 TOEICのリスニングセクションで、350点以上を狙う。	
授業の概要 毎回授業で教科書の1ユニットを学習する。また、補助教材(プリント)を使い、文法セクション対策も行う。	
準備学習(予習・復習) 第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事。	
内 容 第1回 授業概要、TOEICについての説明。 第2回 Unit 14 Production and Sales(生産と販売) 第3回 Unit 15 Job Hunting and Recruitment(就活と社員募集) 第4回 Unit 16 Accounting(会計) 第5回 Unit 17 Personnel(人事) 第6回 Unit 18 Mini Test 3 第7回 Unit 19 Customer Service(カスタマーサービス) 第8回 Unit 20 Import and Export(輸出入) 第9回 Unit 21 Negotiations(交渉) 第10回 Unit 22 Presentations(プレゼン) 第11回 Unit 23 Marketing(マーケティング) 第12回 Unit 24 Mini Test 4 第13回 総合復習 1 第14回 総合復習 2 第15回 総合復習 3	
履修上の注意点 初回配布の単語プリントを暗記し、各講義で配る文法問題の復習をすること。	
教科書 TOEICテストのリスニング攻略 - Listening Breakthrough for the TOEIC Test 著者: Terry O'Brien 出版社: 南雲堂 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (40) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I <a>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

授業の到達目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills.

授業の概要

Students will present four times during the semester; the first three times will be one-on-one practice presentations with multiple partners. The final presentation will be in front of the whole class. Paragraphs and a final essay will be developed in tandem with presentations.

準備学習(予習・復習)

It will be necessary to prepare and practice presentations, and to write and rewrite compositions out of class time.

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 A good friend (exploring, planning, organizing)
- 第3回 A good friend (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第4回 Presentation 1: A good friend
- 第5回 A favorite place (exploring, planning, organizing)
- 第6回 A favorite place (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第7回 Presentation 2: A favorite place
- 第8回 A prized possession (exploring, planning, organizing)
- 第9回 A prized possession (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第10回 Presentation 3: A prized possession
- 第11回 Paragraph to Essay
- 第12回 More on essay writing
- 第13回 Preparing the final presentation
- 第14回 Final Presentations (I)
- 第15回 Final Presentations (II)

履修上の注意点

The class will be conducted in a computer lab. All students will need Google accounts. To pass the course, you must attend 11 or more classes, submit a final essay and make a final presentation.

教科書

Present Yourself 1 Second Ed.

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2015

ISBN: 9781107435636

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I **

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 前期	定 員
---------	-----

履修条件	クラス指定 到達度別
------	------------

担当者 高田 悦子	
-----------	--

テーマ

社会に出て役立つ英語プレゼンテーション能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

プレゼンテーションの基礎を学び、その後はプロジェクトベースで展開します。「自己紹介」、「ニュースを世界に伝える」、「休暇プラン」などのトピックを通して<提案>や<Power Pointの使い方>などのプレゼン技術を学びます。最後に300字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation, Basics of an English Presentation
- 第2回 Project 1“ Introducing Yourself” : Step 1
- 第3回 Project 1“ Introducing Yourself” : Step 2
- 第4回 Project 1“ Introducing Yourself” : Step 3
- 第5回 Project 1“ Introducing Yourself” : PRESENTATION
- 第6回 Project 2“ News Digest” : Step 1
- 第7回 Project 2“ News Digest” : Step 2
- 第8回 Project 2“ News Digest” : Step 3
- 第9回 Project 2“ News Digest” : PRESENTATION
- 第10回 Review
- 第11回 Project 3“ Promoting Your Vacation Plans” : Step 1
- 第12回 Project 3“ Promoting Your Vacation Plans” : Step 2
- 第13回 Project 3“ Promoting Your Vacation Plans” : Step 3
- 第14回 Project 3“ Promoting Your Vacation Plans” : PRESENTATION
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go

著者: 松岡 昇、立野貴之、三宅ひろ子

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

出版年: 2014

ISBN: 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I <c>**

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定 到達度別
------	------------

担当者 金山 敬	
----------	--

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

授業の到達目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。300語程度のプレゼンテーションが出来るようになる。

授業の概要

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達ができる英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation, Basics of the English Presentation
- 第2回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 1
- 第3回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 2
- 第4回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 3
- 第5回 Project 1 "Introducing Yourself" Presentation
- 第6回 Project 2 "News Digest" Step 1
- 第7回 Project 2 "News Digest" Step 2
- 第8回 Project 2 "News Digest" Step 3
- 第9回 Project 2 "News Digest" Presentation
- 第10回 Review
- 第11回 Project 3 "Promoting Your Vacation Plans" Step 1
- 第12回 Project 3 "Promoting Your Vacation Plans" Step 2
- 第13回 Project 3 "Promoting Your vacation Plans" Step 3
- 第14回 Project 3 "Promoting YOur vacation Plans " Presentation
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go

著者: 松岡 昇 他

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

出版年: 2014

ISBN: 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

積極的な授業参加を高く評価する。

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <a>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

授業の到達目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills.

授業の概要

Students will present four times during the semester; the first three times will be one-on-one practice presentations with multiple partners. The final presentation will be in front of the whole class. Paragraphs and a final essay will be developed in tandem with presentations.

準備学習(予習・復習)

It will be necessary to prepare and practice presentations, and to write and rewrite compositions out of class time.

内 容

- 第1回 A memorable experience (exploring, planning, organizing)
- 第2回 A memorable experience (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第3回 Presentation 1: A memorable experience
- 第4回 I'll show you how (exploring, planning, organizing)
- 第5回 I'll show you how (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第6回 Presentation 2: I'll show you how
- 第7回 Screen magic (exploring, planning, organizing)
- 第8回 Screen magic (developing presentation techniques; developing a paragraph)
- 第9回 Presentation 3: Screen magic
- 第10回 Essay Structure
- 第11回 Outlining an essay
- 第12回 Coherence & Support
- 第13回 Preparing the final presentation
- 第14回 Final Presentations (I)
- 第15回 Final Presentations (II)

履修上の注意点

The class will be conducted in a computer lab. All students will need Google accounts. To pass the course, you must attend 11 or more classes, submit a final essay and make a final presentation.

教科書

Present Yourself 1 Second Ed.

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2015

ISBN: 9781107435636

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II **

クラス	配当回生 学部1回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定 到達度別
------	------------

担当者 高田 悦子	
-----------	--

テーマ

社会に出て役立つ英語プレゼンテーション能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

前期に引き続きプロジェクトベースで展開します。「日本紹介」、「社会問題」、「将来」などのトピックを通して<提案>やく Power Pointの使い方>などのプレゼン技術を学びます。最後に600字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Project 4“ Introducing Japan” : Step 1
- 第2回 Project 4“ Introducing Japan” : Step 2
- 第3回 Project 4“ Introducing Japan” : Step 3
- 第4回 Project 4“ Introducing Japan” : PRESENTATION
- 第5回 Project 5“ Discussing Social Issues” : Step 1
- 第6回 Project 5“ Discussing Social Issues” : Step 2
- 第7回 Project 5“ Discussing Social Issues” : Step 3
- 第8回 Project 5“ Discussing Social Issues” : PRESENTATION
- 第9回 Review
- 第10回 Project 6“ Talking about Your Future Plans” : Step 1
- 第11回 Project 6“ Talking about Your Future Plans” : Step 2
- 第12回 Project 6“ Talking about Your Future Plans” : Step 3
- 第13回 Project 6“ Talking about Your Future Plans” : PRESENTATION(1)
- 第14回 Project 6“ Talking about Your Future Plans” : PRESENTATION(2)
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go

著者: 松岡 昇、立野貴之、三宅ひろ子

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

出版年: 2014

ISBN: 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 金山 敬

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

授業の到達目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。600語程度のプレゼンテーションが出来るようになる。

授業の概要

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達が出来る英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Project 4 "Introducing Japan" Step 1
- 第2回 Project 4 "Introducing Japan" Step 2
- 第3回 Project 4 "Introducing Japan" Step 3
- 第4回 Project 4 "Introducing Japan" Presentation
- 第5回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 1
- 第6回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 2
- 第7回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 3
- 第8回 Project 5 "Discussing Social Issues" Presentation
- 第9回 Review
- 第10回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 1
- 第11回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 2
- 第12回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 3
- 第13回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Presentation (1)
- 第14回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Presentation (2)
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go

著者: 松岡 昇 他

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

出版年: 2014

ISBN: 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

積極的な授業参加を高く評価する。

2015 Syllabus

科目名 International Business English I <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

授業の到達目標

海外のビジネスパートナーと信頼関係を築くためには国際ビジネスにおける公用語として英語によるコミュニケーションが必須である。そしてインターネットの普及により国際ビジネスコミュニケーションも従来のレター中心の商業英語からEメールが主流になった。ビジネスの現場で使われる英語はそれほどレベルの高いものではないが、シンプルで的確に意図を相手に伝えられる実践的なものでなければならない。国際ビジネスでは英語力だけではなく貿易取引全体の仕組みについて知識、貿易実務、専門用語まで幅広い習得が必要である。またスムーズに商談交渉を進めるためには異文化理解能力も国際ビジネスパーソンには必要である。これらを総合的に取り入れた授業に取り入れる。将来国際ビジネスに係る人が最低限身につけておくべき実践英語力として、日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目指す。

授業の概要

日商ビジネス英語検定3級合格レベルの英語、貿易実務の学習と異文化理解を深める。基本英文法の確認とビジネス英語への応用。

準備学習(予習・復習)

英語を英語で理解するためになるべく英英辞典を参照すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・英文ビジネスライティングの概要
- 第2回 海外取引の基本的な流れ
- 第3回 英文ビジネスレター・Eメールの基礎
- 第4回 海外取引先とビジネス交渉の流れ
- 第5回 英文ビジネスレターの構成と表現
- 第6回 貿易における国際ルール
- 第7回 英文ビジネスライティングの応用
- 第8回 国際取引に使われる英文文書
- 第9回 英文契約書の考え方と理解
- 第10回 インコタームズ(英文定型貿易条件)の概要
- 第11回 英文ビジネスレター(ケーススタディ)
- 第12回 国際物流で使われる英語
- 第13回 海外決済と外国為替で使われる英語
- 第14回 ビジネス英語のコンテキストと異文化理解
- 第15回 総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がけること。

教科書

日商ビジネス英語検定3級公式テキスト

著者: 日本商工会議所編

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012年10月20日初版

ISBN: 9784820748045

参考書

成績評価

試験 (33%)

小テスト (33%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (34%)

適時実施する小テストと期末テスト及び出席日数を勘案して総合的に評価する。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点する。

2015 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 西村 友美	
テーマ 充実した留学生活のために	
授業の到達目標 多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得	
授業の概要 ・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第5回 留学希望国の文化:多文化理解などを深める/ホームステイ準備④ 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる/安全対策、リスク管理① 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる/安全対策、リスク管理② 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ 第9回 ディスカッション① -気候や環境について 第10回 ディスカッション② -食べ物や食生活について- 第11回 ディスカッション③ -オーストラリア、カナダ、アメリカの英語- 第12回 留学経験者の話を聞く①-アメリカまたはカナダ留学生-(予定) 第13回 留学経験者の話を聞く②-オーストラリア留学生-(予定) 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り 第15回 まとめ 第1回 イントロダクション-留学とは、多文化理解プログラムの目標 第2回 留学希望国の概要を調べる/ホームステイ準備① 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる/ホームステイ準備② 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる/ホームステイ準備③	
履修上の注意点	
教科書 Australia、Here We Come! 著者: 佐藤久美子、他 出版社: 朝日出版社 出版年: ISBN:	
参考書 授業で指示する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

毎回、英単語の小テストを行います。テキストの指定した箇所を事前に勉強してきてください。また、参考Websiteによって、英会話の練習を時間外に行ってもらいます。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
 第9回 ディスカッション①ー気候や環境についてー
 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学者ー(予定)
 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学者ー(予定)
 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
 第15回 まとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回分の欠席とします。規定回数以上の欠席については、いかなる理由があっても単位の認定をしません。なお、このクラスの単位が取得できない場合は、留学の参加について審議がなされる場合があります。

教科書

How Culture Affects Communication

著者: Paul Stapleton

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN: 9784764738119

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

小テストは毎回行います。そのほか、レポート(英語と日本語)を2通、プレゼンテーションを1回行ってもらいます。いずれかの課題が未提出の場合は、60%以上の点数がある場合も単位の認定はできません。

2015 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習(予習・復習)

Students will not be required to do any preparation before class, since this course is basically an outline of what community translation involves. However, they will be expected to revise all the handout materials for each week so that they are thoroughly familiar with the content and specialized terminology used in this field.

内容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

Students should take this course as a basis to the other community translation courses that follow from it: that is 「多文化理解プログラム演習」 and 「グローバルビジネスⅡ」. This course will be taught in English.

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & VocabularyBuilding III <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 末澤 奈津子

テーマ

基本的な文法・語彙習得を、様々な英文を使って行うクラス

授業の到達目標

英語力の向上・速読・精読ができるようになる・基本的な文法の理解・各英語資格試験の合格や点数UP

授業の概要

講師の一方的な問題&解説の授業ではなく、生徒が”練習”の場として能動的に行うクラスを目指す。

準備学習(予習・復習)

与えられた課題をこなすご自身のタイムマネジメントを大切に。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・授業の進め方・自己紹介
- 第2回 QUIZ / The Power of the Face / chapter 1 Reading & Vocabulary
- 第3回 QUIZ / speaking activity
- 第4回 QUIZ / Polar Bears / chapter 3 Reading & Vocabulary
- 第5回 QUIZ / speaking activity
- 第6回 QUIZ / The Taj Mahal / chapter 4 Reading & Vocabulary
- 第7回 QUIZ / speaking activity
- 第8回 QUIZ / animal Attire / chapter 5 Reading and Vocabulary
- 第9回 QUIZ / speaking activity
- 第10回 QUIZ / Dress to Impress / chapter 6
- 第11回 QUIZ / speaking activity
- 第12回 QUIZ / The Statue of Liberty / chapter 9
- 第13回 QUIZ / speaking activity
- 第14回 QUIZ / The Great Wall chapter 12
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業の最初に行う単語テストを受けることが出席と見なされる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building III **

クラス	配当回生 学部2回生
-----	------------

講義期間 前期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定 大学指定
------	------------

担当者 ジェームス ディーグル

テーマ

Reading Comprehension and Vocabulary Building, Retention, and Usage

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading comprehension skills as well as advancing their vocabulary.

授業の概要

There will be various readings and exercises completed in class every week. Students will also be responsible for studying for weekly vocabulary tests to prepare them for the end of the semester 3200 word vocabulary test.

準備学習(予習・復習)

The majority of the reading will be done in focus groups in class. Students will then be responsible for completing the assigned classroom tasks and correcting their own work. At the beginning of class when appropriate, students will do practice tests in order to prepare for the final exam.

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Matsuo Basho's Travel Writing
- 第3回 Michael Yamashita's Travel Photography
- 第4回 The Chemistry of Love and Attraction
- 第5回 Food Safety
- 第6回 Genetic Engineering and Modification of Food
- 第7回 Biomimic Technology
- 第8回 Fashion in the Future
- 第9回 The DNA Trail of Humans
- 第10回 Conservation in the Third World
- 第11回 India's Film and Dance
- 第12回 Song and Dance in Latin America
- 第13回 The Secret of Happiness: Bhutan
- 第14回 The Secret of Longevity: Okinawa
- 第15回 Review & Wrap-up

履修上の注意点

教科書

Reading Explorer 4

著者:

出版社: Cengage

出版年:

ISBN: 978-1424029396

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **Reading & VocabularyBuilding III <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Intermediate Reading Course

授業の到達目標

The aims of this course are as follows: 1. to enable students to read and thoroughly understand short English passages at the intermediate level; 2. to develop a basic vocabulary of over 3,200 words using the Kilgarriff word list; 3. to develop use and understanding of idiomatic expressions; 4. to provide students with a portfolio of reading materials that will be of practical use when they study abroad

授業の概要

Each week we will focus on a topic either about Japanese culture, or about intercultural issues. These will build up into a 'cultural portfolio'. Every second week, we will have a short 200 word vocabulary test to build up students' word power. Twice in the semester we will focus on idiomatic phrases.

準備学習(予習・復習)

On alternate weeks, students will have either vocabulary homework (200 words from the Kilgarriff frequency word list); or a reading comprehension based on the handouts.

内 容

- 第1回 Introduction 1: course outline and short reading comprehension
- 第2回 Introduction 2: initial vocabulary and idiom test
- 第3回 Topic: Talking about Food (reading comprehension homework)
- 第4回 Topic: Features of Japanese Daily Life (vocabulary homework: 2,000-2,200 words)
- 第5回 Vocabulary test: 2,000-2,200 words; Topic: Talking about Religion (reading comprehension homework)
- 第6回 Topic: Group and the Individual (vocabulary homework: 2,200-2,400 words); Idioms !
- 第7回 Vocabulary test: 2,200-2,400 words; Topic: Non-verbal Communication (reading comprehension homework)
- 第8回 Topic: Talking about Different Ways of Thinking (vocabulary homework: 2,400-2,600 words)
- 第9回 Vocabulary test: 2,400-2,600 words; Topic: Daily Life Abroad (reading comprehension homework)
- 第10回 Topic: Enculturation and Defamiliarization (vocabulary homework: 2,600-2,800 words)
- 第11回 Vocabulary test: 2,600-2,800 words; Topic: The Japanese Language (reading comprehension homework)
- 第12回 Topic: Japan Today (vocabulary homework: 2,800-3,000); Idioms 2
- 第13回 Vocabulary test: 2,800-3,000 words; Topic: Culture Shock (reading comprehension homework)
- 第14回 Topic: Cultural Conflict and Resolution (vocabulary homework: 3,000-3,200)
- 第15回 Roundup and Evaluation

履修上の注意点

This class will be taught in English. No textbook is required. Prints will be handed out in class. Regular homework will be assessed and used as part of the final grade, as will the small vocabulary tests. 20% of the final grade will be based on the result of a 3,200 word test at the end of the semester for all second- year students. All homework will be assessed and included in the final grade.

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

All homework and all the in-class vocabulary tests will count towards the final grade.

2015 Syllabus

科目名 **Listening V <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

Improve your listening comprehension

授業の到達目標

The aim of this class is to improve your listening comprehension so that you can cope with various situations in English-spoken environment.

授業の概要

This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. Hopefully we will have some discussion on the topic. You will take a test at the end of the term.

準備学習(予習・復習)

Listen to the CD provided and prepare for the class. Listen to English in whatever form--music, news, recorded story.

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 2
- 第4回 Chapter 3
- 第5回 Chapter 4
- 第6回 Chapter 5
- 第7回 Chapter 6
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 Chapter 9
- 第11回 Chapter 10
- 第12回 Chapter 11
- 第13回 Chapter 12
- 第14回 Chapter 13
- 第15回 Chapter 14

履修上の注意点

If you are absent from the class more than 6 times, you cannot get a credit.

教科書

Social Issues in a Contemporary World

著者: Naoki Sugimori, et al

出版社: 成美堂

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 **Listening V **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 金山 敬	
テーマ	
Systematic, step-by-step approach to listening	
授業の到達目標	
Developing aural and oral fluency through engaging content and practical exercises	
授業の概要	
Units are thematically structured, including topics which frequently appear in daily conversations.	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 UNIT 1 : At the airport	
第2回 UNIT 2 : Dating	
第3回 UNIT 3 : Family events	
第4回 UNIT 4 : School subjects	
第5回 UNIT 5 : Geography	
第6回 UNIT 6 : Housing	
第7回 UNIT 7 : Buying and selling	
第8回 UNIT 8 : Job preferences	
第9回 UNIT 9 : Office work	
第10回 UNIT 10 : Tours	
第11回 UNIT 11 : Ordering food	
第12回 UNIT 12 : Stress and relaxation	
第13回 UNIT 13 : News	
第14回 UNIT 14 : Famous personalities	
第15回 Review	
履修上の注意点	
教科書	
STEP-BY-STEP LISTENING	
著者: David Nunan / Noriko Tomioka	
出版社: CENGAGE Learnig	
出版年: 2010	ISBN: 9784863121522
参考書	
成績評価	
試験 (20%)	小テスト (20%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 ()
参加度 (40%)	
積極的な授業参加を高く評価します	

2015 Syllabus

科目名 **Listening VI <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 野口 博代

テーマ

Listening to News in English

授業の到達目標

英語によるニュースを教材に、リスニングの力の向上を目指します。必要な情報を的確に捉え、理解できる力を養います。

授業の概要

アメリカのニュース番組を教材に用い様々なリスニング演習を行います。また、ニュースを理解するための語彙や表現も学習します。授業では、インターネットを活用し様々な英語のニュースを視聴します。

準備学習(予習・復習)

インターネット等を利用して英語のニュースを聞くようにする。

内 容

- 第1回 Introduction, Unit 1 Antislimming Hormones 他
- 第2回 Unit 2 Early Birds Happier and Healthier? 他
- 第3回 Unit 3 Reef under Growing Threat 他
- 第4回 Unit 4 Cancerous Coloring? 他
- 第5回 Unit 5 Clues to Einstein's Genius 他
- 第6回 Unit 6 Gene Linked to Longer Sleep 他
- 第7回 Unit 7 Amazon Dam Gets Go-ahead 他
- 第8回 Unit 8 New Test for Cancer 他
- 第9回 Unit 9 15 Million Tonnes Overweight 他
- 第10回 Unit 10 Pandemic of Inactivity 他
- 第11回 Unit 11 Debugging at Starbucks 他
- 第12回 Unit 12 Panda-enhanced Tea 他
- 第13回 Unit 13 Dangerous Smog in Beijing 他
- 第14回 Unit 14 Concern about Quick-tempo TV 他
- 第15回 Unit 15 Sharks under Threat 他

履修上の注意点

授業内課題に真剣に取り組み、提出物等の期限は厳守すること。

教科書

Power Up Your English with CNN News

著者: Shinji Ogasawara 他 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155579

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **Listening VI **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 日高 周平

テーマ

TOEICのリスニングセクション対策。

授業の到達目標

TOEICのリスニングセクションで、380点以上を狙う。

授業の概要

TOEICのリスニングの練習と、基礎的な文法の確認も行う。

準備学習(予習・復習)

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事。

内 容

- 第1回 授業概要、TOEICについての説明。
- 第2回 Pt. 1 対策と名詞
- 第3回 Pt. 1 対策と形容詞
- 第4回 Pt. 2 対策と副詞
- 第5回 Pt. 2 対策と名詞、形容詞、副詞の確認
- 第6回 Pt. 2 対策と代名詞
- 第7回 Pt. 2 対策と主語動詞の一致
- 第8回 Pt. 2 対策と時制の一致
- 第9回 Pt. 2 対策と関係詞
- 第10回 Pt. 3 対策と形容詞の後置修飾
- 第11回 Pt. 3 対策と従属接続詞
- 第12回 Pt. 4 対策と比較
- 第13回 Pt. 4 対策と熟語
- 第14回 TOEIC総合対策
- 第15回 総合復習

履修上の注意点

初回配布の単語プリント、各講義で配る文法プリントを暗記すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 Writing & Academic Presentation III <a>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 高田 悦子

テーマ

ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎

授業の到達目標

グローバル化が進む社会において、ますます重要になりつつある、世界の共通言語である英語によって、人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明することができる「プレゼンテーション能力 (Presentation Skills in English)」の育成を目指します。

授業の概要

「知識を提供するプレゼンテーション (Informative Presentations)」と、「説得的プレゼンテーション (Persuasive Presentations)」を学び、自分でも作成します。3回のスピーチ (内1回はパワーポイント・プレゼンテーション) をおこないます。また、最後に1000字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習 (予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation, Chapter1 Section 1 The History of Our University
- 第2回 Chapter1 Section 2 My Favorite Country
- 第3回 Chapter1 Section 4 Japan's Education System
- 第4回 Review
- 第5回 PRESENTATION 1
- 第6回 Chapter1 Section 5 What Is Science?
- 第7回 Chapter1 Section 6 Social Networking Services
- 第8回 Chapter2 Section 2 The Case for Organ Donation
- 第9回 Review
- 第10回 PRESENTATION 2
- 第11回 Chapter2 Section 3 Global Warming: What Is to Be Done?
- 第12回 Chapter2 Section 4 Exercise and Physical Fitness
- 第13回 Chapter2 Section 5 Overpopulation: Causes and Consequences
- 第14回 Review
- 第15回 PRESENTATION 3

履修上の注意点

電子辞書を必ず持ってくること。(評価の対象になります。)

教科書

Writing for Presentations in English

著者: Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker

出版社: 南雲堂

出版年: 2012

ISBN: 9784523177319

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III **

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Researching and writing academic essays and developing effective presentations

授業の到達目標

This course will aim to develop the skills, strategies and procedures necessary for writing longer essays and making rich and engaging presentations.

授業の概要

The first half of the course will focus on essay writing and culminate in writing a research paper. However, there will be two short presentations as well. The second half of the course will focus on developing a longer presentation. The course will be held in a computer lab.

準備学習(予習・復習)

It will be necessary to research, write and rewrite your essay, and prepare and practice your presentations out of class time.

内 容

- 第1回 Introduction & First presentation: self-introduction
- 第2回 Topic and focus
- 第3回 Researching and outlining
- 第4回 Introduction and thesis statement
- 第5回 Body
- 第6回 Conclusion
- 第7回 Citing sources
- 第8回 Second presentation
- 第9回 Exploring the topic
- 第10回 Focusing on presentation language
- 第11回 Organizing ideas
- 第12回 Developing presentation techniques
- 第13回 Final preparation & practice
- 第14回 Final Presentations (I)
- 第15回 Final Presentations (II)

履修上の注意点

To pass the course, you must attend 11 or more classes, make three presentations, and submit the final essay. The class will be conducted in a computer lab, and all students will need a Google account.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 **Writing & AcademicPresentation III <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Writing and presentation on academic and cultural topics for SAP

授業の到達目標

(1) To familiarize the students with more advanced forms of expression and more sophisticated writing styles(2) To develop intermediate presentation skills(3) To reinforce PowerPoint skills and equip students with more advanced PowerPoint functions

授業の概要

This class will prepare SAP, GFP, GIP and CTP students for the more sophisticated types of report and presentations that they will be required to produce when abroad, or in an English-speaking situation. The content will vary from the personal to current affairs. After preparing their topic for two weeks, at home and in class, students will present their written text to the whole class every three weeks. They will also produce a final essay based on one or more of these shorter texts. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Reading of English newspapers and magazines is encouraged as a general preparation. Students will be given writing assignments each week, in preparation for individual advice given in class. Students will also be expected to amend their written work after class, and build it into a quality presentation.

内 容

- 第1回 Writing Preparation: a personal topic
- 第2回 Writing Preparation: a personal topic
- 第3回 Student presentations
- 第4回 Writing Preparation: a cultural topic
- 第5回 Writing Preparation: a cultural topic
- 第6回 Student presentations
- 第7回 Writing Preparation: a current affairs topic
- 第8回 Writing Preparation: a current affairs topic
- 第9回 Student presentations
- 第10回 Writing Preparation: an academic topic
- 第11回 Writing Preparation: an academic topic
- 第12回 Student presentations
- 第13回 Writing Preparation: for final essay (data and statistics)
- 第14回 Writing Preparation: for final essay (text)
- 第15回 Final essay and assessment

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

Students will be required to produce at least three presentations, one of which must be PowerPoint; and a final essay of 1,000 words.

2015 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム演習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Practicum in Community Translation

授業の到達目標

1. To give students practice in translating a variety of texts that will be of practical use in the Yamashina community
 2. To enable students to produce a variety of written styles
 3. To increase awareness of the practicalities of translation work as related to the real world and real people.
 4. To encourage a linguistic flexibility of mind.

授業の概要

In this course students will translate solely from Japanese texts into English. After a short introductory section in which we revise what we mean by community translation; and also a variety of translation strategies, students will work on a number of texts. All the texts will be actually related to the foreign community in Japan, and will cover a wide range of topics from medical care, education, to leisure, and daily life. This will build up into a portfolio that students can use as reference at a later stage, when they start on the project-based work of the Global Business II course. This course will be taught basically in English.

準備学習(予習・復習)

Texts will be handed out every two weeks. In the first class, we will read the texts and identify the translation issues involved. Then students will make first draughts as homework. This will take at least 1 hour. They will bring the texts to the following class and present their work before the other students. Finally the teacher will add comments and give feedback, and provide a model translation. Students should then compare their translations to the model, and those of other students after class (30 minutes). Students should be on the lookout for various translated materials that they come across in daily life that relate to the foreign community, like English menus, tourist pamphlets, notices and information produced by local government etc. Students should also register in the「翻訳基礎論」class.

内 容

- 第1回 Revision: what is community translation?
- 第2回 Revision: translation strategies
- 第3回 Text 1: translating a menu (1)
- 第4回 Text 1: translating a menu (2)
- 第5回 Text 2: translating an event pamphlet (1)
- 第6回 Text 2: translating an event pamphlet (2)
- 第7回 Text 3: translating a tourist pamphlet (1)
- 第8回 Text 3: translating a tourist pamphlet (2)
- 第9回 Text 4: translating an official letter (1)
- 第10回 Text 4: translating an official letter (2)
- 第11回 Text 5: translating a document related to education (1)
- 第12回 Text 5: translating a document related to education (2)
- 第13回 Text 6: translating a medical document (1)
- 第14回 Text 6: translating a medical document (2)
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Students should enrol in the「翻訳基礎論」course in order to get a knowledge of the variety of translation strategies that exist.

教科書

参考書

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139125935

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

2015 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

授業の到達目標

英語圏のマイノリティに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の概要

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

準備学習(予習・復習)

課題で扱った異文化への理解を、文献やインターネットを使って深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、成績評価方法についての説明など)、マイノリティ／マジョリティについてのディスカッション
- 第2回 Maori 1: 歴史、生活様式、アート(Ta moko)、Haka、国歌
- 第3回 Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題、文化保存
- 第4回 Amish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第5回 Amish 2: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第6回 Mexican American: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
- 第7回 Jamaican: 歴史、生活様式、言語、宗教
- 第8回 Jewish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第9回 Jewish 2: アウシュビッツ
- 第10回 African American 1: 歴史、言語(発音/イディオム)、文学、音楽、人種差別
- 第11回 African American 2: 迫害の歴史
- 第12回 African American 3: ブラックパンサー党
- 第13回 Japanese American 1: 移民の歴史、移住者の生活など
- 第14回 Japanese American 2: 第二次大戦中の日系移民
- 第15回 まとめ、個人研究発表

履修上の注意点

積極的に課題に取り組むこと。また、遅刻に関しては厳しく対処します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 英米文学論Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

近現代の短編を読む

授業の到達目標

英米を中心とし、ドイツ、フランス、ロシア、日本を含む近現代の短編を読むことを通して、文学の面白さを感じると同時に、背景となっている文化についての理解を深める。

授業の概要

近現代の代表的な短編を、1回に1-2編ずつ読みながら、文学がどのように人間と生への理解を広げ、深めるかを体験してほしい。もう一つ、作品の背景となっている文化について知ることとおして、それぞれの文化圏の諸側面にも理解を広げることを目指したい。具体的には、作品ごとに担当者を決め、レジюмеを作って発表する。教員が必要な説明を加えた後、内容について議論する。また、期末にはペーパーを提出する。書き方については授業で指導する。

準備学習(予習・復習)

その回にやる作品は必ず読んでくること。そうしないと、その時間に議論されていることがまったく分からず、時間もエネルギーも無駄になる。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Ernest Hemingway, Yasunari Kawabata
- 第3回 Guy de Maupassant
- 第4回 James Joyce, Virginia Woolf
- 第5回 Franz Kafka
- 第6回 Rainer Maria Rilke, Thomas Mann
- 第7回 D.H.Lawrence (1)
- 第8回 D.H.Lawrence (2)
- 第9回 Katherine Mansfield
- 第10回 Anton Chekhov
- 第11回 Rudyard Kipling (1)
- 第12回 Rudyard Kipling (2)
- 第13回 Leo Tolstoi (1)
- 第14回 Leo Tolstoi (2)
- 第15回 Leo Tolstoi (3);総括。ペーパー提出

履修上の注意点

読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席が6回以上になると単位は認められない。

教科書

The World's Greatest Short Stories

著者: James Daley

出版社: Dover Publications

出版年: 2006

ISBN: 0-486-44716-2

参考書

成績評価

試験 ((ペーパー)60)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回どの程度読んできたか、また議論への参加度を重視する。

2015 Syllabus

科目名 国際ビジネスⅡ〈Z〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. To make students aware of the translation needs in the immediate community
2. To give the students an opportunity to do meaningful fieldwork within the community
3. To produce a piece of translation that will be of actual use within the community
4. To encourage students to think of their linguistic studies as a part of the real world, not simply as a classroom exercise

授業の概要

After a short introductory section in which we reflect upon the translation portfolios the students produced in the「多文化理解プログラム演習」class, we will start on practical fieldwork related to the actual needs within the local community. Students will present their findings in class and feedback given. In the second half of the course students will choose a translation project (individual or group) that they will finally present in class. It is hoped that these projects will turn into actual community resources, such as free papers, pamphlets, data bases, or home pages. This course will be taught substantially in English.

準備学習(予習・復習)

The fieldwork will be time-consuming, involving perhaps a week, or so, of solid work researching the needs of the foreign community both online and by actually marketing the area. Surveys, interviews with local people and local government officials is also recommended. The projects will take a similar, intensive week of work.

内 容

- 第1回 Introduction: reflecting upon the「多文化理解プログラム演習」course
- 第2回 Fieldwork and Fieldwork Reports (1)
- 第3回 Fieldwork and Fieldwork Reports (2)
- 第4回 Fieldwork and Fieldwork Reports (3)
- 第5回 Fieldwork and Fieldwork Reports (4)
- 第6回 Fieldwork and Fieldwork Reports (5)
- 第7回 Community Translation Project Work (1)
- 第8回 Community Translation Project Work (2)
- 第9回 Community Translation Project Work (3)
- 第10回 Community Translation Project Work (4)
- 第11回 Community Translation Project Work (5)
- 第12回 Community Translation Project Presentations (1)
- 第13回 Community Translation Project Presentations (2)
- 第14回 Community Translation Project Presentations (3)
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Students should be prepared to set aside free time for the fieldwork part of this course. It is also important that students take an active role in class, providing constructive criticism.

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 **English Communication I**

クラス	配当回生 学部2回生
-----	------------

講義期間 後期	定員
---------	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者 西村 友美	
-----------	--

テーマ

グローバル時代におけるリスニング

授業の到達目標

グローバル時代における時事、国際問題のTVニュースなどを題材にした素材を聞き、理解することを目指す。

授業の概要

CALL教室で、紙媒体だけでなくネットでアクセスできる素材などを活用し、幅広いリスニング活動を行なう。また、聞くだけでなく、シャドーイングなどで教材とともに自分の声を録音するトレーニングを取り入れ、自然な発音やスピードを身につけるようにする。

準備学習(予習・復習)

新聞を読む。テキストの予習。シャドーイングの練習。

内 容

第1回 リスニングに必要なこと

第2回 Unit 1

第3回 Unit 2

第4回 Unit 3

第5回 Unit 4

第6回 Unit 5

第7回 Unit 6

第8回 中間まとめ

第9回 Unit 7

第10回 Unit 8

第11回 Unit 9

第12回 Unit 10

第13回 Unit 11

第14回 Unit 12

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

What's on Japan 8

著者: T.Yamazaki et.al

出版社: Kinseido

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **English Communication II**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高田 悦子

テーマ

リーディング力の向上を図る。

授業の到達目標

多読を通して英文を読むことへの抵抗をなくします。また、次世代の革新産業において世界をリードする日本のイノベーションを、最新の話題を取り扱ったトピックで精読することにより、読解力の向上を目指します。

授業の概要

授業の20分程を多読タイムとし各自が自分のレベルに合った英語の本を持参し読みます。残りの時間をテキストを使用した精読の時間にあてます。

準備学習(予習・復習)

多読の時間に読む英語の本(辞書なしでスラスラ読める本)を持ってくるように。図書館などで借りてもよいです。

内 容

- 第1回 Orientation,
- 第2回 Chapter 1. Ken Watanabe / 多読
- 第3回 Chapter 2. Sakana-kun / 多読
- 第4回 Chapter 3. Kohei Uchimura / 多読
- 第5回 Chapter 4. Hiromi Miyake / 多読
- 第6回 Chapter 5. Taiwan / 多読
- 第7回 Chapter 6. Apples / 多読
- 第8回 Chapter 7. B-Class Food Boom / 多読
- 第9回 Chapter 8. Food Traceability / 多読
- 第10回 Chapter 9. Naming Rights / 多読
- 第11回 Chapter 10. Smart Cities / 多読
- 第12回 Chapter 11. Geopark / 多読
- 第13回 Chapter 12. Rare Earths / 多読
- 第14回 Chapter 13. Biomass / 多読
- 第15回 Chapter 14. Green Curtains / 多読

履修上の注意点

電子辞書を忘れずに持ってきて下さい。多読用の本と共に、忘れ物はマイナス評価となります。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 English Communication III

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

ライティング力を養うことを目標にする。その基本的能力を身につけるためにパラグラフ作文に焦点を当てる。

授業の到達目標

パラグラフライティングを学ぶことにより書き手の意志がはっきりと読み手に伝わるようにする。パラグラフの構造を理解し、その機能、主題や指示文の役割を学び、小論文の作成が出来るようになる。

授業の概要

第一段階では、その章の基本的な考え方を理解する。第二段階では、豊富な具体例の練習問題をやる。第三段階では、実際の作文作成をする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Writing Guide
- 第2回 CHAPTER 1 What is a Paragraph?
- 第3回 CHAPTER 2 The Topic Sentence
- 第4回 CHAPTER 3 Supporting Sentences
- 第5回 CHAPTER 4 Time Order
- 第6回 CHAPTER 5 Space Order
- 第7回 CHAPTER 6 Process and Direction
- 第8回 CHAPTER 7 Cause and Effect
- 第9回 CHAPTER 8 Examples
- 第10回 CHAPTER 9 Definition
- 第11回 CHAPTER 10 Classification
- 第12回 CHAPTER 11 Comparison and Contrast
- 第13回 CHAPTER 12 Review
- 第14回 CHAPTER 13 From a Paragraph to a Short Essay
- 第15回 Presentation

履修上の注意点

積極的な授業参加、授業内の発言を高く評価する。

教科書

Get Your Message Across

著者: 神保 尚武他

出版社: 南雲堂

出版年: 2008

ISBN: 9784523175933

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 **English Communication IV**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

小論文を作成し、それをしっかりと伝えることが出来る発表力を養う。

授業の到達目標

パラグラフライティングを復習しながら、様々な文体や目的によって異なった表現方法を学ぶ。報告書や学術論文を書く基礎となる小論文を作成し、発表する。

授業の概要

パート1ではパラグラフ作文の復習と深化をする。パート2では5段階からなる小論文の作成を目的とする。

準備学習(予習・復習)

その時々にあったテーマの中から何をどのように書けばよいのかを学び、絶えず自分の意見、考えをまとめ表現出来る能力を身につけるようにする。

内 容

- 第1回 Guidance
- 第2回 Part I Unit 1 I Am Going to Write One Paragraph
- 第3回 Unit 2 Trying to be Polite
- 第4回 Unit 3 What Do You Think?
- 第5回 Unit 4 This May Work!
- 第6回 Unit 5 How Could It Happen?
- 第7回 Part II Unit 6 What Is an Essay?
- 第8回 Unit 7 Who Am I?
- 第9回 Unit 8 Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1)
- 第10回 Unit 9 Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2)
- 第11回 Unit 10 That's a Good Point! (1)
- 第12回 Unit 11 That's a Good Point! (2)
- 第13回 Unit 12 How Are They Different? (1)
- 第14回 Unit 13 How Are They Different? (2)
- 第15回 Presentation

履修上の注意点

積極的な授業参加と活発な発言を高く評価します。

教科書

From Paragraph to Essay

著者: Kate Elwood他

出版社: 南雲堂

出版年: 2012

ISBN: 9784523177272

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 **英語学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

What is English language? What are its characteristics?

授業の到達目標

①To learn the basics of English linguistics②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.

授業の概要

English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.

準備学習(予習・復習)

Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the relevant vocabulary items in advance.

内 容

- 第1回 English linguistics: OverviewEnglish as a global language
- 第2回 Language and Culture
- 第3回 English Phonetics
- 第4回 First Language Acquisition
- 第5回 American English and Other English Varieties.
- 第6回 Pidgin English and Creole English
- 第7回 Future of English, English in Asia
- 第8回 Spelling and English Pronunciation
- 第9回 English Vocabulary
- 第10回 English Grammar
- 第11回 English Onomatopoeia
- 第12回 Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)
- 第13回 The Importance of Language
- 第14回 Modern Linguistics
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Twenty-Six Short Essays on English

著者: 清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsy

出版社: 英宝社

出版年: 2013

ISBN: 4-269-41018-9

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (0)

2015 Syllabus

科目名 英米文学論 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

イギリス小説はなぜ18世紀に生まれたのか？ 「手紙文学」がなぜ「novel=小説」を生み出したのか、英米文学および日本文学の「短編小説」を読みながら考える

授業の到達目標

イギリス小説は18世紀に始まる。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(1719年)、スウィフトの『ガリバー旅行記』(1726年)、リチャードソンの『パミラ』(1840年)で、確立されていく。植民地時代はまさしく「男の時代」で植民地に向かう船長もプラント・ハンターも牧師もすべて男性であった。そのために国内には50万人もの女たちが「余り」、何としても結婚しようとする女たちの闘いすらあった。そうした時代に、「私」が主人公のnovelなる新しいジャンルの文学作品が生まれ、男性作家しか存在しなかったイギリスに女性作家すらnovelを書くようになる。ヴィクトリア時代を中心に、現代の英米文学、さらには日本文学にも言及しながら、英語を読むことの楽しさを学んでもらいたい。

授業の概要

まず、夏目漱石の『文学論』のL=F(act)+f(eeling)の意味するところを学び、アメリカのHemingway, "Indian Camp"を全員で購読して、短編小説の面白さを味わってもらおう。その短編小説の始まりとも言える「パミラ」という女性が両親に書いた手紙を購読する。古い英語だが、大学生であれば読めることを知ってもらおう。イギリスの作家D・H・ロレンスの「手紙」、最後に、ようやく日本でも完訳されたD・H・ロレンスの『チャタレー卿夫人の恋人』の心の中を描き出す「描出話法」の英語を読みながら、イギリス小説の原点ともいべき「手紙」がなぜ「小説」につながるのかを、村上春樹の『ノルウェイの森』などのいわゆる手紙文学(武者小路実篤の『愛と死』など)の伝統などを論じながら、明らかにしてみたい。

準備学習(予習・復習)

大学でもイギリス映画が観賞できるし、映画館でも上映しているので、暇を見つけて、E.M. Forster, A Room with a View(1908)やJane Austen, Sense and sensibility(1811)、さらにはKazuo Ishiguro, The Remains of the Day(1989)などできるだけ映画鑑賞をすること。特に、ロレンスとヘミングウェイの映画はすべて大学のAVセンターで鑑賞できる。

内 容

- 第1回 イギリス文学「チェックリスト」の完成。イギリス文学(文化)の知識度は？
- 第2回 イギリスのGive Wayの精神とは？ 道を譲る精神=Queuingの精神 イギリスらしさについて、学んでいく。
- 第3回 夏目漱石の『文学論』が教える「事実」と「情緒」の総和が「文学」とは何か
- 第4回 アメリカのノーベル賞作家、ヘミングウェイの短編「インディアン飯場」購読
- 第5回 factをfactとして描き出すHard-boiled styleの英語を読み翻訳する。(レポート1)
- 第6回 イギリス小説の誕生。Robinson Crusoe, Gulliver's Travels, Pamelaという1人称小説はなぜ生まれたのか。
- 第7回 18世紀におけるイギリス小説の台頭と手紙(日記)文学との関連を学ぶ。
- 第8回 Richardson, Pamela(1741)の手紙文学の購読。「美德は報われる」という副題がついているが、主人公Pamelaは父にどんな手紙を書いたのか。(レポート2)
- 第9回 D.H. Lawrence, Lettersの講読。手紙には特定の相手の存在がある。(行間をいかに訳していくのか？)
- 第10回 ロレンスの『書簡集』翻訳の誤訳研究。(誰に宛てた手紙なのかを見極めないと誤訳する)
- 第11回 独白的「私」の内面を語るD.H. Lawrence, Lady Chatterley's Lover(1928)映画鑑賞。
- 第12回 女性と性の解放 Lady Chatterley's Lover講読。「描出話法」の訳し方。(レポート3=翻訳)
- 第13回 日本文学における「私小説」と「手紙文学」 村上春樹『ノルウェイの森』と武者小路実篤『愛と死』
- 第14回 心の内面を描く「描出話法」と日本語の「主観形容詞=こころざまを描く形容詞」の研究
- 第15回 「手紙文学」が「小説=novel」の誕生にどうつながるのか？(まとめ)

履修上の注意点

毎回、プリントを配布し、5回程のレポートを課すので、このレポートを提出しないと評価が下がる。遅れても、必ず提出することが必要である。

教科書

適時プリントして配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

一人称小説とは何か — 異界の「私」の物語

著者: 廣野由美子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

D.H. ロレンス 書簡集 I

著者： 吉村宏一・杉山泰

出版社： 松柏社

出版年： 2010年

ISBN:

ヴィクトリア女王

著者： 君塚直隆

出版社： 中公新書

出版年： 2007年

ISBN:

知っておきたいイギリス英語

著者： 大石五雄

出版社： 平凡社新書

出版年： 2003年

ISBN:

イギリスの不思議と謎

著者： 金谷展雄

出版社： 集英社新書

出版年： 2012年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

毎回提出物があるので、遅れてもその提出物を出さないと評価はつかない。提出物は遅れても必ず提出すること。

2015 Syllabus

科目名 国際ビジネス I <Z>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 岡田 有叶

テーマ

リーガルライティング

授業の到達目標

グローバルビジネスは、原則としてその開始にあたり、契約書(主に英文)が取り交わされ、契約内容に厳密に沿って展開されます。そこでグローバルビジネスに進むことを希望する皆さんは、英文契約書を読めて、さらには作成できるようになっておくことが将来的に見て極めて望ましいといえます。この考え方に立って、英文契約書の解釈と作成法(リーガルライティング)について、その基礎を学び、併せて重要な関連事項を学習します。

授業の概要

英文契約書の学習を通して、日本人と外国人の契約観や物事に対する考え方の違い、グローバルビジネスでの様々な事象や約束事、最近のグローバルビジネスで重要視される事柄等を、契約英語と共に、幅広く学びます。また、英文契約書の学習には、日本語力、論理力も必要とするため、授業時に加えて、グローバルビジネスに関わりのある手頃な書籍の読書感想文作成を行い、これらの力の強化を図ります。

準備学習(予習・復習)

毎回授業の学習予定範囲等を伝えるので予習してきてください(1時間半程度)。また、初回と最終回を除いて、ほぼ毎回皆さんの余力負担にならない程度で宿題を出します。当日の授業内容を中心に出席しますが、適宜皆さん自身で調べて解答する問題も含めます(1時間半程度)。

内 容

- 第1回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第2回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第3回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第4回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第5回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第6回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第7回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第8回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第9回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第10回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第11回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第12回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第13回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第14回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))
- 第15回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))

履修上の注意点

授業開始から終了まで受講する姿勢をもって在席することを出席とします。授業中の私語雑談は控えてください。授業中飲食物を口にすることは禁止します。真面目に受講してください。

教科書

ひと目でわかる英文契約書

著者: 野口幸雄

出版社: かんき出版

出版年: 2011

ISBN: 9784761267780

100年の価値をデザインする「本物のクリエイティブ力」をどう磨くか

著者: 奥山清行

出版社: PHPビジネス新書

出版年:

ISBN:

参考書

[新版]英文契約書を読みこなす

著者： 大崎正瑠

出版社： 大修館書店

出版年： 2011

ISBN： 9784469245622

英文契約書の読み方

著者： 山本孝夫

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2006

ISBN： 9784532111052

英文契約書の書き方

著者： 山本孝夫

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2006

ISBN： 9784532111045

はじめての英文契約書起案・作成完全マニュアル

著者： 長谷川俊明

出版社： 日本法令

出版年： 2003

ISBN： 4539718738

国際ビジネス実践セミナー、契約の英語(2巻)、交渉の英語(3巻)

著者： 小中信幸、中谷栄一郎、他

出版社： 日興企画

出版年： 1999～2001

ISBN： 4888776253他

英文契約書 取扱説明書—国際取引契約入門—

著者： 中村秀雄

出版社： 民事法研究会

出版年： 2012

ISBN： 9784896287806

(注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 音声学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Introduction to English Phonetics

授業の到達目標

(1)To learn the basics of phonetics, while studying and practicing English pronunciation.(2)To become able to distinguish and properly pronounce English sounds.

授業の概要

When a language is considered as a tool for oral communication, its sounds are understandably very important. The purpose of phonetics, as a discipline, is to study how exactly we humans use and control our digestive and respiratory organs such as lips, mouth, tongue, trachea, and lungs, to create the sounds of a language. We will study the characteristics of English sounds by comparing them with the sounds of Japanese. The class will be mostly conducted in English.

準備学習(予習・復習)

Students are expected to practice pronunciation outside the class, as well as in class. Students will be introduced to many useful websites to help them with their practice at home.

内 容

- 第1回 What is phonetics?
- 第2回 English Vowels①
- 第3回 English Vowels②
- 第4回 English Vowels③
- 第5回 English Consonants①
- 第6回 English Consonants②
- 第7回 English Consonants③
- 第8回 Syllable & Word Stress, Sentence Stress
- 第9回 Pause, Pitch, and Intonation
- 第10回 Elision
- 第11回 Assimilation
- 第12回 Intonation (series, alternative question, etc.)
- 第13回 Intonation (tag question, etc.)Strong and Weak Form of Function Words
- 第14回 Stress with Speaker's IntentionWord Stress Shift and Others
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に—

著者： 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子

出版社： 英宝社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (80)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **翻訳基礎論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

An introduction to translation practice, strategies and theory

授業の到達目標

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters(2) To provide them with knowledge about the different types of translation(3) To equip them strategies to help them translate between English and Japanese successfully. This class will be taught in English.

授業の概要

This course is intended as a practical introduction to those interested in language in general, and in the practice of translating from one language to another in particular. We will take an initial look at the linguistic differences between different languages, but between Japanese and English in particular. Then we will look at the translation process itself, touch on a little translation theory, and then look at different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of so-called 'simple' English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a short set text.

準備学習(予習・復習)

I have a wide range of translation texts and exercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation. But since the content of this course is more technical than students will have so far experienced, it is vital that all students go over the class handouts from the previous week, and are familiar with the specialist content thereafter. This will require 40-60 minutes per week.

内 容

- 第1回 PowerPoint introduction: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages
- 第2回 PowerPoint: different types of translation
- 第3回 PowerPoint: the translation process
- 第4回 PowerPoint: introduction to translation theory
- 第5回 Basic translation strategies (1)
- 第6回 Basic translation strategies (2)
- 第7回 Basic translation strategies (3)
- 第8回 PowerPoint: textual analysis
- 第9回 How to use dictionaries, the thesaurus, the Internet, and other translation resources; and their dangers
- 第10回 Technical translation
- 第11回 Literary translation
- 第12回 Advanced translation strategies: transposition
- 第13回 Advanced translation strategies: componential analysis
- 第14回 Translation of a set text
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

教科書

参考書

P. Newmark

著者: A Textbook of Translation

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.

2015 Syllabus

科目名 通訳基礎論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 友美	
テーマ 通訳入門	
授業の到達目標 (1) 基本的な通訳訓練法を身につける。(2) 通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。	
授業の概要 聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろうか。通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。授業では簡単な通訳を練習し、日本の諸相を英語話者に紹介する場面でボランティアで通訳できるようにすることをめざす。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなうことによって、受講生の英語力全般を養成する。	
準備学習(予習・復習) 授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみることに、応用してみることに。	
内 容 第1回 通訳とは、通訳実例の観察 第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析 第3回 Unit 2 社会、クイック・リスpons 第4回 Unit 3 大学生活、シャドーイング(1) 第5回 Unit 4 教育(留学)、シャドーイング(2) 第6回 Unit 5 社会(ファッション)、スラッシュ・リーディング 第7回 Unit 6 医療(メタボリック症候群)、サイト・トランスレーション 第8回 Unit 7 日本文化(アニメ・漫画)、中間まとめ 第9回 Unit 8 教育(ボランティア活動)、逐次通訳 (1) 第10回 Unit 9 社会(長寿社会)、逐次通訳 (2) 第11回 Unit 10 国際交流 I (実践演習)、逐次通訳 (3) 第12回 Unit 11 日本文化(伝統的な行事)、同時通訳 (1) 第13回 Unit 12 環境、同時通訳 (2) 第14回 Unit 13 国際交流 II (実践演習)、「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 TOEIC150点アップを目指す 通訳訓練法 著者: 越智 美江 出版社: 大阪教育図書 出版年: 2010 ISBN:	
参考書 授業で指示する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 International Business English

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

授業の到達目標

海外のビジネスパートナーと信頼関係を築くためには国際ビジネスにおける公用語として英語によるコミュニケーションが必須である。そしてインターネットの普及により国際ビジネスコミュニケーションも従来のレター中心の商業英語からEメールが主流になった。ビジネスの現場で使われる英語はそれほどレベルの高いものではないが、シンプルで的確に意図を相手に伝えられる実践的なものでなければならない。国際ビジネスでは英語力だけではなく貿易取引全体の仕組みについて知識、貿易実務、専門用語まで幅広い習得が必要である。またスムーズに商談交渉を進めるためには異文化理解能力も国際ビジネスパーソンには必要である。これらを総合的に取り入れた授業に取り入れる。将来国際ビジネスに係る人が最低限身につけておくべき実践英語力として、日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目指す。

授業の概要

日商ビジネス英語検定3級合格レベルの英語、貿易実務の学習と異文化理解を深める。基本英文法の確認とビジネス英語への応用。

準備学習(予習・復習)

英語を英語で理解するためになるべく英英辞典を参照すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・英文ビジネスライティングの概要
- 第2回 海外取引の基本的な流れ
- 第3回 英文ビジネスレター・Eメールの基礎
- 第4回 海外取引先とビジネス交渉の流れ
- 第5回 英文ビジネスレターの構成と表現
- 第6回 貿易における国際ルール
- 第7回 英文ビジネスライティングの応用
- 第8回 国際取引に使われる英文文書
- 第9回 英文契約書の考え方と理解
- 第10回 インコタームズ(英文定型貿易条件)の概要
- 第11回 英文ビジネスレター(ケーススタディ)
- 第12回 国際物流で使われる英語
- 第13回 海外決済と外国為替で使われる英語
- 第14回 ビジネス英語のコンテキストと異文化理解
- 第15回 総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がけること。

教科書

日商ビジネス英語検定3級公式テキスト

著者: 日本商工会議所編

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012年10月20日初版

ISBN: 9784820748045

参考書

成績評価

試験 (33%)

小テスト (33%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (34%)

適時実施する小テストと期末テスト及び出席日数を勘案して総合的に評価する。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点する。

2015 Syllabus

科目名 英語教育論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

英語教育、現在の日本の英語教育の問題点を提起し、国際理解と英語教育のあるべきすがたについて考える。

授業の到達目標

英語教育を理論面および実践面から概観し、考察する。

授業の概要

英語教育の基本理念、言語習得理論の基礎、国際理解などを学びながら、英語教育のあり方を考察する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス(国際理解教育と英語教育の問題点、そのあり方)
 第2回 第1章 英語教育の基本理念
 第3回 第2章 第二言語習得(言語習得理論の基礎)
 第4回 第3章 外国語教授法
 第5回 第4章 学習指導要領
 第6回 第1章から4章までのまとめ
 第7回 第5章 言語要素の指導
 第8回 第6章 4技能の活動
 第9回 第7章 授業展開
 第10回 第8章 教材・教具
 第11回 第5章から8章までのまとめ
 第12回 第9章 評価とテスト
 第13回 第10章 学習者
 第14回 第11章 教員養成と教員研修
 第15回 第9章から11章までのまとめ

履修上の注意点

教科書

グローバル時代の英語教育

著者: 岡 秀夫 編著

出版社: 成美堂

出版年: 2011年

ISBN: 978-4-7919-3099

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス I**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 岡田 有叶

テーマ

リーガルライティング

授業の到達目標

グローバルビジネスは、原則としてその開始にあたり、契約書(主に英文)が取り交わされ、契約内容に厳密に沿って展開されます。そこでグローバルビジネスに進むことを希望する皆さんは、英文契約書を読めて、さらには作成できるようになっておくことが将来的に見て極めて望ましいといえます。この考え方に立って、英文契約書の解釈と作成法(リーガルライティング)について、その基礎を学び、併せて重要な関連事項を学習します。

授業の概要

英文契約書の学習を通して、日本人と外国人の契約観や物事に対する考え方の違い、グローバルビジネスでの様々な事象や約束事、最近のグローバルビジネスで重要視される事柄等を、契約英語と共に、幅広く学びます。また、英文契約書の学習には、日本語力、論理力も必要とするため、授業時に加えて、グローバルビジネスに関わりのある手頃な書籍の読書感想文作成を行い、これらの力の強化を図ります。

準備学習(予習・復習)

毎回回の学習予定範囲等を伝えるので予習してきてください(1時間半程度)。また、初回と最終回を除いて、ほぼ毎回皆さんの余り負担にならない程度で宿題を出します。当日の授業内容を中心に出席しますが、適宜皆さん自身で調べて解答する問題も含めます(1時間半程度)。

内 容

- 第1回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第2回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第3回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第4回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第5回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第6回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第7回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第8回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第9回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第10回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第11回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第12回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第13回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第14回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))
- 第15回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))

履修上の注意点

授業開始から終了まで受講する姿勢をもって在席することを出席とします。授業中の私語雑談は控えてください。授業中飲食物を口にすることは禁止します。真面目に受講してください。

教科書

ひと目でわかる英文契約書

著者: 野口幸雄

出版社: かんき出版

出版年: 2011

ISBN: 9784761267780

100年の価値をデザインする「本物のクリエイティブ力」をどう磨くか

著者: 奥山清行

出版社: PHPビジネス新書

出版年:

ISBN:

参考書

[新版]英文契約書を読みこなす

著者： 大崎正瑠

出版社： 大修館書店

出版年： 2011

ISBN： 9784469245622

英文契約書の読み方

著者： 山本孝夫

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2006

ISBN： 9784532111052

英文契約書の書き方

著者： 山本孝夫

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2006

ISBN： 9784532111045

はじめての英文契約書起案・作成完全マニュアル

著者： 長谷川俊明

出版社： 日本法令

出版年： 2003

ISBN： 4539718738

国際ビジネス実践セミナー、契約の英語(2巻)、交渉の英語(3巻)

著者： 小中信幸、中谷栄一郎、他

出版社： 日興企画

出版年： 1999～2001

ISBN： 4888776253他

英文契約書 取扱説明書—国際取引契約入門—

著者： 中村秀雄

出版社： 民事法研究会

出版年： 2012

ISBN： 9784896287806

(注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **グローバルビジネスⅡ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. To make students aware of the translation needs in the immediate community
2. To give the students an opportunity to do meaningful fieldwork within the community
3. To produce a piece of translation that will be of actual use within the community
4. To encourage students to think of their linguistic studies as a part of the real world, not simply as a classroom exercise

授業の概要

After a short introductory section in which we reflect upon the translation portfolios the students produced in the 「多文化理解プログラム演習」class, we will start on practical fieldwork related to the actual needs within the local community. Students will present their findings in class and feedback given. In the second half of the course students will choose a translation project (individual or group) that they will finally present in class. It is hoped that these projects will turn into actual community resources, such as free papers, pamphlets, data bases, or home pages. This course will be taught substantially in English.

準備学習(予習・復習)

The fieldwork will be time-consuming, involving perhaps a week, or so, of solid work researching the needs of the foreign community both online and by actually marketing the area. Surveys, interviews with local people and local government officials is also recommended. The projects will take a similar, intensive week of work.

内 容

- 第1回 Introduction: reflecting upon the 「多文化理解プログラム演習」course
- 第2回 Fieldwork and Fieldwork Reports (1)
- 第3回 Fieldwork and Fieldwork Reports (2)
- 第4回 Fieldwork and Fieldwork Reports (3)
- 第5回 Fieldwork and Fieldwork Reports (4)
- 第6回 Fieldwork and Fieldwork Reports (5)
- 第7回 Community Translation Project Work (1)
- 第8回 Community Translation Project Work (2)
- 第9回 Community Translation Project Work (3)
- 第10回 Community Translation Project Work (4)
- 第11回 Community Translation Project Work (5)
- 第12回 Community Translation Project Presentations (1)
- 第13回 Community Translation Project Presentations (2)
- 第14回 Community Translation Project Presentations (3)
- 第15回 Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Students should be prepared to set aside free time for the fieldwork part of this course. It is also important that students take an active role in class, providing constructive criticism.

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 多文化の理解と教育 <Z>

クラス 配当回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 青木 美智子・浅井 雅志・アンガス ノーマン・池田 修・大久保 恭子・金山 敬・神谷 栄司・北林 利治・佐野 仁
美・西村 友美・南 憲治・八木 英二

テーマ

「言語と人間」の視点から、人間の発達を多面的に考察する。

授業の到達目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の概要

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

準備学習(予習・復習)

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。また、講義内容についてコメントを記しておく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(神谷)
- 第2回 日本語の魅力(池田)
- 第3回 言語の翻訳可能性(西村)
- 第4回 脳と言語(南)
- 第5回 幼児とことば(青木)
- 第6回 外言と内言(神谷)
- 第7回 対話について(神谷)
- 第8回 音楽とことば(佐野)
- 第9回 美術とことば(大久保)
- 第10回 死滅する言語(アンガス)
- 第11回 多言語主義(北林)
- 第12回 英語公用化論争(浅井)
- 第13回 第二言語習得(金山)
- 第14回 コミュニケーションと教育改革(八木)
- 第15回 まとめ(神谷)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポートによる。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <*A>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IVB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Seminar in Translation within the Community

授業の到達目標

1. To reinforce the translation strategies previously learned
2. To develop a linguistic flexibility of mind
3. To develop advanced English language skills and vocabulary
4. To introduce students to a variety of text translations that are directly relevant and of practical use to the Yamashina community.
5. To give students the opportunity to make academic presentations

授業の概要

In this seminar, we will revise and reinforce the various translation strategies covered in the Basic Theory of Translation class, so that students are completely familiar with them. (Any third-year students who have not already taken this class should be sure to register for it.) Then we will cover a number of different text translations that relate to the Yamashina community in particular before students are given translation assignments, which they will then present in class, and hopefully be of actual practical use to people living and working in Yamashina, and to its visitors. The first semester will focus on the tourist and his/her needs. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material related to the Yamashina and Kyoto areas: English pamphlets, tourist information in English etc. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内 容

- 第1回 Introduction 1: Comparing the English and Japanese languages & discussion
- 第2回 Introduction 2: Basic translation strategies with examples & discussion
- 第3回 Introduction 3: Advanced translation strategies with examples & discussion
- 第4回 Translation of a Japanese menu
- 第5回 Student presentations (1)
- 第6回 Translation of a Japanese tourist pamphlet
- 第7回 Student presentations (2)
- 第8回 Translation of a Japanese pamphlet for a historic building
- 第9回 Student presentations (3)
- 第10回 Translation of a Japanese cultural event text
- 第11回 Student presentations (4)
- 第12回 Translation of a Japanese map for tourists
- 第13回 Student presentations (5)
- 第14回 Choosing the translation projects for second semester
- 第15回 Final Discussion and Conclusions

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳の基礎

著者: 宮脇 孝雄

出版社: 研究社出版

出版年: 2000

ISBN: 9784327451417

A Textbook of Translation

著者: P. Newark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139125935

In Oher Words

著者: M. Baker

出版社: Routeledge

出版年: 2011

ISBN: 9780415467543

The Translation Studies Reader

著者: L. Venuti

出版社: Routeledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415319201

Theories of Transaltion

著者: J. Biguenet

出版社: Chicago Guides

出版年: 1992

ISBN: 9780226048710

翻訳はいかにすべきか

著者: 柳瀬 尚紀

出版社: 岩波新書

出版年: 2000

ISBN: 9784004306528

実践翻訳の技術

著者: 別宮 貞徳

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 2006

ISBN: 9784480090287

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <*B>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IV B(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

言語と文化の関係を考えることを通して自己理解を深める

授業の到達目標

「文化」とは不思議なもので、まるで魚を取り巻く水のようにわれわれを取り巻いています。自分という人間は文化の産物なのに、その文化がよくわからないから自分という存在もよくわからないようです。明治以降の巨大な変化、さらに近年ではいわゆる「グローバル化」の急激な進行の中で、日本人は「アイデンティティ・クライシス」に陥っているようにも見えます。そんな中にいるから、わかりにくい自分が余計見えにくくなっている。——こんな状況を乗り越えるべく、文化というものに言語からアプローチすることで、自分とそれを取り巻く文化という不可思議な存在についていろいろ考えてみましょう。

授業の概要

「母語が異なる人は、周りの世界を同じように見ているのだろうか。もしかしたら、まるで違ったように見ているのではないだろうか」という刺激的な疑問からこのクラスは始まります。私たちは、望んだわけでもないのにあるときある場所に生まれ落ち、ある言語を「母語」としていやおうなく身につけ、そのためにその後の一生を大きく規定されます。この不条理とも言える状態をいかにして理解したいのか、こうしたことに関心のある学生に受講して欲しいと思います。具体的には、毎回の授業で学生担当者が、テキストの担当部分についてレジュメを用意して口頭発表し、教員が必要な補足説明を加え、それをもとにディスカッションをするという形で進めていきたいと思っています。授業運営に関しては、受講生の皆さんの意見も尊重したいと思います。

学期中に一度、学外授業を行いたいと思います。日程は授業時に指示します。学期末には、関心を持ったテーマについてペーパーを書き、提出します。

準備学習(予習・復習)

授業でやる章は必ず読んでくる。関連文献を読む。それ以外は授業で適宜指示します。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Prologue (1)
- 第3回 Prologue (2)
- 第4回 Part I, 1 (1)
- 第5回 Part I, 1 (2)
- 第6回 Part I, 2 (1)
- 第7回 Part I, 2 (2)
- 第8回 学外授業
- 第9回 Part I, 3 (1)
- 第10回 Part I, 3 (2)
- 第11回 Part I, 4 (1)
- 第12回 Part I, 4 (2)
- 第13回 Part I, 5 (1)
- 第14回 Part I, 5 (2)
- 第15回 総括;ペーパー提出

履修上の注意点

積極的な参加を期待しています。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

Through the Language Glass

著者: Guy Deutscher

出版社: Picador

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

a30203a112

試験 (60(ペーパー))

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <*C>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IVB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定
担当者 西村 友美	
テーマ アカデミック・スタディ・スキルの養成と通訳学入門	
授業の到達目標 (1) 多文化理解プログラム参加から得た問題意識をより深く追求する。(2) 通訳を一つの研究領域として学ぶ。(3) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考え、かつ実践的な異文化コミュニケーション能力の向上を図る。	
授業の概要 日本語と英語の比較に関心がある。人が言語を超えて理解するとはどんなことなのか知りたい。——そのような関心や疑問を、通訳を通じて考えてみよう。また、文献のみならず自ら通訳を実践しながら考えよう。そのために通常の授業での通訳訓練だけでなく、学外にも出て、京都の名所を英語でガイドしたり、通訳ボランティアなどを実践する。そうして考えたことを論理的に表現する訓練をする(教科書の使用)。さらに、橋での残り2年間をどのような目標をもって進むのかを考え、ゼミの活動を通じてそれを実行する。ゼミ生どうしの絆をしっかりとつくり、卒業後の生き方を考えることもゼミの重要な活動となる。★★受講者は原則として「通訳基礎論」を既に履修済みであることが望ましい。履修していない者でこの演習の受講を希望する者は、事前学習教材を指示するので担当教員まで申し出てください。★★この授業を履修する学生はさらに通訳技能のブラッシュアップを目指し、「通訳研究」を同時履修することが好ましい。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 スタディ・スキルとは 第2回 プレゼン1回目、逐次通訳演習 第3回 プレゼン1回目、逐次通訳演習 第4回 プレゼン1回目、逐次通訳演習 第5回 通訳学文献研究、通訳演習 第6回 通訳学文献研究、通訳演習 第7回 通訳学文献研究、通訳演習 第8回 通訳学文献研究、同時通訳演習 第9回 通訳学文献研究、同時通訳演習 第10回 プレゼン2回目、同時通訳演習 第11回 プレゼン2回目、同時通訳演習 第12回 プレゼン2回目、同時通訳演習 第13回 通訳ガイド(情報収集と練習) 第14回 通訳ガイド(情報収集と練習) 第15回 学外授業(京都英語観光ガイド)	
履修上の注意点	
教科書 不実な美女か貞淑な醜女か 著者： 米原万里 出版社： 新潮社 出版年： 1997 ISBN:	
参考書 授業で指示する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (60) 授業中発表等 ()	

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <*D>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語 I A～IVB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定
担当者 北林 利治	
テーマ 母語の獲得と外国語(英語)習得について問いなおす	
授業の到達目標 ①外国語を身につけるという現象をさまざまな観点から考察し、第2言語習得論について理解を深める。②子どもが母語を獲得していくメカニズムについての最近の研究を追いかけ、その仕組みと第2言語習得の関係を探る。③クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。	
授業の概要 わたしたちは、長い期間、英語という外国語を勉強してきた。相当な努力をして、勉強をしても、母語のように容易に外国語を操ることはできない。母語の習得と外国語の習得の違いは一体どこにあるのだろうか。新聞、ネットの広告には、「聞き流すだけでペラペラ英語」とか「アメリカの赤ちゃんはこのようにして英語を学びます」というようなキャッチコピーがおどっている。外国語を身につけるという現象にはどういうメカニズムが働いているのだろうか。それは、母語の習得とはどういう点で異なり、どういう点で共通しているのであろうか。このクラスでは、下記の教科書と補足の参考文献(プリント配布)を受講生のプレゼンテーションを中心にして読み進めながら、さまざまな観点から「外国語を身につけるという現象」を考察し、近年、目覚ましい発展をとげている第2言語習得論についての理解を深めていきたい。	
準備学習(予習・復習) クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。最新の論文の多くは、ネット上で簡単に手にいれることもできます。教科書以外にも各自に文献を割り当てて補足のプレゼンテーションを行ってもらいます。	
内 容 第1回 イントロダクション 第2回 プレゼンテーションの基礎 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論 第6回 アカデミックライティングの基礎① 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論 第11回 アカデミックライティングの基礎② 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論	
履修上の注意点 遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。	
教科書 ことばの習得:母語獲得と第二言語習得 著者: 鈴木孝明・白畑知彦 出版社: くろしお出版 出版年: 2012(1944円) ISBN: 9784874245446	
参考書 クラスで紹介します 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (40)

参加度 (10)

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅰ〈*E〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育言語習得と英語教育多文化理解とコミュニケーション

授業の到達目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の概要

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方 1
- 第3回 論文の書き方 2
- 第4回 研究討議
- 第5回 自分のテーマ探し 1
- 第6回 自分のテーマ探し 2
- 第7回 研究発表と討議 1
- 第8回 研究発表と討議 2
- 第9回 自分のテーマのより深い考察研究 1
- 第10回 自分のテーマのより深い考察研究 2
- 第11回 研究発表と討議 1
- 第12回 研究発表と討議 2
- 第13回 パワーポイントによる発表 1
- 第14回 パワーポイントによる発表 2
- 第15回 振り返りとまとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈*A〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Seminar in Translation within the Community

授業の到達目標

1. To introduce students to more advanced kinds of text translation and help them to be able to solve complex translation problems
2. To assign students with specific translation projects that will be of actual use to the Yamashina community, and to its foreign visitors
3. To introduce students to different types, or modes, of translation; and some translation theory
4. To give students further opportunity to make academic presentations
5. To prepare students for writing a graduation thesis
This class will be taught in English.

授業の概要

This seminar is a continuation for the Seminar in Translation within the Community class in the previous semester. In the first set of classes we will concentrate on advanced translation techniques and highly problematic translation issues, by closely analysing a number of complex or problematic texts. Students will undertake translation projects that relate to the non-Japanese community, which they will also present to the rest of the class for discussion. We will then look towards their graduation theses, which will be a piece of translation of their own choice, and they will produce a translation of part of their chosen text for final evaluation.

準備学習(予習・復習)

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material related to the Yamashina and Kyoto areas: English pamphlets and other materials produced to help the non-Japanese community. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内 容

- 第1回 Prioritization
- 第2回 Vocabulary choice
- 第3回 Advanced translation strategies
- 第4回 Consistency
- 第5回 Introduction to theories of translation
- 第6回 Complex problem solving (1): cultural issues
- 第7回 Complex problem solving (2): linguistic issues
- 第8回 Community translation projects (1)
- 第9回 Community translation projects (2)
- 第10回 Community translation projects (3)
- 第11回 Community translation projects (4)
- 第12回 Community translation projects (5)
- 第13回 Student presentations (1) & discussion
- 第14回 Student presentations (2) & discussion
- 第15回 Preparation for the graduation thesis

履修上の注意点

教科書

参考書

Same as Spring Semester

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈*B〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

言語と文化の関係を考えることを通して自己理解を深める

授業の到達目標

「文化」とは不思議なもので、まるで魚を取り巻く水のようにわれわれを取り巻いています。自分という人間は文化の産物なのに、その文化がよくわからないから自分という存在もよくわからないようです。明治以降の巨大な変化、さらに近年ではいわゆる「グローバル化」の急激な進行の中で、日本人は「アイデンティティ・クライシス」に陥っているようにも見えます。そんな中にいるから、わかりにくい自分が余計見えにくくなっている。——こんな状況を乗り越えるべく、文化というものに言語からアプローチすることで、自分とそれを取り巻く文化という不可思議な存在についていろいろ考えてみましょう。

授業の概要

前半は前期のテキストを続けて読みます。進め方も同じです。後半は別のテキストを読んで同じように進めようと思いますが、テキストは未定です。受講生の希望も聞いて、前期中には決めたいと思います。学期末には、関心を持ったテーマについてペーパーを書き、提出します。

準備学習(予習・復習)

授業でやる章は必ず読んでくる。関連文献を読む。それ以外は授業で適宜指示します。

内 容

- 第1回 前記ペーパー返却、講評。後期へのイントロダクション
- 第2回 Part II, 6 (1)
- 第3回 Part II, 6 (2)
- 第4回 Part II, 7 (1)
- 第5回 Part II, 7 (2)
- 第6回 Part II, 7 (3)
- 第7回 Part II, 8 (1)
- 第8回 Part II, 8 (2)
- 第9回 Part II, 9
- 第10回 Epilogue
- 第11回 未定
- 第12回 未定
- 第13回 未定
- 第14回 未定
- 第15回 総括;ペーパー提出

履修上の注意点

積極的な参加を期待しています。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

Through the Language Glass

著者: Guy Deutscher

出版社: Picador

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60(ペーパー))

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈*C〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

通訳に関わる諸側面の考察と通訳スキルの向上

授業の到達目標

(1) 通訳学関連論文を読み、自分の卒研テーマを探す。(2) 通訳する素材を自ら見つけ、通訳訓練する。

授業の概要

この授業は、受講者が通訳に関わる諸側面を観察し、自らテーマを見つけ、その問題の解明と表現をすることができるようになることをめざす。同時に、考察する対象として選んだ素材を通訳するトレーニングを行う。グループに分かれて英語の報道番組ビデオを時差通訳した作品を作り、授業で発表する。これらの作業を通じ、自分の卒研テーマを探す。春休みから具体的に卒研の作品制作第1段階に着手してもらう予定である。

準備学習(予習・復習)

プレゼンの準備。グループ・プロジェクトの作品制作および発表の準備。

内 容

- 第1回 プレゼン1回目
- 第2回 プレゼン1回目
- 第3回 プレゼン1回目
- 第4回 報道番組時差通訳(事例研究)
- 第5回 報道番組時差通訳(リスニング)
- 第6回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第7回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第8回 プロジェクト発表
- 第9回 プロジェクト発表
- 第10回 プロジェクト発表
- 第11回 プロジェクト発表
- 第12回 プレゼン2回目
- 第13回 プレゼン2回目
- 第14回 プレゼン2回目
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈*D〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 北林 利治

テーマ

母語の獲得と外国語(英語)習得について問いなおす

授業の到達目標

①前期に引き続いて、第2言語習得論や母語習得について理解を深める。②上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の概要

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習Ⅰ」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと(レポートの作成)にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えてみたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。なお、後期の2回目のプレゼンテーションは、原則として英語で行ってもらう。

準備学習(予習・復習)

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションについて
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

使用しない(前期で使用したもの)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラスで紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参加度（10）

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈*E〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。 クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育言語習得と英語教育多文化理解とコミュニケーション

授業の到達目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の概要

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

準備学習(予習・復習)

自分のテーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 上回生の論文研究を読む
- 第3回 研究討議 1
- 第4回 研究討議 2
- 第5回 自分のテーマ探し 1
- 第6回 自分のテーマ探し 2
- 第7回 研究発表と討議 1
- 第8回 研究発表と討議 2
- 第9回 自分のテーマのより深い考察研究 1
- 第10回 自分のテーマのより深い考察研究 2
- 第11回 研究発表と討議 1
- 第12回 研究発表と討議 2
- 第13回 パワーポイントによる発表 1
- 第14回 パワーポイントによる発表 2
- 第15回 振り返りとまとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

2015 Syllabus

科目名 **Critical Reading I <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

授業の到達目標

The overall objectives of this class is not only to enhance reading skills made in the first and second years, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の概要

The Text: Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Preparation and brushup

内 容

- 第1回 オリエンテーション テキストの使い方、授業の進め方についての解説
- 第2回 Chapter 1 Learning Styles
- 第3回 Chapter 1 Learning Styles
- 第4回 Chapter 2 Stress in College Life
- 第5回 Chapter 2 Stress in College Life
- 第6回 Chapter 3 Student Housing
- 第7回 Chapter 4 Student Activities
- 第8回 Chapter 4 Student Activities
- 第9回 Chapter 5 Education
- 第10回 Chapter 5 Education
- 第11回 Chapter 6 Business
- 第12回 Chapter 6 Business
- 第13回 Chapter 7 Marketing
- 第14回 Chapter 7 Marketing
- 第15回 Final review

履修上の注意点

Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phones during class.

教科書

Introduction to Academic Reading : Acquiring Essential Academic Vocabulary

著者: Helen Huntley and Koji Shidara

出版社: Cengage Learning

出版年: 2006

ISBN: 9784863120495

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

Grading for the course will be determined as follows: 1. Contributions to the class, class discussions, attendance 2. Quizzes and final examination

2015 Syllabus

科目名 Critical Reading I

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 末澤 奈津子

テーマ

論理的思考の養成・批判的に文章を読むクラス

授業の到達目標

自らの言葉で文章を説明し、意見を理由と共に述べるようになること。

授業の概要

一方的な問題&解説の授業ではなく、学生の要望に従い授業を行う。授業の最初の単語テストを出席点とする。

準備学習(予習・復習)

与えられた課題を行う、ご自身のタイムマネジメントを大切に

内 容

第1回 オリエンテーション・授業の説明

第2回 QUIZ・Reading material 1 Environmental Issues・Questions and Answers

第3回 QUIZ・Activities regarding the Reading material 1 and Discussions Preparations for the group presentation.

第4回 QUIZ・Reharsal about group presentations Preparations for the group presentation.

第5回 Group Presentations and Discussions / Evaluations

第6回 QUIZ・Reading material 2 , the topic will be decided depending on the students' interest・Questions and Answers

第7回 QUIZ activities reagrdng reading material 2 and Discussions Preparations for the individual presentation or speect

第8回 QUIZ・Activities regarding the Reading material 2 and Discussions Preparations for the individual presentation or speech.

第9回 Individual Presentations or Speech about the reading material 2 / Evaluations

第10回 QUIZ・Reading material 3, the topic will be decided depending on the students' interest・Questions and Answers

第11回 QUIZ・Activities regarding the Reading material 3 and Discussions

第12回 QUIZ preparations for the Final Essay

第13回 QUIZ preparations for the Final Essay

第14回 Reading and Correction for the Final Essay

第15回 Reading and Correction for the Final Essay

履修上の注意点

遅刻事前に連絡の上認められます。欠席した場合翌週までの課題を担当者に聞くこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **Critical Reading II <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

授業の到達目標

The overall objectives of this class is not only to enhance reading skills made in the first and second years, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の概要

The Text: Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. This class will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Preparation and brushup

内 容

- 第1回 Orientation Topic: course introduction, description and requirements.
- 第2回 Chapter 8 Economics
- 第3回 Chapter 8 Economics
- 第4回 Chapter 9 Psychology
- 第5回 Chapter 9 Psychology
- 第6回 Chapter 10 History
- 第7回 Chapter 10 History
- 第8回 Chapter 11 Political Science
- 第9回 Chapter 11 Political Science
- 第10回 Chapter 12 Linguistics
- 第11回 Chapter 12 Linguistics
- 第12回 Chapter 14 Geology
- 第13回 Chapter 15 Chemistry
- 第14回 Chapter 16 Information Science and Technology
- 第15回 Final Review

履修上の注意点

Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phone during the class.

教科書

Introduction to Academic Reading : Acquiring Essential Academic Vocabulary

著者: Helen Huntley and Koji Shidara

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9784863120495

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

Since the readings and the class sessions in this course complement rather than repeat each other, it is extremely important that you be in class, on time and prepared, each day. Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Without prior arrangements, there will be no make-up quizzes or exams.

2015 Syllabus

科目名 **Critical Reading II **

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 日高 周平

テーマ

Developing critical reading skills.

授業の到達目標

Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.

授業の概要

This course is designed to improve students' reading skills through a variety of reading tasks and discussion activities.

準備学習(予習・復習)

Students are expected to read the assigned chapter prior to coming to class.

内 容

- 第1回 Introduction and breaking the ice
- 第2回 Unit 1 Required English from third grade eyed
- 第3回 Unit 2 Amazon plans drone delivery of packages in less than 30 minutes
- 第4回 Unit 3 Japanese cuisine added to UNESCO intangible heritage list
- 第5回 Unit 4 Captain of Sunken South Korean Ferry Arrested by Police
- 第6回 Unit 5 Ruling LDP's debate on family expected to be rocky
- 第7回 Unit 6 Japanese 'Snoopy' island created by volcanic eruption
- 第8回 Unit 7 Launch of the Epsilon rocket
- 第9回 Unit 8 A century on stage
- 第10回 Unit 9 Dallas Observes 50th Anniversary of Kennedy Assassination
- 第11回 Unit 10 Parents unaware of dangers faced by children on smartphones
- 第12回 Unit 11 Japanese universities rush to tackle cheating in wake of STAP cell controversy
- 第13回 Unit 12 'Kindai' bluefin tuna set to delight taste buds in Osaka
- 第14回 Unit 13 Pope Francis named Time's Person of the Year
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

ニュース英語で世界を拓く Open your Eyes through News in English

著者: 渡邊あをい

出版社: 三修社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **翻訳研究**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

翻訳の基礎を学ぶ

授業の到達目標

英日翻訳に必要とされる様々な手法を学び、原文の意図を的確に訳す能力を養う。

授業の概要

講義ごとに様々な種類の翻訳に取り組む。

準備学習(予習・復習)

演習で扱った翻訳課題の復習。

内 容

第1回 講義概要・成績評価などに関する説明・英日翻訳の基礎技術 A

第2回 英日翻訳の基礎技術 B

第3回 英日翻訳の基礎技術 C

第4回 翻訳演習(歌詞)

第5回 翻訳演習(歌詞)

第6回 翻訳演習(映画字幕)

第7回 翻訳演習(映画字幕)

第8回 翻訳演習(歌詞)

第9回 翻訳演習(歌詞)

第10回 翻訳演習(雑誌記事)

第11回 翻訳演習(雑誌記事)

第12回 翻訳演習(新聞記事)

第13回 翻訳演習(新聞記事)

第14回 翻訳演習(各自、発表へ向けて課題を選択する)

第15回 発表

履修上の注意点

個人で課題に取り組むのではなく、ペア・グループで協力しながら原文が内包している意味を想像しながら訳すこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **言語理論研究**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Understanding language and linguistics

授業の到達目標

The objective of this course is to give students a way of understanding what language is, what role it plays in our society, and how it is related to the way we think and perceive the world around us.

授業の概要

In order to communicate in a native or a second or third language, it is important to know what language is, and how it can be used or misused in communication. This class is designed to give an overview of linguistics as a discipline, as well as to have the students think for themselves what communication and language use is all about.

準備学習(予習・復習)

Students are expected to read the assignments before coming to the class. For the presentations in English, students will be required to research materials related to the issue on their own.

内 容

- 第1回 Age, Status, and Family
- 第2回 Politeness
- 第3回 Feedback
- 第4回 Rituals
- 第5回 Titles
- 第6回 Modesty
- 第7回 Heart-to-Heart Communication
- 第8回 Face-to-Face Communication
- 第9回 Proverbs
- 第10回 Idioms
- 第11回 Textbook Language
- 第12回 Comparing
- 第13回 Politically Correct Language
- 第14回 Pronunciation/ Agreeing, Disagreeing
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Hand-outs

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

How Culture Affects Communication

著者: Paul Stapleton

出版社: 金星堂

出版年: 2006

ISBN: 9784764738119

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

This class will be conducted in English.

2015 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅲ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

授業の到達目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の概要

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アングロ・アメリカ文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体の知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をしっかりと見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくビデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

準備学習(予習・復習)

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内 容

第1回 イントロダクション——日本と英語圏との接触の歴史

第2回 アイルランド

第3回 英国①

第4回 英国②

第5回 英国③

第6回 アメリカ①

第7回 アメリカ②

第8回 アメリカ③

第9回 アメリカ④

第10回 アメリカ⑤

第11回 アメリカ⑥

第12回 アメリカ⑦

第13回 アメリカ⑧

第14回 アメリカ⑨;カナダ

第15回 オーストラリア;ニュージーランド;総括

履修上の注意点

自分という人間を作り上げた日本文化を他の文化、とりわけ英米の文化と比較する習慣を身につけてください。6回以上欠席すると単位が認められません。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献一覧を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参加度（20）

講義に対する感想や疑問、それと小ペーパーが評価の大きな部分を占めます。たくさん出してください。

2015 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation I**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習(予習・復習)

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
- 第2回 Unit 1 Let me introduce myself
- 第3回 Unit 2 Would you do me a favor?
- 第4回 Unit 3 Please give me some advice
- 第5回 Unit 4 How about going to the museum?
- 第6回 Unit 5 Let's decide when to meet
- 第7回 Unit 6 I have to apologize to you
- 第8回 Unit 7 Room for two?
- 第9回 Unit 8 I have a problem
- 第10回 Unit 9 We would like to invite you to a party!
- 第11回 Unit 10 How to get to his place?
- 第12回 Unit 11 This is just a reminder
- 第13回 Unit 12 Thank you for the invitation, but...
- 第14回 Unit 13 Good luck!
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 国際ビジネス実務演習 I

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 弓場 俊也

テーマ

地球規模で経済活動が普通に行われるグローバル化の時代に入り、民族、国籍、文化など異なる人々が国境を越えてビジネスをする機会が増えてきた。海外取引の多様なフィールドで活躍できる実力の養成。

授業の到達目標

貿易取引の基本的な仕組みや流れを理解し、グローバルビジネスの現場で使える実践的能力の確立。貿易実務検定C級合格レベルを目標とする。

授業の概要

海外と貿易取引をするうえで知っておくべき基本的な実務を解説し、異文化理解を取り入れた国際ビジネスノウハウをわかりやすく解説する。貿易実務関係の資格試験合格を目指す履修者にも参考になる内容とする。

準備学習(予習・復習)

予習は不要だが知識を定着させるため復習は必須。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・近年における国際ビジネス概況
- 第2回 貿易取引の流れと全体像の理解
- 第3回 国際取引交渉、マーケティング、信用調査
- 第4回 国際取引における発注と受注の仕組み
- 第5回 インコタームズ(定型貿易条件)の概要
- 第6回 国際契約書の基礎知識
- 第7回 国際契約のケーススタディ
- 第8回 外国為替の基礎知識
- 第9回 海外決済の方法と種類
- 第10回 信用状決済の仕組み
- 第11回 国際物流の概要
- 第12回 海上貨物と航空貨物
- 第13回 輸出入通関手続きについて
- 第14回 グローバルビジネスにおける異文化理解
- 第15回 総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

貿易実務のエッセンス

著者: 勝田英紀

出版社: 中央経済社

出版年: 2012年2月10日

ISBN: 9784502693809

参考書

成績評価

試験 (34%)

小テスト (33%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (33%)

適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する。

2015 Syllabus

科目名 通訳研究

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

通訳の理論と集中訓練

授業の到達目標

(1) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。(2) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。

授業の概要

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。学期末近くにゲストスピーカーを招き、実際により即した通訳を体験してもらう予定である。また同時に、通訳の基礎的な理論を学ぶ。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。自ら通訳者を目指さない受講者も、通訳者はことばの壁をどう乗り越えているのか、また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのかを知ることは、自分の英語の運用にも役立つはずである。授業はそのような観点から進めていきたい。なお、英語コミュニケーション演習Ⅰの受講者にはこの科目を同時履修することを勧める。

準備学習(予習・復習)

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、TOEIC800点程度取得、あるいは英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりすることが必須条件となる。

内 容

第1回 通訳とは、通訳実例の観察

第2回 通訳の種類と活動の場

第3回 通訳に求められるもの

第4回 通訳の研究

第5回 通訳モデル

第6回 通訳と翻訳

第7回 中間まとめ

第8回 記憶とノートテーキング

第9回 逐次通訳(1)

第10回 逐次通訳(2)

第11回 同時通訳(1)

第12回 同時通訳(2)

第13回 同時通訳(3)

第14回 通訳とデリバリー

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

通訳学101

著者: 友野百枝他

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2012

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation II**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習(予習・復習)

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
- 第2回 Unit 14 Congratulations!
- 第3回 Unit 15 It would be appreciated if...
- 第4回 Unit 16 Can I make an offer?
- 第5回 Unit 17 Thank you!
- 第6回 Unit 18 You know what?
- 第7回 Unit 19 Get well soon!
- 第8回 Unit 20 Anybody interested?
- 第9回 Unit 21 Season's Greetings!
- 第10回 Unit 22 I would like to apply for a position
- 第11回 Unit 23 Inquiry about scholarship
- 第12回 Unit 24 Sorry for your loss
- 第13回 Academic writing 1
- 第14回 Academic writing 2
- 第15回 Review and presentation

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 English Workshop III <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

7月のTOEIC試験で700点以上を目指す。Part 5頻出の文法項目を理解する。

授業の概要

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの文法・語彙パートの頻出項目を講義、演習、グループワークで学んでゆく。

準備学習(予習・復習)

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リスニング、読解問題の典型的なパターン
- 第3回 品詞(1)、Listening Part 1
- 第4回 品詞(2)、Listening Part 2
- 第5回 代名詞(1)、Listening Part 3
- 第6回 代名詞(2)、Listening Part 4
- 第7回 比較(1)、読解: 広告
- 第8回 比較(2)、読解: 広告
- 第9回 形容詞(1)、読解: 申込書
- 第10回 形容詞(2)、読解: 申込書
- 第11回 復習、実践問題
- 第12回 時制(1)、読解: 手紙、Eメール
- 第13回 時制(2)、読解: 手紙、Eメール
- 第14回 態(1)、読解: 掲示
- 第15回 態(2)、読解: 掲示
- 第16回 主述一致(1)、読解: 求人
- 第17回 主述一致(2)、読解: 求人
- 第18回 不定詞と動名詞(1)、読解: 記事
- 第19回 不定詞と動名詞(2)、読解: 記事
- 第20回 復習、実践問題
- 第21回 接続詞(1)、読解: 保証書
- 第22回 接続詞(2)、読解: 保証書
- 第23回 前置詞(1)、読解総合問題
- 第24回 前置詞(2)、読解総合問題
- 第25回 関係詞(1)、読解総合問題
- 第26回 関係詞(2)、読解総合問題
- 第27回 分詞(1)、読解総合問題
- 第28回 分詞(2)、読解総合問題
- 第29回 総復習、実践問題(1)
- 第30回 総復習、実践問題(2)

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

TOEICテスト書き込みドリル スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2010

ISBN: 4342000067

Listening Guide to the TOEIC Test

著者: Bruce Rogers

出版社: Cengage Learning

出版年: 2007

ISBN: 9784902902693

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (60%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IP
ないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

2015 Syllabus

科目名 English Workshop III

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高田 悦子・榎本 一美	
テーマ (榎本)TOEIC受験のため、文法、リスニングの強化(高田)TOEIC対策を通した英語運用能力の向上	
授業の到達目標 (榎本)リスニングと文法を学び、基本的な英語力とTOEICのスコアアップを目指す、コミュニケーションの手段としての英語を習得することがさらなる目標である。(高田)TOEICテストのスコアアップ(7月のテストで550点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。	
授業の概要 (榎本)授業中と自宅学習用に課せられた課題を確実にこなせば、必ずTOEICはスコアアップする。リスニングと文法が授業の中心になるが、本当の英語力の養成のために、スピーキングやライティングも行う。(高田)TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。※注意事項1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC450点以上の学生が対象となります。450点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。	
準備学習(予習・復習) (榎本)テキスト付随のCDを活用して、毎日英語を聞く。家庭学習は予習よりも復習を中心に行うこと。単語帳を作るなど、語彙を増やす工夫も。(高田)毎回の課題と小テストをしっかりこなしてください。	
内 容 第1回 Listening 写真問題 Grammar 主述の一致(榎本) 第2回 授業概要の説明。TOEIC対策のための学習方法に関する説明(高田) 第3回 Listening 応答問題 Grammar 品詞(榎本) 第4回 Unit 1 Shopping : Daily Life(高田) 第5回 Listening 会話問題 Grammar 修飾(榎本) 第6回 Unit 2 Shopping : Big Purchase(高田) 第7回 Listening 説明文問題 Grammar 代名詞(榎本) 第8回 Unit 3 Travel : Planes and Trains(高田) 第9回 Listening 写真問題 Grammar 現在形、進行形(榎本) 第10回 Unit 4 Travel : Hotels(高田) 第11回 Listening 応答問題 Grammar 過去形、現在完了形(榎本) 第12回 Unit 5 Entertainment : Restaurants(高田) 第13回 Listening 会話問題 Grammar 未来形(榎本) 第14回 Unit 6 Entertainment : Movies(高田) 第15回 Listening 説明文問題 Grammar 接続詞(榎本) 第16回 Unit 7 Entertainment : Cultural and Events(高田) 第17回 Listening 写真問題 Grammar 前置詞(榎本) 第18回 Unit 8 Health : Doctors and Hospitals(高田) 第19回 Listening 応答問題 Grammar 態(榎本) 第20回 Unit 9 Health : Exercise and Diet(高田) 第21回 Listening 会話問題 Grammar 動名詞(榎本) 第22回 Unit 10 Business : Group Project(高田) 第23回 Listening 説明文問題 Grammar 不定詞(榎本) 第24回 Unit 11 Business : Clerical Tasks(高田) 第25回 Listening 写真問題 Grammar 使役動詞(榎本) 第26回 Unit 12 Business : Visitor(高田) 第27回 Listening 応答問題 Grammar 自動詞、他動詞(榎本) 第28回 Unit 13 Business : Hiring(高田) 第29回 Listening 会話問題 Grammar 関係詞(榎本) 第30回 Unit 14 Leisure : Sports(高田)	
履修上の注意点	

教科書

新TOEICテスト スコア650 書き込みドリル【文法編】

著者： 早川 幸治 著

出版社：桐原書店

出版年：

ISBN:

Listening Guider to the TOEIC Test

著者： Bruce Rogers 著

出版社： Cengage Learning

出版年：

ISBN:

トピックでめざせ！TOEIC(R) Test550へ“ステップアップ”

著者： David Farnell; Greg Bevan; 秋好礼子／稲富百合子／高橋美知子／新田よしみ／光富省吾

出版社： 英宝社

出版年： 2012

ISBN: 9784269660274

参考書

成績評価

試験 ((櫃本)30% (高田)20%)

小テスト ((櫃本)20% (高田)60%)

授業中課題 ((櫃本)30%)

授業中発表等 ((櫃本)10%)

参加度 ((櫃本)10% (高田)20%)

(高田)上記試験成績は、7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意してください。

2015 Syllabus

科目名 English Workshop IV <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指す。Part 7 頻出の実社会で実用性の高い語彙・表現を受容モードで理解することができる。

Part 7 頻出の実用文書のパターンを理解するとともに、そうした文書を一定速度で理解することができる。

授業の概要

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの読解パートの頻出パターンを講義、演習、グループワークで学んでゆく。

準備学習(予習・復習)

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション前期文法項目復習(1)
- 第2回 前期文法項目復習(2), 実践演習
- 第3回 実践練習 広告文の典型的なパターン
- 第4回 前期文法項目復習(3), 実践演習
- 第5回 実践練習 書式の典型的なパターン
- 第6回 前期文法項目復習(4), 実践演習
- 第7回 実践練習 通信文の典型的なパターン
- 第8回 前期文法項目復習(5), 実践演習
- 第9回 実践練習 通知文の典型的なパターン
- 第10回 前期文法項目復習(6), 実践演習
- 第11回 実践練習 求人広告の典型的なパターン
- 第12回 前期文法項目復習(7), 実践演習
- 第13回 実践練習 記事の典型的なパターン
- 第14回 前期文法項目復習(8), 実践演習
- 第15回 実践練習 保証書の典型的なパターン
- 第16回 2文書問題の典型的なパターン(1)
- 第17回 2文書問題の典型的なパターン(2)
- 第18回 2文書問題の典型的なパターン(3)
- 第19回 総復習
- 第20回 実践問題 (1)
- 第21回 実践問題 (2)
- 第22回 実践問題 (3)
- 第23回 実践問題 (4)
- 第24回 実践問題 (5)
- 第25回 実践問題 (6)
- 第26回 実践問題 (7)
- 第27回 実践問題 (8)
- 第28回 実践問題 (9)
- 第29回 模擬問題、解答解説
- 第30回 模擬問題解説、弱点補強

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（20%）

小テスト（60%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（0）

参加度（0）

成績評価の留意点: 上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

2015 Syllabus

科目名 English Workshop IV

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高田 悦子・榎本 一美	
テーマ (榎本)TOEIC受験のため、文法、リスニングの強化(高田)TOEIC対策を通した英語運用能力の向上	
授業の到達目標 (榎本)リスニングと文法を学び、基本的な英語力とTOEICのスコアアップを目指す。コミュニケーションの手段としての英語を習得することがさらなる目標である。(高田)TOEICテストのスコアアップ(12月のテストで600点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。	
授業の概要 (榎本)授業中と自宅学習用に課せられた課題を確実にこなせば、必ずTOEICはスコアアップする。リスニングと文法が授業の中心になるが、本当の英語力の養成のために、スピーキングやライティングも行う。(高田)前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成します。※注意事項1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。	
準備学習(予習・復習) (榎本)テキスト付随のCDを活用して、毎日英語を聞く。家庭学習は予習よりも復習を中心に行うこと。単語帳を作るなど、語彙を増やす工夫も。(高田)毎回の課題と小テストをしっかりとこなしてください。	
内 容 第1回 Listening Part3 文法 接続詞(榎本) 第2回 Chapter 1 不動産 (Real Estate)(高田) 第3回 Listening Part3 文法 前置詞(榎本) 第4回 Chapter 2 環境 (Environment)(高田) 第5回 Listening Part3 文法 関係詞(榎本) 第6回 Chapter 3 ジャーナリズム (Journalism)(高田) 第7回 Listening Part3 文法 分詞(榎本) 第8回 Chapter 4 食品 (Food Products) (高田) 第9回 Listening Part3 文法 復習(榎本) 第10回 Chapter 5 製造 (Manufacturing) (高田) 第11回 Listening Part4 文法 時制問題と代名詞問題(榎本) 第12回 Chapter 6 金融 (Financing)(高田) 第13回 Listening Part4 文法 つなぎ言葉(榎本) 第14回 Chapter 7 スポーツ (Sports) (高田) 第15回 Listening Part4 文法 復習(榎本) 第16回 Chapter 8 教育 (Education)(高田) 第17回 Listening Part4 文法 語法(榎本) 第18回 Chapter 9 農水産 (Agricultural and Marine Products)(高田) 第19回 Listening Part4 文法 総復習(榎本) 第20回 Chapter 10 娯楽 (Amusement)(高田) 第21回 Listening 模擬試験 文法 模擬試験(榎本) 第22回 Chapter 11 芸術 (Art) (高田) 第23回 Listening 模擬試験 文法 模擬試験(榎本) 第24回 Chapter 12 情報通信 (Information and Communication)(高田) 第25回 Listening 模擬試験 文法 模擬試験(榎本) 第26回 Chapter 13 公共サービス (Public Services) (高田) 第27回 Listening 模擬試験 文法 模擬試験(榎本) 第28回 Chapter 14 運輸 (Transportation) (高田) 第29回 Listening まとめ(榎本) 第30回 Chapter 15 医療 (Medical Service)(高田)	
履修上の注意点	

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ((櫃本)30% (高田)20%)

小テスト ((櫃本)20% (高田)60%)

授業中課題 ((櫃本)30%)

授業中発表等 ((櫃本)10%)

参加度 ((櫃本)10% (高田)20%)

(高田)上記試験成績は、12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意してください。

2015 Syllabus

科目名 国際ビジネス実務演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 岡田 有叶

テーマ

基本貿易実務と貿易実務英語の学習を中心にグローバルビジネスを実務的に学ぶ

授業の到達目標

グローバルビジネス、特に貿易分野に進むことを希望する皆さんにとって必須知識となる貿易実務と貿易実務英語の基本を学習習得し、併せて貿易実務検定C級(できればそれ以上)の合格を目指します。

授業の概要

貿易実務、貿易実務英語を、実務担当者レベルで学習することによって、就職し、貿易実務に就いたとき、即戦力になる礎(いしずえ)を築きます。また、グローバルビジネスで関係者の関心が高いテーマの一つを選び、講座期間中、時間をかけて、そのテーマに馴染むだけでなく、深く掘り下げて考える訓練をします。貿易実務検定試験C級(更にはそれ以上)の合格も目指して、その線に沿った授業を行います。

準備学習(予習・復習)

毎回次回の学習予定範囲を伝えるので予習してきてください(1時間半程度)。また、当日学んだことの復習もお願いします(1時間半程度)。世界の政治、経済等がどのように動くかによってグローバルビジネスは大きく影響を受けます。新聞、テレビその他の報道等からこれらの動向を把握し、ビジネスと関連づけて考える習慣をつけてください。

内 容

- 第1回 貿易取引の全体像の理解
- 第2回 市場調査から契約の成立まで
- 第3回 信用状の基礎知識
- 第4回 品質条件・数量条件等
- 第5回 インコタームズの基礎知識、貿易運送
- 第6回 インコタームズの基礎知識、貿易運送
- 第7回 貨物海上保険、貿易取引に関するその他の保険
- 第8回 代金決済、船積みから輸出代金の回収、輸出貿易管理
- 第9回 船積通知の受領から貨物の引取りまで、輸入貿易管理
- 第10回 外国為替相場と為替変動リスクの回避
- 第11回 国際貿易体制の基礎知識
- 第12回 国際貿易体制の基礎知識
- 第13回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第14回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第15回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第16回 まとめと期末テスト

履修上の注意点

授業開始から終了するまで受講する姿勢をもって在席することを出席とします。授業中の私語雑談は控えてください。授業中飲食物を口にするのは禁止します。真面目に受講してください。

教科書

最新貿易実務ベーシックマニュアル(改訂1版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: MHJ出版

出版年: 2014

ISBN: 9784902499414

(上記1注:開講時点までに更に改訂されることも考えられ、その場合は、同時点での最新版を使用します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践貿易実務(第I1版)

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2012

ISBN: 9784822411138

ジェトロ貿易ハンドブック2015

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2015

ISBN: (2015.1.15現在未定)

図解貿易実務ハンドブックベーシック版(第5版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012

ISBN: 9784820747819

改訂10版 めざせ! 貿易実務検定 要点解説&過去問題

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2015年7月以降予定

ISBN:

(上記参考書注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 児童英語教育研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらいのかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス(異文化理解と英語教育について)
- 第2回 英語の指導技術について
- 第3回 歌の指導法
- 第4回 歌指導の発表 I
- 第5回 歌指導の発表 II
- 第6回 ナーサリーライムの指導法
- 第7回 ナーサリーライム指導の発表 I
- 第8回 ナーサリーライム指導の発表 II
- 第9回 フォニックスの指導法
- 第10回 フォニックス指導の発表 I
- 第11回 フォニックス指導の発表 II
- 第12回 異文化理解教育について
- 第13回 異文化理解を促す指導の発表 I
- 第14回 異文化理解を促す指導の発表 II
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

2015 Syllabus

科目名 児童英語教材研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらいのか、その目的と指導法について学ぶ。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。期末の課題としてオリジナル絵本を製作する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス(EFL学習の目的と指導)
- 第2回 チャンツの指導法
- 第3回 チャンツの指導発表 I
- 第4回 チャンツの指導発表 II
- 第5回 TPRの指導法
- 第6回 TPRの指導発表 I
- 第7回 TPRの指導発表 II
- 第8回 折々の行事について
- 第9回 Halloween Party
- 第10回 ストーリーテリングの指導法
- 第11回 オリジナル絵本製作のガイダンス
- 第12回 絵本のあらすじと構成
- 第13回 絵本のストーリーを英文にまとめる
- 第14回 絵本製作
- 第15回 絵本発表

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

2015 Syllabus

科目名 児童英語指導演習Ⅰ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 金山 敬	
テーマ 児童英語教育の実践のための演習	
授業の到達目標 児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習	
授業の概要 児童英語教育の目的と意義を理解し、実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習	
準備学習(予習・復習) 公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習	
内 容 第1回 ガイダンス(児童英語教育の目的と意義) 第2回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議① 第3回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議② 第4回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議③ 第5回 "Hi, friends!"を使った模擬授業① 第6回 "Hi, friends!"を使った模擬授業② 第7回 "Hi, friends!"を使った模擬授業③ 第8回 公立小学校における英語活動の観察実習—低中学年 第9回 公立小学校における英語活動の観察実習—高学年 第10回 小学校における観察実習の報告と討議 第11回 私立幼稚園における課外英語授業の観察実習 第12回 幼稚園における観察実習の報告と討議 第13回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)① 第14回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)② 第15回 まとめ(観察実習の総括と児童英語教育の意義の再確認) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 Hi, friends! 1 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012年 ISBN: 9784487258833	
Hi, friends! 2 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012年 ISBN: 9784487258840	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (30%) 参加度 (40%)	

2015 Syllabus

科目名 児童英語指導演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	
履修条件 「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定	
担当者 金山 敬		
テーマ 児童英語教育の実践のための演習		
授業の到達目標 児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習		
授業の概要 実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習		
準備学習(予習・復習) 公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習		
内 容 第1回 ガイダンス(英語によるコミュニケーションとその指導法) 第2回 小学校英語活動カリキュラム考察－英語教育の狙いとそのあり方－ 第3回 小学校英語活動カリキュラム発表－英語教育の狙いとそのあり方－ 第4回 小学校英語カリキュラム考察授業案 第5回 小学校英語カリキュラム発表授業案 第6回 模擬授業① 第7回 模擬授業② 第8回 模擬授業③ 第9回 小学校における教育実習① 第10回 小学校における教育実習② 第11回 幼稚園英語授業年間カリキュラム・授業案考察 第12回 幼稚園英語授業カリキュラム・授業案発表 第13回 模擬授業 第14回 幼稚園における教育実習 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 Hi, friends! 1 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012年 ISBN: 9784487258833		
Hi, friends! 2 著者: 文部科学省 出版社: 東京書籍 出版年: 2012年 ISBN: 9784487258840		
成績評価 試験 () 授業中課題 (30%) 参加度 (40%) 授業への積極的な取り組みを評価します	小テスト () 授業中発表等 (30%)	

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈*A〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar Focussing on Community Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To develop advanced and practical translation skills from and into English 2. To get students further involved in community translation projects 3. To prepare students for writing an academic paper.

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

At this stage, students should be fully prepared to take an active lead in class. This involves thorough research of their chosen theme beforehand as well as confident presentation and management of discussion in class. It is also vital that individual students listen to the responses of their classmates, and use the in-class feedback to strengthen their approaches to, and content of their graduation project. An average of at least 5 hours per week will be necessary to produce a quality graduation essay. Students should also maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind.

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

This will be a student-centred class, and students should actively participate not just when they are making presentations, but during the question/discussion time for other presentations.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈*B〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導学外授業を一回行う予定。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 学外授業
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50(ペーパー))

小テスト (0)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈*C〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈*D〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (40)

参加度 (10)

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ〈*E〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 金山 敬

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。To prepare students for writing an academic paper

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 **英語コミュニケーション演習Ⅳ〈*A〉**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar Focussing on Community Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To give students detailed and individual support for producing their graduation thesis2. To develop advanced and practical translation skills from and into English3. To support students in their community translation projects

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

At this final stage, students will receive bi-weekly individual attention outside regular class time as an aid to producing a quality thesis. An average of at least 20 hours per week will be necessary to achieve this. Students should maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind. They should also be attentive to minute detail in completing the final written version of their thesis. Mid-term they are also required to make a thoroughly researched presentation to the third-year students, and answer their questions on the content presented.

内 容

- 第1回 Deadline for thesis first draughts
- 第2回 Return of first draughts, and general comments; explanation of primary, secondary and tertiary materials
- 第3回 Outline of the requirements and general preparations for the presentations to third-year students
- 第4回 Detailed preparations for the presentations to third-year students
- 第5回 Presentations (1)
- 第6回 Presentations (2)
- 第7回 Feedback and discussion regarding the presentations
- 第8回 Individual support (1)
- 第9回 Individual support (2)
- 第10回 Individual support (3)
- 第11回 Individual support (4)
- 第12回 Final check before deadline: cover page, index, notes, bibliography
- 第13回 Post-deadline discussion
- 第14回 Peer comments: each student will read and evaluate one thesis other than their own.
- 第15回 Final round-up.

履修上の注意点

This class will mainly focus on directing individual teacher/student progress; nevertheless, students should actively participate during the general question/discussion time.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

A Textbook of Translation

著者: P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139-125935

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈*B〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表
- 第5回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第6回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第7回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての個別指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈*C〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈*D〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導。

準備学習(予習・復習)

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 (10)

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2015 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈*E〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 金山 敬

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。To give students close individual guidance on their graduation thesis

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 経営学概論(マ) <Z>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

経営学の基礎的知識や考え方を習得する。

授業の到達目標

経営学に関する基礎知識の習得を目的とする。経営とは単に利益をいかにしてあげるかではなく、営利であれ非営利であれ組織というものをどのようにマネジメントしていくかを追求していくことである。また、企業や組織はその内部ではメンバーである人をマネジメントし、同時に市場や社会などの外部環境との関わりの中で自らをマネジメントしている。つまり、経営学とは何かを学ぶことは、組織やメンバーとは何か、現代社会とは何かを考えることにも繋がる。

授業の概要

経営管理、経営組織、経営戦略、企業の成り立ち等、経営学の主要テーマを取り上げながら、それらについての基礎的な考え方(理論)や具体例をわかりやすく説明する。

準備学習(予習・復習)

先行して配布する資料には事前に目を通しておくこと。新聞等メディアに出る関連事項にも目を配ること。

内 容

- 第1回 経営学とは何か
- 第2回 企業の形態
- 第3回 経営管理
- 第4回 科学的管理
- 第5回 フォーディズム
- 第6回 組織とは何か
- 第7回 モチベーションとリーダーシップ
- 第8回 色々な組織形態
- 第9回 競争戦略
- 第10回 ドメイン戦略
- 第11回 生産の管理
- 第12回 キャリアと労働
- 第13回 株式会社の仕組み
- 第14回 コーポレートガバナンスと日本的経営
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

テキスト経営学第3版

著者: 井原久光

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN:

ゼミナール経営学入門第3版

著者: 伊丹敬之他

出版社: 有斐閣

出版年: 2003

ISBN:

よくわかる現代経営第4版

著者: よくわかる現代経営編集委員会

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 高原 正興

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

授業の到達目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジュメを作り、全員が討論に参加して、レポートを作成する能力を身につける。

授業の概要

新書版のテキスト二冊を読む。レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

必ずテキストを予習する。

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンス、自己紹介
 第2回 学生による発表・討論(1)
 第3回 学生による発表・討論(2)
 第4回 学生による発表・討論(3)
 第5回 学生による発表・討論(4)
 第6回 学生による発表・討論(5)
 第7回 学生による発表・討論(6)
 第8回 学生による発表・討論(7)
 第9回 学生による発表・討論(8)
 第10回 学生による発表・討論(9)
 第11回 学生による発表・討論(10)
 第12回 学生による発表・討論(11)
 第13回 学生による発表・討論(12)
 第14回 学生による発表・討論(13)
 第15回 総括

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

ブラック企業

著者: 今野晴貴

出版社: 文春新書

出版年: 2012

ISBN: 4-16-660887-4

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (レポート20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 今井 まりな

テーマ

大学での学び方を学ぶ

授業の到達目標

大学での学び方の基礎を習得し、発表やディスカッションに向けて報告資料の準備に慣れることを目的とする。

授業の概要

グループ分けを行い、各グループに最低4回、報告を割り当てる。各報告に間に合うように該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 大学での学び①

第3回 大学での学び②

第4回 輪読の説明

第5回 輪読①②

第6回 輪読③④

第7回 輪読⑤⑥

第8回 輪読①②

第9回 輪読③④

第10回 輪読⑤⑥

第11回 輪読①②

第12回 輪読③④

第13回 輪読⑤⑥

第14回 プレゼンテーション方法の説明及び自己紹介のプレゼンテーションの作成

第15回 自己紹介

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ

著者: 黒岩健一郎・水越康介

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN: 978-4641177178

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*C>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 高山 一夫	
テーマ 基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入	
授業の到達目標 大学での学習に必要な基本的スキルを習得する。また、受講生相互の交流を通じて、コミュニケーション能力の向上と学習への動機づけを図る。	
授業の概要 グループワークおよびテキストの輪読を内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。	
準備学習(予習・復習) 授業外において、グループワークやテキストの報告準備等を行う。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 アカデミック・スキル入門(本の読み方) 第3回 アカデミック・スキル入門(レジュメの作り方) 第4回 アカデミック・スキル入門(討論のルール) 第5回 アカデミック・スキル入門(IT機器を活用した文書共有等のグループワーク) 第6回 図書館ガイダンス(予定) 実際の図書貸借を体験する。 第7回 グループワーク I ①(学生生活に関するテーマ。KJ法を用いたブレイン・ストーミング) 第8回 グループワーク I ②(調査結果を模造紙にとりまとめる) 第9回 グループワーク I ③(学生生活に関連した調査結果の報告会) 第10回 グループワーク II ①(論点の設定と調査計画(インタビュー等)の明確化) 第11回 グループワーク II ②(調査結果についてのパワーポイント資料の作成) 第12回 グループワーク II ③(京都橘大学に関する調査結果の発表会) 第13回 テキストを用いた報告と討論 I章 第14回 テキストを用いた報告と討論 II章 第15回 テキストを用いた報告と討論 III章	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。	
教科書 いのちが危ない残業代ゼロ制度 著者: 森岡孝二、今野晴貴、佐々木亮 出版社: 岩波ブックレット 出版年: 2014 ISBN: 9784002709130	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (50) 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*D>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

情報社会における統計学的な考え方の基本

授業の到達目標

身近な問題を統計学の基本的な知識を使って考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習(予習・復習)

発表前の準備と発表後のまとめが必要です。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表方法について
- 第3回 学生による発表および議論(1)
- 第4回 学生による発表および議論(2)
- 第5回 学生による発表および議論(3)
- 第6回 学生による発表および議論(4)
- 第7回 学生による発表および議論(5)
- 第8回 前半の総括
- 第9回 学生による発表および議論(6)
- 第10回 学生による発表および議論(7)
- 第11回 学生による発表および議論(8)
- 第12回 学生による発表および議論(9)
- 第13回 学生による発表および議論(10)
- 第14回 学生による発表および議論(11)
- 第15回 全体の総括

履修上の注意点

教科書

統計学でリスクと向き合う 新版

著者: 宮川公男

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*E>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 尾関 美智子	
テーマ 大学における学習スキルの習得並びに学習習慣の確立	
授業の到達目標 この演習では、受講生が学生生活を円滑にスタートできるよう、大学で勉強するために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを、目標とする。	
授業の概要 ①大学での基本的学習スキルについての解説、②テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得	
準備学習(予習・復習) 予習復習をしっかり行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 レポートの書き方(1) 第3回 レポートの書き方(2) 第4回 レポートの書き方(3) 第5回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1) 第6回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2) 第7回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3) 第8回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4) 第9回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5) 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(6) 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(7) 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(8) 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(9) 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(10) 第15回 演習全体のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 テレビの日本語 著者： 加藤昌男 出版社： 岩波新書 出版年： 2012 ISBN： 9784004314363	
参考書 学術論文の技法【新訂版】 著者： 齊藤孝・西岡達裕 出版社： 日本エディタースクール出版 出版年： 2005 ISBN： 9784888883528	
レポート・論文の書き方入門第3版 著者： 河野哲也 出版社： 慶応義塾大学出版会 出版年： 2004 ISBN： 4-7664-0969-8	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*F>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学の学習での基礎スキル(1)
- 第3回 大学の学習での基礎スキル(2)
- 第4回 大学の学習での基礎スキル(3)
- 第5回 大学の学習での基礎スキル(4)
- 第6回 大学の学習での基礎スキル(5)
- 第7回 テキストを用いたグループワークと討論(1)
- 第8回 テキストを用いたグループワークと討論(2)
- 第9回 テキストを用いたグループワークと討論(3)
- 第10回 テキストを用いたグループワークと討論(4)
- 第11回 テキストを用いたグループワークと討論(5)
- 第12回 テキストを用いたグループワークと討論(6)
- 第13回 テキストを用いたグループワークと討論(7)
- 第14回 テキストを用いたグループワークと討論(8)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

地方消滅

著者: 増田寛也

出版社: 中公新書

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*G>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ 私たちの生活と金融	
授業の到達目標 私たちの生活や経済社会の中で金融の果たしている役割を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」を養うための基礎力を身に付けることを目標とする。	
授業の概要 金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。途中で金融の実務家の話を聞いたり、現場を探訪する機会も持つ予定。	
準備学習(予習・復習) 課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。	
内 容 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第3回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第4回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第5回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第6回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第7回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第8回 金融の実務家の話を聞く 第9回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第10回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第11回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第12回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第13回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第14回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第15回 金融の現場を探訪する	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 () 授業中課題 () 参加度 (50%)	小テスト () 授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学の学習での基礎スキル(1)
- 第3回 大学の学習での基礎スキル(2)
- 第4回 大学の学習での基礎スキル(3)
- 第5回 大学の学習での基礎スキル(4)
- 第6回 大学の学習での基礎スキル(5)
- 第7回 テキストを用いたグループワークと討論(1)
- 第8回 テキストを用いたグループワークと討論(2)
- 第9回 テキストを用いたグループワークと討論(3)
- 第10回 テキストを用いたグループワークと討論(4)
- 第11回 テキストを用いたグループワークと討論(5)
- 第12回 テキストを用いたグループワークと討論(6)
- 第13回 テキストを用いたグループワークと討論(7)
- 第14回 テキストを用いたグループワークと討論(8)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

地方消滅

著者： 増田寛也

出版社： 中公新書

出版年： 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*B〉

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ 私たちの生活と金融	
授業の到達目標 私たちの生活や経済社会の中で金融の果たしている役割を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」を養うための基礎力を身に付けることを目標とする。	
授業の概要 金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。途中で金融の実務家の話を聞いたり、現場を探訪する機会も持つ予定。	
準備学習(予習・復習) 課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。	
内 容 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第3回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第4回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第5回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第6回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第7回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第8回 金融の実務家の話を聞く 第9回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第10回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第11回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第12回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第13回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第14回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第15回 金融の現場を探訪する	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 () 授業中課題 () 参加度 (50%)	小テスト () 授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代の世界経済と日本

授業の到達目標

グローバル化の進展が世界経済と日本経済をどのように変化させているかを把握させることを通じて、現代の経済社会を見る目を養う。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行う。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習を行い、参考書を学習し、新聞などの時事問題を把握しておくことが勧められる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ゼミの進め方についての相談
 第2回 序章 世界経済における日本の課題
 第3回 第1章 アメリカと日本
 第4回 第2章 中国と日本(1)
 第5回 第2章 中国と日本(2)
 第6回 第3章 ヨーロッパと日本
 第7回 第4章 ロシアと日本
 第8回 第5章 東アジアと日本(1)
 第9回 第5章 東アジアと日本(2)
 第10回 第6章 インドと日本
 第11回 第7章 ラテンアメリカと日本
 第12回 第8章 アフリカと日本
 第13回 終章 グローバリゼーションと日本経済(1)
 第14回 終章 グローバリゼーションと日本経済(2)
 第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席の場合必ず事前に届け出ること。部活や就活による欠席は、出席扱いとはしない。

教科書

現代の世界経済と日本

著者: 西島章次他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2012

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*D>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 李 在鎬	
テーマ マネジメントの基礎を学ぶ。	
授業の到達目標 組織管理の基礎、リーダーシップ論、モチベーション論、行動原理について考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。	
授業の概要 組織理論の全体像を網羅的に捉える。	
準備学習(予習・復習) 教科書を必ず読んでくること。	
内 容 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論) 第14回 企業の展示施設などを見学する。 第15回 企業の展示施設などを見学する。	
履修上の注意点 2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。	
教科書 マネジメント入門 著者: スティーブンP.ロビンズ 出版社: ダイヤモンド社 出版年: 2014年 ISBN: 9784478028162	
参考書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (55) 参加度 (45) 基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。1回はテストに置き換えられることがあります。理解度テストは筆記試験か、口頭試問によって行われます。	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*E〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティングの基礎をつかむ

授業の到達目標

マーケティングに関する基礎知識の習得、発表やディスカッションに向けて報告資料の準備に慣れることを目的とする。

授業の概要

グループ分けを行い、各グループに最低4回、報告を割り当てる

準備学習(予習・復習)

身の回りのマーケティング現象を注意深く観察する。各報告に間に合うように該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 自己紹介の報告

第3回 輪読の説明

第4回 輪読①②

第5回 輪読③④

第6回 輪読⑤⑥

第7回 輪読①②

第8回 輪読③④

第9回 輪読⑤⑥

第10回 輪読①②

第11回 輪読③④

第12回 輪読⑤⑥

第13回 プレゼンテーション方法の説明

第14回 ビジネスアイデアを考える

第15回 ビジネスアイデアの報告

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ

著者： 黒岩健一郎・水越康介

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN: 978-4641177178

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*F>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	高山 一夫	
テーマ	基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入	
授業の到達目標	大学での学習に必要な基本的スキルを習得するとともに、受講生相互の交流を通じて、コミュニケーション能力の向上と学習への動機づけを図る。また、医療経営、医療政策に係る基本的事項を学ぶ。	
授業の概要	グループワークおよびテキストの輪読を内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンスやキャリアガイダンスも開催する。	
準備学習(予習・復習)	授業外において、グループワークのための調査やテキストの報告準備等を行う。	
内 容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 グループワーク(グループ分け、テーマ設定)</p> <p>第3回 グループワーク(KJ法を用いたブレインストーミングと仮説のとりまとめ)</p> <p>第4回 グループワーク(調査結果を模造紙にとりまとめる)</p> <p>第5回 グループワーク(調査結果の報告会)</p> <p>第6回 図書館ガイダンス(予定)</p> <p>第7回 アカデミック・スキル入門(本の読み方)</p> <p>第8回 アカデミック・スキル入門(討論の仕方)</p> <p>第9回 アカデミック・スキル入門(レジュメの作り方)</p> <p>第10回 アカデミック・スキル入門(IT機器を活用した文書共有等のグループワーク)</p> <p>第11回 テキストを用いた報告と討論 1章</p> <p>第12回 テキストを用いた報告と討論 2章</p> <p>第13回 テキストを用いた報告と討論 3章</p> <p>第14回 テキストを用いた報告と討論 4章</p> <p>第15回 キャリアガイダンス(予定)</p>	
履修上の注意点	病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。	
教科書	<p>医療・介護問題を読み解く</p> <p>著者： 池上直己</p> <p>出版社： 日経文庫</p> <p>出版年： 2014</p> <p>ISBN: 9784532113117</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 (50)</p> <p>参加度 (50)</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*G〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 尾関 美智子		
テーマ		
大学における学習スキルの習得ならびに学習習慣の確立		
授業の到達目標		
この演習では、受講生が大学で勉強するために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを目標とする。		
授業の概要		
①大学での基本的学習スキルについての確認、②テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得		
準備学習(予習・復習)		
予習復習をしっかりと行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。		
内 容		
第1回 ガイダンス		
第2回 大学での学び(1)		
第3回 大学での学び(2)		
第4回 大学での学び(3)		
第5回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1)		
第6回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2)		
第7回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3)		
第8回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4)		
第9回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5)		
第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(6)		
第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(7)		
第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(8)		
第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(9)		
第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(10)		
第15回 演習全体のまとめ		
履修上の注意点		
教科書		
テレビの日本語		
著者: 加藤昌男		
出版社: 岩波新書		
出版年: 2012		
ISBN: 9784004313786		
参考書		
学術論文の技法【新訂版】		
著者: 齊藤孝・西岡達裕		
出版社: 日本エディタースクール出版部		
出版年: 2005		
ISBN: 9784888883528		
レポート・論文の書き方入門第3版		
著者: 河野哲也		
出版社: 慶応義塾大学出版会		
出版年: 2004		
ISBN: 4766409698		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)	
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 救急救命実習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 通年	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二・福岡 範恭	
テーマ 救急活動の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。	
授業の概要 通年の講義及び実習の他、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。	
準備学習(予習・復習) 翌週に実施する項目の課題(300文字～500文字にまとめる)を与える。その項目のテキストを熟読及びまとめること。その日の項目の実技が習得できない場合は、翌週の授業までに各班で全員が個人練習を実施すること。	
内 容	
第1回 オリエンテーション、各個訓練(訓練礼式)	
第2回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人)、1人法、AED取扱い	
第3回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人・小児・乳児) 1人法・2人法、AED取り扱い、ポケットマスク使用法	
第4回 一次救命処置(救急隊活動)、BVM(バックバルブマスク)の使用法	
第5回 一次救命処置(救急隊活動)、気道閉塞の対応、	
第6回 器具を使用した人工呼吸(経鼻エアウエイ、経口エアウエイ)、酸素投与方法	
第7回 救急隊員が行う一次救命処置・救急隊活動	
第8回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法)の効果測定	
第9回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法	
第10回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法	
第11回 傷病者観察資機材の取扱い方法(聴診器、検眼灯、血圧計等)	
第12回 搬送資機材の取扱い(メインストレッチャー、スクープストレッチャー、エアーストレッチャー)	
第13回 外傷処置の固定 基本手技(JPTEC準拠)	
第14回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)	
第15回 前期まとめ、水難実習におけるロープワーク	
第16回 傷病者観察の基本1 (外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)基本手技の徹底(ログロール、BB固定、ストレッチャーへの積載方法)	
第17回 傷病者観察の基本1 (外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)①緊急処置 ②ヘルメット離脱方法 ③立位BB、Fireman Lift、Frat Lift ④KED	
第18回 傷病者観察器具 (心電図の基本を学ぶ) 心電図機器(除細動器)の使用法、各人への取り付け方法、心肺停止傷病者の心電図波形	
第19回 傷病者観察器具 (喉頭鏡、喉頭展開、異物除去) ダミーを用いた喉頭鏡の使用法、基本的手技	
第20回 傷病者観察器具 (喉頭鏡、喉頭展開、異物除去) 喉頭鏡使用による異物除去、吸引、BVM、酸素投与等の隊活動準拠	
第21回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) 状況評価⇒初期評価 通信指令室からの情報聴取と確認	
第22回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) 車内活動要領と病院報告 GUNBAやMISTの取得方法と第一報の報告要領	
第23回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) シナリオにそった隊活動 第二報の実施方法	
第24回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) シナリオにそった隊活動	
第25回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠) まとめ	
第26回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応) 医療面接とコミュニケーション	
第27回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応) 状況評価から初期評価、重点観察	
第28回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応) 内因性疾患傷病者への隊活動 (CPAでない傷病者対応、急変あり)	
第29回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応) 内因性疾患傷病者への隊活動 シナリオ開示訓練 (CPAでない傷病者対応、急変あり)	
第30回 後期まとめ・総括 実技と講義の効果測定	

履修上の注意点

履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9784892695902

JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2010

ISBN： 9784892697036

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697449

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697456

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697463

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697470

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697487

参考書

成績評価

試験（10）

小テスト（10）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（40）

80%以上。実技試験を実施する。

2015 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難) <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 集中

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 関根 和弘・福岡 範恭

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使っての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 水難救助法の実際を習得国土舘大学ウエルネス・リサーチセンター(以下、「WRC」という。)が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科(1日)と実技(3日間)の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象(プール、河川、湖沼及び海等)に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難)

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	喜熨斗 智也	
テーマ	水難救助実習	
授業の到達目標	<p>特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使っての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。</p>	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内容	<p>第1回 水難救助法の実際を習得国土舘大学ウエルネス・リサーチセンター(以下、「WRC」という。)が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科(1日)と実技(3日間)の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象(プール、河川、湖沼及び海等)に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 (20)	小テスト ()	
授業中課題 (30)	授業中発表等 ()	
参加度 (50)		

2015 Syllabus

科目名 現代企業論 <Z>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習(予習・復習)

経済新聞の精読をお薦めします。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論とM&A
- 第13回 会社機関
- 第14回 証券取引市場
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

履修上の注意点

企業に関する理論と経営実践とを照らし合わせて考える習慣を身につけてください。

教科書

企業論

著者： 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

テスト以外の「みなし評価」は原則的に認めておりません。

2015 Syllabus

科目名 会計学入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

財務諸表の概要を学ぶ

授業の到達目標

財務諸表の仕組みを学ぶことをとおして経営活動の本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習(予習・復習)

復習を必ず行ってもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス資金の流れと会計的思考
- 第2回 制度としての会計システム財務会計と関連法規
- 第3回 財務諸表の仕組み・役割
- 第4回 資産の意義と分類1
- 第5回 資産の意義と分類2
- 第6回 負債の意義と分類1
- 第7回 負債の意義と分類2
- 第8回 純資産の意義と分類1
- 第9回 純資産の意義と分類2
- 第10回 損益計算書のルール
- 第11回 損益計算の仕組み1
- 第12回 損益計算の仕組み2
- 第13回 財務管理1
- 第14回 財務管理2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 医療マネジメント入門 <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経営についての入門科目

授業の到達目標

医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する

授業の概要

医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。

準備学習(予習・復習)

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
- 第2回 概説－医療経営の特徴
- 第3回 医療制度(医療保険制度の概要)
- 第4回 医療制度(介護保険分野)
- 第5回 医療制度(医療法と医療法人制度)
- 第6回 医療制度(医療・介護総合改革)
- 第7回 中間まとめと理解度の確認
- 第8回 医療経営(人的資源管理)
- 第9回 医療経営(業務管理)
- 第10回 医療経営(資金管理)
- 第11回 医療経営(リスク管理)
- 第12回 医療技術評価の基礎
- 第13回 医療技術評価の基礎
- 第14回 外部講師による特別講演(予定)
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

医療・介護問題を読み解く

著者: 池上直己

出版社: 日経文庫

出版年: 2014

ISBN: 9784532113117

医療の選択

著者: 桐野高明

出版社: 岩波新書

出版年: 2014

ISBN: 9784004314929

2015年版イラスト図解医療費の仕組み

著者: 木村憲洋、川越満

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2014

ISBN: 9784534051776

成績評価

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 (25)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **社会調査・フィールドワーク入門 <Z>**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

社会調査の意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

授業の到達目標

「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容(社会調査の基本知識)を身につける。

授業の概要

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類を紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

準備学習(予習・復習)

テキストの予習・復習に努める

内 容

- 第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的
- 第2回 社会学と社会調査の歴史
- 第3回 調査方法論 調査倫理
- 第4回 量的調査と質的調査
- 第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
- 第6回 調査票調査
- 第7回 調査票作成
- 第8回 サンプリング
- 第9回 データ化作業
- 第10回 データ分析
- 第11回 フィールドワークとはなにか
- 第12回 フィールドワークの事例
- 第13回 聞き取り調査 参与観察法
- 第14回 ドキュメント分析
- 第15回 (まとめ)社会調査の意義
- 第16回 試験

履修上の注意点

期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。

教科書

新・社会調査へのアプローチ

著者: 大谷信介他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2013

ISBN: 9784623066544

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

授業中課題は3回のレポートによる。

2015 Syllabus

科目名 **ビジネス数学<Z>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定

担当者

テーマ

経営管理問題の解決の方法をコンピューターの活用を通して学習する。

授業の到達目標

ビジネスに関する問題解決を支援する経営科学の手法について、表計算ソフトであるMS-Excelを用いた具体的な事例の分析を通して理解し、経営科学における基礎的なアプローチを学習するとともに、それに必要となるPCおよびExcelの基本的操作を身に付ける。

授業の概要

コンピュータを活用した経営科学の手法について学習する。また、データの視覚化機能で作成されるグラフを通して、データの表現に関する理解を深める。

準備学習(予習・復習)

特に連続するテーマでは、前回の授業の内容を確認して授業に臨むようにしてください。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 データの処理:統計データのグラフと特性値(1)
- 第3回 データの処理:統計データのグラフと特性値(2)
- 第4回 需要予測:回帰分析と時系列分析による定量的方法(1)
- 第5回 需要予測:回帰分析と時系列分析による定量的方法(2)
- 第6回 需要予測:回帰分析と時系列分析による定量的方法(3)
- 第7回 待ち行列理論:サービス窓口での顧客の並びのシミュレーション(1)
- 第8回 待ち行列理論:サービス窓口での顧客の並びのシミュレーション(2)
- 第9回 前半のまとめ
- 第10回 在庫管理:定量発注システムと定期発注システム(1)
- 第11回 在庫管理:定量発注システムと定期発注システム(2)
- 第12回 在庫管理:定量発注システムと定期発注システム(3)
- 第13回 線形計画法:目的関数を用いた最適化(1)
- 第14回 線形計画法:目的関数を用いた最適化(2)
- 第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 経営学入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松石 泰彦	
テーマ	
経営学の基礎的知識や考え方を習得する。	
授業の到達目標	
経営学に関する基礎知識の習得を目的とする。経営とは単に利益をいかにしてあげるかではなく、営利であれ非営利であれ組織というものをどのようにマネジメントしていくかを追求していくことである。また、企業や組織はその内部ではメンバーである人をマネジメントし、同時に市場や社会などの外部環境との関わりの中で自らをマネジメントしている。つまり、経営学とは何かを学ぶことは、組織やメンバーとは何か、現代社会とは何かを考えることにも繋がる。	
授業の概要	
経営管理、経営組織、経営戦略、企業の成り立ち等、経営学の主要テーマを取り上げながら、それらについての基礎的な考え方(理論)や具体例をわかりやすく説明する。	
準備学習(予習・復習)	
先行して配布する資料には事前に目を通しておくこと。新聞等メディアに出る関連事項にも目を配ること。	
内 容	
第1回 経営学とは何か	
第2回 企業の形態	
第3回 経営管理	
第4回 科学的管理	
第5回 フォーディズム	
第6回 組織とは何か	
第7回 モチベーションとリーダーシップ	
第8回 色々な組織形態	
第9回 競争戦略	
第10回 ドメイン戦略	
第11回 生産の管理	
第12回 キャリアと労働	
第13回 株式会社の仕組み	
第14回 コーポレートガバナンスと日本的経営	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
テキスト経営学第3版	
著者: 井原久光	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2008	ISBN:
ゼミナール経営学入門第3版	
著者: 伊丹敬之他	
出版社: 有斐閣	
出版年: 2003	ISBN:
よくわかる現代経営第4版	
著者: よくわかる現代経営編集委員会	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2014	ISBN:
成績評価	
試験 (80)	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 **医療事務研究 I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 秋期集中	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 森本 育子	
テーマ 医療事務研究	
授業の到達目標 医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。	
授業の概要 短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解・自宅で練習問題を行う。	
準備学習(予習・復習) ①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究 I・IIをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 医療保険制度 第3回 窓口業務 第4回 初診料 第5回 再診料 第6回 医学管理・在宅医療 第7回 投薬1 第8回 投薬2 第9回 注射1 第10回 注射2 第11回 処置1 第12回 処置2 第13回 手術 第14回 輸血・麻酔 第15回 修了試験1	
履修上の注意点	
教科書 教科書については第1回目の授業にて販売 16.432円(予定) 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (30%) 小テスト (0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%)	

2015 Syllabus

科目名 **医療事務研究Ⅱ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 秋期集中	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 森本 育子	
テーマ 医療事務研究	
授業の到達目標 医療事務技能審査(医科)=メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。	
授業の概要 短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解・自宅で練習問題を行う。	
準備学習(予習・復習) ①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること	
内 容 第1回 検査1 第2回 検査2 第3回 検査3 第4回 検査4 第5回 画像診断1 第6回 画像診断2・リハビリテーション 第7回 入院料・接遇 第8回 レセプト点検1 第9回 レセプト点検2 第10回 レセプト点検3 第11回 レセプト点検4 第12回 レセプト点検5 第13回 試験対策(学科) 第14回 試験対策(点検) 第15回 修了試験2	
履修上の注意点	
教科書 教科書については医療事務研究Ⅰの第1回目の授業にて販売 16.432円(予定) 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (30%) 小テスト(0%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等(0%) 参加度 (40%)	

2015 Syllabus

科目名 簿記演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。	
授業の到達目標 会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。	
授業の概要 講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。	
準備学習(予習・復習) 同じ問題を何度も解いてみること。	
内 容 第1回 ガイダンス:企業経営と簿記会計の役割 第2回 複式簿記の意義と目的 第3回 財務諸表の仕組み:貸借対照表と損益計算書との関係 第4回 取引の分類と集計の方法:仕訳と勘定記入 第5回 商品取引1 第6回 商品取引2 第7回 現金取引1 第8回 現金取引2 第9回 手形取引1 第10回 手形取引2 第11回 種々の債権債務取引1 第12回 種々の債権債務取引2 第13回 有価証券 第14回 有形固定資産 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 完全合格のための日商簿記3級 著者: 大原簿記学校編 出版社: 大原出版 出版年: ISBN:	
参考書 簿記 I 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記 II 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記 III 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (30)	小テスト (20)

2015 Syllabus

科目名 **簿記演習Ⅱ <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をととして複式簿記の科学性を理解する。	
授業の到達目標 会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。	
授業の概要 講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。	
準備学習(予習・復習) 同じ問題を何度も解いてみること。	
内 容 第1回 合計残高試算表 第2回 帳簿組織1:仕訳帳・総勘定元帳 第3回 帳簿組織2:現金出納帳・当座預金出納帳 第4回 帳簿組織3:小口現金出納帳 第5回 帳簿組織4:手形記入帳 第6回 帳簿組織5:仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳 第7回 帳簿組織6:商品有高帳 第8回 伝票会計 第9回 決算手続1:売上原価の計算 第10回 決算手続2:貸倒引当金の設定 第11回 決算手続3:減価償却 第12回 決算手続4:費用収益の繰延・見越し 第13回 決算手続5:その他の決算修正仕訳・英米式決算法 第14回 決算報告:財務諸表の作成 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 完全合格のための日商簿記3級テキスト 著者: 大原簿記学校編 出版社: 大原出版 出版年: ISBN:	
参考書 簿記Ⅰ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅱ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅲ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	

成績評価

a50101e450

試験 (30)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 金融入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけでなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

授業の到達目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の概要

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

準備学習(予習・復習)

近年話題になっている「アベノミクス」や「ビットコイン」について、できるだけ新聞やインターネットなどを利用して意味を調べておいてください。

内 容

- 第1回 金融を学ぶ意義: 社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
- 第2回 金融機関の種類と業務の概要: 全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
- 第3回 銀行(1): 銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
- 第4回 銀行(2): 銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
- 第5回 銀行(3): 銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
- 第6回 銀行(4): 銀行と地域の企業や産業が深いかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
- 第7回 保険(1): 保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
- 第8回 保険(2): 生命保険会社の業務について学びます(生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など)。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
- 第9回 保険(3): 損害保険会社の業務について学びます(損害保険の仕組み、商品の種類など)。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
- 第10回 金融商品取引業(1): 直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
- 第11回 金融商品取引業(2): 金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
- 第12回 金融商品取引業(3): 金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
- 第13回 ノンバンク(1): ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
- 第14回 ノンバンク(2): ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
- 第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イラスト図解 銀行のしくみ

著者: 戸谷圭子

出版社: 日本実業出版社

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 公共経営入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

公共経営の理論と実践

授業の到達目標

・公共部門が社会の中で果たす役割について理解する。・公共部門がどのような組織から成り立っているかを理解する。・公共部門で働くこととはどのようなことかを理解する。

授業の概要

公共部門における経営は、政府やその関連機関の組織の経営だけを指すのではない。公共部門は社会そのものを経営する要としても重要な役割を担っている。この授業では、この2つの視点から、公共経営の役割と仕組み、公共経営改革などをはじめとして、公共経営について理解することを目指す。また、都道府県庁・市役所職員などをゲストスピーカーとして招き、公共部門で働くということは実際どのようなことなのかについても学ぶ。授業計画は以下のとおりであるが、ゲストスピーカーの都合等により日程を入れ替える場合がある。

準備学習(予習・復習)

新聞やニュースに関心を持ち、公共部門をめぐる世の中の動きに注意しておく必要がある。しかし、報道されるのは真実の一面でしかない。社会のために、公共部門がどのように動いているのか、実際に目で見て確かめる機会を持つことも重要である。

内 容

- 第1回 イントロダクション:日本の公共部門
- 第2回 公共経営の役割(1)
- 第3回 公共経営の役割(2)
- 第4回 公共経営の役割(3)
- 第5回 公共経営の目的(1)
- 第6回 公共経営の目的(2)
- 第7回 公共経営のしくみ(1)
- 第8回 公共経営のしくみ(2)
- 第9回 公共経営のしくみ(3)
- 第10回 公共経営の実際(1)
- 第11回 公共経営の実際(2)
- 第12回 公共経営改革(1)
- 第13回 公共経営改革(2)
- 第14回 公共経営改革(3)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書を用いないため、遅刻、欠席をすると授業内容がわからなくなる可能性が高いので、注意してほしい。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 医療経営入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ 医療経営についての入門科目	
授業の到達目標 医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する	
授業の概要 医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。	
準備学習(予習・復習) 受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	
内 容 第1回 ガイダンスと話題提供 第2回 概説－医療経営の特徴 第3回 医療制度(医療保険制度の概要) 第4回 医療制度(介護保険分野) 第5回 医療制度(医療法と医療法人制度) 第6回 医療制度(医療・介護総合改革) 第7回 中間まとめと理解度の確認 第8回 医療経営(人的資源管理) 第9回 医療経営(業務管理) 第10回 医療経営(資金管理) 第11回 医療経営(リスク管理) 第12回 医療技術評価の基礎 第13回 医療技術評価の基礎 第14回 外部講師による特別講演(予定) 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 医療・介護問題を読み解く 著者: 池上直己 出版社: 日経文庫 出版年: 2014 ISBN: 9784532113117 医療の選択 著者: 桐野高明 出版社: 岩波新書 出版年: 2014 ISBN: 9784004314929 2015年版イラスト図解医療費の仕組み 著者: 木村憲洋、川越満 出版社: 日本実業出版社 出版年: 2014 ISBN: 9784534051776	
成績評価	

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 (25)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス入門**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 李 在鎬	
テーマ	
グローバル企業の世界を舞台とした戦略、管理、組織、調達、マーケティングについて学ぶ。	
授業の到達目標	
グローバル企業の経営者の観点から、グローバル経営環境を分析する基本的な枠組みを身に着ける。特に、日系企業を分析対象の中心に据えおき、海外進出の経営実践的手法とその背景にある理論的考察を行う。	
授業の概要	
当該分野における先行研究を踏まえた上で、海外進出を図る日系企業の経営者の視点に立って、事前検討事項から海外進出先の選定、事業計画書の作成、工場の竣工などを想定して、必要な手法と原理を学ぶ。ただし、本授業の運営においては、受講生の人数に合わせて、柔軟に行う。また、グローバルな視点から国際経済経営に関する記事にも触れ、同時代における問題意識をもつ。	
準備学習(予習・復習)	
BBCや日経テレコムなどを駆使して、海外企業や日本企業のグローバル化について調べておくこと。	
内 容	
第1回	グローバルビジネス論の概要説明
第2回	グローバルビジネスの環境の認識と日系企業の海外展開
第3回	企業はなぜグローバル化するのか。特に日系企業の進出目的を明確にする。
第4回	グローバルビジネス論と多国籍企業概念
第5回	多国籍企業論(1)ハイマの優位性論
第6回	多国籍企業論(2)内部化理論
第7回	多国籍企業論(3)進化モデル
第8回	総括と理解度チェック
第9回	グローバル企業の経営戦略(1)
第10回	グローバル企業の経営戦略(2)
第11回	グローバル企業の組織論
第12回	本社と海外子会社の企業間関係
第13回	日本企業はグローバルスタンダードを志向すべきか、ローカルに適応すべきか。
第14回	グローバル市場競争に関する映像資料の鑑賞(DVD)または、グローバルビジネスに関するケーススタディを行う。
第15回	全体の総括と理解度チェック、または、学外授業を行う場合がある。
履修上の注意点	
各回の授業内容が前後する場合や休講と補講が行われる場合がある。	
教科書	
使用しないししない。レジュメ—を中心に行う。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (80)	小テスト (0)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (0)
参加度 (10)	
受講生の人数によって、授業の進行方式が変更することがある。	

2015 Syllabus

科目名 現代企業論 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習(予習・復習)

経済新聞の精読をお薦めします。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論とM&A
- 第13回 会社機関
- 第14回 証券取引市場
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

履修上の注意点

企業に関する理論と経営実践とを照らし合わせて考える習慣を身につけてください。

教科書

企業論

著者： 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

テスト以外の「みなし評価」は原則的に認めておりません。

2015 Syllabus

科目名 **社会調査論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	
テーマ	
社会調査の意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。	
授業の到達目標	
「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容(社会調査の基本知識)を身につける。	
授業の概要	
下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。	
準備学習(予習・復習)	
テキストの予習・復習に努める	
内 容	
第1回	社会調査とは何か 社会調査の目的
第2回	社会学と社会調査の歴史
第3回	調査方法論 調査倫理
第4回	量的調査と質的調査
第5回	国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
第6回	調査票調査
第7回	調査票作成
第8回	サンプリング
第9回	データ化作業
第10回	データ分析
第11回	フィールドワークとはなにか
第12回	フィールドワークの事例
第13回	聞き取り調査 参与観察法
第14回	ドキュメント分析
第15回	(まとめ)社会調査の意義
第16回	試験
履修上の注意点	
期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。	
教科書	
新・社会調査へのアプローチ	
著者： 大谷信介他	
出版社： ミネルヴァ書房	
出版年： 2013	ISBN： 9784623066544
参考書	
成績評価	
試験 (50%)	小テスト ()
授業中課題 (30%)	授業中発表等 ()
参加度 (20%)	
授業中課題は3回のレポートによる。	

2015 Syllabus

科目名 現代企業と法 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 山田 廣己

テーマ

企業とその法規制

授業の到達目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の概要

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。

準備学習(予習・復習)

ほぼ毎回、講義内容の概要を示すレジュメを配布します。必ず受け取って、講義前、講義中に読むようにして下さい。新聞やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織や活動に興味を持つよう心がけて下さい。

内 容

- 第1回 経済活動と企業：企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度：企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制：企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織：個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員：株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ：会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金：企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)：株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗：企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任：企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)：独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)：独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)：手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)：手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

履修上の注意点

講義室の前の席に座るようにしてください。出席して講義を聴くのは当然のことです。配布するレジュメを机の上に置き、それを見ながら、講義に集中して下さい。

教科書

特に指定しない。講義レジュメを配布します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間の中頃にレポート提出を求めます。最終講義日に小テストを実施します。必ず受験してください。以上を総合的に判断して評価します。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問して、その日の疑問はその日で解決して下さい。

2015 Syllabus

科目名 医療統計学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

診療情報を解析、活用するための統計学の基礎的知識を身につける。

授業の到達目標

各種の診療情報を活用する手段としての統計的方法とデータの視覚化の方法を身につける。統計的方法として具体的には、収集した観測値を要約する記述統計、標本調査から母集団の特性を推し測る推測統計の基礎的方法などを学ぶ。

授業の概要

毎回の授業では、統計学の分析方法についてデータを用いた計算を通じて理解することが中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業で扱った演習問題の復習をおこなってください。

内 容

- 第1回 変量と尺度
- 第2回 記述統計(1) 度数分布表とヒストグラム
- 第3回 記述統計(2) 代表値
- 第4回 記述統計(3) 散布度
- 第5回 記述統計(4) 散布図と相関係数
- 第6回 記述統計(5) 回帰直線
- 第7回 前半のまとめ
- 第8回 推測統計(1) 母集団と標本、確率変数と確率分布
- 第9回 推測統計(2) 正規分布
- 第10回 推測統計(3) 点推定と区間推定
- 第11回 推測統計(4) 量的変量の仮説検定
- 第12回 推測統計(5) 質的変量の仮説検定
- 第13回 データのグラフ表現
- 第14回 病院の統計資料
- 第15回 後半のまとめ

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

参考書

診療情報管理Ⅲ

著者： 武田隆久

出版社： 日本病院会

出版年： 2012

ISBN:

統計学入門

著者： 東京大学教養学部統計学教室

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1991

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 医療概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 石橋 修

テーマ

医療概論と臨床医学総論

授業の到達目標

医療概論では、医学医療の歴史から制度、現代直面する問題を大きな視点で概括し、理解することを目指します。臨床医学総論では、臨床医学を学ぶ上での基本的な考え方と知識を説明し、今後の医学分野の学習の基礎を作ることを目指します。

授業の概要

診療情報管理士テキストに沿って講義します。時間が許せば医療現場での具体的な事例等を提示してイメージを持つ助けにします。適宜小テストをして、理解の具合を確認して講義の改善に生かします。病院の見学などの学外授業を適宜行います。

準備学習(予習・復習)

医学や医療に関連した、書籍、論文、記事、映画、テレビドラマ、小説、などに触れるように努力してください。

内 容

第1回 講義の概要説明。医学、医療とは。

第2回 医学と医療の歴史 医学の起源 20世紀のの医学

第3回 医学と医療の歴史;我が国の医学と医療の歴史

第4回 現代医療;実例等も示して概説し、現場での医療のイメージを持ってもらうことを目標とします。

第5回 医の倫理;実際に鈴層の現場で起こっている倫理的問題等も提示し、問題意識を持ってもらうことを目標とします

第6回 社会保障制度と医療制度;制度の概略と基本的な理念と実際を理解し、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。

第7回 介護保険制度;制度の概略と基本的な理念と実際を理解し、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。

第8回 医療法、公衆衛生、地域保健について概説します。

第9回 予防医学について概説します。

第10回 健康と疾病;健康と疾病についての基本的な考え方を学びます。

第11回 疾病の原因と病理1;テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。

第12回 疾病の原因と病理2;テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。

第13回 疾病の検査方法と診断;テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。

第14回 疾病の治療;テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。

第15回 まとめ;全体を通じて必要な内容を補います。まとめの試験をします。

履修上の注意点

やむを得ない欠席の場合(冠婚葬祭や病気で診断書のある場合など)は考慮しますので申し出てください。参考書;診療情報管理 1—診療情報管理士テキスト 基礎・医学編 第6版

教科書

参考書

診療情報管理 1基礎・医学編6版

著者: 武田隆久

出版社: 日本病院会

出版年: 2012/07

ISBN: 4903448096

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

試験: 15回目の講義でまとめの試験をします。60点以上を目指してください。小テスト;適宜行います。課題;毎回の講義の感想文などです。出席は8回以下にならないようにしてください。試験、小テストは上記の参考書、講義資料のみ持ち込み可です。見学などは講義の振替とし、相談して日程を決めます。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*A>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

学習スキルの向上と学習習慣の確立

授業の到達目標

超高齢化・少子化社会へと変動するなかで、家族関係や夫婦関係なども大きく変化してきている。このような現状を理解し、おとなの「発達」をテーマに、アイデンティティやジェンダー、これからの自分の生き方を考えてみる。

授業の概要

テキストを用いてグループ・ワークを行い、そこで得た知識や主張について討論する。

準備学習(予習・復習)

テキストの予習と復習、グループ・ワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保存すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 テキストを用いた学習と討論(1)

第3回 テキストを用いた学習と討論(2)

第4回 テキストを用いた学習と討論(3)

第5回 テキストを用いた学習と討論(4)

第6回 テキストを用いた学習と討論(5)

第7回 テキストを用いた学習と討論(6)

第8回 テキストを用いた学習と討論(7)

第9回 テキストを用いた学習と討論(8)

第10回 テキストを用いた学習と討論(9)

第11回 テキストを用いた学習と討論(10)

第12回 テキストを用いた学習と討論(11)

第13回 テキストを用いた学習と討論(12)

第14回 テキストを用いた学習と討論(13)

第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

おとなが育つ条件

著者: 柏木恵子

出版社: 岩波新書

出版年: 2013

ISBN: 9784004314363

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ <*B>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	李 在鎬	
テーマ	経営組織論の基礎を学ぶ。	
授業の到達目標	組織を成功に導く経営者の経営理論、戦略立案、リーダーシップについて考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。	
授業の概要	マネジメント入門書を輪読・発表・議論し、読解力、探求能力を鍛える。	
準備学習(予習・復習)	経済新聞の精読をお勧めします。	
内 容	<p>第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定</p> <p>第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第14回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック</p> <p>第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点	報告日に無断欠席する場合、単位認定が厳しくなることがあります。	
教科書	<p>マネジメント入門</p> <p>著者: スティブンP.ロジンス</p> <p>出版社: ダイヤモンド社</p> <p>出版年: 2014年 ISBN:</p>	
参考書	<p>私用しない。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (55)</p> <p>参加度 (45)</p> <p>基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*C>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	
テーマ 現代の経済社会と金融の役割	
授業の到達目標 私たちの生活や経済社会の中で金融の果たしている役割を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」を養うための基礎力を身に付けることを目標とする。	
授業の概要 金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。途中で金融の実務家の話を聞いたり、現場を探訪する機会も持つ予定。	
準備学習(予習・復習) 課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。	
内 容 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第3回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第4回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第5回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第6回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第7回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第8回 金融の実務家の話を聞く 第9回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第10回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第11回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第12回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第13回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第14回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第15回 金融の現場を探訪する	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 () 授業中課題 () 参加度 (50%)	小テスト () 授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*D>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ	外国為替の仕組み, 日銀の金融政策, および, 政府の財政政策の中身をできるだけやさしく学ぶ
授業の到達目標	新聞の経済記事を理解できるようになること
授業の概要	基本的には, 全受講生に, 順番に報告をしてもらう。その際に, 決められた様式のレジュメを作成し, 全員に配布をすること。報告後に質疑応答を行う。
準備学習(予習・復習)	報告が行われる内容については, 事前にテキストを読んでおくこと。その他については, 随時指示する。

内 容

- 第1回 ガイダンス:ゼミの進め方, 発表の仕方, レジュメの書き方などについて説明
 第2回 報告・質疑応答:外国為替の研究1
 第3回 報告・質疑応答:外国為替の研究2
 第4回 報告・質疑応答:外国為替の研究3
 第5回 報告・質疑応答:外国為替の研究4
 第6回 報告・質疑応答:日銀の金融政策の研究1
 第7回 報告・質疑応答:日銀の金融政策の研究2
 第8回 報告・質疑応答:日銀の金融政策の研究3
 第9回 報告・質疑応答:日銀の金融政策の研究4
 第10回 報告・質疑応答:政府の財政政策の研究1
 第11回 報告・質疑応答:政府の財政政策の研究2
 第12回 報告・質疑応答:政府の財政政策の研究3
 第13回 報告・質疑応答:グローバル経済と日本について1
 第14回 報告・質疑応答:グローバル経済と日本について2
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

経済のニュースがよくわかる本(日本経済編)

著者: 細野真宏

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

参考書

金融の基本と常識

著者: 永野良佑

出版社: フォレスト出版

出版年:

ISBN:

デフレ下の金融・財政・為替政策

著者: 湯本雅士

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

地方消滅・東京一局集中が招く人口急減

著者: 増田寛也

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

日銀を知れば経済が解る

著者： 池上彰

出版社： 平凡社

出版年：

ISBN：

外国為替の知識

著者： 国際通貨研究所

出版社： 日本経済新聞出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*E>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学の学習での基礎スキル(1)
- 第3回 大学の学習での基礎スキル(2)
- 第4回 大学の学習での基礎スキル(3)
- 第5回 大学の学習での基礎スキル(4)
- 第6回 大学の学習での基礎スキル(5)
- 第7回 テキストを用いたグループワークと討論(1)
- 第8回 テキストを用いたグループワークと討論(2)
- 第9回 テキストを用いたグループワークと討論(3)
- 第10回 テキストを用いたグループワークと討論(4)
- 第11回 テキストを用いたグループワークと討論(5)
- 第12回 テキストを用いたグループワークと討論(6)
- 第13回 テキストを用いたグループワークと討論(7)
- 第14回 テキストを用いたグループワークと討論(8)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

地方消滅

著者: 増田寛也

出版社: 中公新書

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ〈*救A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 土井 一弘

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 レディネス診断
- 第2回 比・割合
- 第3回 手順の論理 — ハノイの塔・渡船問題・天秤問題 —
- 第4回 対応関係の論理 — マトリックス・ナンプレ —
- 第5回 場合の数
- 第6回 確率を信じますか クラスメイトの誕生日・降水確率
- 第7回 代表値と散らばり具合
- 第8回 箱ひげ図
- 第9回 統計の落とし穴 — シンプソンパラドックス・モンティホール問題 —
- 第10回 平面図形1
- 第11回 平面図形2
- 第12回 立体図形1
- 第13回 立体図形2
- 第14回 総復習1
- 第15回 総復習2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業中課題とはノート提出のこと小テストは宿題提出で代用することもある

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ〈*救B〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	土井 一弘	
テーマ	数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける	
授業の到達目標	救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための基礎的な数学を学習する	
授業の概要	基礎的な数学の演習	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 レディネス診断 第2回 比・割合 第3回 手順の論理 — ハノイの塔・渡船問題・天秤問題 — 第4回 対応関係の論理 — マトリックス・ナンプレ — 第5回 場合の数 第6回 確率を信じますか クラスメイトの誕生日・降水確率 第7回 代表値と散らばり具合 第8回 箱ひげ図 第9回 統計の落とし穴 — シンプソンパラドックス・モンティホール問題 — 第10回 平面図形1 第11回 平面図形2 第12回 立体図形1 第13回 立体図形2 第14回 総復習1 第15回 総復習2	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 (60) 小テスト (10) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 授業中課題とはノート提出のこと小テストは宿題提出で代用することもある	

2015 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ〈*A〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

製品・サービスのヒットの理由を考える。

授業の到達目標

情報探索や報告のスキルを身に付ける。自身の報告や他人の報告を聞くことを通じて、特定の業界・企業・製品に詳しくなる。

授業の概要

業界ごとにグループ分けを行い、最低3回報告する。報告では各自が報告資料を作成し、報告、ディスカッションを行う。最終的に製品・サービスのヒットした理由に関するレポートを作成し、提出する。

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。なお、参考書を一読することで、製品・サービスのヒットの理由に関する理解が深まる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報探索や報告の方法
- 第3回 報告1: 業界構造(グループ1)
- 第4回 報告1: 業界構造(グループ2)
- 第5回 報告1: 業界構造(グループ3)
- 第6回 報告1: 業界構造(グループ4)
- 第7回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ1)
- 第8回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ2)
- 第9回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ3)
- 第10回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ4)
- 第11回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ1)
- 第12回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ2)
- 第13回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ3)
- 第14回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ4)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

売れる仕掛けはこうしてつくる

著者: 栗木契・余田拓郎・清水信年

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 978-4532312985

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 (45)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今久保 幸生

テーマ

グローバル化のなかの世界経済を考える。

授業の到達目標

グローバル化が世界経済にどのような影響を及ぼしているかを学習することを通じて、現代の世界経済の特徴を把握させ、そこで
の自らの立ち位置を確かめられるようにする。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行うことを通じて、ディスカッションの仕方を習得させる。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習は当然行う。時事問題に関する新聞等にも常時触れておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション。ゼミの方法に関する学習
- 第2回 序章 国際経済を見る眼
- 第3回 第1章 国際貿易
- 第4回 第2章 国際金融
- 第5回 第3章 経済統合
- 第6回 第4章 貧困と開発
- 第7回 第5章 人口と食料
- 第8回 第6章 資源とエネルギー
- 第9回 第7章 地球環境問題
- 第10回 第8章 アメリカ
- 第11回 第9章 ヨーロッパ
- 第12回 第10章 日本
- 第13回 第11-12章 アジアNIES・(アセアンASEAN)
- 第14回 第13章 中国
- 第15回 第14章 BRICs

履修上の注意点

無断欠席は認めない。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

私たちの国際経済 第3版

著者： 東京経済大学国際経済グループ

出版社： 有斐閣

出版年： 2013

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 片岡 裕介

テーマ

地域の拡がりの中で経済現象を理解する。

授業の到達目標

社会経済的な現象に対する空間的側面からのアプローチについて、基礎的な考え方を身に付けるとともに、具体的な事例を通して理解する。

授業の概要

位置や場所に関わるデータを用いた分析およびビジネス等への活用事例について扱う。具体的には、公共施設や商業施設の立地、流通システムの空間構造に関するテーマを予定している。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地域の分析(1)
- 第3回 地域の分析(2)
- 第4回 地域の分析(3)
- 第5回 プレゼンテーションの技術(1)
- 第6回 プレゼンテーションの技術(2)
- 第7回 前半の内容整理
- 第8回 文献発表および議論(1)
- 第9回 文献発表および議論(2)
- 第10回 文献発表および議論(3)
- 第11回 文献発表および議論(4)
- 第12回 文献発表および議論(5)
- 第13回 文献発表および議論(6)
- 第14回 文献発表および議論(7)
- 第15回 全体の総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*D〉

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 河野 充央

テーマ

管理会計の研究を通して、マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

企業経営における会計の役割を理解する。日経新聞・日経ビジネスなどを無理なく読めるような力を養う。

授業の概要

原理原則・理論を学びながら、ビジネスの最前線の出来事に目を向ける。必要に応じて、工場見学等の学外学習を行う。

準備学習(予習・復習)

復習を必ず行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンスプレゼミで学ぶ内容の概説
- 第2回 戦略的コストマネジメントの意義
- 第3回 製造活動とコストマネジメント1
- 第4回 製造活動とコストマネジメント2
- 第5回 製造活動とコストマネジメント3
- 第6回 製造活動とコストマネジメント4
- 第7回 製造活動とコストマネジメント5
- 第8回 マーケティング活動とコストマネジメント1
- 第9回 マーケティング活動とコストマネジメント2
- 第10回 マーケティング活動とコストマネジメント3
- 第11回 経営戦略とコストマネジメント1
- 第12回 経営戦略とコストマネジメント2
- 第13回 製造業のコストマネジメント戦略
- 第14回 サービス業のコストマネジメント戦略
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN:

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN:

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN:

コトラーのマーケティングマネジメント

著者： フィリップ・コトラー(恩蔵直人監訳)

出版社： パーソン・エデュケーション・ジャパン

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*E〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 近藤 隆則	
テーマ 現代の金融機関の特徴と課題	
授業の到達目標 現代の金融機関の特徴や課題を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」や「金融機関を就職対象として考えるための知見」を身に付けることを目標とする。	
授業の概要 金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。途中で金融の実務家の話を聞いたり、現場を探訪する機会も持つ予定。	
準備学習(予習・復習) 課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。	
内 容 第1回 演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定 第2回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第3回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第4回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第5回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第6回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第7回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第8回 金融の実務家の話を聞く 第9回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第10回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第11回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第12回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第13回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第14回 担当学生による報告と討論(A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論) 第15回 金融の現場を探訪する	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: 参考書 12大事件で読む現代金融入門 著者: 倉都康行 出版社: ダイヤモンド社 出版年: 2014 ISBN: 4478028540 名銀行家列伝 著者: 北康利 出版社: 中央公論新社 出版年: 2012 ISBN: 4121504380	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (50%) 参加度 (50%)	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ <*F>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

公共部門の経済学について学ぶ

授業の到達目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける。・経済学的な視点から社会現象を考えることができるようになる。

授業の概要

政府の活動は私たちの暮らしにとって無くてはならないものです。このゼミでは、経済の中での政府の働きを理解するのに欠かせない公共経済学や財政学の基本的な内容を学び、自分自身で研究する際の基礎を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要である。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

内 容

- 第1回 ガイダンス:テキストおよび分担の決定
- 第2回 情報検索演習(1)
- 第3回 情報検索演習(2)
- 第4回 プレゼンテーションの技術(1)
- 第5回 プレゼンテーションの技術(2)
- 第6回 プレゼンテーションの技術(3)
- 第7回 テキストの輪読(1)
- 第8回 テキストの輪読(2)
- 第9回 テキストの輪読(3)
- 第10回 テキストの輪読(4)
- 第11回 テキストの輪読(5)
- 第12回 テキストの輪読(6)
- 第13回 テキストの輪読(7)
- 第14回 テキストの輪読(8)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスをを行うこと。

教科書

受講生との相談のうえ決定する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*G〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

社会学系ゼミで学習する

授業の到達目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会的な見方や分析のしかたを身につける。

授業の概要

①テキストの予習→レジュメにもとづく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→全員の感想②視聴覚教材による社会問題の学習とレポート作成、学外授業

準備学習(予習・復習)

テキストは必ず予習すること

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンスと自己紹介
 第2回 学生による発表・討論(1)
 第3回 学生による発表・討論(2)
 第4回 学生による発表・討論(3)
 第5回 学生による発表・討論(4)
 第6回 学生による発表・討論(5)
 第7回 学生による発表・討論(6)
 第8回 学生による発表・討論(7)
 第9回 学生による発表・討論(8)
 第10回 学生による発表・討論(9)
 第11回 山科青少年活動センターの見学
 第12回 視聴覚教材による学習(1)
 第13回 視聴覚教材による学習(2)
 第14回 視聴覚教材による学習(3)
 第15回 総括

履修上の注意点

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

新版 社会学のエッセンス

著者: 友枝敏雄他

出版社: 有斐閣

出版年: 2007

ISBN: 4-641-12338-0

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*H〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	高山 一夫	
テーマ	医療経営に関する基礎的な学習	
授業の到達目標	医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める	
授業の概要	グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、大学での学びに必要なアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業(施設訪問)を企画する。	
準備学習(予習・復習)	授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業の企画を立案する。	
内 容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 図書館ガイダンス</p> <p>第3回 グループワーク(グループ分けとテーマ設定)</p> <p>第4回 グループワーク(仮説とアウトラインの明確化)</p> <p>第5回 グループワーク(論点の掘り下げ)</p> <p>第6回 グループワーク(調査の一応のとりまとめ)</p> <p>第7回 グループワーク(パワーポイント資料の作成)</p> <p>第8回 グループワーク成果発表会</p> <p>第9回 キャリアガイダンス(予定)</p> <p>第10回 テキストを用いた発表と討論</p> <p>第11回 テキストを用いた発表と討論</p> <p>第12回 テキストを用いた発表と討論</p> <p>第13回 テキストを用いた発表と討論</p> <p>第14回 学外授業(予定)</p> <p>第15回 演習全体のまとめ</p>	
履修上の注意点	病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業や自主ゼミ等に積極的に参加すること。	
教科書	未定	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	安倍政権の医療・社会保障改革	
著者:	二木立	
出版社:	勁草書房	
出版年:	2014	ISBN: 9784326700820
成績評価	試験 () 小テスト ()	
	授業中課題 ()	授業中発表等 (50)
	参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ < * I >

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

地域の産業や企業について学ぶ

授業の到達目標

・産業や企業の成り立ち・変遷・現状を知り、今後の課題や戦略を長期的視点から考える・卒業論文の作成に必要な資料や文献の調べ方や整理の仕方を身につける・ワープロや表計算、プレゼンテーションなどのツールの使いこなし方に習熟する

授業の概要

地域企業や産業集積について、まずそのとらえ方や政策など様々な論点を、文献輪読を通じて基礎的知識として学ぶ。次に、地域産業について知るための各種の資料の存在や、その探し方、データのまとめ方など基礎的テクニック・スキルを学ぶ。なお、下記の予定以外に適宜映像教材を用いたり、フィールドワークに出ることも考えている。

準備学習(予習・復習)

出された課題については、社会人に向けての自覚と責任を持って準備してくること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストの輪読と討論(1)
- 第3回 テキストの輪読と討論(2)
- 第4回 テキストの輪読と討論(3)
- 第5回 テキストの輪読と討論(4)
- 第6回 テキストの輪読と討論(5)
- 第7回 テキストの輪読と討論(6)
- 第8回 テキストの輪読と討論(7)
- 第9回 テキストの輪読と討論(8)
- 第10回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(1)
- 第11回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(2)
- 第12回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(3)
- 第13回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(4)
- 第14回 文献・各種資料の調べ方とまとめ方(5)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

授業で相談の上決定する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*J〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李在鎬

テーマ

経営組織論の原理と実戦を学ぶ。

授業の到達目標

組織の中の個人の問題を理解し、組織の効果的経営の原理について理解を深める。

授業の概要

組織行動学の専門書を輪読・発表・議論し、読解力、探求能力を鍛える。

準備学習(予習・復習)

経済新聞の精読をお勧めします。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第14回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック
 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

報告日に無断欠席する場合、単位認定が厳しくなることがあります。

教科書

組織行動のマネジメント

著者: スティブンP.ロジンス

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2011年

ISBN: 9784478004593

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。

2015 Syllabus

科目名 救急症候学 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	藤野 和典	
テーマ	外傷総論	
授業の到達目標	<p>救急医療のうち、特に外傷救急医学について学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を習得する。また外傷を引き起こす原因・メカニズムや(受傷機転)、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷(多発外傷)の特徴や病態・症状、観察と応急処置なども理解する。なお、各授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを毎回行います。</p>	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 外傷総論外傷の定義と種類、疫学 第2回 出血と止血機構、創傷と感染出血の種類と病態生理、創傷の治療機転 第3回 受傷機転、損傷の特徴外傷別発生機序とそれらの特徴 第4回 多発外傷多発外傷の病態と観察・処置 第5回 妊婦・小児・高齢者の外傷特徴と観察・処置 第6回 ショックについて原因と分類 第7回 ショックの病態生理生体反応と重症度 第8回 観察と判断観察のポイント 第9回 重症度評価状況評価と重症度評価のポイント 第10回 応急処置と搬送初期評価と応急処置 第11回 応急処置と搬送搬送時の注意点 第12回 演習 第13回 演習 第14回 まとめ 第15回 試験とまとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (60%) 小テスト (30%) 授業中課題 (0%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (10%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅳ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 関根 和弘	
テーマ 救急現場活動に必要な知識と技術・コミュニケーション力	
授業の到達目標 救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送方法や救急活動に関連する法律について理解することを目的とする。	
授業の概要 講義及び実習	
準備学習(予習・復習) 前半は、改訂8版救急救命士標準テキスト第2版を使用する。中盤は資料を作成したものを前週に配布し、翌週に演習を行う。配布した資料を熟読しておくこと。	
内 容 第1回 救急活動の概論(DVD閲覧における救急体制の理解、ディスカッション) 第2回 救急現場活動(救急医療システム、救急搬送システム、救急情報システム、概論) 第3回 救急現場活動(周産期医療、医療計画と救急救護体制、救急医療情報システム、各論) 第4回 救急現場活動(病院前救護体制、救急活動の基本) 第5回 救急現場活動(救急の無線交信と出場) 第6回 救急現場のコミュニケーションスキル(コミュニケーションスキルの概論)講義と実習 第7回 救急現場のコミュニケーションスキル(消防・救急における情報の伝達)講義と実習 第8回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接)講義と実習 第9回 救急現場のコミュニケーションスキル(医療面接と情報伝達)講義と実習 第10回 救急行政と救急関連法規(メディカルコントロールと事後検証制度) 第11回 救急活動と法律問題(医療業務に係る体系、救急救命士の名称独占と業務独占について) 第12回 惨事ストレスマネジメント(救助救急隊員のための惨事ストレス対策) 第13回 救急現場等の安全管理(危険予知訓練)講義と実習 第14回 海外の病院前救護体制(米国・英国や仏国等と日本の病院前救護体制の違い) 第15回 救急現場のコミュニケーション、情報の収集と評価・確認と周知、まとめ	
履修上の注意点 前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。	

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9784892695902

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697449

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697456

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697463

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN: 9784892697470

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN: 9784892697487

参考書

救急活動コミュニケーションスキル

著者： 坂本哲也/畑中哲生/松本尚

出版社： (株)メディカルサンエンス

出版年： 2009

ISBN: 9784903843063

惨事ストレスへのケア

著者： 松井 豊

出版社： (株)おうふう

出版年： 2009

ISBN: 9784273035341

はじめての医療面接

著者： 斉藤清二

出版社： 医学書院

出版年： 2000

ISBN: 4260138677

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

60%以上

2015 Syllabus

科目名 救急症候学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 池田 栄人・高階 謙一郎

テーマ

外傷による損傷とショック

授業の到達目標

①ショックの病態を理解する、②外傷におけるショックの特徴を理解する、③頭部、顔面・頸部、胸部、腹部、骨盤の外傷を理解する、④妊婦、高齢者などの外傷の特徴を理解する

授業の概要

教科書ベースに作成された問題を回答してもらいながら、理解度に応じて解説を加えていく。必要に応じて、スライド資料によるミニ講義を追加していく。

準備学習(予習・復習)

教科書の担当単元の予習。使用した問題の復習。

内 容

第3回 外傷性ショックの特徴1(池田,4/23)

第4回 外傷性ショックの特徴2(池田,4/23)

第5回 腹部外傷1(高階,4/23)

第6回 腹部外傷2(高階,4/23)

第7回 頭部外傷1(池田,5/7)

第8回 頭部外傷2(池田,5/7)

第9回 胸部外傷1(高階,5/28)

第10回 胸部外傷2(高階,5/28)

第11回 顔面・頸部外傷1(池田,6/18)

第12回 顔面・頸部外傷2(池田,6/18)

第13回 骨盤、妊婦、高齢者外傷1(高階,7/2)

第14回 骨盤、妊婦、高齢者外傷2(高階,7/2)

第15回 まとめ、ミニテスト(池田,7/16)

第1回 ショックの分類と病態1(池田,4/9)

第2回 ショックの分類と病態2(池田,4/9)

履修上の注意点

50%以上の出席が必要

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (30%)

参加度 ()

出席点(40%) + 小テスト点(30%) + 授業中の問題回答点(30%)の合計で評価。小テストに参加できなかった場合、レポート提出による評価を考慮する。

2015 Syllabus

科目名 人的資本の経済学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

経済学の視点から、組織と人的資源を分析する

授業の到達目標

・組織の経済学の基本的な考え方を理解する・人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する

授業の概要

入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学は以下に分析することが可能なのに焦点を当てる。

準備学習(予習・復習)

クイズ形式での予習と復習を予定しているので、授業の事前事後に行っておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:教科書的な経済学が描く世界
 第2回 組織と個人(1):取引関係と雇用関係
 第3回 組織と個人(2):契約と交渉
 第4回 組織と個人(3):長期雇用と賃金カーブ
 第5回 人的資本の理論(1):資本としての人間の能力
 第6回 人的資本の理論(2):割引現在価値と内部収益率
 第7回 人的資本の理論(3):特殊訓練と一般訓練
 第8回 家計生産モデル(1):家族内労働と時間配分
 第9回 家計生産モデル(2):家族内の時間配分と労働供給
 第10回 組織と市場(1):市場における調整と組織における調整
 第11回 組織と市場(2):隠れた情報と隠れた行動
 第12回 プリンシパル=エージェント関係(1):シグナリング・モデル
 第13回 プリンシパル=エージェント関係(2):インセンティブ設計の理論
 第14回 プリンシパル=エージェント関係(3):ヒエラルキーと権限配分
 第15回 まとめ

履修上の注意点

積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に関連文献を紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **経営戦略論 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経営戦略に関する教科書を手がかりに、経営戦略の基礎的な理論や応用例を説明することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の概要

教科書に即して、経営学の理論と具体例を系統的に説明するが、教科書で触れられていないことも説明する。教科書の理解は必要だが授業での教科書以外の説明も重要だということである。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習および新聞記事などの時事問題の予習

内 容

- 第1回 授業全体の進め方ガイダンス
- 第2回 経営戦略の概念と体系
- 第3回 製品市場戦略と多角化
- 第4回 資源展開戦略とPPM
- 第5回 競争戦略と競争優位
- 第6回 リソース・バースト・ビューと知識
- 第7回 経営戦略と組織
- 第8回 ネットワーク組織と組織間関係
- 第9回 M&A戦略と企業価値
- 第10回 情報ネットワークと経営戦略
- 第11回 グローバリゼーションと経営戦略
- 第12回 地球環境問題と経営戦略
- 第13回 起業と経営戦略
- 第14回 イノベーションと経営戦略
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

私語は厳禁とする。部活や就活による欠席は出席扱いとは見なしません。

教科書

経営戦略新版

著者: 大滝精一他

出版社: 有斐閣

出版年: 2006

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **経営組織論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

経営組織の基本原理を学ぶ。

授業の到達目標

経営組織の全体像を把握した上で、主要理論について理解を深めることが本教科の目的である。

授業の概要

経営組織の概要及び、ミクロ理論(個人と組織間の関係からとらえる観点)とマクロ理論(環境の中で機能するシステムとして捉える視点)の諸理論を学習する。

準備学習(予習・復習)

教科書とレジュメの予習をしてから授業に臨んでください。また、経済新聞の精読をお薦めします。

内 容

- 第1回 講義概要と経営組織論の概要説明
- 第2回 多様な組織観
- 第3回 組織論における人間観
- 第4回 モチベーション
- 第5回 個人と組織との関係
- 第6回 集団と組織
- 第7回 組織とリーダーシップ
- 第8回 前半内容の総括及び理解度チェック
- 第9回 組織文化
- 第10回 経営戦略と組織
- 第11回 分業の形態
- 第12回 組織設計の原理
- 第13回 組織構造、またはDVD資料鑑賞
- 第14回 組織変革
- 第15回 後半内容の総括及び理解度チェック

履修上の注意点

教科書

経営組織

著者: 金井壽宏

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

理解度テストをレポート提出に振り替えるなどの見なし評価は基本的に認めませんので注意してください。

2015 Syllabus

科目名 経営情報システム論 <Z>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

授業の到達目標

情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の概要

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

準備学習(予習・復習)

授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。

内 容

- 第1回 インTRODククション
- 第2回 情報化社会の進展
- 第3回 情報化社会における経営情報
- 第4回 情報技術の基礎
- 第5回 経営情報システムの変遷
- 第6回 経営戦略と情報システム
- 第7回 経営組織と情報システム
- 第8回 システムとネットワーク
- 第9回 知識と経営
- 第10回 経営情報と流通(1) 情報化と流通システム
- 第11回 経営情報と流通(2) チェーンストアと物流システム
- 第12回 地域社会における経営情報(1) 情報セキュリティと情報倫理
- 第13回 地域社会における経営情報(2) エリアマーケティング
- 第14回 地域社会における経営情報(3) 位置情報サービス
- 第15回 地域社会における経営情報(4) 不動産ビジネス

履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

経営情報論 新版

著者: 遠山暁・村田潔・岸真理子

出版社: 有斐閣

出版年: 2008

ISBN:

経営情報システム

著者: 宮川公男

出版社: 中央経済社

出版年: 2004

ISBN:

日本の流通と都市空間

著者: 荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004

ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学

著者： 高橋敏朗編

出版社： 日科技連出版社

出版年： 2005

ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者： 村山祐司・柴崎亮介編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 人的資源管理論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 李在鎬

テーマ

組織成員を最も大事な経営資源として捉え、組織成員が成長でき、且つ人的資源を最大限に活用及び拡大再生産できる組織のあり方を学ぶ分野である。

授業の到達目標

企業などの組織内で行われている採用、職務設計、人事考課、報酬、昇進、人材育成に関する手法とその根幹をなす諸理論を理解することが本教科の主要な獲得目標である。

授業の概要

授業の前半において人的資源開発の基本的な概念を習い、後半では関連理論を学習する。

準備学習(予習・復習)

経済新聞の精読をお勧めします。

内 容

- 第1回 労務管理の概要
- 第2回 採用と退職
- 第3回 人事異動
- 第4回 人事制度
- 第5回 能力開発
- 第6回 職場の能率
- 第7回 労働条件と職場環境
- 第8回 人的資源管理の制度とコンセプトの総括と理解度チェック
- 第9回 古典的組織理論
- 第10回 人間関係論
- 第11回 モチベーション論(1)
- 第12回 モチベーション論(2)
- 第13回 リーダーシップ論(1)またはDVD資料鑑賞
- 第14回 リーダーシップ論(2)
- 第15回 人的資源の関連理論の総括と理解度チェック

履修上の注意点

教科書

使わない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

講義資料は授業中配られます。

2015 Syllabus

科目名 マーケティング論 I

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティング論の視点を身につける。

授業の到達目標

マーケティング論に関する基礎概念を理解する。企業のマーケティング活動の実例を知り、マーケティング論の視点から読み解く力を養う。

授業の概要

マーケティング論の基礎概念について、企業の実例を交えながら解説する。また、履修者にもマーケティングの知識を運用する機会を設ける。具体的には履修者に最低1回のレポート課題の提出を義務付ける。詳細は初回のガイダンスで連絡するので、履修予定者は必ず出席すること。

準備学習(予習・復習)

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マーケティングとは何か
- 第3回 マーケティング・マネジメントの基本枠組み
- 第4回 製品・サービスのデザイン①(製品・サービスの捉え方と分類)
- 第5回 製品・サービスのデザイン②(新製品開発プロセス)
- 第6回 価格のデザイン
- 第7回 流通チャネルのデザイン
- 第8回 プロモーションのデザイン
- 第9回 マーケティング資源の配分
- 第10回 事業の定義
- 第11回 競争構造の理解
- 第12回 製品ライフサイクル
- 第13回 市場地位別戦略
- 第14回 国際マーケティング
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

ゼミナール・マーケティング入門(第2版)

著者: 石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2013

ISBN:

、『売れる仕掛けはこうしてつくる

著者: 栗木契・余田拓郎・清水信年

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 産業論 I (コンテンツ産業) <Z>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 秀和

テーマ

コンテンツ産業と呼ばれる産業部門が成長・成熟していく過程を1960年代以降の産業構造の変化を踏まえつつ読み解く

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量はその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの各種コンテンツの現状と課題を読み解きつつ、同時にその手法を修得してもらおうと思います。

授業の概要

この授業では、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を提示しながら、大衆社会の形成と成熟した産業社会における、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をコンテンツ産業の現状と課題を通じてみなさんと考えていきたいと思っています。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらいアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答は次回の授業冒頭に行うという形態をとります。

準備学習(予習・復習)

授業後は、講義で紹介した内容のコンテンツに接してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション-産業構造と生活構造-
- 第2回 フォードシステムの導入と生活構造の変化
- 第3回 メディアの発達と大衆社会の進展
- 第4回 労使協調主義経済と世界経済の趨勢
- 第5回 産業社会の成熟とコンテンツ産業の変容
- 第6回 消費社会の到来と新規コンテンツ産業の萌芽
- 第7回 バブル経済と消費社会(不夜城社会の経験)
- 第8回 コミュニケーション媒体の多様化と産業構造の変貌
- 第9回 もう一つの社会変化—モノ社会からイメージの社会へ—
- 第10回 グローバル社会における産業と生活
- 第11回 クールジャパン戦略とコンテンツ産業
- 第12回 コンテンツ産業の定義と分類
- 第13回 映像系コンテンツ産業と音声系コンテンツ産業の現状と課題
- 第14回 ゲーム系コンテンツ産業とテキスト系コンテンツ産業の現状と課題
- 第15回 産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (15)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

試験60については、レポート課題とします。

2015 Syllabus

科目名 応用簿記演習 I <Z>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習(予習・復習)

同じ問題を何度も解いてみること。

内 容

- 第1回 ガイダンス:企業経営と簿記会計の役割
- 第2回 複式簿記の意義と目的
- 第3回 財務諸表の仕組み:貸借対照表と損益計算書との関係
- 第4回 取引の分類と集計の方法:仕訳と勘定記入
- 第5回 商品取引1
- 第6回 商品取引2
- 第7回 現金取引1
- 第8回 現金取引2
- 第9回 手形取引1
- 第10回 手形取引2
- 第11回 種々の債権債務取引1
- 第12回 種々の債権債務取引2
- 第13回 有価証券
- 第14回 有形固定資産
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

完全合格のための日商簿記3級

著者: 大原簿記学校編

出版社: 大原出版

出版年: ISBN:

参考書

簿記 I

著者: 武田隆二

出版社: 税務経理協会

出版年: ISBN:

簿記 II

著者: 武田隆二

出版社: 税務経理協会

出版年: ISBN:

簿記 III

著者: 武田隆二

出版社: 税務経理協会

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

2015 Syllabus

科目名 応用簿記演習Ⅱ <Z>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定 員
履修条件 「応用簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者	
テーマ 「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。	
授業の到達目標 会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。	
授業の概要 講義をベースに、練習問題を随時、解きながら進める。小テストを実施したり、宿題を提出してもらったりする場合もある。	
準備学習(予習・復習) 同じ問題を何度も解いてみること。	
内 容 第1回 合計残高試算表 第2回 帳簿組織1:仕訳帳・総勘定元帳 第3回 帳簿組織2:現金出納帳・当座預金出納帳 第4回 帳簿組織3:小口現金出納帳 第5回 帳簿組織4:手形記入帳 第6回 帳簿組織5:仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳 第7回 帳簿組織6:商品有高帳 第8回 伝票会計 第9回 決算手続1:売上原価の計算 第10回 決算手続2:貸倒引当金の設定 第11回 決算手続3:減価償却 第12回 決算手続4:費用収益の繰延・見越し 第13回 決算手続5:その他の決算修正仕訳・英米式決算法 第14回 決算報告:財務諸表の作成 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 完全合格のための日商簿記3級テキスト 著者: 大原簿記学校編 出版社: 大原出版 出版年: ISBN:	
参考書 簿記Ⅰ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅱ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	
簿記Ⅲ 著者: 武田隆二 出版社: 税務経理協会 出版年: ISBN:	

成績評価

a50102e350

試験 (30)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ファイナンス論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけでなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

授業の到達目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の概要

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

準備学習(予習・復習)

近年話題になっている「アベノミクス」や「ビットコイン」について、できるだけ新聞やインターネットなどを利用して意味を調べておいてください。

内 容

- 第1回 金融を学ぶ意義: 社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
- 第2回 金融機関の種類と業務の概要: 全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
- 第3回 銀行(1): 銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
- 第4回 銀行(2): 銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
- 第5回 銀行(3): 銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
- 第6回 銀行(4): 銀行と地域の企業や産業が深いかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
- 第7回 保険(1): 保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
- 第8回 保険(2): 生命保険会社の業務について学びます(生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など)。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
- 第9回 保険(3): 損害保険会社の業務について学びます(損害保険の仕組み、商品の種類など)。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
- 第10回 金融商品取引業(1): 直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
- 第11回 金融商品取引業(2): 金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
- 第12回 金融商品取引業(3): 金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
- 第13回 ノンバンク(1): ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
- 第14回 ノンバンク(2): ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
- 第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イラスト図解 銀行のしくみ

著者: 戸谷圭子

出版社: 日本実業出版社

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 企業と法〈Z〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 山田 廣己

テーマ

企業とその法規制

授業の到達目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の概要

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。

準備学習(予習・復習)

ほぼ毎回、講義内容の概要を示すレジュメを配布します。必ず受け取って、講義前、講義中に読むようにして下さい。新聞やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織や活動に興味を持つよう心がけて下さい。

内 容

- 第1回 経済活動と企業：企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度：企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制：企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織：個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員：株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ：会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金：企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)：株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗：企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任：企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)：独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)：独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)：手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)：手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

履修上の注意点

講義室の前の席に座るようにしてください。出席して講義を聴くのは当然のことです。配布するレジュメを机の上に置き、それを見ながら、講義に集中して下さい。

教科書

特に指定しない。講義レジュメを配布します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間の中頃にレポート提出を求めます。最終講義日に小テストを実施します。必ず受験してください。以上を総合的に判断して評価します。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問して、その日の疑問はその日で解決して下さい。

2015 Syllabus

科目名 **広告とマスメディア**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな・加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場—広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット—

授業の到達目標

各種メディア制作の考え方やそのプロセスを知ることを通じて、メディアの現状とその可能性について理解する。さらに、メディアと履修者との関わり方について考え、メディアを活用する能力を養う。

授業の概要

講師の都合により下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が変更になる場合がある。

準備学習(予習・復習)

メディア関係の文献に目を通しておくこと。

内 容

- 第1回 本講義の趣旨 今井まりな
- 第2回 広告とは—〈広告産業論〉(株)大広関西
- 第3回 広告マーケティング(株)広告
- 第4回 クリエイティブ(株)大広
- 第5回 メディア環境論Ⅰ(メディア環境変化と広告)(株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第6回 メディア環境論Ⅱ(デジタルメディアの伸展)(株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第7回 テレビ業界 KBS京都 アナウンス部
- 第8回 新聞業界 朝日新聞社
- 第9回 出版業界
- 第10回 テレビ番組制作の現場
- 第11回 ラジオ業界
- 第12回 映画ビジネス
- 第13回 エンターテインメントビジネス
- 第14回 マスメディアの学説と広告効果 今井まりな
- 第15回 総括 今井まりな

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

参加度は、授業への出席および小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

2015 Syllabus

科目名 医療政策論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ	
現代日本社会における医療・社会保障制度の役割	
授業の到達目標	
貧困・格差拡大とグローバル化に留意しつつ、日本の医療制度と社会保障に関する基本的な知識を習得する	
授業の概要	
医療制度と社会保障の役割と改革課題について、講義形式で授業を行う。	
準備学習(予習・復習)	
受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会保障総論(貧困・格差と社会保障の機能)
- 第3回 社会保障総論(社会保障の財政と国際比較)
- 第4回 医療制度と改革課題(医療保険制度)
- 第5回 医療制度と改革課題(医療提供体制)
- 第6回 介護保険制度の概要と改革課題
- 第7回 医療・介護総合改革
- 第8回 中間まとめと理解度の確認
- 第9回 社会保障制度各論(公的年金制度とその改革)
- 第10回 社会保障制度各論(雇用保険と労災保険)
- 第11回 社会保障制度各論(社会福祉と生活保護)
- 第12回 グローバル時代と医療政策(米国の医療保険制度改革)
- 第13回 グローバル時代の医療政策(自由貿易協定と医療制度)
- 第14回 グローバル時代の医療政策(途上国と国際保健医療)
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む

著者: 松田亮三編

出版社: 勁草書房

出版年: 2009

ISBN: 978-4326700615

はじめての社会保障11版

著者: 椋野美智子、田中耕太郎

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2014

ISBN: 978-4641220218

安倍政権の医療・介護戦略を問う

著者: 芝田英昭編

出版社: あけび書房

出版年: 2014

ISBN: 9784871541282

安倍政権の医療・社会保障改革

著者： 二木立

出版社： 勁草書房

出版年： 2014

ISBN: 9784326700820

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (25)

2015 Syllabus

科目名 **医療経済論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	
テーマ 医療経済学入門	
授業の到達目標 医療経済学の基本的な考え方を学習する。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしないが、「医療経営入門」「医療政策論」なども併せて履修することが望ましい。	
授業の概要 医療経済思想の展開、医療費とその増加要因分析、医療の経済評価手法に関して、主として講義形式で授業を行う。また、医療経済に関する理解を深めるため、適宜、映像教材を活用する。	
準備学習(予習・復習) 受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 医療経済思想の展開(健康の経済的価値) 第3回 医療経済思想の展開(公衆衛生と保健投資論) 第4回 医療経済思想の展開(社会保険の制度設計) 第5回 医療経済思想の展開(CCMCと医療経済調査) 第6回 医療費とその増加要因(医療費の構造と推移、総医療支出) 第7回 医療費とその増加要因(医療の価格弾力性と所得弾力性) 第8回 医療費とその増加要因(供給者誘発需要) 第9回 中間まとめと理解度の確認 第10回 映像教材を用いた学習 第11回 映像教材を用いた学習 第12回 医療の経済評価の基礎(余剰分析、社会的厚生、衡平) 第13回 医療の経済評価の基礎(費用効果・費用効用分析とその事例) 第14回 医療の経済評価の基礎(費用便益とその事例、経済評価の適用限界) 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 健康と医療の公平に挑む 著者: 松田亮三 出版社: 勁草書房 出版年: 2009 ISBN: 9784326700615 国際的視点から学ぶ医療経済学入門 著者: マックペイク他 出版社: 東京大学出版会 出版年: 2004 ISBN: 9784130421195 医療経済学の基礎理論と論点 著者: 西村周三・田中滋・遠藤久夫編 出版社: 勁草書房 出版年: 2006 ISBN: 9784326748310	

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 産業論Ⅱ(ヘルスケア産業)〈Z〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

ヘルスケア産業論

授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

準備学習(予習・復習)

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヘルスケア産業総論(産業の全体像と現状)
- 第3回 ヘルスケア産業総論(ヘルスケアの労働市場)
- 第4回 医療・介護制度とその改革①
- 第5回 医療・介護制度とその改革②
- 第6回 医療・介護経営の動向①
- 第7回 医療・介護経営の動向②
- 第8回 中間まとめと理解度の確認
- 第9回 医療関連産業①(医薬品製造・流通業)
- 第10回 医療関連産業②(医薬品製造・流通業)
- 第11回 医療関連産業③(医療機器製造・流通業)
- 第12回 医療関連サービス業①
- 第13回 医療関連サービス業②
- 第14回 ヘルスケア産業の将来
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる医療業界最新第2版

著者: 川越満、布施泰男

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2010

ISBN: 9784534046956

安倍政権の医療・社会保障改革

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2014

ISBN: 9784326700820

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (25)

2015 Syllabus

科目名 **サプライ・チェーン・マネジメント〈Z〉**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定 員	50
履修条件	クラス指定	
担当者 李 在鎬		
テーマ	人、もの、かねの「流れ」最適化の観点から、経営資源調達の理論と実践を学ぶ	
授業の到達目標	生産システム、ロジスティクスの基礎を理解した上で、部品や原材料などの物流(ものの流れ)と商流(取引の流れ)について修得する。	
授業の概要	授業の前半においては、生産システム論とロジスティクスの基礎理論やモデルについて学習した上で、後半において、輸送計画モデルと在庫管理モデルについて、パソコンによる実習を交えながら、学んでいく。	
準備学習(予習・復習)	工場見学などをおすすめします	
内 容	<p>第1回 科目概説、生産システム論の中のサプライヤー</p> <p>第2回 サプライ・チェーン・マネジメントとロジスティクスの生成と発展</p> <p>第3回 注文サイクル</p> <p>第4回 在庫管理Ⅰ(EOQモデル)</p> <p>第5回 在庫管理Ⅱ(EPQモデル)</p> <p>第6回 在庫管理Ⅲ(ROPモデル)</p> <p>第7回 在庫管理Ⅳ(Pシステム)</p> <p>第8回 総括と理解度のチェック</p> <p>第9回 ケース研究(関連映像資料の鑑賞)</p> <p>第10回 輸送計画モデルⅠ</p> <p>第11回 輸送計画モデルⅡ</p> <p>第12回 中継輸送計画モデル</p> <p>第13回 品質管理Ⅰ</p> <p>第14回 品質管理Ⅱ</p> <p>第15回 総括と理解度テスト</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>ロジスティクス管理</p> <p>著者: 李在鎬</p> <p>出版社: 中央経済社</p> <p>出版年: 2005年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (80) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (10)</p> <p>参加度 (10)</p> <p>基本的に表計算ソフトウェアによる理解度テストが行われる。</p>	

2015 Syllabus

科目名 **組織とメンタルヘルス**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 香坂 千佳子

テーマ

ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘルスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。

授業の到達目標

個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出会う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。

授業の概要

職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。毎回簡単な小テストを授業前に行う。(履修人数により、授業方法を変更する場合もある)

準備学習(予習・復習)

常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関係する情報収集をするようにすること。

内 容

- 第1回 はじめに:授業方針(受講上の注意、評価の方法) メンタルヘルスケアの意義
- 第2回 企業とメンタルヘルスとは
- 第3回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ①
- 第4回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ②
- 第5回 セルフケアの重要性 ①
- 第6回 ストレスへの気づき
- 第7回 ストレスへの対処・軽減法
- 第8回 まとめ テスト

履修上の注意点

教科書

メンタルヘルスマネジメントⅢ種 セルフケアコース

著者: 大阪商工会議所編

出版社: 中央経済社

出版年: 2012

ISBN: 9784502422805

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

授業前に小テスト+宿題+課題=60% 出席回数+授業中=40%

2015 Syllabus

科目名 マーケティングリサーチ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティング・リサーチを実践する。

授業の到達目標

マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。

授業の概要

まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。

準備学習(予習・復習)

統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。

内 容

- 第1回 マーケティング・リサーチの概要
- 第2回 マーケティング・リサーチのプロセス
- 第3回 SPSS入門①
- 第4回 SPSS入門②
- 第5回 相関分析の考え方
- 第6回 相関分析の実施
- 第7回 因子分析の考え方
- 第8回 因子分析の実施
- 第9回 回帰分析の考え方
- 第10回 回帰分析の実施
- 第11回 分散分析の考え方
- 第12回 分散分析の実施
- 第13回 調査データを用いた分析①
- 第14回 調査データを用いた分析②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

1からのマーケティング分析

著者： 恩蔵直人・富田健司

出版社： 碩学舎

出版年： 2011

ISBN: 978-4502683602

参考書

社会調査法入門

著者： 盛山和夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2004

ISBN: 978-4641183056

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 **会計学**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 「会計学入門」を履修済み であること。	クラス指定
担 当 者 河野 充央	
テーマ 会計規範と会計機構	
授業の到達目標 制度会計の意義と本質を理解する	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある	
準備学習(予習・復習) 復習を必ず行ってもらいたい。	
内 容 第4回 会計と法規 第5回 損益計算論1 第6回 損益計算論2 第7回 損益計算論3 第8回 貸借対照表論1 第9回 貸借対照表論2 第10回 貸借対照表論3 第11回 財務諸表一般論1 第12回 財務諸表一般論2 第13回 財務会計から管理会計へ1 第14回 財務会計から管理会計へ2 第15回 まとめ 第1回 ガイダンス会計機構とマネジメントの仕組み 第2回 財務会計の意義 第3回 財務会計と管理会計	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 グロービスMBAアカウンティング 著者： グロービス経営大学院 出版社： ダイヤモンド社 出版年： ISBN: 最新財務諸表論 著者： 武田隆二 出版社： 中央経済社 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 文化経済論 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める・生活の豊かさと個人の自立について考える

授業の到達目標

・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる

授業の概要

・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

準備学習(予習・復習)

・経済週刊誌を読むこと

内 容

- 第1回 イントロダクション:なぜ文化経済学を勉強するのか？
 第2回 文化と経済との関係:経済学とはどんな学問か？
 第3回 芸術と経済のジレンマ:実演芸術は商売にならない。
 第4回 「コスト病」の考え方:実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
 第5回 芸術作品の価格とオークション:芸術作品の値段はどのように決まるのか？
 第6回 芸術作品の価格と価値:「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か？
 第7回 資産としての芸術作品:将来値上がりする芸術作品とは？
 第8回 芸術文化の消費行動:蓼食う虫も好き好き？
 第9回 スローライフの経済学:時間をフルに活用するということ。
 第10回 創造的生産者としての芸術家:金儲けだけが仕事ではない。
 第11回 文化と非営利組織の役割:文化施設は誰が運営すべきか
 第12回 文化と情報の経済学:情報は誰のものか？
 第13回 著作権の経済学:追求権は芸術家の味方になるか？
 第14回 芸術文化の公的支援:経済的支援と表現の自由のジレンマ。
 第15回 アームズ・レングスの原則:芸術支援政策とは？

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

文化経済論

著者: 金武創・阪本崇

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 集中

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 関根 和弘・福岡 範恭

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外実習

準備学習(予習・復習)

事前学習 事後報告会等

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **救急救命特別実習 **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 集中	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 夏目 美樹・深澤 雄二	
テーマ 海外先進地の救急体制の視察	
授業の到達目標 海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。	
授業の概要 海外実習	
準備学習(予習・復習) 事前学習 事後報告会等	
内 容 第1回 事前学習及びガイダンス 第2回 海外視察 第3回 海外視察 第4回 海外視察 第5回 海外視察 第6回 海外視察 第7回 海外視察 第8回 事後報告会	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (20)	授業中発表等 (20)
参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 医療情報学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

診療情報管理士に必要な医療情報の基礎知識の修得

授業の到達目標

医療情報の重要性を認識するとともに、ICT活用に関する基礎的知識を修得する。

授業の概要

情報通信技術(ICT)の発展は、電子カルテの導入をはじめ、医療現場に大きな変革をもたらしている。この授業では、コンピュータやネットワークの基礎的知識、医療情報と医療情報システム、情報セキュリティと個人情報保護などについて学び、ICTを活用した医療情報システムの発展が医療の質の向上に果たしている役割を理解する。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」「病院」に関する新聞記事等に注目し、読む習慣を身につけるようにしてください。

内 容

- 第1回 医療情報学ガイダンス
- 第2回 医療情報学とは
- 第3回 情報通信技術(IT)の基礎1
- 第4回 情報通信技術(IT)の基礎2
- 第5回 医療情報の特徴と種類
- 第6回 行政が進める医療の情報化政策
- 第7回 医療情報システム1
- 第8回 医療情報システム2
- 第9回 医療情報システム3
- 第10回 医療情報システム4
- 第11回 医療情報の標準化1
- 第12回 医療情報の標準化2
- 第13回 情報セキュリティ1
- 第14回 情報セキュリティ2
- 第15回 医療情報学のまとめ※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーの講演を実施する。

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ

著者:

出版社: 日本病院会

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 診療情報管理論 I

クラス	配当回生	学部2回生
-----	------	-------

講義期間	前期	定員
------	----	----

履修条件	クラス指定
------	-------

担当者	尾関 美智子
-----	--------

テーマ

診療情報管理とはなにか、診療情報管理士の役割とは

授業の到達目標

診療情報管理と診療情報管理士に関わる基礎的知識を習得する。

授業の概要

授業ではまず、診療情報管理とは何か、診療情報管理と診療情報管理士の関わり、医療機関において診療情報管理士が担う役割など、診療情報管理と診療情報管理士について理解を深める。また、診療情報管理業務を行う上で必要なコンプライアンス(法令遵守)について、診療情報管理士に必要とされる診療記録および診療情報に関わる法規などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」「病院」に関する新聞記事等に注目し、読む習慣を身につけるようにしてください。

内 容

- 第1回 診療情報管理論 I ガイダンス
- 第2回 診療情報管理士の教育・資格制度、診療情報管理士の役割
- 第3回 診療に関する情報 診療情報の定義及び意義、価値の理解
- 第4回 診療情報管理の背景1 診療記録のルーツ
- 第5回 診療情報管理の背景2 米国と日本の病院における診療情報管理
- 第6回 診療情報管理と法規1 診療記録の記載と保存及び提示に関する法規、医療事故に伴う法的責任
- 第7回 診療情報管理と法規2 診療録等の電子化に関する法規、診療情報の守秘に関する法規
- 第8回 診療情報管理と法規3 個人情報の保護に関する法規①
- 第9回 診療情報管理と法規4 個人情報の保護に関する法規②
- 第10回 診療情報管理部門のあり方1 組織上の位置づけ
- 第11回 診療情報管理部門のあり方2 診療情報管理委員会
- 第12回 診療情報管理部門のあり方3 診療記録管理規程
- 第13回 診療情報管理部門のあり方4 診療情報管理室の構成・運用
- 第14回 診療記録の電子化への対応
- 第15回 診療情報管理 I のまとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ

著者:

出版社: 日本病院会

出版年: 2014

ISBN: 9784903348155

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 診療情報管理論Ⅱ

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

診療情報管理士の業務

授業の到達目標

診療情報の保管管理、点検・活用・提供などの診療情報管理士の役割を理解する。

授業の概要

診療情報管理士が担う業務は、病院の規模や配属される部門により異なることも多いが、この授業では、診療情報管理を円滑に行うために必要な、基本的な業務内容と実務を理解する。具体的には、診療記録の保管・管理、診療記録の回収と内容の点検、診療情報の活用、診療情報の提供、診療記録の記載方法と種類について学んでいく。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」「病院」に関する新聞等の記事に注目し、読む習慣を身につけるようにしてください。

内 容

- 第1回 診療情報管理論Ⅱ ガイダンス
- 第2回 診療記録の保管管理1 ナンバリング(番号法)とファイリング(保管法)
- 第3回 診療記録の保管管理2 診療記録の保存期間と保存方法、診療記録の管理方法
- 第4回 診療記録の保管管理3 診療記録の貸出管理
- 第5回 診療記録の保管管理4 個人情報保護の視点からの保管管理
- 第6回 診療記録の保管管理5 電子カルテシステムでの保管管理
- 第7回 診療情報の点検1 診療記録の回収と点検
- 第8回 診療情報の点検2 電子カルテシステムでの点検、製本
- 第9回 診療情報の点検3 ICDによる傷病名コーディングと情報の登録
- 第10回 診療情報の点検4 診療記録の監査(audit)
- 第11回 診療情報の活用 病院管理の視点、医療の質評価の視点、電子カルテでの情報活用
- 第12回 診療情報の提供
- 第13回 診療記録の記載方法と種類1 診療記録の記載方法
- 第14回 診療記録の記載方法と種類2 診療記録で使われる用語、診療記録の種類
- 第15回 診療情報管理Ⅱのまとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ

著者:

出版社: 日本病院会

出版年: 2014

ISBN: 9784903348155

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **財務会計論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 会計規範と会計機構	
授業の到達目標 制度会計の意義と本質を理解する	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある	
準備学習(予習・復習) 復習を必ず行ってほしい。	
内 容 第1回 ガイダンス会計機構とマネジメントの仕組み 第2回 財務会計の意義 第3回 財務会計と管理会計 第4回 会計と法規 第5回 損益計算論1 第6回 損益計算論2 第7回 損益計算論3 第8回 貸借対照表論1 第9回 貸借対照表論2 第10回 貸借対照表論3 第11回 財務諸表一般論1 第12回 財務諸表一般論2 第13回 財務会計から管理会計へ1 第14回 財務会計から管理会計へ2 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 グロービスMBAアカウンティング 著者： グロービス経営大学院 出版社：ダイヤモンド社 出版年： ISBN: 最新財務諸表論 著者： 武田隆二 出版社：中央経済社 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 **組織と仕事の経済学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

経済学の視点から、組織と人的資源を分析する

授業の到達目標

・組織の経済学の基本的な考え方を理解する・人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する

授業の概要

入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学は以下に分析することが可能なのに焦点を当てる。

準備学習(予習・復習)

クイズ形式での予習と復習を予定しているので、授業の事前事後に行っておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:教科書的な経済学が描く世界
 第2回 組織と個人(1):取引関係と雇用関係
 第3回 組織と個人(2):契約と交渉
 第4回 組織と個人(3):長期雇用と賃金カーブ
 第5回 人的資本の理論(1):資本としての人間の能力
 第6回 人的資本の理論(2):割引現在価値と内部収益率
 第7回 人的資本の理論(3):特殊訓練と一般訓練
 第8回 家計生産モデル(1):家族内労働と時間配分
 第9回 家計生産モデル(2):家族内の時間配分と労働供給
 第10回 組織と市場(1):市場における調整と組織における調整
 第11回 組織と市場(2):隠れた情報と隠れた行動
 第12回 プリンシパル=エージェント関係(1):シグナリング・モデル
 第13回 プリンシパル=エージェント関係(2):インセンティブ設計の理論
 第14回 プリンシパル=エージェント関係(3):ヒエラルキーと権限配分
 第15回 まとめ

履修上の注意点

積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に関連文献を紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 産業論 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 秀和

テーマ

コンテンツ産業と呼ばれる産業部門が成長・成熟していく過程を1960年代以降の産業構造の変化を踏まえつつ読み解く

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量はその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの各種コンテンツの現状と課題を読み解きつつ、同時にその手法を修得してもらおうと思います。

授業の概要

この授業では、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を提示しながら、大衆社会の形成と成熟した産業社会における、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をコンテンツ産業の現状と課題を通じてみなさんと考えていきたいと思っています。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらいアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答は次回の授業冒頭に行うという形態をとります。

準備学習(予習・復習)

授業後は、講義で紹介した内容のコンテンツに接してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション-産業構造と生活構造-
- 第2回 フォードシステムの導入と生活構造の変化
- 第3回 メディアの発達と大衆社会の進展
- 第4回 労使協調主義経済と世界経済の趨勢
- 第5回 産業社会の成熟とコンテンツ産業の変容
- 第6回 消費社会の到来と新規コンテンツ産業の萌芽
- 第7回 バブル経済と消費社会(不夜城社会の経験)
- 第8回 コミュニケーション媒体の多様化と産業構造の変貌
- 第9回 もう一つの社会変化—モノ社会からイメージの社会へ—
- 第10回 グローバル社会における産業と生活
- 第11回 クールジャパン戦略とコンテンツ産業
- 第12回 コンテンツ産業の定義と分類
- 第13回 映像系コンテンツ産業と音声系コンテンツ産業の現状と課題
- 第14回 ゲーム系コンテンツ産業とテキスト系コンテンツ産業の現状と課題
- 第15回 産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (15)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

試験60については、レポート課題とします。

2015 Syllabus

科目名 産業論Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

ヘルスケア産業論

授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

準備学習(予習・復習)

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヘルスケア産業総論(産業の全体像と現状)
- 第3回 ヘルスケア産業総論(ヘルスケアの労働市場)
- 第4回 医療・介護制度とその改革①
- 第5回 医療・介護制度とその改革②
- 第6回 医療・介護経営の動向①
- 第7回 医療・介護経営の動向②
- 第8回 中間まとめと理解度の確認
- 第9回 医療関連産業①(医薬品製造・流通業)
- 第10回 医療関連産業②(医薬品製造・流通業)
- 第11回 医療関連産業③(医療機器製造・流通業)
- 第12回 医療関連サービス業①
- 第13回 医療関連サービス業②
- 第14回 ヘルスケア産業の将来
- 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる医療業界最新第2版

著者: 川越満、布施泰男

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2010

ISBN: 9784534046956

安倍政権の医療・社会保障改革

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2014

ISBN: 9784326700820

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (25)

2015 Syllabus

科目名 **グローバル経済論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

経済のグローバル化を学ぶ

授業の到達目標

現代の世界経済・社会の動きを学ぶことを通じて、学生が、この動きに受動的に巻き込まれるのではなく、積極的・主体的に対応するための、確かな認識上の足がかりを得させることが、到達目標である。

授業の概要

経済活動が地球全体にわたって展開されるのは、いまに始まったことではないが、現代は、経済活動が未曾有の規模でグローバルに展開されており、事実上地球上のすべての人間は経済のグローバル化に否応なく関わらざるをえなくなっている。しかも、このような意味の経済のグローバル化は今後もいっそう進むことが予想される。この講義では、とくに現代における経済のグローバル化の諸相とその背景、経済のグローバル化の今後、経済のグローバル化の積極的効果と試練、試練への対応などを検討する。検討は、主として、グローバル経済における日本経済や日本企業の状況や対応などに即して行う。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習、および新聞等でグローバル経済に関する時事問題を読むこと。

内 容

- 第1回 はじめに --- 経済のグローバル化を学ぶことがなぜ重要か
- 第2回 グローバル化とアメリカ・モデル
- 第3回 グローバル化と国際経済システム
- 第4回 グローバル化と東アジア
- 第5回 企業のグローバル展開
- 第6回 グローバル化と国際金融危機
- 第7回 中国経済とグローバル化
- 第8回 中国のWTO加盟
- 第9回 東南アジア経済とグローバル化
- 第10回 ブラジル経済とグローバル化
- 第11回 日本経済とグローバル化---国際収支発展段階説に即して
- 第12回 グローバル化の試練への日本の対応
- 第13回 グローバル化の試練への日本企業の対応
- 第14回 21世紀型グローバル化と諸制約
- 第15回 おわりに;小テスト

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

世界経済とグローバル化

著者: 渋谷博史ほか

出版社: 学文社

出版年: 2013

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 保険論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

保険会社で必要な専門的な知識ではなく、私たちの生活や経済社会の中で必要な保険についての基礎知識を学習します。

授業の到達目標

私たちの生活や経済活動において「リスクとは何か」を正しく理解し、リスクマネジメントの方法や保険の役割について正しく理解することを目標とします。

授業の概要

リスクの基礎概念を学んだ上で、リスクマネジメントおよび保険について学習します。具体的には、リスクマネジメントの目的、リスクマネジメントの手法としての損失コントロール、経済資本の概念、そして公正保険料および保険需要の理論などを学びます。

準備学習(予習・復習)

生命保険や損害保険のテレビ・コマーシャルなどを見たら、その保険は人間生活のどんな「リスク」に対応しようとしているのか、を考えてみてください。

内 容

- 第1回 リスクとは何かー結果のバラツキとリスク
- 第2回 リスクの実体とリスクの分類
- 第3回 リスクの計測と正規分布
- 第4回 リスクを軽減する方法(1)
- 第5回 リスクを軽減する方法(2)
- 第6回 リスクへの対応手段ーリスクマネジメント
- 第7回 公正保険料
- 第8回 保険の契約
- 第9回 保険の法制度
- 第10回 保険商品と保険の分類
- 第11回 リスクの保険可能性(1)ー付加保険料
- 第12回 リスクの保険可能性(2)ー逆選択
- 第13回 リスクの保険可能性(3)ーモラルハザード
- 第14回 保険の自由化と契約者保護
- 第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

リスクと保険の基礎理論

著者: 米山高生

出版社: 同文館出版

出版年: 2012年

ISBN: 4495440810

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **経営情報論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 片岡 裕介	
テーマ	
情報化社会における経営情報の役割と可能性	
授業の到達目標	
情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。	
授業の概要	
まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。	

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 情報化社会の進展
- 第3回 情報化社会における経営情報
- 第4回 情報技術の基礎
- 第5回 経営情報システムの変遷
- 第6回 経営戦略と情報システム
- 第7回 経営組織と情報システム
- 第8回 システムとネットワーク
- 第9回 知識と経営
- 第10回 経営情報と流通(1) 情報化と流通システム
- 第11回 経営情報と流通(2) チェーンストアと物流システム
- 第12回 地域社会における経営情報(1) 情報セキュリティと情報倫理
- 第13回 地域社会における経営情報(2) エリアマーケティング
- 第14回 地域社会における経営情報(3) 位置情報サービス
- 第15回 地域社会における経営情報(4) 不動産ビジネス

履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

経営情報論 新版

著者: 遠山暁・村田潔・岸真理子

出版社: 有斐閣

出版年: 2008

ISBN:

経営情報システム

著者: 宮川公男

出版社: 中央経済社

出版年: 2004

ISBN:

日本の流通と都市空間

著者: 荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004

ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学

著者： 高橋敏朗編

出版社： 日科技連出版社

出版年： 2005

ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者： 村山祐司・柴崎亮介編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **ファイナンシャルプランニング**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 村田 裕人

テーマ

生きていくために、また、社会に出て行くために必要となる「お金」に関する基本的な知識を身につけよう。

授業の到達目標

現役の税理士が開講する授業である。国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格の取得を目標とする。また、これをきっかけに就職に有利となる簿記検定試験や難易度の高い税理士・会計士など国家資格への足がかりともしていきたい。

授業の概要

テキストと問題集、さらに必要の都度パワーポイント等を使った授業としていく。また、授業の度に前回の復習試験等を行っていく。

準備学習(予習・復習)

国家資格である3級ファイナンシャルプランナー技能士資格を目指すため、授業時間外においても検定試験の対策として問題集等を解くことが望ましい。

内 容

- 第1回 ファイナンシャルプランニングとは何か？何故「お金」のことを勉強するのか
- 第2回 ライフプランニングと資金計画 その1(ライフイベント・結婚・育児・・・)
- 第3回 ライフプランニングと資金計画 その2(社会保険・年金)
- 第4回 リスクマネージメント その1(保険とは)
- 第5回 リスクマネージメント その2(生命保険・損害保険)
- 第6回 金融資産運用 その1(金融・経済の基本)
- 第7回 金融資産運用 その2(投資資産のあれこれ)
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 タックスプランニング その1(所得税の基本)
- 第10回 タックスプランニング その2(税金の計算)
- 第11回 不動産 その1(不動産の基本)
- 第12回 不動産 その2(不動産に関するあれこれ)
- 第13回 相続・事業承継 その1(相続ってなに)
- 第14回 相続・事業承継 その2(相続税・贈与税)
- 第15回 後半のまとめ

履修上の注意点

教科書

みんなが欲しかった！FPの教科書3級

著者： 滝澤ななみ

出版社： TAC出版

出版年： 2014

ISBN:

みんなが欲しかった！FPの問題集3級

著者： 滝澤ななみ

出版社： TAC出版

出版年： 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 国際疾病分類概論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾関 美智子

テーマ

国際疾病分類法の基礎

授業の到達目標

コーディングに関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

診療記録に記載される疾病や医療行為を収集・解析し、比較・活用するために設けられた、国際保健機関(WHO)が制定した国際疾病分類(ICD)の概念と利用方法に関する基本的な理解を深める。この授業では、ICDの歴史や現状、日本における利用状況を理解し、ICDコーディングの意味や問題点を把握する。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」「病院」に関する新聞記事等に関心を持ち、読む習慣を身につけるようにしてください。

内 容

- 第1回 国際疾病分類概論のガイダンス
- 第2回 国際疾病分類(ICD)とわが国の利用、ICDの歴史、ICDの現状と課題
- 第3回 国際疾病分類(ICD)の現状と課題、他の国際疾病分類(ICD)ファミリー
- 第4回 コーディングをはじめにあって1 ICD編さんの基準とその特徴、複数病態分類、複合病態分類・二重分類
- 第5回 コーディングをはじめにあって2 ICD-10で使用される記号と符合、用語の定義、ICD-10第3巻<索引表>の構造および傷病名の構成
- 第6回 国際疾病分類(ICD)の実際の利用 ICD-10の使用上の注意点と問題、練習問題
- 第7回 主要病態の選択ルール1 ルール説明と練習問題①
- 第8回 主要病態の選択ルール2 ルール説明と練習問題②
- 第9回 原死因の選択ルール1 原死因の定義と死亡診断書の書き方①
- 第10回 原死因の選択ルール2 原死因の定義と死亡診断書の書き方②
- 第11回 原死因の選択ルール3 原死因の選択ルール説明①
- 第12回 原死因の選択ルール4 原死因の選択ルール説明②
- 第13回 国際疾病分類(ICD)以外の疾病分類、処置分類
- 第14回 診断群分類(DPC)との関わり
- 第15回 国際疾病分類概論のまとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <* a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 今井 まりな	
テーマ グループ論文の執筆に向けた準備	
授業の到達目標 輪読を通じて、問いの設定、先行研究レビュー、事例記述といった一連の研究プロセスを学習する。夏休みに実施するインタビュー調査のためのスキルを習得する。	
授業の概要 前半は研究方法と事例研究に関する文献を輪読する。後半はグループ分けを行い、2016年1月末までに執筆するグループ論文に向けて準備を行う。夏休みにグループ論文の作成に向けた合宿を実施する。	
準備学習(予習・復習) 各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 輪読1(研究方法と事例研究に関する文献) 第3回 輪読2 第4回 輪読3 第5回 輪読4 第6回 グループ分けと問題設定の仕方 第7回 輪読5 第8回 問いの設定(グループ1,2) 第9回 問いの設定(グループ3,4) 第10回 問いの確定(グループ1,2) 第11回 問いの確定(グループ3,4) 第12回 先行研究レビューの仕方 第13回 先行研究レビュー(グループ1,2) 第14回 先行研究レビュー(グループ3,4) 第15回 インタビュー調査方法	
履修上の注意点	
教科書 マーケティング・リフレーミング 著者: 栗木契・水越康介・吉田満梨 出版社: 有斐閣 出版年: 2012 ISBN: 978-4641163904 創造的論文の書き方 著者: 伊丹敬之 出版社: 有斐閣 出版年: 2001 ISBN: 978-4641076495	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (70) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*b>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	今久保 幸生	
テーマ	現代日本経済の研究	
授業の到達目標	グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確実なものにさせる。	
授業の概要	教科書を順に輪読して、討論を行う。	
準備学習(予習・復習)	無断欠席は認めない。部活・就活などによる欠席は出席扱いとはしない。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション。ゼミの進め方などの相談。</p> <p>第2回 序章 日本経済と経済の基本</p> <p>第3回 第1章 日本経済の全体像(1)</p> <p>第4回 第1章 日本経済の全体像(2)</p> <p>第5回 第2章 戦後日本の経済成長(1)</p> <p>第6回 第2章 戦後日本の経済成長(2)</p> <p>第7回 第3章 景気循環の姿とそのとらえ方(1)</p> <p>第8回 第3章 景気循環の姿とそのとらえ方(2)</p> <p>第9回 第4章 ストックから見た日本経済(1)</p> <p>第10回 第4章 ストックから見た日本経済(2)</p> <p>第11回 第5章 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方(1)</p> <p>第12回 第5章 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方(2)</p> <p>第13回 第6章 産業構造の変化と日本型企业経営の行方(1)</p> <p>第14回 第6章 産業構造の変化と日本型企业経営の行方(2)</p> <p>第15回 第7章 物価の変動とデフレ問題</p>	
履修上の注意点	無断欠席は認めない。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。	
教科書	<p>最新日本経済入門[第4版]</p> <p>著者： 小峰隆夫他</p> <p>出版社： 日本評論社</p> <p>出版年： 2012 ISBN:</p>	
参考書	<p>未定</p> <p>著者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 (70%)</p> <p>参加度 (30%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文作成のための準備

授業の到達目標

卒業論文の作成に必要となる研究能力として、文献の調査、論点の明確化、内容の構成、文章の作成、プレゼンテーションなどに関する基本的な知識とスキルを身につける。

授業の概要

前半は、位置や場所の情報をういたビジネスの動向について、主にテキストの講読と関連する事例の調査を通して学ぶ。後半は、文献調査の方法と実践を通して卒業論文に向けた準備をおこなう。

準備学習(予習・復習)

特に、発表で寄せられたコメントについては、授業後に整理して確認しておくこと。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(1)

第3回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(2)

第4回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(3)

第5回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(4)

第6回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(5)

第7回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(6)

第8回 位置情報ビジネスに関するテキスト講読(7)

第9回 文献調査の方法(1)

第10回 文献調査の方法(2)

第11回 文献調査報告(1)

第12回 文献調査報告(2)

第13回 文献調査報告(3)

第14回 文献調査報告(4)

第15回 文献調査報告の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (60)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 河野 充央	
テーマ 財務管理の研究	
授業の到達目標 有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析できるようになること。	
授業の概要 原理原則、理論を学びながら、複数企業の財務諸表を比較分析し、差異の原因を考察してみる。	
準備学習(予習・復習) 復習は必ず行う。その他については、随時指示する。	

内 容

- 第1回 資金管理と財務諸表
 第2回 財務分析と比較
 第3回 収益性の分析1
 第4回 収益性の分析2
 第5回 収益性の分析3
 第6回 生産性の分析1
 第7回 生産性の分析2
 第8回 生産性の分析3
 第9回 流動性の分析1
 第10回 流動性の分析2
 第11回 流動性の分析3
 第12回 損益分岐点分析1
 第13回 損益分岐点分析2
 第14回 成長性の分析
 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN:

原価計算

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN:

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN:

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN:

現代国家の危機

著者： 河野充央 他

出版社： 富嶽出版

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <* e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

授業の到達目標

卒業論文作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける

授業の概要

専門演習 I・II では、4回生で卒業論文を書くための準備を行う。専門演習 I では、各個人がテーマを決めて、半年間をかけて文献レポートを作成する。テーマは自分自身の関心に応じて選んでよい。最初にレポート・論文を書くための基礎的な文章作成方法や文献調査方法などを学んだ上で、それぞれの進捗状況に合わせて中間報告を行う。レポート・論文の書き方について、参考書をいくつか挙げておくと、これ以外にもたくさん刊行されているので、自分にあったものを選んでよい。

準備学習(予習・復習)

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 文献・資料の調べ方

第3回 テクニカル・ライティング入門(1)

第4回 テクニカル・ライティング入門(2)

第5回 レポート発表 I (1)

第6回 レポート発表 I (2)

第7回 レポート発表 I (3)

第8回 中間のまとめ

第9回 レポート発表 II (1)

第10回 レポート発表 II (2)

第11回 レポート発表 II (3)

第12回 レポート発表 II (4)

第13回 レポート発表 II (5)

第14回 レポート発表 II (6)

第15回 半年間のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (60)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の設定、スラムと貧困の学習とフィールドワーク、社会病理学系の講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関するフィールドワークと文献講読を継続して、社会的な素養を育成する。

授業の概要

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

準備学習(予習・復習)

講読文献の予習は必須である。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 春季課題の発表(1)
- 第3回 春季課題の発表(2)
- 第4回 学生によるテキストの発表・討論(1)
- 第5回 学生によるテキストの発表・討論(2)
- 第6回 学生によるテキストの発表・討論(3)
- 第7回 学生によるテキストの発表・討論(4)
- 第8回 学生によるテキストの発表・討論(5)
- 第9回 釜ヶ崎のフィールドワーク
- 第10回 学生によるテキストの発表・討論(6)
- 第11回 学生によるテキストの発表・討論(7)
- 第12回 学生によるテキストの発表・討論(8)
- 第13回 学生によるテキストの発表・討論(9)
- 第14回 山科青少年活動センターの見学
- 第15回 総括

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること

教科書

ルポ最底辺

著者: 生田武志

出版社: ちくま新書

出版年: 2007

ISBN: 4-480-06377-9

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は春季レポートの評価とフィールドワークのレポートである。

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 高山 一夫	
テーマ 医療経営に関する発展的な学習	
授業の到達目標 医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める	
授業の概要 グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、卒業研究のためのアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業やゼミ合宿などを企画・開催する。	
準備学習(予習・復習) 授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業やゼミ合宿の企画を立案する。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 グループワーク(グループ分けとテーマの設定) 第3回 グループワーク(仮説とアウトラインの明確化) 第4回 グループワーク(論点の掘り下げ) 第5回 グループワーク(調査の一応のとりまとめ) 第6回 グループワーク(パワーポイント資料の作成) 第7回 グループワーク成果発表会 第8回 学外授業およびゼミ合宿の企画・準備 第9回 テキストを用いた演習 第10回 テキストを用いた演習 第11回 テキストを用いた演習 第12回 テキストを用いた演習 第13回 図書館ガイダンス(予定) 第14回 学外授業(予定) 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)	
履修上の注意点 病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 図表でみる世界の保健医療OECDインディケータ(2013年版) 著者: OECD 出版社: 明石書店 出版年: 2014 ISBN: 978-4750341095	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (50) 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*h>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制

担当者 李在鎬

テーマ

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、経営戦略とリーダーシップの実践について理解を深める。

授業の到達目標

ゼミの研究テーマについて学習するとともに、卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。

授業の概要

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、グローバルな視点から、経営戦略とリーダーシップのあり方について議論する。

準備学習(予習・復習)

経済新聞の精読をお勧めします。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業、合宿を行うことがある。
- 第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業、合宿を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

スティーブ・ジョブズ I

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

スティーブ・ジョブズ II

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <* 救急>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 50

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆

授業の到達目標

グループで論文を執筆することを通じて、一連の論文執筆プロセスを学習する。報告とディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキル並びにコミュニケーションスキルを養成する。一つの論文を複数のメンバーで執筆することで、長期的な目標を計画的かつ組織的に達成するプロセスを経験する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 事例研究の検討
- 第3回 先行研究レビュー(グループ1,2)
- 第4回 先行研究レビュー(グループ3,4)
- 第5回 インタビュー調査(グループ1,2)
- 第6回 インタビュー調査(グループ3,4)
- 第7回 目次構成の検討(グループ1,2)
- 第8回 目次構成の検討(グループ3,4)
- 第9回 中間報告(グループ1,2)
- 第10回 中間報告(グループ3,4)
- 第11回 グループ1の論文の検討会
- 第12回 グループ2の論文の検討会
- 第13回 グループ3の論文の検討会
- 第14回 グループ4の論文の検討会
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*b>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	今久保 幸生	
テーマ	現代日本経済の研究(2)	
授業の到達目標	グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確かなものにさせる。演習の終わり頃には、卒論のテーマに関する報告も行わせることとする。	
授業の概要	教科書を順に輪読して、討論を行う。卒業論文に関しては、テーマや問題意識などに関する報告を主とする。	
準備学習(予習・復習)	教科書の予習・復習を行うほか、参考書や新聞などでの時事問題の学習を行うことが奨められる。この段階では、とくに卒論も意識した予習・復習が重要となる。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション。ゼミの進め方の相談。</p> <p>第2回 第8章 貿易と国際収支の姿(1)</p> <p>第3回 第8章 貿易と国際収支の姿(2)</p> <p>第4回 第9章 円レートの変動と日本経済</p> <p>第5回 第10章 直接投資と空洞化をめぐる議論</p> <p>第6回 第11章 財政を巡る諸問題</p> <p>第7回 第12章 経済の鍵を握る金融</p> <p>第8回 第13章 少子高齢化と社会保障(1)</p> <p>第9回 第13章 少子高齢化と社会保障(2)</p> <p>第10回 第14章 人口構造の変化と日本経済(1)</p> <p>第11回 第14章 人口構造の変化と日本経済(2)</p> <p>第12回 第15章 東日本大震災後の日本経済と地域の振興</p> <p>第13回 卒業論文のテーマに関する報告(1)</p> <p>第14回 卒業論文のテーマに関する報告(2)</p> <p>第15回 卒業論文のテーマに関する報告(3)</p>	
履修上の注意点	無断欠席は認めない。部活・就活などによる欠席は出席扱いとはしない。	
教科書	<p>最新日本経済入門[第4版]</p> <p>著者: 小峰隆夫他</p> <p>出版社: 日本評論社</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書	<p>未定</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 (70%)</p> <p>参加度 (30%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 片岡 裕介

テーマ

卒業論文に向けた研究テーマおよび研究計画の設定

授業の到達目標

自分が取り組もうとする問題の研究意義を明確にするとともに、問題の共有にあたって情報を適切に伝達できるようになること。

授業の概要

前半は、前期におこなった文献調査で得られた知識も参考にしつつ、各自で課題研究に取り組む。後半は、卒業論文のテーマの設定および研究計画書の作成をおこなう。

準備学習(予習・復習)

卒業論文を意識した研究に対する姿勢が求められる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究デザインの方法(1)
- 第3回 研究デザインの方法(2)
- 第4回 課題研究(1)
- 第5回 課題研究(2)
- 第6回 課題研究(3)
- 第7回 課題研究(4)
- 第8回 課題研究の講評
- 第9回 卒業論文のテーマの設定(1)
- 第10回 卒業論文のテーマの設定(2)
- 第11回 卒業論文のテーマの設定(3)
- 第12回 研究計画書の作成(1)
- 第13回 研究計画書の作成(2)
- 第14回 研究計画書の作成(3)
- 第15回 研究計画の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅱ <*d>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 河野 充央	
テーマ 企業経営と管理会計	
授業の到達目標 会計によるマネジメントの意義を理解する。	
授業の概要 卒論のテーマ選択につながるような学習を行う。必要に応じて、工場見学等の学外学習を行う。	
準備学習(予習・復習) 復習は必ず行うこと。その他については、随時指示する。	

内 容

- 第1回 企業の利害関係者と経済的情報
- 第2回 企業経営と企業目標
- 第3回 経営管理者の職能
- 第4回 管理会計の目的1
- 第5回 管理会計の目的2
- 第6回 管理会計の目的3
- 第7回 管理会計担当者の役割
- 第8回 コストマネジメントの体系
- 第9回 戦略プランニングとコストマネジメント1
- 第10回 戦略プランニングとコストマネジメント2
- 第11回 戦略的コントロールとコストマネジメント1
- 第12回 戦略的コントロールとコストマネジメント2
- 第13回 管理的プランニングとコストマネジメント
- 第14回 管理的コントロールとコストマネジメント
- 第15回 まとめと卒論作成へ向けての指導

履修上の注意点

教科書

参考書

情報化社会における管理会計の役割

著者: 河野充央

出版社: 税務経理協会

出版年:

ISBN:

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者: 岡本清 他

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

原価計算

著者: 岡本清

出版社: 国元書房

出版年:

ISBN:

ケースブック・コストマネジメント

著者： 加登豊 他

出版社： 新世社

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成に向けた研究とその報告

授業の到達目標

卒業論文作成の構想を立てる

授業の概要

専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで調査研究を行い、進捗状況をそれぞれ2回程度報告する。また、就職活動に向けた準備も平行して行う。

準備学習(予習・復習)

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テクニカル・ライティング実践(1)
- 第3回 テクニカル・ライティング実践(2)
- 第4回 プレゼンテーションの技術
- 第5回 卒業論文計画発表Ⅰ(1)
- 第6回 卒業論文計画発表Ⅰ(2)
- 第7回 卒業論文計画発表Ⅰ(3)
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 卒業論文計画発表Ⅱ(1)
- 第10回 卒業論文計画発表Ⅱ(2)
- 第11回 卒業論文計画発表Ⅱ(3)
- 第12回 卒業論文計画発表Ⅱ(4)
- 第13回 卒業論文計画発表Ⅱ(5)
- 第14回 卒業論文計画発表Ⅱ(6)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*f〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の深化、関連文献の講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会的な関心をより深化させるとともに、関連文献の講読を通して社会的な素養を高める。

授業の概要

夏季課題の報告とテキストの講読・発表・討論

準備学習(予習・復習)

講読文献の予習は必須である。

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
- 第2回 夏季課題の報告(1)
- 第3回 夏季課題の報告(2)
- 第4回 夏季課題の報告(3)
- 第5回 関連文献の講読(1)
- 第6回 関連文献の講読(2)
- 第7回 関連文献の講読(3)
- 第8回 関連文献の講読(4)
- 第9回 関連文献の講読(5)
- 第10回 関連文献の講読(6)
- 第11回 関連文献の講読(7)
- 第12回 関連文献の講読(8)
- 第13回 関連文献の講読(9)
- 第14回 関連文献の講読(10)
- 第15回 まとめと展望

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること。第2回～第4回のうち合宿を行う予定である。

教科書

社会病理学講座3巻 病める関係性

著者: 高原正興他

出版社: 学文社

出版年: 2004

ISBN: 4-7620-1271-8

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は、夏季課題のレポートである。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*g〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経営についての発展的学習

授業の到達目標

医療経営についての知見を深めるとともに、各自の卒業研究のテーマを明確にする

授業の概要

グループワークおよびテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済に関する知見を深めるとともに、アカデミック・リテラシーを習得し、各自の卒業研究に向けてテーマ設定を行う。他大学生との合同ゼミ合宿も企画する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、グループワークやテキストを用いた発表のための準備を行う。また、受講生は主体的に自主ゼミを運営する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループワーク
- 第3回 グループワーク
- 第4回 グループワーク
- 第5回 グループワーク
- 第6回 グループワーク
- 第7回 卒業研究中間発表会(4回生と合同)
- 第8回 卒業研究中間発表会(4回生と合同)
- 第9回 グループワーク成果発表会(予定)
- 第10回 テキストを用いた演習
- 第11回 テキストを用いた演習
- 第12回 テキストを用いた演習
- 第13回 テキストを用いた演習
- 第14回 キャリア講演会(予定)
- 第15回 演習全体のまとめ(他大学との合同ゼミ合宿を予定)

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*h〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	李在鎬	
テーマ	経営戦略の代表的な古典的論文を輪読し、理論と事例について理解を深める。	
授業の到達目標	卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。	
授業の概要	1957年～93年までのハーバード学派経営戦略理論の流れを網羅的に考察する。	
準備学習(予習・復習)	経済新聞の精読をお勧めします。	
内 容	<p>第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定</p> <p>第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)</p> <p>第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。</p> <p>第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>戦略論1957-1993</p> <p>著者： DIAMOND編集部</p> <p>出版社：ダイヤモンド社</p> <p>出版年： 2010 ISBN:</p>	
参考書	<p>使用しない。</p> <p>著者：</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (55)</p> <p>参加度 (45)</p> <p>基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。</p>	

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*救急〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2015 Syllabus

科目名 救急処置各論Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	甲斐 達朗・加藤 之紀・蒲池 正顕・関根 和弘・和田 亨	

テーマ

応急処置各論と重症度・緊急度判断

授業の到達目標

救急救命士の行う処置の実践を学ぶ。呼吸、循環、特に外傷に関する処置の他、体位管理や体温管理、災害時に必要となる処置についても学習する。重症度・緊急度の判断方法についても説明し重症外傷傷病者の救命に重要な現場活動の基礎、そして評価と観察、重症度・緊急度の判断と車内での活動、必要な処置を習得する。この他救急隊員の安全管理についても理解を深める。

授業の概要

講義及び実習

準備学習(予習・復習)

救急救命士標準テキスト分野 外傷救急医学、環境障害・急性中毒を熟読しておくこと。

内 容

- 第1回 我が国における災害時の救急医療体制
- 第2回 災害現場における現場活動
- 第3回 災害医療における救急救命士の業務
- 第4回 外傷学総論
- 第5回 受傷機転、全身所見の観察
- 第6回 局所所見の観察、重症度・緊急度の判断
- 第7回 外傷性ショック
- 第8回 頭部、顔面、頸部外傷
- 第9回 脊椎・脊髄外傷
- 第10回 胸部外傷、腹部外傷
- 第11回 骨盤・四肢外傷
- 第12回 皮膚・軟部組織外傷、多発外傷
- 第13回 妊婦、小児・高齢者の外傷
- 第14回 救急業務における応急処置各論と重症度・緊急度判断まとめ
- 第15回 総括・救急現場活動に対する観察要領と評価・判断のまとめ

履修上の注意点

受講のマナー：学外の救命救急センターに勤務し、また病院研修先でもある救急医の講義である。実際の現場や臨床の診察や処置のことを授業として聴講できる重要な講義である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社：へるす出版

出版年：2012

ISBN： 9784892697449

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社：へるす出版

出版年：2012

ISBN： 9784892697456

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社：へるす出版

出版年：2012

ISBN： 9784892697463

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社：へるす出版

出版年：2012

ISBN： 9784892697470

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN: 9784892697487

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

60%以上

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 救急症候学Ⅴ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 藤野 和典

テーマ

顔面・頸部の外傷

授業の到達目標

顔面・頸部には気道、頸髄あるいは脳神経など、生命維持にかかわる器官や組織だけではなく、視覚・聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器、咀嚼や嚥下機能、唾液分泌、表情筋による表現など機能予後に関わる器官臓器も豊富に存在する。また口腔、舌、歯などは構音、咀嚼、嚥下運動を司り、上気道を司る。鼻腔、副鼻腔、耳下腺など耳鼻科もこの領域に含まれる。頸部には気管、食道、頸動脈など重要臓器が集約している。これらの臓器は、鈍的および鋭的な損傷により、重篤な損傷を起こす可能性が高い。臓器損傷の種類と症状について学習し、観察と判断、応急処置などを習得する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 顔面・頸部の組織と機能
- 第2回 顔面の外傷
- 第3回 顔面軟部組織損傷
- 第4回 顔面骨骨折
- 第5回 眼外傷
- 第6回 耳損傷
- 第7回 鼻損傷、鼻出血
- 第8回 口唇・口腔・舌損傷
- 第9回 歯痛、頸部外傷
- 第10回 症状と観察1
- 第11回 症状と観察2
- 第12回 判断と応急処置1
- 第13回 判断と応急処置2
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (30)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 産婦人科学

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	常田 裕子	
テーマ	臨床産科学	
授業の到達目標	救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。	
授業の概要	<p>講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>・各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。・演習(将来的な実践)に向けて講義内容を復習する。</p>	
内 容	<p>第1回 我が国の産科(周産期)救急医療の実態 第2回 生殖器の解剖・生理・妊娠時の母体と胎児の変化(1) 第3回 妊娠時の母体と胎児の変化(2) 第4回 分娩経過(1) 第5回 分娩経過(2)産後の変化 第6回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習) 第7回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習) 第8回 婦人科疾患とまとめ</p>	
履修上の注意点	<p>事前課題を期日までに提出の上、履修ください。【9月18日(金)】「わが国の周産期救急」に関するメディア、新聞などの記事を1つ以上集めてレポートする(A4レポート用紙2枚以内)</p>	
教科書	<p>救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻(専門分野 疾病救急医学) 著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会編 出版社: へるす出版 出版年: 2012 ISBN:</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻(専門分野 外傷救急医学/環境障害・急性中毒学) 著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会編 出版社: へるす出版 出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書	<p>病気がみえる10 産科 著者: 井上裕美ら編 出版社: メディックメディア 出版年: 2013 ISBN:</p> <p>改訂7版 母子保健マニュアル 著者: 高野陽編 出版社: 南山堂 出版年: 2010 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (50) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 **救急救命実習(同乗)**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件 「救急救命実習Ⅴ」を修得済みであること	クラス指定	
担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭		
テーマ 救急車同乗実習		
授業の到達目標 救急車同乗実習により、実際の救急現場活動を見学することによって、出勤から現場活動、搬送、医療機関引き継ぎ、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について習得することを目的とする。		
授業の概要 救急車同乗実習協力消防本部にて、実際の救急隊に同乗し救急車出場から現場対応、救急車内活動・搬送、病院における活動を体験する。		
準備学習(予習・復習) 救急隊の活動の概要をwebや様々な媒体で調査しておくこと。現場活動を実施した症例は、テキスト等で確認すること。		
内 容 第1回 事前学習及びガイダンス 第2回 救急車同乗実習 第3回 救急車同乗実習 第4回 救急車同乗実習 第5回 救急車同乗実習 第6回 救急車同乗実習 第7回 救急車同乗実習 第8回 救急車同乗実習		
履修上の注意点 この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。集中講義を行うこともある。		
教科書 救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2012 ISBN: 9784892697449 救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2012 ISBN: 9784892697456 救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2012 ISBN: 9784892697463 救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2012 ISBN: 9784892697470 救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻 著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会 出版社： へるす出版 出版年： 2012 ISBN: 9784892697487		
参考書		

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (80)

各消防本部からの個人の報告を受けて評価を実施する。60%

2015 Syllabus

科目名 **救急救命実習(病院)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中

定員 50

履修条件 「救急救命実習Ⅴ」を修得
済みであること

クラス指定

担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握およびそれらに必要な技術の習得。

授業の到達目標

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の概要

※この単位履修は、他の救急救命実習の履修状況および履修態度身だしなみとうが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加することは出来ない。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、成人看護座学
- 第2回 学内成人看護演習
- 第3回 夏期病院実習
- 第4回 春期病院実習
- 第5回 各期病院実習後報告検討会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

医療機関実習担当者の評価による。

2015 Syllabus

科目名 **仕事研究 I**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

保険会社で必要な専門的な知識ではなく、私たちの生活や経済社会の中で必要な保険についての基礎知識を学習します。

授業の到達目標

私たちの生活や経済活動において「リスクとは何か」を正しく理解し、リスクマネジメントの方法や保険の役割について正しく理解することを目標とします。

授業の概要

リスクの基礎概念を学んだ上で、リスクマネジメントおよび保険について学習します。具体的には、リスクマネジメントの目的、リスクマネジメントの手法としての損失コントロール、経済資本の概念、そして公正保険料および保険需要の理論などを学びます。

準備学習(予習・復習)

生命保険や損害保険のテレビ・コマーシャルなどを見たら、その保険は人間生活のどんな「リスク」に対応しようとしているのか、を考えてみてください。

内 容

- 第1回 リスクとは何かー結果のバラツキとリスク
- 第2回 リスクの実体とリスクの分類
- 第3回 リスクの計測と正規分布
- 第4回 リスクを軽減する方法(1)
- 第5回 リスクを軽減する方法(2)
- 第6回 リスクへの対応手段ーリスクマネジメント
- 第7回 公正保険料
- 第8回 保険の契約
- 第9回 保険の法制度
- 第10回 保険商品と保険の分類
- 第11回 リスクの保険可能性(1)ー付加保険料
- 第12回 リスクの保険可能性(2)ー逆選択
- 第13回 リスクの保険可能性(3)ーモラルハザード
- 第14回 保険の自由化と契約者保護
- 第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

リスクと保険の基礎理論

著者: 米山高生

出版社: 同文館出版

出版年: 2012年

ISBN: 4495440810

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **管理会計論**

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定 員

履修条件 クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

管理会計を通して、組織のリーダーが何を行っているのかということ学ぶ

授業の概要

テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。

準備学習(予習・復習)

復習は、必ずしてもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス会計的思考と管理会計
- 第2回 財務諸表の分析1
- 第3回 財務諸表の分析2
- 第4回 短期利益計画1
- 第5回 短期利益計画2
- 第6回 予算編成と予算統制
- 第7回 事業部業績評価
- 第8回 コストダウンの方法
- 第9回 投資意思決定の諸問題1
- 第10回 投資意思決定の諸問題2
- 第11回 在庫費用の管理1
- 第12回 在庫費用の管理2
- 第13回 マーケティング会計
- 第14回 経営戦略と管理会計
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

管理会計を語る

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

参考書

経営管理会計

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN：

成績評価

a50103d310

試験 (30)

授業中課題 (15)

参加度 (40)

小テスト (15)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

各自、課題に見合った研究方法や論文の書き方を学び、卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業研究(卒業論文)の報告とそれへのコメントおよび受講生相互の意見交換を行う。

準備学習(予習・復習)

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンスと論文の書き方
- 第2回 卒業研究報告1(序論・課題と方法)
- 第3回 卒業研究報告2(序論・課題と方法)
- 第4回 卒業研究報告3(序論・課題と方法)
- 第5回 卒業研究報告4(序論・課題と方法)
- 第6回 卒業研究報告5(本論:先行研究の検討)
- 第7回 卒業研究報告6(本論:先行研究の検討)
- 第8回 卒業研究報告7(本論:先行研究の検討)
- 第9回 卒業研究報告8(本論:先行研究の検討)
- 第10回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第11回 卒業研究報告9(本論:調査内容の報告)
- 第12回 卒業研究報告10(本論:調査内容の報告)
- 第13回 卒業研究報告11(本論:調査内容の報告)
- 第14回 卒業研究報告12(本論:調査内容の報告)
- 第15回 卒業研究中間報告会(予定)・演習のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60%)

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*b>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 河野 充央	
テーマ 卒業論文の作成	
授業の到達目標 夏季休暇中に下書きを完成させる	
授業の概要 パワーポイントによる報告報告内容にたいする質疑応答教員からのアドバイス希望者は、工場見学などの学外学習にも参加できる	
準備学習(予習・復習) レジュメの作成	
内 容	
第1回 ガイダンス春季休暇中の課題提出論文の書き方・形式について指導	
第2回 卒論指導1卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第3回 卒論指導2卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第4回 卒論指導3卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第5回 卒論指導4卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第6回 卒論指導5卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第7回 卒論指導6卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第8回 卒論指導7卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第9回 卒論指導8卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第10回 卒論指導9卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第11回 卒論指導10卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第12回 卒論指導11卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第13回 卒論指導12卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第14回 卒論指導13卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導は随時実施)	
第15回 夏季休暇中における下書き完成のための課題指示	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 (60)
参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅲ <*c>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文に見合うテーマと問いを設定し、その解決に向けた調査を行う。ゼミ生の報告と報告内容に関するディスカッションを中心に進める。

授業の概要

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の書き方
- 第3回 テーマ設定
- 第4回 テーマ設定
- 第5回 問いの設定
- 第6回 問いの設定
- 第7回 問いの設定
- 第8回 先行研究レビュー
- 第9回 先行研究レビュー
- 第10回 先行研究レビュー
- 第11回 先行研究レビュー
- 第12回 調査設計
- 第13回 調査設計
- 第14回 調査設計
- 第15回 調査設計

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*d>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経営の発展的学習

授業の到達目標

医療経営に関する発展的な知識を習得するとともに、卒業研究の作成にむけた基本的な技術を確認する

授業の概要

主としてテキストを用いた報告と討論を行うとともに、卒業研究のための論文作成技法や図書館ガイダンスを実施する。また、3回生と合同でゼミ合宿を開催する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外にも報告の準備や学外授業・ゼミ合宿の企画立案等を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学外授業およびゼミ合宿の準備・立案
- 第3回 図書館ガイダンス(予定)
- 第4回 テキストを用いた演習
- 第5回 テキストを用いた演習
- 第6回 テキストを用いた演習
- 第7回 テキストを用いた演習
- 第8回 テキストを用いた演習
- 第9回 テキストを用いた演習
- 第10回 テキストを用いた演習のまとめ
- 第11回 論文の作成技法
- 第12回 論文の作成技法
- 第13回 キャリア講演会(予定)
- 第14回 学外授業(予定)
- 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業、ゼミ合宿、自主ゼミ等に主体的に参加すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

12月の卒業論文の提出に向けて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続けて行う。

授業の概要

ゼミ生による卒業論文の研究発表(春季課題の報告、第一クール=第1章、第二クール=第2章)

準備学習(予習・復習)

日頃から卒業論文のテーマに関する文献や資料の収集に努めること。

内 容

第1回 前期ガイダンス

第2回 春季課題の発表(1)

第3回 春季課題の発表(2)

第4回 春季課題の発表(3)

第5回 春季課題の発表(4)

第6回 第一クール=第1章の発表(1)

第7回 第一クール=第1章の発表(2)

第8回 第一クール=第1章の発表(3)

第9回 第一クール=第1章の発表(4)

第10回 第二クール=第2章の発表(1)

第11回 第二クール=第2章の発表(2)

第12回 第二クール=第2章の発表(3)

第13回 第二クール=第2章の発表(4)

第14回 予備

第15回 総括

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代替りの人を確保すること。それ以外のゼミの欠席はありえない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は春季課題のレポートによる。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ < * f >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

ゼミの内部で研究の進捗について情報を共有し、互いに助け合いながら卒業論文を完成させることを目指す。

準備学習(予習・復習)

各自でしっかりと準備を進めること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 論文の書き方

第3回 卒論進捗報告(序論)

第4回 卒論進捗報告(序論)

第5回 卒論進捗報告(序論)

第6回 卒論進捗報告(序論)

第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)

第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)

第15回 総括

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 李在鎬

テーマ

ゼミの研究テーマに加え、卒業研究の計画を行う。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

基礎演習Ⅲでの経営リーダーシップ理論、専門演習Ⅰ・Ⅱでの経営戦略論を土台にし、自分の卒業研究のテーマを決め、研究計画を行う。

準備学習(予習・復習)

経済新聞を精読してください。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第14回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第15回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ〈*救急〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文を完成させる

授業の到達目標

各自、課題に即した研究方法を習得して、論文の書き方を学び、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究の中間報告とコメントおよび最終報告とコメント。

準備学習(予習・復習)

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

内 容

- 第1回 卒業研究報告1(結論)
- 第2回 卒業研究報告2(結論)
- 第3回 卒業研究報告3(結論)
- 第4回 卒業研究報告4(結論)
- 第5回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第6回 卒業研究最終報告1(全体)
- 第7回 卒業研究最終報告2(全体)
- 第8回 卒業研究最終報告3(全体)
- 第9回 卒業研究最終報告4(全体)
- 第10回 卒業研究最終報告5(全体)
- 第11回 卒論執筆原稿相互検討1
- 第12回 卒論執筆原稿相互検討2
- 第13回 卒論執筆原稿相互検討3
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 演習の総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ < * b >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成および完成

授業の到達目標

質の高い卒業論文を完成させ、学士号を取得する

授業の概要

パワーポイントによる報告報告内容にたいする質疑応答教員からのアドバイス希望者は、工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習(予習・復習)

レジュメの作成

内 容

- 第1回 夏季休暇中課題の下書きを提出目次のみを全員に配布概要報告と意見交換・教員による指導
 第2回 報告とチェック1報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第3回 報告とチェック2報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第4回 報告とチェック3報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第5回 報告とチェック4報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第6回 報告とチェック5報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第7回 報告とチェック6報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第8回 報告とチェック7報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第9回 報告とチェック8報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第10回 報告とチェック9報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導(個別指導は随時実施)
 第11回 最終チェック1(個別指導は随時実施)
 第12回 最終チェック2(個別指導は随時実施)
 第13回 口頭試問準備1(個別指導は随時実施)
 第14回 口頭試問準備2(個別指導は随時実施)
 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

これまでに行ってきた作業を取りまとめ、卒業論文として完成することを目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 良い論文とは何か?
- 第3回 事例分析・考察
- 第4回 事例分析・考察
- 第5回 事例分析・考察
- 第6回 事例分析・考察
- 第7回 卒業論文中間報告会
- 第8回 卒業論文中間報告会
- 第9回 卒業論文最終報告
- 第10回 卒業論文最終報告
- 第11回 卒業論文最終報告
- 第12回 卒業論文最終報告
- 第13回 卒業論文の検討会
- 第14回 卒業論文の検討会
- 第15回 卒業論文の検討会

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*d〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 高山 一夫	
テーマ 卒業研究の完成	
授業の到達目標 これまでの学習を基に各人がテーマを設定し、調査の方法と論文の書き方を習得した上で、卒業研究として完成させる	
授業の概要 演習において受講生は卒業研究の進捗状況を報告し教員より指導を受ける	
準備学習(予習・復習) 授業時間以外にも個々人の進捗状況に応じて個別に指導する。また、自主ゼミを設け、受講生相互で卒業研究を検討する。	

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究報告
- 第3回 卒業研究報告
- 第4回 卒業研究報告
- 第5回 卒業研究報告
- 第6回 卒業研究報告
- 第7回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第8回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第9回 卒業研究報告
- 第10回 卒業研究報告
- 第11回 卒業研究報告
- 第12回 卒業研究報告
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。卒業研究上の質問などがある場合は、早めに連絡・相談すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

医療経営白書2014-15年版

著者: 吉原健二編

出版社: 日本医療企画

出版年: 2014

ISBN: 978-4864392969

医療白書2014-15年版

著者: 西村周三編

出版社: 日本医療企画

出版年: 2014

ISBN: 978-4864392952

介護経営白書2014-15年版

著者: 江草安彦編

出版社: 日本医療企画

出版年: 2014

ISBN: 978-4864392976

薬事ハンドブック2014

著者: じほう

出版社: じほう

出版年: 2014

ISBN: 978-4840745666

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文と論文集の作成に向けて

授業の到達目標

前期に引き続いて、よりよい卒業論文の作成のための研究発表を続ける。また、ゼミの卒業論文集を作成する準備を行う。

授業の概要

ゼミ生による研究発表と卒業論文の作成に向けた指導、卒業論文の添削と要約の作成

準備学習(予習・復習)

卒業論文の作成のための計画的な学習に尽きる。

内 容

第1回 後期のガイダンス

第2回 第三クール＝第3章の発表(1)

第3回 第三クール＝第3章の発表(2)

第4回 第三クール＝第3章の発表(3)

第5回 第三クール＝第3賞の発表(4)

第6回 予備

第7回 中間発表会の予行練習(1)

第8回 中間発表会の予行練習(2)

第9回 第四クール＝第4章の発表(1)と個別指導

第10回 第四クール＝第4章の発表(2)と個別指導

第11回 第四クール＝第4章の発表(3)と個別指導

第12回 第四クール＝第4章の発表(4)と個別指導

第13回 要約の添削(1)

第14回 要約の添削(2)

第15回 要約の添削(3)

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代替りの人を確保すること。それ以外の欠席はありえない。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (40%)

授業中課題は夏季課題のレポートである。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

ゼミの内部で研究の進捗について情報を共有し、互いに助け合いながら卒業論文を完成させることを目指す。

準備学習(予習・復習)

各自でしっかりと準備を進めること。

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(全体)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <*g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 李在鎬

テーマ

ゼミの研究テーマおよび各ゼミ生の卒業研究を完成し、成果物をまとめる。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

個人的な興味だけではなく、学術的、社会的な問題意識から研究課題を見直し、これまで専門演習で習ってきた理論を土台にし、卒業研究を完成し、卒業論文を執筆する。

準備学習(予習・復習)

卒業研究の分析対象へのフィールドワーク、インタビュー調査などを勧めます。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
 第2回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第3回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第4回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第5回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第6回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第7回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第8回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第9回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第10回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第11回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第12回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第13回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
 第14回 全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。
 第15回 全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。

履修上の注意点

発表の予定日に無断欠席をすることがないように注意してください。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められますが、それに加え、卒業論文の完成まで、数次にわたり、個人指導が必要な場合があります。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*救急〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

国家試験対策

授業の到達目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、救急救命士国家試験対策
- 第2回 救急救命士国家試験対策
- 第3回 救急救命士国家試験対策
- 第4回 救急救命士国家試験対策
- 第5回 救急救命士国家試験対策
- 第6回 救急救命士国家試験対策
- 第7回 救急救命士国家試験対策
- 第8回 救急救命士国家試験対策
- 第9回 救急救命士国家試験対策
- 第10回 救急救命士国家試験対策
- 第11回 救急救命士国家試験対策
- 第12回 救急救命士国家試験対策
- 第13回 救急救命士国家試験対策
- 第14回 救急救命士国家試験対策
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2015 Syllabus

科目名 都市環境デザイン論 I <Z>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者

テーマ

まちづくりの基礎知識を身につけよう

授業の到達目標

現代社会の大きなキーワードの一つであるまちづくりの意味や歴史を知るとともに、まちづくりの課題を把握して解決しうるために必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

まちづくりの概念や構造、成立経過、歴史などを解説した後、ハード面の代表として都市計画を、ソフト面では経済や観光振興、文化政策などを、また過疎過密問題と対策などについて詳述する。ゲストスピーカーによる特別講義も予定している。

準備学習(予習・復習)

日頃から地域で起こることに関心を持つ。観光旅行に出た場合は、その地域の資料や写真データをためて置く。

内 容

- 第1回 概念解説。講義の進め方。
- 第2回 原始、縄文、弥生時代。
- 第3回 都城都市。
- 第4回 歴史都市類型。
- 第5回 近代。
- 第6回 都市計画。
- 第7回 区画整理事業。
- 第8回 経済振興。
- 第9回 観光振興。
- 第10回 文化政策。イメージアップ策。
- 第11回 文化施設とまちづくり。
- 第12回 福祉のまちづくり。
- 第13回 過疎過密問題と対応策。
- 第14回 総合戦略。
- 第15回 まとめ。

履修上の注意点

私語、授業と無関係な携帯やスマホ等の利用は厳禁です。他の学生の学びの妨げになりかねません。成績評価で大きく減点する場合があります。不定期に小テストやレポート執筆があります。それらについてはその都度、授業中に説明します。

教科書

無し

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

臨地まちづくり学

著者: 織田 直文

出版社: サンライズ出版

出版年: 2005

ISBN:

文化政策と臨地まちづくり

著者: 織田直文編著

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 (10)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

出席、受講態度等を重視します。不定期に行う小テストやレポート執筆とで、総合評価します。

2015 Syllabus

科目名 デッサン〈Z〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者 富家 大器		
テーマ		
演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する		
授業の到達目標		
自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。		
授業の概要		
鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。		
準備学習(予習・復習)		
普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。		
内 容		
第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎		
第2回 デッサン1(課題1)		
第3回 デッサン2(課題2-1)		
第4回 デッサン3(課題2-2)		
第5回 デッサン4(課題3-1)		
第6回 デッサン5(課題3-2)		
第7回 平面構成 課題説明 事例紹介		
第8回 平面構成1(課題1-1)		
第9回 平面構成2(課題1-2)		
第10回 平面構成3(課題2-1)		
第11回 平面構成4(課題2-2)		
第12回 立体構成 課題説明 事例紹介		
第13回 立体構成1(課題1-1)		
第14回 立体構成2(課題1-2)		
第15回 立体構成3 まとめと発表		
履修上の注意点		
クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。制作中の授業マナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。		
教科書		
使用しない		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
参考書		
授業中都度紹介します		
著者:		
出版社:		
出版年:		
ISBN:		
成績評価		
試験 () 小テスト ()		
授業中課題 (50) 授業中発表等 (20)		
参加度 (30)		
授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50%		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 近藤 康子

テーマ

大学における学習の方法を学ぶ。

授業の到達目標

・論理的な思考方法を学ぶ。・発表、討論の仕方を身に付ける。・レポートの書き方を学ぶ。・京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

京都には見るべき建築・インテリアが多数ある。この授業では、代表的な作品を幾つか取り上げ、それに関する資料(図面、解説書など)を丁寧に読み解き、実際に現地に赴いて見学する。随時レポート提出、発表、討論を行なう。一人一人が、資料や作品の何に着目し、何を思い、それを人にどのように伝えるのか、ということについて自覚的であるよう心掛けること。学外授業を行なう際には、下記の日程を適宜調整する。

準備学習(予習・復習)

日常的に京都のまちを散策し、歴史、文化、デザインに触れ、スケッチや写真撮影などを通して、それらを丁寧に観察すること。

内 容

- 第1回 自己紹介
- 第2回 作品紹介1
- 第3回 資料の読解、討論1
- 第4回 資料の読解、討論1
- 第5回 見学会1
- 第6回 作品紹介2
- 第7回 資料の読解、討論2
- 第8回 資料の読解、討論2
- 第9回 見学会2
- 第10回 作品紹介3
- 第11回 資料の読解、討論3
- 第12回 資料の読解、討論3
- 第13回 見学会3
- 第14回 資料読解と見学をふまえて、レポート発表、討論
- 第15回 夏休みレポートの説明

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*B>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

大学生としての基本的教養と都市環境デザイン学科の学習法を身につける

授業の到達目標

①見たり聞いたりしたことの中に、社会的な問題を発見する。②問題意識をもったことを、岩波新書のような参考文献を使って、きちんと調べる習慣をつける。③自分の考えを伝えるための、文章・写真・図表などの多様な表現法を獲得する。

授業の概要

テーマと順番を決めて、発表をおこない、全員で質疑応答する。

準備学習(予習・復習)

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

内 容

- 第1回 基礎演習についての説明
- 第2回 今後の発表の方法の説明
- 第3回 新入生レポートの発表①
- 第4回 新入生レポートの発表②
- 第5回 新入生レポートの発表③
- 第6回 新入生レポートの発表④
- 第7回 学外授業 京都の歴史的な文化景観を歩く
- 第8回 自由課題の研究発表の説明
- 第9回 日本語のきまりと原稿の書き方(Wordを使った原稿作成法)
- 第10回 写真や図による記録方法の解説
- 第11回 自由課題の研究発表①
- 第12回 自由課題の研究発表②
- 第13回 自由課題の研究発表③
- 第14回 自由課題の研究発表④
- 第15回 基礎レポート(夏休みレポート)の説明

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*C>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	織田 直文	
テーマ	本に親しみ、思考し議論できる	
授業の到達目標	ネット社会であるが、書籍の持つ意味を再考し、重要性を理解させながら、読む、書く、話す、聞くなどのコミュニケーション能力を身につける	
授業の概要	教科書の音読(輪読)を進めるとともに、各自が読んだ「私のお奨め一冊」について内容と発表を行い、討論する。また、機会があれば学内イベントに参加する。	
準備学習(予習・復習)	自分が気に入った本(ただし専門書)を選び、A4判1枚の最上部に学生番号と学生氏名および①著者名、②書籍名、③出版社、④発行年を記入した後、⑤内容、⑥自分の感想、評価を書き込み発表、提出する。また、夏休みには学科全員にレポートが課せられる。	
内 容	<p>第1回 授業のねらいと進め方。自己紹介。</p> <p>第2回 学外調査。</p> <p>第3回 学外調査。</p> <p>第4回 教科書音読と「私のお奨め一冊」</p> <p>第5回 教科書音読と「私のお奨め一冊」</p> <p>第6回 教科書音読と「私のお奨め一冊」</p> <p>第7回 教科書音読と「私のお奨め一冊」</p> <p>第8回 学内イベントへの準備</p> <p>第9回 学内イベントへの準備</p> <p>第10回 学内イベントに参加</p> <p>第11回 学内イベントに参加</p> <p>第12回 学内イベントの反省会</p> <p>第13回 夏休みレポートと後期の進め方について</p> <p>第14回 前期総括レポートの執筆</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	テキストは新装版(2014年8月刊)を購入してください。旧版と間違えないように。全てにおいて参加を重視します。本をたくさん読んでください。そして文章を書いてください。	
教科書	<p>京都の千二百年 上新装版</p> <p>著者: 西川幸治・高橋徹</p> <p>出版社: 草思社</p> <p>出版年: 2014</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (10) 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>私のお奨め一冊の発表、提出、学内イベントへの参加への積極性を重視します。</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*D>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 小森 治夫		
テーマ		
現代日本社会をジェンダーの視点から考える		
授業の到達目標		
入門的文献の講読とビデオ学習により、女性学と男性学の基礎を学ぶ		
授業の概要		
以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ		
準備学習(予習・復習)		
事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく。事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める。		
内 容		
第1回 オリエンテーション		
第2回 大学で学ぶ意味とは		
第3回 ノートの取り方		
第4回 『女性学・男性学』第1章		
第5回 ビデオ「男と女の境界線」		
第6回 『女性学・男性学』第2章		
第7回 『女性学・男性学』第3章		
第8回 『女性学・男性学』第4章		
第9回 『女性学・男性学』第5章		
第10回 『女性学・男性学』第6章		
第11回 『女性学・男性学』第7章		
第12回 『女性学・男性学』第8章		
第13回 『女性学・男性学』第9章		
第14回 夏休みレポートのテーマ報告(1)		
第15回 夏休みレポートのテーマ報告(2)		
履修上の注意点		
教科書		
女性学・男性学(改訂版)		
著者: 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子		
出版社: 有斐閣		
出版年: 2011年	ISBN:	
大学生の学習テクニック(第3版)		
著者: 森 靖雄		
出版社: 大月書店		
出版年: 2014年	ISBN:	
参考書		
大学生活ナビ		
著者: 小原芳明監修		
出版社: 玉川大学出版部		
出版年: 2006年	ISBN:	
成績評価		
試験(0)	小テスト(0)	
授業中課題(30)	授業中発表等(40)	
参加度(30)		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*E>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 金武 創

テーマ

大学における学びの方法を身につける

授業の到達目標

1. 毎回の授業で必ず発言する2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。3. レジюмеを作成できるようになる。どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

授業の概要

高校までの学習では重視されなかったコミュニケーション・スキルとアカデミック・スキルを学びます。

準備学習(予習・復習)

授業で配布されたワークシートを完成させて当日提出すること。

内 容

- 第1回 大学の学び方
- 第2回 グループ討論1 就職活動と学校教育との違いを意識する
- 第3回 グループ討論2 時間内に結論を導く方法
- 第4回 グループ討論3 商品開発をデザインする
- 第5回 レジюме作成と報告1 専門文献を読む
- 第6回 レジюме作成と報告2 一人で報告する
- 第7回 レジюме作成と報告3 報告から質問する
- 第8回 レジюме作成と報告4 自分の報告と比べる
- 第9回 図書館の積極的利用1 書誌情報とは
- 第10回 図書館の積極的利用2 知的興味と文献探索
- 第11回 図書館の積極的利用3 夏休みレポートの素材探し
- 第12回 図書館の積極的利用4 研究対象の確定と参考文献の把握
- 第13回 夏休みレポートの準備1 焦点の絞られたテーマ設定
- 第14回 夏休みレポートの準備2 引用文献の探索
- 第15回 夏休みレポートの準備3 執筆準備の工夫

履修上の注意点

学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (90)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <*F>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 木下 達文

テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける～「研究」と「実践」の基礎から考える～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。教室で学ぶだけではなく、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしていきましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自己紹介)
- 第2回 セルフスピーチ(自分自身の考えを人に伝える)
- 第3回 シンキングメソッド(自分の興味関心を深く考える)
- 第4回 リサーチプログラム(問題解決のための方法論)
- 第5回 リーディング(文献をきちんと読む)
- 第6回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第7回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第8回 プレゼンテーション(発表)1
- 第9回 プレゼンテーション(発表)2
- 第10回 プレゼンテーション(発表)3
- 第11回 プレゼンテーション(発表)4
- 第12回 後期演習プロジェクト企画の設定1
- 第13回 後期演習プロジェクト企画の設定2
- 第14回 演習プロジェクト企画書のまとめと発表
- 第15回 夏休みレポートの課題設定※演習の内容によって多少変更をする場合もある。※この講義では、必要に応じて学外授業・ゲストスピーカーの講演を行うことがある。フィールドワークの時期等も状況に応じて決めていくこととする。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

とくに出席を重視します。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <* 救急A>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 25

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 山崎 将文

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢、マナーなど)と学習能力(文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など)を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習(予習・復習)

平日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内 容

- 第1回 授業を受けるにあたっての注意事項の説明勉強の仕方の説明
- 第2回 政治民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
- 第3回 行政行政学の基礎理論、官僚制
- 第4回 法学比較憲法、民法
- 第5回 憲法の基本原理国民主権、平和主義、憲法改正
- 第6回 基本的人権基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下での平等
- 第7回 国会国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
- 第8回 裁判所違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
- 第9回 国際政治国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
- 第10回 ミクロ経済需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
- 第11回 マクロ経済経済循環と国民所得、日銀の景気政策
- 第12回 国際経済国際分業と国際経済、貿易政策
- 第13回 社会保障日本の社会保障制度史、医療保険制度
- 第14回 現代社会の諸相女性・家族問題、環境・エネルギー問題
- 第15回 レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習 I <* 救急B>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	山崎 将文	
テーマ	一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得	
授業の到達目標	主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。	
授業の概要	<p>大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢、マナーなど)と学習能力(文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など)を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>平日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。</p>	
内容	<p>第1回 授業を受けるにあたっての注意事項の説明勉強の仕方の説明 第2回 政治民主政治の思想、議院内閣制と大統領制 第3回 行政行政学の基礎理論、官僚制 第4回 法学比較憲法、民法 第5回 憲法の基本原理国民主権、平和主義、憲法改正 第6回 基本的人権基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下での平等 第7回 国会国権の最高機関、国会議員、立法府の活動 第8回 裁判所違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立 第9回 国際政治国際連盟と国際連合、国際社会と国際法 第10回 ミクロ経済需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗 第11回 マクロ経済経済循環と国民所得、日銀の景気政策 第12回 国際経済国際分業と国際経済、貿易政策 第13回 社会保障日本の社会保障制度史、医療保険制度 第14回 現代社会の諸相女性・家族問題、環境・エネルギー問題 第15回 レポートの作成と完成</p>	
履修上の注意点	<p>皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。</p>	
教科書	<p>使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>必要に応じ適宜紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。</p>	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 近藤 康子

テーマ

小論文を作成し、発表する。

授業の到達目標

・調査の方法を学ぶ。・論文の書き方を学ぶ。・プレゼンテーション能力を身に付ける。・基礎演習1に引き続き、京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

夏休みレポートをもとにして、各自、小論文を作成する。論文作成にあたり、必要な調査方法、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身に付ける。またこの授業ではグループで見学会を企画し、それについての調査、発表を行なう。学外授業を行なうこともあり、その場合には下記の日程を適宜調整する。

準備学習(予習・復習)

日常的に新聞、雑誌、本などを読むこと。気になるところに傍線を引く、メモ書きをするなど、それぞれの仕方理解するよう努めること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 夏休みレポートをもとに、小論文のテーマを発表。

第3回 2グループに分かれて見学会を企画。見学する建築・インテリアについては、各グループ内で話し合って決めること。

第4回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。(図書館を利用した文献調査や、地域の人へのヒアリングなど)

第5回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。

第6回 調査内容についてのプレゼンテーション。(パワーポイントの利用)

第7回 調査内容についてのプレゼンテーション。

第8回 見学会の実践1

第9回 見学会の実践2

第10回 反省会(調査内容の不足や過多、見学会での発見などを確認)

第11回 小論文の作成。

第12回 小論文の作成。

第13回 小論文の発表。

第14回 小論文の発表。

第15回 発表予備日。一年間のまとめ。

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

テーマを設定して小論文を作成し、発表する力を身につける

授業の到達目標

①基礎レポートをもとにして、短い小論文を作成するための技術を獲得する。②各種の新書を読んで、研究課題に対する様々な考え方を学ぶ能力を修得する。③パワーポイントなどのプレゼンテーション能力を獲得する。

授業の概要

基礎レポート(夏休みレポート)をもとにして、発展させた小論文を作成し、発表をおこなう。

準備学習(予習・復習)

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

内 容

- 第1回 学外授業——納得工房の見学
- 第2回 夏休み課題の研究成果の報告会
- 第3回 基礎レポートの発表①
- 第4回 基礎レポートの発表②
- 第5回 基礎レポートの発表③
- 第6回 基礎レポートの発表④
- 第7回 基礎レポートの発表⑤
- 第8回 パワーポイント製作練習
- 第9回 プレゼンテーションの基礎的技術
- 第10回 プレゼンテーションの練習①
- 第11回 プレゼンテーションの練習②
- 第12回 プレゼンテーションの練習③
- 第13回 プレゼンテーションの練習④
- 第14回 プレゼンテーションの練習⑤
- 第15回 インターゼミの反省

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*C>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 織田 直文	
テーマ 本に親しみ、思考し議論できる	
授業の到達目標 ネット社会であるが、書籍の持つ意味を再考し、重要性を理解させながら、読む、書く、話す、聞くなどのコミュニケーション能力を身につける	
授業の概要 教科書の音読(輪読)を進めるとともに、各自が読んだ「私のお奨め一冊」について内容と発表を行い、討論する。また、機会があれば学外イベントに参加する。夏休みレポートの発表(ゼミ+インターゼミナール)があり、必ずやる必要があります。	
準備学習(予習・復習) 自分が気に入った本(ただし専門書)を選び、A4判1枚の最上部に学生番号と学生氏名および①著者名、②書籍名、③出版社、④発行年を記入した後、⑤内容、⑥自分の感想、評価を書き込み発表、提出する。また、夏休みレポートをゼミ及び年末に全学科テーマ別発表会で発表する(必須)。	
内 容 第1回 夏休みレポートなど課題を提出する。後期の進め方、地域イベント参加について。 第2回 地域イベント参加。 第3回 地域イベント参加。 第4回 地域イベント反省会。 第5回 将来の進路学習会。 第6回 夏休みレポ発表。教科書音読と「私のお奨め一冊」 第7回 夏休みレポ発表。教科書音読と「私のお奨め一冊」 第8回 教科書音読と「私のお奨め一冊」 第9回 教科書音読と「私のお奨め一冊」 第10回 教科書音読と「私のお奨め一冊」 第11回 教科書音読と「私のお奨め一冊」 第12回 教科書音読と「私のお奨め一冊」 第13回 インターゼミナール 第14回 インターゼミナール 第15回 まとめ	
履修上の注意点 テキストは新装版を購入のこと。発表やゼミ単位での調査や実践があるので休まないように。	
教科書 京都の千二百年 下 新装版 著者: 西川幸治・高橋徹 出版社: 草思社 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 その都度提示 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (30) 参加度 (60) ゼミ全体の取り組みへの関与の積極性や、私のお奨め一冊の内容、発表を重視します。夏休みレポート執筆やインターゼミナール発表は、必須です。	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*D>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小森 治夫

テーマ

小論文とレジュメを作成し、プレゼンテーションをする

授業の到達目標

「夏休みレポート」(自分の意見を論理だてて展開した小論文)を作成する。そのレポートをもとに、レジュメを作成する。人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

授業の概要

インターゼミナールを目指して、以下の内容について実践する

準備学習(予習・復習)

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など)

内 容

- 第1回 夏休みレポートの提出とテーマ報告
- 第2回 レジュメの作成とプレゼンテーションの技法
- 第3回 夏休みレポートの発表(1)
- 第4回 夏休みレポートの発表(2)
- 第5回 夏休みレポートの発表(3)
- 第6回 夏休みレポートの発表(4)
- 第7回 夏休みレポートの発表(5)
- 第8回 プレゼンテーションの実践(1)
- 第9回 プレゼンテーションの実践(2)
- 第10回 プレゼンテーションの実践(3)
- 第11回 プレゼンテーションの実践(4)
- 第12回 プレゼンテーションの実践(5)
- 第13回 プレゼンテーションの実践(6)
- 第14回 インターゼミナールの反省
- 第15回 1年を振り返って

履修上の注意点

教科書

参考書

大学生の学習テクニック(第3版)

著者: 森 靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験(0)

小テスト(0)

授業中課題(30)

授業中発表等(40)

参加度(30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*E〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 金武 創		
テーマ アカデミックスキルとベーシックスキルの取得		
授業の到達目標 研究テーマを絞る方法を身につける自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす		
授業の概要 アカデミック・スキルとソーシャル・スキルの習得		
準備学習(予習・復習) 図書館の積極的利用を通して、専門学習への準備をすること		
内 容 第1回 夏休みレポートの再作業① 作業の反省 第2回 夏休みレポートの再作業② 図書館でのさらなる文献探索 第3回 夏休みレポートの再作業③ 5分間スピーチに向けて 第4回 夏休みレポートの再作業④ レジユメの作成 第5回 自分なりの研究テーマを考える1 視点を持つこと 第6回 自分なりの研究テーマを考える2 視点を変える 第7回 自分なりの研究テーマを考える3 逆演算 第8回 自分なりの研究テーマを考える4 条件を変えてみる 第9回 自分なりの研究テーマを考える5 要素と構造 第10回 自分なりの研究テーマを考える6 自分の尺度を持つ 第11回 自分なりの研究テーマを考える7 アナロジーを使う 第12回 自分なりの研究テーマを考える8 伝える場合、伝えない場合 第13回 自分なりの研究テーマを考える9 個で考えて集団で共有する 第14回 もう一度レジユメを作ってみる 第15回 まとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書		
成績評価 試験 (0) 小テスト () 授業中課題 (100) 授業中発表等 () 参加度 () 学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <*F>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 木下 達文		
テーマ		
現代マネジメントを総合的に考える～大学における研究と実践(プロジェクト)の実際を学ぶ～		
授業の到達目標		
本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。日頃の生活では、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。		
内 容		
第1回	オリエンテーション(授業目標・自他理解)	
第2回	個人研究発表1	
第3回	個人研究発表2	
第4回	個人研究発表3	
第5回	個人研究発表4	
第6回	個人研究発表5	
第7回	個人研究発表6	
第8回	個人研究発表7	
第9回	個人研究発表8	
第10回	プロジェクト企画に関する基礎研究の検討	
第11回	プロジェクト企画に関する事業計画	
第12回	学科インターゼミナールの実施	
第13回	プロジェクト企画に関する事業準備	
第14回	プロジェクト企画に関する事業実践	
第15回	プロジェクト企画に関する事業評価(エヴァリエーション活動)※演習の内容や進行状況によって多少変更をする場合もある。	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)	
参加度 (40)		
特に出席を重視する。		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*救急A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 土井 一弘

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 レディネス診断
- 第2回 救急救命士として必要な数学を学び直す
- 第3回 数の世界の拡張 — 自然数から複素数まで —
- 第4回 数の不思議 — すべては文字が解決 —
- 第5回 整数にまつわるエトセトラ
- 第6回 タイル並べから因数定理へ
- 第7回 ジグソーパズルとn進数
- 第8回 速さにまつわるエトセトラ
- 第9回 濃度にまつわるエトセトラ①
- 第10回 濃度にまつわるエトセトラ②
- 第11回 関数とグラフ
- 第12回 パラボラアンテナの秘密 — 放物線を作る —
- 第13回 線形計画法
- 第14回 総復習1
- 第15回 総復習2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業中課題とはノート提出のこと小テストは宿題提出で代用することもある

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈*救急B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 土井 一弘

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 レディネス診断
- 第2回 救急救命士として必要な数学を学び直す
- 第3回 数の世界の拡張 — 自然数から複素数まで —
- 第4回 数の不思議 — すべては文字が解決 —
- 第5回 整数にまつわるエトセトラ
- 第6回 タイル並べから因数定理へ
- 第7回 ジグソーパズルとn進数
- 第8回 速さにまつわるエトセトラ
- 第9回 濃度にまつわるエトセトラ①
- 第10回 濃度にまつわるエトセトラ②
- 第11回 関数とグラフ
- 第12回 パラボラアンテナの秘密 — 放物線を作る —
- 第13回 線形計画法
- 第14回 総復習1
- 第15回 総復習2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業中課題とはノート提出のこと小テストは宿題提出で代用することもある

2015 Syllabus

科目名 造形基礎

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 富家 大器

テーマ

演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

授業の到達目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の概要

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

準備学習(予習・復習)

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。

内 容

第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎

第2回 デッサン1(課題1)

第3回 デッサン2(課題2-1)

第4回 デッサン3(課題2-2)

第5回 デッサン4(課題3-1)

第6回 デッサン5(課題3-2)

第7回 平面構成 課題説明 事例紹介

第8回 平面構成1(課題1-1)

第9回 平面構成2(課題1-2)

第10回 平面構成3(課題2-1)

第11回 平面構成4(課題2-2)

第12回 立体構成 課題説明 事例紹介

第13回 立体構成1(課題1-1)

第14回 立体構成2(課題1-2)

第15回 立体構成3 まとめと発表

履修上の注意点

クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。制作中の授業マナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中都度紹介します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50%

2015 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件 「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習(予習・復習)

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得よう心掛けること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 線の引き方
- 第3回 木造住宅のトレース1、平面図
- 第4回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図
- 第5回 木造住宅のトレース3、矩計図
- 第6回 部屋の改装1、実測とエスキース
- 第7回 部屋の改装2、平面図・展開図
- 第8回 部屋の改装3、模型制作
- 第9回 部屋の改装4、模型制作
- 第10回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第11回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成
- 第12回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成
- 第13回 小住宅の設計4、模型制作
- 第14回 小住宅の設計5、模型制作
- 第15回 講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座 建築製図

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版

出版年：

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済み	クラス指定	
担当者 近藤 康子		
テーマ		
建築・インテリアの基礎を修得する。		
授業の到達目標		
建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。		
授業の概要		
建築・インテリアの基礎を修得するため、図面と模型の制作を行なう。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。		
準備学習(予習・復習)		
日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。		
内 容		
第1回 ガイダンス		
第2回 インテリア・パースの練習1、一点透視図		
第3回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1		
第4回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2		
第5回 アクソメトリック図の作成1		
第6回 アクソメトリック図の作成2		
第7回 講評		
第8回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース		
第9回 戸建て住宅の設計2、エスキース		
第10回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成		
第11回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成		
第12回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成		
第13回 戸建て住宅の設計6、模型		
第14回 戸建て住宅の設計7、模型		
第15回 講評とまとめ		
履修上の注意点		
教科書		
初学者の建築講座 建築製図		
著者： 瀬川康秀		
出版社： 市ヶ谷出版		
出版年：		
ISBN：		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (40)	授業中発表等 (30)	
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 建築・インテリア設計演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 建築・インテリア設計演習Ⅰを修得済み

クラス指定

担当者 福田 浩明

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習(予習・復習)

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得よう心掛けること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 インテリア・パースの練習1、一点透視図
- 第3回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1
- 第4回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2
- 第5回 アクソメトリック図の作成1
- 第6回 アクソメトリック図の作成2
- 第7回 講評
- 第8回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第9回 戸建て住宅の設計2、エスキース
- 第10回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成
- 第11回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成
- 第12回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成
- 第13回 戸建て住宅の設計6、模型
- 第14回 戸建て住宅の設計7、模型
- 第15回 講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座 建築製図

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 CAD演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉本 雅子	
テーマ	
JW-CADによる建築製図	
授業の到達目標	
<p>コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。</p>	
授業の概要	
<p>最も代表的な建築図面作成ソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADによる建築製図の基礎をマスターする。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>JW-CADはフリーウェアで個人のパソコンにインストールも可能なので、授業の進捗に合わせて予習・復習を行うこと。建築やインテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと。</p>	
内 容	
第1回 CADソフトについて	
第2回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作	
第3回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(2)	
第4回 平面図の作図	
第5回 // (2)	
第6回 // (3)	
第7回 // (4)	
第8回 // (5)	
第9回 // (6)	
第10回 // (7)	
第11回 // (8)	
第12回 // (9)	
第13回 家具、窓等の作図	
第14回 家具、窓等の作図(2)	
第15回 課題の作図、提出	
第16回 課題の作図、提出(2)	
第17回 立面図の作図	
第18回 // (2)	
第19回 // (3)	
第20回 // (4)	
第21回 // (5)	
第22回 // (6)	
第23回 断面図の作図	
第24回 // (2)	
第25回 // (3)	
第26回 // (4)	
第27回 敷地図の作図、レイアウト	
第28回 敷地図の作図、レイアウト(2)	
第29回 図面の設定、印刷	
第30回 総括	
履修上の注意点	
課題の提出期限は厳守すること。	
教科書	
参考書	
演習JW-cad for Windows	
著者: 川窪広明・神農悠聖・藤本幹也	

出版社：学芸出版社

出版年：2005

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（10）

小テスト（0）

授業中発表等（10）

2015 Syllabus

科目名 CAD演習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉本 雅子	
テーマ JW-CADによる建築製図	
授業の到達目標 コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。	
授業の概要 最も代表的な建築図面作成ソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADによる建築製図の基礎をマスターする。	
準備学習(予習・復習) JW-CADはフリーウェアで個人のパソコンにインストールも可能なので、授業の進捗に合わせて予習・復習を行うこと。建築やインテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと。	
内 容 第1回 CADソフトについて 第2回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作 第3回 CAD製図の基礎とオブジェクトの操作(2) 第4回 平面図の作図 第5回 // (2) 第6回 // (3) 第7回 // (4) 第8回 // (5) 第9回 // (6) 第10回 // (7) 第11回 // (8) 第12回 // (9) 第13回 家具、窓等の作図 第14回 家具、窓等の作図(2) 第15回 課題の作図、提出 第16回 課題の作図、提出(2) 第17回 立面図の作図 第18回 // (2) 第19回 // (3) 第20回 // (4) 第21回 // (5) 第22回 // (6) 第23回 断面図の作図 第24回 // (2) 第25回 // (3) 第26回 // (4) 第27回 敷地図の作図、レイアウト 第28回 敷地図の作図、レイアウト(2) 第29回 図面の設定、印刷 第30回 総括	
履修上の注意点 課題の提出期限は厳守すること。	

教科書

参考書

演習JW-cad for Windows

著者: 川窪広明・神農悠聖・藤本幹也

出版社：学芸出版社

出版年：2005

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（10）

小テスト（0）

授業中発表等（10）

2015 Syllabus

科目名 **建築構造**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福田 浩明	
テーマ 建築の構成の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。	
授業の概要 建築における構造の仕組みや役割を学ぶために、サンプルや映像を通し理解を深め、スケッチや文章を板書することで、視覚的に考えることのできる基礎を学んでもらう。	
準備学習(予習・復習) 最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。	
内 容 第1回 ガイダンス、建築構造と倫理 第2回 地盤特性について 第3回 基礎について、免震構造 第4回 木質構造1 第5回 木質構造2 第6回 コンクリートブロック構造、組石造 第7回 壁式鉄筋コンクリート構造 第8回 鉄筋コンクリート構造1 第9回 鉄筋コンクリート構造2 第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造 第11回 建築の各部構造1、屋根 第12回 建築の各部構造2、床と壁 第13回 建築の各部構造3、天井と階段 第14回 建築の各部構造4、造作と開口部 第15回 まとめ	
履修上の注意点 3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること。	
教科書 図解 やさしい建築一般構造 著者： 今村仁美 他 出版社： 学芸出版社 出版年： 2009 ISBN:	
参考書 建築構造概論 著者： 桑村仁 他 出版社： 実教出版 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価 試験 (50) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (50) 人数、その他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト(ノートの持ち込みも可、コピーは不可)と一緒に成績の評価とします。	

2015 Syllabus

科目名 **構造力学 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 康彦

テーマ

建築物に作用する力の基礎知識を身に付ける。

授業の到達目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

建築物は、生じている力に対して、常に釣り合い状態にあることを学習する。また、釣り合い状態において、構造物を構成する部材には、どのような力が生じるのかを考える。

準備学習(予習・復習)

予習:テキストを読み込み、疑問点を講義の際に挙げられるようにする。復習:講義の際に使用したプリントを中心に、問題が解けるように学習する。

内 容

- 第1回 構造力学について
- 第2回 力のつり合い
- 第3回 外力と内力のつりあい
- 第4回 構造物の分類とモデル化
- 第5回 構造部材に生じる応力と応力図
- 第6回 静定骨組みの応力計算1 片持ちはり
- 第7回 静定骨組みの応力計算2 単純はり
- 第8回 断面の性質1
- 第9回 断面の性質2
- 第10回 静定ラーメンの応力計算1 片持はり型ラーメン
- 第11回 静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
- 第12回 静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
- 第13回 静定トラスの解析1、節点法
- 第14回 静定トラスの解析2、切断法
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

構造力学は、一回、一回の積み重ねで問題が解けるようになりますので、欠席をしない事が大切です。

教科書

図説 やさしい構造力学

著者: 浅野 清昭

出版社: 株式会社 学芸出版社

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 インテリアデザイン論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

インテリアデザインに関する基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の概要

建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備および性質、機能、構造に関する知識を学ぶ。具体事例を多数参照し、そこに自らの経験を重ね合わせることで、一人一人が快適なインテリア空間のありかたについて考える。

準備学習(予習・復習)

日常生活においてもインテリアデザインに関心を持ち、多くの情報を得よう心掛けること。

内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
- 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
- 第3回 インテリアと寸法
- 第4回 インテリアの性能と安全性
- 第5回 空間のデザイン
- 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
- 第7回 インテリアの仕上げ材料
- 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
- 第9回 照明計画と照明器具
- 第10回 インテリアの構法とデザイン
- 第11回 室内環境の計画
- 第12回 インテリアの計画演習1
- 第13回 インテリアの計画演習2
- 第14回 インテリアの計画演習3
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

なし。資料を適宜配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 インテリアエレメント

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サステナブルデザインにも言及する。

授業の概要

さまざまなインテリアエレメント(床、窓、壁、天井、階段、家具など)について、構造、規格、性質、仕上げなどの基本的な知識を修得する。インテリア空間と人間の生活とが、どのように関わり合うのかについても検討する。

準備学習(予習・復習)

見学や、雑誌・写真集の閲覧などを通して、なるべく多くの作品に触れること。

内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント1
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント2
- 第4回 要素と構成: 要素から室内空間へ1……(エレメント-1)
- 第5回 要素と構成: 要素から室内空間へ2……(エレメント-2)
- 第6回 重要要素の種類と性格……(エレメント-3)
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】: エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画……(エレメントとマテリアル-1)
- 第9回 空間構成と表現……(エレメントとマテリアル-2)
- 第10回 要素と構築-1: 石と壁組から……(マテリアル-1)
- 第11回 要素と構築-2: 木と軸組から……(マテリアル-2)
- 第12回 重要材の種類と性質……(マテリアル-3)
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1: ユニバーサルデザイン
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2: サステナブルデザイン
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

なし。資料を適宜配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **観光学総論 <Z>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現状と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習(予習・復習)

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内 容

- 第1回 観光とは(歴史を含む)①
- 第2回 観光とは(歴史を含む)②
- 第3回 旅行業と観光①
- 第4回 旅行業と観光②
- 第5回 鉄道会社と観光①
- 第6回 鉄道会社と観光②
- 第7回 航空産業と観光①
- 第8回 航空産業と観光②
- 第9回 ホテル・旅館業と観光①
- 第10回 ホテル・旅館業と観光②
- 第11回 土産品と観光①
- 第12回 土産品と観光②
- 第13回 ニューツーリズム①
- 第14回 ニューツーリズム②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

観光ビジネス論

著者: 谷口知司編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 **観光資源論 I <Z>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

授業の到達目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の概要

ワークブックを用いて行う。なお、グループ単位での発表を行う。

準備学習(予習・復習)

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。

内 容

- 第1回 北海道エリア1
- 第2回 北海道エリア2
- 第3回 東北エリア1
- 第4回 東北エリア2
- 第5回 関東エリア1
- 第6回 関東エリア2
- 第7回 中部エリア1
- 第8回 中部エリア2
- 第9回 関西エリア1
- 第10回 関西エリア2
- 第11回 中国・四国エリア1
- 第12回 中国・四国エリア2
- 第13回 九州・沖縄エリア1
- 第14回 九州・沖縄エリア2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回行う小テストの成績評価でのウエイトが高いため、特に復習に時間を割いてほしい。

教科書

国内観光地理

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (70)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 観光資源論Ⅱ〈Z〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源(自然、人文、複合)についての知識を得ることを目的とする。

授業の概要

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。

準備学習(予習・復習)

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いため、自宅学習は必ず必要です。

内 容

- 第1回 導入およびアジア①
- 第2回 アジア②
- 第3回 アジア③
- 第4回 ヨーロッパ①
- 第5回 ヨーロッパ②
- 第6回 ヨーロッパ③
- 第7回 南北アメリカ①
- 第8回 南北アメリカ②
- 第9回 南北アメリカ③
- 第10回 オセアニア、太平洋の島々①
- 第11回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第12回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第13回 中東、アフリカ①
- 第14回 中東、アフリカ②
- 第15回 中東、アフリカ③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

海外観光地理サブノート

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 まちづくり論入門 <Z>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

まちづくりの基礎知識を身につけよう

授業の到達目標

現代社会の大きなキーワードの一つであるまちづくりの意味や歴史を知るとともに、まちづくりの課題を把握して解決しうするために必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

まちづくりの概念や構造、成立経過、歴史などを解説した後、ハード面の代表として都市計画を、ソフト面では経済や観光振興、文化政策などを、また過疎過密問題と対策などについて詳述する。ゲストスピーカーによる特別講義も予定している。

準備学習(予習・復習)

日頃から地域で起こることに関心を持つ。観光旅行に出た場合は、その地域の資料や写真データをためて置く。

内 容

- 第1回 概念解説。講義の進め方。
- 第2回 原始、縄文、弥生時代。
- 第3回 都城都市。
- 第4回 歴史都市類型。
- 第5回 近代。
- 第6回 都市計画。
- 第7回 区画整理事業。
- 第8回 経済振興。
- 第9回 観光振興。
- 第10回 文化政策。イメージアップ策。
- 第11回 文化施設とまちづくり。
- 第12回 福祉のまちづくり。
- 第13回 過疎過密問題と対応策。
- 第14回 総合戦略。
- 第15回 まとめ。

履修上の注意点

私語、授業と無関係な携帯やスマホ等の利用は厳禁です。他の学生の学びの妨げになりかねません。成績評価で大きく減点する場合があります。不定期に小テストやレポート執筆があります。それらについてはその都度、授業中に説明します。

教科書

無し

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

臨地まちづくり学

著者: 織田 直文

出版社: サンライズ出版

出版年: 2005

ISBN:

文化政策と臨地まちづくり

著者: 織田直文編著

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 (10)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

出席、受講態度等を重視します。不定期に行う小テストやレポート執筆とで、総合評価します。

2015 Syllabus

科目名 観光文化論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	
テーマ 観光学の基本的理解(主として観光文化の視点から)	
授業の到達目標 観光学の基礎を学び理解すること観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること地域の主体的自立を自分の問題として考えること	
授業の概要 観光文化について、人類学や社会学、民俗学などを中心に学習する。受講人数によって、グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行うか、VTR+新聞資料を中心とした講義を進める。	
準備学習(予習・復習) 日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります	
内 容 第1回 観光学の基礎1 第2回 観光学の基礎2 第3回 観光学の基礎3 第4回 観光とメディア 第5回 個人化する観光 第6回 観光経験 ブーアスティンとマキャーネルの論考から 第7回 ホストとゲスト 第8回 「大きな物語」と文化遺産観光(1) 第9回 「大きな物語」と文化遺産観光(2) 第10回 「大きな物語」と文化遺産観光(3) 第11回 戦争と観光 第12回 アニメ・マンガ・ゲーム観光 第13回 ボランティア観光 第14回 エコツーリズム 第15回 まとめ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 観光経験の人類学 著者: 橋本和也 出版社: 世界思想社 出版年: 2011 ISBN:	
観光文化学 著者: 山下晋司 出版社: 新陽社 出版年: 2007 ISBN:	
ふるさと資源化と民俗学 著者: 岩本通弥編 出版社: 吉川弘文館 出版年: 2007 ISBN:	

祭りのゆくえ

著者： 松平誠

出版社： 中央口論新社

出版年：

ISBN:

n次創作観光

著者： 岡本健

出版社： 北海道冒険芸術出版

出版年： 2013

ISBN:

観光学ガイドブック

著者： 大橋昭一ほか

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門Ⅰ〈Z〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	

テーマ

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く

授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≡環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

準備学習(予習・復習)

地域の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館において実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

内 容

- 第1回 はじめに・・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 地域とはなにか—都市と地方、国と国際との概念を明確にするために—
- 第4回 政策とはなにか、行政とはなにか—教科書を活用—
- 第5回 学外授業 京都市内などにおいて、地域の公共的文化環境を視察する(京都芸術センターなどが候補)
- 第6回 地域と政策と文化との関係(互いの関係とすみわけ)—教科書を活用—
- 第7回 文化と政策との概略史—教科書を活用—
- 第8回 誕生日のあるアーツ、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第9回 アニメ映画への接近(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか?
- 第12回 映画プロデュースと地域公共との関係—教科書を活用—
- 第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか—教科書を活用—
- 第14回 私たちの文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
- 第15回 まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

教科書

新版 行政ってなんだろう

著者: 新藤宗幸

出版社: 岩波書店

出版年: 2008年

ISBN: 4005005861

参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者: 中川真・小暮宣雄ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011年

ISBN: 9784845911639

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することになります。

2015 Syllabus

科目名 都市文化資源論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ 都市を含む地域にある文化的な要素を考える	
授業の到達目標 京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。	
授業の概要 今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日程度で7月下旬か8月上旬に訪問する(原則全員参加)。補助金を獲得しているため、交通費(バス代)は支給される。日程は受講生の希望を確認して決める予定。	
準備学習(予習・復習) 身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 都市の文化とは 第3回 文化資源の多様性 第4回 事例見学:音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」(大津) 第5回 まち育てと文化資源 第6回 観光と文化資源 第7回 文化資源の発掘 第8回 個別都市(地域)の選定 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク) 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク) 第13回 文化資源の編集 第14回 文化資源の編集 第15回 総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 観光学への扉 著者: 井口貢・木下達文他編 出版社: 学芸出版社 出版年: 2009 ISBN:	
成績評価 試験(0) 小テスト(0) 授業中課題(30) 授業中発表等(30) 参加度(40) ※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。	

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化 <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 —— 京都観光スポットと梵鐘探訪 ——

授業の到達目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の概要

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

準備学習(予習・復習)

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひととき功德を積んで仏門へと誘われてほしい

内 容

- 第1回 京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
- 第2回 梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
- 第3回 梵鐘づくりの技術②実物観察と鑄造遺跡
- 第4回 妙心寺と最古の梵鐘
- 第5回 神護寺と華麗な陽鑄銘文
- 第6回 平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
- 第7回 学外授業 宇治平等院
- 第8回 笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
- 第9回 安祥寺と河内鑄物師の鐘
- 第10回 清水寺と三条釜座の鑄物師が作った鐘
- 第11回 南蛮寺と洋鐘形の鐘
- 第12回 方広寺と豊臣滅亡の鐘
- 第13回 学外授業 東山知恩院・方広寺
- 第14回 中国の古鐘と日本鐘
- 第15回 韓国の古鐘と日本鐘

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 都市と文化資源 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

授業の到達目標

京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の概要

今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日程度で7月下旬か8月上旬に訪問する(原則全員参加)。補助金を獲得しているので、交通費(バス代)は支給される。日程は受講生の希望を確認して決める予定。

準備学習(予習・復習)

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 都市の文化とは
- 第3回 文化資源の多様性
- 第4回 事例見学:音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」(大津)
- 第5回 まち育てと文化資源
- 第6回 観光と文化資源
- 第7回 文化資源の発掘
- 第8回 個別都市(地域)の選定
- 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
- 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
- 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
- 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
- 第13回 文化資源の編集
- 第14回 文化資源の編集
- 第15回 総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

観光学への扉

著者: 井口貢・木下達文他編

出版社: 学芸出版社

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。

2015 Syllabus

科目名 イベントプランニング研究 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術および芸術・文化に関わる事業の社会的意義を考える

授業の到達目標

劇場や舞台芸術または文化芸術にまつわる事業を題材に、それに関わるフタッフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術、および芸術・文化にまつわる事業の社会的意義を考えるとともに、文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の概要

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

準備学習(予習・復習)

特に無し。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 社会が芸術・文化を支える意義や目的について考える。
- 第4回 芸術・文化の振興に関わる法律や制度について考える。
- 第5回 国や自治体の文化政策について考える。
- 第6回 劇場について考える。
- 第7回 劇場の機能と上演作品について考える。
- 第8回 上演作品を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第9回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。計画の立案について。
- 第10回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。事業の実施段階について。
- 第11回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。事業の報告・検証・評価について。
- 第12回 事業の評価について考える。
- 第13回 企画者にとって必要な「見識や良識」について考える。
- 第14回 来たるべき社会にむけて、芸術や文化ができることを考える。
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70%)

授業中発表等 (30%)

参加度 ()

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

2015 Syllabus

科目名 **アーツ演習 I <Za>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 その他	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	(閉講:開⇒閉)	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習(予習・復習)

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える… たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる… タイポグラフィー制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果… 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える… キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者: 大崎 善治

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2010

ISBN: 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN: 978-4473015785

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **アーツ演習Ⅱ <Zb>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 岡村 宏懇

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」にも挑戦してみよう。

授業の到達目標

<舞台>と<映像>の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能(落語、狂言など)まで、その表現方法は違っても人前で何かを発表する「ライブな表現」活動であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れてみたい。体験的な授業になればと思っている。

授業の概要

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、日常生活では誰もが「いろんな自分」をフツーに演じています。普段の何気ない自分の表現に少し自覚的になるだけで表現力はUPします。まずは、失敗を恐れずに挑戦してみましょう。授業は表現の練習と課題演技(舞)で進める予定です。

準備学習(予習・復習)

TVドラマや映画を、演出や俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。

内 容

- 第1回 ガイダンス。(表現についての基礎知識)
- 第2回 演技①(演技のタイプ)
- 第3回 演技②(舞台演技と映像演技の違い)
- 第4回 声優①(台本の読み方)
- 第5回 声優②(台本を演じてみよう)
- 第6回 現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー(DVD)
- 第7回 現代演劇観賞(DVD)
- 第8回 古典芸能の様式(落語)
- 第9回 時代劇アクション(殺陣)
- 第10回 古典芸能「舞」の練習①
- 第11回 「舞」の練習②
- 第12回 「舞」の練習③
- 第13回 「舞」の練習④
- 第14回 「舞」の練習⑤
- 第15回 発表

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

扇子を用意すること。(100均のものでも可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。

2015 Syllabus

科目名 文化施設総論 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 笠井 友仁

テーマ

演劇について理解を深め、舞台芸術のプロデュースを学ぶ

授業の到達目標

演劇は、オペラ、ミュージカル、新劇、小劇場演劇、歌舞伎、人形浄瑠璃、能、パントマイム、落語など、様々な上演形式があり、多様な表現方法を持つ芸術である。近年では映像を駆使した作品や「ドキュメンタリー演劇」という手法も登場している。またオペラのように大規模な作品もあれば、一人芝居もある。制作に係る予算や期間も様々であり、演劇はプロデュースする人によって柔軟に姿を変える「柔らかい芸術」である。この授業は、多様化する演劇の表現方法を知ること、芸術を視る目を養い、そして演劇の制作過程や演技法、演出法、プロデュース術を学ぶことで、舞台芸術をプロデュースする力を身に付けることを目的とする。

授業の概要

授業では、過去に上演された舞台の映像や写真を用いて、演劇の様々な上演形式を幅広く紹介し、授業の計画に沿ったテーマごとに解説を行う。

準備学習(予習・復習)

劇場でできるだけ多くの演劇作品に接すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 演劇～柔らかい芸術
- 第2回 世界の演劇史を知る
- 第3回 日本の演劇史を知る
- 第4回 日本の現代演劇を知る 1960年代以降の日本の演劇について
- 第5回 舞踊の歴史を知る 20世紀の日本とヨーロッパの舞踊について
- 第6回 現代演劇の可能性を考察する 「ドキュメンタリー演劇」をめぐって
- 第7回 劇場の機構とスタッフの仕事を学ぶ
- 第8回 俳優の演技と劇作家の仕事を学ぶ
- 第9回 演出家の仕事と批評家の役割を学ぶ
- 第10回 劇場の仕組みを学ぶ 日本の劇場と海外の劇場について
- 第11回 劇場見学を兼ねた芸術鑑賞
- 第12回 舞台をプロデュースする1 演劇プロデューサーをゲストに迎えて
- 第13回 舞台をプロデュースする2 企画書と予算書
- 第14回 舞台をプロデュースする3 宣伝方法と資金の調達方法
- 第15回 まとめ 作成した企画書を予算書を発表する

履修上の注意点

催しの開催時期やゲストの都合によって、日程が変更になる場合があります。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 展示学〈Z〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の概要

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習(予習・復習)

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念)展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態)展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等)展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術)展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等)とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどとともに、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年：1996

ISBN:

イベント講座

著者：日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年：2004

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めると、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ〈*a〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 竹山 清明	
テーマ 望ましい生活空間のあり方を学ぶ	
授業の到達目標 使いやすく美しい建築やインテリアの計画・デザインや、その空間の中にある質の高い家具や生活用品などのデザインの魅力を学ぶ。そのようなものを形づくる専門家としての基礎教育である。建築などの卒業制作(設計)を目的としたゼミ内容であり、卒業論文を想定している学生には、学ぶことがやや困難な内容であると考えられる。	
授業の概要 建築計画やデザインは、与えられたことを学ぶだけでは身につけることは出来ない。自主的な取り組みが大切である。	
準備学習(予習・復習) 建築やまちづくりの優れた事例を吐瀉や実例などで主体的に学んでおくこと。	
内 容 第1回 生活空間のあり方を、画像などを用いて歴史的に学ぶ:日本 第2回 生活空間のあり方を、画像などを用いて歴史的に学ぶ:アジア 第3回 生活空間のあり方を、画像などを用いて歴史的に学ぶ:欧米1 第4回 生活空間のあり方を、画像などを用いて歴史的に学ぶ:欧米2 第5回 各自が興味を持つ家具や生活用品・インテリアについて調査 第6回 各自が興味を持つ家具や生活用品・インテリアについて発表1 第7回 各自が興味を持つ家具や生活用品・インテリアについて調査2 第8回 各自が興味を持つ家具や生活用品・インテリアについて発表2 第9回 フィールドワーク 第10回 各自が興味を持つ建築・ランドスケープについて調査1 第11回 各自が興味を持つ建築・ランドスケープについて発表1 第12回 各自が興味を持つ建築・ランドスケープについて調査2 第13回 各自が興味を持つ建築・ランドスケープについて発表2 第14回 総合的なまとめの作成 第15回 総合的なまとめの発表	
履修上の注意点 自分で努力しないと計画力やデザイン力の獲得は出来ない。真面目な取り組みが必要とされる。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (50) 参加度 (50) 計画力・デザイン力の総合的な達成を判定する。	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 25

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築家やインテリアデザイナーについて調べる

授業の到達目標

普段から興味を持っている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。

授業の概要

各自が調べたことをレジュメを用いて発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 見学

第3回 見学

第4回 発表1

第5回 発表1

第6回 発表1

第7回 発表1

第8回 発表2

第9回 発表2

第10回 発表2

第11回 発表2

第12回 発表3

第13回 発表3

第14回 発表3

第15回 発表3※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*c>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 今井 裕夫		
テーマ		
建築・インテリアの設計の理解①		
授業の到達目標		
(居心地のよい美しい住宅をとの出会いを求めて)居心地のよい美しい住宅建築の魅力について世界の名作住宅を14作品ほど選び、空間の美しさや楽しさ、使い易さへの工夫などを資料と写真・DVDによる平面の簡単なトレースと空間の追体験とにより、その魅力の謎解きを行う。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
常日ごろカメラと取材ノート(A6)を持ち歩くこと。		
内 容		
第1回 近代建築史・芸術史の解説		
第2回 W.Morris RED HOUSE(自邸)		
第3回 W.Gropius アウエルハッハ邸		
第4回 G.Riedveld シュレーダー邸(自邸)		
第5回 L.Corbusier サホア邸・母の家		
第6回 R.Noutra VDLリサーチハウス(自邸)		
第7回 A.Aalto (自邸)		
第8回 F.L.Wright 落水荘(カウフマン邸)		
第9回 L.Barragan (自邸)		
第10回 M.V.D.Rohe ファンスワース邸		
第11回 O.Niemeyer (自邸)		
第12回 C.Moore シーランチ・コンドミニアム		
第13回 P.Koenig スタール邸		
第14回 吉村順三 軽井沢の山荘(自邸)		
第15回 藤木忠善(自邸)		
履修上の注意点		
教科書		
スケッチ用紙(A3) 生協販売		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
毎回 必要な資料は配布		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (70)	授業中発表等 ()	
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*d>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 織田 直文	
テーマ 社会を学び、まちの元気づくりを実践する	
授業の到達目標 現代社会の様々な病理について学ぶとともに、まちを元気にするプロデュース力を身につける。	
授業の概要 教科書を用いて現代社会の問題点を深く学び、その上でまちづくりの意義や手法を学習する。教科書の内容を学生が分担して予習し、ゼミで報告し討論を行う。また、具体的なイベントを研究し、事業プロデュースを学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 社会問題やまちづくりに関連する情報収集を行い、スクラップする。	
内 容 第1回 授業のねらいと進め方について 第2回 教科書学習。各自(またはグループ)のフィールドワーク調査計画発表①。 第3回 教科書学習。各自(またはグループ)のフィールド調査計画発表②。 第4回 将来の進路に向けての特別学習。 第5回 教科書学習。フィールド調査計画発表 第6回 教科書学習。フィールド調査計画発表 第7回 教科書学習。フィールド調査計画発表 第8回 教科書学習。フィールド調査計画発表 第9回 教科書学習。 第10回 教科書学習。 第11回 夏企画のイベントの学習。 第12回 夏企画のイベントへの参加または見学。 第13回 夏企画のイベントへの参加・見学の反省。 第14回 教科書学習。 第15回 まとめと夏期の学習に向けて。	
履修上の注意点	
教科書 文芸春秋オピニオン 2015の論点100 著者: 文芸春秋編 出版社: (株)文芸春秋 出版年: 2015 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (30) 参加度 (60) ゼミでの発表やグループワークを重視するので<参加度><授業中発表>を重視する。また欠席や遅刻の場合は、なるべく理由を事前に申し出ることを義務付ける。	

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*e>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 文化プロデュース・アーツマネジメント入門(1)	
授業の到達目標 文化のなかのアーツの概要と特質を知る。アーツの現場に自分で行くことが出来る。楽しくアーツプロジェクトに参加する。	
授業の概要 ステージ作り体験や文化実践とともに、教科書を音読し、文章理解を努めるようにする。	
準備学習(予習・復習) 授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。	
内 容 第1回 オリエンテーション…話すこと、メモること、聞き取ること 第2回 文化とは…自然と文化、地域と公共と文化との関係 第3回 アーツとは…文化の分類、術の分類、アーツの分類 第4回 学外授業1…舞台の照明、音響を体験する(学外講師) 第5回 学外授業2…舞台づくり、舞台美術に触れる(学外講師) 第6回 『「誰にも書けない」アイドル論』を輪読する① 第7回 『「誰にも書けない」アイドル論』を輪読する② 第8回 『「誰にも書けない」アイドル論』を輪読する③ 第9回 アイドルについての研究をそれぞれが行う 第10回 アイドルについての研究発表① 第11回 アイドルについての研究発表② 第12回 実演芸術と視覚芸術—とりわけ視覚芸術についての知識— 第13回 音楽論を深める 第14回 学外授業3…アーツプレイス見学(鑑賞) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クリス松村『「誰にも書けない」アイドル論』(小学館、2014年)を音読するので必携遅刻や欠席の際には事前連絡をすること	
教科書 「誰にも書けない」アイドル論 著者: クリス松村 出版社: 小学館 出版年: 2014年 ISBN: 4098252139	
参考書 歌謡曲—時代を彩った歌たち 著者: 高護 出版社: 岩波書店 出版年: 2011年 ISBN: 978400431295-6 メディアミックス化する日本 著者: 大塚英志 出版社: イースト・プレス 出版年: 2014年 ISBN: 4781650392	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30)	

a50202aa15

参加度（50）

記録として、ノート、ブログ、ツイッターなどを活用していく。めくるめく紙芝居プロジェクト

<https://www.facebook.com/mekmekY>

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ < * f >

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 京都の観光について学ぶ	
授業の到達目標 (1)わが国を代表する観光文化都市・京都の観光資源について学ぶとともに、今後の京都観光のあり方について考える(2)観光関連業界の仕事について学ぶ(3)全国の観光・まちづくりの優れた事例について学び、ふるさとの観光・まちづくりに貢献できる人材となることをめざす	
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 京都の寺社仏閣をはじめとする観光地を自らフィールドワークして、その現状と問題点を発見するとともに、その改善策について提案する	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 京都の世界遺産 第3回 旅行業務取扱管理者(1) 第4回 旅行業務取扱管理者(2) 第5回 葵祭 第6回 旅行業務取扱管理者(3) 第7回 旅行業務取扱管理者(4) 第8回 錦市場 第9回 京料理・京野菜(1) 第10回 京料理・京野菜(2) 第11回 京町家 第12回 祇園祭(1) 第13回 祇園祭(2) 第14回 五山送り火 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

教科書

参考書

京都の「まち」の社会学

著者： 鯨坂学・小松秀雄編

出版社： 世界思想社

出版年： 2008年

ISBN:

観光京都研究叙説

著者： 杉野国明

出版社： 文理閣

出版年： 2007年

ISBN:

歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定テキストブック

著者： 同推進プロジェクト

出版社： 京都新聞出版センター

出版年： 2006年

ISBN:

京都・観光文化への招待

著者： 井口貢他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012年

ISBN:

京都人が書いた「京都」の本

著者： 京都ゆうゆう倶楽部

出版社： PHP研究所

出版年： 2008年

ISBN:

京都ここだけの話

著者： 日本経済新聞社京都支社

出版社： 日本経済新聞出版社

出版年： 2012年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅲ <*g>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 谷口 知司		
テーマ 観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化		
授業の到達目標 世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。		
授業の概要 シラバスの順番に授業を進めるが、あわせて観光英語の基礎やゼミで展開するいろいろな企画等の学習をおこなう。		
準備学習(予習・復習) グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。また、観光英語の小テストも行うので復習をする必要がある。		
内 容 第1回 「ビジネスとしての観光」概説 第2回 日本および世界の観光の現状について 第3回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて1 第4回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて2 第5回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて3 第6回 観光情報誌等の分析1 第7回 観光情報誌等の分析2 第8回 観光情報誌等の分析3 第9回 課題発表 第10回 観光資源(国内・国外)について 第11回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識1 第12回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識2 第13回 世界の観光資源に関する知識1 第14回 世界の観光資源に関する知識2 第15回 課題発表、まとめ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。		
履修上の注意点		
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 観光ビジネス論 著者: 谷口知司編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2010年 ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (30) 3分の2以上の出席が必要です。		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

望ましい生活空間のつくり方を学ぶ

授業の到達目標

使いやすく美しい建築やインテリアの計画・デザインや、その空間の中にある質の高い家具や生活用品などのデザインの進め方を学ぶ。そのようなものを形づくる専門家としての基礎教育である。そのために各自が興味を持つ有名な建築の模型をグループでつくる

授業の概要

主体的に参加して学ぶ姿勢が求められる。4人程度のグループ作業であり、相互に協力しての作業の進め方の勉強でもある。

準備学習(予習・復習)

建築やまちづくりなどに関する常日頃からの自主的な情報収集や勉強が重要である。

内 容

- 第1回 対象建築の選定1
- 第2回 対象建築の選定2
- 第3回 対象建築の選定3
- 第4回 対象建築の図面収集1
- 第5回 対象建築の図面収集2
- 第6回 対象建築の図面作成1
- 第7回 対象建築の図面作成2
- 第8回 対象建築の図面作成3
- 第9回 模型製作1
- 第10回 模型製作2
- 第11回 模型製作3
- 第12回 模型製作4
- 第13回 模型製作5
- 第14回 模型製作6
- 第15回 講評

履修上の注意点

精度の高い模型が製作できるよう、緻密な作業が必要であり、そのつもりで丁寧な取り組みを行うこと。グループメンバーとの協調にも配慮すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*b〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築やインテリアの見学

授業の到達目標

各班で計画を提案し、合理的でスムーズな見学計画をまとめ、実行する。

授業の概要

各班で見学計画をたて、ゼミで発表する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス、班決め

第2回 1班計画発表、打ち合わせ

第3回 1班計画修正、2班計画発表、打ち合わせ

第4回 見学1

第5回 見学1

第6回 1班見学反省、2班計画修正、3班計画発表、打ち合わせ

第7回 見学2

第8回 見学2

第9回 2班見学反省、3班計画修正、4班計画発表、打ち合わせ

第10回 見学3

第11回 3班見学反省、4班計画修正、5班計画発表、打ち合わせ

第12回 見学4

第13回 4班見学反省、5班計画修正

第14回 見学5

第15回 5班見学反省、まとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

建築・インテリアの設計の理解②

授業の到達目標

住居と環境の親和性の理解(環境設計手法の獲得)人間と住居との関係や、人間の生活と自然環境、風土、風景との関わり方について、さまざまな観点や角度からの学習を行う。住居と環境との親和性を踏まえた設計手法を獲得するための簡単な実技を交える。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

常日ごろカメラと取材ノート(A6)を持ち歩くこと。

内 容

- 第1回 生活環境の理解① 里山(山辺)
- 第2回 生活環境の理解② 里山(水辺)
- 第3回 ベースとなる思考① 生物多様性
- 第4回 ベースとなる思考② 福岡 正信
- 第5回 ベースとなる思考③ 宮本 常一
- 第6回 現代美術① ランドスケープ・アート
- 第7回 現代美術② 環境美術
- 第8回 記憶のデザイン 記憶地図の作成
- 第9回 美とはなにか
- 第10回 庭園と建築 桂離宮の構成と分析
- 第11回 茶庭と茶室(極小空間) 北野 武×千 宗室
- 第12回 環境建築 藤森照信の作品
- 第13回 イサム・ノグチの芸術 モエレ沼公園
- 第14回 新宮 晋の作品
- 第15回 環境設計 ポケットパークの設計

履修上の注意点

教科書

毎回 必要な資料を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*d〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 織田 直文		
テーマ		
社会の病理を学び、その解決方法を考える		
授業の到達目標		
前期に引き続き教科書を基に現代社会の様々な病理をを学び、互いに討論し、理解を深めるとともに、その解決策を思考する力を身につける。		
授業の概要		
教科書読解と討論を進める。また現実のまちづくりやイベントの取り組みについて研究する。		
準備学習(予習・復習)		
ネットや新聞、雑誌等から幅広く現代社会の病理を理解する習慣を身につける。		
内 容		
第1回	夏期課題の報告と後期の進め方について	
第2回	学外学習(地域イベントの参加または見学)	
第3回	学外学習(地域イベントの参加または見学)	
第4回	上記の反省会	
第5回	将来の進路についての学習会<その2>	
第6回	教科書学習。	
第7回	教科書学習。	
第8回	教科書学習。	
第9回	教科書学習。	
第10回	学外学習	
第11回	学外学習	
第12回	専門演習に向けての卒論計画書Aの提出と概要報告。	
第13回	卒論計画書Aの詳細発表と討論。	
第14回	卒論計画書Aの詳細発表と討論。	
第15回	まとめ	
履修上の注意点		
様々な情報源から現代社会の病理と解決策について自主学習する。		
教科書		
文芸春秋オピニオン 2015の論点100		
著者: 文芸春秋編		
出版社: 文芸春秋編 (株)文芸春秋		
出版年: 2015	ISBN:	
参考書		
授業で紹介する。		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (10)	授業中発表等 (30)	
参加度 (60)		
参加度と発表を重視する。また、学外学習は授業初めに案内するが、学習会には必ず出席するように。		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*e〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 小暮 宣雄		
テーマ 文化プロデュース・アーツマネジメント入門(2)		
授業の到達目標 アーツシーンを出来るだけ具体的に調査できるようになる。アーツの現場で仕事が少しでも出来き、参加した活動を自分の言葉で発表できる。文献をきちんと読み、レジュメづくりができる。		
授業の概要 夏休みの体験が決め手になるので、授業開始前から準備すること。		
準備学習(予習・復習) 授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。なお、アーツ体験のさい、授業時間外の課題としてアーツマネージャーへのインタビューを行ってもらう予定にしているので、そういうアーツのプロの言葉が教科書ということになるかも知れない。		
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 夏休みの体験報告 第3回 小津安二郎『東京物語』を鑑賞する① 第4回 小津安二郎『東京物語』を鑑賞する② 第5回 『「東京物語」と小津安二郎』を輪読する① 第6回 『「東京物語」と小津安二郎』を輪読する② 第7回 『「東京物語」と小津安二郎』を輪読する③ 第8回 小津安二郎映画についてのディスカッション 第9回 映画以外の視覚芸術の特質 第10回 芸術環境づくりを知らう～ワークショップ体験～学外授業予定 第11回 文献レジュメづくりワーク 第12回 レジュメによる発表の心得と発表1 第13回 レジュメによる発表2 第14回 レジュメによる発表3 第15回 まとめ～アーツマネジメントと私たち※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。		
履修上の注意点 梶村啓二『「東京物語」と小津安二郎』(平凡社、2013年)を必携すること。遅刻や欠席のときは事前に連絡すること。		

教科書

「東京物語」と小津安二郎

著者: 梶村啓二

出版社: 平凡社

出版年: 2013年

ISBN: 4582857116

参考書

日本映画史110年

著者: 四方田犬彦

出版社: 集英社

出版年: 2014年

ISBN:

絢爛たる影絵 小津安二郎

著者: 高橋治

出版社: 岩波書店

出版年: 2010年

ISBN:

完本 小津安二郎の芸術

著者： 佐藤忠男

出版社： 朝日新聞社

出版年： 2000年

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（30）

参加度（50）

夏休みにアート体験をしてもらい、その発表を行い、継続的にアートシーンに関わってもらう。学外授業については、他の授業などの調整のため学内鑑賞に変える可能性あり。可能性としてだが、アーティストとの交流、アート・ワークショップ体験もあるかも知れない。この内容の授業順序はアーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ〈*f〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 小森 治夫		
テーマ 京都の観光について学ぶ		
授業の到達目標 (1)わが国を代表する観光文化都市・京都の観光資源について学ぶとともに、今後の京都観光のあり方について考える(2)観光関連業界の仕事について学ぶ(3)全国の観光・まちづくりの優れた事例について学び、ふるさとの観光・まちづくりに貢献できる人材となることをめざす		
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ		
準備学習(予習・復習) 京都の寺社仏閣をはじめとする観光地を自らフィールドワークして、その現状と問題点を発見するとともに、その改善策について提案する		
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 秋の嵐山・嵯峨野 第3回 洛中洛外図 第4回 時代祭・鞍馬の火祭 第5回 南禅寺界隈の庭・並河靖之邸 第6回 京和菓子 第7回 花街と舞妓・芸妓(1) 第8回 花街と舞妓・芸妓(2) 第9回 伝統産業(1)西陣織、友禅染 第10回 伝統産業(2)京焼・清水焼 第11回 旅行業界(1) 第12回 旅行業界(2) 第13回 ホテル業界 第14回 航空業界 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書		
参考書 京都の「まち」の社会学 著者： 鯉坂学・小松秀雄編 出版社： 世界思想社 出版年： 2008年 ISBN: 観光京都研究叙説 著者： 杉野国明 出版社： 文理閣 出版年： 2007年 ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (70) 授業中発表等 (0) 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ <*g>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 谷口 知司		
テーマ 観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化		
授業の到達目標 世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われていいます。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習Ⅳ(後期)では、「文化現象としての観光」を中心に扱います。		
授業の概要 課題発表は随時行う。		
準備学習(予習・復習) 世界遺産の現地調査を行う。そのためのさまざまな準備等を授業外で行う。		
内 容 第1回 文化と何か？ 第2回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について1 第3回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について2 第4回 ニューツーリズムについて1 文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等 第5回 ニューツーリズムについて2 第6回 ニューツーリズムについて3 第7回 京都まちなかアーカイブ事前研究1 第8回 京都まちなかアーカイブ事前研究2 第9回 京都まちなかアーカイブを行う。 第10回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化1 第11回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化2 第12回 世界遺産現地調査事前研究1 第13回 世界遺産現地調査事前研究2 第14回 世界遺産現地調査事前研究3 第15回 課題発表		
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。		
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 観光ビジネス論 著者: 谷口知司編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2010年 ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (20) 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 まちづくり論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

まちづくりの理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

優れたまちづくりの実践例とまちづくりの理論について学ぶ

授業の概要

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習(予習・復習)

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 地方自治や地方財政を取り上げたテレビ番組を見る

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 医療・保健・福祉とまちづくり(1)

第3回 医療・保健・福祉とまちづくり(2)

第4回 コミュニティとまちづくり(1)

第5回 コミュニティとまちづくり(2)

第6回 交通政策とまちづくり

第7回 情報公開とまちづくり

第8回 内なる国際化とまちづくり

第9回 まちづくりの事例(1)宮崎県綾町

第10回 まちづくりの事例(2)愛媛県内子町

第11回 まちづくりの事例(3)大分県由布院温泉

第12回 まちづくりの事例(4)熊本県黒川温泉

第13回 まちづくりの事例(5)徳島県上勝町

第14回 まちづくりの事例(6)徳島県上勝町(つづき)

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

概説日本の地方自治(第2版)

著者: 新藤宗幸・阿部齊

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2009年

ISBN:

まちづくりを学ぶ

著者: 石原武政・西村幸夫

出版社: 有斐閣

出版年: 2010年

ISBN:

命を守り心を結ぶ

著者: 白垣詔男

出版社: 自治体研究社

出版年: 2000年

ISBN:

由布院の小さな奇跡

著者: 木谷文弘

出版社: 新潮社

出版年: 2004年

ISBN:

黒川温泉

著者： 熊本日日新聞情報文化センター

出版社： 熊本日日新聞社

出版年： 2000年

ISBN:

黒川温泉 観光経営講座

著者： 後藤哲也・松田忠徳

出版社： 光文社

出版年： 2005年

ISBN:

そうだ、葉っぱを売ろう！

著者： 横石知二

出版社： ソフトバンク クリエイティブ

出版年： 2007年

ISBN:

終わりよければすべてよし

著者： 羽田澄子

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

若者のためのまちづくり

著者： 服部圭郎

出版社： 岩波書店

出版年： 2013年

ISBN:

21歳男子、過疎の山村に住むことにしました

著者： 水柿大地

出版社： 岩波書店

出版年： 2014年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	
担当者	松本 正富	
テーマ	戸建て住宅の設計	
授業の到達目標	専用住宅の建築についてプランニングの方法を習得する。平面図・立面図・断面図等、設計における基本図書の表現方法を習得する。建築設計における基本的なプレゼンテーションの技法を習得する。	
授業の概要	木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	授業は個人ごとのエスキスチェック等が中心になりますので、時間外の設計作業時間が多く必要になります。	
内 容	第1回 課題主旨説明、設計のポイント 第2回 配置計画案の作成 第3回 平面計画案の作成 第4回 立面・断面計画案の作成 第5回 架構計画案の作成 第6回 中間発表 第7回 配置図・平面図の作成1 第8回 平面図の作成2 第9回 立面図の作成 第10回 断面図の作成 第11回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成 第12回 模型1 第13回 模型2 第14回 模型3 第15回 講評とまとめ	
履修上の注意点	製図や模型製作に必要な用具、設計の参考資料等、授業準備をしっかりと行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。	
教科書	初学者の建築講座 著者： 瀬川康秀 出版社： 市ヶ谷出版社 出版年： 2011 ISBN: 9784870710146	
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (70) 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	
担当者	松本 正富	
テーマ	店舗併用住宅の設計	
授業の到達目標	住宅を含む複合用途の建築についてプランニングの方法を習得する。平面図・立面図・断面図等、設計における基本図書の表現方法を習得する。模型やパース等、建築設計におけるプレゼンテーションの技法を習得する。	
授業の概要	店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。	
準備学習(予習・復習)	授業は個人ごとのエスキスチェック等が中心になりますので、時間外の設計作業時間が多く必要になります。	
内 容	<p>第1回 課題主旨説明、設計のポイント</p> <p>第2回 配置計画案の作成</p> <p>第3回 平面計画案の作成</p> <p>第4回 立面・断面計画案の作成</p> <p>第5回 構造計画案の作成1</p> <p>第6回 構造計画案の作成2</p> <p>第7回 建築基準法の確認</p> <p>第8回 中間発表</p> <p>第9回 配置図・平面図の作成1</p> <p>第10回 平面図の作成2</p> <p>第11回 立面図の作成</p> <p>第12回 断面図の作成</p> <p>第13回 模型1</p> <p>第14回 模型2</p> <p>第15回 講評とまとめ</p>	
履修上の注意点	製図や模型製作に必要な用具、設計の参考資料等、授業準備をしっかりと行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。	
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 ()</p> <p>授業中課題 (70)</p> <p>参加度 (30)</p> <p>小テスト ()</p> <p>授業中発表等 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 **建築計画 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

建築計画の基礎を学ぶ

授業の到達目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画の役割
- 第2回 住活様式と住宅の変化
- 第3回 人間の基本動作 1
- 第4回 人間の基本動作 2
- 第5回 戸建住宅の配置計画
- 第6回 戸建住宅の平面計画
- 第7回 戸建住宅の各室計画
- 第8回 戸建住宅の基本計画 1
- 第9回 戸建住宅の基本計画 2
- 第10回 団地計画
- 第11回 集合住宅の形式と配置計画
- 第12回 集合住宅の平面計画
- 第13回 集合住宅の住戸計画 1
- 第14回 集合住宅の住戸計画 2
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **建築計画Ⅱ**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 竹山 清明		
テーマ 建築計画を広く学ぶ		
授業の到達目標 居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。		
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容 第2回 学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画 第3回 小学校の計画、計画事例 第4回 図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画 第5回 図書館の計画、計画事例 第6回 美術館の歴史、全体計画、各室計画 第7回 美術館の計画、計画事例 第8回 医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画 第9回 医療福祉施設の計画、計画事例 第10回 劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画 第11回 演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法 第12回 劇場、音楽ホール of 計画、計画事例 第13回 事務所の全体計画、平面計画、モジュール計画 第14回 事務所の計画、計画事例 第15回 まとめ 第1回 ガイダンス、建築計画における共通事項		
履修上の注意点		
教科書 サステイナブルな住宅・建築デザイン 著者： 竹山清明 出版社： 日本経済評論社 出版年： 2009年2月	ISBN:	
参考書		
成績評価 試験 (50) 授業中課題 () 参加度 (50)	小テスト () 授業中発表等 ()	

2015 Syllabus

科目名 **建築環境工学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松原 斎樹

テーマ

地球環境と人間にやさしい建築デザインのあり方を学ぶ。

授業の到達目標

人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。

授業の概要

建築は本来自然環境を巧みに調節する機能をもっていたが、近年は機械設備依存、エネルギー浪費の傾向が強くなり、地球環境問題の原因の一つにもなっている。この講義では建築デザインの根本に環境問題や物理環境調節の視点を持つ必要性を認識することを重視し、物理的な環境調節の視点からの建築環境工学原論として、建築物の熱、空気、音、光のデザインにかかわる物理学的な取扱いについて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

テキストおよびノートを用いて、予習・復習を行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス 建築環境の概要
- 第2回 熱環境 気候
- 第3回 熱環境 室内気候
- 第4回 熱環境 伝熱
- 第5回 熱環境 結露
- 第6回 空気環境 室内空気質
- 第7回 空気環境 換気と通風
- 第8回 熱・光環境 日照と日射と建築計画
- 第9回 熱・光環境 日影の検討と日照調整
- 第10回 光環境 採光
- 第11回 光環境 照明
- 第12回 光環境 色彩
- 第13回 音環境 音の性質
- 第14回 音環境 音響計画
- 第15回 都市環境 都市環境と建築
- 第16回 試験

履修上の注意点

授業中は私語をしないこと。

教科書

図説やさしい建築環境

著者： 辻原監修, 今村・田中著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN: 9784761524760

参考書

最新建築環境工学

著者： 田中, 武田, 岩田, 土屋, 寺尾

出版社： 井上書院

出版年： 2012改訂3版

ISBN: 9784753017423

パッシブ建築設計手法事典新訂版

著者： 彰国社編

出版社： 彰国社

出版年： 2000

ISBN: 4395110959

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 **都市計画論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐々木 厚司

テーマ

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。

授業の到達目標

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

授業の概要

都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握するものである。

準備学習(予習・復習)

講義の流れで実施する「臨地研修」などを通じて、実践例も各種紹介するので十分に参照すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス 都市計画について
- 第2回 都市の歴史
- 第3回 土地利用計画
- 第4回 都市の交通
- 第5回 都市の公園緑地
- 第6回 都市の上下水道
- 第7回 都市の防災
- 第8回 都市の景観
- 第9回 都市計画の事例 1 近代以前 都城
- 第10回 都市計画の事例 2 自治都市 京都
- 第11回 都市計画の事例 3 日本の商工都市その1. 京都
- 第12回 都市計画の事例 4 日本の商工都市その2. 長浜
- 第13回 都市計画の事例 5 西欧の世界都市その1. ベルリン、ウィーン
- 第14回 都市計画の事例 6 西欧の世界都市その2. ロンドンほか
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席状況(30%)及び中間時点での演習レポート(30%)を勘案の上、期末テスト(40%)による評価とする。

2015 Syllabus

科目名 構造計画

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福田 浩明

テーマ

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。

授業の到達目標

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の概要

面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。模型を作製しながら構造を体感しながら理解を深めてもらう。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 構造計画とは
- 第2回 面構造と軸構造の話
- 第3回 柱、梁の話
- 第4回 木構造 在来工法
- 第5回 木構造 民家型工法
- 第6回 木構造 2×4工法
- 第7回 木構造 その他の工法
- 第8回 鉄筋コンクリート造 ラーメン構造
- 第9回 鉄筋コンクリート造 壁式構造
- 第10回 鉄筋コンクリート造 その他
- 第11回 鉄骨造、SRC造、他
- 第12回 混構造
- 第13回 その他の構造、工法
- 第14回 演習(構造模型作製等)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

やさしい建築一般構造

著者: 1回生で使用したもの

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 構造力学Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 「構造力学Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 山本 康彦	
テーマ	
構造力学Ⅰで学習した内容を発展させ、生じている力に対して、建築物を安全に設計するには、どのように考えればよいかを学んでいく。	
授業の到達目標	
構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。	
授業の概要	
反力、応力を構造物に生じさせ、その力に耐えうる断面設計を学習する。また、建築物の終局状態についても学習し、二次設計についても知識を習得する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:テキストを読み込み、疑問点を講義時に挙げられるようにする。復習:講義時に使用したプリントを中心に、問題が解けるように繰り返し学習する。	
内 容	
第1回 ガイダンス	
第2回 応力度	
第3回 弾性とひずみ	
第4回 柱の理論1、短柱	
第5回 柱の理論2、長柱	
第6回 静定構造物の変形1、片持ちはり1	
第7回 静定構造物の変形1、片持ちはり2	
第8回 静定構造物の変形2、単純はり1	
第9回 静定構造物の変形2、単純はり2	
第10回 不静定構造物と解法について	
第11回 不静定構造物の解析1 たわみ角法1	
第12回 不静定構造物の解析1 たわみ角法2	
第13回 不静定構造物の解析2 固定法1	
第14回 不静定構造物の解析2 固定法2	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
構造力学ⅡもⅠと同様に、一回、一回の積み重ねで問題が解けるようになりますので、欠席しない事が大切です。	
教科書	
図説 やさしい構造力学	
著者: 浅野 清昭	
出版社: 株式会社 学芸出版社	
出版年: 2012年	ISBN:
参考書	
図説 建築構造力学	
著者: 浅野 清昭	
出版社: 株式会社 学芸出版社	
出版年: 2014年	ISBN:
成績評価	
試験 (50)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 人間工学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

人間工学が生活環境において果たしている役割を学ぶ。

授業の到達目標

人間工学の成り立ち、基本的な考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践など事例を交えて紹介していく。身近な素材を中心に、人間工学が生活や環境において果たしている役割を理解していく。前半では、人間工学の成り立ちと基本的考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践を紹介する。後半では、情報・交通・都市などにおける人間工学の役割と事例についても考察する。

授業の概要

人間工学の成り立ち、基本的な考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践など事例を交えて紹介していく。身近な素材を中心に、人間工学が生活や環境において果たしている役割を理解していく。前半では、人間工学の成り立ちと基本的考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践を紹介する。後半では、情報・交通・都市などにおける人間工学の役割と事例についても考察する。

準備学習(予習・復習)

生活環境を構成している基準寸法を理解しておくこと。

内 容

- 第1回 人間工学とは
- 第2回 人間工学の応用分野
- 第3回 人体寸法と姿勢
- 第4回 動作と行動特性
- 第5回 感覚、認知、知覚
- 第6回 生活と人間工学(道具)
- 第7回 生活と人間工学(家具1)
- 第8回 生活と人間工学(家具2)
- 第9回 生活と人間工学(インテリア空間)
- 第10回 情報と人間工学
- 第11回 交通と人間工学
- 第12回 都市と人間工学
- 第13回 ユニバーサルデザイン
- 第14回 バリアフリーデザイン
- 第15回 人間工学のまとめ

履修上の注意点

教科書

なし。資料を適宜配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 中山 大介	
テーマ 2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題	
第2回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(2)	
第3回 基本の操作	
第4回 基本の操作(2)	
第5回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く	
第6回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(2)	
第7回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く	
第8回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(2)	
第9回 基本の操作復習(2)	
第10回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く	
第11回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポジションについて学ぶ	
第12回 // (2)	
第13回 // (3)	
第14回 // (4)	
第15回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする	
第16回 // (2)	
第17回 // (3)	
第18回 // (4)	
第19回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる	
第20回 // (2)	
第21回 // (3)	
第22回 // (4)	
第23回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる	
第24回 // (2)	
第25回 // (3)	
第26回 // (4)	
第27回 // (5)	
第28回 // (6)	
第29回 講評	
第30回 まとめ	

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 松本 正富	
テーマ 2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題	
第2回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(2)	
第3回 基本の操作	
第4回 基本の操作(2)	
第5回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く	
第6回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(2)	
第7回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く	
第8回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(2)	
第9回 基本の操作復習(2)	
第10回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く	
第11回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポジションについて学ぶ	
第12回 // (2)	
第13回 // (3)	
第14回 // (4)	
第15回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする	
第16回 // (2)	
第17回 // (3)	
第18回 // (4)	
第19回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる	
第20回 // (2)	
第21回 // (3)	
第22回 // (4)	
第23回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる	
第24回 // (2)	
第25回 // (3)	
第26回 // (4)	
第27回 // (5)	
第28回 // (6)	
第29回 講評	
第30回 まとめ	

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 中山 大介	
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする 第6回 // 第7回 // 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする 第11回 // 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する 第13回 // 第14回 // 第15回 講評	
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。	
教科書 VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック 出版年: 2010 ISBN: 9784881667330	
参考書 初学者の建築講座 著者: 瀬川康秀 出版社: 市ヶ谷出版社 出版年: 2011 ISBN: 9784870710146	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (70) 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 松本 正富	
テーマ 3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション	
授業の到達目標 建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 2次元CADの基本操作 復習 第2回 3次元CADの基本操作(1) 第3回 3次元CADの基本操作(2) 第4回 3次元CADの基本操作(3) 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする 第6回 // 第7回 // 第8回 講評 第9回 3次元CADの応用 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする 第11回 // 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する 第13回 // 第14回 // 第15回 講評	
履修上の注意点 7割以上の出席が単位取得の条件です。	
教科書 VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008 著者: 五十嵐進 出版社: ソーテック 出版年: 2010 ISBN: 9784881667330	
参考書 初学者の建築講座 著者: 瀬川康秀 出版社: 市ヶ谷出版社 出版年: 2011 ISBN: 9784870710146	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (70) 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 都市建築文化史Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 石井 和浩

テーマ

日本固有の都市・建築文化の魅力を学ぶ

授業の到達目標

我が国では、古代においては中国文化に学び都城を建設し、中世においては民衆と武将たちが取り組んだ都市づくりが進み、近世においては、幕藩体制のもとで、城下町と在郷町を成立させてきた都市づくりの歴史的展開をたどり、日本固有の都市・建築の特性を理解することができることを目指す。

授業の概要

都市・建築文化において、先人が成し遂げた事象を、パワーポイント及び参考プリントにて講義する。日本の都市・建築についての歴史の変遷をたどることで、日本固有の都市・建築の文化的魅力・特性を学び理解し、古きをたずねて新しくを知る契機となる講義を目指す。

準備学習(予習・復習)

日常から歴史的建造物が社会に与えた影響を思考しておくこと

内 容

- 第1回 歴史の変遷を学ぶ意義
- 第2回 都市の誕生と建築
- 第3回 古代における建築文化
- 第4回 中世・町衆の都市建築
- 第5回 「都城」制の変容としての平安京
- 第6回 戦国武将の町づくり
- 第7回 近世の建築文化
- 第8回 近世における城下町の変容
- 第9回 近代の歴史的産業遺産
- 第10回 近代の建築文化1 -西洋建築の輸入-
- 第11回 近代の建築文化2 -大正デモクラシーの建築-
- 第12回 近代の建築文化3 -現代建築の規範-
- 第13回 現代の在郷町におけるまちづくり
- 第14回 歴史的文化遺産を生かしたまちづくり
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

映像・解説が中心の講義となりますが、講義中のメッセージを記述して理解するよう心掛けてください。

教科書

使用しない。適宜プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

建築の歴史

著者: 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎

出版社: 学芸出版社

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

講義の内容について、小テスト(小論文)により理解度と考察力を評価する。

2015 Syllabus

科目名 **観光政策論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

授業の到達目標

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となる」ことを理解する

授業の概要

昨年度は観光交通と都道府県の観光戦略を重視した。今年度も学生の関心分野や知的水準を勘案して、シラバスで示した分野を網羅しながらも、重点分野を設けてみたい。

準備学習(予習・復習)

経済系週刊誌の読解を通して、最新の動向を把握する

内 容

- 第1回 観光の基本構造
- 第2回 観光とレクリエーション
- 第3回 観光商品
- 第4回 事例研究 文化遺産と観光
- 第5回 旅行に対する需要
- 第6回 パック旅行の長所と短所
- 第7回 旅行代理店の長所と短所
- 第8回 観光産業の競争
- 第9回 観光行動
- 第10回 観光交通
- 第11回 国際観光
- 第12回 観光の経済効果
- 第13回 観光による受益と負担
- 第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制
- 第15回 観光振興を推進する主体※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

・自分の知らない地域の観光政策、名所旧跡、時事問題にも積極的に関心をもつこと。・日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (30)

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 ()

受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価(授業中課題)とするので、単に教室にいただけでは評価の対象とならない。受講人数によって、授業内容、授業方法を変更することがある。

2015 Syllabus

科目名 **観光施設論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光施設全般について理解を深める。

授業の到達目標

本論で取り扱う観光施設は宿泊業・ブライダル業・外食業・テーマパークなどで、観光産業において重要な機能を担っている。これらの観光施設について、様々な事例からその現状と課題について学ぶことを目的としている。

授業の概要

授業の名称は論であるが、演習的に進める。

準備学習(予習・復習)

グループごとに与えられたテーマについての発表準備(内容の検討、プレゼンの準備等)を期日までに行う。

内 容

- 第1回 観光施設と何か
- 第2回 ホスピタリティの概念
- 第3回 ホスピタリティ産業
- 第4回 観光施設の基本構造と特性
- 第5回 宿泊産業①
- 第6回 宿泊産業②
- 第7回 宿泊産業③
- 第8回 ブライダル産業
- 第9回 外食産業
- 第10回 テーマパーク
- 第11回 空港および航空関連施設
- 第12回 海浜リゾート
- 第13回 動物園
- 第14回 観光施設におけるバリアフリー
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

グループを単位として授業時間外での学習が必要である。また、グループごとにリーダーを選任する。3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (10)

小テスト (10)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **観光ビジネス論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネスの全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光ビジネスの現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学総論で概観した観光ビジネスについて、学生自らが問題意識を持ち、調査分析を行う。授業タイトルは「論」であるが、教師が一方向的に論じる形の授業は行わない。演習のつもりで受講してほしい。

準備学習(予習・復習)

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内 容

- 第1回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)①
- 第2回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)②
- 第3回 旅行業の観光ビジネス①
- 第4回 旅行業の観光ビジネス②
- 第5回 鉄道会社と観光ビジネス①
- 第6回 鉄道会社と観光ビジネス②
- 第7回 航空産業と観光ビジネス①
- 第8回 航空産業と観光ビジネス②
- 第9回 ホテル・旅館業と観光ビジネス①
- 第10回 ホテル・旅館業と観光ビジネス②
- 第11回 土産品と観光ビジネス①
- 第12回 土産品と観光ビジネス②
- 第13回 ニューツーリズムと観光ビジネス①
- 第14回 ニューツーリズムと観光ビジネス②
- 第15回 その他の観光ビジネス

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

観光ビジネス論

著者: 谷口知司編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010

ISBN: 9784623056002

成績評価

試験 (20%)

小テスト (10%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 観光情報論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 知司	
テーマ	
観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。	
授業の到達目標	
観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。	
授業の概要	
講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。	
準備学習(予習・復習)	
グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。	
内 容	
第1回	観光情報とは
第2回	観光情報とメディア
第3回	観光ビジネスと情報活用について①
第4回	観光ビジネスと情報活用について②
第5回	観光ビジネスと情報活用について③
第6回	観光ビジネスと情報活用について④
第7回	いろいろな観光情報
第8回	観光情報について分析する(発表を含む)①
第9回	観光情報について分析する(発表を含む)②
第10回	観光情報について分析する(発表を含む)③
第11回	観光情報について分析する(発表を含む)④
第12回	観光情報について分析する(発表を含む)⑤
第13回	観光情報について分析する(発表を含む)⑥
第14回	観光情報について分析する(発表を含む)⑦
第15回	まとめ
履修上の注意点	
グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。	
教科書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
観光ビジネス論	
著者:	谷口知司他
出版社:	ミネルヴァ書房
出版年:	2010 ISBN:
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	
授業時間外の活動についても参加度において加味する。	

2015 Syllabus

科目名 **観光メディア論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報媒体について学ぶ。

授業の到達目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまなメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の概要

講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。

準備学習(予習・復習)

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内 容

- 第1回 観光メディアとは
- 第2回 観光情報とメディア
- 第3回 観光ビジネスとメディアについて①
- 第4回 観光ビジネスとメディアについて②
- 第5回 観光ビジネスとメディアについて③
- 第6回 観光ビジネスとメディアについて④
- 第7回 観光メディアについて分析する(発表を含む)①
- 第8回 観光メディアについて分析する(発表を含む)②
- 第9回 観光メディアについて分析する(発表を含む)③
- 第10回 観光メディアについて分析する(発表を含む)④
- 第11回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑤
- 第12回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑥
- 第13回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑦
- 第14回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑧
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業時間外での活動機会も増えるので、積極的に参加するようにしてください。3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

観光ビジネス論

著者: 谷口知司他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 まちづくりデザイン論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

文化に着目したまちづくりデザイン

授業の到達目標

現代社会の大きなキーワードの一つである「文化」に着目した「文化政策」を理解するとともに、そのこととまちづくりがどのように関わっているのかを理解してもらいながら、最も現代的なまちづくりの課題の認識、課題解決手法を身につける。

授業の概要

テキストと補足資料で授業を進める。テーマは商店街やまち中再生、伝統産業や祭りの再興、情報戦略、文化施設とまちづくり、まちづくりのコーディネート等である。

準備学習(予習・復習)

「まちづくり」という言葉や講義で不明だったキーワード等のネット検索、身近な所にある商店街、伝統産業産地、文化財や観光施設、文化施設等の見学をし、それらの概要や感想をメモるようにする習慣をつける。授業は、その回の復習を次週までに約30分、次回予告された講義内容(キーワード)についての予習約30分確保するようにする。

内 容

- 第1回 講義を進めるにあたって。文化政策とまちづくりについて
- 第2回 日本の都市計画について
- 第3回 区画整理事業について
- 第4回 歴史的商店街の価値の創造
- 第5回 民間活力による市街地再生
- 第6回 まちづくりの溜り場の意義
- 第7回 伝統産業と生産地の再生
- 第8回 伝統的な祭りと地域コミュニティ
- 第9回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第10回 文化施設とまちづくり
- 第11回 日本の過疎過密と過疎地振興政策
- 第12回 臨地まちづくりの実践経過。その成果と課題。
- 第13回 地域づくりコーディネーター論
- 第14回 総括レポートの執筆
- 第15回 まとめ。

履修上の注意点

教科書

文化政策と臨地まちづくり

著者： 織田直文

出版社：水曜社

出版年：2009

ISBN:

参考書

臨地まちづくり

著者： 織田直文

出版社：サンライズ出版

出版年：2005

ISBN:

成績評価

試験 (10)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

出席をはじめ受講態度(私語や講義に関係のない携帯やスマホは厳禁)を重視します。授業中に指名して質問をする場合があります。不定期でレポート出題や小テストを行います。詳細はその都度示します。

2015 Syllabus

科目名 ニューツーリズム研究

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

新版「ニューツーリズム」と観光マーケティング

授業の到達目標

観光マーケティング・消費者行動論を基礎にしながら、2000年以降の新たなニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。

授業の概要

(1)国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、最新事例を紹介し、ニューツーリズムのあり方を考える。(2)(1)の理解を深めるために、同時に消費者行動論からみたニューツーリズムの事例を説明する(目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している)。

準備学習(予習・復習)

日経MJを読むこと

内 容

- 第1回 観光の基本構造 マスツーリズムと古いニューツーリズム
- 第2回 購買プロセスと心理的プロセス1
- 第3回 購買プロセスと心理的プロセス2
- 第4回 問題認識
- 第5回 情報検索1
- 第6回 情報検索2
- 第7回 評価選択1
- 第8回 評価選択2
- 第9回 動機づけ
- 第10回 態度形成1
- 第11回 態度形成2
- 第12回 知覚1
- 第13回 知覚2
- 第14回 コンテンツ・ツーリズム
- 第15回 観光まちづくりとまちづくり観光

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

消費者行動論

著者: 平久保直人

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2005年

ISBN:

ことばとマーケティング

著者: 松井剛

出版社: 碩学舎

出版年: 2013年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題（80）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

2015 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 萩原 憲一

テーマ

旅行業を中心とした観光産業の現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として、望まれる実務的な能力を養う。

授業の到達目標

旅行業を中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。

授業の概要

近畿日本ツーリスト株式会社(KNT)京都支店の現役社員による講義と実習。旅行会社訪問や添乗業務実習など学外実習を含みます。

準備学習(予習・復習)

旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査。観光地(京都市内)でのフィールドワーク。

内 容

- 第1回 4/18(土)1講時:オリエンテーション(講座の概要とすすめ方、受講に際する心構えを伝える。観光業界の見取り図。)
- 第2回 4/18(土)2講時:旅行業の実務について(旅行業の現場における実務とはどのようなものか。解説とケーススタディ。)
- 第3回 5/16(土)2講時:フィールドワーク①旅行業現場研究 I (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第4回 5/16(土)3講時:フィールドワーク②旅行業現場研究 II (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第5回 5/16(土)4講時:フィールドワーク②旅行業現場研究 III (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第6回 5/30(土)1講時:旅行業実務演習①添乗業務実務演習(ツアーコンダクター業務の解説とケーススタディ。)※学外実習
- 第7回 5/30(土)2講時:フィールドワーク④添乗実務演習 I (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第8回 5/30(土)3講時:フィールドワーク⑤添乗実務演習 II (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第9回 5/30(土)4講時:フィールドワーク⑥添乗実務演習 III (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第10回 6/13(土)1講時:旅行業実務演習②個人旅行販売実務演習(店頭接客業務や電話対応業務の解説とロールプレイング。)
- 第11回 6/13(土)2講時:旅行業実務演習③団体旅行販売実務演習(法人・組織団体営業や教育旅行営業の解説とロールプレイング。)
- 第12回 6/13(土)3講時:旅行企画作成①(与えられた課題をもとに旅行企画を作成。)
- 第13回 6/13(土)4講時:旅行企画作成②(与えられた課題をもとに旅行企画を作成。)
- 第14回 6/20(土)1講時:旅行企画プレゼンテーション①(作成した旅行企画をプレゼンテーション。)
- 第15回 6/20(土)2講時:旅行企画プレゼンテーション②(作成した旅行企画をプレゼンテーション。)講義のまとめ。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (30%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (40%)	

集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意してください。学外講義では交通費等の実費が必要となります。

2015 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 萩原 憲一	
テーマ	観光産業を支えるサプライヤーの現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として望まれる実務な能力を養う。
授業の到達目標	旅行素材を提供するサプライヤーを中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。
授業の概要	近畿日本ツーリスト株式会社(KNT)京都支店の現役社員による講義と実習。京都のホテル・旅館・観光施設訪問などの学外実習を含みます。
準備学習(予習・復習)	旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査。観光地でのフィールドワーク。
内 容	<p>第15回 12/12(土)2講時:企画プレゼンテーション②(作成した企画をプレゼンテーション。)講義のまとめ。</p> <p>第1回 10/3(土)2講時:オリエンテーション(講座の概要とすすめ方、受講に際する心構えを伝える。旅行業を支えるサプライヤー業界の見取り図。)</p> <p>第2回 10/17(土)1講時:フィールドワーク①現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第3回 10/17(土)2講時:フィールドワーク②現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第4回 10/17(土)3講時:フィールドワーク③現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第5回 10/17(土)4講時:フィールドワーク④現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第6回 11/7(土)1講時:観光ビジネス研究①(ホテル・旅館業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第7回 11/7(土)2講時:フィールドワーク⑤現場研究(京都の旅館・ホテルを訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第8回 11/7(土)3講時:フィールドワーク⑥現場研究(京都の旅館・ホテルを訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第9回 11/7(土)4講時:観光ビジネス研究②(テーマパーク業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習</p> <p>第10回 11/28(土)1講時:観光ビジネス研究③(海外手配、ランドオペレーターの現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)</p> <p>第11回 11/28(土)2講時:観光ビジネス研究④(訪日旅行・インバウンドの現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)</p> <p>第12回 11/28(土)3講時:集客企画作成①(サプライヤーの立場からの企画作成実務演習。集客につながる企画の解説とケーススタディ。)</p> <p>第13回 11/28(土)4講時:集客企画作成②(与えられた課題をもとに企画を作成。)</p> <p>第14回 12/12(土)1講時:企画プレゼンテーション①(作成した企画をプレゼンテーション。)</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (30%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (40%)	
集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意してください。学外講義では交通費等の実費が必要となります。	

2015 Syllabus

科目名 **観光法規・経営論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 晴夫

テーマ

旅行業に関する法規を通して、旅行事業のあり方を理解する。

授業の到達目標

事業経営は法規によって多かれ少なかれ規制されるが、特にサービスという目に見えない商品を扱う観光業に関する法規は消費者保護の観点から規制的な性格が強く、観光事業のあり方はそのような法規によって規定されてきた。本授業では主として旅行業を取り上げ、旅行業に関する法規の実態と法規等の規制を受ける旅行事業のあり方について理解する。

授業の概要

旅行業法と旅行業約款の概要について理解する。そのうえで法規、通達等が旅行業の具体的なあり方を如何に規制しているかについて理解を深め、さらには現在の旅行業が直面する課題について考察する。

準備学習(予習・復習)

授業終了後に出す課題への解答を通して、授業内容の理解を深めること。

内 容

- 第1回 旅行業の経営概況と旅行業に関する法規
- 第2回 旅行業法の特徴、変遷
- 第3回 旅行業法の概要①(定義、登録制度等)
- 第4回 旅行業法の概要②(旅行業者代理業、営業保証金制度、弁済業務保証金制度等)
- 第5回 旅行業法の概要③(取引準則、旅程管理、旅行業務取扱管理者制度等)
- 第6回 旅行業約款の概要①(約款の意義、募集型企画旅行契約等)
- 第7回 旅行業約款の概要②(旅程管理、責任、旅程保証制度等)
- 第8回 旅行業約款の概要③(特別補償制度、手配旅行契約等)
- 第9回 関係法規と旅行業のあり方①(パンフレット・広告表示の規制等)
- 第10回 関係法規と旅行業のあり方②(クレーム・事故対応等)
- 第11回 関係法規と旅行業のあり方③(旅行契約の問題点等)
- 第12回 旅行業の経営課題と旅行業法
- 第13回 旅行業以外の法規と経営①(貸切バス業界)
- 第14回 旅行業以外の法規と経営②(航空業界)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (0%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **アーツマネジメント論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

授業の到達目標

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

授業の概要

古典の世界を重視して、芸術リテラシー向上に資する。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに。

準備学習(予習・復習)

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

内 容

- 第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。)
- 第2回 アーツマネジメント(芸術営)の基本、本質、実践
- 第3回 アーツマネジメント(芸術営の定義と文化政策、まちづくりとの関係)
- 第4回 芸術場(劇場ホール、美術館)芸術団(劇団、楽団など)
- 第5回 学外授業—芸術鑑賞 京都かその周辺(予定としては、京都国立近代美術館か京都芸術センターだが、AI・HALLなどの可能性もあり)
- 第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
- 第7回 アーツ(諸芸術)の分類
- 第8回 伝統芸術概論—雅楽、能楽、文楽、歌舞伎
- 第9回 日本実演芸術概論—落語、講談、浪曲(できれば、浄瑠璃、長唄も)
- 第10回 アーツマネジメントの分類と歴史
- 第11回 文化芸術振興法と劇場法など法制度と芸術営
- 第12回 イベントプロデュースと芸術営の関係
- 第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
- 第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
- 第15回 まとめ…アーツ(マネジメント)の公共性とは

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすることめくるめく紙芝居プロジェクト(略してMEK)には参加が有効。 <https://www.facebook.com/mekmekY>

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013

ISBN: 9784880653129

文化政策学の展開

著者: 池上惇ほか

出版社: 晃洋書房

出版年: 2003

ISBN:

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

分権時代の自治体文化政策

著者： 中川幾郎

出版社： 勁草書房

出版年： 2001

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

著作権とは何か

著者： 福井健策

出版社： 集英社

出版年： 2005

ISBN:

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

未来型サバイバル音楽論

著者： 牧村憲一ほか

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010

ISBN:

これからのアートマネジメント

著者： 中川真ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（50）

毎回、A5版程度の用紙(出席確認を兼ねるもの)に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

2015 Syllabus

科目名 舞台プロデュース論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 笠井 友仁	
テーマ 演劇について理解を深め、舞台芸術のプロデュースを学ぶ	
授業の到達目標 演劇は、オペラ、ミュージカル、新劇、小劇場演劇、歌舞伎、人形浄瑠璃、能、パントマイム、落語など、様々な上演形式があり、多様な表現方法を持つ芸術である。近年では映像を駆使した作品や「ドキュメンタリー演劇」という手法も登場している。またオペラのように大規模な作品もあれば、一人芝居もある。制作に係る予算や期間も様々であり、演劇はプロデュースする人によって柔軟に姿を変える「柔らかな芸術」である。この授業は、多様化する演劇の表現方法を知ること、芸術を視る目を養い、そして演劇の制作過程や演技法、演出法、プロデュース術を学ぶことで、舞台芸術をプロデュースする力を身に付けることを目的とする。	
授業の概要 授業では、過去に上演された舞台の映像や写真を用いて、演劇の様々な上演形式を幅広く紹介し、授業の計画に沿ったテーマごとに解説を行う。	
準備学習(予習・復習) 劇場でできるだけ多くの演劇作品に接すること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 演劇～柔らかな芸術 第2回 世界の演劇史を知る 第3回 日本の演劇史を知る 第4回 日本の現代演劇を知る 1960年代以降の日本の演劇について 第5回 舞踊の歴史を知る 20世紀の日本とヨーロッパの舞踊について 第6回 現代演劇の可能性を考察する 「ドキュメンタリー演劇」をめぐって 第7回 劇場の機構とスタッフの仕事を知る 第8回 俳優の演技と劇作家の仕事を知る 第9回 演出家の仕事と批評家の役割を知る 第10回 劇場の仕組みを知る 日本の劇場と海外の劇場について 第11回 劇場見学を兼ねた芸術鑑賞 第12回 舞台をプロデュースする1 演劇プロデューサーをゲストに迎えて 第13回 舞台をプロデュースする2 企画書と予算書 第14回 舞台をプロデュースする3 宣伝方法と資金の調達方法 第15回 まとめ 作成した企画書を予算書を発表する	
履修上の注意点 催しの開催時期やゲストの都合によって、日程が変更になる場合があります。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 () 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 文化施設マネジメント論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 笠井 敏光

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と文化施設のマネジメントについて学ぶ

授業の到達目標

法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の文化施設のマネジメントのあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、文化施設マネジメントの課題とあり方について学ぶ。

授業の概要

双方向の進行をめざすとともに、映像などを用いた立体的な授業をおこなう。後半には、実際に現地において学ぶ。

準備学習(予習・復習)

図書館、博物館、文化ホールを利用するときには、マネジメントの視点から観察してみること

内 容

- 第10回 生涯学習センターのマネジメント
- 第11回 図書館のマネジメント
- 第12回 生涯学習センターの実際(学外現地授業)
- 第13回 複合型文化施設の実際(学外現地授業)
- 第14回 市立歴史民俗資料館の実際(学外現地授業)
- 第15回 まとめ
- 第1回 オリエンテーション—文化施設の種類について—
- 第2回 日本の文化政策の変遷
- 第3回 文化芸術振興基本法について
- 第4回 文化関係予算の現状
- 第5回 文化施設の運営主体について
- 第6回 指定管理者制度の現状と課題
- 第7回 文化ホールのマネジメント
- 第8回 博物館のマネジメント
- 第9回 公民館のマネジメント

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 イベントデザイン論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント各論としてのイベントプロデュースを学ぶ

授業の到達目標

アーツマネジメントの現場へ接近して理論を活用するための手法を学ぶ。イベントとは何か、そのあり方を知る。音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。

授業の概要

アーツマネジメント論を前期に学修していることが望ましい。イベントを実際に企画するアーティストがゲストとして来るがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。

準備学習(予習・復習)

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。

内 容

- 第1回 はじめに～アーツマネジメント(芸術営)の基本理解の確認
 第2回 イベントの要件・目的・手段について
 第3回 限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
 第4回 音楽という文化は都市にどのように関わるのか・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
 第5回 音楽イベントとしての野外音楽フェスティバル
 第6回 劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
 第7回 演劇ダンスプロデュース公演のあり方
 第8回 イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ
 第9回 学外授業1 糸賀一雄記念賞音楽祭(滋賀県内)に参加(栗東市さくら大ホールの予定)
 第10回 イベントを冠婚葬祭として考えるなおす
 第11回 学外授業2 音楽かダンスのイベントを鑑賞する 場所は未定(適当なものがない場合は、映像鑑賞に変える)
 第12回 演劇ダンスと冠婚葬祭との比較論
 第13回 限界芸術論を現代化する
 第14回 イベントプロデュースの事例を自分なりに応用する
 第15回 まとめ—芸術イベントへの関心を継続するように—

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013年

ISBN: 9784880653129

ライブシーンよ、どこへいく—ライブカルチャーとポピュラー音楽

著者: 宮入恭平他

出版社: 青弓社

出版年: 2011年

ISBN: 9784787273116

ライブハウス文化論

著者: 宮入恭平

出版社: 青弓社

出版年: 2008年

ISBN: 9784787232854

ロックミュージックの社会学

著者： 南田勝也

出版社： 青弓社

出版年： 2001年

ISBN: 9784787231901

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

現場活動を紹介するので、できるだけ参加すること。

2015 Syllabus

科目名 展示デザイン論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の概要

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習(予習・復習)

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念)展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態)展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等)展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術)展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等)とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年：1996

ISBN:

イベント講座

著者：日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年：2004

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めると、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2015 Syllabus

科目名 舞台イベント研究

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術および芸術・文化に関わる事業の社会的意義を考える

授業の到達目標

劇場や舞台芸術または文化芸術にまつわる事業を題材に、それに関わるフタッフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術、および芸術・文化にまつわる事業の社会的意義を考えるとともに、文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の概要

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

準備学習(予習・復習)

特に無し。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 社会が芸術・文化を支える意義や目的について考える。
- 第4回 芸術・文化の振興に関わる法律や制度について考える。
- 第5回 国や自治体の文化政策について考える。
- 第6回 劇場について考える。
- 第7回 劇場の機能と上演作品について考える。
- 第8回 上演作品を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第9回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。計画の立案について。
- 第10回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。事業の実施段階について。
- 第11回 事業を計画し実施、検証する間での流れについて。事業の報告・検証・評価について。
- 第12回 事業の評価について考える。
- 第13回 企画者にとって必要な「見識や良識」について考える。
- 第14回 来たるべき社会にむけて、芸術や文化ができることを考える。
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70%)

授業中発表等 (30%)

参加度 ()

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

2015 Syllabus

科目名 ビジュアルアーツ演習 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習(予習・復習)

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える… たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる… タイポグラフィー制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果… 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える… キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者: 大崎 善治

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2010

ISBN: 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN: 978-4473015785

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ビジュアルアーツ演習

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習(予習・復習)

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える… たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる… タイポグラフィー制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる… 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる… ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる… 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果… 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える… キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者: 大崎 善治

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2010

ISBN: 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN: 978-4473015785

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 地域文化財論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

各地の文化財を紹介し、観光開発による近代的文化財の成立過程を解説する。

授業の到達目標

文化財の宝庫である京都の歴史と、そこで生み出された代表的な文化財をはじめ、文化財観光の発展と、その現代における到達点である世界遺産を理解する。

授業の概要

地域を代表する文化財の紹介と文化財観光の発展過程を解説してゆく。

準備学習(予習・復習)

京都近辺の博物館・美術館・資料館や多様な文化財を見学して、その歴史を学習すること。

内 容

- 第1回 日本の文化財には、どんなものがあるか
- 第2回 平安京以前の京都と文化財
- 第3回 古代都市平安京と文化財
- 第4回 中世都市京都と文化財
- 第5回 近世都市京都と文化財
- 第6回 学外授業 博物館・美術館・祭礼の見学
- 第7回 近代都市京都と文化財
- 第8回 文化財観光開発の歴史① 京都叢書の世界(1)
- 第9回 文化財観光開発の歴史② 京都叢書の世界(2)
- 第10回 文化財観光開発の歴史③ 北京古籍叢書の世界
- 第11回 学外授業 博物館・美術館・祭礼の見学
- 第12回 講演会 地域文化財の調査研究と活用
- 第13回 世界遺産① 日本と中国
- 第14回 世界遺産② ヨーロッパ
- 第15回 文化財政策の課題※なお、埋蔵文化財の現地説明会などの学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 地域文化行政論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

文化財行政の現状と課題

授業の到達目標

文化財の保護という仕事は、これまで国都道府県市町村の行政体を中心となっておこなってきた。その仕事内容は、現実的な仕事である。また、最近では、時代の変化に対応した文化財行政のありかたが求められている。これらの文化財行政の現実と課題を理解する。

授業の概要

文化財行政の担当者が、きびしい現実に対して、どのように業務をこなしているのかを、きちんと説明するとともに、今後の課題について解説する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 近代国家成立以前の文化財保護
- 第2回 近代の行政的文化財保護の歴史① 国家成立期の文化財事情
- 第3回 近代の行政的文化財保護の歴史② 文化財保護法の成立
- 第4回 古代のロマンとナショナリズムの形成
- 第5回 学外授業 発掘調査現場または整備された遺跡・建築または博物館
- 第6回 埋蔵文化財の調査現場の仕事
- 第7回 教育委員会の仕事①(ゲストスピーカー)文化財調査担当者
- 第8回 埋蔵文化財に関する文化財行政のまとめ
- 第9回 学外授業 発掘調査現場または整備された遺跡・建築または博物館
- 第10回 日本の世界遺産
- 第11回 教育委員会の仕事②(ゲストスピーカー)文化財調査担当者
- 第12回 行政体の文化財保護組織・保存問題
- 第13回 文化財行政の課題① 大学・博物館・行政組織・民間の関係の変貌
- 第14回 文化財行政の課題② 民間調査組織と資格問題
- 第15回 文化財行政の課題③ 文化財の有効活用

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **建築施工**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 笠井 俊明	
テーマ	建築物が造り出される過程や施工のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築積算についても平行して学ぶ。
授業の到達目標	建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。
授業の概要	建築施工における基礎的な知識を教えます、一般的な建築工事のプロセスについて、テキストに従いまた配布資料・写真や図を用いて具体的に説明します。
準備学習(予習・復習)	テキストの予習 テキスト・配布資料の復習。日常生活から興味をもって建築施工について考える。工事現場を注意して観察する。
内 容	<p>第1回 建築施工について</p> <p>第2回 建築生産に関わる各種業務;設計・工事発注・施工など</p> <p>第3回 施工の流れと工程計画作成</p> <p>第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査</p> <p>第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法</p> <p>第6回 鉄筋工事と型枠工事</p> <p>第7回 コンクリートの配合と、その打設手順</p> <p>第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について</p> <p>第9回 メーソンリー(組積)工事とプレキャストパネル</p> <p>第10回 建具工事</p> <p>第11回 内外装の機能材料と仕上工事</p> <p>第12回 給排水・空調・電気設備工事</p> <p>第13回 工事費の積算の手順</p> <p>第14回 簡単な構造物の積算演習</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	受講中は私語厳禁 質問は随時受けます。欠席については成績評価の対象になります。
教科書	<p>初学者の建築講座 建築施工</p> <p>著者: 中澤明夫 門田誠</p> <p>出版社: 市ヶ谷出版社</p> <p>出版年: 2010 ISBN: 9784870711211</p>
参考書	<p>建築施工テキスト</p> <p>著者: 兼歳昌直</p> <p>出版社: 井上書院</p> <p>出版年: 2012 ISBN: 9784753005871</p>
成績評価	<p>試験 (35) 小テスト (35)</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (30)</p> <p>総合試験は最終授業後別日程で実施します。前回授業の小テストを毎回します。</p>

2015 Syllabus

科目名 **建築法規**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大戸 寛	
テーマ	
住宅をはじめとして、種々の機能を持つ建築物は社会にとって重要な要素である。建築物は機能、感性、環境、安全性など幅広い知識が要求されるが本科目ではそれらを構成するのに必要な都市計画的ルール、建築物個別の法規を学び、建築にかかわる職業はもちろん、社会人としての素養を身につける。	
授業の到達目標	
建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。	
授業の概要	
建築法規の意義、その基礎的用語、考え方をはじめとし、具体的な都市計画上のルールにのっとり建物の計画、個別建物の諸規定を設計者の立場で開設する。	
準備学習(予習・復習)	
2年次までに学んだ建築の授業を頭に浮かべながら街を眺めて、その形態の設計条件を問題発見する。外観、窓、駐車場それぞれに機能的、デザインの、法規的理由があるものです。街角探検、建物探検をしてください。	
内 容	
第1回	建築基準法の概要1
第2回	建築基準法の概要2
第3回	用途と形態の制限1
第4回	用途と形態の制限2
第5回	防火対策と内装の規制1
第6回	防火対策と内装の規制2
第7回	避難施設の基準
第8回	構造強度の規制1
第9回	構造強度の規制2
第10回	環境と整備に関する基準1
第11回	環境と整備に関する基準2
第12回	建築協定・建築士法
第13回	ハートビル法・耐震改修促進法、建築業
第14回	消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
第15回	まとめ
履修上の注意点	
欠席すると内容が分からなくなります、出席第一です。授業中にわからないことは質問してください。	
教科書	
基礎シリーズ最新建築法規入門	
著者： 松本光平 他	
出版社： 実教出版	
出版年： 2014	ISBN： 978-4-407-33052
参考書	
みるだけでわかる！建築基準法入門	
著者： 建築知識	
出版社： エクスナレッジ	
出版年： 2014	ISBN：
成績評価	
試験 ()	小テスト (60)
授業中課題 (20)	授業中発表等 ()
参加度 (20)	
小テストまたは授業中課題を行い評価する。	

2015 Syllabus

科目名 色彩環境論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 渡辺 安人	

テーマ

感性感覚の世界と思われがちな色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩調和手法や色彩と心理生理の関係を理論的に把握し、望ましい快適な生活環境創出の一助にする。

授業の到達目標

配色テクニックや色彩と心理生理の関係などを把握し、加えてセンスアップも図り、自分の色彩に対する考え方を明確にして実践的に応用できる力をつける。

授業の概要

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色彩の効果や役割について考える。

準備学習(予習・復習)

日頃から身の回りの色彩に意識を持つこと。理論の理解のために演習も行うので、テキストと共に「配色カード158a」日本色研事業(株)発行を購入し、ハサミ、のりと共に授業に持参すること。

内 容

- 第1回 色を伝える方法
- 第2回 色彩調和
- 第3回 美的造形手法
- 第4回 目の構造と視覚
- 第5回 混色と測色
- 第6回 人工光源と色
- 第7回 インテリアのカラーコーディネート1
- 第8回 インテリアのカラーコーディネート2
- 第9回 外観の色彩設計1
- 第10回 外観の色彩設計2
- 第11回 景観調和と色彩1
- 第12回 景観調和と色彩2
- 第13回 気候風土と色彩文化1
- 第14回 気候風土と色彩文化2
- 第15回 色彩環境のまとめ

履修上の注意点

当然、授業中の私語は慎むこと。毎回大切な内容を講義するので、極力欠席しないように心掛けること。

教科書

「色彩学の実践」

著者： 渡辺安人著

出版社： 学芸出版社

出版年：

ISBN：

「配色カード158a」

著者：

出版社： 日本色研事業(株)発行

出版年：

ISBN：

参考書

「色彩」

著者： 大井義雄・川崎昭著

出版社： 日本色研事業(株)発行

出版年：

ISBN：

「色彩学入門」

著者:

出版社: 日本色研事業(株)発行

出版年:

ISBN:

「建築と色彩」

著者: 宮後浩・渡辺安人著

出版社: 学芸出版社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <* a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	希望制
担当者	今井 裕夫	
テーマ	「スペース・エレメント(建築を構成している要素)」の研究	
授業の到達目標	<p>私たちが取りまく環境は、いろいろな「建築を構成しているエレメント」により成立している。環境に漠然と散在する「エレメント」の中から、興味を引く「エレメント」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ(デザイン取材)を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視(じっとみつめること)を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とともに磨きをかけるための感性ノート作りを行うとともに作家研究または設計課題を行う。</p>	
授業の概要	<p>毎日の視線から気になる建築のデザイン要素を求めて歩く。例えば窓や階段といった機能や用途が明解である対象物を撮影する。エレメントの意味を読み取り、その成立背景から大まかに分類する。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素として確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書程度でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者は発表用レジュメを人数分用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノート I A4版(20P)クリアファイル(A4 用紙に写真またはそのカラーコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚)・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。</p>	
準備学習(予習・復習)	つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。	
内 容	<p>第1回 ガイダンス(課題主旨の説明) 第2回 講義 第3回 取材① 第4回 取材① 第5回 取材① 第6回 講義 第7回 課題(設計・ドローイング) 第8回 課題(設計・ドローイング) 第9回 課題(設計・ドローイング) 第10回 取材② 第11回 取材② 第12回 取材② 第13回 発表・講評 第14回 発表・講評 第15回 ノート作成(提出)※尚、この授業は必要に応じて学外授業を行うことがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 (10) 参加度 (40)</p>	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*b>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 竹山 清明	
テーマ アーキキャド(3Dキャド)を学ぶ	
授業の到達目標 現在の建築キャドソフトの中では最も先進的で性能の高いアーキキャドの操作方法を学ぶ。平面計画で作図をしていくと、自動的に精密な立体画像が作成されるという効率的なキャドソフトである。全国大手の設計事務所や工務店設計部で採用が相次いでいる。中小事務所や工務店でも、極めて効率的にプレゼン図面や実施設計図面の作成が可能である。これからの建築設計の業界では支配的なキャドソフトになると考えられる。卒業設計の仕上がり水準が、手書きや他のCADソフトにくらべ格段に優れている。質の高い卒業設計を行いたいと考えている人は、このソフトを学ぶことを勧める。	
授業の概要 (1)教科書に基づきアーキキャドの操作を学ぶ。(2)教科書に基づき、住宅1戸の全体図を作成し、プレゼンボードに出力し提出する。(3)操作不明な箇所は、随時に指導を行う。(4)関連する見学・調査などのフィールドワークを行う	
準備学習(予習・復習) 空いている時間には、キャド室で自習を行い、習熟度を高めて欲しい。	
内 容 第1回 アーキキャドの基礎1 第2回 アーキキャドの基礎2 第3回 アーキキャドの基礎3 第4回 アーキキャドの基礎4 第5回 アーキキャドの基礎5 第6回 アーキキャドの応用1 第7回 アーキキャドの応用2 第8回 アーキキャドの応用3 第9回 アーキキャドの応用4 第10回 アーキキャドの応用5 第11回 アーキキャドの応用6 第12回 アーキキャドの応用7 第13回 アーキキャドの表現1 第14回 アーキキャドの表現2 第15回 アーキキャドの表現3, 講評	
履修上の注意点 空いている時間はアーキキャドを触り習熟すること	
教科書 プリントを使用 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (70) 参加度 (30) 総合的にアーキキャドに習熟している度合いで判断	小テスト () 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 松本 正富	
テーマ 現代建築家のデザイン手法についての検討	
授業の到達目標 当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで、建築・インテリア設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。ものづくりやデザインという行為の楽しさを見つけ出す。	
授業の概要 1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。2)数回の建築見学会を開催する。3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し、これに関わるアドバイスと支援を行う。	
準備学習(予習・復習) 建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 調査テーマの設定 第3回 プレゼンテーション-1 第4回 プレゼンテーション-2 第5回 プレゼンテーション-3 第6回 プレゼンテーション-4 第7回 プレゼンテーション-5 第8回 プレゼンテーション-6 第9回 建築見学会-1 第10回 コンペ課題コンセプト検討-1 第11回 コンペ課題コンセプト検討-2 第12回 コンペ課題ドローイング-1 第13回 コンペ課題ドローイング-2 第14回 建築見学会-2 第15回 まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 コンパクト設計資料集成 著者： 日本建築学会編 出版社： 丸善株式会社 出版年： 2005 ISBN: 9784621075098	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 7割以上の出席が単位取得の条件です。	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 河野 良平

テーマ

自分の好きな建築やインテリアとは？

授業の到達目標

自分の建築やインテリアに対する興味のあるかを探す。

授業の概要

各自が3回ずつ発表を行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表1

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表2

第9回 発表2

第10回 発表3

第11回 発表3

第12回 発表3

第13回 発表3、まとめ

第14回 見学

第15回 見学※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 近藤 康子

テーマ

建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

建築家やインテリアデザイナーの作品を、図面、スケッチ、言説などから多角的、批評的に読み解く方法論を身に付ける。設計課題を通して、自身のイメージや発想を具体的な作品としてデザインし、それを効果的に表現するプレゼンテーション能力を鍛える。

授業の概要

・作品分析(取り上げる作品については講義中に発表)図面の模写、スケッチや言説の読解などを通して、作品を成立させている歴史的背景や作家の意図などを読み解く。作品を批評的に捉えることとして、そこに自らのデザインを加えて発表する。・設計課題(テーマについては講義中に発表)テーマに沿って設計をする。

準備学習(予習・復習)

日常的にスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 作品の模写
- 第3回 作品の模写
- 第4回 作品の調査・分析
- 第5回 作品の調査・分析
- 第6回 作品の提案
- 第7回 作品の提案
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 設計課題
- 第10回 設計課題
- 第11回 設計課題
- 第12回 設計課題
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 見学会
- 第15回 見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会(日帰り)、見学旅行(1泊2日)、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I < * f >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 織田 直文

テーマ

観光・まちづくりのプロデュース + 卒論テーマ探し

授業の到達目標

近年の海外からの観光客増や東京オリンピック開催などで、今後は観光産業が伸長することが考えられる中、観光やまちづくりに関するプロデュース能力を身につける。さらに各自が卒業研究のテーマ選びの作業を開始する。

授業の概要

観光・まちづくりについて学習するとともに、具体的なイベントへの参加や見学を通し、実践現場を知る。卒論テーマの検討も開始する。

準備学習(予習・復習)

ゼミでの発表準備の精度をあげること、また関与するイベントに関する情報は大事にし、反芻し、理解するように努めてください。卒論テーマや進路について早めに考えておいてください。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方、自己紹介、観光・まちづくり・イベント等に関する講義。
- 第2回 将来の進路学習会。
- 第3回 卒業研究について。研究計画書作成要領とシートA配布。
- 第4回 学内イベント学習会。
- 第5回 学内イベント学習会。
- 第6回 研究計画シートAの提出。概要報告。
- 第7回 研究計画シートAの概要報告。
- 第8回 学内イベント準備。
- 第9回 学内イベント準備。
- 第10回 学内イベント参加・見学
- 第11回 学内イベント参加・見学
- 第12回 学内イベント片づけ協力
- 第13回 学内イベント反省会
- 第14回 まとめ

履修上の注意点

メンバー全員での討論やイベント関与などがあり、ゼミへの出席が大前提です。事前に連絡が無い場合、欠席、遅刻はそのままマイナス評価となります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (60)

ゼミへの出席が大前提なので、参加度や発表を重視します。イベントに関与する運営となり、その部分での積極性を評価します。参加すると決まったイベント実施日は、必ず参加してください。

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートを伝える、文化を創る(その1)

授業の到達目標

1)アーツマネジメントの概念を自分のものにする2)各種の文化プロデュース現場に参加し意味を考える3)実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつける

授業の概要

自主性を大事にします。形にしばられない考え方をしたい人向きです。卒業研究も卒業論文だけでなく、卒業制作(独自に企画を考えたり、外部企画に積極的に参加したりして、その成果を写真や動画なども含めて提出する形)も積極的に取り入れます。ゼミの運営もできるだけ、その場で起きる「創発」的な状態にしたい。就職活動にも、義務感でするのではなく、自分たちで楽しくできるように、工夫をしようと思っています。就活の準備を演劇的に模倣化したり、自らを伝える術を芸術(アーツ)によって身に付けるように考えています。自分のテーマのために、積極的に読書すること。その際、参考書欄を見つつ、生協の読書奨励制度を活用すること。

準備学習(予習・復習)

ツイッターやブログの活用を検討する。京都や滋賀、大阪などにおけるさまざまなアーツセンターのボランティアなどをゼミで提示するので、活用する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション—佐々木敦『ニッポンの音楽』の紹介
- 第2回 アーツマネジメント(芸術営)の概説(復習)
- 第3回 地域の文化イベントについての概説(復習)
- 第4回 佐々木敦『ニッポンの音楽』を輪読する(1)
- 第5回 佐々木敦『ニッポンの音楽』を輪読する(2)
- 第6回 (学外)アーツマネジメント現場でのフィールドワーク—劇場鑑賞や美術館鑑賞など、適宜設定する—
- 第7回 佐々木敦『ニッポンの音楽』をもとに、自分の音楽論を作成する
- 第8回 音楽と社会との関係論
- 第9回 音楽と映画との関係論
- 第10回 音楽と美術との関係論
- 第11回 アーツプロジェクト体験—自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする(あるいは、めくるめく紙芝居などのワークショップ参加)
- 第12回 各地の夏休み企画を探してみる(卒業制作の準備とも連動)
- 第13回 アーツプロジェクト体験—自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする
- 第14回 キャリア研究(インターンシップ先など)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書指定した佐々木敦『ニッポンの音楽』(講談社、2014年)をかなりの数活用するので、必携。

教科書

ニッポンの音楽

著者: 佐々木敦

出版社: 講談社

出版年: 2014年

ISBN: 4062882965

参考書

キャラクター文化入門

著者: 暮沢剛巳

出版社: NTT出版

出版年: 2010

ISBN:

大学論

著者: 大塚英志

出版社: 講談社

出版年: 2010

ISBN:

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (50)

積極的な参加が評価の決め手 SNSの丁寧な利用めくるめく紙芝居プロジェクト <https://www.facebook.com/mekmekY>

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 谷口 知司	
テーマ	
観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究	
授業の到達目標	
観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺の知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せて教科書の輪読を行う。	
授業の概要	
演習であるため、学生の活動が中心になる。	
準備学習(予習・復習)	
様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。	
内 容	
第1回	観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第2回	観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第3回	観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第4回	観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第5回	観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第6回	観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第7回	観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第8回	観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第9回	課題についての発表
第10回	課題についての発表
第11回	旅(調査)をプランニングする。夏休み中に観光地の現地調査(観光資源調査を含む)を行う。そのための①現地予備調査(書籍・雑誌・Web・ビデオ等)をする。②現地予備調査を基に旅(調査)のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
第12回	旅(調査)をプランニングする。
第13回	旅(調査)をプランニングする。
第14回	旅(調査)をプランニングする。
第15回	まとめ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が必要です。	
教科書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
観光ビジネス論	
著者: 谷口知司編著	
出版社: ミネルヴァ書房	
出版年: 2010年	ISBN:
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)
参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I <*i>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 金武 創	
テーマ 観光/文化と現代ビジネス	
授業の到達目標 ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める	
授業の概要 ①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習 I, II 共通)前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないかと期待している。条件を整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定である。	
準備学習(予習・復習) 日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。	
内 容 第1回 「ハイ・コンセプト」を読む① 第2回 「ハイ・コンセプト」を読む② 第3回 「祭りのゆくえ」を読む① 第4回 「祭りのゆくえ」を読む② 第5回 「モチベーション3.0」を読む① 第6回 「モチベーション3.0」を読む② 第7回 観光ビジネス改善提案① 第8回 観光ビジネス改善提案② 第9回 観光ビジネス改善提案③ 第10回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む① 第11回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む② 第12回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む③ 第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む① 第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む② 第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う	
履修上の注意点 学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、学外研修など、キャンパス外/時間外活動があります。事前に予定を調整します。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 ハイ・コンセプト 著者: ピンク 出版社: 講談社 出版年: 2006 ISBN: モチベーション3.0 著者: ピンク 出版社: 三笠書房 出版年: 2010 ISBN:	
成績評価 試験 (0)	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 専門演習 I < * j >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント&空間プロデュース(1)～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

授業の到達目標

本演習では、各自のテーマを明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、等ゼミにおいては、ゼミ生相互の交流と共同研究を促進するため、「サブプログラム」を実施している。また、夏休みには、アバレンティスシップとして、将来設計に応じたインターンのプログラムを自分自身で設定し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって研究を進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行っている。なお、必要に応じて、ゼミ会等の懇親会も毎年行っている。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
- 第2回 自己関心発見ワークショップ
- 第3回 専門領域・テーマの絞り込み(1)
- 第4回 専門領域・テーマの絞り込み(2)
- 第5回 将来目標の設定
- 第6回 基礎文献の収集と購読(1)
- 第7回 基礎文献の収集と購読(2)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(2)
- 第10回 基礎文献の収集と購読(1)
- 第11回 基礎文献の収集と購読(2)
- 第12回 基礎文献の収集と購読(3)
- 第13回 期末発表(1)
- 第14回 期末発表(2)
- 第15回 評価とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

特に出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 **専門演習 I <*k>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 小森 治夫	
テーマ 観光・まちづくりの事例を学ぶ	
授業の到達目標 ①全国の優れた観光・まちづくりの事例について、その担い手の視点から、テキストと映像資料を活用して深く学ぶ。②卒業論文のテーマを決め、執筆を始める。③就活の準備を始める。	
授業の概要 毎回、テキストの1章ごとに担当者を決める。担当者はレジュメを作成して、報告をする。その報告にもとづいて、全員で討論をすることにより、理解を深める。	
準備学習(予習・復習) 事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく。事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 「町並み保存運動」由来記 第3回 小樽 第4回 函館 第5回 角館 第6回 妻籠 第7回 足助 第8回 石見銀山 第9回 内子 第10回 竹富島 第11回 小布施 第12回 長浜 第13回 近江八幡 第14回 由布院 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

教科書

証言・町並み保存

著者： 西村幸夫・埜正浩編著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2007年

ISBN:

証言・まちづくり

著者： 西村幸夫・埜正浩編著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011年

ISBN:

参考書

反骨の公務員、まちをみがく

著者： 森 まゆみ

出版社： 亜紀書房

出版年： 2014年

ISBN:

小布施 まちづくりの奇跡

著者： 川向正人

出版社： 新潮社

出版年： 2010年

ISBN:

由布院の小さな奇跡

著者： 木谷文弘

出版社： 新潮社

出版年： 2004年

ISBN:

由布院ものがたり

著者： 野口智弘

出版社： 中公文庫

出版年： 2013年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 今井 裕夫

テーマ

「フォーム・マテリアル(建築素材)」の研究

授業の到達目標

素材、材料として建築や工作物の美しさや時間、物質的な滅びや腐食を読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。同時に作家研究もしくは設計課題を行う。

授業の概要

日常的な環境からの建築の素材や材料の多様な魅力を素材と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。建築素材の〔質〕を読み取り、人間の感性とイメージを重ねることを行う。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者はメモを用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノートⅡ A4版(20P)クリアファイル(A4用紙に写真またはコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。

準備学習(予習・復習)

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味を持つこと。空間の〔質〕を問うこと。撮影すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 講義

第3回 取材①

第4回 取材①

第5回 取材①

第6回 講義

第7回 課題(設計 ドローイング)

第8回 課題(設計 ドローイング)

第9回 課題(設計 ドローイング)

第10回 取材②

第11回 取材②

第12回 取材②

第13回 発表・講評

第14回 発表・講評

第15回 ノート作成(提出)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 竹山 清明

テーマ

望ましい生活空間のあり方を学ぶ

授業の到達目標

使いやすく美しい木造戸建て住宅の平面計画と空間計画の原則を学ぶ。またそれをアーキヤドを用いて美しく表現する。

授業の概要

(1)一般的な核家族用の木造戸建て住宅の設計を行う。(2)910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ。(3)木構造の構法の原則を学ぶ。(4)美しいデザインを持つ住宅の事例を集める。(5)優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる。(6)平面計画と空間計画(内外のデザイン)のバランスの良い達成を目指す。(7)アーキヤドを用い3Dで美しく表現する。

準備学習(予習・復習)

アーキヤドへの習熟

内 容

- 第1回 平面計画の作成1
- 第2回 平面計画の作成2
- 第3回 平面計画の作成3
- 第4回 平面計画の作成4
- 第5回 平面計画の作成5
- 第6回 空間計画の作成1
- 第7回 空間計画の作成2
- 第8回 空間計画の作成3
- 第9回 空間計画の作成4
- 第10回 アーキヤドによる作図1
- 第11回 アーキヤドによる作図2
- 第12回 アーキヤドによる作図3
- 第13回 アーキヤドによる作図4
- 第14回 アーキヤドによるプレゼンテーション1
- 第15回 アーキヤドによるプレゼンテーション2

履修上の注意点

計画力・デザイン力・アーキヤドの使いこなしは、時間をかけて学ぶしかないことである。授業時間以外も、復習をキッチリと行うことが重要である。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

計画力・デザイン力・アーキヤドによる表現力などを総合的に判定する。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 松本 正富

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

授業の到達目標

当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。生活環境や空間デザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み、魅力とやりがいのある卒業制作のテーマを設定する。

授業の概要

1) 各自の興味を抱いた内容について調査分析し、ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで、テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。2) “社会的な問題を提起し、その解決に向けた建築的仕掛けを考察する”といった一連の行為についての練習を重ねる。3) 数回の建築見学会を開催する。

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題の設定
- 第3回 プレゼンテーション-1
- 第4回 プレゼンテーション-2
- 第5回 プレゼンテーション-3
- 第6回 プレゼンテーション-4
- 第7回 プレゼンテーション-5
- 第8回 建築見学会-1
- 第9回 卒業制作・論文のテーマ設定-1
- 第10回 卒業制作・論文のテーマ設定-2
- 第11回 卒業制作・論文のテーマ設定-3
- 第12回 卒業制作・論文のテーマ設定-4
- 第13回 卒業制作・論文のテーマ設定-5
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9784621075098

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 河野 良平

テーマ

テーマに沿った空間のデザインと就職活動について

授業の到達目標

あるテーマに沿って空間をデザインする。

授業の概要

空間デザインと就活に関する発表を4回行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4(業界研究)
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 見学
- 第15回 見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 近藤 康子

テーマ

「現代」における建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

「現代」を独自の視点から捉え、何が求められているのか問う力を養う。卒業制作・論文や、就職活動へと繋がる課題を見つける。専門演習Ⅰに引き続き、読解力、表現力を身に付ける。

授業の概要

・作品分析現代作家の作品を取り上げ(各自興味をもった建築やインテリア)、それについての調査・分析を行ない、「現代」における課題を確認する。これをふまえたうえで、建築・インテリアのデザインを通して自分なりの解答を出す。・設計課題具体的に決められた敷地、必要諸室などの様々な条件を丁寧に読み解き、設計を行なう。

準備学習(予習・復習)

卒業制作・論文や就職活動を視野に入れて活動すること。展覧会やイベントなどに積極的に参加し、自身の経験を通して社会の動向を学ぶこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各自取り上げる作品を決定する。
- 第3回 作品を調査・分析する。
- 第4回 作品を調査・分析する。
- 第5回 調査・分析をふまえたうえで、その作品に自分なりの新しい提案を加える。
- 第6回 作品の提案
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 設計課題
- 第9回 設計課題
- 第10回 設計課題
- 第11回 設計課題
- 第12回 設計課題
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 見学会
- 第15回 見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会(日帰り)、見学旅行(1泊2日)、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ < * f >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 織田 直文

テーマ

観光・まちづくりのプロデュース + 卒論テーマ探し

授業の到達目標

近年の海外からの観光客増や東京オリンピック開催などで、今後は観光産業が伸長することが考えられる中、観光やまちづくりに関するプロデュース能力を身につける。さらに各自が卒業研究のテーマ選びの作業を開始する。

授業の概要

観光・まちづくりに関する学習を深めるとともに、具体的な地域事業に関与する。卒論テーマを探し、詳細計画策定と調査手法を学び、着手する。

準備学習(予習・復習)

メンバー全員での討論やイベント関与などがあり、ゼミへの出席が大前提です。事前に連絡が無い場合、欠席、遅刻はそのままマイナス評価となります。

内 容

- 第1回 後期授業の進め方、夏期課題(研究計画書B)の提出、地域事業の学習。
- 第2回 将来の進路学習会<その2>。
- 第3回 地域事業学習。
- 第4回 地域事業への参加・見学。
- 第5回 地域事業への参加・見学。
- 第6回 地域事業・学生関与部分の後片付けへの参加と反省会。
- 第7回 研究計画書Bの提出と報告、討論。
- 第8回 卒論に向けての発表。
- 第9回 卒論に向けての発表。
- 第10回 卒論に向けての発表。
- 第11回 卒論に向けての発表。
- 第12回 学外授業。
- 第13回 学外授業。
- 第14回 次年度の展開に向けて。
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

メンバー全員での討論やイベント関与などがあり、ゼミへの出席が大前提です。事前に連絡が無い場合、欠席、遅刻はそのままマイナス評価となります。

教科書

ない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

その都度提示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (60)

ゼミへの出席が大前提なので、参加度や発表を重視します。イベントに関与する運営となり、その部分での積極性を評価します。参加すると決まったイベント実施日は、必ず参加してください。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 小暮 宣雄	
テーマ アーツを伝える、文化を創る(その2)—アーツマネジメント経験の伝達と理論化—	
授業の到達目標 1)自分のアーツマネジメント活動を発表できるようになる2)卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする3)実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつけ、将来の自分の仕事との関係を考える	
授業の概要 教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。	
準備学習(予習・復習) 就職活動との連動に配慮する卒業研究について、制作の場合は、この秋からスタートにするて、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る(紹介するので、積極的に参加すること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 4回生の卒業研究中間報告に参加① 第3回 4回生の卒業研究中間報告に参加② 第4回 『日本映画史110年』を輪読する① 第5回 『日本映画史110年』を輪読する② 第6回 『日本映画史110年』を輪読する③ 第7回 『日本映画史110年』を輪読する④ 第8回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する① 第9回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する② 第10回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③ 第11回 文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップー学外授業 第12回 キャリア研究① 自分のキャリアとアーツマネジメント 第13回 キャリア研究② 生活と文化プロデュース分野を探る 第14回 キャリア研究③ 限界芸術と冠婚葬祭 第15回 まとめ 卒業研究をこれから深めるために	
履修上の注意点 遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。『日本映画史110年』を輪読するので、必携。	
教科書 日本映画史110年 著者： 四方田犬彦 出版社： 集英社 出版年： 2014年 ISBN： 4087207528	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 (30) 参加度 (50) 日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。めくるめく紙芝居プロジェクト https://www.facebook.com/mekmekY	

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 谷口 知司	
テーマ 観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究	
授業の到達目標 観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺の知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、教科書の輪読を併せて行う。	
授業の概要 演習であるため、学生の活動が中心になる。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 京都まちなかアーカイブ事前学習 前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。 第2回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第3回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第4回 京都まちなかアーカイブ事前学習 第5回 京都まちなかアーカイブを行う。 第6回 ツーリズムの形態について学ぶ。1班3名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態(エコ、グリーン、産業、都市etc)や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。 第7回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第8回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第9回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第10回 ツーリズムの形態について学ぶ。 第11回 課題発表 第12回 卒業論文のテーマについて考える。 第13回 卒業論文のテーマについて考える。 第14回 卒業論文のテーマについて考える。 第15回 まとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。	
教科書 使用しない。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 観光ビジネス論 著者: 谷口知司編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2010年 ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (40) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習Ⅰ、Ⅱ共通)・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

準備学習(予習・復習)

日経ビジネスオンライン、日経新聞を読んでおくこと。学外授業を行うこともある。

内 容

第1回 「場のマネジメント」を読む①

第2回 「場のマネジメント」を読む②

第3回 「観光文化学」を読む①

第4回 「観光文化学」を読む②

第5回 「人を助けるとはどういうことか」を読む①

第6回 「人を助けるとはどういうことか」を読む②

第7回 卒論準備書誌情報作成①

第8回 卒論準備書誌情報作成②

第9回 卒論準備書誌情報作成③

第10回 旅行企画①

第11回 旅行企画②

第12回 旅行企画③

第13回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む①

第14回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む②

第15回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む③※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践知

著者: 金井壽宏/楠見孝

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ < *j >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント & 空間プロデュース(2)～専門研究の展開と仕事研究の準備～

授業の到達目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えることを行う。また、後半では各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、サブプログラムの継続実施をし、応用実践の一連のプログラムを学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くからさまざまな社会的関心を持ち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
- 第2回 アパレンティスシップ報告(1)
- 第3回 アパレンティスシップ報告(2)
- 第4回 前期に確立した研究・活動スケジュールの修正
- 第5回 文献研究の整理(1)
- 第6回 文献研究の整理(2)
- 第7回 文献研究の整理(3)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(1)
- 第10回 個別研究課題の設定
- 第11回 個別研究課題の調査(1)
- 第12回 個別研究課題の調査(2)
- 第13回 期末発表(1)
- 第14回 期末発表(2)
- 第15回 評価とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

特に出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <*k>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 小森 治夫	
テーマ 観光・まちづくりの事例を学ぶ	
授業の到達目標 ①全国の優れた観光地の事例について、その担い手の視点から、文献資料と映像資料を活用してより深く学ぶ。②卒業論文の執筆を進める。③就活の準備を進める。	
授業の概要 毎回のテーマごとに担当者を決める。担当者はレジュメを作成して、報告をする。その報告に基づいて、全員で討論することにより、理解を深める。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 フィルムコミッション(1) 第3回 フィルムコミッション(2) 第4回 芝居小屋を活かしたまちづくり(1) 第5回 芝居小屋を活かしたまちづくり(2) 第6回 産業観光 第7回 商店街の再生(1) 第8回 商店街の再生(2) 第9回 スーパー公務員(1)高野誠鮮 第10回 スーパー公務員(2)木村俊昭 第11回 コミュニティデザイナー 山崎亮 第12回 都市計画家(1)西郷真理子 第13回 都市計画家(2)西郷真理子 第14回 柳川を再生した男・広松伝	
履修上の注意点	
教科書 わが街再生 著者: 鈴木嘉一 出版社: 平凡社新書 出版年: 2013年 ISBN: ローマ法王に米を食べさせた男 著者: 高野誠鮮 出版社: 講談社 出版年: 2012年 ISBN: 「できない」を「できる！」に変える 著者: 木村俊昭 出版社: 実務教育出版 出版年: 2010年 ISBN:	
参考書 自分たちの力のできる「まちおこし」 著者: 木村俊昭 出版社: 実務教育出版 出版年: 2011年 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 **測量実習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 五十川 伸矢	
テーマ 測量の基礎技術	
授業の到達目標 土地の形状や大きさを計測するため、トラバース、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。	
授業の概要 測量の基礎理論と測量機器の取り扱い方を習得する。	
準備学習(予習・復習) 地図を作るという作業には、地形を見抜く目をもつことが必要です。地形を見て、どんな図ができるか、いつも考える癖をつけること。	
内 容 第1回 ガイダンス(班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方) 第2回 距離測量1(目測・歩測) 第3回 距離測量2(巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字) 第4回 レベル基本操作、スタジア測量(レベル、標尺(スタッフ)、スタジア、スタジア定数) 第5回 水準測量1(レベル、標尺(スタッフ)、閉合水準測量) 第6回 水準測量2(レベル、標尺(スタッフ)、往復水準測量) 第7回 平板測量1(平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法) 第8回 平板測量2(平板、アリダード、細部測量) 第9回 セオドライト基本操作、測角(セオドライト、水平角、鉛直角) 第10回 トラバース測量(多角測量)1(単測法、倍角法) 第11回 トラバース測量(多角測量)2(トラバース、緯距・経距、閉合誤差) 第12回 地形測量1(平板測量法による) 第13回 地形測量2(地形図を描く) 第14回 写真測量 第15回 測量実習の総括	
履修上の注意点 この実習は積み重ね型の授業ですから、欠席すれば何をすべきなのか分からなくなります。またチームを作って共同作業をしますから、個人的なわがままは他の学生に迷惑となります。これらのことをしっかり認識して取り組んで下さい。	
教科書	
参考書 絵とき測量 著者: 栗津清蔵 出版社: オーム社 出版年: 1994 ISBN: 測量入門 著者: 大杉和由・福島博行 出版社: 実教出版 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (60) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 住宅計画

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

健康的で文化的、機能的な理想の住まいをデザインする。

授業の到達目標

住宅とは、決して単なる物ではなく、人間の多様で豊かな生活のための空間であること、そのためには、住宅というハードと使い方のソフトを融合させ、安全で快適、健康的かつ衛生的で、また便利で文化的な住宅設計の基本を修得する。

授業の概要

住宅を生活と環境の側面からえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説し・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的・機能的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や監理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

準備学習(予習・復習)

教科書を早めに入手し、一読しておいてください。配布資料は設計の参考になるので保管してください。簡単な平面設計を行う予定です。住宅・建築系以外の学生はかなりの自主学習が必要となることは了解したうえで受講してください。

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境
- 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
- 第3回 住空間の形態と設計
- 第4回 住宅計画のための調査の種類と進め方
- 第5回 人間の寸法と設計の方法
- 第6回 法規と設計
- 第7回 平面計画の方法
- 第8回 構造計画の方法
- 第9回 室内環境の計画
- 第10回 住宅設計実例の研究①
- 第11回 住宅設計実例の研究②
- 第12回 地域計画における住宅計画と景観づくり
- 第13回 住宅の管理
- 第14回 住み手参加による集合住宅デザイン
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席を重視します。受講マナーの悪い学生は、嚴重注意しますが、ひどい場合は成績評価でマイナス評価されます。

教科書

住宅のデザインと製図

著者： 三川 榮吉

出版社： 彰国社

出版年： 1988

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

参加度と課題提出を重視します。

2015 Syllabus

科目名 **建築設備**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福坂 誠

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

授業の到達目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空調設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の概要

テキストの内容を中心に、必要に応じて補足するプリントの配布や演習等を行いながら講義を進める。

準備学習(予習・復習)

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んでおくこと。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

内 容

- 第1回 建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
- 第2回 給排水・衛生設備給水設備について
- 第3回 給排水・衛生設備給湯設備・ガス設備について
- 第4回 給排水・衛生設備排水・通気設備について
- 第5回 給排水・衛生設備排水処理設備・衛生器具設備について
- 第6回 給排水・衛生設備消火設備について
- 第7回 空調設備空気調和と室内環境について
- 第8回 空調設備空気線図の使い方について
- 第9回 空調設備空調負荷について
- 第10回 空調設備空気調和方式の種類・特徴について
- 第11回 空調設備熱源・熱搬送設備と機器部材について
- 第12回 空調設備換気・排煙・自動制御設備について
- 第13回 空調設備受変電・幹線設備と動力設備について
- 第14回 空調設備照明・コンセント設備と情報・通信設備について
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座 建築設備

著者： 大塚雅之

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2013

ISBN: 9784870710177

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化と観光

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

授業の到達目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の概要

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

準備学習(予習・復習)

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひととき功德を積んで仏門へと誘われてほしい

内 容

- 第1回 京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
- 第2回 梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
- 第3回 梵鐘づくりの技術②実物観察と鑄造遺跡
- 第4回 妙心寺と最古の梵鐘
- 第5回 神護寺と華麗な陽鑄銘文
- 第6回 平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
- 第7回 学外授業 宇治平等院
- 第8回 笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
- 第9回 安祥寺と河内鑄物師の鐘
- 第10回 清水寺と三条釜座の鑄物師が作った鐘
- 第11回 南蛮寺と洋鐘形の鐘
- 第12回 方広寺と豊臣滅亡の鐘
- 第13回 学外授業 東山知恩院・方広寺
- 第14回 中国の古鐘と日本鐘
- 第15回 韓国の古鐘と日本鐘

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 観光・まちづくり事例研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

観光をテーマとしたまちづくりをデザインしよう。

授業の到達目標

地域の観光資源の発掘力、それらを活かしたプラン作成力を習得する。

授業の概要

前半は京都市内を事例に観光現況や歴史的観光資源について、資料や視聴覚資料等で学んだ後、後半の初めに観光をテーマとしたまちづくり手法の講義を行い、その後、山科地域を例に観光をテーマとしたまちづくりの提案を作成してもらう。外部講師による特別講義も取り入れたい。

準備学習(予習・復習)

京都市内や山科地域の観光資源を事前学習しておく。提案作成は個人またはグループ研究を考慮しており、授業時間外の作業時間を週1時間～2時間は要する。

内 容

- 第1回 この授業のねらいや進め方について。
 第2回 京都市内の観光状況
 第3回 京都市内の観光資源
 第4回 京都市内の観光資源
 第5回 京都市内の観光資源
 第6回 観光をテーマとしたまちづくりについて。山科地域でのプラン提案作成要領の説明。グループ分け。
 第7回 学外調査
 第8回 ゲストスピーカーによる特別講義(予定)。
 第9回 各自(グループ)調査活動方針と実施についての計画作成。
 第10回 学外調査
 第11回 グループ研究会
 第12回 中間報告会
 第13回 グループ研究会③ 中間報告の修正、最終報告の作成。
 第14回 最終発表会。
 第15回 総括。

履修上の注意点

観光やまちづくりに関心があり、グループワークが好きな学生を求めます。受講した場合、後半はグループ研究を前提としていますので、絶対に欠席しないでください。他の受講生が作業できません。そのことが分かっている学生は、受講を見合わせてください。また提案づくりには積極性が求められます。完了時は、創造力、協調性が身に付きます。

教科書

使わない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (30)

参加度 (60)

グループ研究成果は、グループ全体の評価点となり、これに参加度等からなる個人点を加算し総合評価する予定です。

2015 Syllabus

科目名 **空間デザイン演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 井上 信太

テーマ

空間デザインとワークショップ

授業の到達目標

1、五感で感じる空間を体験する2、即興的にオリジナルの発想力を養う3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の概要

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

準備学習(予習・復習)

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 空間ワークショップ1(絵を描く)
- 第3回 空間ワークショップ2(音を奏でる)
- 第4回 空間ワークショップ3(コンテンポラリーダンスを見る、体験する)
- 第5回 空間ワークショップ4(立体制作)
- 第6回 空間ワークショップ5(映像)
- 第7回 空間ワークショップ6(絵を描く:コラージュ)
- 第8回 空間ワークショップ7(即興で演奏する)
- 第9回 ピクニック演習
- 第10回 空間ワークショップ8(紙芝居作り)
- 第11回 空間ワークショップ9(物語作り)
- 第12回 空間ワークショップ10(音作り)
- 第13回 空間ワークショップ11(即興で遊ぶ)
- 第14回 空間ワークショップ12(リハーサル)
- 第15回 空間ワークショップ13(発表会)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (100)

実践中心の演習です。

2015 Syllabus

科目名 パフォーミングアーツ演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡村 宏懇

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」にも挑戦してみよう。

授業の到達目標

〈舞台〉と〈映像〉の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能(落語、狂言など)まで、その表現方法は違っても人前で何かを発表する「ライブな表現」活動であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れてみたい。体験的な授業になればと思っている。

授業の概要

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、日常生活では誰もが「いろんな自分」をフツーに演じています。普段の何気ない自分の表現に少し自覚的になるだけで表現力はUPします。まずは、失敗を恐れずに挑戦してみましょう。授業は表現の練習と課題演技(舞)で進める予定です。

準備学習(予習・復習)

TVドラマや映画を、演出や俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。

内 容

- 第1回 ガイダンス。(表現についての基礎知識)
- 第2回 演技①(演技のタイプ)
- 第3回 演技②(舞台演技と映像演技の違い)
- 第4回 声優①(台本の読み方)
- 第5回 声優②(台本を演じてみよう)
- 第6回 現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー(DVD)
- 第7回 現代演劇観賞(DVD)
- 第8回 古典芸能の様式(落語)
- 第9回 時代劇アクション(殺陣)
- 第10回 古典芸能「舞」の練習①
- 第11回 「舞」の練習②
- 第12回 「舞」の練習③
- 第13回 「舞」の練習④
- 第14回 「舞」の練習⑤
- 第15回 発表

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

扇子を用意すること。(100均のものでも可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成・論理的な文章を書く方法○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿

第15回 ゼミ合宿※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 竹山 清明

テーマ

質の高い卒業制作(研究)の達成をめざす基礎エスキース(研究)

授業の到達目標

卒業制作(研究)のテーマについて多面的に考えて選択する。選択したテーマを掘り下げ、期末には、とりあえずのまとめの中間発表を行う。

授業の概要

自主的に、様々なデータを集める。ゼミでの議論を基礎に自分で考え、卒業制作(研究)のあらかたの方向性を定める。

準備学習(予習・復習)

出来るだけ多くのデータを集め読み込んでおくこと。またアーキキヤドを政策に用いるため、その習練も欠かさず行っておくこと。

内 容

- 第1回 データ収集・発表1
- 第2回 データ収集・発表2
- 第3回 データ収集・発表3
- 第4回 データ収集まとめ・中間発表
- 第5回 基礎エスキース作成1
- 第6回 基礎エスキース作成2
- 第7回 基礎エスキース作成3
- 第8回 基礎エスキース作成4
- 第9回 基礎エスキース中間発表
- 第10回 エスキース作成1
- 第11回 エスキース作成2
- 第12回 エスキース作成3
- 第13回 エスキース作成4
- 第14回 エスキース作成5
- 第15回 エスキース中間発表

履修上の注意点

全て自分で考えないと前へ進まない内容である。しかし自分の考えだけでは新しい前進は難しい。必ずゼミに出席し、教員の指導を受けることが必須である。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

授業中発表等や参加度を重視するが、エスキースの総合的な達成度が最も重要である。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*c>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 松本 正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(1)

授業の到達目標

研究論文作成のためのスキルを習得する。コンセプトある卒業制作を効果的にプレゼンテーションするためのスキルを習得する。

授業の概要

1)テーマ設定と絞込みに関するディスカッション2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス3)文献調査・事例調査のアドバイス4)コンセプトに沿ったデザイン手法についてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加, 見学旅行等, デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で, モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出し出してくれることを期待する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 テーマについてのディスカッション-1

第3回 テーマについてのディスカッション-2

第4回 テーマについてのディスカッション-3

第5回 テーマについてのディスカッション-4

第6回 テーマについてのディスカッション-5

第7回 テーマについてのディスカッション-6

第8回 建築見学会-1

第9回 文献調査・事例調査報告-1

第10回 文献調査・事例調査報告-2

第11回 文献調査・事例調査報告-3

第12回 文献調査・事例調査報告-4

第13回 文献調査・事例調査報告-5

第14回 建築見学会-2

第15回 まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者: 日本建築学会 編

出版社: 井上書院

出版年: 2009

ISBN: 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者: 日本建築学会編

出版社: 丸善株式会社

出版年: 2005

ISBN: 9784621075098

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 河野 良平

テーマ

卒論のテーマを考える。

授業の到達目標

研究を通して論理的な思考を修得する。

授業の概要

卒論テーマに沿った資料を収集・整理する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 テーマ発表

第3回 テーマ発表

第4回 テーマ発表

第5回 資料調査発表1

第6回 資料調査発表1

第7回 資料調査発表1

第8回 資料調査発表2

第9回 資料調査発表2

第10回 資料調査発表2

第11回 事例分析

第12回 事例分析

第13回 事例分析

第14回 見学

第15回 見学※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 近藤 康子

テーマ

卒業研究(設計・論文)に取り組む。

授業の到達目標

・卒業研究のテーマを決める。・研究の方法を学ぶ。・研究対象を、調査、分析し、新たな知見を得る。

授業の概要

各自、進捗状況を報告する。

準備学習(予習・復習)

卒業研究のテーマを手掛かりに、なるべく多くの本を読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 見学会
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ < * f >

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 織田 直文

テーマ

卒論を仕上げよう

授業の到達目標

卒業の集大成として、自分が決めた卒論テーマについて卒論を仕上げる。

授業の概要

順番に作業成果をゼミで報告し、討論を進める。夏期調査計画や目次案を決定する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 ゼミの進め方、卒論研究作業現況報告、意見交換

第2回 進路研究会

第3回 先行卒論事例の研究

第4回 先行卒論事例の研究

第5回 研究成果発表・討論

第6回 研究成果発表・討論

第7回 研究成果発表・討論

第8回 研究成果発表・討論

第9回 研究成果発表・討論

第10回 研究成果発表・討論

第11回 研究成果発表・討論

第12回 研究成果発表・討論

第13回 研究成果発表・討論

第14回 研究成果発表・討論

第15回 前期のまとめと夏期の活動計画の確認

履修上の注意点

過去の卒論や他の学生の取り組み等をよく参考にしてください。

教科書

ない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

個別に対応する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (40)

参加度 (60)

各自の卒論研究活動成果の内容と発表実績、討論参加状況などから総合的に評価します。欠席・遅刻の場合は必ず事前に連絡してください。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*g>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 文化プロデュース・アーツマネジメント研究を形にしていく	
授業の到達目標 文化プロデュース・アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること卒業研究(論文・制作)の準備と着手をきちんとおこなうこと	
授業の概要 教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。	
準備学習(予習・復習) 卒業研究の作業は授業中ではできるものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。	
内 容 第1回 はじめに 第2回 自分の卒業研究の内容確認 第3回 卒業研究の作法の確認 第4回 卒業制作と卒業研究の違い、共通事項 第5回 卒業研究の企画書発表(1) 第6回 卒業研究の企画書発表(2) 第7回 卒業研究の企画書発表(3) 第8回 卒業研究の企画書発表(4) 第9回 卒業研究のための先行事例と文献の確認 第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認 第11回 卒業研究の概要発表(1) 第12回 卒業研究の概要発表(2) 第13回 卒業研究の概要発表(3) 第14回 卒業研究の概要発表(4) 第15回 まとめ、夏休みの確認	
履修上の注意点 遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 アーツマネジメント学 著者: 小暮宣雄 出版社: 水曜社 出版年: 2013年 ISBN: 9784880653129	
アーツ・マネジメント概論三訂版 著者: 伊藤裕夫ほか 出版社: 水曜社 出版年: 2009年 ISBN:	
アーツマネジメントみち 著者: 小暮宣雄 出版社: 晃洋書房 出版年: 2003年 ISBN:	

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999年

ISBN： 4480085254

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010年

ISBN：

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009年

ISBN：

メディアミックス化する日本

著者： 大塚英志

出版社： イースト・プレス

出版年： 2014年

ISBN： 4781650392

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（60）

参加度（40）

積極的に1週間で研究したことを断片でもいいので発表する姿勢を評価します。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成・論理的な文章を書く方法○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿等

第15回 ゼミ合宿等※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*i>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 金武 創

テーマ

キャリア開発と卒業論文執筆の準備

授業の到達目標

1. 卒業論文のテーマを吟味する2. 専門文献の調査を推進する3. キャリア開発への積極的取り組み

授業の概要

卒論準備とキャリア開発

準備学習(予習・復習)

日経新聞を読むこと

内 容

第1回 キャリア開発1

第2回 キャリア開発2

第3回 卒論テーマの設定1

第4回 卒論テーマの設定2

第5回 卒論テーマの設定3

第6回 卒論テーマの設定4

第7回 文献の探索と引用1

第8回 文献の探索と引用2

第9回 文献の探索と引用3

第10回 文献の探索と引用4

第11回 キャリア開発3

第12回 キャリア開発4

第13回 中間報告への準備1

第14回 中間報告への準備2

第15回 中間報告への準備3※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <*j>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 木下 達文

テーマ

卒業研究を作成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒論進捗報告(序論)
- 第4回 卒論進捗報告(序論)
- 第5回 卒論進捗報告(序論)
- 第6回 卒論進捗報告(序論)
- 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
- 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック・資料の再点検○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。・レジュメの作成方法・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 竹山 清明

テーマ

質の高い卒業制作(研究)の達成をめざす

授業の到達目標

優れた卒業制作(研究)の実現をめざす。制作の場合は、社会的にも価値のある優れた建築計画と美しい空間計画の達成が望ましい。アーキヤドなどを用いた、優れた作品を期待する。

授業の概要

各人の意欲的な制作(研究)作成の取り組みが最も大切である。制作(研究)は取り組んでいる学生の作品であり、質の高いものがつくれるよう、教員は舵取りを行う。

準備学習(予習・復習)

建築とまちづくりに関するいろいろなものに興味を持ち情報を集めておくこと。アーキヤドの習練も行っておくこと。

内 容

- 第1回 第2次エスキース1
- 第2回 第2次エスキース2
- 第3回 第2次エスキース3
- 第4回 中間発表
- 第5回 制作作業1
- 第6回 制作作業2
- 第7回 制作作業3
- 第8回 中間発表
- 第9回 制作作業4
- 第10回 制作作業5
- 第11回 制作作業6
- 第12回 制作作業7
- 第13回 中間発表
- 第14回 口頭試問
- 第15回 オープンジュリー審査

履修上の注意点

意欲を持って取り組むことに尽きる

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

作品の質による評価が基本である。良い作品を作るためには出席回数を多くして教員の指導をきちんと受けることが必須である。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松本 正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(2)

授業の到達目標

4年間の学習の集大成として、完成度の高い卒業研究を仕上げる

授業の概要

1)完成に向けてのスケジュールコントロール2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス3)効果的プレゼンテーションについてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出し出してくれることを期待する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 進捗報告・個別指導-1
- 第3回 進捗報告・個別指導-2
- 第4回 進捗報告・個別指導-3
- 第5回 進捗報告・個別指導-4
- 第6回 進捗報告・個別指導-5
- 第7回 建築見学会-1
- 第8回 卒業研究の仮完成チェック
- 第9回 卒業研究の手直しとレベルアップ-1
- 第10回 卒業研究の手直しとレベルアップ-2
- 第11回 卒業研究の手直しとレベルアップ-3
- 第12回 ゼミ内プレゼンテーション-1
- 第13回 ゼミ内プレゼンテーション-2
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9784621075098

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 河野 良平

テーマ

卒業研究を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究を通して論理的思考を修得する。

授業の概要

集めた資料を分析し、結論を得る。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資料調査発表1
- 第3回 資料調査発表1
- 第4回 資料調査発表1
- 第5回 中間発表
- 第6回 全体構成の検討
- 第7回 全体構成の検討
- 第8回 全体構成の検討
- 第9回 結論と考察
- 第10回 結論と考察
- 第11回 結論と考察
- 第12回 発表練習
- 第13回 発表練習
- 第14回 発表練習
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 近藤 康子

テーマ

卒業研究(論文・設計)を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究(論文・設計)を完成させる。

授業の概要

各自進捗状況を報告する。

準備学習(予習・復習)

卒業研究の発表を視野にいれ、自身の研究内容を他の人に効果的に伝える方法(プレゼンテーション)について、考えること。なるべく多くの本を読むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 見学会
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*f〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 15

履修条件 クラス指定 希望制

担当者 織田 直文

テーマ

卒論を仕上げよう

授業の到達目標

各自が進める卒業研究を完成させ、卒論を仕上げる。

授業の概要

論文もくじを確定し、研究成果を基に執筆を進める。後期には中間報告会があり、その結果を最終執筆に活かす。

準備学習(予習・復習)

卒業のために絶対必要なことですので、早めの作業で仕上げていってください。中間報告会や提出後、最終に「口頭試問」があり、必ず出ないといけません。

内 容

- 第1回 後期のゼミの進め方、夏期間の作業報告と残された課題の確認。
 第2回 進路学習会<その2>
 第3回 卒論発表と討論
 第4回 卒論発表と討論
 第5回 卒論中間報告会
 第6回 卒論中間報告会
 第7回 卒論発表と討論
 第8回 卒論発表と討論
 第9回 卒論発表と討論
 第10回 卒論発表と討論
 第11回 卒論発表と討論
 第12回 卒論発表と討論
 第13回 卒論発表と討論
 第14回 卒論発表と討論
 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミできちんと自分の研究成果を発表してください。集中的に発表、討論を行うことがあり、時間を連続させることがありますので、その都度の指示に従ってください。

教科書

ない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

個別研究に応じ示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (30)

参加度 (50)

試験項目は中間報告と口頭試問の評価です。基本は日頃のゼミへの出席と各自の発表です。卒論は、そのものの内容で評価します。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*g〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小暮 宣雄

テーマ

文化プロデュース・アーツマネジメント研究の完成

授業の到達目標

文化プロデュース・アーツマネジメント研究として卒業研究(論文・制作)の作業を続け完成させること卒業研究(論文・制作)を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習(予習・復習)

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
- 第3回 卒業研究の進捗状況の把握と疑問点の解消
- 第4回 卒業研究中間報告
- 第5回 中間報告についての反省と課題抽出
- 第6回 卒業論文の部分的発表と点検(1)
- 第7回 卒業論文の部分的発表と点検(2)
- 第8回 卒業論文の部分的発表と点検(3)
- 第9回 卒業論文の部分的発表と点検(4)
- 第10回 これからのアーツマネジメントと私たち(総括的に)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
- 第11回 卒業論文の完成と添削(1)
- 第12回 卒業論文の完成と添削(2)
- 第13回 卒業論文の完成と添削(3)
- 第14回 卒業研究を要約し対外的に伝えるために
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック・資料の再点検○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。・レジュメの作成方法・質疑応答の仕方

準備学習(予習・復習)

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ < * i >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 金武 創

テーマ

水準の高い卒業論文を書こう

授業の到達目標

(1)質の高い中間報告を準備すること(2)毎月設定される卒論原稿文字数を必ずクリアすること(3)仲間の論文批評の成果を自らの論文に生かすこと

授業の概要

中間報告および卒業研究に向けてのグループ学習

準備学習(予習・復習)

図書館の積極的利用

内 容

第1回 中間報告準備(1)

第2回 中間報告準備(2)

第3回 中間報告準備(3)

第4回 中間報告会

第5回 中間報告会

第6回 卒業論文に関するグループ学習(1)

第7回 卒業論文に関するグループ学習(2)

第8回 卒業論文に関するグループ学習(3)

第9回 卒業論文に関するグループ学習(4)

第10回 卒業論文に関するグループ学習(5)

第11回 論文執筆の反省

第12回 卒業ゼミ研究プロジェクト(1)

第13回 卒業ゼミ研究プロジェクト(2)

第14回 卒業ゼミ研究プロジェクト(3)

第15回 卒業ゼミ研究プロジェクト(4)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (30%)

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2015 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈*ⅴ〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 木下 達文

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(全体)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (55)

参加度 (45)

2015 Syllabus

科目名 看護学原論 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子・小坂橋 喜久代	

テーマ

実践科学としての看護学の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを支援する支援、社会的観点から支援する看護者役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

授業の到達目標

1.看護学および看護実践の本質的機能について説明できる2.看護学を構成する基礎概念(人間/健康/環境/看護)について説明できる3.多様な看護実践の場と方法について理解し、実践智を深めることの重要性について考察できる4.看護の対象者への理解を深め、健康-健康障害への支援方法について考察できる5.健康上の問題を解決するために看護理論の活用について検討し、理論展開できる6.時代により変動・進化していく看護の役割を理解し、自らの看護への取り組み姿勢を探究できる

授業の概要

事前課題に基づいて講義は進みます。前半は講義が中心となります。講義の中で、事前学習についてのディスカッションを行います。後半はグループ編成をし、話し合いをしながら各自の考えを深めていきます。後半に用いる闘病記は事前に読んでおいてください。

準備学習(予習・復習)

毎回の事前学習をしっかりとすることが授業中の内容をより理解しやすいものとします。

内 容

- 第1回 看護学原論のイントロダクション(小坂橋)社会の中の看護(学):看護の目的・機能を考える*次回事前学習課題(A4用紙1枚):ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読んで看護の役割について私見を述べる
- 第2回 看護の独自性:看護の定義を考える。(小坂橋)*次回事前学習:看護における「人間」の見方について私見を述べる
- 第3回 看護(学)の対象としての「人間」の捉え方(小坂橋)生物・人間・生活者・病気・障害・加齢*次回事前学習課題:健康(に生きていく)の捉え方について、私見を述べる
- 第4回 看護(学)の焦点としての「健康」へのアプローチ(小坂橋)健康の定義・健康観の変遷*次回事前学習課題:ナイチンゲールの「看護覚え書き」を読んで、環境に対する看護師の責任について私見を述べる
- 第5回 健康な生活を支える「環境」(小坂橋)生命活動を保証し、健康生成を促す場としての環境*次回事前学習課題:看護活動の場とさまざまな職種とのチーム連携について、私見を述べる
- 第6回 看護活動の場について(小坂橋)保健医療・福祉システムを必要とする人々への支援について*次回事前学習課題:看護技術が Atrs and Scienceといわれるゆえんについて私見を述べる
- 第7回 看護の目的を具現化するための問題解決プロセスと看護技術について(小坂橋)*次回事前学習課題:闘病記(星野富弘「愛深き淵より」)を通して、看護の展開について考える
- 第8回 看護理論家による理論構築の背景を知り、理論の持つ強みを理解する(GW1)(梶谷)
- 第9回 看護理論家による理論構築の背景を知り、理論の持つ強みを理解する(GW2)(梶谷)
- 第10回 看護理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みを理解する(GW3)(梶谷)
- 第11回 看護理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みを理解する(GW4)(梶谷)
- 第12回 理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする(その1)(梶谷)
- 第13回 理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする(その2)(梶谷)
- 第14回 いくつかの看護理論への理解を深める(その1)(小坂橋)大範囲理論から、中範囲、小範囲理論への発展について
- 第15回 いくつかの看護理論への理解を深める(その2)(小坂橋)看護理論の発展と看護学の未来について

履修上の注意点

次回事前学習課題について 各自のサブテーマをつけて、調べたり、意見を述べてください。疑問に思うことや、検討してみたいことがあったら提案してください。資料を使って調べたことは、資料名を記入してください。最後は、自分の意見をまとめ(コメントすることが大切)て述べてください。

教科書

系等看護学講座 看護学概論 基礎看護学①

著者:

出版社: 医学書院

出版年: 最新年

ISBN:

看護の基本となるもの

著者: ヴァージニア・ヘンダーソン(著)/湯楨ます, 小玉香津子(訳)

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 最新年

ISBN:

看護覚え書き-看護であること 看護でないこと

著者: F.ナイチンゲール(著)／湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子・田村真・小南吉彦(訳)

出版社: 現代社

出版年: 最新年

ISBN:

新版 愛、深き淵より

著者: 星野富弘

出版社: Gakken

出版年: 2000

ISBN:

看護学概論

著者: 松木光子 編集

出版社: ヌーベルヒロカワ

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 災害看護学Ⅰ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行・小野塚 元子・川口 淳・河原 宣子・竹下 夏美・夏目 美樹・野島 敬祐・堀 妙子	

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容別表1:「公衆衛生看護学概論」「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「疫学」「保健医療福祉行政論」別表2:「基礎助産学」「地域母子保健」別表3:「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「在宅看護論」「看護の統合と実践」

授業の概要

災害看護及び災害看護学に関する基礎的な知識と技術を講義と演習を通して学習する。講義はオムニバス形式で実施される。

準備学習(予習・復習)

他の授業科目とも深い関連がある。既習の知識を大いに活用し、さらに今後の学習に活用できるようにすること。また、本授業は、学生自身の防災・減災における意識と行動の変容をも目的にしている。積極的に時事問題に目を向けながら学習を進めるように。

内 容

- 第1回 災害看護とは災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
- 第3回 ライフサイクル各期における災害看護活動①:新生児期から小児期、妊産褥婦
- 第4回 ライフサイクル各期における災害看護活動②:成人期から老年期、健康障害を有する人
- 第5回 災害看護活動における国際協力
- 第6回 救命救急処置技術の基本:新生児期から老年期まで、妊産褥婦を対象として
- 第7回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等):新生児期から老年期まで、妊産褥婦を対象として
- 第8回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等):新生児期から老年期まで、妊産褥婦を対象として

履修上の注意点

全回出席が原則。毎回、真摯な態度で臨むように。

教科書

災害看護学習テキストー概論編ー

著者: 南裕子・山本あい子編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 最新刊

ISBN:

災害看護学習テキストー実践編ー

著者: 南裕子・山本あい子編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

いのちとこころを救う災害看護

著者: 小原真理子監修

出版社: 学研

出版年: 最新刊

ISBN:

演習で学ぶ災害看護

著者: 小原真理子監修

出版社: 南山堂

出版年: 最新刊

ISBN:

災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂2版

著者： 小原真理子・酒井明子監修

出版社： 南山堂

出版年： 最新刊

ISBN:

災害現場でのトリアージと応急処置

著者： 山崎達枝著

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 最新刊

ISBN:

新版 災害看護 第2版—人間の生命と生活を守る

著者： 黒田裕子・酒井明子監修

出版社： メディカ出版

出版年： 最新刊

ISBN:

新体系看護学全書38 看護の統合と実践② 災害看護学

著者： 辺見弘監修

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新刊

ISBN:

災害看護—看護の専門知識を統合して実践につなげる

著者： 酒井明子・菊池志津子編集

出版社： 南江堂

出版年： 最新刊

ISBN:

実践！災害看護—看護者はどう対応するのか

著者： 野中廣志著

出版社： 照林社

出版年： 最新刊

ISBN:

ナーシング・グラフィカEX 災害看護

著者： 黒田裕子・酒井明子編集

出版社： メディカ出版

出版年： 最新刊

ISBN:

系統看護学講座統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③

著者： 日本赤十字社事業局看護部編集

出版社： 医学書院

出版年： 最新刊

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・小野塚 元子・河原 宣子・神崎 光子・竹下 夏美・西村 美八・堀 妙子

テーマ

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

授業の到達目標

1. 健康の概念を理解する2. ヘルスプロモーションの概念を理解する3. 人の誕生からライフサイクル各期におけるヘルスプロモーション活動を理解する4. 現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解する5. ヘルスプロモーションと政策について理解する

授業の概要

ライフサイクル論と対応させ、オムニバス方式で授業を進行する。はじめに、ヘルスプロモーションの総論を学び、続いて、ライフサイクル各期における具体的活動および政策について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

予習: ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、授業に望むこと復習: 各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 健康の概念
- 第2回 ヘルスプロモーションの概念
- 第3回 地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応
- 第4回 人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術
- 第5回 健康教育の定義・歴史と変遷
- 第6回 健康教育の理論とモデル
- 第7回 現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策
- 第8回 健康教育活動の展開の実施例 (地域)
- 第9回 健康教育活動の展開の実施例 (母性)
- 第10回 健康教育活動の展開の実施例 (小児)
- 第11回 健康教育活動の展開の実施例 (成人)
- 第12回 健康教育活動の展開の実施例 (精神)
- 第13回 健康教育活動の展開の実施例 (老年)
- 第14回 健康教育活動の展開の実施例 (成人)
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。

教科書

ライフサイクル論で使用するテキストを適宜用いる。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

※第1～6回は「最新保健学講座<別巻1>健康教育論」宮坂忠夫・川田智恵子・吉田亨編著(メヂカルフレンド社)を使用するので持参すること。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヘルスプロモーション

著者: 大西和子・櫻井しのぶ編者

出版社: ニューベルヒロカワ

出版年:

ISBN:

成績評価

a70101a310

試験 (50%)
授業中課題 (40%)
参加度 (10%)

小テスト (0%)
授業中発表等 (0%)

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習〈a〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義
 第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成
 第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成
 第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成
 第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成
 第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備
 第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価
 第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価
 第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備
 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 西村 美八	
テーマ	ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。
授業の到達目標	1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。
授業の概要	健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。
準備学習(予習・復習)	予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること
内 容	<p>第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義</p> <p>第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成</p> <p>第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成</p> <p>第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成</p> <p>第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成</p> <p>第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備</p> <p>第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価</p> <p>第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価</p> <p>第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備</p> <p>第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①</p> <p>第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。
教科書	<p>ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
参考書	<p>参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験 (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%)</p> <p>参加度 (60%)</p> <p>参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む</p>

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	
テーマ	ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。
授業の到達目標	1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。
授業の概要	健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。
準備学習(予習・復習)	予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること
内 容	<p>第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義</p> <p>第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成</p> <p>第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成</p> <p>第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成</p> <p>第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成</p> <p>第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備</p> <p>第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価</p> <p>第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価</p> <p>第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備</p> <p>第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①</p> <p>第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。
教科書	<p>ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
参考書	<p>参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験 (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%)</p> <p>参加度 (60%)</p> <p>参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む</p>

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <d>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義
 第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成
 第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成
 第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成
 第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成
 第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備
 第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価
 第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価
 第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備
 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <e>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子	
テーマ	ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。
授業の到達目標	1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。
授業の概要	健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。
準備学習(予習・復習)	予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること
内 容	<p>第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義</p> <p>第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成</p> <p>第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成</p> <p>第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成</p> <p>第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成</p> <p>第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備</p> <p>第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価</p> <p>第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価</p> <p>第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備</p> <p>第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①</p> <p>第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。
教科書	<p>ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
参考書	<p>参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験 (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%)</p> <p>参加度 (60%)</p> <p>参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む</p>

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <f>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義
 第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成
 第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成
 第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成
 第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成
 第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備
 第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価
 第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価
 第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備
 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <g>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義
 第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成
 第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成
 第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成
 第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成
 第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備
 第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価
 第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価
 第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備
 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習〈h〉

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義
 第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等
 第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成
 第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成
 第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成
 第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成
 第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成
 第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備
 第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価
 第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価
 第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備
 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <i>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	
テーマ	ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。
授業の到達目標	1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。
授業の概要	健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。
準備学習(予習・復習)	予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること
内 容	<p>第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方、健康教育に関する講義</p> <p>第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解、テーマ、対象の決定等</p> <p>第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成</p> <p>第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成</p> <p>第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成</p> <p>第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成</p> <p>第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成</p> <p>第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備</p> <p>第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価</p> <p>第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価</p> <p>第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備</p> <p>第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①</p> <p>第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。
教科書	<p>ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
参考書	<p>参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>
成績評価	<p>試験 (0%) 小テスト (0%)</p> <p>授業中課題 (0%) 授業中発表等 (40%)</p> <p>参加度 (60%)</p> <p>参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む</p>

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <j>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1. 健康教育の理論を理解する。2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法(健康教育)を企画・実施し、評価する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと復習:各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること

内 容

第3回 グループワーク②:健康に関するニーズの理解, テーマ, 対象の決定等

第4回 グループワーク③:健康教育の企画書作成

第5回 グループワーク④:健康教育の企画書作成

第6回 グループワーク⑤:健康教育の指導案作成

第7回 グループワーク⑥:健康教育の指導案作成

第8回 グループワーク⑦:健康教育のシナリオ及び教材作成

第9回 グループワーク⑧:健康教育のシナリオ及び教材作成

第10回 グループワーク⑨:健康教育の活動準備

第11回 グループワーク⑩:健康教育の実施および評価

第12回 グループワーク⑪:健康教育の実施および評価

第13回 グループワーク⑫:健康教育の評価および全体発表会の準備

第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①

第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②及び総括

第1回 全体オリエンテーション:演習の進め方, 健康教育に関する講義

第2回 各クラスのオリエンテーション(a~jの10クラス)グループワーク①:健康に関するニーズの理解, テーマ, 対象の決定等

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないようにすること。グループワークが中心となるため、話し合い等には積極的に参加すること。

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (60%)

参加度にはグループワークへの参加及び貢献度を含む

2015 Syllabus

科目名 プライマリケア論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・小野塚 元子・河原 宣子・竹下 夏美・富永 真己・西村 美八・堀 妙子

テーマ

プライマリケアの基本概念である、人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

授業の到達目標

1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容別表1:「公衆衛生看護学概論」「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「疫学」「保健統計学」「保健医療福祉行政論」別表2:「基礎助産学」別表3:「人体の構造と機能」「疫病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

授業の概要

本授業はオムニバス形式で実施する。

準備学習(予習・復習)

1.教科書以外に、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。2.1回生前期までに使用した教科書はすべて本授業に関連するものである。各自で学習を深めること。3.1回生前期より作成している自己学習ノートを必ず継続すること。

内 容

- 第1回 プライマリケアの理念ープライマリケアとは、プライマリヘルスケアとはー人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組みー社会・文化と健康
- 第2回 地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入ーコミュニティ・アズ・パートナーモデルー健康に影響する環境と社会的要因の理解ー山科区の地区視診課題提示(プライマリケア実習Ⅰ関連)
- 第3回 プライマリヘルスケアと看護職の役割ー国際看護の視点からープライマリヘルスケアー社会・文化と健康
- 第4回 健医療福祉における看護機能ー保健医療福祉制度と法律(概論)、看護の機能、組織論、保健医療福祉における協働と連携地域ケアの構築と看護機能①ー地域ケアに関わる医療政策ー地域ケアの体制づくりー地域組織活動ーケアネットワークづくりー支援システムの構築
- 第5回 地域ケアの構築と看護機能②地域組織活動とその育成の実際ー健康課題に対する地域の組織的取り組みー集団の形成・発達ー自立・自律支援ー個人・グループ・機関との調整
- 第6回 在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際ー個人と家族の生活アセスメントと看護援助
- 第7回 産業看護活動①
- 第8回 産業看護活動②
- 第9回 精神疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動ー個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第11回 地域保健と学校保健①
- 第12回 地域保健と学校保健②
- 第13回 身体的疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動ー医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
- 第14回 高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第15回 試験
- 第16回 まとめー2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けてー地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義ー学校や職場などの健康課題を把握する意義

履修上の注意点

教科書

最新保健学講座7 保健医療福祉行政論

著者: 野村陽子編集

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題（10%）

授業中発表等（）

参加度（）

再試験は実施しない。授業中課題は、主として山科区の地区視診課題で評価する。課題は1冊のノートにまとめていくこと。詳細は授業中に提示する。

2015 Syllabus

科目名 ライフサイクル論(看)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・遠藤 俊子・河原 宣子・沼本 教子・堀 妙子

テーマ

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1. 人のライフサイクルと発達について説明できる。2. 人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。3. 人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。4. 人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。5. 妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。6. 人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。7. 自己分析を行い、自己理解できる。

授業の概要

「橘薫の一生」というオリジナル教材を用い、主人公である橘薫の人生を題材とし、それぞれの発達段階における特徴を、様々な視点から学ぶ。

準備学習(予習・復習)

授業のオリエンテーションで詳細は説明するが、「橘薫の一生」事前に読み、その中に書かれているキーワードを中心に自己学習を進める事

内 容

- 第1回 ライフサイクル論概説(1)
- 第2回 ライフサイクル論概説(2)
- 第3回 ライフサイクル論概説(3)
- 第4回 青年期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第5回 青年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第6回 青年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第7回 青年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第8回 青年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第9回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第10回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第11回 成人中期の成長・発達課題と健康課題(1) 小テスト(1)
- 第12回 成人中期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第13回 小児期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第14回 小児期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第15回 小児期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第16回 小児期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第17回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第18回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第19回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第20回 小児期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第21回 小児期の成長・発達課題と健康課題(6) 小テスト(2)
- 第22回 小児期の成長・発達課題と健康課題(7)
- 第23回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第24回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第25回 老年期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第26回 老年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第27回 老年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第28回 老年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第29回 老年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第30回 ライフサイクル論 まとめなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

ライフサイクル論概説の授業の中で授業の進め方、学習方法について説明を行うので、その指示に従って、学習を進めていくこと。

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論

著者: 小松浩子他

出版社：医学書院
出版年：最新刊 ISBN：
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論
著者：奈良間美保他
出版社：医学書院
出版年：最新刊 ISBN：
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]
著者：武井麻子他
出版社：医学書院
出版年：最新刊 ISBN：
新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護
著者：新藤幸恵他
出版社：メヂカルフレンド社
出版年：最新刊 ISBN：
新体系看護学全書 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護
著者：中野仁雄他
出版社：メヂカルフレンド社
出版年：最新刊 ISBN：
最新保健学講座別巻1 健康教育論
著者：宮坂忠夫他編
出版社：メヂカルフレンド社
出版年：最新刊 ISBN：
老年看護学 概論と看護の実践
著者：奥野茂代他
出版社：ヌーベルヒロカワ
出版年：最新刊 ISBN：
成人看護学 ヘルスプロモーション
著者：大西和子他編
出版社：ヌーベルヒロカワ
出版年：最新刊 ISBN：
公衆衛生マニュアル
著者：柳川洋他編
出版社：南山堂
出版年：最新刊 ISBN：

参考書

成績評価

試験（50%）	小テスト（50%）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

試験は31回目の授業で実施します。

2015 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論実習**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・堀 妙子

テーマ

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

授業の到達目標

1. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。2. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。3. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。4. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。5. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

授業の概要

臨地実習及び学内演習・まとめを合わせて1週間の実習を行う。実習内容は、老人クラブの活動参加、保育園での実習、京あんしんこども館での見学実習などを予定している。詳細は実習要項をもとに、7月末～8月初め頃(予定)にオリエンテーションにて説明する。

準備学習(予習・復習)

前期までのライフサイクル論の授業内容の復習を必ず行ってから参加すること。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション
- 第2回 学内演習① 子どもの日常生活の世話
- 第3回 学内演習② 高齢者疑似体験
- 第4回 実習① 高齢者の活動参加
- 第5回 実習② 保育園実習
- 第6回 実習③ 京あんしんこども館実習
- 第7回 ライフサイクル論実習まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

実習態度(学内でのグループワーク等も含む)や提出物等で評価を行う

2015 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント I**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	植村 由美子・西野 武志・林正 健二	
テーマ	解剖学、生理学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。	
授業の到達目標	1. 人体の構造を系統的・立体的に理解できる。2. 人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。3. 看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。	
授業の概要	解剖学、生理学、微生物学を中心とした基礎医学的知識を学ぶ。 フィジカルアセスメント演習 I・II と連動して授業を進める。	
準備学習(予習・復習)	VISUALEARN 等も活用し、積極的に学修をすすめること。	

内 容

- 第1回 学修方法、看護の土台となる解剖生理学、解剖学用語
- 第2回 体を構成する仕組み:細胞
- 第3回 体を構成する仕組み:組織
- 第4回 物質を運搬する仕組み(1):血液
- 第5回 物質を運搬する仕組み(2):凝固、線溶
- 第6回 体の隅々まで血液を送る仕組み(1):心臓の構造
- 第7回 体の隅々まで血液を送る仕組み(2):心臓の機能
- 第8回 体の隅々まで血液を送る仕組み(3):血管、リンパ系
- 第9回 酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する仕組み:(1)呼吸器系の構造、(2)呼吸の調節
- 第10回 尿を作り体液の恒常性を保つ仕組み(1):腎臓と体液の恒常性の維持
- 第11回 尿を作り体液の恒常性を保つ仕組み(2):下部尿路機能(蓄尿、排尿)
- 第12回 体や臓器を守る仕組み:皮膚と膜
- 第13回 体を支える仕組み(1):骨
- 第14回 体を動かす仕組み(2):四肢の骨と関節
- 第15回 体を動かす仕組み(1):筋肉
- 第16回 体を動かす仕組み(2):骨格筋
- 第17回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(1):神経
- 第18回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(2):中枢神経
- 第19回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(3):末梢神経
- 第20回 外部から情報を取り入れる仕組み(1):感覚
- 第21回 外部から情報を取り入れる仕組み(2):視覚
- 第22回 外部から情報を取り入れる仕組み(3):聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚
- 第23回 病原微生物学概論、細菌学(1)
- 第24回 細菌学(2)
- 第25回 細菌学(3)
- 第26回 ウイルス学(1)
- 第27回 ウイルス学(2)
- 第28回 真菌学、原虫学
- 第29回 感染に対する防御機構
- 第30回 感染症の診断と治療

履修上の注意点

教科書

ナーシンググラフィカ(1) 人体の構造と機能 解剖生理学, 第3版

著者: 林正健二編

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

ビジュアル微生物学 第2版

著者: 小田紘

出版社: ニューヴェルヒロカワ

出版年: 2012

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャング生理学原書第24版

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

成績評価の配分は、解剖学・生理学75%、微生物学25%とする。

2015 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメントⅡ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	天野 博夫・植村 由美子・川上 ゆかり・林正 健二	

テーマ

看護に必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

授業の到達目標

1. 看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2. 薬物療法の種類と効果について説明できる。3. 組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4. 看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5. 主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

授業の概要

解剖学、生理学、栄養学、薬理学、病理学を中心とした基礎医学的知識を学ぶ。フィジカルアセスメントⅠ、フィジカルアセスメント演習Ⅰ・Ⅱと連動して授業を進める。

準備学習(予習・復習)

VISUALEARN 等も活用し、積極的に学修をすすめること。

内 容

- 第1回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1): 咀嚼、嚥下
- 第2回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2): 消化
- 第3回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3): 吸収
- 第4回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4): 排泄
- 第5回 栄養と代謝(1): 臨床栄養学の基礎知識
- 第6回 栄養と代謝(2): 運動と栄養
- 第7回 栄養と代謝(3): 人生各期における栄養
- 第8回 栄養と代謝(4): 検査と回復促進のための食事
- 第9回 栄養と代謝(5): 疾患治療のための食事
- 第10回 栄養と代謝(6): 食事指導
- 第11回 子孫を残す仕組み(1): 生殖器(女性)
- 第12回 子孫を残す仕組み(2): 生殖器(男性)
- 第13回 体内の環境を整える仕組み(1): 内分泌とホルモン
- 第14回 体内の環境を整える仕組み(2): 内分泌器官
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み: 免疫系
- 第16回 薬による病気の治療 ～薬物療法と看護
- 第17回 薬が作用するしくみ(薬力学)
- 第18回 薬の体内の挙動(薬物動態学1)
- 第19回 薬の体内の挙動(薬物動態学2)
- 第20回 薬物相互作用
- 第21回 薬効の個人差に影響する因子
- 第22回 薬物使用の有益性と危険性
- 第23回 医薬品の管理
- 第24回 生体機能の変調 ～病理学の基礎: 病理学とは、病因論
- 第25回 生体機能の変調 ～病理学の基礎: 老化と死
- 第26回 先天異常と遺伝子異常
- 第27回 代謝障害
- 第28回 循環障害
- 第29回 炎症と修復
- 第30回 腫瘍

履修上の注意点

教科書

ナーシンググラフィカ(1) 人体の構造と機能 解剖生理学 第3版

著者: 林正健二編

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

ナーシンググラフィカ(4) 臨床栄養学 第4版

著者: 關戸啓子編

出版社: メディカ出版

出版年: 2015

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第13版

著者: 吉岡充弘編

出版社: 医学書院

出版年: 2014

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版

著者: 大橋健一他編

出版社: 医学書院

出版年: 2015

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書第24版

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

成績評価の配分は、解剖学、生理学、栄養学50%、薬理学25%、病理学25%とする。

2015 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習 I**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	植村 由美子・奥野 信行・梶谷 佳子・中橋 苗代・野島 敬祐・堀 妙子	
テーマ	フィジカルアセスメント I・II で学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。	
授業の到達目標	1. 診察技法を活用し、身体についての情報収集ができる。2. 得られた情報について、基準値や望ましい状態と比較しながら解釈することができる。3. 身体の正常な状態について理解できる。4. 身体の代表的な状態について理解できる。5. 対象者と援助的なコミュニケーションを展開できる。6. 対象者の気持ちやプライバシーに配慮した態度がとれる。	
授業の概要	本授業は、講義を受け、その後演習を実施するという形で進みます。演習は、ユニフォームを着用し実習室で実施します。	
準備学習(予習・復習)	・フィジカルアセスメント I で学んだ知識を活用できるよう、復習して演習に臨んでください。・VISUALEARN、ナーシング・スキル 日本版 等の視聴覚教材を積極的に利用し、学修を深めてください。・技術の修得は演習内では困難です。主体的に練習を行って下さい。	
内 容	第1回 フィジカルアセスメントとは(講義)、演習における諸注意 第2回 ボディメカニクス、手洗い、ベッドメイキング(講義+演習) 第3回 バイタルサイン技術(講義+演習) 第4回 呼吸器系のアセスメント(講義+演習) 第5回 循環器系のアセスメント(講義+演習) 第6回 小児のフィジカルアセスメント(講義+演習) 第7回 血圧測定について(まとめ) 第8回 試験	
履修上の注意点		
教科書	<p>根拠がわかる基礎看護技術 著者： 角濱春美、梶谷佳子 出版社：メヂカルフレンド社 出版年：2015 ISBN: フィジカルアセスメントガイドブック第2版 著者： 山内豊明 出版社：医学書院 出版年：2011 ISBN: </p>	
参考書	<p>ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント 著者： 松尾ミヨ子他編 出版社：メディカ出版 出版年：2013 ISBN: </p>	
成績評価	<p>試験 (70%) 小テスト () 授業中課題 (30%) 授業中発表等 () 参加度 () 試験70%(実技試験30%、筆記試験40%)とする。</p>	

2015 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・中橋 苗代・野島 敬祐・松本 賢哉	
テーマ	フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。	
授業の到達目標	1. 診察技法を活用し、身体についての情報収集ができる。2. 得られた情報について、基準値や望ましい状態と比較しながら解釈することができる。3. 身体の正常な状態について理解できる。4. 身体の代表的な異常について理解できる。5. 対象者と援助的なコミュニケーションを展開できる6. 対象者の気持ちやプライバシーに配慮した態度がとれる。	
授業の概要	本授業は、まず講義を受け、その後演習を実施するという形で進みます。演習は、ユニフォームを着用し実習室で行います。	
準備学習(予習・復習)	・フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ、フィジカルアセスメント演習Ⅰで学んだ知識を活用できるように復習して演習に臨んでください。 ・VISUALEARN、ナーシング・スキル日本版 等の視聴覚教材を積極的に利用し、知識を深めてください。・技術の修得は演習	
内 容	第1回 脳神経系のアセスメント(講義+演習) 第2回 感覚器系のアセスメント(講義+演習) 第3回 消化器系のアセスメント(講義+演習) 第4回 栄養のアセスメント(講義+演習) 第5回 排泄のアセスメント(講義+演習) 第6回 筋骨格系のアセスメント(講義+演習) 第7回 お助けたいへのフィジカルアセスメント(演習) 第8回 試験	
履修上の注意点		
教科書	根拠がわかる基礎看護技術 著者： 角濱春美、梶谷佳子 出版社：メヂカルフレンド社 出版年：2015 ISBN: フィジカルアセスメントガイドブック第2版 著者： 山内豊明 出版社：医学書院 出版年：2011 ISBN:	
参考書	ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント 著者： 松尾ミヨ子他編 出版社：メディカ出版 出版年：2013 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 定期試験60%、実技試験授業中課題40%(演習記録30%、お助けたいの課題10%)とする。	

2015 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(看)

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	竹下 夏美	
テーマ	多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。	
授業の到達目標	1. 文化・異文化とコミュニケーションの概念を総体的に理解し、看護(助産・公衆衛生看護を含む、以下、看護)における異文化理解の意義と必要性を認識する。2. 看護の対象となる人々の生活・ライフサイクルにおける(文化)現象を多様な角度から理解する。3. 文化の違いに由来する看護アセスメントやコミュニケーション技術を学ぶ。4. 1～4について学びながら、多文化共生社会における看護職者の役割について考える。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 授業ガイダンス、文化・異文化・コミュニケーション・異文化コミュニケーションの定義 第2回 看護における対象理解と異文化コミュニケーションを学ぶことの意義 第3回 多文化社会における異文化への対応と適応モデル 第4回 人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象と異文化コミュニケーション 第5回 文化の違いに由来する看護アセスメントと異文化コミュニケーション 第6回 在日外国人医療・看護と異文化コミュニケーション 第7回 「外国人看護師として働くこと」あるいは「外国人看護師とともに働くこと」と異文化コミュニケーション 第8回 まとめ、多文化共生社会における看護職者の役割と異文化コミュニケーション	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 (70) 小テスト () 授業中課題 (15) 授業中発表等 () 参加度 (15) 筆記試験、リアクションペーパー、授業中課題レポート等で評価します。参考図書等は、授業中に随時、紹介します。	

2015 Syllabus

科目名 家族看護学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 小野塚 元子・河原 宣子・堀 妙子・松本 賢哉	

テーマ

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

授業の到達目標

1.家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを考える2.家族理解のための諸理論を知る3.家族看護に関する代表的な諸理論を知る4.ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解する5.ライフサイクル各期における家族への看護の役割を理解する指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容別表1:「公衆衛生看護学概論」「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」別表2:「基礎助産学」「地域母子保健」別表3:「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「在宅看護論」「看護の統合と実践」

授業の概要

本授業は、オムニバス形式で実施する。

準備学習(予習・復習)

「家族」をテーマとした書籍・文献の講読や時事問題にも興味・関心を向けてほしい。本授業は、他の授業科目と深く関連している。既習の知識を大いに活用し、今後の学習にも活かしてほしい。

内 容

- 第1回 家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象
- 第2回 家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程
- 第3回 ライフサイクル各期における家族看護(家族形成期の家族への援助)
- 第4回 ライフサイクル各期における家族看護(病児を持つ家族への援助)
- 第5回 ライフサイクル各期における家族看護(慢性的健康課題を有する療養者を抱える家族への援助)
- 第6回 ライフサイクル各期における家族看護(精神障害者を抱える家族への援助)
- 第7回 ライフサイクル各期における家族看護(在宅で高齢者を介護する家族への援助)
- 第8回 家族理解のための諸理論、まとめ

履修上の注意点

全回出席が原則。

教科書

指定なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜提示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 情報科学 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報科学 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

a70101b410

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報科学 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報科学 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

a70101b412

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。また、看護における保健統計学についても学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報科学Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 保健統計について・保健統計の概要を確認・様々な保健統計統計調査(人口/保健/指定/その他)・統計調査の検索演習
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報科学ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 保健統計分析の手法:統計処理の基礎について学び、体験する・「数値分析」のおさらい・母集団と基本統計量/度数分布とヒストグラム/ピボット集計など
- 第8回 統計分析演習:保健統計学の基礎を理解する(前回の復習)
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 論理的思考

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者 梅本 裕		
テーマ	看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける。	
授業の到達目標	看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。(1)思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。(2)作文と論文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。	
授業の概要	前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書(電子辞書でよい)を持参すること。	
準備学習(予習・復習)	日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう	
内 容	<p>第1回 400字で論評文を書く(その1)</p> <p>第2回 400字で論評文を書く(その2)</p> <p>第3回 思考単位としての文</p> <p>第4回 文章書き換えの練習(その1)</p> <p>第5回 文章書き換えの練習(その2)</p> <p>第6回 段落のはたらき・つくり方</p> <p>第7回 800字で論評文を書く(その1)</p> <p>第8回 800字で論評文を書く(その2)</p> <p>第9回 語句の選び方と使い方(その1)</p> <p>第10回 語句の選び方と使い方(その1)</p> <p>第11回 演習:ブックレビューを書く</p> <p>第12回 演習:案内文を書く</p> <p>第13回 ディベートの立論を書く(その1)</p> <p>第14回 ディベートの立論を書く(その2)</p> <p>第15回 アカデミックスキルとしての論理的文章</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>新版論理的思考</p> <p>著者: 宇佐美寛</p> <p>出版社: メディカルフレンド社</p> <p>出版年: 1989 ISBN:</p>	
参考書	<p>論理トレーニング101題</p> <p>著者: 野矢茂樹</p> <p>出版社: 産業図書</p> <p>出版年: 2001 ISBN:</p> <p>レポート・論文の書き方入門 第3版</p> <p>著者: 河野哲也</p> <p>出版社: 慶應義塾大学出版会</p> <p>出版年: 2002 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト (60%)</p> <p>授業中課題 (40%) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 **統計学基礎論**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

保健医療に関わるデータを解釈する際に必要となる統計学の基礎的知識を身につける。

授業の到達目標

集団における健康現象を理解するための、統計学の主要な概念、分析方法、保健統計データの処理について学習する。まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

授業の概要

毎回の授業では、統計学の分析方法について理解し、データを用いた計算を通じて知識の定着を図る。

準備学習(予習・復習)

授業で扱った演習問題の復習をおこなってください。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス:保健医療における統計学
- 第2回 調査方法とデータの種類:定性調査と定量調査、質的データと量的データ
- 第3回 基本統計量:代表値
- 第4回 基本統計量:ちらばり
- 第5回 度数分布表とヒストグラム
- 第6回 二項分布
- 第7回 正規分布
- 第8回 前半のまとめ
- 第9回 散布図と相関分析
- 第10回 単回帰分析
- 第11回 因果関係と相関関係
- 第12回 量的変量の仮説検定
- 第13回 質的変量の仮説検定
- 第14回 様々な図表化
- 第15回 後半のまとめ

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。受講者数によっては座席指定をおこなう。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*A>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 梶谷 佳子・野島 敬祐	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*B>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 植村 由美子 梶谷 佳子	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*C>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 植村 由美子・奥野 信行	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A～Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F～Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*D>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 奥野 信行・神崎 光子	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A～Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F～Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*E>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小野塚 元子・神崎 光子	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*F>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小野塚 元子・工藤 里香	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*G>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 工藤 里香・松本 賢哉	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*H>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 西村 美八・松本 賢哉	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*I>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 常田 裕子・西村 美八	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN:	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <*J>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 常田 裕子・野島 敬祐	
テーマ 大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ	
授業の到達目標 1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ	
授業の概要 大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学びます。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容です。資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループの中で発表し、意見交換を行います。	
準備学習(予習・復習) 事前準備をして臨みます。分からないことはそのままにせず、担当教員に確認しましょう。インターネット情報だけに頼らずに、積極的に図書館に足を運び、図書や雑誌なども大いに参考にしてください。自分自身が得た情報について情報源を明示しておいてください。	
内 容 第1回 全体オリエンテーショングループでの前半演習内容のオリエンテーション 第2回 演習(1)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)A~Eクラス 第3回 演習(2)・グループディスカッション、文献講読、発表等 図書館オリエンテーション(図書館スタッフ)F~Jクラス 第4回 演習(3)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 演習(6)・グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 全体講義:レポートの書き方、情報リテラシー 第9回 演習(7)・グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 まとめ	
履修上の注意点 クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。	
教科書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*A>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 10

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 常田 裕子・西村 美八

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4年生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈*B〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 10

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 常田 裕子・野島 敬祐

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4年生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*C>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 10

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 梶谷 佳子・野島 敬祐

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*D>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 植村 由美子 梶谷 佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4年生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*E>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 植村 由美子・奥野 信行

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*F>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 奥野 信行・神崎 光子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*G>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者	小野塚 元子・神崎 光子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける (1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける (1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ (2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ
- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*H>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小野塚 元子・工藤 里香	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護) <*I>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 工藤 里香・松本 賢哉	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

準備学習(予習・復習)

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

内 容

- 第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷)
- 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同)
- 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
- 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む)
- 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
- 第15回 1年のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: Kinpodo

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈*J〉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 西村 美八・松本 賢哉	
テーマ	大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー
授業の到達目標	1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立2. 知的好奇心をもつ3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる
授業の概要	前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。
準備学習(予習・復習)	自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。
内 容	第1回 全体講義:ポートフォリオについて(梶谷) 第2回 演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等(前半演習内容のオリエンテーションを含む) 第3回 演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等 第4回 演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等 第5回 演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等 第6回 演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等 第7回 全体講義 論文発表会に向けて(梶谷30分) グループディスカッション、文献講読、発表等 第8回 4年生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加(1・2回生合同) 第9回 演習(7)看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換 第10回 演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等(後半演習内容のオリエンテーションを含む) 第11回 演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等 第12回 演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等 第13回 演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等 第14回 演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等 第15回 1年のまとめ
履修上の注意点	個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。
教科書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: Kinpodo 出版年: 2014 ISBN:
参考書	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 国際看護学 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子・近藤 松子・竹下 夏美・常田 裕子	
テーマ 国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える	
授業の到達目標 1. 国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する2. 医療(主として看護)における国際協力の実際を知る3. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中提示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。	
内 容	
第1回 授業ガイダンス、国際看護(保健)・グローバル看護とは何か (竹下)(9/24)	
第2回 日本の看護職による国際協力活動の歴史と変遷、異文化理解と国際看護活動(竹下)(10/1)	
第3回 国際協力における看護の役割、国際協力機関と協力の仕組み(竹下)(10/8)	
第4回 社会制度と国際看護(竹下)(10/15)	
第5回 国際看護活動の展開プロセス(竹下)(10/22)	
第6回 国際協力の実際① ジェンダー、リプロダクティブヘルス(竹下)(1)(10/29)	
第7回 国際協力の実際② ジェンダー、リプロダクティブヘルス(2)(11/5)(常田)	
第8回 国際協力の実際② 国際看護と民俗医療システム(各国の事例を用いながら)(11/12)	
第9回 国際協力の実際③ 在日外国人の医療と看護(多文化共生センター 高嶋先生)(竹下)(11/19)	
第10回 国際協力の実際④ アフリカの保健医療・妖術(竹下)(11/26)	
第11回 国際協力の実際⑤ 日本の看護職による国際協力の実際・赤十字の歩みと活動:赤十字の原則、国際人道法(1) (京都第一赤十字病院 近藤先生)(竹下)(12/3)	
第12回 国際協力の実際⑥ 日本の看護職による国際協力の実際・赤十字の歩みと活動:赤十字の原則、国際人道法(2) (京都第一赤十字病院 近藤先生)(竹下)(12/10)	
第13回 国際協力の実際⑦ 社会的・文化的背景の異なる看護職との協働(竹下)(12/17)	
第14回 国際協力の実際⑧ 国際看護と看護教育(河原)(1/7)	
第15回 多文化共生社会における看護について考える(竹下)(まとめ)(1/14)	
第16回 試験日(竹下)(1/21)	

履修上の注意点

教科書

検討中

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国際看護学

著者: 南裕子監修

出版社: 中山書店

出版年: 2013

ISBN:

国際看護学

著者: 田村やよひ編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2013

ISBN:

国際看護学入門

著者： 国際看護研究会編

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験（80）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（）

参加度（10）

筆記試験、リアクションペーパー、授業中課題等で評価を行います。

2015 Syllabus

科目名 実践看護学 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・小坂橋 喜久代・中橋 苗代・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉
テーマ	既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、多様な看護の場における看護の対象とその家族に対して、健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ
授業の到達目標	1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を理解できる。2. 看護における安全・安楽の重要性について理解できる。3. 援助的な関係を形成するためのコミュニケーションについて理解できる。4. 根拠に基づいた援助を提供するための看護過程の意義と方法を理解できる。5. 問題解決思考を活用し看護計画を立案できる。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	

内 容

- 第1回 ライフサイクル各期の特徴を踏まえた人間の基本的ニードと日常生活援助
- 第2回 看護技術の要素と方法:安全性・経済性、看護技術の修得と看護過程
- 第3回 活動と休息の援助①
- 第4回 対人関係プロセスとコミュニケーション①
- 第5回 対人関係プロセスとコミュニケーション②
- 第6回 対人関係プロセスとコミュニケーション③
- 第7回 看護過程の要素① 問題解決技法
- 第8回 看護過程の要素② アセスメント:情報収集
- 第9回 看護過程の要素③ アセスメント:情報の分析・統合
- 第10回 看護過程の要素④ 関連図、健康課題の抽出(看護診断)
- 第11回 看護過程の要素⑤ 計画
- 第12回 看護過程の要素⑥ 評価と記録
- 第13回 生活環境の調整
- 第14回 移動の援助
- 第15回 活動と休息の援助②
- 第16回 中間まとめ
- 第17回 清潔の援助①
- 第18回 排泄の援助
- 第19回 衣生活の援助
- 第20回 食事の援助
- 第21回 清潔の援助②
- 第22回 小児・老年の移動の援助
- 第23回 小児の食事・排泄の援助
- 第24回 老年の排泄の援助
- 第25回 看護過程の実践① アセスメント:情報収集
- 第26回 看護過程の実践② アセスメント:情報の分析
- 第27回 看護過程の実践③ アセスメント:情報の統合
- 第28回 看護過程の実践④ 関連図、健康課題の抽出(看護診断)
- 第29回 看護過程の実践⑤ 計画・目標
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

看護過程がよくわかる本

著者: 小田正枝他

出版社: 照林社

出版年: 2002

ISBN:

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 梶谷佳子他

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2015

ISBN:

参考書

看護診断のアセスメント力をつける-臨床判断力をみがく看護過程-

著者： 岡崎美智子他

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2013

ISBN:

実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド

著者： 任和子他

出版社： 照林社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験（60%）

小テスト（ ）

授業中課題（40%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2015 Syllabus

科目名 実践看護学演習 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・中橋 苗代・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I と対応しながら、多様な看護の場における看護の対象とその家族に対して、発達段階や人間の基本的ニーズに応じた看護技術とその適応方法を学ぶ。

授業の到達目標

1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を修得する。2. 安全・安楽、対象者のプライバシーを配慮した実践力を修得する。3. 対象者の意志を尊重し、基本的ニーズに応じた実践力を修得する。4. 対象者と援助的な関係を形成するコミュニケーション力を養う。5. 実践した看護を評価し、記録する方法を修得する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 環境について、手洗い、ベッドメイキング①
- 第2回 環境について、手洗い、ベッドメイキング②
- 第3回 移乗と移送①
- 第4回 移乗と移送②
- 第5回 体位変換・ポジショニング①
- 第6回 体位変換・ポジショニング②
- 第7回 排泄・陰部洗浄①
- 第8回 排泄・陰部洗浄②
- 第9回 シーツ交換・寝衣交換①
- 第10回 シーツ交換・寝衣交換②
- 第11回 小児・老年の移動①
- 第12回 小児・老年の移動②
- 第13回 食事・口腔ケア①
- 第14回 食事・口腔ケア②
- 第15回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド①
- 第16回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド②
- 第17回 全身清拭①
- 第18回 全身清拭②
- 第19回 洗髪①
- 第20回 洗髪②
- 第21回 洗髪③
- 第22回 フットケア①
- 第23回 フットケア②
- 第24回 フットケア③
- 第25回 沐浴・全部浴、清拭①
- 第26回 沐浴・全部浴、清拭②
- 第27回 沐浴・全部浴、清拭③
- 第28回 日常生活援助の技術評価①
- 第29回 日常生活援助の技術評価②
- 第30回 日常生活援助の技術評価③

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 角濱春美、梶谷佳子他

出版社：メヂカルフレンド社

出版年：2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60%（実技試験））

小テスト（ ）

授業中課題（40%（演習記録等））

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

1/3以上欠席した場合、実技試験の受験資格はありません。

2015 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・河原 宣子・神崎 光子・中橋 苗代・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉
テーマ	健康レベルの各期(急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期)における看護援助技術を実技演習を通して修得する。安全なケア環境を提供するための基礎的能力を実技演習を通して修得する。
授業の到達目標	1. 健康レベルの各期(急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期)における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。 2. 安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。
授業の概要	看護技術を演習を通して学ぶ
準備学習(予習・復習)	事前課題・事後課題を必ずおこなうこと
内 容	<p>第1回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション①</p> <p>第2回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション②</p> <p>第3回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション③</p> <p>第4回 救命救急処置技術・診療に伴う援助技術ー患肢の固定・包帯法</p> <p>第5回 安楽促進・苦痛の緩和ー電法</p> <p>第6回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱①</p> <p>第7回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱②</p> <p>第8回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱③</p> <p>第9回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱④</p> <p>第10回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱⑤</p> <p>第11回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱⑥</p> <p>第12回 医療処置の実施・管理ー採血①</p> <p>第13回 医療処置の実施・管理ー採血②</p> <p>第14回 医療処置の実施・管理ー採血③</p> <p>第15回 医療処置の実施・管理ー注射①</p> <p>第16回 医療処置の実施・管理ー注射②</p> <p>第17回 医療処置の実施・管理ー注射③</p> <p>第18回 医療処置の実施・管理ー輸液①</p> <p>第19回 医療処置の実施・管理ー輸液②</p> <p>第20回 医療処置の実施・管理ー輸液③</p> <p>第21回 医療処置の実施・管理ー導尿①</p> <p>第22回 医療処置の実施・管理ー導尿②</p> <p>第23回 医療処置の実施・管理ー導尿③</p> <p>第24回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入①</p> <p>第25回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入②</p> <p>第26回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入③</p> <p>第27回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備①</p> <p>第28回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備②</p> <p>第29回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備③</p> <p>第30回 まとめ</p>

履修上の注意点

教科書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 実践看護学実習 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者

伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・竹下 夏美・中橋 苗代・西村 美八・野島 敬祐・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I・実践看護学演習 I での学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

授業の到達目標

1. 発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルをふまえ、対象を理解する。2. 対象の基本的ニード充足のために必要な日常生活援助を実践できる能力を養う。3. 対象と援助的コミュニケーションを展開できる。4. 対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。5. ケアチームの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。6. 自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し看護観を自らの言葉で説明できる。

授業の概要

実習は、介護老人保健施設で2週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する
前半・後半に分かれて実施(8月下旬～9月中旬)

準備学習(予習・復習)

予習:これまで行った授業、演習、実習の内容を復習した上で臨むこと。特に、老年期にある対象の特徴とその看護についての知識・技術、その他復習が必要と思われる内容について振り返りをしておくこと 復習:実習ガイダンスの内容、実習で学んだ内容の要点を整理する。

内容

第1回 詳細は、実践看護学実習 I 実習要項参照

履修上の注意点

出欠席、遅刻等の対応については、実習ガイダンスで説明を行う。

教科書

参考書

これまで講義や演習で使用した教科書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

実習するにあたって参考にしたい教科書、資料は各自で準備し持参する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・中橋 苗代・西村 美八・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉
テーマ	看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。
授業の到達目標	1. 入院中の対象者を多面的に理解することができる。2. 対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開の実際を理解することができる。3. 対象者との人間関係を構築することができる。4. 医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。5. 実習体験を振り返り、看護観を自らの言葉で表現できる。
授業の概要	病院での実習です。1名患者を受け持ち、看護課程を展開します。実践看護学Ⅰ・実践看護学Ⅱ・実践看護学演習Ⅰ・実践看護学演習Ⅱで学んだ知識を確認しながら、患者の看護を学びます。
準備学習(予習・復習)	約1ヶ月前に、実習ガイダンスを行います。その時には実習病院および病棟が決定していますので、必要な疾患・病態・治療を学習し、標準的な看護について学習してから臨んでください。
内 容	<p>第1回 実習オリエンテーション</p> <p>第2回 病院・病棟オリエンテーション患者紹介</p> <p>第3回 患者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行うケアの見学</p> <p>第4回 患者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行うケアの見学</p> <p>第5回 患者の全体像を統合し、看護の方向性を考える中間カンファレンス</p> <p>第6回 看護計画を立案し、それに基づいて看護実施し、実践内容を評価する</p> <p>第7回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する</p> <p>第8回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する</p> <p>第9回 看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する最終カンファレンス</p> <p>第10回 学習の学びをディスカッションし報告会にて、共有する学びを評価する</p>
履修上の注意点	実習時期は2月下旬から3月上旬前半グループは、2月22日～3月4日後半グループは、2月26日～3月10日
教科書	
適宜提示	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	
実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。具体的な評価内容は評価表を参照のこと	

2015 Syllabus

科目名 **プライマリケア実習 I**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・富永 真己・中橋 苗代・西村 美八・堀 妙子

テーマ

看護の対象となる人が生活している家庭・産業・学校の場とおし、それぞれおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1. 家庭・産業・学校の特徴を理解するための方法が説明できる2. 家庭・産業・学校で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる3. 家庭・産業・学校で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる4. 保健医療福祉における看護の役割について説明できる5. 保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる6. 様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとる、また守秘義務を遵守することができる7. 自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

授業の概要

1. プライマリファミリーの実習(1週間)前期は体力測定、後期は家庭訪問を行う。 2. 産業・学校の実習(1週間) 企業、小学校または中学校、総合支援学校での実習を行う。 上記、1・2及び学内演習も含めて2週間行う。

準備学習(予習・復習)

予習:これまで行った授業、演習、実習の内容を復習した上で臨むこと。事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。復習:実習ガイダンスの内容、各実習で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

第1回 詳細は、プライマリケア実習 I 実習要項参照

履修上の注意点

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

1回生で使用した教科書。その他、適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

学校(35%)、産業(35%)、プライマリファミリー(30%)とする。実習参加度(出席も含めて)50%、提出物(50%)とし、産業・学校・プライマリファミリーの実習、それぞれの評価を合わせたものを最終評価とする。

2015 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅠ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	

担当者 富永 真己・西村 美八・野村 陽子

テーマ

地域の看護活動を理解し、資料・健康指標を用いて地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

授業の到達目標

1. 地域の人々の生活、地域の環境、社会経済構造を把握し、地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる。2. 保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向、地域の保健医療福祉政策について理解し、その中で看護職が担う活動や役割を説明できる。3. 疫学調査、分析活用方法、統計上とその活用方法について理解する。4. 行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに、住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保、評価など基本構造を説明できる。5. 地域の保健医療福祉制度、健康に関する情報や指標を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる。

授業の概要

地域特性に対応した健康環境づくりの過程を理解するとともに、地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について学ぶ。また統計学基礎論、情報科学を踏まえ、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習Ⅰで行った内容を復習した上で、初回の授業に臨むこと。復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 地域を基盤とした看護活動①ー地域看護の成立基盤
- 第2回 我が国の保健医療福祉の変遷①ー公衆衛生の歴史と体系
- 第3回 我が国の保健医療福祉の変遷②ー看護の現状と動向
- 第4回 地域を基盤とした看護活動②ー地域看護の活動方法(家庭訪問、健康相談、健診)
- 第5回 地域保健行政における看護職の役割(健康課題別:感染症、難病、精神保健)
- 第6回 地域の看護活動の実際(対象別:母子、成人、高齢者)
- 第7回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用① 集団の健康状態の把握
- 第8回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用② 疫学的研究方法
- 第9回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用③ 疾病の予防とスクリーニング
- 第10回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用④ 感染症の疫学
- 第11回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用⑤ おもな疾患の疫学
- 第12回 地域看護管理①ー保健医療福祉分野における計画策定と施策化
- 第13回 地域看護管理②ー地域保健行政における情報管理システム、予算管理と人材育成
- 第14回 地域看護管理③ー行政評価と事業評価
- 第15回 まとめなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

公衆衛生看護学.jp

著者: 荒賀直子・後閑容子編

出版社: インターメディカル

出版年:

ISBN:

保健師業務要覧

著者: 井伊久美子他編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待

著者: 日本疫学会監修

出版社: 南江堂出版

出版年:

ISBN:

保健医療福祉行政論

著者： 野村陽子編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年：

ISBN：

参考書

国民衛生の動向 2014/2015

著者： 一般財団法人厚生労働時計協会

出版社：

出版年：

ISBN：

疫学～医学的研究と実践のサイエンス

著者： 木原正博・木原雅子・加治正行

出版社： メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (90)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅡ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	

担当者 遠藤 俊子・富永 真己・西村 美八・野村 陽子

テーマ

地域の健康管理と公衆衛生看護活動に必要な制度や法規、健康危機管理について理解する。

授業の到達目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

授業の概要

健康管理と公衆衛生看護活動に必要な社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスケアシステムⅠで行った内容を復習した上で、初回の授業に臨むこと。復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 社会保障制度①理念・体系
- 第2回 社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度a
- 第3回 社会保障制度③高齢者福祉・介護保険制度b
- 第4回 社会保障制度④障害児・者
- 第5回 社会保障制度⑤児童
- 第6回 社会保障制度⑥医療保障制度
- 第7回 社会保障制度⑦所得保障・年金制度
- 第8回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題
- 第9回 地域保健と健康危機管理②ー災害と保健師活動
- 第10回 地域保健と健康危機管理①ー地域における日常的な健康危機管理
- 第11回 地域における保健事業の展開
- 第12回 地域診断の実際①
- 第13回 地域診断の実際②
- 第14回 地域診断の実際③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

公衆衛生看護学.jp

著者: 荒賀直子・後閑容子編集

出版社: インターメディカル

出版年: ISBN:

保健師業務要覧

著者: 井伊久美子他編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: ISBN:

国民衛生の動向

著者: 一般財団法人厚生労働時計協会

出版社:

出版年: ISBN:

保健医療福祉行政論

著者: 野村陽子編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (65)

授業中課題 (30)

参加度 (5)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*A>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 テーマに基づき文献検索を行う 第8回 テーマに基づき文献検索を行う 第9回 テーマに基づき文献検索を行う 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 まとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*B>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	
テーマ 文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける	
授業の到達目標 1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ	
授業の概要 1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 テーマに基づき文献検索を行う 第8回 テーマに基づき文献検索を行う 第9回 テーマに基づき文献検索を行う 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*C>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行	
テーマ 文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける	
授業の到達目標 1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ	
授業の概要 1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。	
準備学習(予習・復習) 授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 テーマに基づき文献検索を行う 第8回 テーマに基づき文献検索を行う 第9回 テーマに基づき文献検索を行う 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*D>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 テーマに基づき文献検索を行う 第8回 テーマに基づき文献検索を行う 第9回 テーマに基づき文献検索を行う 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 まとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*E>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 小野塚 元子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii) 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 テーマに基づき文献検索を行う 第8回 テーマに基づき文献検索を行う 第9回 テーマに基づき文献検索を行う 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる 第12回 文献講読およびディスカッション 第13回 文献講読およびディスカッション 第14回 文献講読およびディスカッション 第15回 まとめ
履修上の注意点	
教科書	
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*F>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 工藤 里香	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習(予習・復習)

授業進捗に合わせて適時指示する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*G>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 松本 賢哉	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ
授業の概要	1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)</p> <p>第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む</p> <p>第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む</p> <p>第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する</p> <p>第6回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第7回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第8回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第9回 テーマに基づき文献検索を行う</p> <p>第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる</p> <p>第12回 文献講読およびディスカッション</p> <p>第13回 文献講読およびディスカッション</p> <p>第14回 文献講読およびディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*H>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習(予習・復習)

授業進捗に合わせて適時指示する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*I>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1)看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2)看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii)3. 文献を講読することができる 1)専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2)文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1)プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2)テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習(予習・復習)

授業進捗に合わせて適時指示する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について:図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <*J>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 野島 敬祐

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 1) 看護学分野において関心のテーマの絞り方を学ぶ、2) 看護学分野において自己の関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web, CiNii) 3. 文献を講読することができる 1) 専門分野における文献講読の方法について学ぶ、2) 文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことを整理する 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる 1) プレゼンテーションを行う方法について学ぶ、2) テーマに添ってプレゼンテーションを実施し、評価する方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習(予習・復習)

授業進捗に合わせて適時指示する

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について: 図書館オリエンテーション(OPAC, NACSIS Webcat, 医中誌, CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社: 金芳堂

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*A>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	野島 敬祐	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*B>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	梶谷 佳子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*C>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	植村 由美子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*D>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	奥野 信行	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*E>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子	
テーマ 文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標 1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要 1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習) 授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者: 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社: 金芳堂 出版年: 2014 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*F>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	小野塚 元子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*G>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	工藤 里香	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社：金芳堂 出版年：2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*H>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	松本 賢哉	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*Ⅰ>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	西村 美八	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <*J>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	常田 裕子	
テーマ	文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力に磨きをかける	
授業の到達目標	1. 看護学分野において関心のあるテーマを多角的に検討することができる2. テーマに添って関連する文献を多角的に検索することができる3. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる4. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達し、聞き手に理解してもらうことができる	
授業の概要	1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ 学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii)2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ 各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	授業進捗に合わせて適時指示する	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する 第4回 テーマに基づき文献検索を行う 第5回 テーマに基づき文献検索を行う 第6回 テーマに基づき文献検索を行う 第7回 文献講読およびディスカッション 第8回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加 第9回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換 第10回 文献講読およびディスカッション 第11回 文献講読およびディスカッション 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う 第15回 まとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	看護学生のためのよくわかる大学での学び方 著者： 前原澄子, 遠藤俊子監修 出版社： 金芳堂 出版年： 2014 ISBN:	
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 生命・医療倫理

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 集中	定員 100
履修条件	クラス指定

担当者 荒木 正見

テーマ

人間とは何か、人間の存在、生命の尊重、人間らしい生き方などを考えることにより、医療の場において、人権を尊重し、職業倫理に基づいて行動し、医療に携わるものとしてふさわしい倫理的態度がとれるような高い倫理観を有する人格を養成する。

授業の到達目標

生命倫理、看護倫理の基礎的知識を身につけて、実践的場面において職業人として迷わないで済むような基本的考え方に慣れるとともに、自分自身が高い倫理観を以て心身共に健康に生き、医療に携わるものとして尊敬され、それゆえに質の高い医療を提供できるようにする。

授業の概要

教科書を中心して講義形式で行うが、倫理とは何か、を考えつつ進行しなければならないし、現実場面を常に想定しなければならないので、テキスト内容に加えて具体的な症例を多く交え、また、講師が作ったオリジナルのワーキング資料などを随時活用しながら、立体的効果を狙いつつ授業を進める。また、電子カルテ入力を想定して、ノート筆記を推奨する。

準備学習(予習・復習)

テキストに目を通す予習、テキストに授業中に付加した内容の復習を行えば効果的である。また、日ごろから、ドラマ、小説などにプロの目で親しむことを推奨する。

内 容

- 第1回 イントロダクションとして教科書第1章、第2章を参考にしつつ、生命倫理を学ぶ意義について、倫理とはなにか、という基本的知識の側面からと、現実の症例と医療姿勢に関わる医療従事者自身の生き方との実践的な側面からとの双方から考える。
- 第2回 教科書の資料における「ヒポクラテスの誓い」を参考にしつつ、教科書第1章第2章の倫理学、生命倫理の医療における基本的な原則について考えるとともに、DSM5の刊行によって発達障害概念が変わったことを参考に医療の倫理的問題を考える。
- 第3回 自己決定と人類の普遍的生存という対比を意識しつつ、教科書第3章の生殖の生命倫理について、知識を得つつ問題の考え方について理解する。
- 第4回 死とはなにか、という基本的問題を、エリクソンの発達心理学におけるライフタスクの説明、特に最終段階における永遠の生命の問題を交えつつ、教科書第4章を利用して、ターミナルケア、ホスピスケアなど現実の問題と重ねて考える。
- 第5回 教科書第5章を利用して先端医療の現状を理解するとともに、そのことのもたらすメリット、デメリットについて、倫理的立場からの考え方を理解する。
- 第6回 教科書資料の「ナイチンゲールの誓い」の解釈を基にして教科書第6章の看護倫理の問題、特に倫理原則と倫理的概念について実践を意識しつつ考える。
- 第7回 教科書第7章と資料に示される看護者の倫理綱領の詳細かつ実践的な解釈を通して、看護師や保健師、助産師などの現実的な立場における専門職の倫理的態度について考える。
- 第8回 倫理的な問題に対するさまざまなアプローチ法について、教科書第8章を利用して述べるとともに、実際の応用についてアプローチ例を挙げつつ具体的に考える。
- 第9回 今日特に問題になっている研究の倫理について論理的思考の基礎を補って大枠を理解するとともに、将来必要になるであろう看護研究の倫理について教科書第9章を参照しつつ、整理して理解する。
- 第10回 発達心理学などを挿入しつつ教科書第10章の事例分析の前半、小児看護、精神看護、母性看護などの問題を実際に考え、そこに示される倫理的問題を理解する。
- 第11回 前回同様、第10章を参照しつつ、臨床試験や地域看護の事例などについて考える。特に前半は、治験などの実際の具体的な状況を提起しつつ、倫理的原則との対応を考える。
- 第12回 前回後半を受けて、第10章を参照しつつ、地域看護の事例について考えるが、特に今後急な発展が予想される訪問看護を意識して、地域医療、地域論などの基本的知識を確認しつつ、倫理的原則との対応を考える。
- 第13回 資料の医療倫理に関する宣言・綱領のうち、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、患者の権利章典、リスボン宣言などを、倫理的原則や歴史的背景に基づいて解釈してそれらの意味を確認する。
- 第14回 資料の用語解説のうち、重要な概念をピックアップして解説しつつこれまで述べてきたことの復習、特に知識として整理しておくべきことに関する復習を行う。
- 第15回 前回同様、資料の用語解説のうち、重要な概念を解説し、また、自己認知のための心理的ワークを行いながら、職業人としての倫理的生き方を考える。

履修上の注意点

常識的な受講のマナーを守ることは職業人としての基本であり授業はその貴重な訓練の場だということを理解して積極的に参加してください。出欠については大学のルールに従い、評価にも反映します。教科書に向かった学習も重要ですが、特に看護師は様々な人生と対することになるので、日ごろから、ドラマや小説、文化財、芸術作品などと親しんでプロの目を養ってください。

教科書

系統看護学講座 看護倫理

著者： 松葉祥一ほか

出版社：医学書院

出版年：2014年

ISBN: 9784260018135

参考書

医療倫理学 第2版

著者：丸山マサ美編著

出版社：中央法規出版

出版年：2009年

ISBN: 9784805831632

場所の癒し

著者：荒木正見編著

出版社：中川書店

出版年：2009年

ISBN: 9784931363649

場所論と癒し

著者：荒木正見編著

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2003年

ISBN: 4-88848-752-9

無意識の構造

著者：河合隼雄

出版社：中央公論社(中公新書481)

出版年：初版1977年

ISBN: 4-12-100481-7

発達障害に気づかない大人たち

著者：星野仁彦

出版社：祥伝社(祥伝社新書)

出版年：2010年

ISBN: 9784396111908

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

試験にはノート筆記した内容を解答していただく部分があります。テキスト、資料等の理解とともに、授業中にメモする訓練を意識して参加してください。

2015 Syllabus

科目名 **災害看護学Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 100

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行・河原 宣子・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ、災害看護に関する実践方法論を学ぶ。さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における災害サイクル各期の看護の役割を考察する。授業には演習形式のトリアージ訓練を中心とした防災・減災訓練を含む。

授業の到達目標

1.災害看護の実例を学び、災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する。2.トリアージ訓練を中心とした防災・減災訓練の準備・実施に参加し、準備期における看護の役割を理解する。

授業の概要

本授業はオムニバス形式で実施し、演習を含む。

準備学習(予習・復習)

災害看護学Ⅰの復習をしておくこと。

内 容

- 第1回 災害支援活動の実際①、災害サイクル中長期におけるケア
- 第2回 災害支援活動の実際②
- 第3回 災害支援活動の実際③
- 第4回 災害支援活動の実際④ 京都橘大学防災マップの作成
- 第5回 トリアージ
- 第6回 演習:防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
- 第7回 演習:防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

全回出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 学校保健

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 恵.寺口 佐與子

テーマ

学校保健の基礎を学ぶ

授業の到達目標

1)学校教育における学校保健の目的について理解できる 2)学校保健の行政と制度,学校保健関係職員について理解できる
3)学校における保健管理と保健教育,保健組織活動の内容について理解できる 4)児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題について理解できる 5)学校保健の今日的課題と展望について考察できる

授業の概要

毎回の授業の前半は講義中心に進める。後半は、グループ討議や課題に取り組む演習形式で行う。

準備学習(予習・復習)

日頃より児童生徒やその保護者となる対象に関連するニュースや一般書などで自己の考えをもつこと。

内 容

- 第1回 学校保健の概要、学校保健の歴史
- 第2回 学校における保健教育(保健学習と保健指導)
- 第3回 学校における保健管理①(健康診断、保健調査、健康評価)
- 第4回 学校における保健管理②(疾病管理)
- 第5回 学校における保健管理③(疾病管理)(発表)
- 第6回 学校における保健管理④(感染症)、学校環境衛生
- 第7回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題①
- 第8回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題②
- 第9回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題③
- 第10回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題④
- 第11回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題⑤
- 第12回 学校保健組織活動と学校安全
- 第13回 応急手当、食育
- 第14回 学校保健の今日的課題と展望(課題)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

学校保健ハンドブック 第6次改訂

著者:

出版社: ぎょうせい

出版年: 2014

ISBN: 9784324098004

参考書

新訂版 学校保健実務必携(第3次改訂版)

著者:

出版社: 第一法規

出版年: 2014

ISBN: 978447028630

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 養護概説

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 永井 節子	
テーマ	
学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性を理解する。	
授業の到達目標	
学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を習得する。	
授業の概要	
保健室実践を通してより深く具体的に理解し、保健指導演習を行い養護教諭としての資質と力量を高める。	
準備学習(予習・復習)	
子どもの健康情報を収集し、子どもの健康課題を考えておくこと。それを保健指導演習に生かす。	
内 容	
第1回	養護の概念と、養護の目的機能
第2回	養護教諭の専門性と、専門職化の過程
第3回	養護教諭と保健室・保健室機能
第4回	養護活動の展開・来室児童生徒への対応
第5回	養護活動の方法・健康実態の把握と支援
第6回	教育としての健康診断①
第7回	教育としての健康診断②
第8回	保健指導演習
第9回	養護活動の方法・健康実態の把握と支援(健康管理)
第10回	健康問題に応じた養護活動(内科的に訴えを持つ子ども)
第11回	健康問題に応じた養護活動(傷害を負った子ども)
第12回	健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども)
第13回	健康問題に応じた養護活動(心の問題を抱えた子ども)
第14回	学校の特性に応じた養護活動・研究活動の意義
第15回	レポート作成・まとめ
履修上の注意点	
養護教諭免許状取得のための必修科目であるため、教育的観点を踏まえて学ぶこと。	
教科書	
新養護学概論	
著者:	大谷尚子・中桐佐智子
出版社:	東山書房
出版年:	ISBN:
参考書	
教育としての学校保健	
著者:	数見隆生
出版社:	青木書店
出版年:	ISBN:
養護教諭の役割と教育実践	
著者:	宍戸洲美
出版社:	学事出版
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (70)	授業中発表等 (20)
参加度 (10)	
授業中課題70%・・・レポート50%、授業中課題の提出20%授業中発表20%・・・ディスカッションと演習参加度 10%	

2015 Syllabus

科目名 **精神保健**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 國松 典子	
テーマ 学校における精神保健的問題への対しかた	
授業の到達目標 ・特に学童期や思春期にみられる精神保健的諸問題についての知識を得る。・養護教育に関わる心理学的視点を持ち、相談的対応の心得を身につける。	
授業の概要 心の発達について知り、特に学童期や思春期において生じやすい精神保健的問題について講義する。事例をとおして考え、受講生同士の意見を共有する。児童・生徒や保護者への相談的対応を学び、養護教諭としてのアイデンティティを意識する機会としたい。	
準備学習(予習・復習) 授業で紹介した資料や参考書を積極的に読み、内容について関心を深めること。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 心の発達1 : 乳・幼児期 第3回 心の発達2 : 学童期～思春期 第4回 心の発達3 : 思春期～青年期 第5回 相談的対応の心得1 : カウンセリングの基本 第6回 相談的対応の心得2 : 自分を知る 第7回 相談的対応の心得3 : 養護教諭として 第8回 学校で関わる精神保健的問題1 : 緘黙／抜毛 第9回 学校で関わる精神保健的問題2 : 神経症／うつ病／統合失調症 第10回 学校で関わる精神保健的問題3 : 自傷行為／摂食障害 第11回 学校で関わる精神保健的問題4 : いじめ／虐待／PTSD 第12回 学校で関わる精神保健的問題5 : 発達障害 第13回 学校で関わる精神保健的問題6 : 不登校 第14回 補足 第15回 まとめ	

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

養護教諭の相談的対応[3版]

著者: 養護教諭の相談を学ぶ会

出版社: 学事出版

出版年: 1997

ISBN:

心をつめる養護教諭たち

著者: カウンセリング研究会

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2012

ISBN:

保健室と養護教諭

著者: 教育科学研究会

出版社: 国土社

出版年: 2008

ISBN:

看護のための精神医学[2版]

著者： 中井久夫・山口直彦

出版社： 医学書院

出版年： 2004

ISBN:

少年期の心

著者： 山中康裕

出版社： 中公新書

出版年： 1978

ISBN:

発達障害の豊かな世界

著者： 杉山登志郎

出版社： 日本評論社

出版年： 2000

ISBN:

カウンセリングを語る(上)(下)

著者： 河合隼雄

出版社： 講談社プラスアルファ文庫

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験（50%）

小テスト（ ）

授業中課題（20%）

授業中発表等（ ）

参加度（30%）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習 I

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

看護研究に必要な基本的知識を理解する

授業の到達目標

1)看護における研究の役割を理解する2)看護研究のプロセスを学ぶ3)看護研究における文献検討の意義と方法を理解する4)各種研究デザインと研究方法を理解する5)看護研究における倫理を理解する

授業の概要

本科目では、看護の知を創り出す方法について学びます。本科目は、キャリア開発演習 I～IV(1、2回生)を受けており、後の看護研究演習 II(4回生)に繋がります。前半は講義中心、後半は演習中心です。

準備学習(予習・復習)

看護の知の形成は、看護実践の中から生まれます。興味を持って意欲的に看護実践系科目に取り組んでおいてください。

内 容

- 第1回 看護における研究の役割
- 第2回 文献検討の意義と方法
- 第3回 看護研究のプロセス
- 第4回 研究における倫理
- 第5回 研究デザイン
- 第6回 看護研究の方法 事例研究方法
- 第7回 研究課題・研究方法の選択
- 第8回 データ収集・分析①
- 第9回 データ収集・分析②
- 第10回 研究計画書
- 第11回 論文講読①
- 第12回 論文講読②
- 第13回 論文講読③
- 第14回 論文講読④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

看護における研究

著者： 南裕子編

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2010

ISBN： 9784818013643

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 看護管理学 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定

担当者 阿部 祝子

テーマ

1. 看護におけるマネジメント2. 看護をとりまく諸制度

授業の到達目標

1. マネジメント及び看護におけるマネジメントの主要概念を理解する。2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する。3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する。4. 患者中心志向医療における看護職の役割を理解する。

授業の概要

本講は、マネジメントの基礎知識、21世紀に期待される看護サービスとそのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、マネジメントについての基礎知識を概説する。これらをもとに、看護サービスのマネジメントと看護サービスのマネジメント、医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職のあり方を、資料、映像学習、課題学習によって学習する。

準備学習(予習・復習)

・専門用語、定義、概念が多いため、「授業の計画」に沿って、テキストの該当箇所を読み、講義に臨む。・受講後は、臨地実習や社会生活における自身の経験と結び付けて、理解するよう努める。

内 容

第6回 リーダーシップ

第7回 医療・看護サービスの品質保証Evidence Based Nursing

第8回 人材フロー、看護職員の数、雇用労働環境、Work Life Balance

第9回 人事考課と目標管理キャリア開発

第10回 医療サービス提供体制チーム医療、看護職・他職種との協働

第11回 安全管理

第12回 情報管理

第13回 医療制度、看護職と法制度看護政策

第14回 経済・経営の視点からみた看護

第15回 医療サービスにおける看護マネジメントの展望、まとめ

第1回 看護管理学とは何か。看護管理学を学ぶ意義管理の概念

第2回 マネジメントとその変遷看護管理とその変遷、看護管理から看護マネジメントへ、日常の看護業務におけるマネジメント

第3回 患者の権利、インフォームドコンセント、プライバシー看護職の役割の拡大

第4回 組織・集団、組織化と組織の構造、看護ケア提供システム

第5回 組織の運営・変革、組織文化リーダーシップ

履修上の注意点

・看護、医療、福祉に関する動向について、ホームページや新聞等のメディアを活用して、厚生労働省や日本看護協会などが発信する情報から把握する。・新聞や他のメディアを活用し、日本や世界の経済、経営の動きをキャッチする。

教科書

看護管理学

著者： 手島 恵

出版社： 南江堂

出版年： 2013年

ISBN： 978-4524250073

参考書

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 第8版

著者： 上泉和子他著

出版社： 医学書院

出版年： 2007年

ISBN： 978-4260001748

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 第2版

著者： 川村治子著

出版社： 医学書院

出版年： 2011年

ISBN： 978-4260007535

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者： 中山和弘他著

出版社： 医学書院

出版年： 2012年

ISBN： 4260013602

看護法令要覧<平成25年版>

著者： 門脇豊子他編

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2013年

ISBN： 4818017000

成績評価

試験（70%）

小テスト（ ）

授業中課題（10%）

授業中発表等（ ）

参加度（20%）

新聞や他メディアで報道される保健医療福祉に関する政治や政策などに関心を持ち、それらについて考えてみるよう、心がける。

2015 Syllabus

科目名 看護教育学 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子・梶谷 佳子	

テーマ

1. 看護教育に係る基本的理論 2. 看護教育制度 3. キャリア発達(開発) 4. 教案作成と模擬授業

授業の到達目標

1. 看護教育に係る基本的理論, 概念を理解する. 2. 看護教育制度を理解する. 3. 看護職のキャリア発達(開発)について理解する. 4. 実際に, 教案作成, 模擬授業の実施, 評価という一連のプロセスを理解する.

授業の概要

本講は, 前半では, 自身が受けている看護教育に係る理論や概念とともに, 看護教育制度の特徴を知ること意图している. さらに, 卒業後, 看護職としてのキャリアをどのように発達(開発)させていくのかを考える機会とする. 後半は, 実際に授業の指導案を作成し, 模擬授業を行い, 評価を経験し, 教育プロセスを一部を具体的に学ぶ.

準備学習(予習・復習)

・専門用語, 定義, 概念が多いため, 受講後は, 既習の知識, 自身が受けたあるいは受けている教育と結び付けて, 理解するよう努める.

内 容

- 第1回 オリエンテーション, 授業の進め方(阿部)
- 第2回 教育原理(阿部)
- 第3回 教育方法(阿部)
- 第4回 教育評価(阿部)
- 第5回 看護教育の発達と看護教育制度(阿部)
- 第6回 キャリア開発と看護継続教育(阿部)
- 第7回 まとめ(阿部)
- 第8回 オリエンテーション, 授業の進め方, 教育プロセスと教案作成(梶谷)
- 第9回 教育プロセスと教案作成(梶谷)
- 第10回 グループ学習①ーグループ編成, 課題設定(梶谷)
- 第11回 グループ学習②ー授業案の作成(梶谷)
- 第12回 グループ学習③ー教育方法の検討, 教材作成(梶谷)
- 第13回 グループ学習④ー授業評価の媒体の作成(梶谷)
- 第14回 模擬授業と授業リフレクション①(梶谷)
- 第15回 模擬授業と授業リフレクション②(梶谷)

履修上の注意点

・教案作成の教育内容等については, 図書室で学習する. ・新聞や他のメディアを活用し, 看護教育や教育全般の動きをキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護教育学

著者: グレッグ美鈴, 池西悦子

出版社: 南江堂

出版年: 2009年

ISBN: 978-4524250493

看護教育における授業設計 第4版

著者: 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子

出版社: 医学書院

出版年: 2009年

ISBN: 978-4260008402

患者教育のポイント アセスメントから評価まで

著者: Barbara McVan(武山満智子訳)

出版社: 医学書院

出版年: 1990年

ISBN: 978-4260340199

ナースのための患者教育と健康教育

著者: A. Graham/Carol J. Gleit/Marlyn Duncan Boyd(安酸史子監訳)

出版社: 医学書院

出版年: 1996年

ISBN: 978-4260342094

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

レポート, 授業中発表および授業参加度により総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 実践看護学Ⅲ－1

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者	天野 博夫・伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・神崎 光子・喜多 伸幸・鈴木 要子・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉・村上 節
テーマ	さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する。
授業の到達目標	1. 健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する。3. 健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する。
授業の概要	健康課題が徐々に大きくなるような組み立て方で、実践看護学Ⅲ—2・実践看護学演習Ⅲ・キャリア開発演習Ⅴと連動して授業が展開されます。
準備学習(予習・復習)	範囲が非常に広いので毎回必ず予習復習を行うこと
内 容	<p>第18回 排泄機能障害とその治療</p> <p>第19回 認知症の診断と治療 ①</p> <p>第20回 認知症の診断と治療 ②</p> <p>第21回 がんとは がんの予防と検査</p> <p>第22回 がんの手術療法</p> <p>第23回 がんの薬物療法</p> <p>第24回 がんの放射線療法</p> <p>第25回 小児によく見られる悪性腫瘍とその治療</p> <p>第26回 がんの終末期</p> <p>第27回 物質関連障害をもつ人の特徴と治療</p> <p>第28回 抑うつ状態・躁状態にある人の特徴と治療</p> <p>第29回 精神保健福祉にかかわる法制度</p> <p>第30回 精神障害への薬物療法、心理社会療法なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p> <p>第1回 糖代謝障害とその治療</p> <p>第2回 高齢者に特有な症候</p> <p>第3回 小児によく見られる内分泌疾患とその治療</p> <p>第4回 循環機能障害とその治療</p> <p>第5回 分娩期の異常</p> <p>第6回 小児によくみられる循環器・筋・骨疾患とその治療</p> <p>第7回 高齢者の皮膚疾患とその治療</p> <p>第8回 女性の健康に関わる医療</p> <p>第9回 周産期の診断と検査(生殖生理を含む)</p> <p>第10回 呼吸機能障害とその治療</p> <p>第11回 脳神経系・運動機能の障害とその治療</p> <p>第12回 統合失調症患者の特徴①</p> <p>第13回 統合失調症患者の治療 ②</p> <p>第14回 消化・吸収障害とその治療</p> <p>第15回 消化・吸収障害とその治療</p> <p>第16回 小児によくみられる消化器疾患とその治療</p> <p>第17回 小児によくみられる腎・呼吸器疾患とその治療</p>
履修上の注意点	

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論

著者: 奈良間美保

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学

著者： 北島政樹

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

成人看護学 慢性期看護

著者： 鈴木久美

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開

著者： 武井麻子

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

老年看護学 概論と看護の実践

著者： 奥野茂代

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年：

ISBN：

糖尿病食事療法のための食品交換表

著者： 日本糖尿病学会

出版社： 日本糖尿病協会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・工藤 里香・鈴木 要子・常田 裕子・野島 敬祐・堀 妙子・松本 賢哉
テーマ	実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。
授業の到達目標	1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じた看護技術を修得することができる。3.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。
授業の概要	健康課題が徐々に大きくなるような組み立て方で、実践看護学Ⅲ—1・実践看護学Ⅲ—2・キャリア開発演習Ⅴと連動して授業が展開されます
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 新生児期のアセスメントと看護②</p> <p>第2回 低出生体重児の看護技術</p> <p>第3回 統合失調症患者の地域生活支援</p> <p>第4回 周産期の看護技術(実技演習:妊婦と褥婦のフィジカル系)</p> <p>第5回 周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)</p> <p>第6回 周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)</p> <p>第7回 感染看護 在宅・臨床看護演習</p> <p>第8回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①</p> <p>第9回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習①</p> <p>第10回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習②</p> <p>第11回 排泄経路を変更した人への看護</p> <p>第12回 在宅・臨床看護演習①</p> <p>第13回 在宅・臨床看護演習②</p> <p>第14回 在宅・臨床看護演習③</p> <p>第15回 小児に特有の看護技術</p> <p>第16回 小児の権利を守るための看護技術</p> <p>第17回 小児に特有の症状に対する看護</p> <p>第18回 がんの終末期の看護</p> <p>第19回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習③</p> <p>第20回 入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習④</p> <p>第21回 在宅・臨床看護演習④</p> <p>第22回 在宅・臨床看護演習⑤</p> <p>第23回 在宅・臨床看護演習⑥</p> <p>第24回 小児の終末期の看護</p> <p>第25回 看取りと看護①</p> <p>第26回 看取りと看護②</p> <p>第27回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②</p> <p>第28回 在宅・臨床看護演習⑦</p> <p>第29回 在宅・臨床看護演習⑧</p> <p>第30回 在宅・臨床看護演習⑨なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ－3

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。

授業の到達目標

1. 小児に特有な疾患の病態生理を説明できる2. 小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる3. 小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる4. 小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる5. 小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる6. 収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる7. 収集した情報をもとに健康課題を査定できる8. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる9. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる10. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる11. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる12. 実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる13. 実施した自己の看護実践を評価できる14. 対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

授業の概要

目的:健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う事。実習概要1. 医療施設で患児を1名(状況により複数)受け持ち、看護過程を展開する2. 小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習詳細は、実習要項をもとに、オリエンテーションを行う

準備学習(予習・復習)

全体のオリエンテーションの際に、事前学習については説明を行う

内 容

- 第1回 第1週月曜日 学内オリエンテーション
 第2回 第1週目火曜日～第2週目水曜日 医療施設での病棟実習
 第3回 第2週目木曜日・金曜日 学内実習(実習のまとめ)
 第4回 重症心身障がい児施設 1日見学実習
 第5回 小児専門病院 1日見学実習

履修上の注意点

実習要項の共通事項および、実践看護学実習Ⅲ－3(子ども看護実習)の要項を必ず読んでおくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (20%)

実習態度、提出された記録物及び学びのレポート等により、評価を行う

2015 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅲ－４**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 伊藤 恵美子・松本 賢哉	
<p>テーマ</p> <p>実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>1. 対象者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する2. 援助的な対人関係の基本的能力を修得する3. 対象者のセルフケア能力のアセスメントに焦点をあてて看護過程を展開する4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ</p>	
<p>授業の概要</p> <p>・主として医療施設で2週間行う・患者を一人受け持ち、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する・受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う・リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、デイケアなどにおいても実習を行う・学びを深めるために、適宜カンファレンスを行う</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>内 容</p> <p>第1回 目標に沿って2週間実施する</p>	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 実習態度・記録物で総合的に評価する</p>	

2015 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ-5

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子・工藤 里香・常田 裕子	

テーマ

ライフサイクルにおける周産期(妊娠、分娩、産褥(新生児)各期)にある母児の看護実践を通じて、生涯発達視点から母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。
2. 家族の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。
3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児を取り巻く環境をアセスメントし、健康状態との関係を説明できる。
4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生活の特性とその家族の生活の変化を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる。
5. 新生児の誕生に伴う家族機能の変化を説明できる。
6. 周産期(妊娠・出産・育児)に必要な看護援助方法(保健指導含む)の説明と指導のもとで実践ができる。
7. 新生児の成長、発達に必要なケアを説明できる。
8. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康増進に関連する政策と保健活動(社会資源等)を説明できる。
9. 対象の個別性に合わせ、計画的に看護を展開できる(詳細:実習要項)

授業の概要

1 実習場所 産科病棟(産褥室、新生児室、分娩室)および産科外来2 実習内容 1)病院実習では、産褥(新生児)期にある母子あるいは入院中の妊婦を1例以上受け持ち、看護を実践する。受け持ち事例の選定基準 ①原則として正常経過をたどる経膈分娩もしくは帝王切開分娩の母子 ②感染症事例は除く ③状態の安定している妊婦 ※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、承諾の得られた妊産婦を受け持ち事例とする。2)産科外来 妊婦健診、保健指導や産褥1か月健康診査の実際を学ぶ。3)カンファレンス ①デイリーカンファレンス:日々の実習を振り返り学びを深め、共有する。

②中間カンファレンス:事例検討や1週間の学びの総括を行い、次週への実習の課題を見出す。③実習終了カンファレンス:実習の学びをまとめ共有する。④最終(学内)カンファレンス:他のグループと学びを共有し、理解を深める。

準備学習(予習・復習)

妊娠期から産褥期までの看護展開に必要な知識や技術の復習を行い実習に臨む。(実践看護学Ⅲで課したミニノートの再整理とキャリア開発演習Ⅴで行った看護過程の復習を行う。)なお、テキスト、参考書については実践看護学Ⅲ-5等に提示したものの他に周産期関連の書籍を参考にする。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、周産期看護技術の演習等
- 第2回 病棟オリエンテーション、受持ちの決定等
- 第3回 病棟または外来実習等
- 第4回 病棟または外来実習等
- 第5回 病棟または外来実習等
- 第6回 病棟または外来実習等
- 第7回 病棟または外来実習等
- 第8回 病棟または外来実習等
- 第9回 病棟または外来実習、病棟最終カンファレンス等
- 第10回 最終カンファレンス、記録のまとめ等

履修上の注意点

アセスメントの視点(情報の整理)や指導案(スタンダードなもの)は予め作成して、実習で活用できるよう準備する

教科書

参考書

成績評価

- | | |
|------------|-------------|
| 試験 () | 小テスト () |
| 授業中課題 (10) | 授業中発表等 (10) |
| 参加度 (80) | |

全日程出席が原則補習は実施しないレポートおよび指定した記録物ならびに学習(実習)への取り組み態度等を加味して、実習評価表により評価する

2015 Syllabus

科目名 **プライマリケア実習Ⅱ**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 通年	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・富永 真己・中橋 苗代・西村 美八	

テーマ

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動(プライマリファミリーの訪問活動、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターにおける看護活動)を体験することにより、地域の健康政策機関の機能・役割について理解するとともに、看護職の役割と関係職種との役割・連携について学ぶ。

授業の到達目標

1. プライマリファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解できる。1) プライマリファミリーの生活をより深く知り、健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。2) プライマリファミリーとの援助的な対人関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。2. 地域の健康政策機関の保健福祉事業の成り立ちと、機能と役割を説明できる。3. 個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連を査定するとともに、対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。4. 地域の健康政策機関における活動の現状、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し、課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。5. 地域の健康政策機関における看護職、関係機関および関係職種の機能・役割について説明できる。6. 保健・医療・福祉などの専門職および地域の人々との連携や協働活動の意義が理解できる。

授業の概要

実習期間及び場所は以下の通り。1. プライマリファミリー実習: プライマリファミリー(1週間) 2. プライマリファミリー実習以外の施設実習: 保健所および保健センター(3週間)、または訪問看護ステーション(2週間)および地域包括支援センター(1週間)とする。

準備学習(予習・復習)

予習: これまで行った授業、演習、実習の内容を復習した上で望むこと。特に、プライマリファミリー、保健所および保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。復習: 実習ガイダンスの内容、各実習で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

第1回 詳細は、プライマリケア実習Ⅱ実習要項参照のこと

履修上の注意

出欠席、遅刻等の対応については実習ガイダンスで説明を行う。

教科書

地域療養を支えるケア

著者: 臺有桂・石田千絵・山下留理子編者

出版社: メディカ出版

出版年: 2015年

ISBN:

ヘルスケアシステムⅠ、Ⅱで用いたテキスト。その他、これまでの授業で用いたテキスト。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国民衛生の動向 2014/2015

著者:

出版社: 一般財団法人厚生労働統計協会

出版年:

ISBN:

その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

a70103b210

実習状況から総合的に判断する。プライマリファミリー実習20%、プライマリファミリー実習以外の施設実習（保健所・保健センター、訪問看護ステーション・地域包括支援センター）80%の割合で評価する。

2015 Syllabus

科目名 看護倫理 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	
テーマ	
看護の場における倫理的課題に対応する知識を得るとともに、倫理的行動を探究する態度を養う。	
授業の到達目標	
1. 看護における看護倫理の意義を理解する2. 倫理的課題について、倫理的意思決定を導く基礎的知識を得る3. 患者の権利を尊重し、擁護する看護職の役割を理解する4. 倫理的課題に向き合い、倫理的行動を探究する態度を身につける	
授業の概要	
講義と演習を行います。演習は、グループで事例分析を行います。	
準備学習(予習・復習)	
・事前レポート課題①「実習で体験した倫理的課題」 A4 1枚程度 「実習で体験した倫理的課題」A4 1枚(これまでの実習の中で「患者の権利が損なわれているのでは」「患者が気の毒だ」と感じたことについて、その時の状況(患者の状況、背景)や自分の状況(どう思ったか・行動したか)、ことになりゆきについて記述する。・事後レポート課題②「事前課題事例に関する倫理的課題の分析と解決のためにとる行動」 A4 2枚程度(表紙別)	
内 容	
第1回	看護倫理とは、看護倫理に関する基礎的知識
第2回	倫理的課題へのアプローチ
第3回	グループワーク①
第4回	グループワーク②
第5回	発表とディスカッション①
第6回	発表とディスカッション②
第7回	発表とディスカッション③
第8回	まとめ、権利を擁護する看護師の役割
履修上の注意点	
教科書	
看護者の基本的責務—定義・概念／基本法／倫理 (新版)	
著者: 日本看護協会編	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年: 2006	ISBN: 9784818012516
参考書	
看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド(第3版)	
著者: サラ・T・フライ／片田範子, 山本あい子	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年: 2008	ISBN: 9784818015128
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
・総授業数の2/3以上出席の受講者を評価の対象者とする。・評価配点: 課題①10%, 課題②50% グループワーク40%	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅴ(看護)**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	伊藤 恵美子・小野塚 元子・河原 宣子・常田 裕子・西村 美八・野島 敬祐・松本 賢哉	
テーマ	2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。	
授業の到達目標	1. さまざまな対象の健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる。2. 自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる。	
授業の概要	ライフサイクルでの妊娠出産の過程を理解する。また、障害を抱えた人へのリハビリテーション看護を理解し、それを支える家族へのサポートと地域でのサポートの在り方を理解できるように段階を踏まえた演習	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習①</p> <p>第2回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習① 発表</p> <p>第3回 障害を抱えた人の事例看護課程展開</p> <p>第4回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習② 発表</p> <p>第5回 障害を抱えた人の事例看護課程展開</p> <p>第6回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区の診断</p> <p>第7回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区の診断</p> <p>第8回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区の診断</p> <p>第9回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画</p> <p>第10回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開</p> <p>第11回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画</p> <p>第12回 障害を抱えた人の事例看護課程展開</p> <p>第13回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開</p> <p>第14回 事例の統合と発表</p> <p>第15回 事例の統合と発表なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (70)	授業中発表等 ()	
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 看護管理学ⅡA

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 阿部 祝子

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

授業の到達目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ. 2. 看護マネジメントにかかわる諸理論, 技法, 政策を理解する. 3. 経営参画者として, 組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.

授業の概要

本講は, 看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ, 看護職者として医療チームの一員として, 身近な看護マネジメントのテーマを設定し, それにかかわる諸理論, 技法, 政策等を理解する. これらにより, 医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び, 看護サービスのあり方や医療経営への参画者として, また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.

準備学習(予習・復習)

・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント, 看護をとりまく諸制度)について復習し, 本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って, 各メンバーが必要な事前学習を行う.

内 容

- 第1回 オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)テーマの設定とグループ編成
 第2回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習①
 第3回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習②
 第4回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習③
 第5回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習④
 第6回 グループごとにプレゼンテーション準備①
 第7回 グループごとにプレゼンテーション準備②
 第8回 学習成果のプレゼンテーション, 討議①
 第9回 学習成果のプレゼンテーション, 討議②
 第10回 学習成果のプレゼンテーション, 討議③
 第11回 学習成果のプレゼンテーション, 討議④
 第12回 学習成果のプレゼンテーション, 討議⑤
 第13回 学習成果のプレゼンテーション, 討議⑥
 第14回 看護実践とマネジメント
 第15回 まとめ

履修上の注意点

・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療, 看護マネジメントに関する動向について, 先行研究, 文献のほか, ホームページ, 新聞等のメディアを活用しキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

グループ学習における課題への取り組み, 参加の度合, 発表, レポートにより総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 看護管理学ⅡB

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子	
テーマ	助産実践の基礎的な考え方や実践に必要な概念や考え方を学ぶ。母子の保健医療福祉現場における役割や業務を明確にし、助産師の役割機能を理解する。助産管理の理念と管理の構成要素、ならびに助産師の専門性による助産業務や対象の特殊性からもたらされる助産管理を学ぶ。
授業の到達目標	1. 助産師の定義・役割を理解する。2. わが国の母子保健を歴史的、統計、法や諸制度から知り、今後の課題を明らかにする。 3. 助産師活動に必要な諸理論・倫理を学び、助産過程を展開する能力を獲得する。4. 助産サービスの質管理に必要な概念を理解する。5. 周産期における安全管理とリスクマネジメントを学ぶ。6. 施設における助産業務管理ならびに地域母子保健について
授業の概要	講義およびグループワーク
準備学習(予習・復習)	
内 容	第1回 助産師の定義と業務・役割 第2回 助産の歴史と助産師教育 第3回 日本の母子保健の動向 第4回 世界の母子保健の動向 第5回 わが国の母子保健関連法と制度 第6回 保助看法とその他の助産師関連法 第7回 女性の健康と人権 第8回 周産期医療における質と安全の保証(院内助産システム含む) 第9回 助産師が行うケアを支える理論 第10回 助産実践の倫理 第11回 助産診断と助産過程 第12回 助産業務管理と地域母子保健 第13回 周産期におけるリスクマネジメント 第14回 助産サービスの質管理 第15回 助産サービス管理の実際 第16回 テスト
履修上の注意点	

教科書

助産師基礎教育テキスト1 2014年版 助産概論

著者: 山本あい子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2 2014年版 女性の健康とケア

著者: 吉沢豊予子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

助産師基礎教育テキスト3 2014年版 周産期における医療の質と安全

著者: 成田伸他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

新版助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ

著者: 福井トシ子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

参考書

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅢ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定

担当者 富永 真己・西村 美八

テーマ

公衆衛生看護の支援技術と地域看護管理と公衆衛生看護活動の理論と実践について学ぶ。

授業の到達目標

1. 地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について説明できる。2. 地域診断を通して導き出された健康課題を解決するために必要な施策を具体的に説明できる。3. 上記について、実施するために必要な支援技術を理解し、説明できる。

授業の概要

地域におけるヘルスケアシステムの構築等の基本的な公衆衛生看護の支援技術を学習する。また、地域全体のヘルスケアシステムの向上を目指す地域看護管理と公衆衛生看護活動計画における理論と、立案・実施・評価の一連の過程について、具体例を用いて学ぶ。

準備学習(予習・復習)

予習:ヘルスケアシステムⅡで行った地域診断の内容を復習すると同時に、行った課題の提出物をさらに充実させ持参して、初回の授業に臨むこと。復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内 容

- 第1回 健康管理体制と支援技術①(各種健診)
- 第2回 健康管理体制と支援技術②(保健指導)
- 第3回 健康管理体制と支援技術③(保健指導)
- 第4回 健康管理体制と支援技術④(家庭訪問)
- 第5回 地域診断(概念と理論、方法)
- 第6回 実習地における地域診断①(地域別・対象別の情報収集)
- 第7回 実習地における地域診断②(地域別・対象別のアセスメント)
- 第8回 実習地における地域診断③(対象別健康課題の抽出:母子・成人・感染症)
- 第9回 実習地における地域診断④(対象別健康課題の抽出:母子・成人・感染症)
- 第10回 実習地における地域診断⑤(健康課題に基づく保健事業計画の立案)
- 第11回 実習地における地域診断⑥(健康課題に基づく保健事業計画の立案)
- 第12回 実習地における地域診断⑦(健康課題に基づく保健事業計画の立案)
- 第13回 地域保健管理①組織・人材・社会資源・情報・予算の管理の実際
- 第14回 実習地における地域診断⑧発表
- 第15回 まとめなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

プライマリケア実習Ⅱにおいて行政(保健所・市町村)で臨地実習を予定する者は必ず履修すること。3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

公衆衛生看護学.jp

著者: 荒賀直子・後閑容子編集

出版社: インターメディカル

出版年:

ISBN:

保健師業務要覧

著者: 井伊久美子他編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

国民衛生の動向2014/2015

著者: 一般財団法人厚生労働時計協会

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 助産診断学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子・工藤 里香・常田 裕子	

テーマ

マタニティケアを根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

授業の到達目標

1. 女性のライフサイクルにおける周産期の特徴を理解する2. 周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な知識を理解する3. 周産期(妊娠・分娩・育児期)の母児と家族の健康状態と課題について身体的、心理的、社会的側面からの理解と診断ができる4. 家族形成期にある母児および家族の発達課題の理解と診断ができる5. 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりの支援ニーズを診断できる

授業の概要

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児の健康問題と家族の課題に関する視点と助産診断を学ぶ

準備学習(予習・復習)

既修得の周産期看護の関連する範囲の内容を復習を行う実習で使用した知識ミニノートなどを活用し知識整理のツールを作成する

内 容

- 第1回 オリエンテーション、女性のライフサイクルと周産期看護(1)
- 第2回 女性のライフサイクルと周産期看護(2)
- 第3回 妊娠期の生理
- 第4回 妊婦の健康診査と妊娠期の助産診断
- 第5回 胎児の生理と発育と助産診断
- 第6回 ハイリスク妊娠の診断(1) 妊娠合併症、合併症妊娠、心理・社会的ハイリスク
- 第7回 ハイリスク妊娠の診断(2) 妊娠合併症、合併症妊娠、心理・社会的ハイリスク
- 第8回 ハイリスク妊婦の看護(1)
- 第9回 ハイリスク妊婦の看護(2)
- 第10回 妊娠期の保健指導(1)
- 第11回 妊娠期の保健指導(2)
- 第12回 分娩経過(1)
- 第13回 分娩経過(2)
- 第14回 分娩経過(3)
- 第15回 分娩期の助産診断と看護(1)
- 第16回 分娩期の助産診断と看護(2)
- 第17回 出生直後の新生児のアセスメントと看護
- 第18回 分娩期の異常のアセスメント(1)
- 第19回 分娩期の異常のアセスメント(2)
- 第20回 産褥経過の診断、褥婦の健康診査と産褥期の助産診断
- 第21回 進行性変化と乳房管理
- 第22回 妊娠期の保健指導(3:発表)
- 第23回 妊娠期の保健指導(4:発表)
- 第24回 産褥期の異常のアセスメントと看護
- 第25回 新生児の健康診査と子宮外適応の診断
- 第26回 新生児の異常のアセスメントと看護
- 第27回 産褥・新生児期の家族の課題・ニーズのアセスメントと看護
- 第28回 妊娠・産褥期の精神的変化と精神異常のアセスメントと看護
- 第29回 帝王切開術を受けた産婦のアセスメントと看護不妊治療を受けている人／子どもを失った人と家族のアセスメントと看護
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

単元受講の前には、Textや参考書籍を熟読する。

教科書

助産師基礎教育テキスト4～7

著者:

出版社：日本看護協会出版会

出版年：2014年度版

ISBN:

参考書

最新産科学 正常編

著者：荒木 勤

出版社：文光堂

出版年：2008

ISBN:

最新産科学 異常編

著者：荒木 勤

出版社：文光堂

出版年：2008

ISBN:

今日の助産-マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版

著者：北川 真理子 他

出版社：南江堂

出版年：2013

ISBN:

改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない！

著者：藤森 敬也

出版社：メディカ出版

出版年：2011

ISBN:

新訂第2版 マタニティアセスメントガイド

著者：吉沢 豊予子 他

出版社：真興交易医書出版部

出版年：2012

ISBN:

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

全回出席を原則とするその他：助産診断学単位取得者のみ助産技術学受講可とする

2015 Syllabus

科目名 生徒指導論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史	
テーマ 生徒指導の理論と実践を学ぶ	
授業の到達目標 生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。	
授業の概要 生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。	
内 容 第1回 生徒指導の領域と内容 — いわゆる「教育困難校」の一日 第2回 生徒指導の意義 — 校務分掌と組織(生徒指導体制は?) 第3回 生徒指導の方法 — ゼロ・トレランス方式を考える 第4回 グループ討議: ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か? 第5回 養護教諭の一日 — 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう 第6回 グループ討議: 養護教諭は生徒指導場でどのような役割を果たせるだろうか? 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方考える 第8回 グループ討議: いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう 第9回 生徒指導提要を読む: 学級担任・ホームルーム担任の指導 第10回 生徒指導提要を読む: 特別活動における生徒指導 第11回 グループ討議: 生徒を取り巻く社会と現実を考える 第12回 生徒指導提要を読む: 個別の課題を抱える児童生徒の指導(喫煙・飲酒・薬物乱用) 第13回 生徒指導提要を読む: 個別の課題を抱える児童生徒の指導(性に関する課題) 第14回 子どもの学校参加 — 問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するための試み 第15回 ケーススタディ — 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをすべきか?	
履修上の注意点	
教科書 生徒指導提要 著者: 文部科学省 出版社: 教育図書 出版年: 平成25年 ISBN:	
参考書 授業内で紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 看護管理学Ⅱ <Za>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子	
テーマ 医療の場における看護マネジメントの実際	
授業の到達目標 1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ. 2. 看護マネジメントにかかわる諸理論, 技法, 政策を理解する. 3. 経営参画者として, 組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.	
授業の概要 本講は, 看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ, 看護職者として医療チームの一員として, 身近な看護マネジメントのテーマを設定し, それにかかわる諸理論, 技法, 政策等を理解する. これらにより, 医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び, 看護サービスのあり方や医療経営への参画者として, また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.	
準備学習(予習・復習) ・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント, 看護をとりまく諸制度)について復習し, 本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って, 各メンバーが必要な事前学習を行う.	
内 容 第1回 オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)テーマの設定とグループ編成 第2回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習① 第3回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習② 第4回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習③ 第5回 グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習④ 第6回 グループごとにプレゼンテーション準備① 第7回 グループごとにプレゼンテーション準備② 第8回 学習成果のプレゼンテーション, 討議① 第9回 学習成果のプレゼンテーション, 討議② 第10回 学習成果のプレゼンテーション, 討議③ 第11回 学習成果のプレゼンテーション, 討議④ 第12回 学習成果のプレゼンテーション, 討議⑤ 第13回 学習成果のプレゼンテーション, 討議⑥ 第14回 看護実践とマネジメント 第15回 まとめ	
履修上の注意点 ・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療, 看護マネジメントに関する動向について, 先行研究, 文献のほか, ホームページ, 新聞等のメディアを活用しキャッチする.	
教科書 特に指定しない. 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (30%) 小テスト () 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (20%) グループ学習における課題への取り組み, 参加の度合, 発表, レポートにより総合的に評価する.	

2015 Syllabus

科目名 看護管理学Ⅱ <Zb>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定員 100
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	助産実践の基礎的な考え方や実践に必要な概念や考え方を学ぶ。母子の保健医療福祉現場における役割や業務を明確にし、助産師の役割機能を理解する。助産管理の理念と管理の構成要素、ならびに助産師の専門性による助産業務や対象の特殊性からもたらされる助産管理を学ぶ。
授業の到達目標	1. 助産師の定義・役割を理解する。2. わが国の母子保健を歴史的、統計、法や諸制度から知り、今後の課題を明らかにする。 3. 助産師活動に必要な諸理論・倫理を学び、助産過程を展開する能力を獲得する。4. 助産サービスの質管理に必要な概念を理解する。5. 周産期における安全管理とリスクマネジメントを学ぶ。6. 施設における助産業務管理ならびに地域母子保健について
授業の概要	講義およびグループワーク
準備学習(予習・復習)	
内 容	第1回 助産師の定義と業務・役割 第2回 助産の歴史と助産師教育 第3回 日本の母子保健の動向 第4回 世界の母子保健の動向 第5回 わが国の母子保健関連法と制度 第6回 保助看法とその他の助産師関連法 第7回 女性の健康と人権 第8回 周産期医療における質と安全の保証(院内助産システム含む) 第9回 助産師が行うケアを支える理論 第10回 助産実践の倫理 第11回 助産診断と助産過程 第12回 助産業務管理と地域母子保健 第13回 周産期におけるリスクマネジメント 第14回 助産サービスの質管理 第15回 助産サービス管理の実際 第16回 テスト
履修上の注意点	

教科書

助産師基礎教育テキスト1 2014年版 助産概論

著者: 山本あい子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2 2014年版 女性の健康とケア

著者: 吉沢豊予子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

助産師基礎教育テキスト3 2014年版 周産期における医療の質と安全

著者: 成田伸他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

新版助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ

著者: 福井トシ子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

参考書

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年: 2014

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 看護学原論Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子・小板橋 喜久代	
テーマ	これまでの学び、自らの経験を総括して、看護を通しての自立・共生・臨床智を活かした創造活動としての看護(学)について内省し探求する機会とする。改めて、実践科学の担い手として、社会の中での仕事の意味を考えることで、自らを発展させる能力と自己研鑽の必要性を確認し、職業人としての使命を自覚し涵養する
授業の到達目標	1.健医療福祉システムの中での、看護サービスの位置づけ・あり方について考察する2.臨床能力を高めるためのキャリア形成について、具体的なモデルを作ってみる3.補完代替療法の流れと看護実践について考察する4.近未来を創造していく者としての看護の役割拡大と方向性を推測しその責務について考察する
授業の概要	各自が事前課題として取り込んだ内容に基づいてディスカッションを行い、各自の考えを深めます。その後全体で報告会を行い、ディスカッションの内容を共有します。
準備学習(予習・復習)	・4回(各2コマ)に分けて授業展開します。・毎回のテーマについて、個人個人が事前学習とそのレポートを作成します。・実習体験からの疑問やマスコミあるいは社会の変化、社会のニーズ、広く看護を取り巻く状況についての情報を受けて、検討してみたいと思うことを、積極的に取り上げてみましょう。・レポートを作成するときには、個人のサブテーマ(焦点となる課題)を決めて、なぜその課題を取り上げたのか、どのような疑問があるのか、提案したいことは何か、参考文献(インターネット情報も含む)、など具体的に述べてください。毎回のテーマと検討の視点を参考にしてください。しかし、独自の検討の視点を挙げてもらうことを大いに推奨します。グループへの話題提供を行うとともに、ディスカッションの焦点課題を明示します。・グループワークにより、持ち寄ったレポートを検討し、課題を深め、グループとしての成果をまとめ、発表します。・グループ編成については、初回の授業で発表します。・毎回の個人レポート・グループワークへの参加度を総合して評価します。
内 容	第1回 保健・医療・福祉システムの中でのさまざまな看護の役割について、統合的に検討することでこれからの看護活動の拡大について考察する(1) 第2回 保健・医療・福祉システムの中でのさまざまな看護の役割について、統合的に検討することでこれからの看護活動の拡大について考察する(2) 第3回 看護師の資質が看護の臨床を発展させる看護の専門性を発揮するための看護師の資質の向上について検討する(1) 第4回 看護師の資質が看護の臨床を発展させる看護の専門性を発揮するための看護師の資質の向上について検討する(2) 第5回 臨床看護を進展させる(1)新たな看護療法の開発と臨床への導入について 第6回 臨床看護を進展させる(2)新たな看護療法の開発と臨床への導入について 第7回 これまでの看護から学び、現在・近未来の看護祖変革していく視点を持つ(1) 第8回 これまでの看護から学び、現在・近未来の看護祖変革していく視点を持つ(2)
履修上の注意点	テキストは適宜提示
教科書	未定
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (50)	授業中発表等 ()
参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <a>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子	
テーマ	保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。
授業の到達目標	1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。
授業の概要	総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。
準備学習(予習・復習)	事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。
内 容	第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)
参加度 (40)	
実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 **

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 植村 由美子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <c>**

クラス	配当回生 学部4回生						
講義期間 通年	定 員 10						
履修条件	クラス指定						
担当者 中橋 苗代							
<p>テーマ</p> <p>保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。</p>							
<p>授業の到達目標</p> <p>1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。</p>							
<p>授業の概要</p> <p>総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。</p>							
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。</p>							
<p>内 容</p> <p>第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う</p>							
<p>履修上の注意点</p>							
<p>教科書</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">試験 (0)</td> <td style="width: 50%;">小テスト (0)</td> </tr> <tr> <td>授業中課題 (30)</td> <td>授業中発表等 (30)</td> </tr> <tr> <td>参加度 (40)</td> <td></td> </tr> </table> <p>実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。</p>		試験 (0)	小テスト (0)	授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)	参加度 (40)	
試験 (0)	小テスト (0)						
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)						
参加度 (40)							

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <d>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <e>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行	
テーマ	保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。
授業の到達目標	1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。
授業の概要	総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。
準備学習(予習・復習)	事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。
内 容	第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (30)
参加度 (40)	
実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <f>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 野島 敬祐

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <g>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 野村 陽子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <h>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 通年	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	小野塚 元子	
テーマ	保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。	
授業の到達目標	1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。	
授業の概要	総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。	
準備学習(予習・復習)	事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。	
内 容	第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <i>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <J>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <k>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <I>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年 定 員 10

履修条件 クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <m>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 工藤 里香

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <n>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <○>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <p>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、専門看護職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

1.1～3回生までの自己の看護を振り返り、専門的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉チームの一員として、協働・連携することができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念をもちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する。その希望結果から、担当教員を決定する。実習方法は、担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明する。

内 容

第1回 実習ガイダンス進め方については、各担当教員に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ
 第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 **看護研究演習Ⅱ <*b>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	
テーマ	これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。
授業の到達目標	<p>1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。</p> <p>6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。</p>
授業の概要	進め方に関しては担当教員の指示に従う。
準備学習(予習・復習)	自らの学習課題を明確にして臨むこと。
内 容	<p>第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス 第2回 各教員によるガイダンス 第3回 研究課題に関する文献検討 第4回 同上 第5回 同上 第6回 研究目的の明確化 第7回 研究計画書作成 第8回 同上 第9回 同上 第10回 計画に沿い、データ収集・分析 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上 第16回 同上 第17回 同上 第18回 同上 第19回 同上 第20回 同上 第21回 論文作成 第22回 同上 第23回 同上 第24回 同上 第25回 同上 第26回 研究発表の準備 第27回 研究発表の準備 第28回 研究発表 第29回 研究発表 第30回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*d〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ < * f >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 野島 敬祐

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <*g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 野村 陽子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <*i>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

- 第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員によるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 論文作成
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 研究発表の準備
- 第27回 研究発表の準備
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*j〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ
 第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 **看護研究演習Ⅱ <*k>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子	
テーマ	これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。
授業の到達目標	<p>1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。</p> <p>6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。</p>
授業の概要	進め方に関しては担当教員の指示に従う。
準備学習(予習・復習)	自らの学習課題を明確にして臨むこと。
内 容	<p>第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス 第2回 各教員によるガイダンス 第3回 研究課題に関する文献検討 第4回 同上 第5回 同上 第6回 研究目的の明確化 第7回 研究計画書作成 第8回 同上 第9回 同上 第10回 計画に沿い、データ収集・分析 第11回 同上 第12回 同上 第13回 同上 第14回 同上 第15回 同上 第16回 同上 第17回 同上 第18回 同上 第19回 同上 第20回 同上 第21回 論文作成 第22回 同上 第23回 同上 第24回 同上 第25回 同上 第26回 研究発表の準備 第27回 研究発表の準備 第28回 研究発表 第29回 研究発表 第30回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加状況, 論文および発表の内容から総合的に行う。(要項に添付している評価基準による)

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*Ⅰ〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*m〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 工藤 里香

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

- 第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員によるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 論文作成
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 研究発表の準備
- 第27回 研究発表の準備
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*n〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

- 第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員によるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 論文作成
- 第22回 同上
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 研究発表の準備
- 第27回 研究発表の準備
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*o〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈*p〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が関心をもったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確にすることができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明することができる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。

6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

準備学習(予習・復習)

自らの学習課題を明確にして臨むこと。

内 容

第1回 看護研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各教員によるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 同上
 第5回 同上
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究計画書作成
 第8回 同上
 第9回 同上
 第10回 計画に沿い、データ収集・分析
 第11回 同上
 第12回 同上
 第13回 同上
 第14回 同上
 第15回 同上
 第16回 同上
 第17回 同上
 第18回 同上
 第19回 同上
 第20回 同上
 第21回 論文作成
 第22回 同上
 第23回 同上
 第24回 同上
 第25回 同上
 第26回 研究発表の準備
 第27回 研究発表の準備
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

参加状況、論文および発表の内容から総合的に行う。（要項に添付している評価基準による）

2015 Syllabus

科目名 **プライマリケア実習Ⅲ**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 伊藤 恵美子・小野塚 元子・工藤 里香・富永 真己・西村 美八	
テーマ	人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康課題を解決するための過程を理解する。
授業の到達目標	1.プライマリファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討し実施できる。2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らかにするとともに、解決するために、既存サービスに加え新たなサービスが形成される過程を理解できる。
授業の概要	1)訪問看護ステーションまたはディケア・ディサービスいずれかでの実習(3日間) 2)山科区老人クラブの高齢者の体力測定の間を活用しての健康教育の企画・実施 3)1・2の前後に演習・まとめを行う
準備学習(予習・復習)	予習:これまで行った授業、演習、実習の内容を復習した上で臨むこと。特に、訪問看護ステーション、ディケア・ディサービスの概要と関連法規について、健康教育について事前に学習しておくこと。事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。復習:実習ガイダンスの内容、各実習で学んだ内容の要点を整理する。
内 容	第1回 詳細は、プライマリケア実習Ⅲ実習要項参照
履修上の注意点	出欠席、遅刻等の対応については実習ガイダンスで説明を行う。
教科書	ヘルスケアシステムⅠ、Ⅱで用いたテキスト。 著者: 出版社: 出版年: ISBN: その他、これまでの授業で用いたテキスト。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:
参考書	「国民衛生の動向 2014/2015」 著者: 出版社: 一般財団法人厚生労働統計協会 出版年: ISBN:
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 健康教育50%、施設実習40%、レポート10%の割合で評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <a>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈b〉**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 植村 由美子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <c>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <d>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <e>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <f>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 野島 敬祐

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <g>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 野村 陽子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <h>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <i>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <j>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <k>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <I>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <m>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 工藤 里香

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <n>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 10

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (30)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <○>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	富永 真己	
テーマ	これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。	
授業の到達目標	1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。	
授業の概要	キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。	
準備学習(予習・復習)	主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。	
内 容	第1回 オリエンテーション(一斉) 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉) 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉) 第7回 エクステンション事業への参加 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉) 第9回 災害看護について(一斉) 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1) 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2) 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1) 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2) 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉) 第15回 学習計画の評価と修正	
履修上の注意点	参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。	
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (70)	授業中発表等 (30)	
参加度 ()		

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <p>**

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 後期 定員 10

履修条件 クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

キャリア開発演習Ⅵはこれまでのキャリア開発演習の集大成です。卒業を目前に各自が自分自身のキャリアについて考え、看護の幅を広げるために必要な内容です。

準備学習(予習・復習)

主体的に自分自身の計画を立てて臨みます。講義終了後は、リフレクションペーパーに自分の意見を整理します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第4回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第5回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第6回 自己の学習計画の実施(WOCの講義済み)(半分一斉)
- 第7回 エクステンション事業への参加
- 第8回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第9回 災害看護について(一斉)
- 第10回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(1)
- 第11回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)講義(2)
- 第12回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(1)
- 第13回 心身の健康を守るーリラクゼーションの活用ー(一斉)演習(2)
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第15回 学習計画の評価と修正

履修上の注意点

参考図書は適宜提示します。日程はまだ予定です。決定次第、毎回ポータルサイトにてアナウンスを行います。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 看護教育学Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定 員 100
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
1. 看護継続教育2. 看護職のキャリア発達・開発	
授業の到達目標	1. 看護基礎教育・看護継続教育について理解する. 2. 看護職のキャリア発達・開発と教育機会について理解する.
授業の概要	本講は、看護教育学Ⅰでの学びを踏まえ、看護教育及び看護職としてのキャリア発達に関するテーマを設定し、それにかかわる諸理論、技法、政策等を理解する。これらにより、看護教育の実際を多様な側面から学び、看護職として、その専門性と果たす役割について学習する。
準備学習(予習・復習)	・看護教育学Ⅰでの学習内容(看護教育に係る基本的理論、看護教育制度、キャリア発達)について復習し、本講に臨む。・グループごとのテーマに沿って、各メンバーが必要な事前学習を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション、授業の進め方(阿部)看護教育についての外観(阿部) 第2回 キャリア発達・開発につながる教育(阿部)グループによる課題学習① 第3回 グループによる課題学習②(阿部) 第4回 グループによる課題学習③(阿部) 第5回 グループによる課題学習④(阿部) 第6回 学習内容の共有－発表①(阿部) 第7回 学習内容の共有－発表②(阿部) 第8回 学習内容の共有－発表③(阿部) 第9回 海外の看護教育(梶谷)グループによる課題学習① 第10回 グループによる課題学習②(梶谷) 第11回 グループによる課題学習③(梶谷) 第12回 学習内容の共有－発表①(梶谷) 第13回 学習内容の共有－発表②(梶谷) 第14回 学習内容の共有－発表③(梶谷) 第15回 まとめ(梶谷)
履修上の注意点	・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ。・看護教育、教育全般に関する動向について、先行研究、文献のほか、ホームページ、新聞等のメディアを活用しキャッチする。
教科書	特に指定しない。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：
参考書	看護師のキャリア論 著者： 藤原裕美子 出版社： ライフサポート社 出版年： 2007 ISBN： 978-4904084014 キャリア・ダイナミクス 著者： Schein, Edbar H.(二村敏子, 三善勝代訳) 出版社： 白桃書房 出版年： 1991 ISBN： 978-4561221623
成績評価	試験 (20%) 小テスト () 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (20%)

a70104d150

参加度（20%）

レポート, 課題発表, および授業参加度により総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 高度実践看護論

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・堀 妙子

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2. 実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅲ-1～5などで経験した事をもとに、臨地で行われていた看護を振り返り、高度実践看護のあり方について学ぶ。

授業の到達目標

1. 看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる2. 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理していく重要について説明できる3. 高度実践看護を行うための基礎となる、様々な健康課題を有する患者の全身状態の査定方法、および看護援助方法について説明できる4. 高度実践看護を行うための基礎となる、看護技術を理解し実施できる5. チーム医療における看護及び多職種役割を理解し、対象者を中心とした協働のあり方について説明できる

授業の概要

高度実践看護に関する講義及びディスカッションを行うとともに、高度実践看護の実践を想定した、シミュレーション事例をグループで作成し、実際にシミュレーションを実施し、その評価を行う。

準備学習(予習・復習)

4回生前期までに学んだことを全て活用しながら行う授業です。実習を中心として学びの振り返りを必ず行ってから、参加して下さい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 高度実践看護とは
- 第2回 日本における高度実践看護師と専門看護師の教育制度・役割と機能
- 第3回 高度実践看護とチーム医療
- 第4回 専門看護師の活動の実際と課題
- 第5回 シミュレーション事例作成に関するオリエンテーション
- 第6回 シミュレーション事例の作成①
- 第7回 シミュレーション事例の作成②
- 第8回 シミュレーション事例の作成③
- 第9回 シミュレーション事例の作成④
- 第10回 シミュレーション事例の作成⑤
- 第11回 事例に対する看護演習①
- 第12回 事例に対する看護演習②
- 第13回 事例に対する看護演習③
- 第14回 事例に対する看護演習④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

この授業は、主体的に学ぶ姿勢を重視していますので、高度実践看護に対する関心を持って受講するように

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 助産技術学

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子・工藤 里香・常田 裕子	
テーマ	
各期のマタニティケアを根拠に基づいて計画的に実践する基礎的な助産技術を養う	
授業の到達目標	
1 周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な助産を理解し、経過に沿った診断に基づいて実践できる2 家族形成期にある母児および家族の発達課題について理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる3 妊娠・分娩・育児期の母児と家族の健康状態と課題を身体的、心理的、社会的側面から理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる4 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりの支援ニーズを診断し、それに基づいて実践できる	
授業の概要	
周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児の健康問題と家族の課題に関するニーズを満たす助産技術を学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	
各回の授業に該当するテキスト・参考図書は事前に確認すること授業で学習した各技術は、自己演習を通して確実に手技を習得すること	
内 容	
第1回	オリエンテーション助産に必要な知識、技術の復習1(バイタル、清拭、浣腸 導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測、レオポルド触診、乳房ケア等)
第2回	助産に必要な知識、技術の復習2(バイタル、清拭、浣腸 導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測、レオポルド触診、乳房ケア等)
第3回	妊娠期・産褥期の保健指導の方法と立案(1)
第4回	妊娠期・産褥期の保健指導の方法と立案(2)
第5回	分娩経過と助産ケア・分娩介助技術(1)(産痛緩和、骨盤位分娩、フリースタイル分娩を含む分娩介助のVTR視聴などを含む)
第6回	分娩経過と助産ケア・分娩介助技術(2)(産痛緩和、骨盤位分娩、フリースタイル分娩を含む分娩介助のVTR視聴などを含む)
第7回	入院時の産婦へのケア(入院時の診断・分娩に必要な物品／機器の準備)
第8回	分娩第1期の産婦およびその家族への援助方法
第9回	分娩第1期の援助:ロールプレイ(1)
第10回	分娩第1期の援助:ロールプレイ(2)
第11回	分娩介助方法(1)(ファントームを用いたデモンストレーション、人工破膜、縫合の介助、出血時や異常分娩時の対応などを含む)
第12回	分娩介助方法(2)(ファントームを用いたデモンストレーション、人工破膜、縫合の介助、出血時や異常分娩時の対応などを含む)
第13回	分娩介助方法:ロールプレイ(1)
第14回	分娩介助方法:ロールプレイ(2)
第15回	分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)(1)
第16回	分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)(2)
第17回	分娩監視装置の判読方法
第18回	分娩介助方法:ロールプレイ(VTRIによる検討)
第19回	分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)(1)
第20回	分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)(2)
第21回	入院から分娩終了までのロールプレイ(1)(直接介助、間接介助、新生児係)
第22回	入院から分娩終了までのロールプレイ(2)(直接介助、間接介助、新生児係)
第23回	入院から分娩終了までのロールプレイ(3)(直接介助、間接介助、新生児係)
第24回	入院から分娩終了までのロールプレイ(4)(直接介助、間接介助、新生児係)
第25回	新生児蘇生法(基礎知識)
第26回	新生児蘇生法(実技:アセスメントと方法)
第27回	産褥期の退院指導および継続看護(新生児訪問、地域連携含む)の方法
第28回	継続看護の事例検討
第29回	妊娠期の保健指導の実際(グループ発表)
第30回	助産技術のまとめ(事例とその対応)なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。
履修上の注意点	
全回出席が原則です。第2実習室での演習が中心となります。	
教科書	

今日の助産 改訂第3版

著者： 北村真理子ら

出版社： 南江堂

出版年： 2013

ISBN:

参考書

最新産科学正常編改訂第22版

著者： 荒木勤

出版社： 文光堂

出版年： 2012

ISBN:

最新産科学異常編改訂第22版

著者： 荒木勤

出版社： 文光堂

出版年： 2012

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2014年版第4巻

著者： 森恵美

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2014

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2014年版第5巻

著者： 町浦美智子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2014

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2014年版第6巻

著者： 横尾京子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2014

ISBN:

助産師基礎教育テキスト2014年版第7巻

著者： 遠藤俊子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2014

ISBN:

改訂第2版新生児蘇生法テキスト

著者： 田村正徳

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2011

ISBN:

胎児心拍数モニタリング集中トレーニング

著者： 池田智明

出版社： メディカ出版

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験は筆記試験、実技試験、口頭試問となります。

2015 Syllabus

科目名 助産学実習

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・神崎 光子・工藤 里香・常田 裕子

テーマ

母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母子ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、健康レベルに応じた助産活動を実践できる能力を養う。

授業の到達目標

1 周産期にある母子ならびにその家族の健康レベルを経過にそって査定し、健康の増進、疾病予防に必要な看護援助について理解を深める事ができる。①妊婦と胎児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。②産婦と胎児の健康診査の実施ならびに分娩経過を査定し、助産過程を展開できる。③分娩経過中の異常兆候を早期に発見し、その対処方法を実践する。④褥婦と新生児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。⑤家庭訪問(新生児訪問)を通じて褥婦と新生児の保健指導等の看護援助が実践できる。2 産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる。3 母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、保健医療福祉サービスの継続性(連携)について実践できる。4 周産期における助産管理の実際について学ぶ。5 助産師としての姿勢を身につける。

授業の概要

1 方法 1)実習時期 5月:分娩見学 6月~7月:受持ち事例の展開 (但し、分娩介助10例に到達しない場合は期間延長) 2)総合実習(2単位)を含む2 実習内容 1)10例の分娩介助、集団保健指導、継続事例の個別指導を行う。2)カンファレンスを適時実施する 全体では中間・最終カンファレンス(事例検討等)を学内で実施する*教員が必要と認めた場合は全員を招集して補習講義、カンファレンスを行うことがある。

準備学習(予習・復習)

*実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学ⅡB等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめる。

内 容

第1回 5月:分娩見学

第2回 6月~7月:受持ち事例の展開

履修上の注意

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

指定された記録物、実習評価表、カンファレンス、学習・実習態度等により総合的に評価する。補習は実施しない。

2015 Syllabus

科目名 看護倫理Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 その他	定員 100
履修条件 「看護倫理Ⅰ」を修得済み	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
看護倫理Ⅰを踏まえ、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における倫理的課題について考察する。	
授業の到達目標	
1. 事例検討を通して、倫理観に基づく看護実践について考察する。 2. グループディスカッションにおいて、自身の看護倫理に関する考えを述べるができる。	
授業の概要	
臨床における倫理的問題に関する感受性を高められるよう、事例を用いて、倫理的問題や課題を分析します。	
準備学習(予習・復習)	
事例はあらかじめ、こちらで準備していますが、各自がこれまでの経験に基づいて事例を提示することも歓迎です。	
内 容	
第1回	1. 看護者の倫理綱領について
第2回	事例検討①: 看護ケアを行う看護師の苦悩 - 看護ケアが患者の症状悪化を招いてしまうとき・がん患者に対する化学療法の是非に関する疑義照会
第3回	事例検討②: 認知症の術後患者を抑制・拘束せずに安楽に過ごさせるための看護師の挑戦
第4回	事例検討③: 延命措置拒否のリビングウィルを持った救急患者の意思決定・急激な発症により生命危機状態に陥った患者・家族のいのちの捉え方
第5回	事例検討④: 入院直後に急死した患者の遺族の気持ち・B型肝炎の夫の唯一のドナー候補者となった妻の苦悩
第6回	事例検討⑤: 患児へのインフォームド・アセントをどのように展開するか - 両親が拒否する場合・患者の家族による暴言と看護ケアの妨害
第7回	事例検討⑥: 統合失調症患者の意思決定
第8回	まとめ
履修上の注意点	
事例検討ではディスカッションが中心になります。積極的にグループに貢献してください。	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (60)	授業中発表等 (40)
参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 芸術と癒し〈Za〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術への造詣を深めることで文化的価値の感じ方、自分自身の追及力を養う。

授業の到達目標

さまざまな分野の芸術を広い視野で感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として知るだけでなく、実際に肌で芸術を感じてもらう。

授業の概要

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に体感してもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を書いて提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常でその機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
- 第2回 笑いと芸術の関係
- 第3回 香りと芸術
- 第4回 全ての芸術の本質とは？
- 第5回 情報化社会での芸術評価
- 第6回 芸術における自然性
- 第7回 自律神経系と芸術の関わり
- 第8回 五感で捉える芸術
- 第9回 音楽と芸術
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理
- 第11回 芸術の心理的効果とその実験
- 第12回 ミュージカルとオペラ
- 第13回 夢(右脳)と芸術
- 第14回 器と芸術
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・特別な理由のない遅刻は出席と認めません。・私語を再三の注意にも関わらず行なった場合は、授業の迷惑行為とみなし、退席してもらいます。また、その場合、単位は認めません。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の提出物及び出席は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2015 Syllabus

科目名 日本人の宗教と福祉 <Z>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといてよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的な側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習(予習・復習)

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように枠づけるか
- 第2回 日本人の宗教観の原理的な側面をさぐる(1)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原理的な側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1)観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2)野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—
- 第7回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
- 第8回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
- 第9回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第10回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第11回 眼の霊力について考える—つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第12回 盗む空海(1)—神話的空海の仏教伝承
- 第13回 盗む空海(2)—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の世界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 大明堂

出版年: 1991

ISBN:

宗教学入門

著者: 棚次正和・山中弘 編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005

ISBN:

その他授業内で指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 医療リスクマネジメント

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 山野 薫

テーマ

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

授業の到達目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解する。2. 医療の質を向上させることとリスクマネジメントの関係性について理解する。3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解する。4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解する。

授業の概要

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

準備学習(予習・復習)

授業後にテキストや参考書で知識を深め、ノートの内容を充実させること。

内 容

- 第1回 医療における安全とその管理の概要
- 第2回 医療の質とリスクマネジメント
- 第3回 診療記録の共有(公開)とリスクマネジメント
- 第4回 医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
- 第5回 チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
- 第6回 理学療法士の業務における感染症の概要
- 第7回 理学療法士の業務における感染症の対策
- 第8回 病院施設の管理体制(医療安全・感染症)

履修上の注意点

本授業は、理学療法士(医療職)の養成の一端を担っています。理学療法士(医療職)は、患者さんやその家族との信頼関係を構築することが何よりも重要です。それには、その人の誠実さが第一ですので、「繰り返し遅刻」、「授業中の私語」、「あからさまな居眠り」等は厳しくチェックし、参加度20%に含めて成績に反映させます。

教科書

理学療法リスク管理・ビューポイント

著者: 丸山仁司(編集)

出版社: 文光堂

出版年: 2007

ISBN: 9784830643415

参考書

リハビリテーション リスク管理ハンドブック

著者: 亀田メディカルセンター(編集)

出版社: MEDICAL VIEW

出版年: 2008

ISBN: 9784758306942

在宅・訪問リハビリテーション リスク管理実践テキスト

著者: 石黒友康・他(監修)

出版社: 診断と治療社

出版年: 2009

ISBN: 9784787817488

リスク管理 その統合と解釈

著者: 嶋田智明・他(常任編集)

出版社: 文光堂

出版年: 2010

ISBN: 9784830643705

成績評価

試験 (80)

小テスト(実施しない)

a90101a150

授業中課題（実施しない）

授業中発表等（参考にする）

参加度（20）

「履修上の注意点」に同じ。

2015 Syllabus

科目名 人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 林正 健二	

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

授業の到達目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性と恒常性を理解する。

授業の概要

事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので、演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うのでそれに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。

準備学習(予習・復習)

高校時代、理系の科目の予習をした経験が無い学生が多いので、どのように予習すればよいかは、演習中に解説する。1回につき1時間以上の予習時間が必要である。復習時間は理解の程度により自分で判断できる。

内 容

- 第1回 細胞(人体を構成するしくみ1)
- 第2回 組織(人体を構成するしくみ2)
- 第3回 皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ1)
- 第4回 皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ2)
- 第5回 骨格系1(骨の構造と機能)
- 第6回 骨格系2(頭蓋、胸郭、脊柱)
- 第7回 骨格系3(上肢帯と上肢)
- 第8回 骨格系4(骨盤と下肢)
- 第9回 筋系1(筋の構造と機能)
- 第10回 筋系2(頭部、頸部、胸部)
- 第11回 筋系3(上肢、背部)
- 第12回 筋系4(腹部、下肢)
- 第13回 神経系1(神経系の構造と機能)
- 第14回 神経系2(中枢神経系と末梢神経系)
- 第15回 感覚器系1(視覚)
- 第16回 感覚器系2(聴覚他)

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者: 林正健二他

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系

著者: 坂井建雄他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2013

ISBN:

参考書

イラスト解剖学

著者: 松村譲児

出版社: 中外医学社

出版年: 2014

ISBN:

日本人体解剖学(上巻)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000

ISBN:

ギャング生理学

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善出版

出版年: 2014

ISBN:

人体の構造と機能

著者: 林正健二他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2016

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

中間・期末試験90%(4肢または5肢択一式の客観試験)、小テスト10%(主に穴埋め形式)

2015 Syllabus

科目名 人体の構造と機能演習Ⅱ(呼吸・循環系、消化系など)

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	林正 健二	

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

授業の到達目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性および恒常性を理解する。

授業の概要

事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので、予習は必須である。演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うので、それに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。

準備学習(予習・復習)

授業の概要に述べた予習と復習の仕方は、実際の演習で確認できる。1回につき1時間以上の予習が必要であり、復習は理解の程度によって自分で判断できる。

内 容

- 第1回 血液の成分(血球、血漿、造血)
- 第2回 血液の機能(凝固、線溶、血液型)
- 第3回 循環器系(心臓の構造と機能)
- 第4回 循環器系(血管とリンパ系)
- 第5回 呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、肺)
- 第6回 呼吸器系(換気とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節)
- 第7回 消化器系(食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道)
- 第8回 消化器系(胃・小腸・肝臓・膵臓の構造と機能)
- 第9回 消化器系(消化と吸収、大腸の構造と機能)
- 第10回 泌尿器系(腎臓の機能と働き、尿管・膀胱・尿道と排尿の生理)
- 第11回 生殖器系(女性生殖器の構造と機能、性周期)
- 第12回 生殖器系(妊娠・出産、乳腺の構造と機能、男性生殖器の構造と機能)
- 第13回 内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体)
- 第14回 内分泌系(副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他)
- 第15回 免疫系

履修上の注意点

演習中、私語と飲食は厳禁。欠席した場合、プリント配付の有無を友人に聞いて確認し、配付された場合は教員の研究室(E620)に取りに来る事。演習中は質問の時間が取れないので、毎回配付するアンケート用紙に記入して提出して下さい。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学 林正健二他

著者:

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

参考書

イラスト解剖学

著者: 松村譲児

出版社: 中外医学社

出版年: 2014

ISBN:

日本人体解剖学(下巻)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000

ISBN:

ギャング生理学

著者： 岡田泰伸監訳

出版社： 丸善出版

出版年： 2014

ISBN:

人体の構造と機能

著者： 林正健二他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2016

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

中間・期末試験90%(4肢又は5肢択一の客観試験)、小テスト10%(穴埋め形式)

2015 Syllabus

科目名 **運動学**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	甲斐 義浩	
テーマ	四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解を促進する。	
授業の到達目標	1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。	
授業の概要	解剖生理学で学んだ知識をベースに、運動器を主とする障害学の基礎となる身体運動のメカニズムについて解説する。	
準備学習(予習・復習)	運動学の参考書の購読	
内 容	第1回 運動学および生体力学の基礎 第2回 運動器の構造と機能(総論) 第3回 肩関節の運動学 I 第4回 肩関節の運動学 II 第5回 肘関節の運動学 I 第6回 手関節および手指の運動学 第7回 脊柱の運動学 I 第8回 脊柱の運動学 II 第9回 股関節の運動学 I 第10回 股関節の運動学 II 第11回 膝関節の運動学 I 第12回 膝関節の運動学 II 第13回 足関節の運動学 I 第14回 足関節の運動学 II 第15回 まとめ	
履修上の注意点	期末試験の受験は講義の3分の2以上の出席を必要とする。	
教科書	基礎運動学 第6版補訂 著者： 中村隆一 出版社： 医歯薬出版株式会社 出版年： 2012 ISBN:	
	エッセンシャルキネシオロジー 著者： Paul Jackson Mansfield , Donald A. Neuman 出版社： 南江堂 出版年： 2010年10月 ISBN:	
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 著者： 坂井建雄(監訳) 出版社： 医学書院 出版年： 2011 ISBN:	
成績評価	試験 (90) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (10)	

2015 Syllabus

科目名 **病理学**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者 宮本 尚		
テーマ	疾病の成り立ち、徴候、予後について	
授業の到達目標	疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。	
授業の概要	病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 総論1-6:概要 第2回 総論7-8:免疫、炎症・感染症 第3回 総論4:腫瘍 第4回 総論11:老化 第5回 総論10:放射線障害 第6回 総論12:先天異常、奇形 第7回 各論1:循環器 第8回 各論2:呼吸器 第9回 各論3:消化器 第10回 各論4:神経系 第11回 各論5:運動器 第12回 各論6:泌尿器・生殖器 第13回 各論7:代謝・内分泌系 第14回 各論8:造血器 第15回 各論9:皮膚・感覚器	
履修上の注意点	3分の1以上の欠席を認めない(原則として)	
教科書	標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版 著者： 梶原博毅・横井豊治編 出版社：医学書院 出版年：2010 ISBN:	
参考書	カラーで学べる病理学 著者： 渡辺照男 出版社：ヌーベルヒロカワ 出版年：平成21年 ISBN:	
成績評価	試験 (80) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 リハビリテーション概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 兒玉 隆之・畑 正樹	
テーマ 「リハビリテーション」とは何か、その本質と仕組みの理解	
授業の到達目標 リハビリテーション医学が、歴史的にどのように発展したかを考察することにより、リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で、理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら、これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。	
授業の概要 (畑正樹／8回)リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で、脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて教授する。(兒玉隆之／7回)リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史、障害の概念と分類、障害の心理・社会的側面、リハビリテーションのプロセス・段階・職種、リハビリテーションとチーム医療の関わりなど、リハビリテーションの現状を教授する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 リハビリテーション医学の歴史 第2回 リハビリテーション医学の定義・概念 第3回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(上肢) 第4回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(体幹) 第5回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(下肢) 第6回 小児整形疾患に対するリハビリテーション医学 第7回 内部障害に対するリハビリテーション医学 第8回 脳・脊髄障害に対するリハビリテーション医学 第9回 リハビリテーションの概念・理念・定義 第10回 「健康と障害」の概念と分類 第11回 障害の心理、心理的・社会的問題と受容 第12回 リハビリテーション過程 第13回 リハビリテーションの諸段階 第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ 第15回 ADL, QOLの概念	
履修上の注意点 3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 著者: 上好昭孝, 土肥信之 出版社: 永井書店 出版年: 2011 ISBN:	
成績評価 試験 (80) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 **保健医療福祉論**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 並河 孝・村上 貴士

テーマ

日本における保健医療福祉に関連する政策・制度・法律についての基礎的理解

授業の到達目標

1. 地域で生活する人びとの健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。2. 地域の保健医療福祉政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 障害者・高齢者における社会生活上の問題点
- 第2回 地域の保健・福祉制度とサービス
- 第3回 グループワーク「今、地域で何が出来ますか？」
- 第4回 地域での理学療法士の役割と連携
- 第5回 我が国の社会保険制度について
- 第6回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
- 第7回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
- 第8回 今後の医療保険制度について

履修上の注意点

教科書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

国民福祉の動向

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

2015 Syllabus

科目名 理学療法概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 小田桐 匡・濱出 茂治	
テーマ	理学療法学および理学療法士の職能について基礎的な理解を促進する。
授業の到達目標	本講義では、理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、治療のプロセスや方法をはじめ、4年間のうちに習得する知識、技術の基礎となる事柄を学習する。
授業の概要	我が国の社会保障制度の概要、リハビリテーション医学および理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、障害評価や治療のプロセスおよび方法など、4年間の理学療法教育の基礎的事項を学習する。
準備学習(予習・復習)	教科書、参考書にとどまらず、興味のあるリハビリテーション関連書籍を読み、理解を深めて欲しい。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 リハビリテーションと理学療法—その歴史と思想—</p> <p>第3回 世界の理学療法とリハビリテーションの情勢</p> <p>第4回 理学療法士の職能</p> <p>第5回 理学療法の対象と専門領域</p> <p>第6回 障害の構造—ICIDHとICF—</p> <p>第7回 理学療法における評価</p> <p>第8回 理学療法における治療</p> <p>第9回 理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について</p> <p>第10回 理学療法士の倫理</p> <p>第11回 理学療法の教育課程</p> <p>第12回 医療・福祉情勢</p> <p>第13回 理学療法と研究</p> <p>第14回 理学療法士の組織と運営</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。
教科書	<p>理学療法学概論 第3版 理学療法学テキストI</p> <p>著者:</p> <p>出版社: 神陵文庫</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 4915814327</p>
参考書	<p>リハビリテーションの思想—人間復権の医療を求めて</p> <p>著者: 上田敏</p> <p>出版社: 医学書院</p> <p>出版年: 2004 ISBN: 4260244264</p> <p>リハビリテーション 新しい生き方を創る医学</p> <p>著者: 上田敏</p> <p>出版社: 講談社</p> <p>出版年: 1996 ISBN: 406257117X</p> <p>ICF(国際生活機能分類)の理解と活用—人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか</p> <p>著者: 上田敏</p> <p>出版社: きょうされん</p> <p>出版年: 2005 ISBN: 4894910969</p>

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

著者： 障害者福祉研究会

出版社： 中央法規出版

出版年： 2002

ISBN: 4805844175

ICF(国際生活機能分類)活用の試み

著者： 国立特別支援教育総合研究所

出版社： ジアース教育新社

出版年： 2005

ISBN: 492112437X

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

試験成績のみならず、レポート課題成績、出席点も成績評価に含まれる

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習 I (骨・関節の触察)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 松尾 奈々・宮崎 純弥	

テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触察を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総論(運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触診法)
- 第3回 骨の視診・触察(指骨、手根骨)
- 第4回 手関節の触察
- 第5回 骨の視診・触察(橈骨、尺骨、上腕骨)
- 第6回 肘関節の触察
- 第7回 骨の視診・触察(肩甲骨、鎖骨)
- 第8回 上肢帯と肩関節の触察
- 第9回 骨の視診・触察(脛骨、腓骨、足根骨)
- 第10回 足関節の触察
- 第11回 骨の視診・触察(大腿骨、膝蓋骨)
- 第12回 膝関節の触察
- 第13回 骨の視診・触察(寛骨)
- 第14回 股関節の触察
- 第15回 骨の視診・触察(脊柱)

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリ着用は厳禁とする。パートナーを傷つけないように爪を短く切る。いつでも実習に行ける服装で来ること。授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

教科書

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論・身体の面と軸・骨/関節・靭帯

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9784830643446

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9784830643453

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系

著者: 坂井建雄

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN: 9784260010689

参考書

成績評価

試験（50%）

授業中課題（）

参加度（）

小テスト（実技試験50%）

授業中発表等（）

2015 Syllabus

科目名 医学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 宮本 尚	
テーマ	
医学概論: 医学が辿ってきた歴史を振り返る事で、最新の医療の成り立ちを知る	
授業の到達目標	
古代から最新の医療までを系統的に知る事で、臨床現場での医療関係者との円滑な連携、及び患者と家族への対人援助職としての役割の再認識、さらには日本が直面している超高齢者社会及び少子化社会での医療の方向性を学ぶ	
授業の概要	
[テキスト授業/全15回]	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 先史時代の医療～インドの医療(テキスト6～27ページ)	
第2回 中国の医学～プレ・コロンビアの医学(テキスト27～46ページ)	
第3回 エジプトの医学～ギリシャの医学(テキスト46～77ページ)	
第4回 エルトリアの医療～ローマの医学(テキスト77～95ページ)	
第5回 修道院とビザンチンの医学～アラビアの医学(テキスト95～110ページ)	
第6回 大学の誕生～15世紀の医学(テキスト110～128ページ)	
第7回 16世紀の医学(テキスト128～142ページ)	
第8回 17世紀の医学～樽を叩く医者(テキスト142～159ページ)	
第9回 巨人モルガーニ～動物の磁性(テキスト159～178ページ)	
第10回 体の単位～パスツールの犬(テキスト178～201ページ)	
第11回 無菌法～防衛の細胞(テキスト201～223ページ)	
第12回 エンドウを研究する修道士～無意識の発見(テキスト223～241ページ)	
第13回 アレルギー: ある不思議な物語～遺伝子の問題(テキスト241～269ページ)	
第14回 臓器移植の時代～遠隔医療とバーチャル・リアリティ(テキスト269～297ページ)	
第15回 アルツハイマー病～21世紀: 未来が待つ(テキスト297～313ページ)	
履修上の注意点	
過去の医療や医学が果たしてきた役割を学ぶ	

教科書

医学の歴史

著者: ルチャーノ・ステルペローネ 著 小川 照 訳

出版社: 原書房

出版年:

ISBN:

参考書

ホルモンハンター・アドレナリンの発見

著者: 石田三雄 著

出版社: 京都大学学術出版会

出版年:

ISBN:

セレンディピティーと近代医学

著者: モートン・マイヤーズ 著 小林力 訳

出版社: 中央公論新社

出版年:

ISBN:

遺伝子医療革命

著者: フランシス・S・マイヤーズ 著 矢野真千子 訳

出版社: NHK出版

出版年:

ISBN:

輸血医ドニの人体実験

著者： ホリー・タッカー 著 寺西のぶ子 訳

出版社： 河出書房新社

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

再試験:レポート提出(欠席回数も考慮する)

2015 Syllabus

科目名 **統計学基礎論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 奈田 哲也	
テーマ 統計学の基礎的な知識を修得する。	
授業の到達目標 理学療法に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。	
授業の概要 将来、理学療法に関する論文を読んだり、論文を書く際に、内容を適切に理解したり、伝えたりできるように、データ分析の基本的な知識を身につけることを目的とする。	
準備学習(予習・復習) 講義で習った内容を活かしながら、新聞や雑誌等で取り上げられているデータを読み取ってみる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 調査方法とデータの種類 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 基本統計量:代表値 第5回 基本等計量:ちらばり 第6回 確率分布(二項分布) 第7回 確率分布(正規分布) 第8回 グラフ化と分割表 第9回 散布図と相関係数 第10回 回帰分析(回帰式) 第11回 回帰分析(分散分析表) 第12回 分割表の分析(オッズ比、連関係数) 第13回 分割表の検定(カイ2乗検定) 第14回 偏差値 第15回 総括	
履修上の注意点 講義中のおしゃべりは絶対にしない。もし講義中に理解できない点がでてきた時は、講師に質問という形で尋ね、速やかに解消すること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 良くわかる心理統計 著者: 山田剛史・村井潤一郎 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2004 ISBN: 4623039994 心理学のためのデータ解析テクニカルブック 著者: 森敏昭・吉田寿夫 出版社: 北大路書房 出版年: 1990 ISBN: 4762801313	
成績評価 試験 (60) 小テスト () 授業中課題 (15) 授業中発表等 () 参加度 (25)	

2015 Syllabus

科目名 臨床心理学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

授業の到達目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の概要

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床心理学とは何か
- 第3回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎①
- 第4回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎②
- 第5回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは①
- 第6回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは②
- 第7回 認知行動療法の基礎
- 第8回 フロイトの精神分析の基礎①
- 第9回 フロイトの精神分析の基礎②
- 第10回 無意識とイメージの世界に触れる①
- 第11回 無意識とイメージの世界に触れる②
- 第12回 援助者が自らと向き合う①
- 第13回 援助者が自らと向き合う②
- 第14回 臨床心理学と現代社会の対人援助
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習 I (構造系)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	

担当者 林正 健二

テーマ

骨・筋の触診と神経系の知識を統合して、神経系の診察の基礎を修得する。

授業の到達目標

触診の手技だけでなく、神経系の構造と機能を頭に描きつつ、論理的に考えを進めていく態度を身につける。

授業の概要

1)1年次に学修した、人体の構造と機能演習 I・II、運動学、理学療法技術学入門演習 I における神経系のより詳細な知識を学ぶ。2)上記の知識が理学療法士国家試験で、どのように出題されているかを確認する。

準備学習(予習・復習)

骨・筋の名称の復習が予習となる。復習は国家試験の既出問題を自分で解く。

内 容

- 第1回 末梢神経系(脊髄神経)
- 第2回 上肢帯と肩関節の運動
- 第3回 肘関節と前腕の運動 I
- 第4回 肘関節と前腕の運動 II
- 第5回 手関節と手指の運動 I
- 第6回 手関節と手指の運動 II
- 第7回 下肢帯と股関節の運動 I
- 第8回 下肢帯と股関節の運動 II
- 第9回 膝関節の運動 I
- 第10回 膝関節の運動 II
- 第11回 足関節と足の運動 I
- 第12回 足関節と足の運動 II
- 第13回 頸椎の運動
- 第14回 胸椎と胸郭の運動
- 第15回 腰椎の運動
- 第16回 顔面と頸部の運動

履修上の注意点

予習と復習は必須です。実技が出来たかどうかの評価は正確に行ってください。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者: 林正健二他

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

エッセンシャル・キネシオロジー

著者: 一 村田伸他訳

出版社: 南江堂

出版年: 2012

ISBN:

基礎運動学

著者: 中村隆一他

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2013

ISBN:

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系

著者: 坂井建雄他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2013

ISBN:

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭他

出版社： 南山堂

出版年： 2013

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

2015 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習Ⅱ(機能系)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 林正 健二

テーマ

理学重宝の実践に必要な人体の機能(生理学)を知る基本的検査を体験し、修得する。

授業の到達目標

1)身体診察の基本であるバイタルサインが測定出来る。2)循環器、呼吸器、運動器、神経系の機能検査の概要を理解出来る。

授業の概要

1)バイタルサインの測定は二人一組で練習する。2)呼吸機能検査、心電図、筋電図、筋力検査で実施可能な物は体験する。

準備学習(予習・復習)

1年生の時に学修した、生理学的事項野復習が予習となる。基準値を記憶しているかどうかを確認しておく。

内 容

- 第1回 脈拍測定
- 第2回 血圧測定、聴診器の使い方
- 第3回 心音聴取
- 第4回 心電図
- 第5回 呼吸の観察
- 第6回 呼吸音聴取
- 第7回 呼吸機能検査1(スパイロメーター、経皮的動脈血酸素飽和度測定)
- 第8回 呼吸機能検査2
- 第9回 筋力検査1(握力、背筋力測定)
- 第10回 筋力検査2
- 第11回 筋力検査3(筋電図)
- 第12回 神経系の診察1
- 第13回 神経系の診察2(脳波)
- 第14回 神経系の診察3
- 第15回 体成分分析
- 第16回 補遺

履修上の注意点

小テストと講義の後、実技を行う。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学

著者: 林正健二他

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

2015 Syllabus

科目名 運動生理学演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩・堀江 淳	
テーマ	
運動における神経系、筋骨格系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。	
授業の到達目標	
本授業の目的は以下のこととする。・神経細胞の構造と情報伝達のメカニズムについて理解すること。・骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解すること。・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。	
授業の概要	
講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。	
準備学習(予習・復習)	
当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。	
内 容	
第1回 呼吸①	呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
第2回 呼吸②	呼吸機能検査(フローボリューム検査と肺気量分画検査)の解釈と実際について学習する。
第3回 循環①	循環器の構造と機能、循環調節
第4回 循環②	運動時の心拍変動について学習する。
第5回 運動耐容能	酸素輸送系における循環応答(呼気ガス分析による酸素摂取量測定)の解釈と実際について学習する。
第6回 代謝	基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
第7回 体温調節	体温、熱産生、熱放散の理解する。
第8回 運動を支配する機能[神経系]①	神経系の基本的構造と機能
第9回 運動を支配する機能[神経系]②	神経系と運動
第10回 運動を支配する機能[神経系]③	運動を支配する機能の障害
第11回 運動を発現する機能[骨格筋]①	筋収縮のメカニズム
第12回 運動を発現する機能[骨格筋]②	筋収縮のエネルギー
第13回 運動を発現する機能[骨格筋]③	筋線維の種類
第14回 運動を発現する機能[骨格筋]④	筋収縮の様式 筋機能の障害
第15回	まとめ
履修上の注意点	
期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。欠席の場合、試験結果より減点する(連絡あり欠席-2点、無断欠席-4点)。	
教科書	
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学 第4版	
著者: 岡田隆夫・他	
出版社: 医学書院	
出版年: 2013	ISBN:
参考書	
やさしい運動生理学	
著者: 杉晴夫	
出版社: 南江堂	
出版年: 2006	ISBN:
健康・体力のための運動生理学	
著者: 石河 利寛	
出版社: 杏林書院	
出版年: 2000	ISBN:
成績評価	
試験 (100%)	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 **運動学演習**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	大杉 紘徳・甲斐 義浩	
テーマ	四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について学ぶ。	
授業の到達目標	1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。	
授業の概要	解剖生理学で学んだ知識をベースにししながら、運動器を主とする障害学の基礎となる、身体運動のメカニズムについて解説する。	
準備学習(予習・復習)	運動学の参考書の購読	
内 容	第1回 脊柱の構造と機能 1 第2回 脊柱の構造と機能 2 第3回 脊柱の構造と機能 3 第4回 股関節の構造と機能 1 第5回 股関節の構造と機能 2 第6回 股関節の構造と機能 3 第7回 膝関節の構造と機能 1 第8回 膝関節の構造と機能 2 第9回 膝関節の構造と機能 3 第10回 足関節と足部の構造と機能 1 第11回 足関節と足部の構造と機能 2 第12回 足関節と足部の構造と機能 3 第13回 歩行のキネシオロジー 第14回 咀嚼と換気のキネシオロジー 第15回 まとめ	
履修上の注意点	期末試験の受験は講義の3分の2以上の出席を必要とする。	
教科書	基礎運動学 第6版補訂 著者： 中村隆一 出版社： 医歯薬出版株式会社 出版年： 2012 ISBN: エッセンシャルキネシオロジー 著者： Paul Jackson Mansfield , Donald A.Neuman 出版社： 南江堂 出版年： 2012 ISBN:	
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 著者： 坂井建雄(監訳) 出版社： 医学書院 出版年： 2011 ISBN:	
成績評価	試験 (90%) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (10%)	

2015 Syllabus

科目名 臨床運動学演習

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定

担当者 大杉 紘徳・甲斐 義浩

テーマ

生体力学の基礎を学び、重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

1. 身体運動に関与する力学的要素(力, 加速度, 重心, モーメントなど)を理解できる2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の概要

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上の問題との関係について解説する。

準備学習(予習・復習)

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと

内 容

- 第1回 生体力学の基礎(1)－力の合成と分解, 生体におけるてこについて
 第2回 生体力学の基礎(2)－運動法則(加速度, 力など)について
 第3回 生体力学の基礎(3)－重心について(重心の求め方, 重心の速度・加速度)
 第4回 生体力学の基礎(4)－床反力について
 第5回 生体力学の基礎(5)－関節モーメントについて
 第6回 歩行の基礎(1)－歩行周期および相, 基本的な機能について
 第7回 歩行の基礎(2)－歩き始めの歩行力学
 第8回 歩行の基礎(3)－足関節および足部における歩行力学
 第9回 歩行の基礎(4)－膝関節における歩行力学
 第10回 歩行の基礎(5)－股関節における歩行力学
 第11回 仕事と力学的エネルギーの定義について
 第12回 姿勢の基礎(1)－姿勢と安定性について
 第13回 姿勢の基礎(2)－姿勢制御について
 第14回 運動学習(1)－学習と記憶, 運動技能について
 第15回 運動学習(2)－運動学習の理論など

履修上の注意点

期末試験の受験は甲斐担当範囲、大杉担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者: 中村隆一

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

歩行分析－正常歩行と異常歩行 原著第2版

著者: Perry J(著), 武田功(訳)

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 人間発達学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠・崎田 正博・村田 伸

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界との関わりにも言及する。

授業の到達目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。
機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。

2. 身体や運動

授業の概要

発表形式の授業も含まれます。

準備学習(予習・復習)

ヒトの発達を学ぶことは、リハビリテーション対象者の回復を学ぶことと同等であるので、主体的に参加すること。

内 容

- 第1回 総論1:定義と目的、発達理論、発達の法則
- 第2回 総論2:定義と目的、発達理論、発達の法則
- 第3回 反射と運動1:中枢神経の階層性1
- 第4回 反射と運動2:中枢神経の階層性2
- 第5回 知覚・認知の発達1:胎児・新生児の知覚・認知
- 第6回 知覚・認知の発達2:乳幼児の知覚・認知
- 第7回 知覚・認知の発達3:学童の知覚・認知
- 第8回 知覚・認知の発達4:成人期以降の知覚・認知
- 第9回 運動発達1:新生児・乳幼児の運動発達1
- 第10回 運動発達2:新生児・乳幼児の運動発達2
- 第11回 運動発達3:新生児・乳幼児の運動発達3
- 第12回 社会性の発達1:乳幼児の社会性
- 第13回 社会性の発達2:学童の社会性
- 第14回 社会性の発達3:青年期・成人期の社会性
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

リハビリテーションのための人間発達学

著者: 大城昌平

出版社: メディカルプレス

出版年:

ISBN: 9784944026609

参考書

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

1/3以上の欠席で単位なし

2015 Syllabus

科目名 内科学

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者 宮本 尚		
テーマ	受講者参加型の講義であり、ロールプレイも随時取り入れていく	
授業の到達目標	臨床現場でいつでも内科学の知識を活用しながらリハビリテーションが施行出来るようになる医師のリハビリテーション指示書の内容が的確に理解出来る医療現場でのチームプレイを円滑に行えるようになる	
授業の概要	最新の医学的知見を入れながら授業を進めていくDVDによる視覚的講義も随意取り入れて行く	
準備学習(予習・復習)	教科書の予習、復習	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、内科学の概念</p> <p>第2回 診断、治療</p> <p>第3回 症候学</p> <p>第4回 循環器疾患</p> <p>第5回 呼吸器疾患</p> <p>第6回 消化管疾患</p> <p>第7回 肝胆膵疾患</p> <p>第8回 血液・造血器疾患</p> <p>第9回 代謝性疾患</p> <p>第10回 内分泌疾患</p> <p>第11回 腎・泌尿器疾患</p> <p>第12回 膠原病・アレルギー疾患</p> <p>第13回 感染症</p> <p>第14回 中毒性疾患</p> <p>第15回 皮膚疾患</p>	
履修上の注意点	欠席回数は試験に反映される再試験はレポート提出	
教科書	<p>標準理学療法学・作業療法学「内科学」第3版</p> <p>著者： 前田真治 上月正博 飯山準一</p> <p>出版社：医学書院</p> <p>出版年：2014 ISBN:</p>	
参考書	<p>ハリソン内科学 第4版</p> <p>著者： 福井次矢 黒川清</p> <p>出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>出版年：2013 ISBN:</p> <p>PT/OT 基礎から学ぶ内科学ノート</p> <p>著者： 中島雅美 松本貴子</p> <p>出版社：医歯薬出版株式会社</p> <p>出版年：2008 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (80) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p> <p>3分の1以上の欠席を認めない(原則として)</p>	

2015 Syllabus

科目名 小児科学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠

テーマ

人の「発達」上の諸現象を、主として感覚運動の発達の総和という観点からとらえ、脳・神経系の発達、骨・関節系の発達および相動運動系の発達の重要性を理解する。

授業の到達目標

1.原始反射や立ち直り反応や平衡反応の種類とその役割や消褪について理解する2.粗大運動や巧緻運動の発達について理解する3.視覚や聴覚など他の感覚器官の発達について理解する4.認知活動や社会性の発達について理解する5.代表的な小児疾患の特徴と対応について理解する

授業の概要

準備学習(予習・復習)

実習やボランティア活動を通じて子供と接する機会を増やす様にし、子供をの発達を分析的にみるように心がけること

内 容

- 第1回 運動とは何か
- 第2回 運動の三要素
- 第3回 反射の発達
- 第4回 ボイタ博士の姿勢反射と運動発達
- 第5回 乳幼児の発達の見方
- 第6回 ボイタ博士の発達診断法
- 第7回 粗大運動の発達
- 第8回 巧緻運動の発達
- 第9回 認知活動の発達および社会性の発達
- 第10回 視覚・聴覚機能の発達
- 第11回 子供の神経系の疾患と理学療法
- 第12回 子供の骨・関節系の疾患と理学療法
- 第13回 子供の筋肉系の疾患と理学療法
- 第14回 知的障害の理解と理学療法
- 第15回 発達障害の理解と理学療法

履修上の注意点

教科書

随時資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正常発達

著者: JUNG SUN HONG

出版社: 三輪書店

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

小テストは2回 授業中課題は2回 授業中発表はグループ活動で1回参加度は無欠席者に加点3分の1以上の欠席を認めない

2015 Syllabus

科目名 **整形外科学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠

テーマ

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

授業の到達目標

研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。

授業の概要

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

準備学習(予習・復習)

整形外科学や理学療法技術ガイドなどの関連書の購読や学会・研究会への参加

内 容

- 第1回 総論 整形外科学とリハビリテーションの関連
- 第2回 総論 整形外科学における診断法・検査法・治療法
- 第3回 総論 整形外科疾病論 ①炎症性疾患
- 第4回 総論 整形外科疾病論 ②代謝・内分泌性疾患
- 第5回 総論 整形外科疾病論 ③骨・関節性疾患
- 第6回 総論 整形外科疾病論 ④骨・軟部腫瘍
- 第7回 総論 整形外科疾病論 ⑤神経・筋疾患
- 第8回 各論 外傷性疾患 ①骨折
- 第9回 各論 外傷性疾患 ②脊髄損傷
- 第10回 各論 外傷性疾患 ③関節の損傷
- 第11回 各論 外傷性疾患 ④腱・人体の損傷
- 第12回 各論 外傷性疾患 ⑤末梢神経の損傷
- 第13回 各論 外傷性疾患 ⑥スポーツ障害
- 第14回 各論 外傷性疾患 ⑦熱傷と凍傷
- 第15回 各論 外傷性疾患 ⑧切断と離断

履修上の注意点

教科書

整形外科学(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ)

著者: 立野勝彦 著

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

小児整形外科の実際

著者: 藤井敏男 編

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

3分の1以上の欠席を認めない

2015 Syllabus

科目名 **精神医学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 川岸 久也

テーマ

適切な保健医療福祉活動を行うために必要な基本的な精神医学の知識を習得する。

授業の到達目標

理学療法士に必要な精神医学の基本を修得する。①症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。

授業の概要

総論では、精神疾患の症候と疾患分類を体系的に学び、そのあとの各論で、各疾患の疫学、病態像の特徴、診断、治療の基本的知識を学ぶ。概要を理解することで、メンタルヘルスの諸問題に適切に対応できるようになる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 序論:精神とはなにか、異常とは何か、精神医学の方法、精神医学の歴史
- 第2回 精神症候学Ⅰ
- 第3回 精神症候学Ⅱ
- 第4回 状態像(神経衰弱状態、幻覚妄想状態、うつ状態、躁状態、緊張病症候群、錯乱状態、器質性症候群)
- 第5回 統合失調症Ⅰ
- 第6回 統合失調症Ⅱ
- 第7回 気分障害(うつ病、躁うつ病)
- 第8回 神経症性障害(不安障害、身体表現性障害、解離性障害、ストレス性障害)
- 第9回 人格障害、行動障害
- 第10回 物質関連性障害(アルコール依存・中毒、薬物依存・中毒)
- 第11回 器質性精神障害、症状性精神病(認知症)
- 第12回 児童・青年期精神障害(発達障害、多動性障害、摂食障害)
- 第13回 てんかん
- 第14回 睡眠障害
- 第15回 精神科治療学

履修上の注意点

遅刻と途中退席は厳禁とする

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版

著者: 上野武治

出版社: 医学書院

出版年: 2010

ISBN: 9784260010122

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 神経内科学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 中村 重信	
テーマ	神経内科疾患は理学療法の重要な対象である。
授業の到達目標	神経内科疾患を習得することによって、理学療法を志すものは、大きな飛躍をとげることができる。そのため、理学療法の基礎として、神経内科疾患の学習は必須のものとなる。
授業の概要	毎回、A4一枚のサマリーを配布し、それに従って授業する。理学療法を行う上で、将来有用な知見を提供するため、実践に則した気持ちで授業に参加して頂きたい。
準備学習(予習・復習)	体調を整えて、授業を受けて頂きたい。
内 容	<p>第1回 神経内科とは:どんな方法で、どんな病気を取り扱うかについて述べる。とくに、理学療法を志す人にとっては、神経内科学の知識は必須のものであり、リハビリテーションを実践するに当たって役立つ。</p> <p>第2回 意識障害・睡眠障害:意識が軽度障害されとか、睡眠が障害されると、理学療法に集中することができない。そのため、リハビリテーションを行っている間に事故を起こすことが多い。</p> <p>第3回 認知症:理学療法を行って、運動の仕方などを学習する能力が低下していると効果が少ない。一方、認知症の人に刺激を与え、認知機能のそれ以上の低下を防ぐとか、情緒を改善する上では理学療法に期待される。</p> <p>第4回 失語・失行・失認:これらの機能が低下すると、理学療法をスムーズに行うことが困難になる。一方、これらの機能を回復させるために、言語聴覚士、作業療法士などと協力して、機能回復に当たる方法を学ぶことが大切である。</p> <p>第5回 運動障害:理学療法が最も力を入れる障害である。ただ、運動障害を起こす疾患によって、治療法は異なり、治療の途中で副作用や事故を起こす原因となりうる。そのため、運動障害をきたした原因疾患に応じた治療法が重要である。</p> <p>第6回 感覚障害・感情障害:感覚障害や感情障害は理学療法の効果を左右する。感覚障害はバランスを保つ上に重要であり、理学療法を行う時の事故につながる。やる気の低下(アパシー)などの感情障害は理学療法の効果を少なくする。</p> <p>第7回 脳卒中:脳血管が破裂(出血)または閉塞(梗塞)する結果、神経機能が障害されて、運動障害のほか、意識障害、失語・失行・失認、感覚障害、感情障害、認知症を起こす。そのため、運動障害以外の症状にも配慮して理学療法をする。</p> <p>第8回 神経変性疾患:パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など、神経細胞の変性・脱落によって、運動障害のほかにも、様々の症状が起こる。それぞれの疾患に見合った理学療法が期待される。</p> <p>第9回 末梢神経障害:種々の原因によって末梢神経の障害が起こる。また、末梢神経障害により、運動障害、感覚障害のほか、自律神経障害を伴うことも多い。それらに対応した理学療法を組み立てることが必要である。</p> <p>第10回 筋疾患:骨格筋自体が障害されて起こる疾患である。遺伝子異常による疾患、免疫異常による疾患、代謝の異常による疾患、加齢に伴う筋萎縮などがある。それらに対する理学療法上の問題点を心得る必要がある。</p> <p>第11回 脊髄障害:脊髄が障害されて、歩行障害や上肢の運動障害、痛みやしびれなどの感覚障害などを起こす。その原因には様々のものがあり、疾患によって、理学療法が異なるため、脊髄障害の原因診断が大切である。</p> <p>第12回 感染症・免疫疾患:脳炎・髄膜炎の原因を明らかにすることが大切である。また、多発性硬化症、ギランバレー症候群など免疫異常により、神経系の障害を起こすことがある。それらの診断を明にして、理学療法に取り掛かる必要がある。</p> <p>第13回 中毒や欠乏症による神経疾患:アルコール中毒、薬物中毒、重金属中毒あるいはビタミン欠乏症などの栄養素欠乏症により、神経障害を起こす。原因療法と並行して理学療法による症状の改善も図る。</p> <p>第14回 脳腫瘍・神経外傷:これらの疾患は脳神経外科や整形外科で治療されるが、これらも神経疾患として含める。とくに、手術後の回復期に理学療法が有効なことが多い。</p> <p>第15回 合併症・リスク:神経障害のため、廃用性萎縮などを起こすことが多い。廃用性萎縮を防ぐため、適切な理学療法を行うことが勧められる。しかし、理学療法を行う過程で、転倒などの危険を伴うこともあるので、留意する必要がある。</p>
履修上の注意点	理学療法は現在、わが国の医療で熱い眼が向けられている。それに応えられるよに、履修して頂きたい。3分の1以上の欠席を認めない【理学療法学科科目共通】

教科書

標準理学療法学・作業療法学「神経内科学」第4版

著者: 川平和美編・著

出版社: 医学書院

出版年: 2013

ISBN: 9784260018661

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習Ⅱ(筋・神経の触察)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	

担当者 松尾 奈々・宮崎 純弥

テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触察を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、総論(筋の形、触察法)
- 第2回 肩甲帯筋の触診
- 第3回 肩甲帯筋の触診
- 第4回 上腕筋の触診
- 第5回 上腕筋の触診
- 第6回 前腕筋の触診
- 第7回 前腕筋・手の内在筋の触診
- 第8回 頸筋・頭部の筋の触診
- 第9回 体幹筋の触診
- 第10回 体幹筋の触診
- 第11回 骨盤筋の触診
- 第12回 大腿筋の触診
- 第13回 大腿筋・下腿筋の触診
- 第14回 下腿筋の触診
- 第15回 足の内在筋の触診

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリーの着用は厳禁です。いつでも実技が出来る服装で参加して下さい。授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

教科書

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論・身体の面と軸・骨/関節・靭帯

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9784830643446

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9784830643453

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系

著者: 坂井建雄

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN: 9784260010689

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (実技試験 50%)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 理学療法評価学総論実習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・松尾 奈々	

テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を実習形式で教授する。

授業の到達目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。3. 適した検査法が具体的に実施することができる。4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法(MMT)をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 形態測定
- 第3回 形態測定
- 第4回 関節可動域測定
- 第5回 関節可動域測定
- 第6回 感覚検査
- 第7回 感覚検査
- 第8回 反射検査、筋緊張検査
- 第9回 反射検査、筋緊張検査
- 第10回 筋力検査、徒手筋力検査(上肢)
- 第11回 徒手筋力検査(上肢)
- 第12回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第13回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第14回 徒手筋力検査(下肢)
- 第15回 徒手筋力検査(下肢)
- 第16回 協調性検査、姿勢反射検査
- 第17回 平衡機能検査
- 第18回 平衡機能検査
- 第19回 片麻痺機能検査
- 第20回 片麻痺機能検査
- 第21回 高次脳機能検査
- 第22回 整形外科的検査
- 第23回 ADL評価、環境評価

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者: 松澤正

出版社: 金原出版株式会社

出版年: 2012

ISBN: 9784307750325

新・徒手筋力検査法 原著第9版

著者: 津山直一

出版社: 協同医書出版社

出版年: 2014

ISBN: 9784763900388

参考書

触診機能解剖カラーアトラス 下

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2011

ISBN: 9784830643453

成績評価

試験 (筆記試験60%)

小テスト (実技試験30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 理学療法評価学各論演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々	

テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。

別に適した検査法が具体的に実施することができる。

査・評価の結果が記録できる。

なオリエンテーションができる。

としての基本的態度を身につけ、患者様に実践できる準備をする。

5. 疾患・部位
6. 各種検査
7. 適切
8. 医療人

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。

準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、神経学的検査: 筋緊張検査
- 第2回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第3回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第4回 神経学的検査: 筋緊張検査
- 第5回 神経学的検査: 反射検査
- 第6回 神経学的検査: 反射検査
- 第7回 神経学的検査: 反射検査
- 第8回 協調性検査
- 第9回 協調性検査
- 第10回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第11回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第12回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第13回 神経障害系疾患の評価: 片麻痺機能検査
- 第14回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第15回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第16回 神経障害系疾患の評価: 脳神経検査
- 第17回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第18回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第19回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第20回 神経障害系疾患の評価: 高次脳機能検査
- 第21回 平衡機能検査
- 第22回 平衡機能検査
- 第23回 平衡機能検査
- 第24回 平衡機能検査
- 第25回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(頸部・体幹疾患)
- 第26回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(上肢疾患)
- 第27回 運動器疾患の評価: 整形外科的検査(下肢疾患)
- 第28回 痛みの評価
- 第29回 痛みの評価
- 第30回 まとめ、記述テストなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者: 松澤正、他(著)

出版社: 金原出版株式会社

出版年: 2012

ISBN: 9784307750325

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者: 医療情報科学研究所(編)

出版社: メディックメディア

出版年: 2011

ISBN: 9784896323580

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者: 田崎義昭、他(著)

出版社: 南山堂

出版年: 2010

ISBN: 9784525247171

片麻痺の運動療法

著者: S.Brunnstrom(著)、佐久間穰爾・他(訳)

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 1974

ISBN: 9784263210116

成績評価

試験 (70)

小テスト (30)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

2015 Syllabus

科目名 理学療法評価学各論実習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々	

テーマ

本講義は、理学療法評価学各論実習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようにする。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

授業の到達目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。2. 各種疾患の代表的評価項目を述べるすることができる。3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、各疾患ごとの病態に応じた評価の意義、またその目的を理解し、評価項目の抽出および治療行為に結び付けていく考え方について理解できるようになることを目標とする。

準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第2回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第3回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第4回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第5回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第6回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第7回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第8回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第9回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第10回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第11回 運動器疾患(腰痛症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第12回 運動器疾患(腰痛症・肩関節周囲炎)の障害像の理解と理学療法評価
- 第13回 運動器疾患(肩関節周囲炎)の障害像の理解と理学療法評価
- 第14回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第15回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第16回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第17回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第18回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第19回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第20回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第21回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第22回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第23回 まとめ

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者: 松澤正、他(著)

出版社: 金原出版株式会社

出版年: 2012

ISBN: 9784307750325

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者: 医療情報科学研究所(編)

出版社: メディックメディア

出版年: 2011

ISBN: 9784896323580

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭、他(著)

出版社： 南山堂

出版年： 2010

ISBN: 9784525247171

3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者： 中山 恭秀(編集)

出版社： 南江堂

出版年： 2013

ISBN: 9784524268146

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2015 Syllabus

科目名 運動療法学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ	
運動療法の基本的事項に関する知識と技術・方法について理解する。	
授業の到達目標	
本講義では、運動療法の構成要素について、生理学のおよび機能解剖学的知識を踏まえた上で学習します。理学療法の基盤となる運動療法に関する幅広い基礎知識を身につけることが目標となる。	
授業の概要	
運動療法学の理論的背景と基礎運動が身体の組織・臓器に与える影響を理解した上で、運動療法の関する基礎知識を身につける。	
準備学習(予習・復習)	
教科書を中心に進行するため、事前に必ず予習を行うこと。特に医学用語もしくは専門用語、キーワードは調べておくこと。また講義ノートを作製し、予習および復習した内容はノートに書き留めておくこと。	
内 容	
第1回	運動療法の基本的概念(1);運動療法の歴史, 定義, 意義
第2回	運動療法の基本的概念(2);運動療法の分類, 適用, 効果
第3回	基本的運動療法(1);運動メカニズムに関する基礎的知識
第4回	基本的運動療法(2);運動療法の手順
第5回	関節可動域運動(1);他動的
第6回	関節可動域運動(2);ストレッチング(伸張練習)
第7回	関節可動域運動(3);モビライゼーション
第8回	筋力増強練習(1);自動介助～自動運動
第9回	筋力増強練習(2);抵抗運動
第10回	筋持久力運動
第11回	有酸素運動(全身持久力運動)
第12回	協調性運動
第13回	全身調整運動
第14回	水中運動
第15回	まとめ
履修上の注意点	
これまでに学習した基礎科目の知識を十分に整理した上で講義に臨んでください。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書	
運動療法学	
著者:	市橋則明 編集
出版社:	文光堂
出版年:	2008
ISBN:	9784830643422
参考書	
運動療法大全	
著者:	キャロリン・キスナー, 他
出版社:	ガイアブックス
出版年:	2008
ISBN:	
成績評価	
試験 (60)	小テスト (20)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (5)
参加度 (5)	
授業開始時に基礎知識に関する確認テストを実施します。授業中課題として、レポートおよび講義ノートを参考に評価を行います。	

2015 Syllabus

科目名 物理療法学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 濱出 茂治	
テーマ	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。
授業の到達目標	1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3. 治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4. 基本的治療技術方法を理解する。
授業の概要	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌などの知識を理解する。さらに種々の疾患における臨床適用方法を修得する。
準備学習(予習・復習)	物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習
内 容	<p>第1回 物理療法の歴史、定義、体系</p> <p>第2回 物理療法における評価法</p> <p>第3回 表在温熱療法Ⅰ：伝導熱、輻射熱、対流熱</p> <p>第4回 表在温熱療法Ⅱ：パラフィン浴、赤外線療法</p> <p>第5回 深部温熱療法Ⅰ：エネルギー変換熱(超短波、極超短波)</p> <p>第6回 深部温熱療法Ⅱ：エネルギー変換熱(超音波療法、低出力超音波療法)</p> <p>第7回 寒冷療法：冷却法、痙性抑制法、神経・筋促進法</p> <p>第8回 極低温療法：局部冷却、全身冷却</p> <p>第9回 水治療法：ハーバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法</p> <p>第10回 光線療法：紫外線、ソフトレーザー療法</p> <p>第11回 電気刺激療法Ⅰ：経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激</p> <p>第12回 電気刺激療法Ⅱ：神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法</p> <p>第13回 牽引療法：四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引</p> <p>第14回 電気診断：時間一強さ曲線作図法、誘発筋電図(M波、H波、F波、運動誘発電位)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	1/3以上の欠席は認めない。
教科書	<p>物理療法マニュアル</p> <p>著者： 濱出茂治・他</p> <p>出版社： 医歯薬出版</p> <p>出版年： 1997</p> <p>ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (80)</p> <p>授業中課題 ()</p> <p>参加度 (20)</p> <p>小テスト ()</p> <p>授業中発表等 ()</p>

2015 Syllabus

科目名 生活技術学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平・村田 伸

テーマ

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

授業の到達目標

1. 基本的ADLと手段的ADLを説明できる。2. ADLの代表的な評価方法を実践できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明できる。4. 疾患特有のADL障害を理解し、そのアプローチ方法を説明できる。

授業の概要

ADLの評価について講義および演習形式で学習する。また、補装具やADL自立に向けた基本的なアプローチに関しては、体験や実技を加えながら学習を進める。

準備学習(予習・復習)

予習: テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習: 各自の理解度に応じて復習を行う。

内 容

- 第1回 日常生活活動(ADL)の概念
- 第2回 ADLの評価の実際(BI)
- 第3回 ADLの評価の実際(FIM)
- 第4回 ADLの評価の実際(FIM)
- 第5回 手段的日常生活活動(IADL)の評価
- 第6回 補装具(杖と車いす)
- 第7回 起居・移動動作
- 第8回 身の回り動作
- 第9回 ADLを支援する機器
- 第10回 疾患別ADL(脳卒中)
- 第11回 疾患別ADL(脊髄損傷)
- 第12回 疾患別ADL(関節リウマチ)
- 第13回 疾患別ADL(大腿骨頸部骨折)
- 第14回 疾患別ADL(変形性関節症)
- 第15回 疾患別ADL(下肢切断)

履修上の注意点

3分の2の出席をもって、成績判定を行う。3分の1以上の欠席を認めない

教科書

日常生活活動テキスト

著者: 河元岩男・他編

出版社: 南江堂

出版年: 2011

ISBN: 4524247084

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2015 Syllabus

科目名 **運動器障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 宮崎 純弥	
テーマ	
運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進	
授業の到達目標	
基本的な運動器障害系の理学療法について理解し、また基本的な技術を習得することを目標とする。	
授業の概要	
運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。	
準備学習(予習・復習)	
テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。	

内 容

- 第23回 下肢骨折の理学療法実技
- 第24回 上肢骨折の理学療法
- 第25回 上肢骨折の理学療法実技
- 第26回 脊椎疾患の理学療法
- 第27回 脊椎疾患の理学療法実技
- 第28回 靭帯損傷の理学療法
- 第29回 靭帯損傷の理学療法実技
- 第30回 総括
- 第1回 理学療法プロセスとは
- 第2回 理学療法プロセス(障害の階層性)
- 第3回 理学療法プロセス(情報収集～検査測定の意味)
- 第4回 理学療法プロセス(統合解釈～治療計画立案)
- 第5回 骨折に関する基礎知識
- 第6回 大腿骨頸部骨折の理学療法
- 第7回 大腿骨頸部骨折の理学療法実技
- 第8回 変形性股関節症の理学療法
- 第9回 変形性股関節症の理学療法実技
- 第10回 変形性膝関節症の理学療法
- 第11回 変形性膝関節症の理学療法実技
- 第12回 腰痛症の理学療法1
- 第13回 腰痛症の理学療法2
- 第14回 腰痛症の理学療法実技
- 第15回 腰部疾患の理学療法
- 第16回 腰部疾患の理学療法実技
- 第17回 肩関節疾患の理学療法1
- 第18回 肩関節疾患の理学療法2
- 第19回 肩関節疾患の理学療法実技
- 第20回 関節リウマチの理学療法
- 第21回 関節リウマチの理学療法実技
- 第22回 下肢骨折の理学療法

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリーの着用は厳禁です。いつでも実技が出来る服装で参加して下さい。授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

教科書

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法改訂第2版

著者： 監修)富士武史

出版社： 金原出版

出版年： 2006

ISBN： 9784307251334

理学療法学 ゴールドマスターテキスト 整形外科系理学療法学

著者:

出版社: メジカルビュー社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (5%)

参加度 (5%)

2015 Syllabus

科目名 **神経障害系理学療法学基礎演習**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡・兒玉 隆之・濱出 茂治

テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

授業の到達目標

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患や末梢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内 容

- 第1回 下位ニューロン障害の病態
- 第2回 下位ニューロン障害に対する評価(電気診断法)
- 第3回 下位ニューロン障害に対する理学療法
- 第4回 模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習Ⅰ
- 第5回 模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習Ⅱ
- 第6回 大脳の解剖生理と機能について
- 第7回 大脳における運動神経系および感覚神経系について
- 第8回 大脳の内因性疾患(脳卒中など)に対する理学療法
- 第9回 大脳の外因性疾患(頭部外傷など)に対する
- 第10回 グループ演習①
- 第11回 大脳基底核の解剖と生理および代表的な障害について
- 第12回 小脳の解剖と生理および代表的な障害について
- 第13回 脊髄の解剖と生理および代表的な障害について
- 第14回 グループ演習②
- 第15回 グループ演習③

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない。

教科書

神経理学療法学

著者: 奈良 勲

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 公衆衛生学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 健一

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の概要

公衆衛生学の中でも、とりわけ理学療法と関連が深い内容を抽出し、教授を行う。授業はオリジナルの資料に基づき行い、随時演習も取り入れる。

準備学習(予習・復習)

普段から日本の医療・保健における現状と問題点を気にかけること。

内 容

- 第1回 集団の健康の定義と社会医学の考え方
- 第2回 公衆衛生学の発展過程
- 第3回 人口統計の健康指標
- 第4回 疫学の定義、疫学の調査方法
- 第5回 環境保健・健康管理
- 第6回 地域保健・母子保健
- 第7回 成人保健・老人保健福祉
- 第8回 学校保健・産業保健

履修上の注意点

受け身姿勢で受講するのではなく、授業に積極的に参加すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 老年医学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 尚

テーマ

超高齢化社会を迎えつつある我が国では、病気を持つ高齢者が増加している。高齢者は「老化した成人」と同一ではない、高齢者固有の身体的・精神的特徴を有している。そうした高齢者の特徴について学んでいきたい。

授業の到達目標

病に悩む高齢者の臨床現場で、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療実践ができるよう基礎的知識を獲得してほしい。

授業の概要

益々増加する高齢者の様々な疾患の病像、治療について教授する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 加齢と老化
- 第2回 高齢者へのアプローチ
- 第3回 老年症候群
- 第4回 循環器疾患
- 第5回 呼吸器疾患
- 第6回 消化器疾患
- 第7回 骨・運動器疾患
- 第8回 神経疾患
- 第9回 精神疾患
- 第10回 内分泌代謝疾患
- 第11回 血液・免疫疾患
- 第12回 腎・泌尿器・皮膚・口腔疾患
- 第13回 感染症・耳鼻咽喉・眼疾患
- 第14回 高齢者の環境
- 第15回 高齢者のリハビリテーション

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない(原則として)

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年学」第4版

著者： 大内尉義編集

出版社： 医学書院

出版年： 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 画像診断学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 小田 絛弘・久保山 哲彦・田村 慶朗・西川 仁史	
テーマ	
基本的な画像診断学の知識を習得する。	
授業の到達目標	
・放射線診断の歴史および画像診断学の基本を理解する。・画像診断のための各種検査法の原理と診断方法を理解する。・治療への応用であるIVR(インターベンショナル・ラジオロジー)について理解する。・整形外科領域における医用診断画像の読影法を学び、理学療法評価や治療プログラム遂行上の病態把握、リスク管理に欠かせない情報であることを理解する。	
授業の概要	
授業による座学を中心とする。	
準備学習(予習・復習)	
当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。第8～11回授業では、授業の理解度を確認するために小テストを実施します。小テスト結果は、成績判定に反映します。なお、遅刻10分で欠席扱いにしますので注意してください。	
内 容	
第1回	放射線診断の歴史および画像診断学の概要を学ぶ。
第2回	①各種検査法(X線検査)の原理と画像診断学について学ぶ。
第3回	②各種検査法(造影検査・IVR)の原理と画像診断および治療について学ぶ。
第4回	③各種検査法(X線CT)の原理と画像診断学について学ぶ。
第5回	④各種検査法(MRI)の原理と画像診断学について学ぶ。
第6回	⑤各種撮影検査法(超音波検査)の原理と画像診断学について学ぶ。
第7回	まとめ(1回～6回)
第8回	整形外科領域の画像の見方:代表的な外傷性疾患について学ぶ
第9回	整形外科領域の画像の見方:高齢者の4大骨折について学ぶ
第10回	整形外科領域の画像の見方:変形性関節症(OA)と関節リウマチ(RA)について学ぶ
第11回	整形外科領域の画像の見方:若年者とスポーツ障害について学ぶ
第12回	内臓器疾患の画像の見方1
第13回	内臓器疾患の画像の見方2
第14回	脳外科疾患の画像の見方1
第15回	脳外科疾患の画像の見方2
履修上の注意点	
教科書	
メディカルノート画像診断	
著者:	小川敏英
出版社:	西村書店
出版年:	2007年
ISBN:	
参考書	
運動療法に役立つ単純X線像の読み方	
著者:	青木隆明
出版社:	MEDICAL VIEW社
出版年:	2011年
ISBN:	
成績評価	
試験 (80)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (20)	
3分の1以上の欠席を認めない	

2015 Syllabus

科目名 スポーツ医学

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	辻原 隆是 吉田 昌平	
テーマ	スポーツ選手に対する医学的アプローチについて	
授業の到達目標	スポーツ選手に対する多方面からの医学的アプローチを理解し、実践できるようになることを目標とする。またスポーツ傷害の理解を通して、筋・骨格系、呼吸循環系の機能解剖や運動生理学に対する基礎知識をさらに深めることも重要な目標である。	
授業の概要	本講義では、運動器系のスポーツ外傷・障害の診断、治療、予防および内科系のスポーツ障害、さらには成長期や女性、中高年のスポーツ選手特有の障害を解説する。また競技別傷害や知っておくべきメディカルチェックやドーピングにも言及する。さらには傷害から競技復帰までのメディカルリハビリテーションおよびアスレティックリハビリテーションについても具体的な手法をふまえて解説する。授業はスライドを用いた講義を中心に進め、各講義の終わりに小テストを実施し、理解を深める予定である。	
準備学習(予習・復習)	事前に参考図書等、講義内容に関するものに目を通しておくことが望ましい。	
内 容	<p>第1回 スポーツ医学概論</p> <p>第2回 スポーツ外傷・障害総論(救急処置も含む)</p> <p>第3回 スポーツ外傷・障害各論, 体幹</p> <p>第4回 スポーツ外傷・障害各論, 上肢</p> <p>第5回 スポーツ外傷・障害各論, 下肢</p> <p>第6回 スポーツ外傷・障害各論, その他(頭部, 顔面等)</p> <p>第7回 内科系および特殊環境下でのスポーツ障害</p> <p>第8回 成長期および中高年におけるスポーツ障害</p> <p>第9回 女性や障害者におけるスポーツ障害</p> <p>第10回 競技別のスポーツ傷害</p> <p>第11回 メディカルチェックとドーピング</p> <p>第12回 メディカルリハビリテーションの考え方とその手法</p> <p>第13回 アスレティックリハビリテーションの考え方とその手法</p> <p>第14回 競技復帰時期のフィジカルチェックとその手法</p> <p>第15回 スポーツ医学のまとめ</p>	
履修上の注意点	欠席に関しては規定に従い取り扱う。	
教科書	使用しない	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	日本体育協会/公認アスレティックトレーナー専門テキスト3「スポーツ外傷・障害の基礎知識」	
著者:	福林徹 他	
出版社:	文光堂	
出版年:	2007年 ISBN:	
成績評価	試験 (90%) 小テスト ()	
授業中課題 ()	授業中発表等 ()	
参加度 (10%)		
試験により成績評価を行うが、必要に応じ出席率も加味する。		

2015 Syllabus

科目名 **薬理学(理)**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	天野 博夫	
テーマ	日常生活と薬の関わり(無い方がベター)	
授業の到達目標	「薬の働き」との関連から、動作を中心とする人間の生理的機能やその障害に関する理解を深める。人間の日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。	
授業の概要	運動・動作に影響を与える薬や運動機能障害の治療薬などを中心に、代表的な数種の薬を例として取り上げ、その作用について解説する。	
準備学習(予習・復習)	その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。	
内 容	第1回 薬とは 第2回 薬が効くメカニズム(作用機序) 第3回 体内での薬の移動と変化(薬物動態) 第4回 運動機能に影響を与える薬 第5回 抗けいれん薬 第6回 抗不安薬 第7回 気分障害の治療薬(抗うつ薬) 第8回 統合失調症の治療薬(抗精神病薬) 第9回 運動機能障害の治療薬(I) 第10回 運動機能障害の治療薬(II) 第11回 抗炎症薬・抗リウマチ薬 第12回 リハビリテーションと薬(I) 第13回 リハビリテーションと薬(II) 第14回 アンチドーピング(I) 第15回 アンチドーピング(II)	
履修上の注意点		
教科書	未定	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
はじめの一歩のイラスト薬理学		
著者: 石井邦雄		
出版社: 羊土社		
出版年: 2013年	ISBN: 9784758120456	
成績評価		
試験 (60)	小テスト ()	
授業中課題 (20)	授業中発表等 ()	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <* b>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	堀江 淳	
テーマ	理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ	
授業の到達目標	①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。	
授業の概要	研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。	
準備学習(予習・復習)	パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。	
内 容	<p>第1回 理学療法分野における研究について学ぶ</p> <p>第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ</p> <p>第3回 研究計画の立て方について学ぶ</p> <p>第4回 研究デザインの種類について学ぶ</p> <p>第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)</p> <p>第6回 研究倫理について学ぶ</p> <p>第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ</p> <p>第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ</p> <p>第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ</p> <p>第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ</p> <p>第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ</p> <p>第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ</p> <p>第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ</p> <p>第14回 研究成果の公表方法について学ぶ</p> <p>第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (80) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 ()</p> <p>3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。</p>	

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I < * f >

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*j>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <*k>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅰ〈*Ⅰ〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 **理学療法研究法Ⅱ <* b>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者 堀江 淳		
テーマ	理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ	
授業の到達目標	①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。	
授業の概要	研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。	
準備学習(予習・復習)	パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。	
内 容	第1回 理学療法分野における研究について学ぶ 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ 第3回 研究計画の立て方について学ぶ 第4回 研究デザインの種類について学ぶ 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは) 第6回 研究倫理について学ぶ 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト () 授業中課題 (80) 授業中発表等 (20) 参加度 () 3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。	

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*c〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*d〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*f〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*g〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*h〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*ⅰ〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*j〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。
 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 第6回 研究倫理について学ぶ
 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*k〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ〈*Ⅰ〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2015 Syllabus

科目名 動作分析学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 大杉 紘徳・甲斐 義浩	
テーマ	動作分析に必要な運動力学の原理を学び、重力環境下における基本動作の成り立ちについて理解を促進する。
授業の到達目標	1.動作分析のおおまかな流れを理解することができる。2.動作分析に必要な運動力学の要素を理解することができる。3.基本動作(立ち上がりや歩行など)の運動要素を理解し、説明することができる。4.3次元動作解析装置を用いた動作分析の基礎を理解することができる。
授業の概要	正常から逸脱した異常姿勢や異常歩行の原因と影響について力学的な視点から解説する。
準備学習(予習・復習)	当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと
内 容	<p>第1回 動作分析の基礎</p> <p>第2回 物体の重心について、重心の観察</p> <p>第3回 動作時(立ち上がりおよび歩行)の重心移動について</p> <p>第4回 重心に加わる力(重力・床反力)について</p> <p>第5回 姿勢保持時における重心と足圧中心との関係について</p> <p>第6回 動作時における床反力の変化について</p> <p>第7回 姿勢保持時および動作時の関節モーメントの変化について</p> <p>第8回 動作の観察(1)-寝返り・起き上がりの観察</p> <p>第9回 動作の観察(2)-立ち上がりの観察</p> <p>第10回 動作の観察(3)-歩行の観察</p> <p>第11回 動作分析実技(1)-三次元動作解析装置の基本的操作方法</p> <p>第12回 動作分析実技(2)-三次元動作解析装置を用いた計測の実際</p> <p>第13回 動作分析実技(3)-三次元動作解析装置より得られる測定値の分析</p> <p>第14回 動作分析実技(4)-分析結果の解釈</p> <p>第15回 動作分析実技(5)-まとめ</p>
履修上の注意点	期末試験の受験は甲斐担当範囲、大杉担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする
教科書	<p>基礎運動学 第6版補訂</p> <p>著者: 中村隆一</p> <p>出版社: 医歯薬出版株式会社</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p> <p>歩行分析-正常歩行と異常歩行 原著第2版</p> <p>著者: Perry J(著), 武田功(訳)</p> <p>出版社: 医歯薬出版株式会社</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (90) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (10)</p>

2015 Syllabus

科目名 運動療法学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ 運動療法の方法論の理解と実践遂行能力の獲得	
授業の到達目標 ①運動療法の基本的知識と技術を身につける。②各疾患に対する運動療法プログラムを組み立てることができる。実践能力を培う。③運動療法の現状を理解し、今後の課題・展望について議論することができる。	
授業の概要 本講義では、「運動療法学」を基礎とし、運動療法の方法論について学習します。また疾患特性を考慮した運動療法プログラムの立案とそのリスク管理について解説します。さらには実技を通して、運動療法の実践能力を身につけます。	
準備学習(予習・復習) 関連する基礎知識や医学的知識(疾病, 病態を含む)および専門用語について十分に予習を行うこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 関節可動域練習(1);下肢 第3回 関節可動域練習(2);上肢 第4回 関節可動域練習(3);体幹 第5回 筋力増強練習(1);下肢 第6回 筋力増強練習(2);上肢 第7回 筋力増強練習(3);体幹 第8回 バランス・協調性運動獲得に向けた運動療法 第9回 基本動作獲得に向けた運動療法 第10回 姿勢改善に向けた運動療法 第11回 歩行獲得に対する運動療法(1) 第12回 歩行獲得に対する運動療法(2) 第13回 嚙下障害に対する運動療法 第14回 臨床の中の運動療法 第15回 まとめ	
履修上の注意点 実習を取り入れながら進めることから、実習着に着替えて、受講してください。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書	
参考書 運動療法学 著者: 市橋則明 出版社: 文光堂 出版年: 2008 ISBN: 運動療法大全 著者: キャロリン・キスナー, 他 出版社: ガイアブックス 出版年: 2008 ISBN:	
成績評価 試験 (60) 小テスト (20) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (5) 参加度 (5) 講義開始時に、基礎知識(国家試験レベル)の復習を目的とした確認テストを実施します。授業中課題として提出されたレポートを参考に評価を行います。	

2015 Syllabus

科目名 物理療法学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 大杉 紘徳・濱出 茂治	
テーマ	物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。
授業の到達目標	物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。
授業の概要	・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。
準備学習(予習・復習)	物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習
内 容	<p>第1回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)</p> <p>第2回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)</p> <p>第3回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)</p> <p>第4回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)</p> <p>第5回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(1)</p> <p>第6回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(2)</p> <p>第7回 温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(3)</p> <p>第8回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(1)</p> <p>第9回 水治療法における生体皮膚温度の測定実習(2)</p> <p>第10回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(1)</p> <p>第11回 光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(2)</p> <p>第12回 電気療法における治療シミュレーション実習(1)</p> <p>第13回 電気療法における治療シミュレーション実習(2)</p> <p>第14回 牽引療法におけるシミュレーション実習(1)</p> <p>第15回 牽引療法におけるシミュレーション実習(2)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。
教科書	<p>物理療法マニュアル</p> <p>著者： 濱出茂治</p> <p>出版社： 医歯薬</p> <p>出版年： 1996 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (80%) 授業中発表等 (10%)</p> <p>参加度 (10%)</p>

2015 Syllabus

科目名 生活技術学演習

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員 60

履修条件 クラス指定

担当者 安彦 鉄平・村田 伸

テーマ

本講義は、生活技術学で学んだ各種の日常生活動作の評価について、疾患別の検査・測定と、その結果の解釈について学ぶ。また、各疾患特有のADL障害の要因について理解し、その指導方法や理学療法プログラムについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 疾患特有の機能障害とADL障害を理解し、説明できる。 2. 各疾患ごとにADL制限の要因を説明できる。 3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明、実施できる。

授業の概要

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 脳血管障害者のADL(評価の実践:BI)
- 第2回 脳血管障害者のADL(評価の実践:FIM)
- 第3回 脳血管障害者のADL(動作分析)
- 第4回 脳血管障害者のADL(基本動作の指導)
- 第5回 脳血管障害者のADL(IADLの指導)
- 第6回 下肢運動器障害者のADL評価
- 第7回 下肢運動器障害者のADL評価(大腿骨頸部骨折)
- 第8回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性股関節症)
- 第9回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性膝関節症)
- 第10回 体幹運動器障害者のADL評価
- 第11回 体幹運動器障害者のADL評価(腰痛症)
- 第12回 その他の疾患による障害者のADL評価
- 第13回 その他の疾患による障害者のADL評価(関節リウマチ)
- 第14回 その他の疾患による障害者のADL評価(パーキンソン病)
- 第15回 その他の疾患による障害者のADL評価(下肢切断)

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則。

教科書

日常生活活動テキスト

著者: 河元岩男・他編

出版社: 南江堂

出版年: 2011

ISBN: 4524247084

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2015 Syllabus

科目名 義肢装具学演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・坂本 明信・横山 茂樹・吉田 剛	
テーマ 義肢・装具に関する基礎と臨床	
授業の到達目標 ①義肢・装具の適応, 使用目的, 構成要素等の基礎知識を身につける。②疾患別に対する義肢・装具, スプリント等の種類とチェックアウトについて説明できる。	
授業の概要 本講義は, オムニバス形式にて演習と施設見学を組み合わせで展開する。義肢装具士の講師を招いて, 義肢・装具の製作過程の実演および義肢制作過程の見学を行う。	
準備学習(予習・復習) 講義範囲について, 事前にテキストを熟読しておいてください。	
内 容 第1回 装具学総論 第2回 装具(頸部・体幹) 第3回 装具(下肢)1 第4回 装具(下肢)2 第5回 装具(下肢)3 第6回 装具(下肢)4 第7回 装具(上肢)1 第8回 装具(上肢)2 第9回 スプリント・自助具(1) 第10回 スプリント・自助具(2) 第11回 義肢学総論 第12回 断端管理と理学療法 第13回 義肢(上肢)1 第14回 義肢(上肢)2 第15回 義肢(上肢)3 第16回 義肢(下肢)1 第17回 義肢(下肢)2 第18回 義肢(下肢)3 第19回 義肢(下肢)4 第20回 義足装着時の異常歩行とその対策(1) 第21回 義足装着時の異常歩行とその対策(2) 第22回 義肢装具トピックス(1) 第23回 義肢装具トピックス(2) 第24回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(1) 第25回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(2) 第26回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(1) 第27回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(2) 第28回 簡易式短下肢装具作製実習(1) 第29回 簡易式短下肢装具作製実習(2) 第30回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 義肢装具学テキスト 著者: 磯崎 弘司 出版社: 南江堂 出版年: 2013	ISBN: 978-4524268399
参考書	

成績評価

試験（60）

授業中課題（10）

参加度（5）

小テスト（20）

授業中発表等（5）

2015 Syllabus

科目名 内部障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	

担当者 阿波 邦彦・堀江 淳

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の基礎的な知識、技術の理解を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する解剖学、運動学、生理学(運動生理学)の知識を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理についての基礎的な知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

これまで学習した呼吸、循環の解剖、生理、運動学の知識を整理しつつ、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の評価、治療の基礎を座学を中心として学習する。また、簡単な実習を通じて知識を深めていく。

準備学習(予習・復習)

臨床実習、国家試験対策として「覚える」ことを授業以外の学習の主眼とする。特に、自宅での復習を重視し、確認のための質疑応答を随時行う。

内 容

- 第1回 呼吸リハビリテーションと理学療法
- 第2回 呼吸器系の生理学、解剖学、運動学
- 第3回 呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第4回 呼吸理学療法のための評価(問診、視診、聴診、触診、測定)
- 第5回 呼吸理学療法のための評価(運度耐容能評価)
- 第6回 呼吸理学療法のための治療プログラム
- 第7回 酸素療法と人工呼吸療法
- 第8回 循環器系の生理学、解剖学
- 第9回 心電図の診かた
- 第10回 心臓リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第11回 循環器理学療法のための評価(リスクの層別化)
- 第12回 循環器理学療法のための治療プログラム
- 第13回 糖尿病の病態、検査、治療
- 第14回 糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
- 第15回 講義のまとめと最新トピックスなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

理学療法テキスト内部障害系理学療法学「呼吸」

著者： 石川朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN: 9784521732282

理学療法テキスト内部障害系理学療法学「循環・代謝」

著者： 石川朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN: 9784521732275

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2015 Syllabus

科目名 スポーツ障害系理学療法学基礎演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	横山 茂樹	
テーマ	スポーツ障害に対する評価と理学療法	
授業の到達目標	①スポーツ動作のバイオメカニクスやスポーツ障害の疾患特性を十分に理解する。②スポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを説明できる。③スポーツ障害の予防に向けた取り組みを説明できる。	
授業の概要	部位別におけるスポーツ障害の発生機序、病態・疾病特性について解説します。さらにはスポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを実践できるように実技も取り入れながら講義を進めます。	
準備学習(予習・復習)	各回において、評価や治療・指導が実践できるレベルを目指します。このため事前に取り上げる疾患を告知しますので、疾患特性や病態等について、十分に予習しておいてください。さらに講義を行った範囲で確認テストを実施しますので、復習してください。	
内 容	<p>第1回 スポーツ理学療法総論</p> <p>第2回 足関節・足部疾患(1);足関節外側側副靭帯損傷</p> <p>第3回 足関節・足部疾患(2);足底腱膜炎/腓骨筋腱炎</p> <p>第4回 足関節・足部疾患(3);足根洞症候群/ジョーンズ骨折</p> <p>第5回 下腿部疾患;アキレス腱断裂/脛骨疲労骨折</p> <p>第6回 膝関節疾患(1);膝靭帯損傷</p> <p>第7回 膝関節疾患(2);膝蓋大腿関節障害</p> <p>第8回 膝関節疾患(3);腸脛靭帯炎/鷲足炎</p> <p>第9回 大腿部疾患;大腿四頭筋挫傷/ハムストリングス肉離れ</p> <p>第10回 股関節疾患;鼠径部痛症候群</p> <p>第11回 腰部疾患;腰痛症</p> <p>第12回 肩関節疾患;肩関節脱臼/野球肩</p> <p>第13回 肘・手関節疾患;野球肘/テニス肘/TFCC</p> <p>第14回 スポーツ現場に求められる理学療法</p> <p>第15回 まとめなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>	
履修上の注意点	実習着を着用して出席してください。	
教科書		
参考書	<p>スポーツ外傷学 I～IV</p> <p>著者: 黒沢 尚・他 編集</p> <p>出版社: 医歯薬出版</p> <p>出版年: 2001 ISBN:</p> <p>スポーツリハビリテーション</p> <p>著者: コルト・他</p> <p>出版社: 西村書店</p> <p>出版年: 2006 ISBN: 4-89013-342-9</p>	
成績評価	<p>試験 (60) 小テスト (20)</p> <p>授業中課題 (10) 授業中発表等 (5)</p> <p>参加度 (5)</p>	

2015 Syllabus

科目名 神経・筋疾患理学療法学演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之・濱出 茂治

テーマ

神経・筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患に対する理学療法を理解を促進する。

授業の到達目標

神経・筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患の病態、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原則と治療体系を修得することが目標となる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

講義内容に関するレポート作成

内 容

- 第1回 オリエンテーション 神経筋疾患とは
- 第2回 ギラン・バレー症候群の病態
- 第3回 ギラン・バレー症候群の理学療法(演習)
- 第4回 ニューロパチーの病態
- 第5回 ニューロパチーの理学療法(演習)
- 第6回 腕神経叢麻痺の病態
- 第7回 腕神経叢麻痺の理学療法(演習)
- 第8回 顔面神経麻痺の病態および理学療法(演習)
- 第9回 パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態
- 第10回 パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法(演習)
- 第11回 運動ニューロン疾患の病態
- 第12回 運動ニューロン疾患の理学療法(演習)
- 第13回 脊髄小脳変性症の病態
- 第14回 脊髄小脳変性症の理学療法(演習)
- 第15回 多発性硬化症の病態および理学療法(演習)

履修上の注意点

教科書

系統理学療法学 神経障害系理学療法学

著者: 丸山仁司 編

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年:

ISBN:

参考書

理学療法ハンドブック 第1～3巻

著者: 細田多穂・柳澤健 編

出版社: 共同医書出版社

出版年:

ISBN:

神経系理学療法実践マニュアル

著者: 内山靖・臼田滋・潮見泰藏 編

出版社: 文光堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **発達障害系理学療法学基礎演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

1) 正常運動発達を理解し、発達障害の異常発達との違いを明確にする。2) 理学療法の対象疾患の障害を理解する。3) 各疾患による障害の病態・発達及び複合障害を理解する。4) 代表的疾患についての基本的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の概要

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内 容

- 第1回 乳幼児の正常運動発達(1)
- 第2回 乳幼児の正常運動発達(2)
- 第3回 乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(1)
- 第4回 乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(2)
- 第5回 姿勢反射・反応検査の技法: 原始反射
- 第6回 姿勢反射・反応検査の技法: 立ち直り反応・平衡反応
- 第7回 運動発達検査・評価(1)
- 第8回 運動発達検査・評価(2)
- 第9回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(1)
- 第10回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(2)
- 第11回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(3)
- 第12回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(1)
- 第13回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
- 第14回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70%)

小テスト (20%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子.堀江 淳.村田 伸

テーマ

ヘルスプロモーションの理念と実践について学ぶ

授業の到達目標

従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的なヘルスプロモーション理学療法について学び、ヘルスプロモーションを推進するための理学療法の知識と技術を獲得する。

授業の概要

ヘルスプロモーションの定義を理解し、地域で生活する高齢者に対し病気やけがの予防、虚弱予防、介護予防の観点から、理学療法士ができる役割について学習する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ヘルスプロモーション総論
- 第2回 高齢者の評価(総論)
- 第3回 高齢者の身体機能評価1
- 第4回 高齢者の身体機能評価2
- 第5回 高齢者の身体機能評価3
- 第6回 高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価
- 第7回 ヘルスプロモーションの実践(虚弱予防)
- 第8回 ヘルスプロモーションの実践(転倒予防)
- 第9回 ヘルスプロモーションの実践(認知症予防)
- 第10回 ヘルスプロモーションの実践(生活習慣病予防・改善)
- 第11回 行動科学とヘルスプロモーション
- 第12回 要介護高齢者のヘルスプロモーション
- 第13回 ヘルスプロモーションのための住環境整備
- 第14回 ヘルスプロモーション関係法規
- 第15回 ヘルスプロモーション研究の進め方

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 地域理学療法学基礎演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	白岩 加代子・村田 伸	
テーマ	演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。	
授業の到達目標	医療機関等で疾病や外傷後の理学療法を終了した人は、やがて住み慣れた地域社会で生活することになる。しかし、その障害が大きい場合、地域生活には何らかの支援策が必要不可欠となる。ここでは、理学療法の視点から、障害をもつ人を支援する制度の理解と基本的な支援法の習得をめざす。	
授業の概要	高齢者や障害者が地域の中で自立した生活を送るうえで必要となる支援制度や基本的な支援法について、理学療法の視点から学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	自分が住んでいる地域や育った地域での保険・福祉制度や地域理学療法の現状を調べてみてください。	
内 容	<p>第1回 ノーマライゼーションの理念、地域リハビリテーションの定義</p> <p>第2回 地域理学療法の歴史と社会的背景</p> <p>第3回 地域リハビリテーションの考え方</p> <p>第4回 理学療法士が担う役割の範囲、関係職種との連携</p> <p>第5回 保険制度の変遷、地域理学療法における制度のとらえ方</p> <p>第6回 介護保険制度の仕組みと種類</p> <p>第7回 介護保険を利用した事例紹介</p> <p>第8回 障害者自立支援法とその具体例</p> <p>第9回 高齢者医療に関する法律と健康増進法</p> <p>第10回 高齢者施設の種類の種類と理学療法士の役割</p> <p>第11回 通所リハビリテーションの実際と理学療法士の役割</p> <p>第12回 介護予防と運動器の機能向上プログラム</p> <p>第13回 訪問リハビリテーションの実際と理学療法士の役割</p> <p>第14回 まとめ(グループ発表1～5班)</p> <p>第15回 まとめ(グループ発表6～10班)なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>地域理学療法学テキスト</p> <p>著者： 村田伸・他</p> <p>出版社： BookWay</p> <p>出版年： 2015</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (80)</p> <p>授業中課題 (10)</p> <p>参加度 (10)</p> <p>小テスト ()</p> <p>授業中発表等 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 地域理学療法学応用演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 白岩 加代子・村田 伸	
テーマ	
演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。	
授業の到達目標	
地域理学療法学基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。	
授業の概要	
地域社会における理学療法士の役割を体験できるような学外研修を中心に授業を行う予定	
準備学習(予習・復習)	
自分が住んでいる地域や育った環境での保険・福祉制度や地域理学療法の現状について調べてみる。	
内 容	
第1回	地域理学療法学の考え方
第2回	障害を取り巻く社会状況(医療・福祉に関する制度)
第3回	介護保険制度の仕組み
第4回	介護保険制度における住宅改修
第5回	介護保険制度における福祉用具のサービス
第6回	障害の捉え方(ICFの分類)
第7回	急性期理学療法から維持期理学療法までの流れ
第8回	維持期における理学療法評価
第9回	維持期理学療法の実際(入所サービス)
第10回	維持期理学療法の実際(通所サービス)
第11回	維持期理学療法の実際(訪問サービス)
第12回	障害予防への取り組み方(ヘルスプロモーション)
第13回	地域における活動の紹介
第14回	高齢者を元気にする方法(美容の視点からのアプローチ)
第15回	高齢者への配慮(尊厳)
履修上の注意点	
3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書	
地域理学療法学テキスト	
著者: 村田伸・他	
出版社: BookWay	
出版年: 2015	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (90)	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 (10)	

2015 Syllabus

科目名 生活環境論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・村田 伸

テーマ

障害をもつ人の自立生活に必要な環境整備の理論と実際について学ぶ。

授業の到達目標

障害をもつ人の生活環境整備の方法や障害を有する人の生涯を通して関係してくる法制度、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅の知識について学ぶ。理学療法士として障害をもつ人が安心して生活を営むための援助を考え、地域活動に生かせるようになることが目標となる。

授業の概要

高齢者や障害をもつ人が、社会生活において自立した生活を送るのに必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

自分が生活している環境の中で、ユニバーサルデザインされている箇所を調べてみてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 生活環境学の概念
- 第3回 生活環境の評価と改善計画
- 第4回 生活環境と法的諸制度
- 第5回 生活環境としての住宅・住宅改修
- 第6回 高齢者の在宅生活サービス
- 第7回 福祉・リハ関連機器
- 第8回 地域環境と公共交通
- 第9回 住まい作りの基本事項
- 第10回 住まい作りの手順
- 第11回 生活動作別にみた住まい作りの考え方
- 第12回 移動方法からみた住まい作り
- 第13回 生活動作別にみた住まい作りの考え方
- 第14回 ケーススタディを用いた住宅改造ポイント
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」

著者： 東京商工会議所 編

出版社：

出版年： 最新版

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **運動器障害系理学療法学応用演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系疾患理学療法により詳細な評価・治療を考え、臨床能力の向上を図る

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を多角的に捉え、評価・治療を行う。より臨床に即した一連の理学療法を実践するにあたって、必要な運動器疾患の知識・解剖学的知識・運動学的知識を統合して捉えることができるようにする。

授業の概要

症例を通して、患者の全体像を把握して検査測定・問題点抽出・治療プログラム立案して実施するところまでを行う。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 姿勢の評価①
- 第3回 姿勢の評価②
- 第4回 下肢疾患の症例検討①
- 第5回 下肢疾患の症例検討②
- 第6回 下肢疾患の症例検討③
- 第7回 下肢疾患の症例検討④
- 第8回 上肢疾患の症例検討①
- 第9回 上肢疾患の症例検討②
- 第10回 上肢疾患の症例検討③
- 第11回 上肢疾患の症例検討④
- 第12回 脊椎疾患の症例検討①
- 第13回 脊椎疾患の症例検討②
- 第14回 脊椎疾患の症例検討③
- 第15回 総括なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

講義の前にテキストの指示された部分について最低でも3回は熟読し、分からない単語等は各自で調べておくこと。実技の出来る服装で参加すること。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

理学療法のクリティカルパス上巻

著者: 監訳)赤坂清和・藤縄理

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年: 2004

ISBN: 4860348397

理学療法のクリティカルパス下巻

著者: 監訳)赤坂清和・藤縄理

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年: 2004

ISBN: 4860348400

参考書

成績評価

試験 (80%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (5%)

参加度 (5%)

2015 Syllabus

科目名 **神経障害系理学療法学応用演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡・兒玉 隆之・濱出 茂治

テーマ

中枢性, 末梢性の神経障害に対する理学療法について学びを一層深める.

授業の到達目標

神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に, より臨床に近いレベルでの疾患の病態, 障害のメカニズム(回復, 予後を含む), 治療戦略に関する知識を演習形式にて指導する. さらに, 研究的視点でそれらに対する理学療法に必要な専門的理論に対する思考過程の習熟を図る.

授業の概要

2回生で学んだ内容の復習を行いつつ, 座学, グループ活動も含めた演習形式など多様な形態で進める. レポート課題も適宜行う.

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 末梢性神経障害の病態
- 第2回 末梢性神経障害の評価
- 第3回 末梢性神経障害に対する理学療法
- 第4回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論1
- 第5回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論2
- 第6回 脳血管障害後の神経学的徴候について
- 第7回 痙縮, 固縮のメカニズム
- 第8回 脳血管障害患者の急性期における問題点および治療プログラム
- 第9回 脳血管障害患者の慢性期における問題点および治療プログラム
- 第10回 症例(CVA)に対する臨床推論
- 第11回 大脳基底核の情報処理特性とパーキンソン病
- 第12回 パーキンソン病の問題点と治療プログラム
- 第13回 小脳の情報処理特性と多系統委縮症
- 第14回 多系統委縮症の問題点と治療プログラム
- 第15回 症例(多系統委縮症, パーキンソン病)に対する臨床推論

履修上の注意点

3分の2以上の出席により, 成績評価対象とする.

教科書

神経理学療法学

著者: 奈良 勲

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (85)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (5)

2015 Syllabus

科目名 内部障害系理学療法学応用演習

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 阿波 邦彦・堀江 淳	
テーマ	内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の高度な知識、技術の習得を促進する。
授業の到達目標	本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術の習得を目標とする。
授業の概要	呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術を習得する。
準備学習(予習・復習)	教員作成資料、内部障害関連学術雑誌の抄読、理学療法士対象の関連勉強会、講習会への参加促進
内 容	<p>第11回 心臓血管外科術後における心臓リハビリテーションの評価と治療</p> <p>第12回 回復期から慢性期における心臓リハビリテーションの評価と治療</p> <p>第13回 II型糖尿病の病態、検査、治療</p> <p>第14回 II型糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム</p> <p>第15回 講義のまとめと最新トピックスなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。</p> <p>第1回 COPDの病態</p> <p>第2回 COPDにおける動的肺過膨張、薬物療法と理学療法</p> <p>第3回 間質性肺炎や気管支拡張症の病態</p> <p>第4回 間質性肺炎や気管支拡張症の理学療法</p> <p>第5回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸、循環動態</p> <p>第6回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸器疾患の病態、評価と治療</p> <p>第7回 酸素療法、非侵襲的、侵襲的人工呼吸療法と理学療法</p> <p>第8回 胸部、腹部外科術後における理学療法とリスク管理</p> <p>第9回 心筋梗塞、狭心症における心臓リハビリテーション</p> <p>第10回 急性期(ICU、CCUなど)における循環器疾患の病態、評価と治療</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>理学療法テキスト内部障害理学療法学「呼吸」</p> <p>著者： 石川朗</p> <p>出版社： 中山書店</p> <p>出版年： 2010 ISBN: 9784521732282</p> <p>理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」</p> <p>著者： 石川朗</p> <p>出版社： 中山書店</p> <p>出版年： 2010 ISBN: 9784521732275</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (100) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。</p>

2015 Syllabus

科目名 **スポーツ障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	
テーマ スポーツ障害の再発防止に向けた理学療法	
授業の到達目標 ①スポーツ障害に関連する関節の機能不全や運動異常を説明できる。②スポーツ障害の再発防止に向けたアプローチを実践できる。	
授業の概要 スポーツ動作からみた障害発生要因について、さまざまな競技について検討するとともに、腰痛をはじめ股関節、膝関節および肩関節疾患に共通する体幹の機能評価およびアプローチ方法、自己管理の指導について実践的に解説します。	
準備学習(予習・復習) テキスト・資料を配付しますので、事前に熟読しておいてください。	
内 容 第1回 オリエンテーション／マルアライメント症候群に対する治療概念 第2回 骨盤帯に対するリアライメント(1) 第3回 骨盤帯に対するリアライメント(2) 第4回 胸郭に対するリアライメント(1) 第5回 胸郭に対するリアライメント(2) 第6回 コアに対するスタビリティエクササイズ(1) 第7回 コアに対するスタビリティエクササイズ(2) 第8回 股関節の機能改善アプローチ 第9回 膝関節の機能改善アプローチ(1) 第10回 膝関節の機能改善アプローチ(2) 第11回 足関節の機能改善アプローチ 第12回 肩関節の機能改善アプローチ 第13回 肘・手関節の機能改善アプローチ 第14回 スポーツ現場における障害予防教育 第15回 まとめ	
履修上の注意点 実技を交えながら行いますので、実習着に着替えて参加してください。スポーツ現場の見学実習も行います。	
教科書 リアライン・トレーニング 著者： 蒲田和芳 出版社： 講談社 出版年： 2014 ISBN： 978-4062806589	
参考書 ファンクショナル・エクササイズ 著者： 川野哲英 出版社： ブックハウスHD 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 (40) 小テスト (10) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (10) 参加度 (10)	

2015 Syllabus

科目名 発達障害系理学療法学応用演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

発達障害における理学療法の応用的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

- 1) 脳性麻痺の多様な病態と異常発達を理解する。
 分析の視点を学ぶ。 2) 脳性麻痺の各病型別動作
 3) 重度障害の病態・発達及び複合障害を理解する。
 4) 応用的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の概要

実技を中心に実施します。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内 容

- 第1回 脳性麻痺の概念: 脳性麻痺とは?
 第2回 脳性麻痺の病型分類と麻痺分布
 第3回 脳性麻痺の評価
 第4回 脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)①
 第5回 脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)②
 第6回 脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)①
 第7回 脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)②
 第8回 脳性麻痺の評価(実習)①
 第9回 脳性麻痺の評価(実習)②
 第10回 脳性麻痺の評価、統合と解釈①
 第11回 脳性麻痺の評価、統合と解釈②
 第12回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(1)
 第13回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(2)
 第14回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(3)
 第15回 まとめとテスト対策

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 老年期障害理学療法学演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	白岩 加代子・村田 伸	
テーマ	老人疾患の特徴や機能低下の特徴に合わせた理学療法について学ぶ。	
授業の到達目標	加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、個々に合わせた対応策を考案できるようになることを目標とする。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)	高齢者の動作分析や特徴などを観察してみる。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 高齢者の身体的特性</p> <p>第3回 高齢者の心理と精神的特性</p> <p>第4回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(脳血管障害)</p> <p>第5回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(廃用症候群)</p> <p>第6回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(骨折)</p> <p>第7回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(認知症)</p> <p>第8回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(関節リウマチ)</p> <p>第9回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(パーキンソン病)</p> <p>第10回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(生活習慣病)</p> <p>第11回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(心臓疾患)</p> <p>第12回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(内部障害)</p> <p>第13回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(その他)</p> <p>第14回 老人の尊厳と接し方</p> <p>第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。	
教科書	<p>「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」</p> <p>著者： 東京商工会議所</p> <p>出版社：</p> <p>出版年： 最新版</p> <p>ISBN：</p>	
参考書	<p>「老人のリハビリテーション」</p> <p>著者： 福井圀彦 監修</p> <p>出版社： 医学書院</p> <p>出版年：</p> <p>ISBN：</p>	
成績評価	<p>試験 (90)</p> <p>授業中課題 ()</p> <p>参加度 (10)</p> <p>小テスト ()</p> <p>授業中発表等 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション理学療法学応用演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子・堀江 淳・村田 伸

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的にヘルスプロモーションを促進するための理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項について学び、医療機関や地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士をめざす。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 生活習慣病予防のための運動処方
- 第2回 生活習慣病予防のための運動処方(運動指針と運動処方)
- 第3回 生活習慣病予防のための運動処方(効果的なウォーキング方法)
- 第4回 介護予防のための運動処方(介護予防と身体活動)
- 第5回 介護予防のための運動処方(骨粗鬆症の予防)
- 第6回 介護予防のための運動処方(転倒予防)
- 第7回 介護予防のための運動処方(認知症予防)
- 第8回 運動実施時の注意点(健康チェック)
- 第9回 運動実施時の注意点(環境と健康)
- 第10回 運動実施時の注意点(肥満者への運動指導)
- 第11回 運動実施時の注意点(腰・膝・肩に痛みがある人への運動指導)
- 第12回 運動実施時の注意点(筋力低下・虚弱高齢者への運動指導)
- 第13回 運動実施時の注意点(運動習慣の形成方法)
- 第14回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス
- 第15回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学 I (運動器障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系疾患理学療法に関する治療・研究の方向性について紹介し、整形徒手理学療法の理論と技術を学ぶ

授業の到達目標

整形徒手理学療法 (Kaltenborn-Evjenth Concept) の理論を理解し、基本的な技術を習得し、この基本的技術を患者に使用できるようにすることを目的とする。また、その過程で必要な学術論文が読めるようになることを目的とする。

授業の概要

講義形式とグループワークを行ってもらう。

準備学習(予習・復習)

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 整形徒手理学療法の理論
- 第3回 上肢の徒手療法1
- 第4回 上肢の徒手療法2
- 第5回 下肢の徒手療法1
- 第6回 下肢の徒手療法2
- 第7回 脊柱の徒手療法
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

実技が可能な服装で参加すること。授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

教科書

整形徒手理学療法

著者： 富雅男・砂川勇監修

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2011

ISBN: 9784263213872

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (5%)

参加度 (5%)

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅲ(内部障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求する。より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。

授業の到達目標

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を学び、臨床実習で活用できることを目標とする。また、より臨床的な内容に着目した知識、技術を習得することを目標とする。

授業の概要

教科書的な内容よりも、より臨床的な内容で授業を展開する。学術論文など最新のトピックスなども合わせて読み解く。

準備学習(予習・復習)

前期で学んだ内部障害系理学療法学基礎演習の内容を事前に復習しておく。

内 容

- 第1回 呼吸機能検査(肺気量分画)の技術と理論を学ぶ
- 第2回 呼吸機能検査(フローボリューム)の技術と理論を学ぶ
- 第3回 フィールド歩行テスト(6分間歩行距離テスト)の技術と理論を学ぶ
- 第4回 フィールド歩行テスト(シャトルウォーキングテスト)の技術と理論を学ぶ
- 第5回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(最高酸素摂取量と嫌気性代謝作業閾値)
- 第6回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(換気と循環)
- 第7回 運動処方の実際と理論を学ぶ
- 第8回 気道クリアランスを高める技術と理論(排痰手技)を学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

授業中の課題とその発表内容にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは発表を認めない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅳ(スポーツ障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対するテーピング

授業の到達目標

①スポーツテーピングの使用目的・適応・種類・注意事項などを説明できる。②応急処置におけるテーピング固定を実践できる。③疾患特性を考慮したテーピングを施行することができる。

授業の概要

スポーツ障害に対する応急処置やテーピング法について実技を交えながら解説します。

準備学習(予習・復習)

スポーツ障害に関する基礎知識を復習しておいてください。

内 容

- 第1回 スポーツ障害総論
- 第2回 テーピング技術1(足関節)
- 第3回 テーピング技術2(足部)
- 第4回 テーピング技術3(膝関節)
- 第5回 テーピング技術4(肩関節)
- 第6回 テーピング技術5(肘・手関節)
- 第7回 応急処置
- 第8回 まとめ

履修上の注意点

軽装に着替えて参加してください。スポーツ現場における実践を行う場合もあります。

教科書

参考書

ファンクショナル・テーピング

著者: 川野哲英

出版社: ブックハウスHD

出版年:

ISBN:

スポーツ理学療法

著者: 浦辺幸夫

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

筆記試験および実技試験を行う

2015 Syllabus

科目名 理学療法技術学Ⅴ(発達障害)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

各疾患別発達障害理学療法を症例を中心にディスカッション形式で授業を展開し、理学療法プロセスの思考を養う。

授業の到達目標

1)脳性麻痺の動作分析を学ぶ。

2)近年のトピック的な評価・治療を学ぶ。

3)発達障害の加齢による退行を学ぶ。

授業の概要

ディスカッション形式で実施します。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内 容

第1回 痙直型脳性麻痺の近年の評価・治療

第2回 アテトーゼ型脳性麻痺の近年の評価・治療

第3回 ジストニア型脳性麻痺の近年の評価・治療

第4回 失調型脳性麻痺の近年の評価・治療

第5回 症例1. ディスカッション

第6回 症例2. ディスカッション

第7回 症例3. ディスカッション

第8回 症例4. ディスカッション

履修上の注意点

1/3以上の欠席で単位なし

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 **理学療法管理学**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

理学療法部門における管理運営者としての業務や他部門との連携あり方について教授する。

授業の到達目標

理学療法部門における管理運営の在り方について学ぶことを目的とする。

授業の概要

理学療法部門における人材育成や治療技術の向上を目的とした臨床研修教育、研究体制、さらには部門管理者としてのマネジメント理論について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 理学療法部門管理とは
- 第3回 チームリーダーの役割
- 第4回 医療保険制度
- 第5回 介護保険制度
- 第6回 回復期病棟における理学療法の役割
- 第7回 デイケアにおける理学療法の役割
- 第8回 他部門との連携の在り方
- 第9回 認定理学療法士制度
- 第10回 専門理学療法士制度
- 第11回 生涯教育の在り方
- 第12回 理学療法と医療コスト
- 第13回 研究と教育
- 第14回 理学療法施設基準
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (75%)

小テスト ()

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

1/3以上の欠席を認めない。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理)

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 堀江 淳

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 白岩 加代子

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)
- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <f>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <i>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱出 茂治

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <j>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <k>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究(理) <I>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる。②研究成果を理解した上で、論考することができる。③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる。④論文作成過程を理解し、実践できる。

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて、論文作成を目指します。論文指導は、コース毎に複数教員による指導体制のもと、行います。

準備学習(予習・復習)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する。さらに論文作成の過程を十分に習得してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文発表準備(1)
- 第3回 卒業論文発表準備(2)
- 第4回 卒業論文発表準備(3)
- 第5回 卒業論文発表準備(4)
- 第6回 卒業論文発表準備(5)
- 第7回 卒業論文発表準備(6)
- 第8回 卒業論文発表準備(7)
- 第9回 卒業論文発表準備(8)
- 第10回 卒業論文発表準備(9)
- 第11回 卒業論文発表準備(10)
- 第12回 卒業論文発表検討会
- 第13回 卒業論文発表準備(11)
- 第14回 卒業論文発表準備(12)
- 第15回 卒業論文発表準備(13)
- 第16回 卒業論文発表準備(14)
- 第17回 卒業論文発表準備(15)
- 第18回 卒業論文発表準備(16)
- 第19回 卒業論文発表会(1)
- 第20回 卒業論文発表会(2)
- 第21回 卒業論文発表会(3)
- 第22回 卒業論文発表会(4)
- 第23回 卒業論文発表会(5)
- 第24回 卒業論文発表会(6)
- 第25回 卒業論文作成(1)
- 第26回 卒業論文作成(2)
- 第27回 卒業論文作成(3)
- 第28回 卒業論文作成(4)
- 第29回 卒業論文作成(5)
- 第30回 卒業論文作成(6)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（20）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度、また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します。試験には卒業論文の完成度やプレゼンテーション能力、ディスカッション能力で構成します。

2015 Syllabus

科目名 English Communication I <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報を読み取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 English Communication I <Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **English Communication I <Hc>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ソーソン マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Introductions 第2回 Journal notebook, week one – Story Research 第3回 Week 2 Story Characters 第4回 Episode 3 Monsters – New words 第5回 ,Journal week 4 Quiz – Morning After 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Natural pronunciation practice 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher 第9回 Journals week 8 – Story Summary 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Favorite Actor Report – Presentation 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 (40) 授業中課題 (15) 参加度 (15)	小テスト (15) 授業中発表等 (15)

2015 Syllabus

科目名 English Communication I <火4・金4>

クラス

配当回生

講義期間 その他

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の到達目標

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の概要

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

準備学習(予習・復習)

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

内 容

第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 //

履修上の注意点

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

教科書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

2015 Syllabus

科目名 English Communication II <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (40%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 English Communication II <Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (35)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **English Communication II <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Summer Holiday – Story Review
- 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention
- 第3回 Story Summary Q and A
- 第4回 Episode 14 Blinddate
- 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Independence Day – Acting scene
- 第8回 Journals week 7 Story Summary
- 第9回 Acting – New Girl Scene
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Episode 19 Four Square
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 English Communication II <火4・金4>

クラス

配当回生

講義期間 その他

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の到達目標

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の概要

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

準備学習(予習・復習)

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

内 容

第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 //

履修上の注意点

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

教科書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

2015 Syllabus

科目名 English Literacy I <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (60%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 **English Literacy I <Hb>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 山崎 清水		
テーマ	国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。	
授業の概要	・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習)	事前に英単語は調べておくこと。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える</p> <p>第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」</p> <p>第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する</p> <p>第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」</p> <p>第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する</p> <p>第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」</p> <p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」</p> <p>第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する</p> <p>第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」</p> <p>第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey – A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する</p> <p>第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p>	
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。	
教科書	<p>World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code</p> <p>著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase</p> <p>出版社: Cengage Learning</p> <p>出版年: 2015 ISBN: 9781305089518</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (50) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (10)</p>	

2015 Syllabus

科目名 **English Literacy I <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 榎本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するためにスキミング、スキヤニング、クリティカル・シンキングや言い換えといった、リーディングに不可欠なストラテジーを身につける。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

テキストを中心に行う。リーディングのクラスであるが、文法、リスニング、スピーキング、ライティングも行う。

準備学習(予習・復習)

復習と宿題を必ずする。語彙を増やす。

内 容

- 第1回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken?
- 第2回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken?
- 第3回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken?
- 第4回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken?
- 第5回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
- 第6回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
- 第7回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
- 第8回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System
- 第9回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics
- 第10回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics
- 第11回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics
- 第12回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics
- 第13回 復習
- 第14回 復習
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

積極的な授業参加を心がける。宿題、小テスト、期末テストは必ずこなす。

教科書

Issues for Today

著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare

出版社: HEINLE CENGAGE Learning

出版年:

ISBN: 1-111-03357-6

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 English Literacy I <火4・金4>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 English Literacy II <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (50%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 English Literacy II <Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now, (Writing/Speaking) スポーツに関して話す

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 衣服や色について知る

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food, (Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 移住について論じる

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **English Literacy II <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 榎本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するためにスキミング、スキヤニング、クリティカル・シンキングや言い換えといった、リーディングに不可欠なストラテジーを身につける。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。

準備学習(予習・復習)

復習、課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

- 第1回 Chapter 1
- 第2回 Chapter 2
- 第3回 Chapter 3
- 第4回 Chapter 4
- 第5回 復習
- 第6回 Chapter 5
- 第7回 Chapter 6
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 復習
- 第11回 Chapter 9
- 第12回 Chapter 10
- 第13回 Chapter 11
- 第14回 Chapter 12
- 第15回 復習

履修上の注意点

積極的に授業に参加する。復習、課題は必ずする。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 English Literacy II <Hd>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (15)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 English Literacy II <火4・金4>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ 仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習) クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容 第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 第2回 // 第3回 // 第4回 // 第5回 // 第6回 // 第7回 // 第8回 // 第9回 // 第10回 // 第11回 // 第12回 // 第13回 // 第14回 // 第15回 //	
履修上の注意点 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 アカデミックスキルズ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ 大学での勉強に必要な論理的な文章の書き方を身につける	
授業の到達目標 アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならないからだ。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できる。	
授業の概要 この授業では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。論評文を中心として400-800字程度の文章を論理的に書けるようにする。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。	
準備学習(予習・復習) 日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう。	
内 容 第1回 400字で論評文を書く(その1) 第2回 400字で論評文を書く(その2) 第3回 思考単位としての文 第4回 文章書き換えの練習(その1) 第5回 文章書き換えの練習(その2) 第6回 段落のはたらき・つくり方 第7回 800字で論評文を書く(その1) 第8回 800字で論評文を書く(その2) 第9回 語句の選び方と使い方(その1) 第10回 語句の選び方と使い方(その2) 第11回 演習:ブックレビューを書く 第12回 演習:案内文を書く 第13回 デベートの立論を書く(その1) 第14回 デベートの立論を書く(その2) 第15回 アカデミックスキルとしての論理的な文章	
履修上の注意点	
教科書 新版 論理的思考 著者: 宇佐美寛 出版社: メディカルフレンド社 出版年: 1989 ISBN:	
参考書 論理トレーニング101題 著者: 野矢茂樹 出版社: 産業図書 出版年: 2001 ISBN:	
レポート・論文の書き方入門 第3版 著者: 河野哲也 出版社: 慶應義塾大学出版会 出版年: 2002 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト (50%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 ()	

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <* a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス)なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <*b>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス)なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <*c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス)なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <*d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス)なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <*e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス)なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス)なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <*b>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス)なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <*c>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス)なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。
- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <*d>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス)なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <*e>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

準備学習(予習・復習)

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス)なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・中川 明仁・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・塩谷 尚正・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・塩谷 尚正・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・塩谷 尚正・田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <R>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 永野 光朗	
テーマ 「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学	
授業の到達目標 心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や、産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら、心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究法(実験、調査、行動観察など)についても実例を通して理解を深めたい。	
授業の概要 過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。	
準備学習(予習・復習) 社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。	
内 容 第1回 心理学の目標 第2回 人間理解と心理学 第3回 心理学と社会生活とのつながり 第4回 これまでの心理学の取り組み(1) 実証科学としての心理学の確立 第5回 これまでの心理学の取り組み(2) 学習理論 第6回 これまでの心理学の取り組み(3) 認知理論 第7回 社会を理解するための心理学(1) 社会的相互作用としての人間行動 第8回 社会を理解するための心理学(2) 対人認知と印象形成 第9回 社会を理解するための心理学(3) 対人行動 第10回 社会を理解するための心理学(4) 集合行動 第11回 社会を理解するための心理学(5) 社会的認知理論 第12回 心理学の応用(1) 社会生活への応用 第13回 心理学の応用(2) 企業活動への応用(組織行動) 第14回 心理学の応用(3) 企業活動への応用(消費者行動) 第15回 心理学の応用(4) 環境配慮行動の促進	
履修上の注意点 授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。	
教科書 心理学概論(第2版) 著者: 岡市広成監修 出版社: (ナカニシヤ出版) 出版年: 2014年 ISBN: 参考書 心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい 著者: サトウタツヤ・渡邊芳之 著 出版社: (有斐閣) 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (40) 小テスト (60) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 毎回の授業の終了時に小テストを実施する。また期末試験(第16週目)も実施する。	

2015 Syllabus

科目名 心理統計学 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 中川 明仁・前田 洋光

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の概要

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。

準備学習(予習・復習)

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の必要性について
- 第2回 尺度水準(Stevensの4つの尺度水準)
- 第3回 度数分布
- 第4回 さまざまな代表値
- 第5回 散布度
- 第6回 変数変換(標準得点と偏差値)
- 第7回 前半部分のまとめと確認
- 第8回 共分散とピアソンの相関係数(1)
- 第9回 共分散とピアソンの相関係数(2)
- 第10回 順位相関係数
- 第11回 カイ2乗検定(1)
- 第12回 カイ2乗検定(2)
- 第13回 マン・ホイットニーのU検定
- 第14回 後半部分のまとめと確認
- 第15回 授業全体のまとめ

履修上の注意点

本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。

教科書

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者: 吉田寿夫 著

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる心理統計

著者: 山田剛史・村井潤一郎 著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 臨床心理学 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 井上 裕樹・日比野 英子	
テーマ 臨床心理学の概論の理解	
授業の到達目標 臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。	
授業の概要 臨床心理学は、現代社会が抱えているさまざまな心と身体の問題、人間関係の問題、生活の諸側面の問題等の改善や解決を要請されている学問領域であるが、本科目では、その基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・実践活動を紹介する。	
準備学習(予習・復習) 受講後(次回の講義まで)に、ノートを整理し、講義に相当する教科書の説明を精読して、理解を深めてください。	
内 容 第1回 臨床心理学とは 第2回 臨床心理学の歴史 第3回 臨床心理学の主な学問分野 第4回 臨床心理学の基礎理論① 精神分析学 第5回 臨床心理学の基礎理論② 人間性心理学 第6回 臨床心理学の基礎理論③ 認知・行動理論 第7回 心の発達と心の病理① 乳幼児期の心と心のつまずき 第8回 心の発達と心の病理② 児童期・思春期の心理的問題 第9回 心の発達と心の病理③ 青年期の心と心の迷い 第10回 心の状態を測る—心理アセスメント— 第11回 心理アセスメントの方法 第12回 心の病の回復の援助① カウンセリング 第13回 心の病の回復の援助② 子どもの心理療法 第14回 心の病の回復の援助③ 問題行動の心理療法 第15回 まとめ	
履修上の注意点 本科目は臨床心理学の基本的な理論・概念を紹介するので、それらの知識を獲得することが要求されるが、決して単なる暗記ではなく、正しく理解することが要求されていることを忘れぬように。	
教科書 臨床心理学を基本から学ぶ 著者： 丸島令子・日比野英子編 出版社： 北大路書房 出版年： 2004年 ISBN： 4-7628-2401-1	
参考書 よくわかる臨床心理学 著者： 下山晴彦編 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2003年 ISBN： 9784623054350	
成績評価 試験 (50) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (20) 意見を述べる、質問する、リアクションペーパーに記述するなど、積極的な授業参加を評価します。	

2015 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 滝野 功久・中島 暢美・中村 和夫・日比野 英子・前田 洋光・松下 幸治

テーマ

「からだ」を通じた関わり方について—発達障害児の遊戯療法から—

授業の到達目標

遊戯療法についての理解。

授業の概要

発達障害児に対する遊戯療法過程を可能な限りアクチュアルに描出し、同時に対象児がからだを通じたかかわりによって自己受容が成された過程について講義する。

準備学習(予習・復習)

遊戯療法や発達障害関連の図書を読む。

内 容

第1回 遊戯療法とは

第2回 遊戯療法の実際—発達障害児の遊戯療法事例から—

履修上の注意点

2回目の授業内で課題を仕上げるため、1回目の後に論文を読み込んで課題作成のための準備しておく必要がある。

教科書

参考書

プレイセラピー

著者： 高野清純

出版社： 日本文化科学社

出版年：

ISBN：

自閉症の関係障害臨床

著者： 小林隆児

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2回目の授業内の課題レポートによって評価する。

2015 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学Ⅱ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	坂本 敏郎・ジェイムス 朋子・菅 佐和子・田中 芳幸・中西 龍一・永野 光朗	
テーマ	こころとからだ／健康であること／身体観のちがひー文化と時代	
授業の到達目標	こころとからだのあり方を総合的にとらえ、理解する	
授業の概要	講義とワーク	
準備学習(予習・復習)	講義の中で紹介された本、ビデオ、DVDなどはできるだけ見てください	

内 容

- 第1回 「こころ」の悩みを「からだ」が肩代りするとき① 幼児期～児童期の例【菅 佐和子】
 第2回 「こころ」の悩みを「からだ」が肩代りするとき② 思春期～青年期の例【菅 佐和子】
 第3回 「こころ」の悩みを「からだ」が肩代りするとき③ 成人期以降の例【菅 佐和子】
 第4回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
 第5回 ストレスへの対処【田中 芳幸】
 第6回 ストレスと身体(からだ)【中西 龍一】
 第7回 ゲシュタルト療法と身体【中西 龍一】
 第8回 こころとからだ【中西 龍一】
 第9回 精神分析学における性愛性と攻撃性の発達力学【ジェイムス 朋子】
 第10回 心理療法における受益者と受益性【ジェイムス 朋子】
 第11回 精神分析的な心理療法事例から学ぶ【ジェイムス 朋子】
 第12回 社会的行動からみた身体① 身体(外見)のコミュニケーション機能【永野 光朗】
 第13回 社会行動からみた身体② 身体(外見)が対人認知と対人魅力に及ぼす効果【永野 光朗】
 第14回 こころの絆の神経内分泌機構【坂本 敏郎】
 第15回 男と女の情動科学【坂本 敏郎】

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

出席とレポートはセットです。

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 中国語 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中国と中国語の概説
- 第2回 発音A
- 第3回 発音B
- 第4回 発音C
- 第5回 発音D
- 第6回 第一課 単語と文法
- 第7回 第一課の表現練習
- 第8回 第二課 単語と文法
- 第9回 第二課の表現練習
- 第10回 第三課 単語と文法
- 第11回 第三課の表現練習
- 第12回 第四課 単語と文法
- 第13回 第四課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

履修上の注意点

教科書

ともだち・朋友 スリム版①

著者：董燕・遠藤光暁

出版社：(朝日出版社)

出版年：2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 前期の総復習
- 第2回 第五課 単語と文法
- 第3回 第五課の表現練習
- 第4回 第六課 単語と文法
- 第5回 第六課の表現練習
- 第6回 第七課 単語と文法
- 第7回 第七課の表現練習
- 第8回 第八課 単語と文法
- 第9回 第八課の表現練習
- 第10回 第九課 単語と文法
- 第11回 第九課の表現練習
- 第12回 第十課 単語と文法
- 第13回 第十課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

履修上の注意点

教科書

ともだち・朋友 スリム版①

著者：董燕・遠藤光暁

出版社：(朝日出版社)

出版年：2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2015 Syllabus

科目名 女性とイメージ <eL>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日は別途、掲出します。

授業の到達目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の概要

[メディア授業/全15回]

準備学習(予習・復習)

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

内 容

- 第1回 導入:視覚メディアにおける女性のイメージ
- 第2回 母親像1:子孫再生産の担い手
- 第3回 母親像2:究極の母親・聖母マリア——子孫再生産と男系血統の保障
- 第4回 母親像3:一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)——子孫再生産とジェンダー
- 第5回 妻像1:夫を補佐するもの
- 第6回 妻像2:男性を補佐するもの
- 第7回 妻像3:家内を管理するもの
- 第8回 妻像4:女・家内・私事 vs 男・社会・公事——社会的役割とジェンダー
- 第9回 妖婦像1:近代以前の妖婦像——伝説の妖婦たち
- 第10回 妖婦像2:近代の妖婦たち
- 第11回 妖婦像3:妖婦像の二重構造——魅惑するものと墮落させるもの
- 第12回 妖婦像4:ジェンダーの要としての妖婦像
- 第13回 女性たちの反抗1:男性に伍した女性たち
- 第14回 女性たちの反抗2:解放運動のイメージあれこれ
- 第15回 まとめ:解放の歴史

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

女のイメージ

著者: G・デュビイ 編

出版社: (藤原書店)

出版年: ISBN:

聖母マリアの美術

著者: 諸川春樹・利倉隆 著

出版社: (美術出版社)

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 ヨーロッパの歴史 <eL>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日時は別途、掲出します。

授業の到達目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

準備学習(予習・復習)

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
- 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
- 第5回 16世紀ハプスブルク家の繁栄
- 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(1)
- 第7回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(2)
- 第8回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第9回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第10回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第11回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
- 第12回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第15回 20世紀のヨーロッパ(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

インディアスの破壊についての簡潔な考察

著者: ラス・カサス

出版社: 岩波文庫

出版年: 1976

ISBN:

成績評価

a90201d410

試験 (100)
授業中課題 ()
参加度 ()

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 文学にみる京都

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習(予習・復習)

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 夏目漱石「虞美人草」
- 第3回 森鷗外「高瀬舟」
- 第4回 芥川龍之介「羅生門」①
- 第5回 芥川龍之介「羅生門」②
- 第6回 川端康成「美しさと哀しみと」①
- 第7回 川端康成「美しさと哀しみと」②
- 第8回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
- 第9回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
- 第10回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」
- 第11回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「桜の森の満開の下」
- 第12回 森見登美彦「有頂天家族」①
- 第13回 森見登美彦「有頂天家族」②
- 第14回 森見登美彦「有頂天家族」③
- 第15回 まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないで注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限り公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

期末レポート(内容と形式については授業中に説明する)を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 政治学概説

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 田代 和也

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習(予習・復習)

授業の予習、復習に関して特別に指示することはしない。ただし、試験では講義で取り上げた内容を一部修正して出題する予定であるため、受講生は配布した資料を紛失しないように注意し、また講義の内容を記憶するだけでなく、理解することを日ごろから心がけておくことが求められる。

内 容

- 第1回 イントロダクション・選挙について
- 第2回 投票行動・メディアと政治
- 第3回 政治家
- 第4回 日本政治史①～戦後政治と55年体制～
- 第5回 日本政治史②～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
- 第6回 政党
- 第7回 官僚制
- 第8回 利益団体
- 第9回 国会(議会)
- 第10回 政策過程
- 第11回 首相～強い首相と弱い首相～
- 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
- 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に～
- 第14回 国際政治
- 第15回 本講義のまとめ
- 第16回 定期試験

履修上の注意点

授業への妨害、不正行為、他の受講生への迷惑行為、それに類する行為があったと認められた場合、その受講生の成績を評価しない。また4回以上の欠席が認められた場合についても同様の処置をとる。ただし、交通事故、怪我病氣、その他のやむをえない事情による欠席は、その旨を届け出ることによって出席扱いとする場合がある。学習上の助言として、政治学の概念や考え方を理解するだけでなく、その知識を具体的な事例や状況に当てはめて判断する能力となるように意識することが重要である。

教科書

現代政治学入門

著者: パーナード・クリック

出版社: 講談社

出版年: 2003

ISBN: 4061596047

ポリティカル・サイエンス事始め 第3版

著者: 伊藤光利 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2009

ISBN: 9784641183728

参考書

はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い

著者: 岡崎晴輝、木村俊道編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN: 4623050548

政治学 補訂版

著者： 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝

出版社： 有斐閣

出版年： 2011

ISBN: 4641053774

政治学事典

著者： 猪口孝、岡沢憲芙、山本吉宣、大沢真幸、スティーブン・R.リード編

出版社： 弘文堂

出版年： 2004

ISBN: 4335460244

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

成績評価の詳細については、第1回の授業において説明する。

2015 Syllabus

科目名 **経済学概説**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

社会認識の手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

経済社会の中で起こる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の概要

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学んだ上で、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題—地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題—にどのように取り組んでいるのかを学びます。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習は必須。少なくとも各1時間は費やすこと。

内 容

- 第1回 経済学はどんな学問か？
- 第2回 経済学と政治経済学:グローバリゼーションと、そのインパクト
- 第3回 経済学の5つの視点:人間はどこまで経済をコントロールできるか？
- 第4回 経済成長のメカニズム(1):経済が順調に循環する条件とは？
- 第5回 経済成長のメカニズム(2):何が経済を成長させるのか？
- 第6回 景気変動のメカニズム(1):経済が不安定化する原因はどこにあるのか？
- 第7回 景気変動のメカニズム(2):市場経済はどのように変化してきたか？
- 第8回 市場のはたらきとその限界(1):価格メカニズムのメリットとは何か？
- 第9回 市場のはたらきとその限界(2):市場が失敗するのはどのような場合か？
- 第10回 政府による経済のコントロール(1):経済を不安定にする「バブル」とは何か？
- 第11回 政府による経済のコントロール(2):経済を安定化する方法とは？
- 第12回 技術革新と経済発展:経済を飛躍させる契機は何か？
- 第13回 国際的金融取引の進展と政府の役割の変容:資本移動は国家を破壊するか？
- 第14回 持続可能な経済発展に向けて:自然環境の維持と経済発展は調和できるか？
- 第15回 まとめ:経済学を学んだ人に期待されること

履修上の注意点

私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。

教科書

ヒューマニティーズ経済学

著者: 諸富徹

出版社: 岩波書店

出版年: 2009

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **国際マーケティング論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 文男	
テーマ 日本企業の国際マーケティング	
授業の到達目標 国際マーケティングに関する基本知識についての理解を深めるとともに、現代日本企業が直面している問題が何なのか明らかにし、そこから課題を発見し、解決する能力を養う。	
授業の概要 初めに国際マーケティングの基礎知識を習得する。その上で、国際マーケティングの初期の形態である対米輸出マーケティング戦略について説明し、続いて国際マーケティングの発展した形態であるグローバル・マーケティング戦略について日本企業を素材に具体的に説明する。	
準備学習(予習・復習) 国際マーケティングや国際経営に関する新聞記事や雑誌について関心を持って読んでおくこと。できれば、マーケティング論や広告論、日本企業論などの講義を受講しておくことが望ましい。	
内 容 第1回 国際マーケティングの概念について。 第2回 国際マーケティングの構成要素の一つである国際製品戦略について。 第3回 国際マーケティングの構成要素の一つである国際ブランド戦略と国際広告戦略について。 第4回 国際マーケティングの構成要素である国際価格戦略と国際チャネル戦略について。 第5回 三洋電機の対米輸出マーケティング戦略について。 第6回 松下電器の対米輸出マーケティング戦略について 第7回 ソニーの対米輸出マーケティング戦略について。 第8回 先進国市場におけるパナソニックのグローバル・マーケティング戦略について。 第9回 中国市場における資生堂のグローバル・マーケティング戦略について。 第10回 ユニクロのグローバル・マーケティング戦略について。 第11回 アジア市場におけるファミリーマートのグローバル・マーケティング戦略について 第12回 アジア市場における大戸屋と8番ラーメンのグローバル・マーケティング戦略について 第13回 中国市場におけるパナソニック中国とソニー中国のグローバル・マーケティング戦略について 第14回 インド市場におけるパナソニック・インドとソニー・インドのグローバル・マーケティング戦略について。 第15回 国際マーケティングに関するまとめ	
履修上の注意点	
教科書 日本企業のアジア・マーケティング 著者： マーケティング史研究会 出版社： 同文館 出版年： 2014年 ISBN: 9784495646714	
参考書 日本企業の国際マーケティング論 著者： 近藤文男 出版社： 有斐閣 出版年： 2004 ISBN: 9784641161993	
成績評価 試験 (毎講義の後に感想文と質問提出してもらい提出した 小テスト () 感想文で評価する) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 看護情報論 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

テーマ

看護は情報や知識を駆使する高度な情報処理プロセスである。本講では情報学はコンピュータを学ぶという偏見や苦手意識を解き、日々の看護実践・管理における情報を改めて意識する。そして、情報技術、通信技術の進歩に伴い、看護の現場に導入された情報システムによる支援について学習する。さらに、質の高い看護の提供をめざす看護実践・管理における情報活用について、探求する。●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

・看護情報論を学ぶ意義を理解する。・日々の看護実践・管理において、活用している情報を意識する。・医療・看護を支援する情報及び情報システムの活用について理解する。・医療・看護における情報倫理について理解する。・医療・看護情報(学)の今後の方向性、課題を理解する。

授業の概要

[メディア授業/全15回]情報技術の発展に伴い、看護現場での情報活用の利便性が向上し、看護情報学が扱う領域が拡大した。本講では、病院情報システムのみならず、看護情報学の幅広い領域を網羅的に教授する。職場における情報の電子化の如何を問わず、質の高い看護の提供をめざした情報活用について各自が学びを深める。そのため、なるべく具体例を取り上げながら授業を進め、日々の看護実践・管理における自分の体験と重ね合わせて内容を理解できるように配慮する。

準備学習(予習・復習)

日々の看護実践・管理において、自分の思考プロセスを意識し、言葉で具体的に表現してみる。日々の看護実践・管理で、自分が体験している具体的な個々の状況をよく観察し振り返り、詳細にイメージできるようにする。

内 容

- 第1回 看護情報論を学ぶ意義、情報(学)の基礎
- 第2回 医療・看護情報(学)の特徴と領域
- 第3回 情報技術・通信技術の発展と医療・看護への影響
- 第4回 医療・看護情報に関する標準化(用語の標準化、NANDA、NOC、NIC、看護必要度等)
- 第5回 情報倫理その1(情報倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー権、守秘義務)
- 第6回 情報倫理その2(情報技術・通信技術の発展と個人情報取扱、それに関する法律)
- 第7回 情報倫理その3(情報セキュリティ、情報倫理教育、情報開示、情報公開)
- 第8回 病院情報システム(病院における情報の特徴、電子カルテの定義、要件、安全管理)
- 第9回 看護職が関わる情報システム(看護を支援システム、電子化による看護への影響)
- 第10回 情報共有、チーム医療を支援するシステム(クリニカルパス、職種横断的マネジメント組織と情報活用)
- 第11回 医療安全を支援するシステム(患者認証システム、ヒヤリ・ハットレポートシステム等)
- 第12回 EBM、EBNのための情報活用(Evidenceの概念、EBM(EBN)のプロセス)
- 第13回 看護管理プロセスと情報活用(看護管理の目的と情報、情報システム構築導入と運営)
- 第14回 情報発信・収集(病院における情報発信・収集)、医療・看護情報(学)の今後の展望
- 第15回 まとめ(看護実践・管理における情報活用)

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

エッセンシャル看護情報学

著者: 太田勝正・前田樹海 編著

出版社: (医歯薬出版)

出版年:

ISBN:

看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論

著者： 上泉和子・太田勝正 編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者： 中山和宏・瀬戸山陽子ほか 著

出版社：（医学書院）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60%）

小テスト（40%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2015 Syllabus

科目名 看護倫理 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
看護倫理、看護実践、ケアリング、患者の権利●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。	

授業の到達目標

1. 看護倫理の基盤となるケアリングの倫理について、概念的かつ実践的に理解する。2. 医療現場で生じる倫理的な問題について、その背景的要因と関連付けて検討し、解決策を述べる。3. 患者の権利擁護がなぜ必要か、看護師が権利擁護者として役割を担う意義、必要性について、自分の考えを述べる。4. 自身の現場で倫理的問題に気づき、患者の権利や看護師・医療者の責務等の観点から分析し、解決策を提案する。

授業の概要

看護実践には倫理的側面が不可欠である。本講義では、患者との関わりを重視するケアリングを中心とする看護倫理の基礎的知識を教授する。これを踏まえ、実践において看護師(学生)が遭遇する倫理的問題を含むべきことを教材として、倫理的問題解決の道筋を探るプロセスを学習する。ここで重視するのは、将来患者のアドボケイトを務めるための基礎的能力、すなわち、当事者として考え行動する責任感や主体性、現実のさまざまな制約のなかでもあきらめずに解決をめざす粘り強さや知恵を開発することである。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 患者の自律性を尊重する(テキスト:第一章 18~38ページ)
- 第2回 自律性と危険回避のための干渉(テキスト:第二章 39~63ページ)
- 第3回 真実を告げる(テキスト:第三章 64~85ページ)
- 第4回 アドボカシーとインテグリティ(テキスト:第四章 86~108ページ) * テキスト授業
- 第5回 患者の秘密を守る(テキスト:第五章 109~130ページ)
- 第6回 秘密保持のプロセス(テキスト:第六章 131~143ページ)
- 第7回 看護と医療のインフォームド・コンセント(テキスト:第七章 144~173ページ)
- 第8回 研究・調査におけるインフォームド・コンセント(テキスト:第八章 174~193ページ)
- 第9回 看護倫理とは(1)
- 第10回 看護倫理とは(2)
- 第11回 看護倫理とは(3)
- 第12回 看護倫理とは(4)
- 第13回 看護倫理とは(5)
- 第14回 看護倫理とは(6)
- 第15回 看護倫理とは(7)

履修上の注意点

教科書

看護倫理 1

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: みすず書房

出版年: 2006

ISBN:

参考書

看護倫理 2

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: みすず書房

出版年: 2006

ISBN:

看護倫理 3

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: みすず書房

出版年: 2007

ISBN:

ケアリング 看護婦・女性・倫理

著者： ヘルガ・クーゼ 著

出版社： メディカ出版

出版年： 2000

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は、第15回後にレポートを課す

2015 Syllabus

科目名 国際看護学 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

テーマ

国際看護の基礎概念と多文化共生社会における看護の役割●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

1. 国際看護学にかかわる諸概念について理解する2. 保健医療における国際社会の現状と課題を理解する3. 国際協力活動のしくみと看護活動の実際を理解する4. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解する

授業の概要

[メディア授業/全15回]自立と共存の視点から多文化共生社会をみざる時代になり、看護職者は文化背景の異なる人々への看護のアプローチが求められている。本講義では、国際看護・国際保健の主要概念や理論、国際協力の理念・目標について学び、国際的視野で保健医療にかかわる諸要因と人々の健康について概説する。また、看護職者による国際協力の実績と国内における看護の国際化の現状理解を踏まえ、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の方法や看護師の役割、必要とされる看護実践能力について考察する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 国際看護概論
- 第2回 国際看護と異文化看護(文化の違いを考慮した看護)
- 第3回 国際社会の現状と課題
- 第4回 自立・共生に向けた国際協力
- 第5回 国際看護活動を必要とする世界の現状
- 第6回 国際協力活動を推進する機関
- 第7回 国際協力活動を推進する看護職
- 第8回 国際看護活動① 海外における看護活動(1)
- 第9回 国際看護活動② 海外における看護活動(2)
- 第10回 国際看護活動③ 日本における外国人と看護活動
- 第11回 国際看護活動④ 技術協力(1)
- 第12回 国際看護活動⑤ 技術協力(2)
- 第13回 国際看護活動⑥ 緊急援助
- 第14回 国際看護活動に必要なとされる能力・手法
- 第15回 異文化理解と国際看護学

履修上の注意点

教科書

国際看護学入門

著者: 国際看護研究会 編

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト (40%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第13回の授業の後に行う

2015 Syllabus

科目名 看護管理学 <eL>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメント●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

1. マネジメントおよび看護におけるマネジメントの主要概念を理解する2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する4. 患者中心志向の医療における看護職、看護管理者の役割を理解する

授業の概要

[メディア授業/全15回]本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF.ナイチンゲールの看護の概念・方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、学習する。

準備学習(予習・復習)

内容

- 第1回 看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか1. なぜ看護管理学を学ぶのか2. 看護管理学とは何か3. 看護管理の2つ視点 4. 医療現場の動向
- 第2回 看護におけるマネジメント1(看護におけるマネジメントとその変遷)1. 看護の分野に応用される管理の原理2. 看護におけるマネジメントの変遷
- 第3回 看護におけるマネジメント2(マネジメントが行われる場)3. マネジメントの考え方の変遷と看護管理への導入4. 看護のマネジメントが行われる場
- 第4回 ケアのマネジメント(看護職の機能、患者の権利)1. ケアのマネジメントと看護職の機能2. 看護基準と看護手順3. 患者の権利の尊重
- 第5回 看護サービスのマネジメント1(看護管理の定義と看護実践の組織化)1. 近代看護管理の定義と目的2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護の組織化
- 第6回 看護サービスのマネジメント2(組織の有効な維持、運営、変革)4. サービス業としての医療5. サービスの評価
- 第7回 協働のためのマネジメント1(ヘルスケア専門職との協働)1. ヘルスケア専門職との協働2. ヘルスケア専門職との連携
- 第8回 協働のためのマネジメント2(人材の活用と看護職の協働)1. 人材フローのマネジメント2. 看護職の協働
- 第9回 看護サービスのマネジメント3(安全管理、リスクマネジメント、情報管理)1. 安全管理2. 医療におけるリスクマネジメント3. 情報の管理と医療情報システムの活用
- 第10回 看護をとりまく諸制度1(看護職と法制度)1. 看護と看護職の定義2. 看護職と法制度3. 看護職の法的責任と職業倫理
- 第11回 看護をとりまく諸制度2(看護実践の領域、医療制度 看護職の教育制度)1. 看護実践の領域と場2. 医療制度3. 看護職の教育制度4. 看護政策と制度
- 第12回 マネジメントに必要な知識と技術1(組織と個人、組織の調整 研究) 1. 組織と個人2. 組織の調整
- 第13回 マネジメントに必要な知識と技術2(リーダーシップとマネジメント)3. リーダーシップとマネジメント
- 第14回 医療サービスと看護職の役割(医療施設における環境と建築設備)1. 看護の生産性を高めるシステム2. 病院建築・設計と環境(患者の視点を重視した病院づくり)
- 第15回 医療における看護サービスマネジメントの展望1. 看護職の役割拡大2. 看護管理学の意味するもの

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理

著者: 上泉和子 著

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト (40%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第12回の授業の後に行う

2015 Syllabus

科目名 高齢者のヘルスプロモーション <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

高齢者のヘルスプロモーションを理解し看護のありかたを考える●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

1. 高齢者の特性を理解する。2. 高齢者のQ.O.L(quality of life)の維持向上を目指したヘルスプロモーションについて理解する。

授業の概要

[メディア授業]高齢者のQ.O.L. (Quality of Life)の維持・向上を目指した看護のあり方をヘルスプロモーションの視点から検討し、高齢者と関わる医療福祉施設をはじめとする多様な場面における看護支援について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、老年看護の理念とヘルスプロモーション
- 第2回 高齢者の特性の理解
- 第3回 高齢者の健康課題 主な症状と看護(テキスト:271～325ページ)
- 第4回 高齢者の健康課題 特徴的な疾患と看護
- 第5回 高齢者のQ.O.L(quality of life)
- 第6回 ヘルスプロモーションの活動プロセス:PP第1～8段階
- 第7回 ヘルスプロモーションの活動プロセス:事例
- 第8回 ヘルスプロモーションに活用される理論(1)
- 第9回 ヘルスプロモーションに活用される理論(2)
- 第10回 ヘルスプロモーションに活用される理論(3)
- 第11回 高齢者の行動変容と健康教育(1)
- 第12回 高齢者の行動変容と健康教育(2)
- 第13回 高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策(1)
- 第14回 高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策(2)
- 第15回 高齢者のヘルスプロモーション活動における看護の機能・役割

履修上の注意点

教科書

老年看護学 概論と看護の実践 第4版

著者: 奥野茂代・大西和子 編

出版社: (ヌーヴェルヒロカワ)

出版年:

ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者: 厚生労働統計協会 編

出版社: (厚生労働統計協会)

出版年:

ISBN:

国民の福祉の動向

著者: 厚生労働統計協会 編

出版社: (厚生労働統計協会)

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーション

著者: ローレンス・W. グリーン/マーシャル・W. クロイター 著

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

実践ヘルスプロモーション

著者： ローレンス・W. グリーン／マーシャル・W. クロイター 著

出版社：（医学書院）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（70%）

小テスト（30%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2015 Syllabus

科目名 高齢者のヘルスプロモーション

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重森 健太・山野 薫	
テーマ	
<p>高齢者におけるヘルスプロモーションの理論と実践を講義し、現在の本邦での高齢者介護は介護保険制度を抜きにして進めないことから、介護保険との関係性について教授する。具体的には、高齢者の持つ身体的要因、精神的要因、環境側の要因について理解を深める。また、介護保険にかかわる職種の業務についても解説する。</p>	
授業の到達目標	
<p>1. 高齢者ヘルスプロモーションの概要を理解する。2. 高齢者ヘルスプロモーションと介護保険制度の関係性について理解する。3. 転倒予防・生活習慣病予防について理解する。4. 認知症におけるヘルスプロモーションについて理解する。</p>	
授業の概要	
<p>高齢者のヘルスプロモーションについて教授する。国家的目標である「介護予防」について、高齢者の身体的側面と精神的側面から講義する。加えて、介護保険制度との関係性について理解を深める。高齢者におけるヘルスプロモーションの具体的な方法(転倒予防・生活習慣病予防・認知症予防)について解説する。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>高齢者の心身の健康や介護問題に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題等の学習</p>	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーション、ヘルスプロモーション総論(山野) 第2回 高齢者の評価(山野) 第3回 高齢者の身体機能Ⅰ(山野) 第4回 高齢者の身体機能Ⅱ(山野) 第5回 転倒予防(山野) 第6回 生活習慣病予防(山野) 第7回 要介護高齢者のヘルスプロモーション(山野) 第8回 ヘルスプロモーションのための住環境整備(山野) 第9回 脳科学から見た認知症(重森) 第10回 認知症の評価(重森) 第11回 軽度認知機能障害におけるヘルスプロモーション(重森) 第12回 高齢者の注意力や自発性へのアプローチ(重森) 第13回 高齢者の記憶障害へのアプローチ(重森) 第14回 高齢者の空間認知やボディイメージへのアプローチ(重森) 第15回 重度認知症におけるヘルスプロモーション(重森)</p>	
履修上の注意点	
教科書	
<p>理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション—理論と実践 著者： 日本ヘルスプロモーション理学療法学会(編集) 出版社： 南江堂 出版年： 2014 ISBN: 9784524267552</p>	
参考書	
<p>近赤外分光法による前頭前野計測 著者： 志村孚城(編集) 出版社： コロナ社 出版年： 2009 ISBN: 9784339072228</p>	
成績評価	
試験 (80)	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 (20)	
<p>参加度(20%)には、出席のほか、遅刻・私語などの授業態度も含まれ、成績評価に反映されます。</p>	

2015 Syllabus

科目名 認知症看護学 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	認知症とともに生きる高齢者を理解し看護のありかたを考える●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。
授業の到達目標	1.認知症とともに生きる高齢者を理解する2.認知症の病態・治療について理解する3.認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていける看護支援を考えることができる
授業の概要	[メディア授業]高齢者が認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていけるように、認知症高齢者の理解を深め多職種や家族と協働し看護支援を創意工夫する視点について学ぶ。
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、認知症の定義、認知症の高齢者、統計的視点から認知症</p> <p>第2回 認知症の理解(診断)</p> <p>第3回 認知症の理解(診断つづき)、認知症の予防</p> <p>第4回 認知症の理解(治療)</p> <p>第5回 認知症を生きるということ①</p> <p>第6回 認知症を生きるということ②</p> <p>第7回 認知症高齢者の理解と看護(意識環境、エイジズム)</p> <p>第8回 認知症高齢者の理解と看護(生活環境の工夫)</p> <p>第9回 認知症高齢者の理解と看護(BPSDの予防・対応)</p> <p>第10回 高齢者虐待</p> <p>第11回 認知症高齢者の終末期ケア</p> <p>第12回 家族の負担と支援(1)</p> <p>第13回 家族の負担と支援(2)</p> <p>第14回 認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策①2015年高齢者介護報告、介護保険法</p> <p>第15回 認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策②虐待防止法、成年後見制度</p>

履修上の注意点

教科書

認知症高齢者の看護

著者: 中島紀恵子 編

出版社: (医歯薬出版)

出版年: 2011

ISBN:

痴呆を生きるということ

著者: 小澤勲 著

出版社: (岩波書店)

出版年: 2006

ISBN:

参考書

鏡のなかの老人ー痴呆の世界を生きる

著者: 竹中星郎 著

出版社: (ワールドプランニング)

出版年: 1996

ISBN:

私は誰になっていくの

著者: クリスティーン・プライデン 著

出版社: (クリエイツかもがわ)

出版年: 2003

ISBN:

私は私になっていく

著者： クリスティーン・プライデン 著

出版社： (クリエイツかもがわ)

出版年： 2004

ISBN:

老年看護学 概論と看護の実践 第4版

著者： 奥野茂代・大西和子 編

出版社： (ヌーヴェルヒロカワ)

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (70%)

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 看護と死生観 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

テーマ

臨床死生学とはなにか●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

日本における「死」の実態をふまえ、自分が生きること、ひとの生を支えること、そしてひとの死や自分の死について考察する。文化、宗教、病体験、死別体験などが死生観に及ぼす影響について学び、ケアするうえで直面するであろう生と死にかかわる課題に向き合い考察する。

授業の概要

「ケア従事者のための死生学」清水哲郎・島蘭進(編)ヌーベルヒロカワ. の精読、厚生労働統計をはじめとする資料の分析を通して、現在の日本の「死」の実態を理解し、臨床死生学を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

必要に応じて、その都度お知らせ予定

内 容

- 第1回 死生学とは何か(教科書1-34ページ) 死生学の歴史、ホスピス運動、キューブラー=ロスの『死ぬ瞬間』、日本の武士道と死生観、「死」とはどういうことか、について
- 第2回 臨床死生学とは何か(教科書35-63ページ) 臨床倫理学と死生学、意思決定プロセスとは、ケアを目指す「生」と「死」、スピリチュアルケア、尊厳死について学ぶ
- 第3回 臨床死生学におけるケアするものとケアされるものの関係について(教科書64-84ページ) 医療者モデルとは、終末期ケアにおけるケアするものとケアされるものとの関係性
- 第4回 緩和ケアについて、厚生労働統計でみる日本における死の実態について(1)(教科書85-106ページ) 「がん」という病、緩和医療学のはじまり、緩和ケアとQOL、日本の死の実態について(死亡者数、死因、がんの部位別統計からわかること、など)
- 第5回 救急医療現場における「他者の死」について・子どもの生と死(教科書107-133ページ) 「他者の死」がもつ意味、厚生労働統計でみる子どもの死の実態について
- 第6回 生活習慣病を抱えて生きるということ(教科書134-144ページ) 生活習慣病とは、厚生労働統計でみる生活習慣病の実態
- 第7回 出生前診断と生と死・在宅死と病院死(教科書145-171ページ) 厚生労働統計でみる日本の死の実態について(2)(死を迎える場所、病院という場の特徴など)、出生前診断と人工妊娠中絶
- 第8回 障害における生と死・ALS-生と死(教科書173-202ページ) 障害とともに生きるということ、障害とQOL、難病とは、難病とQOL
- 第9回 看取り(教科書203-226ページ) 緩和ケアと看取り、在宅緩和ケア
- 第10回 現代人の死生観と宗教(教科書227-256ページ) 仏教・キリスト教・イスラム教における死の意味、スピリチュアリティ
- 第11回 死の意味(教科書257-283ページ) 生と死の関係、現代における死の諸相、デスエデュケーション、「別れ」としての死、「死者」の存在
- 第12回 死を迎える心理(教科書285-299、317-334ページ) 死を受けとめる、キューブラー=ロス、成長の最終段階としての「死」
- 第13回 死を受けられるとは(教科書300-316、335-348ページ) 死にゆく過程、キューブラー=ロスの考え方への指摘、悲嘆
- 第14回 スピリチュアルケアとは(教科書349-376ページ) スピリチュアルケアと宗教的ケアの違い、日本的なスピリチュアルケア
- 第15回 生と死をめぐる倫理と法(教科書377-413ページ) 自律中心主義、自己決定と治療中止、臓器移植、脳死判定

履修上の注意点

教科書

ケア従事者のための死生学

著者: 清水哲郎・島蘭進 編

出版社: (ヌーヴェルヒロカワ)

出版年:

ISBN:

参考書

厚生労働統計 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/ など、その都度紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)
授業中課題 ()
参加度 ()

小テスト (50%)
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学概論 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
次世代を健康に育成するための看護の役割について●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。	
授業の到達目標	
1 次世代を健康に育成するための看護について説明できる。2 出生までの次世代の健康を支える看護を説明できる。3 子どもの成長発達を支える看護を説明できる。4 健康課題を持つ子どもを支える看護を説明できる。	
授業の概要	
[メディア授業/全15回]次世代を育成するために必要な看護に関する講義	
準備学習(予習・復習)	
適宜紹介する参考文献により学習する	
内 容	
第1回 次世代育成看護学とは[前原]	
第2回 リプロダクティヴヘルス[前原]	
第3回 出生までの次世代の健康を支える看護(思春期)[前原]	
第4回 出生までの次世代の健康を支える看護(妊娠期)[前原]	
第5回 出生までの次世代の健康を支える看護(分娩期)[前原]	
第6回 出生後の次世代の健康を支える看護(産褥期)[前原]	
第7回 子どもの成長発達を支える看護(成長発達の特徴)[堀]	
第8回 子どもの成長発達を支える看護(成長発達と社会の関係)[堀]	
第9回 健康課題をもつ子どもを支える看護(先天性疾患)[堀]	
第10回 健康課題をもつ子どもを支える看護(疾患の受容)[堀]	
第11回 健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(子どもの入院)[堀]	
第12回 健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(在宅ケア)[堀]	
第13回 健康課題をもつ子どもを支える看護(End of Life Care)[堀]	
第14回 諸統計から見た次世代育成看護の課題[前原・堀]	
第15回 次世代育成に関わる政策[前原・堀]	
履修上の注意点	
教科書	
特に指定しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
適宜紹介する	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (60%)	小テスト (40%)
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
小テストは、第6回および第13回の後に行う	

2015 Syllabus

科目名 災害看護学 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動について理解する。●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。

授業の概要

[メディア授業]

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 災害とは(河原 宣子)
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム①(川口 淳)
- 第3回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム②(川口 淳)
- 第4回 災害看護とは(河原 宣子)
- 第5回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際①(奥野 信行)
- 第6回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際②(河原 宣子)
- 第7回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際③(河原 宣子・ゲストスピーカー4名)
- 第8回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際④(河原 宣子・ゲストスピーカー3名)
- 第9回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際⑤(河原 宣子・ゲストスピーカー黒田 裕子氏)
- 第10回 ライフサイクル各期における災害看護活動の実際①(堀 妙子)
- 第11回 ライフサイクル各期における災害看護活動の実際②(小野塚 元子)
- 第12回 災害看護とメンタルヘルス①(松本 賢哉)
- 第13回 災害看護とメンタルヘルス②(松本 賢哉)
- 第14回 災害看護活動における国際協力(河原 宣子・ゲストスピーカー中井 隆陽氏)
- 第15回 まとめ(河原 宣子)

履修上の注意点

教科書

参考書

災害看護学習テキストー概論編ー

著者: 南裕子・山本あい子 編

出版社: (日本看護協会出版会)

出版年:

ISBN:

災害看護学習テキストー実践編ー

著者: 南裕子・山本あい子 編

出版社: (日本看護協会出版会)

出版年:

ISBN:

いのちとこころを救う災害看護

著者: 小原真理子 監修

出版社: (学習研究社)

出版年:

ISBN:

演習で学ぶ災害看護

著者： 小原真理子 監修

出版社：（南山堂）

出版年：

ISBN：

災害現場でのトリアージと応急処置

著者： 山崎達枝 著

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

新版 災害看護 第2版—人間の生命と生活を守る

著者： 黒田裕子・酒井明子 監修

出版社：（メディカ出版）

出版年：

ISBN：

新体系看護学全書38 看護の統合と実践② 災害看護学

著者： 辺見弘 監修

出版社：（メヂカルフレンド社）

出版年：

ISBN：

災害看護—看護の専門知識を統合して実践につなげる

著者： 酒井明子・菊池志津子 編

出版社：（南江堂）

出版年：

ISBN：

実践！災害看護—看護者はどう対応するのか

著者： 野中廣志 著

出版社：（照林社）

出版年：

ISBN：

ナーシング・グラフィカEX 災害看護

著者： 黒田裕子・酒井明子 編

出版社：（メディカ出版）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（100%）

参加度（ ）

レポートを課す

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

2015 Syllabus

科目名 家族看護学 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
豊かな看護を実現するために、現代社会における家族に対する看護は、どうあるべきかを理解し今後の実践に活かす●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。	
授業の到達目標	
家族看護学における家族の捉え方や家族看護の背景となる理論を学修する。さらに、家族看護の目的と家族を単位とした家族看護過程の展開方法を学ぶ。また、育児期、教育期、成人期、老年期など、それぞれの家族の発達段階別の家族看護の課題と援助方法の特徴を学ぶ。	
授業の概要	
[メディア授業]次の点を目標として授業を展開する。1. 家族の健康の概念と家族看護の定義を学ぶ2. 家族看護アセスメントとそれに基づく家族援助方法を学ぶ3. 家族の発達段階別の家族看護の特徴について学ぶ4. 家族看護実践における倫理的配慮と家族看護の可能性について学ぶ	
準備学習(予習・復習)	
教科書の各章に掲載されている文献リストと参考文献を読む	
内 容	
第1回	家族看護とは何か(P4-28)(家族看護学の発展過程、家族看護の定義、家族のセルフケア機能)
第2回	家族と「家族の健康」の概念と定義、家族の形態と機能(P30-44)(家族と「家族の健康」について家族看護での概念の特徴を学ぶ)
第3回	わが国の家族(P45-47)(わが国の家族の特徴を学ぶ)
第4回	家族を理解する諸理論(P48-64)(家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論を理解する)
第5回	家族看護研究の展開(P66-78)(家族看護研究の特徴と展開方法を学ぶ)
第6回	家族看護アセスメントと診断(P80-134)(家族看護でのアセスメントの特徴を学ぶ)
第7回	家族援助方法(P135-158)(家族看護での家族援助方法の特徴を学ぶ)
第8回	家族看護における看護者の役割と援助姿勢(P160-172)(家族看護における看護者の役割と援助姿勢の特徴について学ぶ)
第9回	乳児を持つ家族への援助(P176-192)(子どもの誕生・育児が家族に及ぼす影響と育児期の家族への看護の特徴を学ぶ)
第10回	救急医療・集中治療の場における家族看護(P194-218)(急性疾患における家族看護の特徴について学ぶ)
第11回	精神障害者を持つ家族への看護(P220-255)(精神障害者を持つ家族の抱える問題と家族援助の特徴を学ぶ)
第12回	高齢者介護に関する家族援助(P258-271)(高齢者介護に関する家族援助の特徴を学ぶ)
第13回	終末期患者の家族援助(P274-295)(終末期を迎える患者の家族に対する家族援助の特徴を学ぶ)
第14回	入院治療を受ける病児を持つ家族への看護(P298-336)(入院治療を受ける病児を持つ家族への看護の特徴を学ぶ)
第15回	家族看護の専門性についてのまとめ(家族支援専門看護師の活動と家族看護の今後の発展)
履修上の注意点	
教科書	
家族看護学—理論と実践、第3版	
著者: 鈴木和子、渡辺裕子	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年: 2006	ISBN:
参考書	
家族看護選書	
著者: 野嶋佐由美、渡辺裕子編	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年: 2012	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト (60%)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 ()
参加度 ()	
授業中課題はレポートを課す小テストは3回	

2015 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学 I

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定

担当者 井上 裕樹・中島 暢美

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

パーソナリティ心理学の基礎的な知識とパーソナリティの発達についての概要を習得する。

授業の概要

配布レジュメを使用した講義。

準備学習(予習・復習)

パーソナリティ心理学に関する図書を読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 パーソナリティの理論1
- 第3回 パーソナリティの理論2
- 第4回 パーソナリティの理論3
- 第5回 パーソナリティの形成要因1
- 第6回 パーソナリティの形成要因2
- 第7回 パーソナリティの形成要因3
- 第8回 パーソナリティの形成要因4
- 第9回 パーソナリティの形成要因5
- 第10回 パーソナリティの形成要因6
- 第11回 パーソナリティの測定方法1
- 第12回 パーソナリティの測定方法2
- 第13回 パーソナリティの測定方法3
- 第14回 パーソナリティの精神病理1
- 第15回 パーソナリティの精神病理2

履修上の注意点

終講試験の準備としても、授業内で重要と思われた内容は配布レジュメあるいはノートにメモを取る。

教科書

参考書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

パーソナリティ心理学

著者: 二宮克美他編

出版社: 新曜社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

出席3分の2以上の受講生のみ終講試験を受験する資格を得る。終講試験は100点満点中60点以上を合格とする。

2015 Syllabus

科目名 家族の心理・社会学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 滝野 功久

テーマ

家族に関わるさまざまな事象についての理解と、家族の問題・課題に対する心理的及び社会的なアプローチによる探求

授業の到達目標

今日、家族のあり方が多様になってきていること、多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらのうちいくつかを言葉や図像で説明できるようになる。一方では、自分の家族の歴史に関心を持ち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ることで、家族を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむ。

授業の概要

「授業」という名称にはなっていますが、これは、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心を持ち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」ということとなります。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムではありません。家族問題が実際に扱われる時は、大体は〈原因があり帰結があるという〉直線的な動きというより、さまざまなことが複雑に絡む非直線的な展開になりますが、ここでもそれと同じ動きがでて来ると思います。

準備学習(予習・復習)

自らの家族、特に親について、関心をもって、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることとなります。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 なぜ家族か？ 家族とはなにか？ 家・イエ・家庭・family
- 第2回 オリエンテーション2 家族を心理学するとは？ 社会学するとは？ 家族の心理・社会学の課題と方法
- 第3回 家族をめぐる諸問題と家族のイメージ 「家族」の歴史とその多様性
- 第4回 名前と呼び方 名称・氏名 家族の名前 夫婦別姓という問題
- 第5回 家族の内と外、家族と世間 日本の家族はメンバーを世間から守れるか？
- 第6回 家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション
- 第7回 男と女の関係1 近年の革命的变化と変わらぬこと
- 第8回 男と女の関係2 セクシュアリティとジェンダーに関わること
- 第9回 親子関係の心理と病理 母子密着と家庭内暴力 児童虐待とネグレクトと
- 第10回 兄弟関係と一人っ子という問題 (あるいは一人っ子の課題)
- 第11回 男と女の関係3 夫婦関係の変化と課題 離婚・再婚(あるいは結婚の新しい形)
- 第12回 老いと家族の課題 独居老人の増加と老人介護という問題
- 第13回 家族のなかの喪失と死
- 第14回 家族と宗教 先祖崇拝とお墓と 日本の伝統仏教の問題と課題
- 第15回 全体の振り返り 家族にとって先祖と子孫

履修上の注意点

出席数だけ確保すれば自動的に単位がとれると考えないように！ しっかりと取り組めば、家族との関わりや、自らの学び方も大きく変わるものにしたいたいと願っています。

教科書

家族心理学入門(補訂版)

著者: 岡堂哲也 編集

出版社: 培風館

出版年:

ISBN:

家族を超える社会学—新たな生の基盤を求めて

著者: 牟田和恵 編集

出版社: 新曜社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

参加度（ ）

評価は基本的に減点法でなく、加点法です。学んだことが評価の対象であり、なにをどのような形で学んでいくか、学んだかを、最初と途中そして最後に話し合いたいと思っています。参加することが学びの基本条件なので「参加度」に数値などを入れてはいません。

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・塩谷 尚正・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析
- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・塩谷 尚正・田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・中川 明仁・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ <f>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・塩谷 尚正・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ〈R〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ〈S〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習(予習・復習)

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
- 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
- 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
- 第4回 データの処理・分析(1)
- 第5回 データの処理・分析(2)
- 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
- 第7回 質問紙の作成
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データの解析(1)
- 第10回 データの解析(2)
- 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
- 第12回 動物実験の実施
- 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
- 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
- 第15回 データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 心理検査法 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	

担当者 青木 剛, 田中 芳幸

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

授業の到達目標

心理検査 (Psychological test) とは、心理査定 (Psychological assessment) を行うための方法の一つであり、「ひと」(client) を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選り方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、心理検査・心理査定・心理測定などの関連図書講読による自学自習を行うこと。

内 容

- 第1回 心理検査とは ー心理検査と心理査定ー
- 第2回 心理検査開発の歴史的背景
- 第3回 心理検査の信頼性と妥当性
- 第4回 検査者の基本的姿勢・態度
- 第5回 「性格」理解のための諸理論
- 第6回 性格検査(1)質問紙法
- 第7回 性格検査(2)投影法
- 第8回 性格検査(3)作業検査法
- 第9回 知能検査(1)知能とは
- 第10回 知能検査(2)知能検査の種類
- 第11回 発達に関する諸検査
- 第12回 行動・社会性に関する諸検査
- 第13回 心理的な症状に関する諸検査
- 第14回 その他の心理検査
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

図表で学ぶ心理テスト

著者: 長尾 博

出版社: ナカニシヤ出版

出版年:

ISBN:

参考書

心理臨床アセスメント入門ー心の治療のための臨床判断学ー

著者: 赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文

出版社: 培風館

出版年:

ISBN:

心理測定への招待ー測定からみた心理学入門ー

著者: 市川伸一

出版社: サイエンス社

出版年:

ISBN:

各種心理検査の手引書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (20%)

参加度 (20%)

小テスト (30%)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 発達心理学 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	中村 和夫	
テーマ	胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解	
授業の到達目標	発達心理学についての基礎的知識と発達の見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。	
授業の概要	人間の発達の上で重要なトピックスを取り上げて、胎生期から成人期までの人間の発達の様相について解説をする。	
準備学習(予習・復習)	発達心理学関連の参考書による自学自習。	
内 容	<p>第1回 出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題</p> <p>第2回 ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間</p> <p>第3回 新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味</p> <p>第4回 乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達</p> <p>第5回 前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達</p> <p>第6回 愛着理論と愛着の発達</p> <p>第7回 幼児期の表象的思考と話し言葉の発達</p> <p>第8回 こころの理論と他者の心の理解、自己抑制の発達</p> <p>第9回 児童期の内言と書き言葉の発達</p> <p>第10回 具体的操作の発達と9・10歳の節</p> <p>第11回 思春期の第二次性徴と自己意識的感情、形式的操作の発達</p> <p>第12回 青年期のアイデンティティの発達、アイデンティティ・ステイタス</p> <p>第13回 時間的展望と親密性の発達、アイデンティティの拡散</p> <p>第14回 成人期のキャリア発達とジェネラティビティの発達</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	よくわかる認知発達とその支援 著者： 子安増生 編 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 (60) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (10)	

2015 Syllabus

科目名 English Communication III <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

英語でリスニング、スピーキング、そして批判的思考を演習する。

授業の到達目標

本授業は学問的な語彙力と口頭英語能力を高めることを目標とします。

授業の概要

主にリスニング、スピーキング、プレゼンテーション、発音など口頭英語を演習していきます。

準備学習(予習・復習)

毎週の単語テストに備えて、定期的に(理想は毎日数分)単語を勉強するようにしましょう。また、毎回の復習として週に30分程度オンライン・ワークで勉強することが成績で評価されます。

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Same and Different: Listening to a lecture
- 第3回 Same and Different: Conducting a survey
- 第4回 Same and Different: Giving a presentation about yourself
- 第5回 Taking Risks: Listening to a radio show
- 第6回 Taking Risks: Discussing a plan
- 第7回 Taking Risks: Giving a group presentation
- 第8回 Review 1
- 第9回 Enjoy the Ride!: Listening to an interview
- 第10回 Enjoy the Ride!: Choosing the best idea
- 第11回 Enjoy the Ride!: Giving a group presentation
- 第12回 Unusual Destinations: Listening to a presentation
- 第13回 Unusual Destinations: Choosing the best vacation
- 第14回 Unusual Destinations: Giving an individual presentation
- 第15回 Review 2

履修上の注意点

毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。5回以上欠席すれば単位取得不可となります。

教科書

Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking Combo Split Foundation A with Online Workbook
Access Code

著者:

出版社: Cengage Learning

出版年:

ISBN: 9781305112728

参考書

成績評価

試験 (35%)

小テスト (35%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **English Communication III **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フォスター ヘンリー	
<p>テーマ</p> <p>英語でリスニング、スピーキング、そして批判的思考を演習する。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>本授業は学問的な語彙力と口頭英語能力を高めることを目標とします。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>主にリスニング、スピーキング、プレゼンテーション、発音など口頭英語を演習していきます。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>毎週の単語テストに備えて、定期的に(理想は毎日数分)単語を勉強するようにしましょう。また、毎回の復習として週に30分程度オンライン・ワークで勉強することが成績で評価されます。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 Introduction</p> <p>第2回 Same and Different: Listening to a lecture</p> <p>第3回 Same and Different: Conducting a survey</p> <p>第4回 Same and Different: Giving a presentation about yourself</p> <p>第5回 Taking Risks: Listening to a radio show</p> <p>第6回 Taking Risks: Discussing a plan</p> <p>第7回 Taking Risks: Giving a group presentation</p> <p>第8回 Review 1</p> <p>第9回 Enjoy the Ride!: Listening to an interview</p> <p>第10回 Enjoy the Ride!: Choosing the best idea</p> <p>第11回 Enjoy the Ride!: Giving a group presentation</p> <p>第12回 Unusual Destinations: Listening to a presentation</p> <p>第13回 Unusual Destinations: Choosing the best vacation</p> <p>第14回 Unusual Destinations: Giving an individual presentation</p> <p>第15回 Review 2</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。5回以上欠席すれば単位取得不可となります。</p>	
<p>教科書</p> <p>Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking Combo Split Foundation A with Online Workbook Access Code</p> <p>著者:</p> <p>出版社: Cengage Learning</p> <p>出版年: ISBN: 9781305112728</p> <p>参考書</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 (35%) 小テスト (35%)</p> <p>授業中課題 (30%) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 **English Literacy III <a>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

準備学習(予習・復習)

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

内 容

- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary
- 第1回 授業オリエンテーションUnit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者: 田部井世志子、井上径子

出版社: 朝日出版

出版年: 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一期末英語テスト20%が加算されます。

2015 Syllabus

科目名 **English Literacy III **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

準備学習(予習・復習)

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーションUnit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者: 田部井世志子、井上径子

出版社: 朝日出版

出版年: 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一期末英語テスト20%が加算されます。

2015 Syllabus

科目名 情報処理応用演習 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	

担当者 小西 康子

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とす

準備学習(予習・復習)

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本
- 第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定
- 第3回 実務における表計算・・・数式、関数知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)
- 第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)
- 第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)
- 第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ
- 第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット
- 第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ
- 第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)
- 第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)
- 第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理
- 第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 情報処理応用演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	

担当者 小西 康子

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習(予習・復習)

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN:

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (0%)

2015 Syllabus

科目名 実験計画法

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 上北 朋子・奈田 哲也	
テーマ 実験計画の基礎と実践	
授業の到達目標 この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に遂行できるようになることを目標とする。	
授業の概要 知覚、記憶・学習、動機づけに関するテーマについて実験計画を立案し、データ収集、処理までを実践的に学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 心理統計の基礎的事項について復習しておくこと。各自の選択テーマによって、必要な場合は資料収集を授業時間以外に行う。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 実験計画法の基礎 第3回 実験計画法の実際(1) 第4回 実験計画法の実際(2) 第5回 実験計画の立案:1要因(1元配置) 第6回 資料収集 第7回 資料収集 第8回 解析 第9回 ディスカッション 第10回 実験計画の立案:2要因以上 第11回 資料収集 第12回 資料収集 第13回 解析 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ	
履修上の注意点 グループでの作業が中心となるため、授業への出席はもちろん、課題への積極的な参加が必須である。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 心理学マニュアル 要因計画法 著者: 後藤 宗理, 中沢 潤, 大野木 裕明 出版社: 北大路書房 出版年: 2000 ISBN: 978-4762821967 SPSSのススメ<1> 著者: 竹原 卓真 出版社: 北大路書房 出版年: 2013 ISBN: 978-4762827983 よくわかる心理統計 著者: 山田 剛史, 村井 潤一郎 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2004 ISBN: 978-4623039999	
成績評価	

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (60)

2015 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者 前田 洋光		
テーマ 推測統計学の理解		
授業の到達目標	<p>心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。</p>	
授業の概要	<p>心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読</p>	
内 容	<p>第1回 イントロダクション:統計学の基礎の復習 第2回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1) 第3回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2) 第4回 統計的検定の基礎 第5回 t検定(1):対応のない場合のt検定 第6回 t検定(2):対応のある場合のt検定 第7回 一元配置分散分析(1):一要因被験者間検定 第8回 一元配置分散分析(2):多重比較 第9回 ノンパラメトリック検定(1) 第10回 ノンパラメトリック検定(2) 第11回 ここまでの確認とまとめ 第12回 データ分析演習(1) 第13回 データ分析演習(2) 第14回 データ分析演習(3) 第15回 授業全体のまとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 著者: 吉田 寿夫 出版社: 北大路書房 出版年: ISBN: よくわかる心理統計 著者: 山田 剛史・村井 潤一郎 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (30) 小テスト (40) 授業中課題 (20) 授業中発表等 () 参加度 (10)</p>	

2015 Syllabus

科目名 心理学データ解析 <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 塩谷 尚正・前田 洋光

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用の方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習(予習・復習)

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 記述統計
- 第3回 相関係数
- 第4回 ここまでのまとめと演習
- 第5回 対応のない場合のt検定
- 第6回 対応のある場合のt検定
- 第7回 対応のない場合の一要因分散分析
- 第8回 対応のある場合の一要因分散分析
- 第9回 ここまでのまとめと演習
- 第10回 対応のない場合の二要因分散分析(1):主効果の理解
- 第11回 対応のない場合の二要因分散分析(1):交互作用の理解
- 第12回 ここまでのまとめと演習
- 第13回 総合演習(1)
- 第14回 総合演習(2)
- 第15回 総合演習(3)

履修上の注意点

教科書

教科書は特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSのススメ<1>2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

レポート30%

2015 Syllabus

科目名 心理学データ解析

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 塩谷 尚正・前田 洋光

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習(予習・復習)

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 記述統計
- 第3回 相関係数
- 第4回 ここまでのまとめと演習
- 第5回 対応のない場合のt検定
- 第6回 対応のある場合のt検定
- 第7回 対応のない場合の一要因分散分析
- 第8回 対応のある場合の一要因分散分析
- 第9回 ここまでのまとめと演習
- 第10回 対応のない場合の二要因分散分析(1):主効果の理解
- 第11回 対応のない場合の二要因分散分析(1):交互作用の理解
- 第12回 ここまでのまとめと演習
- 第13回 総合演習(1)
- 第14回 総合演習(2)
- 第15回 総合演習(3)

履修上の注意点

教科書

教科書は特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSのススメ<1>2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

レポート30%

2015 Syllabus

科目名 **心理学史**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 上村 晃弘

テーマ

近代心理学の成立以前から現代まで、心理学の歩んできた歴史について理解を深める。

授業の到達目標

古代ギリシアから20世紀に至るまでの心理学の背景を概観するとともに、なぜ心理学が19世紀に専門分野として登場したのかについて理解することを目的とする。その際に、医学や哲学、生物学など、隣接領域の発展を理解しながら、こころについて考えることの現代性について考察できるようにする。

授業の概要

歴史と言えば、暗記学習のイメージがあるが、本質はそうではない。その出来事がなぜ起きたのか、またその出来事が以降にどのような影響を及ぼしたのかという因果関係が重要である。心理学における様々な研究事項が、どのような背景で生まれてきたのかについて、テキストを中心にパワーポイントや資料、動画などを使用して講義する。

準備学習(予習・復習)

予習: あらかじめテキストを読んでおくこと。復習: ノートをまとめておくこと。

内 容

- 第1回 心理学が始まる以前の背景(テキスト 11～30ページ)
- 第2回 近代心理学誕生の3要因① 哲学における展開(テキスト 30～41ページ)
- 第3回 近代心理学誕生の3要因② 生理学における展開(テキスト 41～52ページ)
- 第4回 近代心理学誕生の3要因③ 生物学における展開(テキスト 52～61ページ)
- 第5回 新しい心理学としての生理学的心理学(テキスト 65～74ページ)
- 第6回 大学を中心とした心理学の展開① 実験室の拡大(テキスト 75～86ページ)
- 第7回 大学を中心とした心理学の展開② 学会の設立と専門誌の登場(テキスト 86～97ページ)
- 第8回 現場における心理学の拡大① 発達心理学と臨床心理学(テキスト 97～104ページ)
- 第9回 現場における心理学の拡大② 心理検査と産業心理学(テキスト105～119ページ)
- 第10回 20世紀の主要な潮流① 行動主義(テキスト 119～125ページ)
- 第11回 20世紀の主要な潮流② 精神分析(テキスト 125～134ページ)
- 第12回 20世紀の主要な潮流③ ゲシュタルト心理学(テキスト 134～144ページ)
- 第13回 現代心理学の展開① 臨床心理学の隆盛(テキスト 147～156ページ)
- 第14回 現代心理学の展開② 認知心理学(テキスト 156～165ページ)
- 第15回 現代心理学の展開③ 認知心理学(テキスト 165～174ページ)

履修上の注意点

出席、授業態度などの平常点を重視する。単位認定には10回以上の出席が必要である。授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は厳禁とする。

教科書

心理学史 はじめの一步

著者: 高砂 美樹

出版社: (アルテ)

出版年:

ISBN:

参考書

流れを読む心理学史

著者: サトウタツヤ・高砂美樹

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業中課題とは、第15回終了後の期末レポートのことを指す。

2015 Syllabus

科目名 **実験心理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学実験の意義と方法論

授業の到達目標

行動や心を科学的に分析するための心理学実験の基礎について学ぶ。様々な研究法の長所と短所を理解したうえで、各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択・実施できるようになることを目標とする。

授業の概要

実証的な研究を行う時に、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題となる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

準備学習(予習・復習)

教科書を読みなおし、ノートを充実させる。

内 容

- 第1回 心理学実験の意義
- 第2回 実験法の基本
- 第3回 信頼性と妥当性
- 第4回 被験者間計画と被験者内計画
- 第5回 剰余変数の統制
- 第6回 カウンターバランスと無作為化
- 第7回 要因計画(1) 要因と水準
- 第8回 要因計画(2) 主効果と交互作用
- 第9回 実験計画の実際(1)
- 第10回 実験計画の実際(2)
- 第11回 記述統計と推測統計
- 第12回 帰無仮説と対立仮説
- 第13回 有意水準と臨界値
- 第14回 データの統計処理
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

パワーポイントを使用して解説しますが、ハンドアウトは配布しません。自筆ノートを作成してください。

教科書

心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―(有斐閣アルマ)

著者: 高野 陽太郎・岡 隆 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2004

ISBN: 978-4641122147

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 行動分析学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 上北 朋子	
テーマ こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで	
授業の到達目標 こころを自然科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の思想を理解する。そのうえで、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。	
授業の概要 自分を理解し、他者を理解するには、まず人間の行動がどのようなものであるかについての知識が必須である。これまでの心理学研究で得られた実験的事実やそれに基づく理論を解説し、それらが我々にとってどのような意味をもち、社会において機能しているかについて考える。	
準備学習(予習・復習) 授業後に自身で教科書に目を通し、理解の不十分だった点を補い、ノートを作成すること。	
内 容 第1回 行動分析学とは 第2回 行動心理学が生まれるまで「こころ」と「行動」 第3回 行動の法則:観察、記述、予測 第4回 行動と学習(1):レスポナント条件付け 第5回 行動と学習(2):オペラント条件付け 第6回 シェイピング:行動をつくる 第7回 強化スケジュール:行動を操作する 第8回 消去と回復 第9回 弁別と般化:違いが分かる、同じと分かる 第10回 模倣 第11回 言語行動 第12回 応用行動分析(1):医療、福祉の現場で 第13回 応用行動分析(2):発達障害をもつ子どものために 第14回 応用行動分析(3):親、教師のために 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 パワーポイントで授業を行うが、スライドのハンドアウトは配布しない。自筆ノートを作成すること。	
教科書 行動の基礎 著者: 小野浩一 出版社: 倍風館 出版年: 2005 ISBN: 978-4563056964 参考書 行動分析 著者: 大河内 浩人、武藤 崇 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2007 ISBN: 978-4623048854 パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学 著者: 島宗 理 出版社: 米田出版 出版年: 2000 ISBN: 978-4946553073	
成績評価 試験 (80) 小テスト () 授業中課題 (10) 授業中発表等 () 参加度 (10)	

2015 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 青木 剛・ジェイムス 朋子

テーマ

パーソナリティに関する精神分析基礎理論と査定法の基礎

授業の到達目標

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論についてさまざまな理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定の特徴であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度とは何かを検討することをめざす。受講生の人数によって、講義・演習・討議・体験学習によって展開するため、授業の順序や内容は適宜変更され得る。そのため、全出席を原則とする。

授業の概要

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論について様々な理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定の特徴であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度の一端を体験的に理解する。

準備学習(予習・復習)

クラスの中で提示されるテキスト指定箇所を事前に読んで次のクラスに臨むこと。また、小グループ課題が出されるので、発表準備などの作業が課される。

内 容

- 第1回 パーソナリティ理論の歴史的展開と構成概念
- 第2回 精神分析的アプローチによるパーソナリティ理論-自己と自我-
- 第3回 パーソナリティと発達-精神性的発達理論-
- 第4回 パーソナリティと適応-防衛機制理論-
- 第5回 パーソナリティ査定理論の基礎
- 第6回 質問紙法による静的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第7回 基礎理論のまとめ
- 第8回 ミロンによるパーソナリティ・スタイル理論
- 第9回 パーソナリティと病理
- 第10回 質問紙による動的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第11回 パーソナリティと成熟
- 第12回 質問紙によるパーソナリティ・ファンクション査定-小レポート課題
- 第13回 パーソナリティと変化-成長と治療に関する心理教育・心理療法理論の基礎-
- 第14回 スモール・グループ・ディスカッション-パーソナリティ・スタイル理論の理解を深める-
- 第15回 グループ・プレゼンテーションとまとめ

履修上の注意点

教科書

ガイダンスとカウンセリング―指導から自己実現への共同作業

著者: 小谷英文

出版社: 北樹出版

出版年: 1993

ISBN: 4-89384-293-5

参考書

臨床心理学概説

著者: 田中富士夫

出版社: 北樹出版

出版年: 1988

ISBN: 4893845519

初めて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010

ISBN: 4623056848

成績評価

a90202e410

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 対人援助論A

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 青木 剛・中西 龍一	
テーマ 心理学的対人援助の基礎を学ぶ	
授業の到達目標 心理学的対人援助の理論とスキルについて、その基礎となるC・ロジャーズによる「来談者中心法 (Client centered therapy)」およびE・バーンによる「交流分析 (Transactional Analysis)」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。	
授業の概要 授業は講義とその内容を定着させるためのロールプレイングによって展開される。	
準備学習(予習・復習) 毎回の講義内容の復習を中心に行うこと。	
内 容 第1回 心理学的対人援助とは 第2回 Rogersによる「来談者中心法」 第3回 「来談者中心法」を考える 第4回 「来談者中心法」とは 第5回 「来談者中心法」を分析する1 第6回 「来談者中心法」を分析する2 第7回 「傾聴」とは1 第8回 「傾聴」とは2 第9回 来談者中心法 まとめ 第10回 交流分析 交流分析とは 第11回 交流分析 エゴグラム 第12回 交流分析 やりとり分析 第13回 交流分析 ゲーム・人生脚本 第14回 交流分析 再決断療法(TA・ゲシュタルト) 第15回 授業 まとめ	
履修上の注意点 特にロールプレイングについては、真摯な態度で臨むようにして下さい。	
教科書 教室でハンドアウト(プリント)を配付する 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 講座サイコセラピー 第8巻 交流分析 著者: 杉田峰康 出版社: 日本文化科学社 出版年: 1985 ISBN: 978-4821061464	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 (0) 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 対人援助論B

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 坂本 敏郎・滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治	
テーマ	心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。
授業の到達目標	「臨床の知」のみならず「科学」の視点も盛り込み、広く「人が人を援助するとはどういうことか」について考える。具体的には脳科学の視点からの貢献、母子臨床からの視点、コミュニティ・サポートの視点、心理療法からのアプローチについて、それぞれの観点から「人の役に立つ」営みについて考察を深めることができる。
授業の概要	松下を全15回のコーディネーターとし、5名の教員(坂本、日比野、羽下、滝野、中西)との対話形式で対人援助についての議論を展開する。
準備学習(予習・復習)	
内容	<p>第1回 オリエンテーション①～対人援助行為とは～</p> <p>第2回 オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～</p> <p>第3回 心理学への興味とその後の展開</p> <p>第4回 「臨床の知」と「科学の知」</p> <p>第5回 治療的面接学と脳科学の出会い</p> <p>第6回 乳幼児の発達～愛着を中心として～</p> <p>第7回 母と子のユニット</p> <p>第8回 「臨床乳児」と「被観察乳児」</p> <p>第9回 対人援助論</p> <p>第10回 個人開業の立場から</p> <p>第11回 Perls,F.S.の背景</p> <p>第12回 ゲシュタルト療法の実際</p> <p>第13回 広く心理療法に通底するもの</p> <p>第14回 まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的な心理臨床」～</p> <p>第15回 まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
現実に介入しつつ心に関わる	
著者: 田嶋誠一	
出版社: 金剛出版	
出版年: 2009年	ISBN: 978-7724-1103-5
嘘を生きる人妄想を生きる人—個人神話の創造と病—	
著者: 武野俊弥	
出版社: 新曜社	
出版年: 2005年	ISBN: 4-7885-0960-1
ゲシュタルト療法入門	
著者: 倉戸ヨシヤ(編)	
出版社: 金剛出版	
出版年: 2012年	ISBN: 978-7724-1281-0

愛着の発達

著者： 繁多進

出版社： 大日本図書

出版年： 1987年

ISBN: 4-477-12155-5

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

2015 Syllabus

科目名 **カウンセリング**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 中島 暢美	
テーマ カウンセリングについての基礎知識の習得と体験	
授業の到達目標 カウンセリングについて、テキストを用いて基礎的知識を理論的に習得し、演習によって体験的に習得する。	
授業の概要 テキストを用いた講義と、演習を交互に進める。さらに、ふりかえりを行うことによって講義と演習の一致を促進する。	
準備学習(予習・復習) カウンセリング関連した図書を読む。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 イントロダクション 第3回 テキスト購読、ロール・プレイの始め方 第4回 テキスト購読、ロール・プレイの導入 第5回 DVD鑑賞、課題レポート 第6回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練1 第7回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練2 第8回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練3 第9回 DVD鑑賞、課題レポート 第10回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練4 第11回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練5 第12回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練6 第13回 テキスト購読、ロール・プレイによる技法訓練7 第14回 モーニングワーク 第15回 まとめと課題作成	
履修上の注意点 体験的な学習を重視するため出席は必須。授業の内容上、欠席が続いた場合は受講継続が不可能になります。	
教科書 対人援助職のためのリスニングーカウンセリングの基本となる聞き方ー 著者： 中島暢美 出版社： ナカニシヤ出版 出版年： ISBN:	
参考書 現新訂 方法としての面接 臨床家のために 著者： 土居健郎 出版社： 医学書院 出版年： ISBN:	
試行カウンセリング 著者： 鑪幹八郎 出版社： 誠信書房 出版年： ISBN:	
カウンセリングを学ぶ 著者： 佐治守夫他 出版社： 東京大学出版会 出版年： ISBN:	
成績評価	

試験（40）

小テスト（）

授業中課題（60）

授業中発表等（）

参加度（）

毎回の授業の課題および最終課題で総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **グループワーク I <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワーク I **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワーク I <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワーク I <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子・菅 佐和子・滝野 功久・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりません。 「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワーク I <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習(予習・復習)

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。「自己の気づき」についてジャーナル(日誌)をつけることをお勧めします。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づき他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と「同情—sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と「同情—sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づき他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と「同情—sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子、菅 佐和子、滝野 功久、中西 龍一、松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づき他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と「同情—sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子、菅 佐和子、滝野 功久、中西 龍一、松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasyに基づき他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内 容

- 第1回 「私」—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と「同情—sympathy」の相違点についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ 集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。	
授業の到達目標 グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。	
内 容 第1回 他者に必要とされること、我に返るといこと(社会的居場所、人間的居場所について) 第2回 振り返り(気づき) 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について) 第4回 振り返り(気づき) 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験) 第6回 振り返り(気づき) 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験) 第8回 振り返り(気づき) 第9回 身体の声を表現する(内省体験の自己開示) 第10回 振り返り(気づき) 第11回 社会的居場所、人間的居場所について 第12回 心身相関 第13回 日常の中の非日常 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ 集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。	
授業の到達目標 グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。	
内 容 第1回 他者に必要とされること、我に返るといこと(社会的居場所、人間的居場所について) 第2回 振り返り(気づき) 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について) 第4回 振り返り(気づき) 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験) 第6回 振り返り(気づき) 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験) 第8回 振り返り(気づき) 第9回 身体の声を表現する(内省体験の自己開示) 第10回 振り返り(気づき) 第11回 社会的居場所、人間的居場所について 第12回 心身相関 第13回 日常の中の非日常 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返るといこと(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ 集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。	
授業の到達目標 グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。	
内 容 第1回 他者に必要とされること、我に返るといこと(社会的居場所、人間的居場所について) 第2回 振り返り(気づき) 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について) 第4回 振り返り(気づき) 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験) 第6回 振り返り(気づき) 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験) 第8回 振り返り(気づき) 第9回 身体の声を表現する(内省体験の自己開示) 第10回 振り返り(気づき) 第11回 社会的居場所、人間的居場所について 第12回 心身相関 第13回 日常の中の非日常 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (60)	

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返るといこと(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ グループ体験とは	
授業の到達目標 グループワークⅠ～Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)	
第2回 振り返り(気づき)	
第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)	
第4回 振り返り(気づき)	
第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)	
第6回 振り返り(気づき)	
第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)	
第8回 振り返り(気づき)	
第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)	
第10回 振り返り(気づき)	
第11回 有機体としてのグループ	
第12回 人生を物語ること	
第13回 グループの治癒力	
第14回 自己受容	
第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察	
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40%)	授業中発表等 (0)
参加度 (60%)	

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者	ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ	グループ体験とは	
授業の到達目標	グループワークⅠ～Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ) 第2回 振り返り(気づき) 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験) 第4回 振り返り(気づき) 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験) 第6回 振り返り(気づき) 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力) 第8回 振り返り(気づき) 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結) 第10回 振り返り(気づき) 第11回 有機体としてのグループ 第12回 人生を物語ること 第13回 グループの治癒力 第14回 自己受容 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察	
履修上の注意点		
教科書	使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価	試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0) 参加度 (60%)	

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <c>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ～Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ～Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (0)

参加度 (60%)

2015 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者	ジェイムス 朋子.菅 佐和子.滝野 功久.中西 龍一.松下 幸治	
テーマ	グループ体験とは	
授業の到達目標	グループワークⅠ～Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。	
授業の概要		
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ) 第2回 振り返り(気づき) 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験) 第4回 振り返り(気づき) 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験) 第6回 振り返り(気づき) 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力) 第8回 振り返り(気づき) 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結) 第10回 振り返り(気づき) 第11回 有機体としてのグループ 第12回 人生を物語ること 第13回 グループの治癒力 第14回 自己受容 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察	
履修上の注意点		
教科書	使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価	試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (40%) 授業中発表等 (0) 参加度 (60%)	

2015 Syllabus

科目名 コミュニケーションとアート

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 菅 佐和子・山崎 貴子

テーマ

アートとコミュニケーションの関係とその可能性について探求する

授業の到達目標

グループワークを通して、アートとこれまでの鑑賞法とは違う、アートとコミュニケーションの新たな可能性について学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 アートとは何か①
- 第2回 アートとは何か②
- 第3回 旧来型の鑑賞に欠落したもの
- 第4回 コミュニケーションワークとしてのアートの可能性
- 第5回 グループワークの実際①(グループ別)
- 第6回 グループワークの実際①のふりかえり
- 第7回 グループワークの実際②
- 第8回 グループワークの実際②のふりかえり
- 第9回 グループワークの実際③
- 第10回 グループワークの実際③のふりかえり
- 第11回 グループワークの実際④
- 第12回 グループワークの実際④のふりかえり
- 第13回 ワークに適した素材を探す①
- 第14回 ワークに適した素材を探す②
- 第15回 まとめのディスカッション

履修上の注意点

教科書

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 産業心理学 I (組織行動論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 石田 正浩

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

授業の到達目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の概要

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

準備学習(予習・復習)

自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

内 容

- 第1回 組織行動論・組織心理学とは
- 第2回 ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
- 第3回 ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
- 第4回 ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
- 第5回 ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
- 第6回 応用行動分析
- 第7回 ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
- 第8回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
- 第9回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
- 第10回 集団生産性3 集団意思決定
- 第11回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
- 第12回 リーダーシップ2 条件即応理論
- 第13回 リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
- 第14回 組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
- 第15回 組織ストレス2 パーンアウト、ストレスの管理

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版

著者: 田中堅一郎編

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2011

ISBN:

新版 組織行動のマネジメント

著者: スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2009

ISBN:

心理学の世界 基礎編10 組織心理学

著者: 古川久敬

出版社: 培風館

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 産業心理学Ⅱ(消費者行動論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 永野 光朗	
テーマ 消費と広告の心理学	
授業の到達目標 心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。	
授業の概要 企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか考察する。	
準備学習(予習・復習) 消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。	
内 容 第1回 消費者行動研究の目的と意義 第2回 消費者行動とマーケティング 第3回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介) 第4回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして) 第5回 価格の心理学①(価格の心理的機能) 第6回 価格の心理学②(心理的財布理論) 第7回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類) 第8回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告) 第9回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告) 第10回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告) 第11回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど) 第12回 販売場面における説得のテクニック②(Cialdiniの影響力の武器) 第13回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール) 第14回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法) 第15回 ブランドと消費者行動	
履修上の注意点 授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。	
教科書 新・消費者理解のための心理学 著者: 杉本徹雄編著 出版社: 福村出版 出版年: 2012 ISBN: 4571250401	
参考書	
成績評価 試験 (40) 小テスト (60) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 毎回の授業において小テストを実施する。また学期末(第16週目)に定期試験を実施する(持ち込み不可)。	

2015 Syllabus

科目名 教育心理学(心)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫・奈田 哲也

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

授業の到達目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の概要

教育心理学の基本領域のうち、「発達」と「学習」と「教育評価」について講義をする。

準備学習(予習・復習)

教育心理学関連の参考書の自習。

内 容

- 第1回 教育心理学の基本領域—教育とは何か、発達とは何か—
- 第2回 発達の規定要因
- 第3回 発達と文化・教育との関わり
- 第4回 発達のプロセス—ピアジェの知能の発達段階論—
- 第5回 発達のプロセス—フロイト、エリクソンの発達段階論—
- 第6回 学習の基礎過程—連合説—
- 第7回 学習の基礎過程—認知説—
- 第8回 教科学習の前提
- 第9回 学習の動機づけ
- 第10回 知識獲得と問題解決のメカニズム
- 第11回 発見学習と有意味受容学習
- 第12回 教育評価の目的と方法、集団準拠評価
- 第13回 目標準拠評価(到達度評価)と授業改善
- 第14回 指導要録の実際と問題
- 第15回 その他学力以外の評価

履修上の注意点

教科書

とくに指定はしない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験に代えてレポートを課すことがある。参加度は出席を含めた授業態度。

2015 Syllabus

科目名 臨床知と文化の多様性

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 滝野 功久

テーマ

臨床の知(臨床知)は本学の教学理念の三本柱の一つです。しかし、多くの人にはしっかりと考えられているようには思えません。「臨床」という言葉についても考えたいと思いますが、「知」についても考えて見ましょう。「知」という日常的でない言葉は、「知る」という行為とその成果である「知識」を同時に指すために使われています。「科学の知」や「学校の知」といったものと比較すると、「臨床の知」は、現在の自分のものの学び方について、根底的な見直しを迫ることになるかと思えます。近代の「科学の知」とは、コトを厳密な客観的対象化によって主体が対象を観察し研究し操作できるという考えです。「臨床の知」はそれを越えて、相互関係の中で、頭脳だけではなく身体も関わって、全体的意味として世界を理解しようとする動きのなかで展開することです。そこにおいて最も重要なことは多様性です。それは世界の多様性だけではなく、自分の中にある多様性を発見することなのです。それが実は臨床の実践のなかでも極めて大切なことであることなのです。それをさまざまな具体的な事象のなかで確認したいと思えます。

授業の到達目標

臨床知と近代科学知の対比についての理解を具体的に説明できる。自分と世界をつくっている多様性を、具体的な事例を通じて発見したり確認したりして、それを言葉ないし図像で説明できるようになる。

授業の概要

全員参加型のワークショップ方式で行います。参加メンバーの構成とその展開によって、大きく変わるので、スケジュールとして下に挙げたことは、ワークショップのなかで、できるだけ取り上げたいテーマに過ぎません。なにを取り上げられるか、また順序や密度など、グループの展開によって大きく変わって行くことになります。

準備学習(予習・復習)

見聞きしたこと体験したことを吟味検討しそれを言葉に表すという習慣を身につけること。関心のあるテーマに関わる事例を集めたり、それを詳細に考察する。日常の身の回りに起きることの観察と記録をつける。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション 臨床の知と学び方 学ぶとはそもそもなにか？自分の学び方を調べる
- 第2回 全体のオリエンテーション2 学校知と臨床知の違い 自分の学び方の見直し:長所と弱点を考える
- 第3回 「臨床の知」の誕生 中村雄二郎の関心と河合隼雄の臨床心理学
- 第4回 「臨床」とはなにか？現場で実践しながら学ぶことの意味 身体技法とパフォーマンス
- 第5回 社会構成主義とナラティブ・アプローチ
- 第6回 事例研究と当事者研究 言葉とイメージの力
- 第7回 多様性に関わる問題1 障害と個性という問題
- 第8回 多様性に関わる問題2 セクシュアリティ 人間の性 性的欲望
- 第9回 多様性に関わる問題3 セクシュアリティとジェンダー
- 第10回 多様性に関わる問題4 食べ物と食事
- 第11回 多様性に関わる問題5 聖なるもの、宗教における多様性
- 第12回 多様性に関わる問題6 民主主義と政治 あるいはPC問題
- 第13回 日本の単一性神話と今日の問題
- 第14回 自分のなかにある多様性の発見 異文化との交流
- 第15回 全体の振り返り 自分には何が出来るか？どうい可能性はあるか？

履修上の注意点

教科書

1. 臨床の知とは何か

著者: 中村雄二郎

出版社: 岩波書店(岩波新書)

出版年: 1992

ISBN:

参考書

感覚の博物誌

著者: D. アッカーマン

出版社: 河出書房新社ss

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 死生学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 川岸 久也・滝野 功久・松下 幸治

テーマ

人間の「死」を見つめ、それと向き合うことを通して、「生きること」ないし「いま、生きていること」についての体験的実感を得ること。

授業の到達目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを複数の教員がそれぞれの観点から論じ、ともに考え、たましいのあり様に接近する。

授業の概要

1～6回目講義(担当:松下)7～12回目講義(担当:滝野)13～15回目集中講義(担当:上鹿渡)

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 思春期・青年期の心と心の迷い
- 第2回 「象徴的な死」について
- 第3回 心理臨床家からみた「死」と「生」
- 第4回 「死」と「生」の二項対立的発想の落とし穴
- 第5回 「たましい」について
- 第6回 いきいきと生きるために死と向き合うということ
- 第7回 「死ぬ」ということ そのイメージ それと直面すること(キューブラー＝ロスの貢献)
- 第8回 緩慢な死と突然死そして「過労死」
- 第9回 自殺 個人的決断と社会的現象としての自殺 その実態と予防
- 第10回 尊厳死と安楽死 緩和ケアとホスピス
- 第11回 臨死体験 彼岸はあるのか? スピリチュアリティとはなにか?
- 第12回 悲嘆の作業 喪の営み 内観法 葬儀・法事 日本人と宗教
- 第13回 子どもの生について
- 第14回 子どもの死について
- 第15回 子どもの死に対する権利について～コルチャック先生の言葉を通して考える

履修上の注意点

教科書

参考書

コルチャック先生のいのちの言葉

著者: ヤヌシュ・コルチャック著 サンドラ・ジョウゼフ編著 津崎哲雄訳

出版社: 明石出版

出版年: 2001年

ISBN:

対話する生と死

著者: 河合隼雄

出版社: 潮出版社

出版年: 1992年

ISBN: 4-267-01320-9

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

1～6回: 毎回の授業後各自の感想をまとめること。7～12回随時課題集中講義: 子どもが生きていること、死ぬことについて、講義内容をまとめてください。その上で、あなたの考えを自由に述べてください。(1600字から2000字程度)

2015 Syllabus

科目名 よそおいの心理学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の概要

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

準備学習(予習・復習)

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
- 第2回 装いの社会・心理的機能①
- 第3回 装いの社会・心理的機能②
- 第4回 顔について① 顔とは(乳幼児期における顔認知などから)
- 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
- 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ
- 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学
- 第8回 社会心理学における化粧研究
- 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究①
- 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究②
- 第11回 化粧とパーソナリティ
- 第12回 化粧の臨床的応用① 精神障害者を対象として
- 第13回 化粧の臨床的応用② 高齢者を対象として
- 第14回 化粧と装いの臨床的応用③ 身体障害者を対象として
- 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味

履修上の注意点

受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学—人はなぜ装うのか

著者: 大坊郁夫・神山進他

出版社: 北大路書房

出版年: 1996年

ISBN: 978-4762820588

化粧行動の社会心理学

著者: 大坊郁夫他

出版社: 北大路書房

出版年: 2001年

ISBN: 4-7628-2226-4

個と向き合う介護

著者: 西本典良・日比野英子他

出版社: 誠信書房

出版年: 2006年

ISBN: 4-414-60137-1

成績評価

試験 (50)
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 健康心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸・中川 明仁	
テーマ 健康心理学に関わる諸理論の理解	
授業の到達目標 健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 各回の内容に該当する教科書の熟読、および、健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 健康心理学とは&「健康」のとらえ方 第2回 健康心理学の基盤となる心理学理論 第3回 健康行動の諸理論と心身不調の予防 第4回 ストレスと健康 第5回 ストレスへの対処とストレス関連身体疾患 第6回 トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント 第7回 パーソナリティ・生活習慣と健康 第8回 健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム 第9回 発達段階に応じた健康教育 第10回 生活場面に応じた健康教育 第11回 健康心理学に基づくアセスメント 第12回 健康心理カウンセリングの理論 第13回 健康心理カウンセリングの実際 第14回 健康的な生活習慣の形成 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。	
教科書 新版健康心理学 著者： 野口京子 出版社： 金子書房 出版年： ISBN:	
参考書 健康心理学・入門 健康なところ・身体・社会づくり 著者： 島井哲史・長田久雄・小玉正博(編) 出版社： 有斐閣 出版年： ISBN:	
健康心理学概論(健康心理学基礎シリーズ1) 著者： 日本健康心理学会(編) 出版社： 実務教育出版 出版年： ISBN:	
健康心理アセスメント概論(健康心理学基礎シリーズ2) 著者： 日本健康心理学会(編) 出版社： 実務教育出版 出版年： ISBN:	

健康心理カウンセリング概論 (健康心理学基礎シリーズ3)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康教育概論 (健康心理学基礎シリーズ4J)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究 I <* a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究 I <*b>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ〈*c〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ <*d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ〈*e〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ <*f>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定

担当者 中島 暢美

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅰ〈*g〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究 I <*h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習(予習・復習)

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
- 第3回 文献の検索と収集
- 第4回 文献の要約の発表と討論①
- 第5回 文献の要約の発表と討論②
- 第6回 文献の要約の発表と討論③
- 第7回 文献の要約の発表と討論④
- 第8回 文献の要約の発表と討論⑤
- 第9回 文献の要約の発表と討論⑥
- 第10回 文献の要約の発表と討論⑦
- 第11回 研究テーマ決定と研究法の検討①
- 第12回 研究テーマ決定と研究法の検討②
- 第13回 研究テーマ決定と研究法の検討③
- 第14回 研究計画の発表と討論①
- 第15回 研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行います。自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 心理検査法Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	日比野 英子	
テーマ	心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。	
授業の到達目標	心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。	
授業の概要	前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたるのが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ロールシャッハ・テスト①ロールシャッハ・テストの被検</p> <p>第3回 ロールシャッハ・テスト②基礎技法</p> <p>第4回 ロールシャッハ・テスト③スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)</p> <p>第5回 ロールシャッハ・テスト④スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)</p> <p>第6回 ロールシャッハ・テスト⑤スコアリング練習</p> <p>第7回 ロールシャッハ・テスト⑥スコアリング練習</p> <p>第8回 ロールシャッハ・テスト⑦結果の整理・解釈</p> <p>第9回 発達検査とは～子どもの姿をとらえる</p> <p>第10回 やってみよう！新版K式発達検査①</p> <p>第11回 やってみよう！新版K式発達検査②</p> <p>第12回 やってみよう！ウェクスラー知能検査①</p> <p>第13回 やってみよう！ウェクスラー知能検査②</p> <p>第14回 その他の発達検査</p> <p>第15回 まとめ～検査結果をどう生かしていくか</p>	
履修上の注意点	ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2～3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。	
教科書		
参考書	<p>改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究</p> <p>著者： 片口安史</p> <p>出版社： 金子書房</p> <p>出版年： 1987年</p> <p>ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (50) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 (25) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (25)</p> <p>上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。</p>	

2015 Syllabus

科目名 心理検査法Ⅱ〈b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 室 紀子

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投射法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の概要

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ロールシャッハ・テスト①ロールシャッハ・テストの被検
- 第3回 ロールシャッハ・テスト②基礎技法
- 第4回 ロールシャッハ・テスト③スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)
- 第5回 ロールシャッハ・テスト④スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)
- 第6回 ロールシャッハ・テスト⑤スコアリング練習
- 第7回 ロールシャッハ・テスト⑥スコアリング練習
- 第8回 ロールシャッハ・テスト⑦結果の整理・解釈
- 第9回 発達検査とは～子どもの姿をとらえる
- 第10回 やってみよう！新版K式発達検査①
- 第11回 やってみよう！新版K式発達検査②
- 第12回 やってみよう！ウェクスラー知能検査①
- 第13回 やってみよう！ウェクスラー知能検査②
- 第14回 その他の発達検査
- 第15回 まとめ～検査結果をどう生かしていくか

履修上の注意点

ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講前に2～3時間の予習を前提としているので、十分な準備をしてから出席してください。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究

著者： 片口安史

出版社： 金子書房

出版年： 1987年

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (25)

上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

2015 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅲ(多変量解析)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

統計ソフトSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

授業の到達目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の概要

各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

準備学習(予習・復習)

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内 容

- 第1回 多変量解析とは
- 第2回 因子分析(理論の説明)
- 第3回 因子分析(適用例の紹介)
- 第4回 因子分析(演習)
- 第5回 重回帰分析(理論の説明)
- 第6回 重回帰分析(適用例の紹介)
- 第7回 重回帰分析(演習)
- 第8回 判別分析(理論の説明と適用例の紹介)
- 第9回 判別分析(演習)
- 第10回 クラスター分析(理論の説明と適用例の紹介)
- 第11回 クラスター分析(演習)
- 第12回 MDS(多次元尺度構成法)(理論の説明と適用例の紹介)
- 第13回 MDS(多次元尺度構成法)(演習)
- 第14回 総合演習①(データ収集)
- 第15回 総合演習②(データ分析)

履修上の注意点

教科書

使用しない(資料配付)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析——因子分析・共分散構造分析まで

著者: 小塩真司

出版社: 東京図書

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 英書講読

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の専門的な文章を英語で読み、考える力をつける

授業の到達目標

心理学に関する英語の専門的な文章を読んでその内容をつかみ、それについて考えることができるようになる。卒業論文の作成、大学院入試、さらには大学院での研究に必要な、英語論文を読んで理解する力をつける。

授業の概要

まず、心理学のあらゆる分野の論文を少しずつ読み、専門用語や論文表現に慣れる。その後、主に臨床心理学分野の論文を読み進めていく。なお、取り扱う文章の内容は、受講者の関心や人数によって調整する。

準備学習(予習・復習)

指示した部分を必ず予習してから授業に臨むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(英語の論文を読むとは)
- 第2回 心理学の専門用語・英語の論文表現
- 第3回 心理学のさまざまな分野の英文(1)
- 第4回 心理学のさまざまな分野の英文(2)
- 第5回 心理学のさまざまな分野の英文(3)
- 第6回 心理学のさまざまな分野の英文(4)
- 第7回 心理学のさまざまな分野の英文(5)
- 第8回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(1)
- 第9回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(2)
- 第10回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(3)
- 第11回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(4)
- 第12回 箱庭療法に関する英文(1)
- 第13回 箱庭療法に関する英文(2)
- 第14回 箱庭療法に関する英文(3)
- 第15回 箱庭療法に関する英文(4)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25%)

授業中発表等 (50%)

参加度 (25%)

2015 Syllabus

科目名 生理心理学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

こころや行動に関わる神経内分泌系(ホルモン)の働きを理解する。

授業の到達目標

中枢神経系である脳の作用に加えて、末梢神経、性ホルモン、免疫系のはたらきと、情動、学習、認知などの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関わる、心理学的トピックを紹介する。

授業の概要

配布プリントや参考図書に沿って講義をする。

準備学習(予習・復習)

生理心理学関連図書を読むこと。配布プリント、ノートを用いて講義を復習すること。

内 容

- 第1回 ホルモンと行動研究 / 母親の養育行動と脳の変化
- 第2回 ホルモン分泌の神経調節 / 母親の認知機能の変化
- 第3回 ホメオスタシスと行動 / 父親の養育行動と脳の変化
- 第4回 性の決定と哺乳類の性分化 / 脳の性差
- 第5回 行動の周期性
- 第6回 精神疾患の性差 / 女性がうつになりやすい理由
- 第7回 個体の絆の形成
- 第8回 種内のコミュニケーション
- 第9回 遊び行動の重要性
- 第10回 ストレス応答と行動
- 第11回 生育環境と行動
- 第12回 情動、学習、記憶とホルモン
- 第13回 自己と他者の脳科学
- 第14回 認知、判断の進化
- 第15回 脳と心の進化

履修上の注意点

講義中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

脳科学とこころの進化

著者: 小嶋祥三 渡辺茂

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN:

脳とホルモンの行動学

著者: 近藤保彦 編

出版社: 西村書店

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験 (60%)

小テスト (20%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 **こころの脳科学**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	坂本 敏郎	
テーマ	脳のはたらきとこころのはたらきの関係を理解する。	
授業の到達目標	知覚、学習、記憶、情動などの心的機能が、どのような神経回路によって制御されているかについて理解する。主に中枢神経系の解剖学的、生理学的基礎を学ぶ。脳科学の関連分野である生理学、薬理学、分子生物学の領域から得られた知見についても考察する。	
授業の概要	テキストに沿って講義をする。	
準備学習(予習・復習)	講義前にテキストを予習し、講義後にはテキスト、ノートを復習すること。	
内 容	<p>第1回 脳科学と生理心理学の研究方法</p> <p>第2回 脳の構造</p> <p>第3回 神経内の情報伝導</p> <p>第4回 神経間の情報伝達</p> <p>第5回 脳と知覚1(視覚)</p> <p>第6回 脳と知覚2(聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚)</p> <p>第7回 脳と記憶</p> <p>第8回 脳と学習</p> <p>第9回 脳と情動</p> <p>第10回 脳と動機づけ</p> <p>第11回 脳とストレス</p> <p>第12回 こころの病気と脳</p> <p>第13回 脳の側性化</p> <p>第14回 脳と睡眠</p> <p>第15回 脳の発達と進化</p>	
履修上の注意点	講義中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。	
教科書	<p>生理心理学</p> <p>著者： 岡田隆・廣中直行・宮森孝史 著</p> <p>出版社：サイエンス社</p> <p>出版年：2005 ISBN:</p>	
参考書	<p>バイオサイコロジー</p> <p>著者：ピネル</p> <p>出版社：西村書店</p> <p>出版年：2005 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (60%) 小テスト (20%)</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 心理的援助論A

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 中島 暢美

テーマ

相互理解の基本ともいえる身体的知性について学ぶ。

授業の到達目標

心理療法理論(教育臨床動作法、構成的エンカウンター、イメージ療法等)を基盤とした体験学習を通して、自己理解および他者理解について、実感から習得することを目標とする。

授業の概要

まずレジュメを音読しながら理論を説明し、次に体験学習や集団活動によって各受講生が理論とすりあわせ、最後にふりかえりを行う。

準備学習(予習・復習)

理論関連の図書の読書。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アイスブレイク
- 第3回 リラクゼーション1
- 第4回 リラクゼーション2
- 第5回 リラクゼーション3
- 第6回 リラクゼーション4
- 第7回 リラクゼーション5
- 第8回 リラクゼーション6とペア・ワーク1
- 第9回 リラクゼーション7とペア・ワーク2
- 第10回 ペア・ワーク3
- 第11回 リラクゼーション8とイメージ・ワーク
- 第12回 クールダウン1
- 第13回 クールダウン2
- 第14回 モーニングワーク
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

体操服、五本指ソックスを着用し、タオル持参。体験を重視する内容であるため主体的な受講態度が求められる。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

リラクゼーション

著者: 成瀬悟策

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

姿勢のふしぎ

著者: 成瀬悟策

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

自己コントロール

著者: 成瀬悟策

出版社: 誠信書房

出版年:

ISBN:

動作のころ

著者： 成瀬悟策

出版社： 誠信書房

出版年：

ISBN：

ディブリーフィング・ワークの研究

著者： 中島暢美

出版社： 関西学院出版会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

各回の課題提出および最終課題レポートの総合評価

2015 Syllabus

科目名 心理的援助論B

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理的援助における「表現」との向き合い方について考える

授業の到達目標

心理的援助における「表現」について体験的に学ぶ。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に学ぶことを目標とする。

授業の概要

この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみることから学びを深めていく。

準備学習(予習・復習)

実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかつたり、他の受講者に迷惑をかけたりしますので、よく理解しておいてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(心理的援助における表現とは)
- 第2回 心理療法における描画法
- 第3回 風景構成法とは
- 第4回 風景構成法実習(1)
- 第5回 風景構成法実習(2)
- 第6回 心理療法における象徴的イメージとは
- 第7回 箱庭療法とは
- 第8回 箱庭を使ったワーク(1)
- 第9回 箱庭を使ったワーク(2)
- 第10回 箱庭療法の事例から学ぶ(1)
- 第11回 箱庭療法の事例から学ぶ(2)
- 第12回 援助者として表現に向きあうワーク
- 第13回 遊戯療法とは
- 第14回 遊戯療法の実践
- 第15回 遊戯療法の事例から学ぶ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

風景構成法—その基礎と実践

著者: 皆藤章

出版社: 誠信書房

出版年: 1994

ISBN: 978-4414401691

風景構成法のしくみ: 心理臨床の実践知をことばにする

著者: 佐々木玲仁

出版社: 創元社

出版年: 2012

ISBN: 978-4422115429

箱庭療法—基礎的研究と実践

著者： 木村晴子

出版社： 創元社

出版年： 1985

ISBN： 978-4422111032

箱庭療法の事例と展開

著者： 岡田 康伸(編)

出版社： 創元社

出版年： 2007

ISBN： 978-4422113647

遊戯療法の実際

著者： 河合 隼雄

出版社： 誠信書房

出版年： 2005

ISBN： 978-4414400212

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

小テストの点数が低い(実習・ワークに必要なことを理解できていない)場合、その後の実習・ワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。

2015 Syllabus

科目名 **犯罪心理学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 我藤 諭

テーマ

犯罪及び刑事司法におけるさまざまな現象を心理学の観点からどのように捉えうるのかを考える

授業の到達目標

犯罪に関するさまざまな現象に対して、直感的感情的な理解ではなく、心理学の観点からその課題を明らかにして、再犯防止・誤判防止に資することができるのかを理解することを目標とする。

授業の概要

犯罪及び刑事司法における現象を考える上で、犯罪理論、捜査・裁判における目撃証言や自白、矯正・保護における処遇を概観する。その上で、それらの課題に対して心理学の観点からどのように分析し、関与できるのかを考察する。

準備学習(予習・復習)

新聞等を読むこと。参考書を読み、理解を深めることが望ましい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション日本における犯罪動向 授業の進め方の提示、犯罪の定義、日本の犯罪動向
 第2回 犯罪理論1 社会学的要因 社会学による犯罪理論
 第3回 犯罪理論2 生物・心理学的要因 生物学・心理学による犯罪理論
 第4回 犯罪理論3 少年、障害と犯罪 犯罪と少年、障害との関連について概観する
 第5回 目撃証言1 凶器注目効果 犯罪を目撃した際の心理学的問題について概観する
 第6回 目撃証言2 犯人識別手続、同調 犯人識別手続における心理学的問題について概観する
 第7回 目撃証言3 事後情報効果 目撃後の記憶の変容について概観する
 第8回 目撃証言4 想起と面接法 目撃した出来事を聞きとる方法について概観する
 第9回 目撃証言5 証言の分析方法 目撃証言の分析方法について概観する
 第10回 自白1 取調べと虚偽自白 虚偽自白の発生要因について概観する
 第11回 自白2 自白の分析方法 自白の分析方法について概観する
 第12回 自白3 冤罪事件 目撃証言や虚偽自白について事例に基づいて検討する
 第13回 矯正・保護1 犯罪・非行の心理臨床 犯罪・非行臨床の基礎を概観する
 第14回 矯正・保護2 犯罪者・非行少年のアセスメント 犯罪者・非行少年のアセスメントについて概観する
 第15回 矯正・保護3 高齢犯罪者と知的障がい犯罪者への処遇 高齢犯罪者や知的障がい犯罪者への処遇について概観する

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

自白の心理学

著者: 浜田 寿美男

出版社: 岩波書店

出版年: 2001

ISBN: 978-4004307211

犯罪・非行の心理学

著者: 藤岡 淳子

出版社: 有斐閣

出版年: 2007

ISBN: 978-4641183476

刑務所の風景

著者: 浜井 浩一

出版社: 日本評論社

出版年: 2006

ISBN: 978-4535584815

罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦—隔離から地域での自立支援へ

著者： 浜井 浩一

出版社： 現代人文社

出版年： 2013

ISBN： 978-4877985356

自白が無実を証明する—袴田事件、その自白の心理学的供述分析

著者： 浜田 寿美男

出版社： 北大路書房

出版年： 2006

ISBN： 978-4762825330

犯罪心理学—行動科学のアプローチ

著者： Curt R. Bartol, Anne M. Bartol

出版社： 北大路書房

出版年： 2006

ISBN： 978-4762824791

目撃証言の研究—法と心理学の架け橋をもとめて

著者： 一瀬 敬一郎, 仲 真紀子, 巖島 行雄, 浜田 寿美男, 渡部 保夫 (監修)

出版社： 北大路書房

出版年： 2001

ISBN： 978-4762822063

犯罪からの離脱と「人生のやり直し」-元犯罪者のナラティブから学ぶ

著者： シャッド・マルナ (著), 津富 宏, 河野 莊子 (監修, 翻訳)

出版社： 明石書店

出版年： 2013

ISBN： 978-4750338460

犯罪学—理論的背景と帰結

著者： J・ロバート・リリー/フランシス・T・カレン/リチャード・A・ボール (著), 影山任佐監訳

出版社： 金剛出版

出版年： 2013

ISBN： 978-4772413428

性犯罪からの離脱「良き人生モデル」がひらく可能性

著者： D・リチャード・ローズ, トニー・ワード (著), 津富 宏, 山本 麻奈 (監修, 翻訳)

出版社： 日本評論社

出版年： 2014

ISBN： 978-4535983830

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 集団力動学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 ジェイムス 朋子	
テーマ 集団力動の理論とグループ・アプローチの基礎理解	
授業の到達目標 集団はその構造によりさまざまな特徴をもつ。臨床心理学では古くから、個人力動の特質と集団力動の特質、そしてその交叉の力動を活かして、対人援助にアプローチしてきた。その知見は、教育、医療、矯正など、多くの領域で活用されている。本講義では、集団力動の基本理論と実際を理解し、援助処方としてのグループ・アプローチの基礎を理解することを目標とする。	
授業の概要 授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートを課す場合がある。	
準備学習(予習・復習) 参考文献を読み、授業の理解を深める。	
内 容 第1回 イントロダクション—集団とは何か— 第2回 映画に見る集団力動 第3回 青年と集団 第4回 集団力動とは何か 第5回 グループ・サイズと機能:小演習 第6回 リーダーシップ 第7回 集団力動の実際 第8回 心の発達力学と集団 第9回 集団と対人関係 第10回 集団と家族・集団と学校 第11回 グループ・アプローチのあれこれ 第12回 グループ・ワーク:学校教育におけるグループ・ワークの例 第13回 グループ・ワーク:刑務所における心理教育グループ・ワークの例 第14回 グループ・カウンセリングと集団精神療法 第15回 事例による理解のまとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 人間理解のグループ・ダイナミクス 著者: 吉田道雄 出版社: ナカニシヤ出版 出版年: 2001 ISBN: 現代のエスプリ別冊 心の安全空間—家庭・地域・学校・社会— 著者: 小谷英文 出版社: 至文堂 出版年: 2006 ISBN: 学校で役立つ社会心理学 著者: 吉田敏和 出版社: ナカニシヤ出版 出版年: 2013 ISBN:	

現代のエスプリ グループセラピーの現在

著者： 小谷英文

出版社： 至文堂

出版年： 2009

ISBN:

集団精神療法の基礎用語

著者： 日本集団精神療法学会

出版社： 金剛出版

出版年： 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (レポート60%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 広告心理学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 前田 洋光

テーマ

広告を科学的見地から理解する

授業の到達目標

広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。

授業の概要

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間(消費者)理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

準備学習(予習・復習)

・日常生活において、さまざまな広告に接触すること・下記参考書をはじめとする広告心理学に関連する書籍の講読

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 広告効果
- 第3回 ブランドと広告
- 第4回 メディアによる差異
- 第5回 購買後効果と長期的効果
- 第6回 広告表現と戦略:タレント起用広告
- 第7回 広告表現と戦略:比較広告
- 第8回 広告表現と戦略:ユーモア広告
- 第9回 広告表現と戦略:その他の広告表現(性的表現・恐怖アピール等)
- 第10回 POP広告
- 第11回 公共広告
- 第12回 インターネット広告
- 第13回 プロダクトプレイスメント
- 第14回 広告の倫理: 広告苦情
- 第15回 まとめと確認

履修上の注意点

教科書

参考書

広告心理

著者: 仁科貞文ほか

出版社: 電通

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 消費者コミュニケーション論

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	前田 洋光	
テーマ	現代社会における消費者行動の理解	
授業の到達目標	現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる	
授業の概要	<p>消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。</p>	
準備学習(予習・復習)	・日常生活における消費者行動に注意を向ける・下記参考書をはじめとする関連書籍の講読	
内 容	<p>第1回 イントロダクション 第2回 消費者間コミュニケーション①: 他メディアとの効果差異を中心に 第3回 消費者間コミュニケーション②: くちコミの受け手・メッセージ内容を中心に 第4回 消費者間コミュニケーション③: くちコミの送り手に関する検討 第5回 消費者間コミュニケーション④: Webくちコミ 第6回 企業と消費者間のコミュニケーション①: 消費者の問題認識 第7回 企業と消費者間のコミュニケーション②: 消費者の購買意思決定過程 第8回 企業と消費者間のコミュニケーション③: 購買意思決定を左右する種々の要因 第9回 企業と消費者間のコミュニケーション④: 不合理な消費者の購買意思決定 第10回 企業と消費者間のコミュニケーション⑤: 選択肢評価 第11回 企業と消費者間のコミュニケーション⑥: 消費者満足 第12回 消費者とモノとのコミュニケーション①: モノの意味 第13回 消費者とモノとのコミュニケーション②: 被服心理学 第14回 現代社会における消費者コミュニケーション: 環境配慮行動 第15回 まとめと確認</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書	<p>消費者・コミュニケーション戦略 著者: 田中洋・清水聡 出版社: 有斐閣 出版年: ISBN:</p> <p>新・消費者理解のための心理学 著者: 杉本徹雄(編) 出版社: 福村出版 出版年: ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (80) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 () 参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 **マーケティング調査演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

授業の到達目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」の企画立案、実施、結果の分析、報告書の作成を自らが行うことで、社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける。

授業の概要

商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査(地域への来訪者を対象とした面接調査、行動観察調査など)のプロセスを体験する。

準備学習(予習・復習)

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。

内 容

- 第1回 来街者調査とは？
- 第2回 来街者調査の事例紹介
- 第3回 来街者調査の方法①(面接調査)
- 第4回 来街者調査の方法②(通行量調査)
- 第5回 質問紙の設計と調査計画の作成
- 第6回 来街者調査の実施①
- 第7回 来街者調査の実施②
- 第8回 来街者調査の実施③
- 第9回 来街者調査の実施④
- 第10回 来街者調査の実施⑤
- 第11回 来街者調査の実施⑥
- 第12回 データの入力
- 第13回 データの分析
- 第14回 調査結果の検討
- 第15回 調査報告書の作成

履修上の注意点

教科書

教科書はなし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (70%)

・10月または11月の土曜日及び日曜日に商店街などにおいて来街者調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施する。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細(調査実施場所など)については未定であるが決まり次第通知をする。

2015 Syllabus

科目名 環境心理学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 太子 のぞみ

テーマ

現実の様々な環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得

授業の到達目標

本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、住環境や教育環境、対人社会環境、自然環境など様々なテーマについて論じる。受講者は環境心理学の概念や理論を知識として得て、さらに人間を取り巻く様々な環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。

授業の概要

一回の講義で一つのテーマについて講義を行う。また、講義に際して出欠をとる。講義の途中で小レポートを課す。

準備学習(予習・復習)

講義で学習したことを踏まえた上で、身近な環境に対してよく注意を払うように心がけて、人間と環境の相互作用について考えてみましょう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境心理学の考え方
- 第3回 環境の認知
- 第4回 環境の評価①
- 第5回 環境の評価②
- 第6回 個人特性と環境
- 第7回 対人・社会環境
- 第8回 住環境①
- 第9回 住環境②
- 第10回 教育環境
- 第11回 職場環境
- 第12回 犯罪環境
- 第13回 自然環境①
- 第14回 自然環境②
- 第15回 まとめと理解の確認
- 第16回 試験

履修上の注意点

他の受講生に迷惑をかけない行動をして下さい。質問があれば授業中だけでなく、授業前後に気軽にお越しください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

環境心理学—人間と環境の調和のために(ライブラリ 実践のための心理学)

著者: 羽生和紀

出版社: サイエンス社

出版年: 2008年

ISBN: 4781911943

環境心理学(朝倉心理学講座)

著者: 佐古順彦・小西啓史

出版社: 朝倉書店

出版年: 2007年

ISBN: 4254526725

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90203e510

参加度（30）

成績は、試験50点、授業中に課される課題20点、出欠を含む参加度30点の合計得点を算出して評価を行う。

2015 Syllabus

科目名 **社会心理学実験演習**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者 前田 洋光		
テーマ	グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する	
授業の到達目標	本講では、受講生を10人ずつのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。	
授業の概要	社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。	
準備学習(予習・復習)	授業内で作業が完了しない場合、授業時間外でもグループで議論する必要がある。	
内 容	第1回 オリエンテーション(グループの決定) 第2回 研究テーマの決定と文献検索の方法 第3回 文献講読 第4回 仮説の設定 第5回 質問項目の設計 第6回 質問紙の設計 第7回 調査準備(印刷) 第8回 調査の実施 第9回 データ入力 第10回 データ分析(基礎集計) 第11回 データ分析(仮説の検討) 第12回 データ分析(発展的検討) 第13回 レポートのまとめ方 第14回 結果のまとめと考察 第15回 レポートの執筆と提出	
履修上の注意点	グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。	
教科書	特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書	適宜紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	試験 ()	小テスト ()
	授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
	参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 コーチング心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定

担当者 本山 雅英

テーマ

卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。

授業の到達目標

企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。

授業の概要

連続した三日間の集中講義により、企業社会で求められているコーチングとファシリテーションの基本スキルを習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 企業社会で期待される心理学とは? 大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解しよう。
- 第2回 コーチングの本質である、人の話をよく聴いて、仕事に役立てるスキル。例えば、モノが受ける営業マンになるためのヒヤリングにコーチングを活用する。良い人材を見つけるための採用面接に役立つコーチングを理解しよう。
- 第3回 企業でよく使われている心理学の諸理論のうち、TA理論について理解する。TA理論が、企業での人材育成に使われる理由と、その活用法のポイントを理解する。
- 第4回 TA理論の具体的理解のため、エゴグラム分析を体験する。エリック・バーンの自我状態分析の考え方と、企業におけるその活用法を理解する。
- 第5回 TA理論のうち、ストローク/ディスカウント分析について学ぶ。企業での一般的なストローク活用法や、ゲーミフィケーションと連動させて全社を活性化させた事例などを理解する。
- 第6回 優良企業では従業員のキャリア開発についても熱心なトレーニングが行われている。代表的な援用理論である、エドガー・社員の自己成長のためのキャリア・アンカー理論について理解する。
- 第7回 企業で行われている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。なぜ企業がコーチングを必要としているか、他者に語り説得するスキルを習得する。
- 第8回 他者への支援スキルとしてのコーチングにおける、他者理解のためのTA、エゴグラムの活用法を理解する。併せて、学生としてのコーチングの具体的な練習法を理解する。
- 第9回 企業における組織活性化と動機づけ理論の関係を理解する。ハーツバーグの二要因理論と、マズローの五段階説のおさらいを兼ねる。
- 第10回 ファシリテーションおよびチェンジエージェントという考え方を知り、企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。
- 第11回 企業から期待されるファシリテーションの基本的なスキルと、そのトレーニングの方法を会する。
- 第12回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。
- 第13回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。
- 第14回 目標管理とリーダーシップ、企業が求める人材へのコンピテンシー概念を理解し、その中でコーチングがどういう役割を果たしているのかを理解する。
- 第15回 自分自身が学んだ心理学やカウンセリングを、自分の人生にどう役立てようとするかを考察する。エドガー・シャインのキャリアアンカーモデルを援用して、受講者自身のキャリアデザインを体験することで、その技法を習得する。

履修上の注意点

教科書

心理学を学ぶ学生のためのコーチングとファシリテーション入門

著者: 本山雅英

出版社: 北大路書房

出版年: 2014年予定

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参加度（50%）

第15回終了時に、レポート課題を課す。50%

2015 Syllabus

科目名 **メンタルヘルス・マネジメント**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	大久保 千恵・田中 芳幸	

テーマ

こころもからだもウェルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ

授業の到達目標

(概要)心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりをもつのかを考察する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、メンタルヘルス・マネジメント関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション メンタルヘルスと心身の健康
- 第2回 ストレスの基礎理論
- 第3回 ストレスの緩和要因
- 第4回 ストレスと心身の健康
- 第5回 職場におけるストレス関連問題 (1)過重労働などによる健康への影響
- 第6回 職場におけるストレス関連問題 (2)セクシャルハラスメントの実態と対処
- 第7回 職場におけるストレス関連問題 (3)モラルハラスメント、パワーハラスメントの実態と対処
- 第8回 急性および外傷後のストレス反応
- 第9回 自殺予防と危機介入
- 第10回 健康関連行動の基礎理論
- 第11回 健康関連行動と生活習慣病
- 第12回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (1)認知行動療法
- 第13回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (2)アサーションとソーシャルサポート
- 第14回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (3)リラクセーション
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ

著者: 中野敬子

出版社: 金剛出版

出版年: 2013(9刷) 初版2005

ISBN: 9784772408936

その他、必要に応じて資料を配布したり、書籍を指示したりする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング 主要な方法論とアプローチ

著者: 内山喜久雄監訳

出版社: 川島書店

出版年: 2002

ISBN:

健康の心理学 心と体の健康のために

著者: 春木豊ほか

出版社: サイエンス社

出版年: 2007

ISBN:

産業心理臨床入門

著者： CPI研究会

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 発達臨床心理学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

人としての発達を生きる上での障害の実際とソーシャルサポートについて理解する。

授業の到達目標

人としての発達を生きる上での様々な障害についてその実際の姿を理解するとともに、社会生活におけるソーシャルサポートのあり様と実践現場の活動について理解すること。

授業の概要

最初に各種障害の特徴と課題について説明する。次に社会生活における各種ソーシャルサポートの実践について紹介する。

準備学習(予習・復習)

発達臨床心理学の関連図書による自学自習

内 容

第1回 発達に障害があるとはどういうことか

第2回 障害とは何か:診断、治療、支援

第3回 知的発達の障害

第4回 姿勢・運動の障害

第5回 言葉の障害

第6回 視覚の障害

第7回 聴覚の障害

第8回 重症心身障害

第9回 発達障害:学習障害

第10回 発達障害:注意欠陥多動性障害

第11回 発達障害:自閉症スペクトラム

第12回 不登校・ひきこもり

第13回 発達臨床の現場とソーシャルサポート:乳幼児健診・発達相談・発達支援センターなど

第14回 発達臨床の現場とソーシャルサポート:保育所・通園施設・児童養護施設など

第15回 発達臨床の現場とソーシャルサポート:特別支援教育

履修上の注意点

教科書

よくわかる臨床発達心理学 第4版

著者: 麻生武・浜田寿美男 編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2012

ISBN:

参考書

よくわかる発達障害

著者: 小野・上野・藤田 編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験 (70%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

参加度とは出席を含めた授業態度

2015 Syllabus

科目名 リハビリテーション文化論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 その他	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	

テーマ

この科目は、「こころとからだの臨床学」の続編と見ることもできます。からだの機能をこころの動きに焦点を当てて見直し、また、こころにとって殆ど不可避免的なさまざまな問題、特に心的外傷体験に関してその基本を理解しようとしています。からだのケアとリハビリテーションに当たる者が留意すべきことについても役に立つものを目指します。そして、心理学的アプローチと理学療法の実践を生かし、心理的ケアと身体的ケアそれぞれの知見を、リハビリテーションのなかでいかに統合できるかについて、一緒に考えたいと願っています。

授業の到達目標

リハビリテーションをこころの問題や社会的文化的背景にも広げて考えることで、リハビリテーションについての新しい考え方と障碍と問題の新しい見方を獲得します。そこで扱われる主要な具体的問題に関して、そのうち少なくとも2つについて、その新しいアプローチに従って 言葉で解説できるようになることを目指します。

授業の概要

リハビリテーションについての新しい考え方や障碍の具体的な解説のため、事例を示しながらの講義も行いますが、必要に応じて、あるいは受講者の関心によっては、体験学習をも取り入れたいと思っています。

準備学習(予習・復習)

特にありませんが、自身がリハビリ体験をしたことがあれば、その自身の体験を振り返ってみることは大いに役に立つでしょう。また、障碍をもった人が近くにいれば、その人たちのとのつきあいも、意義深いものになるでしょう。

内 容

- 第1回 リハビリテーション(社会復帰)という考え方、リハビリテーションが可能な社会的文脈その起源と心理・社会学全般の概論
- 第2回 リハビリテーションの心理・社会的意味と方法、扱えるテーマの概観
- 第3回 心的外傷(トラウマ)という概念の誕生とその発展
- 第4回 障碍の発生とその認知までのプロセス 喪失と「喪の営み」うつ状態
- 第5回 うつ状態はからだにどのように現れるか
- 第6回 うつ状態に対しての運動療法とリクリエーションの可能性
- 第7回 児童虐待という問題 伝統的問題と新しい課題 セクシャル・アブユーズとネグレクトという問題
- 第8回 暴力と犯罪 被害者と加害者のそれぞれのリハビリテーションの課題
- 第9回 破壊的カルト集団のマインドコントロールからの開放と社会復帰の難しさ
- 第10回 人間の身体運動をどのように捉えるか①: ベルンシュタインー運動・行為の進化と階層構造
- 第11回 人間の身体運動をどのように捉えるか②: ユクスキュルー果てしなき知覚と運動の循環と生物世界
- 第12回 認知神経リハビリテーション
- 第13回 認知神経リハビリテーションの実際
- 第14回 認知神経リハビリテーションの実際②
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

受講者の構成や関心、そして学習グループの展開によって、やることは大きく変わって行くので、上に書かれているようなスケジュールで行われるとは限りません。この点を予め了承しておいてください。

教科書

新版 トラウマの心理学

著者: 小西聖子

出版社: NHK出版

出版年: 2012

ISBN:

脳のなかの身体—認知運動療法の挑戦

著者: 宮本省三

出版社: 講談社

出版年: 2008

ISBN: 978-4062879293

参考書

運動の生物学

著者: 塚本芳久

出版社: 協同医書出版社

出版年: 2009

ISBN: 9784763910530

生物から見た世界

著者： ユクスキュル/クリサート

出版社： 岩波文庫

出版年： 2005

ISBN： 4-00-339431-3

デクステリティ 巧みさとその発達

著者： ニコライ・A・ベルンシュタイン

出版社： 金子書房

出版年： 2003

ISBN： 978-4760828210

神経心理学の基礎

著者： ルリヤ

出版社： 創造出版

出版年： 2003

ISBN： 4-88158-251-8

リハビリテーションルネッサンス

著者： 宮本省三

出版社： 春秋社

出版年： 2006

ISBN： 4-393-72903-X

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

評価は基本的に減点法でなく、加点法です。学んだことが評価の対象であり、なにをどのような形で学んでいくか、学んだかを、最初と最後に話し合いたいと思っています。参加することが学びの基本条件なので「参加度」に数値などを入れてはけません。

2015 Syllabus

科目名 医療と生命の倫理

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 鶴田 尚美

テーマ

生命倫理学の基本的問題

授業の到達目標

1. 生命倫理の基礎的な知識を習得する。2. 自分自身で倫理的問題について考える力を養う。

授業の概要

教科書は使用しない。毎回レジュメを配布し、それに基づいて授業を行う。

準備学習(予習・復習)

生命倫理に関わる問題はしばしばニュースで報道されるので、日頃からそういった情報をチェックしておくこと。

内 容

- 第1回 授業の概要説明、生命倫理学の成立
- 第2回 インフォームド・コンセント
- 第3回 医療情報
- 第4回 安楽死(1)
- 第5回 安楽死(2)
- 第6回 安楽死(3)
- 第7回 人工妊娠中絶(1)
- 第8回 人工妊娠中絶(2)
- 第9回 人工妊娠中絶(3)
- 第10回 生殖補助医療(1)
- 第11回 生殖補助医療(2)
- 第12回 出生前診断
- 第13回 脳死と臓器移植(1)
- 第14回 脳死と臓器移植(2)
- 第15回 授業のまとめと試験の説明

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

論述式の試験をおこなう。

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

ライフサイクル論の理解

授業の到達目標

人の誕生から死に至るまでのライフサイクルを臨床発達理論の視座から理解する。特に、臨床心理学において、ライフサイクルの節目における危機と成長のプロセスとその意味を理解することは重要である。本科目では、①ライフサイクル論の提供する視座の今日的意味を理解し、②各時期の発達課題を理解できることを目標とする。その上で、事例や自己体験の探索を通じ、理解を深めることを狙う。

授業の概要

「ライフサイクルの臨床心理学」をテキストとし、上記の目標に記載した基礎理論を学ぶ。受講生の人数によっては、グループ・ディスカッションにより、理解を深める。基本的な理解については小テストで確認をし、学期末にはレポート課題を課す。

準備学習(予習・復習)

参考文献を読み、授業の理解を深める。

内 容

- 第1回 ライフサイクル論の今日的意義(テキスト1～6ページ)
- 第2回 乳幼児期(テキスト8～13ページ)
- 第3回 幼児期(テキスト25～33ページ)
- 第4回 児童期:前期(テキスト43～50ページ)
- 第5回 児童期:後期(テキスト58～65ページ)
- 第6回 思春期:前期(テキスト75～85ページ)
- 第7回 思春期:後期(テキスト95～98ページ)
- 第8回 青年期:前期(テキスト108～117ページ)
- 第9回 青年期:後期(テキスト126～134ページ)
- 第10回 成人期:社会人として(テキスト140～146ページ)
- 第11回 成人期:家庭人として(テキスト155～161ページ)
- 第12回 中年期(テキスト172～180ページ)
- 第13回 老年期(テキスト189～196ページ)
- 第14回 ライフサイクルとその後(テキスト206～216ページ)
- 第15回 事例による理解とまとめ(テキスト216～218ページ)

履修上の注意点

教科書

ライフサイクルの臨床心理学

著者: 馬場禮子・永井徹共 編

出版社: (培風館)

出版年:

ISBN:

参考書

アイデンティティとライフサイクル

著者: エリク・H・エリクソン 著 西平直・中島由恵 訳

出版社: (誠信書房)

出版年:

ISBN:

ライフサイクルからみた発達の基礎

著者: 平山諭・鈴木隆男編著

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

アイデンティティ(こころの科学セレクション)

著者: 鑪幹八郎・山下格 著

出版社: (日本評論社)

出版年:

ISBN:

アイデンティティの心理学(講談社現代新書)

著者: 鑪幹八郎 著

出版社: (講談社)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **精神医学 I**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 上鹿渡 和宏	
テーマ	様々な精神疾患について、また、我が国の精神科医療の実際について幅広く理解する。
授業の到達目標	最初に精神医学の歴史と現状について概観する。生物学的基礎として脳および神経の生理・解剖とその機能について理解する。精神医学で扱う代表的な疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、また、本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深める。
授業の概要	精神医学の歴史、生物学的基礎、疾患の分類と具体的内容、また治療法や関わる際の注意事項について具体的なケース、当事者の語りを通して理解する。
準備学習(予習・復習)	予習としては教科書の相当箇所を読む。また、復習としては、回毎に出てくる精神医学に関する様々な用語(特に教科書太字部分)について理解を確実なものにする。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、精神医学、精神医療の歴史</p> <p>第2回 現代の精神医学</p> <p>第3回 脳および神経の生理・解剖 (1)</p> <p>第4回 脳および神経の生理・解剖 (2)</p> <p>第5回 精神医学の概念～精神障害の概念と成因・分類について</p> <p>第6回 診断の手順と方法～精神科医はどう考えるか</p> <p>第7回 精神症状と状態像～当事者の世界を理解する</p> <p>第8回 心理検査と身体的検査、その利用方法と注意点</p> <p>第9回 代表的な疾患について1 ～ 症状性を含む器質性精神障害</p> <p>第10回 代表的な疾患について2 ～ 精神作用物質使用による精神および行動の障害</p> <p>第11回 代表的な疾患について3 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(1)</p> <p>第12回 代表的な疾患について4 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(2)</p> <p>第13回 代表的な疾患について5～ 気分障害(1) うつ病</p> <p>第14回 代表的な疾患について6～ 気分障害(2) 双極性障害</p> <p>第15回 代表的な疾患について7 ～ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(1)</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>新・精神保健福祉士養成講座『精神疾患とその治療』</p> <p>著者： 日本精神保健福祉士養成校協会編</p> <p>出版社： 中央法規</p> <p>出版年： 2012年 ISBN: 9784805835746</p>
参考書	<p>子どもの問題行動への理解と対応</p> <p>著者： クレアパレット他著、上鹿渡和宏訳</p> <p>出版社： 福村出版</p> <p>出版年： 2013年 ISBN: 9784571420542</p> <p>イギリス・ルーマニア養子研究から社会的養護への示唆</p> <p>著者： マイケル・ラター他著、上鹿渡和宏訳</p> <p>出版社： 福村出版</p> <p>出版年： 2012年 ISBN: 9784571420481</p>
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (70) 授業中発表等 (10)</p> <p>参加度 (20)</p>

2015 Syllabus

科目名 障害児医学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安藤 忠	

テーマ

「障害臨床学」という学問の価値を、教科書を基にした授業から学び、学びの内容を、学生間のディスカッションやレポート作成の過程を通じて深化する。単なる「障害」の特性についての理解のみならず、環境を含めたその援助方法についてそれぞれに理解し、支援を実践するに当たっての当面の手がかりを掴むことを本授業のテーマとする。

授業の到達目標

個々の学生が、さまざまな障害のある児童・生徒に備わった、機能・能力障害の特殊性ばかりに目を向けて、改善の対象として障害をとらえるのではなく、障害児・者とその家族の生活を主体とした、臨床支援、障害児・者とその家族の社会とのかかわりを視野に入れ、その生涯を通しての臨床支援の考え方を学び、実践に結び付けることができるよう知識を深める。

授業の概要

ここで支援対象とする「障害」は、知的障害、自閉性障害、多動性障害、学習障害、運動障害、中途障害などで、支援の具体的な内容は、「障害」の原因、概念・特徴、支援の考え方、医学的基礎知識、障害受容、早期療育、障害児教育などで、教科書のほかに、レジュメ、視聴覚資料を多用し、多角的な理解を進める。

準備学習(予習・復習)

毎回の予習と復習、メディアに報道される障害者問題についての関心を深めること。

内 容

- 第1回 「障害」とは何か、「障害」をどうとらえるか
- 第2回 脳・神経系の機能と障害
- 第3回 知的障害児の心理と支援
- 第4回 ダウン症
- 第5回 自閉性障害の心理と支援
- 第6回 TEACCHプログラム
- 第7回 多動性障害と学習障害の心理と支援
- 第8回 応用行動分析
- 第9回 運動障害の心理と支援 脳性まひ
- 第10回 筋ジストロフィー症
- 第11回 二分脊椎症、骨系統疾患など
- 第12回 中途障害の心理と支援
- 第13回 障害児の親・家族の心理と支援
- 第14回 早期発見と早期療育
- 第15回 インクルージョン教育の思想と現実
- 第16回 テスト

履修上の注意点

教科書

障害臨床学

著者： 中村義行・大石史博 著

出版社：(ナカニシヤ出版)

出版年：2005年

ISBN:

参考書

ダウン症児の育ち方・育て方

著者： 安藤忠 著

出版社：学研

出版年：2002年

ISBN:

ダウン症療育のパイオニア

著者： 安藤忠・他 訳

出版社：あいり出版

出版年：2006年

ISBN:

ダウン症のぼくから

著者： 安藤忠・他 著

出版社： あいり出版

出版年： 2013年

ISBN:

障害は個性か

著者： 茂木俊彦 著

出版社： 大月書店

出版年： 2004年

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト (10%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (15%)

試験)筆記テスト 小テスト)筆記テスト 授業中課題)グループ・ディスカッション 授業中発表)指名による個別評価 参加度)出席回数

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ <*b>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ <*c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ < * f >

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 暢美

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ <*g>

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②
- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅱ <*h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習(予習・復習)

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データ収集についての指導①
- 第3回 データ収集についての指導②
- 第4回 データ処理①
- 第5回 データ処理②
- 第6回 データ処理③
- 第7回 データの分析①
- 第8回 データの分析②
- 第9回 データの分析③
- 第10回 データの分析④
- 第11回 分析結果の検討①
- 第12回 分析結果の検討②
- 第13回 データの再分析①
- 第14回 結果の発表と討論①
- 第15回 結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報を守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に十分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ〈*a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 日比野 英子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ <*b>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 和夫

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ〈*c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ <*d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ〈*e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松下 幸治

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ <*f>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 暢美

テーマ

心理学の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ〈*g〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永野 光朗

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 卒業研究Ⅲ <*h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的〉、〈序論〉、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内 容

- 第1回 データの分析結果に基づく考察①
- 第2回 データの分析結果に基づく考察②
- 第3回 卒業論文の構成
- 第4回 〈問題と目的〉の執筆指導
- 第5回 〈方法〉の執筆指導
- 第6回 〈結果〉の執筆指導①
- 第7回 〈結果〉の執筆指導②
- 第8回 〈考察〉の執筆指導
- 第9回 〈考察〉の執筆指導②
- 第10回 卒業論文完成
- 第11回 卒業論文提出
- 第12回 卒業論文要旨の提出
- 第13回 卒業研究発表準備①
- 第14回 卒業研究発表準備②
- 第15回 卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (卒業論文70%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2015 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅲ <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価。

授業の到達目標

教育を目指す者に求められる専門的力量的中心課題は、児童生徒理解に基づく学級づくり・集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識・技術・能力・態度を身に付ける。

授業の概要

教育原理・教育心理・教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見て学ぶことや、一般の新聞記事などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読む。

内 容

- 第6回 学習指導要領の改訂とその経過
- 第7回 学校教育改革
- 第8回 授業力を高める視点
- 第9回 指導案作成②
- 第10回 学校・学級経営
- 第11回 道徳教育
- 第12回 発達と障害の理論
- 第13回 特別支援教育
- 第14回 教育時事①
- 第15回 教職教養のポイント①
- 第1回 オリエンテーション、自らの生き方
- 第2回 今の学校の姿
- 第3回 教育課程の一般方針
- 第4回 様々な教育方法
- 第5回 論作文①

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (なし)

小テスト (なし)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅳ <Z>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 その他 定員

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

「生きる力」を育む教育実践。

授業の到達目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解する。また、各教科の特性、及び、その系統性を理解し、指導の基礎・基本の力量を身に付ける。

授業の概要

「生きる力」をどのように育んでいくかを教育実践・授業づくりを通して理解する。その際、指導の根底にある学習指導要領、教育理論、教師の使命感、子どもたちの現状等の理解は、教育の重要な条件である。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見ておくことや、新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読むようにする。

内 容

- 第1回 教師の力量
- 第2回 学習指導要領について
- 第3回 特色のある教育活動
- 第4回 学校教育づくり
- 第5回 論作文②
- 第6回 学習指導について
- 第7回 学校教育目標・授業評価
- 第8回 指導案作成①
- 第9回 指導案作成③
- 第10回 生徒指導について①
- 第11回 生徒指導について②
- 第12回 特別活動
- 第13回 教師の望ましい姿
- 第14回 教育時事②
- 第15回 教職教養の重点

履修上の注意点

教科書

小学校指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財 I <Z>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。	
授業の到達目標	
文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。	
授業の概要	
この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。	
準備学習(予習・復習)	
積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること	
内 容	
第1回	京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
第2回	京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その1>
第3回	京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その2>
第4回	文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)
第5回	醍醐寺所蔵の文化財について<その1>
第6回	醍醐寺所蔵の文化財について<その2>
第7回	現代に生きる山岳信仰<その1>
第8回	現代に生きる山岳信仰<その2>
第9回	信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)
第10回	日本人の生活の中に生きる仏教
第11回	日本人の根底に流れる仏教の影響
第12回	桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)
第13回	華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その1>
第14回	華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その2>
第15回	まとめ
履修上の注意点	
教科書	
特になし	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
特になし	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (50)	小テスト (20)
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財Ⅱ <eL>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

京都市の歴史遺産を学ぶ

授業の到達目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、現代における遺産の調査・保護・活用について問題意識をもつ。

授業の概要

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々に講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に2～3回の現地見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、以下の予定は2014年度実施の内容に準拠したもので、実際の講義内容や見学対象は講師の関係で変更する場合がある(その際にはあらためて通知する)。

準備学習(予習・復習)

日常的にたくさんの文化遺産を見学し、自身で問題意識をもってほしい。なお、2講時分程度を1単位としてミニレポートを課す。

内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産の特徴(総説)
- 第2回 京都市の文化遺産
- 第3回 京都市の史跡と世界遺産
- 第4回 地域社会と庭園 ー以上、第1日ー
- 第5回 京都市の文化的景観
- 第6回 京都市内にある恩賜の建物
- 第7回 京都市の民俗文化財・剣鉾のまつり
- 第8回 京都と大津の遺跡 ー以上、第2日ー
- 第9回 二条城の構造と建物
- 第10回 二条城の障壁画
- 第11回 文化遺産見学(1-二条城)
- 第12回 文化遺産見学(1-二条城) ー以上、第3日ー
- 第13回 京都市の民俗文化財・祇園祭
- 第14回 祇園祭・大船鉾を描く絵画・文化遺産見学(2-市無形文化遺産展示室)
- 第15回 まとめー文化遺産の保護とその課題ー ー以上、第4日ー

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aa>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ab>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ac>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ad>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ae>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <A>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ag>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ah>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心とした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ai>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aj>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ak>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <AI>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心とした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Am>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <An>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ba>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学
 出版社： 京都橘大学生協
 出版年：

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳
 出版社： 嵯峨野書院
 出版年：

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bb>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心とした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bc>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bd>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Be>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心とした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bf>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 30
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bg>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bh>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bi>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ
- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bj>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bk>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <BI>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bm>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bn>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員 30

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるように話す力聞く力を身につけます。

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
- 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
- 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
- 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
- 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
- 第8回 「贈る言葉」の発表
- 第9回 待遇表現(1)
- 第10回 待遇表現(2)
- 第11回 来客の応対
- 第12回 案内状
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 面接の作戦・自己アピール
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Aa>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ab>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ac>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ad>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ae>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ag>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ah>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 正志

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ai>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本章彦

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ak>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <AI>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Am>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <An>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 檜垣 泰代

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ba>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bd>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 権藤 愛順

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Be>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bf>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bg>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bh>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 正志

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bi>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bj>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本章彦

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bk>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈BI〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bm>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bn>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 檜垣 泰代

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習(予習・復習)

授業中に示された課題は必ずやってくる

内 容

- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 第2回 文章を書く(2)文章構成
 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文

履修上の注意点

教科書

スタート

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 松本 広美	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現 第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目) 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す 第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目) 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	

aks102a110

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 松本 広美	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現 第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目) 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す 第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目) 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (40)
授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I <c>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 100
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 吉田 真知子	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現 第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目) 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す 第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目) 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (40)
授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	吉田 真知子	
テーマ	「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標	1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要	講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え</p> <p>第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き</p> <p>第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形</p> <p>第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例</p> <p>第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音</p> <p>第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現</p> <p>第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現</p> <p>第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目)</p> <p>第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語</p> <p>第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント</p> <p>第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す</p> <p>第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目)</p> <p>第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR</p> <p>第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス</p> <p>第15回 総まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>話しことば検定 3級テキスト</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: 2014 ISBN:</p>	
参考書	<p>話しことば検定 3級問題集</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>話しことば検定 2級テキスト</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>話しことば検定 2級問題集</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価		

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (40)
授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	松岡 とお子	
テーマ	「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標	1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要	講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え</p> <p>第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き</p> <p>第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形</p> <p>第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例</p> <p>第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音</p> <p>第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現</p> <p>第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現</p> <p>第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目)</p> <p>第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語</p> <p>第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント</p> <p>第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す</p> <p>第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目)</p> <p>第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR</p> <p>第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス</p> <p>第15回 総まとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>話しことば検定 3級テキスト</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: 2014 ISBN:</p>	
参考書	<p>話しことば検定 3級問題集</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>話しことば検定 2級テキスト</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>話しことば検定 2級問題集</p> <p>著者: NPO法人 日本語話しことば協会</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
成績評価		

aks102a115

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 キャリアコミュニケーション I <f>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 100
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 松岡 とお子	
テーマ 「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする	
授業の到達目標 1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4. 正しい日本語の運用についての知識の修得	
授業の概要 講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに模擬テスト二回で成績を評価する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現 第8回 話しことば検定 模擬テスト(1回目) 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す 第12回 話しことば検定 模擬テスト(2回目) 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス 第15回 総まとめ	
履修上の注意点	
教科書 話しことば検定 3級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: 2014 ISBN:	
参考書 話しことば検定 3級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級テキスト 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
話しことば検定 2級問題集 著者: NPO法人 日本語話しことば協会 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (40)
授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	田村 純子	
テーマ	コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標	1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要	基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント 第15回 総復習	
履修上の注意点		
教科書	好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション 著者： NPO法人 日本話しことば協会 出版社： 出版年： 2015 ISBN： 参考書	
成績評価	試験 (0) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (20) 参加度 (50) 期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ〈b〉**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 田村 純子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度
- 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ
- 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い
- 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」
- 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方
- 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介
- 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表
- 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表
- 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック
- 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー
- 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本
- 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
- 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー
- 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2015

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	田村 純子	
テーマ	コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする	
授業の到達目標	1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。	
授業の概要	基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。	
準備学習(予習・復習)		
内 容	第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント 第15回 総復習	
履修上の注意点		
教科書	好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション 著者： NPO法人 日本話しことば協会 出版社： 出版年： 2015 ISBN： 参考書	
成績評価	試験 (0) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (20) 参加度 (50) 期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <d>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	田村 純子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度
- 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ
- 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い
- 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」
- 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方
- 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介
- 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表
- 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表
- 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック
- 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー
- 第11回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本
- 第12回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
- 第13回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー
- 第14回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2015

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	松岡 とお子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度
- 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ
- 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い
- 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」
- 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方
- 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介
- 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表
- 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表
- 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック
- 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー
- 第11回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー
- 第12回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
- 第13回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本
- 第14回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ** <f>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 100

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 松岡 とお子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3. 社会の中で自分の立場や場面の的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション～ビジネスマナー1～ 好感度アップに欠かせない基本態度
- 第2回 ～ビジネスマナー2～ 清潔感を大事にする服装と身だしなみ
- 第3回 ～ビジネスマナー3～ 就活で一目置かれる立ち居振る舞い
- 第4回 ～ことばのマナー1～ 社会人のエチケット「敬語」
- 第5回 ～ことばのマナー2～ コミュニケーションに役立つ話し方
- 第6回 ～コミュニケーション1～ 効果的な自己紹介
- 第7回 ～コミュニケーション2～ 自己紹介発表
- 第8回 ～コミュニケーション3～ スピーチ発表
- 第9回 ～コミュニケーション4～ 相手の心を開く心理テクニック
- 第10回 ～ビジネスマナー4～ 基本的マナー
- 第11回 ～魅力を引き出す印象管理1～ 顔色がよく見えるパーソナルカラー
- 第12回 ～魅力を引き出す印象管理2～ 表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
- 第13回 ～ビジネスマナー5～ 電話対応の基本
- 第14回 ～ビジネスマナー6～ ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

好感度を上げる！ ビジネスマナーとコミュニケーション

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2015

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ジェームス ディーグル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1a – Explorers (個人情報を取り、交換する)</p> <p>第3回 Unit 1b – A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)</p> <p>第4回 Unit 2a – My possessions (持ち物について話す・聞く)</p> <p>第5回 Unit 2b – At home (部屋を描写する)</p> <p>第6回 Unit 3a: – No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)</p> <p>第7回 Unit 3b – Working under the sea (仕事について聞く・話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4a – 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)</p> <p>第10回 Unit 4b – Free time at work (日課について読む・話す)</p> <p>第11回 Unit 5a – Famous for food (食べ物について聞く・話す)</p> <p>第12回 Unit 5b – Food markets (買い物と量について読む・話す)</p> <p>第13回 Unit 6a – The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)</p> <p>第14回 Unit 6b – Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777
参考書	
成績評価	試験 () 小テスト (20) 授業中課題 (25) 授業中発表等 (25) 参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 占部 幹也

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 短文穴埋め問題攻略法 語彙問題
- 第3回 長文穴埋め問題攻略法 イディオム問題
- 第4回 読解問題攻略法 1つの文書
- 第5回 読解問題攻略法 2つの文書
- 第6回 短文穴埋め問題攻略法 文法問題
- 第7回 長文穴埋め問題攻略法 文章の流れをつかむ
- 第8回 読解問題攻略法 スキミングの練習
- 第9回 読解問題攻略法 スキャニングの練習
- 第10回 短文穴埋め問題演習 総合問題
- 第11回 長文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第12回 読解問題 1つの文書 演習
- 第13回 読解問題 2つの文書 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985854

Score Goals in TOEIC Test Listening 500

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985717

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者: 柴山かつの

出版社: Jリサーチ出版

出版年: 2008

ISBN: 9784901429658

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <c>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 久保田 美佳		
テーマ	国際語としての英語を使うことに自信を持つ。	
授業の到達目標	・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。	
授業の概要	・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動	
準備学習(予習・復習)		
内 容	<p>第8回 前半の復習とまとめ</p> <p>第9回 Unit 4 (C) 日課について話す。</p> <p>第10回 Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。</p> <p>第11回 Unit 5 (C) 余暇活動について話す。</p> <p>第12回 Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。</p> <p>第13回 Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。</p> <p>第14回 Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。</p> <p>第15回 後半の復習とまとめ</p> <p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。</p> <p>第3回 Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。</p> <p>第4回 Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。</p> <p>第5回 Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。</p> <p>第6回 Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。</p> <p>第7回 Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN:</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (20) 小テスト (60)</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICのリーディングパートに対応できる文法力と語彙力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEIC Part 5 で問われる文法事項を順に学習し、Part 5, Part 6 に対応できる、語彙力、文法力を定着させていきます。書き込み式テキストで着実に基礎固めを行います。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしていくことが必要です。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICのリーディングパートの実践演習を行います。

準備学習(予習・復習)

Quizletを活用して単語テストの準備をしていくこと。(毎回1時間程度の学習が必要です。)復習としてその日に学習した問題文を暗唱すること。

内 容

- 第1回 Course Introduction, TOEICの概要
- 第2回 Day 1&2 主語の一致、品詞
- 第3回 Day 3&4 修飾、代名詞
- 第4回 Day 5&6 時制
- 第5回 Day 7&8 接続詞
- 第6回 Day 9&10 前置詞、態
- 第7回 Day 11&12 動名詞、不定詞
- 第8回 Day 13&14 使役動詞 自動詞・他動詞
- 第9回 Day 15&16 比較
- 第10回 Day 17&18 関係詞
- 第11回 Day19&20 仮定法、分詞
- 第12回 実践演習 (1)
- 第13回 実践演習 (2)
- 第14回 実践演習 (3)
- 第15回 実践演習 (4)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。辞書を持っていくこと。音読やペアワークに積極的に取り組んでください。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Test Grammar Target 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011

ISBN: 9784342553066

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <e>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 短文穴埋め問題攻略法 語彙問題
- 第3回 長文穴埋め問題攻略法 イディオム問題
- 第4回 読解問題攻略法 1つの文書
- 第5回 読解問題攻略法 2つの文書
- 第6回 短文穴埋め問題攻略法 文法問題
- 第7回 長文穴埋め問題攻略法 文脈をとらえる
- 第8回 読解問題攻略法 スキミングの練習
- 第9回 読解問題攻略法 スキャニングの練習
- 第10回 短文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第11回 長文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第12回 読解問題 1つの文書 演習
- 第13回 読解問題 2つの文書 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 400

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985711

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985841

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者: 柴山かつの

出版社: Jリサーチ出版

出版年: 2008

ISBN: 9784901429658

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描く

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <h>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <i>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 原 俊樹	
テーマ 国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標 ・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。	
授業の概要 ・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する) 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る) 第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る) 第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する) 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する) 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る) 第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く 第15回 後半の復習とまとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書 Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777 参考書	
成績評価 試験 (50%) 小テスト (20%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (10%)	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <j>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	弥永 啓子	
テーマ	プロジェクトとプレゼンテーションを通して、英語で発信することに自信を持つ	
授業の到達目標	<p>・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける</p>	
授業の概要	<p>学生はグループでプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。授業では学生のリサーチと発表のための原稿やスライドの作成を容易にする様々な項目を取り上げる。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備</p>	
内 容	<p>第1回 自己紹介、オンライン辞書の活用方法を学ぶ 第2回 英語で自分の好きなことについて話す、オンライン辞書の活用方法を学ぶ 第3回 インターネットでいくつかの関心事について調べてみる、検索エンジンの活用 第4回 テーマを決める、グループでテーマに関するアイデアを出し合う、情報収集を開始する 第5回 情報収集と意見交換 第6回 情報収集と意見交換 第7回 情報収集と意見交換 第8回 プレゼンテーションの構成を考える 第9回 プレゼンテーションの原稿を作成する、ワードで校閲する 第10回 プレゼンテーションのスライドを試作する 第11回 プレゼンテーションの練習をする、グループ内でプレゼンテーションをする、フィードバックにより内容の修正を検討する 第12回 内容を修正する、最終原稿とスライドを完成する 第13回 質疑応答に備える 第14回 最終プレゼンテーション 第15回 最終プレゼンテーション、振り返り</p>	
履修上の注意点	<p>3分の2以上の出席を最低限の条件とするが、個人の欠席は所属グループ全体に影響することをよく認識しておくこと。</p>	
教科書	<p>Speaking in Public 著者: Miyako Nakata, John Pak 出版社: Seibido 出版年: 2009 ISBN: 9784791910816</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (15%) 授業中課題 (35%) 授業中発表等 (35%) 参加度 (15%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <k>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
- 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
- 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する
- 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
- 第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
- 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
- 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
- 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
- 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
- 第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (25)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I A <I>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

指示のあった予習、復習を必ず行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 (D): Reading 「Families around the world」(Speaking & Writing) 世界の国々の家族を比較する
- 第3回 Unit 1 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
- 第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する
- 第5回 Unit 2 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
- 第6回 Unit 3 (D): (Reading) TED TALKS: Kent Larson: Brilliant Designs to Fit Nore People in Every City
- 第7回 Unit 3 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す
- 第10回 Unit 4 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」
- 第11回 Unit 5 (D): (Reading) TED TALKS: Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature
- 第12回 Unit 5 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」
- 第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey – A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する
- 第14回 Unit 6 (E): (総合)ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者:

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2014

ISBN:

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度には出席も含まれます。授業中課題と発表は同義と考え合わせて30%とします。

2015 Syllabus

科目名 **英語 I A <m>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	フォスター ヘンリー	
テーマ	Research and communicate about various topics	
授業の到達目標	This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.	
授業の概要	The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I B.	
準備学習(予習・復習)	You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.	
内 容	<p>第1回 Introduction; using the site & logging vocabulary</p> <p>第2回 Model autobiographies (blog)</p> <p>第3回 Vocabulary test; Choosing a theme & planning your project</p> <p>第4回 Composing your blog entry</p> <p>第5回 Vocabulary test; editing your blog entry</p> <p>第6回 Making your Powerpoint</p> <p>第7回 Vocabulary test; recording your script</p> <p>第8回 Viewing classmates' projects and giving feedback</p> <p>第9回 Vocabulary test; model wikis</p> <p>第10回 Researching your topic</p> <p>第11回 Vocabulary test; composing your wiki</p> <p>第12回 Editing your wiki</p> <p>第13回 Vocabulary test; Planning your presentation</p> <p>第14回 Making your presentation</p> <p>第15回 Vocabulary test; Group presentations</p>	
履修上の注意点	To pass the course, you must attend at least 11 classes.	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p>	
成績評価	<p>試験 () 小テスト (25)</p> <p>授業中課題 (50) 授業中発表等 (25)</p> <p>参加度 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <n>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

Quizletを使って単語テストの準備をする(1時間程度)。日頃からスマホやPCなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <○>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定

担当者 占部 幹也

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで 사용할ことができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading, Reading, Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効果的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。

Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them
- 第3回 Unit1 電流を流した金属で復活するサンゴ礁-インドネシア発
- 第4回 Unit2 "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source
- 第5回 Unit2 食糧難を救うじゃがいも-ペルー発
- 第6回 Unit3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
- 第7回 Unit3 オフィスに氷の塊を置いて夏の省エネ-アメリカ発
- 第8回 Unit4 Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
- 第9回 Unit4 運動がアルツハイマー予防に効果-イギリス発
- 第10回 Unit5 Egyptians Look Desert for Hot Residential Property
- 第11回 Unit5 サハラ砂漠を緑化して、増える人口に土地を確保-エジプト発
- 第12回 Unit6 College Students Feel Better After Screaming Together
- 第13回 Unit6 テスト勉強中のストレス、叫んで解消-アメリカ発
- 第14回 Unit7 Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Hearing Our World

著者: 小笠原真司 Pino Cutron

出版社: 南雲堂

出版年: 2010

ISBN: 9784523176473

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <p>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ジェームス ディーグル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1a – Explorers (個人情報を聞き取り、交換する)</p> <p>第3回 Unit 1b – A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)</p> <p>第4回 Unit 2a – My possessions (持ち物について話す・聞く)</p> <p>第5回 Unit 2b – At home (部屋を描写する)</p> <p>第6回 Unit 3a: – No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)</p> <p>第7回 Unit 3b – Working under the sea (仕事について聞く・話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4a – 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)</p> <p>第10回 Unit 4b – Free time at work (日課について読む・話す)</p> <p>第11回 Unit 5a – Famous for food (食べ物について聞く・話す)</p> <p>第12回 Unit 5b – Food markets (買い物と量について読む・話す)</p> <p>第13回 Unit 6a – The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)</p> <p>第14回 Unit 6b – Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト (20)
授業中課題 (25)	授業中発表等 (25)
参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <q>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。
 第3回 Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。
 第4回 Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。
 第5回 Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。
 第6回 Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。
 第7回 Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 4 (C) 日課について話す。
 第10回 Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。
 第11回 Unit 5 (C) 余暇活動について話す。
 第12回 Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。
 第13回 Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。
 第14回 Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <r>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	弥永 啓子	
テーマ	プロジェクトとプレゼンテーションを通して、英語で発信することに自信を持つ	
授業の到達目標	<p>・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける</p>	
授業の概要	<p>学生はグループでプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。授業では学生のリサーチと発表のための原稿やスライドの作成を容易にする様々な項目を取り上げる。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備</p>	
内 容	<p>第1回 自己紹介、オンライン辞書の活用方法を学ぶ 第2回 英語で自分の好きなことについて話す、オンライン辞書の活用方法を学ぶ 第3回 インターネットでいくつかの関心事について調べてみる、検索エンジンの活用 第4回 テーマを決める、グループでテーマに関するアイデアを出し合う、情報収集を開始する 第5回 情報収集と意見交換 第6回 情報収集と意見交換 第7回 情報収集と意見交換 第8回 プレゼンテーションの構成を考える 第9回 プレゼンテーションの原稿を作成する、ワードで校閲する 第10回 プレゼンテーションのスライドを試作する 第11回 プレゼンテーションの練習をする、グループ内でプレゼンテーションをする、フィードバックにより内容の修正を検討する 第12回 内容を修正する、最終原稿とスライドを完成する 第13回 質疑応答に備える 第14回 最終プレゼンテーション 第15回 最終プレゼンテーション、振り返り</p>	
履修上の注意点	<p>3分の2以上の出席を最低限の条件とするが、個人の欠席は所属グループ全体に影響することをよく認識しておくこと。</p>	
教科書	<p>Speaking in Public 著者: Miyako Nakata, John Pak 出版社: Seibido 出版年: 2009 ISBN: 9784791910816</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (15%) 授業中課題 (35%) 授業中発表等 (35%) 参加度 (15%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <s>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

読解問題については、事前にわからない単語や熟語の意味を調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <t>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描く

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く

第14回 Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <u>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	

担当者 原 俊樹

テーマ

ーコミュニケーションの道具としての英語を身につけるー

授業の到達目標

基本的な英文の解釈(読解・聴解)や表現(作文・発話)を通して、また日本語・英語双方の表現方法の違いや文法的理解を「感性」ではなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須となる「伝達的手段としての英語」に必要な4技能の幅広い実践的な運用能力を習得することを目的とする。同時に医療従事者(co-medical)として専門課程で学ぶ知識への橋渡しになることを望んでいる。

授業の概要

基本的には、テキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意する。授業スケジュールは一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。

準備学習(予習・復習)

基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。

内 容

- 第1回 講義内容・テキストの利用法の説明、基礎力判定テスト
- 第2回 フォニックス(アルファベットや単語の発音)英文の基本表現構造①:述語動詞と態(能動態と受動態)
- 第3回 英文の基本表現構造②:述語動詞と時制1
- 第4回 英文の基本表現構造③:述語動詞と時制2
- 第5回 英文の基本表現構造④:基本5文型(自動詞と他動詞)
- 第6回 英文の基本表現構造⑤:文の要素・修飾語句・語の品詞
- 第7回 準動詞の用法①:不定詞
- 第8回 準動詞の用法②:動名詞
- 第9回 準動詞の用法3:分詞
- 第10回 冠詞・名詞・代名詞
- 第11回 形容詞・副詞
- 第12回 前置詞と句
- 第13回 接続詞と節
- 第14回 関係詞
- 第15回 前期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation

著者: Maki Inoue/Toshiya Sato

出版社: MACMILLANLANGUAGEHOUSE

出版年: 2005

ISBN: 9784777360369

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

個人成績表を持たせるつもりです。

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <v>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit1 Colds,Flu and Folk Advice
- 第3回 Unit1 かぜ、インフルエンザ、その伝統療法の検証
- 第4回 Unit2 Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection
- 第5回 Unit2 マスクの着用で呼吸器系伝染病から身を守る
- 第6回 Useful Expressions1: Making an Appointment
- 第7回 Unit3 Drinking Beer Could Provide Health Benefits
- 第8回 Unit3 ビールと健康面の新たな追求
- 第9回 Unit4 Alcohol,the 'Asian Flush'and the Risk of Cancer
- 第10回 Unit4 アルコールと発ガンのリスク
- 第11回 Useful Expressions2: Forms,Medical History and Building
- 第12回 Unit5 Cancer May Soon Be World's Leading killer
- 第13回 Unit5 ガンはやがて世界の子音のトップに
- 第14回 Unit6 Insomnia不眠症 Useful Expressions3: Pains and Sensations
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Coregiver

著者： 近藤進 Gerald R.Gordon

出版社： 朝日出版社

出版年： 2010

ISBN: 9784255154893

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <w>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I B.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Introduction; using the site & logging vocabulary
- 第2回 Model autobiographies (blog)
- 第3回 Vocabulary test; Choosing a theme & planning your project
- 第4回 Composing your blog entry
- 第5回 Vocabulary test; editing your blog entry
- 第6回 Making your Powerpoint
- 第7回 Vocabulary test; recording your script
- 第8回 Viewing classmates' projects and giving feedback
- 第9回 Vocabulary test; model wikis
- 第10回 Researching your topic
- 第11回 Vocabulary test; composing your wiki
- 第12回 Editing your wiki
- 第13回 Vocabulary test; Planning your presentation
- 第14回 Making your presentation
- 第15回 Vocabulary test; Group presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (25)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (25)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **英語 I A <y>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

指示のあった予習、復習を必ず行うこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit1 (D): (Reading) 「Families around the world」(Speaking & Writing) 世界の国々の家族を比較する

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) TED TALKS: Kent Larson: Brilliant Designs to Fit Nore People in Every City

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) TED TALKS: Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者:

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度には出席も含まれます。授業中課題と発表は同義と考え合わせて30%とします。

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <z>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (25)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報を読み取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える

第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」

第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する

第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」

第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する

第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す

第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」

第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する

第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Zoo Dentists」

第13回 Unit 6 (D): (Reading) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する

第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I A <Hc>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 榎本 一美		
テーマ 英語リーディング		
授業の到達目標	速く正確に深く内容を把握するためにスキミング、スキヤニング、クリティカル・シンキングや言い換えといった、リーディングに不可欠なストラテジーを身につける。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。	
授業の概要	テキストを中心に行う。リーディングのクラスであるが、文法、リスニング、スピーキング、ライティングも行う。	
準備学習(予習・復習)	復習と宿題を必ずする。語彙を増やす。	
内 容	<p>第1回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken? 第2回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken? 第3回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken? 第4回 Chapter4 Languages: Is It Always Spoken? 第5回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System 第6回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System 第7回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System 第8回 Chapter7 Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System 第9回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 第10回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 第11回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 第12回 Chapter 11 Medical Technology: Saving Lives with Robotics 第13回 復習 第14回 復習 第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	積極的な授業参加を心がける。宿題、小テスト、期末テストは必ずこなす。	
教科書	<p>Issues for Today 著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare 出版社: HEINLE CENGAGE Learning 出版年: ISBN: 1-111-03357-6</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (10) 参加度 (10)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <R>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	

担当者 杉山 泰

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる―日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

授業の到達目標

「日本人記者が捕まった」をThe Japanese journalist was arrested.とするのはなぜなのか、「受身構文」が理解できないまま、英語が嫌いになった学生が多い。「原爆が落ちた」のではなく、An A-bomb was dropped.であり、「これください」はI'll take this.となる。「主語」が必要な英語と、なくても問題ない日本語の対照をしながら、外国語としての日本語文法と英語文法を楽しく学んでいく。

授業の概要

毎回、日英語を対照しながら、基礎英語を学び、1枚のプリントを仕上げてもらおう。各自、教科書と(電子)辞書を持参しないとできないので、出席が重要となる。

準備学習(予習・復習)

NHKラジオの「基礎英語講座」などの利用を高く評価する。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 日英語の違い(I love you.のS+V+O構文と「君が好き」という形容詞構文)
 第2回 Lesson 2 「私」からの発想。(I have a good time.と「楽しい」)
 第3回 Lesson 3 「命令文」(On your mark. Get set. Go.主語がなければ命令文。
 第4回 Lesson 4 「be動詞」という曲者(1)(なぜ、I am illness.と言えないのか?)
 第5回 Lesson 5 「be動詞」という曲者(2)(なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.とは言えないのか?)
 第6回 Lesson 6 「未来」を示す英語(なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか?)
 第7回 Lesson 7 「不定詞」構文(I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.はどう違うのか?)
 第8回 Lesson 8 「現在完了形」構文(Have you eaten sushi? とDid you eat sushi?はどう違うのか?)
 第9回 Lesson 9 「能動態」と受動態(I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか?)
 第10回 Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文(Do / Does / Didの使い方がわかりますか?)
 第11回 Lesson 11 「動名詞」構文(I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る動詞はMegafepsです。
 第12回 Lesson 12 「比較級」構文(Which do you like better, white or red?-いつも比較級が使われる英語)
 第13回 Lesson 13 There is (are)構文(新聞に多用されるThere is「存在」構文。「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか?)
 第14回 Lesson 14 「仮定法」構文(原子力発電所事故が起こりえないのであれば、だからこそ起こった時のシミュレーションが必要なのです)
 第15回 Lesson 15 「て・に・を・は」と前置詞(日本文学の英訳はむずかしい?)

履修上の注意点

教科書

Discover English Grammar

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 岩波新書

出版年: 1999年

ISBN:

日本語教室

著者: 大野晋

出版社: 岩波新書

出版年: 2002年

ISBN:

日本語教のすすめ

著者： 鈴木孝夫

出版社：

出版年： 2009年

ISBN:

日本人なら必ず誤訳する英文

著者： 越前敏弥

出版社： ディスカバー携書

出版年： 2014年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

出席は大事だが、4回生などで出席ができなくても、教科書の問題を15回分提出すれば、遅れの出席として認めるので、まずは教科書の購入をしておくこと。

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <火1>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ 仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習) クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容 第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 第2回 // 第3回 // 第4回 // 第5回 // 第6回 // 第7回 // 第8回 // 第9回 // 第10回 // 第11回 // 第12回 // 第13回 // 第14回 // 第15回 //	
履修上の注意点 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <火2>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語 I A <火4>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (60%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別

担当者 占部 幹也

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 TOEIC リスニング問題 構成、リスニング訓練方法
- 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
- 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
- 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
- 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
- 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
- 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
- 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
- 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
- 第10回 写真描写問題 演習
- 第11回 応答問題 演習
- 第12回 会話問題 演習
- 第13回 説明文問題 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985854

Score Goals in TOEIC Test Listening 500

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985717

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者: 柴山かつの

出版社: Jリサーチ出版

出版年: 2008

ISBN: 9784901429658

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
- 第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
- 第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
- 第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
- 第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
- 第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
- 第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
- 第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す
- 第12回 Unit 5 (B) 買い物をする
- 第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
- 第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 溝部 芳子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の概要

TOEICリスニングの各パートごとに必要なスキルを確認した上で、リスニング練習を行う。英語の音の変化、リズムに慣れ、リスニングに多く出題される場面を理解するために必要な語彙を習得する。ディクテーション、音読、シャドーイングなどを行いながら、TOEIC頻出である日常生活やビジネスの場面での英語表現に少しずつ慣れて行くことを目標にする。

準備学習(予習・復習)

予習としてQuizletを活用して単語テストの準備をする(1時間程度)。復習として学習したところのCDを何度も聴き、シャドーイング練習をする。

内 容

- 第1回 Part 1 動作表現、人や物を指す表現
- 第2回 Part 1 位置・状態を表す表現
- 第3回 Part 2 疑問詞を使った疑問文、Yes/No 疑問文
- 第4回 Part 2 提案・依頼・申し込みの表現
- 第5回 Part 2 選択疑問詞とステートメント
- 第6回 Part 1 & 2 Review
- 第7回 Part 3 大意把握、店での会話
- 第8回 Part 3 電話での会話
- 第9回 Part 3 オフィスでの会話
- 第10回 Part 4 留守番電話のメッセージ
- 第11回 Part 4 スピーチ、アナウンスメント
- 第12回 Part 4 ガイドツアー、広告
- 第13回 Part 3 & 4 Review
- 第14回 実践演習(1)
- 第15回 実践演習(2)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。音読やペアワークに積極的に取り組んでください。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Test Listening Target 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011

ISBN: 978434255300-4

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
- 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
- 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
- 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
- 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
- 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
- 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
- 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
- 第10回 写真描写問題 演習
- 第11回 応答問題 演習
- 第12回 会話問題攻略法 演習
- 第13回 説明文問題 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 400

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985700

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985847

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者: 柴山かつの

出版社: Jリサーチ出版

出版年: 2008

ISBN: 9784901429658

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <g>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	ブライアンバスカギル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)	
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)	
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)	
準備学習(予習・復習)	If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.	
内 容	<p>第3回 Unit 1b – A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)</p> <p>第4回 Unit 2a – My possessions (持ち物について話す・聞く)</p> <p>第5回 Unit 2b – At home (部屋を描写する)</p> <p>第6回 Unit 3a: – No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)</p> <p>第7回 Unit 3b – Working under the sea (仕事について聞く・話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4a – 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)</p> <p>第10回 Unit 4b – Free time at work (日課について読む・話す)</p> <p>第11回 Unit 5a – Famous for food (食べ物について聞く・話す)</p> <p>第12回 Unit 5b – Food markets (買い物と量について読む・話す)</p> <p>第13回 Unit 6a – The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)</p> <p>第14回 Unit 6b – Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p> <p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1a – Explorers (個人情報聞き取り、交換する)</p>	
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。	
教科書	Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777	
参考書		
成績評価	試験 (30) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <h>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 スミス ジョン	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)This course will be taught in English.
準備学習(予習・復習)	Please do all the homework, preview and review the textbook.
内 容	第1回 Orientation (オリエンテーション) 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介) 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する) 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す) 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す) 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する) 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す) 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ) 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す) 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ) 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する) 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す) 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする) 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す) 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English IntroA, 著者: Matin Milner 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781285848563 World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305089518
参考書	
成績評価	試験 (30) 小テスト (10) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <i>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ソーン マーカス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a – Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b – A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a – My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b – At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a – No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b – Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a – 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b – Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a – Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b – Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a – The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b – Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition – , Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <j>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

典型的なプレゼンテーションを学ぶことで発信能力の基礎を身に着ける

授業の到達目標

・中級レベルのリスニング、読解能力を身に着ける・英語によるプレゼンテーションの基本を知る

授業の概要

英語 I-A で行うプロジェクトに基づくプレゼンテーションをより効果的に行えるよう、様々な話題に関するパブリック・スピーキングを聴き、読む。

準備学習(予習・復習)

毎回行う予習小テストの準備をしておくこと授業内で指示する復習の宿題を期限厳守で完了すること

内 容

- 第1回 オリエンテーション自己紹介(1)
- 第2回 自己紹介(2)
- 第3回 趣味について話す(1)
- 第4回 趣味について話す(2)
- 第5回 人について話す(1)
- 第6回 人について話す(2)
- 第7回 場所を紹介する(1)
- 第8回 場所を紹介する(2)
- 第9回 逸話を話す(1)
- 第10回 逸話を話す(2)
- 第11回 健康について話す(1)
- 第12回 健康について話す(2)
- 第13回 娯楽について話す(1)
- 第14回 娯楽について話す(2)
- 第15回 まとめと振り返り

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とする

教科書

Speaking in Public

著者: Miyako Nakata, John Pak

出版社: Seibido

出版年: 2009

ISBN: 9784791910816

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (65%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <k>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (25)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <I>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <m>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I A.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Life story interview; Using the grammar site
- 第2回 Model autobiographies (blog)
- 第3回 Composing your blog entry
- 第4回 Using the editing symbols
- 第5回 Model autobiographies (movie)
- 第6回 Presentation round-robin
- 第7回 Making your movie
- 第8回 World-changers: choosing a topic
- 第9回 Using the wikis
- 第10回 Researching your topic
- 第11回 Composing your wiki
- 第12回 Reading wikis & give feedback
- 第13回 Making your presentation
- 第14回 Presentation practice
- 第15回 Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (25)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (25)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <n>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 溝部 芳子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Quizletを使って単語テストの準備をする(1時間程度)。日頃からPCなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (10%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <○>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者 占部 幹也		
テーマ		
TOEIC対策を通した英語運用能力の向上		
授業の到達目標		
TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要		
<p>日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。</p>		
準備学習(予習・復習)		
<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>		
内 容		
第1回	Unit 1 Computers and Society (コンピューター社会)	
第2回	Unit 2 Business Transaction (ビジネス)	
第3回	Unit 3 At the Office (オフィス)	
第4回	Unit 4 Cars and Society (車社会)	
第5回	Unit 5 Eating and Drinking (食生活)	
第6回	Unit 6 Shopping (ショッピング)	
第7回	Unit 7 Entertainment (娯楽)	
第8回	Unit 8 Accidents & Crimes (事故・犯罪)	
第9回	Unit 9 Teaching & Learning (教育・学問)	
第10回	Unit 10 Medicine & Hospitals (医療・病院)	
第11回	Unit 11 Finance and Banks (金融・銀行)	
第12回	Unit 12 Economy and Industry (経済・産業)	
第13回	Unit 13 Geography and Travels (地理・旅行)	
第14回	Unit 14 Weather and Climate (気象・気候)	
第15回	総復習	
履修上の注意点		
教科書		
Total Strategy for the TOEIC Test		
著者: 石井隆之		
出版社: 成美堂		
出版年: 2006	ISBN: 9784791905539	
参考書		
成績評価		
試験 (30)	小テスト (20)	
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)	
参加度 (30)		
上記に加えて学期末英語テスト20%		

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <p>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (60%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <q>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 クーラン コーリ	
テーマ	Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)
授業の概要	・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.
準備学習(予習・復習)	Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える</p> <p>第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える</p> <p>第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す</p> <p>第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する</p> <p>第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す</p> <p>第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す</p> <p>第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する</p> <p>第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す</p> <p>第12回 Unit 5 (B) 買い物をする</p> <p>第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す</p> <p>第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9780521126151</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9780521126540</p>
参考書	
成績評価	<p>試験 (30) 小テスト (20)</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (30)</p> <p>Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.</p>

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <r>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

典型的なプレゼンテーションを学ぶことで発信能力の基礎を身に着ける

授業の到達目標

・中級レベルのリスニング、読解能力を身に着ける・英語によるプレゼンテーションの基本を知る

授業の概要

英語 I-A で行うプロジェクトに基づくプレゼンテーションをより効果的に行えるよう、様々な話題に関するパブリック・スピーキングを聴き、読む。

準備学習(予習・復習)

毎回行う予習小テストの準備をしておくこと授業内で指示する復習の宿題を期限厳守で完了すること

内 容

- 第1回 オリエンテーション自己紹介(1)
- 第2回 自己紹介(2)
- 第3回 趣味について話す(1)
- 第4回 趣味について話す(2)
- 第5回 人について話す(1)
- 第6回 人について話す(2)
- 第7回 場所を紹介する(1)
- 第8回 場所を紹介する(2)
- 第9回 逸話を話す(1)
- 第10回 逸話を話す(2)
- 第11回 健康について話す(1)
- 第12回 健康について話す(2)
- 第13回 娯楽について話す(1)
- 第14回 娯楽について話す(2)
- 第15回 まとめと振り返り

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とする

教科書

Speaking in Public

著者: Miyako Nakata, John Pak

出版社: Seibido

出版年: 2009

ISBN: 9784791910816

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (65%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <s>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 プライアンスカガイル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 1a – Explorers (個人情報を聞き取り、交換する)</p> <p>第3回 Unit 1b – A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)</p> <p>第4回 Unit 2a – My possessions (持ち物について話す・聞く)</p> <p>第5回 Unit 2b – At home (部屋を描写する)</p> <p>第6回 Unit 3a: – No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)</p> <p>第7回 Unit 3b – Working under the sea (仕事について聞く・話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 4a – 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)</p> <p>第10回 Unit 4b – Free time at work (日課について読む・話す)</p> <p>第11回 Unit 5a – Famous for food (食べ物について聞く・話す)</p> <p>第12回 Unit 5b – Food markets (買い物と量について読む・話す)</p> <p>第13回 Unit 6a – The face of money (過去の人物につて読む・書く・話す)</p> <p>第14回 Unit 6b – Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777
参考書	
成績評価	試験 (30) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <t>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <u>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 ソーソン マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Introductions 第2回 Journal notebook, week one – Story Research 第3回 Week 2 Story Characters 第4回 Episode 3 Monsters – New words 第5回 ,Journal week 4 Quiz – Morning After 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Natural pronunciation practice 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher 第9回 Journals week 8 – Story Summary 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Favorite Actor Report – Presentation 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 (40) 授業中課題 (15) 参加度 (15)	小テスト (15) 授業中発表等 (15)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <v>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者 高居 佐紀		
テーマ		
TOEIC対策を通した英語運用能力の向上		
授業の到達目標		
TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要		
<p>日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。</p>		
準備学習(予習・復習)		
<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>		
内 容		
第1回 Unit 1 Eating Out 文の構造		
第2回 Unit 2 Amusement 名詞 I : 名詞・代名詞		
第3回 Unit 3 Daily Life 名詞 II : 加算/不可算名詞		
第4回 Unit 4 Directions 形容詞・副詞		
第5回 Unit 5 Travel 動詞・助動詞		
第6回 Unit 6 Advertising 時制		
第7回 Unit 7 Personnel イディオム I		
第8回 Unit 8 Purchases 一致		
第9回 Unit 9 Office Work 分詞・動名詞・不定詞		
第10回 Unit 10 Employment 関係詞		
第11回 Unit 11 Business 接続詞・前置詞		
第12回 Unit 12 Finance & Banking 特殊構文		
第13回 Unit 13 Health & Welfare 比較		
第14回 Unit 14 Computers & The Internet 仮定法	Unit 15 Media	イディオム II
第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書		
Power Charge for the TOEIC Test		
著者: 西田晴美 Brian Covert		
出版社: 金星堂		
出版年: 2009	ISBN: 9784764738744	
参考書		
成績評価		
試験 (30)	小テスト (20)	
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)	
参加度 (30)		
上記に加えて学期末英語テスト20%		

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <w>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I A.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Life story interview; Using the grammar site
- 第2回 Model autobiographies (blog)
- 第3回 Composing your blog entry
- 第4回 Using the editing symbols
- 第5回 Model autobiographies (movie)
- 第6回 Presentation round-robin
- 第7回 Making your movie
- 第8回 World-changers: choosing a topic
- 第9回 Using the wikis
- 第10回 Researching your topic
- 第11回 Composing your wiki
- 第12回 Reading wikis & give feedback
- 第13回 Making your presentation
- 第14回 Presentation practice
- 第15回 Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (25)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (25)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <x>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 スミス ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English IntroA,

著者: Matin Milner

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781285848563

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <y>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 フリンハンナマイケル	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Do assigned homework, preveiw and reveiw textbook.
内 容	第1回 Orientation (オリエンテーション) 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介) 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する) 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す) 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す) 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する) 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す) 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ) 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す) 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ) 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する) 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す) 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする) 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す) 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305089518
参考書	
成績評価	試験 () 小テスト (55) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (45) Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <z>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 小川 享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。携帯を授業中に触った場合、成績から減点する。遅刻は30分までとする。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (25)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)

第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする

第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)

第5回 Unit 2 d, e: 物を描写する

第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)

第7回 Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)

第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く

第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)

第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する

第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)

第14回 Unit6d, e: リクエストをする 礼状を書く

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (60%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089518

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内 容

- 第1回 Introductions
- 第2回 Journal notebook, week one – Story Research
- 第3回 Week 2 Story Characters
- 第4回 Episode 3 Monsters – New words
- 第5回 ,Journal week 4 Quiz – Morning After
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Natural pronunciation practice
- 第8回 Episode7 Acting scene with students and Teacher
- 第9回 Journals week 8 – Story Summary
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Favorite Actor Report – Presentation
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues
- 第15回 Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (15)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

2015 Syllabus

科目名 英語 I B <R>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 杉山 泰	

テーマ

基礎英語 (Basic English)、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう。

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語(850語)で、日本文化を伝えることができる。Goだけでも、Rice goes with natto and fresh eggs.で立派な説明になるし、nattoもfermented(発酵した)を知らなくとも、traditional sticky beansで十分だろう。On your mark. Get set. Go.など子どもがいつも用いている基礎英語だ。こうした中学英語を徹底的に利用して、日本文化を伝えていく。

授業の概要

毎回教科書の問題をやっていく。90分間は作業をするので、毎回辞書を持っていくこと。毎回のプリント提出が重要になるので、欠席した学生は、かならず次回にそのプリントをもらい、遅れても提出する。プリントの提出が出席の条件となる。

準備学習(予習・復習)

NHKの基礎英語やテレビ英会話などをテレビで観賞してほしい。また、映画などにも興味を持ち、BBCのニュースを聞く習慣を持とう。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 一語、一文で英語は通じる。(No work, no money.のアジア式英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は?)
- 第2回 Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具(I am a mind reader.＝君の心が読めるんだ)
- 第3回 Lesson 3 動詞＋…ing＝(現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは?)
- 第4回 Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞(I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.)
- 第5回 Lesson 5 be動詞＋形容詞(I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.)
- 第6回 Lesson 6 InとOut(in controlとout of controlの違いは? 同じく、Get in my car.とGet out of the room.の違いは?)
- 第7回 Lesson 7 OnとOff(Is the switch on? No, It's off.)
- 第8回 Lesson 8 Have の構文(We had nothing to do with it.の構文)
- 第9回 Lesson 9 Comeの構文(Dinner is ready. I am coming.＝今行きます＝近づいていくニュアンス)
- 第10回 Lesson 10 Goの構文(Dinner is ready. I am going.＝用事があるから出かけます＝離れていくニュアンス)
- 第11回 Lesson 11 Takeの構文(I'll take this.＝これください)
- 第12回 Lesson 12 Putの構文(Don't put off till tomorrow what you can do today.)
- 第13回 Lesson 13 Giveの構文(魔法の杖のGiveとGet＝on / offやin / outを用いたイディオムの意味は?)
- 第14回 Lesson 14 Getの構文(8つの基礎動詞 go-come / keep-let / make / have / do / say等を使いこなそう)
- 第15回 Lesson 15 makeの構文(基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう)

履修上の注意点

教科書

Putting Common Verbs to Work

著者: 鳥飼慎一郎

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010年

ISBN:

参考書

英語の壁

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 中公新書

出版年: 2003年

ISBN:

日本語教のすすめ

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参加度（20）

毎回の出席と毎回の提出物を最大値重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する。教科書を中心にやるので、教科書の購入が必要。

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <金2>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 //</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語IB<金1>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 **英語 I B <金4>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 //</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス ディーグル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 占部 幹也

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 前期学習事項の確認
- 第2回 短文穴埋め問題攻略法 語彙問題
- 第3回 長文穴埋め問題攻略法 イディオム問題
- 第4回 読解問題攻略法 1つの文書
- 第5回 読解問題攻略法 2つの文書
- 第6回 短文穴埋め問題攻略法 文法問題
- 第7回 長文穴埋め問題攻略法 前後関係を見る
- 第8回 読解問題攻略法 スキミングの練習
- 第9回 読解問題攻略法 スキャニングの練習
- 第10回 短文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第11回 長文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第12回 読解問題 1つの文書 演習
- 第13回 読解問題 1つの文書 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 600

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985724

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 3

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985861

新TOEIC Test レベル判定模試

著者: 小山克明 David Rondeau

出版社: Z会

出版年: 2007

ISBN: 9784862900012

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。
 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。
 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。
 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICのリーディングパートに対応できる文法力、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

Part 5 で問われる文法項目を復習しつつ、Part 5の問題を数多く解く。またPart 6、Part 7の問題を解きながら、文章から必要な情報を効率よく読み取る訓練をする。単に問題を解くだけに終わらず、ペアワークなどを通じて、リーディングスキルの確認と定着を計る。単語テストや復習テストを随時行う。前半は基礎的な問題に取り組み、中盤以降では実践演習も行う。

準備学習(予習・復習)

予習として、Quizletを活用して一時間程度語彙学習をする。復習については授業内で指示をする。日頃から英語に触れる機会を増やし、情報を英語で取り込むことに慣れる。

内 容

- 第1回 Basics for Part 5 :形容詞と副詞
- 第2回 Basics for Part 5 :名詞と代名詞
- 第3回 Basics for Part 5: 現在・過去・未来
- 第4回 Basics for Part 5: 完了形
- 第5回 Basics for Part 5: 受動態
- 第6回 Basics for Part 5: to 不定詞
- 第7回 Basics for Part 5: 接続詞と前置詞
- 第8回 Basics for Part 6 : 文脈をつかむ
- 第9回 Basics for Part 7: Single Passages と Double Passages
- 第10回 Strategies for Part 5 : 総合問題
- 第11回 Strategies for Part 6: 語彙問題
- 第12回 Strategies for Part 7: スピーディに情報を読み取る
- 第13回 Mini Test (1)
- 第14回 Mini Test (2)
- 第15回 Review (Reading Skills, Vocabulary)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの問題を解くので集中力を持って授業に臨む。

教科書

Strategic Learning for the TOEIC Test

著者: 森田光宏他

出版社: 松柏社

出版年: 2015.4.

ISBN: 978488198-705-6

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <e>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) Part 5, 7
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) Part 6, 7
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) Part 5, 7
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) Part 6, 7
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) Part 5, 7
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) Part 5, 7 Review Test 1
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) Part 5, 7
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) Part 6, 7
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) Part 5, 7
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事) Part 5, 7
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務) Part 5, 7
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) Review Test 2
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST

著者: 安丸雅子 Malcolm Swanson

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9784764739192

新TOEIC Test レベル判定模試

著者: 小山克明 David Rondeau

出版社: Z会

出版年: 2007

ISBN: 9784862900012

はじめての新TOEICテスト本番模試

著者: 森川美貴子

出版社: 旺文社

出版年: 2009

ISBN: 9784010940969

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

aks201a355

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in SouthCentral L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <h>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ 国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。	
授業の到達目標 ・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。	
授業の概要 ・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動	
準備学習(予習・復習) 事前に英単語は調べておくこと。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」 第15回 後半の復習とまとめ	
履修上の注意点 3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。	
教科書 World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code 著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305089501	
参考書	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <i>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 原 俊樹

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (35%)

小テスト (15%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

個人成績表を持たせるつもりです。上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <j>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

授業の到達目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の概要

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

準備学習(予習・復習)

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

内 容

- 第1回 後期プロジェクトテーマを考える
- 第2回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第3回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第4回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第5回 マルチメディア資料を収集する
- 第6回 インタビューデータを収集する、アンケートを作成する
- 第7回 アンケート結果をまとめる
- 第8回 中間発表用原稿を作成する
- 第9回 中間発表、フィードバック
- 第10回 発表内容の修正、スライドの作成
- 第11回 最終原稿の作成、発表練習
- 第12回 最終プレゼンテーション(1)
- 第13回 最終プレゼンテーション(2)
- 第14回 最終プレゼンテーション(3)
- 第15回 スライドショーを作成する

履修上の注意点

教科書

プリント教材

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (30)

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <k>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 小川 享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (35)

小テスト (20)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA<I>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

指示のあった予習、復習は必ず行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer The Beautiful Game、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) TED TALKS "Ron Finley: Guerilla Gardener in South Central L.A."
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) TED TALKS "Derek Silvers: Keep Your Goals to Yourself"
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度には出席を含みます。授業中課題と発表は同義とし、併せて30%で成績を出します。上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <m>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡB.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Movie reviews: exploring the topic
- 第2回 Model movie reviews (blog entries)
- 第3回 Vocabulary test; Choosing a movie & researching
- 第4回 Composing your blog entry
- 第5回 Vocabulary test; Editing your blog entry
- 第6回 Model presentation
- 第7回 Vocabulary test; planning your Powerpoint
- 第8回 Movie review presentation round-robin
- 第9回 Vocabulary test; choosing a topic and planning your survey
- 第10回 Making your survey
- 第11回 Vocabulary test; Administer the surveys
- 第12回 Analyzing the responses & making graphs
- 第13回 Vocabulary test; Planning your Powerpoint
- 第14回 Making your powerpoint
- 第15回 Vocabulary test; Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <n>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 溝部 芳子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

Quizletを使って単語テストの準備をする(1時間程度)。日頃からWebなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (25%)

小テスト (10%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <○>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	占部 幹也	
テーマ	「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。	
授業の到達目標	<p>・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用する事ができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。</p>	
授業の概要	<p>Pre-reading, Reading, Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。</p> <p>Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。</p>	
内 容	<p>第1回 Unit8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales 第2回 Unit8 世界的な禁煙傾向、タバコ産業の将来は-キューバ発 第3回 Unit9 Global Warming Claiming Next Victim:Andes Water 第4回 Unit9 溶ける氷河におびやかされる人々の生活-ボリビア発 第5回 Unit10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies 第6回 Unit10 アボリジニの命の綱、伝統的な薬草医療-オーストラリア発 第7回 Unit11 African Farmers Seek Ways to Survive Droughts 第8回 Unit11 温暖化で干ばつ続き⇒早い、強い作物に栽培転換-ザンビア発 第9回 Unit12 Study:Fruity Cocktails May Be Good for Health 第10回 Unit12 フルーツカクテルで健康に？アルコールで抗酸化作用の効果アップか-アメリカ発 第11回 Unit13 Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate 第12回 Unit13 住民を国外へ追いやる海面上昇-モルディブ発 第13回 Unit14 Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating 第14回 Unit15 Planned Chinese City wants all Eco-Friendly Power 第15回 総復習</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>Healing Our World 著者： 小笠原 真司 Pino Cutrone 出版社： 南雲堂 出版年： 2010 ISBN: 9784523176473</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%</p>	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <p>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス ディーグル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <q>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。
 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。
 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。
 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <r>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 弥永 啓子

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

授業の到達目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の概要

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

準備学習(予習・復習)

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

内 容

- 第1回 後期プロジェクトテーマを考える
- 第2回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第3回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第4回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第5回 マルチメディア資料を収集する
- 第6回 インタビューデータを収集する、アンケートを作成する
- 第7回 アンケート結果をまとめる
- 第8回 中間発表用原稿を作成する
- 第9回 中間発表、フィードバック
- 第10回 発表内容の修正、スライドの作成
- 第11回 最終原稿の作成、発表練習
- 第12回 最終プレゼンテーション(1)
- 第13回 最終プレゼンテーション(2)
- 第14回 最終プレゼンテーション(3)
- 第15回 スライドショーを作成する

履修上の注意点

教科書

プリント教材

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (30)

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <s>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <t>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 田中 美和子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く

第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」

第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する

第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」

第6回 Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in SouthCentral L.A.、(Writing/Speaking) 食習慣について書く

第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す

第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」

第11回 Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る

第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」

第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く

第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <u>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ 英語を普段使いにしよう		
授業の到達目標 I Aと同様に基本的な英語の理解・表現に必要な語彙・文法的知識・語法を身につける。		
授業の概要 基本的にはテキストの各ユニットに沿って英語学習のための基礎力をつける。中学・高校で学んできたいわゆる「学校英文法」を今一度体系的に確認・拡充する。		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にやりこなすこと。		
内 容 第1回 テキスト前半部(I A範囲)の学習内容の整理と確認。基礎力判定テスト。 第2回 英文の基本表現の確認Ⅰ:英文の成り立ち・主語と述語動詞・態・時制。 第3回 英文の基本表現の確認Ⅱ:文の要素と5文型・修飾語句。 第4回 叙法の確認:命令法・直説法・仮定法 第5回 助動詞の用法1 第6回 助動詞の用法2 第7回 不定詞、動名詞と分詞 第8回 話法1 第9回 話法2 第10回 比較:構文と級変化 第11回 複雑な構造を持つ文の理解1:分詞構文 第12回 複雑な構造を持つ文の理解2:接続語句と重文・複文 第13回 否定:部分否定と全否定 第14回 疑問詞と疑問文 第15回 後期学習事項のまとめと確認		
履修上の注意点		
教科書 LIFESAVER Basic English in Medical Situation 著者: Maki Inoue/ Toshiya Sato 出版社: MACMILLANLANGUAGEHOUSE 出版年: 2005 ISBN: 9784777360369		
参考書		
成績評価 試験 (40%) 小テスト (10%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (10%) 上記に加えて学期末英語テスト20%		

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <v>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 unit7 The Mystery of Dreams and Dreaming
- 第2回 Unit7 夢のミステリー
- 第3回 Unit8 Headache
- 第4回 Unit8 頭痛
- 第5回 Useful Expressions4: Examination Language and General Exam Instructions
- 第6回 Unit9 Saving Preterm Babies with an idea from Nature
- 第7回 Unit9 カンガルーからヒントを得た未熟児看護法
- 第8回 Unit10 Looking for New Uses for spices in the Medical Lab
- 第9回 Unit10 スパイスの新たな医学的可能性
- 第10回 Useful Expressions5: Emergency Room
- 第11回 Unit11 Feeling No Pain: The World of Anesthesia
- 第12回 Unit11 麻酔の限界
- 第13回 Unit11 How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses
- 第14回 Unit11 自己免疫疾患・ループスの検証 Useful Expressions6: Medication
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Caregiver

著者: 近藤進 Gerald R.Gordon

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010

ISBN: 9784255154893

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <w>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡB.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Movie reviews: exploring the topic
- 第2回 Model movie reviews (blog entries)
- 第3回 Vocabulary test; Choosing a movie & researching
- 第4回 Composing your blog entry
- 第5回 Vocabulary test; Editing your blog entry
- 第6回 Model presentation
- 第7回 Vocabulary test; planning your Powerpoint
- 第8回 Movie review presentation round-robin
- 第9回 Vocabulary test; choosing a topic and planning your survey
- 第10回 Making your survey
- 第11回 Vocabulary test; Administer the surveys
- 第12回 Analyzing the responses & making graphs
- 第13回 Vocabulary test; Planning your Powerpoint
- 第14回 Making your powerpoint
- 第15回 Vocabulary test; Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <y>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

指示のあった予習、復習は必ず行うこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Soccer The Beautiful Game、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) TED TALKS "Ron Finley: Guerilla Gardener in South Central L.A."
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) TED TALKS "Derek Silvers: Keep Your Goals to Yourself"
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度には出席を含みます。授業中課題と発表は同義とし、併せて30%で成績を出します。上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA <z>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (35)

小テスト (20)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<Ha>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フォスター ヘンリー	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。
内 容	第1回 Orientation (オリエンテーション) 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す) 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する) 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する) 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す) 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す) 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す) 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ) 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す) 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く) 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す) 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる) 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する) 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する) 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。
教科書	Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777
参考書	
成績評価	試験 (40%) 小テスト (40%) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () 上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA<Hb>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習)

事前に英単語は調べておくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now, (Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food, (Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<Hc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 榎本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するためにスキミング、スキヤニング、クリティカル・シンキングや言い換えといった、リーディングに不可欠なストラテジーを身につける。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。

準備学習(予習・復習)

復習、課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内 容

- 第1回 Chapter 1
- 第2回 Chapter 2
- 第3回 Chapter 3
- 第4回 Chapter 4
- 第5回 復習
- 第6回 Chapter 5
- 第7回 Chapter 6
- 第8回 Chapter 7
- 第9回 Chapter 8
- 第10回 復習
- 第11回 Chapter 9
- 第12回 Chapter 10
- 第13回 Chapter 11
- 第14回 Chapter 12
- 第15回 復習

履修上の注意点

積極的に授業に参加する。復習、課題は必ずする。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<R>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	

担当者 杉山 泰

テーマ

Cultural Literacy(文化的基礎知識)を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことはだれも知っているが、「フリーター」だとか、「カンニング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今や日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎大学英文法を学んでいく。その際に、毎回提出物プリントがあるので、遅れても提出しないと、出席にはならない。

授業の概要

毎回は手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解き、応用の英作(時事英語と俵万智の短歌など)をやってもらう。

準備学習(予習・復習)

文化的基礎知識を学んでいくので、衣食住の文化の違い、縮んでいく文化・広がっていく文化、将棋・囲碁の文化など、文化の違いをやさしい英語で説明できるように日頃からチェックしてもらう。

内 容

第1回 自己紹介。(I am Sugiyama Yasushi.とはっきりと自己アピールしてもらう)

第2回 Lesson 1 アルファベットの不思議(パスポートのサインを筆記体で書く)

第3回 Lesson 2 I have no problem in ...ing構文による英訳の実践。

第4回 Lesson 3 The sooner, the better.の比較級構文の英訳の実践。

第5回 Lesson 4 時制(現在・過去・未来)のない日本語の英訳実践。

第6回 Lesson 5 不定詞(未来志向のニュアンスを学ぶ)の英訳実践。

第7回 Lesson 6 受動態(主語が必要な英語)の英訳実践。

第8回 Lesson 7 関係代名詞(後ろから修飾する英語)の英訳実践。

第9回 Lesson 8 仮定法(シュミレーションが不得意な日本人)

第10回 Lesson 9 現在完了形(日本食の英語)

第11回 Lesson 10 It is easy ...to ...構文(There is構文)

第12回 Lesson 11 現在進行形

第13回 Lesson 12 形容詞(英詩の実践、英語の俳句)の実践。

第14回 Lesson 13 分詞構文(俵万智の短歌)の英訳の実践。

第15回 Lesson 14 これまで訳してきた短歌の英訳、作ってきた英詩をまとめ、最後に英語での履歴書を作成してもらう。

履修上の注意点

教科書

Do You Know This?

著者: 杉山泰編

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門

著者: コリン・ジョイス

出版社: NHK出版新書

出版年: 2011年

ISBN:

日本語は敬語があって主語がない

著者: 金谷武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%毎回作業をやるので、欠席した学生は自宅で必ず教科書をやり、毎回提出させるプリントを遅れても提出すれば、遅れの出席として評価する。

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡA<火1>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 //</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<火2>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡA<火4>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別

担当者 占部 幹也

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第11回 応答問題 演習
- 第12回 会話問題 演習
- 第13回 説明文問題 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習
- 第1回 前期学習事項の確認
- 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
- 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
- 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
- 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
- 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
- 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
- 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
- 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
- 第10回 写真描写問題 演習

履修上の注意点

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 600

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985724

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 3

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007

ISBN: 9784881985861

新TOEIC Test レベル判定模試

著者: 小山克明 David Rondeau

出版社: Z会

出版年: 2007

ISBN: 9784862900012

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <c>**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定 到達度別

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

準備学習(予習・復習)

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する
- 第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
- 第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
- 第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
- 第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる
- 第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す
- 第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
- 第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
- 第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する
- 第13回 Unit 12 (A) 予定について話す
- 第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

上記に加えて学期末英語テスト20% In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 溝部 芳子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の概要

TOEICリスニングに必要なスキルを整理しつつ、Part 1から4の問題演習を行っていく。またTOEIC頻出の日常生活やビジネスの場面で必要な語彙を学習してから、それを応用するTOEICリスニングの問題に取り組む。グループワークも取り入れた活気のある授業を目指す。中盤以降では総合的な演習を行う。また随時確認テストを行う。

準備学習(予習・復習)

予習として、一時間程度Quizletを活用して語彙学習をする。Self Study Audio をダウンロードして復習リスニングを30分程度行う。日頃から英語に触れる機会を増やし、情報を英語で取り込むことに慣れる。

内 容

- 第1回 Basics for Part 1 Key Word を聞き取る
- 第2回 Basics for Part 2 WH疑問文と応答
- 第3回 Basics for Part 2 Yes/No 疑問文と応答
- 第4回 Basics for Part 3 場面を理解する
- 第5回 Basics for Part 4 留守電メッセージ
- 第6回 Mini Test (1)
- 第7回 Strategies for Part 1 人物のいる写真と風景
- 第8回 Strategies for Part 2 スピーディに答えを選ぶ
- 第9回 Strategies for Part 3 質問の先読み
- 第10回 Strategies for Part 4 質問のキーワード
- 第11回 Mini Test (2)
- 第12回 実践演習 (1)
- 第13回 実践演習 (2)
- 第14回 実践演習 (3)
- 第15回 Review (Listening Skills, Vocabulary)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。毎回大量の英語を聞くので集中力を持って授業に臨むこと。

教科書

Strategic Learning for the TOEIC Test

著者: 森田光宏

出版社: 松柏社

出版年: 2015.4

ISBN: 978488198-705-6

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) Part 1, 2

第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) Part 1, 3

第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) Part 1, 4

第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) Part 1, 2

第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) Part 1, 3

第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) Part 1, 4 Review Test 1

第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) Part 1, 2

第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) Part 1, 3

第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) Part 1, 4

第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事) Part 1, 2

第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務) Part 1, 3

第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) Part 1, 4 Review Test 2

第14回 模擬試験 解答・解説

第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST

著者: 安丸雅子 Malcolm Swanson

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9784764739192

新TOEIC Test レベル判定模試

著者: 小山克明 David Rondeau

出版社: Z会

出版年: 2007

ISBN: 9784862900012

はじめての新TOEICテスト本番模試

著者: 森川美貴子

出版社: 旺文社

出版年: 2009

ISBN: 9784010940969

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

aks201a455

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 プライアンスガイル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <h>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 スミス ジョン	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで利用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)
準備学習(予習・復習)	Please do all the homework, preview and review the textbook.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)</p> <p>第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)</p> <p>第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)</p> <p>第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)</p> <p>第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)</p> <p>第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)</p> <p>第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)</p> <p>第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)</p> <p>第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)</p> <p>第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)</p> <p>第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	World English IntroB, 著者: Martin Milner 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781285848570
参考書	
成績評価	試験 (30) 小テスト (10) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<i>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 ソーン マーカス	
テーマ	Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)
授業の概要	・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English
準備学習(予習・復習)	Preview next lesson before each class and extra for tests.
内 容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)</p> <p>第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)</p> <p>第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)</p> <p>第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)</p> <p>第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)</p> <p>第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)</p> <p>第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)</p> <p>第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)</p> <p>第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)</p> <p>第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)</p> <p>第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を必要とします。
教科書	Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only 著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson 出版社: Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305255777
参考書	
成績評価	試験 (20) 小テスト (0) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (0) 参加度 (40) 上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <j>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

情報提供型、説得型スピーチ

授業の到達目標

・ 読むために必要な高校文法を復習し理解する・ 世界の社会・文化的背景に関する知識を深める・ 様々な社会問題を扱った英文を読むことに慣れる

授業の概要

英語Ⅱ-Aで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションの内容を深めるために、様々な話題に関するプレゼンテーション・スピーチ原稿を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

準備学習(予習・復習)

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。各ユニットの復習宿題を期限通りに提出すること。

内 容

- 第1回 前期復習と後期オリエンテーション
- 第2回 世界を旅する(1)
- 第3回 世界を旅する(2)
- 第4回 世界を旅する(3)
- 第5回 Doing a Little Research (1)
- 第6回 Doing a Little Research (2)
- 第7回 Causes and Effects (高齢化社会)(1)
- 第8回 Causes and Effects (高齢化社会)(2)
- 第9回 Problems and Solutions (いじめ問題)(1)
- 第10回 Problems and Solutions (いじめ問題)(2)
- 第11回 Persuasive Speech (死刑制度)(1)
- 第12回 Persuasive Speech (死刑制度)(2)
- 第13回 Persuasive Speech (原子力エネルギー)(1)
- 第14回 Persuasive Speech (原子力エネルギー)(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

Speaking in Public (前期使用のものを継続使用)

著者: Miyako Nakata, John Pak

出版社: Seibido

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (45)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <k>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (35)

小テスト (20)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<I>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review homework.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (35)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <m>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡA.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Movie reviews: exploring the topic
- 第2回 Model movie reviews (blog entries)
- 第3回 Choosing a movie & researching
- 第4回 Composing your blog entry
- 第5回 Reading movie reviews & giving feedback
- 第6回 Presentation techniques
- 第7回 Making your Powerpoint
- 第8回 The Survey project: exploring the topic
- 第9回 Making your survey
- 第10回 Administer the surveys
- 第11回 Analyzing the responses & making graphs
- 第12回 Planning your powerpoint
- 第13回 Making your powerpoint
- 第14回 Round-robin presentation practice
- 第15回 Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <n>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 溝部 芳子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Quizletを使って単語テストの準備をする(1時間程度)。日頃からWebなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (25%)

小テスト (10%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <0>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 40

履修条件 クラス指定 到達度別

担当者 占部 幹也

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Unit 1 Entertainment 映画や音楽などの娯楽
- 第2回 Unit 2 Personnel 求人広告や社内人事
- 第3回 Unit 3 Office Work & Supplies オフィス業務や備品など
- 第4回 Unit 4 Office Messages 電話やEメールなどのオフィスメッセージ
- 第5回 Unit 5 Eating Out ランチやパーティーなどの外食
- 第6回 Unit 6 Technology コンピューターなどの化学技術
- 第7回 Unit 7 Research & Merchandise Development 調査研究や商品開発
- 第8回 Unit 8 Finance & Budgets 銀行業務や経理などの財務
- 第9回 Unit 9 Purchases ショッピングや注文・出荷など
- 第10回 Unit 10 Manufacturing 工場管理や生産ラインなどの製造
- 第11回 Unit 11 Marketing & Sales マーケティングや販売
- 第12回 Unit 12 Travel 交通機関や旅行関連
- 第13回 Unit 13 Contracts & Negotiations 契約や交渉など
- 第14回 Unit 14 Housing & Properties 住宅やビルなどの不動産 Unit 15 Health 医療や健康
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者: 塚野壽一 Rovert VanBenthuyesen

出版社: 成美堂

出版年: 2007

ISBN: 9784791910465

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <p>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <q>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 クーラン コーリ	
テーマ	Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)
授業の到達目標	Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)
授業の概要	・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English
準備学習(予習・復習)	Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.
内容	<p>第1回 Orientation (オリエンテーション)</p> <p>第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する</p> <p>第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる</p> <p>第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する</p> <p>第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる</p> <p>第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる</p> <p>第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う</p> <p>第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)</p> <p>第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す</p> <p>第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す</p> <p>第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する</p> <p>第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する</p> <p>第13回 Unit 12 (A) 予定について話す</p> <p>第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る</p> <p>第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)</p>
履修上の注意点	**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **In this semester, performance in class counts as much as in-class tests and quizzes. **20% of your final grade will be determined by an English test given by the university.
教科書	<p>Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9780521126151</p> <p>Four Corners, 1, Workbook</p> <p>著者: Jack C. Richards, David Bohlke</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>出版年: 2013 ISBN: 9780521126540</p>
参考書	
成績評価	
試験 (20)	小テスト (20)
授業中課題 ()	授業中発表等 (20)
参加度 (20)	

上記に加えて学期末英語テスト20%

In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <r>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

情報提供型、説得型スピーチ

授業の到達目標

・読むために必要な高校文法を復習し理解する・世界の社会・文化的背景に関する知識を深める・様々な社会問題を扱った英文を読むことに慣れる

授業の概要

英語Ⅱ-Aで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションの内容を深めるために、様々な話題に関するプレゼンテーション・スピーチ原稿を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

準備学習(予習・復習)

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。各ユニットの復習宿題を期限通りに提出すること。

内 容

- 第1回 前期復習と後期オリエンテーション
- 第2回 世界を旅する(1)
- 第3回 世界を旅する(2)
- 第4回 世界を旅する(3)
- 第5回 Doing a Little Research (1)
- 第6回 Doing a Little Research (2)
- 第7回 Causes and Effects (高齢化社会)(1)
- 第8回 Causes and Effects (高齢化社会)(2)
- 第9回 Problems and Solutions (いじめ問題)(1)
- 第10回 Problems and Solutions (いじめ問題)(2)
- 第11回 Persuasive Speech (死刑制度)(1)
- 第12回 Persuasive Speech (死刑制度)(2)
- 第13回 Persuasive Speech (原子力エネルギー)(1)
- 第14回 Persuasive Speech (原子力エネルギー)(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

Speaking in Public (前期使用のものを継続使用)

著者: Miyako Nakata, John Pak

出版社: Seibido

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (45)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<s>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 プライアンスガイル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <t>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文(英文)を読んで、出席しましょう。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <u>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 ソーソン マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Summer Holiday – Story Review 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention 第3回 Story Summary Q and A 第4回 Episode 14 Blinddate 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Independence Day – Acting scene 第8回 Journals week 7 Story Summary 第9回 Acting – New Girl Scene 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Episode 19 Four Square 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: 参考書	ISBN:
成績評価 試験 (40%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト (10%) 授業中発表等 (10%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <v>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内 容

- 第1回 Chapter 1 人物の動作、状態
- 第2回 Chapter 2 名詞の数え方
- 第3回 Chapter 3 5W1H の疑問文
- 第4回 Chapter 4 書き手と読み手の推測
- 第5回 Chapter 5 話し手と聞き手の推測
- 第6回 Chapter 6 名詞をつくる接頭辞
- 第7回 Chapter 7 周辺の状況
- 第8回 Chapter 8 読み手の次の行動を予測
- 第9回 Chapter 9 依頼の文に対する適切な答え
- 第10回 Chapter 10 パラフレーズに注意
- 第11回 Chapter 11 写真の細部に注目
- 第12回 Chapter 12 助動詞をおさえる
- 第13回 模擬試験
- 第14回 模擬試験
- 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者: 杉田麻哉 Jeff Smith

出版社: 成美堂

出版年: 2010

ISBN: 9784791931231

新TOEIC Test レベル判定模試

著者: 小山克明 David Rondeau

出版社: Z会

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <w>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡA.

準備学習(予習・復習)

You will need to do some project preparation, vocabulary review and language exercises outside of class.

内 容

- 第1回 Movie reviews: exploring the topic
- 第2回 Model movie reviews (blog entries)
- 第3回 Choosing a movie & researching
- 第4回 Composing your blog entry
- 第5回 Reading movie reviews & giving feedback
- 第6回 Presentation techniques
- 第7回 Making your Powerpoint
- 第8回 The Survey project: exploring the topic
- 第9回 Making your survey
- 第10回 Administer the surveys
- 第11回 Analyzing the responses & making graphs
- 第12回 Planning your powerpoint
- 第13回 Making your powerpoint
- 第14回 Round-robin presentation practice
- 第15回 Group Presentations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <x>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 スミス ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English IntroB,

著者: Martin Milner

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781285848570

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <y>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (35)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB <z>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 小川 享子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (35)

小テスト (20)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (50%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。) Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習)

Do assigned homework, preview and review textbook.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305089501

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (35)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

上記に加えて学期末英語テスト20% Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<Hc>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 ソーソン マーカス	
テーマ Acting English Drama	
授業の到達目標 This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.	
授業の概要 The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) B5 Notebook Journals will be required homework and research	
内 容 第1回 Summer Holiday – Story Review 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention 第3回 Story Summary Q and A 第4回 Episode 14 Blinddate 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14 第6回 Acting Scene 5 Q and A 第7回 Independence Day – Acting scene 第8回 Journals week 7 Story Summary 第9回 Acting – New Girl Scene 第10回 Story Questions – Vocabulary Test 第11回 Final Journal Notebook week 10 第12回 Episode 19 Four Square 第13回 Final Story notes– Q and A 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations 第15回 Final Papers and Discussion	
履修上の注意点 you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.	
教科書 Acting English Drama 著者: Marcus Thorson 出版社: Sun Publishing 出版年: ISBN:	
参考書	
成績評価 試験 (40%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	小テスト (10%) 授業中発表等 (10%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Hd>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習(予習・復習)

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)

第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く

第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)

第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く

第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)

第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く

第8回 前半の復習とまとめ

第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)

第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す

第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)

第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える

第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る

第15回 後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781305255777

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (15)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<R>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別

担当者 杉山 泰

テーマ

日本文化を基礎英語で紹介する(観光英語を学ぶ)

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポート取得が必要だ。日本人であることを日本国は保証してくれる。北朝鮮以外にはこのパスポートは有効(valid)と書かれている。次は、日本語だけでは193か国の人々と理解できないことを学び、そのために英語を第二言語として学ばざるをえないことを学ぶ。なぜ英語が必要かさえ分かれば、中学校英語の復習で十分。Basic Englishを学んでもらう。

授業の概要

毎回、教科書の問題を解いてもらう。ヒアリングをするので、教科書がないと授業についてはいけない。必ず提出物があるので、欠席した学生は、遅れても提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習)

各自、インターネットを使って、観光地のホームページを検索してもらい、発表しあう。観光都市京都のホームページは何か国語で紹介されているのか、調べてもらう。

内 容

- 第1回 英語で自己紹介、英語で「履歴書」を書く。
 第2回 Unit 1 Graduation 大学卒業と就職活動(アメリカ・イギリス・日本)
 第3回 Unit 2 Smiling Faces 7回転職するアメリカ、日本も3/4が転職。なぜアメリカ人は貯金をせず、passive income(不労所得)を得るのか？
 第4回 Unit 3 Farewell 学士号、修士号を取れば、なぜ給料が上がるのか？ Speculations(投機)とは賢い人間(沈黙思考)しかできない。
 第5回 Unit 4 Japanese 外国語としての日本語は難しい、それとも易しい？
 第6回 Unit 5 Southeast Asia 3億人が英語を学んでいる中国 海外留学をしなくなった日本人
 第7回 Unit 6 Sport Journalism スポーツ情報はほとんどが英語 sportsの80%はイギリス生まれ
 第8回 Unit 7 Homesick 世界で働く若者のホームシック問題 30歳になっても親元で同居する日本人、18歳で家を出る英米人
 第9回 Unit 8 Culture shock 中国人が世界中に進出 日本人はなぜ貯金ばかりするのか？
 第10回 Unit 9 Studying Abroad 米国留学50%減の日本人・90%増のインド人
 第11回 Unit 10 Denmark 北欧人は英語がなぜ得意？ 大学授業料がただの国、北欧
 第12回 Unit 11 A Helicopter Pilot 英国では5万ポンドかかるので空軍に入る
 第13回 Unit 12 Bicycling 車社会から自転車社会へ、slow lifeの勧め
 第14回 Unit 14 Reporter 世界の事件取材する新聞記者
 第15回 Unit 15 各自世界193か国で英語がなぜ必要なのか、英語で書いてもらう。

履修上の注意点

教科書

Let's Talk with Friends Around the World

著者: 行時潔ほか

出版社: 松柏社

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

日本語を「外」から見る

著者: 佐々木瑞枝

出版社: 小学館新書

出版年: 2009年

ISBN:

オリンピックと商業主義

著者: 小川勝

出版社: 集英社新書

出版年: 2012年

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者： 堤美果

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

上記に加えて学期末英語テスト20%自宅学習も重視する。提出物を遅れて出した学生も評価する。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<金2>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<金1>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅡB<金4>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第1章 TOEICの概略説明と解放のテクニック 第2回 第2章 At an Office (会社にて) Part 5 第3回 第3章 At an Restaurant (レストランにて) Part 6 第4回 第4章 At a Hotel (ホテルにて) Part 7 第5回 第5章 At a Bank (銀行にて) Part 5 第6回 第6章 At a Hospital (病院にて) Part 6 第7回 第7章 At an Airport (空港にて) Part 7 第8回 第8章 At a Department Store (デパートにて) Part 5 第9回 第9章 At College (大学にて) Part 6 第10回 第10章 Sightseeing (観光) Part 7 第11回 第11章 Business Trip (出張) Part 5 第12回 第12章 Business Transactions (ビジネス) Part 6 第13回 第13章 Global Business (グローバル時代) Part 7 第14回 第14章 復習ハーフトテスト 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 Prize Pointers for the TOEIC Test 著者: 石井隆之 Thomas Koch 出版社: 南雲堂 出版年: 2009 ISBN: 9784523176237 A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES 著者: 佐藤誠司 出版社: 南雲堂 出版年: 2011 ISBN: 9784523176671 新TOEIC Test レベル判定模試 2 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900098	
参考書	

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢA **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 フライアンパスカヴィル	
テーマ Expressing Your Ideas in English	
授業の到達目標 The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills. Class activities, discussion topics and so forth will be aimed at preparing students for participation in a global society.	
授業の概要 This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.	
内 容 第1回 introductions 第2回 classroom English 第3回 student interviews-A 第4回 student interviews-B 第5回 getting acquainted 第6回 experiences-A 第7回 experiences-B 第8回 sports & leisure 第9回 money 第10回 shopping 第11回 food-A 第12回 food-B 第13回 travel-A 第14回 travel-B 第15回 review	
履修上の注意点 If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.	
教科書 Let's Chat 著者: John Pak 出版社: EFL Press 出版年: 2007 ISBN: 4580244420056	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ジェームス デイグル	
テーマ Global Events and Topics	
授業の到達目標 Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others	
授業の概要 There will be various activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.	
内 容 第1回 Orientation 第2回 People 1 第3回 People 2 第4回 Work, Rest, and Play 1 第5回 Work, Rest, and Play 2 第6回 Going Places 1 第7回 Going Places 2 第8回 Review 第9回 Food 1 第10回 Food 2 第11回 Sports 1 第12回 Sports 2 第13回 Destinations 第14回 Destinations 2 第15回 Final Review	
履修上の注意点	
教科書 World English 1A 著者: 出版社: Heinle Cengage Learning 出版年: 参考書	ISBN: 978-142405106
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト () 授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <d>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常生活や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション Lesson 1 Shopping
 第2回 Lesson 2 At a Hotel
 第3回 Lesson 3 Parties
 第4回 Lesson 4 At a Restaurant
 第5回 Lesson 5 At a Bank
 第6回 Lesson 6 Health Issues
 第7回 Lesson 7 News
 第8回 Lesson 8 Computers
 第9回 Lesson 9 Traveling
 第10回 Lesson 10 Complaints
 第11回 Lesson 11 Weather
 第12回 Lesson 12 At an Office
 第13回 Lesson 13 Telephone
 第14回 Lesson 14 Meetings and Presentations Lesson 15 Personnel
 第15回 総復習

履修上の注意点

教科書

Making Progress with the TOEIC Test

著者: 小島加奈子 Robert J. Trader

出版社: 金星堂

出版年: 2006

ISBN: 9784764738171

A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES

著者: 佐藤誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011

ISBN: 9784523176671

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山克明 Kent Domries

出版社: Z会

出版年: 2008

ISBN: 9784862900098

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <e>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、発信力となるライティングとスピーキング、そして受容力となるリーディングとリスニングを総合的に学んでいく。英語コミュニケーションに必要となる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とする。	
授業の概要 「自己紹介」など複数のテーマで、1人で2分間の英語プレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をする。グループ発表での欠席には、ペナルティが課せられる。発表は、全て英語で行われ、原稿を手を持って読むことは禁止される。授業内では、英語だけで、スムーズにプレゼンテーションを行えるように、十分な準備と練習をする。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、授業時間外に、一週間に3時間はかかると考えておいてほしい。また授業中は英文法を学ぶ時間が十分ないので、授業外で、それを進めることとする。そして、発表原稿とパワーポイントの提出期限は必ず守ること。	
内 容 第1回 Orientation Basics of the English Presentation 第2回 Project 1 Introducing Yourself: Step1 第3回 Project 1 Introducing Yourself: Step2 第4回 Project 1 Introducing Yourself: Step3 第5回 Project 1 Introducing Yourself: Presentation 第6回 Project 2 Basic Study: Step1 第7回 Project 2 Basic Study: Step2 第8回 Project 2 Basic Study: Step3 第9回 Project2 Basic Study: Presentation 第10回 Review 第11回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step1 第12回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step2 第13回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step3 第14回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Presentation 第15回 Review	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があります。また、遅刻3回で欠席1回と数えますし、グループ発表のプロジェクトが始まりましたら、欠席にペナルティを課します。そして、授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席して下さい。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9484863122642	
参考書 1分間英語で自分のことを話してみる 著者: 浦島久 クライド・ダブポート 出版社: (株)中経出版 出版年: 2012 ISBN: 9784806124184	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <f>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ TOEIC テスト受験の準備を介して、英語の読む力、文法力をアップしよう。		
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。文法力を増す。目的に合わせて英文を読む力を養う。		
授業の概要 復習語彙・文法小テスト文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をする		
準備学習(予習・復習) 復習語彙・文法小テストの準備、語彙力をアップさせるためにも語彙を復習する		
内 容 第1回 授業の進め方、評価方法の説明Pre-testの実施 第2回 Unit 1 動詞・5文型Parts 5, 6, 7 第3回 Unit 2 名詞Parts 5, 6, 7 第4回 Unit 3 形容詞、副詞Parts 5, 6, 7 第5回 Unit 4 フレーズリーディングParts 5, 6, 7 第6回 Unit 5 動名詞Parts 5, 6, 7 第7回 Unit 6 to不定詞Parts 5, 6, 7 第8回 Unit 7 分詞Parts 5, 6, 7 第9回 Unit 8 スキャニングParts 5, 6, 7 第10回 Unit 9 受動態Parts 5, 6, 7 第11回 Unit 10 比較Parts 5, 6, 7 第12回 Unit 11 関係詞Parts 5, 6, 7 第13回 Unit 12 スキミングParts 5, 6, 7 第14回 模擬テスト 第15回 時事英語を読む		
履修上の注意点 授業中に携帯電話を触ったり、見る者は成績から減点する。		
教科書 The TOEIC Test Trainer Target 470 (Revised Edition) 著者: 山口昌彦 George W. Pifer 出版社: センゲージラーニング 出版年: 2015 ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (25) 小テスト (30) 授業中課題 (5) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合計をして25%で計算をする。		

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <g>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 山崎 清水	
テーマ 総合的な英語運用能力を習得	
授業の到達目標 基本的な観光英語を学習することで、日常会話が可能になる英語運用能力を習得することを目指す。	
授業の概要 海外旅行において最低限必要な会話を演習する。	
準備学習(予習・復習) 予習すること。詳細は授業で説明する。	
内 容 第1回 On the Plane 第2回 At the Currency Exchange 第3回 At the Hotel 1 第4回 復習 第5回 At the Hotel 2 第6回 On the Train / Bus 第7回 Sightseeing 1 第8回 復習 第9回 Shopping 1 第10回 Shopping 2 第11回 At the Post Office 第12回 復習 第13回 Sightseeing 2 第14回 At the Restaurant 第15回 At the Hospital / Pharmacy	
履修上の注意点 私語は慎むこと。	
教科書 My First Trip 著者: 工藤 多恵 出版社: センゲージラーニング 出版年: 2014 ISBN: 9784863122420	
参考書	
成績評価 試験 (50) 授業中課題 (20) 参加度 (10)	小テスト () 授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <h>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 久保田 美佳	
テーマ 時事英語への導入。	
授業の到達目標 比較的平易な英語で書かれた英文記事が読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。	
授業の概要 英文テキストの内容を正確に読み取る練習をします。また、付属の音源を使って英語の音とリズムに慣れる練習をします。	
準備学習(予習・復習) 語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けるようにして下さい。	
内 容 第1回 Introduction Chapter 1 Freeters and NEETS 第2回 Chapter 1 Freeters and NEETS 第3回 Chapter 2 Low Birth Rate 第4回 Chapter 2 Low Birth Rate 第5回 Chapter 3 Working Poor 第6回 Chapter 3 Working Poor 第7回 Review 第8回 Chapter 4 Net Cafe Refugee 第9回 Chapter 4 Net Cafe Refugee 第10回 Chapter 5 Loser Dog 第11回 Chapter 5 Loser Dog 第12回 Chapter 6 False Accusation 第13回 Chapter 6 False Accusation 第14回 Summary 第15回 Review	
履修上の注意点	
教科書 Keywords for Japan Today 著者: Paul Stapleton 出版社: Cengage Learning 出版年: 2008 ISBN: 9784863120433 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (80) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (20) 小テストを定期的に行い習熟度をチェックして行きます。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <i>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。	
授業の概要 Part 5に必要な文法項目の確認をしてから、問題を解く。また、Part6, 7に出題される様々な英語文書を読み、必要な情報をスピーディに読み取るためのスキルを習得していく。ペアワークを通じて理解を深め、スキルの定着を計る。語彙については事前に学習をして単語テストで確認をすることにより、リーディングのスピードアップを促す。終盤では実践演習を行う。また適宜時事英語も扱う。	
準備学習(予習・復習) 予習としてQuizletを活用して語彙学習をする(30分から1時間程度)。Webなどを利用して日頃から英語で情報を取り入れる習慣をつける。	
内 容 第1回 Course Introduction, TOEICについて、準備学習、宿題について 第2回 広告文 (語順、派生語) 第3回 図表の読み方 (数に関係する用法) 第4回 図表と文書 (さまざまな時制) 第5回 雑誌と新聞記事 (比較表現) 第6回 人材募集と応募の手紙 (結びつきの表現) 第7回 お知らせ文 (V-ed, V-ingの使い分け) 第8回 説明文とレシピ (まぎらわしい前置詞の表現) 第9回 社内文書 (不定詞) 第10回 ビジネスレター (条件と仮定法) 第11回 製品の説明書 (いろいろな that) 第12回 実践演習(1) 第13回 実践演習(2) 第14回 実践演習(3) 第15回 実践演習(4)	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの問題を解くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。	
教科書 Effective Approaches to the TOEIC Test 著者: 田中清美、和田ゆり 出版社: 南雲堂 出版年: 2009.2 ISBN: 9784523-17622-0	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (25%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 () 参加度 (30%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <j>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 日常生活や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション Unit 1 Daily Life 品詞の違い 第2回 Unit 2 Shopping 接頭辞・接尾辞 第3回 Unit 3 Restaurant 数量の表し方 第4回 Unit 4 Travel 主語と動詞の一致 第5回 Unit 5 People and Professions 時制・活用形 第6回 Unit 6 Office 自動詞・他動詞 第7回 Unit 7 Recruitment 不定詞・動名詞 第8回 Unit 8 Manufacturing 代名詞 第9回 Unit 9 Marketing 前置詞 第10回 Unit 10 Business Finance and Economy 接続詞 第11回 Unit 11 Weather Forecast 前置詞と接続詞の違い 第12回 Unit 12 Government and Other Organizations 関係代名詞 第13回 Unit 13 Social and Environmental Issues 関係副詞 第14回 Unit 14 Entertainment 分詞 Unit 15 News イディオム 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 TARGET ON THE TOEIC TEST Starter 著者： 水本 篤 出版社： 金星堂 出版年： 2010 ISBN: 9784764739000 A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES 著者： 佐藤誠司 出版社： 南雲堂 出版年： 2011 ISBN: 9784523176671 新TOEIC Test レベル判定模試 2 著者： 小山克明 Kent Domries 出版社： Z会 出版年： 2008 ISBN: 9784862900098	
参考書	
成績評価 試験 (30)	小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <k>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

英語圏で生活する上で必要なリーディング力の養成とともに、異文化への関心を高め、自国の情報を発信できる英語力の養成を目指す。そのために必要な基本的な英文法を身に付ける。

授業の概要

テキストを中心に英語の情報を読み取り、リスニング、スピーキング、ライティングも演習する。文法も同時に学ぶ。

準備学習(予習・復習)

課題を確実にこなす。

内 容

- 第1回 Unit5 宿泊に関する英語文法 分詞
- 第2回 Unit5 宿泊に関する英語文法 分詞構文
- 第3回 Unit5 宿泊に関する英語文法 代名詞
- 第4回 Unit6 健康に関する英語文法 比較
- 第5回 Unit6 健康に関する英語文法 比較
- 第6回 Unit6 健康に関する英語文法 関係代名詞
- 第7回 Unit7 手紙等に関する英語文法 関係副詞
- 第8回 Unit7 手紙等に関する英語文法 仮定法
- 第9回 Unit7 手紙等に関する英語文法 接続詞
- 第10回 Unit9 観光に関する英語文法 接続詞
- 第11回 Unit9 観光に関する英語文法 否定
- 第12回 Unit9 観光に関する英語文法 復習
- 第13回 Unit11 テレビ番組に関する英語文法 復習
- 第14回 Unit11 テレビ番組に関する英語文法 復習
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

積極的に授業に参加する。課題を確実にこなす。

教科書

Real Reading 1

著者: Liz Driscoll

出版社: CAMBRIDGE

出版年:

ISBN: 0-521-70202-4

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <I>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

英字新聞や英語のニュースに抵抗なく接することが出来るようになること。

授業の到達目標

時事英語を通して、英語の4技能の総合的な力を養うことを目標とします。

授業の概要

アメリカのCNNニュースを教材に用い、様々なリスニング演習を行います。また英字新聞の読解力を向上させるための語彙や表現についても学習します。

準備学習(予習・復習)

インターネット等を利用して英語のニュースを聞くようにする。英字新聞を読むこと。

内 容

- 第1回 Introduction, CNN Unit 1 / 英字新聞 Unit 1
 第2回 CNN Unit 1 / 英字新聞 Unit 2
 第3回 CNN Unit 2 / 英字新聞 Unit 3
 第4回 CNN Unit 2 / 英字新聞 Unit 4
 第5回 CNN Unit 3 / 英字新聞 Unit 5
 第6回 CNN Unit 3 / 英字新聞 Unit 6
 第7回 CNN Unit 4 / 英字新聞 Unit 7
 第8回 CNN Unit 4 / 英字新聞 Unit 8
 第9回 CNN Unit 5 / 英字新聞 Unit 9
 第10回 CNN Unit 5 / 英字新聞 Unit 10
 第11回 CNN Unit 6 / 英字新聞 Unit 11
 第12回 CNN Unit 6 / 英字新聞 Unit 12
 第13回 CNN Unit 7 / 英字新聞 extra exercise
 第14回 CNN Unit 7 / 英字新聞 extra exercise
 第15回 CNN / 英字新聞 Review

履修上の注意点

授業内課題に真剣に取り組み、提出物等の期限は厳守すること。教科書付属のCDを自宅でも繰り返し聴くこと。

教科書

Power Up Your English with CNN News

著者: Shinji Ogasawara 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155579

5分間 英字新聞(改訂版)

著者: 大澤 岳彦 / 堤 龍一郎

出版社: 南雲堂

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <m>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	原 俊樹	
テーマ	英語を普段使いに――一段上の英語理解	
授業の到達目標	<p>基本的な英文の解釈(読解・聴解)や表現(作文・発話)を通して、また日本語と英語双方の表現方法・構造の違いや文法的な理解を、「感性」でなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を身につけるのに必要な4技能の幅広い実践的な能力を習得する。また同時にMEDIA ENGLISHの特徴も考えて、普通に新聞や論文を理解する能力も身につける</p>	
授業の概要	<p>基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意します。授業予定は、一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。</p>	
準備学習(予習・復習)	予習・復習を確実にすること	
内 容	<p>第1回 講義内容・テキストの利用法を説明、基礎力判定テスト 第2回 フォニックス(アルファベットや単語の発音) 第3回 英文の基本構造Ⅰ:述語動詞と態 第4回 英文の基本構造Ⅱ:述語動詞と時制1 第5回 英文の基本構造Ⅲ:述語動詞と時制2 第6回 英文の基本構造Ⅳ:基本5文型(自動詞と他動詞) 第7回 英文の基本構造Ⅴ:文の要素・修飾語句・語と品詞 第8回 準動詞の用法1:不定詞 第9回 準動詞の用法2:動名詞 第10回 準動詞の用法3:分詞 第11回 冠詞・名詞・代名詞 第12回 形容詞・副詞 第13回 前置詞と句 第14回 接続詞と節 第15回 前記の学習内容のまとめ・到達度の確認</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>English through the News Media 2015 edition 著者: Masami Takahashi/Noriko Itoh/ Richard Powell 出版社: Asahi Press 出版年: 2015 ISBN: 9784255155494</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (50%) 小テスト (20%) 授業中課題 (10%) 授業中発表等 (10%) 参加度 (10%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <n>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

英字新聞や英語のニュースに抵抗なく接することが出来るようになること。

授業の到達目標

時事英語を通して、英語の4技能の総合的な力を養うことを目標とします。

授業の概要

アメリカのCNNニュースを教材に用い、様々なリスニング演習を行います。また英字新聞の読解力を向上させるための語彙や表現についても学習します。

準備学習(予習・復習)

インターネット等を利用して英語のニュースを聞くようにする。英字新聞を読むこと。

内 容

- 第1回 Introduction, CNN Unit 1 / 英字新聞 Unit 1
 第2回 CNN Unit 1 / 英字新聞 Unit 2
 第3回 CNN Unit 2 / 英字新聞 Unit 3
 第4回 CNN Unit 2 / 英字新聞 Unit 4
 第5回 CNN Unit 3 / 英字新聞 Unit 5
 第6回 CNN Unit 3 / 英字新聞 Unit 6
 第7回 CNN Unit 4 / 英字新聞 Unit 7
 第8回 CNN Unit 4 / 英字新聞 Unit 8
 第9回 CNN Unit 5 / 英字新聞 Unit 9
 第10回 CNN Unit 5 / 英字新聞 Unit 10
 第11回 CNN Unit 6 / 英字新聞 Unit 11
 第12回 CNN Unit 6 / 英字新聞 Unit 12
 第13回 CNN Unit 7 / 英字新聞 extra exercise
 第14回 CNN Unit 7 / 英字新聞 extra exercise
 第15回 CNN / 英字新聞 Review

履修上の注意点

授業内課題に真剣に取り組み、提出物等の期限は厳守すること。教科書付属のCDを自宅でも繰り返し聴くこと。

教科書

Power Up Your English with CNN News

著者: Shinji Ogasawara 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155579

5分間 英字新聞(改訂版)

著者: 大澤 岳彦 / 堤 龍一郎

出版社: 南雲堂

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <○>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 日常生活や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング・リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 オリエンテーション 第1章 TOEICの概略説明と解放のテクニック 第2回 第2章 At an Office (会社にて) Part 1, Part2, Part 5 第3回 第3章 At an Restaurant (レストランにて) Part 3, Part 4, Part 6 第4回 第4章 At a Hotel (ホテルにて) Part 1, Part2, Part 7 第5回 第5章 At a Bank (銀行にて) Part 3, Part 4, Part 5 第6回 第6章 At a Hospital (病院にて) Part 1, Part2, Part 6 第7回 第7章 At an Airport (空港にて) Part 3, Part 4, Part 7 第8回 第8章 At a Department Store (デパートにて) Part 1, Part2, Part 5 第9回 第9章 At College (大学にて) Part 3, Part 4, Part 6 第10回 第10章 Sightseeing (観光) Part 1, Part2, Part 7 第11回 第11章 Business Trip (出張) Part 3, Part 4, Part 5 第12回 第12章 Business Transactions (ビジネス) Part 1, Part2, Part 6 第13回 第13章 Global Business (グローバル時代) Part 3, Part 4, Part 7 第14回 第14章 復習ハーフテスト 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 Prize Pointers for the TOEIC Test 著者: 石井隆之 Thomas Koch 出版社: 南雲堂 出版年: 2009 ISBN: 9784523176237	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <p>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ どこでも使える英語力を身につける		
授業の到達目標 国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を理解するために必要な4技能の幅広い実践的運営能力を身につける。また同時に医療従事者としても必要な英語力も身につけることを目標とする。		
授業の概要 基本的にはテキストの各ユニットに沿った形で授業を進める。習熟度・理解度を判断する小テスト・実力テスト・課題を用意する。授業予定は、あくまでも一応の目安で、各回の「重要学習ポイント」と考えてください。		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にこなすこと		
内 容 第1回 講義内容・テキストの利用法の説明基礎力判定テスト 第2回 フォニックス(アルファベットと単語の発音) 第3回 英文の基本構造1:述語動詞と態 第4回 英文の基本構造2:時制表現1 第5回 英文の基本構造3:時制表現2 第6回 英文の基本構造4:基本5文型 第7回 英文の基本構造5:文の要素・修飾語句・語と品詞 第8回 準動詞の用法1:不定詞 第9回 準動詞の用法2:動名詞 第10回 準動詞の用法3:分詞 第11回 冠詞・名詞・代名詞 第12回 形容詞・副詞 第13回 前置詞と句 第14回 接続詞と節 第15回 前期の学習のまとめ・到達度の確認		
履修上の注意点		
教科書 Understanding Health Care 著者: Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ Akiko Sekiguchi ほか 出版社: Asahi Press 出版年: 2011 ISBN: 9784255155036		
参考書		
成績評価 試験 (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <TOEIC>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 (閉講:開→閉)	
テーマ 仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習) クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
第2回 "	
第3回 "	
第4回 "	
第5回 "	
第6回 "	
第7回 "	
第8回 "	
第9回 "	
第10回 "	
第11回 "	
第12回 "	
第13回 "	
第14回 "	
第15回 "	
履修上の注意点 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <Gen>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 (閉講:開→閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢA <R>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

基礎英語(Basic English)を学びながら、俵万智の短歌の英訳をしていく

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英文法の知識さえあれば、俵万智の短歌も楽しく英訳できることを学んでいく。まずは、主語のない日本語のあいまいな表現を正しく理解し、Iとyouという主語を補って、S+V+Oという構文にして、英語にしていく。毎回参加して、次週には添削して返却するので、参加することが重要になってくる。自分の英訳短歌を最後に提出してもらう。

授業の概要

教科書の文法事項をまず学び、日本語にない①主語 ②時制 ③数 ④比較級 ⑤受動態 ⑥仮定法といった英語らしい表現を使った英訳をしていく。添削して返却する。

準備学習(予習・復習)

俵万智の短歌集がBOOKOFFで108円で売られているので、購入して自宅で1つでも多く英訳しておくこと。時には、英語俳句などもやってみようので、俳句や短歌に親しんでもらいたい。

内 容

- 第1回 自己紹介(I am Japanese. I am from Nagasaki.)から始めよう。
 第2回 日本紹介(We have tanka culture in Japan.)海外に日本文化をやさしい英語で発信していく。
 第3回 <be動詞>「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
 第4回 <be動詞>「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
 第5回 <一般動詞>また電話しろよと言って受話器置く君に今すぐ電話をしたい
 第6回 <主語と動詞>焼肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き
 第7回 <過去形>今日風呂が休みだったというようなことを話していた毎日
 第8回 <過去形> この部屋で君と暮らしていた女の神の長さを知りたい夕べ
 第9回 <疑問文> ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
 第10回 <否定文> 電話から少し離れてお茶を飲む聞いていないよと言うように飲む
 第11回 <進行形> 気が付けば君の好める花もようばかり手にしている試着室
 第12回 <疑問文> わが髪を三度切りたる美容師に「初めてですか」と聞かれて座る
 第13回 <未来の文> 「三〇で俺は死ぬよ」と言う君とそれなら吾もそれまで生きん
 第14回 <助動詞> 思い出はミックスベジタブルのようだけれど解凍してはいけない
 第15回 <whoの疑問文> ガーベラの首を手で持ち上げてお前一番好きなのは誰<全体のまとめ>俵万智の和歌の英訳集の作成が課される。

履修上の注意点

教科書

Eye-opening Facts

著者: 杉山泰編

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

英語対訳版サラダ記念日

著者: 俵万智・j・スタム訳

出版社: 河出文庫

出版年: 1989年

ISBN:

チョコレート革命

著者: 俵万智

出版社: 河出書房新社

出版年: 1997年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（20）

毎回の提出物が大事。欠席した場合、前回の課題の提出を送れて提出すれば、遅れの出席として認めるし、また、15回分の教科書の問題の提出で、欠席分を補うことも可能である。特に、4回生以上の学生は、教科書の提出が大事。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 占部 幹也	
テーマ TOEIC対策を通した英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 第1章 TOEICの概略説明と解放のテクニック 第2回 第2章 At an Office (会社にて) Part 1 Part 2 第3回 第3章 At an Restaurant (レストランにて) Part 3 Part 4 第4回 第4章 At a Hotel (ホテルにて) Part 1 Part 2 第5回 第5章 At a Bank (銀行にて) Part 3 Part 4 第6回 第6章 At a Hospital (病院にて) Part 1 Part 2 第7回 第7章 At an Airport (空港にて) Part 3 Part 4 第8回 第8章 At a Department Store (デパートにて) Part 1 Part 2 第9回 第9章 At College (大学にて) Part 3 Part 4 第10回 第10章 Sightseeing (観光) Part 1 Part 2 第11回 第11章 Business Trip (出張) Part 3 Part 4 第12回 第12章 Business Transactions (ビジネス) Part 1 Part 2 第13回 第13章 Global Business (グローバル時代) Part 3 Part 4 第14回 第14章 復習ハーフトテスト 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 Prize Pointers for the TOEIC Test 著者: 石井隆之 Thomas Koch 出版社: 南雲堂 出版年: 2009 ISBN: 9784523176237 A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES 著者: 佐藤誠司 出版社: 南雲堂 出版年: 2011 ISBN: 9784523176671 新TOEIC Test レベル判定模試 2 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900098	
参考書	
成績評価 試験 (30)	小テスト (20)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、発信力となるライティングとスピーキング、そして受容力となるリーディングとリスニングを総合的に学んでいく。英語コミュニケーションに必要となる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とする。	
授業の概要 「自己紹介」など複数のテーマで、1人で2分間(100 words～)の英語プレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をします。発表は、全て英語で行われ、原稿を手を持って読むことは禁止です。授業内では、英語でスムーズにプレゼンテーションを行えるように、十分な準備と練習をします。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、1週間に授業時間外で1～3時間かかると考えておいて下さい。また授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外で自分でそれを補って下さい。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。そして、英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れてほしいです。	
内 容 第1回 Orientation Basics of the English Presentation 第2回 Project 1 Introducing Yourself: Step1 第3回 Project 1 Introducing Yourself: Step2 第4回 Project 1 Introducing Yourself: Step3 第5回 Project 1 Introducing Yourself: Presentation 第6回 Project 2 Basic Study: Step1 第7回 Project 2 Basic Study: Step2 第8回 Project 2 Basic Study: Step3 第9回 Project 2 Basic Study: Presentation 第10回 Review 第11回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step1 第12回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step2 第13回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Step3 第14回 Project3 Promoting Your Vacation Plans: Presentation 第15回 Review	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があります。また、遅刻3回で欠席1回と数えますし、グループ発表のプロジェクトが始まりましたら、欠席にペナルティを課します。そして、授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席して下さい。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9484863122642	
参考書 1分間英語で自分のことを話してみる 著者: 浦島久 クライド・ダブンポート 出版社: (株)中経出版 出版年: 2012 ISBN: 9784806124184	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 松村 優子

テーマ

ニュース英語・時事英語の修得

授業の到達目標

CBS Evening Newsを題材に、時事的知識や時事英語の修得を目指す。

授業の概要

CBS Evening Newsの視聴を通じて、リスニング能力向上や時事英語表現の修得を目指す。ニュースを理解した後、音読しながら、時事英語に関する語彙や表現に慣れ親しめるようにアウトプット練習も行う。詳細は授業内で説明する。

準備学習(予習・復習)

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内 容

第1回 Introduction

第2回 Unit 1 UNIQLO Aims High(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第3回 Unit 1 UNIQLO Aims High(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第4回 Unit 2 Study finds How TV Affects Children's Behavior(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第5回 Unit 2 Study finds How TV Affects Children's Behavior(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第6回 Unit 3 Texting & Driving...It Can't Wait(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第7回 Unit 3 Texting & Driving...It Can't Wait(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第8回 Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第9回 Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第10回 Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第11回 Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第12回 Unit 7 Facebook Envy(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第13回 Unit 7 Facebook Envy(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など)

第14回 まとめ、復習

第15回 まとめ、復習

履修上の注意点

2/3以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしないように。

教科書

CBS Newsbreak 2

著者: 熊井 信弘他

出版社: 成美堂

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (50%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

詳細は授業内で説明する。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 高居 佐紀		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Lesson 1 Shopping 第2回 Lesson 2 At a Hotel 第3回 Lesson 3 Parties 第4回 Lesson 4 At a Restaurant 第5回 Lesson 5 At a Bank 第6回 Lesson 6 Health Issues 第7回 Lesson 7 News 第8回 Lesson 8 Computers 第9回 Lesson 9 Traveling 第10回 Lesson 10 Complaints 第11回 Lesson 11 Weather 第12回 Lesson 12 At an Office 第13回 Lesson 13 Telephone 第14回 Lesson 14 Meetings and Presentations Lesson 15 Personnel 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 Making Progress with the TOEIC Test 著者： 小島加奈子 Robert J. Trader 出版社： 金星堂 出版年： 2006 ISBN: 9784764738171 A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES 著者： 佐藤誠司 出版社： 南雲堂 出版年： 2011 ISBN: 9784523176671 新TOEIC Test レベル判定模試 2 著者： 小山克明 Kent Domries 出版社： Z会 出版年： 2008 ISBN: 9784862900098		
参考書		

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	ブライアン・バスカウィル	
テーマ	Expressing Your Ideas in English	
授業の到達目標	The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.	
授業の概要	This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習)	If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.	
内 容	<p>第1回 introductions 第2回 classroom English 第3回 student interviews-A 第4回 student interviews-B 第5回 getting acquainted 第6回 experiences-A 第7回 experiences-B 第8回 sports & leisure 第9回 money 第10回 shopping 第11回 food-A 第12回 food-B 第13回 travel-A 第14回 travel-B 第15回 review</p>	
履修上の注意点	If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.	
教科書	<p>Let's Chat 著者: John Pak 出版社: EFL Press 出版年: 2007 ISBN: 4580244420056</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (30) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 (40)</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <f>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 小川 享子		
テーマ TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう		
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。リスニング力を目的に合わせてリスニング問題の英文を速く読む力を養う。		
授業の概要 予習語彙小テスト宿題のリスニング課題問題のチェック(さらなるリスニング演習)		
準備学習(予習・復習) 語彙の学習が予習となり、それを踏まえての小テストとなるので、授業の前に該当範囲を予習する。復習は、いくつかの単元を学習したのち同じ音声テキストを使用して復習テストを行うので、聞き返しを行う。		
内 容 第1回 Unit1 予定の表現 第2回 Unit2 数量を尋ねる 第3回 Unit3 命令・依頼 第4回 Unit4 広告・宣伝音声復習テスト 第5回 Unit5 時間を尋ねる 第6回 Unit6 場所を尋ねる 第7回 Unit7 確認の表現 第8回 Unit8 留守電音声復習テスト 第9回 Unit9 アドヴァイス 第10回 Unit10 誘い 第11回 Unit11 申し出 第12回 Unit12 講演者の紹介音声復習テスト 第13回 まとめテスト 第14回 模擬テスト 第15回 模擬テスト		
履修上の注意点 音声はDownloadによる教材なので、しない学生は成績より5点減点する。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をす。必ず辞書を携帯すること。		
教科書 The TOEIC Test Trainer Target 470 (Revised Edition) 著者: 山口昌彦 George W. Pifer 出版社: センゲージラーニング 出版年: 2015 ISBN:		
参考書		
成績評価 試験 (25) 小テスト (30) 授業中課題 (5) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度はこの3つを合わせて25%とする。		

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <g>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 クーラン コーリ	
テーマ Travel English	
授業の到達目標 Learn the basics of travel English and survival English	
授業の概要 Follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.	
内 容 第1回 Class introduction and preview an begin Unit 1 "Would you like some more?" 第2回 Finish Unit 1 第3回 Begin Unit 2 "What should we do first?" 第4回 Finish Unit 2 第5回 Begin Unit 3 "We're going to visit Chinatown" 第6回 Finish Unit 3 第7回 Review and reflection of Units 1 to 3 第8回 Begin Unit 4 "Are you good at skiing?" 第9回 Finish Unit 4 第10回 Begin Unit 5 "This one is cheaper" 第11回 Finish Unit 5 第12回 Begin Unit 6 "Don't forget your money!" 第13回 Finish Unit 6 第14回 Review and reflection of Units 4 to 6 第15回 Semester review and recap	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.	
教科書 My First Passport 2 著者: Tanja McCandie 出版社: Oxford 出版年: 2006 ISBN: 9780194718004	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) This will be a very fun class, but to get a good grade, you must do well on exams and quizzes as well as have good class performance	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <h>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティエレキ	
テーマ Oral English with Culture Content	
授業の到達目標 Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.	
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as ordering food in a restaurant.	
準備学習(予習・復習) It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Class introduction and preview excercises 第2回 Start Unit 1 "People" 第3回 Continue Unit 1 第4回 Finish Unit 1 第5回 Start Unit 2 "Work, Rest and Play" 第6回 Continue Unit 2 第7回 Finish Unit 2 第8回 Review and reflection on Units 1 and 2 第9回 Start Unit 3 "Going Places" 第10回 Continue Unit 3 第11回 Finish Unit 3 第12回 Start Unit 4 "Food" 第13回 Continue Unit 4 第14回 Finish Unit 4 第15回 Review and reflection on Units 3 and 4	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 World English 1 著者: Martin Milner 出版社: Heinle, Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305366572 World English 1: Printed Workbook 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <i>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。	
授業の概要 各パートの特徴を理解し、必要なスキルと語彙を確認した後、練習問題のリスニングをする。部分ディクテーションをして解答を確認後、スクリプトの音読やシャドーイングなどを通じて理解を深める。中盤以降は実践演習を行う。単語テスト、復習テストを随時行う。	
準備学習(予習・復習) 予習としてはQuizletを活用し単語テストの準備をする(30分から1時間程度)。復習はCDを使って繰り返し聞くこと。別途リスニングの練習問題を宿題として課すので指示に従い取り組むこと(30分から1時間程度)。	
内 容 第1回 Course Introduction (テキストの使い方、準備学習、宿題について) 第2回 Part 1 物の位置と状態、人物の動作と様子 第3回 Part 2 基本的な疑問文 第4回 Part 3 電話での会話、カジュアルな日常会話 第5回 Part 4 スピーチ、録音メッセージ、広告 第6回 Part 1 複数の人物の様子、風景写真 第7回 Part 2 さまざまな問いかけへの応答 第8回 Part 3 オフィスでの会話 第9回 Part 4 ガイドの説明、ニュース 第10回 実践演習 (Part 1) 第11回 実践演習 (Part 2) 第12回 実践演習 (Part 3) 第13回 実践演習 (Part 4) 第14回 実践演習 (Part 1 & 2) 第15回 実践演習 (Part 3 & 4)	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの英語を聴くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。	
教科書 Effective Approaches to the TOEIC Test 著者: 田中清美、和田ゆり 出版社: 南雲堂 出版年: 2009.2 ISBN: 9784523-17622-0 New Steps to Success in the TOEIC Test Listening Workbook 2 著者: David E. Bramley/中井弘一 出版社: 松柏社 出版年: 2012.4 ISBN: 978488198-661-5	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (25%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 () 参加度 (30%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <j>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 Unit 1 Daily Life 第2回 Unit 2 Shopping 第3回 Unit 3 Restaurant 第4回 Unit 4 Travel 第5回 Unit 5 People and Professions 第6回 Unit 6 Office 第7回 Unit 7 Recruitment 第8回 Unit 8 Manufacturing 第9回 Unit 9 Marketing 第10回 Unit 10 Business Finance and Economy 第11回 Unit 11 Weather Forecast 第12回 Unit 12 Government and Other Organizations 第13回 Unit 13 Social and Environmental Issues 第14回 Unit 14 Entertainment Unit 15 News 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 TARGET ON THE TOEIC TEST Starter 著者： 水本 篤 出版社： 金星堂 出版年： 2010 ISBN: 9784764739000 A Shorter Course in TOEIC TEST VOCABULARY QUIZZES 著者： 佐藤誠司 出版社： 南雲堂 出版年： 2011 ISBN: 9784523176671 新TOEIC Test レベル判定模試 2 著者： 小山克明 Kent Domries 出版社： Z会 出版年： 2008 ISBN: 9784862900098	
参考書	

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <k>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ソーソン マーカス		
テーマ Acting English Drama		
授業の到達目標 This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.		
授業の概要 Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.		
準備学習(予習・復習) Preview next lesson before each class and extra for tests.		
内 容 第1回 Introductions, Class Objectives 第2回 Journals Homework #1 Introduction. 第3回 The Alien Truth – Story Research 第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5 第5回 Leaving Normal – Acting Scene. 第6回 Episode 5 Missing Q – A 第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene 第8回 Episode 7 Riverdog – Acting 第9回 Story Review – Tell the story. 第10回 Episode 9 Heat Wave 第11回 Final Journals week 10 第12回 Presentations – Reports 第13回 Toy House – Acting Scene 第14回 Into the Woods 第15回 The Convention – Q and A		
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.		
教科書 Acting English Drama 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (20) 授業中課題 (20) 参加度 (20)	小テスト (20) 授業中発表等 (20)	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB<I>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 スミス ジョン		
テーマ	This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.	
授業の到達目標	By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.	
授業の概要	This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.	
準備学習(予習・復習)	Please do all the homework, preview and review the textbook.	
内 容	<p>第1回 Self-introduction</p> <p>第2回 Getting to know the teacher and classmates</p> <p>第3回 Describing occupations</p> <p>第4回 Talking about a work day and free time</p> <p>第5回 Describing festivals and celebrations</p> <p>第6回 Talking about favorite celebrities</p> <p>第7回 Identify possessions</p> <p>第8回 Giving travel advice</p> <p>第9回 Food and favorite kinds of restaurants</p> <p>第10回 Count and noncount nouns</p> <p>第11回 Activities happening now</p> <p>第12回 Favorite sports</p> <p>第13回 Adventure holidays</p> <p>第14回 Past vacation experiences</p> <p>第15回 Summer plans and course review.</p>	
履修上の注意点	You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書	<p>World English 1</p> <p>著者: Martin Milner</p> <p>出版社: Heinle Cengage</p> <p>出版年: 2015</p> <p>ISBN: 9781285848693</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (40)</p> <p>授業中課題 (20)</p> <p>参加度 (20)</p> <p>小テスト (10)</p> <p>授業中発表等 (10)</p>	
	The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <m>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 フリンハンナマイケル	
テーマ Using English for Communication	
授業の到達目標 Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context	
授業の概要 This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容 第1回 Orientation 第2回 Introductions 第3回 Introducing others 第4回 Exchanging personal information 第5回 How do you spend your day? 第6回 Work and school 第7回 Daily schedules 第8回 Review 第9回 Meaning of colors 第10回 Clothes shopping 第11回 Making Comparisons 第12回 Music 第13回 Entertainment 第14回 Invitations 第15回 Review	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 Interchange I Student's Book A(fourth Edition) 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press 出版年: ISBN: 9780521601757 Interchange I Workbook Book A(4th Edition) 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press 出版年: ISBN: 9780521601788	
参考書	
成績評価 試験 (0) 小テスト (55) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (45) Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <n>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ エレキ	
テーマ Nursing English	
授業の到達目標 Learn the basics of healthcare English.	
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will learn special healthcare words, too.	
準備学習(予習・復習) It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Class introduction and preview exercises 第2回 Start Unit 1 "Hospital Departments" 第3回 Finish Unit 1 第4回 Start Unit 2 "Application Forms" 第5回 Finish Unit 2 第6回 Start Unit 3 "Parts of the Body" 第7回 Finish Unit 3 第8回 Review and reflection of Units 1 to 3 第9回 Start Unit 4 "Illnesses" 第10回 Finish Unit 4 第11回 Start Unit 5 "Daily Routine" 第12回 Finish Unit 5 第13回 Start Unit 6 "Hospital Objects" 第14回 Finish Unit 6 第15回 Review and reflection of Units 4 to 6	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 Vital Signs 著者: Morooka & Sugiura 出版社: Nan'un-do 出版年: 2009 ISBN: 9784523176305	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <p>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	クーラン コーリ	
テーマ	Beginner level English for students of nursing.	
授業の到達目標	The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.	
授業の概要	Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises.	
準備学習(予習・復習)	In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.	
内 容	<p>第1回 Introductions and class explanation</p> <p>第2回 Hospital departments</p> <p>第3回 Hospital departments</p> <p>第4回 Application Forms</p> <p>第5回 Application Forms</p> <p>第6回 Review and recap of weeks 2 to 5</p> <p>第7回 Parts of the body and their functions</p> <p>第8回 Parts of the body and their functions</p> <p>第9回 Parts of the body and thier functions</p> <p>第10回 Review and recap of weeks 7 to 9</p> <p>第11回 Surgical video</p> <p>第12回 Surgical video</p> <p>第13回 Surgical video</p> <p>第14回 Review and recap of weeks 11 to 13</p> <p>第15回 Review and recap of course</p>	
履修上の注意点	**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60%of your grade will be based on your in-class performance.**Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class.	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p> <p>参考書</p>	
成績評価	<p>試験 (40) 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 (30)</p> <p>参加度 (30)</p> <p>***Teacher will supply all necessary text materials. YOU DO NOT NEED TO BUY A TEXTBOOK***Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.</p>	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <TOEIC>**

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 (閉講:開→閉)	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 "</p> <p>第3回 "</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 "</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 "</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 "</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 "</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 "</p> <p>第15回 "</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <Gen>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 (閉講:開→閉)	
テーマ	
仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習)	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容	
第1回	クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃
履修上の注意点	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅢB <R>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

新聞英語、特にインターネットで発信されるEメール情報を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ

授業の到達目標

TPPだとかSkypeを「環太平洋パートナーシップ」だとか「インターネット電話サービス」などと訳す人はいない。政治用語もインターネット用語もすでにそのまま日本語になっている。日々新しく生まれている英語を学ぶことは、世界を知ることにつながる。古くなったがMADというMutual Assured Destructionという「相互確実破壊」というnuke(核)時代の英語も、MOX Fuelといった原発用語もその意味を探ることは重要だ。時事英語を読むことで、最新の知識を学び、水爆だとか原発の危険性を知ってもらうための英語の授業にしたい。

授業の概要

世界から発信されてきた世界の新聞に書かれた情報を読んでいく。難しいのは新しい英単語にすぎない。英語の構文はすべて高校までに習ったものでしかないので、新しい単語を調べながら、できるだけ多くの英語を読んでいきたい。

準備学習(予習・復習)

まずは、自宅で、新聞を取っていない学生は大学の図書館で新聞の一面を読んでもらう。日本だけでなく、世界の出来事を知るために、テレビのBBC放送などをできるだけ見てほしい。世界の一面記事に気づくことが、これからの時代を生きていく際に役に立つ。

内 容

- 第1回 新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い単語の学習
 第2回 1. Takuya's Job Hunt(電話での対応とE-mailの書き方)
 第3回 2. Asking a Favor(喫茶店での会話とE-mailへの返信)
 第4回 3. Decision Time(旅行代理店との電話と就職先へのE-mail)
 第5回 4. A Lucky Break(就職決定の電話と就職決定のE-mail)
 第6回 5. Fun in the Sun(ハワイでの仕事とホノルルのホテル案内のE-mail)
 第7回 6. Welcome to the Land of the Rising Sun(日本紹介)
 第8回 7. Bottoms Up!(イギリスのパブとイギリス紹介のE-mail)
 第9回 8. The World's Most Comfortable City(カナダ紹介のE-mail)
 第10回 9. Touching Base(バンクーバーでの電話とカナダ紹介のE-mail)
 第11回 10. The Lion City(シンガポールでの電話とアジア紹介のE-mail)
 第12回 11. Heading Down Under(シドニーでの電話とオーストラリア紹介のE-mail)
 第13回 12. Dreams Come True(上海での電話と中国紹介のE-mail)
 第14回 13. An Unexpected Invitation(メキシコでの電話とその紹介E-mail)
 第15回 14. 後藤さん誘拐事件を始め、インターネットが世界を駆け巡る。E-mailの重要性を再確認する。

履修上の注意点

E-mailでの英語の発信と受信をやっていくので、時事英語を日常的に読んでいく。日頃から、新聞などを読んで、常識を広げてほしいし、就職試験などの対策もやっていく。

教科書

Eメール & 英会話コミュニケーション:就職編

著者: 行時潔ほか

出版社: 松柏社

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

「超基本」の英単語

著者: 尾崎哲夫

出版社: 角川新書

出版年: 2002年

ISBN:

日本は世界で第何位

著者: 岡崎大五

出版社: 新潮新書

出版年: 2007年

ISBN:

大学の思い出は就活です—大学生生活50のお約束

著者： 石渡嶺司

出版社：

出版年： 2012年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（20）

毎回提出物があるので、欠席した場合、遅れても必ず提出すること。また、4回生以上の学生は教科書の問題を提出すればUnitについて、1回分の(遅れの)出席を認める。残りの20%はToeicなどの外部試験や教科書の提出で補う。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Chapter 1 Part 5 Part 7 第2回 Chapter 2 Part 5 Part 6 第3回 Chapter 3 Part 5 Part 7 第4回 Chapter 4 Part 7 第5回 Chapter 5 Part 5 Part 7 第6回 Chapter 6 Part 5 Part 6 第7回 Chapter 7 Part 5 Part 7 第8回 Chapter 8 Part 7 第9回 Chapter 9 Part 5 Part 7 第10回 Chapter 10 Part 5 Part 7 第11回 Chapter 11 Part 5 Part 7 第12回 Chapter 12 Part 7 第13回 Chapter 13 Part 5 Part 7 第14回 Chapter 14 Part 5 Part 7 TOEIC QUIZ 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 An Intensive Approach to the TOEIC Test 著者: 松岡昇 出版社: 金星堂 出版年: 2008 ISBN: 9784764738584 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者: 小池直己 出版社: 南雲堂 出版年: 2007 ISBN: 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900128		
参考書		
成績評価 試験 (30) 授業中課題 (0)	小テスト (20) 授業中発表等 (0)	

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅣA **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 フライアンパスカヴィル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills. Class activities, discussion topics and so forth will be aimed at preparing students for participation in a global society.

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習(予習・復習)

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内 容

- 第1回 introductions
- 第2回 classroom English
- 第3回 movies
- 第4回 television
- 第5回 work-A
- 第6回 work-B
- 第7回 health-A
- 第8回 health-B
- 第9回 love & marriage
- 第10回 music
- 第11回 books
- 第12回 places in Japan
- 第13回 Japanese culture
- 第14回 talking about Japan
- 第15回 review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4580244420056

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ジェームス デイグル	
テーマ Global Events and Topics	
授業の到達目標 Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others	
授業の概要 There will be various activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.	
内 容 第1回 Orientation 第2回 Communication 1 第3回 Communication 2 第4回 The Future 1 第5回 The Future 2 第6回 Shopping For Clothes 1 第7回 Shopping For Clothes 2 第8回 Review 第9回 Lifestyles 1 第10回 Lifestyles 2 第11回 Achievements 1 第12回 Achievements 2 第13回 Consequences 1 第14回 Consequences 2 第15回 Final Review	
履修上の注意点	
教科書 World English-13 1B 著者: 出版社: Heinle Cengage Learning 出版年: ISBN: 978-1424051076	
参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (40) 参加度 (30)	小テスト () 授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 高居 佐紀		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Unit 1 Sentence Patterns (5文型) 第2回 Unit 2 Nouns and Modifiers (名詞とその修飾句) 第3回 Unit 3 Adjectives and Adverbs (形容詞と副詞) 第4回 Unit 4 Tricky Prepositions (間違いやすい前置詞) 第5回 Review Test 1 for Units 1, 2, 3 and 4 第6回 Unit 5 Auxiliary Verbs (助動詞) 第7回 Unit 6 Causative Verbs and Verbs of Perception (使役動詞と知覚動詞) 第8回 Unit 7 Conjunctions (小さい接続詞と大きな接続詞) 第9回 Unit 8 Relative Clauses (関係詞) 第10回 Review Test 2 for Units 5, 6, 7 and 8 第11回 Unit 9 Tense (時制) 第12回 Unit 10 Quantifiers and the Correct Verbs (数量詞と動詞の関係) 第13回 Unit 11 Conditional Sentences (条件文/仮定法) 第14回 Unit 12 Verb+ing vs. Verb+to+Stem Verb (～ingにつく動詞・toにつく動詞) Review Test 3 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 TOEIC Test: On Target Book 1 著者: 大賀リ工 William J. Benfield 出版社: 南雲堂 出版年: 2010 ISBN: 9784523176480 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者: 小池直己 出版社: 南雲堂 出版年: 2007 ISBN: 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900128		
参考書		
成績評価 試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)		

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <e>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 前期獲得目標:プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、発信力となるライティングとスピーキング、そして受容力となるリーディングとリスニングを総合的に学んでいく。英語コミュニケーションに必要となる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とする。	
授業の概要 「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上(150 words～)のプレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をします。発表は全て英語、原稿を手を持って読むことは禁止です。前期でうまくいかなかった点を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題としましょう。そして、ただ英語を棒読みするのではなく、オーディエンスの心に届くよう、聞き手の立場に立ったプレゼンテーションができるように、練習します。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、1週間に授業時間外で1～3時間かかると考えておいて下さい。また授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外で自分でそれを補って下さい。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。そして、英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れてほしいです。	
内 容 第1回 Orientation & Icebreaking 第2回 Project1 Introducing Japan: Step1 第3回 Project 1 Introducing Yourself: Step2 第4回 Project 1 Introducing Yourself: Step3 第5回 Project 1 Introducing Yourself: Presentation 第6回 Project2 How to Make a Presentation: Step1 第7回 Project2 How to Make a Presentation: Step2 第8回 Project2 How to Make a Presentation: Step3 第9回 Project2 How to Make a Presentation: Presentation 第10回 Review 第11回 Project3 Discussing Social Issues: Step1 第12回 Project3 Discussing Social Issues: Step2 第13回 Project3 Discussing Social Issues: Step3 第14回 Project3 Discussing Social Issues: Presentation 第15回 Review	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があります。また、遅刻3回で欠席1回と数えますし、グループ発表のプロジェクトが始まりましたら、欠席にペナルティを課します。そして、授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席して下さい。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9484863122642	
参考書 「意味順」英語学習法 著者: 田地野彰 出版社: (株)ディスカバー・トゥエンティワン 出版年: 2011 ISBN: 9784799310995	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <f>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

TOEIC テストの受験準備を通して英語読解力、文法力をアップしよう

授業の到達目標

スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。文法力を増す。目的に合わせて英文を読む力を養う。

授業の概要

復習語彙・文法小テスト文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をする。

準備学習(予習・復習)

復習語彙・文法小テストの準備、語彙力をアップさせるためにも語彙を復習する

内 容

- 第1回 Unit 1 Daily life 品詞の違い、広告を読む
 第2回 Unit 2 Places カードを読む
 第3回 Unit 3 People 代名詞、図表と手紙を読む
 第4回 Unit 4 Travel 案内を読む文法まとめ小テスト
 第5回 Unit 5 Business 動詞の形、通知・メモを読む
 第6回 Unit 6 Office 手紙を読む
 第7回 Unit 7 Technology 語彙関連、図表、手紙を読む文法まとめ小テスト
 第8回 Unit 8 Personnel 記事を読むUnit 9 Management 接続詞
 第9回 Unit 9 Management通知を読むUnit 10 Purchasing 手紙とレシートを読む
 第10回 Unit 11 Finances 時制、レシピを読むUnit 12 Media 記事を読む
 第11回 Unit 13 Entertainment 前置詞unit 15 Restaurant 熟語
 第12回 文法まとめ小テスト 模擬テスト
 第13回 模擬テスト
 第14回 時事英語を読む
 第15回 時事英語を読む

履修上の注意点

辞書を必ず携帯する授業中に携帯を触った場合、成績から減点する

教科書

Successful Keys to the TOEIC Test Goal 500

著者: 水本篤, Mark D. Stafford

出版社: ピアソン桐原

出版年: 2013 11刷

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (25)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (5)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合わせて25%とする

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <g>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得する。

授業の到達目標

総合的な英語力を養うと同時に異国の文化や風習を理解することを目指す。

授業の概要

安易な英語で書かれた様々な国の文化や風習を学び、英語運用能力を養う。

準備学習(予習・復習)

詳細は授業で説明する。

内 容

- 第1回 India
- 第2回 Philippines
- 第3回 Thailand
- 第4回 Vietnam
- 第5回 Korea
- 第6回 France
- 第7回 Italy
- 第8回 Denmark
- 第9回 Portugal
- 第10回 Turkey
- 第11回 Egypt
- 第12回 South Africa
- 第13回 Brazil
- 第14回 Peru
- 第15回 Guatemala

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

World Adventures

著者: Scott Berlin / 小林 めぐみ

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9784764739079

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <h>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

時事英語への発展。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

英文テキストの内容を正確に読み取る練習を続けます。テキスト付属の音源その他で英語の音とリズムに慣れる練習をします。

準備学習(予習・復習)

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

内 容

- 第1回 Chapter 7 Hikikomori
- 第2回 Chapter 7 Hikikomori
- 第3回 Chapter 8 Cults
- 第4回 Chapter 8 Cults
- 第5回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第6回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第7回 Review
- 第8回 Chapter 10 Immigration
- 第9回 Chapter 11 Telecommuting
- 第10回 Chapter 11 Telecommuting, Chapter 12 Buying Organs
- 第11回 Chapter 12 Buying Organs, Chapter 13 Surrogate Mother
- 第12回 Chapter 13 Surrogate Mother, Chapter 14 Baby Hatch
- 第13回 Chapter 14 Baby Hatch, Chapter 15 Eating Disorder
- 第14回 Chapter 15 Eating Disorder, Summary
- 第15回 Review

履修上の注意点

教科書

Keywords for Japan Today

著者: Paul Stapleton

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9784863120433

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストを定期的に行い習熟度をチェックします。

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <i>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。	
授業の概要 序盤はTOEIC頻出の文法項目の点検に充てるが、中盤以降はリーディングパートを量的にこなすことに主眼を置き、スピーディにしかも正確に英文を処理する力の育成をめざす。問題を解いた後、ペアワークで、構文の理解やキーセンテンスの確認などを行い、確実に英文を理解する力をつけて行く。適宜時事英語も扱う。	
準備学習(予習・復習) 語彙学習(予習・30分程度) リーディングタスク(宿題・40分程度)、日ごろから英語で情報を取り入れることを習慣化すること。	
内 容 第1回 Introduction 第2回 Word Form (Nouns, Verbs, Adjectives, Adverbs) 第3回 Context (Adverbs, Conjunctions, Prepositions) 第4回 Verb Tenses 第5回 Modifiers 第6回 Part 5 & 6 Strategy Practice 第7回 Reading Strategies (Skimming, Scanning, Reading Fast) 第8回 Part 7 Strategy Practice 第9回 Practice Test 1 (Part 5 & 6) 第10回 Practice Test 2 (Part 5 & 6) 第11回 Practice Test 2 (Part 7) 第12回 Practice Test 3 (Part 5 & 6) 第13回 Practice Test 3 (Part 7) 第14回 Current Topics (1) 第15回 Current Topics (2)	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。TOEIC自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨むこと。	
教科書 Longman Preparation Series for the TOEIC Test Student Book with CD-ROM & iTest Intermediate Course, 5th edition 著者: Lin Lougheed 出版社: Pearson Education 出版年: 2012 ISBN: 9780132861427	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (25%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 () 参加度 (30%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <j>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 川口 玲子	
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す	
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。	
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。	
内 容 第1回 Chapter 1 At an Airport Chapter 2 At a Hotel 基本文型 名詞の修飾 第2回 Chapter 3 On the Street Chapter 4 At a Restaurant 文と文の接続 知覚動詞と使役動詞 第3回 Chapter 5 Shopping Chapter 6 At a Bank 助動詞 その他の助動詞と助動詞＋完了形 第4回 Chapter 7 Taking a Trip Chapter 8 Seeing the Doctor 時制 現在完了 第5回 Chapter 9 Renting an Apartment Chapter 10 Sports 前置詞 to不定詞 第6回 Chapter 11 Job Hunting Chapter 12 Talking on the Phone 仮定法過去 仮定法過去完了 第7回 Chapter 13 Appointment Chapter 14 Giving a Presentation 受動態 動名詞と分詞構文 第8回 Chapter 15 Negotiating Chapter 16 Meeting 関係代名詞 関係副詞 第9回 Chapter 17 Business Performance Chapter 18 Dealing with Complaints 比較 名詞と冠詞 第10回 Chapter 19 Market Trends Chapter20 Parties 注意すべき名詞の数と数量形容詞 強調構文と倒置 第11回 演習 短文穴埋め問題 第12回 演習 長文穴埋め問題 第13回 演習 読解問題 1つの文書 第14回 演習 読解問題 2つの文書 第15回 総復習	
履修上の注意点	
教科書 Kick off for the TOEIC Test 著者： 松岡昇 出版社： 金星堂 出版年： 2006 ISBN: 9784764738188 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者： 小池直己 出版社： 南雲堂 出版年： 2007 ISBN: 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者： 小山克明 Kent Domries 出版社： Z会 出版年： 2008 ISBN: 9784862900128	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)	

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <k>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 櫃本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

英語圏で生活する上で必要なリーディング力の養成とともに、異文化への関心を高め、自国の情報を発信できる英語力の養成を目指す。そのために必要な基本的な英文法を身に付ける。

授業の概要

リーディングに加え、リスニング、スピーキング、ライティングも演習する。英語で収集した情報をクラス発表する。

準備学習(予習・復習)

課題を確実にこなす。積極的に授業に参加する。

内 容

- 第1回 Unit 8文法演習
- 第2回 Unit 9文法演習
- 第3回 Unit 9文法演習
- 第4回 Unit 10文法演習
- 第5回 Unit 10文法演習
- 第6回 Unit 11文法演習
- 第7回 Unit 11文法演習
- 第8回 Unit 12文法演習
- 第9回 Unit 12文法演習
- 第10回 Unit 13文法演習
- 第11回 Unit 13文法演習
- 第12回 Unit 14文法演習
- 第13回 Unit 15文法演習
- 第14回 Unit 15文法演習
- 第15回 Unit 16文法演習

履修上の注意点

教科書

前期とおなじ

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA<I>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

英字新聞や英語のニュースに抵抗なく接することが出来るようになること。

授業の到達目標

時事英語を通して、英語の4技能の総合的な力を養うことを目標とします。

授業の概要

アメリカのCNNニュースを教材に用い、様々なリスニング演習を行います。また英字新聞の読解力を向上させるための語彙や表現についても学習します。

準備学習(予習・復習)

インターネット等を利用して英語のニュースを聞くようにする。英字新聞を読むこと。

内 容

- 第1回 Introduction, CNN Unit 8 / 英字新聞 additional
- 第2回 CNN Unit 8 / 英字新聞 additional
- 第3回 CNN Unit 9 / 英字新聞 Unit 13
- 第4回 CNN Unit 9 / 英字新聞 Unit 14
- 第5回 CNN Unit 10 / 英字新聞 Unit 15
- 第6回 CNN Unit 10 / 英字新聞 Unit 16
- 第7回 CNN Unit 11 / 英字新聞 Unit 17
- 第8回 CNN Unit 11 / 英字新聞 Unit 18
- 第9回 CNN Unit 12 / 英字新聞 Unit 19
- 第10回 CNN Unit 12 / 英字新聞 Unit 20
- 第11回 CNN Unit 13 / 英字新聞 extra exercise
- 第12回 CNN Unit 13 / 英字新聞 extra exercise
- 第13回 CNN Unit 14 / 英字新聞 extra exercise
- 第14回 CNN Unit 14 / 英字新聞 extra exercise
- 第15回 CNN Unit 15 / 英字新聞 Review

履修上の注意点

授業内課題に真剣に取り組み、提出物等の期限は厳守すること。教科書付属のCDを自宅でも繰り返し聴くこと。

教科書

Power Up Your English with CNN News

著者: Shinji Ogasawara 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155579

5分間 英字新聞(改訂版)

著者: 大澤 岳彦 / 堤 龍一郎

出版社: 南雲堂

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <m>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 原 俊樹

テーマ

一段上の英語力を身につけよ

授業の到達目標

ⅢAと同様に、実践的な英語運用能力を身につける

授業の概要

基本的には各ユニットに沿って授業を進める。

準備学習(予習・復習)

予習・復習を確実にしてくること。

内 容

- 第1回 テキスト前半部の学習内容の整理と確認
 第2回 基礎力判定実力テスト英文の基本表現の確認1:英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
 第3回 英文の基本表現の確認2:5文型
 第4回 英文の基本表現の確認3:文の要素・修飾語句
 第5回 叙法
 第6回 関係詞(関係代名詞と関係副詞)
 第7回 助動詞の用法1
 第8回 助動詞の用法2
 第9回 話法
 第10回 比較
 第11回 否定
 第12回 疑問
 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1:接続語句と重文・複文
 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2:分詞構文
 第15回 後期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

English through the News Media 2015 edition

著者: MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155494

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (20%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <n>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 野口 博代

テーマ

英字新聞や英語のニュースに抵抗なく接することが出来るようになること。

授業の到達目標

時事英語を通して、英語の4技能の総合的な力を養うことを目標とします。

授業の概要

アメリカのCNNニュースを教材に用い、様々なリスニング演習を行います。また英字新聞の読解力を向上させるための語彙や表現についても学習します。

準備学習(予習・復習)

インターネット等を利用して英語のニュースを聞くようにする。英字新聞を読むこと。

内 容

- 第1回 Introduction, CNN Unit 8 / 英字新聞 additional
- 第2回 CNN Unit 8 / 英字新聞 additional
- 第3回 CNN Unit 9 / 英字新聞 Unit 13
- 第4回 CNN Unit 9 / 英字新聞 Unit 14
- 第5回 CNN Unit 10 / 英字新聞 Unit 15
- 第6回 CNN Unit 10 / 英字新聞 Unit 16
- 第7回 CNN Unit 11 / 英字新聞 Unit 17
- 第8回 CNN Unit 11 / 英字新聞 Unit 18
- 第9回 CNN Unit 12 / 英字新聞 Unit 19
- 第10回 CNN Unit 12 / 英字新聞 Unit 20
- 第11回 CNN Unit 13 / 英字新聞 extra exercise
- 第12回 CNN Unit 13 / 英字新聞 extra exercise
- 第13回 CNN Unit 14 / 英字新聞 extra exercise
- 第14回 CNN Unit 14 / 英字新聞 extra exercise
- 第15回 CNN Unit 15 / 英字新聞 Review

履修上の注意点

授業内課題に真剣に取り組み、提出物等の期限は厳守すること。教科書付属のCDを自宅でも繰り返し聴くこと。

教科書

Power Up Your English with CNN News

著者: Shinji Ogasawara 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2015

ISBN: 9784255155579

5分間 英字新聞(改訂版)

著者: 大澤 岳彦 / 堤 龍一郎

出版社: 南雲堂

出版年: 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <○>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 川口 玲子		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Chapter 1 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7 第2回 Chapter 2 Part 2 Part 4 Part 5 Part 6 第3回 Chapter 3 Part 3 Part 5 Part 7 第4回 Chapter 4 Part 2 Part 4 Part 7 第5回 Chapter 5 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7 第6回 Chapter 6 Part 2 Part 4 Part 5 Part 6 第7回 Chapter 7 Part 3 Part 5 Part 7 第8回 Chapter 8 Part 2 Part 4 Part 7 第9回 Chapter 9 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7 第10回 Chapter 10 Part 2 Part 4 Part 5 Part 7 第11回 Chapter 11 Part 3 Part 5 Part 7 第12回 Chapter 12 Part 2 Part 4 Part 7 第13回 Chapter 13 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7 第14回 Chapter 14 Part 2 Part 4 Part 5 Part 7 TOEIC QUIZE 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 An Intensive Approach to the TOEIC Test 著者： 松岡昇 出版社： 金星堂 出版年： 2008 ISBN: 9784764738584		
参考書		
成績評価 試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0) 参加度 (30) 上記に加えて学期末英語テスト20%		

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <p>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 原 俊樹		
テーマ 一段上の英語の運営能力を身につける		
授業の到達目標 ⅢAと同様に、英語の理解・運用の能力を身につける。		
授業の概要 ⅢA同様に基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を進める習熟度・理解度をみるための小テスト・実力テスト・課題を用意します		
準備学習(予習・復習) 予習・復習を確実にすること		
内 容 第1回 テキスト前半部(ⅢA範囲)の学習内容の整理と確認 第2回 基礎力判定テスト英文の基本表現の確認1:英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方 第3回 英文の基本表現の確認2:5文型 第4回 英文の基本構造の確認3:文の要素と修飾語句 第5回 叙法:直説法・命令法・仮定法 第6回 関係詞:関係代名詞と関係副詞 第7回 助動詞の用法1 第8回 助動詞の用法2 第9回 話法 第10回 比較 第11回 否定 第12回 疑問 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1:接続語句と重文・複文 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2:分詞構文 第15回 後期のまとめ・到達度の確認		
履修上の注意点		
教科書 Understanding Health Care 著者: Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ etc. 出版社: Asahi Press 出版年: 2011 ISBN: 9784255155036		
参考書		
成績評価 試験 (50%) 授業中課題 (10%) 参加度 (10%)	小テスト (20%) 授業中発表等 (10%)	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <TOEIC>**

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 mitei	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 "</p> <p>第3回 "</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 "</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 "</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 "</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 "</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 "</p> <p>第15回 "</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <Gen>**

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 mitei	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 "</p> <p>第3回 "</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 "</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 "</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 "</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 "</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 "</p> <p>第15回 "</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語ⅣA <R>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

英日翻訳を実践していくことで、日英語の違いを学んでいく

授業の到達目標

日本は翻訳天国と言われている。何しろ、世界哲学全集を日本語で読める国などそう多くはない。イギリス文学はもちろんのこと、ロシア文学もすべて日本語で読める。さらに、大学の医学部ですべての授業が日本語で講義できる国はアジアでは日本だけと言えるだろう。「十二指腸」や「盲腸」でも翻訳語ができ上がっている。7世紀には漢字をそのまま導入し、最近でも漢文によって中国文学を理解している。英日語翻訳を通して、日本文化の底流に流れている「翻訳文化」の効用を学んでいきたい。

授業の概要

毎回プリントで楽しい英文を配布し、それをその場で翻訳してもらう。意見やさしい英日翻訳も、日本語ができなければ美しい日本語には訳せない。日本語に翻訳しながら、「英日翻訳文法」を学んでもらう。

準備学習(予習・復習)

新聞、雑誌にあふれている<翻訳日本語>を調べ、取り出してもらおう。TPPIは「環太平洋パートナーシップ」の訳でいいのか？「原子力をベースにする」とはどんな意味なのか？「橋壮」「橋アパート」「橋マンション」「橋ジャルダン」と聞いて、どんなイメージを受けるだろうか。江戸時代はオランダ語をことごとく日本語に翻訳して、「社会」「会社」「十二指腸」「哲学」という新しい言葉を生み出した。現在はどうか、全員で考えてほしい。

内 容

- 第1回 英日翻訳とは何か(翻訳は翻訳者の数だけ存在する) To be or not to be: that is the question.をどう訳す？
- 第2回 主語あり英語を主語なし日本語にどう訳すのか
- 第3回 厄介なく代名詞>の訳し方(「彼」「彼女」「それ」と訳してはダメ)
- 第4回 名詞中心構文をどう動詞中心構文に訳すのか(I have a fear of death=いつか死ぬという不安がある)
- 第5回 名詞中心構文の代表選手<関係代名詞>の訳し方
- 第6回 前から訳せ<関係代名詞>という鉄則
- 第7回 魔法の杖<that>という接続詞の訳し方
- 第8回 <時制>という魔物(「秋でした」はいいが、「美しいでした」は？)
- 第9回 歴史書はすべて<過去形>で訳せばいいのか？(日本語に<時制>はない)
- 第10回 <間接話法>は<直接話法>で訳せ(日本語は直接話法が好き)
- 第11回 <隠れた文化>をどう訳すか(Good morning.はなぜ「おはよう」なのか？)
- 第12回 <ベッドの文化>を<畳の文化>にどう訳せばいいのか？
- 第13回 drinkと「飲む」、waterと「水」はどう違うのか？ 英日語対照による、<意味>のずれ
- 第14回 英日翻訳の実践(日本語に存在しない英語をどう訳すのか？)
- 第15回 英日翻訳の実践(児童文学の翻訳—翻訳したい児童文学)

履修上の注意点

教科書

杉山泰「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

初めて学ぶ「翻訳」「通訳」

著者: 杉山泰ほか

出版社: 松柏社

出版年:

ISBN:

心に届く英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 1999年

ISBN:

日本語は敬語があつて主語がない

著者： 光文社新書

出版社：

出版年： 2010年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 20 ）

あと20%は外部のToeic試験の結果、授業以外でのレポート提出、日本文学の翻訳についてのエッセイなどを加味する。

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 占部 幹也		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Chapter 1 Part 1 Part 3 第2回 Chapter 2 Part 2 Part 4 第3回 Chapter 3 Part 3 第4回 Chapter 4 Part 2 Part 4 第5回 Chapter 5 Part 1 Part 3 第6回 Chapter 6 Part 2 Part 4 第7回 Chapter 7 Part 3 第8回 Chapter 8 Part 2 Part 4 第9回 Chapter 9 Part 1 Part 3 第10回 Chapter 10 Part 2 Part 4 第11回 Chapter 11 Part 3 第12回 Chapter 12 Part 2 Part 4 第13回 Chapter 13 Part 1 Part 3 第14回 Chapter 14 Part2 Part 4 TOEIC QUIZE 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 An Intensive Approach to the TOEIC Test 著者： 松岡昇 出版社： 金星堂 出版年： 2008 ISBN： 9784764738584 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者： 小池直己 出版社： 南雲堂 出版年： 2007 ISBN： 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者： 小山克明 Kent Domries 出版社： Z会 出版年： 2008 ISBN： 9784862900128		
参考書		
成績評価 試験 (30) 授業中課題 (0)	小テスト (20) 授業中発表等 (0)	

aks202a450

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 英語IVB

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 田中 美和子	
テーマ 国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する	
授業の到達目標 プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、発信力となるライティングとスピーキング、そして受容力となるリーディングとリスニングを総合的に学んでいきます。英語コミュニケーションに必要となる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とします。	
授業の概要 「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上(150 words～)のプレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をします。発表は全て英語、原稿を手を持って読むことは禁止です。前期でうまくいかなかった点を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題としましょう。そして、ただ英語を棒読みするのではなく、オーディエンスの心に届くよう、聞き手の立場に立ったプレゼンテーションができるように、練習します。	
準備学習(予習・復習) 英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、1週間に授業時間外で1～3時間かかると考えておいて下さい。また授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外で自分でそれを補って下さい。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。そして、英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れてほしいです。	
内 容 第1回 Orientation & Icebreaking 第2回 Project1 Introducing Japan: Step1 第3回 Project1 Introducing Japan: Step2 第4回 Project1 Introducing Japan: Step3 第5回 Project1 Introducing Japan: Presentation 第6回 Project2 How to Make a Presentation: Step1 第7回 Project2 How to Make a Presentation: Step2 第8回 Project2 How to Make a Presentation: Step3 第9回 Project2 How to Make a Presentation: Presentation 第10回 Review 第11回 Project3 Discussing Social Issues: Step1 第12回 Project3 Discussing Social Issues: Step2 第13回 Project3 Discussing Social Issues: Step3 第14回 Project3 Discussing Social Issues: Presentation 第15回 Review	
履修上の注意点 発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があります。また、遅刻3回で欠席1回と数えますし、グループ発表のプロジェクトが始まりましたら、欠席にペナルティを課します。そして、授業には、英和辞書(電子辞書もしくは紙の辞書)を必ず持って出席して下さい。	
教科書 Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション 著者: 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子 出版社: センゲージラーニング株式会社 出版年: 2014 ISBN: 9484863122642	
参考書 「意味順」英語学習法 著者: 田地野彰 出版社: (株)ディスカバー・トゥエンティワン 出版年: 2011 ISBN: 9784799310995	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <c>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 松村 優子		
テーマ ニュース英語・時事英語の修得		
授業の到達目標 CBS Evening Newsを題材に、リスニング能力向上や時事的知識や時事英語の修得を目指す。		
授業の概要 CBS Evening Newsを視聴して内容を理解した後、音読しながら、時事英語に関する語彙や表現に慣れ親しめるようにアウトプット練習も行う。詳細は授業内で説明する。		
準備学習(予習・復習) 授業中に指定する箇所の予習・復習。		
内 容 第1回 Introduction 第2回 Unit 8 Smart Networking Tips(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第3回 Unit 8 Smart Networking Tips(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第4回 Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the US via the Robot(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第5回 Unit 9 Bringing Manufacturing Back to the US via the Robot(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第6回 Unit 10 Manners 101(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第7回 Unit 10 Manners 101(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第8回 Unit 11 Baby Boomers Moving Back to Cities(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第9回 Unit 11 Baby Boomers Moving Back to Cities(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第10回 Unit 14 “Technovation” Aims to Get More Women in the Tech Workforce(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第11回 Unit 14 “Technovation” Aims to Get More Women in the Tech Workforce(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第12回 Unit 15 Flipped Classroom is Changing the Way Students Learn(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第13回 Unit 15 Flipped Classroom is Changing the Way Students Learn(新出語彙の学習、内容理解・要約練習など) 第14回 まとめ、復習 第15回 まとめ、復習		
履修上の注意点 2/3以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしないように。		
教科書 CBS Newsbreak 2 著者：熊井 信弘他 出版社：成美堂 出版年：2015年 ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (0%) 授業中課題 (20%) 参加度 (15%) 詳細は授業内で説明します。	小テスト (50%) 授業中発表等 (15%)	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 高居 佐紀		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Unit 1 Going Overseas 第2回 Unit 2 Going Shopping 第3回 Unit 3 Talking about Food and Health 第4回 Unit 4 Enjoying Sports and Entertainment 第5回 Review Test 1 for Units 1, 2, 3 and 4 第6回 Unit 5 Preserving Nature 第7回 Unit 6 Giving Directions 第8回 Unit 7 Going Job Hunting 第9回 Unit 8 Working in the Office 第10回 Review Test 2 for Units 5, 6, 7 and 8 第11回 Unit 9 Paying the Bills 第12回 Unit 10 Advertising a New Product 第13回 Unit 11 Renting an Apartment 第14回 Unit 12 Troubleshooting Review Test 3 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 TOEIC Test: On Target Book 1 著者: 大賀リ工 William J. Benfield 出版社: 南雲堂 出版年: 2010 ISBN: 9784523176480 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者: 小池直己 出版社: 南雲堂 出版年: 2007 ISBN: 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900128		
参考書		
成績評価 試験 (30) 授業中課題 (0)	小テスト (20) 授業中発表等 (0)	

aks202a454

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	ブライアン・スカガイル	
テーマ	Expressing More of Your Ideas in English	
授業の到達目標	The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.	
授業の概要	This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習)	If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.	
内 容	第1回 introductions 第2回 classroom English 第3回 movies 第4回 television 第5回 work-A 第6回 work-B 第7回 health-A 第8回 health-B 第9回 love & marriage 第10回 music 第11回 books 第12回 places in Japan 第13回 Japanese culture 第14回 talking about Japan 第15回 review	
履修上の注意点	If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.	
教科書	Let's Chat 著者: John Pak 出版社: EFL Press 出版年: 2007 ISBN: 4580244420056	
参考書		
成績評価	試験 (20) 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <f>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 小川 享子	
テーマ TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう	
授業の到達目標 スコアを伸ばす(少なくとも15点以上)。語彙力を増やす。目的に合わせてリスニング問題の英文を速く読む力を養う。	
授業の概要 予習語彙小テスト宿題のリスニング課題問題のチェック(さらなるリスニング演習)	
準備学習(予習・復習) 語彙の学習が予習となり、それを踏まえての小テストとなるので、授業の前に該当範囲を予習する。数回分のユニットを学習後、同じリスニング教材を使って復習テストをするので、繰り返し聞くこと。	
内 容 第1回 授業や評価方法の説明、宿題、語彙テストのやり方の説明Unit 1 Daily life 第2回 Unit2 Places 第3回 Unit 3 People 第4回 Unit 4 Travel音声復習テスト 第5回 Unit 5 Business 第6回 Unit 6 Office 第7回 Unit 7 Technology音声復習テスト 第8回 Unit 8 Personnel 第9回 Unit 9 Management 第10回 Unit 10 Purchasing音声復習テスト 第11回 Unit 11 Finances 第12回 Unit 12 Media 第13回 Unit 13 Health音声復習テスト 第14回 スピーキングテストに挑戦 第15回 スピーキングテストに挑戦	
履修上の注意点 必ず辞書を携帯すること。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をする。音声はDownloadによる教材なので、しない学生は成績より5点減点する	
教科書 Successful Keys to the TOEIC Test Goal 500 著者： 水本篤, Mark D. Stafford 出版社：ピアソン桐原 出版年：2013 11刷 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (25) 小テスト (30) 授業中課題 (10) 授業中発表等 (5) 参加度 (10) 上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合わせて25%で計算する。	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <g>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 クーラン コーリ	
テーマ Travel English	
授業の到達目標 Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.	
授業の概要 **This course will be taught in English**We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.	
準備学習(予習・復習) Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.	
内 容 第1回 Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?" 第2回 Finish Unit 7 第3回 Begin Unit 8 "I have to study." 第4回 Finish Unit 8 第5回 Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?" 第6回 Finish Unit 9 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9 第8回 Begin Unit 10 "I think I'm lost!" 第9回 Finish Unit 10 第10回 Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?" 第11回 Finish Unit 11 第12回 Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?" 第13回 Finish Unit 12 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12 第15回 Review and recap of semester	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.	
教科書 My First Passport 2 著者: Tanja McCandie 出版社: Oxford 出版年: 2006 ISBN: 9780194718004	
参考書	
成績評価 試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (30) 参加度 (30) In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester.	

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <h>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ヒエタラヒティ エレキ		
テーマ Oral English with Culture Content		
授業の到達目標 Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.		
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as using basic verb tenses.		
準備学習(予習・復習) It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.		
内 容 第1回 Start Unit 5 "Sports" 第2回 Continue Unit 5 第3回 Finish Unit 5 第4回 Start Unit 6 "Destinations" 第5回 Continue Unit 6 第6回 Finish Unit 6 第7回 Review and reflection of Units 5 and 6 第8回 Start Unit 7 "Communication" 第9回 Continue Unit 7 第10回 Finish Unit 7 第11回 Start Unit 8 "Moving Forward" 第12回 Continue Unit 8 第13回 Finish Unit 8 第14回 Review and reflection of Units 7 and 8 第15回 Semester review and recap		
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.		
教科書 World English 1 著者: Martin Milner 出版社: Heinle, Cengage Learning 出版年: 2015 ISBN: 9781305366572 World English 1: Printed Workbook 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.		

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <i>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 溝部 芳子	
テーマ TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上	
授業の到達目標 TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。	
授業の概要 序盤はPart 2,3,4 に必要なリスニングスキル習得のための基礎練習にあてる。中盤以降は毎回たくさんのリスニング問題を解いて、集中して聴き続ける力を養う。音読にも力を入れたい。	
準備学習(予習・復習) 与えられた予習または復習用のリスニングタスクに取り組む。(毎回30分から1時間程度) Web 等を利用して、身近なニュースを英語で聴く習慣をつける。	
内 容 第1回 Introduction, Strategy Practice (Part 1) 第2回 Part 2 Strategy Practice (Statements, Occupations, Activities) 第3回 Part 2 Strategy Practice (Time, Location, Reason) 第4回 Part 3 Strategy Practice (Occupations, Activities) 第5回 Part 3 Strategy Practice (Time, Location, Reason) 第6回 Part 4 Strategy Practice (Advertisements, Weather) 第7回 Part 4 Strategy Practice (Announcements, News) 第8回 Listening Comprehension Review (1) 第9回 Listening Comprehension Review (2) 第10回 Practice Test (1) 第11回 Practice Test (1) 第12回 Practice Test (2) 第13回 Practice Test (2) 第14回 Practice Test (3) 第15回 Review of Skills	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が必要です。TOEICの自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨んでください。	
教科書 Longman Preparation Series for the TOEIC Test Student Book with CD-ROM & iTest Intermediate Course, 5th edition 著者: Lin Lougheed 出版社: Pearson Education 出版年: 2012 ISBN: 9780132861427	
参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (25%) 授業中課題 (25%) 授業中発表等 () 参加度 (30%) 上記に加えて学期末英語テスト20%	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <j>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 川口 玲子		
テーマ TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上		
授業の到達目標 TOEIC試験スコア50点アップを目指す		
授業の概要 各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。		
準備学習(予習・復習) 英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。		
内 容 第1回 Chapter 1 At an Airport Chapter 2 At a Hotel Part 1, Part 2, Part 4 第2回 Chapter 3 On the Street Chapter 4 At a Restaurant Part 1, Part 3, Part 4 第3回 Chapter 5 Shopping Chapter 6 At a Bank Part 2, Part 3, Part 4 第4回 Chapter 7 Taking a Trip Chapter 8 Seeing the Doctor Part 1, Part 2, Part 4 第5回 Chapter 9 Renting an Apartment Chapter 10 Sports Part 1, Part 3, Part 4 第6回 Chapter 11 Job Hunting Chapter 12 Talking on the Phone Part 2, Part 3, Part 4 第7回 Chapter 13 Appointment Chapter 14 Giving a Presentation Part 1, Part 2, Part 4 第8回 Chapter 15 Negotiating Chapter 16 Meeting Part 1, Part 3, Part 4 第9回 Chapter 17 Business Performance Chapter 18 Dealing with Complaints Part 2, Part 3, Part 4 第10回 Chapter 19 Market Trends Chapter 20 Parties Part 1, Part 2, Part 4 第11回 演習 写真描写問題 第12回 演習 応答問題 第13回 演習 会話問題 第14回 演習 説明文問題 第15回 総復習		
履修上の注意点		
教科書 Kick off for the TOEIC Test 著者: 松岡昇 出版社: 金星堂 出版年: 2006 ISBN: 9784764738188 A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar 著者: 小池直己 出版社: 南雲堂 出版年: 2007 ISBN: 9784523175513 新TOEIC Test レベル判定模試 3 著者: 小山克明 Kent Domries 出版社: Z会 出版年: 2008 ISBN: 9784862900128		
参考書		
成績評価 試験 (30) 小テスト (20) 授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)		

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <k>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ソーソン マーカス		
テーマ Acting English Drama		
授業の到達目標 This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.		
授業の概要 Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.		
準備学習(予習・復習) Preview next lesson before each class and extra for tests.		
内 容 第1回 Introductions, Class Objectives 第2回 Journals Homework #1 Introduction. 第3回 The Alien Truth – Story Research 第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5 第5回 Leaving Normal – Acting Scene. 第6回 Episode 5 Missing Q – A 第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene 第8回 Episode 7 Riverdog – Acting 第9回 Story Review – Tell the story. 第10回 Episode 9 Heat Wave 第11回 Final Journals week 10 第12回 Presentations – Reports 第13回 Toy House – Acting Scene 第14回 Into the Woods 第15回 The Convention – Q and A		
履修上の注意点 You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.		
教科書 Acting English Drama 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書		
成績評価 試験 (20) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <I>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 Summer vacation reports
- 第2回 Describing characteristics and qualities
- 第3回 Comparing different types of communication styles
- 第4回 Halloween and superstitions
- 第5回 Talking about weekend plans
- 第6回 Making weather predictions
- 第7回 Making comparisons
- 第8回 Talking about clothing and shopping styles
- 第9回 Healthy habits
- 第10回 Making suggestions
- 第11回 Evaluating one's lifestyle
- 第12回 Interviewing for a job
- 第13回 Christmas around the world
- 第14回 Making financial choices
- 第15回 Actions and consequences and course review

履修上の注意点

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Cengage Learning

出版年: 2015

ISBN: 9781285848693

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <m>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 フリンハンナマイケル	
テーマ Using English for Communication	
授業の到達目標 Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context	
授業の概要 This course will be taught in English.	
準備学習(予習・復習) Do assigned homework, preview and review textbook.	
内 容	
第1回 Orientation and Summer vacation	
第2回 Your Family	
第3回 Typical families	
第4回 Making generalizations	
第5回 Sports	
第6回 Fitness	
第7回 Talking about quantity and frequency	
第8回 Review	
第9回 Leisure activities	
第10回 Weekends	
第11回 Vacations	
第12回 Your neighborhood	
第13回 Places	
第14回 Complaints	
第15回 Review	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書	
Interchange I Student's Book A(fourth Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9780521601757
Interchange I Workbook A(4th Edition)	
著者: Jack C. Richards	
出版社: Cambridge University Press	
出版年:	ISBN: 9780521601788
参考書	
成績評価	
試験 (0)	小テスト (55)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (45)	
Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.	

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <n>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 ヒエタラヒティ エレキ	
テーマ Nursing English	
授業の到達目標 Learn the basics of healthcare English.	
授業の概要 - THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will also learn special healthcare words.	
準備学習(予習・復習) It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.	
内 容 第1回 Start Unit 7 "Locations of Hospital Objects" 第2回 Finish Unit 7 第3回 Start Unit 8 "Hospital Directions and Instructions" 第4回 Finish Unit 8 第5回 Start Unit 9 "Directions (Outside the Hospital)" 第6回 Finish Unit 9 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9 第8回 Start Unit 10 "Chatting with a Patient" 第9回 Finish Unit 10 第10回 Start Unit 11 "Taking a Medical History" 第11回 Finish Unit 11 第12回 Start Unit 12 "Hospital Procedures" 第13回 Finish Unit 12 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12 第15回 Semester review and recap	
履修上の注意点 You must attend 10 or more classes to pass the course.	
教科書 Vital Signs 著者: Morooka & Sugiura 出版社: Nan'un-do 出版年: 2009 ISBN: 9784523176305	
参考書	
成績評価 試験 (30) 小テスト (30) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (10) You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.	

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <p>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者 クーラン コーリ	
テーマ Beginner level English for students of nursing.	
授業の到達目標 The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.	
授業の概要 Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises. This course will be taught in English	
準備学習(予習・復習) In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.	
内 容 第1回 Review of materials covered in Semester 1 第2回 Illnesses and their symptoms 第3回 Illnesses and their symptoms 第4回 Illnesses and their symptoms 第5回 Illnesses and their symptoms 第6回 Review and recap of weeks 2 to 5 第7回 Daily routines for patients with different illnesses 第8回 Daily routines for patients with different illnesses 第9回 Daily routines for patients with different illnesses 第10回 Review and recap of weeks 7 to 9 第11回 Surgical video 第12回 Surgical video 第13回 Surgical video 第14回 Review and recap of weeks 11 to 13 第15回 Review and recap of course	
履修上の注意点 **You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60% of your grade will be based on your in-class performance. **Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class. **There will be a heavier focus on medical procedure and medical vocabulary in this semester.	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (30) 参加度 (30) ***Teacher will supply all necessary text materials. YOU DO NOT NEED TO BUY A TEXTBOOK***Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.	

2015 Syllabus

科目名 **英語IVB <TOEIC>**

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 mitei	
<p>テーマ</p> <p>仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>第2回 "</p> <p>第3回 "</p> <p>第4回 "</p> <p>第5回 "</p> <p>第6回 "</p> <p>第7回 "</p> <p>第8回 "</p> <p>第9回 "</p> <p>第10回 "</p> <p>第11回 "</p> <p>第12回 "</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 "</p> <p>第15回 "</p>	
<p>履修上の注意点</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	
<p>教科書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>参考書</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p> <p>著者:</p> <p>出版社:</p> <p>出版年: ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト ()</p> <p>授業中課題 () 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。</p>	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <Gen>

クラス	配当回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 mitei	
テーマ 仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の到達目標 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
授業の概要 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
準備学習(予習・復習) クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
内 容 第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 第2回 〃 第3回 〃 第4回 〃 第5回 〃 第6回 〃 第7回 〃 第8回 〃 第9回 〃 第10回 〃 第11回 〃 第12回 〃 第13回 〃 第14回 〃 第15回 〃	
履修上の注意点 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	
教科書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 () クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。	

2015 Syllabus

科目名 英語IVB <R>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ 英語が必要な状況を設定し、基礎英語でコミュニケーションしよう	
授業の到達目標 Globalismが叫ばれ、高校でも英語での授業が重要視され、TOEFLの点数で大学入学資格を与えようという動きがある。一方で、ここ10年間で、日本人の海外留学熱が冷めている。中国、韓国の若者が倍々ゲームで海外留学しているし、中国、韓国からの日本への観光客数も増えている。日本語が国際語になっていない現在、必要不可欠な英語をマスターし、海外に出ていこう、というのがこの授業の目的である。	
授業の概要 海外留学する日本人が経験する必要不可欠な英語表現を学んでいく。	
準備学習(予習・復習) 実際にパスポートをチェックしてもらおう。10年間で有効。パスポートがあれば、何ができるのか。「国際運転免許」の取り方は？ ブラジルではworld football(soccer)が行なわれる。何があれば、ブラジルに行けるのか。また、何日行けるのか、など海外旅行する場合のいろはについて調べてもらう。	
内 容 第1回 まずは、自己紹介。(I am Sugiyama Yasushi.と言えますか？) 第2回 携帯電話や電話が日本語では通じない。その時あなたは？ 第3回 パスポートを取って、国際空港に行こう。空港英語を学ぼう。 第4回 外国人に日本食を紹介できますか？ 中学英語で説明しよう。 第5回 さあ、いよいよサンフランシスコへ。日本語だけでは通じない。 第6回 外国の空港のcustomsを1人で通関できますか？ ローマ字で氏名、住所が書けますか？ 筆記体でサインができますか？ 第7回 外国の家では靴を脱ぎません。いつ脱ぎますか？ 風呂は？ 第8回 円をドルに換えることができますか？ カードが使えますか？ 第9回 アメリカの大学で英語を学びます。使用言語は英語です。 第10回 大学の食堂でランチを頼めますか。支払いは？ メニューが読めますか？ 第11回 知識がないと観光地もただの海。車社会の「モーテル」に泊まれますか？ 第12回 肥満(obese)の国のexercise, Fitnessに励むアメリカ人。 第13回 世界の国立公園はいくら？ 自然保護の重要性。 第14回 日本人へのアメリカのお土産は何？ 安く買う方法は？ 消費税はいくら？ 第15回 アメリカで夕食を食べる。何を注文しますか？ 世界の食研究。	

履修上の注意点

教科書

Take a Trip Around San Francisco!

著者: 行時潔ほか

出版社: 松柏社

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

知らなきや恥ずかしい日本文化

著者: 白幡洋三

出版社: ワニブックス

出版年: 2010年

ISBN:

日本語を「外」から見る

著者: 佐々木瑞枝

出版社: 小学館新書

出版年: 2009年

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカII

著者： 堤未果

出版社： 岩波新書

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

あとの20%は外部のTOEIC試験の結果、教科書の問題提出、異文化理解のレポート提出など、授業以外での勉強を評価する。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

aks301a110

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <e>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <f>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <g>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <h>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <i>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <J>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <k>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <I>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <m>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <n>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <○>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <p>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <q>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <r>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <s>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <t>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション(1)、パソコン基本操作、セキュリティと情報モラル・情報処理演習 I のオリエンテーション・セキュリティと情報モラル
- 第2回 オリエンテーション(2)・タブレット配布(※パソコン教室以外で実施)
- 第3回 Word2010(1) Wordの基本操作、チラシの作成(1)《主な機能》Wordの起動方法、画面構成、タイピング、文章の保存・終了、書式、表の作成
- 第4回 Word2010(2) チラシの作成(2)《主な機能》Wordアート、図の挿入、ページ罫線、印刷
- 第5回 Word2010(3) レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号
- 第6回 Word2010(4) レポートの作成(2)《主な機能》脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第7回 Word2010(5) 小テストWORD(レポート作成)小テストの実施
- 第8回 Excel2010(1) EXCELの基本操作、表作成(1)《主な機能》Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
- 第9回 Excel2010(2) 計算式、関数(1)《主な機能》ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT関数)
- 第10回 Excel2010(3) 関数(2)《主な機能》関数の復習、シートの切り替え、IF関数
- 第11回 Excel2010(4) グラフ作成《主な機能》グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷
- 第12回 Excel2010(5) 小テスト、関数(3)Excel(表作成、計算式、関数、グラフ)小テストの実施《主な機能》数学/三角関数を使用する理由、ROUND関数、ROUNDUP関数、INT関数
- 第13回 PowerPoint2010(1) プレゼンとは、スライド作成(1)《主な機能》PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
- 第14回 PowerPoint2010(2) スライド作成(2)《主な機能》スライドの操作(コピー、スライドの移動)、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
- 第15回 PowerPoint2010(3) スライド作成(3)《主な機能》画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
- 第16回 最終試験(課題)とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラルOffice2013対応(Office2010にも対応)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ
- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <e>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <f>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小西 康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <g>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小西 康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <h>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ
 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <I>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <J>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <k>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小西 康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <I>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <m>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小西 康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <n>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 小西 康子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)	小テスト (30%)
授業中課題 (10%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <○>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <p>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <q>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <R>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <s>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 小西 康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <t>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (0%)

授業修了出席日数が授業日数の3分の2以上であることが必須条件です。

2015 Syllabus

科目名 日本事情 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 河村 静江

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となる、電話応対・マナー・手紙の書き方などの基礎を身に着ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・ビジネス会話・ビジネスレターの書き方を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内 容

- 第1回 アピールポイントを意識した自己紹介(1)
 第2回 アピールポイントを意識した自己紹介(2)
 第3回 「電話応対」unit1.2 「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」
 第4回 「ビジネス会話」第5課
 第5回 「ビジネスレター」依頼 第5課・第6課「許可をもらう」
 第6回 「ビジネス会話」第6課
 第7回 「電話応対」unit3.4 「ビジネス会話」第6課
 第8回 「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」
 第9回 「ビジネスレター」問い合わせ 「ビジネス会話」第7課
 第10回 「ビジネス会話」第7課・第8課「訪問する」
 第11回 「電話応対」unit5.6 「ビジネス会話」第8課
 第12回 「ビジネス会話」第8課
 第13回 「ビジネスレター」確認 冠婚葬祭のマナー
 第14回 ビジネスマナーのまとめ
 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

しごとの日本語(電話応対基礎編)

著者: 奥村真希他

出版社: アルク

出版年: 2007年

ISBN:

にほんごで働く! ビジネス日本語30時間

著者: 宮崎道子他

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2009年

ISBN:

しごとの日本語(メールの書き方編)

著者: 奥村真紀他

出版社: アルク

出版年: 2008年

ISBN:

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 日本事情 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担当者 河村 静江	
テーマ 日本語運用能力の向上	
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となる、電話応対・マナー・手紙の書き方などの基礎を身に着ける。	
授業の概要 ビジネス用語の理解・ビジネス会話・ビジネスレターの書き方を学ぶ。	
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。	
内 容 第1回 アピールポイントを意識した自己紹介(1) 第2回 アピールポイントを意識した自己紹介(2) 第3回 「電話応対」unit1.2 「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」 第4回 「ビジネス会話」第5課 第5回 「ビジネスレター」依頼 第5課・第6課「許可をもらう」 第6回 「ビジネス会話」第6課 第7回 「電話応対」unit3.4 「ビジネス会話」第6課 第8回 「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」 第9回 「ビジネスレター」問い合わせ 「ビジネス会話」第7課 第10回 「ビジネス会話」第7課・第8課「訪問する」 第11回 「電話応対」unit5.6 「ビジネス会話」第8課 第12回 「ビジネス会話」第8課 第13回 「ビジネスレター」確認 冠婚葬祭のマナー 第14回 ビジネスマナーのまとめ 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
参考書 しごとの日本語(電話応対基礎編) 著者： 奥村真希他 出版社： アルク 出版年： 2007年 ISBN：	
にほんごで働く！ビジネス日本語30時間 著者： 宮崎道子他 出版社： スリーエーネットワーク 出版年： 2009年 ISBN：	
しごとの日本語(メールの書き方編) 著者： 奥村真紀他 出版社： アルク 出版年： 2008年 ISBN：	
成績評価 試験 (60%)	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 河村 静江

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に着ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

準備学習(予習・復習)

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内 容

第1回 自己紹介してみよう

第2回 「ビジネスマナー」名刺交換・敬語の基本(1)

第3回 敬語を使って友人を紹介してみよう

第4回 敬語の基本(2)・店員になってみよう(1)

第5回 店員になってみよう(2)

第6回 「ビジネスマナー」お辞儀・「ビジネス会話」第1課「紹介する」

第7回 「ビジネス会話」第1課

第8回 「ビジネスマナー」身だしなみ・「ビジネス会話」第2課「挨拶」

第9回 「ビジネス会話」第2課

第10回 「ビジネスマナー」話し方・「ビジネス会話」第2課

第11回 「ビジネス会話」第3課「電話」

第12回 「ビジネスマナー」接客・「ビジネス会話」第3課

第13回 「ビジネス会話」第4課「注意」

第14回 「ビジネスマナー」確認問題「ビジネス会話」第4課

第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

しごとの日本語ビジネスマナー編

著者: 釜淵優子

出版社: アルク

出版年: 2008年

ISBN:

にほんごで働く! ビジネス日本語30時間

著者: 宮崎道子

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		
テーマ 日本語運用能力の向上		
授業の到達目標 日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に着ける。		
授業の概要 ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。		
準備学習(予習・復習) 会話がスムーズにできるまで復習を行う。		
内 容 第1回 自己紹介してみよう 第2回 「ビジネスマナー」名刺交換・敬語の基本(1) 第3回 敬語を使って友人を紹介してみよう 第4回 敬語の基本(2)・店員になってみよう(1) 第5回 店員になってみよう(2) 第6回 「ビジネスマナー」お辞儀・「ビジネス会話」第1課「紹介する」 第7回 「ビジネス会話」第1課 第8回 「ビジネスマナー」身だしなみ・「ビジネス会話」第2課「挨拶」 第9回 「ビジネス会話」第2課 第10回 「ビジネスマナー」話し方・「ビジネス会話」第2課 第11回 「ビジネス会話」第3課「電話」 第12回 「ビジネスマナー」接客・「ビジネス会話」第3課 第13回 「ビジネス会話」第4課「注意」 第14回 「ビジネスマナー」確認問題「ビジネス会話」第4課 第15回 まとめ		
履修上の注意点		
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 しごとの日本語ビジネスマナー編 著者: 釜淵優子 出版社: アルク 出版年: 2008年 ISBN:		
にほんごで働く! ビジネス日本語30時間 著者: 宮崎道子 出版社: スリーエーネットワーク 出版年: 2009年 ISBN:		
成績評価 試験 (60%) 授業中課題 () 参加度 (40%)	小テスト () 授業中発表等 ()	

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅲ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本の伝統文化を学ぶと共に、受講者自身の出身地・出身国の文化と比較し、発表や文集作成を行う。

授業の到達目標

日本の伝統文化を学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国の文化も振り返り、日本の文化が諸外国の影響を受けて形成されたことを理解し、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、文集作成の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうためのストラテジーを身につける。

授業の概要

日本の伝統文化を学び、受講者自身の出身地・出身国の文化と比較を行う。授業前半の日本の伝統文化については、受講者全員に15分程度の発表を行ってもらい、授業後半では文集作成をプロジェクトワークとして実施する。受講者自身でテーマを選び、その際、受講者同士のピア活動によって、自身の文集記事を互いに改善していく。なお、授業時に日本語能力試験の語彙・漢字問題を配付するので各自学習し、第3回・第5回・第7回・第9回・第11回に15分の小テストを実施する。

準備学習(予習・復習)

発表の準備をきちんとするように。また、プロジェクトワークは積極的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業説明・評価方法説明
- 第2回 日本の食文化1
- 第3回 日本の食文化2／小テスト1
- 第4回 日本のポップカルチャー1
- 第5回 日本のポップカルチャー2／小テスト2
- 第6回 日本の伝統衣装
- 第7回 日本の伝統工芸1／小テスト3
- 第8回 日本の伝統工芸2(学外授業)
- 第9回 昔話と神話プロジェクトワーク1／小テスト4
- 第10回 昔話と神話プロジェクトワーク2
- 第11回 昔話と神話プロジェクトワーク3／小テスト5
- 第12回 昔話と神話プロジェクトワーク4
- 第13回 昔話と神話プロジェクトワーク5
- 第14回 昔話と神話プロジェクトワーク6
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅲ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本の伝統文化を学ぶと共に、受講者自身の出身地・出身国の文化と比較し、発表や文集作成を行う。

授業の到達目標

日本の伝統文化を学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国の文化も振り返り、日本の文化が諸外国の影響を受けて形成されたことを理解し、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、文集作成の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうための戦略を身につける。

授業の概要

日本の伝統文化を学び、受講者自身の出身地・出身国の文化と比較を行う。授業前半の日本の伝統文化については、受講者全員に15分程度の発表を行ってもらい、授業後半では文集作成をプロジェクトワークとして実施する。受講者自身でテーマを選び、その際、受講者同士のピア活動によって、自身の文集記事を互いに改善していく。なお、授業時に日本語能力試験の語彙・漢字問題を配付するので各自学習し、第3回・第5回・第7回・第9回・第11回に15分の小テストを実施する。

準備学習(予習・復習)

発表の準備をきちんとするように。また、プロジェクトワークは積極的に取り組むこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業説明・評価方法説明
- 第2回 日本の食文化1
- 第3回 日本の食文化2／小テスト1
- 第4回 日本のポップカルチャー1
- 第5回 日本のポップカルチャー2／小テスト2
- 第6回 日本の民族衣装
- 第7回 日本の伝統工芸1／小テスト3
- 第8回 日本の伝統工芸2
- 第9回 昔話と神話プロジェクトワーク1／小テスト4
- 第10回 昔話と神話プロジェクトワーク2
- 第11回 昔話と神話プロジェクトワーク3／小テスト5
- 第12回 昔話と神話プロジェクトワーク4
- 第13回 昔話と神話プロジェクトワーク5
- 第14回 昔話と神話プロジェクトワーク6
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ		
日本のマナーやライフサイクルに関わるトピックを学ぶとともに、受講者自身の出身地・出身国のそれらと比較し、発表を行う。		
授業の到達目標		
日本のマナーやライフサイクルに関するトピックを学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国のそれらも振り返り、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、発表の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうためのストラテジーを身につける。		
授業の概要		
日本のマナーやライフサイクルに関わるトピックを学び、受講者自身の出身地・出身国のそれらと比較を行う。発表については、受講者自身でテーマを選び、授業後期に実施する。その際、受講者同士のピア活動によって、自身の発表を互いに改善していく。		
準備学習(予習・復習)		
発表があるので準備をしっかりと行うように。また、毎回課題を提示するので、必ず翌週に提出すること。		
内 容		
第1回	ガイダンス・授業説明・評価方法説明	
第2回	日本のマナー1	
第3回	日本のマナー2	
第4回	日本のマナー3	
第5回	日本のマナー4	
第6回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会1	
第7回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会2	
第8回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会3	
第9回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会4	
第10回	発表準備1	
第11回	発表準備2	
第12回	発表準備3	
第13回	学生発表1	
第14回	学生発表2	
第15回	まとめ	
履修上の注意点		
出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。		
教科書		
配布プリント		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
授業中適宜紹介		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 (30)	小テスト (0)	
授業中課題 (20)	授業中発表等 (30)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ		
日本のマナーやライフサイクルに関わるトピックを学ぶとともに、受講者自身の出身地・出身国のそれらと比較し、発表を行う。		
授業の到達目標		
日本のマナーやライフサイクルに関するトピックを学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国のそれらも振り返り、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、発表の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうためのストラテジーを身につける。		
授業の概要		
日本のマナーやライフサイクルに関わるトピックを学び、受講者自身の出身地・出身国のそれらと比較を行う。発表については、受講者自身でテーマを選び、授業後期に実施する。その際、受講者同士のピア活動によって、自身の発表を互いに改善していく。		
準備学習(予習・復習)		
発表があるので準備をきちんとすること。毎回課題を提示するので、必ず翌週に提出すること。		
内 容		
第1回	ガイダンス・授業説明・評価方法説明	
第2回	日本のマナー1	
第3回	日本のマナー2	
第4回	日本のマナー3	
第5回	日本のマナー4	
第6回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会1	
第7回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会2	
第8回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会3	
第9回	ライフサイクルに関する文化・慣習と社会4	
第10回	発表準備1	
第11回	発表準備2	
第12回	発表準備3	
第13回	学生発表1	
第14回	学生発表2	
第15回	まとめ	
履修上の注意点		
出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。		
教科書		
配布プリント		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
授業中適宜紹介		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 (30)	小テスト (0)	
授業中課題 (20)	授業中発表等 (30)	
参加度 (20)		

2015 Syllabus

科目名 日本文化演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本文化を学習・理解するとともに、京都橘大学を紹介する冊子／映像の作成を通して、日本人学生と留学生が互いの理解を深めあい助け合う能力を養う。

授業の到達目標

日本文化についての知識を、実践を通して学習し深めることを目的とする。また、大学紹介の冊子／映像作成を共に行うことで、留学生は自身の日本語力の向上を図り、日本人学生はわかりやすく相手に伝える力を伸ばす。このような活動を通して、日本人学生も留学生も、互いの文化・慣習の違いに気づき尊重する態度を身につけることも、本科目の重要な目的である。

授業の概要

本科目は「日本文化演習Ⅱ」との連続授業であり、グループワークを行う以下の活動に分けられる。①日本文化に関する講義によって、留学生だけでなく日本人学生も日本文化に対する理解を深める。②京都橘大学のサークルの協力のもと、サークル活動の体験を通して日本文化を学び、受講生同士が翌週のふりかえりで理解を深める。③日本人学生と留学生が共に京都橘大学を紹介する冊子／映像を作成する。なお、②については、活動内容の軽微な変更もありうる。

準備学習(予習・復習)

受講にあたり、互いを尊重しわかりやすく伝え合う心構えを持つこと。

内 容

- 第1回 授業説明／評価説明
- 第2回 サークル体験1(箏曲)
- 第3回 サークル体験1のふりかえり／大学紹介企画書1
- 第4回 学外授業(醍醐寺見学)
- 第5回 サークル体験2(弓道)
- 第6回 サークル体験2のふりかえり／大学紹介企画書1
- 第7回 サークル体験3(表千家茶道)
- 第8回 サークル体験3のふりかえり／大学紹介取材
- 第9回 サークル体験4(和太鼓)
- 第10回 サークル体験4のふりかえり／大学紹介統括1
- 第11回 サークル体験5(書道)
- 第12回 サークル体験5のふりかえり／大学紹介統括2
- 第13回 サークル体験6(剣道)
- 第14回 サークル体験6のふりかえり／大学紹介合同発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

※「日本文化演習Ⅱ」と必ずセットで受講すること。「日本文化演習Ⅰ」のみの履修は認めない。グループワークを主体とする科目であるため、欠席は極力慎むように。遅刻／早退は授業開始後／終了前の各15分までとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

教科書

授業時プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度（20）

3分の1以上の欠席をした者は、成績評価の対象とならない。また、剽窃やウェブなどからコピーアンドペーストを行った者には「C」以上の評価を付けることはない。

2015 Syllabus

科目名 日本文化演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 30

履修条件 外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本文化を学習・理解するとともに、京都橘大学を紹介する冊子／映像の作成を通して、日本人学生と留学生が互いの理解を深めあい助け合う能力を養う。

授業の到達目標

日本文化についての知識を、実践を通して学習し深めることを目的とする。また、大学紹介の冊子／映像作成を共に行うことで、留学生は自身の日本語力の向上を図り、日本人学生はわかりやすく相手に伝える力を伸ばす。このような活動を通して、日本人学生も留学生も、互いの文化・慣習の違いに気づき尊重する態度を身につけることも、本科目の重要な目的である。

授業の概要

本科目は「日本文化演習Ⅰ」との連続授業であり、本科目はグループワークを行う以下の活動に分けられる。①日本文化に関する講義によって、留学生だけでなく日本人学生も日本文化に対する理解を深める。②京都橘大学のサークルの協力のもと、サークル活動の体験を通して日本文化を学び、受講生同士が翌週のふりかえりで理解を深める。③日本人学生と留学生が共に京都橘大学を紹介する冊子／映像を作成する。なお、②については、活動内容の軽微な変更もありうる。

準備学習(予習・復習)

受講にあたり、互いを尊重しわかりやすく伝え合う心構えを持つこと。

内 容

- 第1回 授業説明／評価説明／アイスブレイキング
- 第2回 仏教と神道
- 第3回 大学紹介企画書1
- 第4回 学外授業(醍醐寺見学)
- 第5回 京都三大祭
- 第6回 大学紹介企画書2
- 第7回 日本の模様
- 第8回 大学紹介取材
- 第9回 日本の書道
- 第10回 大学紹介統括1
- 第11回 七夕
- 第12回 大学紹介統括2
- 第13回 俳句
- 第14回 合同発表
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

※「日本文化演習Ⅰ」と必ずセットで受講すること。「日本文化演習Ⅱ」のみの履修は認めない。グループワークを主体とする科目であるため、欠席は極力慎むように。遅刻／早退は授業開始後／終了前の各15分までとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

教科書

授業時プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度（20）

3分の1以上の欠席をした者は、成績評価の対象とならない。また、剽窃やウェブなどからコピーアンドペーストを行った者には「C」以上の評価を付けることはない。

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <a>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教養入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <c>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・福美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <d>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・福美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・福美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <Ⅰ>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・禧美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・福美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門 <h>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・河原 宣子・阪本 崇・高山 一夫・南 直人・福美 智章

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門〈月1〉

クラス

配当回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習(予習・復習)

内容

- 第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
- 第2回 「世界の言語」
- 第3回 「東洋と西洋の考え方」
- 第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」
- 第5回 「お金とどう向き合うか」
- 第6回 「京都の歴史・文化遺産」
- 第7回 「異文化理解」
- 第8回 「人と死」
- 第9回 「人と脳」
- 第10回 「社会を学問する意義とは？」
- 第11回 「社会問題としての環境問題」
- 第12回 「現代の思想」
- 第13回 「メディアと情報」
- 第14回 外部講師による講演
- 第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教養入門〈月2〉

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
大学での学び、教養を身につけることの意義	
授業の到達目標	
この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。	
授業の概要	
最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回 京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。	
第2回 「世界の言語」	
第3回 「東洋と西洋の考え方」	
第4回 「自由貿易と私たちの暮らし」	
第5回 「お金とどう向き合うか」	
第6回 「京都の歴史・文化遺産」	
第7回 「異文化理解」	
第8回 「人と死」	
第9回 「人と脳」	
第10回 「社会を学問する意義とは？」	
第11回 「社会問題としての環境問題」	
第12回 「現代の思想」	
第13回 「メディアと情報」	
第14回 外部講師による講演	
第15回 総括、今後の各自の進むべき方向について	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 (60)	小テスト (20)
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 蒲 豊彦.辻本 千鶴.野村 幸一郎.林 久美子

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

文学作品の舞台あるいは文学作品を生み出す土地としての京都(とくに洛東)から滋賀にかけての地域に着目し、現地に足を運ぶことによって、作品を通してこの地域の歴史的・文化的背景を理解する。

準備学習(予習・復習)

一部分でもよいので関連する作品を読んでから授業に参加すると、理解がより深まります。ぜひ原典を手にとって下さい。

内 容

第1回 地域課題研究について／岩屋神社にはどんな神がいるのだろうか？～日本人とアニミズム～

第2回 岩屋神社奥の宮見学

第3回 トイレ掃除と大正時代

第4回 一灯園見学

第5回 石山寺と文学

第6回 石山寺見学

第7回 日本人の信仰と醍醐寺

第8回 醍醐寺見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成・橋本 二三

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都から滋賀にかけての地域に残されている書道作品を見学し、書として鑑賞、分析するにとどまらず、その書の歴史的・文化的背景についても学ぶ。

準備学習(予習・復習)

訪問する場所、施設について事前に各自で調べておくこと。

内 容

- 第1回 京都を中心とした書の歴史について
- 第2回 京都国立博物館見学(1)
- 第3回 京都国立博物館見学(2)
- 第4回 京都国立博物館見学(3)
- 第5回 近代の京都滋賀を地盤として活躍した書人について
- 第6回 京都市美術館見学(1)
- 第7回 京都市美術館見学(2)
- 第8回 泉屋博古館と東山に隣接する美術館見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 王 衛明,尾下 成敏,小野 浩,高久 嶺之介,増淵 徹,松浦 京子

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割について考えるために、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

この授業では、京都とその周辺の地域性を歴史の観点を中心に置いて追うことを目的としている。具体的には、講義や学外研究、報告会を通して、京都とその周辺の地域性を追うことになる。

準備学習(予習・復習)

京都府・滋賀県の歴史遺産をなるべく見学すること、また京都・滋賀に関する本を少しでも多く読むこと。

内 容

- 第1回 総論(京都の歴史遺産と歳時記など)
- 第2回 グループワークの説明と企画
- 第3回 学外研究、その1(葵祭りの見学)
- 第4回 学外研究、その1(葵祭りの見学)
- 第5回 学外研究、その2(京都市内の歴史遺産の見学)
- 第6回 学外研究、その2(京都市内の歴史遺産の見学)
- 第7回 研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会
- 第8回 研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるので、この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都府の歴史散歩(全3冊)

著者: 京都府歴史遺産研究会

出版社: 山川出版社

出版年: 2011年

ISBN:

滋賀県の歴史散歩(全2冊)

著者: 滋賀県歴史散歩編集委員会

出版社: 山川出版社

出版年: 2008年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・一瀬 和夫・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

学外見学によって地域歴史遺産を実見および体感したうえで、その歴史的成立背景や文化財的価値について討究する。

準備学習(予習・復習)

各自授業外で、洛東・湖国にある遺跡、博物館、資料館、美術館に足を運び、さまざまな文化財に触れること。またこれらに関わる書籍を読み、その歴史的成立背景や文化財的価値について学ぶこと。

内 容

第1回 京都の祭りを知る①(葵祭・祇園祭・時代祭)

第2回 京都の祭りを知る②(葵祭・祇園祭・時代祭)

第3回 学外見学(建築遺産)

第4回 学外見学(考古遺産)

第5回 学外見学(美術遺産) I

第6回 学外見学(美術遺産) II

第7回 事後学習(研究発表)

第8回 事後学習(研究発表) ※なお、この授業では必要に応じて、特別講演会が行われることがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (60)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン・神谷 栄司・倉持 祐二・佐野 仁美

テーマ

山科地域の魅力と課題をさぐる

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業などの面からとらえ、学んだことをもとに山科地域の課題を考える。

授業の概要

学生の履修における学科間(英コミ)との相互乗り入れを可能にする。第1回～4回は両学科合同で行う。第5回～第7回は原則として学科独自の授業になる。第8回(最終回)は、英語コミは1クラス、児童教育は2クラスに分けて行う。

準備学習(予習・復習)

山科地域の自然・歴史・文化・教育・産業などの関心を持ち、自分の足で歩いて、山科地域の魅力と課題を探ってみる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(山科地域をとらえる視点と方法、授業課題について)
 第2回 山科地域の自然と農業「山科なすについて」(*ゲストスピーカーはいから園 林 光男さん)
 第3回 山科地域の伝統産業「山科砥の粉について」(*ゲストスピーカー 進藤謙商店 進藤 謙二さん)
 第4回 山科地域の子どもと教育「山科地域の子どもたち」(*ゲストスピーカー 幸重社会福祉事務所 幸重 忠孝さん)
 第5回 学校フィールドワーク、地域ボランティア、地域の文化の調査、地域の子どもの実態調査など①
 第6回 学校フィールドワーク、地域ボランティア、地域の文化の調査、地域の子どもの実態調査など②
 第7回 まとめ(山科地域の魅力と課題)①
 第8回 まとめ(山科地域の魅力と課題)②

履修上の注意点

教科書

参考書

知っとこ 見とこ 山科ガイド～京都・山科のミリオク

著者: 木下 達文

出版社: つむぎ出版

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

評価対象は、第5回～第7回をまとめた記録レポート(A4を1枚程度)及び第8回の発表会やプレゼンテーションの内容とする。

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松石 泰彦

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知りその解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

新聞や地域情報紙の中で京都、とくに山科地域はどのように伝えられているのか、統計情報を用いると山科地域にどのような特徴を見出すことができるのか、山科地域で働く人々は何を課題と考えているのか、などをテーマに、実践的なグループ学習を行う。以下の通りの講義計画を予定しているが、講師の都合等により順番を入れ替えることがある。

準備学習(予習・復習)

各自が居住する地域の社会に関心を持ち、京都市や山科区との比較ができるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 地域を数字で理解する(1):京都市の統計調査から、山科地域が京都市の中でどのような特徴を持つ地域なのかを数字から明らかにする。
- 第2回 地域を数字で理解する(2):地域に関わる統計情報から理解できた内容を発表する。
- 第3回 地域の「今」を探る(1):新聞、地域情報紙、Webサイトから京都市、山科区地域の情報を探し出し、テーマを決めてまとめます。
- 第4回 地域の「今」を探る(2):様々な情報源からまとめた、京都市、山科区地域の「今」について発表します。
- 第5回 地域の医療と福祉を理解する(1):地域から招いたゲストの講演を聴き、地域の医療や福祉の現状を学ぶ。
- 第6回 地域の医療と福祉を理解する(2):講演の内容をまとめ、グループで地域の医療や福祉が抱える問題についてディスカッションする。
- 第7回 地域の経済と企業を理解する(1):地域から招いたゲストの講演を聴き、地域の経済と企業の現状を学ぶ。
- 第8回 地域の経済と企業を理解する(2):講演の内容をまとめ、グループで地域の経済や企業が抱える問題についてディスカッションする。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小辻 寿規

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

「地域」で学ぶという視点から地域でのフィールドワークを行うとともに、「地域」から学ぶという視点から地域で活動されている方々を大学にお招きしお話を聞くとともに、それをもとに地域の課題についてディスカッションを行う。

準備学習(予習・復習)

当該科目以外の科目や、新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題についてつねに情報を仕入れておく。

内 容

- 第1回 ① 地域から課題を発見する方法について
 第2回 ② ゲストを招き若者が参加するまちづくりの事例紹介(草津市)及び教員とゲストのディスカッション
 第3回 ③ ゲストを招き山科区清水焼団地の事例紹介(山科区)
 第4回 ④ ③を受けての学生ディスカッション及び発表
 第5回 ⑤ 醍醐寺を含む醍醐地域の歴史と地域との関わり(醍醐地域フィールドワーク)
 第6回 ⑥ 醍醐寺散策
 第7回 ⑦ ゲストを招き京都市で活躍するまちづくり実践者の話を聞く(住民+役所職員)
 第8回 ⑧ ⑦を受けてのディスカッション及び発表

履修上の注意点

必修科目のため、遅刻及び欠席に関してはご注意ください。

教科書

参考書

文化政策と臨地まちづくり

著者: 織田直文

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN: 4880652180

知つとこ見とこ山科ガイド

著者: 木下達文

出版社: つむぎ出版

出版年: 2009

ISBN: 4876681643

京・まちづくり史

著者: 高橋康夫・中川理

出版社: 昭和堂

出版年: 2003

ISBN: 4812203147

京都・山科まちづくり物語

著者: 織田直文・廣川桃子・鈴木好美

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771020809

地域再生 滋賀の挑戦

著者: 近江環人地域再生学座

出版社: 新評論

出版年: 2011

ISBN: 4794808887

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究<h>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

過去の災害を知ること。その災害を、昔の人々はどのように知らせたかを学ぶことで、地域から学ぶ、地域を学ぶ。

授業の到達目標

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶー地域課題を知り、その解決法を考えるー

授業の概要

前記「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

準備学習(予習・復習)

京都府、京都市・特に山科区や大津市の過去の災害をwebや新聞を通じて調べておくこと。

内容

第1回 オリエンテーション、災害についての講義

第2回 地域の危険地区や危険な状況の観察や評価方法を伝授し、自ら調査する。

第3回 地域の今を知る。京都市消防局 山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習

第4回 地域の今を知る。京都市消防局 山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習

第5回 災害時の対応を学ぶ。過去の災害を探り、どのような行動を実施しどのような対応をするのかを学ぶ。

第6回 地域の今を知る。新聞や地域情報誌、webなどから山科・大津地域の過去の災害を探り、模造紙などにまとめる。

第7回 地域を数字で理解する。京都・大津市の地域統計を利用して、山科・大津地域が京都市や滋賀県のなかでどのような特徴を持つ地域なのかを数字から明らかにする。

第8回 まとめ。山科地域の現況と課題。課題に対する企画の立案をし、グループ毎に発表する。

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697456

参考書

未定

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (10)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

成績評価は知識や課題に対するプレゼンテーションやグループ間での発表を考査する。またグループを代表しての共通演題のプレゼンテーションを実施する。なお、考査については、原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2015 Syllabus

科目名 地域課題研究 <i>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 通年集中	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 松本 賢哉	
テーマ 他学部と統一テーマ	
授業の到達目標 他学部と統一テーマ	
授業の概要 山科・醍醐地区の地域を知り、人々の暮らしと健康について考える	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 オリエンテーション「地域から学ぶ」意義について 第2回 「地域を知る」ための方法論 アンケートのつくり方 インタビューの仕方 第3回 山科・醍醐地区を知る①自然環境（地域を歩く） 第4回 山科・醍醐地区を知る②安全（住民との会話から） 第5回 山科・醍醐地区を知る③行政、保健・医療・福祉サービス（データ分析・住民との会話から） 第6回 山科・醍醐地区を知る④教育、レクリエーション 第7回 山科・醍醐地区を知る⑤この地域に暮らす人びと 第8回 まとめ・発表	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験（ ） 小テスト（ ） 授業中課題（50） 授業中発表等（50） 参加度（ ）	

2015 Syllabus

科目名 哲学概論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安部 彰	
テーマ 哲学の広がりと深さを学ぶ。	
授業の到達目標 哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。	
授業の概要 哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。	
準備学習(予習・復習) 予習については講義中に適宜指示する。復習については、日常的におこなうこと。復習の方法としては、テーマごとの講義内容をじぶんのごとくまとめなおすこと。また、まとめたものをちゃんと他人が理解できるかを確認するために、受講生同士で相互に検討しあうことを推奨する。	
内 容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 哲学とはなにか？ 第3回 哲学の問い 第4回 哲学の問いの意味 第5回 懐疑論 第6回 懐疑論と自己 第7回 経験論とカントの哲学 第8回 カントの哲学——認識論と倫理学 第9回 社会哲学 第10回 実存主義 第11回 分析哲学の展開 第12回 現代哲学(1)——暴力と国家 第13回 現代哲学(2)——社会哲学の再興と展開 第14回 現代正義論 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点 本講義で扱うテーマに関心をもつ者の受講をひろく歓迎する。ただし、本講義では「私語」をはじめとする他者の受講権を侵害する行為にはかなり厳格に対処するので、履修にあたってはその点くれぐれも留意すること。また受講にさいし、いろいろな不都合や困ったことが出てくるとおもうが、その場合は、じぶんで勝手に判断せず、必ず安部に相談すること。相談は、講義の前後の時間でも、メールをつづじてでもかまわない。メールの場合は、件名・受講科目・氏名・学籍番号を必ず明記すること。出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。	

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

マンガは哲学する

著者: 永井 均

出版社: 岩波書店(岩波現代文庫)

出版年: 2009

ISBN:

思考実験

著者: 岡本 裕一朗

出版社: 筑摩書房(ちくま新書)

出版年: 2013

ISBN:

哲学トレーニング

著者： 伊勢田 哲治

出版社： 筑摩書房(ちくま新書)

出版年： 2005

ISBN:

哲学ってどんなこと？

著者： T・ネーゲル

出版社： 昭和堂

出版年： 1993

ISBN:

哲学の工具箱

著者： J・バツジーニ／P・フォルス

出版社： 共立出版

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。

2015 Syllabus

科目名 **哲学概論 **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 碓井 敏正	
テーマ 哲学の広がりと深さを学ぶ。	
授業の到達目標 哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。	
授業の概要 哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 イン트로ダクション 第2回 哲学とはなにか？ 第3回 哲学の問い 第4回 哲学の問いの意味 第5回 懐疑論 第6回 懐疑論と自己 第7回 経験論とカントの哲学 第8回 カントの哲学——認識論と倫理学 第9回 社会哲学 第10回 実存主義 第11回 分析哲学の展開 第12回 現代哲学(1)——暴力と国家 第13回 現代哲学(2)——社会哲学の再興と展開 第14回 現代正義論 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 人生論の12週 著者： 碓井 敏正 出版社： 三学出版 出版年： ISBN:	
参考書 マンガは哲学する 著者： 永井 均 出版社： 岩波書店(岩波現代文庫) 出版年： 2009 ISBN:	
思考実験 著者： 岡本 裕一郎 出版社： 筑摩書房(ちくま新書) 出版年： 2013 ISBN:	
哲学トレーニング 著者： 伊勢田 哲治 出版社： 筑摩書房(ちくま新書) 出版年： 2005 ISBN:	

哲学ってどんなこと？

著者： T・ネーゲル

出版社： 昭和堂

出版年： 1993

ISBN:

哲学の工具箱

著者： J・バツジーニ／P・フォルス

出版社： 共立出版

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

1)最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2)出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。

2015 Syllabus

科目名 倫理学概論 <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安部 彰

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習(予習・復習)

予習については講義中に適宜指示する。復習については、日常的におこなうこと。復習の方法としては、テーマごとの講義内容をじぶんのごとくまとめなおすこと。また、まとめたものをちゃんと他人が理解できるかを確認するために、受講生同士で相互に検討しあうことを推奨する。

内 容

- 第1回 イントロダクション——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か?
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

本講義で扱うテーマに関心をもつ者の受講をひろく歓迎する。ただし、本講義では「私語」をはじめとする他者の受講権を侵害する行為にはかなり厳格に対処するので、履修にあたってはその点くれぐれも留意すること。また受講にさいし、いろんな不都合や困ったことが出てくるとおもうが、その場合は、じぶんで勝手に判断せず、必ず安部に相談すること。相談は、講義の前後の時間でも、メールをつづじてでもかまわない。メールの場合は、件名・受講科目・氏名・学籍番号を必ず明記すること。出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

功利主義入門

著者: 児玉 聡

出版社: 筑摩書房(ちくま新書)

出版年: 2012

ISBN:

正義論の名著

著者: 中山 元

出版社: 筑摩書房(ちくま新書)

出版年: 2011

ISBN:

プレップ倫理学

著者： 柘植 尚則

出版社： 弘文堂

出版年： 2010

ISBN:

高校生と大学一年生のための倫理学講義

著者： 藤野 寛

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2011

ISBN:

政治哲学への招待

著者： A・スウィフト

出版社： 風行社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。

2015 Syllabus

科目名 倫理学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 碓井 敏正	
テーマ 倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。	
授業の到達目標 倫理的な考え方を身につけることを目標とする。	
授業の概要 近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。	
準備学習(予習・復習) 毎講義後の復習をつよく推奨する。	

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か?
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

成熟社会における組織と人間

著者: 碓井 敏正

出版社: 花伝社

出版年:

ISBN:

参考書

功利主義入門

著者: 児玉 聡

出版社: 筑摩書房(ちくま新書)

出版年: 2012

ISBN:

正義論の名著

著者: 中山 元

出版社: 筑摩書房(ちくま新書)

出版年: 2011

ISBN:

プレップ倫理学

著者: 柘植 尚則

出版社: 弘文堂

出版年: 2010

ISBN:

高校生と大学一年生のための倫理学講義

著者： 藤野 寛

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2011

ISBN:

政治哲学への招待

著者： A・スウィフト

出版社： 風行社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

1)最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2)出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない(つまり評価対象外とする)。

2015 Syllabus

科目名 日本人と宗教

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるとあってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的な側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習(予習・復習)

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内 容

第1回 宗教をどのように枠づけるか

第2回 日本人の宗教観の原理的な側面をさぐる(1)—カミ・仏教公伝に学ぶ—

第3回 日本人の宗教観の原理的な側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—

第4回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰

第5回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由

第6回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—

第7回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—

第8回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—

第9回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—

第10回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—

第11回 眼の霊力について考える—つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ付・仏教の天眼通と明恵上人

第12回 盗む空海(1)—神話的空海の仏教伝承

第13回 盗む空海(2)—神話的空海の仏教伝承

第14回 日本人のあの世—日本人の世界観はどのように変わったか

第15回 復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 大明堂

出版年: 1991

ISBN:

宗教学入門

著者: 棚次正和・山中弘 編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005

ISBN:

その他授業内で指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ジェンダー研究

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芝原 妙子

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

授業の到達目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の概要

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習が講義の理解のために不可欠である。また講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

準備学習(予習・復習)

日常から授業内容に関連するメディア(新聞・雑誌・報道番組など)に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。講義の理解のためには配付した資料の予習と復習が必要である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
- 第2回 ジェンダー研究キー・コンセプト
- 第3回 ジェンダーと家族 (1)
- 第4回 ジェンダーと家族 (2)
- 第5回 ジェンダーと法・社会規範
- 第6回 ジェンダーと宗教
- 第7回 ジェンダーと戦争
- 第8回 ジェンダーと戦争
- 第9回 ジェンダーと政治
- 第10回 ジェンダーと平和運動
- 第11回 ジェンダーと平和運動
- 第12回 ジェンダーと労働・経済
- 第13回 ジェンダーと表象文化
- 第14回 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第15回 まとめ ジェンダー研究の応用

履修上の注意点

講義中の携帯電話・スマートホンの電源は切ること。テキストは用いず、プリント配付するが、受講者は講義の内容をノートにとる必要がある。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史

著者: エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル

出版社: 明石書店

出版年: 2009

ISBN:

知らないと恥ずかしいジェンダー入門

著者: 加藤秀一

出版社: 朝日新聞社

出版年: 2006

ISBN:

Japanese Women and the Transnational Feminist Movement before World War II

著者: Taeko Shibahara

出版社: Temple University Press

出版年: 2014

ISBN:

アメリカ・ジェンダー研究入門

著者: 有賀夏紀、小檜山ルイ編

出版社: 青木書店

出版年: 2010

ISBN:

近代日本女性論の系譜

著者: 金子幸子

出版社: 不二出版

出版年: 1999

ISBN:

ジェンダーから世界を読むII

著者: 中野知律、越智博美編

出版社: 明石書店

出版年: 2008

ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学

著者: 伊藤公雄、牟田和恵編

出版社: 世界思想社

出版年: 2006

ISBN:

キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ

著者: ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン 著

出版社: 新曜社

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 (30%)

小テスト (30%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題40%は、講義時に複数回提出を求めるコメントを意味する。試験は期末レポート試験を意味する。

2015 Syllabus

科目名 宗教学概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	
テーマ 宗教と向き合うより良き方法を考える	
授業の到達目標 宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるといった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。	
授業の概要 以下の予定で授業を行う	
準備学習(予習・復習) 「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい	
内 容 第1回 総論Ⅰ 宗教と宗教学—宗教にどのようにアプローチするか— 第2回 総論Ⅱ 宗教をどのように定義するか 第3回 総論Ⅲ 宗教の構造と機能 第4回 総論Ⅳ 個人において宗教はどのように顕れるか—信仰ということ— 第5回 総論Ⅴ 宗教現象の諸相—祈るということ— 第6回 総論Ⅵ 宗教の人間観と世界観 第7回 各論Ⅰ(1) 仏教—釈迦とその後の展開— 第8回 各論Ⅰ(2) 仏教—日本仏教— 第9回 各論Ⅰ(3) 仏教教義の基礎 第10回 各論Ⅰ ユダヤ教とキリスト教 第11回 各論Ⅰ イスラーム 第12回 各論Ⅱ 道教と儒教 第13回 各論Ⅲ 民俗信仰—神道— 第14回 各論Ⅳ 新宗教—天理教と大本教など— 第15回 各論Ⅴ まとめ—宗教とどのように向き合うか 第16回	
履修上の注意点	
教科書 なし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 宗教学 著者: 岸本英夫 出版社: 原書房 出版年: 2004 ISBN:	
宗教学入門 著者: 棚次政和 他編 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2005 ISBN:	
宗教学入門 著者: 脇本平也 出版社: 講談社 出版年: 1997 ISBN:	
成績評価	

試験（50）

授業中課題（）

参加度（50）

参加度とは出席のこと

小テスト（）

授業中発表等（）

2015 Syllabus

科目名 **心理学概論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の概要

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

準備学習(予習・復習)

常日頃から、自分の心の動きについて関心を持ち、自分がなぜそのように感じたり考えたりするのか、という視点で立ち止まって考えてみてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「こころ」とは何か? 「心理学」とは何か?
- 第2回 こころとからだ～生きている上で実感すること
- 第3回 「動物」としての人間
- 第4回 「機械」としての人間～行動主義の心理学
- 第5回 学習と知能
- 第6回 認知と記憶
- 第7回 子どものこころの世界
- 第8回 こころの成長とは?
- 第9回 ライフサイクルから人生を考える
- 第10回 社会や集団を考える心理学
- 第11回 対人関係を考える心理学
- 第12回 パーソナリティとは?～自分の性格について考える
- 第13回 感情とは何か?～自分の感情に気づく
- 第14回 カウンセリングの基礎
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

履修上の注意点

基本的には、各回独立したテーマについて話しますが、前回の内容が、次の回の内容に実は関連する、といったこともありますので、欠席はしないようにしてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題は予告なしで行います。

2015 Syllabus

科目名 言語コミュニケーション論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中俣 尚己	
テーマ コミュニケーションにおける「配慮」	
授業の到達目標 コミュニケーションに必要な「配慮」を身に付ける。	
授業の概要 コミュニケーションに関する基本的な知識を学ぶとともに、わかりやすいコミュニケーションの実践を行う。	
準備学習(予習・復習) 「変な看板を集めよう！」などの課題はきちんと証拠を集めてくること。	
内 容 第1回 ガイダンス:コミュニケーションとはなにか? 第2回 コミュニケーションを集めよう(1):看板 第3回 コミュニケーションを集めよう(2):イラッとするメール、LINE 第4回 書き言葉によるコミュニケーション(1):メール 第5回 書き言葉によるコミュニケーション(2):お知らせ 第6回 書き言葉によるコミュニケーション(3):アンケート 第7回 やさしい日本語(1):日本語と権利 第8回 やさしい日本語(2):色々な日本語を書き換えよう 第9回 コミュニケーションの理論(1):語用論入門 第10回 コミュニケーションの理論(2):協調の原則 第11回 コミュニケーションの理論(3):丁寧さを考える 第12回 話し言葉によるコミュニケーション(1):電話での問い合わせ 第13回 話し言葉によるコミュニケーション(2):お願い 第14回 話し言葉によるコミュニケーション(3):プレゼン	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 日本語を話すトレーニング 著者: 野田尚史・森口稔 出版社: ひつじ書房 出版年: 2004 ISBN: 978-4894762107 日本語を書くトレーニング 著者: 野田尚史・森口稔 出版社: ひつじ書房 出版年: 2003 ISBN: 978-4894761773 「やさしい日本語」は何を目指すか 著者: 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣 出版社: ココ出版 出版年: 2013 ISBN: 978-4904595381 ディスコース 著者: 橋内武 出版社: くろしお出版 出版年: 1999 ISBN: 978-4874241721	
成績評価	

aky301d110

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ 宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」	
授業の到達目標 宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する	
授業の概要 「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある)。	
準備学習(予習・復習) 予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。	
内 容 第1回 宮崎駿の思想 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1) 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2) 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3) 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4) 第6回 「紅の豚」読解 第7回 「ハウルの動く城」読解 第8回 宮崎駿まとめ 第9回 細田守の演出 第10回 「サマーウォーズ」読解(1) 第11回 「サマーウォーズ」読解(2) 第12回 「サマーウォーズ」読解(3) 第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(1) 第14回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(2) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。	
教科書 宮崎駿の地平 著者: 野村幸一郎 出版社: 白地社 出版年: 2010/10 ISBN: 4893591037 サマーウォーズ 著者: 岩井恭平 出版社: 角川書店 出版年: 2009/7 ISBN: 4044288224	
参考書 おおかみこどもの雨と雪 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: 2012/6 ISBN: 978-4044288228	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 禧美 智章	
テーマ 宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」	
授業の到達目標 宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する	
授業の概要 「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある)。	
準備学習(予習・復習) 予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。	
内 容 第1回 宮崎駿の思想 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1) 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2) 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3) 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4) 第6回 「紅の豚」読解 第7回 「ハウルの動く城」読解 第8回 宮崎駿まとめ 第9回 細田守の演出 第10回 「サマーウォーズ」読解(1) 第11回 「サマーウォーズ」読解(2) 第12回 「サマーウォーズ」読解(3) 第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(1) 第14回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(2) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。	
教科書 宮崎駿の地平 著者: 野村幸一郎 出版社: 白地社 出版年: 2010/10 ISBN: 4893591037 サマーウォーズ 著者: 岩井恭平 出版社: 角川書店 出版年: 2009/7 ISBN: 4044288224	
参考書 おおかみこどもの雨と雪 著者: 細田守 出版社: 角川書店 出版年: 2012/6 ISBN: 978-4044288228	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 情報社会論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 三輪 幸一	
テーマ IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識	
授業の到達目標 経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること	
授業の概要 IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で, 経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており, 情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに, 国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため, ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。	
準備学習(予習・復習) 授業の理解を深め, また授業中に実施する小テストの練習のため, 以下のITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイト(私のWEBサイトからQRコードでアクセスできます)の問題を解き, 理解を深めること。ITパスポート試験の過去問解説 http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm またITパスポート試験を受験する場合は, ITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。またITパスポート試験では70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。	
内 容 第1回 経営管理と組織論業務の把握と分析手法 第2回 経営戦略の手法 第3回 マネジメントの手法事業戦略, 経営管理システム 第4回 システム戦略とシステム企画 I 第5回 システム戦略とシステム企画 II 第6回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント 第7回 コンピュータシステム I コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステム, 補助記憶装置, 入出力インターフェース) 第8回 コンピュータシステム II・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど) 第9回 ネットワークの構成としくみ I・IPアドレスとネットワークのしくみ 第10回 ネットワークの構成としくみ II・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど 第11回 ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウイルスの種類と対策・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など) 第12回 情報セキュリティ・情報セキュリティ管理と脅威, リスク対策・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証 第13回 情報分析の手法 I (決定表とDFDIによる分析) 第14回 情報分析の手法 II (E-R図による分析) 第15回 情報分析の手法 III (ポートフォリオ図による分析, SWOT分析)情報分析の手法IV (アローダイアグラムによる日程計画)	
履修上の注意点 授業及び小テストは, 指定された席で, 受講すること。また小テスト時には, 学生証を机上に提示し受験すること。私語など受講マナーが悪く, 授業に悪影響を及ぼすと判断される場合, 減点の対象とします。	

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

秀和システム「ITパスポートスーパー合格本(CBT対応)」三輪幸市(ペンネーム)の電子書籍版(pdf形式)がPドライブの以下のフォルダにありますので、授業の参考にしてください。

著者: 「2015年度」→「三輪先生」→「教材提示用」→「情報社会論」とたどり、「ITパスポートスーパー合格本.pdf」

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

2015 Syllabus

科目名 情報社会論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 三輪 幸一	
テーマ IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識	
授業の到達目標 経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること	
授業の概要 IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で, 経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており, 情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに, 国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため, ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。	
準備学習(予習・復習) 授業の理解を深め, また授業中に実施する小テストの練習のため, 以下のITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイト(私のWEBサイトからQRコードでアクセスできます)の問題を解き, 理解を深めること。ITパスポート試験の過去問解説 http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm またITパスポート試験を受験する場合は, ITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。またITパスポート試験では70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。	
内 容 第1回 経営管理と組織論業務の把握と分析手法 第2回 経営戦略の手法 第3回 マーケティングの手法事業戦略, 経営管理システム 第4回 システム戦略とシステム企画 I 第5回 システム戦略とシステム企画 II 第6回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント 第7回 コンピュータシステム I・コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステム, 補助記憶装置, 入出力インタフェース) 第8回 コンピュータシステム II・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど) 第9回 ネットワークの構成としくみ I・IPアドレスとネットワークのしくみ 第10回 ネットワークの構成としくみ II・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど 第11回 ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウイルスの種類と対策・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など) 第12回 情報セキュリティ・情報セキュリティ管理と脅威, リスク対策・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証 第13回 情報分析の手法 I (決定表とDFDIによる分析) 第14回 情報分析の手法 II (E-R図による分析) 第15回 情報分析の手法 III (ポートフォリオ図による分析, SWOT分析)情報分析の手法IV (アローダイアグラムによる日程計画)	
履修上の注意点 履修上の注意 授業及び小テストは, 指定された席で, 受講すること。また小テスト時には, 学生証を机上に提示し受験すること。私語など受講マナーが悪く, 授業に悪影響を及ぼすと判断される場合, 減点の対象とします。	

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

「ITパスポート スーパー合格本(OBT対応)」三輪幸市(ペンネーム)の電子書籍版(pdf形式)がPドライブの以下のフォルダにありますので、授業の参考にしてください。

著者: 「2015年度」→「三輪先生」→「教材提示用」→「情報社会論」とたどり、「ITパスポート スーパー合格本.pdf」

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Aa>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 寛史	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ab>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	白井 安夫	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内容	<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解～文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橋大学</p> <p>出版社: 京都橋大学生協</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (40)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ac>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	鶴谷 直樹	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内容	<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解~文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートII 京都橋のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橋大学</p> <p>出版社: 京都橋大学生協</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (40)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ad>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ae>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 宮崎 孝史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Af>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ag>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 杉本 みち子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ah>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 関 浩成・武田 春美	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要があります。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ba>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bb>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	白井 安夫	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内容	<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解~文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートII 京都橘のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橘大学</p> <p>出版社: 京都橘大学生協</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (40)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bc>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 鶴谷 直樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bd>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Be>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	宮崎 孝史	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内容	<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解～文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橋大学</p> <p>出版社: 京都橋大学生協</p> <p>出版年: 2012</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 ()</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>参加度 (20)</p> <p>小テスト (40)</p> <p>授業中発表等 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bf>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	奥田 久美子	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内容	<p>第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解～文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橋大学</p> <p>出版社: 京都橋大学生協</p> <p>出版年: 2012 ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 () 小テスト (40)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 (20)</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bg>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 杉本 みち子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bh>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 関 浩成・武田 春美

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 青木 寛史	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう! 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度 第5回 数の世界の不思議から文字へ 第6回 展開、因数分解～文字式の計算 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者: 京都橋大学 出版社: 京都橋大学生協 出版年: 2012 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	青木 寛史	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	<p>学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。</p>	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	<p>第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!</p> <p>第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数</p> <p>第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に</p> <p>第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度</p> <p>第5回 数の世界の不思議から文字へ</p> <p>第6回 展開、因数分解～文字式の計算</p> <p>第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解</p> <p>第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式</p> <p>第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題</p> <p>第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問</p> <p>第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数</p> <p>第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成</p> <p>第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値</p> <p>第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	<p>スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ</p> <p>著者: 京都橋大学</p> <p>出版社: 京都橋大学生協</p> <p>出版年: 2012</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 ()</p> <p>授業中課題 (40)</p> <p>参加度 (20)</p> <p>小テスト (40)</p> <p>授業中発表等 ()</p>	

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習 I <水3>

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Aa>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ab〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ac>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定

担当者 鶴谷 直樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認
- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ad>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ae>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 宮崎 孝史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Af〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ag>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 杉本 みち子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ah〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 武田 春美

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ba>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鶴谷 直樹

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	池本 浩章	
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Be〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 宮崎 孝史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Bf〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bg>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 大学指定

担当者 杉本 みち子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bh>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 武田 春美

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習(予習・復習)

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 青木 寛史		
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ 著者： 京都橘大学 出版社： 京都橘大学生協 出版年： 2012 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 青木 寛史		
テーマ	社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点	自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN:	
参考書		
成績評価	試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 白井 安夫	
テーマ 社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標 数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習) 毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合 第4回 論理と集合(2)～命題と論理 第5回 論理と集合(2)～命題と論理 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用 第8回 平面図形(1)～平行線と角 第9回 平面図形(2)～円とその性質 第10回 平面図形(3)～合同と相似 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理 第12回 図形と計量(2)～応用問題 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積 第14回 空間図形(2)～応用問題 第15回 まとめと到達度の確認	
履修上の注意点 自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書 スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ 著者： 京都橋大学 出版社： 京都橋大学生協 出版年： 2012 ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト (40) 授業中課題 (40) 授業中発表等 () 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈水4〉

クラス	配当回生
講義期間 その他	定 員 40
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
社会に出るために必要な数学力を身につける	
授業の到達目標	
数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。	
授業の概要	
授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。	
準備学習(予習・復習)	
毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。	
内 容	
第1回	比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
第2回	比・比例・割合(2)～応用問題
第3回	論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
第4回	論理と集合(2)～命題と論理
第5回	論理と集合(2)～命題と論理
第6回	場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
第7回	場合の数と確率(3)～確率とその応用
第8回	平面図形(1)～平行線と角
第9回	平面図形(2)～円とその性質
第10回	平面図形(3)～合同と相似
第11回	図形と計量(1)～面積・三平方の定理
第12回	図形と計量(2)～応用問題
第13回	空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回	空間図形(2)～応用問題
第15回	まとめと到達度の確認
履修上の注意点	
自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。	
教科書	
スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ	
著者: 京都橘大学	
出版社: 京都橘大学生協	
出版年: 2012	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト (40)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ()
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅲ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	小西 康子	
テーマ	Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。	
授業の到達目標	Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。	
授業の概要	現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とす	
準備学習(予習・復習)	授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本</p> <p>第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定</p> <p>第3回 実務における表計算・・・数式、関数知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)</p> <p>第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)</p> <p>第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)</p> <p>第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ</p> <p>第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット</p> <p>第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス</p> <p>第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ</p> <p>第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)</p> <p>第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)</p> <p>第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ)知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理</p> <p>第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1</p> <p>第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2</p> <p>第15回 課題</p>	
履修上の注意点		
教科書	日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応 著者： 富士通エフ・オー・エム(株) 出版社： FOM出版 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価	試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (50%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (50%)	

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	

担当者 小西 康子

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習(予習・復習)

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN:

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (0%)

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習 V

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員 40
履修条件	クラス指定

担当者 三輪 幸一

テーマ

アニメーションを主としたプログラミング入門

授業の到達目標

JavaScriptやFlashアニメーションの初歩的なプログラミングができることを目指す

授業の概要

ホームページでの動的なアニメーション表現やデータ処理などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われています。JavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっています。WebデザイナーやWebプログラムの基礎技術にもなっています。画像や図形のアニメーションを主としたJavaScriptやFlashアニメーションのプログラミングを通してプログラミングの初歩とプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。初めてプログラミングを学ぶ人のために、実習を通して易しくプログラミングを修得します。授業では「プログラミングによるアニメーションの初歩と表現の可能性」を追究しながら授業をすすめていきます。1. JavaScriptによるプログラミング入門(第1～11回) 画像や図形のアニメーションを主としたプログラムの作成を通して、ループ処理や分岐処理、マウスによるイベント処理などのプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。2. FlashのActionScriptによるアニメーションプログラミング入門(第12～15回) ActionScriptはFlashアニメーションのプログラムの作成を支援するツールで、プログラムの作成が初心者でも比較的容易になります。これを用いて、初歩的なプログラミング技術を修得します。ActionScriptにより高度なFlashアニメーションの作成技術が修得できますので、情報処理演習VIの受講者も引き続き受講されることを推奨します。

準備学習(予習・復習)

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

内 容

- 第1回 JavaScriptの準備 (HTMLの基礎)
- 第2回 画像の配置とJavaScriptでプログラミングを行うための基礎知識
- 第3回 ボタンクリックで背景色が変わるプログラムキャラクタの画像の移動を制御するアニメーションのプログラム
- 第4回 キャラクタの画像がボタンクリックにより上下左右にアニメーションするプログラム
- 第5回 複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第6回 ボタンクリックで複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第7回 配列とfor文やwhile文によるループ処理
- 第8回 for文による二重ループ処理
- 第9回 飛行機が左下から右上へ拡大しながら上昇するアニメーションのプログラム雪が降る情景のアニメーションのプログラム
- 第10回 桜が散る情景のアニメーションのプログラムトロと風船がふんわりと上昇するアニメーションのプログラム
- 第11回 アニメーションのプログラムを改造・組み合わせて作成するプログラム
- 第12回 ActionScriptによるFlashアニメーションの基礎・トロがマウスの動きに追従するアニメーション・透明度とサイズをランダムに変えながら明滅するロゴアニメーション
- 第13回 キャラクタの画像がステージの両端でリターンするアニメーションボタンクリックで移動を開始または停止するアニメーション
- 第14回 当たり判定により命中すると爆発する宇宙船のゲームプログラミング
- 第15回 Scratchによるプログラミングなしの簡単なアプリ作成またはノープログラミングツールによる携帯アプリの作成

履修上の注意点

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

提出課題により平常点評価(50%)と出席率(50%)により成績評価を行う。

2015 Syllabus

科目名 情報処理演習VI

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定

担当者 三輪 幸一

テーマ

プレゼンテーションとマルチメディア素材の作成

授業の到達目標

PwerPointによるプレゼンテーション作成及びFlashアニメーションの作成やSkechUpによる3D作成ができることを目指す

授業の概要

授業では先ずPowerPointを活用したプレゼンテーションの作成を行います。更にコンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術としてフォトタッチ(画像の編集・合成)、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得します。ホームページ上で動きを与えるアニメーションとしてFlashアニメーションがよく使われています。Flashアニメーションにより、映画のタイトルロゴのような迫力ある演出や迫力あるリアルなアニメーションを作成できます。FlashアニメーションはWebデザイナーの基礎技術にもなっています。授業ではホームページ上のアニメーションとして人気のあるFlashアニメーションの作成のしかたを修得します。授業では「FlashアニメーションやFlashロゴデザインと表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業をすすめていきます。また三次元マルチメディア素材作成技術としてSkechUpという3Dグラフィックス作成ソフトウェアにより建物などの三次元物体の作成の基礎技術を修得します。

準備学習(予習・復習)

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

内 容

- 第1回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
- 第2回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
- 第3回 ・PowerPointにより商品のプレゼンテーションを作成してみる
- 第4回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトタッチ(画像の編集・合成基礎)
- 第5回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトタッチ(画像の編集・合成応用)
- 第6回 ・Flashの図形描画の基本
- 第7回 ・球の移動と長方形が転がるモーショントゥーンによるアニメーションの基本・トロと風船がふんわりと上昇するアニメーション・ロゴが集結するアニメーション
- 第8回 ・パスに沿って鳥と風船が移動するアニメーション・階段を回転しながら転がり落ちるアニメーション・ショパンのレリーフが分解・統合するアニメーション
- 第9回 ・ロゴが1文字ずつ色を変えながら落下するロゴアニメーション・トランポリンズームと落下するロゴを組み合わせたアニメーション
- 第10回 ・水面に落下したロゴの周囲に波紋の広がるアニメーション
- 第11回 ・マウスクリックによりランプが点灯するアニメーション・シェープトゥーンによる立方体が転がるアニメーション
- 第12回 ・画像がフェードイン・フェードアウトし移動するアニメーション・画像の遷移効果と移動を組み合わせたアニメーション
- 第13回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの基礎
- 第14回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(椅子、建築物の作成Ⅰ)
- 第15回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成Ⅱ)

履修上の注意点

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

提出課題により平常点評価(50%)と出席率(50%)により成績評価を行う。

2015 Syllabus

科目名 比較文化論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 杉山 泰

テーマ

イギリスから眺めた「日本文化」— 日本文化は「辺境文化」と言えるのか

授業の到達目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、ブレア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の概要

去年は、「靴の文化」「風呂敷の文化」の話から始まり、映画の『Wood Jobs』、『テルマエ・ロマエ』を取り上げ、「森の文化」「温泉文化」、さらには、「里山資本主義」というスローライフの文化を論じるようになった。今年もテーマは同じだが、最後には、「弘法太師空海」の<わび><さび>の「侘字義」の世界と、文化の対極にある「戦争」についても、宗教問題を絡めて論じる予定である。

準備学習(予習・復習)

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出し、あなたにとっての「日本文化」を<衣食住>から1つずつ探してもらおう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしてもらおう。

内 容

- 第1回 「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？ 世界言語の数は？ 出雲大社ではなぜ4回も拍手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。
- 第2回 active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈思黙考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivativeに手を出さない。
- 第3回 島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？
- 第4回 quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？ plant hunterの意味は？
- 第5回 「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」<視点>は？
- 第6回 「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返しませぬから」の主語は？ 「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。
- 第7回 「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。
- 第8回 「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？
- 第9回 唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？ <みずから>の文化・<おのずから>の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture
- 第10回 日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？ 「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は<純粋>なのか<雑種>なのか？ <雑種文化論>とは何か？
- 第11回 <純粋文化論>と、<雑種文化論>。<文化相対主義cultural relativism>とは何か？ ニュージーランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。
- 第12回 「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？ 人口問題と食。和食の<だし>文化が最近世界の料理人の間でも知られてきた。隠し味に醤油を使っているイタリア人シェフがイギリスのテレビ番組でよく見かける。
- 第13回 「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？ <macrobiotics>を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守れるのか。人口爆発の21世紀。
- 第14回 slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。
- 第15回 日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ また、イギリス人は人口以上に海外旅行を楽しんでいる。なぜ、同じ島国で生活しているのに、これほど海外に日本人は出ないのか。「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればできるのか？ 京都タワーは京都らしくない？ 京都はどんな町。

履修上の注意点

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

出版年： ISBN:

参考書

日本語の起源

著者： 大野晋

出版社： 岩波新書

出版年： 1994 ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語

著者： 持田鋼一郎

出版社： 新潮新書

出版年： 2005 ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者： 堤未果

出版社： 岩波新書

出版年： 2008 ISBN:

日本語教のすすめ

著者： 鈴木孝夫

出版社： 新潮新書

出版年： 2009 ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国につぼん考

著者： 桜井順

出版社： 岩波文庫

出版年： 2010 ISBN:

日本辺境論

著者： 内田樹

出版社： 新潮新書

出版年： 2009 ISBN:

なぜ八幡神社が日本でいちばん多いのか

著者： 島田裕巳

出版社： 幻冬舎新書

出版年： 2013 ISBN:

空海と日本思想

著者： 篠原資明

出版社： 岩波新書

出版年： 2012 ISBN:

サバイバル時代の海外旅行

著者： 高城剛

出版社： 光文社新書

出版年： 2009 ISBN:

里山資本主義

著者： 藻谷浩介

出版社： 角川oneテーマ21

出版年： 2013 ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

15回の講義のうち、5、6回ほどレポート提出(10分ほどでできるもの)がある。この提出がないと、いくら出席していても、欠席扱いにするので要注意。また、各自の自由なレポート提出は高く評価する。日本文化についても素朴な質問なども、次回の講義でその質問に答えるという形で、その質問者は成績評価の際に加味する。

2015 Syllabus

科目名 比較文化論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	
テーマ	
イギリスから眺めた「日本文化」— 日本文化は「辺境文化」と言えるのか	

授業の到達目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、ブレア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の概要

去年は、「靴の文化」「風呂敷の文化」の話から始まり、映画の『Wood Jobs』、『テルマエ・ロマエ』を取り上げ、「森の文化」「温泉文化」、さらには、「里山資本主義」というスローライフの文化を論じるようになった。今年もテーマは同じだが、最後には、「弘法法師空海」の<わび><さび>の「侘字義」の世界と、文化の対極にある「戦争」についても、宗教問題を絡めて論じる予定である。

準備学習(予習・復習)

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出し、あなたにとっての「日本文化」を<衣食住>から1つずつ探してもらおう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしてもらおう。

内 容

- 第1回 「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？ 世界言語の数は？ 出雲大社ではなぜ4回も拍手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。
- 第2回 active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈思黙考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivativeに手を出さない。
- 第3回 島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？
- 第4回 quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？ plant hunterの意味は？
- 第5回 「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」<視点>は？
- 第6回 「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返しませぬから」の主語は？ 「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。
- 第7回 「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。
- 第8回 「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？
- 第9回 唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？ <みずから>の文化・<おのずから>の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture
- 第10回 日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？ 「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は<純粋>なのか<雑種>なのか？ <雑種文化論>とは何か？
- 第11回 <純粋文化論>と、<雑種文化論>。<文化相対主義cultural relativism>とは何か？ ニュージーランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。
- 第12回 「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？ 人口問題と食。和食の<だし>文化が最近世界の料理人の間でも知られてきた。隠し味に醤油を使っているイタリア人シェフがイギリスのテレビ番組でよく見かける。
- 第13回 「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？ <macrobiotics>を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守れるのか。人口爆発の21世紀。
- 第14回 slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。
- 第15回 日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ また、イギリス人は人口以上に海外旅行を楽しんでいる。なぜ、同じ島国で生活しているのに、これほど海外に日本人は出ないのか。「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればできるのか？ 京都タワーは京都らしくない？ 京都はどんな町。

履修上の注意点

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

出版年： ISBN:

参考書

日本語の起源

著者： 大野晋

出版社： 岩波新書

出版年： 1994 ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語

著者： 持田鋼一郎

出版社： 新潮新書

出版年： 2005 ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者： 堤未果

出版社： 岩波新書

出版年： 2008 ISBN:

日本語教のすすめ

著者： 鈴木孝夫

出版社： 新潮新書

出版年： 2009 ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国につぼん考

著者： 桜井順

出版社： 岩波文庫

出版年： 2010 ISBN:

日本辺境論

著者： 内田樹

出版社： 新潮新書

出版年： 2009 ISBN:

なぜ八幡神社が日本でいちばん多いのか

著者： 島田裕巳

出版社： 幻冬舎新書

出版年： 2013 ISBN:

空海と日本思想

著者： 篠原資明

出版社： 岩波新書

出版年： 2012 ISBN:

サバイバル時代の海外旅行

著者： 高城剛

出版社： 光文社新書

出版年： 2009 ISBN:

里山資本主義

著者： 藻谷浩介

出版社： 角川oneテーマ21

出版年： 2013 ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

15回の講義のうち、5、6回ほどレポート提出(10分ほどでできるもの)がある。この提出がないと、いくら出席していても、欠席扱いにするので要注意。また、各自の自由なレポート提出は高く評価する。日本文化についても素朴な質問なども、次回の講義でその質問に答えるという形で、その質問者は成績評価の際に加味する。

2015 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文) <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 蒲 豊彦	
テーマ 東アジアを題材とした異文化理解。	
授業の到達目標 本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。	
授業の概要 授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。	
準備学習(予習・復習) 何回か、小レポートを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、これが成績の基本部分となる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 あんパンはどこから来たのか？(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。) 第3回 日本に住む外国人、外国に住む日本人 第4回 貿易と食糧(貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。) 第5回 中国の町と暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。) 第6回 日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。) 第7回 大航海時代(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第8回 アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第9回 江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流) 第10回 東アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第11回 東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史) 第12回 1時間で読めるハングル(ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する) 第13回 中国語入門1(中国語の歴史) 第14回 中国語入門2(発音と簡単な文法) 第15回 おまけー計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)	
履修上の注意点 小レポートは、きちんとした文章にすること。その基本は授業中に紹介する。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (80) 参加度 (20)	小テスト () 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 蒲 豊彦	
テーマ 東アジアを題材とした異文化理解。	
授業の到達目標 本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。	
授業の概要 授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。	
準備学習(予習・復習) 何回か、小レポートを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、これが成績の基本部分となる。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 あんパンはどこから来たのか？(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。) 第3回 日本に住む外国人、外国に住む日本人 第4回 貿易と食糧(貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。) 第5回 中国の町と暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。) 第6回 日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。) 第7回 大航海時代(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第8回 アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第9回 江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流) 第10回 東アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。) 第11回 東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史) 第12回 1時間で読めるハングル(ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する) 第13回 中国語入門1(中国語の歴史) 第14回 中国語入門2(発音と簡単な文法) 第15回 おまけー計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)	
履修上の注意点 小レポートは、きちんとした文章にすること。その基本は授業中に紹介する。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 () 授業中課題 (80) 参加度 (20)	小テスト () 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 芸術と文化 <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術への造詣を深めることで文化的価値の感じ方、自分自身の追及力を養う。

授業の到達目標

さまざまな分野の芸術を広い視野で感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として知るだけでなく、実際に肌で芸術を感じてもらう。

授業の概要

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に体感してもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を書いて提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常でその機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
- 第2回 笑いと芸術の関係
- 第3回 香りと芸術
- 第4回 全ての芸術の本質とは？
- 第5回 情報化社会での芸術評価
- 第6回 芸術における自然性
- 第7回 自律神経系と芸術の関わり
- 第8回 五感で捉える芸術
- 第9回 音楽と芸術
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理
- 第11回 芸術の心理的効果とその実験
- 第12回 ミュージカルとオペラ
- 第13回 夢(右脳)と芸術
- 第14回 器と芸術
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・特別な理由のない遅刻は出席と認めません。・私語を再三の注意にも関わらず行なった場合は、授業の迷惑行為とみなし、退席してもらいます。また、その場合、単位は認めません。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の提出物及び出席は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2015 Syllabus

科目名 芸術と文化

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術への造詣を深めることで文化的価値の感じ方、自分自身の追及力を養う。

授業の到達目標

さまざまな分野の芸術を広い視野で感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として知るだけでなく、実際に肌で芸術を感じてもらう。

授業の概要

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に体感してもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を書いて提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常でその機会を増やしてください。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
- 第2回 笑いと芸術の関係
- 第3回 香りと芸術
- 第4回 全ての芸術の本質とは？
- 第5回 情報化社会での芸術評価
- 第6回 芸術における自然性
- 第7回 自律神経系と芸術の関わり
- 第8回 五感で捉える芸術
- 第9回 音楽と芸術
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理
- 第11回 芸術の心理的効果とその実験
- 第12回 ミュージカルとオペラ
- 第13回 夢(右脳)と芸術
- 第14回 器と芸術
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

・特別な理由のない遅刻は出席と認めません。・私語を再三の注意にも関わらず行なった場合は、授業の迷惑行為とみなし、退席してもらいます。また、その場合、単位は認めません。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の提出物及び出席は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2015 Syllabus

科目名 芸術と文化 <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山本 善則

テーマ

芸術への造詣を深めることで文化的価値の感じ方、自分自身の追及力を養う。

授業の到達目標

さまざまな分野の芸術を広い視野で感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として知るだけでなく、実際に肌で芸術を感じてもらう。

授業の概要

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に体感してもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を書いて提出してもらいます。

準備学習(予習・復習)

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常でその機会を増やしてください。

内 容

- 第8回 五感で捉える芸術
- 第9回 音楽と芸術
- 第10回 表現者心理と聴衆者心理
- 第11回 芸術の心理的効果とその実験
- 第12回 ミュージカルとオペラ
- 第13回 夢(右脳)と芸術
- 第14回 器と芸術
- 第15回 まとめ
- 第1回 サウンドスケープとは？
- 第2回 笑いと芸術の関係
- 第3回 香りと芸術
- 第4回 全ての芸術の本質とは？
- 第5回 情報化社会での芸術評価
- 第6回 芸術における自然性
- 第7回 自律神経系と芸術の関わり

履修上の注意点

・特別な理由のない遅刻は出席と認めません。・私語を再三の注意にも関わらず行なった場合は、授業の迷惑行為とみなし、退席してもらいます。また、その場合、単位は認めません。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (50)

毎回の提出物及び出席は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 蒲 豊彦	
テーマ 中国語入門	
授業の到達目標 発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。	
授業の概要 教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。	
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。	
内 容 第1回 中国語について、授業について 第2回 発音1 母音 第3回 発音2 子音 第4回 発音3 鼻音 第5回 発音4 声調 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。) 第7回 練習 第8回 練習 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第1課~3課の復習 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第4課~5課の復習 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第6課~7課の復習 第30回 小テストの再テスト	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課~3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課~5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課~7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

第28回 練習

第29回 第6課～7課の復習

第30回 小テストの再テスト

第1回 中国語について、授業について

第2回 発音1 母音

第3回 発音2 子音

第4回 発音3 鼻音

第5回 発音4 声調

第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)

第7回 練習

第8回 練習

第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)

第10回 練習

第11回 練習

第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)

第13回 練習

第14回 練習

第15回 第1課～3課の復習

第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)

第17回 練習

第18回 練習

第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)

第20回 練習

第21回 練習

第22回 第4課～5課の復習

第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)

第24回 練習

第25回 練習

第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)

第27回 練習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <月2・木3>

クラス

配当回生

講義期間 その他

定 員 50

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の到達目標

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の概要

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

準備学習(予習・復習)

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

内 容

第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 //

履修上の注意点

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

教科書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

2015 Syllabus

科目名 中国語 I <月3・木2>

クラス 配当回生

講義期間 その他 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

仮シラバス画面です。クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の到達目標

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

授業の概要

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

準備学習(予習・復習)

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

内 容

第1回 クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 //

履修上の注意点

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

教科書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

クラス配置が決定した後、各クラスのシラバスで確認して下さい。

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 トウカ

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 前期の復習
 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 第3回 練習
 第4回 練習
 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 第6回 練習
 第7回 練習
 第8回 第8課～9課の復習
 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 第10回 練習
 第11回 練習
 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 第13回 練習
 第14回 練習
 第15回 第10課～11課の復習
 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 第17回 練習
 第18回 練習
 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 第20回 練習
 第21回 練習
 第22回 第12課～13課の復習
 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 第24回 練習
 第25回 練習
 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 第27回 練習
 第28回 練習
 第29回 第14課～15課の復習
 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (20)小テスト (60)
授業中発表等 (0)

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 トウカ		
テーマ 中国語入門		
授業の到達目標 前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。		
授業の概要 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。		
準備学習(予習・復習) 新しい単語は、必ず覚えてください。		
内 容 第1回 前期の復習 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。) 第3回 練習 第4回 練習 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。) 第6回 練習 第7回 練習 第8回 第8課～9課の復習 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。) 第10回 練習 第11回 練習 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。) 第13回 練習 第14回 練習 第15回 第10課～11課の復習 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。) 第17回 練習 第18回 練習 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。) 第20回 練習 第21回 練習 第22回 第12課～13課の復習 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。) 第24回 練習 第25回 練習 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。) 第27回 練習 第28回 練習 第29回 第14課～15課の復習 第30回 小テストの再テスト		
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価 試験 (0) 授業中課題 (20)	小テスト (60) 授業中発表等 (0)	

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件 中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習(予習・復習)

新しい単語は、必ず覚えてください。

内 容

- 第1回 前期の復習
 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 第3回 練習
 第4回 練習
 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 第6回 練習
 第7回 練習
 第8回 第8課～9課の復習
 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 第10回 練習
 第11回 練習
 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 第13回 練習
 第14回 練習
 第15回 第10課～11課の復習
 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 第17回 練習
 第18回 練習
 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 第20回 練習
 第21回 練習
 第22回 第12課～13課の復習
 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 第24回 練習
 第25回 練習
 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 第27回 練習
 第28回 練習
 第29回 第14課～15課の復習
 第30回 小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (20)小テスト (60)
授業中発表等 (0)

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅲ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件 中国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。

準備学習(予習・復習)

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内 容

- 第1回 発音の復習
- 第2回 第1課 中国の朝ご飯
- 第3回 会話(助動詞、方向補語等)
- 第4回 短文
- 第5回 練習
- 第6回 第2課 服装
- 第7回 会話(助動詞、兼語文等)
- 第8回 短文
- 第9回 練習
- 第10回 第1課～2課の復習
- 第11回 第3課 映画を見る
- 第12回 会話(完了、比較等)
- 第13回 短文
- 第14回 練習
- 第15回 第4課 割り勘
- 第16回 会話(受け身、比較等)
- 第17回 短文
- 第18回 練習
- 第19回 第3課～4課の復習
- 第20回 第5課 病気になる
- 第21回 会話(状態の持続等)
- 第22回 短文
- 第23回 練習
- 第24回 第6課 携帯電話
- 第25回 会話(～しながら等)
- 第26回 短文
- 第27回 練習
- 第28回 第5課～6課の復習
- 第29回 小テストの再テスト
- 第30回 全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

2015 Syllabus

科目名 中国語Ⅳ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅲを継続する。中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。教科書のほかに、中国各地の新聞を使い、現在の社会事情なども見てみたい。

準備学習(予習・復習)

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第7課 大学生活
- 第3回 会話(疑問詞等)
- 第4回 短文
- 第5回 練習
- 第6回 第8課 恋愛事情
- 第7回 会話(～でさえ等)
- 第8回 短文
- 第9回 練習
- 第10回 第7課～8課の復習
- 第11回 第9課 感謝の表現
- 第12回 会話(動作の回数等)
- 第13回 短文
- 第14回 練習
- 第15回 第10課 一人っ子
- 第16回 会話(可能補語等)
- 第17回 短文
- 第18回 練習
- 第19回 第9課～10課の復習
- 第20回 第11課 若者と職業
- 第21回 会話(～のために等)
- 第22回 短文
- 第23回 練習
- 第24回 第12課 外国語の学習
- 第25回 会話(～の他に、使役等)
- 第26回 短文
- 第27回 練習
- 第28回 第11課～12課の復習
- 第29回 小テストの再テスト
- 第30回 全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

2015 Syllabus

科目名 韓国語 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 朴 恵貞

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

授業の到達目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の概要

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習(予習・復習)

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内 容

- 第1回 授業の進め方について韓国語とは?
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

『サクサクっと韓国語

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2014

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **韓国語 I **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 朴 恵貞	
テーマ	
韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。	
授業の到達目標	
①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。	
授業の概要	
このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習)	
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。	
内 容	
第1回 授業の進め方について韓国語とは？	
第2回 子音字と母音字<1>-1	
第3回 子音字と母音字<1>-2	
第4回 子音字と母音字<2>-1	
第5回 子音字と母音字<2>-2	
第6回 子音字と母音字<3>-1	
第7回 子音字と母音字<3>-2	
第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！①	
第9回 パッチム1	
第10回 パッチム2	
第11回 日本の地名・人名のハングル表記	
第12回 指定詞の表現	
第13回 実践会話と検定対策 1	
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！②	
第15回 指定詞・疑問詞の表現	
第16回 指示詞の否定の表現	
第17回 漢数詞	
第18回 月日・曜日の表現	
第19回 存在詞・位置の表現	
第20回 実践会話と検定対策 2	
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！③	
第22回 用言の「ハムニダ体」の表現	
第23回 助詞	
第24回 好き嫌いの表現	
第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現	
第26回 固有数詞	
第27回 実践会話と検定対策 3	
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！④	
第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①	
第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。	
教科書	
サクサクつと韓国語』	
著者: 金美華	
出版社: 白帝社	
出版年: 2014	
ISBN:	

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 韓国語 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはず。また、文字の発音を効果的に抑えるために、最近流行っている韓国の歌を聴き、一緒に発音しながら歌う方法をとりますので、楽しく韓国語を学びましょう。

準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内 容

- 第21回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 温かくて気持ちいいですね)③
 第22回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 綺麗な人)①
 第23回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 歌っている人が素敵ですね)②
 第24回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 綺麗なガパン、ありますか)③
 第25回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 楽しくて幸せな日々)④
 第26回 韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ①
 第27回 韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ②
 第28回 映画鑑賞
 第29回 期末テスト<自己紹介>の文章暗唱)①
 第30回 期末テスト(文法と単語)②
 第1回 オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
 第2回 基本文字(母音子10文字の音と書き)
 第3回 基本文字(子音子14文字の音と書き)
 第4回 基本文字(複母音子11文字の音と書き)
 第5回 基本文字(複子音子5文字の音と書き)
 第6回 パッチム
 第7回 韓国文字の総括復習と読みの法則
 第8回 期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習。
 第9回 パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。
 第10回 歌で発音練習 + 文法(名詞の丁寧語 / これはリンゴです)
 第11回 歌で発音練習 + 文法(動詞・形容詞の丁寧語 / 綺麗です)
 第12回 歌で発音練習 + 文法(助詞 / は、が、を)
 第13回 歌で発音練習 + 文法(過去形 / 焼肉屋に行きました)
 第14回 歌で発音練習 + 文法(尊敬語 / 先生もいらっしゃいました)
 第15回 歌で発音練習 + 文法(未来形 / 明日は休みます)
 第16回 映画鑑賞
 第17回 歌で発音練習 + 文法(会話体の丁寧語 / 誰もおられませんか)①
 第18回 歌で発音練習 + 文法(会話体の丁寧語 / 明洞に行きたいですが)②
 第19回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 食事をして映画館に行きました)①
 第20回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 楽しくてたまりません)②

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり
 著者: 金 文洙・崔 孝先
 出版社: 文芸林
 出版年: 2015/3

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 韓国語 I <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 崔 孝先	
テーマ	楽しく効果的に韓国語を学ぶ。
授業の到達目標	①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習。
授業の概要	韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはず。また、文字の発音を効果的に抑えるために、最近流行っている韓国の歌を聴き、一緒に発音しながら歌う方法をとりますので、楽しく韓国語を学びましょう。
準備学習(予習・復習)	予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)</p> <p>第2回 基本文字(母音子10文字の音と書き)</p> <p>第3回 基本文字(子音子14文字の音と書き)</p> <p>第4回 基本文字(複母音子11文字の音と書き)</p> <p>第5回 基本文字(複子音子5文字の音と書き)</p> <p>第6回 パッチム</p> <p>第7回 韓国文字の総括復習と読みの法則</p> <p>第8回 期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習。</p> <p>第9回 パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。</p> <p>第10回 歌で発音練習 + 文法(名詞の丁寧語 / これはリンゴです)</p> <p>第11回 歌で発音練習 + 文法(動詞・形容詞の丁寧語 / 綺麗です)</p> <p>第12回 歌で発音練習 + 文法(助詞 / は、が、を)</p> <p>第13回 歌で発音練習 + 文法(過去形 / 焼肉屋に行きました)</p> <p>第14回 歌で発音練習 + 文法(尊敬語 / 先生もいらっしゃいました)</p> <p>第15回 歌で発音練習 + 文法(未来形 / 明日は休みます)</p> <p>第16回 映画鑑賞</p> <p>第17回 歌で発音練習 + 文法(会話体の丁寧語 / 誰もおられませんか)①</p> <p>第18回 歌で発音練習 + 文法(会話体の丁寧語 / 明洞に行きたいですが)②</p> <p>第19回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 食事をして映画館に行きました)①</p> <p>第20回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 楽しくてたまりません)②</p> <p>第21回 歌で発音練習 + 文法(連用形 / 温かくて気持ちいいですね)③</p> <p>第22回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 綺麗な人)①</p> <p>第23回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 歌っている人が素敵ですね)②</p> <p>第24回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 綺麗なガパン、ありますか)③</p> <p>第25回 歌で発音練習 + 文法(連体形 / 楽しくて幸せな日々)④</p> <p>第26回 韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ①</p> <p>第27回 韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ②</p> <p>第28回 映画鑑賞</p> <p>第29回 期末テスト(<自己紹介>の文章暗唱)①</p> <p>第30回 期末テスト(文法と単語)②</p>
履修上の注意点	

教科書

韓国語 これ一冊で終わり
 著者: 金 文洙・崔 孝先
 出版社: 文芸林
 出版年: 2015/3

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ	韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。
授業の到達目標	①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。
授業の概要	このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。
準備学習(予習・復習)	1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。
内 容	<p>第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①</p> <p>第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②</p> <p>第3回 「へヨ体」1</p> <p>第4回 代名詞の縮約形1</p> <p>第5回 「へヨ体」2</p> <p>第6回 代名詞の縮約形2</p> <p>第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①</p> <p>第8回 「へヨ体」3</p> <p>第9回 実践会話と検定対策 4</p> <p>第10回 「へヨ体」の過去形</p> <p>第11回 接続詞の表現</p> <p>第12回 時刻の表現</p> <p>第13回 一日のスケジュール</p> <p>第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②</p> <p>第15回 助詞、疑問詞</p> <p>第16回 実践会話と検定対策 5</p> <p>第17回 変則活用1</p> <p>第18回 変則活用1の過去形</p> <p>第19回 変則活用2</p> <p>第20回 変則活用2の過去形、副詞1</p> <p>第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③</p> <p>第22回 進行形、希望の表現</p> <p>第23回 長文を読んでみよう!</p> <p>第24回 尊敬の表現</p> <p>第25回 特別な尊敬語の表現</p> <p>第26回 副詞2、勧誘・意志の表現</p> <p>第27回 実践会話と検定対策 6</p> <p>第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④</p> <p>第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①</p> <p>第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。
教科書	<p>サクサクっと韓国語</p> <p>著者: 金美華</p> <p>出版社: 白帝社</p> <p>出版年: 2014</p> <p>ISBN:</p>

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **韓国語Ⅱ **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 朴 惠貞		
テーマ		
韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。		
授業の到達目標		
①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。		
授業の概要		
このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。		
準備学習(予習・復習)		
1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。		
内 容		
第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①		
第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②		
第3回 「へヨ体」1		
第4回 代名詞の縮約形1		
第5回 「へヨ体」2		
第6回 代名詞の縮約形2		
第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①		
第8回 「へヨ体」3		
第9回 実践会話と検定対策 4		
第10回 「へヨ体」の過去形		
第11回 接続詞の表現		
第12回 時刻の表現		
第13回 一日のスケジュール		
第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②		
第15回 助詞、疑問詞		
第16回 実践会話と検定対策 5		
第17回 変則活用1		
第18回 変則活用1の過去形		
第19回 変則活用2		
第20回 変則活用2の過去形、副詞1		
第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③		
第22回 進行形、希望の表現		
第23回 長文を読んでみよう!		
第24回 尊敬の表現		
第25回 特別な尊敬語の表現		
第26回 副詞2、勧誘・意志の表現		
第27回 実践会話と検定対策 6		
第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④		
第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①		
第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②		
履修上の注意点		
3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。		
教科書		
『サクサクっと韓国語 著者: 金美華 出版社: 白帝社 出版年: 2014		
ISBN:		

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えたと同時に会話練習。韓国語能力試験2-3級の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。この際、韓国語能力試験問題2級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習をする。

準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
- 第2回 前期の復習
- 第3回 テキストの長文翻訳①
- 第4回 テキストの長文翻訳②
- 第5回 韓国語能力試験2級の文法問題①
- 第6回 韓国語能力試験2級の聞き取り①
- 第7回 韓国語ニュース翻訳①
- 第8回 韓国語ニュース翻訳②
- 第9回 テキストの会話①
- 第10回 テキストの会話②
- 第11回 テキストの長文翻訳③
- 第12回 テキストの長文翻訳④
- 第13回 期末テスト用韓国文章作り①
- 第14回 期末テスト用韓国文章作り②
- 第15回 韓国語ニュース翻訳③
- 第16回 映画鑑賞
- 第17回 韓国語ニュース翻訳④
- 第18回 テキストの会話③
- 第19回 テキストの会話④
- 第20回 テキストの長文翻訳⑤
- 第21回 テキストの長文翻訳⑥
- 第22回 韓国語能力試験2級の文法問題②
- 第23回 韓国語能力試験2級の聞き取り②
- 第24回 韓国語ニュース翻訳⑤
- 第25回 テキストの会話⑤
- 第26回 テキストの会話⑥
- 第27回 授業の総括復習
- 第28回 映画鑑賞
- 第29回 期末テスト(韓国文章暗唱)①
- 第30回 期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり
 著者： 金 文洙・崔 孝先
 出版社： 文芸林
 出版年： 2015/3

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者

クラス指定

担当者 崔 孝先

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えたと同時に会話練習。韓国語能力試験2-3級の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。この際、韓国語能力試験問題2級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習をする。

準備学習(予習・復習)

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
- 第2回 前期の復習
- 第3回 テキストの長文翻訳①
- 第4回 テキストの長文翻訳②
- 第5回 韓国語能力試験2級の文法問題①
- 第6回 韓国語能力試験2級の聞き取り①
- 第7回 韓国語ニュース翻訳①
- 第8回 韓国語ニュース翻訳②
- 第9回 テキストの会話①
- 第10回 テキストの会話②
- 第11回 テキストの長文翻訳③
- 第12回 テキストの長文翻訳④
- 第13回 期末テスト用韓国文章作り①
- 第14回 期末テスト用韓国文章作り②
- 第15回 韓国語ニュース翻訳③
- 第16回 映画鑑賞
- 第17回 韓国語ニュース翻訳④
- 第18回 テキストの会話③
- 第19回 テキストの会話④
- 第20回 テキストの長文翻訳⑤
- 第21回 テキストの長文翻訳⑥
- 第22回 韓国語能力試験2級の文法問題②
- 第23回 韓国語能力試験2級の聞き取り②
- 第24回 韓国語ニュース翻訳⑤
- 第25回 テキストの会話⑤
- 第26回 テキストの会話⑥
- 第27回 授業の総括復習
- 第28回 映画鑑賞
- 第29回 期末テスト(韓国文章暗唱)①
- 第30回 期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語 これ一冊で終わり
 著者: 金 文洙・崔 孝先
 出版社: 文芸林
 出版年: 2015/3

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 韓国語Ⅲ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件 韓国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ 韓国語の習熟	
授業の到達目標 ①韓国語会話能力(自己意思表示が可能なレベル)及び読解能力の向上を目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力をつけるための基礎を学ぶ。	
授業の概要 このクラスでは、「韓国語Ⅰ、Ⅱ」クラスで学んだ文法事項を復習しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習) 1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 辞書を用いて作文を試みる。	
内 容 第1回 授業の進め方についてお互いのことを知ろう！ 第2回 指定詞の「ハムニダ体」の表現指定詞の「ハムニダ体」の否定表現 第3回 用言の「ハムニダ体」の表現用言の「ハムニダ体」の否定表現 第4回 存在詞の「ハムニダ体」の表現、疑問詞の表現 第5回 読んでみよう！① 第6回 指示、所有、位置表現 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！① 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現① 第9回 用言の「ヘヨ体」の表現② 第10回 用言の「ヘヨ体」の否定表現 第11回 指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現 第12回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現 第13回 用言の変則活用形の表現①、文法① 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！② 第15回 指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現、文法② 第16回 読んでみよう！② 第17回 漢数詞の応用、文法③ 第18回 固有数詞の応用 第19回 用言の変則活用形の表現②、文法④ 第20回 理由・原因・丁寧なお願い・勧誘表現 第21回 願望・目的・逆説表現、文法⑤ 第22回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！③ 第23回 注文してみよう！尊敬表現・特殊な尊敬語の表現 第24回 推量・推測・比較・感嘆表現 第25回 読んでみよう！③ 第26回 尊敬表現の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形禁止表現 第27回 病気の症状を説明してみよう！提案・順序表現 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！④ 第29回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ① 第30回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ②	

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

キャンパス韓国語

著者： 曹美庚その他

出版社： 白帝社

出版年：2014

ISBN:

参考書

適宜、資料配布 * 必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 韓国語Ⅳ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件 韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ 韓国語の習熟	
授業の到達目標 ①韓国語会話能力の一層の向上と共に、長文の読み書きと聞き取りができることを目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力を付ける。	
授業の概要 このクラスでは、「韓国語Ⅲ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進捗については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。	
準備学習(予習・復習) 1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 辞書を用いて積極的に作文をしてみる。4. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。	
内 容 第1回 夏休みの過ごし方を話してみよう！「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習① 第2回 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習② 第3回 計画・予定・許可・承諾表現 第4回 意思表現、形容詞の連体形の表現 第5回 作文をしてみよう！① 第6回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！① 第7回 可能・不可能と能力の有無を表す表現動作の進行表現 第8回 条件・選択表現、用言の変則活用形の表現① 第9回 理想のタイプについて話してみよう！ 経験表現 第10回 動詞の連体形の表現 第11回 読解をしてみよう！① 第12回 買い物をしてみよう！用言の変則活用形の表現② 第13回 意図・許可表現、色についての表現 第14回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！② 第15回 道案内をしてみよう！ 授受表現 第16回 丁寧な要請・状況の説明・方向表現 第17回 作文をしてみよう！② 第18回 当為・禁止表現 第19回 確認・感嘆表現、用言の変則活用形の表現③ 第20回 日韓の文化の類似点・相違点について韓国語で話してみよう！ 第21回 読解をしてみよう！② 第22回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！③ 第23回 推量・推測・同時動作の表現 第24回 作文をしてみよう！③ 第25回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！① 第26回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！② 第27回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③ 第28回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！④ 第29回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ① 第30回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ②	
履修上の注意点 3分の2以上の出席が原則(詳細については第1回の授業で解説する)。遅刻と途中退出不をしないこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。	
教科書 キャンパス韓国語』 著者： 曹美庚その他	

出版社：白帝社

出版年：2014

ISBN:

参考書

適宜、資料配布 * 必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 フランス語 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 志賀 亮一	
テーマ フランス語の基礎(その1)	
授業の到達目標 フランス語文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。	
授業の概要 「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題+小テスト」というサイクルで、ひとつ一つの項目を着実に学ぶ。なお、音声による反復練習の齎には、クラス全員に聞こえるようしっかり発声することが望まれる。	
準備学習(予習・復習) 初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに10-20分程度復習する(ex.通学返りの車中でその日のノートを読み返す)ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。	
内 容	
第1回 講義「フランス語とはどんな言語か？」+授業の進め方	
第2回 フランス語のアルファベット:文字の呼び方と筆記体	
第3回 発音記号と発音の仕方①:母音	
第4回 発音記号と発音の仕方②:鼻母音と子音	
第5回 名詞の変化:性と数	
第6回 不定冠詞の変化①	
第7回 不定冠詞の変化②・練習問題+小テスト	
第8回 定冠詞の変化①	
第9回 定冠詞の変化②・練習問題+小テスト	
第10回 品質形容詞の変化①	
第11回 品質形容詞の変化②・練習問題+小テストリーダー	
第12回 不規則動詞 <i>etre</i> の直説法現在①	
第13回 不規則動詞 <i>etre</i> の直説法現在②・疑問文と否定文	
第14回 不規則動詞 <i>etre</i> の直説法現在③・練習問題+小テスト	
第15回 第1章リーダー不規則動詞 <i>avoir</i> の直説法現在①	
第16回 不規則動詞 <i>avoir</i> の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第17回 第一群規則動詞の直説法現在①	
第18回 第一群規則動詞の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第19回 第2章リーダー+基数形容詞	
第20回 指示形容詞の変化①	
第21回 指示形容詞の変化②・練習問題+小テスト	
第22回 所有形容詞の変化①	
第23回 所有形容詞の変化②・練習問題+小テスト	
第24回 不規則動詞 <i>pouvoir</i> の直説法現在①	
第25回 不規則動詞 <i>pouvoir</i> の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第26回 不規則動詞 <i>vouloir</i> の直説法現在①	
第27回 不規則動詞 <i>vouloir</i> の直説法現在②・練習問題+小テスト	
第28回 命令法①	
第29回 命令法②・練習問題+小テスト	
第30回 第3章リーダー	
履修上の注意点	

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 フランス語Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 フランス語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 志賀 亮一		
テーマ フランス語の基礎(その2)		
授業の到達目標 フランス語Ⅰについて、フランス語の発音と文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。		
授業の概要 フランス語Ⅰと同様、「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」のサイクルで、各事項を直実に身につける。		
準備学習(予習・復習) 初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語Ⅰと同様、各回終了ごとに10-20分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと		
内 容 第1回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法① 第2回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第3回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法① 第4回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第5回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法① 第6回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第7回 非人称表現(etre と avoir)① 第8回 非人称表現(etre と avoir)②・練習問題＋小テスト 第9回 非人称表現(天候)① 第10回 非人称表現(天候)②・練習問題＋小テスト 第11回 非人称表現(falloi ほか)① 第12回 非人称表現(falloi ほか)②・練習問題＋小テスト 第13回 第4章のリーダー 第14回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法① 第15回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト 第16回 不規則動詞 devoir の直説法現在と命令法 第17回 不規則動詞 voir の直説法現在 第18回 不規則動詞 devoir, voir 練習問題＋小テスト 第19回 形容詞・副詞の比較級① 第20回 形容詞・副詞の比較級② 第21回 形容詞・副詞の比較級③・練習問題＋小テスト 第22回 形容詞・副詞の最上級① 第23回 形容詞・副詞の最上級② 第24回 形容詞・副詞の最上級③・練習問題＋小テスト 第25回 関係代名詞 qui 第26回 関係代名詞 que 第27回 第5章リーダー 第28回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法① 第29回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法③・練習問題＋小テスト 第30回 疑問形容詞		
履修上の注意点		

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 久下 泰弘	
テーマ ドイツ語入門その1	
授業の到達目標 ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その1	
授業の概要 このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習) CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	
第1回 授業の進め方について、辞書の話	
第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音	
第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現	
第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現	
第5回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」動詞の現在人称変化(規則変化)	
第6回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置	
第7回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介	
第8回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」	ことば、君はなに読派?!
第9回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	格の用法 職業、身分をたづねるとき
第12回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	～するのが好きです、 塩について
第13回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	命令形
第15回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	名詞の複数形、非人称表現
第16回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	場所をたづねるとき、クールな都
第17回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	定冠詞類
第18回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	不定冠詞類
第19回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	否定冠詞
第20回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎 名前のあれこれ
第21回 Lektion 5「バーゼルで」	前置詞と格
第22回 Lektion 5「バーゼルで」	前置詞と名詞の融合形
第23回 Lektion 5「バーゼルで」	人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回 Lektion 5「バーゼルで」	行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	

履修上の注意点

教科書

ブーマラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9784255253800

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

2015 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 久下 泰弘	
テーマ ドイツ語入門その1	
授業の到達目標 ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その1	
授業の概要 このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習) CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	
第1回 授業の進め方について、辞書の話	
第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音	
第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現	
第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現	
第5回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」動詞の現在人称変化(規則変化)	
第6回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置	
第7回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介	
第8回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」	ことば、君はなに読派?!
第9回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	格の用法 職業、身分をたづねるとき
第12回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」	～するのが好きです、 塩について
第13回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	命令形
第15回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	名詞の複数形、非人称表現
第16回 Lektion 3「ヴィーン市街で」	場所をたづねるとき、クールな都
第17回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	定冠詞類
第18回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	不定冠詞類
第19回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	否定冠詞
第20回 Lektion 4「ハンブルクで買い物」	身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎 名前のあれこれ
第21回 Lektion 5「バーゼルで」	前置詞と格
第22回 Lektion 5「バーゼルで」	前置詞と名詞の融合形
第23回 Lektion 5「バーゼルで」	人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回 Lektion 5「バーゼルで」	行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	
第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習	

履修上の注意点

教科書

ブーマラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9784255253800

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

2015 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者	久下 泰弘	
テーマ	ドイツ語入門その2	
授業の到達目標	ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として	
授業の概要	このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習)	CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	<p>第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形</p> <p>第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文</p> <p>第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞</p> <p>第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者</p> <p>第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化</p> <p>第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化</p> <p>第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較</p> <p>第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ</p> <p>第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形</p> <p>第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形</p> <p>第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞</p> <p>第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの</p> <p>第13回 Lektion 9 「ヴァイマルで」過去形</p> <p>第14回 Lektion 9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞</p> <p>第15回 Lektion 9 「ヴァイマルで」 「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞</p> <p>第16回 Lektion 9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横</p> <p>第17回 Lektion 10 「冬休みに」zu不定詞句</p> <p>第18回 Lektion 10 「冬休みに」関係代名詞</p> <p>第19回 Lektion 10 「冬休みに」お祝いの言葉</p> <p>第20回 Lektion 10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東</p> <p>第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題</p> <p>第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形</p> <p>第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法</p> <p>第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式</p> <p>第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式</p> <p>第29回 補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明</p> <p>第30回 補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明</p>	

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者: 小野寿美子、中川明博、西巻文児

出版社: 朝日出版社

出版年: 2015

ISBN: 9784255253800

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

2015 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 50
履修条件 ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 久下 泰弘	
テーマ ドイツ語入門その2	
授業の到達目標 ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として	
授業の概要 このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。	
準備学習(予習・復習) CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。	
内 容	
第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形	
第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文	
第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞	
第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者	
第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化	
第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化	
第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較	
第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ	
第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形	
第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形	
第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞	
第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの	
第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形	
第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞	
第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞	
第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横	
第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句	
第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞	
第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉	
第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東	
第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題	
第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題	
第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題	
第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題	
第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形	
第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法	
第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式	
第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式	
第29回 補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明	
第30回 補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明	

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻文児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2015

ISBN: 9784255253800

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010

ISBN: 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

2015 Syllabus

科目名 歴史学入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明・尾下 成敏

テーマ

歴史学の分野・手法

授業の到達目標

歴史学の考え方を理解し、歴史に関する認識を深める。

授業の概要

前半は日本史分野の教員が担当し、京都周辺の歴史の概説を行う。後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。

準備学習(予習・復習)

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する。

内 容

- 第1回 戦国期の京都史
- 第2回 織豊政権期の京都史
- 第3回 徳川政権期の京都史、その1
- 第4回 徳川政権期の京都史、その2
- 第5回 徳川政権期の京都史、その3
- 第6回 徳川政権期の大坂史、その1
- 第7回 徳川政権期の大坂史、その2
- 第8回 歴史学とは何か
- 第9回 歴史研究の素材と手順
- 第10回 真正な史料(資料)は真実を伝えるか
- 第11回 史料(資料)を論理的に読み解く
- 第12回 伝達されるものと伝達されないもの
- 第13回 事実の追求と歴史事象の評価、その1
- 第14回 事実の追求と歴史事象の評価、その2
- 第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都府の歴史

著者: 朝尾直弘ほか編

出版社: 山川出版社

出版年: 2011年

ISBN:

中国歴史研究入門

著者: 礪波 護ほか編

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2005年

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 京都講座 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 永田 信一

テーマ

京都の複合する遺跡から京都文化を探る

授業の到達目標

考古学の資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京都文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる文化の表現方法の取得に向かう。

授業の概要

平安京以前から現代まで、時系列で複合する京都の遺跡を紹介する。京都の文化を歩いて理解できる資料を随時配布する。

準備学習(予習・復習)

日本史の概説を読み解くこと。遺跡の現地説明会に参加すること。

内 容

- 第1回 京都の文化財ガイド
- 第2回 平安京以前の京都(旧石器時代→奈良時代)
- 第3回 短命の都 長岡京について
- 第4回 平安京の創設(条坊制に基づく平安京の構造)
- 第5回 平安宮の遺跡と遺物(大内裏の構造)
- 第6回 羅城門と東寺、西寺(平安京の南辺)
- 第7回 平安京右京
- 第8回 平安京左京
- 第9回 平安京の変質(郊外地への進展)
- 第10回 中世京都の成立(鎌倉・室町時代の京都)
- 第11回 近世の始まり(安土桃山時代→江戸時代初期の京都)
- 第12回 伏見城と城下町
- 第13回 江戸時代の京都
- 第14回 遺跡が語る京都の近代化
- 第15回 京都市考古資料館の見学(学外授業)

履修上の注意点

授業中、他人への迷惑行為のある場合は欠席とします。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (10)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (10)

参加度 (40)

授業中に課題を設け、レポートの提出を求める。出席も重要視する。

2015 Syllabus

科目名 京都講座Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の長い歴史を、テーマごとに文化財を利用しながら解説するとともに、それを詳しく学習できる博物館・美術館・資料館・寺院神社についても紹介する。

授業の到達目標

京都の文化財を広く学ぶことによって、日本歴史における文化の中核部分を見渡すことができることに思い至ってほしい。

授業の概要

埋蔵文化財(遺跡)、美術工芸品、寺院神社の建築・庭園などの多様な京都の文化財を紹介しながら、京都の歴史を解説する。なお、寺院神社の拝観状況、博物館・美術館の開館状況などによって、授業内容や学外授業の訪問先・日程を変更することがあるので注意されたい。

準備学習(予習・復習)

休日や休暇中にも、京都市内とその周辺を散策して、思わぬ所に文化財があることに気づき、その歴史的な意義を考える習慣をつけて下さい。

内 容

- 第1回 京都の歴史を語る多様な文化財とそのありかた——京都国立博物館・京都文化博物館・京都大学総合博物館
- 第2回 次週の学外授業訪問先の説明
- 第3回 学外授業(土曜または日曜)博物館・美術館・資料館・寺院神社
- 第4回 浄土思想の流行——宇治平等院+鳳翔館
- 第5回 王朝文化・国風文化・渡来文化——京都文化博物館・高麗美術館
- 第6回 次週の学外授業訪問先の説明
- 第7回 学外授業(土曜または日曜)博物館・美術館・資料館・寺院神社
- 第8回 古代から中世へ——東山三十三間堂
- 第9回 次週の学外授業訪問先の説明
- 第10回 学外授業(土曜または日曜)博物館・美術館・資料館・寺院神社
- 第11回 中世から近世へ——東山方広寺
- 第12回 観光都市京都の成立——東山清水寺
- 第13回 茶道の世界——大西清右衛門美術館
- 第14回 近代岡崎の展開——平安神宮・琵琶湖疏水記念館
- 第15回 まとめ——日本文化の結節点としての京都

履修上の注意点

学外授業として見学する3箇所以外に、1つ以上の博物館・美術館・資料館や寺院神社を訪ねて、京都の歴史と文化を満喫してください。その感想を最終試験において論述してもらいます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (55)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 京都講座Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 熊谷 昭宏	
テーマ 京都が舞台となっている小説を読む。	
授業の到達目標 ①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。	
授業の概要 前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。	
準備学習(予習・復習) ①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。	
内 容 第1回 ガイダンス 第2回 夏目漱石「虞美人草」 第3回 森鷗外「高瀬舟」 第4回 芥川龍之介「羅生門」① 第5回 芥川龍之介「羅生門」② 第6回 川端康成「美しさと哀しみと」① 第7回 川端康成「美しさと哀しみと」② 第8回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」 第9回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」 第10回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」 第11回 森見登美彦『新釈 走れメロス』より「桜の森の満開の下」 第12回 森見登美彦「有頂天家族」① 第13回 森見登美彦「有頂天家族」② 第14回 森見登美彦「有頂天家族」③ 第15回 まとめとレポート指導	
履修上の注意点 大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないで注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (50%) 小テスト () 授業中課題 (30%) 授業中発表等 () 参加度 (20%) 期末レポート(内容と形式については授業中に説明する)を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。	

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 I <eL>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

[メディア授業／全15回]古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習(予習・復習)

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京－鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」－南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: (中央公論新社)

出版年:

ISBN:

女性芸能の源流

著者: 脇田晴子

出版社: (角川書店)

出版年:

ISBN:

中世京都と祇園祭

著者: 脇田晴子

出版社: (中央公論新社)

出版年:

ISBN:

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社：（中央公論社）

出版年：

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社：（山川出版社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2015 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 仲田 順和	
テーマ 京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。	
授業の到達目標 文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。	
授業の概要 この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。	
準備学習(予習・復習) 積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること	
内 容 第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。 第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その1> 第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その2> 第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業) 第5回 醍醐寺所蔵の文化財について<その1> 第6回 醍醐寺所蔵の文化財について<その2> 第7回 現代に生きる山岳信仰<その1> 第8回 現代に生きる山岳信仰<その2> 第9回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業) 第10回 日本人の生活の中に生きる仏教 第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響 第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業) 第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その1> 第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その2> 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (50) 小テスト (20) 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 文学と京都

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生(主に大学生)が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では、万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に対して質問をすることもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料によって授業の予習を行う。

準備学習(予習・復習)

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内容

- 第14回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」②
 第15回 まとめとレポート指導
 第1回 ガイダンス
 第2回 梶井基次郎「檸檬」①
 第3回 梶井基次郎「檸檬」②
 第4回 三島由紀夫「金閣寺」
 第5回 川端康成「古都」①
 第6回 川端康成「古都」②
 第7回 万城目学「鴨川ホルモー」①
 第8回 万城目学「鴨川ホルモー」②
 第9回 万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」
 第10回 森見登美彦「太陽の塔」
 第11回 森見登美彦「四畳半神話大系」①
 第12回 森見登美彦「四畳半神話大系」②
 第13回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」①

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後(映像資料の紹介中など)に入室した場合、出席とはみなさないで注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習(その他大学の授業に関係する事柄)等に限り公欠を認め、参加度の加点を考慮する(担当者に申し出ること)。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

期末レポートを試験(内容と形式については授業中に説明する)とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問や授業中内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 日本国憲法 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	
テーマ	
日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得	
授業の到達目標	
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。	
授業の概要	
日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。	
準備学習(予習・復習)	
日頃から、様々なメディアで話題になる社会問題やニュース、身近な疑問をやり過ごさずに、心に留めておき、できればその意味を考えるようにしておくこと。各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。	
内 容	
第1回 日本国憲法の位置づけ	
第2回 日本国憲法の3大原則	
第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)	
第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)	
第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)	
第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)	
第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)	
第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)	
第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)	
第10回 日本国憲法の人権(社会権)	
第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)	
第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)	
第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)	
第14回 日本国憲法の統治(裁判所)	
第15回 到達度確認試験、復習	
第16回 総まとめ	
履修上の注意点	
暗記だけではなく、理解する必要がある科目です。法学入門者は特に、最初からテキストを理解することは難しいので、まずは授業を集中して聞きながら、ノートを取り、その中でできる限り基礎とエッセンスを身につけ、その後テキストを読むこと。欠席をするとその部分について理解が難しくなるのでできる限り出席をすること。復習プリントが配られるので、必ずやること。	
教科書	
いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版	
著者: 小林武ほか編	
出版社: 法律文化社	
出版年: 2011	ISBN: 978-4589033529
参考書	
憲法入門	
著者: 市川 正人・倉田 原志 編	
出版社: 法律文化社	
出版年: 2012	ISBN: 978-4589033970
ポケット六法 平成27年版	
著者: 井上 正仁 他編	
出版社: 有斐閣	
出版年: 2014	ISBN: 978-4641009158

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社： 岩波書店

出版年： 2011

ISBN: 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

2015 Syllabus

科目名 日本国憲法

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	
テーマ	
日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得	
授業の到達目標	
日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。	
授業の概要	
日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。	
準備学習(予習・復習)	
日頃から、様々なメディアで話題になる社会問題やニュース、身近な疑問をやり過ごさずに、心に留めておき、できればその意味を考えるようにしておくこと。各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。	
内 容	
第1回 日本国憲法の位置づけ	
第2回 日本国憲法の3大原則	
第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)	
第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)	
第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)	
第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)	
第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)	
第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)	
第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)	
第10回 日本国憲法の人権(社会権)	
第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)	
第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)	
第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)	
第14回 日本国憲法の統治(裁判所)	
第15回 到達度確認試験、復習	
第16回 総まとめ	
履修上の注意点	
暗記だけではなく、理解する必要がある科目です。法学入門者は特に、最初からテキストを理解することは難しいので、まずは授業を集中して聞きながら、ノートを取り、その中でできる限り基礎とエッセンスを身につけ、その後テキストを読むこと。欠席をするとその部分について理解が難しくなるのでできる限り出席をすること。復習プリントが配られるので、必ずやること。	
教科書	
いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版	
著者: 小林武ほか編	
出版社: 法律文化社	
出版年: 2011	ISBN: 978-4589033529
参考書	
憲法入門	
著者: 市川 正人・倉田 原志 編	
出版社: 法律文化社	
出版年: 2012	ISBN: 978-4589033970
ポケット六法 平成27年版	
著者: 井上 正仁 他編	
出版社: 有斐閣	
出版年: 2014	ISBN: 978-4641009158

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社： 岩波書店

出版年： 2011

ISBN: 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

2015 Syllabus

科目名 日本国憲法 <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

日本国憲法の基礎的な知識の修得と日本国憲法の最近の動向を知る。

授業の到達目標

日本国憲法の基本的な思考と、これを理解するための基礎的な知識を習得する。最近の憲法の動向を知る。人権意識を高めるとともに、主権者として、政治的な意識を高める。

授業の概要

憲法学は、大別すると、「統治機構論」と「人権論」に分けられ、さらに「総論」が加えられることがある。これらの中でも、本授業では、「人権論」と「統治機構論」を中心に、必要に応じ「総論」にも触れていく。その際には、抽象的な漠然とした理論の説明は最小限にとどめ、具体的な事例としての裁判例(判例)を多く取り上げていく。また、最近の憲法の動向についてもみていく。

準備学習(予習・復習)

平日頃から、憲法に関する出来事や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内 容

- 第1回 憲法に関する時事問題の解説 集団的自衛権に対する政府の憲法解釈の変更、国民投票法の改正
 第2回 「尊属殺人事件」から憲法を学ぶ 憲法の最高法規性、違憲審査権、憲法14条1項法の下での平等を学ぶ
 第3回 基本的人権とは何か 胎児の人権、動物の権利
 第4回 人権の享有主体 外国人の人権、法人の人権、公務員の人権、子どもの人権
 第5回 憲法13条幸福追求権(1) 包括的人権、新しい人権、プライバシーの権利
 第6回 憲法13条幸福追求権(2) 自己決定権 人権の私人間効力、人権と公共の福祉
 第7回 人権の分類 自由権・社会権・参政権・国務請求権・平等権
 第8回 精神的自由権 思想・良心の自由、信教の自由(政教分離原則)、集会結社・表現の自由、学問の自由
 第9回 経済的自由権 職業選択の自由、財産権の保障 身体的自由権 奴隷的拘束・苦役からの自由、法定手続きの保障、被疑者・被告人の権利
 第10回 社会権 参政権 国務請求権 平等権
 第11回 国会 国会の地位と権能、国会の構成、国会の活動、会期、衆議院の解散、議員の特権
 第12回 内閣 行政権とは? 議院内閣制、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
 第13回 司法 司法権とは? 司法権の限界、司法権の独立、裁判所の組織と権限、違憲法令審査権
 第14回 財政 財政民主主義、租税法律主義、予算 地方自治 地方自治の本旨、地方公共団体の組織と権能
 第15回 憲法9条 戦争放棄、戦力の不保持、交戦権の否認 憲法の改正 憲法審査会

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをごまめに取るようにする。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》[第3版]

著者: 高乗正臣・奥村文雄編著

出版社: 成文堂

出版年: 2014年

ISBN: 9784792304881

参考書

憲法[第6版]

著者: 芦部信喜著

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN: 9784000227995

成績評価

試験 (70)

小テスト (10)

授業中課題 ()

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2015 Syllabus

科目名 日本国憲法 <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

日本国憲法の基礎的な知識の修得と日本国憲法の最近の動向を知る。

授業の到達目標

日本国憲法の基本的な思考と、これを理解するための基礎的な知識を習得する。最近の憲法の動向を知る。人権意識を高めるとともに、主権者として、政治的な意識を高める。

授業の概要

憲法学は、大別すると、「統治機構論」と「人権論」に分けられ、さらに「総論」が加えられることがある。これらの中でも、本授業では、「人権論」と「統治機構論」を中心に、必要に応じ「総論」にも触れていく。その際には、抽象的な漠然とした理論の説明は最小限にとどめ、具体的な事例としての裁判例(判例)を多く取り上げていく。また、最近の憲法の動向についてもみていく。

準備学習(予習・復習)

常日頃から、憲法に関係する出来事や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内 容

- 第1回 憲法に関する時事問題の解説 集団的自衛権に対する政府の憲法解釈の変更、国民投票法の改正
 第2回 「尊属殺人事件」から憲法を学ぶ 憲法の最高法規性、違憲審査権、憲法14条1項法の下での平等を学ぶ
 第3回 基本的人権とは何か 胎児の人権、動物の権利
 第4回 人権の享有主体 外国人の人権、法人の人権、公務員の人権、子どもの人権
 第5回 憲法13条幸福追求権(1) 包括的人権、新しい人権、プライバシーの権利
 第6回 憲法13条幸福追求権(2) 自己決定権 人権の私人間効力、人権と公共の福祉
 第7回 人権の分類 自由権・社会権・参政権・国務請求権・平等権
 第8回 精神的自由権 思想・良心の自由、信教の自由(政教分離原則)、集会結社・表現の自由、学問の自由
 第9回 経済的自由権 職業選択の自由、財産権の保障 身体的自由権 奴隷的拘束・苦役からの自由、法定手続きの保障、被疑者・被告人の権利
 第10回 社会権 参政権 国務請求権 平等権
 第11回 国会 国会の地位と権能、国会の構成、国会の活動、会期、衆議院の解散、議員の特権
 第12回 内閣 行政権とは? 議院内閣制、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
 第13回 司法 司法権とは? 司法権の限界、司法権の独立、裁判所の組織と権限、違憲法令審査権
 第14回 財政 財政民主主義、租税法律主義、予算 地方自治 地方自治の本旨、地方公共団体の組織と権能
 第15回 憲法9条 戦争放棄、戦力の不保持、交戦権の否認 憲法の改正 憲法審査会

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをごまめに取るようにする。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》[第3版]

著者: 高乗正臣・奥村文雄編著

出版社: 成文堂

出版年: 2014年

ISBN: 9784792304881

参考書

憲法[第6版]

著者: 芦部信喜著

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年

ISBN: 9784000227995

成績評価

試験 (70)

小テスト (10)

授業中課題 ()

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2015 Syllabus

科目名 日本国憲法 <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習(予習・復習)

日頃から、様々なメディアで話題になる社会問題やニュース、身近な疑問をやり過ごさずに、心に留めておき、できればその意味を考えるようにしておくこと。各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

履修上の注意点

暗記だけではなく、理解する必要がある科目です。法学入門者は特に、最初からテキストを理解することは難しいので、まずは授業を集中して聞きながら、ノートを取り、その中でできる限り基礎とエッセンスを身につけ、その後テキストを読むこと。欠席をするとその部分について理解が難しくなるのでできる限り出席をすること。復習プリントが配られるので、必ずやること。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社: 法律文化社

出版年: 2012

ISBN: 978-4589033970

ポケット六法 平成27年版

著者: 井上 正仁 他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2014

ISBN: 978-4641009158

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社： 岩波書店

出版年： 2011

ISBN: 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

2015 Syllabus

科目名 法学概論 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 山崎 将文	
テーマ 法の基礎知識を習得するとともに法を身近に感じる	
授業の到達目標 法の基礎知識・基礎理論を習得するとともに、法に興味を持ちながら、リーガルマインドを涵養する。	
授業の概要 法学概論 I では、実際に六法を引きながらたくさんの法を学んでいく。まず、法の専門領域を学ぶ前提として、法の基礎知識を講義する。具体的には、法とは何か、法と道徳との関係、法の存在形式、法の分類、法の解釈、裁判所の仕組みなどをみていく。その上で、個別の法領域(公法)として憲法、行政法、刑法、国際法の概略を説明していく。その際には、抽象的な理論的な説明は最小限にとどめ、少しでも興味を持ち、理解してもらえるように、具体的な事例として事件や裁判例を多く取り上げていく。	
準備学習(予習・復習) 平日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。	
内 容 第1回 授業を受けるにあたっての注意事項の説明法律クイズ、法を学ぶ意義 第2回 法とは何か(法の定義)法の強制力(刑罰、強制執行、謝罪広告など) 第3回 法と道徳の関係(1)法と道徳が密接な場合、法と道徳が無縁な場合 第4回 法と道徳の関係(2)法と道徳が相反する場合(ライ予防法など) 第5回 法と道徳の関係(3)一見すると道徳に反する法(短期消滅時効、夫婦間契約取消権)、法の目的 第6回 法はどのような形で存在するか(法源論)成文法(憲法、法律、命令、条例など)と不文法(慣習法、判例法、条理) 第7回 法の分類公法と私法と社会法、国内法と国際法、一般法と特別法、強行法と任意法 第8回 法の効力法の段階的構造、時・人・場所に関する効力 第9回 法の解釈文理解釈、論理解釈(縮小解釈、拡張解釈、反対解釈、類推解釈、勿論解釈) 第10回 法と裁判裁判制度、裁判員制度の導入 第11回 国家と法国家と憲法、日本国憲法の基本原理(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重) 第12回 行政と法行政とは? 国家賠償法、損失補償、行政不服審査法、行政事件訴訟法 第13回 犯罪と法犯罪と刑法、刑事手続 第14回 国際社会と法(1)国際法の必要性、国際法の主体、主権 第15回 国際社会と法(2)国際法と国内法との相違、国際法の発達	
履修上の注意点 皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。	
教科書 法学六法 著者: 石川明など編集代表 出版社: 信山社 出版年: 2014 ISBN: 9784797257380	
参考書 現代法学入門 著者: 伊藤正巳・加藤一郎編 出版社: 有斐閣 出版年: 2011 ISBN: 9784641112568	
プラクティス 法学実践教室 I 著者: 高乗正臣・奥村文男編 出版社: 成文堂 出版年: 2014 ISBN: 9784792304874	
成績評価 試験 (70)	小テスト (10)

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生の数、授業の進捗などにより、割合（%）が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2015 Syllabus

科目名 法学概論 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	
テーマ 現代社会と法の関わりを考察する	
授業の到達目標 日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。	
授業の概要 毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。	
準備学習(予習・復習) 普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。	
内 容 第1回 現代社会と法 第2回 人権と法 第3回 政治と法 第4回 司法と法 第5回 行政活動と法 第6回 雇用社会と法 第7回 消費者と法 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分) 第9回 事故と法 第10回 医療と法 第11回 家族と法 第12回 犯罪と法 第13回 裁判と法 第14回 国際社会と法 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)	
履修上の注意点 受講時には、指定の六法または手持ちの小型六法を持参すること。	

教科書

法学六法

著者:

出版社: 信山社

出版年: 2015

ISBN:

参考書

法と現代社会

著者: 中川淳

出版社: 世界思想社

出版年:

ISBN:

法の世界へ

著者: 池田真朗

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

民事法入門

著者: 野村豊弘

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

新・なるほど公法入門

著者： 村上英明・小原清信

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (90)

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 山崎 将文

テーマ

生活をするうえで必要な法知識を習得するとともに、法的なトラブルの対処法を学ぶ

授業の到達目標

日常生活を送るうえで法知識が必要不可欠であることを知るとともに、悪質商法や交通事故などのさまざまな法的なトラブルが起きた際に、どのように対処すればよいのかをある程度理解する。

授業の概要

法学概論Ⅱでは、実際に六法を引きながら、私法や社会法の法領域を学んでいく。具体的には、民法を中心に、製造物責任法、特定商取引法、消費者契約法、利息制限法、労働基準法、男女雇用機会均等法、DV防止法、児童虐待防止法、生活保護法などを学んでいく。その際には、抽象的な理論的な説明は最小限にとどめ、少しでも興味を持ち、理解してもらるように、具体的な事例として事件や裁判例を多く取り上げていく。

準備学習(予習・復習)

平日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内 容

- 第1回 民法総則(1)民法クイズ、民法とはどのような法か？民法の基本原則
- 第2回 民法総則(2)権利能力、行為能力、成年後見制度
- 第3回 民法総則(3)法律行為(心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺)
- 第4回 契約と法債務不履行、契約の分類、各種の典型契約
- 第5回 悪質商法の対処法(1)訪問販売法、特定商取引法、クーリングオフ
- 第6回 悪質商法の対処法(2)消費者契約法、利息制限法、借地借家法
- 第7回 事故と法(1)一般的不法行為(プライバシー権・肖像権の侵害を含む)
- 第8回 事故と法(2)特殊な不法行為(使用者責任、土地工作物責任、共同不法行為)、PL法
- 第9回 家族と法(1)親族、婚姻、離婚、親子
- 第10回 家族と法(2)法定相続、遺言
- 第11回 労働と法アルバイト上のトラブル、労働基準法、労働契約法
- 第12回 女性と法男女雇用機会均等法、セクハラ、DV防止法
- 第13回 子どもと法少年法、児童虐待防止法
- 第14回 高齢者・障害者・低所得者と法高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、生活保護法
- 第15回 生命と法胎児の権利、脳死と臓器移植

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。

教科書

法学六法

著者：石川明など編集代表

出版社：信山社

出版年：2014

ISBN：9784797257380

参考書

現代法学入門

著者：伊藤正巳・加藤一郎編

出版社：有斐閣

出版年：2011

ISBN：9784641112568

プラクティス 法学実践教室Ⅰ

著者：高乗正臣・奥村文男編

出版社：成文堂

出版年：2014

ISBN：9784792304874

成績評価

試験(70)

小テスト(10)

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生の数、授業の進捗などにより、割合（%）が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2015 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	
テーマ 現代社会と法の間わりを考察する	
授業の到達目標 日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。	
授業の概要 毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。	
準備学習(予習・復習) 普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。	
内 容 第1回 現代社会と法 第2回 人権と法 第3回 社会保障と法 第4回 行政救済と法 第5回 企業活動と法 第6回 労働者と法 第7回 情報と法 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回分) 第9回 契約と法 第10回 住居と法 第11回 財産と法 第12回 金融と法 第13回 事故と法 第14回 家族と法 第15回 まとめとテスト②(第9回～第14回分)	
履修上の注意点 受講時には、指定の六法または手持ちの小型六法を持参すること。	

教科書

法学六法

著者:

出版社: 信山社

出版年: 2015

ISBN:

参考書

法と現代社会

著者: 中川淳

出版社: 世界思想社

出版年:

ISBN:

法の世界へ

著者: 池田真朗

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

民法法入門

著者： 野村豊弘

出版社： 有斐閣

出版年：

ISBN：

新・なるほど公法入門

著者： 村上英明・小原清信

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (90)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 政治学概論 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 田代 和也

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習(予習・復習)

授業の予習、復習に関して特別に指示することはしない。ただし、試験では講義で取り上げた内容を一部修正して出題する予定であるため、受講生は配布した資料を紛失しないように注意し、また講義の内容を記憶するだけでなく、理解することを日ごろから心がけておくことが求められる。

内 容

- 第1回 イントロダクション・選挙について
- 第2回 投票行動・メディアと政治
- 第3回 政治家
- 第4回 日本政治史①～戦後政治と55年体制～
- 第5回 日本政治史②～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
- 第6回 政党
- 第7回 官僚制
- 第8回 利益団体
- 第9回 国会(議会)
- 第10回 政策過程
- 第11回 首相～強い首相と弱い首相～
- 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
- 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に～
- 第14回 国際政治
- 第15回 本講義のまとめ
- 第16回 定期試験

履修上の注意点

授業への妨害、不正行為、他の受講生への迷惑行為、それに類する行為があったと認められた場合、その受講生の成績を評価しない。また4回以上の欠席が認められた場合についても同様の処置をとる。ただし、交通事故、怪我病氣、その他のやむをえない事情による欠席は、その旨を届け出ることによって出席扱いとする場合がある。学習上の助言として、政治学の概念や考え方を理解するだけでなく、その知識を具体的な事例や状況に当てはめて判断する能力となるように意識することが重要である。

教科書

現代政治学入門

著者: パーナード・クリック

出版社: 講談社

出版年: 2003

ISBN: 4061596047

ポリティカル・サイエンス事始め 第3版

著者: 伊藤光利 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2009

ISBN: 9784641183728

参考書

はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い

著者: 岡崎晴輝、木村俊道編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN: 4623050548

政治学 補訂版

著者： 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝

出版社： 有斐閣

出版年： 2011

ISBN: 4641053774

政治学事典

著者： 猪口孝、岡沢憲芙、山本吉宣、大沢真幸、スティーブン・R.リード編

出版社： 弘文堂

出版年： 2004

ISBN: 4335460244

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

成績評価の詳細については、第1回の授業において説明する。

2015 Syllabus

科目名 政治学概論Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 田代 和也

テーマ

政治学体系の理解

授業の到達目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の概要

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

準備学習(予習・復習)

授業の予習、復習に関して特別に指示することはしない。ただし、試験では講義で取り上げた内容を一部修正して出題する予定であるため、受講生は配布した資料を紛失しないように注意し、また講義の内容を記憶するだけでなく、理解することを日ごろから心がけておくことが求められる。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 民主政治の起源
- 第3回 民主政治の変容
- 第4回 福祉と政治
- 第5回 議院内閣制
- 第6回 大統領制
- 第7回 選挙制度①(小選挙区制度と大選挙区制度)
- 第8回 選挙制度②(比例代表と各国の選挙制度)
- 第9回 選挙制度③(選挙制度と政策)
- 第10回 議会制度と政党
- 第11回 政策過程と官僚・利益集団
- 第12回 世論とマスメディア
- 第13回 地方自治①(制度と機能)
- 第14回 地方自治②(現代行政の課題)
- 第15回 民主政治のこれから
- 第16回 定期試験

履修上の注意点

授業への妨害、不正行為、他の受講生への迷惑行為、それに類する行為があったと認められた場合、その受講生の成績を評価しない。また4回以上の欠席が認められた場合についても同様の処置をとる。ただし、事件事故、怪我病氣、その他のやむをえない事情による欠席は、その旨を届け出ることによって出席扱いとする場合がある。学習上の助言として、政治学の概念や考え方を理解するだけでなく、その知識を具体的な事例や状況に当てはめて判断する能力となるように意識することが重要である。

教科書

はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い

著者： 岡崎晴輝、木村俊道編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008

ISBN： 4623050548

参考書

新約 君主論

著者： ニッコロ・マキアヴェリ

出版社： 中央公論新社

出版年： 2002

ISBN： 4122040124

政治学

著者： アリストテレス

出版社： 中央公論新社

出版年： 2009

ISBN： 4121601130

職業としての政治

著者： マックス・ヴェーバー

出版社： 岩波書店

出版年： 1980

ISBN： 4003420977

政治学 補訂版

著者： 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝

出版社： 有斐閣

出版年： 2011

ISBN： 4641053774

国際関係理論

著者： 吉川直人、野口和彦編

出版社： 勁草書房

出版年： 2006

ISBN： 4326301570

現代の政治イデオロギー

著者： アンドルー・ヴィンセント

出版社： 昭和堂

出版年： 1998

ISBN： 4812297087

政治学事典

著者： 猪口孝、岡沢憲英、山本吉宣、大沢真幸、スティーブン・R.リード編

出版社： 弘文堂

出版年： 2004

ISBN： 4335460244

The Oxford Handbook of Political Science

著者： Robert E. Goodin

出版社： Oxford University Press

出版年： 2009

ISBN： 9780199562954

Politics

著者： Andrew Heywood

出版社： Basingstoke Palgrave Macmillan

出版年： 2007

ISBN： 9780230524972

Politics a very short introduction

著者： Kenneth R. Minogue

出版社： Oxford University Press

出版年： 2000

ISBN： 9780192853882

成績評価

試験（30）

小テスト（30）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

成績評価については、第1回の授業において説明する。

2015 Syllabus

科目名 民法

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	

テーマ

民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。
2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。
3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。

授業の概要

日常生活の各場面において、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。

準備学習(予習・復習)

普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。

内 容

- 第1回 民法の基本原則
- 第2回 意思表示(詐欺・強迫など)
- 第3回 未成年者と高齢者の契約
- 第4回 代理制度
- 第5回 契約総論
- 第6回 債務不履行責任
- 第7回 まとめとテスト①(第1回～第6回)
- 第8回 債権回収①(物的担保と抵当権)
- 第9回 債権回収②(人的担保と保証人)
- 第10回 不法行為責任
- 第11回 婚姻
- 第12回 離婚
- 第13回 親子
- 第14回 遺言と相続
- 第15回 まとめとテスト②(第8回～第14回)

履修上の注意点

受講時には、小型の六法を持参すること。

教科書

参考書

民事法入門 第5版増補版

著者: 野村 豊弘

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

民法への招待 第4版

著者: 池田真朗

出版社: 税務経理協会

出版年:

ISBN:

新・キーワード民法

著者: 中田邦博・高嶋英弘

出版社: 法律文化社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (10)

小テスト (90)
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 行政法

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 実千代

テーマ

行政法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1.日常生活の各場面において、行政法の関連や位置づけを理解する。2.現代の行政体制について、しくみを学び、問題意識をもつ。3.法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。

授業の概要

毎講義レジュメまたは参考資料を配布し、これに沿って講義する。小テストや課題の扱いについては、適宜に説明する。

準備学習(予習・復習)

普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。

内 容

- 第1回 行政法の領域と基本原理
- 第2回 行政主体と行政機関
- 第3回 行政作用の一般理論
- 第4回 行政活動(1)(行政立法・行政計画)
- 第5回 行政活動(2)(行政処分の効力)
- 第6回 行政活動(3)(行政処分の裁量)
- 第7回 行政活動(4)(行政指導・行政契約)
- 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回)
- 第9回 行政による強制手段
- 第10回 情報公開と個人情報保護
- 第11回 行政不服審査法
- 第12回 行政事件訴訟法(1)(訴訟の種類)
- 第13回 行政事件訴訟法(2)(訴訟要件)
- 第14回 国家補償制度
- 第15回 まとめとテスト(第9回～第14回)

履修上の注意点

受講時には、小型の六法を持参すること。

教科書

参考書

ブリッジブック行政法

著者： 宇賀克也

出版社： 信山社

出版年：

ISBN:

はじめての行政法

著者： 石川敏行

出版社： 有斐閣

出版年：

ISBN:

行政法のエッセンス

著者： 櫻井敬子

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (90)

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 行政学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
国と地域の行政に関する制度と実際の両面を探る	
授業の到達目標	
1)身近なところから行政の働きと仕組みに関心をもてるようになる2)国家の統治機構のなかの行政分野を制度的歴史的に理解できるようにする3)地方自治体や地方公務員の実際を分析し地域公共政策について考察できるようにする	
授業の概要	
教科書(真淵勝『行政学案内』)を丁寧に読み、そこから発展的に調べることをメインとするので、毎回教科書を携行すること	
準備学習(予習・復習)	
新聞や総合雑誌のなかの行政に関わる記事(インターネットも活用可)を読むようにすること。行政や公務員に関する文学作品、映画などを紹介するので、それを楽しみながら、かつ、理論と照らして、考えることなど、自主的な課題に挑戦すること。	
内 容	
第1回	はじめに—行政にまつわるトピックス、あるいは、政治学や法学との関係について—
第2回	学修方法の提示—行政学を学ぶための補助教材の紹介。文学や映画、各種メディアの紹介、自主課題について—
第3回	行政学の歴史(ここからは教科書必携)
第4回	国家公務員と天下りなど
第5回	内閣制度と首相の指導力
第6回	国の中央省庁はいま
第7回	予算制度と編成過程
第8回	行政改革はどのようにすすんだか第1回ミニテスト
第9回	中央と地方、国と地域の関係・・・このあたりでうまくタイミングがあれば、京都府庁舎(現存日本最古)の見学など、地方行政の現場学外授業を予定。
第10回	地方財政論
第11回	大都市行政と市町村合併
第12回	官僚制とは何か
第13回	第2回ミニテスト行政責任の種類とあり方
第14回	日本における行政システムの特徴
第15回	まとめ—いまの日本の行政、とくに地域公共政策に必要なものとは—日本の行政に関わる映像などを活用する
履修上の注意点	
はじめに、前回の復習ミニテストを行うので遅れないように気をつけること	

教科書

行政学案内

著者: 真淵勝

出版社: 滋学社出版

出版年: 2009

ISBN: 4903425460

参考書

行政学[新板]

著者: 西尾勝

出版社: 有斐閣

出版年: 2001

ISBN:

Next教科書シリーズ 行政学

著者: 外山公美ほか

出版社: 弘文堂

出版年: 2011

ISBN:

行政学

著者: 真淵勝

出版社: 有斐閣

出版年: 2009

ISBN:

公共経済学

著者： 林正義ほか

出版社： 有斐閣

出版年： 2010

ISBN:

身近な公共政策論—マイクロ行政学入門

著者： 安章浩ほか

出版社： 学陽書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (30)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

レポート課題は、行政への参加をしてみた結果についてを企画中。たとえば、自分が関心をもつ計画や政策・制度設計へのパブリックコメントを行なってみる実践的なものなど。

2015 Syllabus

科目名 **くらしと経済**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

社会認識の手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

経済社会の中で起こる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の概要

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学んだ上で、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題—地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題—にどのように取り組んでいるのかを学びます。

準備学習(予習・復習)

教科書の予習・復習は必須。少なくとも各1時間は費やすこと。

内 容

- 第1回 経済学はどんな学問か？
- 第2回 経済学と政治経済学: グローバリゼーションと、そのインパクト
- 第3回 経済学の5つの視点: 人間はどこまで経済をコントロールできるか？
- 第4回 経済成長のメカニズム(1): 経済が順調に循環する条件とは？
- 第5回 経済成長のメカニズム(2): 何が経済を成長させるのか？
- 第6回 景気変動のメカニズム(1): 経済が不安定化する原因はどこにあるのか？
- 第7回 景気変動のメカニズム(2): 市場経済はどのように変化してきたか？
- 第8回 市場のはたらきとその限界(1): 価格メカニズムのメリットとは何か？
- 第9回 市場のはたらきとその限界(2): 市場が失敗するのはどのような場合か？
- 第10回 政府による経済のコントロール(1): 経済を不安定にする「バブル」とは何か？
- 第11回 政府による経済のコントロール(2): 経済を安定化する方法とは？
- 第12回 技術革新と経済発展: 経済を飛躍させる契機は何か？
- 第13回 国際的金融取引の進展と政府の役割の変容: 資本移動は国家を破壊するか？
- 第14回 持続可能な経済発展に向けて: 自然環境の維持と経済発展は調和できるか？
- 第15回 まとめ: 経済学を学んだ人に期待されること

履修上の注意点

私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。

教科書

ヒューマニティーズ経済学

著者: 諸富徹

出版社: 岩波書店

出版年: 2009

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 経営学概論 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 仲田 正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日時は別途、掲出します。

授業の到達目標

「会社(企業)が事業を営む」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の概要

会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

準備学習(予習・復習)

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例(ケース)について、講義の前には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

内 容

- 第1回 はじめに—企業とは何か、会社とは何か、「会社(企業)が事業を営む」とは?その仕組みを理解する—
- 第2回 企業における様々な形態について—会社の基本を押さえる—
- 第3回 企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう—自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか—
- 第4回 企業における一般的な意思決定の仕組みについて
- 第5回 事業の経営に必要な具体的な仕事(1)—会社の側から見た仕事—
- 第6回 事業の経営に必要な具体的な仕事(2)—業種と業態、個人の入社から退職まで—
- 第7回 経営組織の基本を押さえる—職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ—
- 第8回 マネジメントの見方・考え方を知ろう—マネジメント論の源流と主流—
- 第9回 マネジメントへの工学的アプローチ(「科学的管理法」とその後の発展)
- 第10回 マネジメントへの心理・社会学的アプローチ(「人間関係論」とその後の発展)
- 第11回 現代マネジメントの基礎理論—C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと—
- 第12回 経営における意思決定の理論—H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと—
- 第13回 経営における個人と組織の関係—H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの—
- 第14回 激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは?—A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと—
- 第15回 経営の国際化、グローバル化とは何か?—経営の今日的な課題とは?—

履修上の注意点

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

基礎コース 経営学

著者: 小松 章

出版社: 新世社

出版年: 2006

ISBN:

イラスト図解 会社のしくみ

著者: 坂田岳史

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2007

ISBN:

現代アメリカ管理論史

著者： 仲田正機

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 1985

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 会計学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 充央	
テーマ 貸借平均の原理と経済活動をマネジメントする会計の役割を学ぶ	
授業の到達目標 財務諸表の構造と仕組みを理解する	
授業の概要 テキスト以外に、経済記事を活用しながら、常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において、可能であれば、経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。	
準備学習(予習・復習) 復習に重点をおいてもらいたい。	
内 容 第1回 ガイダンス会計的思考について 第2回 財務諸表について 第3回 貸借対照表とは1 第4回 貸借対照表とは2 第5回 貸借対照表とは3 第6回 貸借対照表とは4 第7回 損益計算書とは1 第8回 損益計算書とは2 第9回 損益計算書とは3 第10回 損益計算書とは4 第11回 キャッシュフロー計算書とは1 第12回 キャッシュフロー計算書とは2 第13回 財務諸表を読む1 第14回 財務諸表を読む2 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書	
参考書 グロービスMBAアカウンティング 著者： グロービス経営大学院 出版社：ダイヤモンド社 出版年： ISBN: 最新財務諸表論 著者： 武田隆二 出版社：中央経済社 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 (30) 小テスト (15) 授業中課題 (15) 授業中発表等 () 参加度 (40)	

2015 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	
テーマ 社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方	
授業の到達目標 社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。	
授業の概要 レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する	
準備学習(予習・復習) 日頃から日本の社会福祉の現状に関心を持ち、ボランティア活動に参加する意欲をもつようにすること、授業後は復習に努めること。	
内 容 第1回 ガイダンス及び社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティアの定義 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1 概要と明治期まで) 第3回 社会福祉の歴史(日本の事例 石井十次と孤児院) 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2 大正期～現在) 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合) 第6回 地域社会(学)と地域福祉の考え方 第7回 社会学とボランティア(総論) 第8回 社会学とボランティア(各論 委嘱ボランティア) 第9回 子ども夜回りボランティア 第10回 住民参加とは何か(社会学の主要論点) 第11回 夕張市と住民参加 第12回 社会福祉協議会 第13回 山科区社会福祉協議会 第14回 まとめ1(レポート総括と山科区社協からのコメント) 第15回 まとめ2(コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動)	
履修上の注意点 授業中課題と授業参加度は合わせて60%であるが、ペーパー試験が40%であることをよく認識すること。例年試験の成績が不振のために単位を落とす者があり、「ピー逃げ」の場合が多い。私語は厳禁であり、座席指定制を採用する。	
教科書	
参考書 福祉ボランティア論 著者： 三本松政之他 出版社： 有斐閣 出版年： 2007 ISBN: 4-641-12332-8 ボランティアの今を考える 著者： 守本友美他 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2013 ISBN: 4-623-06650-6 社会福祉をつかむ 改訂版 著者： 稲沢公一他 出版社： 有斐閣 出版年： 2014 ISBN: 4-641-17721-5	
成績評価 試験 (40)	小テスト ()

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（20）

授業中課題は、ボランティア体験レポート20%、ビデオ鑑賞レポート20%である。

2015 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	
テーマ 社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方	
授業の到達目標 社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。	
授業の概要 レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する	
準備学習(予習・復習) 日頃から日本の社会福祉の現状に関心を持ち、ボランティア活動に参加する意欲をもつようにすること。授業後は復習に努めること。	
内 容 第1回 ガイダンス及び社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティアの定義 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1 概要と明治期まで) 第3回 社会福祉の歴史(日本の事例 石井十次と孤児院) 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2 大正期～現在) 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合) 第6回 地域社会(学)と地域福祉の考え方 第7回 社会学とボランティア(総論) 第8回 社会学とボランティア(各論 委嘱ボランティア) 第9回 子ども夜回りボランティア 第10回 住民参加とは何か(社会学の主要論点) 第11回 夕張市と住民参加 第12回 社会福祉協議会 第13回 山科区社会福祉協議会 第14回 まとめ1(レポート総括と山科区社協からのコメント) 第15回 まとめ2(コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動)	
履修上の注意点 授業中課題と授業参加度は合わせて60%であるが、ペーパー試験が40%であることをよく認識すること。例年試験の成績が不振のために単位を落とす者があり、「ピー逃げ」の場合が多い。私語は厳禁であり、座席指定制を採用する。	
教科書	
参考書 福祉ボランティア論 著者： 三本松政之他 出版社： 有斐閣 出版年： 2007 ISBN: 4-641-12332-8 ボランティアの今を考える 著者： 守本友美他 出版社： ミネルヴァ書房 出版年： 2013 ISBN: 4-623-06650-6 社会福祉をつかむ 改訂版 著者： 稲沢公一他 出版社： 有斐閣 出版年： 2014 ISBN: 4-641-17721-5	
成績評価 試験 (40)	小テスト ()

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（20）

授業中課題は、ボランティア体験レポート20%、ビデオ鑑賞レポート20%である。

2015 Syllabus

科目名 **社会学概論 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

授業の到達目標

現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。

授業の概要

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

準備学習(予習・復習)

前回どこまで進んだかを確認して出席すること

内 容

- 第1回 はじめに:この授業の概要の説明
- 第2回 社会学とは何か(1):社会とは
- 第3回 社会学とは何か(2):近代社会とは
- 第4回 社会学とは何か(3):現代社会とは
- 第5回 家族をめぐる社会学(1):家族を定義することの困難
- 第6回 家族をめぐる社会学(2):現代家族をめぐる諸問題
- 第7回 ジェンダーをめぐる社会学
- 第8回 自己(自我)をめぐる社会学
- 第9回 仕事をめぐる社会学
- 第10回 地域をめぐる社会学
- 第11回 国家をめぐる社会学
- 第12回 グローバル化をめぐる社会学
- 第13回 メディアと情報化をめぐる社会学(1):メディアの歴史的展開
- 第14回 メディアと情報化をめぐる社会学(2):現代社会とメディア
- 第15回 まとめ:この授業の総括

履修上の注意点

(1)周囲に迷惑のかかる音量での会話はつつむこと。繰り返す受講生については評価に反映させる。(2)欠席理由を事前事後に報告した場合、その扱いについては考慮することがある。

教科書

社会学理論と社会システム

著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009

ISBN: 9784623053872

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **社会学概論Ⅱ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松田 いりあ	
テーマ 現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得	
授業の到達目標 現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。	
授業の概要 近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。	
準備学習(予習・復習) 前回どこまで進んだかを確認して出席すること	
内 容 第1回 はじめに:この授業の概要の説明 第2回 家族関係の現在 第3回 友人関係の現在 第4回 学校・教育の現在 第5回 親密性の現在 第6回 記憶の現在 第7回 ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容 第8回 ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化 第9回 情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提 第10回 情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界 第11回 情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性 第12回 現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題 第13回 現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題 第14回 現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題 第15回 まとめ:この授業の総括	
履修上の注意点 (1)周囲に迷惑のかかる音量での会話はつつむこと。繰り返す受講生については評価に反映させる。(2)欠席理由を事前事後に報告した場合、その扱いについては考慮することがある。	
教科書 社会理論と社会システム 著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN: 9784623053872	
参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Aa>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ab>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本章彦

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ac>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ad>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ae>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ga>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

アジアの中の日本

授業の到達目標

世界経済の成長センターと言われる東アジアに位置する日本は中国や韓国、ASEANは、経済上においては密接な関係を持ちながらも、政治的には歴史認識、領土問題などさまざまな難問を抱えている。このような複雑な日本とアジアの関係を理解していくことで、卒業後どのような職業に就き、どのような人生を送るのか、キャリアデザインの道しるべとしていきたい。

授業の概要

担当要員による講義とグループワークが中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 序論 グローバル人材の育成に突き進む日本の大学
- 第2回 現代日本の歴史認識(1)「永遠の0」の問題圏①
- 第3回 現代日本の歴史認識(2)「永遠の0」の問題圏②
- 第4回 現代日本の歴史認識(3)東京裁判史観と靖国史観①
- 第5回 現代日本の歴史認識(4)東京裁判史観と靖国史観②
- 第6回 現代日本の歴史認識(5)私たちは何を考えるべきなのかー「霧社事件」が突きつけるもの
- 第7回 経済から見た日本と中国(1)
- 第8回 経済から見た日本と中国(2)
- 第9回 経済から見た日本と中国(3)
- 第10回 経済から見た日本と中国(4)
- 第11回 日本とASEAN(1)
- 第12回 日本とASEAN(2)
- 第13回 日本とASEAN(3)
- 第14回 日本とASEAN(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとはみとめない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

表象のアジアー近代日本の心象地理

著者: 野村幸一郎

出版社: 新典社

出版年: 2015年10月出版予定

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Gb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 畑山 博史

テーマ

アジアの中の日本

授業の到達目標

世界経済の成長センターと言われる東アジアに位置する日本は中国や韓国、ASEANは、経済上においては密接な関係を持ちながらも、政治的には歴史認識、領土問題などさまざまな難問を抱えている。このような複雑な日本とアジアの関係を理解していくことで、卒業後どのような職業に就き、どのような人生を送るのか、キャリアデザインの道しるべとしていきたい。

授業の概要

担当要員による講義とグループワークが中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 序論 グローバル人材の育成に突き進む日本の大学
 第2回 現代日本の歴史認識(1)「永遠の0」の問題圏①
 第3回 現代日本の歴史認識(2)「永遠の0」の問題圏②
 第4回 現代日本の歴史認識(3)東京裁判史観と靖国史観①
 第5回 現代日本の歴史認識(4)東京裁判史観と靖国史観②
 第6回 現代日本の歴史認識(5)私たちは何を考えるべきなのかー「霧社事件」がつきつけるもの
 第7回 経済から見た日本と中国(1)
 第8回 経済から見た日本と中国(2)
 第9回 経済から見た日本と中国(3)
 第10回 経済から見た日本と中国(4)
 第11回 日本とASEAN(1)
 第12回 日本とASEAN(2)
 第13回 日本とASEAN(3)
 第14回 日本とASEAN(4)
 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとはみとめない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

表象のアジアー近代日本の心象地理

著者: 野村幸一郎

出版社: 新典社

出版年: 2015年10月出版予定

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ba>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bb>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 橋本章彦

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bc>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bd>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員 60

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Be>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 優子

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Gc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

アジアの中の日本

授業の到達目標

世界経済の成長センターと言われる東アジアに位置する日本は中国や韓国、ASEANは、経済上においては密接な関係を持ちながらも、政治的には歴史認識、領土問題などさまざまな難問を抱えている。このような複雑な日本とアジアの関係を理解していくことで、卒業後どのような職業に就き、どのような人生を送るのか、キャリアデザインの道しるべとしていきたい。

授業の概要

担当要員による講義とグループワークが中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 序論 グローバル人材の育成に突き進む日本の大学
- 第2回 現代日本の歴史認識(1)「永遠の0」の問題圏①
- 第3回 現代日本の歴史認識(2)「永遠の0」の問題圏②
- 第4回 現代日本の歴史認識(3)東京裁判史観と靖国史観①
- 第5回 現代日本の歴史認識(4)東京裁判史観と靖国史観②
- 第6回 現代日本の歴史認識(5)私たちは何を考えるべきなのかー「霧社事件」が突きつけるもの
- 第7回 経済から見た日本と中国(1)
- 第8回 経済から見た日本と中国(2)
- 第9回 経済から見た日本と中国(3)
- 第10回 経済から見た日本と中国(4)
- 第11回 日本とASEAN(1)
- 第12回 日本とASEAN(2)
- 第13回 日本とASEAN(3)
- 第14回 日本とASEAN(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとはみとめない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

表象のアジアー近代日本の心象地理

著者: 野村幸一郎

出版社: 新典社

出版年: 2015年10月出版予定

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Gd>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 畑山 博史

テーマ

アジアの中の日本

授業の到達目標

世界経済の成長センターと言われる東アジアに位置する日本は中国や韓国、ASEANは、経済上においては密接な関係を持ちながらも、政治的には歴史認識、領土問題などさまざまな難問を抱えている。このような複雑な日本とアジアの関係を理解していくことで、卒業後どのような職業に就き、どのような人生を送るのか、キャリアデザインの道しるべとしていきたい。

授業の概要

担当要員による講義とグループワークが中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 序論 グローバル人材の育成に突き進む日本の大学
- 第2回 現代日本の歴史認識(1)「永遠の0」の問題圏①
- 第3回 現代日本の歴史認識(2)「永遠の0」の問題圏②
- 第4回 現代日本の歴史認識(3)東京裁判史観と靖国史観①
- 第5回 現代日本の歴史認識(4)東京裁判史観と靖国史観②
- 第6回 現代日本の歴史認識(5)私たちは何を考えるべきなのかー「霧社事件」が突きつけるもの
- 第7回 経済から見た日本と中国(1)
- 第8回 経済から見た日本と中国(2)
- 第9回 経済から見た日本と中国(3)
- 第10回 経済から見た日本と中国(4)
- 第11回 日本とASEAN(1)
- 第12回 日本とASEAN(2)
- 第13回 日本とASEAN(3)
- 第14回 日本とASEAN(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席したとはみとめない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

表象のアジアー近代日本の心象地理

著者: 野村幸一郎

出版社: 新典社

出版年: 2015年10月出版予定

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究〈月1〉

クラス

配当回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 mitei

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 時事問題研究〈月2〉

クラス

配当回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 mitei

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

- 第1回 概要説明
- 第2回 領土問題
- 第3回 歴史認識問題
- 第4回 憲法改正
- 第5回 3・11以降の原発問題
- 第6回 デフレ脱却とアベノミクス
- 第7回 少子高齢化
- 第8回 年金破綻
- 第9回 地球温暖化
- 第10回 TPP
- 第11回 経済グローバリゼーション
- 第12回 小選挙区制と政権交代
- 第13回 普天間基地移設問題
- 第14回 IPS細胞
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 **経済学概論 I**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 現代日本経済をめぐる諸問題	
授業の到達目標 バブル経済とその崩壊、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など)経済問題を取り上げたテレビ番組を見る	

内 容

- 第1回 オリエンテーション経済学とは何か
 第2回 バブル経済
 第3回 90年代不況(1)不良債権処理の10年
 第4回 90年代不況(2)不良債権処理の10年
 第5回 90年代不況(3)ケーススタディ・日本長期信用銀行
 第6回 90年代不況(4)ケーススタディ・山一証券
 第7回 中小企業問題
 第8回 女性労働(1)均等法誕生
 第9回 女性労働(2)均等法その後
 第10回 女性労働(3)育児支援
 第11回 労働問題(1)過労死・過労自殺
 第12回 労働問題(2)ホームレス
 第13回 労働問題(3)派遣労働
 第14回 労働問題(4)ネットカフェ難民
 第15回 労働問題(5)派遣村

履修上の注意点

教科書

参考書

日本の宿題

著者: NHK「日本の宿題」プロジェクト

出版社: NHK出版

出版年: 2001年

ISBN:

中小企業が日本経済を救う

著者: 森靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2004年

ISBN:

ワーキング・プア

著者: デイヴィッド・K・シプラー

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年

ISBN:

今日、ホームレスになった

著者: 増田明利

出版社: 新風舎

出版年: 2006年

ISBN:

フリーター漂流

著者： 松宮健一

出版社： 旬報社

出版年： 2006年

ISBN:

若者が働くとき

著者： 熊沢誠

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

派遣村

著者： 宇都宮健児・湯浅誠編

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

15歳のワークルール

著者： 道幸哲也

出版社： 旬報社

出版年： 2007年

ISBN:

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

派遣のリアル

著者： 門倉貴史

出版社： 宝島社

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **経済学概論Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 戦後日本経済の歩みについて学ぶ	
授業の到達目標 敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでの、戦後日本経済の歩みについて学ぶ	
授業の概要 以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習) 新聞を毎日読む(特に経済面、社会面、政治面など)経済問題を取り上げたテレビ番組を見る	
内 容 第1回 戦後日本経済の概観 第2回 特需景気 第3回 もはや戦後ではない 第4回 金の卵 第5回 エネルギー革命 第6回 所得倍増計画 第7回 公害 第8回 列島改造 第9回 ドルショックと石油ショック 第10回 日米経済摩擦 第11回 分割民営 第12回 バブル経済 第13回 プラザ合意 第14回 外国人労働者 第15回 まとめ	
履修上の注意点	

教科書

参考書

医学者は公害事件で何をしてきたのか

著者： 津田敏秀

出版社： 岩波書店

出版年： 2004年

ISBN:

民営化で誰が得をするのか

著者： 石井陽一

出版社： 平凡社

出版年： 2007年

ISBN:

JR福知山線事故の本質

著者： 山口栄一

出版社： NTT出版

出版年： 2007年

ISBN:

<研修生>という名の奴隷労働

著者： 「外国人労働者問題とこれからの日本」編集委員会

出版社： 花伝社

出版年： 2009年

ISBN:

外国人研修生殺人事件

著者： 安田浩一

出版社： 七つ森書館

出版年： 2007年

ISBN:

集団就職の時代

著者： 加瀬和俊

出版社： 青木書店

出版年： 1997年

ISBN:

戦後50年 そのとき日本は 第4巻、第6巻

著者： NHK取材班

出版社： NHK出版

出版年： 1996年

ISBN:

「移民列島」ニッポン

著者： 藤巻秀樹

出版社： 藤原書店

出版年： 2012年

ISBN:

高度成長

著者： 武田晴人

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **健康に生きる I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

健康について様々な視点から学び事で、自分自身の健康に関心を持ち、健康に生きるための方法を考えるために必要な能力を養う。

授業の到達目標

1. 健康とは何かを理解する2. 健康に対して関心を持つことができる3. 健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の概要

健康に関連した統計や社会の取り組み、そしてよくある病気等について学びながら、自分自身の生活についても見つめなおし、健康に生きていくために必要な知識を講義を通して学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 健康とは
- 第2回 日本人の健康の特徴
- 第3回 人間の体の仕組み
- 第4回 青年期の健康 性感染症
- 第5回 成人期の健康 がん
- 第6回 老年期の健康 認知症
- 第7回 心の健康(1) 心のはたらき
- 第8回 心の健康(2) ストレスと健康
- 第9回 心の健康(3) 大学生の心の問題
- 第10回 環境と健康
- 第11回 生活習慣と健康(1)食生活
- 第12回 生活習慣と健康(2)喫煙
- 第13回 生活習慣と健康(3)飲酒
- 第14回 生活習慣と健康(4)運動
- 第15回 まとめ 小テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 健康に生きるⅡ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 一郎・西 彰子

テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

授業の到達目標

1. 健康と栄養の関連を理解する。2. 食の安全性に関心を持つ。3. 健康的な食生活を志向する。

授業の概要

健康を食の視点から考察する。はじめに、栄養素と健康について解説する。次に、最近話題となっている健康情報について考察する。最後に自らの食生活を顧みて健康的な食生活を営むための基本的知識を整理する。

準備学習(予習・復習)

日頃から食に関連する事項に関心を持ち、様々な情報を入手してほしい。次に、その事項に対して疑問を持ち、本当にそうなのかよく考えてほしい。その疑問を授業で検証しよう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康と栄養 (西)
 第2回 健康と栄養 -糖質と糖類- (西)
 第3回 健康と栄養 -脂肪とコレステロールとDHA- (西)
 第4回 健康と栄養 -アミノ酸とたんぱく質- (西)
 第5回 健康と栄養 -ミネラルと骨密度- (西)
 第6回 健康と栄養 -ビタミンと美容- (西)
 第7回 健康と栄養 -色と食品- (西)
 第8回 健康と食トピックス -ビタミン- (中村)
 第9回 健康と食トピックス -ポリフェノール- (中村)
 第10回 健康と食トピックス -BSE- (中村)
 第11回 健康と食トピックス -食品添加物- (中村)
 第12回 健康と食生活 -ダイエット- (西)
 第13回 健康と食生活 -運動と食べ方- (西)
 第14回 健康と食生活 -ストレス- (西)
 第15回 まとめ (西)

履修上の注意点

①積極的に授業に参加してほしい。②毎回出席することが望ましく、1/3以上の欠席では評価が極めて低くならざるを得ない。③授業中のミニ課題も評価対象としていることに留意してほしい。④授業中の飲食、私語、スマホ、メールなどのマナー違反は厳禁。

教科書

食と健康

著者:

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (70)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 **健康に生きるⅢ**

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 田中 芳幸

テーマ

精神的な「健康」(メンタルヘルス)の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解

授業の到達目標

個人の「健康」について精神的な側面(メンタルヘルス)を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察

内 容

- 第1回 オリエンテーション「健康」の捉え方
- 第2回 メンタルヘルスの関連学問領域
- 第3回 パーソナリティと健康
- 第4回 パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法
- 第5回 ストレスのメカニズムと健康
- 第6回 ストレスへの対処
- 第7回 様々なストレスマネジメント技法
- 第8回 社会・集団とメンタルヘルス
- 第9回 様々な健康関連行動
- 第10回 健康関連行動と生活習慣
- 第11回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ:認知・学習心理学の視点から
- 第12回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ:学習・行動心理学の視点から
- 第13回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ:精神分析学の視点から
- 第14回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ:人間性心理学の視点から
- 第15回 健康に生きるⅢ(メンタルヘルス)のまとめ

履修上の注意点

教科書

医療の行動科学Ⅰ 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー

著者: 山田 富美雄(編)

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

参考書

健康と暮らしに役立つ心理学

著者: 金政 祐司・大竹 恵子

出版社: 北樹出版

出版年:

ISBN:

新版健康心理学

著者: 野口 京子

出版社: 金子書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2015 Syllabus

科目名 体育理論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える	
授業の到達目標 ①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。	
授業の概要 準備学習(予習・復習) ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 体育科教育 第3回 前近代スポーツ 第4回 イギリスのスポーツ教育 第5回 アメリカのスポーツ教育 第6回 アジアのスポーツ 第7回 日本の学校体育 第8回 子どもの遊び 第9回 スポーツ部活動 第10回 女性スポーツ 第11回 職場スポーツ 第12回 生涯スポーツ 第13回 オリンピック 第14回 プロスポーツ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点 教職関連科目の受講者は、11回以上の出席を定期試験の受験資格とする。	
教科書	
参考書 図説スポーツ史 著者： 寒川恒夫編 出版社： 朝倉書房 出版年： 1991 ISBN: スポーツ文化論シリーズ1-14 著者： 中村敏雄編 出版社： 創文企画 出版年： 1993-2005 ISBN:	
成績評価 試験 (100) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 **体育理論 **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 新野 守	
テーマ 体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える	
授業の到達目標 ①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。	
授業の概要 準備学習(予習・復習) ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる	
内 容 第1回 オリエンテーション 第2回 体育科教育 第3回 前近代スポーツ 第4回 イギリスのスポーツ教育 第5回 アメリカのスポーツ教育 第6回 アジアのスポーツ 第7回 日本の学校体育 第8回 子どもの遊び 第9回 スポーツ部活動 第10回 女性スポーツ 第11回 職場スポーツ 第12回 生涯スポーツ 第13回 オリンピック 第14回 プロスポーツ 第15回 まとめ 第16回 試験	
履修上の注意点 教職関連科目の受講者は、11回以上の出席を定期試験の受験資格とする。	
教科書	
参考書 図説スポーツ史 著者： 寒川恒夫編 出版社： 朝倉書房 出版年： 1991 ISBN: スポーツ文化論シリーズ1-14 著者： 中村敏雄編 出版社： 創文企画 出版年： 1993-2005 ISBN:	
成績評価 試験 (100) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 体育理論 <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

履修上の注意点

教職関連科目の受講者は、11回以上の出席を定期試験の受験資格とする。

教科書

参考書

図説スポーツ史

著者： 寒川恒夫編

出版社： 朝倉書房

出版年： 1991

ISBN:

スポーツ文化論シリーズ1-14

著者： 中村敏雄編

出版社： 創文企画

出版年： 1993-2005

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 スポーツコース I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコース I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	
テーマ	スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。	
授業の到達目標	本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。	
授業の概要	基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。	
準備学習(予習・復習)	メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。	
内 容	<p>第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)</p> <p>第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明</p> <p>第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)</p> <p>第4回 応用練習(ミニゲーム)</p> <p>第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)</p> <p>第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)</p> <p>第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)</p> <p>第11回 応用練習(ミニゲーム)</p> <p>第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立</p> <p>第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0%)</p> <p>授業中課題 (10%)</p> <p>参加度 (60%)</p> <p>小テスト (0%)</p> <p>授業中発表等 (30%)</p> <p>スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコース I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコース I <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコース I <ラクト>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	※2011年度以前入学生は2単位です。	
準備学習(予習・復習)	(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3) 京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について</p> <p>第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて</p> <p>第8回 エアロビクス I: 踏み台昇降ステップ台でのオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」</p> <p>第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第11回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第12回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング</p> <p>第13回 ダンスエクササイズ: ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上</p> <p>第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動と体脂肪測定</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 藤田 幸光	
テーマ スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。	
授業の到達目標 本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。	
授業の概要 基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。	
準備学習(予習・復習) メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。	
内 容 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等) 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ) 第4回 応用練習(ミニゲーム) 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価) 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ) 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃) 第11回 応用練習(ミニゲーム) 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価 試験 (0%) 授業中課題 (10%) 参加度 (60%) スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組み姿勢である。	小テスト (0%) 授業中発表等 (30%)

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験(0%)

小テスト(0%)

授業中課題(10%)

授業中発表等(30%)

参加度(60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 45

履修条件

クラス指定

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

授業の到達目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の概要

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

準備学習(予習・復習)

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (60%)

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	※2011年度以前入学生は2単位です	
準備学習(予習・復習)	① JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。② 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。③ 京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 筋力アップの実践: 筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは</p> <p>第5回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第6回 無酸素運動: 筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける</p> <p>第7回 エアロビクス: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第8回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第9回 サーキットトレーニング: 部屋でできる運動プログラム</p> <p>第10回 体幹エクササイズ: バランスボール、ストレッチボールを使ってインナーマッスルを強化する</p> <p>第11回 ピラティス: 身体の歪を解消</p> <p>第12回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第13回 コアトレーニング: 腹筋群・背筋群を強化する。体幹のトレーニング</p> <p>第14回 脚部強化運動 脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0)</p> <p>授業中課題 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	
	<p>小テスト (0)</p> <p>授業中発表等 (0)</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅢ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス) 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム 第4回 グループ핑、チームでの練習の取り組み 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について) 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習) 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省) 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング) 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム 第11回 グループ핑、チームでの練習の取り組み 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について) 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用) 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省) 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 (10) 小テスト (5) 授業中課題 (5) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅢ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス) 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について) 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習) 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省) 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング) 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について) 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用) 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省) 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	試験 (10) 小テスト (5) 授業中課題 (5) 授業中発表等 (20) 参加度 (60) 授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅢ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	※2011年度以前入学生は2単位です	
準備学習(予習・復習)	(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3)京都橋大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定 :自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 マシンジム :オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ストレッチⅡ :スタティックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす</p> <p>第7回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第8回 エアロビクスⅠ ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第9回 ストレッチⅢ: ストレッチで柔軟性を向上する</p> <p>第10回 ペアストレッチ: ペアになってストレッチを実践する</p> <p>第11回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第12回 ボールストレッチ: バランスボールを使ったストレッチ</p> <p>第13回 ピラティス: 身体の歪を解消</p> <p>第14回 肩こり・腰痛体操: 柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0)</p> <p>授業中課題 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	
	<p>小テスト (0)</p> <p>授業中発表等 (0)</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	<p>第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。</p> <p>第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)</p> <p>第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)</p> <p>第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム</p> <p>第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム</p> <p>第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解</p> <p>第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術</p> <p>第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)</p> <p>第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)</p> <p>第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)</p> <p>第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第14回 チーム対抗形式でのゲーム</p> <p>第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (10) 小テスト (5)</p> <p>授業中課題 (5) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者 藤田 幸光		
テーマ	スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)	
授業の到達目標	バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。	
授業の概要	バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。	
準備学習(予習・復習)	スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。	
内 容	<p>第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショットなど)</p> <p>第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)</p> <p>第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム</p> <p>第14回 チーム対抗形式でのゲーム</p> <p>第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ</p> <p>第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。</p> <p>第2回 バドミントンの基礎技能練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)</p> <p>第3回 バドミントンの基礎技能練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)</p> <p>第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム</p> <p>第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム</p> <p>第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解</p> <p>第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術</p> <p>第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (10) 小テスト (5)</p> <p>授業中課題 (5) 授業中発表等 (20)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。</p>	

2015 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	
テーマ	フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット	
授業の到達目標	ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。	
授業の概要	※2011年度以前入学生は2単位です	
準備学習(予習・復習)	(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15~18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3)京都橋大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)。	
内 容	<p>第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)</p> <p>第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操</p> <p>第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較</p> <p>第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ</p> <p>第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり</p> <p>第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について</p> <p>第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて</p> <p>第8回 エアロビクス I: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践</p> <p>第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」</p> <p>第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に</p> <p>第11回 ダンスエクササイズ: ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上</p> <p>第12回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動</p> <p>第13回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング</p> <p>第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット</p> <p>第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定</p>	
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価	<p>試験 (0) 小テスト (0)</p> <p>授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)</p> <p>参加度 (60)</p> <p>(技能20%) (態度20%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 地球生命論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 趙 哲済

テーマ

生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解

授業の到達目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

授業の概要

人類史を含む地球と生物の歴史、およびそれらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項について、スライドを用いた講義を主体に行うとともに、スライド内容を資料として配布する。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

準備学習(予習・復習)

授業開始以前に大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館、国立科学博物館などの、自然と人間の歴史をテーマとする施設を1か所見学しておく事が望ましい。夏休み中に参考書3-10の中から1冊を読む事。

内 容

- 第1回 先カンブリア時代(1) 地球の年代区分、地球と月の形成、生命の発生と化学進化
 第2回 先カンブリア時代(2) 原核生物と真核生物、細菌の光合成による遊離酸素の発生、全球凍結、多細胞生物の出現、地球の構造と大陸の移動
 第3回 古生代(1) 骨格をもった多細胞生物・脊椎動物の出現、コケ類・地衣類の水辺への進出、シダ植物の上陸と繁栄
 第4回 古生代(2) 魚類の繁栄、硬骨魚類から両生類への進化、最初に上陸した動物、生物の5大大量死(大量絶滅)事件
 第5回 中生代(1) 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、羊膜類、爬虫類の大分類、恐竜、空の爬虫類・古鳥類、海の爬虫類
 第6回 中生代(2) 日本列島の中生代爬虫類、裸子植物から被子植物への景観変遷、中生代末の大量死
 第7回 新生代(1) ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、環南極海流、氷河時代と無氷河時代、日本海と日本列島の成立
 第8回 新生代(2) 哺乳類の系統と進化、被子植物がもたらした霊長類進化への影響
 第9回 新生代(3) 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
 第10回 第四紀(1) 第四紀とは、層序学の基礎、氷期と間氷期の編年、酸素同位体比、火山灰編年
 第11回 第四紀(2) 氷期の景観、鮮新統・更新統(大阪層群・古琵琶湖層群を中心に)、遺存種(レリク)
 第12回 人類の進化(1) 人類の系統、猿人、華奢型猿人、頑丈型猿人、年代の調べ方
 第13回 人類の進化(2) 原人、石器の発達、第1次出アフリカ、火の使用、旧人、原人のレリク
 第14回 人類の進化(3) 遺伝子情報からみる分子系統、新人、第2次出アフリカ、東～東南アジア・日本列島の新人、石器の文化、抽象的思考(言語と芸術の発生)
 第15回 人類の進化(4) 晩氷期以降の古気候・古地理変遷、定住・農耕・牧畜、地球温暖化、活断層(黄檗断層)、狂牛病、核エネルギー、地球の未来

履修上の注意点

授業中に問いかけをすることがあるので、積極的な応答を期待する。ただし、授業に関係のない私語は慎むこと。疑問点があれば授業の最後に質問を受ける。また、質問用紙に書いて提出してもよい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

地球生物学

著者: 池谷仙之・北里洋

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2004年

ISBN: 4-13-062711-2

人類紀自然学

著者： 人類紀自然学編集委員会

出版社： 共立出版

出版年： 2007年

ISBN： 978-4-320-

リズムカルな地球の変動

著者： 増田富士雄

出版社： 岩波書店

出版年： 1993年

ISBN： 4-00-007903-4

生物と無生物のあいだ

著者： 福岡伸一

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2007年

ISBN： 978-4-06-

進化の大爆発…動物のルーツを探る

著者： 大森昌衛

出版社： 新日本出版社

出版年： 2000年

ISBN： 4-406-02756-4

「退化」の進化学

著者： 犬塚則久

出版社： ブルーバックス

出版年： 2006年

ISBN： 4-06-257537-X

人類進化の700万年

著者： 三井誠

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2005年

ISBN： 4-06-149805-3

人類がたどってきた道

著者： 海部陽介

出版社： NHKブックス

出版年： 2005年

ISBN： 4-14-091028-3

気候変動はなぜ起こるのか

著者： ウォーレス・ブロッカー

出版社： ブルーバックス

出版年： 2006年

ISBN： 4-320-04682-X

古代文明と気候変動

著者： ブライアン・ファイガン

出版社： 河出書房新社

出版年： 2005年

ISBN： 4-309-25192-7

成績評価

試験 ()

小テスト (35)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (45)

参加度と授業の中で行う基礎事項に関する小テストで評価する。授業中課題の提出は自由。

2015 Syllabus

科目名 地球環境論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 南 聡一郎	
テーマ 地球環境政策におけるNGO・市民運動の役割	
授業の到達目標 ・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。	
授業の概要 市民とNGOの役割に注目して地球環境政策について講義する。一市民の力では、環境問題へ取り組むことは難しいイメージがあると思う。しかし、国際的な環境政策においてNGO(非政府組織)や市民運動が国際政治を動かしたケースが多く、日本国内でも環境NGOが多くの成果を上げてきている。そこで、環境運動がどんな環境問題に対してどんな成果をだしたのかという観点から、地球環境について学んでいく。	
準備学習(予習・復習) きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。	
内 容 第1回 地球環境問題とは(ガイダンス) 第2回 環境問題にとりくむ主体 第3回 国連地球サミット(1992年)の意義 第4回 地球温暖化問題(1) 京都会議(1997年)の意義 第5回 地球温暖化問題(2) 国際会議におけるNGOの活動 第6回 地球温暖化問題(3) 国内におけるNGOのとりにくみ 第7回 地球温暖化問題(4) 企業が環境問題に果たす役割 第8回 オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約(1):あらし 第9回 オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約(2):成立の経緯 第10回 フランスの環境グルネル法(1) NGOを環境政策の主役に据えた新法 第11回 フランスの環境グルネル法(2) 実践:フランスの都市交通政策を例に 第12回 公害問題と運動(1) 日本の公害の歴史 第13回 公害問題と運動(2) 四大公害を中心とした公害裁判 第14回 公害問題と運動(3) 公害地域の再生と国際協力 第15回 地球環境問題解決のための政府・企業・市民の協働(まとめ)	
履修上の注意点	

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

改訂版ごみの環境経済学

著者: 坂田 裕輔

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771021074

地球環境運動全史

著者: ジョン マコーミック

出版社: 岩波書店

出版年: 1998

ISBN: 4000013858

地球温暖化の政治学

著者: 竹内啓二

出版社: 朝日新聞社

出版年: 1998

ISBN: 4022597046

環境経済学 新版

著者： 宮本憲一

出版社： 岩波書店

出版年： 2007

ISBN: 4000224816

西淀川公害の40年—維持可能な環境都市をめざして

著者： 除本理史、林美帆編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2013

ISBN: 4623065898

戦後日本公害史論

著者： 宮本憲一

出版社： 岩波書店

出版年： 2014

ISBN: 4000259849

不都合な真実

著者： アル・ゴア

出版社： ランダムハウス講談社

出版年： 2007

ISBN: 427000181X

沈黙の春

著者： レイチェル・カーソン

出版社： 新潮社

出版年： 1974

ISBN: 4102074015

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 地球環境論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 南 聡一郎	
テーマ	
地球環境政策におけるNGO・市民運動の役割	
授業の到達目標	
・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。	
授業の概要	
市民とNGOの役割に注目して地球環境政策について講義する。一市民の力では、環境問題へ取り組むことは難しいイメージがあると思う。しかし、国際的な環境政策においてNGO(非政府組織)や市民運動が国際政治を動かしたケースが多く、日本国内でも環境NGOが多くの成果を上げてきている。そこで、環境運動がどんな環境問題に対してどんな成果をだしたのかという観点から、地球環境について学んでいく。	
準備学習(予習・復習)	
きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。	

内 容

- 第1回 地球環境問題とは(ガイダンス)
 第2回 環境問題にとりくむ主体
 第3回 国連地球サミット(1992年)の意義
 第4回 地球温暖化問題(1) 京都会議(1997年)の意義
 第5回 地球温暖化問題(2) 国際会議におけるNGOの活動
 第6回 地球温暖化問題(3) 国内におけるNGOのとりにくみ
 第7回 地球温暖化問題(4) 企業が環境問題に果たす役割
 第8回 オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約(1):あらし
 第9回 オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約(2):成立の経緯
 第10回 フランスの環境グルネル法(1) NGOを環境政策の主役に据えた新法
 第11回 フランスの環境グルネル法(2) 実践:フランスの都市交通政策を例に
 第12回 公害問題と運動(1) 日本の公害の歴史
 第13回 公害問題と運動(2) 四大公害を中心とした公害裁判
 第14回 公害問題と運動(3) 公害地域の再生と国際協力
 第15回 地球環境問題解決のための政府・企業・市民の協働(まとめ)

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

改訂版ごみの環境経済学

著者: 坂田 裕輔

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009

ISBN: 4771021074

地球環境運動全史

著者: ジョン マコーミック

出版社: 岩波書店

出版年: 1998

ISBN: 4000013858

地球温暖化の政治学

著者: 竹内啓二

出版社: 朝日新聞社

出版年: 1998

ISBN: 4022597046

環境経済学 新版

著者: 宮本憲一

出版社: 岩波書店

出版年: 2007

ISBN: 4000224816

西淀川公害の40年—維持可能な環境都市をめざして

著者: 除本理史、林美帆編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2013

ISBN: 4623065898

戦後日本公害史論

著者: 宮本憲一

出版社: 岩波書店

出版年: 2014

ISBN: 4000259849

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2007

ISBN: 427000181X

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン

出版社: 新潮社

出版年: 1974

ISBN: 4102074015

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 エコロジー研究 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 環境と開発の総合的研究	
授業の到達目標 日本に於ける倭森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ。	
授業の概要 毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。	
準備学習(予習・復習)	

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
 第3回 日本の自然保護(2)富士山
 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
 第7回 川の自然保護(1)川の文化
 第8回 川の自然保護(2)四万十川
 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
 第12回 日本の世界遺産(2)知床
 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
 第15回 レイチェル・カーソン

履修上の注意点

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001年

ISBN:

シカと日本の森林

著者: 依光良三編

出版社: 築地書館

出版年: 2011年

ISBN:

富士山を汚すのは誰か

著者: 野口 健

出版社: 角川書店

出版年: 2008年

ISBN:

富士山の光と影

著者: 渡辺豊博

出版社: 清流出版

出版年: 2014年

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994年

ISBN:

四万十川・歩いて下る

著者： 多田 実

出版社： 築地書館

出版年： 1995年

ISBN:

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2005年

ISBN:

沈黙の春

著者： レイチェル・カーソン

出版社： 新潮社

出版年： 1974年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 エコロジー研究

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ 環境と開発の総合的研究	
授業の到達目標 日本に於ける山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ	
授業の概要 毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ	
準備学習(予習・復習)	

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
- 第3回 日本の自然保護(2)富士山
- 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
- 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
- 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
- 第7回 川の自然保護(1)川の文化
- 第8回 川の自然保護(2)四万十川
- 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
- 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
- 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
- 第12回 日本の世界遺産(2)知床
- 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
- 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
- 第15回 レイチェル・カーソン

履修上の注意点

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001年

ISBN:

シカと日本の森林

著者: 依光良三編

出版社: 築地書館

出版年: 2011年

ISBN:

富士山を汚すのは誰か

著者: 野口 健

出版社: 角川書店

出版年: 2008年

ISBN:

富士山の光と影

著者: 渡辺豊博

出版社: 清流出版

出版年: 2014年

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994年

ISBN:

四万十川・歩いて下る

著者： 多田 実

出版社： 築地書館

出版年： 1995年

ISBN:

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

沈黙の春

著者： レイチェル・カーソン

出版社： 新潮社

出版年： 1974年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 自然の探求 <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡野 淳一

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。また履修人数によっては、授業中発表課題も行う。

準備学習(予習・復習)

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースを聞く機会があれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみる事が望まれる。

内 容

- 第1回 生物多様性とは1
- 第2回 生物多様性とは2
- 第3回 生態学とは
- 第4回 種の多様性1
- 第5回 種の多様性2
- 第6回 種の多様性3
- 第7回 多様性の評価法
- 第8回 遺伝子の多様性1
- 第9回 遺伝子の多様性2
- 第10回 遺伝子の多様性3
- 第11回 生態系の多様性1
- 第12回 生態系の多様性2
- 第13回 生態系の多様性3
- 第14回 生態系サービス
- 第15回 生態系の保全

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。授業の出欠も成績評価の重要な項目となるため、毎回出欠を取る予定です。

教科書

参考書

生物多様性と生態学

著者： 宮下直・井鷲裕司・千葉聡

出版社： 朝倉書店

出版年： 2012

ISBN: 4254171501

生物多様性のしくみを解く

著者： 宮下直

出版社： 工作舎

出版年： 2014

ISBN: 4875024568

生態学入門

著者： 日本生態学会

出版社： 東京化学同人

出版年： 2012

ISBN: 4807907832

成績評価

試験 (40)
授業中課題 (10)
参加度 (50)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 自然の探求

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡野 淳一	

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。また履修人数によっては、授業中発表課題も行う。

準備学習(予習・復習)

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースを聞く機会があれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみる事が望まれる。

内 容

- 第1回 生物多様性とは1
- 第2回 生物多様性とは2
- 第3回 生態学とは
- 第4回 種の多様性1
- 第5回 種の多様性2
- 第6回 種の多様性3
- 第7回 多様性の評価法
- 第8回 遺伝子の多様性1
- 第9回 遺伝子の多様性2
- 第10回 遺伝子の多様性3
- 第11回 生態系の多様性1
- 第12回 生態系の多様性2
- 第13回 生態系の多様性3
- 第14回 生態系サービス
- 第15回 生態系の保全

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。授業の出欠も成績評価の重要な項目となるため、毎回出欠を取る予定です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

生物多様性と生態学

著者: 宮下直・井鷲裕司・千葉聡

出版社: 朝倉書店

出版年: 2012

ISBN: 4254171501

生物多様性のしくみを解く

著者: 宮下直

出版社: 工作舎

出版年: 2014

ISBN: 4875024568

生態学入門

著者： 日本生態学会

出版社： 東京化学同人

出版年： 2012

ISBN: 4807907832

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (10)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

2015 Syllabus

科目名 地理学概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中西 和子

テーマ

地理学の成立を学び、世界・日本の諸地域について理解を深める。あわせて、地理教育に関する諸問題について考える。

授業の到達目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え、「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。さらに上記を踏まえ、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の概要

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:いままでの地理で習ったこと、覚えていますか?—“ジャングル大帝レオ”って、正しいですか?
 第2回 地理学と地図1 人は何故、地図を描くのか—“文字”が先か“地図”が先か?
 第3回 地理学と地図2 日本で最初の地図とそれから—何を何に描いたのか?
 第4回 地理学と地図3 地理学の必殺技!“地図化する”ということ
 第5回 地理学の成立と展開1 王子様の必須科目!—ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征
 第6回 地理学の成立と展開2 教養人の必須科目へ—エデンの園と新世界発見
 第7回 地理学の成立と展開3 近代地理学の成立—「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い
 第8回 日本における地理学の成立
 第9回 新しい(?)「環境決定論」—『銃・病原菌・鉄』
 第10回 アジア諸地域と人びとの暮らし ギョーザは主食?それともおかず?
 第11回 ヨーロッパ諸地域と人びとの暮らし ショコラティエは、夏、何やってるの?
 第12回 現代の日本の諸地域と人びとの暮らし1 日本の農業の不思議について
 第13回 現代の日本の諸地域と人びとの暮らし2 大都市の“電力”の不思議について
 第14回 かつての街道と現代の高速道路—地理条件と社会条件、勝つのはどっち?
 第15回 「地理教育」の問題点—どうして“地理嫌い”が多いの?

履修上の注意点

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

現代地理学入門 身近な地域から世界まで

著者: 高橋伸夫他編

出版社: 古今書院

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (10%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2015 Syllabus

科目名 生活の中の数学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小寺 隆幸	
テーマ	実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。
授業の到達目標	実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどのようなことを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。
授業の概要	算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。
準備学習(予習・復習)	授業で関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。
内 容	<p>第1回 携帯料金 どれがお得？ 一次関数から線型計画法へ</p> <p>第2回 スキー場の数学 斜面の運動から二次関数へ</p> <p>第3回 落下運動 微分・積分の考え</p> <p>第4回 ドライバーの数学 制動距離は二次関数</p> <p>第5回 オウムガイとアワビの数学 相似・指数関数</p> <p>第6回 サラ金から身を守るために 指数関数</p> <p>第7回 ローンの返済 半対数グラフの活用</p> <p>第8回 放射能に向き合って生きる 対数</p> <p>第9回 リスク 確率・期待値</p> <p>第10回 統計の利用と嘘 代表値・推測統計</p> <p>第11回 確率の実験</p> <p>第12回 成長を考える 指数関数</p> <p>第13回 成長を考える ロジスティック関数</p> <p>第14回 新しい数学 カオス</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
数学で考える環境問題	
著者: 小寺隆幸	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト (30)
授業中課題 (50)	授業中発表等 ()
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 物理学基礎

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥居 善光

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 物体の運動
- 第2回 力のつりあい(1)
- 第3回 力のつりあい(2)
- 第4回 運動の法則(1)
- 第5回 運動の法則(2)
- 第6回 仕事とエネルギー(1)
- 第7回 仕事とエネルギー(2)
- 第8回 温度と熱
- 第9回 仕事と熱エネルギー
- 第10回 電気(1)
- 第11回 電気(2)
- 第12回 波動
- 第13回 音波
- 第14回 光波
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者: 金原 稔

出版社: 実教出版

出版年:

ISBN: 9784407316421

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 化学基礎 <a>

クラス 配当回生 学部1回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと

内 容

- 第1回 物質は何からできているか。
- 第2回 分子について
- 第3回 原子の構造と原子同士の結合
- 第4回 分子の形はどのようにして決まるか
- 第5回 分子の形……異性体と立体化学
- 第6回 物質の三態……固体・液体・気体
- 第7回 溶液について(1)
- 第8回 溶液について(2)、小テスト(1回目)
- 第9回 化学反応はなぜ起こるか
- 第10回 触媒、反応速度
- 第11回 酸と塩基(1)
- 第12回 酸と塩基(2)
- 第13回 酸化と還元
- 第14回 有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
- 第15回 日常の中の化合物、小テスト(2回目)

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」をみる目

著者： 大野惇吉、安井伸郎、牛田智、塩路幸生

出版社： 三共出版

出版年： 2015

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

結果だけではなく過程も評価します。

2015 Syllabus

科目名 **生物学基礎**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習(予習・復習)

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと

内 容

- 第1回 細胞生物学(1) 細胞の構造と役割
- 第2回 細胞生物学(2) 細胞を構成する物質-1
- 第3回 細胞生物学(3) 細胞を構成する物質-2
- 第4回 細胞生物学(4) エネルギー、酵素、代謝
- 第5回 細胞生物学(5) エネルギー獲得
- 第6回 遺伝(1)メンデル遺伝学とその後
- 第7回 遺伝(2)DNAと遺伝におけるその役割
- 第8回 遺伝(3)DNAからタンパク合成まで
- 第9回 発生と老化(1)
- 第10回 発生と老化(2)
- 第11回 脳の構造と機能
- 第12回 がん
- 第13回 食と健康(1)
- 第14回 食と健康(2)
- 第15回 感染と免疫
- 第16回 試験

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版

著者: 南雲 保 編

出版社: 羊土社

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 教育方法の研究〈Z〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ 〈授業をつくる〉ことへのイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 自分の追求する免許教科の学習指導要領を手元に置き、熟読すると共に、授業において常に参照できるようにしておくこと。	
内 容 第1回 「あの坂の名は？」:社会科における発信型の授業と学力とは何か？ 第2回 「見たこと作文」:子どもが〈動く〉授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」:発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」:教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリとしての〈指示・発問・説明・応答・調整〉 第6回 「お化け屋敷で算数を」:子どもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」:教育内容と方法の開発論理 第8回 「声を育てる音楽の授業」:〈雰囲気の良い授業〉の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」:コンピュータとインターネットでできること 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」:言語技術としての〈分析ツールを教える〉国語の授業 第11回 「琵琶湖で学ぶ」:総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造:〈教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価〉 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」:授業の機能とITの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」:イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ	
履修上の注意点 単位認定には3分の2以上の出席が前提となる。実習などで欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト (50) 授業中課題 (50) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座 I <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 山脇 康彦

テーマ

夢・目標に向かってキャリア・デザインを考えるきっかけとする

授業の到達目標

世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する

授業の概要

講義を中心に、適宜、演習を交えて進める

準備学習(予習・復習)

日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キャリア開発とは
- 第3回 企業経営に求められる人材像
- 第4回 いろいろな業界、会社、ビジネスモデルを知る
- 第5回 ビジネスの諸活動
- 第6回 衣料品や飲料などを手にするまでに存在する様々な取引
- 第7回 流通業のビジネス
- 第8回 メーカーのビジネス
- 第9回 サービス業のビジネス
- 第10回 公務員
- 第11回 その他のビジネス(NPO、起業など)
- 第12回 電子商取引
- 第13回 15年後、需要が伸びる職業の特徴
- 第14回 私のキャリアデザイン
- 第15回 まとめ(総括)

履修上の注意点

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ()

参加度 (40%)

2015 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅰ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 地域政策—地方公務員	
授業の到達目標	1.地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を理解する。2.地方公務員が担う地方行政の特質と機能を、自らが働くことを想定しつつ、具体的に知る。3.地方公務員になるための公務員試験の特色を知り、チャレンジするための心構えとスケジュールづくりを行う。
授業の概要	公務員試験を受験することを前提として、受験しようとする地方自治体を選んで、自発的に研究を行う。個人の地道な積み上げが基本だが、刺激を与えるためグループ化が進むような学修方法も検討する予定。
準備学習(予習・復習)	公務員試験のための授業外学習が不可欠なので、生協などの情報を事前に調べ、そのセミナーなどを活用すること。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介 教科書を前半は使うので事前に用意すること 憲法、民法、行政法、政治学概論ⅠⅡ、行政学、経済学などの受講(予定)科目を聞き、各人の学習スタンスを確認する</p> <p>第2回 地域政策の概要 志望動機にどう関わるか</p> <p>第3回 地方行政とは何か 志望動機に関係して考える</p> <p>第4回 地方自治制度の理解 地方財政や公務員制度の特質などまず何か一つに詳しくなるようにする</p> <p>第5回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(1) 世間的印象と実体との乖離の理由を考える</p> <p>第6回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(2) 地方公務員というキャリアと民間企業キャリアとの関係</p> <p>第7回 地方公務員試験の研究(1)</p> <p>第8回 地方公務員試験の研究(2)</p> <p>第9回 地方自治の原点を知る(映像などを活用する)</p> <p>第10回 国の省庁の役割と課題を知る(参考資料による)</p> <p>第11回 地方公務員に必要な法学的知識</p> <p>第12回 地方公務員に必要な政治学的・行政学的知識</p> <p>第13回 会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する(1)</p> <p>第14回 会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する(2)</p> <p>第15回 まとめ—これからの公務員試験勉強のスケジュールづくり—</p>
履修上の注意点	マイ自治体というテーマでレポートを作成してもらう予定なので、地元の自治体のニュースをスクラップしたり、現地訪問するようにすること。

教科書

肚が据わった公務員になる！

著者： 中野雅至

出版社： 朝日新聞出版

出版年： 2014

ISBN： 9784022735584

参考書

コミュニティ・スタディーズ—災害と復興、無縁化、ポスト成長の中で、新たな共生社会を展望する

著者： 吉原直樹

出版社： 作品社

出版年： 2011

ISBN：

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践

著者： 中川幾郎編著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN：

コミュニティデザイナー一人がつながるしくみをつくる

著者： 山崎亮

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN:

地域主権時代の新しい公共: 希望を拓くNPOと自治・協働改革

著者： 今瀬政司

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN:

地方自治ことばの基礎知識 キーワードを通して地域主権を考える

著者： 兼子仁

出版社： ぎょうせい

出版年： 2010

ISBN:

教育の職業的意義－若者、学校、社会をつなぐ

著者： 本田由紀

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN:

大学センターのぶっちゃけ話－知的現場主義の就職活動－

著者： 沢田健太

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2011

ISBN:

大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法

著者： 松本茂他

出版社： 玉川大学出版部

出版年： 2007

ISBN:

公務員試験のカラクリ

著者： 大原瞳

出版社： 光文社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

数回ミニテスト(問題を事前に提示する)を行うので、欠席がちな学生は友達にテストがあることを教えてもらうようにすること。

2015 Syllabus

科目名 キャリア開発演習Ⅱ〈2a〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	

担当者 濱田 剛

テーマ

非言語分野に特化し、就職筆記試験に対応し得る知識の習得と実践力を、短期集中で養う。

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。とりわけ非言語分野は、筆記試験において点差が開く分野であり、本分野の克服無くして筆記試験の突破は困難である。非言語分野に特化、集中して学ぶことにより、一気に本番の筆記試験に対応し得る能力を養成することを目的とする。

授業の概要

就職筆記試験における非言語分野を、基礎から応用発展まで単元ごとに演習中心に学習。後半5コマは本番レベルの問題を、模試、解答解説を繰り返し実施する。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎数学 四則混合計算から総復習
- 第3回 非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第4回 非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第5回 非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第6回 非言語分野④ 場合の数、確率
- 第7回 非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
- 第8回 非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
- 第9回 非言語分野⑦ 推論
- 第10回 非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
- 第11回 非言語分野⑨ 徹底答練Ⅰ
- 第12回 非言語分野⑩ 徹底答練Ⅱ
- 第13回 非言語分野⑪ 徹底答練Ⅲ
- 第14回 非言語分野⑫ 徹底答練Ⅳ
- 第15回 非言語分野⑬ 徹底答練Ⅴ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ〈教職〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 50

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

教職に就くにあたって求められる基本的な数学の力を育てる。

授業の到達目標

教員採用試験に出題される数学の問題が解けるように、数Ⅰや数Aの復習と問題演習を行う。

授業の概要

教員採用試験の過去問題を用い、前半は各自が解き、後半は説明する。

準備学習(予習・復習)

数Ⅰと数Aの内容は各自で復習し、わからない点は質問すること。

内 容

- 第1回 教員採用試験の問題のレベルと傾向
- 第2回 教員採用試験の過去問から①滋賀県
- 第3回 教員採用試験の過去問から②京都府
- 第4回 教員採用試験の過去問から③京都市
- 第5回 教員採用試験の過去問から④大阪府
- 第6回 教員採用試験の過去問から⑤福井県
- 第7回 教員採用試験の過去問から⑥愛知県
- 第8回 教員採用試験の過去問から⑦その他の県
- 第9回 教員採用試験の過去問から 数と式
- 第10回 教員採用試験の過去問から 関数
- 第11回 教員採用試験の過去問から 図形
- 第12回 教員採用試験の過去問から 確率
- 第13回 教員採用試験の過去問から 総合
- 第14回 教員採用試験の過去問から 算数科教育法
- 第15回 教員採用試験にむけて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <a>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 香坂 千佳子

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 堀越 昭夫	
テーマ	将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。
授業の到達目標	キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。
授業の概要	(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。
準備学習(予習・復習)	新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション／キャリアとは</p> <p>第2回 社会人基礎力を身につけることの意義</p> <p>第3回 これからの学生生活を考える</p> <p>第4回 私の価値観を考える①</p> <p>第5回 私の価値観を考える②</p> <p>第6回 人生の目的・目標①</p> <p>第7回 人生の目的・目標②</p> <p>第8回 人生の目的・目標③</p> <p>第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア</p> <p>第10回 キャリアとグローバル社会を考える</p> <p>第11回 ケーススタディ①</p> <p>第12回 ゲストスピーカー</p> <p>第13回 ケーススタディ②</p> <p>第14回 ケーススタディ③</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (0%)	小テスト (0%)
授業中課題 (60%)	授業中発表等 (0%)
参加度 (40%)	
出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 香坂 千佳子	
テーマ	将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。
授業の到達目標	キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。
授業の概要	(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。
準備学習(予習・復習)	新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。
内 容	第1回 オリエンテーション／キャリアとは 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義 第3回 これからの学生生活を考える 第4回 私の価値観を考える① 第5回 私の価値観を考える② 第6回 人生の目的・目標① 第7回 人生の目的・目標② 第8回 人生の目的・目標③ 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア 第10回 キャリアとグローバル社会を考える 第11回 ケーススタディ① 第12回 ゲストスピーカー 第13回 ケーススタディ② 第14回 ケーススタディ③ 第15回 まとめ
履修上の注意点	
教科書	使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書
成績評価	試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 堀越 昭夫	
テーマ	将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。
授業の到達目標	キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。
授業の概要	(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。
準備学習(予習・復習)	新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。
内 容	第1回 オリエンテーション／キャリアとは 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義 第3回 これからの学生生活を考える 第4回 私の価値観を考える① 第5回 私の価値観を考える② 第6回 人生の目的・目標① 第7回 人生の目的・目標② 第8回 人生の目的・目標③ 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア 第10回 キャリアとグローバル社会を考える 第11回 ケーススタディ① 第12回 ゲストスピーカー 第13回 ケーススタディ② 第14回 ケーススタディ③ 第15回 まとめ
履修上の注意点	
教科書	使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書
成績評価	試験 (0%) 小テスト (0%) 授業中課題 (60%) 授業中発表等 (0%) 参加度 (40%) 出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <G>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 香坂 千佳子	
テーマ	将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。
授業の到達目標	キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。
授業の概要	(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。
準備学習(予習・復習)	新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。
内 容	<p>第1回 オリエンテーション／キャリアとは</p> <p>第2回 社会人基礎力を身につけることの意義</p> <p>第3回 これからの学生生活を考える</p> <p>第4回 私の価値観を考える①</p> <p>第5回 私の価値観を考える②</p> <p>第6回 人生の目的・目標①</p> <p>第7回 人生の目的・目標②</p> <p>第8回 人生の目的・目標③</p> <p>第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア</p> <p>第10回 キャリアとグローバル社会を考える</p> <p>第11回 ケーススタディ①</p> <p>第12回 ゲストスピーカー</p> <p>第13回 ケーススタディ②</p> <p>第14回 ケーススタディ③</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (0%)	小テスト (0%)
授業中課題 (60%)	授業中発表等 (0%)
参加度 (40%)	
出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <f>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定 大学指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めていきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 50

履修条件 キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること

クラス指定

担当者 濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
 ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
- 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
- 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
- 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
- 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
- 第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習
- 第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
- 第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I
- 第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II
- 第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I
- 第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II
- 第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
- 第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
- 第15回 基礎数学⑨ 推論

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間	その他	定員 50
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担当者	(休講)	
テーマ	大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。 ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。 	
授業の概要	授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I</p> <p>第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II</p> <p>第4回 基礎国語③ 文章力育成 I</p> <p>第5回 基礎国語④ 文章力育成 II</p> <p>第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III</p> <p>第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習</p> <p>第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習</p> <p>第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I</p> <p>第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II</p> <p>第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I</p> <p>第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II</p> <p>第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率</p> <p>第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合</p> <p>第15回 基礎数学⑨ 推論</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者： 株式会社イング</p> <p>出版社： 株式会社イング</p> <p>出版年： 2013年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (40) 小テスト (20)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <c>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 50

履修条件 キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること クラス指定

担当者 濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
- ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
- 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
- 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
- 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
- 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
- 第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I
- 第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II
- 第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I
- 第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II
- 第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
- 第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
- 第13回 基礎数学⑦ 推論
- 第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I
- 第15回 基礎数学⑨ 総合演習 III

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <d>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 その他 定員 50

履修条件 キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること クラス指定

担当者 (休講)

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ

授業の到達目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
- ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
 第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I
 第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II
 第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I
 第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II
 第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
 第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
 第13回 基礎数学⑦ 推論
 第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I
 第15回 基礎数学⑨ 総合演習 III

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 キャリア開発講座Ⅳ <a>

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 宇都宮 麻美・峰 浩司

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
 第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習
 第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
 第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
 第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算
 第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率
 第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス
 第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り
 第14回 非言語分野⑧ 推論
 第15回 非言語分野⑨ 領域、物の流れと比率

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者：株式会社イング

出版社：株式会社イング

出版年：2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅳ **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する	
授業の到達目標	
就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。	
授業の概要	
授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。	
準備学習(予習・復習)	
授業で出した課題の提出	
内 容	
第1回	ガイダンス・プレテスト
第2回	SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
第3回	就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回	コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回	自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
第6回	伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
第7回	非言語分野① 計算・計数の総復習
第8回	非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回	非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回	非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算
第11回	非言語分野⑤ 場合の数、確率
第12回	非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス
第13回	非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り
第14回	非言語分野⑧ 推論
第15回	非言語分野⑨ 領域、物の流れと比率
履修上の注意点	
教科書	
イングオリジナルテキスト	
著者: 株式会社イング	
出版社: 株式会社イング	
出版年: 2013年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (40)	小テスト (20)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ()
参加度 ()	
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅳ <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宇都宮 麻美・峰 浩司

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
 第7回 非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
 第8回 非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
 第9回 非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
 第10回 非言語分野④ 場合の数、確率
 第11回 非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
 第12回 非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
 第13回 非言語分野⑦ 推論
 第14回 非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
 第15回 非言語分野⑨ 総合演習

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者：株式会社イング

出版社：株式会社イング

出版年：2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅳ <d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する	
授業の到達目標	
就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。	
授業の概要	
授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。	
準備学習(予習・復習)	
授業で出した課題の提出	
内 容	
第1回	ガイダンス・プレテスト
第2回	SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
第3回	就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回	コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回	自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
第6回	伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
第7回	非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第8回	非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第9回	非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
第10回	非言語分野④ 場合の数、確率
第11回	非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
第12回	非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
第13回	非言語分野⑦ 推論
第14回	非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
第15回	非言語分野⑨ 総合演習
履修上の注意点	
教科書	
イングオリジナルテキスト	
著者: 株式会社イング	
出版社: 株式会社イング	
出版年: 2013年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (40)	小テスト (20)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ()
参加度 ()	
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <a>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ **

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <c>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <d>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <G>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <f>**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

準備学習(予習・復習)

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <初等>

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 島田 尚夫

テーマ

自ら、教職につくための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す。

授業の到達目標

「生きる力」という概念は、こらからも続く激変の社会において、益々重要度をますことから、「生きる力」を形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志願するものは、単に学習指導要領の改善点の獲得だけでなく、改定の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを継続的に理解し、時代の社会の変化に対応する資質と能力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見ることや、新聞等の教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

内 容

- 第1回 教育の意義と目的
- 第2回 教育課程の意義
- 第3回 教育課程の編成と評価
- 第4回 教師の役割と仕事①
- 第5回 学習指導要領の特色
- 第6回 道徳教育
- 第7回 総合的な学習の時間と特別活動
- 第8回 特別支援と生徒指導
- 第9回 学習指導要領・その変遷①
- 第10回 学級と学校の運営①
- 第11回 学力と学習指導
- 第12回 指導案づくり①「はる」教材研究
- 第13回 学級経営について
- 第14回 全学年、全教科の指導内容
- 第15回 望ましい教師を目指す

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍株式会社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示します

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）
授業中課題（70）
参加度（15）

小テスト（なし）
授業中発表等（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評価を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <中等>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 廣瀬 忠愛	
テーマ 学校教育実践論 I	
授業の到達目標 これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要があります。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。	
授業の概要 今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、自らの実践を主体的に考え、発表する。基本的なことを学び、それをもとに関連した課題について考え、グループで討議し深める。グループで討議した内容を全体で報告する。	
準備学習(予習・復習) 文部科学省のホームページを日頃から見しておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと	
内 容 第1回 授業の説明等(教職を志す資質・能力及び教員採用試験)イントロダクション 第2回 教師の求められる資質・能力 第3回 ワークショップ 第4回 教育観について 第5回 ワークショップ 第6回 今日的な教育課題 第7回 ワークショップ 第8回 学習指導の在り方 第9回 ワークショップ 第10回 児童生徒の問題行動について 第11回 ワークショップ 第12回 これからの人権教育 第13回 ワークショップ 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容 第15回 ワークショップのまとめ	
履修上の注意点	

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？ 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN: 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼b>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？ 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN： 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN：	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN：	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼c〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために。

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。

授業の概要

・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての自分)の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の得意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係
 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師)
 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？
 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度
 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり
 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催)
 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師)
 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2)
 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ

履修上の注意点

・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？ 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN: 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 敦子	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？ 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN: 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために。

授業の到達目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。

授業の概要

・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。

準備学習(予習・復習)

・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係
 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師)
 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？
 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度
 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり
 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催)
 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師)
 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2)
 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ

履修上の注意点

・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省

出版社： フレーベル館

出版年： 平成20年

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？ 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN: 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社：フレーベル館 出版年：平成20年 ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	
テーマ 子どもにとってふさわしい保育者になるために。	
授業の到達目標 ・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めると共に、将来の進路選択 に向けて期待を膨らませ具体的なビジョンを描く。	
授業の概要 ・保育所や幼稚園の新しい役割や現場の子ども達の実態に応じた必要な技能や知識 等について実技や演習、実習体験などを通して学びを深める。・ゲスト講師の話やディスカッション等により、将来の保育者像(社会人としての 自分)の具体化につなぐ。	
準備学習(予習・復習) ・積極的なボランティア活動や子どもとの出会いの体験を広げておくことが 望ましい。また実習簿の記録の読み返しや反省を生かして、自分の不得 意分野に関する内容について整理したり克服方法等を考える。	
内 容 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な保育所や幼稚園と制度 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取り組みや保護者との関わり 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて (2回生との合同開催) 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな体験のために(その1) (ゲスト講師) 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな体験のために(その2) 第15回 素敵な保育者になるために⑦・これまでの振り返りとまとめ 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係(ゲスト講師) 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係 第9回 素敵な保育者になるために①・子どもが求める保育者とは？	
履修上の注意点 ・実技を通じた教材研究や保育所や幼稚園の現場の情報を直接知る場、学生自身で 企画する機会など、進級後を見通した実践的体験的な授業が中心となるので欠 席のないよう受講すること。	
教科書 幼稚園教育要領解説 著者： 文部科学省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN: 保育所保育指針解説書 著者： 厚生労働省 出版社： フレーベル館 出版年： 平成20年 ISBN:	
参考書 授業内で適宜紹介する。 著者： 出版社： 出版年： ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト ()	

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈初等〉

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 島田 尚夫

テーマ

自ら教職につくための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培う。

授業の到達目標

これからの教職を志すものは、今日の学校教育における具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を深める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状認識を深め実践的な課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え表出しようとする。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見ること。新聞などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 教育(学校)の役割
- 第2回 学校教育の役割
- 第3回 教師に求められる資質と能力
- 第4回 教員の役割・仕事・学習指導②
- 第5回 学習指導要領の特色②
- 第6回 教師の仕事と生徒指導①
- 第7回 教師の仕事と生徒指導②
- 第8回 現在の教育課題
- 第9回 学習指導要領の改訂②
- 第10回 学級と学校の運営②
- 第11回 生きる力と確かな学力
- 第12回 授業づくり② 指導案作成 国語科「はる」
- 第13回 全学年、全教科の指導内容とその概要①
- 第14回 全学年、全教科の指導内容とその概要②
- 第15回 目指す教師像

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）
授業中課題（70）
参加度（15）

小テスト（なし）
授業中発表等（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈中等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

授業の到達目標

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内 容

- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容等の取扱いに関する共通事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、外国語
- 第14回 総合的な学習の時間、特別活動
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅲ〈初等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 島田 尚夫

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価。

授業の到達目標

教育を目指す者に求められる専門的力量的中心課題は、児童生徒理解に基づく学級づくり・集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識・技術・能力・態度を身に付ける。

授業の概要

教育原理・教育心理・教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見て学ぶことや、一般の新聞記事などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、自らの生き方
- 第2回 今の学校の姿
- 第3回 教育課程の一般方針
- 第4回 様々な教育方法
- 第5回 論作文①
- 第6回 学習指導要領の改訂とその経過
- 第7回 学校教育改革
- 第8回 授業力を高める視点
- 第9回 指導案作成②
- 第10回 学校・学級経営
- 第11回 道徳教育
- 第12回 発達と障害の理論
- 第13回 特別支援教育
- 第14回 教育時事①
- 第15回 教職教養のポイント①

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅲ〈中等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

客観的論理と主体的な教育実践

授業の到達目標

中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。教職を目指す学生・院生は、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることである。

授業の概要

客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された教育実践についての表現力を身につける。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 教師論について
- 第3回 学習指導について①(確かな学力・学習意欲・学習習慣・探究的な学習の重視)
- 第4回 学習指導について②(学力向上・読書指導・言語活動の充実・体験活動の重視)
- 第5回 生徒指導について(生徒理解・自己肯定感・コミュニケーション能力)
- 第6回 生徒指導について(いじめ・教師と生徒の信頼関係・規範意識・社会性)
- 第7回 学級経営について
- 第8回 道徳指導について
- 第9回 人権教育について
- 第10回 進路指導について
- 第11回 キャリア教育について
- 第12回 地域や保護者の信頼について
- 第13回 家庭・地域の教育力について
- 第14回 安全教育について
- 第15回 体育・健康教育について

履修上の注意点

教科書

(中等)中学校学習指導要領本体

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

(中等)中学校学習指導要領解説総則編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総合的な成績評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅳ〈初等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 島田 尚夫

テーマ

「生きる力」を育む教育実践。

授業の到達目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解する。また、各教科の特性、及び、その系統性を理解し、指導の基礎・基本の力量を身に付ける。

授業の概要

「生きる力」をどのように育んでいくかを教育実践・授業づくりを通して理解する。その際、指導の根底にある学習指導要領、教育理論、教師の使命感、子どもたちの現状等の理解は、教育の重要な条件である。

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを見ておくことや、新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読むようにする。

内 容

- 第1回 教師の力量
- 第2回 学習指導要領について
- 第3回 特色のある教育活動
- 第4回 学校教育づくり
- 第5回 論作文②
- 第6回 学習指導について
- 第7回 学校教育目標・授業評価
- 第8回 指導案作成①
- 第9回 指導案作成③
- 第10回 生徒指導について①
- 第11回 生徒指導について②
- 第12回 特別活動
- 第13回 教師の望ましい姿
- 第14回 教育時事②
- 第15回 教職教養の重点

履修上の注意点

教科書

小学校指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）
授業中課題（70）
参加度（15）

小テスト（なし）
授業中発表等（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評価を行う。

2015 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅳ〈中等〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

教育サイクル(PDCA)の理解と「指導と評価の一体化」について

授業の到達目標

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の概要

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

準備学習(予習・復習)

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内 容

第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について

第2回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編①

第3回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編②

第4回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編③

第5回 授業づくりについて

第6回 授業づくりの必要事項について

第7回 学習指導計画案作成①

第8回 授業設計について

第9回 学習指導計画案作成②

第10回 授業中の大切なことについて

第11回 学習指導計画案作成③

第12回 授業の評価と授業の改善(指導と評価の一体化)

第13回 中教審(報告)から評価規準作成の参考資料

第14回 教育評価の基本的用語

第15回 目標に準拠した評価について

履修上の注意点

教科書

(中等)中・高等学校学習指導要領専門教科の解説編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2015 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

政治の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションとともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

準備学習(予習・復習)

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内 容

- 第1回 合同:オリエンテーション&公務員試験問題の体験
- 第2回 数の世界の不思議から文字へ
- 第3回 政治:国家とはなにか?—その思想と原則
- 第4回 文字式の計算を図で考えよう~展開、因数分解、平方完成、解の公式
- 第5回 政治:人権—原理と歴史
- 第6回 数の世界の拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第7回 政治:いろいろな政治制度
- 第8回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第9回 政治:日本国憲法
- 第10回 方程式の活用~一次・連立・二次方程式
- 第11回 政治:憲法と人権①
- 第12回 不等式とその活用
- 第13回 政治:憲法と人権②
- 第14回 比・比例・割合
- 第15回 政治:まとめ

履修上の注意点

教科書

授業毎にプリント配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

経済の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

準備学習(予習・復習)

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内 容

- 第1回 場合の数
- 第2回 経済:経済体制
- 第3回 順列・組み合わせ
- 第4回 経済:経済理論①
- 第5回 確率
- 第6回 経済:経済理論②
- 第7回 平面図形の基礎
- 第8回 経済:経済理論③
- 第9回 相似
- 第10回 経済:戦後の日本経済
- 第11回 図形の計量
- 第12回 経済:その分野別問題
- 第13回 空間図形
- 第14回 政治:まとめ
- 第15回 合同:まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究 I <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 豊福 千穂・柳本 周介

テーマ

正課授業と課外授業との連動による反復学習を実現し、就活実践力を養成する。

授業の到達目標

今後の就活実践力を養い、社会人として活躍するための基礎になる力を身に付け、抽象的な言葉を具体的にし、自分の特徴を表現する。

授業の概要

社会人に向けて、必要となる実践的なスキルや経験値を身に付けながら自己理解を深め各業界・企業について学習します。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 就職活動の現状～進め方・仕事とは？
- 第2回 業界企業の研究方法1
- 第3回 業界企業の研究方法2
- 第4回 業界企業の研究方法3
- 第5回 自己PR1 作成のための基本
- 第6回 自己PR2 実践
- 第7回 志望動機1 作成のための基本
- 第8回 志望動機2 実践
- 第9回 先入観・固定概念からの脱却～人事の視点
- 第10回 就活の常識・非常識～採用現場の本音
- 第11回 グループディスカッションのルール～実践
- 第12回 グループディスカッション実践
- 第13回 ブラッシュアップ
- 第14回 集団面接実践1
- 第15回 集団面接実践2

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年：

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

課外授業の参加状況を加味する。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅱ <Ga>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員 50
履修条件	クラス指定
担当者 今久保 幸生	
テーマ グローバル経済とグローバル企業の研究	
授業の到達目標 グローバル経済とグローバル企業の動向を把握させた上で、経済や企業のグローバル化のもとで不可欠となる、グループ活動のなかで個人が主体的・能動的に課題に取り組む力を身につけさせる。	
授業の概要 経済のグローバル化、グローバル企業の動向について講義で概観したあと、いくつかの調査研究グループを編成してグループ発表と討論を実施するとともに、グループワークによる特定課題に関する取り組みを行わせる。グローバル企業で活躍されているビジネスマンに、その豊かな経験を伺う機会も設けたい。	
準備学習(予習・復習) グループ発表の場合もグループワークの場合も、テーマに関する、専時事問題であれ経済や企業の根本問題であれ、グループ構成員全員がそれぞれ独自の解答を提示しよう、新聞、雑誌などあらゆる媒体が提示する情報にがむしゃらに取り組んで、問題感覚を研ぎ澄ましておくこと。これが必ず主体的な対応力を持つ自己形成に役立つからである。門書や業界新聞・専門誌・映像・インターネットなどで収集した多様な情報を、グループ学習や個人での分析を通じて、課題にとって有意義なかたちで再構成する作業を訓練することで、研究のまとめ方・発表の仕方などを習得する。	
内 容 第1回 授業の狙いや進め方のガイダンスとグループ編成など 第2回 経済のグローバル化1 第3回 経済のグローバル化2 第4回 経済のグローバル化3 第5回 グローバル企業の展開 第6回 グループ発表と討論1 第7回 グループ発表と討論2 第8回 グループ発表と討論3 第9回 グループ発表と討論4 第10回 グループワーク1 第11回 グループワーク2 第12回 グループワーク3 第13回 グループワーク4 第14回 グローバル企業の実務家による講義 第15回 グローバル企業への就職について(まとめ)	
履修上の注意点	
教科書 教科書は用いず、レジュメ等で講義する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 講義中に指示する場合がある。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (70%) 参加度 (30%)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅲ <Ga>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	宇都宮 麻美・吉田 斉	
テーマ	就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成	
授業の到達目標	就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。	
授業の概要	授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。	
準備学習(予習・復習)	授業で出した課題の提出	
内 容	<p>第1回 ガイダンス・プレテスト</p> <p>第2回 言語分野① 語彙・読解総合演習Ⅰ</p> <p>第3回 言語分野② 語彙・読解総合演習Ⅱ</p> <p>第4回 言語分野③ 文章力養成 発展編Ⅰ</p> <p>第5回 言語分野④ 文章力養成 発展編Ⅱ</p> <p>第6回 言語分野⑤ 文章力養成 発展編Ⅲ</p> <p>第7回 非言語分野① SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅰ</p> <p>第8回 非言語分野② SPI重要単元発展編 計算・計数Ⅱ</p> <p>第9回 非言語分野③ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅰ</p> <p>第10回 非言語分野④ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅱ</p> <p>第11回 非言語分野⑤ SPI重要単元発展編 数的推理・論証Ⅲ</p> <p>第12回 非言語分野⑥ SPI以外の筆記試験対策Ⅰ</p> <p>第13回 非言語分野⑦ SPI以外の筆記試験対策Ⅱ</p> <p>第14回 非言語分野⑧ SPI以外の筆記試験対策Ⅲ</p> <p>第15回 非言語分野⑨ SPI以外の筆記試験対策Ⅳ</p>	
履修上の注意点		
教科書	<p>イングオリジナルテキスト</p> <p>著者：株式会社イング</p> <p>出版社：株式会社イング</p> <p>出版年：2013年</p> <p>ISBN:</p>	
参考書		
成績評価	<p>試験 (40) 小テスト (20)</p> <p>授業中課題 (40) 授業中発表等 ()</p> <p>参加度 ()</p> <p>授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。</p>	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅳ <Ga>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 宇都宮 麻美・吉田 斉

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習(予習・復習)

授業で出した課題の提出

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第3回 言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第4回 言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第5回 言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第6回 言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第7回 非言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第8回 非言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第9回 非言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第10回 非言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第11回 非言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第12回 非言語分野⑥ SPI 模試式実践演習Ⅲ
- 第13回 非言語分野⑦ SPI以外 模試式実践演習Ⅰ
- 第14回 非言語分野⑧ SPI以外 模試式実践演習Ⅱ
- 第15回 非言語分野⑨ SPI以外 模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅴ <a>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	山脇 康彦	
テーマ	卒業後の自分に最適な進路への手がかりをつかむ	
授業の到達目標	就職活動をするにあたり、公開されている企業情報やデータについて、その見方、読み方、分析の仕方などを習得する。一方で、起業という道もあり、それに必要な知識、考え方を習得する。	
授業の概要	講義を中心に、適宜、演習を交えて進める	
準備学習(予習・復習)	日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく	
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 ビジネス環境を知る 第3回 良い会社とは 第4回 会社情報の見方①(HPから読み取ること) 第5回 会社情報の見方②(四季報等で競合比較) 第6回 業界による収益構造の特徴 第7回 業界(メーカー)ニュースと注目企業① 第8回 業界(流通)ニュースと注目企業② 第9回 業界(サービス)ニュースと注目企業③ 第10回 起業することを考えてみる 第11回 事業構想を練る 第12回 マーケティング戦略を考える 第13回 事業経済性を考える 第14回 ビジネスプランの概要をまとめる 第15回 まとめ(総括)	
履修上の注意点		
教科書	使用しません	
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書	日本の優良企業パーフェクトガイドブック2016年度版	
著者:	日経HR	
出版社:	日本経済新聞出版社	
出版年:	ISBN:	9784532691967
成績評価	試験 () 小テスト ()	
	授業中課題 (60%) 授業中発表等 ()	
	参加度 (40%)	

2015 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究VI**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 50

履修条件

クラス指定

担当者 武野 辰雄

テーマ

主に公務員試験の学習方法や公務員試験問題へのアプローチを通じて、公務員試験全般に対する理解を深める。

授業の到達目標

公務員試験の概要を理解。公務員試験の主要科目(数的処理・社会科学)への理解を深める。

授業の概要

公務員の採用方法・公務員試験対策の進め方を講義。基本的な出題パターンについて、解法パターンを習得する。

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、復習は各自必須

内 容

- 第1回 公務員試験の全体像
- 第2回 数的処理(判断推理)・社会科学(政治)
- 第3回 数的処理(判断推理)・社会科学(政治)
- 第4回 数的処理(判断推理)・社会科学(政治)
- 第5回 数的処理(判断推理)・社会科学(政治)
- 第6回 数的処理(数的推理)・社会科学(法律)
- 第7回 数的処理(数的推理)・社会科学(法律)
- 第8回 数的処理(数的推理)・社会科学(法律)
- 第9回 数的処理(数的推理)・社会科学(法律)
- 第10回 数的処理(数的推理)・社会科学(経済)
- 第11回 数的処理(図形)・社会科学(経済)
- 第12回 数的処理(図形)・社会科学(経済)
- 第13回 数的処理(資料解釈)・社会科学(経済)
- 第14回 数的処理・社会科学全体のまとめ
- 第15回 小テスト

履修上の注意点

公務員試験に関心のある方は、積極的に履修してください。講師作成プリントを使用して講義を行います。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 教職入門

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大平 勲・八木 英二	
テーマ 先生になりたい！なるぞ！なれるかな？	
授業の到達目標 教職の意義や教員の仕事・役割を知ること。厳しい教育現実の問題点も冷静に受け止め、自己の資質・能力を鑑みて、教職への高い志を育む。	
授業の概要 出きるだけ教師の仕事の多彩さを具体例によって示しながら、適宜学生相互の討論を行う。また学校の具体状況を知るためにビデオ視聴などもとり入れる	
準備学習(予習・復習) 課題レポートを丁寧に書き、掲載された「講座通信」を熟読し受講生の意見への共感や反論を考察する。教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。	
内 容 第1回 講義のイントロダクション。「教職入門」の目的、意義等について。 第2回 教育とは何か(1) 教育基本法など 第3回 教育とは何か(2) 可能性の伸長、自己実現、人格の完成 第4回 教職の特殊性 三つの教師像 第5回 教員の仕事(1) 教科指導、総合的学習の時間、評価など 第6回 教員の仕事(2) 生徒指導、生活指導など 第7回 教員の仕事(3) 特別活動(学級経営他)、教育課程の編成など 第8回 先生の一日 第9回 教員の身分・服務・研修 第10回 今、教育現場では？(1) 教育思潮、ゆとり教育の是非など 第11回 今、教育現場では？(2) 教育の諸問題、いじめ・不登校、モンスターペアレンツなど 第12回 教師の資質・能力(1) 教師にはどんな資質能力が必要か？ 第13回 教師の資質・能力(2) 文部科学省が求めるものは？ 第14回 教師の力量形成とまとめ : 修養・研修・同僚性 第15回 先生への道、教員採用試験と初任者研修について 第16回 試験	
履修上の注意点	
教科書 特になし(講義冊子15回分を配布) 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 子ども主人公の学校づくり 著者: 大平勲 出版社: 知書之屋本舗 出版年: 2005 ISBN: 風雨強けれど光り輝く 著者: 大平勲他 出版社: つむぎ出版 出版年: 2011 ISBN:	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10) 参加度 (10)	

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右する。

2015 Syllabus

科目名 教育心理学 <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当て、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内 容

- 第1回 発達とは何か
- 第2回 発達段階と発達課題
- 第3回 学習のメカニズム
- 第4回 記憶のメカニズム
- 第5回 学習への動機づけと学力形成
- 第6回 授業の心理学
- 第7回 学習指導と評価
- 第8回 欲求不満とその解消
- 第9回 個人差の理解・その1(知的能力)
- 第10回 個人差の理解・その2(性格)
- 第11回 学級の心理学
- 第12回 不適応とカウンセリング
- 第13回 発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害)
- 第14回 発達障害・その2(学習障害とADHD)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教育心理学では、基礎的な概念や基本的な知識が数多く出てきます。これらの基礎的な概念をよく理解するとともに、基本的な知識を整理して覚えて下さい。

教科書

たのしく学べる 最新教育心理学

著者: 桜井茂男(編)

出版社: 図書文化

出版年: 2004年

ISBN: 9784810034196

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育心理学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 憲治

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内 容

- 第1回 発達とは何か
- 第2回 発達段階と発達課題
- 第3回 学習のメカニズム
- 第4回 記憶のメカニズム
- 第5回 学習への動機づけと学力形成
- 第6回 授業の心理学
- 第7回 学習指導と評価
- 第8回 欲求不満とその解消
- 第9回 個人差の理解・その1(知的能力)
- 第10回 個人差の理解・その2(性格)
- 第11回 学級の心理学
- 第12回 不応とカウンセリング
- 第13回 発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害)
- 第14回 発達障害・その2(学習障害とADHD)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教育心理学では、基礎的な概念や基本的な知識が数多く出てきます。これらの基礎的な概念をよく理解するとともに、基本的な知識を整理して覚えて下さい。

教科書

たのしく学べる 最新教育心理学

著者: 桜井茂男(編)

出版社: 図書文化

出版年: 2004年

ISBN: 9784810034196

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 教育原論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 八木 英二	
テーマ 教育の基本問題と教育改革	
授業の到達目標 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。	
授業の概要 教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。	
準備学習(予習・復習) 様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。	
内 容 第8回 教育階梯(接続問題の現状と課題) 第9回 生活指導実践の意義(いじめその他の教育病理に対応する生活指導の原理) 第10回 様々な教育方法(教育内容・教材・教具の工夫と実践指導) 第11回 教科指導の意義(教科間領域や科目毎の指導と評価の意義) 第12回 進路指導(学校から仕事への移行の重要性) 第13回 教育専門職論(教師専門職としての職務内容や役割) 第14回 教育改革動向(現代の教育改革と学力問題) 第15回 父母との関係(学校教育と家庭教育の違いと関連) 第1回 教育の理念(教育とは何か、なぜ私たちは学ぶのか) 第2回 教育の歴史(明治の教育改革と近代学校の成立、戦後の教育改革) 第3回 教育の思想(公教育の成立と教育思想の発展) 第4回 学習指導要領について(何をどのように教えるか、教育課程の編成原理) 第5回 学校制度・施設のあり方(新旧教育基本法と学校制度システム) 第6回 教育の公共性(公共性の創造と人格形成) 第7回 発達と教育(発達と教育の区別と連関)	
履修上の注意点	
教科書 教師の役割変化を問う 著者: 八木英二 出版社: 三学出版 出版年: 2013 ISBN:	
参考書 新・教育学(第2版) 著者: 南新・佐々木・吉岡の共編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN:	
成績評価 試験 (40) 小テスト () 授業中課題 (20) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 最終時間に試験を課する。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 教育原論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐々木 英一	
テーマ 教育の基本問題と教育改革	
授業の到達目標 そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。	
授業の概要 教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。	
準備学習(予習・復習) 日頃の新聞、TVなどにおける教育問題に関心をもって接しておくこと。また、教育に関して自己の見解を持つよう努めること。	
内 容 第1回 教育の理念(教育とは何か、なぜ私たちは学ぶのか) 第2回 教育の歴史(明治の教育改革と近代学校の成立、戦後の教育改革) 第3回 教育の思想(公教育の成立と教育思想の発展) 第4回 学習指導要領について(何をどのように教えるか、教育課程の編成原理) 第5回 学校制度・施設のあり方(新旧教育基本法と学校制度システム) 第6回 教育の公共性(公共性の創造と人格形成) 第7回 発達と教育(発達と教育の区別と連関) 第8回 教育階梯(接続問題の現状と課題) 第9回 生活指導実践の意義(いじめその他の教育病理に対応する生活指導の原理) 第10回 様々な教育方法(教育内容・教材・教具の工夫と実践指導) 第11回 教科指導の意義(教科間領域や科目毎の指導と評価の意義) 第12回 進路指導(学校から仕事への移行の重要性) 第13回 教育専門職論(教師専門職としての職務内容や役割) 第14回 教育改革動向(現代の教育改革と学力問題) 第15回 父母との関係(学校教育と家庭教育の違いと関連)	
履修上の注意点 3分の2以上出席すること。積極的に自己の意見を述べること。	
教科書 未定 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 新・教育学(第2版) 著者: 南新・佐々木・吉岡の共編著 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (30) 授業中発表等 (50) 参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 夏期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 岩本 賢治・碓井 敏正	
テーマ 学校教育における道徳教育の可能性	
授業の到達目標 押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。	
授業の概要 道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。	
準備学習(予習・復習) 時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。	
内 容 第1回 道徳とは何か 第2回 中学生期の発達の特徴 第3回 道徳教育の歴史(明治～大正) 第4回 道徳教育の歴史(戦後) 第5回 全面主義と特設主義 第6回 他の教科と道徳教育の関連 第7回 道徳教育と特別活動 第8回 道徳教育と総合学習 第9回 道徳の内容の理解 第10回 家庭、地域と道徳教育 第11回 道徳の時間の年間計画 第12回 道徳の時間の教材研究 第13回 道徳の時間の指導案づくり 第14回 道徳教育の実践と評価の方法 第15回 まとめ	
履修上の注意点	
教科書 中学校指導書・道徳編 (必ず購入すること) 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 中学校修指導要領 著者: 出版社: 出版年: ISBN: その他はその都度指示する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 (70) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (30) 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 教育制度論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 篠原 岳司	
テーマ	
現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。	
授業の到達目標	
現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。	
授業の概要	
現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。	
準備学習(予習・復習)	
講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめることが望ましい。	
内 容	
第1回	オリエンテーション
第2回	I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項
第3回	同上 ②教育基本法の制定と改正
第4回	同上 ③国際教育法
第5回	II 学校制度 ①初等・中等教育制度
第6回	同上 ②就学奨励制度
第7回	同上 ③教科書制度
第8回	同上 ④学校の組織運営
第9回	III 教育行政制度 ①中央教育行政組織
第10回	同上 ②教育委員会制度の創設
第11回	同上 ③教育委員会制度の展開
第12回	IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度
第13回	同上 ②教員採用制度
第14回	同上 ③教員研修制度
第15回	同上 ④教員評価制度
履修上の注意点	
教科書	
教育委員会改革 5つのポイント「地方教育行政法」のどこが変わったのか	
著者： 村上祐介	
出版社： 学事出版	
出版年： 2014年	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 (50)	小テスト ()
授業中課題 (30)	授業中発表等 ()
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 教育課程論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 木村 裕	
テーマ 教育課程の構造と教育実践	
授業の到達目標 教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。	
授業の概要 1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。	
準備学習(予習・復習) * 講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。	
内 容 第1回 教育課程の構造と意味 第2回 内申書、通知票について 第3回 観点別評価の意味 第4回 目標と評価のあり方 第5回 教育実践評価と授業公開(中等) 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(中等) 第7回 教科書の採択システム 第8回 教科書づくり 第9回 教科と教科外の教育方法(中等) 第10回 総合学習について(中等) 第11回 身体と教育課程(中等) 第12回 教育課程と授業づくり(中等) 第13回 思春期の教育階梯 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について 第15回 授業のまとめ	
履修上の注意点	
教科書 教育学の探究—教師の専門的思索のために 著者: 佐藤博志他 出版社: 川島書店 出版年: 2013 ISBN:	
参考書 よくわかる教育課程 著者: 田中耕治編 出版社: ミネルヴァ書房 出版年: 2009 ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (60) 授業中発表等 (20) 参加度 (20) 講義中に指示する数回のレポートやワークシート、プレゼンテーションを中心に、授業態度や授業への参加度を加味して、総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 特別活動論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。	
授業の到達目標 特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。	
授業の概要 特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。	
準備学習(予習・復習) 母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらおうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。	
内 容 第1回 特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。 第2回 学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き(ゲーム、why-becausegame、流れ)、学級収め、どう言い返すのワーク(データ収集)、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード 第3回 学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導 第4回 その他 学芸行事/体育大会/学年行事/学校行事/儀式など 担任の仕事 第5回 課題作成 遠足指導の実践計画 遠足指導の実践計画を作成する。 第6回 遠足指導の実践計画を作成する。(アイデア出し) 第7回 遠足指導の実践計画を作成する。(実地調査) 第8回 遠足指導の実践計画を作成する。(まとめ) 第9回 課題回収 お礼状の書き方指導 第10回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(理論) 第11回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(実践) 第12回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(質疑応答) 第13回 特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。 第14回 特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。 第15回 まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。	
履修上の注意点	
教科書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 学習指導要領 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 () 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 教育方法論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ ＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む	
授業の到達目標 教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。	
授業の概要 80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。	
準備学習(予習・復習) 自分の追求する免許教科の学習指導要領を手元に置き、熟読すると共に、授業において常に参照できるようにしておくこと。	
内 容 第1回 「あの坂の名は？」:社会科における発信型の授業と学力とは何か？ 第2回 「見たこと作文」:子どもが＜動く＞授業の条件とは？ 第3回 「木の葉の駅で」:発問の構造 第4回 「発電所はどこにあるか？」:教授行為とは何か？ 第5回 授業づくりのカテゴリとしての＜指示・発問・説明・応答・調整＞ 第6回 「お化け屋敷で算数を」:子どもたちの理解の構造をさぐる 第7回 「絵を描くのは苦手です」:教育内容と方法の開発論理 第8回 「声を育てる音楽の授業」:＜雰囲気の良い授業＞の構造は？ 第9回 「世界とつながる、深く調べる」:コンピュータとインターネットでできること 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」:言語技術としての＜分析ツールを教える＞国語の授業 第11回 「琵琶湖で学ぶ」:総合学習とは何か？ 第12回 授業づくりの記号論的構造:＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞ 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」:授業の機能とITの活用 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」:イメージをそだてる授業の構造 第15回 まとめ	
履修上の注意点 単位認定には3分の2以上の出席が前提となる。実習などで欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 特になし 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト (50) 授業中課題 (50) 授業中発表等 () 参加度 ()	

2015 Syllabus

科目名 教育相談

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 三山 岳

テーマ

人間理解とカウンセリングマインド

授業の到達目標

多様な心の病いを知ること。教育相談関係の初歩的理論と技法を身につけること。学校現場でカウンセリングマインドの活用を図る基礎力をつけること。

授業の概要

講義を主に、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、エクササイズ体験、ビデオ視聴などを適宜入れながら進めるので、時間配分の変更もありうる。

準備学習(予習・復習)

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス。教育相談の意義：“今なぜ教育相談か？”
 第2回 教育相談とカウンセリング：学校での位置づけとその機能、限界。
 第3回 教育相談の歩み：教育相談誕生の背景。
 第4回 現場の事例を考える(1)：不登校、いじめ
 第5回 現場の事例を考える(2)：対人恐怖、神経症など。
 第6回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイトなど)
 第7回 “ (2)自己理論(ロジャーズなど)
 第8回 “ (3)行動理論、論理療法
 第9回 “ (4)交流分析その他
 第10回 ストレスマネジメント
 第11回 カウンセリングマインドの活用(1)人間理解と関係づくりのエクササイズ
 第12回 “ (2)構成的グループエンカウンター
 第13回 自尊感情を高める：「例外」「リソース」を見つける。
 第14回 望ましいコミュニケーションづくりのために
 第15回 復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特になし(講義冊子15回分を配布)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

「学習指導要領」

著者：

出版社：文部科学省

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

2015 Syllabus

科目名 英語科教育法 I

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可 クラス指定

担当者 中井 弘一

テーマ

授業業作りのABC

授業の到達目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の概要

模擬授業を積極的に行い、授業づくりに必要な基礎的技術を身につけていく。ほとんどの授業で発表・模擬授業がある。この授業はプロフェッショナルへの第1歩である。受講者は甘えず、真摯に課題に取り組み、積極的に授業に参加することが求められる。

準備学習(予習・復習)

学生の発表形式で行う。担当する内容はパワーポイントで発表できるようにすること。

内 容

- 第1回 イントロダクション 英語を学ぶとはどのような体験か。
 第2回 英語教師のレベルに達する学習の仕方の紹介、発音練習(リズムチャンツ)
 第3回 「教材研究とは」説明と体験。発音練習(リズムチャンツ2)
 第4回 英語授業の構造。教案の書き方。発音練習(リズムチャンツ3)
 第5回 「文法の導入とは」場面づくりの方法。発音練習(破裂音1)
 第6回 模擬授業1(前置詞、疑問詞)「内容の導入とは」Oral Introduction の方法発音練習(破裂音2)
 第7回 模擬授業2(助動詞、中3題材内容) Oral interaction の方法発音練習(破裂音3)
 第8回 模擬授業3(不定詞、中2題材内容)先輩の授業から学ぶ発音練習(摩擦音1)
 第9回 模擬授業4(現在完了、中1題材内容)単語の提示の仕方発音練習(摩擦音2)
 第10回 模擬授業5(比較、高校題材内容)場面転換の方法 発音練習(摩擦音)
 第11回 模擬授業6(受動態、中3題材内容)指示・発問の大切さ 発音練習(鼻音)
 第12回 模擬授業を通じて、授業の進め方の基礎となる技術を習得する。(種々の言語活動)発音練習(側音)
 第13回 模擬授業8(関係代名詞、高校題材内容)生徒への関与、人間関係づくり発音練習(半母音)
 第14回 学習指導案の書き方 ビデオによる反省 今までの授業と自分の学びを省察。
 第15回 まとめ

履修上の注意点

模擬授業を多く取り入れる。次年度の教育実習への準備として本番のつもりで行うこと

教科書

現代英語教授法総覧

著者： 田崎清忠 編

出版社： 大修館書店

出版年： 1995

ISBN:

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)

著者:

出版社： 三省堂書店

出版年： 2014

ISBN:

参考書

中学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文科省

出版社： 開隆堂出版社

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 英語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 中井 弘一	
テーマ 授業づくりのABC, 授業者としての感覚づくり、理論と実践の橋渡し。	
授業の到達目標 英語教師として最低限必要な英語力をつける。50分の授業を計画でき、実際に行うことができるようになる。「英語教授のための原理・原則」を学び、実際の授業への応用を考えることができるようになる。	
授業の概要 英語科教育法Iの達成の上に、教授技術のさらなる体得を目指す。導入や展開のみならず、50分の授業づくりを体験する。4技能に特有な教授技術を学び、総合的なプロジェクト・ワークを体験する。	
準備学習(予習・復習) 英語科教育法Ⅰと同じで発表形式で行う	
内 容 第1回 再イントロダクション 発音練習(子音総復習) 第2回 英語授業の構造～導入から説明・音読へ～ 50分授業の組み立て方種々の音読法 発音練習(短母音1) 第3回 グループによる50分模擬授業(1) 理論と実践「第2言語習得理論と教授法」 第4回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「コミュニケーション能力とは」発音練習(短母音2) 第5回 グループによる50分模擬授業(2) 理論と実践「語彙習得論」 第6回 グループによる模擬授業と授業検討会 第7回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「自動性の獲得」発音練習(短母音3) 第8回 グループによる50分模擬授業(3) 理論と実践「有意味学習」 第9回 ビデオによる授業検討会 理論と実践「報酬と罰～外発的動機づけ」発音練習(二重母音) 第10回 グループによる50分模擬授業(4) 理論と実践「内発的動機づけ」 第11回 Reading 活動と授業づくり。理論と実践「学習方略」発音練習(音の変化1) 第12回 Listening 活動と授業づくり。理論と実践「言語自我と自信」発音練習(音の変化2) 第13回 Writing 活動と授業づくり。理論と実践「言語と文化」発音練習(総合練習1) 第14回 Speaking 活動と授業づくり。理論と実践「中間言語」発音練習(総合練習2) 第15回 Project Work 活動と授業づくり。まとめ。	
履修上の注意点 次年度の教育実習にむけてしっかり学ぶこと	
教科書 新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践 著者: 三浦省吾・深沢清治編著 出版社: ミネルバ書房 出版年: 2009 ISBN: 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (40) 授業中発表等 (30) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 英語科教育法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	
テーマ 授業業作りのABC	
授業の到達目標 授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。	
授業の概要 国内・国外における英語教育の現状を紹介し、個々の授業においてどのように活かしていけるかを考察し、実現できるよう工夫していく。	
準備学習(予習・復習) なるべく多くの英文を読むこと。多読が英語学力の基礎である。	
内 容 第1回 これからの英語教育 第2回 異文化コミュニケーションとは？ 第3回 異文化理解のための教育とは？(日本における異文化理解の歴史から学ぶ) 第4回 異文化理解のための教育とは？(諸外国の事例に学ぶ) 第5回 リーディングの指導における異文化理解の指導 第6回 実践・模擬授業(リーディングを中心としたコミュニケーション) 第7回 ライティングの指導における異文化理解の指導 第8回 実践・模擬授業(ライティングを中心としたコミュニケーション) 第9回 スピーキングとリスニングの指導における異文化理解の指導 第10回 実践・模擬授業(スピーキングを中心としたコミュニケーション) 第11回 海外におけるESL教育における文化理解指導(アメリカ合衆国、カナダの事例) 第12回 海外におけるESL教育における文化理解指導(オーストラリア、ニュージーランドの事例) 第13回 異文化への態度変容と外国語学習 第14回 実践・模擬授業(第11回目、12回で学んだ海外の事例をもとにして) 第15回 まとめ	
履修上の注意点 毎回、授業に必要な学習用具をきちんと持参すること。筆記具や辞書、参考書以外の持参物は授業時に指示する。なお、授業は、当然、定刻に始めるので遅刻をしないこと。	
教科書 英語科教育法Ⅰ・Ⅱと共通 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価 試験 (60) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 (40) 参加度 () 授業中発表等には授業中の課題も含む。	

2015 Syllabus

科目名 国語科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ	
国語科授業の基本的な指導法に触れる	
授業の到達目標	
学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。	
授業の概要	
それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。	
準備学習(予習・復習)	
「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。	
内 容	
第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス。学習指導要領では？ どんな力をつける教科なの？ 国語科教育の歴史 学習権宣言	
第2回 国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。	
第3回 メモ指導。聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。	
第4回 漢字指導 1. 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント	
第5回 漢字指導 2. 自作漢字学習教材の相互評価 四字熟語でポン たほいや 簡単な学習ゲーム論。	
第6回 読書指導 1. 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション。	
第7回 読書指導 2. 「書き込み回覧作文」による評価 和綴じ本づくり。	
第8回 作文指導 1. 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。	
第9回 作文指導 2. アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。	
第10回 作文指導 3. 「書き込み回覧作文」による評価 テスト問題のつくり方。	
第11回 小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。	
第12回 音読／プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。	
第13回 句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。	
第14回 小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。	
第15回 国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。	

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年： ISBN:

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年： ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者： 中原國明・大熊徹編

出版社： 教育出版

出版年： ISBN:

国語科資料総覧

著者： 吉野教育図書編集部

出版社： 吉野教育図書

出版年： ISBN:

発問の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN:

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年： ISBN:

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN:

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年： ISBN:

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年： ISBN:

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN:

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年： ISBN:

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年： ISBN:

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	
テーマ 実技教科としての国語科のあり方を探る	
授業の到達目標 教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。	
授業の概要 それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。	
準備学習(予習・復習) 「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。	
内 容	
第1回 国語科と教材作り 授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。発問とは何か？	
第2回 国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。	
第3回 学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。	
第4回 ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる スピーチテスト。	
第5回 指導案の書き方 1. 授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。	
第6回 指導案の書き方 2. 指導案の相互評価。	
第7回 定番教材の指導 韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第8回 定番教材の指導 散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第9回 定番教材の指導 古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。	
第10回 作成教材の検討 1. 定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。	
第11回 国語教育の現在 1. メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。	
第12回 国語教育の現在 2. コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテリング、読書感想文など。	
第13回 作成教材の検討 2. 第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。	
第14回 模擬授業 1 5分程度の模擬授業を全員が行う。	
第15回 模擬授業 2 5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。	

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

教師のための「教える技術」

著者： 向後千春

出版社： 明治図書

出版年：

ISBN:

白石範孝の国語授業の教科書

著者： 白石範孝

出版社： 東洋館出版

出版年：

ISBN:

授業づくりエンターテイメント

著者： 藤川大祐

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年：

ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年：

ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（10）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（30）

グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。

2015 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅲ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 夏期集中

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 渡邊 久暢

テーマ

中等国語科教育の実践的な学習指導の研究

授業の到達目標

中学校・高等学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

・教育実習で指導内容を考え、授業が行えるように中学校、高等学校の教材分析や学習指導案(略案)作成を課題として課す。
・幅広い知識と教養を身につけるために新聞スクラップの課題を課す。

内 容

第1回 オリエンテーション

第2回 中学校・高等学校国語科教育の目標と内容—平成20年版学習指導要領から—

第3回 学習指導案作成のポイントと評価の仕方

第4回 文学的文章の学習指導(1)

第5回 文学的文章の学習指導(2)

第6回 説明的文章の学習指導(1)

第7回 説明的文章の学習指導(2)

第8回 古典の学習指導(1)

第9回 書くことの学習指導(1)

第10回 書くことの学習指導(2)

第11回 話すこと・聞くことの学習指導

第12回 文学的文章の学習指導(3)模擬授業

第13回 説明的文章の学習指導(3)模擬授業

第14回 古典の学習指導(2)模擬授業

第15回 文法の学習指導

履修上の注意点

教科書

教室における読みのカリキュラム設計

著者: 八田幸恵

出版社: 日本標準

出版年: 2015

ISBN: 9784820805878

今求められる学力と学びとは コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影

著者: 石井英真

出版社: 日本標準

出版年: 2015

ISBN: 9784820805823

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 社会科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 田中 曜次	
<p>テーマ</p> <p>まず、「社会科は暗記するだけ」という考え方を捨てましょう。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを探ることがこの授業のテーマです。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためには何が必要か考えていきます。</p>	
<p>授業の到達目標</p> <p>中学校社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現できる。このためには、「社会科の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。</p>	
<p>授業の概要</p> <p>前半は講義を中心に、社会科について概略を学ぶ。その際、これまでに議論されていることや、現在も課題とされていることなどについて話し合いたい。後半は設定した課題に取り組む形で、発表や互いに交流する機会を持ちたい。</p>	
<p>準備学習(予習・復習)</p> <p>高等学校の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。社会科の内容は時事問題も含まれるので、新聞やTVでニュースに注意する。また、授業で扱った社会事家や社会問題を復習する。このようなことを、毎日1時間程度行う。</p>	
<p>内 容</p> <p>第1回 授業の進め方 第2回 社会科について 成立から現在まで 経験主義と系統主義 ゆとりと学力低下 第3回 社会科で育てる資質・能力、学力とは？ 公民的資質と社会認識「理解する」と「覚える」 第4回 社会科と評価 相対評価と絶対評価 観点別学習状況 第5回 国際学力調査を踏まえたこれからの社会科の課題 第6回 中学校社会科の単元計画と授業(地域学習を手がかりに) 第7回 中学校社会科の3つの分野と単元構成 第8回 発表「私の住んでいる地域のようす」 第9回 地理的分野の目標・内容 ① 世界の様々な地域 第10回 地理的分野の目標・内容 ② 日本の様々な地域 第11回 歴史的分野の目標・内容 ① 歴史のとらえ方～中世の日本 第12回 歴史的分野の目標・内容 ② 近世の日本～現代の日本と世界 第13回 公民的分野の目標・内容 ① 私たちと現代社会、私たちと経済 第14回 公民的分野の目標・内容 ② 私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題 第15回 授業のまとめ 模擬授業の作り方</p>	
<p>履修上の注意点</p>	
<p>教科書</p> <p>中学校学習指導要領解説社会編 著者： 文部科学省 出版社： 日本文教出版 出版年： 2008年9月 ISBN:</p> <p>参考書</p> <p>中学校学修指導要領 著者： 出版社： 出版年： ISBN:</p>	
<p>成績評価</p> <p>試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 (50) 参加度 ()</p> <p>授業中課題 各授業の最後に確認テストを行います。授業中発表等 第8回と第15回の授業で発表があります。発表する課題については最初の時間に説明します。この2つの課題が中心です。</p>	

2015 Syllabus

科目名 社会科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 木全 清博	
テーマ	
中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析及授業づくりを通じて基本的な理解を深める。	
授業の到達目標	
1 中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくりの視点と方法を学ぶ。2 中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。	
授業の概要	
中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	戦後の中等社会科のあゆみ(1)ー公民教育構想と初期社会科の誕生、問題解決学習と初期社会科実践、初期社会科教科書の内容
第2回	戦後の中等社会科のあゆみ(2)ー1955年版学習指導要領から1977年版学習指導要領まで、系統学習と歴史・地理学習、民間社会科(歴教協と教科研)の実践、生産労働実践と系統的歴史・地理学習、中等社会科カリキュラムと高校の現代社会
第3回	戦後の中等社会科のあゆみ(3)ー1989年版学習指導要領と社会科解体、生活科と高校の地歴科・公民科、1998年版学習指導要領と総合的学習の開始、社会科の総合性と総合学習論
第4回	戦後社会科教育史から学ぶー社会科における問題解決学習と系統学習、課題探究型社会科学学習、総合型の人権学習、平和教育と環境教育
第5回	民間社会科実践史から学ぶ(1)中学校社会科の授業づくりと学力ー安井俊夫の戦争学習実践
第6回	民間社会科実践史から学ぶ(2)中学校歴史学習ー安井俊夫『子どもと学ぶ歴史の授業』から『子どもが動く社会科』へ、発言を引き出す授業
第7回	民間社会科実践史から学ぶ(3)高校日本史の授業づくりと学力ー加藤公明実践、「近世アイヌの実像に迫る」実践、『考える日本史』ー討論型日本史学習、加藤の授業ビデオ視聴
第8回	日本とアメリカの歴史教育の比較ー渡邊雅子論文、高校世界史学習ー難波達興のアメリカ史実践
第9回	社会科教材づくりの視点と方法(1)教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析、安井俊夫の授業づくり論
第10回	社会科教材づくりの視点と方法(2)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、授業構想と教材研究
第11回	社会科教材づくりの視点と方法(3)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案づくり
第12回	社会科教材づくりの視点と方法(4)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第13回	社会科教材づくりの視点と方法(5)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第14回	社会科教材づくりの視点と方法(6)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第15回	中等社会科の歴史と実践のまとめ
履修上の注意点	
教科書	
学力と教育課程の創造	
著者: 前田健次他編	
出版社: 同時代社	
出版年: 2013	ISBN:
参考書	
中学校学習指導要領	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
新しい中等社会科へのいざない	
著者: 臼井嘉一・木全清博他編	
出版社: 地歴社	
出版年: 1993	ISBN:
成績評価	

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 ()

小テスト (30)
授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 **社会科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 田中 曜次	
テーマ	
模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。	
授業の到達目標	
教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。	
授業の概要	
小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。	
準備学習(予習・復習)	
社会科の授業の教材や教具として利用できないかを考えるという視点をもつ。小中学生でもわかるような話し方を意識する。各授業での発表について、内容や方法を互いに検討し、感想や意見を交換する。	
内 容	
第1回	授業の目標と進め方について
第2回	授業づくりと教材研究の方法 ① 学習指導要領と教科書
第3回	授業づくりと教材研究の方法 ② 教材と教具 発問と指示
第4回	地理的分野の授業分析
第5回	歴史的分野の授業分析
第6回	公民的分野の授業分析
第7回	模擬授業と講評、相互評価 ①地理的分野 第1グループ
第8回	模擬授業と講評、相互評価 ②地理的分野 第2グループ
第9回	模擬授業と講評、相互評価 ③地理的分野 第3グループ
第10回	模擬授業と講評、相互評価 ④歴史的分野 第4グループ
第11回	模擬授業と講評、相互評価 ⑤歴史的分野 第5グループ
第12回	模擬授業と講評、相互評価 ⑥歴史的分野 第6グループ
第13回	模擬授業と講評、相互評価 ⑦公民的分野 第7グループ
第14回	模擬授業と講評、相互評価 ⑧公民的分野 第8グループ
第15回	まとめ 模擬授業の振り返りと自己評価
履修上の注意点	
教科書	
中学校学習指導要領解説 社会編	
著者： 文部科学省	
出版社： 日本文教出版	
出版年： 2008年9月	ISBN:
参考書	
中学校学習指導要領	
著者：	
出版社：	
出版年：	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (50)	授業中発表等 (50)
参加度 ()	
模擬授業の準備、実践、振り返りを通して、積極的に協力して行ってほしい。模擬授業は「学習指導案」の形で最後に提出する。	

2015 Syllabus

科目名 **社会科教育法Ⅳ**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 未定	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 岩本 賢治・倉持 祐二	
テーマ 地理教育の内容理解と授業づくり	
授業の到達目標 中等社会科の地理分野を中心に、中学校学習指導要領(地理的分野の目標、内容)、中学校の地理的分野の教科書構成を検討し、生徒の興味・関心を引き出しながら、地理的な見方や考え方を培うための地理的分野の教材開発と授業づくりの方法を学ぶ。	
授業の概要 系統地理分野から地形図学習、地図学習、世界と日本の地形、環境問題、エネルギー問題を取り上げ教材構成と授業手法の検討を行う。地誌の分野では、世界の諸地域からアフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカを取り上げ、グループで模擬授業を行い、授業研究を行う。また、日本の諸地域では、受講者が個人で学習テーマを設定して授業をつくり、模擬授業を行う。	
準備学習(予習・復習)	
内 容 第1回 生徒が楽しく地形図学習と地図学習をする教材と授業方法を考える。 第2回 生徒が楽しく世界の気候・日本の気候を学ぶことができる教材を考える。 第3回 地域統計に関する情報収集の仕方と主題図の作成と読解の手法を学ぶ。 第4回 【共同研究1】現代世界の環境問題／エネルギー問題について教材研究をする。 第5回 地球環境問題・エネルギー問題について教材構成と授業手法を検討する。 第6回 「世界の諸地域(1)ーアフリカ:地下資源に恵まれたアフリカが貧しいのはなぜか」の授業を体験し、授業づくりの手法を学ぶ。 第7回 【共同研究2】世界の諸地域(2)アジア州とヨーロッパ州ー食べ物を教材にした授業を考える 第8回 食べ物を教材にした地理の模擬授業と授業研究 第9回 【共同研究3】世界の諸地域(3)北アメリカ州ー移民から見えてくるアメリカ社会を教材研究 第10回 アメリカ合衆国を教材にした模擬授業と教材研究 第11回 【共同研究4】日本の諸地域の範囲で、学生一人ひとりが学習テーマを設定して授業をつくる。 第12回 模擬授業と合評会(1)グループ① 第13回 模擬授業と合評会(2)グループ② 第14回 模擬授業と合評会(3)グループ③ 第15回 身近な地域の調査ーコンビニエンスストアを取り上げ、商業店舗の立地要件を学ぶ。	
履修上の注意点	

教科書

中等社会科ハンドブック ―(社会・地歴・公民)授業づくりの手引き―

著者: 二谷貞夫他

出版社: 学文社

出版年: 2013

ISBN:

参考書

中学校学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

地理授業で使いたい教材資料

著者: 地理教育研究会編

出版社: 清水書院

出版年: 2014

ISBN:

中学校学習指導要領 解説 社会科編

著者:

出版社:

出版年: 平成20年7月

ISBN:

高等学校学習指導要領 解説 地理歴史編

著者:

出版社:

出版年: 平成21年12月

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 書道科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 西村 大輔	
テーマ	
講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。	
授業の到達目標	
高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。	
授業の概要	
①高等学校芸術科書道の現状や指導案作り、授業の展開等についての講義②受講生が指導案(細案)や年間指導計画を作成する。③作成した指導案に基づく模擬授業を行い。	
準備学習(予習・復習)	
模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。	
内 容	
第1回 授業における興味づけの大切さについて	
第2回 漢字かな交じり文の展開について	
第3回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究①	
第4回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究②	
第5回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究③	
第6回 篆書領域での模擬授業と授業研究	
第7回 隷書領域での模擬授業と授業研究	
第8回 新しい教材の研究とユニークな授業の展開についてまた、その吟味と問題点を考える	
第9回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究①	
第10回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究②	
第11回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究③	
第12回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究④	
第13回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究⑤	
第14回 研究授業のまとめ	
第15回 書道教育の現状と未来のあるべき姿を考える	
履修上の注意点	
教科書	
書 I (文部科学省検定済教科書)	
著者: 高木聖雨、宮澤正明 他	
出版社: 光村書店	
出版年:	ISBN: 9784895286046
参考書	
学習指導要領	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。	

2015 Syllabus

科目名 書道科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期集中	定員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 西村 大輔	
テーマ	
講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。	
授業の到達目標	
高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。	
授業の概要	
①高等学校芸術科書道の現状や指導案作り、授業の展開等についての講義②受講生が指導案(細案)や年間指導計画を作成する。③作成した指導案に基づく模擬授業を行い。	
準備学習(予習・復習)	
模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。	
内 容	
第1回 授業における興味づけの大切さについて	
第2回 漢字かな交じり文の展開について	
第3回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究①	
第4回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究②	
第5回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究③	
第6回 篆書領域での模擬授業と授業研究	
第7回 隷書領域での模擬授業と授業研究	
第8回 新しい教材の研究とユニークな授業の展開についてまた、その吟味と問題点を考える	
第9回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究①	
第10回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究②	
第11回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究③	
第12回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究④	
第13回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究⑤	
第14回 研究授業のまとめ	
第15回 書道教育の現状と未来のあるべき姿を考える	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
学習指導要領	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。	

2015 Syllabus

科目名 地歴科教育法 I

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 前期 定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可 クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

授業の到達目標

高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習(予習・復習)

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

内 容

- 第1回 学習指導要領をよむ:21世紀の中等社会科の重要課題は何か
- 第2回 授業の作り方:教材研究をどう進めるか
- 第3回 授業の作り方:教材をどう作るか
- 第4回 学習指導案の作り方:先輩の学習指導案と授業づくりに学ぶ
- 第5回 地理の導入教材を作る:仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる
- 第6回 世界史の導入教材を作る:ギリシア世界
- 第7回 授業プランをつくる:古代中国史の学習を素材にして
- 第8回 新聞記事を導入にして現代史の授業を作る
- 第9回 模擬授業と学習指導案の検討
- 第10回 導入教材の作成と模擬授業(1)
- 第11回 導入教材の作成と模擬授業(2)
- 第12回 導入教材の作成と模擬授業(3)
- 第13回 導入教材の作成と模擬授業(4)
- 第14回 導入教材の作成と模擬授業(5)
- 第15回 模擬授業の振り返り

履修上の注意点

教科書

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり

著者: 井ノ口貴史・倉持祐二

出版社: 三学出版

出版年: 2015年

ISBN:

参考書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』

著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社: 学文社

出版年: 2014年

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 地歴科教育法Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

授業の到達目標

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習(予習・復習)

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

内 容

第1回 同時代史の授業づくりと実践報告を検討する

第2回 模擬授業と授業研究(1)

第3回 模擬授業と授業研究(2)

第4回 模擬授業と授業研究(3)

第5回 模擬授業と授業研究(4)

第6回 模擬授業と授業研究(5)

第7回 模擬授業と授業研究(6)

第8回 模擬授業と授業研究(7)

第9回 模擬授業と授業研究(8)

第10回 模擬授業と授業研究(9)

第11回 模擬授業と授業研究(10)

第12回 模擬授業と授業研究(11)

第13回 模擬授業と授業研究(12)

第14回 模擬授業と授業研究(13)

第15回 模擬授業と授業研究(14)

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：学文社

出版年：2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 公民科教育法 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 公民科教育の意義・内容・課題		
授業の到達目標 多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を追体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。		
授業の概要 新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。		
準備学習(予習・復習) 人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること		
内 容 第1回 学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える 第2回 「日本国憲法の成立」の授業づくりを通して学習指導案の書き方を学ぶ 第3回 身近なものを教材化するーコンビニから戦後の小売業を考える 第4回 身近なものを教材化するーコンビニから情報化社会を考える 第5回 身近なものを教材化するーコンビニから食糧自給を考える 第6回 メディアリテラシー: 今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか 第7回 新聞で学ぶ現代の社会ー「9. 11」からイラク戦争を教材化する 第8回 新聞で学ぶ現代の社会ー「9. 11」以降の実践記録の特徴を検討する 第9回 経済分野の授業: 経済学入門をどう教材化するか 第10回 経済分野の授業: 絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する 第11回 憲法の授業をつくる: 日米安保条約と沖縄 第12回 憲法の授業をつくる: 冷戦終結と日米安保条約 第13回 模擬授業と授業研究(1) 第14回 模擬授業と授業研究(2) 第15回 模擬授業と授業研究(3)		
履修上の注意点		
教科書 中等社会科ハンドブック ー(社会・地歴・公民)授業づくりの手引きー 著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編 出版社: 学文社 出版年: 2013年 ISBN:		
参考書 中等社会科の理論と実践 著者: 二谷貞夫・和井田清司 出版社: 学文社 出版年: 2007年 ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 公民科教育法Ⅱ

クラス 配当回生 学部3回生

講義期間 後期 定員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可 クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の概要

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

準備学習(予習・復習)

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること

内 容

- 第1回 学習指導案を検討する:食糧問題の授業づくり
 第2回 生命倫理に関する授業を作る:ディベートの手法を学ぶ
 第3回 倫理の授業をつくる:尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
 第4回 模擬授業と授業研究(1):第1グループ
 第5回 模擬授業と授業研究(2):第2グループ
 第6回 模擬授業と授業研究(3):第3グループ
 第7回 模擬授業と授業研究(4):第4グループ
 第8回 共同研究1:「民主政治の基本原則と日本国憲法」単元の授業案を考える
 第9回 模擬授業と授業研究(5):第5グループ
 第10回 模擬授業と授業研究(6):第6グループ
 第11回 共同研究2:「現代の経済」単元の授業案を考える
 第12回 共同研究3:「現代の国際政治」単元の授業案を考える
 第13回 「民主政治の基本原則と日本国憲法」の模擬授業
 第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
 第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』

著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社: 学文社

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

中等社会科の理論と実践

著者: 二谷貞夫・和井田清司

出版社: 学文社

出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 生徒・進路指導

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ 履修可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史・林 萬太郎	
テーマ 生徒指導とそれを支える生活指導	
授業の到達目標 生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。	
授業の概要 基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後に重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。	
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。	
内 容 第1回 生徒指導の領域と内容:いわゆる「教育困難校」の1日 第2回 学校がどんな組織で運営されているか—校務分掌と組織(生徒指導体制?) 第3回 生徒指導の方法—ゼロ・トレランス方式を考える 第4回 子どもの学校参加の考え方を学ぶ 第5回 「いじめ」事象における生徒指導のあり方 第6回 事例研究「いじめ」事象が疑われる生徒に対する担任教師の指導のあり方を検討する 第7回 生徒指導提要を読む(1):生徒指導の意義と原理 第8回 生徒指導提要を読む(2):生徒会活動やホームルーム活動が生徒指導に果たす役割を考える 第9回 生徒指導提要を読む(3):個別の課題を抱える児童生徒への指導をどうするか 第10回 生徒指導提要を読む(4):生徒指導に関する法制度を知る 第11回 キャリア教育の理念を学ぶ:目標、進路指導の定義、中学校におけるキャリア教育の特徴 第12回 高校での進路指導の考え方を学ぶ:職業教育の考え方、3年間を見通した指導計画の在り方 第13回 グループ討議:高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか 第14回 事例研究:「カンニング」疑惑を指導した教師の対応を生徒指導の観点から検討する 第15回 事例研究:「部活動における体罰」事例を教職員の連携という視点から検討する	
履修上の注意点	
教科書 特になし(授業内で配布) 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	
参考書 生徒指導提要 著者: 出版社: 文部科学省 出版年: ISBN:	
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (60) 授業中発表等 (10) 参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 教育実習 I

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 集中	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 実りのある教育実習		
授業の到達目標 学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。		
授業の概要 教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。		
準備学習(予習・復習) 公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。		
内 容 第1回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。 第2回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。		
履修上の注意点 なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。		
教科書 プリント 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業時に紹介 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 () 小テスト () 授業中課題 (50) 授業中発表等 () 参加度 (50)		

2015 Syllabus

科目名 教育実習Ⅱ(3回生枠)

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 通年	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 実りある教育実習(教育実習事前指導)		
授業の到達目標 教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする		
授業の概要 教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。		
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。		
内 容 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について—実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規) 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答 第5回 教育実習の心得 第6回 現場教員による講演 第7回 教育実習直前指導 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。		
履修上の注意点		
教科書 授業内で配布する 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 授業内で紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50)		

2015 Syllabus

科目名 教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 集中	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 実りある教育実習(教育実習事前指導)		
授業の到達目標 教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする		
授業の概要 教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。		
準備学習(予習・復習) 新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。		
内 容 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について—実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規) 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答 第5回 教育実習の心得 第6回 現場教員による講演 第7回 教育実習直前指導 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。		
履修上の注意点		
教科書 授業内で配布する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
参考書 授業内で紹介する 著者: 出版社: 出版年: ISBN:		
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (50) 授業中発表等 (0) 参加度 (50)		

2015 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 生涯学習・社会教育への招待	
授業の到達目標 生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。	
授業の概要 わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。	
準備学習(予習・復習) 高校日本史教科書の近現代部分を読んでおくこと。現代社会の動向に関心を持つこと。	
内 容 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までについて、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める 第13回 学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。	
履修上の注意点 私語と中途退回は禁止。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価 試験 (50) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	
テーマ 生涯学習・社会教育への招待	
授業の到達目標 生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。	
授業の概要 わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。	
準備学習(予習・復習) 高校日本史教科書の近現代部分を読んでおくこと。現代社会の動向に関心を持つこと。	
内 容 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める 第13回 学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。	
履修上の注意点 私語と中途退回は禁止。	
教科書 使用しない 著者： 出版社： 出版年： ISBN： 参考書	
成績評価 試験 (50) 小テスト () 授業中課題 () 授業中発表等 () 参加度 (50)	

2015 Syllabus

科目名 図書館概論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	司書課程の導入科目として、我が国の公共図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。
授業の到達目標	司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。
準備学習(予習・復習)	現代社会における図書館の意義や期待される役割について学んだことを、現実の図書館利用と比較して考える習慣をつけること。
内 容	<p>第1回 図書館の現状と動向(図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等)について解説する。</p> <p>第2回 図書館の構成要素と機能(図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等)について解説する。</p> <p>第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む)ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。</p> <p>第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等)アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。</p> <p>第5回 図書館の歴史(古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に)について解説する。</p> <p>第6回 公立図書館の成立と展開(我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に)について解説する。</p> <p>第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1)学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2)国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第9回 図書館職員の役割と資格(図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等)について解説する。</p> <p>第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む)類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。</p> <p>第11回 図書館の課題と展望(直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等)を把握し、課題解決への方策を解説する。</p> <p>第12回 外国の図書館(アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国)の各図書館について解説する。</p> <p>第13回 これからの図書館(生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等)について解説する。</p> <p>第14回 公共図書館をめぐる諸問題(サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等)について解説する。</p> <p>第15回 図書館を支える力(図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等)について解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>図書館概論 三訂版</p> <p>著者： 塩見昇 編著</p> <p>出版社： 日本図書館協会</p> <p>出版年： 2014 ISBN:</p>
参考書	<p>図書館学基礎資料 第11版</p> <p>著者：</p> <p>出版社： 樹村房</p> <p>出版年： 2013 ISBN:</p>
成績評価	
試験 ()	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 図書館概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	司書課程の導入科目として、我が国の公共図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。
授業の到達目標	司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。
準備学習(予習・復習)	現代社会における図書館の意義や期待される役割について学んだことを、現実の図書館利用と比較して考える習慣をつけること。
内 容	<p>第1回 図書館の現状と動向(図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等)について解説する。</p> <p>第2回 図書館の構成要素と機能(図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等)について解説する。</p> <p>第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む)ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。</p> <p>第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等)アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。</p> <p>第5回 図書館の歴史(古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に)について解説する。</p> <p>第6回 公立図書館の成立と展開(我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に)について解説する。</p> <p>第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1)学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2)国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。</p> <p>第9回 図書館職員の役割と資格(図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等)について解説する。</p> <p>第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む)類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。</p> <p>第11回 図書館の課題と展望(直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等)を把握し、課題解決への方策を解説する。</p> <p>第12回 外国の図書館(アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国)の各図書館について解説する。</p> <p>第13回 これからの図書館(生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等)について解説する。</p> <p>第14回 公共図書館をめぐる諸問題(サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等)について解説する。</p> <p>第15回 図書館を支える力(図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等)について解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>図書館概論 三訂版</p> <p>著者： 塩見昇 編著</p> <p>出版社： 日本図書館協会</p> <p>出版年： 2014 ISBN:</p>
参考書	<p>図書館学基礎資料 第11版</p> <p>著者：</p> <p>出版社： 樹村房</p> <p>出版年： 2013 ISBN:</p>
成績評価	
試験 ()	小テスト ()

2015 Syllabus

科目名 図書館制度・経営論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	図書館の制度と図書館経営の意義と課題を中心に解説し、併せて最近の動向を理解させる。
授業の到達目標	図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。
準備学習(予習・復習)	「法律」「政策」「経営」といった言葉に日頃から関心をもって、メディアから情報を得ることを心がけること。
内 容	<p>第1回 図書館法(逐条解説)1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。</p> <p>第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。</p> <p>第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等)図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。</p> <p>第4回 図書館政策(国、地方公共団体)国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。</p> <p>第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング、危機管理を含む)新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。</p> <p>第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携)図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。</p> <p>第7回 図書館の施設・設備(その1)図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。</p> <p>第8回 図書館の施設・設備(その2)図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。</p> <p>第9回 図書館のサービス計画と予算の確保図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。</p> <p>第10回 図書館業務・サービスの調査と評価調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。</p> <p>第11回 図書館の管理形態の多様化図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。</p> <p>第12回 図書館業務の理論と実際(その1)パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。</p> <p>第13回 図書館業務の理論と実際(その2)テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。</p> <p>第14回 図書館協力とネットワークの形成図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。</p> <p>第15回 図書館経営の課題図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	使用しない。
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
図書館経営論 改訂版	
著者: 三村敦美 編	
出版社: 教育史料出版会	
出版年: 2009	ISBN:
成績評価	

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 図書館制度・経営論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 明定義人	
テーマ	図書館の制度と図書館経営の意義と課題を中心に解説し、併せて最近の動向を理解させる。
授業の到達目標	図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。
準備学習(予習・復習)	「法律」「政策」「経営」といった言葉に日頃から関心をもって、メディアから情報を得ることを心がけること。
内 容	<p>第1回 図書館法(逐条解説)1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。</p> <p>第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。</p> <p>第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等)図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。</p> <p>第4回 図書館政策(国、地方公共団体)国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。</p> <p>第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング、危機管理を含む)新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。</p> <p>第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携)図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。</p> <p>第7回 図書館の施設・設備(その1)図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。</p> <p>第8回 図書館の施設・設備(その2)図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。</p> <p>第9回 図書館のサービス計画と予算の確保図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。</p> <p>第10回 図書館業務・サービスの調査と評価調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。</p> <p>第11回 図書館の管理形態の多様化図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。</p> <p>第12回 図書館業務の理論と実際(その1)パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。</p> <p>第13回 図書館業務の理論と実際(その2)テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。</p> <p>第14回 図書館協力とネットワークの形成図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。</p> <p>第15回 図書館経営の課題図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。</p>
履修上の注意点	
教科書	使用しない。
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
図書館経営論 改訂版	
著者: 三村敦美 編	
出版社: 教育史料出版会	
出版年: 2009	ISBN:
成績評価	

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 図書館情報技術論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の概要

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

準備学習(予習・復習)

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

履修上の注意点

3分の2以上の出席ならびに、演習課題提出を期末試験受験の要件とする

教科書

図書館情報技術論

著者: 斎藤ひとみ, 二村健

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN: 9784762021923

参考書

情報検索の基礎知識新訂2版

著者: 原田智子ほか

出版社: 情報科学技術協会

出版年: 2011

ISBN: 9784889510478

新訂情報検索の知識と技術

著者: 時実象一ほか

出版社: 情報科学技術協会

出版年: 2010

ISBN: 9784889510461

図書館と情報技術

著者： 岡紀子, 田中邦英

出版社： 樹村房

出版年： 2013

ISBN: 9784883672240

電子書籍と電子ジャーナル

著者： 日本図書館情報学会研究委員会

出版社： 勉誠出版

出版年： 2014

ISBN: 9784585205012

成績評価

試験 (65)

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 図書館情報技術論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の概要

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

準備学習(予習・復習)

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

履修上の注意点

3分の2以上の出席ならびに、演習課題提出を期末試験受験の要件とする

教科書

図書館情報技術論

著者: 斎藤ひとみ, 二村健

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN: 9784762021923

参考書

情報検索の基礎知識新訂2版

著者: 原田智子ほか

出版社: 情報科学技術協会

出版年: 2011

ISBN: 9784889510478

新訂情報検索の知識と技術

著者: 時実象一ほか

出版社: 情報科学技術協会

出版年: 2010

ISBN: 9784889510461

図書館と情報技術

著者： 岡紀子, 田中邦英

出版社： 樹村房

出版年： 2013

ISBN: 9784883672240

電子書籍と電子ジャーナル

著者： 日本図書館情報学会研究委員会

出版社： 勉誠出版

出版年： 2014

ISBN: 9784585205012

成績評価

試験 (65)

小テスト ()

授業中課題 (25)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 図書館情報資源特論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 明定 義人

テーマ

「児童サービス論」で紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、児童資料分野の評価力をつける。

授業の到達目標

児童サービス論で詳しく紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、児童資料の評価力をつける。

授業の概要

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とします。

準備学習(予習・復習)

自分の子ども時代の読書歴を振り返り、未読の分野の児童書を読んでおくこと、また、どうして未読であったのか、既読であったのかを、自己分析すること。

内 容

- 第1回 児童資料のひろがり物語や絵本から実用書、ゲームの攻略本まで、子どもを対象にした児童資料は多様化し続けている。同時に「子ども向け」と「大人向け」のボーダレス化も進んでいる。児童資料のひろがりを紹介する。
- 第2回 絵本1—挿絵から絵本へ絵本の歴史をたどることで、挿絵から絵本への転換を解説する。読み継がれてきた絵本が「絵」と「文」の相乗効果による魅力を持ち得ていることを解説する。
- 第3回 絵本2—表現としてのひろがり絵本は子どものものだけではない。作者や出版社が想定している読者は乳幼児から大人まで幅広い。そのひろがりメディアとしての絵本の「子ども離れ」の側面について紹介する。
- 第4回 児童文学1—童話から創作へ児童文学の歴史を解説し、大正期に発行された「赤い鳥」などの童話の時代から、昭和期までの代表的な作品をその時代背景とともに解説する。
- 第5回 児童文学2—児童文学批評清水真砂子『子どもの本の現在』が日本の児童文学に問いかけたことを中心に、日本の児童文学を考えるとともに、90年代から現在につながるアダルトチルドレンと児童文学との関係、外国の児童文学についてもふれる。
- 第6回 科学読み物1—歴史日本の科学読み物の歴史は、明治時代の数年前から始まり、大正デモクラシーの時期に数多く出版される。その背景について解説し、第二次世界大戦とそれ以降の科学読み物についても紹介する。また、教育との関わりのなかでの科学読み物についても考える。
- 第7回 科学読み物 2—科学読み物とは科学読み物は、科学的に考えることの楽しさやすばらしさを伝えるものであるが、「科学読み物」のなかには「自然は美しい」「自然と親しくなろう」「自然界の不思議」といった類のものもある。その違いを解説する。
- 第8回 知識の絵本・資料集・事典「知識の絵本」の出版は月刊誌が発行されていることもあり、また「調べ学習」がひろがったことで、出版点数は多い。それらのなかから高い評価を受けている絵本を紹介する。児童向け資料集においても、統計をグラフにして説明をすることがあるが、グラフを比べることにより、よりよいグラフについて考える。事典についても紹介する。

履修上の注意点

「書評」等の課題で高い評価を得るためには、日頃から、作品を読む、書評を読むということが欠かせない。また、あらゆる課題に文章力の向上が求められる。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ふしぎなふしぎな子どもの物語

著者: ひこ田中

出版社: 光文社

出版年: 2011

ISBN:

はじめて学ぶ児童文学史

著者: 鳥越信 編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2001

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 図書館施設論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河野 良平・明定 義人	
テーマ	
市民が自由に資料・情報を利用し、有意義な時間を過ごす図書館が、今日に求められている施設面での課題を考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、図書館建築としての機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。	
授業の到達目標	
市民が自由に資料(情報)を利用し、有意義な時間を過ごす快適空間としての役割も求められている図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。	
授業の概要	
必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。代表的かつ具体的な事例を複数取り上げ、実地でも施設を確認することで様々な角度から図書館建築に関する知識を修得する。	
準備学習(予習・復習)	
図書館施設だけでなく、日常で利用する施設について、サービスを受ける側とサービスを提供する側の視点から、その利便性について考える習慣をつけること。	
内 容	
第1回	図書館活動を支える施設とはこれまでの図書館が果たしてきた役割を考え、市民が求める図書館像の変遷とともに図書館施設がどのように変わりつつあるのかを説明
第2回	図書館運営方針と図書館建築計画
第3回	図書館建築の設計について図書館建築に必要な機能について解説し、デザイン、全体計画、動線計画や各部計画について詳しく解説する。
第4回	図書館建築の設計事例近年の代表的な図書館を中心に様々な図書館建築の事例に触れる。
第5回	館内環境の計画(家具、環境要素、サイン計画など)
第6回	図書館の設備と維持、防火対策や避難計画について図書館に用いられる一般的な設備形式、防火対策や二方向避難について建築基準法などを参照しながら確認していく。
第7回	実際の図書館を見学し、館長の話を実際に使われている図書館を見学し、館長の話聞くことによって図書館が市民にどのように使われているのか、また改善したいことなども率直に聞く。
第8回	見学後の評価とまとめ授業では学生達が見学前と見学後の印象や意見が変わったかどうか、互いに議論を進める中で、「図書館とは何か」について深く考える場とする。
履修上の注意点	
教科書	
使用しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
よい図書館施設をつくる	
著者:	植松貞夫ほか著
出版社:	日本図書館協会
出版年:	2010 ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (70)	授業中発表等 ()
参加度 (30)	
図書館見学(指定)は必須である。	

2015 Syllabus

科目名 図書館サービス概論〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹島 昭雄

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習(予習・復習)

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図書館サービス論

著者: 小田 光宏

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2010

ISBN: 9784820409175

図書館サービス概論

著者: 金沢 みどり

出版社: 学文社

出版年: 2014

ISBN:

図書館サービス概論

著者： 宮部 頼子

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN: 9784883672042

新版 図書館の発見

著者： 前川恒雄・石井敦

出版社： NHKブックス

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 図書館サービス概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習(予習・復習)

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内 容

- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題
- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図書館サービス論

著者: 小田 光宏

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2010

ISBN: 9784820409175

図書館サービス概論

著者: 金沢 みどり

出版社: 学文社

出版年: 2014

ISBN:

図書館サービス概論

著者： 宮部 頼子

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN: 9784883672042

新版 図書館の発見

著者： 前川恒雄・石井敦

出版社： NHKブックス

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 情報サービス論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	図書館における情報サービスとは何か、その意義や利用者ニーズへの理解、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。また、図書館がその前提としているメディアについても紹介する。
授業の到達目標	インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。
授業の概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
準備学習(予習・復習)	複数の情報源、メディアが、一つの事柄をどう伝えているのかを比較する習慣をつけること。
内 容	<p>第1回 情報サービスの概要情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える</p> <p>第2回 情報サービスの基礎(1)レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明</p> <p>第3回 情報サービスの基礎(2)カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明</p> <p>第4回 情報サービスの展開読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明</p> <p>第5回 情報源の種類と評価印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明</p> <p>第6回 情報ニーズへの対応(1)情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明</p> <p>第7回 情報ニーズへの対応(2)レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明</p> <p>第8回 情報の検索と回答(1)検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる</p> <p>第9回 情報の検索と回答(2)および情報サービスの管理検索の実行、回答提供と評価について説明情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明</p> <p>第10回 事実検索の情報源(1)辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明(データベース等の情報原も含む)</p> <p>第11回 事実検索の情報源(2)歴史情報、統計情報の調べ方について具体例を示しながら説明</p> <p>第12回 事実検索の情報源(3)地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明</p> <p>第13回 文献検索の情報源書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明</p> <p>第14回 電子メディアの活用大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる</p> <p>第15回 発信型情報サービスの意義と方法パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>情報サービス論</p> <p>著者: 大串夏身ほか編</p> <p>出版社: 理想社</p> <p>出版年: 2010 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	
試験 (60)	小テスト ()
授業中課題 (20)	授業中発表等 ()
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 情報サービス論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	書館における情報サービスとは何か、その意義や利用者ニーズへの理解、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。また、図書館がその前提としているメディアについても紹介する。
授業の到達目標	インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報源の種類や評価などについて理解する。
授業の概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。
準備学習(予習・復習)	複数の情報源、メディアが、一つの事柄をどう伝えているのかを比較する習慣をつけること。
内 容	<p>第1回 情報サービスの概要情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える</p> <p>第2回 情報サービスの基礎(1)レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明</p> <p>第3回 情報サービスの基礎(2)カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明</p> <p>第4回 情報サービスの展開読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明</p> <p>第5回 情報源の種類と評価印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明</p> <p>第6回 情報ニーズへの対応(1)情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明</p> <p>第7回 情報ニーズへの対応(2)レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明</p> <p>第8回 情報の検索と回答(1)検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる</p> <p>第9回 情報の検索と回答(2)および情報サービスの管理検索の実行、回答の提供と評価について説明情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明</p> <p>第10回 事実検索の情報源(1)辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明(データベース等の情報原も含む)</p> <p>第11回 事実検索の情報源(2)歴史情報、統計情報の調べ方について具体例を示しながら説明</p> <p>第12回 事実検索の情報源(3)地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明</p> <p>第13回 文献検索の情報源書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明</p> <p>第14回 電子メディアの活用大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる</p> <p>第15回 発信型情報サービスの意義と方法パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する</p>
履修上の注意点	
教科書	<p>情報サービス論</p> <p>著者： 大串夏身ほか編</p> <p>出版社：理想社</p> <p>出版年：2010 ISBN:</p>
参考書	
成績評価	
試験(60)	小テスト()
授業中課題(20)	授業中発表等()
参加度(20)	

2015 Syllabus

科目名 児童サービス論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	
公共図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための知識を深め、その技術を学ぶ。	
授業の到達目標	
公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさん児童書に接し、その豊かさや魅力を体験する。	
授業の概要	
児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
「発達」「発達障害」についての入門書を読むこと(授業でこれらの本の紹介を課題にする)。	
内 容	
第1回	発達と学習における読書の役割児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原区と問題に言及し、読書の意義について考える。
第2回	児童サービスの意義と概要これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
第3回	児童資料の特色と選択1 絵本絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
第4回	児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえる詩の本もたくさん紹介する。
第5回	児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
第6回	児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
第7回	児童資料コレクションの形成と管理児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
第8回	児童サービスの業務1 資料提供サービス資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
第9回	児童サービスの業務2 情報サービス情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
第10回	児童サービスの業務3 乳幼児サービスブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
第11回	児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
第12回	児童サービスの方法・技術1 読み聞かせ、ストーリーテング児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
第13回	児童サービスの方法・技術2 ブックトーク、書評、ブックリストブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
第14回	児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割)児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
第15回	学校、家庭、地域との連携・協力学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の事例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。
履修上の注意点	
児童資料については「図書館情報資源特論」で詳しく紹介するので、この講義では「子ども」「子どもへのサービス」を中心にした内容にする。	

教科書

児童サービス論

著者： 堀川照代 編著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 児童サービス論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 明定 義人	
テーマ	公共図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための知識を深め、その技術を学ぶ。
授業の到達目標	公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさん児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。
授業の概要	児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。
準備学習(予習・復習)	「発達」「発達障害」についての入門書を読むこと(授業でこれらの本の紹介を課題にする)。
内 容	<p>第1回 発達と学習における読書の役割児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原区と問題に言及し、読書の意義について考える。</p> <p>第2回 児童サービスの意義と概要これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する</p> <p>第3回 児童資料の特色と選択1 絵本絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。</p> <p>第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。</p> <p>第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。</p> <p>第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。</p> <p>第7回 児童資料コレクションの形成と管理児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。</p> <p>第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。</p> <p>第9回 児童サービスの業務2 情報サービス情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。</p> <p>第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービスブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。</p> <p>第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色やそのサービスについて解説し、企画立案について考える。</p> <p>第12回 児童サービスの方法・技術1 読み聞かせ、ストーリーテリング児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。</p> <p>第13回 児童サービスの方法・技術2 ブックトーク、書評、ブックリストブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。</p> <p>第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割)児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。</p> <p>第15回 学校、家庭、地域との連携・協力学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の事例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。</p>
履修上の注意点	児童資料については「図書館情報資源特論」で詳しく紹介するので、この講義では「子ども」「子どもへのサービス」を中心にした内容にする。

教科書

児童サービス論

著者: 堀川照代 編

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 情報サービス演習 I <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

情報サービスの中心となるレファレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内 容

- 第1回 演習情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 演習情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 演習情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 演習レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
- 第8回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕等著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN: 978-4762023187

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN: 458500184-0

問題解決のためのレファレンスサービス

著者： 長澤雅男(ほか)著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2009

ISBN: 978-4820407027

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 情報サービス演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中心となるレファレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内 容

- 第1回 演習情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 演習情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 演習情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 演習レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
- 第8回 演習各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど、他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕等著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN: 978-4762023187

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN: 458500184-0

問題解決のためのレファレンスサービス

著者： 長澤雅男(ほか)著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2007

ISBN: 978-4820407027

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習(予習・復習)

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

履修上の注意点

教科書

デジタル情報資源の検索増訂第5版

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2014

ISBN: 9784820413226

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社: 筑摩書房

出版年: 2007

ISBN: 9784480063854

情報サービス演習

著者: 原田智子

出版社: 樹村房

出版年: 2012

ISBN: 9784883672073

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題（45）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2015 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ〈b〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習(予習・復習)

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

履修上の注意点

教科書

デジタル情報資源の検索増訂第5版

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2014

ISBN: 9784820413226

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社: 筑摩書房

出版年: 2007

ISBN: 9784480063854

情報サービス演習

著者: 原田智子

出版社: 樹村房

出版年: 2012

ISBN: 9784883672073

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題（45）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2015 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 米谷 優子	
テーマ	
情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する	
授業の到達目標	
情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。	
授業の概要	
メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。	
準備学習(予習・復習)	
積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。	
内 容	
第1回	情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回	情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
第3回	検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回	検索エンジンによる情報検索演習
第5回	図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
第6回	図書情報検索演習
第7回	雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
第8回	雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回	人物情報・団体情報の検索
第10回	人物情報・団体情報の検索演習
第11回	統計情報・地理的情報の検索
第12回	統計情報・地理的情報の検索演習
第13回	法律情報等の検索
第14回	法律情報等の検索演習
第15回	まとめ(試験を含む)
履修上の注意点	
教科書	
デジタル情報資源の検索増訂第5版	
著者: 高嶽裕樹	
出版社: 京都図書館情報研究会	
出版年: 2014	ISBN: 9784820413226
参考書	
キーワード検索がわかる	
著者: 藤田節子	
出版社: 筑摩書房	
出版年: 2007	ISBN: 9784480063854
情報サービス演習	
著者: 原田智子	
出版社: 樹村房	
出版年: 2012	ISBN: 9784883672073
成績評価	
試験 (45)	小テスト ()

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2015 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹島 昭雄	

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習(予習・復習)

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識 (主な著者に関する基礎知識を含む)。
 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。また、第1回目の授業で、レポート課題を説明するので、出席すること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図書館情報資源概論

著者: 馬場 俊明著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412175

図書館情報資源概論

著者: 高山 正也・平野 英俊編集

出版社: 樹村房

出版年: 2013

ISBN: 9784883672080

図書館情報資源概論

著者： 伊藤 民雄

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習(予習・復習)

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識 (主な著者に関する基礎知識を含む)。
 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。また、第1回目の授業で、レポート課題を説明するので、出席すること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図書館情報資源概論

著者: 『図書館情報資源概論』

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012年

ISBN: 9784820412175

図書館情報資源概論

著者: 高山 正也・平野 英俊編集

出版社: 樹村房

出版年: 2013年

ISBN: 9784883672080

図書館情報資源概論

著者： 伊藤 民雄

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織論 <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習(予習・復習)

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC、MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序/記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1)分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2)列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業は関連していて、前回の授業内容の上に次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。取りつきにくく、わかりにくい授業内容が一層理解し難くなるので、注意すること。

教科書

情報資源組織論(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)

著者: 柴田正美著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412021

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務他編著

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN: 9784474027640

情報資源組織論

著者： 田窪直規編

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN: 9784883672097

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

小テストはレポートに振り替えることがあります。

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	
テーマ	
図書館における情報資源の組織化について、その意義、目的、方法を学ぶ。	

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習(予習・復習)

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC、MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序/記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1)分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2)列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業は関連していて、前回の授業内容の上に次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。取りつきにくく、わかりにくい授業内容が一層理解し難くなるので、注意すること。

教科書

情報資源組織論(JLA図書館)情報学テキストシリーズⅢ

著者: 柴田正美著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412021

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務他編著

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN: 9784474027640

情報資源組織論

著者： 田窪直規編

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN: 9784883672097

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

小テストはレポートに振り替えることがあります。

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	
多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成	
授業の到達目標	
多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
授業の概要	
主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。	
準備学習(予習・復習)	
京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータを見ること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。	
内 容	
第1回 演習書誌データ作成 1 (総則)	
第2回 演習書誌データ作成2(タイトル・責任表示)	
第3回 演習書誌データ作成3(版表示・出版事項)	
第4回 演習書誌データ作成4(形態・シリーズ)	
第5回 演習書誌データ作成5(注記)	
第6回 演習書誌データ作成6(国際標準図書番号・入手条件)	
第7回 演習書誌データ作成7(継続資料)	
第8回 演習書誌データ作成8(継続資料)	
第9回 演習書誌データ作成9(標目について)	
第10回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)	
第11回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)	
第12回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)	
第13回 演習ネットワーク情報資源のメタデータ作成1(概要)	
第14回 演習ネットワーク情報資源のメタデータ作成2(作成)	
第15回 演習書誌データ管理・検索システムの構築	
履修上の注意点	
「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)	
著者: 吉田憲一編	
出版社: 日本図書館協会	
出版年: 2007	ISBN: 978-4820406242
情報資源組織論及び演習	
著者: 那須雅熙著	
出版社: 学文社	
出版年: 2012	ISBN: 978-4762022388
成績評価	
試験 (50)	小テスト (20)
授業中課題 (10)	授業中発表等 ()

参加度（20）

演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	
テーマ	
多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成	
授業の到達目標	
多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。	
授業の概要	
主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。	
準備学習(予習・復習)	
京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータを見ること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。	
内 容	
第1回 演習書誌データ作成 1 (総則)	
第2回 演習書誌データ作成2(タイトル・責任表示)	
第3回 演習書誌データ作成3(版表示・出版事項)	
第4回 演習書誌データ作成4(形態・シリーズ)	
第5回 演習書誌データ作成5(注記)	
第6回 演習書誌データ作成6(国際標準図書番号・入手条件)	
第7回 演習書誌データ作成7(継続資料)	
第8回 演習書誌データ作成8(継続資料)	
第9回 演習書誌データ作成9(標目について)	
第10回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)	
第11回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)	
第12回 演習集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)	
第13回 演習ネットワーク情報資源のメタデータ作成1(概要)	
第14回 演習ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)	
第15回 演習書誌データ管理・検索システムの構築	
履修上の注意点	
「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。	
教科書	
使用しない	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)	
著者: 吉田憲一編	
出版社: 日本図書館協会	
出版年: 2007	ISBN: 978-4820406242
情報資源組織論及び演習	
著者: 那須雅熙著	
出版社: 学文社	
出版年: 2012	ISBN: 978-4820406242
成績評価	
試験 (50)	小テスト (20)
授業中課題 (10)	授業中発表等 ()

参加度（20）

演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	
テーマ	
図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法についての知識と技法を学ぶ。	
授業の到達目標	
NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。	
授業の概要	
多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。特に復習には重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。出来るだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。	
内 容	
第1回	主題分析とその表示情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
第2回	基本件名標目表の概略基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回	基本件名標目表による件名作業細目の用い方、件名規程の説明
第4回	演習とまとめここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回	日本十進分類法(NDC)の概略NDCの構成を説明
第6回	日本十進分類法による分類作業一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
第7回	分類記号付与の実際分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回	演習とまとめ
第9回	分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類)これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回	分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
第11回	演習とまとめ
第12回	分類記号付与の実際／社会科学(3類)
第13回	分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
第14回	分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
第15回	図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ
履修上の注意点	
一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。	
教科書	
情報資源組織演習(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-10)	
著者:	和中幹雄他著
出版社:	日本図書館協会
出版年:	2014
ISBN:	9784820413172
参考書	
情報資源組織論及び演習(ライブラリー図書館情報学9)	
著者:	那須雅熙著
出版社:	学文社
出版年:	2012
ISBN:	9784762022388
情報資源組織演習	
著者:	小西和信他編
出版社:	樹村房
出版年:	2013
ISBN:	9784883672103

成績評価

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業に積極的に参加する姿勢(出席率、課題発表等)を重視する。授業の中間(第8回)及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

2015 Syllabus

科目名 情報資源組織演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	
テーマ	
図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法についての知識と技法を学ぶ。	
授業の到達目標	
NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。	
授業の概要	
多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。特に復習には重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。出来るだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。	
内 容	
第1回	主題分析とその表示情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
第2回	基本件名標目表の概略基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回	基本件名標目表による件名作業細目の用い方、件名規程の説明
第4回	演習とまとめここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回	日本十進分類法(NDC)の概略NDCの構成を説明
第6回	日本十進分類法による分類作業一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
第7回	分類記号付与の実際分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回	演習とまとめ
第9回	分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類)これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回	分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
第11回	演習とまとめ
第12回	分類記号付与の実際／社会科学(3類)
第13回	分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
第14回	分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
第15回	図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ
履修上の注意点	
一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。	
教科書	
情報資源組織演習(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-10)	
著者:	和中幹雄他著
出版社:	日本図書館協会
出版年:	2014
ISBN:	9784820413172
参考書	
情報資源組織論及び演習(ライブラリー図書館情報学9)	
著者:	那須雅熙著
出版社:	学文社
出版年:	2012
ISBN:	9784762022388
情報資源組織演習	
著者:	小西和信他編
出版社:	樹村房
出版年:	2013
ISBN:	9784883672103

成績評価

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業に積極的に参加する姿勢(出席率、課題発表等)を重視する。授業の中間(第8回)及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

2015 Syllabus

科目名 図書館実習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 明定 義人

テーマ

それまで図書館学で学んだことを、図書館現場で実習することを通じて、業務をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題について問題意識を深める

授業の到達目標

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深めることが期待される。

授業の概要

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。実習は公立図書館で5日間(40時間)を基礎とする。実習の内容は下記の内容を中心にすえつつ順序等については実習館の都合にあわせる。

準備学習(予習・復習)

事前に実習対象図書館について、調べておく。事前・事後の学習指導を受ける。

内 容

- 第1回 事前ガイダンス
- 第2回 実習先による図書館施設見学と概略説明
- 第3回 貸出・返却業務および配架作業
- 第4回 レファレンス業務およびリクエスト処理等
- 第5回 選書・発注作業および資料整理技術の実際を学ぶ
- 第6回 図書館行事(お話し会や講演会等)補助作業および館長の話(まとめ)
- 第7回 学生からの報告と評価①
- 第8回 学生からの報告と評価②

履修上の注意点

図書館に関する科目で得た知識・技術をもとにして、公立図書館業務を経験させる。実習は5日間(40時間)基礎とする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

事前事後指導を含む実習ノートおよび実習後のレポートを評価対象とする。

2015 Syllabus

科目名 学校経営と学校図書館

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 村岡 益子

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

授業の到達目標

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

授業の概要

当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

準備学習(予習・復習)

母校を訪問し、無償で図書館ボランティアを体験させてもらう。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

内 容

- 第1回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第2回 生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
- 第3回 学校図書館の発展と課題
- 第4回 教育行政と学校図書館
- 第5回 学校図書館法と関係法令
- 第6回 教育サービスとしての学校図書館施策
- 第7回 学校経営組織における学校図書館
- 第8回 学校図書館のマネジメント・サイクル
- 第9回 司書教諭の任務と役割
- 第10回 学校内の協力体制と司書教諭の職務
- 第11回 学校図書館メディアの構築と管理
- 第12回 学校図書館活動の対象と領域
- 第13回 学校図書館活動の内容と方法
- 第14回 「読む力」と「読書へのアニマシオン」
- 第15回 学校図書館が築くネットワーク

履修上の注意点

教科書

学校経営と学校図書館

著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2011年

ISBN：4-7933-2242-6

加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』

著者：全国学校図書館協議会編

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2012年

ISBN：4-7933-0087-5

成績評価

試験（50%）

小テスト（0%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（30%）

ask312d110

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 学校図書館メディアの構成

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	
テーマ	
学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。	
授業の到達目標	
学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。	
授業の概要	
先ず初めに、高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。	
準備学習(予習・復習)	
小・中・高・大学の図書館及び公共図書館へ足を運ぶ。また、必要な事前学習については、適宜指示する。	
内 容	
第1回	高度情報社会における学校図書館メディア
第2回	学校図書館におけるメディアの種類と特性
第3回	学校図書館メディア構築のための基本
第4回	学校図書館メディアの選択と収集方針(評価方法を含む)
第5回	学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
第6回	情報ファイル資料の構築
第7回	学校図書館メディアの維持と発展(更新・廃棄を含む)
第8回	学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
第9回	学校図書館メディアの配架
第10回	学校図書館メディアの組織化の新しい展開
第11回	学校図書館メディアの目録
第12回	学校図書館メディアの目録法
第13回	学校図書館メディアの主題索引法
第14回	特別な支援のための学校図書館メディア
第15回	学校図書館メディアの充実と提供
履修上の注意点	
教科書	
学校図書館メディアの構成	
著者： 小田光宏 編集	
出版社： 樹村房	
出版年： 2010年	ISBN: 4-88367-091-8
加えて、適宜、講義に必要な「印刷資料」を配布する。	
著者：	
出版社：	
出版年：	ISBN:
参考書	
学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』	
著者： 全国学校図書館協議会編	
出版社： 全国学校図書館協議会	
出版年： 2012年	ISBN: 4-7933-0087-5

成績評価

試験 (50%)

小テスト (0%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (30%)

ask312d250

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 学習指導と学校図書館

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	
テーマ	
<p>学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。</p>	
授業の到達目標	
<p>学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。</p>	
授業の概要	
<p>講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。</p>	
準備学習(予習・復習)	
<p>教育学、教科教育法の授業を履修した人は復習しておくこと。また、必要な、事前学習については、適宜指示する。</p>	
内 容	
<p>第1回 オリエンテーションとビデオ視聴『司書教諭の役割』 第2回 学校教育と学校図書館 第3回 主体的な学習を支える学校図書館 第4回 メディア活用能力育成とその方法 第5回 メディア活用能力育成の計画と評価 第6回 レファレンスサービスと情報サービス 第7回 学校図書館メディアの活用—レファレンスブックの利用 第8回 情報サービスの新しい展開 第9回 インターネット情報源の利用 第10回 情報の利用とまとめ方 第11回 ビデオ視聴『図書館を生かす学校は変わる』 第12回 調べ学習の事例(1) 第13回 調べ学習の事例(2) 第14回 学校図書館活用を組み込んだ学習指導計画の作成 第15回 学習指導計画の発表と討議、まとめと筆記試験</p>	
履修上の注意点	
教科書	
<p>学習指導と学校図書館 著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編 出版社：全国学校図書館協議会 出版年：2010年 ISBN: 4-7933-2244-0 加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布する。</p>	
<p>著者： 出版社： 出版年： ISBN:</p>	
参考書	
<p>学校図書館・司書教諭講習資料 第7版 著者：全国学校図書館協議会編 出版社：全国学校図書館協議会 出版年：2012年 ISBN: 4-7933-0087-5</p>	
成績評価	
試験 (50%)	小テスト (0%)
授業中課題 (10%)	授業中発表等 (10%)

参加度（30%）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 **情報メディアの活用**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 米谷 優子

テーマ

学校教育における情報メディアの活用

授業の到達目標

情報社会の進展に伴い、学校教育においても、情報活用能力の育成が求められている。本講義では、司書教諭として情報メディアを積極的に活用するための基礎的知識と実践力を修得することを目標とする。

授業の概要

情報社会とメディアの多様化に関する理解を図り、学校教育における情報メディア活用の意義・目的を把握して、学校図書館メディアの種類と特性について基礎的な知識を獲得することを目的とする。情報機器を用いた情報検索、情報発信に関する実習を通して、実践力を養うとともに、情報の活用に際して重要な情報倫理・知的所有権についても基礎的理解を得ることとする。

準備学習(予習・復習)

まず、自身が図書館をはじめとする情報源に親しむこと。また、司書教諭の科目は全てが関連し合っている。学校図書館や司書教諭について総合的に把握することができるよう、他の科目で学んだことも復習しておくこと。

内 容

- 第1回 情報社会と人間
- 第2回 情報リテラシーの育成と学校図書館
- 第3回 学校図書館メディア1ーメディアの種類とその特性
- 第4回 学校図書館メディア2ー視聴覚資料その他の非印刷資料
- 第5回 学校図書館メディア3ー多様化するメディアとメディアリテラシー
- 第6回 教育におけるコンピュータ利用とコンピュータ・コンピュータネットワークの基礎
- 第7回 情報検索の理論とインターネット検索
- 第8回 インターネット検索の実際(演習)
- 第9回 学校におけるインターネットの利用
- 第10回 情報検索1ー図書資料等の検索法
- 第11回 情報検索2ー文献情報の検索(演習)
- 第12回 情報検索3ー文献情報の検索とその活用(演習)
- 第13回 知的所有権の基礎
- 第14回 学校図書館と知的所有権
- 第15回 まとめ(到達度試験)

履修上の注意点

授業は講義のほか、演習も含む。情報検索演習はコンピュータの基本操作能力を前提として進める。授業中の課題は締切や形式等の指示を守って提出すること。

教科書

「情報メディアの活用」(シリーズ学校図書館学)

著者:

出版社: 全国学校図書館協議会

出版年: 2010

ISBN: 9784793322464

参考書

キーワード検索がわかる(ちくま新書)

著者: 藤田節子

出版社: 筑摩書房

出版年: 2007

ISBN: 9784480063854

18歳の著作権入門(ちくまプリマー新書)

著者: 福井健策

出版社: 筑摩書房

出版年: 2015

ISBN: 9784480689283

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

1/3以上の欠席は不合格とする

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 博物館学概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

博物館についての基礎的知識及びその現状と問題点を理解したうえで、これからの博物館のあり方を考える。

授業の到達目標

博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館の現状と問題点を学び、その解決法を考える。

授業の概要

受講生に現代の博物館、美術館が抱える問題点について理解させ、今後のあり方について考えさせる。さらに経験をふまえた展示や運営などの具体的な事例について講義する。

準備学習(予習・復習)

身近な博物館に行き、その現状を把握する。

内 容

- 第1回 博物館学の目的・方法・構成博物館学の目的・方法・構成を学ぶ。授業の進め方についてのガイダンスを兼ねる。
- 第2回 博物館学史博物館学の歴史について学ぶ
- 第3回 博物館とは何か①博物館の定義と種類(館種、設置者別、法的区分等)を学ぶ
- 第4回 博物館とは何か②博物館の目的と機能を学ぶ
- 第5回 博物館の歴史と現状①我が国の博物館・美術館
- 第6回 博物館の歴史と現状②欧米の博物館・美術館1
- 第7回 博物館の歴史と現状③欧米の博物館・美術館2
- 第8回 博物館の歴史と現状④中国の博物館
- 第9回 博物館の歴史と現状⑤韓国の博物館
- 第10回 博物館の歴史と現状⑥博物館、美術館の問題—展覧会について
- 第11回 博物館の歴史と現状⑦博物館、美術館の問題—収集について
- 第12回 学芸員の役割①学芸員の定義・役割について学ぶ
- 第13回 学芸員の役割②学芸員の实態について学ぶ
- 第14回 博物館関係法令博物館関係法令について学ぶ
- 第15回 まとめ21世紀の博物館、美術館のあり方 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

・座席指定制とする。・講義回数3分の2以上出席を求む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 博物館教育論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ	資料重視型から利用者重視型へ向かう博物館での教育カリキュラムの構築
授業の到達目標	これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。
授業の概要	博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。
準備学習(予習・復習)	各地の博物館が行う教育プログラムに参加してみる。博物館のハンズ・オン展示に触れてみる。
内 容	<p>第1回 学びの意義(博物館の社会的存在感)</p> <p>第2回 【博物館教育の意義と理念】①コミュニケーションの場として博物館教育</p> <p>第3回 ②博物館機能の1つとしての教育的意義</p> <p>第4回 ③展示開発の中での教育担当者として役割</p> <p>第5回 ④博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)</p> <p>第6回 ⑤博物館教育の方針と評価</p> <p>第7回 【博物館の利用と学び】①博物館の利用実態と利用者の博物館体験</p> <p>第8回 ②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法</p> <p>第9回 ③博物館における有効な学びの特性ーハンズ・オン、ワークショップの展開</p> <p>第10回 【博物館教育の実際】①国立民族学博物館の見学</p> <p>第11回 ②キッズプラザ大阪の見学</p> <p>第12回 ③学校教育に生かす活動(展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係)</p> <p>第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成</p> <p>第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成</p> <p>第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成</p>
履修上の注意点	
教科書	造形ワークショップの広がり 著者： 高橋陽一編 出版社： 武蔵野美術大学出版局 出版年： 2011 ISBN: 9784901631983
参考書	博物館学ハンドブック 著者： 高橋隆博他 出版社： 関西大学出版部 出版年： 2005 ISBN: 9784873544199
成績評価	試験 (10) 小テスト (20) 授業中課題 (20) 授業中発表等 (10) 参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 博物館情報・メディア論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

授業の到達目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の概要

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

準備学習(予習・復習)

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

内 容

- 第1回 メディアの意義 今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。
- 第2回 メディアの歴史と発展 これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でどのように利用されてきたかを説明する。
- 第3回 メディアの未来とICT社会 メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関係でのCT社会について説明する。
- 第4回 メディアと認知心理学 情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。
- 第5回 メディアの利用とその影響 博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。
- 第6回 博物館におけるメディアの利用 博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。
- 第7回 視聴覚情報メディア機器の活用(静止画) おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第8回 視聴覚情報メディア機器の活用(動画) ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第9回 デジタル型視聴覚情報メディアについて 今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等についての説明を行う。
- 第10回 デジタル機器とデータベース 情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース(=デジタルアーカイブ)をどのように構築し、利用するかを説明する。
- 第11回 ドキュメンテーションとシソーラス デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。
- 第12回 博物館と著作権 博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務に必要な事柄(著作権処理等を含む)について説明を行う。
- 第13回 情報管理と情報公開 おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。
- 第14回 学生によるプレゼンテーション(1) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。
- 第15回 学生によるプレゼンテーション(2) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

履修上の注意点

教科書

山科ガイド

著者: 木下達文著

出版社: つむぎ出版

出版年: 2010

ISBN:

参考書

視聴覚メディアと教育方法

著者: 井上知義編

出版社：北大路書房

出版年：1999

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する。

小テスト（0）

授業中発表等（30）

2015 Syllabus

科目名 博物館経営論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

社会に役立つ博物館とは

授業の到達目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきた。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の概要

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養う。

準備学習(予習・復習)

できるだけ機会をつかっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。

内 容

- 第1回 ミュージアムマネジメントの概念と必要性 ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということとを解説する。
- 第2回 博物館の行財政(経営とその種類) 近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。
- 第3回 博物館の設置(主体) 国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。
- 第4回 博物館の施設・設備(ユニバーサル化を含む) そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。
- 第5回 博物館の組織と職員 博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。
- 第6回 博物館の使命と計画と評価 博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。
- 第7回 博物館倫理(行動規範) 博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色をふまえた行動規範について解説する。
- 第8回 博物館の危機管理 東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。
- 第9回 ミュージアムマーケティング 社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなっている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。
- 第10回 博物館と市民参画(友の会、ボランティア等) 博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会と文化ボランティア活動についての概要を説明する。
- 第11回 博物館とサービス(ミュージアムショップ・レストラン等) 博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。
- 第12回 博物館と地域連携 博物館はもはや単独経営では成り立たなくなっている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。
- 第13回 博物館の財務(資金調達) これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。
- 第14回 特別講義これまで博物館経営を行ってきた人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。
- 第15回 博物館の見学 実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

履修上の注意点

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者: 千地万造・木下達文編

出版社: 晃洋書房

出版年: 2007

ISBN:

参考書

新しい博物館学

著者: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社: 芙蓉書房出版

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

2015 Syllabus

科目名 博物館資料論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

授業の到達目標

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の概要

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。博物館資料の種類(文献・考古・民俗・自然史など)ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

準備学習(予習・復習)

博物館・美術館・資料館を訪ね、展示している資料を観察して、展示内容と展示の仕方を学習する。とくに京都国立博物館・奈良国立博物館は、キャンパスメンバーなので、頻繁に活用すること。

内 容

- 第1回 博物館資料には、どんなものがあるか
- 第2回 博物館資料の収集方法
- 第3回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第4回 遺跡博物館の展示方法
- 第5回 博物館資料の調査研究① 考古資料(1)
- 第6回 博物館資料の調査研究② 考古資料(2)
- 第7回 博物館資料の調査研究③ 民俗資料
- 第8回 博物館資料の調査研究④ 歴史資料
- 第9回 博物館資料の調査研究⑤ 美術資料
- 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第11回 博物館資料の調査研究⑥ 自然史資料
- 第12回 博物館資料の調査報告書(図録)の編集
- 第13回 博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
- 第14回 博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
- 第15回 まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 博物館資料保存論

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 篠 雅廣

テーマ

この講義は学芸員としての、博物館における資料保存の考え方と現状についてのごく原則的な態度はどうあるべきかについて学びます。あわせて、なにをもって「資料」とみなすのか、日常的な生活との比較をしながら考察します。

授業の到達目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の概要

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

準備学習(予習・復習)

講義の前後に適宜指示します。

内 容

- 第1回 資料保存の意義
- 第2回 文化財保存における国内外の状況①
- 第3回 文化財保存における国内外の状況②
- 第4回 資料の状態調査・現状把握
- 第5回 資料の修復・修理
- 第6回 資料の梱包と輸送1
- 第7回 資料の梱包と輸送2
- 第8回 博物館資料の保存環境事例1
- 第9回 博物館資料の保存環境事例2
- 第10回 学外授業① 博物館資料の保存環境事例3
- 第11回 地域文化資源の保存と活用事例1
- 第12回 地域文化資源の保存と活用事例2
- 第13回 学外授業② 地域文化資源の保存と活用事例3
- 第14回 環境保全と博物館
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

「言わずもがな」のことばかりですが、講義中は携帯電話の操作、体調不良以外の不要な離席、また私語は禁止します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義中、適宜指示します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (レポート提出(60%))

小テスト (講義中数回(40%))

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

上記のとおりです

2015 Syllabus

科目名 博物館展示論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の概要

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習(予習・復習)

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念)展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態)展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等)展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術)展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等)とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどとともに、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年：1996

ISBN:

イベント講座

著者：日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年：2004

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めると、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2015 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ <a>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ 博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。	
授業の到達目標 博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつつじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。	
授業の概要 現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。	
準備学習(予習・復習) 実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。	
内 容	
第1回 写真機(カメラ)の構造博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。	
第2回 博物館における資料撮影について博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。	
第3回 写真機の取り扱いブローニカカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。	
第4回 写真展の考え方撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。	
第5回 資料撮影の実際(1)撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。	
第6回 資料撮影の実際(2)1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。	
第7回 写真パネルの制作(1)撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用して作成指導する。	
第8回 写真パネルの制作(2)写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。	
第9回 図録編集の実務(1)博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。	
第10回 図録編集の実務(2)編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。	
第11回 レプリカ資料の制作(1)博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。	
第12回 レプリカ資料の制作(2)ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。	
第13回 写真展示の実際(1)自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。	
第14回 写真展示の実際(2)写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説なども行う。	
第15回 バリエーション(自己評価・他者評価)自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。	
第16回 【実習直前ガイダンス】実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導	
第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)	
第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)	
第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)	
第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)	
第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)	
第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ	

履修上の注意点

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

特に出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	
テーマ	博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。
授業の到達目標	博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつつじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。
授業の概要	現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。
準備学習(予習・復習)	実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。
内容	<p>第1回 写真機(カメラ)の構造博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。</p> <p>第2回 博物館における資料撮影について博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。</p> <p>第3回 写真機の取り扱いプロローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。</p> <p>第4回 写真展の考え方撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。</p> <p>第5回 資料撮影の実際(1)撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。</p> <p>第6回 資料撮影の実際(2)1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。</p> <p>第7回 写真パネルの制作(1)撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用して作成指導する。</p> <p>第8回 写真パネルの制作(2)写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。</p> <p>第9回 図録編集の実務(1)博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。</p> <p>第10回 図録編集の実務(2)編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。</p> <p>第11回 レプリカ資料の制作(1)博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。</p> <p>第12回 レプリカ資料の制作(2)ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。</p> <p>第13回 写真展示の実際(1)自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。</p> <p>第14回 写真展示の実際(2)写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説なども行う。</p> <p>第15回 バリエーション(自己評価・他者評価)自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。</p> <p>第16回 【実習直前ガイダンス】実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導</p> <p>第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)</p> <p>第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ</p>
履修上の注意点	
教科書	

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する

小テスト（0）

授業中発表等（30）

2015 Syllabus

科目名 生涯学習概論Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

授業の到達目標

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

準備学習(予習・復習)

授業中紹介した文献を読み世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる

内 容

- 第1回 ハンブルク宣言の意味するもの
- 第2回 イギリスにおける大学拡張
- 第3回 成人教育の成立と現在
- 第4回 ドイツにおける民衆大学
- 第5回 市民大学の現在
- 第6回 有給教育休暇の理念と制度
- 第7回 職業資格と生涯学習
- 第8回 社会的教育学の成立と青少年教育
- 第9回 高齢社会と生涯学習
- 第10回 多文化共生と生涯学習
- 第11回 世界と日本の環境・まちづくり学習
- 第12回 エコミュージアムと市民の学習
- 第13回 アジアの生涯学習 中国
- 第14回 アジアの生涯学習 韓国
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の大学危機

著者: 潮木守一

出版社: 中央公論新社

出版年: 2004

ISBN: 4-12-101764-1

現代世界の生涯学習

著者: 新海英行/牧野篤

出版社: 大学教育出版

出版年: 2002

ISBN: 4-88730-477-3

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 **社会教育計画 I**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

学習者の理解と学習課題の把握

授業の到達目標

社会教育計画策定の前提として、地域に暮らす多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題をさぐることを狙いとする。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

準備学習(予習・復習)

市町村の社会教育政策に関心を持つ。授業中に提示する参考文献を読む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 婦人教育から女性の学習へ
- 第3回 子育てに関わる学びとネットワークづくり
- 第4回 女性が働くことと学び
- 第5回 今日の青少年教育施設
- 第6回 子どもと地域 プレイパークの現在
- 第7回 エイジングはよくないことか？高齢者の可能性
- 第8回 教育と文化の主体としての高齢者
- 第9回 高齢社会と共生の課題
- 第10回 障害者の学習
- 第11回 障害者の自己表現と自立支援
- 第12回 在日外国人の現在と学習課題
- 第13回 多文化共生社会に関わる市民の学習
- 第14回 企画・考察の交流とまとめ 1
- 第15回 企画・考察の交流とまとめ 2

履修上の注意点

コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

社会教育計画 I もしくは社会教育計画 II のいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。

2015 Syllabus

科目名 **社会教育計画Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

地域・学校と社会教育計画

授業の到達目標

地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また学級・講座の企画力を養う。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

準備学習(予習・復習)

地域社会と学校および社会教育施設の関係について、自分の体験にもとづいて考えること。授業中提示した参考文献を読むこと。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育の場としての学校
- 第2回 小学校における施設開放
- 第3回 学社連携の実際
- 第4回 開かれた小学校とは？
- 第5回 校区社会教育の可能性
- 第6回 学校開放における安心と安全を考える
- 第7回 総合型地域スポーツクラブと部活動
- 第8回 中学校におけるキャリア教育と地域連携
- 第9回 高等学校と地域社会
- 第10回 青年の学習と新しい高等学校
- 第11回 青年の自立支援のための施設と事業
- 第12回 大学開放の歴史と現在
- 第13回 日本におけるカウンターユニヴァーシティ
- 第14回 権利としての職業教育・訓練
- 第15回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流

履修上の注意点

コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

社会教育計画Ⅰもしくは社会教育計画Ⅱのいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。

2015 Syllabus

科目名 **社会教育演習**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

社会教育の学習方法

授業の到達目標

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する

授業の概要

受講生の関心にもとづいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

準備学習(予習・復習)

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。また他者の意見に耳を傾けるようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 語ってみよう、自分のこと、地域のこと 1
- 第3回 語ってみよう、自分のこと、地域のこと 2
- 第4回 ゲーム、スポーツなどによる親睦・交流
- 第5回 郷土料理を通じて知る地域
- 第6回 調理実習の企画
- 第7回 調理実習の準備
- 第8回 調理実習の実施
- 第9回 学習のふりかえり
- 第10回 地域社会教育の調査1
- 第11回 地域社会教育の調査2
- 第12回 調査結果の発表準備
- 第13回 発表と交流
- 第14回 発表と交流
- 第15回 全体のまとめと評価

履修上の注意点

参加し、自己表現することが原則。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (70)

2015 Syllabus

科目名 **社会教育課題研究**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

京都市を中心とした施設・職員調査

授業の到達目標

地域の社会教育調査の方法を習得し、社会教育関係施設の課題を考える

授業の概要

京都市を中心とした身近な市町村の社会教育関連施設について、グループに分かれて訪問調査を行う。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

準備学習(予習・復習)

日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 京都市の社会教育の特徴
- 第3回 京都市の青少年教育施設について
- 第4回 京都市の児童館について
- 第5回 京都市の成人の教育施設について1
- 第6回 京都市の成人の教育施設について2
- 第7回 社会教育と地域福祉施設について
- 第8回 調査のグルーピング
- 第9回 調査のグルーピング
- 第10回 フィールドワーク
- 第11回 フィールドワーク 2
- 第12回 調査結果のまとめ1
- 第13回 調査結果のまとめ2
- 第14回 発表と交流
- 第15回 全体のまとめと評価

履修上の注意点

社会教育演習を履修していることが望ましい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (70)

2015 Syllabus

科目名 日本語教授法 I

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 前期 定員 100

履修条件 クラス指定

担当者 中川 裕子

テーマ

日本語教育概論

授業の到達目標

日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

準備学習(予習・復習)

日本語教育関係の文献を数多く読む。日本語教育関係のみならず、文化、日常生活に関する様々なものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。

内 容

- 第1回 日本語教育の現状
- 第2回 日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割
- 第3回 日本語教育の歴史①
- 第4回 日本語教育の歴史②
- 第5回 日本語教育の歴史③
- 第6回 外国語教授法①(文法訳読法、直接法)
- 第7回 外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)
- 第8回 外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)
- 第9回 日本語教育の内容①(初級で扱う文型)
- 第10回 日本語教育の内容②(入門期の発音指導)
- 第11回 日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)
- 第12回 日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)
- 第13回 日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)
- 第14回 日本語教育の内容⑥(指導案作成～実践へ)、言語の習得
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

三分の二以上の出席が原則。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育 基本用語事典

著者: 高見澤孟監修

出版社: アスク

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (30%)

小テスト (10%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (10%)

2015 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 裕子	
テーマ	日本語教育概論	
授業の到達目標	日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につける。	
授業の概要	<p>コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識(種類、特徴)、日本語指導の方法、日本語指導の内容、評価法、異文化理解と日本事情を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。</p>	
準備学習(予習・復習)	<p>日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート(日本語指導の方法に関する)に取り組む。</p>	
内 容	<p>第1回 コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン 第2回 教材論①(教材の種類と特徴—初級、中級、上級) 第3回 教材論②(教材の種類と特徴—技能別、学習者別) 第4回 教材論③(視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法) 第5回 日本語指導の内容①(初級の指導内容) 第6回 日本語指導の内容②(指導のプロセスと指導案) 第7回 日本語指導の内容③(練習方法の種類とその具体的指導方法) 第8回 日本語指導の内容④(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法) 第9回 日本語指導の内容⑤(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法) 第10回 日本語指導の内容⑥(中級の会話指導) 第11回 日本語指導の内容⑦(中級の文型指導、作文指導) 第12回 日本語指導の内容⑧(中級～上級の読解指導、教材作成) 第13回 日本語指導の内容⑨(異文化理解と日本事情) 第14回 評価法 第15回 まとめ</p>	
履修上の注意点	三分の二以上の出席が原則。	
教科書	<p>使用しない</p> <p>著者: 出版社: 出版年: ISBN:</p>	
参考書	<p>新・はじめての日本語教育 基本用語事典 著者: 高見澤孟監修 出版社: アスク 出版年: 2004 ISBN:</p> <p>日本語の教え方ABC 著者: 寺田和子他 出版社: アルク 出版年: 2001 ISBN:</p>	
成績評価	<p>試験 (30%) 小テスト (10%) 授業中課題 (30%) 授業中発表等 (20%) 参加度 (10%)</p>	

2015 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅲ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

授業の到達目標

これまで「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の概要

初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。授業は講義形式ではなく、毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。

準備学習(予習・復習)

自分が担当しない課でも、必ず教材研究を行うこと、教案についても作成することが望ましい。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
- 第2回 初級指導概説(初級の学習目標と指導の流れ)
- 第3回 初級指導概説(文型の定着方法と教案の作り方)
- 第4回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅰ 1課と2課前半)
- 第5回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅰ 2課後半と3課)
- 第6回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅰ 4課と5課前半)
- 第7回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅰ 5課後半と6課)
- 第8回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅰ 7課と8課前半)
- 第9回 模擬授業1～5の振り返り
- 第10回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅰ 8課後半と9課)
- 第11回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅰ 10課と11課前半)
- 第12回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅰ 11課後半と12課)
- 第13回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅰ 13課と14課前半)
- 第14回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅰ 14課後半と15課)
- 第15回 模擬授業6～10の振り返り、まとめ

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を対象としている。基本的に「日本語教授法Ⅲ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

教科書

みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2012

ISBN: 4883196036

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅳ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

授業の到達目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、初級後期の文型の導入方法を学ぶ。あわせて中級指導の概説も簡単に行う。

授業の概要

授業は講義形式ではなく、毎回毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。

準備学習(予習・復習)

日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課決定
- 第2回 前期模擬授業の反省点と課題
- 第3回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅱ 26課と27課前半)
- 第4回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅱ 27課後半と28課)
- 第5回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅱ 29課と30課前半)
- 第6回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅱ 30課後半と31課)
- 第7回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅱ 32課と33課前半)
- 第8回 模擬授業1～5の振り返り
- 第9回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅱ 33課後半と34課)
- 第10回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅱ 35課と36課前半)
- 第11回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅱ 36課後半と37課)
- 第12回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅱ 38課と39課前半)
- 第13回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅱ 39課後半と40課)
- 第14回 模擬授業6～10の振り返り
- 第15回 教育実習報告会

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を対象としている。基本的に「日本語教授法Ⅳ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

教科書

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2013

ISBN: 4883196463

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (10)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語教材研究

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期

定員 50

履修条件 日本語教授法 I～IV履修
済みであること

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。

授業の到達目標

初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化を把握する。

授業の概要

授業は、講義形式ではなく、学生の発表を主体とした討議形式によって行う。前半はグループ形式で教材を分析しその内容を発表してもらい、後半は個人で特定のレベルを対象として教材作成を行ってもらう。

準備学習(予習・復習)

自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。地域の日本語教室への見学や参加などを自主的に
行うこと。

内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明・担当教材の決定
 第2回 教材分析の方法1(学習段階と到達目標)
 第3回 教材分析の方法2(教材分析の観点)
 第4回 初級教材(『日本語初歩』『An Introduction to Modern Japanese』)の分析・発表・討論1
 第5回 初級教材(『初級日本語 げんき』『Situational Functional Japanese』)の分析・発表・討論2
 第6回 初級教材(『新文化初級日本語』『みんなの日本語初級』)の分析・発表・討論3
 第7回 中上級教材(『中級日本語(東京外国語大学)』)の分析・発表・討論1
 第8回 中上級教材(『文化中級日本語 I・II』)の分析・発表・討論2
 第9回 中上級教材(『わたしの見つけた日本』)の分析・発表・討論3
 第10回 中上級教材(『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解』)の分析・発表・討論4
 第11回 中上級教材(『表現テーマ別にほんご作文の方法』)の分析・発表・討論5
 第12回 中上級教材(『日本語生中継』)の分析・発表・討論6
 第13回 教材作成実習(学習段階・学習項目の検討)
 第14回 教材作成実習(教材の選定)
 第15回 まとめ

履修上の注意点

※「日本語教授法」I～IVをはじめとする、日本語教員養成課程科目の大部分が履修済みである学生を対象としている。日本語教員養成課程科目を履修していない学生に対しては、原則として履修を認めない。出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本語教育実習

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件 日本語教材研究も同時に登録すること	クラス指定	
担当者 佐野 裕子		
テーマ		
日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習。		
授業の到達目標		
実際に日本語の授業の計画(教案作成、教材開発など)、実践、批判を行うことができる。		
授業の概要		
この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらう。事前授業における教員との個別指導は、原則週1回とする。		
準備学習(予習・復習)		
円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも前期中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。		
内 容		
第1回	第1回ガイダンス	海外実習、国内実習の概要説明・実習先決定調査(5月中旬～下旬に行う)
第2回	第2回ガイダンス	実習担当クラス(指導教師)の決定(6月中旬に行う予定)
第3回	第3回ガイダンス	実習の授業計画(7月上旬予定)
第4回	教案・教材作成	(夏休み期間中)
第5回	事前授業	教案・教材の最終確認・教員との個別指導の日程を決める(10月上旬予定)
第6回	国内実習	(11月上旬から中旬予定)
第7回	海外実習	(11月下旬予定)
第8回	事後授業	実習報告会[実習の感想や反省などを発表]、実習報告書などの課題提出(1月上旬予定)
第9回	実習報告書作成	(1月下旬から2月上旬予定)
履修上の注意点		
日本語教員養成課程に関する大部分の科目を履修した学生を対象としている。特に「日本語教授法」I～IVと「日本語教材研究」の計5科目を履修していない学生の受講は許可しない。ガイダンス(全3回を予定、ただし海外実習参加者は増える可能性あり)、事前・事後授業に「すべて」出席することが単位認定の要件である。特に事前事業、教育実習期間中の指導教員による授業見学に欠席した場合は、ただちに実習参加許可を取り消す。		
教科書		
なし		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
参考書		
授業時適宜紹介		
著者:		
出版社:		
出版年:	ISBN:	
成績評価		
試験 (0)	小テスト (0)	
授業中課題 (25)	授業中発表等 (60)	
参加度 (15)		

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <M>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

修士論文作成

授業の到達目標

修士論文の作成をめざして資料収集と読解、論文構成の確立、分析、執筆までを指導する

授業の概要

受講生による報告が中心になる。

準備学習(予習・復習)

授業内で指示

内 容

第1回 概要説明

第2回 受講生による発表と指導

第3回 受講生による発表と指導

第4回 受講生による発表と指導

第5回 受講生による発表と指導

第6回 受講生による発表と指導

第7回 受講生による発表と指導

第8回 受講生による発表と指導

第9回 受講生による発表と指導

第10回 受講生による発表と指導

第11回 受講生による発表と指導

第12回 受講生による発表と指導

第13回 受講生による発表と指導

第14回 受講生による発表と指導

第15回 まとめ

履修上の注意点

受講生は毎週、一週間間に修士論文の作成はどれだけ進んだか進捗状況を報告すること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(言M2後)〈M〉

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

修士論文の作成

授業の到達目標

前期の指導に基づき修士論文の完成をめざす

授業の概要

受講生による発表が中心になる

準備学習(予習・復習)

授業内で指示する

内 容

第1回 概要説明

第2回 受講生による発表と指導

第3回 受講生による発表と指導

第4回 受講生による発表と指導

第5回 受講生による発表と指導

第6回 受講生による発表と指導

第7回 受講生による発表と指導

第8回 受講生による発表と指導

第9回 受講生による発表と指導

第10回 受講生による発表と指導

第11回 受講生による発表と指導

第12回 受講生による発表と指導

第13回 受講生による発表と指導

第14回 受講生による発表と指導

第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回受講生は修士論文作成の進捗状況を報告すること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本文学研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都

授業の到達目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の概要

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。現地研修も授業時間以外に自由参加の形で行う。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 平安京という都
- 第2回 大内裏と内裏
- 第3回 源氏物語と内裏
- 第4回 光源氏の邸宅～二条の院と六条院
- 第5回 嵯峨野(現地学習を別に設定する)
- 第6回 比叡山
- 第7回 宇治(現地学習を別に設定する)
- 第8回 大原野
- 第9回 西山
- 第10回 小野
- 第11回 北山
- 第12回 逢坂の関と伊勢路
- 第13回 須磨・明石
- 第14回 紫式部の越前行
- 第15回 紫式部ゆかりの地

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて

著者: 加納重文

出版社: 宮帯出版

出版年: 2011

ISBN:

源氏物語の平安京

著者: 加納重文

出版社: 青簡舎

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

女性と文学

授業の到達目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の概要

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 「文学について考える」ということ
- 第2回 蜻蛉日記の作者
- 第3回 蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
- 第4回 枕草子が生まれた歴史的背景
- 第5回 枕草子の文章
- 第6回 源氏物語の文学論～螢の巻～
- 第7回 源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
- 第8回 源氏物語の空蟬の思い～帚木・空蟬の巻～
- 第9回 源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
- 第10回 和泉式部という人
- 第11回 和泉式部日記
- 第12回 更級日記の作者
- 第13回 更級日記
- 第14回 摂州合邦辻～武士の妻～
- 第15回 与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験はレポート試験とする。

2015 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅴ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

夏目漱石と陽明学

授業の到達目標

漱石文学と陽明学の関わりを明らかにする

授業の概要

前期の授業では『坊っちゃん』を取り上げ、主人公、坊っちゃんの人物像と陽明学の関わりを考えていく

準備学習(予習・復習)

毎回、課題を出すのでかならずやってくる

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漱石と陽明学
- 第3回 『坊っちゃん』の研究史
- 第4回 近代日本の陽明学
- 第5回 『坊っちゃん』と近代官僚制
- 第6回 『坊っちゃん』と明治維新
- 第7回 『坊っちゃん』と没落士族
- 第8回 『坊っちゃん』と『或る明治人の記録』
- 第9回 『坊っちゃん』と陽明学(1)
- 第10回 『坊っちゃん』と陽明学(2)
- 第11回 『坊っちゃん』と陽明学(3)
- 第12回 『坊っちゃん』と陽明学(4)
- 第13回 『坊っちゃん』と陽明学(5)
- 第14回 『坊っちゃん』と陽明学(6)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

課題は必ずやってくる

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅵ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 野村 幸一郎

テーマ

夏目漱石と陽明学

授業の到達目標

夏目漱石『こころ』と陽明学の関わりを明らかにする

授業の概要

乃木希典や陽明学との関わりから『こころ』の倫理性について明らかにする

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『こころ』研究史
- 第3回 明治の精神について
- 第4回 乃木希典の生涯と思想
- 第5回 司馬遼太郎『殉死』『坂の上の雲』に描かれた乃木
- 第6回 『こころ』に描かれた三角関係
- 第7回 Kの自殺
- 第8回 静と奥さんの思惑
- 第9回 先生の生い立ち
- 第10回 先生の倫理性
- 第11回 『こころ』と陽明学(1)
- 第12回 『こころ』と陽明学(2)
- 第13回 『こころ』と陽明学(3)
- 第14回 『こころ』と陽明学(4)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回出される課題はかならずやってくる

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 日本語学研究Ⅱ

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語教育に必要な文法知識について考える

授業の到達目標

1)日本語教育における文法研究の現状を理解する。2)日本語教育の現場にフィードバック可能な文法のあり方について理解する。

授業の概要

グループ・ジャマシイ著『教師と学習者のための日本語文型辞典』の項目について、教育現場でどのような授業を構築していくかを念頭に置いて、検討を行う。

準備学習(予習・復習)

報告の準備をすること。

内 容

- 第1回 日本語教育と文法
- 第2回 受講生の報告と討論1
- 第3回 受講生の報告と討論2
- 第4回 受講生の報告と討論3
- 第5回 受講生の報告と討論4
- 第6回 受講生の報告と討論5
- 第7回 受講生の報告と討論6
- 第8回 受講生の報告と討論7
- 第9回 受講生の報告と討論8
- 第10回 受講生の報告と討論9
- 第11回 受講生の報告と討論10
- 第12回 受講生の報告と討論11
- 第13回 受講生の報告と討論12
- 第14回 受講生の報告と討論13
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Ma>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史(平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国)の史料・論文を読む

授業の到達目標

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

授業の概要

日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

準備学習(予習・復習)

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

内 容

- 第1回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(1)
- 第2回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(2)
- 第3回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(3)
- 第4回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(4)
- 第5回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(5)
- 第6回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(6)
- 第7回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(7)
- 第8回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(8)
- 第9回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(9)
- 第10回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(10)
- 第11回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(11)
- 第12回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(12)
- 第13回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(13)
- 第14回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(14)
- 第15回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (70)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後) <Ma>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史(平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国)の史料・論文を読む

授業の到達目標

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

授業の概要

日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

準備学習(予習・復習)

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

内 容

- 第1回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(1)
- 第2回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(2)
- 第3回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(3)
- 第4回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(4)
- 第5回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(5)
- 第6回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(6)
- 第7回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(7)
- 第8回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(8)
- 第9回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(9)
- 第10回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(10)
- 第11回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(11)
- 第12回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(12)
- 第13回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(13)
- 第14回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(14)
- 第15回 日本中世史関係の史料・論文を読み、討論(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Ma>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

自己の考古学遺跡調査の報告書の分析力を身につける

授業の到達目標

研究に必要な基礎的データを取得するための遺跡調査のデータの集約、分析をし報告書作成を体感する。

授業の概要

遺跡調査の集約、分析、製図、文章作成、報告書編集、それらのマネージメントを行う。

準備学習(予習・復習)

行政・他大学の発掘調査や整理作業に参加する。

内 容

- 第1回 報告書作成の調査現場を観察する。
- 第2回 報告書作成の調査現場を観察する。
- 第3回 報告書作成の現場を観察する。
- 第4回 調査図面等の基本データの集約を行う。
- 第5回 調査図面等の基本データの集約を行う。
- 第6回 調査の集約したデータの分析を行う。
- 第7回 調査の集約したデータの分析を行う。
- 第8回 調査図面などの製図を行う。
- 第9回 調査図面などの製図を行う。
- 第10回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
- 第11回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
- 第12回 調査報告のマネージメントを考える。
- 第13回 調査報告のマネージメントを考える。
- 第14回 調査報告書を作成する。
- 第15回 調査報告書を作成する。 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Mb>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

修士論文作成のために

授業の到達目標

質の高い修士論文を作成させる

授業の概要

院生と一緒に史料、文献を読むとともに、課題を与え点検する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 修士論文作成の計画について質疑応答
 第2回 一緒に史料、文献を読む。
 第3回 一緒に史料、文献を読む。
 第4回 一緒に史料、文献を読む。
 第5回 一緒に史料、文献を読む。
 第6回 一緒に史料、文献を読む。
 第7回 修士論文作成の進行状況点検
 第8回 一緒に史料、文献を読む。
 第9回 一緒に史料、文献を読む。
 第10回 一緒に史料、文献を読む。
 第11回 中間報告用の質疑応答
 第12回 一緒に史料、文献を読む。
 第13回 一緒に史料、文献を読む。
 第14回 一緒に史料、文献を読む。
 第15回 修士論文作成の進行状況点検

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後) <Ma>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

修士論文を設計。

授業の到達目標

現状における研究の到着点を把握し、問題点を見出し、自己の論文の立ち位置を整備し修論の構成をねりあげる。

授業の概要

発表に基づき、評価し、点検し、設計し、組立てる。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究論文の書き方。
- 第2回 研究史に関する発表と討議。
- 第3回 研究史に関する発表と討議。
- 第4回 研究史に関する評価。
- 第5回 研究史に関する点検。
- 第6回 研究対象資料の組立の検討。
- 第7回 研究対象資料の組立の検討。
- 第8回 自己研究の点検。
- 第9回 自己研究の点検。
- 第10回 研究対象資料の検討。
- 第11回 研究発表と討議。
- 第12回 研究発表と討議。
- 第13回 論文設計の不足の点検。
- 第14回 論文設計の不足の点検。
- 第15回 まとめと課題の検出。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後) <Mb>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

修士論文作成のために

授業の到達目標

質の高い修士論文を作成させる

授業の概要

修士論文のために、史料・文献と一緒に読むとともに、定期的に論文下書を点検する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 修士論文作成のための話し合い
- 第2回 修士論文作成のための話し合い
- 第3回 修士論文作成のための話し合い
- 第4回 修士論文作成のための話し合い
- 第5回 修士論文下書の点検
- 第6回 修士論文下書の点検
- 第7回 修士論文作成のための話し合い
- 第8回 修士論文作成のための話し合い
- 第9回 修士論文作成のための話し合い
- 第10回 修士論文下書の点検
- 第11回 修士論文下書の点検
- 第12回 修士論文下書の点検
- 第13回 修士論文完成
- 第14回 修士論文の反省
- 第15回 修士論文の反省

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 国際関係史論 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

文化交流史の諸問題 総論編

授業の到達目標

グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。この授業では、現代文化の形成を、世界の一体化という視点から、様々な側面から考察します。理解促進のため、映画もみませ。

授業の概要

国際交流や文化史を学ぶために必要な基礎的概念を学習します。

準備学習(予習・復習)

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

内 容

- 第1回 日本文化はあるのか
- 第2回 文明と野蛮(1) 明治日本の挑戦
- 第3回 文明と野蛮(2) 黄禍論と白禍論
- 第4回 文明と野蛮(3) 「王様と私」
- 第5回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第6回 人種問題(1) なぜ人種差別が生まれたのか
- 第7回 人種問題(2) アメリカの人種問題
- 第8回 人種問題(3) 「フライド・グリーン・トマト」
- 第9回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第10回 多文化主義(1) オーストラリアの多文化主義
- 第11回 多文化主義(2) 日本で多文化主義は可能か
- 第12回 移動する人びと(1) 大量移民の時代
- 第13回 移動する人びと(2) 文化摩擦
- 第14回 移動する人びと(3) グローバル世界
- 第15回 全体の考察とまとめ

履修上の注意点

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

白人とは何か

著者: 藤川隆男編

出版社: 刀水書房

出版年: 2005年

ISBN: 978-4887083462

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

2015 Syllabus

科目名 日本古代史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北 啓太

テーマ

正倉院からみた奈良平安時代の政治と文化

授業の到達目標

歴史学研究の水準を知り、史料に立脚して歴史を理解するとともに、古代史における政治と文化の関わりについて知識を深める。

授業の概要

正倉院宝物は古代に東大寺へ献納されたものを中核とし、その成立・伝来において政治の動向と関わりを持っている。正倉院とその多彩な宝物を足がかりにして、史料に基づきながら奈良時代中期以降平安時代末期までの政治と文化の問題を考察する。

準備学習(予習・復習)

資料を配布することがあるので、自身のノートとともに授業後によく復習すること。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 献物帳と奈良時代中期の政治権力①
- 第3回 献物帳と奈良時代中期の政治権力②
- 第4回 献物帳の諸問題①
- 第5回 献物帳の諸問題②
- 第6回 宝物献納の意義①
- 第7回 宝物献納の意義②
- 第8回 奈良時代後期の政治と正倉院①
- 第9回 奈良時代後期の政治と正倉院②
- 第10回 平安遷都
- 第11回 平安時代の正倉院①
- 第12回 平安時代の正倉院②
- 第13回 平安時代の寺院宝蔵と政治権力①
- 第14回 平安時代の寺院宝蔵と政治権力②
- 第15回 おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正倉院の歴史

著者: 橋本義彦

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1997年

ISBN:

正倉院と日本文化

著者: 米田雄介

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1998年

ISBN:

正倉院

著者: 杉本一樹

出版社: 中公新書

出版年: 2008年

ISBN:

その他、随時授業中に提示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（70）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

2015 Syllabus

科目名 日本中・近世史研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐伯 智広

テーマ

日本史上における古代から中世への移行

授業の到達目標

1 日本の中世の特質と、その始まりについて理解し、説明することができるようになる。2 歴史学の方法論について理解し、応用することができるようになる。3 歴史についての思索を深め、価値判断を下すことができるようになる。

授業の概要

本講義では、日本の中世の歴史について、講義形式で考えます。……そもそも、中世とはなんでしょう？その歴史について考えることは、現代に生きる我々にとってどのような意味があるのでしょうか？そのことについては、講義の中でおいおい考えていきます。今この時点ではっきり言えるのは、「過去は現代の我々と切り離されたものであると同時に、連続するものでもあり、それゆえに知る価値がある。」ということです。それがいったいどういうことなのか、気になるみなさんの受講を歓迎します。

準備学習(予習・復習)

平常の課題として、予習シートを課し、各回のキーワードについて、あらかじめ辞書類で調べてきてもらいます(15分程度)。また、講義の前には、前回の講義の内容を復習しておくことが望ましいです(15分程度)。

内 容

- 第1回 イントロダクション 時代を分けるということ
- 第2回 「皇位継承と政治形態」1 摂関政治
- 第3回 「皇位継承と政治形態」2 院政
- 第4回 「皇位継承と政治形態」3 公武統一政権の成立
- 第5回 「武士の成立」1 職業軍人の時代
- 第6回 「武士の成立」2 「兵」の登場
- 第7回 「武士の成立」3 「武者」の世と地方の時代
- 第8回 「武士の成立」4 武士政権成立の道
- 第9回 「荘園と土地所有」1 土地「私有」の歴史
- 第10回 「荘園と土地所有」2 「荘園」の時代
- 第11回 「荘園と土地所有」3 「荘園制」の時代
- 第12回 「仏教と中世社会」1 八宗体制の成立
- 第13回 「仏教と中世社会」2 末法思想と浄土教
- 第14回 「仏教と中世社会」3 「鎌倉新仏教」とは何か
- 第15回 まとめ 中世社会と現代

履修上の注意点

講義は板書形式で進みます。板書を書き写すためのノート類を持参してください。私語など、講義の進行を妨げる行為を行い、教員の指導に従わない場合、成績上の減点を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義内で適宜示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験はレポート形式です。

2015 Syllabus

科目名 日本中・近世史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 佐伯 智広

テーマ

日本史上における中世から近世への移行

授業の到達目標

1 日本の中世の特質と、その終わりについて理解し、説明することができるようになる。2 歴史学の方法論について理解し、応用することができるようになる。3 歴史についての思索を深め、価値判断を下すことができるようになる。

授業の概要

本講義では、日本の中世の歴史について、講義形式で考えます。……そもそも、中世とはなんでしょう？その歴史について考えることは、現代に生きる我々にとってどのような意味があるのでしょうか？そのことについては、講義の中でおいおい考えていきます。今この時点ではっきり言えるのは、「過去は現代の我々と切り離されたものであると同時に、連続するものでもあり、それゆえに知る価値がある。」ということです。それがいったいどういうことなのか、気になるみなさんの受講を歓迎します。

準備学習(予習・復習)

平常の課題として、予習シートを課し、各回のキーワードについて、あらかじめ辞書類で調べてきてもらいます(15分程度)。また、講義の前には、前回の講義の内容を復習しておくことが望ましいです(15分程度)。

内 容

- 第1回 日本中世の特質
- 第2回 室町幕府の政治体制
- 第3回 室町幕府の崩壊
- 第4回 自治の時代
- 第5回 織田信長と「天下」 その1
- 第6回 織田信長と「天下」 その2
- 第7回 豊臣秀吉と「惣無事」 その1
- 第8回 豊臣秀吉と「惣無事」 その2
- 第9回 室町幕府の宗教政策
- 第10回 室町時代の浄土真宗・日蓮宗
- 第11回 織豊政権の宗教政策 その1
- 第12回 織豊政権の宗教政策 その2
- 第13回 中世の商工業
- 第14回 織豊政権の商工業政策
- 第15回 日本中世の終焉

履修上の注意点

講義は板書形式で進みます。板書を書き写すためのノート類を持参してください。私語など、講義の進行を妨げる行為を行い、教員の指導に従わない場合、成績上の減点を行うことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義内で適宜示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験はレポート形式です。

2015 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小林 文広

テーマ

近世～近代にかけての地域社会を考える

授業の到達目標

近世から近代にかけての地域社会の変容は、現代の私たちの生活を考える上でも基本となる事柄である。そこで、それに関する最新の研究成果を提示することで、歴史学的な物の見方・考え方を養うことに努める。

授業の概要

京都を主たるフィールドとして、具体的な史料を提示しながら、その意味を考える。

準備学習(予習・復習)

配付資料について、授業で十分に理解できなかったところを読み返しておく。

内 容

- 第1回 授業全体の流れと考え方を説明する。また受講生のアンケートを行い、関心の所在を確認する。
- 第2回 日本社会と都市の歴史について考える。
- 第3回 享保の飢饉をめぐる史料を取り上げ、その意味を考える。
- 第4回 天保の飢饉をめぐる史料を取り上げ、その意味を考える。
- 第5回 幕末の政治と社会との関係を考える。
- 第6回 具体的な作業を通じて、史料解読と地域理解を学ぶ。
- 第7回 幕末維新期の都市社会の変容について考える。
- 第8回 幕末維新期の史料をめぐって、その解読を試みる。
- 第9回 地域社会の担い手となる主要な人物を取り上げ、その人物像を検討する。
- 第10回 近代化と地域社会との関係を考える。
- 第11回 京都の近代について政治・経済・文化など複合的な物の見方を試みる。
- 第12回 通説と史料批判のあり方について、歴史学の方法論を学ぶ。
- 第13回 近代京都について政治の流れと社会の変容について考える。
- 第14回 授業のまとめと小テスト
- 第15回 小テストの講評と授業内容の補足

履修上の注意点

出席状況は重視するので、欠席・遅刻はしないこと。

教科書

参考書

明治維新と京都

著者： 小林文広

出版社： 臨川書店

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席状況は重視する。

2015 Syllabus

科目名 日本女性史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①淀殿
- 第2回 戦国～織豊期の女性②利家正室まつ
- 第3回 おあんが語る戦国時代
- 第4回 大阪城の女房おきくの落城体験
- 第5回 江戸幕府の成立と女性
- 第6回 春日局の一生とその役割
- 第7回 江戸時代の農村女性の生活
- 第8回 江戸時代の商家の女性
- 第9回 明治維新とは
- 第10回 大正デモクラシーと女性
- 第11回 戦時中の生活変化と女性の役割
- 第12回 戦後改革と女性
- 第13回 現代社会の女性の地位変化
- 第14回 日本女性史の課題
- 第15回 まとめと記述式試験

履修上の注意点

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN:

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN:

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（80）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（20）

最終日に試験を行います。

2015 Syllabus

科目名 古文書研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

上級・中級の古文書(1)

授業の到達目標

くずし字を読み解く能力を高める。

授業の概要

この科目は、学部2回生・3回生・4回生のうち、大学院進学を考えている学生やくずし字を学ぶことが好きな学生のために、開講されている科目であり、古文書学AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡのうち2科目を履修しないと、履修することができない科目である。テキストに用いるのは、くずし字で書かれた中近世の古文書・編纂物の写真などである。なお、夏季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。また、できれば『くずし字用例辞典』(東京堂出版)を購入して欲しい。

準備学習(予習・復習)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習・復習を行うことが大切である。とくに古文書は声を出しながら何度も読むこと、読めない字を何度も書くことは大事であろう。また活字化された多くの文献史料にできるだけ目を通すことも大事と考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書の解読、その1
- 第3回 古文書の解読、その2
- 第4回 古文書の解読、その3
- 第5回 編纂物の解読、その1
- 第6回 編纂物の解読、その2
- 第7回 編纂物の解読、その3
- 第8回 編纂物の解読、その4
- 第9回 編纂物の解読、その5
- 第10回 編纂物の解読、その6
- 第11回 編纂物の解読、その7
- 第12回 編纂物の解読、その8
- 第13回 編纂物の解読、その9
- 第14回 本学所蔵文書の熟覧
- 第15回 まとめ(学外の資料館・博物館見学を行う場合がある)

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

江戸時代の古文書を読む(全10冊)

著者: 徳川林政史研究所監修

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 2002年~2012年

成績評価

試験(30)

小テスト()

授業中課題(20)

授業中発表等(20)

参加度(30)

2015 Syllabus

科目名 日本史史料講読Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

文献史料を熟読する

授業の到達目標

文献史料を熟読するためのスキルを獲得する。

授業の概要

『愛知県史資料編』のなかの社会経済史・文化史に関する史料を読む。受講生の予習を前提に進める。予習に際しては、『愛知県の歴史』(山川出版社、新版の県史シリーズの1冊)や、愛知県内の自治体史の通史編を参照して欲しい。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習(予習・復習)

文献史料を正しく読むための訓練を積み重ねること。また文献史料をなるべく多く読んで欲しい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料の講読
- 第3回 文献史料の講読
- 第4回 文献史料の講読
- 第5回 文献史料の講読
- 第6回 文献史料の講読
- 第7回 文献史料の講読
- 第8回 文献史料の講読
- 第9回 文献史料の講読
- 第10回 文献史料の講読
- 第11回 文献史料の講読
- 第12回 文献史料の講読
- 第13回 文献史料の講読
- 第14回 文献史料の講読
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 ヨーロッパ中・近世史研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化1

授業の到達目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解することをめざす。

授業の概要

中世には強力な王権の下に軍事封建制社会を生み出し、近世以降は、王権主導の宗教改革を経ていち早く中央集権国家となる一方で、17世紀には革命を経験したイギリスの歩みをたどる。

準備学習(予習・復習)

中世・近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること

内 容

- 第1回 イギリスという国 ―諸民族の到来
- 第2回 中世イングランド国家の誕生
- 第3回 軍事封建制と騎士と荘園制 ―土地保有の諸相
- 第4回 封建制社会のなかの人々 ―聖職者、農民、都市民、
- 第5回 封建体制の変容 ―王権と身分制議会
- 第6回 封建社会の変動 ―農奴解放
- 第7回 封建体制の解体 ―百年戦争とバラ戦争
- 第8回 インターミッション ―中間まとめ
- 第9回 近世国家の成立 ―テューダー行政改革
- 第10回 近世王権① ―イングランド宗教改革
- 第11回 近世王権② ―エリザベス1世治世
- 第12回 王権と議会① ―ステュアート朝と内乱
- 第13回 王権と議会② ―王政復古と名誉革命
- 第14回 18世紀の政治体制 ―君臨すれども統治せず
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退出をしないよう心がけること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 ヨーロッパ中・近世史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化2

授業の到達目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解することをめざす。

授業の概要

近世以降、いち早く中央集権国家となり新大陸へ進出して重商主義帝国を形成し、18世紀には商業革命、農業革命、産業革命を経験して、19世紀の覇権国家への途を進んだイギリスの変容をたどる。

準備学習(予習・復習)

近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること。

内 容

- 第1回 近世の社会構造① 一支配するジェントルマン
- 第2回 近世の社会構造② 一オープン・エリート制
- 第3回 商業革命① 一重商主義帝国の形成
- 第4回 商業革命② 一生活革命
- 第5回 帝国の社会史① 一植民地へ行く人々(ジェントルマン、自由移民)
- 第6回 帝国の社会史② 一植民地へ行く人々(兵士、流刑者)
- 第7回 帝国の社会史② 一植民地へ行く人々(年奉公人)
- 第8回 インターミッション 一中間まとめ
- 第9回 ライフ・サイクル・サーヴァント制① 一若年者移民の背景
- 第10回 ライフ・サイクル・サーヴァント制② 一伝統的家族の実態
- 第11回 農業革命① 一資本主義的農場経営と農村からの労働力解放
- 第12回 農業革命② 一伝統的家族の変容
- 第13回 産業革命① 一生産様式の変容
- 第14回 産業革命② 一労働形態の変容、家族の変容

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退出をしないよう心がけること。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (70)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ近代史研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく。近現代史に焦点を当てるが、その前段階として前近代を概観しその上で近現代のヨーロッパの食の歴史を検討していく。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質(1)
- 第3回 ヨーロッパの食文化の特質(2)
- 第4回 西洋古代の食の歴史
- 第5回 西洋中世の食の歴史
- 第6回 西洋近世の食の歴史(1)
- 第7回 西洋近世の食の歴史(2)
- 第8回 西洋近代の食の歴史(1)
- 第9回 西洋近代の食の歴史(2)
- 第10回 西洋近代の食の歴史(3)
- 第11回 西洋近代の食の歴史(4)
- 第12回 西洋現代の食の歴史(1)
- 第13回 西洋現代の食の歴史(2)
- 第14回 西洋現代の食の歴史(3)
- 第15回 まとめ・総括

履修上の注意点

教科書

参考書

<食>から読み解くドイツ近代史

著者: 南 直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015年

ISBN:

世界の食文化⑩ドイツ

著者: 南 直人

出版社: 農文協

出版年: 2003年

ISBN: 978-4540032202

ヨーロッパの食文化

著者: マッシモ・モンターナリ

出版社: 平凡社

出版年: 1999年

ISBN: 978-4582476354

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ近代史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南直人

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

ヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 食の産業化(1)
- 第3回 食の産業化(2)
- 第4回 食の産業化(3)
- 第5回 食に関する知の近代化(1)
- 第6回 食に関する知の近代化(2)
- 第7回 食に関する知の近代化(3)
- 第8回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第9回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第10回 食品偽装問題と食品監視システムの形成(1)
- 第11回 外食の発達(1)
- 第12回 外食の発達(2)
- 第13回 ベルリンの歴史を歩く(1)
- 第14回 ベルリンの歴史を歩く(2)
- 第15回 ベルリンの歴史を歩く(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史

著者: 南直人

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015年

ISBN:

世界の食文化⑩ドイツ

著者: 南直人

出版社: 農文協

出版年: 2003年

ISBN: 978-4540032202

ヨーロッパの食文化

著者: マッシモ・モンターリ

出版社: 平凡社

出版年: 1999年

ISBN: 978-4582476354

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 考古資料研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

東アジアにおける古代墳墓実像の再構築のための文献講読

授業の到達目標

研究テーマにそくした関連文献の講読を通して、基本となる資料を収集・整備や研究史の整理、そこから課題を抽出し、検討・解釈を行うという力を養う。今回は古代大型墳墓に焦点をあてる。

授業の概要

古代墳墓、特に磚室墓にかかわる中国の発掘報告書を再調査する視角から購読し、墳墓の細部構造の認識に至る。

準備学習(予習・復習)

東アジア初期の古代大型墳墓資料を収集する

内 容

- 第1回 東アジアにおける古代墳墓の概観
- 第2回 東アジア初期の古代墳墓の抽出
- 第3回 磚室墓の構造の把握
- 第4回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第5回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第6回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第7回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第8回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第9回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第10回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
- 第11回 磚室墓の発掘調査内容の整理
- 第12回 磚室墓の実態復元
- 第13回 磚室墓群の構造の再構築の試み
- 第14回 磚室墓群の比較・検討
- 第15回 東アジアの古代墳墓の実像のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

洛陽焼溝漢墓墓

著者： 中国科学院考古研究所編

出版社： 科学出版社

出版年： 1959

ISBN:

広州漢墓

著者： 中国科学院考古研究所編

出版社： 文物出版社出版

出版年： 1981

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 考古資料研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

日本の農耕文化はどこから伝播したのか。

授業の到達目標

中国における水稻農法文化・畑作農耕文化を理解し、我が国・朝鮮半島の地域に与えた影響を考察できるよう指導し、理解を得る。

授業の概要

マンツーマン方式で授業するが、質問を受け付け、話題を広げていく。農耕文化が東アジア以外の地域ではどんな展開を遂げたのを調べ発表させ、東アジアの農耕文化の特質を理解してもらう。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 中国における植物性食料の採集管理の始まり。
- 第2回 中国の南北で産農耕の開始。粟と水稻の栽培。
- 第3回 黄河流域の初期農耕文化と文化内容。
- 第4回 揚子江流域の初期農耕文化の文化内容。
- 第5回 遼西などの辺境地域の農業文化。
- 第6回 黄河流域における新石器時代文化の展開。
- 第7回 黄河流域における新石器時代文化の展開。
- 第8回 黄河流域における新石器時代文化の展開。
- 第9回 黄河流域における新石器時代文化の展開。
- 第10回 揚子江流域の新石器時代文化の展開。
- 第11回 揚子江流域の新石器時代文化の展開。
- 第12回 揚子江流域の新石器時代文化の展開。
- 第13回 揚子江流域の新石器時代文化の展開。
- 第14回 朝鮮半島の新石器時代文化。
- 第15回 日本の新石器文化の起源を探る。
- 第16回

履修上の注意点

中国語の辞書を用意すること。

教科書

参考書

中国考古学 新石器時代巻

著者： 中国社会科学院考古研究所

出版社： 中国社会科学出版社

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 古文書・史料学研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①

第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②

第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③

第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④

第6回 学外授業

第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤

第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥

第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦

第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧

第11回 学外授業

第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①

第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②

第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③

第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 古文書・史料学研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習(予習・復習)

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①

第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②

第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③

第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④

第6回 学外授業

第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤

第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥

第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦

第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧

第11回 学外授業

第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①

第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②

第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③

第15回 総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (70)

出席を重視する。

2015 Syllabus

科目名 修復・史跡整備資料研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあるあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習(予習・復習)

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者: 一瀬和夫

出版社: 新泉社

出版年: 2009

ISBN: 9784787709356

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (40)

2015 Syllabus

科目名 修復・史跡整備資料研究Ⅱ〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	
テーマ 考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。	
授業の到達目標 社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。	
授業の概要 考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに向き今後の考古学のあり方を考える。	
準備学習(予習・復習) 発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査(現地説明会等)・史跡整備地の見学	

内 容

- 第1回 考古学の枠組み-過去に何がおこったか
- 第2回 考古学の枠組み-考古学の目的と方法
- 第3回 状況-発掘とは
- 第4回 状況-分布と予備調査
- 第5回 状況-発掘の手続き
- 第6回 状況-発掘(野外調査)
- 第7回 状況-保存措置と調査報告書作成
- 第8回 型式と層位、共存-層位と文化面
- 第9回 型式と層位、共存-異教時代の考古学
- 第10回 型式と層位、共存-型式学と編年研究
- 第11回 型式と層位、共存-相対年代と絶対年代の間
- 第12回 型式と層位、共存-共存資料と年代
- 第13回 層位学的研究と型式学的研究法のトレーニング
- 第14回 発掘現場の見学
- 第15回 遺跡発掘調査の現状と保存

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9784311300868

参考書

考古学研究入門

著者: H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1981

ISBN:

考古学への招待

著者: ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳

出版社: 雄山閣出版

出版年: 1988

ISBN: 4639007124

過去を読む

著者: イアン・ホッダー著、深澤百合子訳

出版社: フジインターナショナルプレス

出版年: 1997

ISBN:

h102014750

考古学—理論・方法・実践—

著者： コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社： 東洋書林

出版年： 2007

ISBN: 9784887217157

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (45)

授業中発表等 (10)

参加度 (35)

2015 Syllabus

科目名 東アジア文化財研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習(予習・復習)

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
- 第12回 敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
- 第13回 河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
- 第14回 雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
- 第15回 内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

2015 Syllabus

科目名 歴史学・文化財学研究方法論 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

日本史の研究手法の諸問題

授業の到達目標

博士課程前期1回生の授業であり、受講生それぞれの研究課題を聞いたうえで、それに応じての修士論文作成のための大まかな方法論と史料操作の方法などを中心に授業を進める。

授業の概要

修士論文作成までのプロセスを自覚化させるとともに、大学院生としての史料の収集方法、先行研究との対峙化、レジュメ作成方法、論文作成方法など徹底して討議する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 各人の研究テーマを聞き、質疑応答をする。。
- 第2回 高久の研究会レジュメ作成方法
- 第3回 高久の研究会報告(1)
- 第4回 高久の研究会報告(2)
- 第5回 各人の研究会課題の報告-1
- 第6回 各人の研究会課題の報告-2
- 第7回 各人の研究会課題の報告-3
- 第8回 各人の研究会課題の報告-4
- 第9回 日本史の方法論-1
- 第10回 日本史の方法論-2
- 第11回 日本史の方法論-3
- 第12回 日本史の方法論-4
- 第13回 日本史の方法論-5
- 第14回 各人の修論作成までの予定を聞き、質疑応答をする。。
- 第15回 全体の総括 ※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 日本女性史研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習(予習・復習)

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
- 第2回 都城の変遷と女性の生活
- 第3回 律令制下の女性の地位
- 第4回 平安京の成立
- 第5回 女房としての紫式部
- 第6回 平安女性の財産相続権
- 第7回 平氏政権下の女性
- 第8回 院政期の女院と女房
- 第9回 武士の登場・武士の女性
- 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
- 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
- 第12回 北条政子の生涯とその役割
- 第13回 南北朝期の女性の地位変化
- 第14回 日野重子と日野富子
- 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって

履修上の注意点

教科書

参考書

日本女性史

著者: 脇田・林・永原編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1987

ISBN:

乳母の力

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者: 田端泰子著

出版社: 塙書房

出版年: 1994

ISBN:

北政所おね

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2007

ISBN:

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 課題研究(リサーチ・プロジェクト) I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究

授業の到達目標

院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする

授業の概要

院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う博士前期課程2回生と合同で行う月2回(原則、第2水曜日、第4土曜日)、2コマ分を使い、研究会方式で運営する

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 課題研究(リサーチ・プロジェクト)Ⅱ <M>

クラス	配当回生	大学院1回生
講義期間 その他	定員	
履修条件	クラス指定	
担当者 (閉講:開⇒閉)		
テーマ		
建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究		
授業の到達目標		
院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする		
授業の概要		
院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う博士前期課程2回生と合同で行う月2回(原則第2水曜日、第4土曜日)2コマ分を使い、研究会方式で運営する		
準備学習(予習・復習)		
内容		
第1回 院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う		
履修上の注意点		
教科書		
参考書		
成績評価		
試験 ()	小テスト ()	
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)	
参加度 (30)		

2015 Syllabus

科目名 課題研究(リサーチ・プロジェクト)Ⅲ <M>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生・織田 直文・金武 創・木下 達文・小暮 宣雄・小森 治夫・阪本 崇・竹山 清明・谷口 知司・松本 正富

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究

授業の到達目標

院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする

授業の概要

院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う博士前期課程1回生と合同で行う月2回(原則、第2水曜日、第4土曜日)に、2コマ分を使い、研究会方式で運営する

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 課題研究(リサーチ・プロジェクト)Ⅳ <M>

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生・織田 直文・金武 創・木下 達文・小暮 宣雄・小森 治夫・阪本 崇・竹山 清明・谷口 知司・松本 正富

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究

授業の到達目標

院生が研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする

授業の概要

院生が研究成果を順次発表し、討論と指導を行う博士前期課程1回生と合同で行う月2回(原則、第2水曜日、第4土曜日)に、2コマ分を使い、研究会方式で運営する

準備学習(予習・復習)

内容

第1回 院生が、建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究の成果を発表し、討論と指導を行う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 観光文化振興策 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 授業の概要を理解する。
- 第2回 方法論としてのデジタルアーカイブ1
- 第3回 方法論としてのデジタルアーカイブ2
- 第4回 デジタル化の基礎1
- 第5回 デジタル化の基礎2
- 第6回 情報取得についての知識1
- 第7回 情報取得についての知識2
- 第8回 情報取得についての知識3
- 第9回 デジタルアーカイブの構成1
- 第10回 デジタルアーカイブの構成2
- 第11回 デジタルアーカイブの構成3
- 第12回 地域資料の収集1
- 第13回 地域資料の収集2
- 第14回 地域資料の収集3
- 第15回 前期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者: 谷口知司他

出版社: 晃陽書房

出版年: 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 観光文化振興策Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 写真・動画の基礎1
- 第2回 写真・動画の基礎2
- 第3回 写真・動画の基礎3
- 第4回 写真・動画の基礎4
- 第5回 インタビューの技法1
- 第6回 インタビューの技法2
- 第7回 インタビューの技法3
- 第8回 観光情報データベースの構成1
- 第9回 観光情報データベースの構成2
- 第10回 観光情報データベースの構成3
- 第11回 観光情報データベースの構成4
- 第12回 情報発信の基礎1
- 第13回 情報発信の基礎2
- 第14回 情報発信の基礎3
- 第15回 後期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者： 谷口知司他

出版社： 晃陽書房

出版年： 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 文化行政 I <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ	
地方公共団体や国における行政と文化との関わりを考察する(その1)	
授業の到達目標	
1)主に芸術領域の文化が行政ではどう扱われてきたかを理解できるようになる2)行政を含む公共政策の現在形を事例を通して考察できるようになる3)自治体の行政や政治と芸術との関係について具体的事例を探求し、課題解決についての道筋を考えることができるようになる	
授業の概要	
西村仁志編著『ソーシャル・イノベーションが拓く世界—身近な社会問題解決のためのトピックス30』(2014年、法律文化社)を教科書とし、小暮宣雄『アーツマネジメント学』(2013年、学陽書房)を補助的に活用してディスカッション的に講義を行う。	
準備学習(予習・復習)	
自治体や国の文化行政のニュースを調べるようにするとともに、文化行政の現場を訪れてレビューすること。	
内 容	
第1回	はじめに—オリエンテーション—
第2回	行政と芸術文化の関係史—江戸時代まで—
第3回	行政と芸術文化の関係史—明治時代以降—
第4回	芸術以外の文化領域と行政との関係
第5回	芸術賞と行政、政治
第6回	ソーシャルイノベーションとは何か
第7回	公共政策と社会政策との関係
第8回	ファンドレイジング(資金調達や寄付税制など)と芸術賞(アーツマネジメント)
第9回	文化領域における「まちつかい」の研究
第10回	ワークショップ体験—まわしよみ新聞など—
第11回	ワークショップづくりのワークショップ
第12回	院生による文化行政の事例発表1
第13回	院生による文化行政の事例発表2
第14回	まちなか芸術祭など「まちつかい」の研究の事例紹介(夏休みのオススメ提示)
第15回	まとめ—文化行政の限界と可能性—
履修上の注意点	
こぐれ日乗(http://kogure.exblog.jp/ 小暮宣雄のメインサイト)の更新をチェックすること	
教科書	
ソーシャル・イノベーションが拓く世界—身近な社会問題解決のためのトピックス30	
著者:	西村仁志
出版社:	法律文化社
出版年:	2014年
ISBN:	9784589036278
参考書	
アーツマネジメント学	
著者:	小暮宣雄
出版社:	学陽書房
出版年:	2013年
ISBN:	4880653128
岸和田市文化財団ドキュメントブック 浪切ホール 2002-2010 いま、ここ、から考える地域のこと 文化のこと	
著者:	岩淵 拓郎編
出版社:	水曜社
出版年:	2012年
ISBN:	4880652857
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (40)	授業中発表等 (40)
参加度 (20)	

2015 Syllabus

科目名 文化行政Ⅱ〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	
テーマ 地方公共団体や国における行政と文化との関わりを考察する(その2)	
授業の到達目標 1)芸術領域以外の文化や福祉、産業振興が行政ではどう扱われてきたかを理解できるようになる2)行政を含む公共政策の現在形を事例を通して考察し課題を抽出することができる3)自治体の行政や政治と芸術との関係について具体的事例を探求し、課題解決についての提案をできるようになる	
授業の概要 少数者によるテキスト購読と分析、ディスカッションを中心とする	
準備学習(予習・復習) 教科書の復習とともに、読むべき論文を提示するので、予習すること。	
内 容 第1回 はじめに—文化行政1の復習 第2回 文化行政を取り巻く公共政策のいま 第3回 文化領域以外の公共政策と文化行政との比較(1)福祉政策 第4回 文化領域以外の公共政策と文化行政との比較(2)産業政策 第5回 文化領域以外の公共政策と文化行政との比較(3)教育政策など 第6回 文化行政の現場を訪れ、体験か鑑賞を行う—学外授業— 第7回 芸術政策の公共政策上の特色と問題点の抽出 第8回 わが国の芸術政策の課題の列挙 第9回 わが国の芸術政策の課題解決のための探求 第10回 あるべき芸術政策への提言(国へ) 第11回 あるべき芸術政策への提言(自治体へ) 第12回 あるべき芸術政策への提言(NPO、市民へ) 第13回 あるべき芸術政策への提言(院生発表1) 第14回 あるべき芸術政策への提言(院生発表2) 第15回 まとめ—残された諸点—	
履修上の注意点 安章浩・新谷浩史『変動期の公共政策—変容する行政への理論的接近とその実際—』(2014年、学陽書房)をいつも携帯すること	
教科書 変動期の公共政策—変容する行政への理論的接近とその実際— 著者： 安章浩・新谷浩史 出版社：学陽書房 出版年：2014年 ISBN：9784313320390	
参考書 分権時代の自治体文化政策—ハコモノづくりから総合政策評価に向けて 著者： 中川幾郎 出版社：勁草書房 出版年：2001年 ISBN：4326301414	
成績評価 試験 (0) 小テスト (0) 授業中課題 (30) 授業中発表等 (30) 参加度 (40) 少人数によるディスカッションなので積極的態度が評価の決めてテキストが手に入りにくい可能性があるため、その場合はまた別の対応を行う。	

2015 Syllabus

科目名 文化経済 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策を経済学的視点から分析する

授業の到達目標

文化政策の様々な領域の現在の課題を理解する経済学的思考法を政策学に応用する方法を身につける

授業の概要

近年、政府による政策の全てにおいて、経済的なリターンがあるかどうかという基準が適用されることが多い。文化政策も例外ではない。本講義では、デイヴィッド・スロスビーの提唱する経済的価値と文化的価値の二分法に注意しながら、文化政策を経済学的視点から見た場合、そこにいかなる意義と課題があるのかを検討していく。

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所を事前に熟読し、疑問点、論点をまとめておくこと。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨN:文化政策の領域
- 第2回 政策過程
- 第3回 芸術政策
- 第4回 文化産業
- 第5回 文化遺産(1)
- 第6回 文化遺産(2)
- 第7回 都市再生、地域発展と文化
- 第8回 観光
- 第9回 国際経済における文化
- 第10回 文化多様性
- 第11回 芸術教育
- 第12回 経済発展と文化
- 第13回 知的財産
- 第14回 文化統計
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。

教科書

文化政策の経済学

著者: デイヴィッド・スロスビー

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2014

ISBN: 9784623070695

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (70)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 文化経済Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

「コスト病」の経済学

授業の到達目標

「コスト病」の理解を通じて現在の経済・社会が抱える問題を把握し、それに対して経済学的視点から解決方法を提案することができるようになる。

授業の概要

文化経済学における最大の理論的貢献とも言えるW.J.ボーモルの「コスト病」を、その発見の背景、理論構成を学んだ上で、現代の社会におけるその意義について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

原則として、毎回、文献を指定するので、それを熟読した上で疑問点、論点などをまとめておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:「コスト病」とは
- 第2回 W.J.ボーモル:その人物像と経済学
- 第3回 コスト病の背景(1):第2次世界大戦後のアメリカ経済
- 第4回 コスト病の背景(2):トフラー『文化の消費者』の描く社会
- 第5回 コスト病の背景(3):ボーモル=ボーエン『舞台芸術:芸術と経済のジレンマ』の発見
- 第6回 コスト病の理論(1):停滞部門
- 第7回 コスト病の理論(2):停滞部門と発展部門の未来
- 第8回 コスト病の理論(3):停滞部門と経済発展
- 第9回 コスト病の理論(4):
- 第10回 コスト病をめぐる議論(1):停滞部門は存在するか?
- 第11回 コスト病をめぐる議論(2):量と質の関係をいかに捉えるか?
- 第12回 コスト病にいかに向き合うか(1):使い捨てとセルフ・サービス
- 第13回 コスト病にいかに向き合うか(2):新しい公共部門の役割
- 第14回 コスト病にいかに向き合うか(3):コスト恐怖症を超えて
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (70)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 文化経済特論 I <D>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策を経済学的視点から分析する

授業の到達目標

文化政策の様々な領域の現在の課題を理解する経済学的思考法を政策学に応用する方法を身につける

授業の概要

近年、政府による政策の全てにおいて、経済的なリターンがあるかどうかという基準が適用されることが多い。文化政策も例外ではない。本講義では、デイヴィッド・スロスビーの提唱する経済的価値と文化的価値の二分法に注意しながら、文化政策を経済学的視点から見た場合、そこにいかなる意義と課題があるのかを検討していく。

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所を事前に熟読し、疑問点、論点をまとめておくこと。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨN:文化政策の領域
- 第2回 政策過程
- 第3回 芸術政策
- 第4回 文化産業
- 第5回 文化遺産(1)
- 第6回 文化遺産(2)
- 第7回 都市再生、地域発展と文化
- 第8回 観光
- 第9回 国際経済における文化
- 第10回 文化多様性
- 第11回 芸術教育
- 第12回 経済発展と文化
- 第13回 知的財産
- 第14回 文化統計
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。

教科書

文化政策の経済学

著者: デイヴィッド・スロスビー

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2014

ISBN: 9784623070695

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (70)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 文化経済特論Ⅱ <D>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阪本 崇

テーマ

「コスト病」の経済学

授業の到達目標

「コスト病」の理解を通じて現在の経済・社会が抱える問題を把握し、それに対して経済学的視点から解決方法を提案することができるようになる。

授業の概要

文化経済学における最大の理論的貢献とも言えるW.J.ボーモルの「コスト病」を、その発見の背景、理論構成を学んだ上で、現代の社会におけるその意義について学ぶ。

準備学習(予習・復習)

原則として、毎回、文献を指定するので、それを熟読した上で疑問点、論点などをまとめておくこと。

内 容

- 第1回 イントロダクション:「コスト病」とは
- 第2回 W.J.ボーモル:その人物像と経済学
- 第3回 コスト病の背景(1):第2次世界大戦後のアメリカ経済
- 第4回 コスト病の背景(2):トフラー『文化の消費者』の描く社会
- 第5回 コスト病の背景(3):ボーモル=ボーエン『舞台芸術:芸術と経済のジレンマ』の発見
- 第6回 コスト病の理論(1):停滞部門
- 第7回 コスト病の理論(2):停滞部門と発展部門の未来
- 第8回 コスト病の理論(3):停滞部門と経済発展
- 第9回 コスト病の理論(4):
- 第10回 コスト病をめぐる議論(1):停滞部門は存在するか?
- 第11回 コスト病をめぐる議論(2):量と質の関係をいかに捉えるか?
- 第12回 コスト病にいかに向き合うか(1):使い捨てとセルフ・サービス
- 第13回 コスト病にいかに向き合うか(2):新しい公共部門の役割
- 第14回 コスト病にいかに向き合うか(3):コスト恐怖症を超えて
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

ゼミ形式で授業を進めるため、欠席することのないようにしてほしい。

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (70)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 観光文化振興策特論 I <D>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 授業の概要を理解する。
- 第2回 方法論としてのデジタルアーカイブ1
- 第3回 方法論としてのデジタルアーカイブ2
- 第4回 デジタル化の基礎1
- 第5回 デジタル化の基礎2
- 第6回 情報取得についての知識1
- 第7回 情報取得についての知識2
- 第8回 情報取得についての知識3
- 第9回 デジタルアーカイブの構成1
- 第10回 デジタルアーカイブの構成2
- 第11回 デジタルアーカイブの構成3
- 第12回 地域資料の収集1
- 第13回 地域資料の収集2
- 第14回 地域資料の収集3
- 第15回 前期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者: 谷口知司他

出版社: 晃陽書房

出版年: 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 観光文化振興策特論Ⅱ〈D〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光資源としての地域資源を発掘し情報発信する。

授業の到達目標

地域資源の発掘や、データベース管理、情報発信について十分な知識と技術を修得する。

授業の概要

基礎知識を修得後、演習中心に進める。

準備学習(予習・復習)

その都度指示する。

内 容

- 第1回 写真・動画の基礎1
- 第2回 写真・動画の基礎2
- 第3回 写真・動画の基礎3
- 第4回 写真・動画の基礎4
- 第5回 インタビューの技法1
- 第6回 インタビューの技法2
- 第7回 インタビューの技法3
- 第8回 観光情報データベースの構成1
- 第9回 観光情報データベースの構成2
- 第10回 観光情報データベースの構成3
- 第11回 観光情報データベースの構成4
- 第12回 情報発信の基礎1
- 第13回 情報発信の基礎2
- 第14回 情報発信の基礎3
- 第15回 後期まとめと報告

履修上の注意点

授業時間外での様々な調査等が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの構築と技法

著者: 谷口知司他

出版社: 晃陽書房

出版年: 2014

ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20%)

小テスト (0%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (10%)

3分の2以上の出席が必要です。

2015 Syllabus

科目名 看護理論 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

看護学の歴史の変遷を振り返り、現在の看護学における理論体系について学習し理解を深めるとともに、看護理論を実践および研究に活用する基礎を養う。

授業の到達目標

1. 看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と理論の特徴を理解する。
2. 看護理論の範囲と構造および分析方法を理解する。
3. 看護理論の分析をもとに実践/研究/教育への理論の活用の意義と限界を理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 看護専門職の歴史的発展過程と看護理論
- 第2回 理論発展の基礎としての科学哲学の歴史的発展過程
- 第3回 看護理論の範囲と理論の構造
- 第4回 理論分析の方法とその背景(1)
- 第5回 理論分析の方法とその背景(2)
- 第6回 概念および概念発達と概念分析(1)
- 第7回 概念および概念発達と概念分析(2)
- 第8回 理論をベースに研究を組み立てるとは(1)
- 第9回 理論をベースに研究を組み立てるとは(2)
- 第10回 理論を実践に活用するとは(1)
- 第11回 理論を実践に活用するとは(2)
- 第12回 概念を測定するとは(1)
- 第13回 概念を測定するとは(2)
- 第14回 理論分析および理論の活用プレゼンテーション(1)
- 第15回 理論分析および理論の活用プレゼンテーション(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

Analysis and evaluation of nursing theories フォーセット看護理論の分析と評価

著者: Fawcett,J.(1993),太田喜久子・筒井真優美監訳(2008)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Strategies for theory construction in nursing 看護における理論構築の方法

著者: Walker & Avant(2005),中木高夫・川崎修一訳(2008)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Theory and nursing A systematic approach 4th edition 看護理論とは何か

著者: Chinn, P.L., Kramer,M.K.(1995),白石聡監訳(1997)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Nursing theorists and their work 看護理論家とその業績, 第4版

著者: Marriner-Tomey,A.(1990),都留伸子監訳(2009)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

2015 Syllabus

科目名 看護研究<M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 登美子	
テーマ	
看護における研究の重要性を理解し、研究の進め方や研究のプロセスについて理解を深める。	
授業の到達目標	
1. 研究テーマの設定、研究の位置づけ、文献収集法や文献検討の方法等を理解し、研究の基礎となる理論や概念を含め研究の実施に必要な基礎を修得する。2. 看護学研究の歴史を概観し、研究方法として開発されてきた方法論について理解する。3. 看護理論を構築するうえで研究の果たす役割等、最新の情報を含めて理解する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	看護における研究、研究のプロセス
第2回	研究課題の設定
第3回	文献検索と文献検討
第4回	研究デザイン(1)
第5回	研究デザイン(2)
第6回	標本抽出法
第7回	測定用具の信頼性・妥当性
第8回	測定とデータ収集(1)
第9回	測定とデータ収集(2)
第10回	量的データの分析
第11回	質的データの分析
第12回	看護研究における倫理
第13回	研究結果の活用と根拠に基づく実践(EBP)
第14回	文献クリティークの方法(1)OutcomesModel&Substruction
第15回	文献クリティークの方法(2)OutcomesModel&Substruction
履修上の注意点	
教科書	
看護研究 原理と方法 第2版	
著者: D.F.Polit.,C.T.Beck(2004),近藤潤子監訳(2010)	
出版社: 医学書院	
出版年:	ISBN:
参考書	
看護における研究第2版	
著者: 南裕子編(2010)	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年:	ISBN:
看護研究計画書作成の基本ステップ	
著者: Brink,P.J., Wood,M.J.(1994):小玉香津子・輪湖史子訳(2003)	
出版社: 日本看護協会出版会	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する	

2015 Syllabus

科目名 看護教育論 <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ 教育の本質と看護教育	
授業の到達目標 教育の本質を理解した上で、看護学教育の特徴について探究する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習) 自分が受けてきた教育を踏まえつつ、看護及び看護学の特徴を軸に、「授業の計画」の各テーマについてプレゼンテーションの準備をする。	
内 容	
第1回 教育の本質	
第2回 看護の特徴と教育	
第3回 看護教育制度論(プレゼンテーション, 討議)	
第4回 看護基礎教育その1(プレゼンテーション, 討議)	
第5回 看護基礎教育その2(プレゼンテーション, 討議)	
第6回 看護継続教育その1(プレゼンテーション, 討議)	
第7回 看護継続教育その2(プレゼンテーション, 討議)	
第8回 看護教育課程論その1(プレゼンテーション, 討議)	
第9回 看護教育課程論その2(プレゼンテーション, 討議)	
第10回 看護教育方法論その1(プレゼンテーション, 討議)	
第11回 看護教育方法論その2(プレゼンテーション, 討議)	
第12回 看護教育評価論その1(プレゼンテーション, 討議)	
第13回 看護教育評価論その2(プレゼンテーション, 討議)	
第14回 キャリア発達(プレゼンテーション, 討議)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点 看護という職業の特徴を意識し、明確にしておく。	
教科書	
特に指定しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
看護教育学	
著者: グレッグ美鈴/池西悦子	
出版社: 南江堂	
出版年:	ISBN:
看護教育学第4版	
著者: 杉森みどり	
出版社: 医学書院	
出版年:	ISBN:
看護の教育学序説	
著者: 杉下喜代子	
出版社: ゆみる出版	
出版年:	ISBN:

その他授業内で提示する.

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 コンサルテーション論〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 木村 里美・新道 幸恵・吉田 智美	

テーマ

高度実践看護職(専門看護師)は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタントの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。

授業の到達目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割の一つである相談(コンサルテーション)は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

関連文献の事前学習と発表準備

内 容

- 第6回 コンサルテーションの事例分析
- 第7回 コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
- 第8回 医療分野におけるコンサルテーションの実際①(吉田先生:がん看護CNS)
- 第9回 医療分野におけるコンサルテーションの実際①(吉田先生:がん看護CNS)
- 第10回 医療分野におけるコンサルテーションの実際②(木村先生:精神看護・リエゾンCNS)
- 第11回 医療分野におけるコンサルテーションの実際②(木村先生:精神看護・リエゾンCNS)
- 第12回 医療分野におけるコンサルテーションの実際③(組織変革の推進)
- 第13回 医療分野におけるコンサルテーションの実際③(組織変革の推進)
- 第14回 コンサルテーションにおけるマネジメントの活用
- 第15回 CNSのエンパワメント(コンサルテーション力を基盤として)
- 第1回 コンサルテーションとは(ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割)
- 第2回 コンサルテーション概論①(コンサルテーションの概念・コンサルテーションモデル)
- 第3回 コンサルテーション概念②(プロセスコンサルテーションの原則)
- 第4回 コンサルテーション概論③(プロセスコンサルテーションの原則)
- 第5回 コンサルタントの役割と機能

履修上の注意点

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

プロセスコンサルテーション援助関係を築くということ

著者: E.Hシャイン著(稲葉元吉・尾川丈一訳)

出版社: 白桃書房

出版年: 2002

ISBN:

カウンセリングとコンサルテーション

著者: 辻村英夫(編)

出版社: 学文社

出版年: 2002

ISBN:

スーパービジョン／コンサルター所の実践のすすめ

著者： 現代のエスプリ

出版社： 至文堂

出版年： 2000.6

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート50%, 討論および授業への参加態度50%, から総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 看護管理論〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子・新道 幸恵・野村 陽子	
テーマ 看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメント	
授業の到達目標 看護管理に重要な諸理論、管理プロセス、実践システムについて学習し、効果的な看護サービス・マネジメントのあり方を探求する。	
授業の概要 看護管理に関連する諸理論と関連学問領域の概念や諸理論について多角的に理解した上で、最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握する。そして、看護管理の効果的な在り方および方向性や課題について探求する。	
準備学習(予習・復習) 広く関連図書・専門誌等を読み、自らの関心領域、課題を明確にする。フィールドワークをする討議における発表の準備をする。	
内 容 第1回 看護マネジメントに関わる主要な用語とその概念(新道) 第2回 看護組織論(新道) 第3回 看護組織論(新道) 第4回 看護マネジメント論(新道) 第5回 リーダーシップ論(新道) 第6回 専門職論(新道) 第7回 看護における人的資源活用論(新道) 第8回 医療における安全管理論(新道) 第9回 意思決定論(阿部) 第10回 医療における情報技術・情報管理論(阿部) 第11回 看護を取り巻く環境の変化(野村) 第12回 保健・医療・福祉制度(野村) 第13回 看護制度・政策論(野村) 第14回 看護制度・政策論(野村) 第15回 まとめ(野村)	
履修上の注意点	
教科書 使用しない 著者: 出版社: 出版年: ISBN: 参考書 看護管理学習テキスト第1巻～第8巻 著者: 井部俊子/中西睦子監修 出版社: 医学書院 出版年: ISBN: 看護サービス管理第3版 著者: 中西睦子編 出版社: 医学書院 出版年: ISBN: その他授業内で提示する。 著者: 出版社: 出版年: ISBN:	

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度, プレゼンテーションから総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 看護政策論〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 霜鳥 一彦・野村 陽子

テーマ

看護政策の基本と政策的思考

授業の到達目標

1 看護制度の構造と看護政策の特徴を理解する2 医療現場の課題を、制度や政策と結びつけて考究する3 現在の看護政策課題を理解し、今後の方向性を考察する

授業の概要

看護制度・政策の基本的な考え方を理解した上で、看護制度に関連する課題について政策過程分析を行い、決定に影響を与える組織の力動関係を理解する。そして自身の医療現場の課題と関連づけて政策的思考を学び、看護の質を向上させるための政策立案の知識と方法を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 看護政策論の基本的考え方
- 第2回 看護制度の変遷と構造
- 第3回 政策型思考の論理
- 第4回 医療・看護政策の課題と政策過程
- 第5回 看護の政策過程(1)看護職員確保対策
- 第6回 医療機関等の確保対策と政策課題:事例検討
- 第7回 看護の政策過程(2)保助看法・看護資格制度
- 第8回 専門看護師制度等の課題:事例検討
- 第9回 看護の政策過程(3)訪問看護制度・介護報酬
- 第10回 地域包括ケアの政策課題:事例検討
- 第11回 医療保険制度の基本(霜鳥)
- 第12回 医療保険・診療報酬改定の実際(霜鳥)
- 第13回 診療報酬の活用:事例検討
- 第14回 政策過程事例のプレゼンテーション
- 第15回 看護政策の課題(討議・まとめ)

履修上の注意点

教科書

政策型思考と政治

著者: 松下圭一

出版社: 東京大学出版会

出版年:

ISBN:

看護管理学習テキスト7 看護制度・政策論

著者: 井部俊子、中西睦子編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2003

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

2015 Syllabus

科目名 看護倫理論〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・高田 早苗

テーマ

ヘルスケアや看護実践、看護研究などの生じる倫理的ジレンマについて、看護倫理の理論や価値分析を通して、自己の考え方を見直し、構築する。過去の自身の体験や社会的に問題になった事象を用いた事例を検討する。

授業の到達目標

1.看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察できる。2.「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。3.生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地からそのあり様を理解する。4.看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。5.看護倫理を実践していく上で必要な能力、方法について理解出来る。6.医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察する。7.看護倫理に対する課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各人の経験を振り返りながら、事例を共有し、ディスカッションを深める。歴史における倫理的な事例の分析から自分自身の倫理的な価値について知る。事例作成、ディスカッションをしながら内代を深めます。

内 容

- 第1回 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
- 第2回 倫理とは：生命倫理、臨床倫理、看護倫理
- 第3回 倫理の原則、倫理的意思決定モデル、看護の行動規範と倫理綱領
- 第4回 看護倫理に基づくケアリン、看護の責任と責務
- 第5回 看護倫理の概念、本質、哲学的基盤、意義
- 第6回 倫理コンサルテーションと倫理的意思決定モデルの活用
- 第7回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(1)
- 第8回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(2)
- 第9回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(3)
- 第10回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(4)
- 第11回 医療および看護場面における倫理的ジレンマについてプレゼンテーションと討論(1)
- 第12回 医療および看護場面における倫理的ジレンマについてプレゼンテーションと討論(2)
- 第13回 教育に関わる倫理的課題
- 第14回 研究に関わる倫理的課題
- 第15回 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み

履修上の注意点

できるだけ、事前にプレゼンテーションの内容を共有して臨んでください。

教科書

看護実践の倫理 第2版

著者： サラT.フライ(片田範子訳)

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN:

新版看護職者の基本的責務

著者： 日本看護協会監修

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

授業中課題には、プレゼンテーションと討論が含まれる試験として最終レポートの提出があります

2015 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特論 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・小坂橋 喜久代

テーマ

看護実践を支える重要な要素を再確認し、人々の健康に関与する看護実践の基礎となる知識体系を学ぶ。

授業の到達目標

獲得目標 1.看護実践におけるクリティカルシンキングの意義を説明できる。2.看護におけるケアリングについて理解できる。3.看護におけるコミュニケーションの意義について説明できる。4.看護実践家として必要なリフレクションの必要性を説明できる。

授業の概要

文献のクリティークを行い、看護実践に必要な重要概念を理解します。クリティークのためのプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。本科目の位置づけは演習導入科目となり演習でさらに深めていきます。

準備学習(予習・復習)

プレゼン資料は前もって共有し、意見を持参してディスカッションに参加してください。

内 容

- 第1回 クリティカルシンキングの意義①
- 第2回 クリティカルシンキングの意義②
- 第3回 クリティカルシンキングの意義③
- 第4回 看護におけるケアリング①
- 第5回 看護におけるケアリング②
- 第6回 看護におけるケアリング③
- 第7回 看護におけるケアリング④
- 第8回 看護におけるケアリング⑤
- 第9回 看護におけるコミュニケーション①
- 第10回 看護におけるコミュニケーション②
- 第11回 看護におけるリフレクション①
- 第12回 看護におけるリフレクション②
- 第13回 看護におけるリフレクション③
- 第14回 看護におけるリフレクション④
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

プレゼンテーション、ディスカッションは主体的に臨んでください。テキストは、適宜、講義の中で紹介します。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 看護技術学 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小板橋 喜久代

テーマ

看護実践のコアとなる看護技術の構造と特性を理解し、看護実践にむけた臨床適用のための知識を身につける。看護の質を向上させるための看護技術開発の課題についての視点を啓発する。

授業の到達目標

1.看護学および看護実践における看護技術の位置づけについて説明できる。2.技術論の観点から看護技術の構造と特性について考察できる。3.先行研究の検索とメタ分析を通して、看護技術の適用と範囲および有効性について考察できる。4.看護技術の開発とその課題について検討し、看護の質を高めるために必要な取り組みについて、自己の見解を述べることができる。

授業の概要

看護活動を具体化するための看護技術について、技術論、実践方法、技術の開発について検討していきます。看護技術に関する先行研究を検索・精査・分析することで、技術の構造・特性への理解を深めていきます。さらなる臨床智の具現化のために、看護技術開発の取り組みとその課題について、各自の関心テーマを元に考察し、問題点を明らかにしていきます。授業は、あらかじめ設定した課題についての資料検索と、学生からのプレゼンテーションを中心として展開します。各自の臨床経験のなかから提案された課題を論理的に考察しながら、理論と実際の結びつきの糸口をつかむことを目指します。

準備学習(予習・復習)

先行研究の検索・精読・分析考察のための自己学習、プレゼンテーション資料の作成を進めてください。

内 容

- 第1回 看護技術学のコースオリエンテーション
- 第2回 技術論と看護技術
- 第3回 看護技術の歴史の変遷
- 第4回 看護技術の構造と特性①
- 第5回 看護技術の構造と特性②
- 第6回 課題別・先行研究の検索と精読・分析①
- 第7回 課題別・先行研究の検索と精読・分析②
- 第8回 課題別・先行研究の検索と精読・分析③
- 第9回 Evidence-Based Nursing(EBN)と技術開発①
- 第10回 Evidence-Based Nursing(EBN)と技術開発②
- 第11回 基礎研究による作用機序の検証
- 第12回 臨床研究による臨床エビデンスの蓄積
- 第13回 臨床研究から臨床実践へのトランスレーション
- 第14回 看護技術開発の課題と展望
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

テキストは適宜、紹介する

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

2015 Syllabus

科目名 実践看護基礎学演習 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

今後の自ら取り組む課題研究に繋がるように、看護基礎学に関する基本的な研究の手法について学びます。

授業の到達目標

1.看護基礎学における今日的課題が理解できる。2.看護基礎学における基礎的研究の手法について理解する。3.看護基礎学における先行研究について批判的な解釈ができる。

授業の概要

文献の栗テークを行い、看護基礎学の領域における看護研究に必要な重要な概念を理解します。それに基づいて、今後、自ら取り組む研究課題を明確にし、研究方法を選択していきます。

準備学習(予習・復習)

講義前日までにプレゼン内容を共有し、講義内においては、ディスカッションを深めていきます。

内 容

- 第1回 看護基礎学イントロダクション
- 第2回 看護基礎学の今日的課題(1)
- 第3回 看護基礎学の今日的課題(2)
- 第4回 看護基礎学における研究方法(1)
- 第5回 看護基礎学における研究方法(2)
- 第6回 実験研究アプローチ(1)
- 第7回 実験研究アプローチ(2)
- 第8回 実験研究アプローチ(3)
- 第9回 質的研究アプローチ(1)
- 第10回 質的研究アプローチ(2)
- 第11回 質的研究アプローチ(3)
- 第12回 その他の研究方法の取り組み(1)人間工学的的方法(1)
- 第13回 その他の研究方法の取り組み(2)人間工学的的方法(2)
- 第14回 その他の研究方法の取り組み(3)現象学的取り組み(1)
- 第15回 その他の研究方法の取り組み(4)現象学的取り組み(2)
- 第16回 まとめ

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

2015 Syllabus

科目名 実践看護基礎学演習Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

看護基礎学に関連する事象について、様々な視点から考察し、看護の本質について考える。

授業の到達目標

1.看護基礎学に関連する事象を様々な点から考察することができる。2.看護基礎学における課題を明確にし、対策について提言できる。

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーションおよびフィールドワークを通して、看護基礎学に関連する事象についての考察を深める。

準備学習(予習・復習)

院生が関心を寄せるテーマに基づいて進めます。問題意識を持って臨んでください。

内 容

- 第6回 看護基礎学分野に関連した理論(3)
- 第7回 看護基礎学分野に関連した理論(4)
- 第8回 看護基礎学分野に関連した理論(5)
- 第9回 看護基礎学に関連した文献精査(1)
- 第10回 看護基礎学に関連した文献精査(2)
- 第11回 看護基礎学に関連した文献精査(3)
- 第12回 看護基礎学に関連した文献精査(4)
- 第13回 看護基礎学に関連した文献精査(5)
- 第14回 看護基礎学に関連した文献精査(6)
- 第15回 看護基礎学に関連した文献精査(7)
- 第16回 看護基礎学に関連した文献精査(8)
- 第17回 看護基礎学に関連した文献精査(9)
- 第18回 看護基礎学に関連した文献精査(10)
- 第19回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(1)
- 第20回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(2)
- 第21回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(3)
- 第22回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(4)
- 第23回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(5)
- 第24回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(6)
- 第25回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(7)
- 第26回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(8)
- 第27回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(9)
- 第28回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(10)
- 第29回 看護基礎学に関連したフィールドワーク(11)
- 第30回 まとめ
- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護基礎学の特徴(1)
- 第3回 看護基礎学の特徴(2)
- 第4回 看護基礎学分野に関連した理論(1)
- 第5回 看護基礎学分野に関連した理論(2)

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

h701011250

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 実践看護基礎学演習Ⅲ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

院生の研究動機から研究課題を明確にする。

授業の到達目標

1.関心分野についての看護現象における課題について多角的に分析できる。2.関心分野についての看護現象における課題を論理的に説明できる。3.自らの研究に取り組む目的を明確に説明することができる。

授業の概要

関心分野における研究課題を明確にすることにより看護課題研究に繋いでいきます。

準備学習(予習・復習)

これまでの臨床経験を振り返り、看護現象についての課題を探ります。問題意識をもって臨んでください。

内 容

- 第1回 研究課題の明確化のための文献検索(1)
- 第2回 研究課題の明確化のための文献検索(2)
- 第3回 研究課題の明確化のための文献検索(3)
- 第4回 研究課題の明確化のための文献検索(4)
- 第5回 研究課題の明確化のための文献検索(5)
- 第6回 研究課題の明確化のための文献検索(6)
- 第7回 研究課題の明確化のための文献検索(7)
- 第8回 研究課題の明確化のための文献検索(8)
- 第9回 研究課題の明確化のための文献検索(9)
- 第10回 研究課題の明確化のための文献検索(10)
- 第11回 研究課題の明確化のための文献精査(1)
- 第12回 研究課題の明確化のための文献精査(2)
- 第13回 研究課題の明確化のための文献精査(3)
- 第14回 研究課題の明確化のための文献精査(4)
- 第15回 研究課題の明確化のための文献精査(5)
- 第16回 研究課題の明確化のための文献精査(&)
- 第17回 研究課題の明確化のための文献精査(7)
- 第18回 研究課題の明確化のための文献精査(8)
- 第19回 研究課題の明確化のための文献精査(9)
- 第20回 研究課題の明確化のための文献精査(10)
- 第21回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(1)
- 第22回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(2)
- 第23回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(3)
- 第24回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(4)
- 第25回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(5)
- 第26回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(6)
- 第27回 研究課題の明確化のためのフィールドワーク(7)
- 第28回 研究課題の絞り込み(1)
- 第29回 研究課題の絞り込み(2)
- 第30回 研究課題の絞り込み(3)

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

h701011350

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特別研究 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・小板橋 喜久代

テーマ

看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の観点から、院生の抱える研究課題について、適切なプロセス、研究倫理に基づき、研究を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

授業の到達目標

1.看護の本質と目的、対象論、方法論の見地から、院生の持つ問題意識を明確にする。2.先行研究を考察し、研究課題を絞り込む3.その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。4.一連の課程において研究の倫理の重要性を理解し、研究倫理委員会の審査を受ける。5.研究計画に基づき研究を遂行し、十分な考察を加えて修士論文としてまとめる。6.論文を発表し適切な評価を行う。

授業の概要

1.研究課題の明確化2.文献検討3.研究テーマの決定4.研究計画立案5.研究倫理審査申請6.研究に必要な準備学修、プレテスト7.研究データの収集8.データの集計9.データの分析10.データの考察11.論文作成12.論文の発表

準備学習(予習・復習)

限られた研究期間なので、計画的に取り組んでください。

内 容

- 第1回 研究テーマの決定
- 第2回 研究計画立案(1)
- 第3回 研究計画立案(2)
- 第4回 研究計画立案(3)
- 第5回 研究倫理審査申請(1)
- 第6回 研究倫理審査申請(2)
- 第7回 研究に必要な学修、プレテスト
- 第8回 研究データの収集(1)
- 第9回 研究データの収集(2)
- 第10回 研究データの収集(3)
- 第11回 研究データの収集(4)
- 第12回 研究データの収集(5)
- 第13回 データの集計(1)
- 第14回 データの集計(2)
- 第15回 データの集計(3)
- 第16回 データの集計(4)
- 第17回 データの分析(1)
- 第18回 データの分析(2)
- 第19回 データの分析(3)
- 第20回 データの分析(4)
- 第21回 結果の考察(1)
- 第22回 結果の考察(2)
- 第23回 結果の考察(3)
- 第24回 結果の考察(4)
- 第25回 論文作成(1)
- 第26回 論文作成(2)
- 第27回 論文作成(2)
- 第28回 論文作成(3)
- 第29回 論文作成(4)
- 第30回 論文発表(5)

履修上の注意点

テキストは適宜、提示します。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論 I (老年) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・鶴屋 邦江・沼本 教子・村田 伸

テーマ

高齢者の健康生活とその評価

授業の到達目標

健康障害を持つ高齢者が自律したその人らしい生活の実現を可能にするための看護実践を提供することを目的に、高齢者の生活機能を身体的・心理社会的側面から包括的に評価する方法について探究する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。

第2回 //

第3回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(1) 日常生活動作、行動機能について(基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など)

第4回 //

第5回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(2) 認知機能、気分、意欲について(MMSE、HDS-R、GDSなど)

第6回 //

第7回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(3) モラール、生活の質について(主観的幸福感、生きがい、生活満足度など)

第8回 //

第9回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など

第10回 //

第11回 高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用(福祉用具・自助具の活用を含む)について探求する。

第12回 //

第13回 老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。

第14回 //

第15回 高齢者の健康生活評価に対する看護研究の動向と今後の課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論Ⅱ(成人・精神) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子・北島 謙吾・松本 賢哉

テーマ

看護アセスメント技術

授業の到達目標

1.成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を、身体的・心理的・社会的側面から全人的に理解するためのアセスメント技術を修得する。2.様々な健康レベルにある個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法、支援システムについて説明できる。

授業の概要

成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題について、身体的・精神的・社会的側面から全人的に理解し、個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法を考究する。

準備学習(予習・復習)

授業内容に関連する文献講読

内 容

- 第1回 オリエンテーション、成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①: 家族アセスメントモデル
- 第2回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②: 家族アセスメントモデル
- 第3回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③: 家族アセスメントモデル
- 第4回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④: 家族アセスメントモデル
- 第5回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①: 家族支援モデル
- 第6回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②: 家族支援モデル
- 第7回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③: 家族支援モデル
- 第8回 成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④: 家族支援モデル
- 第9回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法①
- 第10回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法②
- 第11回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法③
- 第12回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法④
- 第13回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの援助の方法・看護介入の方法⑤
- 第14回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法①
- 第15回 精神障害者及び精神症状を呈する人に対するの精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法②

履修上の注意点

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 **クリティカル看護学 <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

クリティカルケア看護における理論と看護実践に関する学習

授業の到達目標

1. クリティカルな状況に置かれた対象とその家族の特徴を理解し、必要な看護援助について根拠にもとづき検討できる。2. クリティカルケア看護に有用な理論やモデルについて理解し、看護援助への活用方法について考えられる。3. クリティカル場面での倫理的問題について理解し、看護援助の方法がわかる。4. クリティカルケアを必要とする対象とその家族への適切な看護実践の遂行に必要なコンピテンシーについて理解することができる。

授業の概要

クリティカルな状況にある対象とその家族への看護について、各自で文献検討や事例展開等をおこなう。その上で資料を作成し、発表とディスカッションを通して探究していく。

準備学習(予習・復習)

予め配布された資料を読み、効果的なディスカッションができるように準備しておくこと。

内 容

- 第1回 クリティカルケアの概念、特徴
- 第2回 クリティカルな状況にある対象の身体的・心理社会的特徴
- 第3回 クリティカルな場面で活用される理論①:危機理論(定義、概要、事例演習)
- 第4回 クリティカルな場面で活用される理論②:ストレスコーピング理論(定義、概要、事例演習)
- 第5回 クリティカルな状況にある対象の反応とケア①:悲嘆・喪失(定義、概要、事例演習)
- 第6回 クリティカルな状況にある対象の反応とケア②:ボディイメージ(定義、概要、事例演習)
- 第7回 クリティカルな状況にある対象への看護①:意識障害
- 第8回 クリティカルな状況にある対象への看護②:呼吸不全
- 第9回 クリティカルな状況にある対象への看護③:循環不全
- 第10回 クリティカルな状況にある対象への看護④:感染
- 第11回 クリティカルな状況にある対象への看護⑤:痛み
- 第12回 クリティカルケアにおけるインフォームドコンセントと倫理、意思決定に向けた支援
- 第13回 クリティカルケアにおける安楽・ケアリング
- 第14回 クリティカルケアにおける看護師のコンピテンシーと看護実践モデル①
- 第15回 クリティカルケアにおける看護師のコンピテンシーと看護実践モデル②

履修上の注意点

教科書

適宜提示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ベナー看護ケアの臨床知 行動しつつ考えること

著者: Benner,P.,Hooper-Kyriakidis,P.&Stannard,D/井上智子監訳

出版社: 医学書院

出版年: 2005

ISBN:

Synergy for Clinical Excellence: The AACN Synergy Model for Patient Care

著者: Hardin, S & Kaplow, R.

出版社: Sudbury,MA: Jones and Bartlett Publishers.

出版年: 2005

ISBN:

クリティカルケア看護 理論と臨床への応用

著者: 寺町優子, 井上智子他編

出版社: 日本看護協会 出版会

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 生活習慣系看護学 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題を包括的に理解できる。2.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族を対象とした効果的な看護実践を行うための諸理論と看護介入方法を考究する。

授業の概要

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響、特徴を理解する。それらの人々のもつ療養上の困難や問題について全人的にとらえ、効果的援助方法に関連する理論、看護理論について考察する。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション、慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴①
 第2回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴②
 第3回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴③
 第4回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族に適用される看護理論の背景および概念
 第5回 慢性疾患や障害を体験する人を理解するための諸理論
 第6回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を理解するための諸理論
 第7回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究①:文献検索
 第8回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究②
 第9回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討①
 第10回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討②
 第11回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討③
 第12回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討④
 第13回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑤
 第14回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑥
 第15回 事例検討の結果を評価し、諸理論と看護介入方法の活用について自己の課題を明確にする。

履修上の注意点

教科書

指定なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習 I (成人・精神) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法の検討

授業の到達目標

1. 精神の健康状態のアセスメント及び援助方法を検討する。2. 精神看護における課題を明確にする。

授業の概要

精神の健康状態を包括的にアセスメントし、援助する方法を検討する。また、精神看護における倫理的な課題及び多職種間の連携、地域サポートシステムについて考察する。学生のプレゼンテーションを主として、文献検討及び事例検討を進める。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 精神の健康状態のアセスメント(1)文献検討
- 第3回 精神の健康状態のアセスメント(2)文献検討
- 第4回 精神の健康状態のアセスメント(3)事例検討
- 第5回 精神の健康状態のアセスメント(4)事例検討
- 第6回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(1)文献
- 第7回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(2)文献
- 第8回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(3)文献
- 第9回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(4)事例検討
- 第10回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(5)事例検討
- 第11回 精神看護における多職種間の連携、地域におけるサポートシステムの現状と課題
- 第12回 精神看護における倫理的課題
- 第13回 精神看護における課題の明確化(1)
- 第14回 精神看護における課題の明確化(2)
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ(成人・精神) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人と家族の健康課題

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解する方法を説明できる。2.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法について自らの考えを述べる事ができる。3.在宅で療養する身体障害者とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法について自らの考えを述べる事ができる。

授業の概要

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解し、効果的な看護実践方法を探求する。特に、在宅で療養する身体障害者のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法を探究する。

準備学習(予習・復習)

授業内容に関連する文献の講読

内 容

- 第1回 オリエンテーション、慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
- 第2回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
- 第3回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
- 第4回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
- 第5回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
- 第6回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法に関する文献的検討
- 第7回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
- 第8回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
- 第9回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
- 第10回 在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討④
- 第11回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討①
- 第12回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討②
- 第13回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討①
- 第14回 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討②
- 第15回 発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

指定なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅲ(成人・精神) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・奥野 信行

テーマ

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力

授業の到達目標

1.クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解する。2.クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究できる。3.クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

授業の概要

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力を養い、効果的な看護援助を提供するための方法・課題を探求する能力を養う。そのため、クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解し、クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究する。また、クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

準備学習(予習・復習)

授業内容に関連する文献の講読

内 容

- 第1回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援①
- 第2回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援②
- 第3回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援③
- 第4回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援④
- 第5回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑤
- 第6回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑥
- 第7回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑦
- 第8回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討①
- 第9回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討②
- 第10回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討③
- 第11回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討④
- 第12回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑤
- 第13回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑥
- 第14回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑦
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学特別研究 <Ma>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

特論、演習での学びを基盤とし、特定の健康課題をもった対象患者またその家族の健康増進、療養生活支援等に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める

授業の到達目標

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う。

授業の概要

1. 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する. 2. 研究の概念枠組みを明確にし、研究に必要なデータ収集を開始する. 3. 集めたデータを分析し、考察する. 4. 論文の作成.

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する①
- 第2回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する②
- 第3回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する③
- 第4回 研究の概念枠組みの明確化①
- 第5回 研究の概念枠組みの明確化②
- 第6回 研究の概念枠組みの明確化③
- 第7回 データ収集①
- 第8回 データ収集②
- 第9回 データ収集③
- 第10回 データ収集④
- 第11回 データ収集⑤
- 第12回 データ収集⑥
- 第13回 データ収集⑦
- 第14回 データ収集⑧
- 第15回 データ収集⑨
- 第16回 データ収集⑩
- 第17回 データ分析と考察①
- 第18回 データ分析と考察②
- 第19回 データ分析と考察③
- 第20回 データ分析と考察④
- 第21回 データ分析と考察⑤
- 第22回 データ分析と考察⑥
- 第23回 データ分析と考察⑦
- 第24回 データ分析と考察⑧
- 第25回 データ分析と考察⑨
- 第26回 データ分析と考察⑩
- 第27回 論文作成①
- 第28回 論文作成②
- 第29回 論文作成③
- 第30回 論文作成④

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (70)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

2015 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅰ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定

担当者 沼本 教子・長谷川 美智子

テーマ

高齢者看護を实践するうえで必要な理論と看護の役割

授業の到達目標

高齢者看護を实践するうえで重要となる自己の高齢者観について追及する。さらに、高齢者の看護实践において発生する現象を分析し、援助の発展につなげるための基礎となる概念および理論を探求する。これらの学習を通して、老年看護を担う高度実践家としての役割について考える。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。
- 第2回 //
- 第3回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第4回 //
- 第5回 //
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 高齢者看護を实践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 //
- 第13回 老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
- 第14回 //
- 第15回 高齢者看護实践における課題と今後の展望について探求する。

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題〈提出物・レポート〉(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・田中 涼子・沼本 教子・藤岡 純一

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度・政策およびサポートシステムの現状

授業の到達目標

高齢者が健康な生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状について学び、日本における保健医療福祉制度・政策の課題について探究する。また高齢者の健康生活を支援するためのサポートシステムの現状と今後の課題について探求する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。
 第2回 //
 第3回 諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。
 第4回 //
 第5回 高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。
 第6回 //
 第7回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
 第8回 //
 第9回 //
 第10回 //
 第11回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
 第12回 //
 第13回 //
 第14回 //
 第15回 老年看護における保健医療福祉システムの今後の課題について探求する。

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題〈提出物・レポート〉(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 **老年看護学Ⅲ〈M〉**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小野塚 元子・沼本 教子・花房 由美子	
テーマ 健康課題をもつ高齢者と介護家族に対する専門的な看護援助	
授業の到達目標 健康課題をもつ高齢者のセルフケア能力を尊重した看護実践と、高齢者看護を担う家族の力を支援するために必要な看護援助について探求する。また、高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利や尊厳を守るための看護者としての在り方について追及する。	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	
第1回	老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
第2回	〃
第3回	急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
第4回	〃
第5回	家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
第6回	〃
第7回	高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
第8回	〃
第9回	家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
第10回	〃
第11回	高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
第12回	〃
第13回	高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
第14回	〃
第15回	高齢者看護実践の研究動向と今後の課題について展望する。
履修上の注意点	
教科書	
専門図書、専門誌、文献等を適宜提示	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 ()	授業中発表等 ()
参加度 ()	
授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。	

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習 I (老年) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大畑 茂子・小野塚 元子・桑田 美代子・沼本 教子

テーマ

認知症高齢者および介護家族の理解と専門的な看護援助

授業の到達目標

認知症高齢者および介護する家族が生活者としての権利や尊厳を守られ、高齢者が今まで培ってきた生き方や生活機能を重視し、より質の高い健康生活を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 認知症高齢者のBPSDIについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。
- 第30回 //

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ(老年)〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子・田中 涼子・沼本 教子

テーマ

高齢者の健康課題と介護施設における専門的な看護援助

授業の到達目標

介護施設において健康課題をもつ高齢者とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第9回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。

第10回 //

第11回 //

第12回 //

第13回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。

第14回 //

第15回 //

第16回 //

第17回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。

第18回 //

第19回 //

第20回 //

第21回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。

第22回 //

第23回 //

第24回 //

第25回 //

第26回 //

第27回 //

第28回 //

第29回 施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。

第30回 //

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学課題研究 <Ma>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 沼本 教子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習(老年)において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認を受ける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や関に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第15回 研究課題の指導
 第1回 研究課題の指導
 第2回 研究課題の指導
 第3回 研究課題の指導
 第4回 研究課題の指導
 第5回 研究課題の指導
 第6回 研究課題の指導
 第7回 研究課題の指導
 第8回 研究課題の指導
 第9回 研究課題の指導
 第10回 研究課題の指導
 第11回 研究課題の指導
 第12回 研究課題の指導
 第13回 研究課題の指導
 第14回 研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

2015 Syllabus

科目名 小児看護学〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

子どもと共に家族も育っていく過程を考えてみましょう

授業の到達目標

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や研究、最近の知見を学ぶ。

授業の概要

小児看護におけるさまざまな現象を理解する上で、重要な理論や研究、最近の知見を学び、子どもの健康レベルや状況に応じたより効果的なケアについて検討する。

準備学習(予習・復習)

各回の学習内容について文献を読み、自らの意見や問いを話し合えるようにしておくこと。

内 容

- 第1回 小児看護における子どもの理解と理論・研究の実践への活用
- 第2回 家族の発達(1)
- 第3回 家族の発達(2)
- 第4回 母親の発達(1)
- 第5回 母親の発達(2)
- 第6回 父親の発達(1)
- 第7回 父親の発達(2)
- 第8回 子どもの痛み知覚(1)
- 第9回 子どもの痛み知覚(2)
- 第10回 子どものボディイメージの発達(1)
- 第11回 子どものボディイメージの発達(2)
- 第12回 子どもの死の概念形成(1)
- 第13回 子どもの死の概念形成(2)
- 第14回 小児看護における倫理
- 第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

2015 Syllabus

科目名 周産期看護学〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子

テーマ

マタニティサイクルにある母子とその家族の健康問題をめぐる今日的課題を取り上げ、周産期看護援助に関するあり方を学ぶ。安全で質の高い実践を行うには、周産期医療に関する最新のガイドラインについて学び、周産期看護援助をエビデンスに基づき実施する方法を学ぶ。またFIGO,IVMなどのグローバルスタンダードを意識しながらのあり方を学ぶ。さらに、母子とその家族の援助をチーム医療の観点から組織的に展開することを強化する。

授業の到達目標

1周産期のプライマリヘルスケアをエビデンスに基づき検討する2周産期にある母子とその家族への査定に必要なアセスメント力と必要なケア、緊急時対応能力を獲得する。3周産期医療における倫理的課題に対応できる基礎能力を獲得する。4周産期医療チームにおける看護の役割を明確にしながらか多職種協働を推進できる能力を獲得する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 周産期のプライマリヘルスケアを周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討する(国内)
- 第2回 周産期のプライマリヘルスケアを周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討する(国外/イギリス)
- 第3回 周産期のプライマリヘルスケアを周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討する(国内/オーストラリア・ニュージーランド)
- 第4回 周産期の母子の健康問題査定のためのアセスメント(ガイドラインを基に)(1)
- 第5回 周産期の母子の健康問題査定のためのアセスメント(ガイドラインを基に)(2)
- 第6回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスに基づくケア(妊娠編1)
- 第7回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスに基づくケア(妊娠編2)
- 第8回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスに基づくケア(分娩期)
- 第9回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスに基づくケア(産褥期)
- 第10回 産科救急と看護の役割(1)妊娠期 事例を基に検討
- 第11回 産科救急と看護の役割(2)分娩期 事例を基に検討
- 第12回 産科救急と看護の役割(3)新生児 事例を基に検討
- 第13回 周産期救急時における看護の役割のまとめ
- 第14回 周産期医療チームにおけるコーディネーションとリスクマネージメント(1)
- 第15回 周産期医療チームにおけるコーディネーションとリスクマネージメント(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

助産師の意思決定

著者: Maureen D. Raynor(堀内成子監修)

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年:

ISBN:

看護アウトカムの測定、患者満足とケアの質指標

著者: OraLea Strickland(井部俊子監修)

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年:

ISBN:

産婦人科診療ガイドライン産科編2014

著者: 日本産科婦人科学会

出版社:

出版年:

ISBN:

参加医療補償制度 再発防止に関する報告書～参加医療の質向上に向けて～HPよりダウンロード可能

著者： 公益法人日本医療評価機構

出版社：

出版年： ISBN：

その他授業中に指示

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業中課題提出20%、授業中の発表等50%、レポート30%

2015 Syllabus

科目名 女性健康看護学〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	思春期・成熟期・更年期にある女性の健康をめぐる今日的な話題を知り、女性看護学の方向性を考察する。
授業の到達目標	1 女性の生涯を通じた健康課題を明らかにする。 思春期・成熟期・更年期にある女性の健康問題を多角的に捉える。2 女性の健康問題を解決するために実態を知るとともに、介入に必要な理論を学ぶ。3 行政や自助グループなど支援に関わる組織との連携のあり方を考察する。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内 容	<p>第1回 性差の観点からみた女性の生涯を通じた身体・心理・社会的変化と健康問題を理解する</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 わが国の思春期・成熟期・更年期の女性の健康問題のアセスメントと支援</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウイメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 女性看護学領域における課題と支援ドメスティックバイオレンス／乳幼児虐待</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 女性の健康と妊孕性</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 不妊看護、地域における女性への支援と諸制度</p>
履修上の注意点	
教科書	
参考書	<p>女性生涯看護学 著者： 吉沢豊予子編 出版社： 真興交易出版 出版年： ISBN:</p> <p>ウーマンライフ、ジェンダーはいかにして形成されるか 著者： Bernice Lott(西村恕彦監訳) 出版社： 日本評論社 出版年： ISBN:</p> <p>産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編 著者： 出版社： 日本産婦人科学会／産婦人科医会 出版年： ISBN:</p> <p>看護法令要覧平成27年版 著者： 出版社： 日本看護協会出版会 出版年： ISBN:</p>
成績評価	

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (周産期) <M>

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 遠藤 俊子・神崎 光子

テーマ

周産期における母子と家族のプライマリーケアにかかわる看護介入モデルを活用し、質の高いケアの提供の在り方を理解する。

授業の到達目標

1 母子とその家族の生活を基盤とした健康支援を行うためのアセスメントとケア計画、評価方法を検討する。2 周産期の母子援助に関する有益な看護理論を活用し、質の高い看護実践のあり方を理解する。3 周産期における複雑かつ困難事例を用いて、妊産婦と家族への相談・助言・教育のスキルを学ぶ。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 妊産婦の健康診査と正常性を維持するためのアセスメントおよび保健指導の検討
 第2回 //
 第3回 //
 第4回 //
 第5回 妊産婦とその家族に必要なケアを親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
 第6回 //
 第7回 //
 第8回 //
 第9回 //
 第10回 //
 第11回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびに家族間調整、パースプランの活用、分娩ケアの在り方の検討
 第12回 //
 第13回 //
 第14回 //
 第15回 //
 第16回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための諸活動
 第17回 //
 第18回 //
 第19回 産褥期の母子とその家族の家族アセスメントとケア
 第20回 //
 第21回 地域周産期システムと医師および保健師、ソーシャルワーカーとの協働
 第22回 //
 第23回 //
 第24回 //
 第25回 //
 第26回 周産期の家族に関わる心理・社会的問題とその援助
 第27回 //
 第28回 //
 第29回 //
 第30回 //

履修上の注意点

教科書

参考書

望ましい周産期ケアとその根拠

著者: Marsden Wagner(井上裕美監訳)

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

母と子のアタッチメント:心の安全基地

著者: ボウルビィ(二木武監訳)

出版社: 医歯薬出版

出版年: ISBN:

家族看護の理論と実践

著者: ファミリーナーシングプラクティス 森山美知子編集

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Nurses and Families: A Guide to Family Assessment and Intervention, edition5

著者: Lorraine M. Wright and Maureen Leahey

出版社: F.A.DAVIS

出版年: ISBN:

その他 必要時提示

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ(周産期)〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・中井 愛

テーマ

周産期における妊産婦とその子どもと家族へのプライマリーケアを踏まえ、異常の診断、救急処置への対応について、他職種との協働をも含めたケアの提供方法を学ぶ。

授業の到達目標

1 周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探求する。2 周産期救急時の対応ができる知識、技術を獲得する。3 周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を獲得する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 わが国と諸外国の妊産婦ケア、安心・安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク妊産婦・新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送のあり方を再認識する。
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 事例を通して、妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への支援の具体例を検討する。PIH、妊娠糖尿病、心疾患、自己免疫疾患、血液疾患、婦人科疾患、精神・神経疾患、母子感染症、多胎、早期産、切迫早産
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 分娩異常の事例から出産時の産婦ケアの在り方を具体的に検討する。娩出力の異常、胎児および付属物の異常、産道の異常・分娩時裂傷産科DIC、羊水塞栓症、HELLP症候群、産科出血の対応、産科手術の介助
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 周産期医療におけるME機器の活用と看護分娩監視装置、超音波診断8月23,24日CTGセミナー受講
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 産褥期における母子と家族への支援の実例、倫理調整を含む産褥うつ病を発生した事例、緊急帝王切開になった事例子どもを亡くした母子とその家族の事例等
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 NICUにおける家族への援助と連携
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 周産期医療システム内でのマネジメントと法や諸制度の活用への理解を深める

履修上の注意点

教科書

参考書

産婦人科診療ガイドライン産科編

著者： 日本産科婦人科学会編

出版社：

h701014050

出版年： 2011

ISBN:

ウィリアムス臨床産科マニュアル22版

著者： Williams(大鷹美子監訳)

出版社:

出版年： 2009

ISBN:

新生児蘇生法テキスト

著者： 田村正徳監修

出版社： メディカルビュー

出版年： 2011

ISBN:

その他授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ(周産期)〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	今日のわが国の周産期医療の実態を分析し、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する能力を獲得する。
授業の到達目標	1 変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析し、これからの母子援助のケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点からとらえる。2 周産期医療の各々の現場に応じた他職種が協働できる接近法や、新たなシステム構築に向けての調整ができる基礎能力を獲得する。3 周産期の母子援助のためのケアを制作に結びつける手立てについて学ぶ。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	Good Practice 施設見学、学会参加により実践的学習にする自分自身で資料や論文を探す
内 容	<p>第1回 わが国の戦後の母子保健統計、ならびに諸外国の母子保健統計と周産期医療の実態からわが国の周産期医療の実態を明らかにする。</p> <p>第2回 //</p> <p>第3回 周産期医療体制整備事業について検討する。</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 健やか親子21について検討する。</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 周産期医療体制におけるあり方検討会(討議)</p> <p>第8回 //</p> <p>第9回 わが国と諸外国の看護・助産師教育制度基礎教育</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 //</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 わが国と諸外国の看護・教育制度現任・卒後教育</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 周産期医療における医療訴訟の事例検討</p> <p>第16回 //</p> <p>第17回 //</p> <p>第18回 //</p> <p>第19回 医療安全と周産期医療における機能評価、医療安全にかかわる周産期病棟管理</p> <p>第20回 //</p> <p>第21回 //</p> <p>第22回 //</p> <p>第23回 新たな周産期医療システムの構築院内助産システム、母子健康手帳の電子化等</p> <p>第24回 //</p> <p>第25回 //</p> <p>第26回 //</p> <p>第27回 「周産期医療に関わる私の提言」の発表とまとめ</p> <p>第28回 //</p> <p>第29回 まとめ</p> <p>第30回 //</p>

履修上の注意点

教科書

参考書

専門誌の論文等から、その都度配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題提出20%、授業中の発表等50%、レポート30%

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学課題研究 <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定

担当者

テーマ

講義及び演習で学んだことを基盤とし次世代育成看護学実習(周産期)において、妊産婦、子どもとその家族に関する課題を見出し、適切な研究計画に基づき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1 見出した課題に対して文献検討を加え、適切な研究方法と研究協力者を選択し、研究計画を立てる。2 研究計画書をさs⑨製紙、京都橘大学研究倫理委員会の審査を受ける。3 計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をしたうえでデータ収集を行う。4 収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して、次世代育成看護学における専門的知識・技術の向上や開発に向けて考察する。5 課題研究論文を作成する。6 課外研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

1回生後期から取組み、2回生に進む前には研究計画書の作成、倫理委員会の審査を受ける。データ収集は2回生前半で行い、論文作成を12月には仕上がる様、主指導教員と調整しながら行う。副指導教員には適宜、調整の上指導を受ける。

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 研究したい事象の絞り込み~動機を中心とした話し合い
- 第2回 同上
- 第3回 文献検討①
- 第4回 文献検討②
- 第5回 文献検討③
- 第6回 文献検討④
- 第7回 文献のまとめとテーマの絞り込み
- 第8回 研究方法①
- 第9回 研究方法②
- 第10回 研究方法③
- 第11回 研究方法④
- 第12回 研究計画書の作成①
- 第13回 研究計画書の作成②
- 第14回 研究倫理委員会提出書類作成①
- 第15回 研究倫理委員会提出書類作成②
- 第16回 データ収集分析①
- 第17回 データ収集分析②
- 第18回 データ収集分析③
- 第19回 データ収集分析④
- 第20回 データ収集分析⑤
- 第21回 データ収集分析⑥
- 第22回 データ収集分析⑦
- 第23回 データ収集分析⑧
- 第24回 考察①
- 第25回 考察②
- 第26回 考察③
- 第27回 考察④
- 第28回 論文作成①
- 第29回 論文作成②
- 第30回 要約

履修上の注意点

年間計画と、其々の進み方は毎回次回のアポイントを取りながら進める。メールでの相談も可能。

教科書

専門図書、専門誌、適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

課題研究論文、発表会における発表内容、経過における取組によって総合的に判断

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・堀 妙子

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施する中で、看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

1. 研究課題を見出す事ができる
 研究計画が作成できる
 研究が実施できる
 結果の分析ができる
 文が作成できる
 内容を発表できる

2.
 3. 研
 4. 研究
 5. 研究論
 6. 論文の内

授業の概要

講義・演習で学習した事を基に、研究計画を立案し、実施する。研究計画にそって、得られたデータの分析を行い、論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 研究指導(1)
 第2回 研究指導(2)
 第3回 研究指導(3)
 第4回 研究指導(4)
 第5回 研究指導(5)
 第6回 研究指導(6)
 第7回 研究指導(7)
 第8回 研究指導(8)
 第9回 研究指導(9)
 第10回 研究指導(10)
 第11回 研究指導(11)
 第12回 研究指導(12)
 第13回 研究指導(13)
 第14回 研究指導(14)
 第15回 研究指導(15)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (100%)
 参加度 ()
 詳細は別途説明する

小テスト ()
 授業中発表等 ()

2015 Syllabus

科目名 国際看護学特論 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者 (閉講:開⇒閉)

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える

授業の到達目標

1. 国際看護・異文化看護について理解し、多文化共生社会における看護の役割について考察する。2. 医療(主として看護)における国際協力の実際を知る。3. 自分のこれまでの経験および今行っている看護と結びつけて、国際協力・援助とは何か、国際看護の実践とは何かについて考える。

授業の概要

文献講読、プレゼン、ディスカッション等。受講生のレディネスの状況に併せて授業を進める。

準備学習(予習・復習)

講義を行うだけでなく、必要な課題を適宜指定するので、それに合わせて各自プレゼンを行っていただく予定です。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か
- 第2回 国際看護の主要概念、国際看護と異文化看護
- 第3回 国際協力機関と協力の仕組み、NGOの役割と動向
- 第4回 多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状①国内の動向
- 第5回 多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状②世界の動向
- 第6回 国際保健医療・看護協力の課題に対するアプローチ(内外の開発援助システムと看護職)
- 第7回 文化とのかかわりからみた看護理論、内外研究の動向
- 第8回 保健行動関連の諸理論
- 第9回 国際協力の実際① プライマリ・ヘルス・ケア
- 第10回 国際協力の実際② 子どもの健康
- 第11回 国際協力の実際③ ジェンダー、リプロダクティブヘルス
- 第12回 国際協力の実際④ ジェンダー、リプロダクティブヘルス
- 第13回 国際協力の実際⑤ 在日外国人の医療と現状と看護の役割
- 第14回 国際協力の実際⑥ 社会的・文化的背景の異なる看護職との協働
- 第15回 多文化共生社会における看護について考える(まとめ)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートやプレゼンおよび授業への参加態度から総合的に評価する。

2015 Syllabus

科目名 地域看護学特論〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
地域における健康課題と地域看護活動について	
授業の到達目標	
我が国の公衆衛生上の課題を踏まえ、地域における健康課題の理解とともに、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。	
授業の概要	
地域看護学の基盤となる公衆衛生学の基本理念を踏まえ、地域を単位とした予防活動に関する昨今の研究の動向から、地域における健康課題について理解を深め、看護職の役割について探求する。	
準備学習(予習・復習)	
予習:事前に配付する各回の研究テーマの関する研究論文を熟読しておく。疑問などがあればあげておくこと。また発表担当になった際は事前に配付資料を準備すること。復習:最終的に1つのレポートにして学びをまとめるため、各授業で研究した内容の要点を整理する。	
内 容	
第1回 わが国の保健・医療・福祉・行政と公衆衛生上の課題	
第2回 地域における対象集団別の健康課題(職域1)	
第3回 地域における対象集団別の健康課題と予防活動(職域2)	
第4回 地域における疾病別の健康課題(精神保健1)	
第5回 地域における疾病別の健康課題と予防活動(精神保健2)	
第6回 地域における疾病別の健康課題(生活習慣病1)	
第7回 地域における疾病別の健康課題と予防活動(生活習慣病2)	
第8回 地域における疾病別の健康課題(感染症1)	
第9回 地域における疾病別の健康課題と予防活動(感染症2)	
第10回 地域におけるライフステージ別の健康課題(母子1)	
第11回 地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動(母子2)	
第12回 地域におけるライフステージ別の健康課題(成人1)	
第13回 地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動(成人2)	
第14回 地域におけるライフステージ別の健康課題(高齢者1)	
第15回 地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動(高齢者2)	
履修上の注意点	
3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。	
教科書	
参考書	
予防医学のストラテジー 生活習慣病対策と健康増進	
著者: 曾田研二, 田中平三監訳	
出版社: 医学書院	
出版年:	ISBN:
看護研究 原理と方法	
著者: 近藤潤子監訳	
出版社: 医学書院	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (30)	授業中発表等 (40)
参加度 (30)	

2015 Syllabus

科目名 看護教育学特論 <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 (閉講:開⇒閉)	
テーマ	
看護職の人材育成における教育のあり方	
授業の到達目標	
看護教育論での学びを踏まえ、自らの看護実践を通して捉えた教育的問題の考察を通して、教育の本質を探究する。	
授業の概要	
看護実践において自身が感じている教育的問題を提示し、文献講読や討議によりその問題の本質を探り、問題の本質とその解決の視点を探る。1. 看護実践における教育的問題の提起2. 問題の事実関係の再考3. 文献講読及び討議による問題の本質の探究4. 問題に対する解決の視点の発見5. 提起した問題についての総括	
準備学習(予習・復習)	
・自身が感じている教育的問題について、その問題の本質をとらえ、解決に結び付けるための視点を導くために、主体的に学習を進める。	
内 容	
第1回 オリエンテーション(学習目標、授業の進め方)	
第2回 各自の看護実践における教育的問題の提起	
第3回 問題の現状、背景などから問題の事実関係(プレゼンテーション、討議)	
第4回 問題の本質の理解(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第5回 問題の本質の理解(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第6回 問題の本質の理解(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第7回 問題の本質の理解(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第8回 問題の本質の見極め	
第9回 問題解決にむけた視点の理解	
第10回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第11回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第12回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第13回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読、プレゼンテーション、討議)	
第14回 提起した問題及びその解決方策についての総括(プレゼンテーション、討議)	
第15回 まとめ	
履修上の注意点	
・看護実践において問題意識を持つ。・広く関連図書・専門誌等を読む。・討議における発表の準備をする。	
教科書	
特に指定しない。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
参考書	
授業内で提示する。	
著者:	
出版社:	
出版年:	ISBN:
成績評価	
試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (50)	授業中発表等 ()
参加度 (50)	
プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する。	

2015 Syllabus

科目名 看護管理学特論 <M>

クラス 配当回生 大学院1回生

講義期間 後期 定員

履修条件 クラス指定

担当者 新道 幸恵・野村 陽子

テーマ

看護管理に関する国内外の研究について探索し、修士論文計画立案に活用する。

授業の到達目標

看護管理論で学んだ諸理論、管理プロセス、実践システムを踏まえ、看護サービス管理における研究の動向から、医療提供システムや看護への影響備員や課題の認識を深め、ヘルスケアシステムにおける看護管理の在り方について探索する。

授業の概要

看護管理領域で多く用いられる研究方法についての理解を深め、修士論文の課題や研究方法論の選択についての示唆が得られるように、研究方法についての理解を深め、優れた研究文献のクリティークを行う。

準備学習(予習・復習)

自己の研究課題に関連した文献を読み込み、文献カードを作成し、クリティークを行う。

内 容

- 第1回 学習目標・授業の進め方につちえのガイダンス
 第2回 看護管理に関する量的・質的研究デザインによる研究論文の検索
 第3回 看護管理に関する量的研究の検討①
 第4回 看護管理に関する量的研究の検討②
 第5回 看護管理に関する量的研究の検討③
 第6回 看護管理に関する質的研究の検討①
 第7回 看護管理に関する質的研究の検討②
 第8回 看護管理に関する質的研究の検討③
 第9回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク①
 第10回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク②
 第11回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク③
 第12回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク④
 第13回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク⑤
 第14回 研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク⑥
 第15回 まとめ

履修上の注意点

関連図書や専門誌などを幅広く読み、自らの関心領域、課題を明確にする。

教科書

看護研究—原理と方法第2版

著者: D.F.ポーリット他

出版社: 医学書院

出版年: 2010

ISBN: 9784260005265

参考書

看護管理学習テキスト第1～8巻

著者: 中西睦子他

出版社: 医学書院

出版年: 2014

ISBN: 未定

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (20%)

3分の2以上の出席を前提とする。遅刻の場合には、事前に連絡をすること。

2015 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 通年集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阿部 祝子

テーマ

特論、演習での学びを基盤として、看護管理学領域における院生の研究課題について、一連の研究プロセスを通して、修士論文をまとめる。

授業の到達目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え、研究課題を明確にする。2.研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を受ける。3.研究計画に基づき、十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する。4.得られた結果をもとに十分に考察を加え、修士論文にまとめる。5.修士論文について、効果的なプレゼンテーションを考え、発表する。6.1～5の一連の研究プロセスを通して、研究を遂行できる基礎能力を身につける。

授業の概要

研究課題の明確化、文献検討、研究テーマの決定、研究計画立案、研究倫理審査委員会への申請、研究の実施、データの収集、データの分析、データに基づく考察、修士論文の作成、論文の発表

準備学習(予習・復習)

自らの研究課題・テーマに沿って、主体的に学習を進める。

内 容

- 第1回 研究課題の明確化
- 第2回 研究課題の明確化
- 第3回 文献の収集と検討
- 第4回 文献の収集と検討
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第7回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第8回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第9回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第10回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第11回 研究協力依頼とデータ収集
- 第12回 データ収集
- 第13回 データ収集
- 第14回 データ分析
- 第15回 データ分析
- 第16回 データ分析
- 第17回 データ分析
- 第18回 データに基づく考察
- 第19回 データに基づく考察
- 第20回 データに基づく考察
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文作成
- 第27回 論文の発表資料の作成
- 第28回 論文の発表資料の作成
- 第29回 論文の発表資料の作成
- 第30回 論文の発表

履修上の注意点

研究課題・テーマに関する文献等の情報収集につとめる。

教科書

参考書

h701015310

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (15%)

小テスト ()

授業中発表等 (15%)

2015 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 安藤 忠 梶谷 佳子 林正 健二	

テーマ

対象(個人/集団)の健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断し、医療および看護の必要性を的確・迅速に判断できる、この一連のアセスメントに必要な知識・技術を修得する。このために、系統的な全体的な対象の身体診査についての確かな方法を修得する。また、それらのデータを統合して解釈・判断し、複雑な対象の健康状態について、優先度もふくめ、全体的な見地からアセスメントが適切にできるために、臨床的、統合的な知識およびクリティカルシンキングスキルの活用を修得する。

授業の到達目標

1 対象の生理的心理社会的な健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断することの意義を看護実践の視点から理解できる。2 対象を生理的な全体としてアセスメントするための系統的な方法が理解できる。3 身体診査(フィジカルイグザミネーション)の方法がわかり、実施できる。4 3で得られたデータを統合し対象の健康状態/生命・生活過程における複雑な状況を、全体的な見地からの確かにアセスメントすることができ、看護実践に活用できる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 対象にとってフィジカルアセスメントの持つ意義、フィジカルアセスメントに必要な知識、技術、看護におけるフィジカルアセスメント
- 第2回 対象を全体的な見地からアセスメントするための診査方法、スクリーニング、システムレビュー、観察法、測定法、問診、聴診、打診、視診、触診、対象による診査の留意点
- 第3回 身体的系統的診査(イグザミネーション)とは
- 第4回 頭部、頸部、感覚器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第5回 胸部(心臓・血管系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、心電図測定
- 第6回 胸部(呼吸器系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第7回 胸部(乳房)の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第8回 腹部の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第9回 腹部・泌尿器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第10回 生殖器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第11回 骨・筋肉系の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第12回 神経系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第13回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断(1)
- 第14回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断(2)
- 第15回 看護における臨床判断、全人的な見地からのフィジカルアセスメントとその臨床での活用

履修上の注意点

DVDや視聴覚教材を効果的に用いて理解を深めてください。

教科書

Essentials of Human Anatomy & Physiology 11th edition. 人体の構造と機能 第4版

著者: Elaine N. Marieb(2012)/ 林正健二他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2015

ISBN:

参考書

ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 第2版

著者: 松尾ミヨ子, 志自岐康子, 城生弘美

出版社: メディカ出版

出版年: 最新版

ISBN:

Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition. ベイツ診察法 第9版

著者: Lynn S. Bickley, Peter G. Szilagyi(2007)/福井次矢, 井部俊子(2007)

出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年: 最新版

ISBN:

h701015450

Health Assessment Nursing Practice Third Edition

著者: Susan F.Wilson, Jean Foret Giddens

出版社: Elsevier Mosby.

出版年: 最新版

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

2015 Syllabus

科目名 臨床薬理学〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 天野 博夫・奥野 信行・西谷 葉子

テーマ

対象の病態の回復への促進に向けた薬物療法について、薬剤の選択、管理等、その過程の臨床判断を含む知識および技術を修得する。薬物が人間におよぼす影響を薬物動態として理解し、病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解する。そのうえで、集中治療や救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできるために必要な知識、技術を修得する。

授業の到達目標

1.薬物が人間におよぼす影響を、薬物動態(からだと薬の機能、動き、体の反応)として理解できる。2.病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解できる。3.集中治療や救急処置、症状の調整や変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題がわかる。4.対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内容

- 第1回 人間と薬物;薬とは何か, 人間にとって薬の持つ意味, 医療における薬物療法, 薬と毒(天野)
 第2回 からだにおける薬の働き;薬理作用, 容量と反応, 受容体と薬理作用, 薬物作用点(天野)
 第3回 からだにおける薬の動き①;薬物の投与経路と体循環, 薬物の吸収と代謝・組織への分布, 薬物の排泄(天野)
 第4回 からだにおける薬の動き②;薬物送達システム, 治療薬物モニタリング, 薬物動態パラメータ, からだと薬の反応;からだと薬の反応に影響を与える因子, 薬物相互作用とからだ, (天野)
 第5回 病態における薬物療法(1)神経, 精神, 循環, 血液の働きに対応した薬物療法(天野)
 第6回 病態における薬物療法(2)体液・電解質, ホルモン免疫, 炎症, 感染症に対応した薬物療法(天野)
 第7回 病態における薬物療法(3)消化・吸収・代謝, 呼吸の働きに対応した薬物療法(天野)
 第8回 病態における薬物療法(4)悪性腫瘍, 中毒に対応した薬物療法(天野)
 第9回 病態における薬物療法(5)エイジング(妊婦, 高齢者, 小児), 漢方医学に対応した薬物療法(天野)
 第10回 慢性疾患の管理に必要な薬物療法とその選択(西谷)
 第11回 症状の調整や症状の変化に伴う薬物療法とその選択(西谷)
 第12回 対象が出会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理(1)(西谷)
 第13回 対象が出会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理(2)(西谷)
 第14回 集中治療や救急処置における薬剤の選択(奥野)
 第15回 集中治療や救急処置での薬物療法において対象が出会う問題や課題への対処と援助(奥野)

履修上の注意点

教科書

参考書

病態生理に基づく臨床薬理学—ハーバード大学テキスト

著者: テービット・E. ゴーラン 編集, Jr.アーメン・H. タジアン 編集, 清野 裕記

出版社: メディカルサイエンスインターナショナル

出版年: 2006

ISBN:

シリーズ看護の基礎科学, 薬とのかかわり, 臨床薬理学

著者: 中谷晴昭, 大橋京一編集

出版社: 日本科看護協会出版会

出版年: 2005

ISBN:

その他授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート60%, 参加度と出席40%, から総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 病態生理学 <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠・奥野 信行・林正 健二

テーマ

対象の病態を全体的、統合的に的確に理解するために必要な知識を修得する。対象が示している徴候や症候から、その対象に起きている生理・生化学的なからだの仕組みおよび、変調である病態をエビデンスに基づいて適切に判断でき、その過程を通し、対象におきている病態について、今後の見通しも含めて統合的に理解することができる知識と技術を修得する。

授業の到達目標

1.からだの仕組みにおける生命維持のメカニズムについて、生理・生化学的な見地からエビデンスと共に理解できる。2.からだの仕組みの異常状態である病態について、どのようなメカニズムによりその異常が起こるか、その種類や程度に対する検査法や診断についてエビデンスと共に理解できる。3.その病態における修復、改善のため治療法について理解でき、看護ケアの根拠との関連を考察する。4.対象におきている病態をそのメカニズムと共に、今後の見通しも含めて統合的にとらえることができる。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

- 第1回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(1) 細胞の働き, 筋, 神経系, 体温調節, 感覚系のはたらき(林正)
- 第2回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(2) 体液バランスと腎機能, 内分泌の調節, (林正)
- 第3回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(3) 呼吸, 循環, 消化吸収, 代謝, 免疫, 血液のはたらき(林正)
- 第4回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1):糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例(林正)
- 第5回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1):糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例(林正)
- 第6回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1):糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例(林正)
- 第7回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1):糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例(奥野)
- 第8回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2):慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例(林正)
- 第9回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2):慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例(林正)
- 第10回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2):慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例(奥野)
- 第11回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3):骨折をきたした事例(安藤)
- 第12回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3):骨折をきたした事例(安藤)
- 第13回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3):骨折をきたした事例(奥野)
- 第14回 急激に発生したクリティカルな病態のメカニズムをもつ事例における検討:対象におきている病態を今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。(奥野)
- 第15回 慢性的複合的な病態のメカニズムをかかえる事例の検討:対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。(奥野)

履修上の注意点

教科書

参考書

ナーシング・グラフィカ解剖生理学第2版

著者: 林正健二編集

出版社: メディカ出版

出版年: 2008

ISBN:

Advanced Practice Nursing – An Integrative Approach 5th Edition.

著者: Hamric,B.

出版社:

出版年: 2009

ISBN:

即応用可能な日常診療の実際—Up dateな糖尿病診療へのナビゲーション

著者： 坂本信夫他

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2008

ISBN:

これだけは知っておきたい糖尿病で腎不全にならないために—その管理上の問題点と対策

著者： 吉川隆一・西沢良記, 編集

出版社： 医薬ジャーナル社

出版年： 2006

ISBN:

その他授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート60%, プレゼンテーション内容ディスカッション状況20%, 参加度と出席20%, から総合的に評価する.

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅳ(周産期) <M>

クラス	配当回生 大学院2回生
講義期間 その他	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	
テーマ	周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を習得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。
授業の到達目標	1. 周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を学ぶ。2. 周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア(相談、助言、倫理的調整)の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて習得する。3. 事例分析を通して、心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア(相談、助言、倫理調整)や他職種との連携を行う実践能力を養う。4. 母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	

内 容

- 第6回 //
- 第7回 周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
- 第8回 //
- 第9回 事例検討②: 周産期の倫理的問題への看護援助
- 第10回 //
- 第11回 家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
- 第12回 //
- 第13回 妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
- 第14回 //
- 第15回 妊産褥婦とその家族への援助(ケア、相談、助言)の実際
- 第16回 //
- 第17回 事例検討③: 精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
- 第18回 //
- 第19回 周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
- 第20回 //
- 第21回 心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
- 第22回 //
- 第23回 事例検討④: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第24回 //
- 第25回 事例検討⑤: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第26回 //
- 第27回 事例検討⑥: 周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際(相談、助言、スタッフ間の調整、教育: 実習での活動の分析)
- 第28回 //
- 第29回 心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動(実習受持事例へのコーディネート)の分析、連携システム構造の考察)
- 第30回 //
- 第1回 周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
- 第2回 //
- 第3回 心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助(相談・助言・倫理的調整)
- 第4回 //
- 第5回 事例検討①: 周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助

履修上の注意点

教科書

ディブリーフィング・ワークの研究—看護学生の臨地実習におけるディブリーフィング・ワークの心理教育的意義—

著者: 中島暢美

出版社: 関西学院大学出版会

出版年: 2011

ISBN:

対人援助職のためのリスニング

著者： 中島暢美

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2014

ISBN:

ビリーフ—家族看護実践の新たなパラダイム

著者： ロレイン・Mライト、ウエンディ・Lワトソン、ジャニス・ベル

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

2015 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論Ⅲ(老年)〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠・小野塚 元子・沼本 教子・宮本 尚・林正 健二

テーマ

老年期の疾患と検査、治療

授業の到達目標

高齢者に特有な疾患や症候、およびそれらに関連する検査、治療を学び、看護アセスメント能力の向上を目指す。さらに老年期の回復過程の特徴をとらえながら、生活機能の維持・回復を目指した看護を探求する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内 容

第1回 老年期の生理的变化(エイジング)と病的変化について学ぶ。

第2回 //

第3回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1) 骨・運動器疾患(骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折)

第4回 //

第5回 //

第6回 //

第7回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(2) 糖尿病、心臓疾患、血管系疾患(心不全、末梢動脈疾患など)

第8回 //

第9回 //

第10回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(3) 腎・泌尿器系疾患(尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など)

第11回 //

第12回 //

第13回 高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探求する。

第14回 //

第15回 //

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中課題〈提出物・レポート〉(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (小児看護) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

子どもの健全な成長発達について、様々な視点から考察し、子どもに成長発達を支えるために必要な看護支援を考案し実践できる能力を養う

授業の到達目標

1. 子どもの成長発達を様々な視点からアセスメントする事ができる
2. 子どもの成長発達を支えるために必要な看護援助方法を考案する事ができる

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション・フィールドワークなどを通して、子どもの成長発達を支えるために必要な看護に関する考察を深める

準備学習(予習・復習)

オリエンテーションで説明します

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの成長発達の特徴(1)
- 第3回 子どもの成長発達の特徴(2)
- 第4回 子どもの成長発達と社会の関係(1)
- 第5回 子どもの成長発達と社会の関係(2)
- 第6回 子どもの成長発達に関連した理論(1)
- 第7回 子どもの成長発達に関連した理論(2)
- 第8回 子どもの成長発達に関連した理論(3)
- 第9回 子どもの成長発達に関連した理論(4)
- 第10回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(1)
- 第11回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(2)
- 第12回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(3)
- 第13回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(4)
- 第14回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(5)
- 第15回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(6)

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ(小児看護) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定 員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

健康課題をもつ子どもと家族に対する包括的な看護援助を実践できる能力を養う

授業の到達目標

1. 健康課題をもつ子どもや家族に対する包括的な看護援助方法が理解できる
2. 健康課題をもつ子どもや家族に対する包括的な看護援助方法を考案できる

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション、フィールドワーク等を通して、健康課題をもつ子どもと家族に対する看護に関する考察を深める

準備学習(予習・復習)

オリエンテーションで説明します

内 容

- 第1回 健康課題をもつ子どもと家族(1)
- 第2回 健康課題をもつ子どもと家族(2)
- 第3回 健康課題をもつ子どもと家族(3)
- 第4回 健康課題をもつ子どもと家族(4)
- 第5回 健康問題をもつ子どもと家族(5)
- 第6回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(1)
- 第7回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(2)
- 第8回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(3)
- 第9回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(4)
- 第10回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(5)
- 第11回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(6)
- 第12回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(7)
- 第13回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(8)
- 第14回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(9)
- 第15回 健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク(10)

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ(小児看護) <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 その他

定員

履修条件

クラス指定

担当者

テーマ

健康課題をもつ子どもとその家族を取り巻く社会や社会制度の特徴を理解したうえで、Patient and Family Centered Careの視点に立った看護援助をを実践できる能力を養う

授業の到達目標

1. 健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴を理解する
2. 健康課題をもつ子どもや家族が利用できる社会福祉制度を理解する
3. Patient and Family Centered Careの理念を理解する

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション、事例検討等を通し、Patient and Family Centerd care に対する理解を深める

準備学習(予習・復習)

オリエンテーションで説明します

内 容

- 第1回 健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴(1)
- 第2回 健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く取り巻く社会の特徴(2)
- 第3回 健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴(3)
- 第4回 健康課題をもつ子どもや家族が利用できる社会福祉制度(1)
- 第5回 健康課題をもつ子どもや家族が利用できる社会福祉制度(2)
- 第6回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family Centerd Care とは(1)
- 第7回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family Centerd Care とは(2)
- 第8回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family Centerd Care とは(3)
- 第9回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(1)
- 第10回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(2)
- 第11回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(3)
- 第12回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(4)
- 第13回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(5)
- 第14回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(6)
- 第15回 Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討(7)

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50%)

参加度 (50%)

2015 Syllabus

科目名 看護マネジメント学特論演習 <D>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子・新道 幸恵・野村 陽子	
テーマ	看護のトップマネジメントに必要な能力をマネジメント、政策、情報の領域の知見を深めて発展させる。
授業の到達目標	1. 専門職が協働する場において、高いマネジメント能力発揮の必要性を理解する2. 実務から育ててきた統率力や情報の分析、統合力、経営感覚と経済性などの能力を統合し、トップマネジャーとして活用できるレベルに強化する。3. 保健・医療現場運営の中心的存在として役割を遂行するための看護マネジメントの在り方を考究する。
授業の概要	保健医療福祉の分野で、専門職が協働しながらサービスを提供している現場において、臨床の知を踏まえた高いマネジメント能力を発揮するため、コミュニケーション力、人間関係調整力、交渉力などを用いた統率力や情報の分析、経営感覚と経済性、等の実務から育ててきた能力をさらに統合し、トップマネジャーとして活用できるレベルに強化する。すなわち、保健・医療現場運営の中心的存在となる徳富マネジャーの在り方を考究する。
準備学習(予習・復習)	予習: 事前に提示する課題に取り組み、授業中の討議に積極的に参加できるように準備する。
内 容	<p>第1回 保健医療福祉の変革と求められる看護の役割(新道)</p> <p>第2回 近年における看護学の発展と看護の機能拡大(新道)</p> <p>第3回 看護マネジメント力について(新道)</p> <p>第4回 看護におけるトップマネジメントに必要な能力と期待(新道)</p> <p>第5回 看護のトップマネジャーの育成(1)ーフィールドワーク(新道)</p> <p>第6回 看護のトップマネジャーの育成(2)ーフィールドワーク(新道)</p> <p>第7回 病院の各部門におけるトップマネジャーと連携とその成果</p> <p>第8回 看護マネジメントの課題についての明確化ー事例分析から</p> <p>第9回 看護の徳富マネジャーの課題の明確化ー事例分析から</p> <p>第10回 まとめー看護マネジメントの未来を拓くための研究課題や方法論の検討(新道)</p> <p>第11回 保健師助産師看護師法の成立過程及び改正における制作過程ー保健師助産師看護師法における教育、業務の規定に関する課題の明確化(野村)</p> <p>第12回 看護サービスに関する諸制度の構造ー医療法、健康保険法、介護保険法等における看護サービスの課題を討議(野村)</p> <p>第13回 医療及び福祉の資格制度の変遷と、資格制度の構造ー近年の資格制度における課題について討議し、レポートを作成(野村)</p> <p>第14回 政策の基本的考え方ー政策過程の理論と分析方法を理解し、看護政策の課題を討議(野村)</p> <p>第15回 看護政策の量的課題である看護職員確保対策に関する政策決定過程ー看護師などの人材確保法の意義と確保対策について討議(野村)</p> <p>第16回 看護政策の質的課題である准看護師制度の政策決定過程ー専門性を高める政策についてレポートを作成(野村)</p> <p>第17回 看護政策の経済的評価である診療報酬における政策過程ー政策過程における統計でーた、エビデンスや研究データの活用方法(野村)</p> <p>第18回 看護業務の拡大の事例として訪問看護制度の政策決定過程ー在宅医療における政策課題についてレポートを作成(野村)</p> <p>第19回 近縁のチーム医療における看護業務の拡大につて検討課程ー看護業務の拡大と特定行為の研修制度化についての討議(野村)</p> <p>第20回 学生各自の問題意識に基づく政策かだいについて、アクター分析を行い、その解決策を討議し、政策提言としてレポートを作成(野村)</p> <p>第21回 看護・医療における情報学の位置づけと意義(阿部)</p> <p>第22回 情報の定義と看護・医療における情報及び情報処理の特徴(阿部)</p> <p>第23回 看護・医療における情報の電子化に関連する放棄と倫理(阿部)</p> <p>第24回 看護・医療に関する各種マネジメントツールと情報</p> <p>第25回 看護・医療の質保障と情報(安全管理、EBN開発を含む)</p> <p>第26回 看護・医療における意思決定プロセスと情報</p> <p>第27回 医療経営・経済の観点における情報活用</p> <p>第28回 情報及び情報通信テクノロジーを活用した看護・医療におけるマーケティング</p> <p>第29回 看護における知識創造と情報</p> <p>第30回 看護・医療に関するビッグデータ・マイニングとマネジメントへの活用と課題</p>
履修上の注意点	3分の2以上の出席を原則とする。やむを得ず遅刻する場合には必ず事前に連絡のこと。
教科書	

参考書

政策型思考と政治

著者： 松下圭一

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験（レポート:30%）

授業中課題（40%）

参加度（30%）

小テスト（0%）

授業中発表等（）
